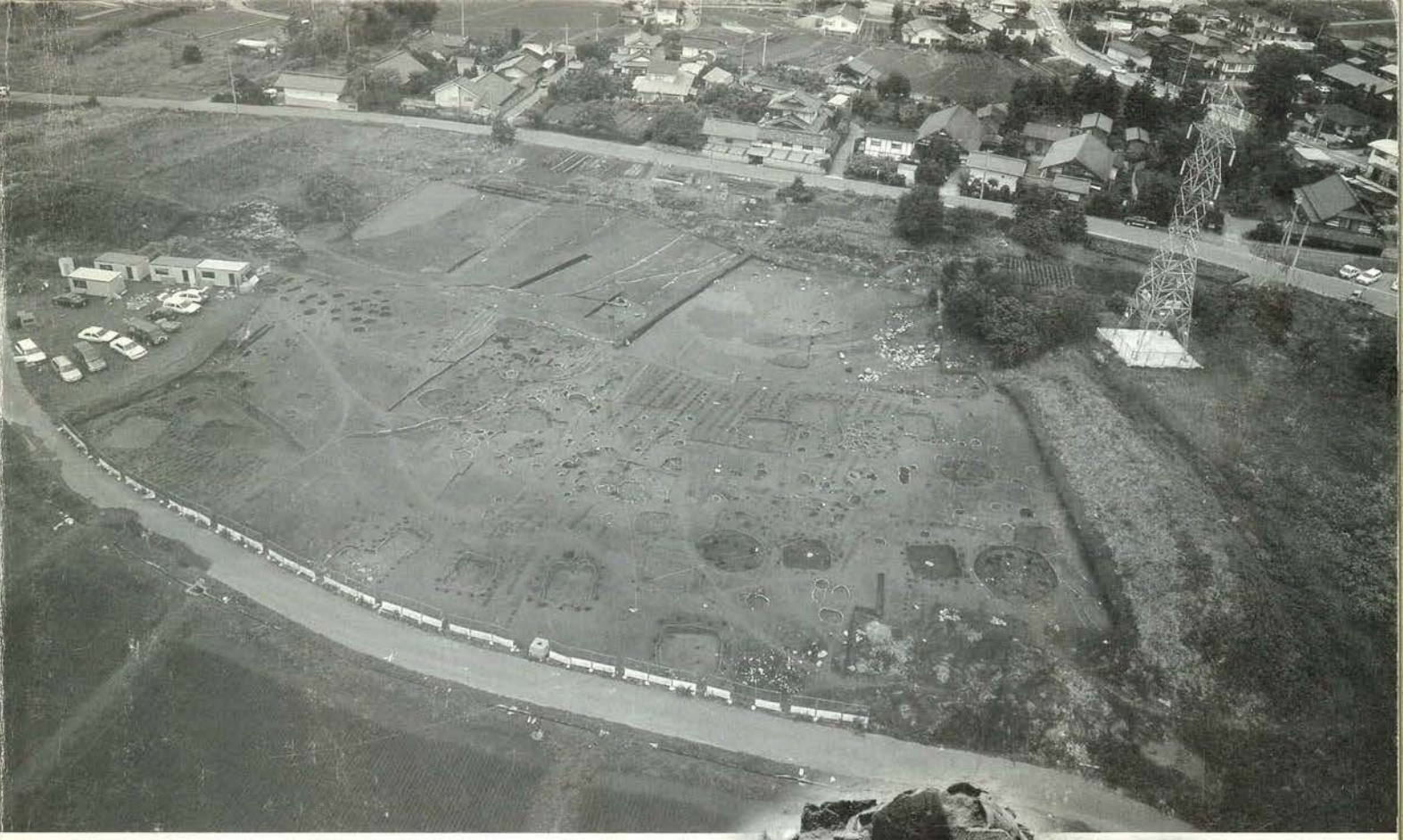
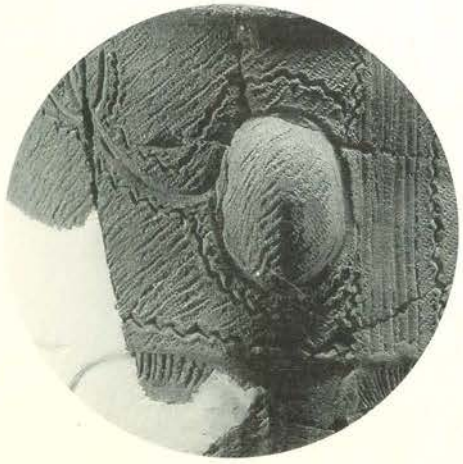


山梨県北巨摩郡長坂町

石原田北遺跡 Jマート地点

Ishiharadakita-Site

発掘調査報告書



2001

石原田北遺跡発掘調査団
株式会社　Ｊ　マ　ー　ト

山梨県北巨摩郡長坂町

石原田北遺跡 Jマート地点

Ishiharadakita-Site

発掘調査報告書

2001

石原田北遺跡発掘調査団
株式会社　Jマート

1．石原田北遺跡出土縄文時代中期土器群

1．12号竪穴建物出土土器

2．36号竪穴建物出土土器

1．20号竪穴建物出土土器

2．35号竪穴建物出土土器①

1．35号竪穴建物出土土器②

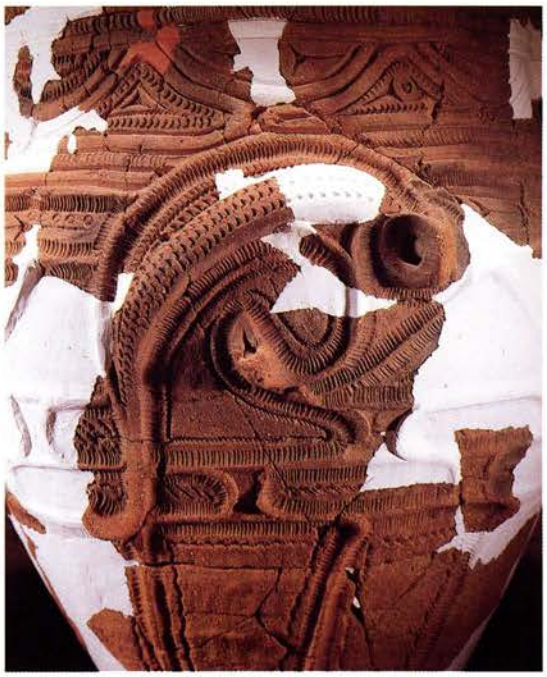
1．35号竪穴建物出土土器③

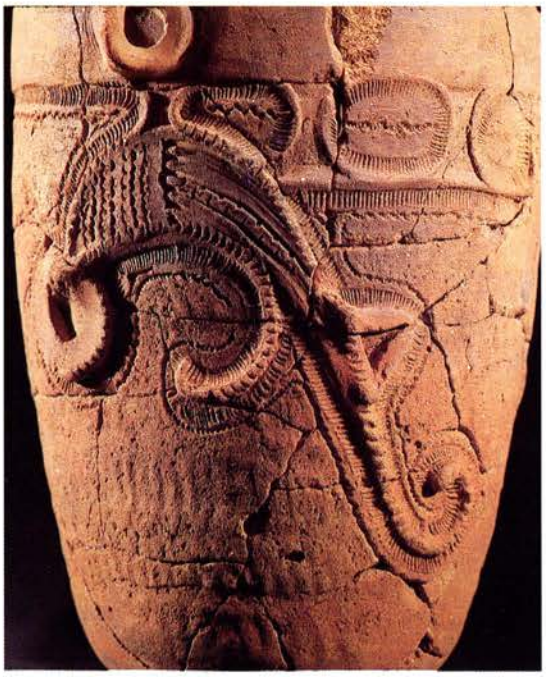
1. ピット出土土器・埋設土器

2. 縄文時代土製品

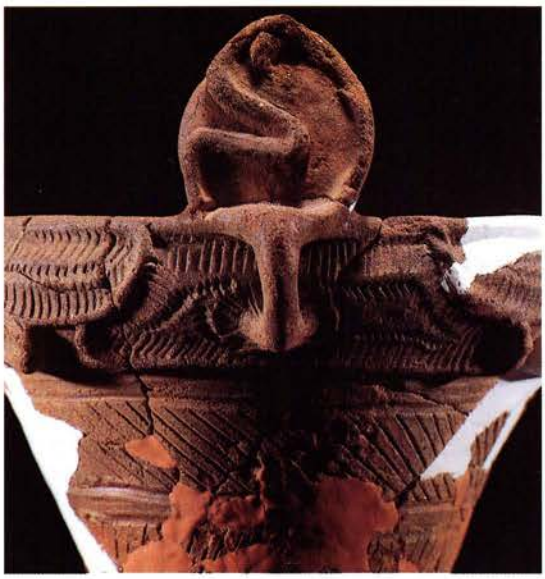
1. 平安第Ⅰ段階の土器

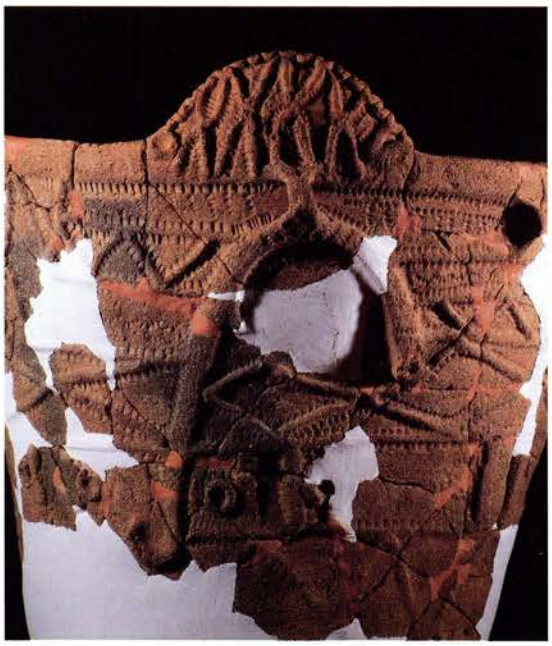
2. 平安第Ⅱ段階の土器

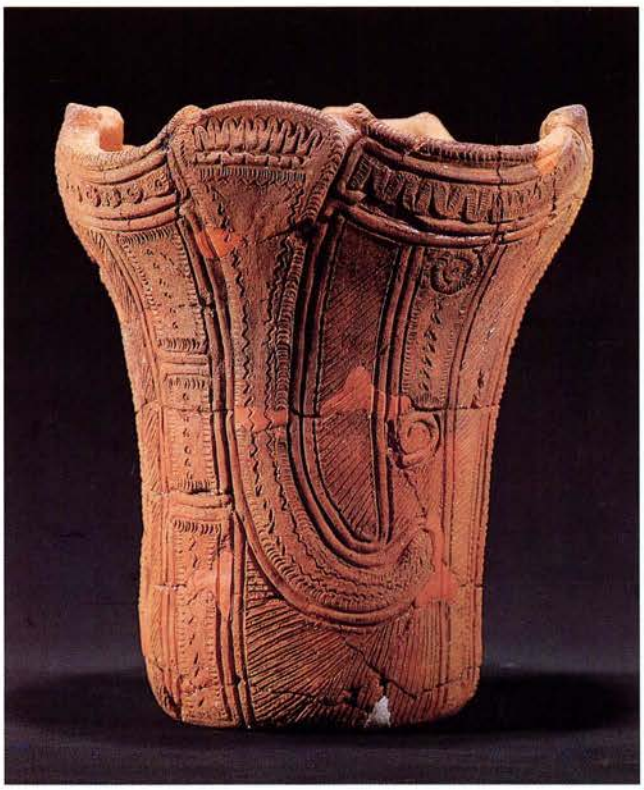




抽象文土器①







抽象文土器②

序

本書は、商業店舗建設に伴って発掘調査された山梨県長坂町大八田字石原田に所在する石原田北遺跡の発掘調査報告書であります。

石原田北遺跡は、八ケ岳南麓の標高702.5メートルの南北に細長くのびた尾根上を中心に立地し、付近には縄文時代や平安時代の大規模な集落跡の柳坪Ａ・Ｂ遺跡や中世の集落として注目された小和田館跡など県内でも有数の遺跡が多数存在している歴史性豊かな地域にあります。

当遺跡の発掘調査はすでに平成８年にこの隣接地で行われており、平安時代の竪穴建物跡や中世の建物跡等が検出されていますが、今回の調査地域でも平成９年12月に同町教育委員会が行った試掘調査によって、縄文時代や平安時代の住居跡や中世の遺構が濃密に存在することが判明し、約8000m^2にわたる広大な範囲が発掘調査されることになったわけであります。

調査の結果、予期したとおり縄文時代前期から中期にかけての竪穴建物群や、平安時代の竪穴建物群など多数の遺構群が検出され、大きな成果が得られました。特に、縄文期では、中期前葉の新道期から藤内期にかけての良好な縄文土器群を層位的に検出することができ、当該期における縄文土器研究に貴重な資料を提供することになりました。また、平安期の集落跡では竪穴建物の相互の重複状況から、短期間に集散を繰り返えさざるを得ないこの地の平安びとの実態を読みとることができ、当該期の集落のあり方の一端が浮かびあがってきましたが、しかしなぜそのような状況を余儀なくされたのか新たな課題も提起することになりました。

長坂町を始めとする八ケ岳南麓は、特に縄文時代と平安時代、さらに中世の遺跡群が密集する地域として全国的にも知られているところでありますが、今回の調査地域である石原田北遺跡からもほぼ同様な遺構群が確認され、そうした様相がますます鮮明になったわけであります。広大な八ケ岳山麓での先人たちの歴史の歩みを示すこれらの貴重な成果が今後各方面でご活用いただければ誠に幸いに存ずる次第であります。

最後になりましたが、発掘調査の準備段階から本報告書刊行にいたるまで、地元長坂町当局をはじめ事業主体である㈱Ｊマートの各関係者各位、また発掘調査や整理作業に携わった多くの方々から多大なご指導やご協力をいただきました。ここに、深甚なる感謝と御礼を申し上げ序といたします。

2001年６月

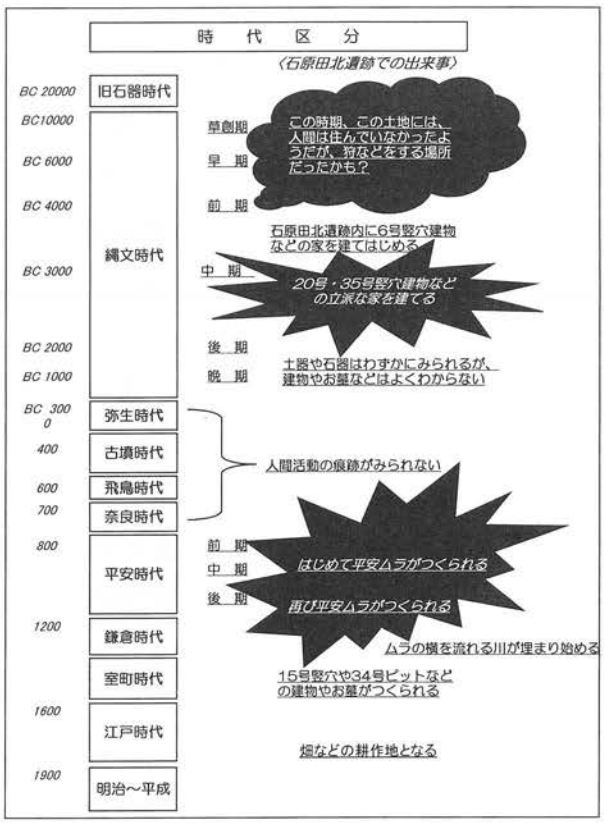
石原田北遺跡発掘調査団

団　長　**萩　原　三　雄**

［石原田北遺跡の簡単解説］

縄文のムラと平安のムラ

■プロローグ■



石原田北遺跡でメインとなるものは、縄文時代のムラのあとと平安時代のムラのあとです。縄文時代という時代はとても長い時代で、今からおよそ12000～13000年前にはじまったといわれ、およそ8000年間もつづいた時代といわれています。平安時代という時代もけっこう長い時代で、教科書でもおなじみの桓武天皇が都を現在の京都に移した西暦794年から、源頼朝が鎌倉に幕府を開いた西暦1192年まで、およそ400年もつづいた時代でした。でも、縄文時代の長さにはちょっと勝てませんね。

8000年間もつづく縄文時代は、土器の形の変化や文様の変化、土器が出土した土層の位置などから、古い順に草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の６つの時期にわけられています。こうしてみると、8000年間続いた縄文時代ですから、「中期」という時期だけでも、1000年以上の時間幅をもっているということとなり、平安時代という一つの「時代」よりも長かったことがわかります。

平安時代も前期、中期、後期の三つの時期にわけることができます。前期は西暦794年から西暦900年頃まで、中期は西暦900年頃から1000年頃まで、後期は西暦1000年頃から西暦1192年の鎌倉幕府が誕生する頃までとします。

■遺跡の場所■

遺跡は、中央自動車道の長坂インターチェンジを出たすぐ南側の山梨県北巨摩郡長坂町大八田字石原田166番地他にあります。遺跡名はここの小字名をとってつけられました。遺跡からは八ヶ岳連峰の山々、甲斐駒ヶ岳をはじめとする南アルプス連峰の雄大な山並みを見ることができて、いまでも景

調査前の遺跡

色がとても素晴らしいところです。石原田北遺跡は、八ヶ岳山麓の標高約700mの低い尾根のうえにある遺跡です。発掘調査をする前は畑や田んぼでした。

■石原田北遺跡はどんな遺跡なのか？■

縄文のムラは今からおよそ4500年前の縄文時代中期のはじめ頃のムラで、平安のムラは今からおよそ1100年前と、1200年前のムラに分けることができます。

■ムラの中の様子と竪穴建物■

縄文のムラも平安のムラも、ともに「竪穴建物（たてあなたてもの）」という、四角や丸い形に地面を十数センチから1メートル近く掘り下げて、土間のような水平な床をつくり、そこに柱を立てて屋根を覆った半地下式構造の建物でした。この「竪穴建物」は、住まいとして使われたほか、倉庫や作業場といった使われ方もされていたと考えられます。そしてこうした建物が2～3棟ぐらい集まって小さなムラをつくっていたようです。

ムラのすぐ西側には川が流れていたようで、発掘調査で川のあとがみつかっています。川が埋まった状態やみつかった土器を観察した結果、この川は平安時代ぐらいまでは水が流れていたようですが、それ以降は小規模な土石流が何度かおきたために、埋まってしまい水が流れなくなったようです。

縄文時代中期の竪穴建物と平安時代の竪穴建物との決定的な違いは、第一に穴の形が違うこと。第二に煮炊（にたき）をする施設が違うことが言えます。

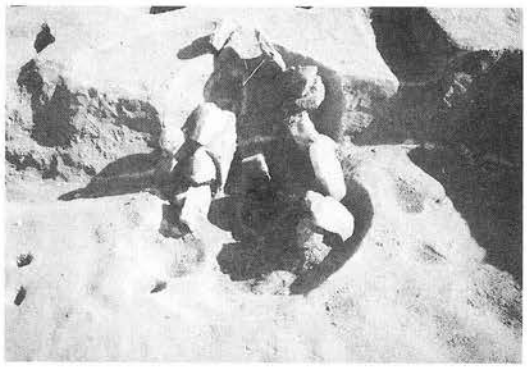
縄文の丸いイエ

平安の四角いイエ

穴の形については、縄文時代のものは、楕円形もしくは長楕円形をしています。一方、平安時代のものは正方形や長方形などの四角形をしています。この穴の形の違いは、イエ全体の形にも影響すると思われます。平安時代の竪穴建物の外見は、現在でも残っている古い民家の外見とあまり変わらなかったと思われます。

煮炊をする施設については、縄文時代のイエは地面を浅く掘り込んで火を焚く「炉（ろ）」を使っており、平安時代のイエは粘土で土まんじゅうのようにつくられた「竈（カマド）」を使っています。縄

縄文の炉



平安の竈

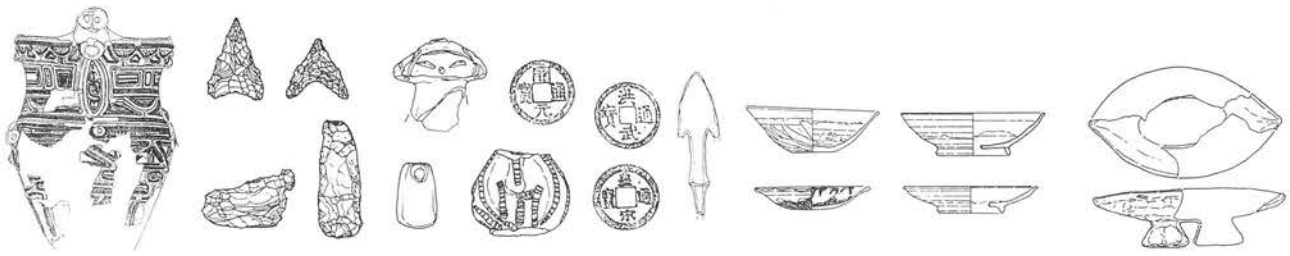
文時代の「炉」は一口に言ってもいろいろなバリエーションがあり、一般的には次のようなタイプのものがみられます。①ただ浅く穴を掘り込んだだけのもの（地床炉）、②穴の中に土器が埋めてあるもの（埋甕炉）、③穴のまわりを石でかこむもの（石囲炉）、④穴のまわりを石でかこみ、さらに穴の中に土器が埋めてあるもの（石囲埋甕炉）などがあります。石原田北遺跡では、このうちの石囲炉のものがみつかっています。

平安時代の竈は竪穴建物の壁につくりつけられていますが、平安時代の中期と後期とでは竈がつくられる壁の位置が違っています。たとえば平安時代中期では東側の壁の中央あたり（やや南側に寄っている）につくられていたものが、後期になると南東側や南西側のコーナー部分の壁につくられるようになります。その理由についてはよくわかりませんが、竪穴内部の空間をより広く、有効に使うために竈を隅にもってきたものと思われます。

■どんなモノがみつかった？■

縄文時代のイエからは、たくさんの土器と石器がみつかりました。土器をながめてみると、いろいろな模様（文様）が観察できます。よーく見るとヘビやサンショウウオなどといった動物を表現した文様や、ミミヅクの顔にも見える把手もついていて、ずっと見ていても飽きないほどです。

石器は土を掘ったり、木を切ったりする石斧や、狩の時に使う弓矢の先につける矢じり（石鏃）、捕った動物の皮をはぐ時に使ったナイフ（石匙）などがみつかっていますが、石原田北遺跡では特に石斧と石鏃の割合が高くなっていることが特徴となっています。その他では、石製のペンダントや土偶、木の葉形をした小さなお皿など、ちょっとめずらしいものもみつかっています。



■石原田北遺跡からみつかったモノ（一部）■

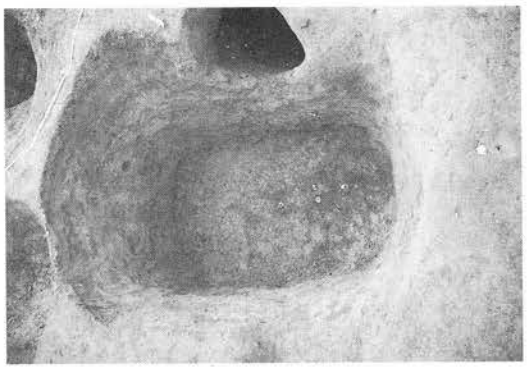
平安時代のイエからは、私たちが現在使っているようなご飯茶碗の形に似た、土師器とよばれる素焼きの土器がたくさんみつかっています。また灰釉陶器とよばれる当時としてはちょっと高級な陶器製の食器もみつかっています。この灰釉陶器は、現在でも「瀬戸物」で有名な焼き物の産地である、岐阜県や愛知県からわざわざ運ばれてきたものです。

平安時代になると鉄製の道具もよく使われるようになります。鉄製の小刀（刀子）や矢じり（鉄鏃）などもみつかっています。石の道具では小刀を研ぐ時に使った砥石や、ムシロを編む時におもりとしてつかった編物石もみつかっています。

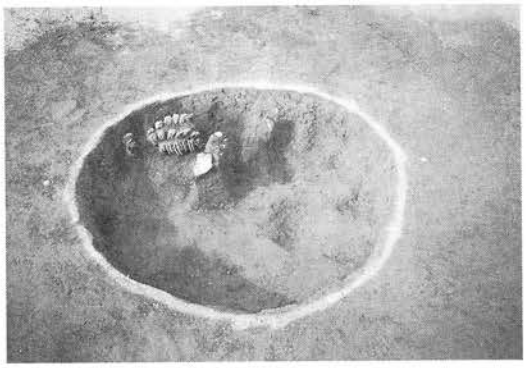
■人と馬のお墓もみつかった！■

縄文時代や平安時代のものではありませんが、中世（鎌倉時代から室町時代）のものと思われる人と馬のお墓もみつかりました。人のお墓と思われるものは、深さが１mほどあり、穴の上部には人の頭ほどの大きさがある石がたくさんつめられていて、穴の底からは人骨はみつからなかったのですが、三途の川渡し賃として死者とともに埋葬された数枚の銅銭（六文銭）がみつかりました。こうしたことから人のお墓ではないかと考えられます。

馬のお墓は遺跡の南側にある土壙群の中の三箇所からみつかりました。一辺が１m前後、深さが１m前後の長楕円形をした穴から、馬の歯がみつかりました。胴体の部分の骨はみつかりませんでしたが、穴の大きさや、みつかった歯の位置から考えると、おそらく一頭まるごと埋葬されていたものではないかと思われます。



人のお墓



馬のお墓

■エピローグ■

石原田北遺跡でみつかった縄文と平安のムラは偉い人物が住んだムラではありませんが、古文書の記録に残されていないような私たちの先人たちの暮らしぶりを探ることができる貴重な遺跡の一つだと言えるでしょう。

例　言

1　本書は山梨県北巨摩郡長坂町大八田字石原田166番地に所在する、石原田北遺跡Ｊマート地点の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、株式会社Ｊマートの店舗建設工事に伴い実施した。

3　発掘調査は、株式会社Ｊマートの委託事業として石原田北遺跡発掘調査団が実施し、平成10（1998）年７月13日から平成11（1999）年６月30日にかけて発掘調査が行われた。

4　本書の編集は、石原田北遺跡発掘調査団の責任のもと、平野修が担当し、原稿分担は以下の通りである。なお、櫛原功一氏には下記の通り、玉稿をいただいた。深く感謝申し上げたい。

◇遺跡簡単解説・第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ章、Ⅵ章第２・３・４節　　平野　修

◇第Ⅴ章第１節　河西　学

◇第Ⅴ章第２節　新山雅広

◇第Ⅴ章第３節　植田弥生

◇第Ⅴ章第４節　パリノ・サーヴェイ株式会社

◇第Ⅵ章第１節　櫛原功一

5　本報告書作成のための主な作業分担は以下の通りである。

◇遺構写真　　平野修・森原智恵子・山下大輔

◇遺物写真および焼付　　塚原明生・小川忠博・佐野靖子・㈱フジテクノ・シン技術コンサル㈱

◇遺物Ｘ線写真　　鈴木　稔

◇遺構トレース　　平野修・森原智恵子・岩崎満佐子・竜沢みち子・小沢恵津子

◇遺物トレース　　平野修・齋藤ひろみ・竜沢みち子・佐野靖子・矢房静江

◇図版作成　　平野修・森原智恵子・佐野靖子・矢房静江・岩崎満佐子・竜沢みち子・小沢恵津子・齋藤ひろみ・田中真紀美・保坂真澄

◇写真図版作成　　平野修・佐野靖子・小沢恵津子

◇表作成　　平野修・保坂真澄

6　発掘調査および整理事業において以下の業務を委託した。

◇基準点測量および航空写真測量　　株式会社フジテクノ

◇土器胎土分析　　山梨文化財研究所地質研究室

◇炭化種実・炭化材同定　　株式会社パレオ・ラボ

◇獣骨同定　　パリノ・サーヴェイ株式会社

◇金属製品保存処理　　山梨文化財研究所保存修復研究室

◇縄文土器展開写真撮影　　株式会社フジテクノ

◇縄文土器実測用写真撮影　　株式会社フジテクノ

◇石器実測用写真撮影　　シン技術コンサル株式会社

7　石器の石材鑑定は、河西学氏のご厚意によるものである。記して感謝申し上げたい。

8　巻頭における遺物写真は、駒沢大学非常勤講師および日本写真家協会会員の塚原明生氏、土器展開写真は小川忠博氏によるものである。

9　本報告書に関わる記録図面・写真・出土遺物等は、長坂町教育委員会に保管している。

10　発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸氏・諸機関から多大なるご指導・ご協力をいただいた。ここに記して深く感謝申し上げたい。（順不同・敬称略）

株式会社Ｊマート、長坂町、長坂町教育委員会、山梨県教育庁学術文化財課、北巨摩市町村文化財担当者会、山梨県考古学協会、小野正文、森原明廣、村石真澄、小宮山　隆、村松佳幸、伊藤公明、渡辺泰彦、室伏　徹、山下孝司、閏間俊明、猪股喜彦、佐々木　満、斎藤秀樹、佐野　隆、桐生直彦、谷口康浩、小林謙一、寺内隆夫、藤澤良祐、齋藤孝正、金子浩昌、角張淳一、櫛原功一、宮澤公雄、河西　学、畑　大介

凡　例

1　本報告書で使用している地図は、株式会社フジテクノ製土地現況図（1/1000）である。

2　遺構および遺物の縮尺は、各図版中に記してある。

3　遺構図版における床面の破線および一点破線は、焼土範囲・床面の堅固の範囲を示している。遺物分布を示すマークの意味は以下の通りである。

小さい●：土師器・縄文土器等、大きい●：焼土粘土塊・炭化物等、○：陶磁器類、▲：灰釉陶器、△：須恵器、■：石器・石製品・礫等、□：骨、★：土製品類、◆：金属製品・銭貨等

4　遺構図版中の遺物番号は、遺物図版番号、遺物観察表番号と一致している。

5　土層および遺物の色調名は、『新版標準土色帳』13版（農林省水産技術会議事務所監修　小山正忠・竹原秀雄・編　1993）によっている。

6　遺物図版中の平安時代土器および陶器の断面が黒塗りの場合は須恵器、点網掛けの場合は灰釉陶器を示している。土器内外面の濃い点網掛けは油煙の範囲を、やや濃い点網掛けは黒色処理を、斜線は転用硯における擦り面を示している。また矢印は灰釉の範囲を示している。

7　土偶における点網掛け範囲は分割塊面を示し、磨石・凹石・砥石の外形線に沿った矢印は、擦り面の範囲を示している。

8　竪穴建物の床面積は、竈および周溝を除く壁下ラインをプラニメーターで３回ずつ計測し、その平均を示した。使用機種は「ウシカタX-PLAN360d」である。

本文目次

序
遺跡簡単解説
例言
凡例
挿図目次
挿表目次
挿写真目次
第Ⅰ章　調査の経緯と概要 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘調査の概要 …… 2
第Ⅱ章　遺跡をとりまく環境 …… 5
　第１節　遺跡の立地 …… 5
　第２節　周辺の遺跡 …… 5
第Ⅲ章　調査の方法と基本層序 …… 13
　第１節　グリッドの設定 …… 13
　第２節　遺構の調査方法 …… 14
　第３節　基本土層 …… 15
第Ⅳ章　発見された遺構と遺物 …… 16
　第１節　遺構および遺構内出土遺物 …… 16
　（１）竪穴建物 …… 16
　（２）掘立柱建物 …… 182
　（３）埋設土器 …… 182
　（４）ピット …… 184
　（５）溝 …… 241
　（６）旧河道 …… 256
　（７）その他の遺構 …… 262
　第２節遺構外出土の遺物 …… 262
第Ⅴ章　自然科学分析 …… 302
　第１節　石原田北遺跡出土縄文土器の胎土分析 302
　第２節　石原田北遺跡から出土した炭化種実 … 312
　第３節　石原田北遺跡７号竪穴から出土した炭化材の樹種同定 …… 317
　第４節　石原田北遺跡出土獣骨の鑑定 …… 318
第Ⅵ章　若干の考察とまとめ …… 320
　第１節　縄文時代中期の集落変遷と土器様相 … 320
　第２節　平安時代の土器について …… 335
　第３節　平安時代の竪穴建物構造 …… 342
　第４節　総　括 …… 349
報告書抄録

挿図目次

第１図　表土剥ぎ・遺構確認風景 …… 2
第２図　調査風景 …… 2
第３図　冬季現場養生状況 …… 3
第４図　現地説明会風景 …… 3
第５図　ラジコンヘリによる写真測量 …… 3
第６図　長坂町の遺跡分布図 …… 7
第７図　遺跡周辺の地形と遺跡位置図 …… 9
第８図　石原田北遺跡全体図 …… 11・12
第９図　グリッド設定図 …… 13
第10図　セクションベルトの設定 …… 14
第11図　遺構内の掘り下げ …… 14
第12図　光波測量 …… 14
第13図　平板測量 …… 14
第14図　セクション断面 …… 15
第15図　遺跡基本土層図 …… 15
第16図　１号竪穴建物・竈 …… 17
第17図　１号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図（１） …… 18
第18図　１号竪穴建物遺物接合図（２） …… 19
第19図　１号竪穴建物出土遺物（１） …… 20
第20図　１号竪穴建物出土遺物（２） …… 21
第21図　２号竪穴建物・竈 …… 22
第22図　２号竪穴建物遺物出土状況・遺物分布図・遺物接合図（１） …… 23
第23図　２号竪穴建物遺物接合図（２） …… 24
第24図　２号竪穴建物出土遺物（１） …… 25
第25図　２号竪穴建物出土遺物（２） …… 26
第26図　３号竪穴建物・竈 …… 28
第27図　３号竪穴建物階段状施設・遺物出土状況 29
第28図　３号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図 … 30
第29図　３号竪穴建物出土遺物（１） …… 31
第30図　３号竪穴建物出土遺物（２） …… 32
第31図　４号竪穴建物・竈 …… 34
第32図　４号竪穴建物遺物分布図・遺物微細図・遺物接合図 …… 35
第33図　４号竪穴建物出土遺物 …… 36
第34図　５号竪穴建物・竈 …… 38
第35図　５号竪穴建物遺物接合図・掘り形 …… 39
第36図　５号竪穴建物出土遺物 …… 39
第37図　６号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図 … 41
第38図　６号竪穴建物出土遺物 …… 42
第39図　７号竪穴建物・竈・階段状施設 …… 43

第40図　7号竪穴建物遺物出土状況・遺物分布図・遺物接合図 …… 44
第41図　7号竪穴建物出土遺物 …… 45
第42図　8号竪穴建物 …… 46
第43図　8号竪穴建物出土遺物 …… 47
第44図　9・10号竪穴建物・焼土1・2・Pit1土層図 …… 48
第45図　9・10号竪穴建物竈 …… 49
第46図　9・10号竪穴建物出土遺物 …… 49
第47図　11号竪穴建物・竈 …… 51
第48図　11号竪穴建物接合図・掘り形・Pit1土層図 52
第49図　11号竪穴建物出土遺物 …… 52
第50図　12・36号竪穴建物 …… 54
第51図　12・36号竪穴建物遺物分布図 …… 56
第52図　12・36号竪穴建物遺物接合図 …… 57
第53図　12号竪穴建物柱穴土層図・柱穴遺物出土状態 …… 58
第54図　36号竪穴建物柱穴土層図・柱穴遺物出土状態 …… 59
第55図　12号竪穴建物出土遺物（1） …… 60
第56図　12号竪穴建物出土遺物（2） …… 61
第57図　12号竪穴建物出土遺物（3） …… 62
第58図　36号竪穴建物出土遺物（1） …… 63
第59図　36号竪穴建物出土遺物（2） …… 64
第60図　13号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図・炉 …… 66
第61図　13号竪穴建物出土遺物 …… 67
第62図　14号竪穴建物・掘り形 …… 68
第63図　14号竪穴建物竈 …… 69
第64図　14号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図 … 70
第65図　14号竪穴建物出土遺物（1） …… 71
第66図　14号竪穴建物出土遺物（2） …… 72
第67図　15号竪穴建物・焼土範囲土層図 …… 74
第68図　15号竪穴建物出土遺物 …… 74
第69図　16号竪穴建物・竈 …… 76
第70図　16号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図・掘り形 …… 77
第71図　16号竪穴建物出土遺物 …… 78
第72図　17～19号竪穴建物・19号竪穴Pit1・2 … 80
第73図　17・18号竪穴建物竈・19号竪穴建物焼土 81
第74図　17～19号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図・19号竪穴建物遺物微細図 …… 82
第75図　17～19号竪穴建物掘り形 …… 83
第76図　17・18号竪穴建物出土遺物 …… 84
第77図　19号竪穴建物出土遺物 …… 86
第78図　20号竪穴建物・炉 …… 88
第79図　20号竪穴建物柱穴土層図・柱穴遺物出土状態・柱穴配列想定図 …… 89
第80図　20号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図（1） …… 90
第81図　20号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図（2） …… 91
第82図　20号竪穴建物出土遺物（1） …… 92
第83図　20号竪穴建物出土遺物（2） …… 93
第84図　20号竪穴建物出土遺物（3） …… 94
第85図　20号竪穴建物出土遺物（4） …… 95
第86図　20号竪穴建物出土遺物（5） …… 96
第87図　20号竪穴建物出土遺物（6） …… 97
第88図　20号竪穴建物出土遺物（7） …… 98
第89図　21号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図 100
第90図　21号竪穴建物出土遺物 …… 101
第91図　22号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図・Pit7 …… 103
第92図　22号竪穴出土遺物 …… 104
第93図　23号竪穴建物・遺物分布図・竈 …… 106
第94図　23号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図・掘り形 …… 107
第95図　23号竪穴建物出土遺物（1） …… 108
第96図　23号竪穴建物出土遺物（2） …… 109
第97図　24号竪穴建物 …… 111
第98図　24号竪穴建物竈・掘り形 …… 112
第99図　24号竪穴建物遺物分布図・Pit1・遺物出土状況 …… 113
第100図　24号竪穴建物遺物接合図 …… 114
第101図　24号竪穴建物出土遺物（1） …… 115
第102図　24号竪穴建物出土遺物（2） …… 116
第103図　25号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図 118
第104図　25号竪穴建物出土遺物 …… 119
第105図　26号竪穴建物・遺物分布図 …… 119
第106図　26号竪穴建物出土遺物 …… 120
第107図　27号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図 121
第108図　27号竪穴建物出土遺物 …… 122
第109図　28号竪穴建物 …… 122
第110図　30号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図・掘り形 …… 124
第111図　30号竪穴建物出土遺物 …… 125
第112図　31号竪穴建物 …… 126
第113図　31号竪穴建物竈 …… 127

第114図　31号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図掘り形 …… 128
第115図　31号竪穴建物出土遺物（1）…… 129
第116図　31号竪穴建物出土遺物（2）…… 130
第117図　32・33号竪穴建物 …… 132
第118図　32・33号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図 …… 133
第119図　32・33号竪穴建物出土遺物 …… 134
第120図　34号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図 135
第121図　34号竪穴建物出土遺物 …… 136
第122図　35号竪穴建物 …… 138
第123図　35号竪穴建物柱穴土層図・柱穴配列図 139
第124図　35号竪穴建物遺物分布図（1）…… 140
第125図　35号竪穴建物遺物分布図（2）…… 141
第126図　35号竪穴建物遺物出土微細図 …… 142
第127図　35号竪穴建物遺物接合図（1）…… 143
第128図　35号竪穴建物遺物接合図（2）…… 144
第129図　35号竪穴建物出土遺物（1）…… 145
第130図　35号竪穴建物出土遺物（2）…… 146
第131図　35号竪穴建物出土遺物（3）…… 147
第132図　35号竪穴建物出土遺物（4）…… 148
第133図　35号竪穴建物出土遺物（5）…… 149
第134図　35号竪穴建物出土遺物（6）…… 150
第135図　35号竪穴建物出土遺物（7）…… 151
第136図　35号竪穴建物出土遺物（8）…… 152
第137図　35号竪穴建物出土遺物（9）…… 153
第138図　35号竪穴建物出土遺物（10）…… 154
第139図　35号竪穴建物出土遺物（11）…… 155
第140図　35号竪穴建物出土遺物（12）…… 156
第141図　35号竪穴建物出土遺物（13）…… 157
第142図　35号竪穴建物出土遺物（14）…… 158
第143図　35号竪穴建物出土遺物（15）…… 159
第144図　35号竪穴建物出土遺物（16）…… 160
第145図　35号竪穴建物出土遺物（17）…… 161
第146図　35号竪穴建物出土遺物（18）…… 162
第147図　35号竪穴建物出土遺物（19）…… 163
第148図　35号竪穴建物出土遺物（20）…… 164
第149図　37号竪穴建物・柱穴土層図・柱穴配列図 166
第150図　37号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図 167
第151図　37号竪穴建物出土遺物（1）…… 168
第152図　37号竪穴建物出土遺物（2）…… 169
第153図　37号竪穴建物出土遺物（3）…… 170
第154図　37号竪穴建物出土遺物（4）…… 171
第155図　38号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図 173
第156図　38号竪穴建物出土遺物 …… 174
第157図　39号竪穴建物・pit1 …… 175
第158図　40号竪穴建物・柱穴土層図・柱穴配列図 176
第159図　40号竪穴建物炉・遺物分布図・遺物接合図 …… 177
第160図　40号竪穴建物出土遺物 …… 178
第161図　41号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図 178
第162図　41号竪穴建物出土遺物 …… 180
第163図　1号掘立柱建物・1号埋設土器 …… 183
第164図　1・2・150～152号ピット …… 194
第165図　2～4号ピット …… 195
第166図　6～12号ピット …… 196
第167図　13～19号ピット …… 197
第168図　20～27号ピット …… 198
第169図　28～34号ピット …… 199
第170図　35～50号ピット …… 200
第171図　51～57・66・67・78号ピット …… 201
第172図　58～65・68・69・74・77号ピット … 202
第173図　70～73・75・76・80号ピット …… 203
第174図　79・81～84・261・266号ピット …… 204
第175図　85～88・90号ピット …… 205
第176図　91・92・94～97号ピット …… 206
第177図　98～107号ピット …… 207
第178図　108～122号ピット …… 208
第179図　123～132・170号ピット …… 209
第180図　133～138号ピット …… 210
第181図　139～143号ピット …… 211
第182図　144～149・153～155号ピット …… 212
第183図　156～160・172号ピット …… 213
第184図　161～165号ピット …… 214
第185図　166～169・171・173号ピット …… 215
第186図　174～181号ピット …… 216
第187図　182～189号ピット …… 217
第188図　190～194・196～200号ピット …… 218
第189図　201～215号ピット …… 219
第190図　216～225号ピット …… 220
第191図　226～241号ピット …… 221
第192図　242～250号ピット …… 222
第193図　251～256・258・259号ピット …… 223
第194図　257・260・265・267～269号ピット 224
第195図　262～264・270～274号ピット …… 225
第196図　275～282号ピット …… 226
第197図　283～293号ピット …… 227

第198図　埋設土器，１号ピット，２号ピット（１）出土遺物 …… 228
第199図　２号ピット（２），３～８号ピット出土遺物 …… 229
第200図　９～12・14～19号ピット，20号ピット（１）出土遺物 …… 230
第201図　20号ピット（２），21・24・26・28・29・32・34号ピット出土遺物 …… 231
第202図　35・39～42・45～47・50・53・55号ピット（１）出土遺物 …… 232
第203図　55（２）・63・66・71・73・83・85・86・94・102・104号ピット出土遺物 …… 233
第204図　130・138・139・142・149・150・156・158・159・164・167・170・171号ピット出土遺物 …… 234
第205図　179・180・189・195・198・201・202・211～213号ピット出土遺物 …… 235
第206図　215・216・218・226・229・246・247・249・251・252・253・255号ピット（１）出土遺物 …… 236
第207図　255号ピット（２），256～258・260・261号ピット，262号ピット（１）出土遺物 … 237
第208図　262号ピット（２），263～265・271～273号ピット出土遺物 …… 238
第209図　277・278・280・282～285・288号ピット出土遺物 …… 239
第210図　289・293号ピット出土遺物 …… 240
第211図　１～４号溝 …… 244
第212図　５・６号溝 …… 245
第213図　７・９・13号溝 …… 247・248
第214図　10号溝 …… 249
第215図　11・12号溝，11溝遺物出土微細図 …… 250
第216図　14～16号溝 …… 251
第217図　17～20号溝 …… 252
第218図　１・２・７号溝・11号溝（１）出土遺物 253
第219図　11号溝（２）・12号溝出土遺物 …… 254
第220図　14～19号溝出土遺物 …… 255
第221図　旧河道平面図・水場遺構平面図 …… 257
第222図　旧河道域および旧河道土層図 …… 258
第223図　旧河道出土遺物（１） …… 259
第224図　旧河道出土遺物（２） …… 260
第225図　旧河道出土遺物（３） …… 261
第226図　１・２号風倒木痕 …… 263
第227図　３号風倒木痕 …… 264
第228図　１号風倒木痕出土遺物 …… 264
第229図　遺構外出土遺物分布図 …… 265
第230図　遺構外出土遺物（１） …… 266
第231図　遺構外出土遺物（２） …… 267
第232図　遺構外出土遺物（３） …… 268
第233図　遺構外出土遺物（４） …… 269
第234図　遺構外出土遺物（５） …… 270
第235図　遺構外出土遺物（６） …… 271
第236図　分析試料実測図 …… 304
第237図　土器胎土の岩石鉱物組成 …… 306
第238図　岩石組成折れ線グラフ …… 307
第239図　土器のクラスター分析樹形図 …… 309
第240図　35号竪穴時期別土器出土地点 …… 322
第241図　35号竪穴出土土器変遷図 …… 323
第242図　12・20・36・37号竪穴出土土器変遷図 324
第243図　中期前半の土器群（１） …… 327
第244図　中期前半の土器群（２） …… 328
第245図　遺構変遷図 …… 329
第246図　山梨県内の山椒魚文土器 …… 331
第247図　抽象文（山椒魚文）土器の分布 …… 333
第248図　甲斐型坏・皿、黒色土器、土師質小型皿における法量分布 …… 336
第249図　平安第Ⅰ段階の土器 …… 337
第250図　平安第Ⅱ段階の土器 …… 338
第251図　平安第Ⅰ段階の竪穴建物における土器種別割合 …… 339
第252図　平安時代の竪穴建物変遷図 …… 341
第253図　石原田北遺跡の平安時代竪穴建物 …… 343
第254図　須玉町上ノ原遺跡の平安時代竪穴建物 … 344
第255図　埼玉県樋ノ下遺跡第18号住居跡 …… 345
第256図　群馬県黒井峯遺跡全体図 …… 348
第257図　群馬県中筋遺跡古墳時代遺構全体図 …… 348
第258図　石原田北遺跡出土文字資料集成図 …… 350

挿表目次

表１　長坂町の遺跡分布一覧 …… 8
表２　竪穴建物一覧表 …… 181
表３　ピット一覧表（１）～（４）…… 190～193
表４　土器観察表（１）～（23）…… 272～294
表５　土製品観察表 …… 294
表６　金属製品観察表 …… 295
表７　石器観察表（１）～（６）…… 296～301
表８　肉眼観察表 …… 303
表９　分析試料表 …… 303

表10　土器胎土中の岩石鉱物 …… 305
表11　岩石組成折れ線グラフによる土器の分類 … 307
表12　大型植物化石一覧表 …… 313
表13　大型植物化石一覧表（その1）～（その2） 314
表14　石原田北遺跡7号竪穴出土炭化材の樹種同定結果 …… 317
表15　骨同定結果表 …… 319
表16　山梨県内の山椒魚文土器 …… 332
表17　石原田北遺跡出土文字資料一覧表 …… 351

写真図版目次

巻頭図版1　1,石原田北遺跡出土縄文時代中期土器群
巻頭図版2　1,12号竪穴建物出土土器 2,36号竪穴建物出土土器
巻頭図版3　1,20号竪穴建物出土土器　2,35号竪穴建物出土土器①
巻頭図版4　1,35号竪穴建物出土土器②　2,35号竪穴建物出土土器③
巻頭図版5　1,ピット出土土器・埋設土器　2,縄文時代土製品
巻頭図版6　1,平安第Ⅰ段階の土器　2,平成第Ⅱ段階の土器
巻頭図版7　抽象文土器①
巻頭図版8　抽象文土器②
第・章図版1　出土した炭化種実
図版1　1,調査区全景①、2,調査区全景②
図版2　1,1号竪穴建物全景、2,1号竪穴建物竈、3,1号竪穴建物遺物出土状況、4,1号竪穴建物階段状施設、5,2号竪穴建物全景、6,2号竪穴建物竈および棚状施設、7,3号竪穴建物全景、8,3号竪穴建物竈
図版3　1,3号竪穴建物階段状施設、2,4号竪穴建物全景、3,4号竪穴建物北東コーナー遺物出土状況、4,4号竪穴建物竈内遺物出土状況、5,4号竪穴建物竈完掘状況、6,5号竪穴建物全景、7,5号竪穴建物北壁下遺物出土状況、8,5号竪穴建物竈
図版4　1,6号竪穴建物全景、2,6号竪穴建物遺物出土状況①、3,6号竪穴建物炉、4,6号竪穴建物遺物出土状況②、5,7号竪穴建物全景、6,7号竪穴建物竈および棚状施設、7,7号竪穴建物遺物出土状況、8,7号竪穴建物炭化材出土状況
図版5　1,7号竪穴建物階段状施設、2,8号竪穴建物全景、3,9号竪穴建物全景、4,9号竪穴建物竈、5,10号竪穴建物全景、6,10号竪穴建物竈、7,9号・10号竪穴建物遺物出土状況、8,11号竪穴建物全景
図版6　1,11号竪穴建物階段状施設、2,11号竪穴建物階段状施設前の硬化面検出状況、3,12号・36号竪穴建物全景、4,12号竪穴建物遺物出土状況、5,12号竪穴建物Pit7内遺物出土状況、6,12号竪穴建物Pit6内遺物出土状況、7,12号竪穴建物礫出土状況、8,36号竪穴建物遺物出土状況
図版7　1,36号竪穴建物Pit28内遺物出土状況、2,36号竪穴建物Pit29内遺物出土状況、3,13号竪穴建物全景、4,14号竪穴建物全景、5,14号竪穴建物竈内遺物出土状況、6,15号竪穴建物全景、7,15号竪穴建物焼土範囲検出状況、8,16号竪穴建物全景
図版8　1,16号竪穴建物竈および棚状施設、2,16号竪穴建物階段状施設、3,16号竪穴建物間仕切施設検出状況、4,17号・18号・19号竪穴建物全景、5,17号竪穴建物竈、6,18号竪穴建物竈および棚状施設、7,17号・18号竪穴建物遺物出土状況、8,19号竪穴建物遺物出土状況
図版9　1,19号竪穴建物焼土範囲検出状況、2,19号竪穴建物階段状施設、3,20号竪穴建物全景、4,20号竪穴建物下層面遺物出土状況③、5,20号竪穴建物下層面遺物出土状況②、6,20号竪穴建物下層面遺物出土状況③、7,20号竪穴建物土偶出土状況、8,20号竪穴建物下層面遺物出土状況④
図版10　1,20号竪穴建物炉確認状況、2,20号竪穴建物炉完掘状況、3,21号竪穴建物全景、4,22号竪穴建物全景、5,23号竪穴建物全景、6,23号竪穴建物竈、7,23号竪穴建物遺物出土状況、8,23号竪穴建物刀子出土状況
図版11　1,24号竪穴建物全景、2,24号竪穴建物階段状施設、3,24号竪穴建物遺物出土状況、4,24号竪穴建物筵編石器出土状況、5,24号竪穴建物西壁際遺物出土状況、6,25号竪穴建物全景、7,26号竪穴建物全景、8,27号竪穴建物全景
図版12　1,28号竪穴建物全景、2,30号竪穴建物全景、3,30号竪穴建物掘り形検出状況、4,31号竪穴建物全景、5,31号竪穴建物竈、6,31号竪穴建物遺物出土状況、7,31号竪穴建物礎石出土状況①、8,31号竪穴建物礎石出土状況②
図版13　1,31号竪穴建物間仕切区画、2,31号竪穴建物階段状施設、3,32号・33号竪穴建物全景、4,34号竪穴建物全景、5,35号竪穴建物全景①、6,35号竪穴建物全景②、7,35号竪穴建物遺物出土状況、

8,35号竪穴建物炉
図版14　1,35号竪穴建物土偶出土状況、2,35号竪穴建物ミニチュア土器出土状況、3,35号竪穴建物玉出土状況、4,35号竪穴建物炉周辺遺物出土状況①、5,35号竪穴建物炉周辺遺物出土状況②、6,35号竪穴建物炉周辺遺物出土状況③、7,37号竪穴建物全景、8,37号竪穴建物遺物出土状況
図版15　1,38号竪穴建物全景、2,39号竪穴建物全景、3,40号竪穴建物全景、4,40号竪穴建物炉、5,1号掘立柱建物全景、6,1号埋設土器埋設状況①、7,1号埋設土器埋設状況②
図版16　1,19号ピット全景、2,25号・26号ピット全景、3,34号ピット全景、4,34号ピット銭貨出土状況、5,34号ピット礫出土状況、6,51号・52号ピット全景、7,81号ピット全景、8,82号ピット全景
図版17　1,132号ピット全景、2,133号ピット全景、3,135号ピット全景、4,135号ピット馬歯出土状況、5,138号ピット全景、6,139号・140号ピット全景、7,141号ピット全景、8,141号ピット馬歯出土状況
図版18　1,156号ピット全景、2,158号ピット全景、3,163号ピット全景、4,163号ピット馬歯出土状況、5,171号ピット全景、6,197号ピット全景、7,213号ピット全景、8,257号ピット全景
図版19　1,3号・4号溝全景、2,14号・15号溝全景、3,10号溝全景、4,11号溝・12号溝全景、5,旧河道北側部分全景、6,旧河道北側部分近景、7,旧河道内遺物出土状況①、8,旧河道内遺物出土状況②
図版20　1,旧河道埋没状況、2,旧河道確認状況、3,遺跡内近景、4,調査区南側ピット群全景、5,遺跡内積雪風景、6,調査風景①、7,調査風景②、8,遺跡現地説明会風景
図版21　12・20号竪穴建物出土土器の展開写真
図版22　20・35号竪穴建物出土土器の展開写真
図版23　35号竪穴建物出土土器の展開写真
図版24　35号竪穴建物出土土器の展開写真
図版25　12・36号竪穴建物出土土器
図版26　20号竪穴建物出土土器
図版27　20号竪穴建物出土土器
図版28　35号竪穴建物出土土器
図版29　35号竪穴建物出土土器
図版30　35号竪穴建物出土土器
図版31　35号竪穴建物出土土器
図版32　2号ピット出土土器
図版33　1・2号竪穴建物出土遺物
図版34　2号竪穴建物出土遺物
図版35　3号竪穴建物出土遺物
図版36　3・4号竪穴建物出土遺物
図版37　4・5・6号竪穴建物出土遺物
図版38　7号竪穴建物出土遺物
図版39　9・11・12・13号竪穴建物出土遺物
図版40　14号竪穴建物出土遺物
図版41　14・16号竪穴建物出土遺物
図版42　16・17・18・19号竪穴建物出土遺物
図版43　20号竪穴建物出土遺物
図版44　20号竪穴建物出土遺物
図版45　21・22・23号竪穴建物出土遺物
図版46　23・24号竪穴建物出土遺物
図版47　24・30・31号竪穴建物出土遺物
図版48　31・35号竪穴建物出土遺物
図版49　35号竪穴建物出土遺物
図版50　36・37号竪穴建物出土遺物
図版51　40号竪穴建物、ピット出土遺物、1号埋設土器
図版52　ピット出土遺物
図版53　溝、旧河道出土遺物
図版54　遺構外出土遺物
図版55　金属製品
図版56　ピット出土馬歯
図版57　ピット出土馬歯
図版58　1・12号竪穴建物出土石器、石製品
図版59　13・20号竪穴建物出土石器、石製品
図版60　20号竪穴建物出土石器、石製品
図版61　20～23・25・32～34・35号竪穴建物出土石器、石製品
図版62　35号竪穴建物出土石器、石製品
図版63　35号竪穴建物出土石器、石製品
図版64　35・36号竪穴建物出土石器、石製品
図版65　37号竪穴建物出土石器、石製品
図版66　38・39～41号竪穴建物、ピット出土石器、石製品
図版67　ピット出土石器、石製品
図版68　ピット出土石器、石製品
図版69　ピット出土石器、石製品
図版70　ピット、溝出土石器、石製品
図版71　溝、旧河道出土石器、石製品
図版72　遺構外出土石器、石製品
図版73　遺構外出土石器、石製品

第Ⅰ章　調査の経緯と概要

第１節　調査に至る経緯と調査組織

本遺跡は、長坂町内の周知遺跡「長坂町遺跡№.69（石原田北遺跡）」としてすでに登録されており、平成９（1997）年２月、株式会社Ｊマート（以下、Ｊマートとする）から長坂町教育委員会へ店舗出店にともない、山梨県北巨摩郡長坂町大八田字石原田166番地外地内における、埋蔵文化財の所在の有無に関する照会があった。それを受けて長坂町教育委員会では、同年12月に同地内の試掘調査を実施し、その結果、縄文時代中期から平安時代、中世にわたる土器や石器が多数出土したことからＪマートとの協議を行い、遺構・遺物出土密度の高い約8,000㎡において本調査を実施する運びとなった。

平成10（1998）年４月、本調査については、Ｊマートから山梨文化財研究所に調査依頼があり、山梨県教育委員会および長坂町教育委員会と当研究所の三者で協議を行った結果、山梨文化財研究所内に調査団組織をつくり、調査にあたることとなった。調査団組織は名称を「石原田北遺跡発掘調査団」として、調査団組織は下記に記したとおりである。平成10（1998）年７月にＪマートと石原田北遺跡発掘調査の委託契約を締結し本調査を開始した。

なお、長坂町教育委員会では、当遺跡の発掘調査において、遺跡記録保存のための調査方法や出土遺物等の保存活用について、町教育委員会と調査団との間で研究・協議をし、当調査の学術水準の維持・向上を図ることを目的として「石原田北遺跡発掘調査連絡協議会」を設置し、調査指導および協力を行うこととなった。以下に、調査団組織と連絡協議会組織等を示す。

【石原田北遺跡発掘調査団組織】（平成11〈1999〉年６月30日現在）

団　　長	萩原　三雄	（山梨文化財研究所所長代行）
副 団 長	鈴木　　稔	（山梨文化財研究所保存科学研究室室長）
主任調査員	平野　　修	（山梨文化財研究所研究員）
調 査 員	森原智恵子	（山梨文化財研究所研究助手）
事 務 局	五味　芳子	（山梨文化財研究所事務主任）

【石原田北遺跡発掘調査連絡協議会】（平成11〈1999〉年６月30日現在）

会　　長	小松　清寿	（長坂町教育委員会教育長）
副 会 長	植松　　正	（長坂町教育委員会教育課長）
	萩原　三雄	（石原田北遺跡発掘調査団長・山梨文化財研究所所長代行）
その他会員	小宮山　隆	（長坂町教育委員会学芸員〈埋蔵文化財担当〉）
	平野　　修	（石原田北遺跡発掘調査調査団主任調査員・山梨文化財研究所室長）

【発掘調査参加者】（五十音順）

浅川たみ子　浅川春子　浅川保代　井出研二　井出正美　河手寿子　酒巻正道　清水たま子

高橋純子　滝田武子　田中利美　千野あやめ　壷屋てる子　中田典子　長沼欣一　平嶋悦子
平嶋純一　平嶋弘子　平島雪枝　福井光幸　堀内さ多子　三井幸子　八巻久子　山下大輔
山本米子　吉田香代子

【整理作業参加者】（五十音順）

岩崎満佐子　宇津宮則子　小沢恵津子　梶原　薫　熊谷多美　斉藤春美　齋藤ひろみ　佐野靖子
竜沢みち子　滝沢峯子　田中真紀美　塚原明生　林　紀子　広瀬悦子　藤井多恵子　保坂真澄
矢房静江

第２節　発掘調査の概要

石原田北遺跡の発掘調査は、今回の発掘調査で第２次調査となる。第１次調査は、店舗建設に先立ち石原田北遺跡調査団（団長　長坂町教育委員会教育長　小松清寿）によって平成８（1996）年10月に実施され、約1,500㎡の調査区域から平安時代の竪穴建物1棟、中世の竪穴建物3棟、掘立柱建物３棟等が調査されている。当該調査に関する報告は、平成11（1999）年３月に『石原田北遺跡』として報告されている。今回の発掘調査も第１次調査と同じく「長坂町№69遺跡・石原田北遺跡」として登録範囲内を発掘調査している。第１次調査との混乱を防ぐため、今回は遺跡名に調査地点名を付して「石原田北遺跡Ｊマート地点」としておきたい。

さて、今回の発掘調査地点は、第１次調査地点のすぐ南側の隣接地にあたり、現況は水田・畑地であった。表面観察では畑地を中心に多量の縄文土器片と土師器片を採集することができた。発掘調査は、平成10（1998）年７月13日から調査区北西側から重機による表土剥ぎを開始した。この時点では調査区内の水田や畑に稲や野菜等の作物が残っていたことや、国有地となっていた農道が存在していたため、その部分を除いた表土の除去となった。同年７月17日より作業員を投入し、重機による表土剥ぎ作業とともに、人力による遺構確認作業も平行して行った。

第１回目の表土剥ぎ作業は、同年８月4日に終了し、縄文時代および平安時代の竪穴建物跡と思われる遺構範囲が約14～５箇所、土壙と思われる遺構範囲が約50箇所、旧河川跡等が確認された。同日から遺構内の掘削作業も開始し、９月から10月にかけて例年にない不順な天候に見舞われ、調

第1図　表土剥ぎ・遺構確認風景

第2図　調査風景

査進行にも少なからぬ影響があったが、農作物の収穫がすべて終了した11月中旬には第２回目の重機による表土剥ぎ作業を行った。年内の調査は、降雪にも見舞われたが、12月24日まで行い、来年３月の調査再開に備え、ブルーシートと土のう袋によって発掘範囲の養生を行った。

平成11（1999）年に入っての調査は、当調査地が高冷地であるため、厳冬期である１月から３月は調査を休止した。調査は平成11（1999）年３月29日から再開し、その後の調査は順調に進み、同年5月8日には当遺跡発掘調査団と北巨摩市町村文化財担当者会および山梨県考古学協会との共催による遺跡現地説明会を開催し、発掘調査成果を県内外の一般の方々に公開し約120名の参加者を得た。同年６月29日には最終的なラジコンヘリコプターによる空中写真測量を行い、当初の予定どおり同年６月30日に調査は終了した。平成11（1999）年７月6日付けで、埋蔵物発見届を長坂警察署長に提出、同日付けで、埋蔵文化財保管証を山梨県教育委員会教育長に提出、同年７月30日付けで、発掘調査報告書（概要）を文化庁長官に提出した。

発掘調査本報告書の作成に伴う整理作業は、調査終了時点から本格的に開始し、平成13（2001）年６月まで実施した。

なお、当初本調査の対象面積は約8,000㎡となっていたが、排土置き場の確保、周辺畑における作物の関係から、最終的な調査面積は6,870㎡となり、当初計画より若干縮小した。また、検出された遺構と遺物については以下のとおりである。

第3図　冬季現場養生状況

第4図　現地説明会風景

第5図　ラジコンヘリによる写真測量

【出土遺構・遺物の名称及び数量】（収納コンテナ規格　600㎜×400㎜×150㎜）

[遺　構]

□竪穴建物跡　縄文時代前期（諸磯ｂ式期）・・・・・・・・・・・１棟
縄文時代中期（新道～藤内式期）・・・・・・・・・17棟
平安時代（10世紀代）・・・・・・・・・・・・・・12棟
平安時代（11世紀末）・・・・・・・・・・・・・・７棟

中　　世および不明・・・・・・・・・・・・・・・・・3棟

□掘立柱建物跡（時期不明）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1棟

□ピット（土壙、小竪穴状遺構も含む、縄文時代～近現代）・・・293基

□埋設土器（縄文時代中期）・・・・・・・・・・・・・・・・・・1基

□溝　　址（平安時代、近現代）・・・・・・・・・・・・・・・20条

□旧　河　道（平安時代末以前）・・・・・・・・・・・・・・・・1条

□風倒木痕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3箇所

[遺　物]

■縄文時代の土器	コンテナ　19箱
■縄文時代の石器	コンテナ　18箱
■縄文時代の石製品	コンテナ　1箱
■縄文時代の土製品他	コンテナ　1箱
■平安時代の土器	コンテナ　14箱
■平安時代の石器	コンテナ　1箱
■平安時代の金属製品	コンテナ　1箱
■平安時代から中世にかけてのその他	コンテナ　1箱
■中世から近世にかけての石製品	コンテナ　1箱
■中世から近世にかけての金属製品	コンテナ　1箱
■近世から近代にかけての土器	コンテナ　1箱
■近世から近代にかけての金属製品他	コンテナ　1箱

第Ⅱ章　遺跡をとりまく環境

第1節　遺跡の立地

石原田北遺跡は、山梨県の北西部、八ヶ岳南麓の標高705m前後を測る、南北に細長く延びた尾根上および旧河道域に立地し、現在の中央自動車道長坂インターチェンジ付近に位置している。第四紀の古八ヶ岳期に大規模な山体崩壊により、流れ山を伴う韮崎岩屑流が発生し、現在の八ヶ岳南麓の地形の原型が形成されたとされ（三村他　1982）、西側は釜無川の浸食、東側は塩川とその支流である須玉川の浸食をうけて急崖を形成しており、現在では「七里岩」とよばれている。八ヶ岳南麓地域は、地形的には標高約1200m以上の急峻な地形の山体部、広範囲を占める山麓緩斜面部、およびそれに続く幅の狭い韮崎台地部の三つの部分に分けることができ（河西他　1989）、長坂町はこうした山麓緩斜面部に位置し、北側には大泉村、東側は高根町、南側は須玉町と武川村、西側は白州町と小淵沢町と接している。

八ヶ岳山麓緩斜面部の上部には、三分一湧水をはじめとする湧水地が点在し、それらを源とする鳩川、大深沢、古柚川等の中小河川が町内を流下している。さらにこれら河川からのびる支流による浸食作用によって、大小の沖積地が発達している。低尾根と低地部が東西に交互に連続する景観をなし、低地部では主に稲作、低尾根部では畑作が行われており、現在では山梨県内有数の水田地帯となっている。現在では洪水の少ない土地条件となっている当該地域ではあるが、遺跡名となった「石原田」という小字名のとおり、基盤層には多くの巨石を含んでおり、今回の調査でも平安時代末頃に埋没した旧河川跡が検出されている。こうした小河川の多くは、現在町内の低地部分において流下していたと推測され、平安時代までは水の便も比較的良好であったと思われる。当遺跡を境にして、南側に続く下流域では起伏の激しい地形条件となっており、河岸段丘が発達している。

周辺に点在する遺跡の多くが、低尾根および河岸段丘面上に立地している。当遺跡からは北に八ヶ岳、西に甲斐駒ヶ岳をはじめとする南アルプスの山並みが眺望でき雄大である。しかし現在では、周辺に一般住宅や高速道路、高圧線鉄塔等が建ち並び、自然景観、歴史的景観ともに急激な変化を遂げている。

〈参考文献〉

河西学・櫛原功一・大村昭三　1989「八ヶ岳南麓地域とその周辺地域の縄文時代中期末土器群の胎土分析」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第1集

三村弘二他　1982「自然残留磁気からみた韮崎岩屑流と流れ山」『地質学雑誌』88

第2節　周辺の遺跡

長坂町では 現在、200箇所以上に及ぶ遺跡が周知の遺跡として登録されている（第6図・表1参照）。石原田北遺跡周辺だけでも、既調査、未調査遺跡を含めて数多くの遺跡が点在している。ここでは今回の石原田北遺跡で検出された縄文時代と平安時代の発掘調査された既存遺跡を中心にふれておきたい。

当遺跡のすぐ北側には、中央自動車道建設と同自動車道長坂インターチェンジ建設に先だって調査された柳坪Ａ遺跡（遺跡№62／昭和48〈1973〉年調査）と柳坪Ｂ遺跡（遺跡№63／昭和59〈1984〉年調査）がある。柳坪Ａ・Ｂ両遺跡では、縄文時代中期曽利式期、弥生時代中期、古墳時代前期・後期、平安時代の竪穴建物等の遺構や遺物が検出されている。特に平安時代では遺跡中央部にひろがる谷地と、合計50棟近くに及ぶ竪穴建物、掘立柱建物等からなる集落跡の一部が検出されている。甲斐型土器をはじめ黒色土器や灰釉陶器等の土器群が大量に出土し、墨書土器も充実している。中でも「人」を意味する則天文字の「𡈼」を記した墨書土器は注目できる。

平成６（1994）年に、県営圃場整備事業に先立って調査された柳坪南遺跡（遺跡№181）は、柳坪Ａ・Ｂ遺跡の南西側約150ｍの所に位置し、調査面積が600㎡あまりにもかかわらず、平安時代の竪穴建物が15棟も検出されている。また、柳坪南遺跡と同じ年に調査された柳坪Ａ・Ｂ遺跡の北東側約150ｍに位置する境原遺跡（遺跡№183）では、約1000㎡あまりの調査区から９棟の竪穴建物が検出されている。柳坪南遺跡、境原両遺跡ともに柳坪Ｂ遺跡と同様に墨書土器が充実している。柳坪南遺跡でも則天文字の「𡈼」を記した墨書土器が１点出土しており、柳坪Ａ・Ｂ遺跡における集団と柳坪南遺跡における集団間の密接な連関が推測できる。

鳩川左岸には大規模な遺跡が点在する。石原田北遺跡から北北西に約700ｍに位置する小和田遺跡（遺跡№45）は、昭和59（1984）年に県営圃場整備事業に先だって調査されたもので、縄文時代から中世にわたる大規模な遺跡であるが、特に中世関連では、方形竪穴状遺構が29棟、地下式壙27基、石組遺構や石組土壙が検出されている。また総計約6000枚に及ぶ緡銭が三地点から出土し、大きな注目を集めた。当遺跡の北東側には濠と土塁が残存する深草城址（遺跡№44）、鳩川を挟んだ南側には薬研堀の一部が検出された小和田館跡（遺跡№49）等の国人領主層の館跡が存在し、当該地が中世段階において中心的な位置を占めていたことがわかる。

一方、縄文時代では中期中葉の狢沢式期の竪穴建物２棟、同じく狢沢式期から新道式期にかけての埋甕炉が３基確認されている。平安時代では計18棟の竪穴建物跡と掘立柱建物数棟が確認されている。他に平安時代の遺跡では、小和田遺跡の東側に隣接して原田遺跡（遺跡№61）と南新居西遺跡（遺跡№48）がある。前者では竪穴建物８棟と掘立柱建物２棟、後者では竪穴建物６棟が検出されており、いずれの遺跡でも甲斐型土器が集中する竪穴建物と黒色土器が集中する竪穴建物が偏在しているという指摘がされている。

石原田北遺跡に関係する時代として、縄文時代前期後半の諸磯式期の遺跡と、新道式期から藤内式期前半の縄文時代中期前葉の遺跡についてもふれておきたい。縄文時代前期後半の遺跡については、長坂町内で発掘調査で当該期の遺構・遺物が検出されているのは、本遺跡から西方約2.3kmの所にある酒呑場遺跡と、同じく西方に約３kmの所にある健康村遺跡（遺跡№173）等が知られている程度である。

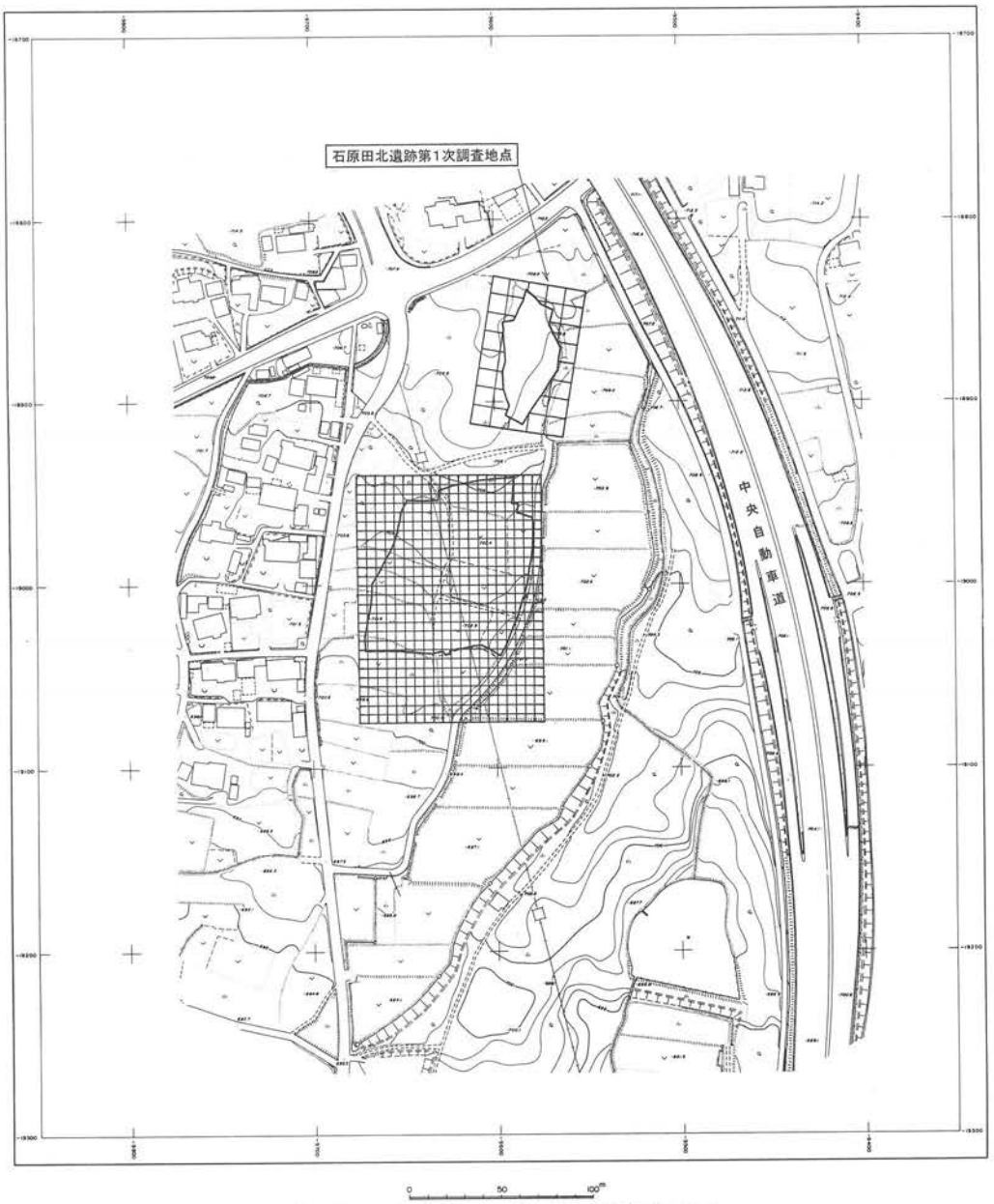
酒呑場遺跡（遺跡№102）は、山梨県の考古学史に残る著名な遺跡であり、縄文時代各期を通じての大集落遺跡として知られている。平成６（1994）年と平成７（1995）年および平成８（1996）年に行われた発掘調査では、詳細は不明であるが諸磯式期の遺構として竪穴建物が約30棟前後、土壙が多数検出されている。平成４（1992）年に東京都新宿区の区民総合余暇施設建設に先だって発

第6図　長坂町の遺跡分布図

表1　長坂町の遺跡分布一覧

（縄＝縄文時代　弥＝弥生時代　古＝古墳時代　平＝平安時代　中＝中世）

001　耳塚　中
002　法性寺前遺跡　縄　中
003　信玄原遺跡　縄
004　小荒間古戦場跡
005　桜畑遺跡　近
006　小泉遺跡　近
007　菅間遺跡　縄
008　桜畑南遺跡　縄
009　糀屋敷東遺跡　縄
010　糀屋敷北遺跡　縄
011　糀屋敷遺跡　縄
012　牛久保遺跡　縄　弥
013　牛久保南遺跡　縄
014　沢入遺跡　縄　中
015　宇干平遺跡　縄　中
016　東下屋敷遺跡　縄
017　西下屋敷遺跡　縄
018　新田森遺跡　縄
019　西下屋敷南遺跡　縄
020　横手遺跡　縄　中
021　神之原遺跡　縄
022　屋敷附遺跡　縄　中
023　内城遺跡　中
024　十郎林遺跡　縄
025　阿原遺跡　平
026　中尾根遺跡　縄
027　手白尾遺跡　縄
028　夫婦石遺跡　縄
029　横山1遺跡　縄
030　横山2遺跡　縄
031　横山平南遺跡　縄　平
032　葛原北遺跡　縄　平
033　上フノリ平北遺跡　縄
034　上フノリ平遺跡　縄
035　上フノリ平西遺跡　縄
036　下フノリ平北遺跡　縄
037　葛原遺跡　縄　弥
038　下フノリ平遺跡　縄　中
039　下フノリ平南遺跡　平
040　別当遺跡　縄
041　別当西遺跡　縄
042　別当十三塚
043　南新居北遺跡　中
044　深草城址
045　小和田遺跡　縄　平
046　南新居屋敷跡
047　南新居遺跡　平
048　南新居西遺跡　平
049　小和田館跡
050　米山遺跡　旧石　縄
051　米山東遺跡　平
052　塚田遺跡　平
053　窪田遺跡　縄　古　平
054　弥右衛門塚1
055　弥右衛門塚2
056　渋田北遺跡　平
057　渋田遺跡　平
058　東原の土塁
059　東原遺跡　中
060　柳新居遺跡　縄　古　平
061　原田遺跡　縄　平
062　柳坪A遺跡　縄　古　平
063　柳坪B遺跡　縄　古　平
064　小屋敷遺跡　縄　平
065　久保地遺跡　縄
066　成岡遺跡　縄　弥　平
067　成岡新田遺跡　弥　平
068　曲田遺跡　平
069　●石原田北遺跡　縄　平　中
070　石原田南遺跡　縄　平　中
071　塚原遺跡　縄　平
072　越中久保遺跡　縄　平
073　久保遺跡　縄
074　房屋敷遺跡　縄
075　池の平遺跡　縄
076　東蕪遺跡3　平
077　東蕪遺跡2　平
078　東蕪遺跡4　縄　平
079　東蕪遺跡1　縄　平
080　和手山東遺跡　中
081　小尾平遺跡　旧石　縄
082　間の原遺跡　縄
083　西蕪東遺跡　平
084　西蕪遺跡　縄
085　西蕪南遺跡　縄　平
086　和手遺跡　縄　平
087　腰巻遺跡　縄
088　城山上北遺跡　縄　平
089　城山上遺跡　縄
090　中丸城跡　中
091　居久保遺跡　縄　平
092　清春白樺美術館南遺跡　縄
093　細久保遺跡　縄
094　後平遺跡　縄　平
095　狐平北遺跡　縄　平
096　狐平遺跡　縄　平
097　大平遺跡　縄　平
098　下鳥久保遺跡　縄
099　鳥久保遺跡　縄
100　高松遺跡　縄
101　上町遺跡　縄　平
102　酒呑場遺跡　縄　古　平
103　東村A遺跡　縄　平
104　東村B遺跡　古　平
105　中村遺跡　古　平
106　錨田遺跡　平
107　西村遺跡　古　平
108　中反遺跡　縄　平
109　中丸・藤塚
110　長坂氏屋敷跡　中
111　白山神社前遺跡　平
112　上ノ屋敷遺跡　縄　平
113　大々神十三塚　中
114　大々神A遺跡　平
115　大々神B遺跡　古　平
116　治郎田遺跡　古　平
117　頭無A遺跡　平
118　樫木遺跡　弥　古
119　塚川・柳坪遺跡　縄
120　頭無遺跡（二本木遺跡）　縄　古
121　新田遺跡　縄
122　塚之越遺跡　中
123　原町北遺跡　平　中
124　原町遺跡　平
125　上久通北遺跡　縄　平
126　塚川の土塁　中
127　下村遺跡
128　塚川十三塚群
129　宮久保遺跡　縄　平　中
130　下村南遺跡　縄
131　泥里西遺跡　縄　平
132　勝見遺跡　縄　平
133　競馬場遺跡　縄　平
134　寺前遺跡　縄　平　中
135　上久通遺跡　縄
136　反田遺跡　縄　平　中
137　三井氏屋敷跡　中
138　北村遺跡　弥　古
139　新居遺跡　縄
140　相吉氏屋敷跡　中
141　相吉遺跡　中
142　上松氏屋敷跡　平
143　下屋敷遺跡　縄
144　清水頭遺跡　縄　古　平
145　向原遺跡　平
146　三つ墓古墳2　消滅
147　原町農業高校前遺跡　縄
148　三つ墓古墳3　消滅
149　三つ墓古墳1　古
150　池之平昭和堤北遺跡　縄
151　池之平A遺跡　縄　平
152　向井丹下屋敷跡　中
153　池之平B遺跡　縄
154　上日野遺跡　縄　平
155　田中氏屋敷跡　中
156　上日野A遺跡　縄　平
157　上日野B遺跡　縄　平
158　上日野C遺跡　縄　平
159　姥久保遺跡　平　中
160　日野原遺跡　平
161　上日野原遺跡　縄　平
162　富岡遺跡　近
163　横針遺跡　弥　古
164　大林遺跡　縄
165　中込遺跡　縄
166　手白尾東遺跡　縄
167　西屋敷遺跡　古
168　上町南遺跡　縄
169　龍角西遺跡　縄　古　平
170　龍角遺跡　古　平
171　長坂上条遺跡　縄　平
172　西久保遺跡　縄
173　新宿区健康村遺跡　縄　平
174　長坂下条・藤塚
175　和田遺跡　弥　平
176　古屋敷遺跡　縄
177　泥里遺跡　縄
178　中込北遺跡　縄
179　渋沢　上町遺跡　縄
180　下屋敷北遺跡　縄　平
181　柳坪南遺跡　平
182　柳坪北遺跡　縄　弥　平
183　境原遺跡　弥　平
184　北村北遺跡　縄　弥　平
185　酒呑場東遺跡　縄　弥　平
186　山本遺跡　縄
187　北村東遺跡　縄　古
188　大久保北遺跡　縄　中
189　天王塚古墳　古
190　池之平北遺跡　縄　平
191　清水頭北遺跡　縄　平
192　宇干平の土塁
193　成岡・藤塚
194　馬越場遺跡
195　紺屋遺跡　縄　平
196　治郎田北遺跡　縄
197　竹原遺跡　縄
198　天白城址　中
199　下原遺跡　縄



第7図　遺跡周辺の地形と遺跡位置図

掘調査された健康村遺跡では、諸磯C式期段階の竪穴建物が１棟と土壙等が検出されている。長坂町外で近接する遺跡としては、大泉村の天神遺跡、御所遺跡、寺所遺跡、原田遺跡、山崎第４遺跡、甲ッ原遺跡等があげられる。その中でも天神遺跡（昭和56〈1981〉年と昭和57〈1982〉年調査）は、49棟の竪穴建物と多数の土壙とから成る諸磯式期の集落遺跡で、当該期の中核的な遺跡として知られている。

縄文時代中期前葉の遺跡については、長坂町内では前述の酒呑場遺跡と小和田遺跡等で検出されている程度である。長坂町外に目を向けると、先述の大泉村甲ッ原遺跡と寺所第２遺跡、古林第４遺跡、高根町海道前C遺跡等があり、この中で平成４（1992）年に県営圃場整備事業に先立って発掘調査された古林第４遺跡では、20棟の竪穴建物跡と数十基の土壙から構成される環状集落が検出され、遺物量も豊富で平出三類Ａ系統の土器等の外来系土器の存在もみられ、今後の当該期の集落研究および土器研究に欠かせない遺跡の一つである。

0 (1:400) 10m

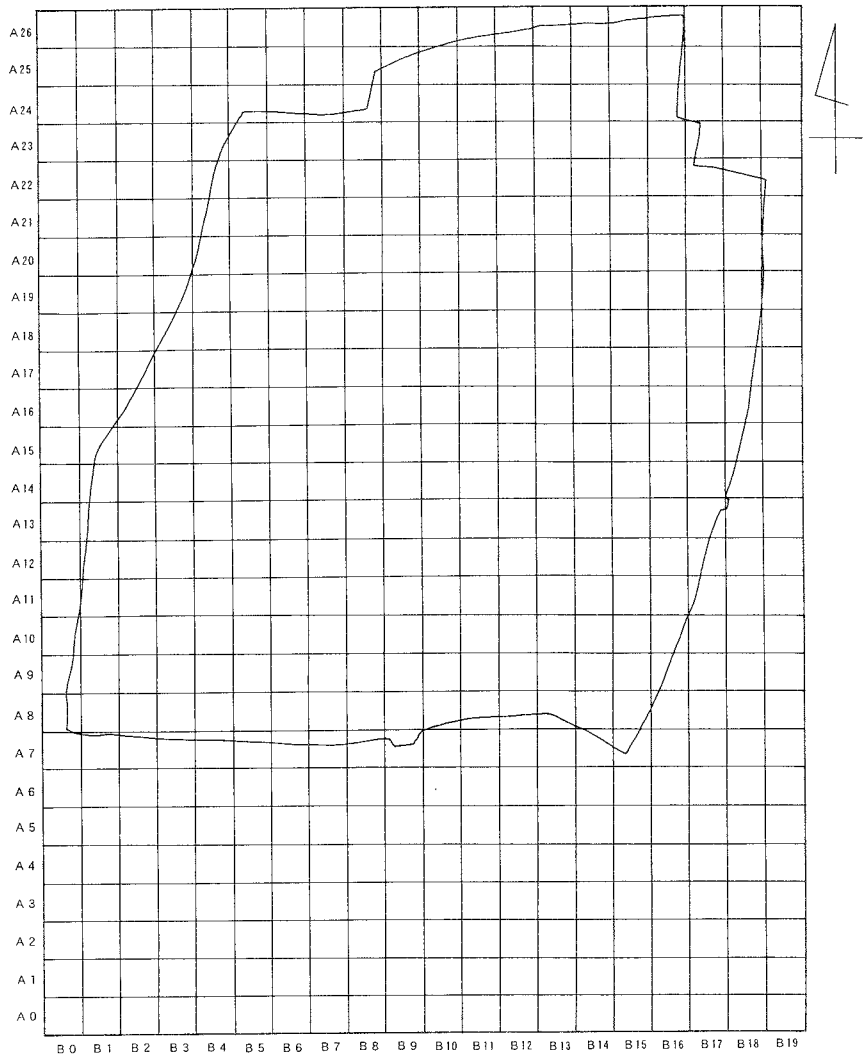
第8図　石原田北遺跡全体図

第Ⅲ章　調査の方法と基本層序

第１節　グリッドの設定と遺構の名称について

調査は、調査対象地区全体をカバーするように国家座標第Ⅷ系を用い、５m四方を基本とするグリッドを設定した。X軸（南北）方向にＡ１・Ａ２・・、Y軸（東西）方向にＢ１・Ｂ２・・とし、両者を合わせて「Ａ１Ｂ１」というようにグリッド名をつけた。各グリッドの名称は、南西隅の杭が基準となっている。なお、座標値については、遺跡のほぼ中心のＡ15Ｂ10グリッドでは、Ｘ＝－19000m、Ｙ＝－9625m、緯度（Ｂ）35° 49′ 43.2501″、経度（Ｌ）138° 23′ 36.4425″となっており、標高は702.500mである。

表土の除去は、前述のとおりすべて重機で行った。遺構の確認はすべて人力によってジョレンで行い、遺構の番号は、調査に取りかかった段階で随時付していった。なお、整理作業の結果、遺構の名称変更や遺構番号に欠番が生じたが、今回の報告された名称等が最終的なものである。



第9図　グリッド設定図

第２節　遺構の調査方法

竪穴建物やピットを中心とする遺構の調査については、基本的に平面プラン確認の後、土層観察用と棚状施設等の存在の有無を確認するためのベルトを、十文字またはキの字状に残し、サブトレンチを設定し掘り下げ、床面・底面の確認を行った後、全体を掘り下げた。遺物は極力出土位置を保たせながら掘り進め、原則的にすべての遺物を光波測量機とハンドヘルドコンピュータを用いて座標値と標高値を記録して取り上げたが、一部遺構覆土一括資料として取り上げたものもある。

旧河道内の遺物については、大型破片遺物等を光波測量器を用いて取り上げたが、土器・石器ともに著しく摩耗しており、現地性の可能性が極めて低いことや、細片資料が大半であったため、その多くは遺構内にまたがるグリッドを利用して、グリッド単位ごとに取り上げた。また、各遺構確認作業に伴う遺構外出土遺物については、後で遺構に帰属させるために出土位置を保たせながら掘り進め、光波測量機とハンドヘルドコンピュータを用いて取り上げた。ただ、明らかに撹乱内から出土したものや、詳細な出土位置が不明になってしまった遺物については、グリッド単位で取り上げた。

平面図関連では平板測量、遣り方測量で平面図を作成した。土層図、断面図等についても人力によって行った。これら図面の縮尺率は原則として1/20である。遺跡全体図（SCL＝1/100）の作成

第10図　セクションベルトの設定

第11図　遺構内の掘り下げ

第12図　光波測量

第13図　平板測量

については、写真測量を実施している。竈・炉、その他個別に測量が必要なものについては、原則として縮尺率1/10で平面図、土層図、断面図を人力で作成した。各平面図を作成した後は、レベル測量（レベリング）を行い、標高データを加えた。

遺構の写真撮影は、35㎜カメラを使用し、基本的に遺構内覆土の堆積状況、遺物出土状況、完掘状況の三つの状況下で撮影した。溝址やピット等の遺物の出土量が少ない遺構については、遺物出土状況と完掘状況を兼ねて撮影を行っているものもある。竈や炉についても同じような状況下で単独で撮影を行っている。

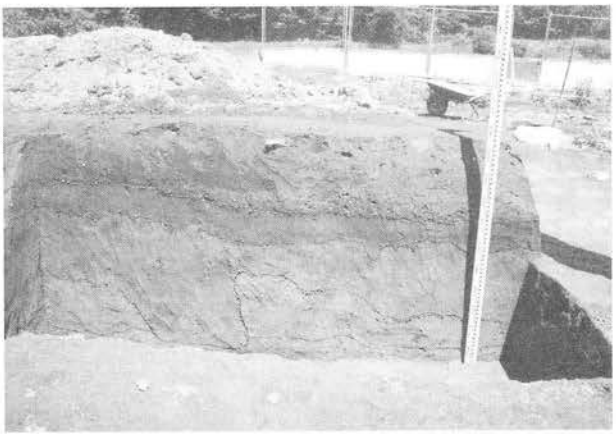
測量に用いた機器およびシステムは以下の通りである。

[光波測量機]　　ＴＯＰＣＯＮ　ＧＴＳ－320ＦⅡＡ
[コンピュータ]　　ＥＰＳＯＮ　ＨＣ－100
[取り上げシステム]　　コンピュータ・システム株式会社製　「ＳＩＴＥⅢ」

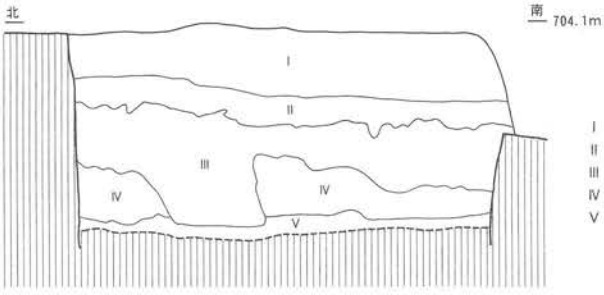
第３節　基本層序

検出された遺構群の大半は、南北にのびる低尾根上から検出され、河川跡とピットの一部は旧河道域から検出されている。低尾根の中央部では、西側の旧河道域からＵ字状に浅い谷が入り、縄文時代前期～中期の遺物群を含んだ包含層が周辺に比べやや厚く堆積している。基本土層については低尾根部で観察を行った。基本的に、表土（耕作土、旧耕作土）、にぶい黄褐色土（縄文時代前期～中期が主体、平安時代の遺物も少量含む）、ソフトローム、ハードロームとなっており、縄文時代および平安時代の遺構ともににぶい黄褐色土層から切り込んで構築されている。

なお、旧河道域の土層堆積状態については、第Ⅳ章第１節（６）旧河道の報告文を参照されたい。



第14図　セクション断面



I　耕作土　黒褐色砂質土　10YR3/1
II　耕作土　灰黄褐色砂質土　10YR4/2
III　にぶい黄褐色粘質土　10YR4/3　炭化物粒、5～10㎜大ロームブロック、ローム粒子を含む
IV　にぶい黄褐色粘質土　10YR5/4　ソフトローム層的、小礫含む
V　黄褐色粘質土　10YR5/6　ハードローム的　小礫含む

第15図遺跡基本土層図

第Ⅳ章　発見された遺構と遺物

第１節　遺構および遺構内出土遺物

(1)　竪穴建物

１号竪穴建物（第16～18図）

【位　置】A17・18B16・17グリッドに位置する。

【重　複】なし。

【形　状】長方形。

【規　模（長軸m×短軸m）】4.4m（東西）×4.1m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.65mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】10.35㎡。

【長軸方位】N－88°－E。

【埋没状況】

覆土上層は耕作土に近い黒褐色土が厚く堆積し、中層から下層にかけては焼土および焼土粒、炭化物、炭化物粒を含む黄褐色土系の堆積土がレンズ状に堆積し、床面直上層では焼土粒や炭化物粒の混入が顕著となっている。床下にみられるピット覆土は焼土ブロックや炭化物、ロームブロックを含む混合土である。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

竪穴壁下には周溝が断続的にめぐっており、周溝内には小ピットがみられる。竪穴内に主柱穴はみられないが、南東コーナーおよび竈周辺部に浅いピットがみられる。床面は北東コーナー部分および南西コーナー部分を除いて堅固である。掘り形は竪穴中央部と北東隅をピット状に深く掘り込むタイプのものである。

【竈】

東壁中央やや南寄りに構築。袖石等は除去されており、掘り形のみを検出。竈の右脇の南東コーナー壁下から扁平な礫が整然と置かれた状態で出土しており、竈構築材の礫である可能性が高い。燃焼部には焼土が５～８cmの厚さで顕著に残存している。

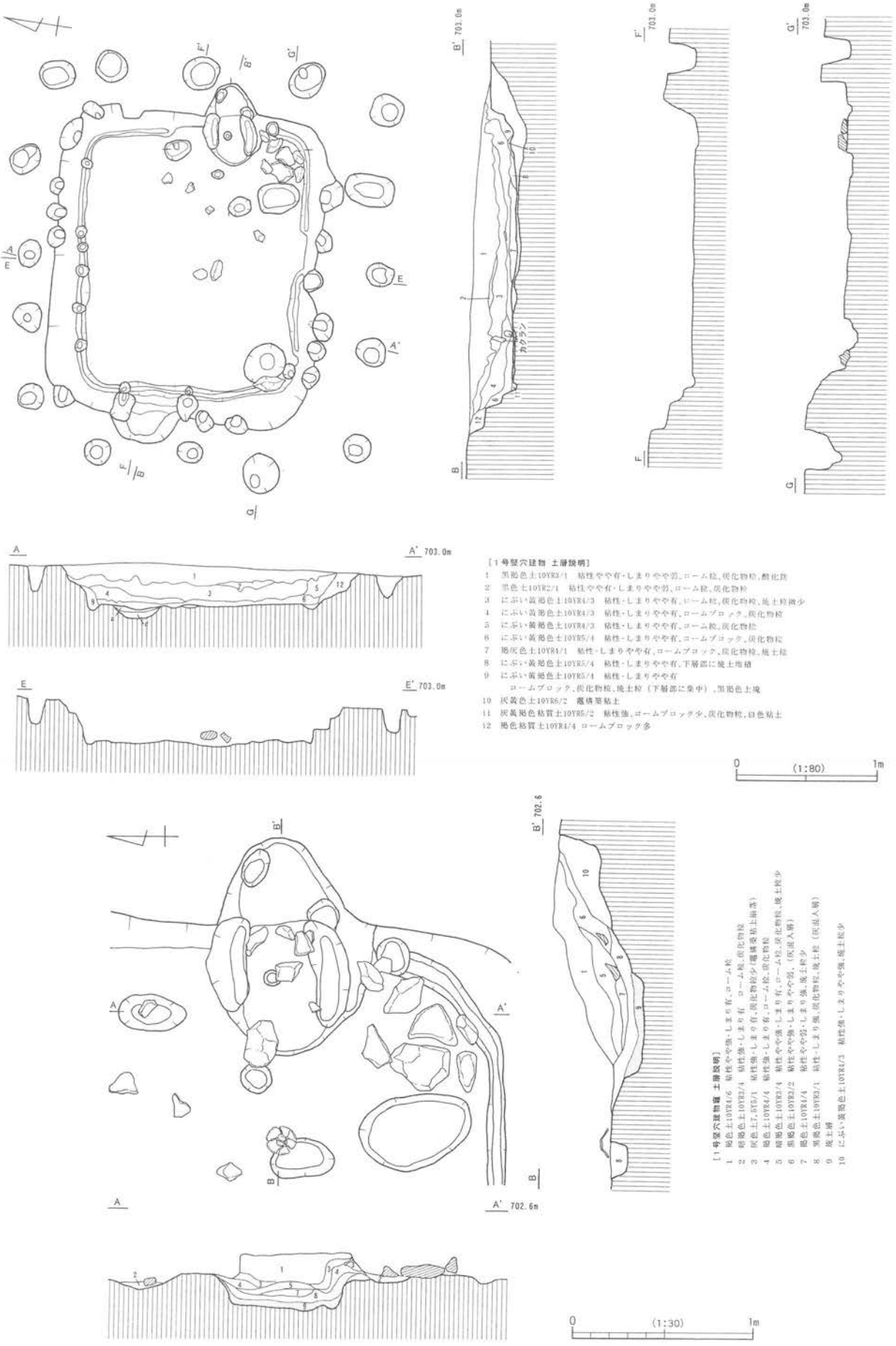
【その他施設】

竪穴壁外柱穴および階段状施設が検出されている。竪穴壁外柱穴は16基確認されている。径35～75cm、深さ約30～40cmを測り、ピット間は約80～150cmの間隔を有し、竪穴壁面の外側約30～90cmを測る位置で検出されている。

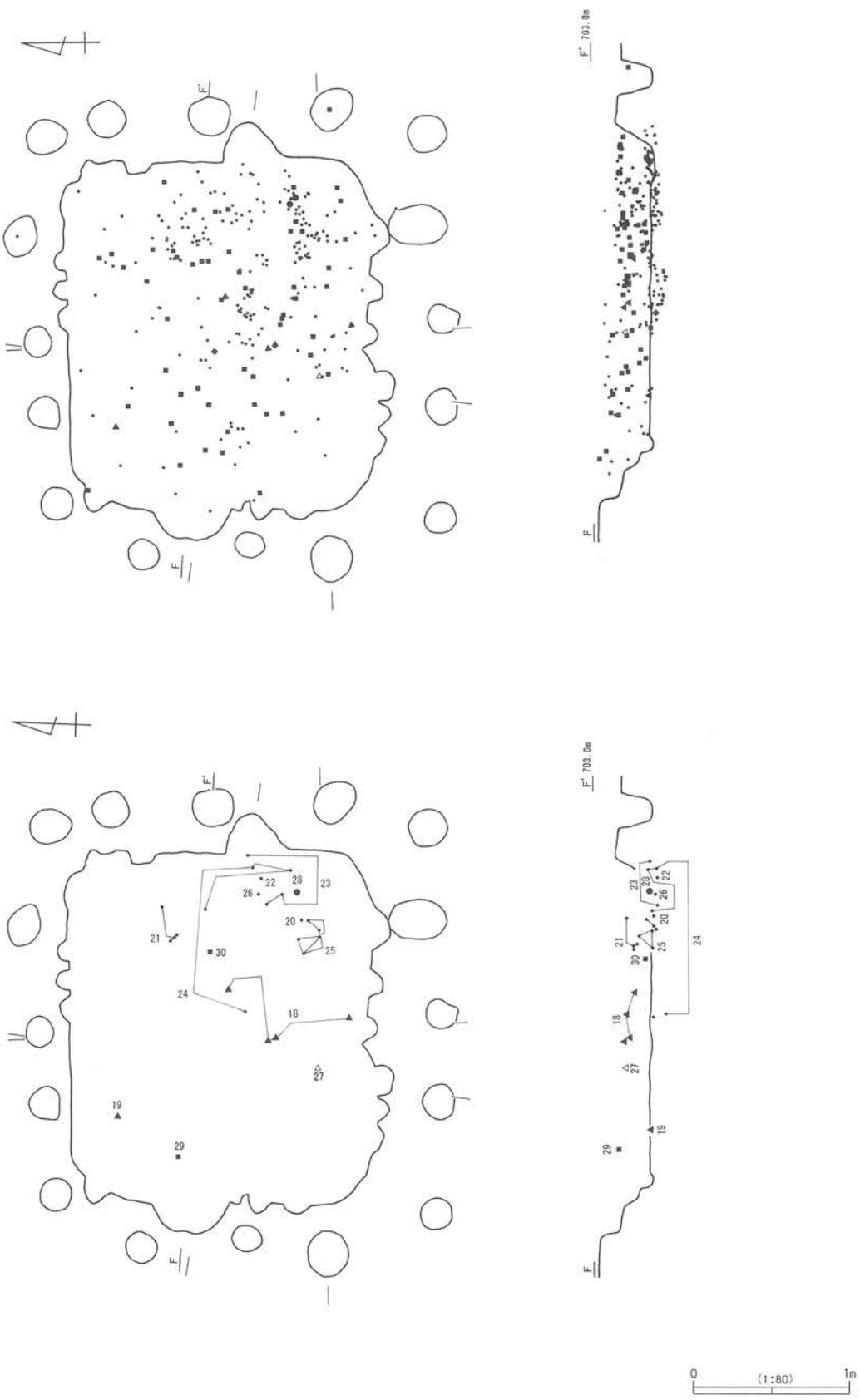
階段状施設は西壁中央からやや北寄りに位置し、竪穴壁の外側を掘り込んで二段の段差を構築しており、幅約70cm、段の奥行き最大30cm、床面から一段目の高さは約14cm、一段目と二段目の比高差は約18cmを測る。また階段状施設の両脇には支柱とみられるピットが確認されている。

【遺物出土状況】

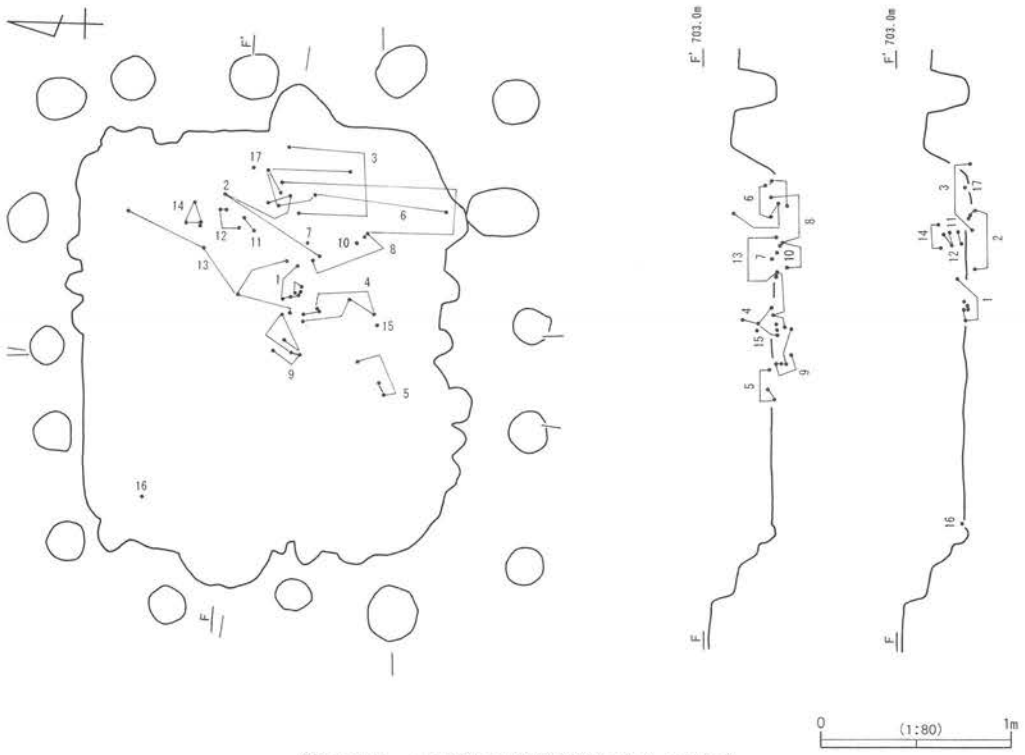
遺物は、竈周辺部の覆土層中や床面レベルを中心に出土しており、床下ピットにおいても細片な



第16図　1号竪穴建物・竈



第17図　1号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図（1）



第18図　1号竪穴建物遺物接合図（2）

がら土器の出土が多い。床面レベルでは竈の前方約40cmを測る位置で黒色土器坏（第19図－７）が１個体だけ伏せられた状態で出土している。

【出土遺物】（第19・20図）

１～３（１・２は灯明具）は、土師器皿および坏、３～17は黒色土器の坏類、18・19は、灰釉陶器、20～24は、土師器甕、25・26は、ロクロ整形の小型甕、27は須恵器壷？、28は焼成粘土塊、29は砥石である。土師器食膳具および煮炊具における甲斐型土器の出土は少なく、食膳具では黒色土器が主体的に出土している。煮炊具の土師器甕も、その整形方法や胎土等において甲斐型甕とはやや異なっている。黒色土器は内面および内外面に黒色処理を施したものがほとんどであるが、10のように黒色処理を施していないものもみられる。これら黒色土器には、その作りおよび器形等から２つのタイプがみられる。１の体部外面には正位に「木」と記された墨書がみられ、26にも墨痕が看取できる。

【時　期】平安第Ⅰ段階。

２号竪穴建物（第21～23図）

【位　置】A22・23B10・11グリッドに位置する。

【重　複】６号・36号竪穴建物と重複。両遺構より新。

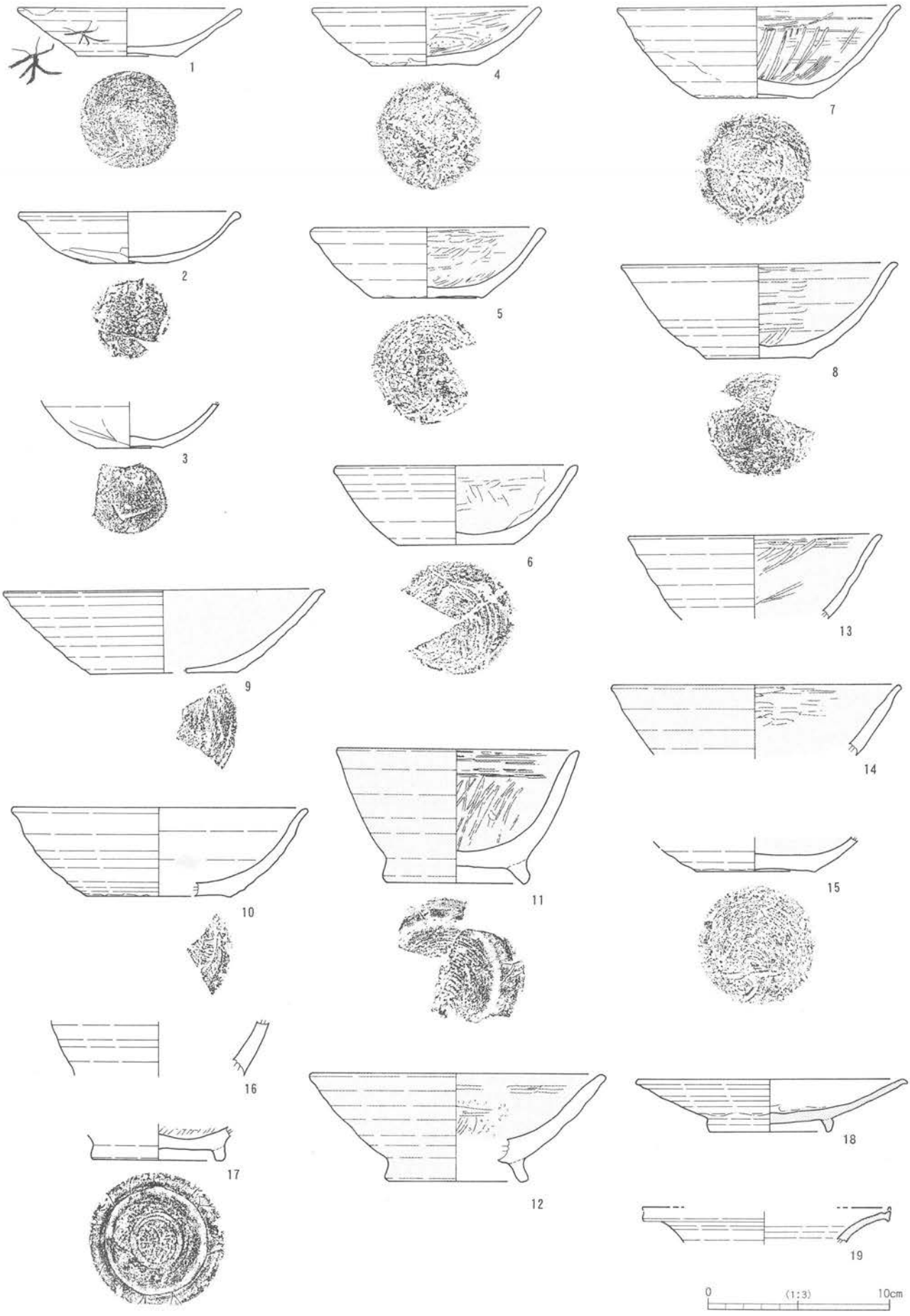
【形　状】方形。

【規　模（長軸m×短軸m）】4.65m（東西）×4.55m。

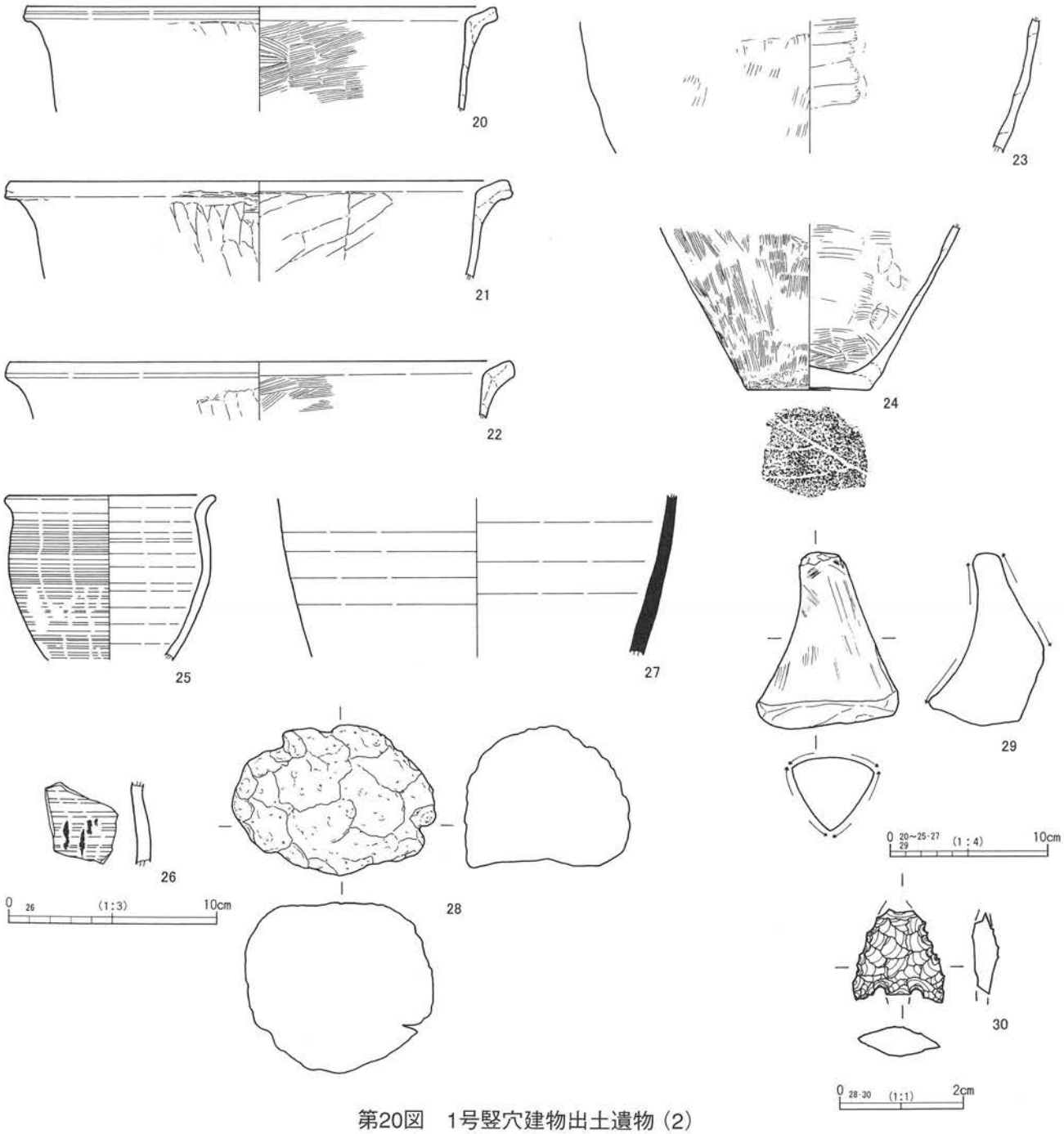
【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.55mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】14.29㎡。

【長軸方位】N－83°－E。



第19図　1号竪穴建物出土遺物（1）



第20図　1号竪穴建物出土遺物（2）

【埋没状況】

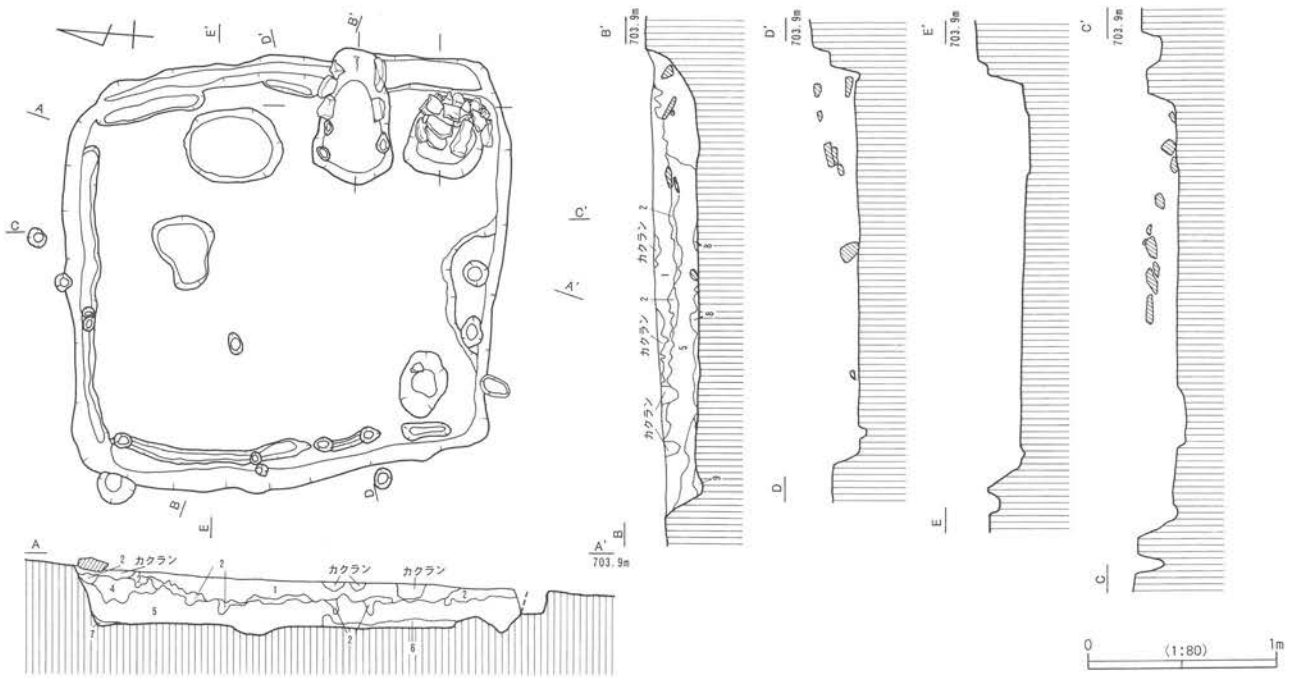
覆土上層には耕作土に近い黒褐色土が厚く堆積し、中層から下層にかけては焼土および焼土粒、炭化物、炭化物粒を含む黄褐色土系の堆積土がレンズ状に堆積し、床面直上層では焼土粒や炭化物粒が顕著となり、まばらに焼土層も認められる。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

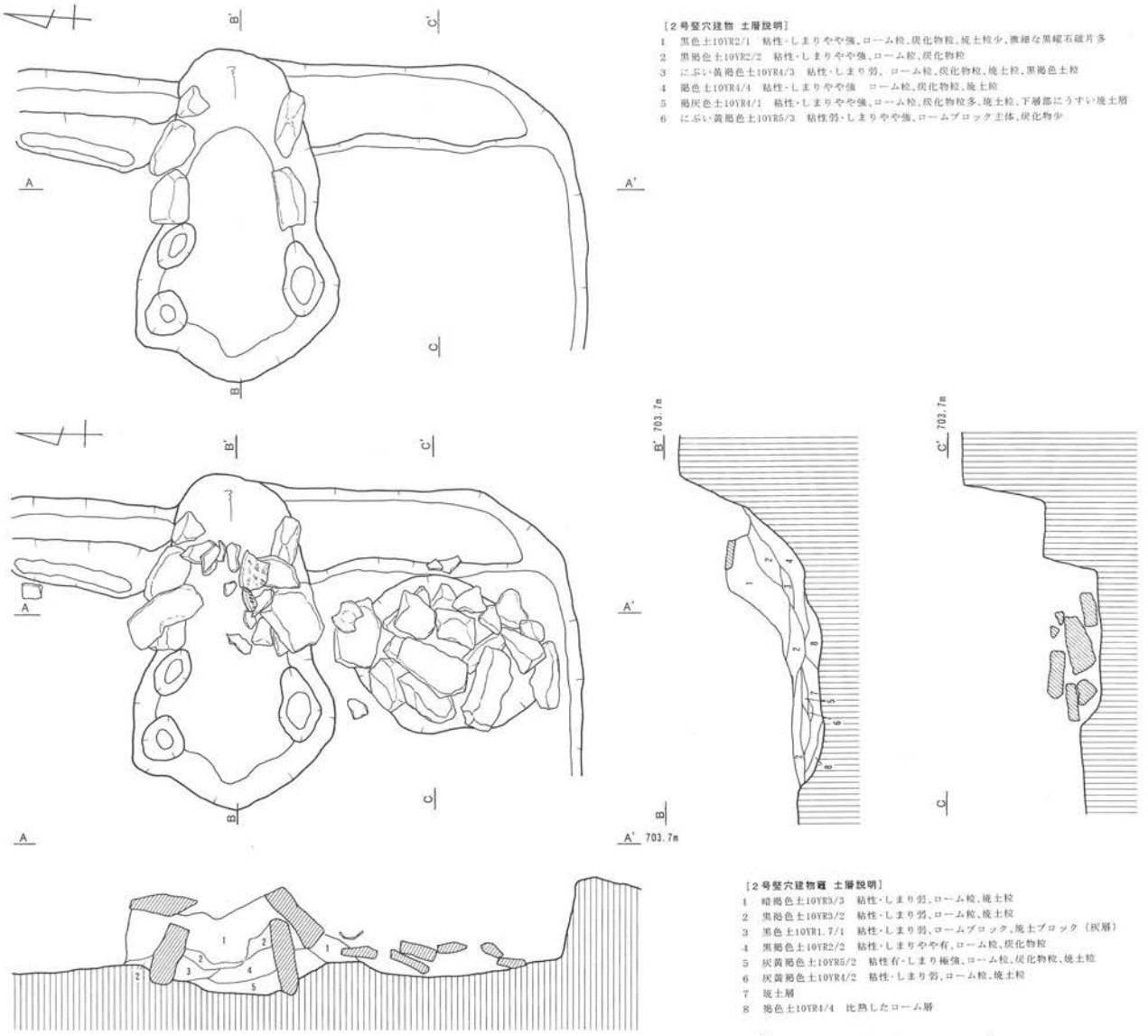
主柱穴と思われるピットはみられない。竪穴壁下には周溝が断続的に巡り、小ピットもみられる。竈の両脇に、深さ５cmほどを測るピットがみられる程度。

【竈】

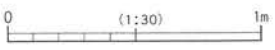
東壁、南東コーナー近くに構築。両袖石の一部が残存。竈覆土上面を中心に土師器甕や黒色土器



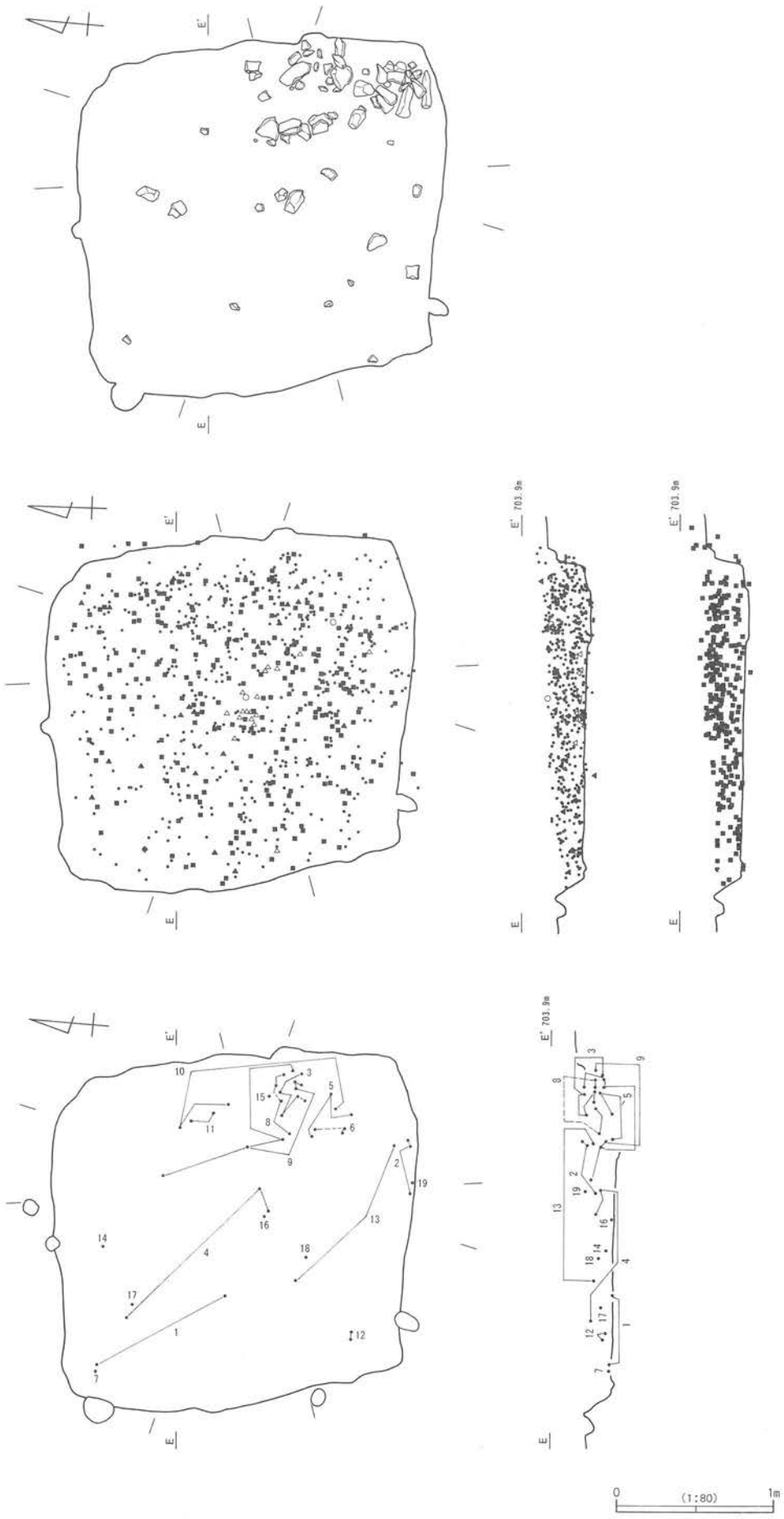
［2号竪穴建物 土層説明］
1 黒色土10YR2/1 粘性・しまりやや強、ローム粒、炭化物粒、焼土粒少、微細な黒曜石破片多
2 黒褐色土10YR2/2 粘性・しまりやや強、ローム粒、炭化物粒
3 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまり弱、ローム粒、炭化物粒、焼土粒、黒褐色土粒
4 褐色土10YR4/4 粘性・しまりやや強 ローム粒、炭化物粒、焼土粒
5 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや強、ローム粒、炭化物粒多、焼土粒、下層部にうすい焼土層
6 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性弱・しまりやや強、ロームブロック主体、炭化物少



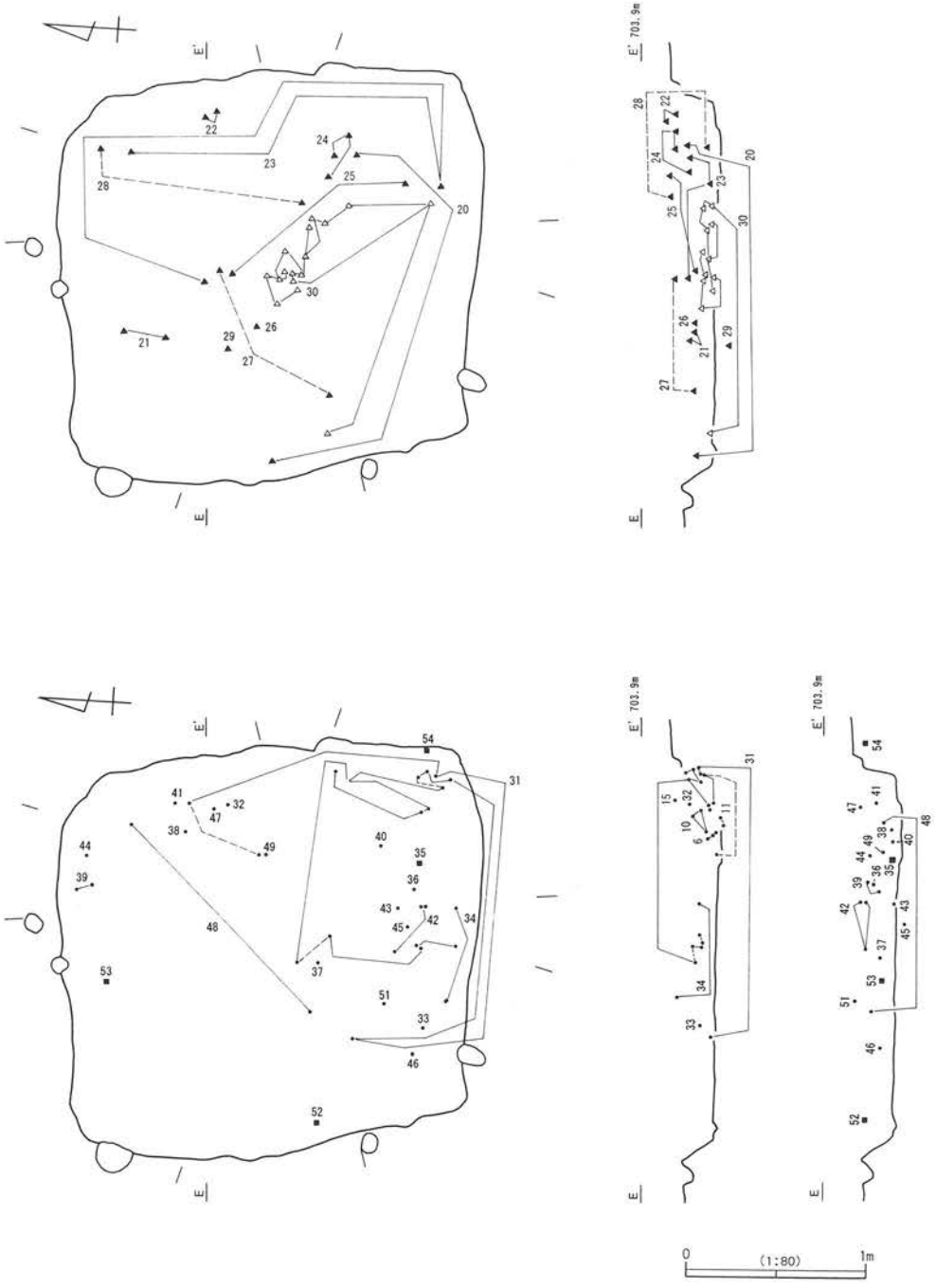
［2号竪穴建物竈 土層説明］
1 暗褐色土10YR3/3 粘性・しまり弱、ローム粒、焼土粒
2 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまり弱、ローム粒、焼土粒
3 黒色土10YR1.7/1 粘性・しまり弱、ロームブロック、焼土ブロック（灰層）
4 黒褐色土10YR2/2 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒
5 灰黄褐色土10YR5/2 粘性有・しまり極強、ローム粒、炭化物粒、焼土粒
6 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまり弱、ローム粒、焼土粒
7 焼土層
8 褐色土10YR4/4 比熱したローム層



第21図 2号竪穴建物・竈



第22図　2号竪穴建物遺物出土状況・遺物分布図・遺物接合図（1）



第23図　2号竪穴建物遺物接合図（2）

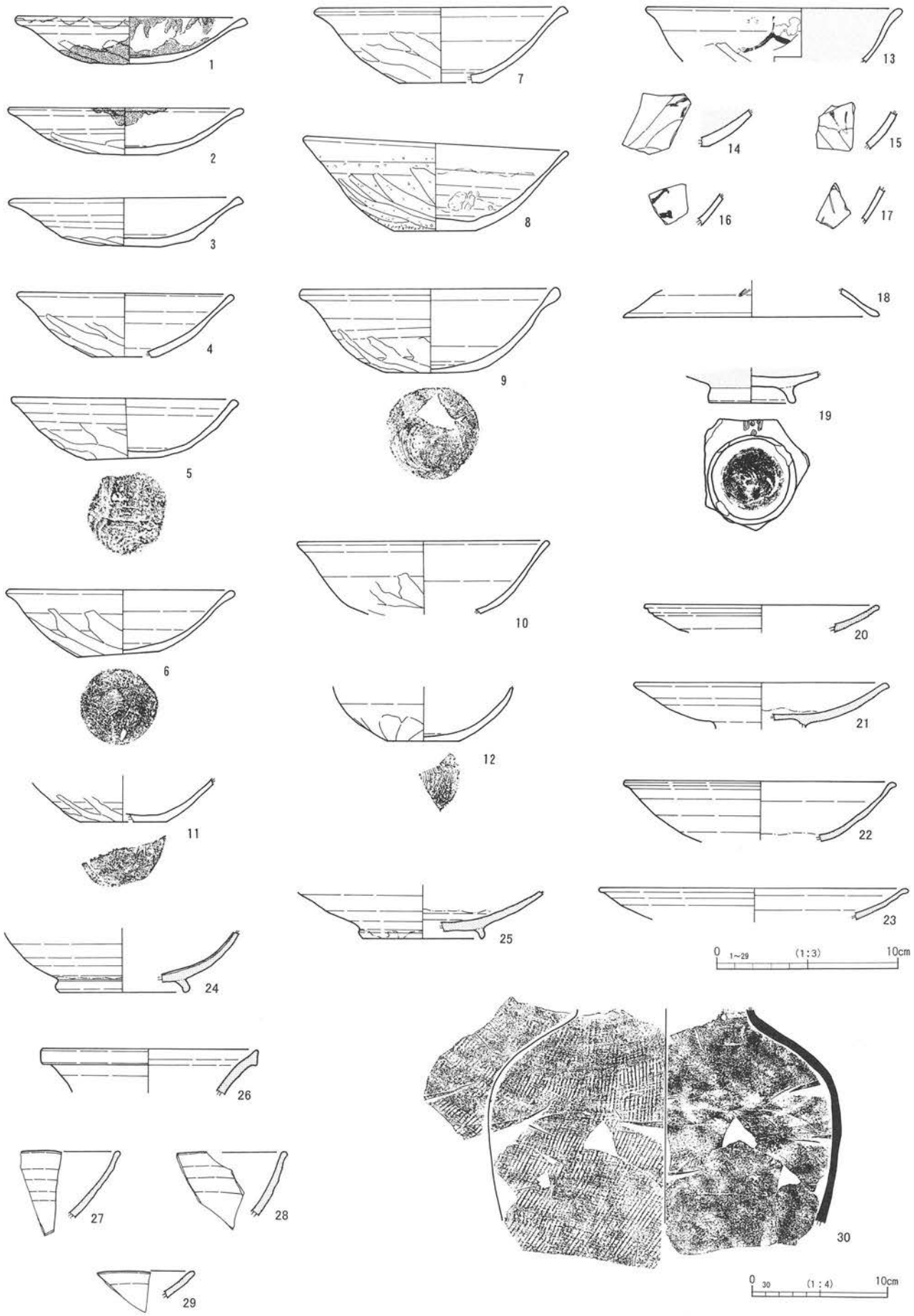
坏の大形破片が出土しており、竈右脇のピット内に竈の構築材とみられる礫が充填された状態で出土している。燃焼部には焼土層が顕著に残存している。

【その他施設】

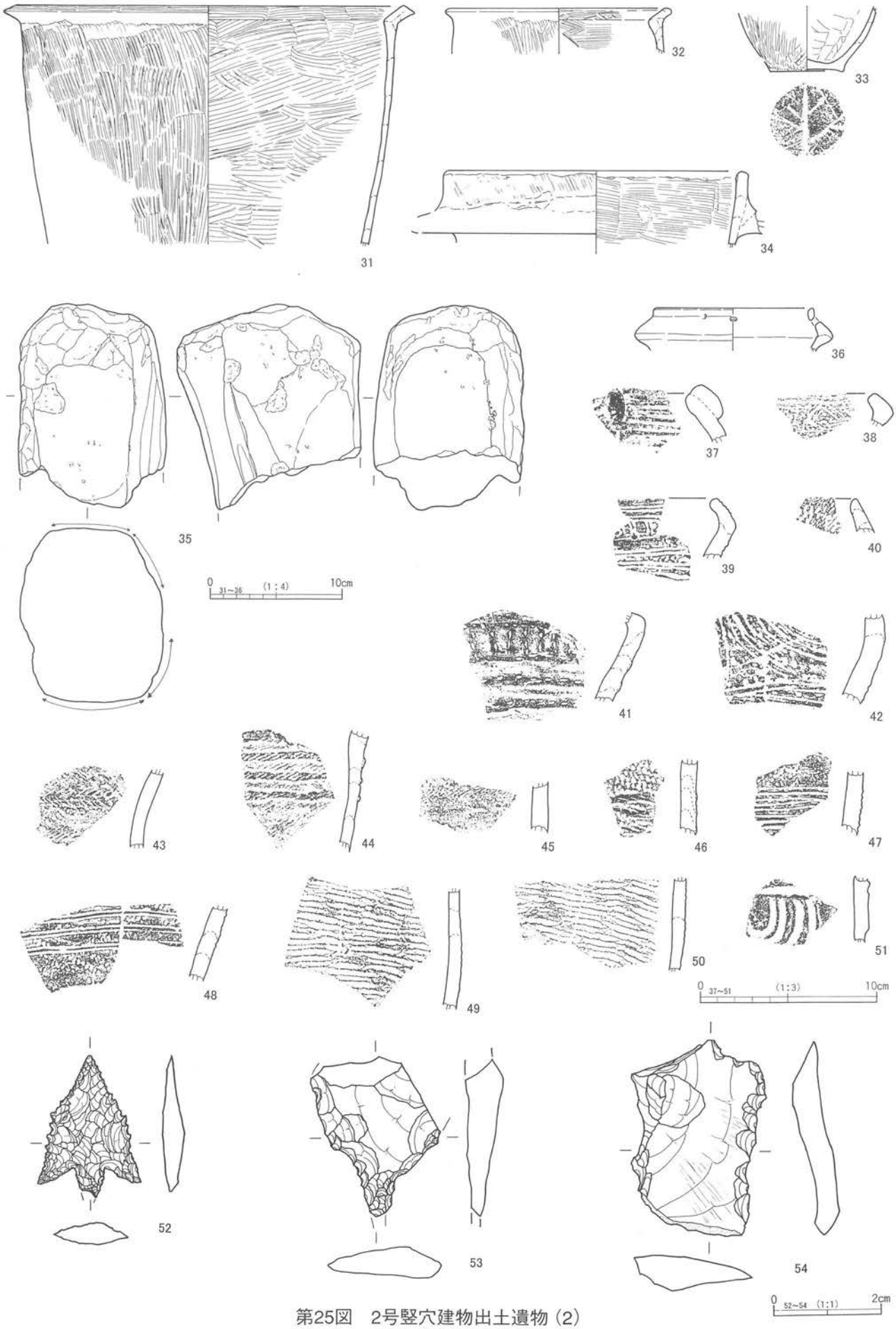
竪穴壁外柱穴、棚状施設、ステップ状施設が検出されている。竪穴壁外柱穴と思われるピットが４基ほど検出されている。いずれも径20cm前後、深さ10cm前後を測るものである。

棚状施設は、竈と南東コーナーの間にみられる。幅95cm、奥行き25cm、遺構確認面からの深さ35cm、床面との段差は16cmを測る。

ステップ状施設は南壁中央部にみられ、幅約140cm、奥行き約45cm、床面との段差は５cm程度を



第24図　2号竪穴建物出土遺物（1）



第25図　2号竪穴建物出土遺物（2）

測り、ステップ上には40cmほどの間隔をあけて２基の小ピットがみられる。

【遺物出土状況】

覆土上層から下層にかけてまんべんなく出土しているが、床面直上の出土の遺物は少ない。また竈前面部の床面上20～30cmのレベルからは人頭大の礫が集中して出土している。

【出土遺物】（第24・25図）

１～17は、土師器皿および坏、18は土師器蓋、19は黒色土器高台坏、20～29は、灰釉陶器椀および皿・瓶、30は須恵器壷の胴部破片、31～34は、土師器甕および羽釜である。35は砥石である。36～54は、縄文時代の遺物である。

土師器の食膳具および煮炊具は、１号竪穴とは異なり、甲斐型土器が主体的で、黒色土器類の出土は極めて少ない。13および14は内面黒色処理が施されているが、甲斐型坏系の黒色土器である。８の体部外面から底部にかけて器面がアバタ状に荒れており、二次的に熱を受けた痕跡と思われる。灰釉陶器類は破片が主体ではあるが比較的多く出土している。13～16の体部外面には墨書、17には刻書、18と19にはヘラ書がみられる。

【時　期】平安第Ⅰ段階。

３号竪穴建物（第26～28図）

【位　置】Ａ20・21Ｂ10・11グリッドに位置する。

【重　複】１号ピットと重複。同遺構より新。

【形　状】方形。

【規模（長軸m×短軸m）】5.50ｍ（南北）×5.10m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.55ｍを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】18.66㎡

【長軸方位】Ｎ－８°－Ｗ。

【埋没状況】

覆土上層は、耕作土に近い黒褐色土が厚く堆積し、中層から下層にかけては焼土および焼土粒、炭化物、炭化物粒を含む暗褐色土および黄褐色土の堆積土が、緩やかな凹レンズ状に堆積し、床面直上層では焼土粒や炭化物粒が顕著となり、竈前面部から竪穴中央部にかけての床面には炭化物の付着が著しい。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

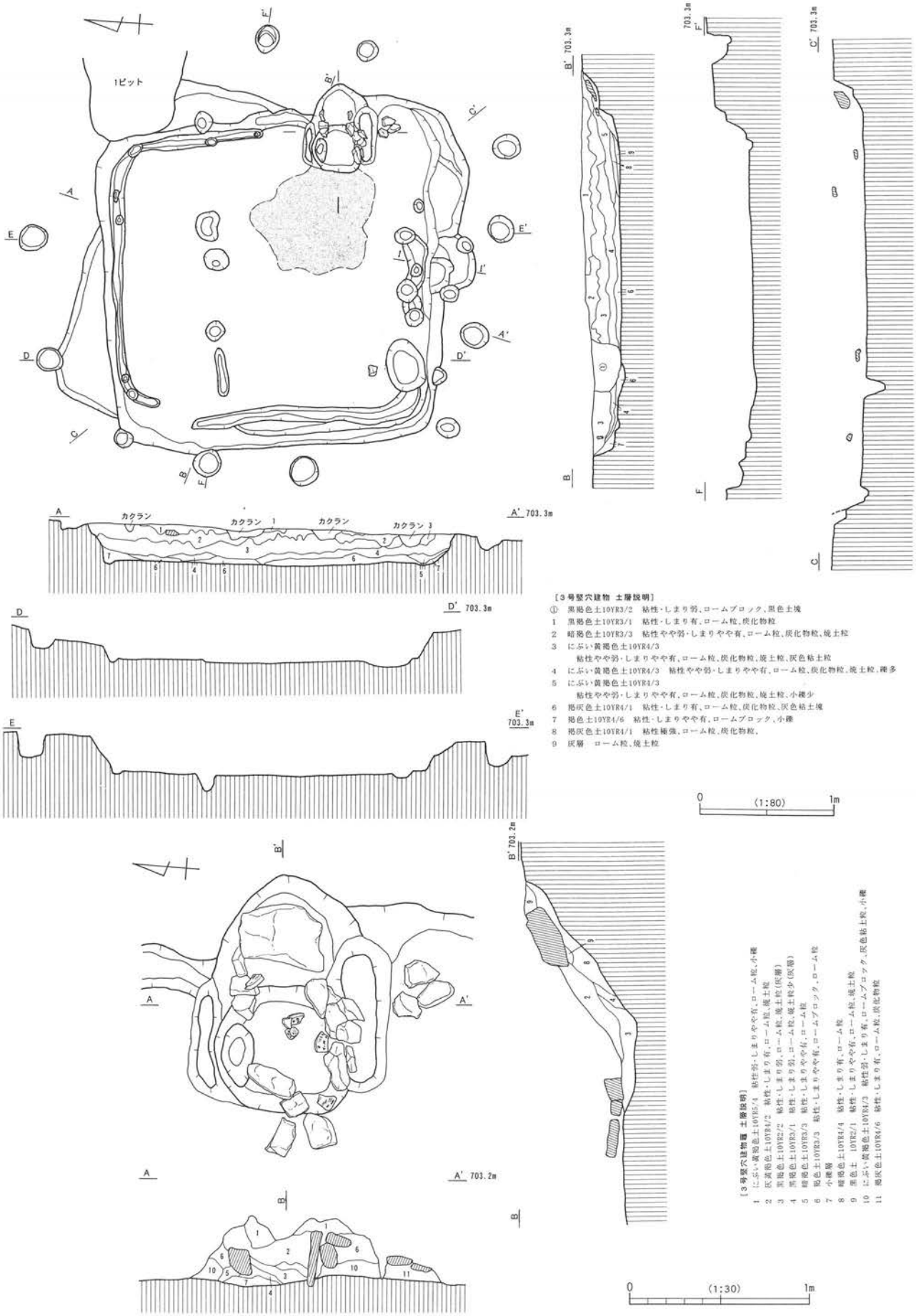
主柱穴と思われるピットはみられない。竪穴壁下には周溝が断続的に巡り、周溝内には小ピットもみられる。間仕切りに伴うと思われる溝とピットが、北壁との間の約1.4ｍの位置で検出されている。この竪穴北側部分の床面は３～４cmの比高差であるが若干高くなっており、テラス状施設とみてよかろう。

【竈】

東壁、南東コーナー近くに構築。両袖石の一部が残存。燃焼部内における焼土の残存は顕著ではない。燃焼部内からは土師器甕の大形破片が出土している。また煙道部の覆土上面からは天井石状の大形の平石が出土している。

【その他施設】

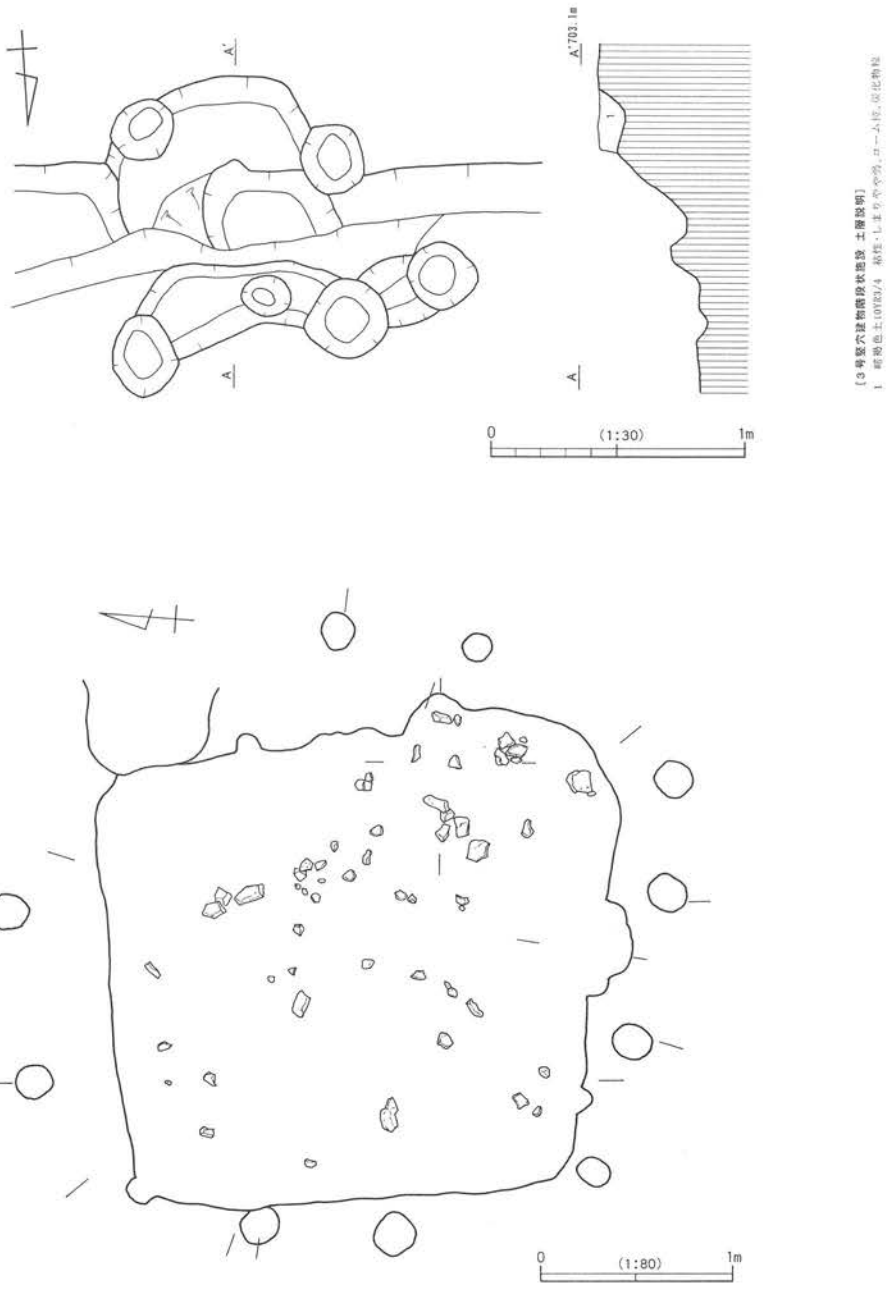
竪穴壁外柱穴、階段状施設、棚状施設が検出されている。竪穴壁外柱穴と思われるピットは11基



【3号竪穴建物 土層説明】
① 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまり弱、ローム ブロック、黒色土塊
1 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒
2 暗褐色土10YR3/3 粘性やや弱・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒、焼土粒
3 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性やや弱・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒、焼土粒、灰色粘土粒
4 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性やや弱・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒、焼土粒、礫多
5 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性やや弱・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒、焼土粒、小礫少
6 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒、灰色粘土塊
7 褐色土10YR4/6 粘性・しまりやや有、ローム ブロック、小礫
8 褐灰色土10YR4/1 粘性極強、ローム粒、炭化物粒、
9 灰層 ローム粒、焼土粒

【3号竪穴建物 土層説明】
1 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性弱・しまりやや有、ローム粒、小礫
2 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまり有、ローム粒、焼土粒
3 黒褐色土10YR2/2 粘性・しまり弱、ローム粒、焼土粒(炭層)
4 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまり弱、ローム粒、焼土粒少(炭層)
5 暗褐色土10YR3/3 粘性・しまりやや有、ローム粒
6 褐色土10YR3/3 粘性・しまりやや有、ローム ブロック、ローム粒
7 小礫層
8 暗褐色土10YR4/4 粘性・しまり有、ローム粒
9 黒色土 10YR2/1 粘性・しまりやや有、ローム粒、焼土粒
10 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性弱・しまり有、ローム ブロック、灰色粘土粒、小礫
11 褐灰色土10YR4/6 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒

第26図　3号竪穴建物・竈



第27図　3号竪穴建物階段状施設・遺物出土状況

みられ、径40cm前後、深さ30cm前後を測る。柱間の間隔には規則性は特にみられない。

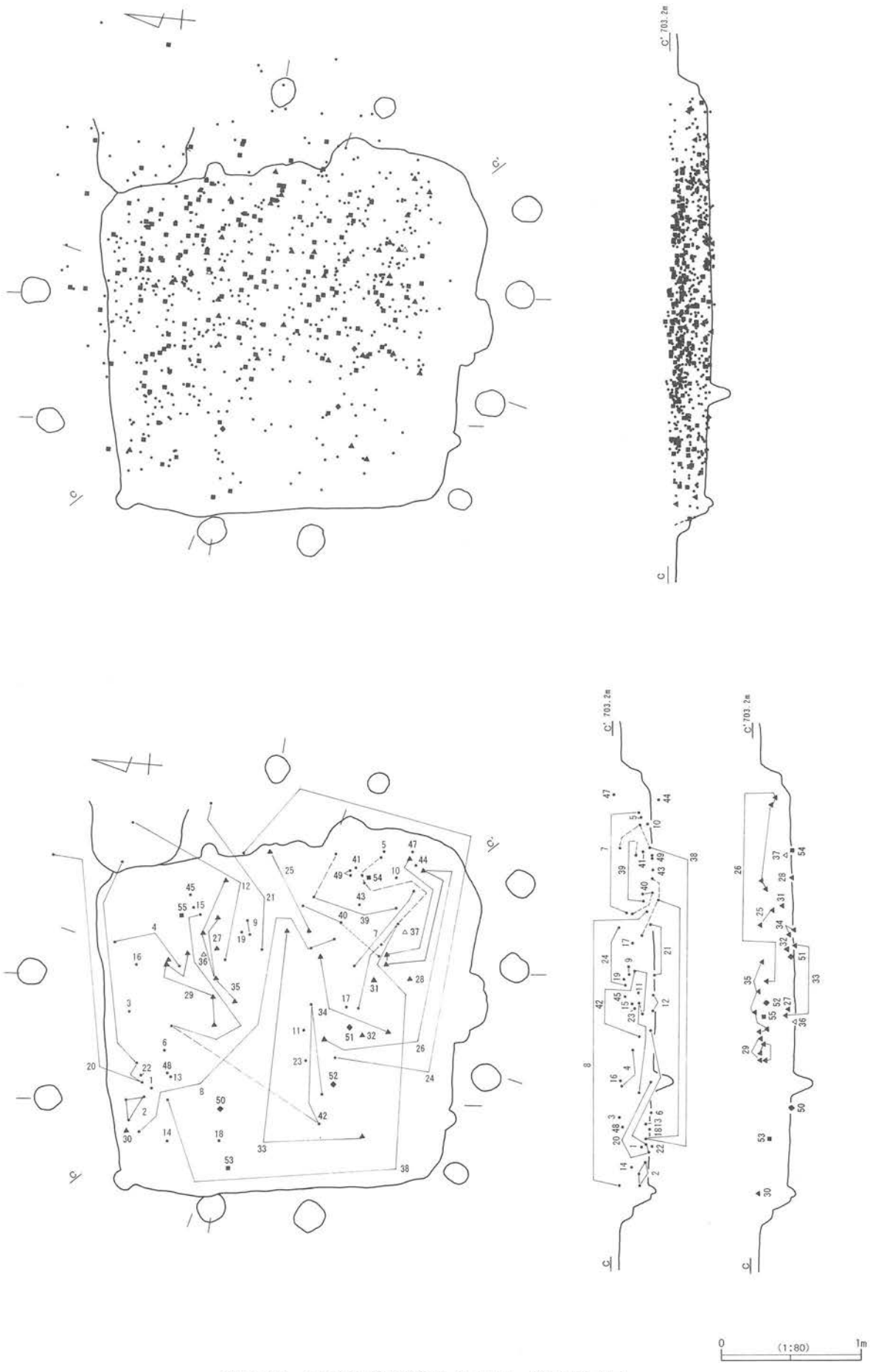
階段状施設は、南壁のほぼ中央部に地山を掘り残し二段の階段が構築されている。幅約80cm、段差の比高差は10～15cmを測る。階段の基部には２基の小ピットと溝がみられる。

棚状施設は、南東コーナー部から階段状施設の間に設けられており、奥行き約50cm、幅100cm、床面からの高さは約10cmを測る。

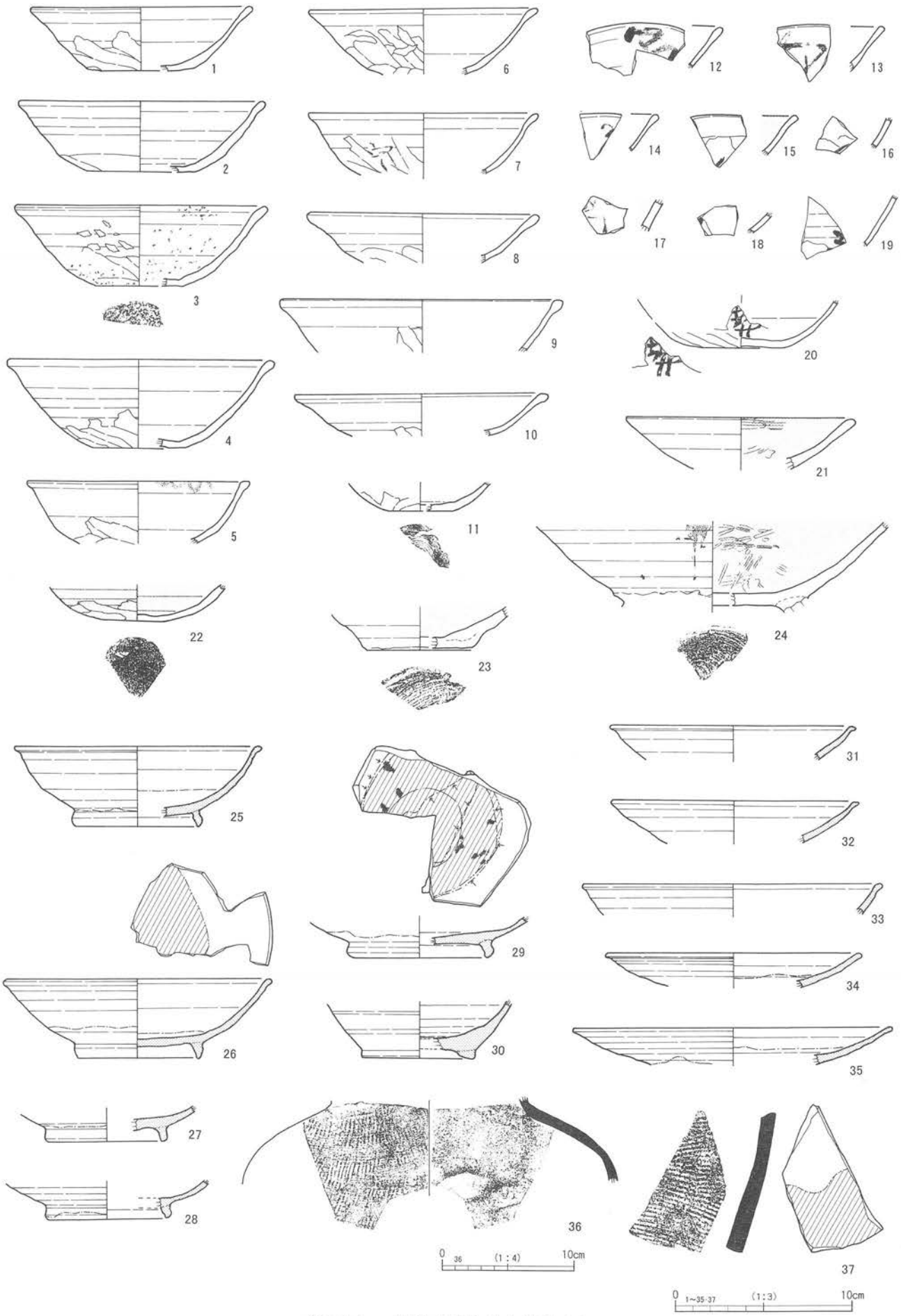
【遺物出土状況】

覆土上層の１～３層からの出土が目立つ。床面直上からの出土は少なく、床面上10cm内外からの出土が多い。

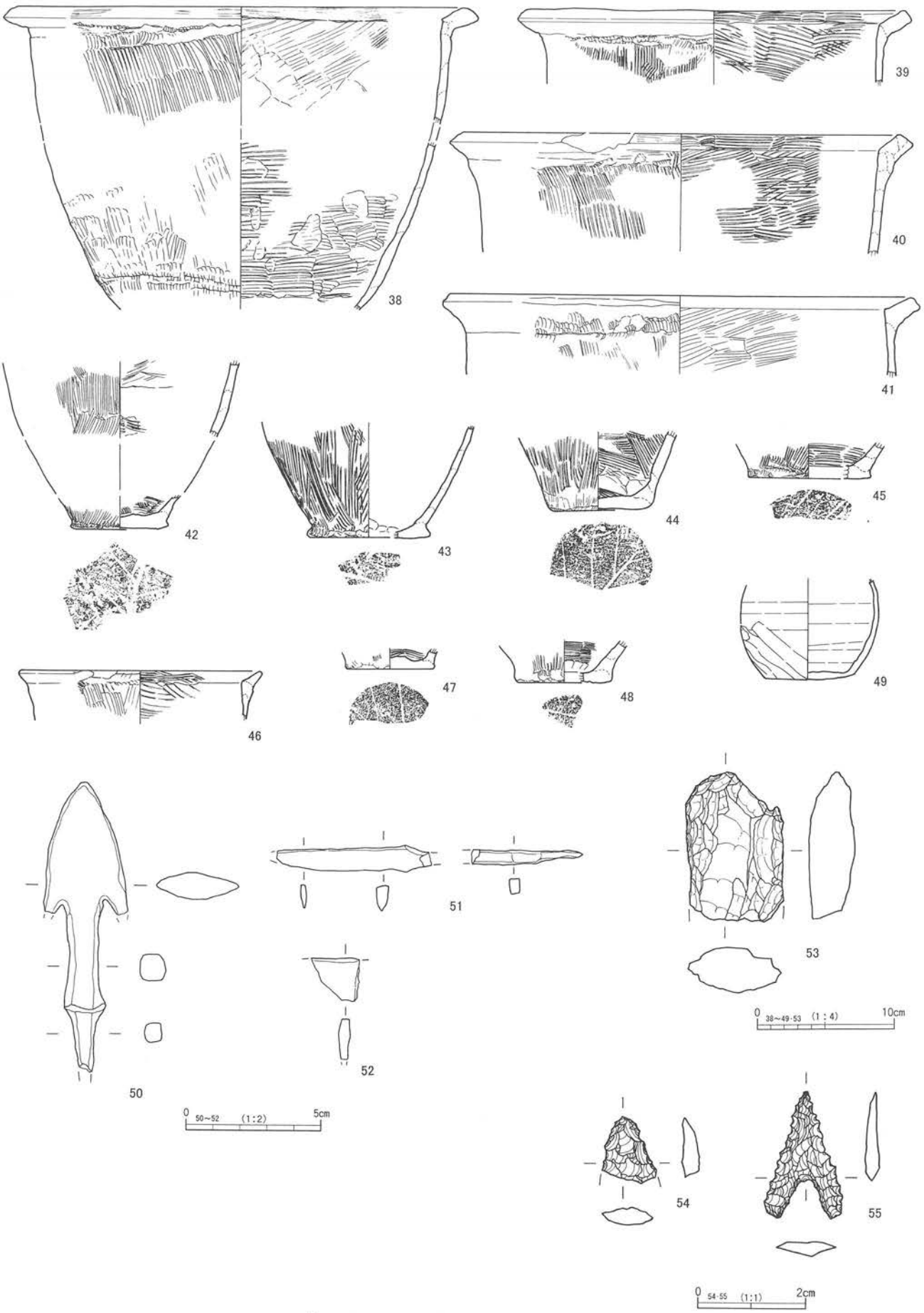
【出土遺物】（第29・30図）



第28図　3号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図



第29図　3号竪穴建物出土遺物（1）



第30図　3号竪穴建物出土遺物（2）

1～9は、土師器坏、10は土師器皿で、3は、器面の内外ともにアバタ状に荒れている。5は、油煙の付着から灯明具として使用されたものと思われる。7には体部外面に墨書がみられるが、墨痕が薄く釈文については判然としないが、「守」と思われる。12～20も墨書土器片であるが、釈文については13が「部」の可能性があるものの判然としない。いずれも体部外面に記されている。

21～24は、黒色土器である。22は内外面とも黒色化しているが、整形方法等から甲斐型土器系の黒色土器であると思われる。24には油煙が付着しており灯明具だろう。25～35は灰釉陶器類である。美濃窯の光ヶ丘1号窯式の前半期の所産と思われるものが多い。29は底部内面に灰釉が刷毛塗りされた状況が看取できるとともに、転用硯として使用された痕跡も認められる。墨痕が所々にみられ、器面もよく磨れている。36と37は須恵器壺および甕の胴部破片で、37の内面もよく磨れており、転用硯の可能性が強い。38～49は土師器甕類であり、49はロクロ整形の小型甕で胴部下半が斜めヘラケズリされている。

50～52は鉄製品類であり、50は長三角形式の鏃、51は刀子、52も刀子状の製品である。

【時　期】平安第Ⅰ段階。

4号竪穴建物（第31・32図）

【位　置】A19・20B17・18グリッドに位置する。

【重　複】なし。

【形　状】方形。

【規模（長軸m×短軸m）】5.00m（東西）×4.75m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.49mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】15.87㎡。

【長軸方位】N－83°－E。

【埋没状況】

覆土上層は、耕作土に近い黒褐色土が堆積し、中層から下層にかけては炭化物および炭化物粒を含む黒褐色土がやや厚く堆積している。各壁際には炭化物を多く含み焼土も混入する暗褐色土の堆積がみられる。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

径40cm前後を測るピットが3基検出されているが、柱穴になるかどうかは不明。竪穴壁下には周溝がほぼ巡り、その内部には小ピットもみられる。

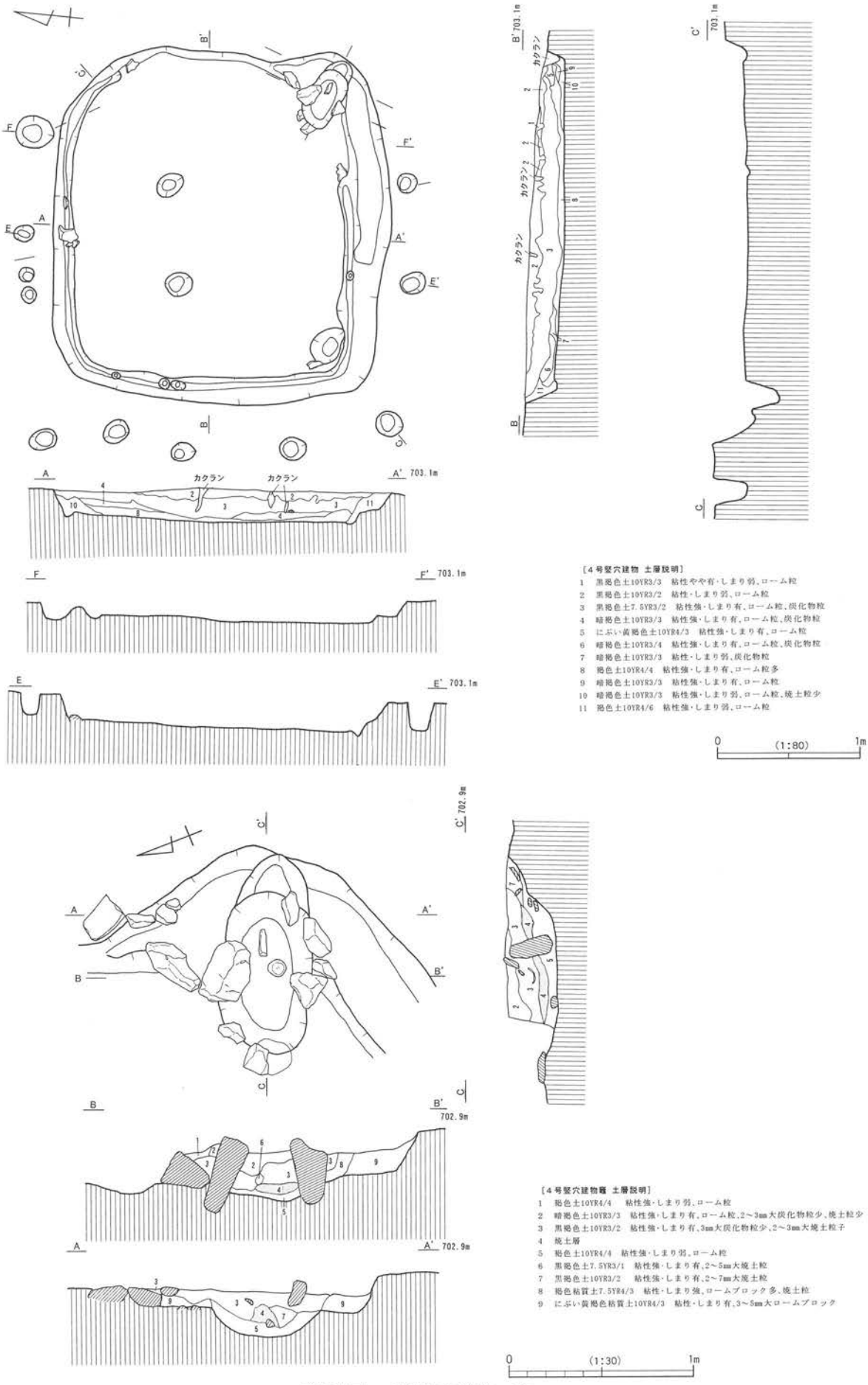
【竈】

竪穴南東コーナー部に構築。両袖石の一部と支脚石が残存する。竈左側には縦長の扁平礫を横に置き土留めを施し、棚状施設を設けていたと思われる。燃焼部には焼土層が顕著に残存するが、燃焼部のほぼ中央の焼土層直上に小型皿（第33図－9）が正位に置かれた状態で出土している。

【その他施設】

竪穴壁外柱穴、棚状施設が検出されている。竪穴壁外柱穴と思われるピットは11基確認されているが、東壁側は調査区域外にかけて撹乱が及んでおり、その存在の有無は不明。径25～55cm、深さ約30～40cmを測り、竪穴壁面の外側約10～85cmを測る位置で検出されている。

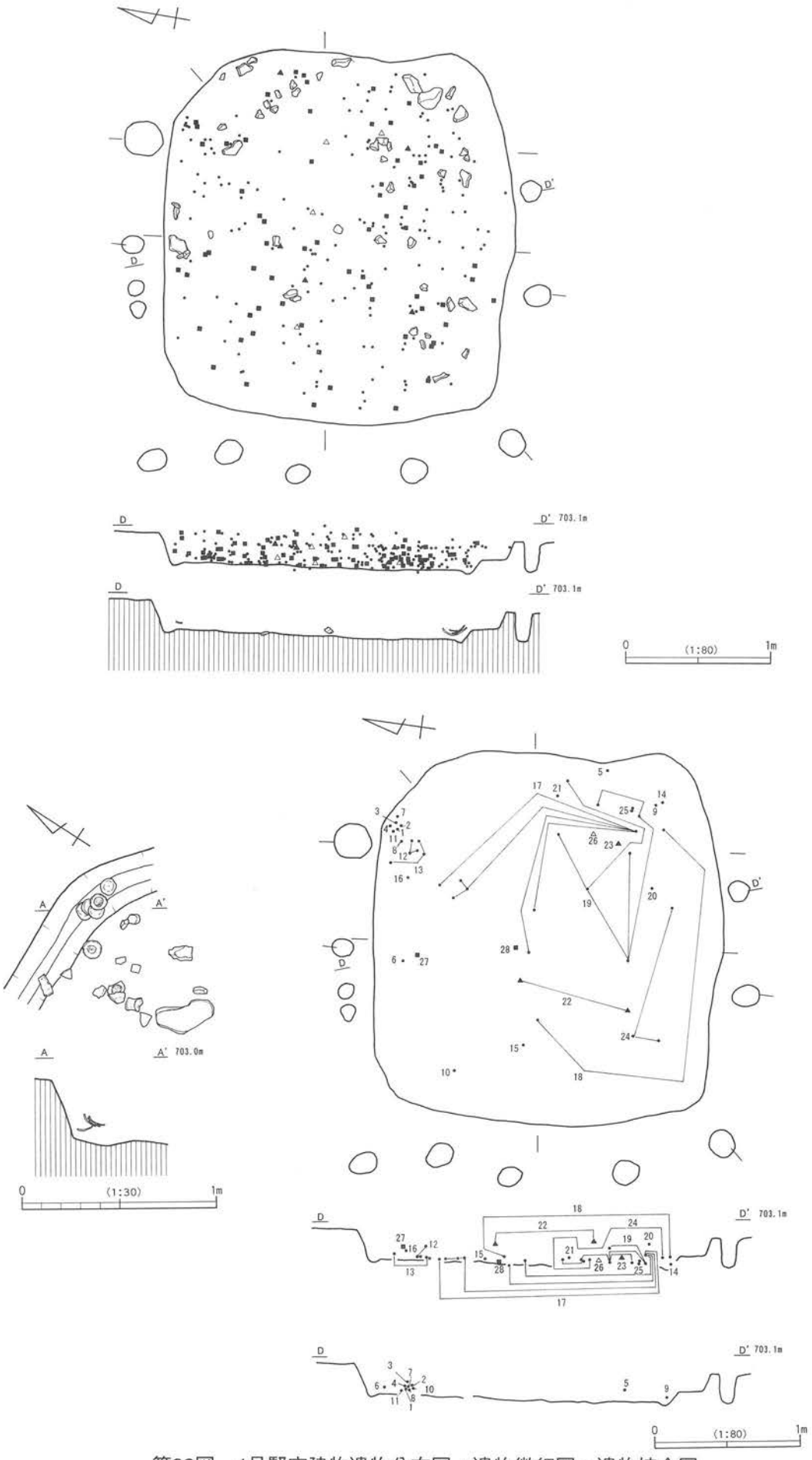
棚状施設は竈から南壁沿いに地山を掘り残して構築され、竪穴壁ラインからやや張り出している。幅2.4m、奥行き30cm前後を測り、床面との段差は約10cmを測る。



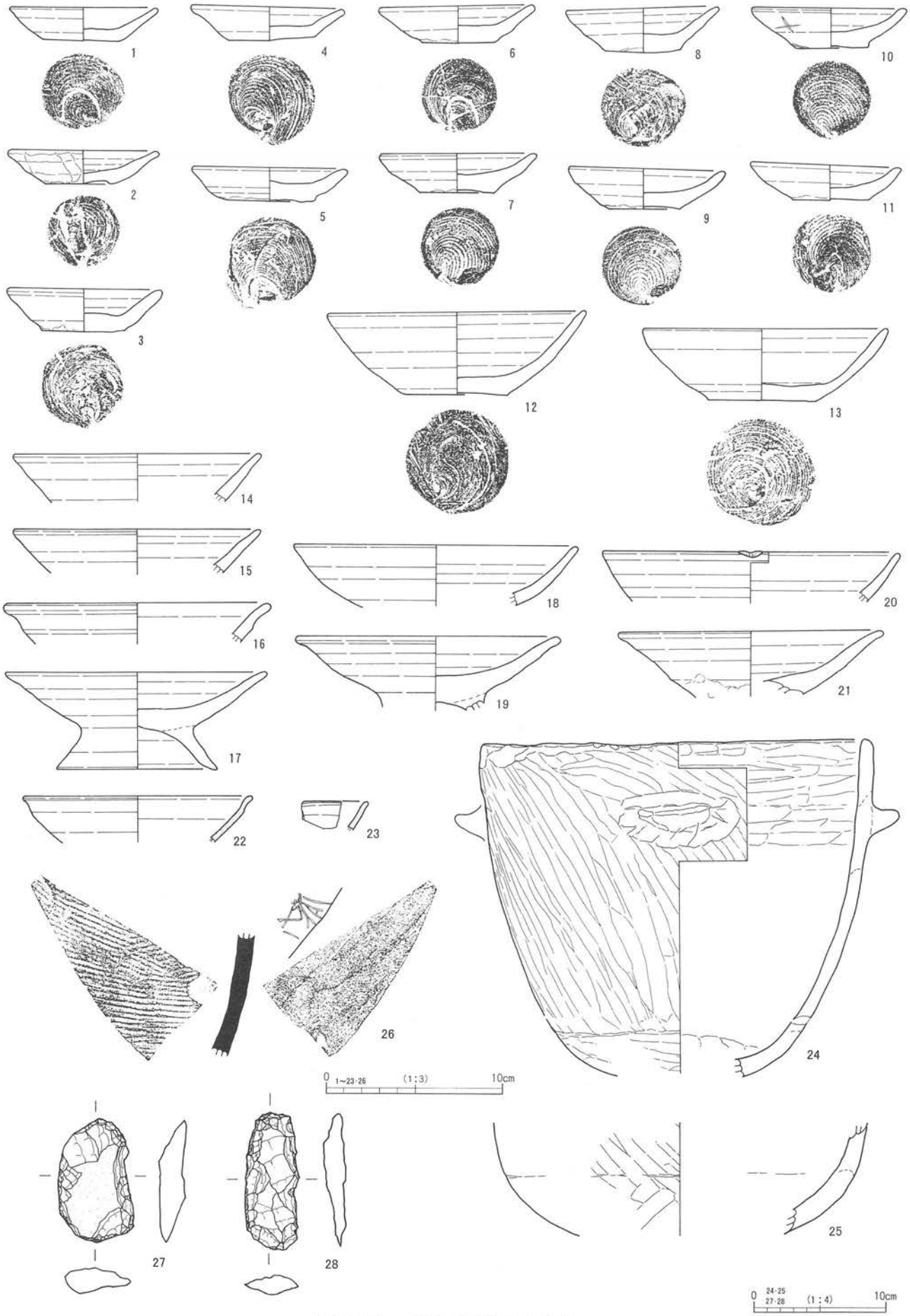
［4号竪穴建物 土層説明］
1 黒褐色土10YR3/3 粘性やや有・しまり弱、ローム粒
2 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまり弱、ローム粒
3 黒褐色土7.5YR3/2 粘性強・しまり有、ローム粒、炭化物粒
4 暗褐色土10YR3/3 粘性強・しまり有、ローム粒、炭化物粒
5 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性強・しまり有、ローム粒
6 暗褐色土10YR3/4 粘性強・しまり有、ローム粒、炭化物粒
7 暗褐色土10YR3/3 粘性・しまり弱、炭化物粒
8 褐色土10YR4/4 粘性強・しまり有、ローム粒多
9 暗褐色土10YR3/3 粘性強・しまり有、ローム粒
10 暗褐色土10YR3/3 粘性強・しまり弱、ローム粒、焼土粒少
11 褐色土10YR4/6 粘性強・しまり弱、ローム粒

［4号竪穴建物竈 土層説明］
1 褐色土10YR4/4 粘性強・しまり弱、ローム粒
2 暗褐色土10YR3/3 粘性強・しまり有、ローム粒、2～3mm大炭化物粒少、焼土粒少
3 黒褐色土10YR3/2 粘性強・しまり有、3mm大炭化物粒少、2～3mm大焼土粒子
4 焼土層
5 褐色土10YR4/4 粘性強・しまり弱、ローム粒
6 黒褐色土7.5YR3/1 粘性強・しまり有、2～5mm大焼土粒
7 黒褐色土10YR3/2 粘性強・しまり有、2～7mm大炭土粒
8 褐色粘質土7.5YR4/3 粘性・しまり強、ロームブロック多、焼土粒
9 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有、3～5mm大ロームブロック

第31図 4号竪穴建物・竈



第32図　4号竪穴建物遺物分布図・遺物微細図・遺物接合図



第33図　4号竪穴建物出土遺物

【遺物出土状況】

覆土内では、床面上15～20cmのレベルに集中する傾向が認められる。床面直上では、北東コーナー近くの北壁下に土師質の皿が重なった状態でまとまって出土している。また、棚状施設の壁下からは羽釜の一括資料が出土している。

【出土遺物】（第33図）

1～11は、口径8.5cm前後、底径4.5cm前後、器高2.0cm前後を測る土師質土器の小型皿で、その多くは内外面が黒変している。また10には「十」または「×」のヘラ書がみられる。12・13は坏、17・19・21は脚高高台皿である。22・23は灰釉陶器片、24・25は丸底を呈し、抓み状の把手を付した羽釜である。26は須恵器甕の胴部破片であるが、内面には何らかの文様を描いたヘラ書がみられる。

【時　期】平安第Ⅱ段階。

5号竪穴建物（第34・35図）

【位　置】A18・19B15グリッドに位置する。

【重　複】なし。

【形　状】方形。

【規模（長軸m×短軸m）】3.75m（東西）×3.42m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.41mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】7.64㎡。

【長軸方位】N－79°－E。

【埋没状況】

覆土上層は、耕作土に近い黒褐色土が厚く堆積し、中層から下層にかけてはローム小ブロックおよびローム粒子、炭化物粒を含む暗褐色土および黄褐色土が緩やかなレンズ状堆積を示している。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

壁下には周溝が巡り、小ピットもみられる。主柱穴と思われるピットはみられない。竈の右脇および南西コーナー近くに径45～65cm、深さ約10cmを測るピットがみられる。竈脇のピットには礫が集中して出土している。

【竈】

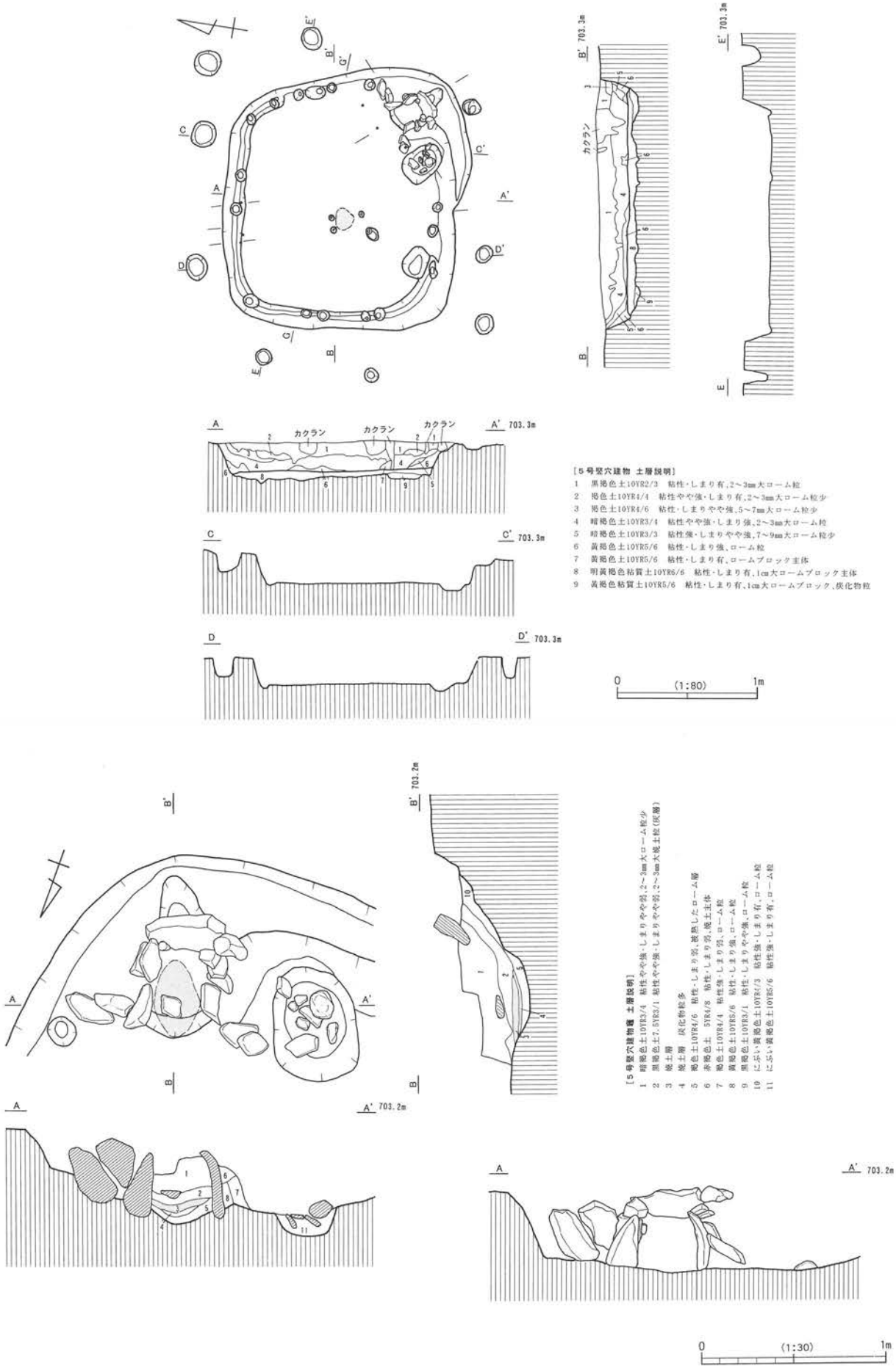
南東コーナー部に構築。両袖石と天井石の一部が残存。左袖側は礫2個を配して、棚状施設の土留めとしている。焼土は燃焼部内に残存しているが、支脚石は残存していない。

【その他施設】

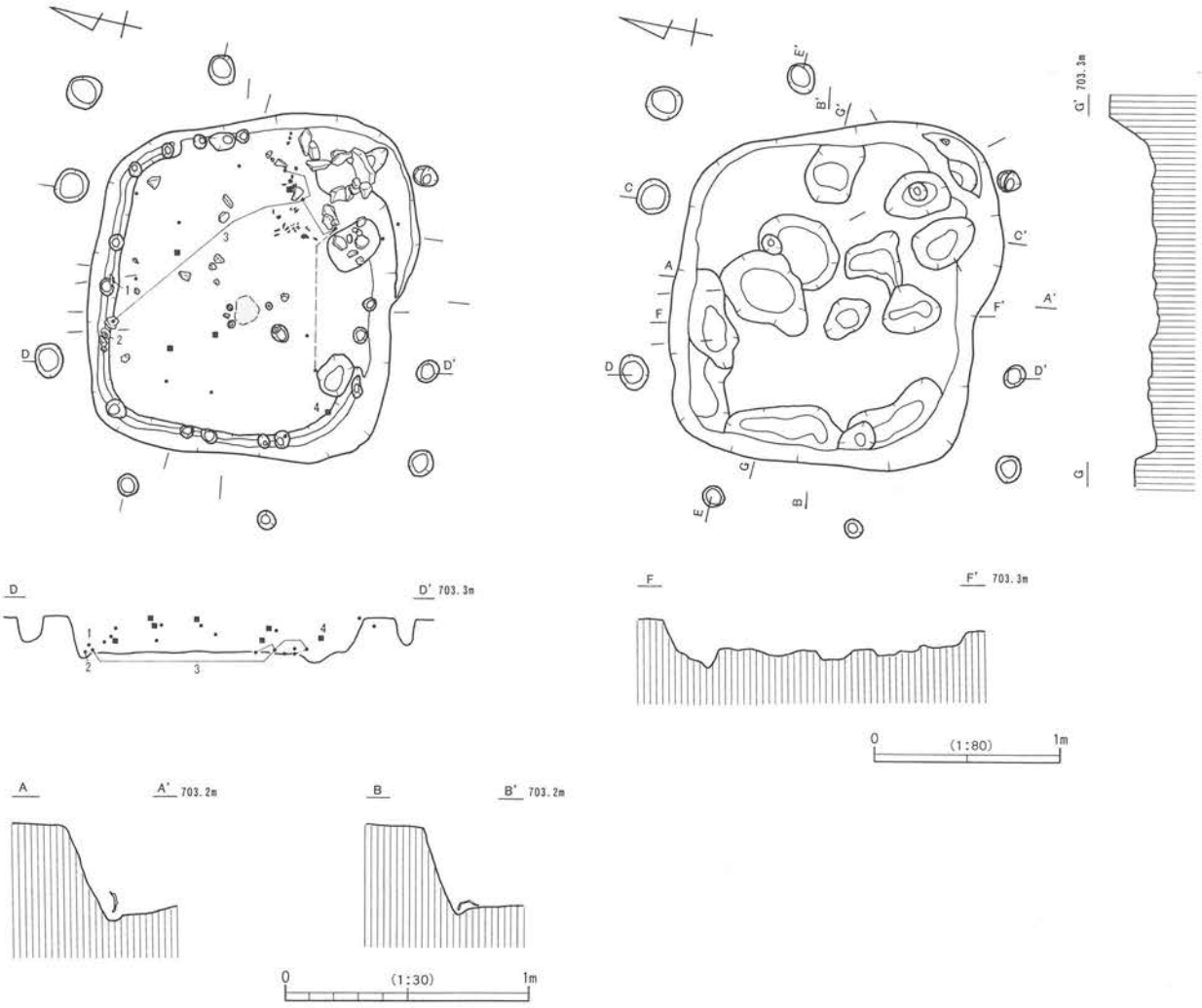
竪穴中央部で床面が30cm×25cmの楕円形状の範囲で熱を受けて赤化、硬化している。その周りには数cm程度の径を測る小ピットが確認されている。また棚状施設は竈の両袖脇に地山を掘り残して構築している。竈右袖側からのびる棚状の段差は、長さ約1.4m、奥行きが最大35cmを測り、床面との段差は約25cmを測る。

【遺物出土状況】

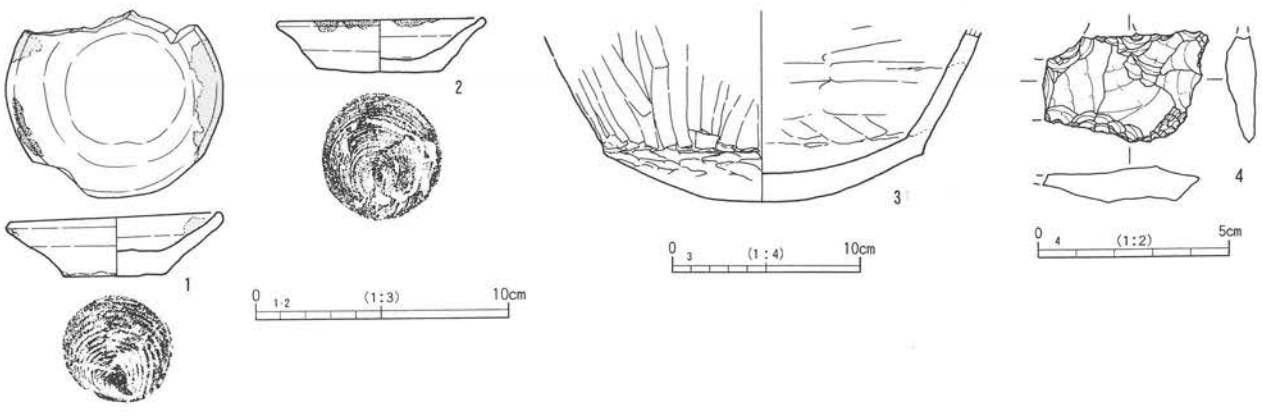
覆土内からの遺物の出土量は少なく、全体としても少ない。竈前面部の床面直上から羽釜の破片数点と、枝状の炭化材が出土している。また北壁下では、土師質土器皿が2点出土している（第36図－1・2）。それらはそれぞれ竪穴壁上から転落したような出土状態を示す。



第34図　5号竪穴建物・竈



第35図　5号竪穴建物遺物接合図・掘り形



第36図　5号竪穴建物出土遺物

【出土遺物】（第36図）

1・2は、口径8.1～8.2cm前後、底径4.0～4.8cm前後、器高2.1cm前後を測る小型皿で、いずれも油煙が付着しており、灯明具として使用されている。3は丸底を呈する羽釜の底部破片である。底部接合箇所の径は約16.8cmを測る。

【時　期】平安第Ⅱ段階。

6号竪穴建物（第37図）

【位　置】A23・24B11・12グリッドに位置する。

【重　複】2号・36号竪穴建物と重複する。両遺構に切られる。

【形　状】他の竪穴に切られ、遺存状態も悪いため平面プランは明瞭ではないが、隅丸長方形か。

【規模（長軸m×短軸m）】3.25m（現存値／南北）×3.22m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大で0.15mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】7.21㎡（現存）。

【長軸方位】N－7°－W。

【埋没状況】

覆土上層は、黄褐色土が薄く堆積する程度。撹乱が著しい。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

床面は凹凸が激しく、径25cm前後、深さ10cm程度を測るピットが4基と、不整楕円形を呈する長軸95cm、短軸77cm、深さ7cmを測る窪み状のピットが検出されている。明確な柱穴は不明。

【炉】

竪穴のほぼ中央部に長軸79cm、短軸51cm、深さ6cmを測る楕円形の掘り形があり、焼土を伴うことからこの掘り形が炉だと思われる。

【その他施設】特になし。

【遺物出土状況】

遺物は、土器細片が中心で覆土内からの出土が多いが、北壁下の窪み状ピットからは、深鉢形土器の一括資料が出土している。

【出土遺物】（第38図）

1は、縄文を地文とする深鉢形土器で、口唇部にも縄文が施されている。また口縁部は4単位の波状口縁となっている。2～15も地文が縄文の深鉢形土器の破片資料である。

【時　期】縄文時代前期後葉（諸磯b式期）。

7号竪穴建物（第39・40図）

【位　置】A20B11・12グリッドに位置する。

【重　複】3号ピットと重複。同ピットに切られる。

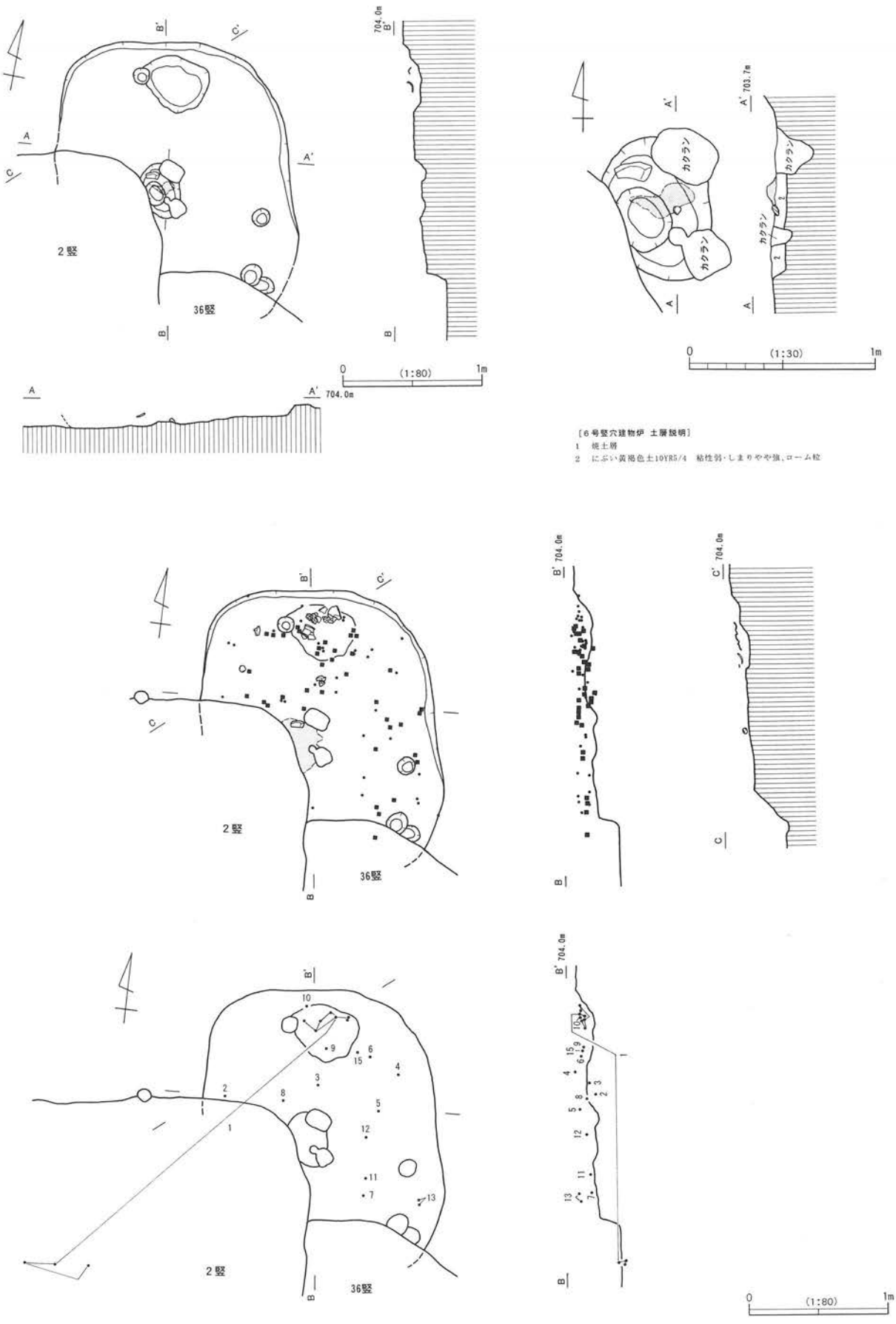
【形　状】やや歪んだ方形。

【規　模（長軸m×短軸m）】4.67m（南北）×4.3m。

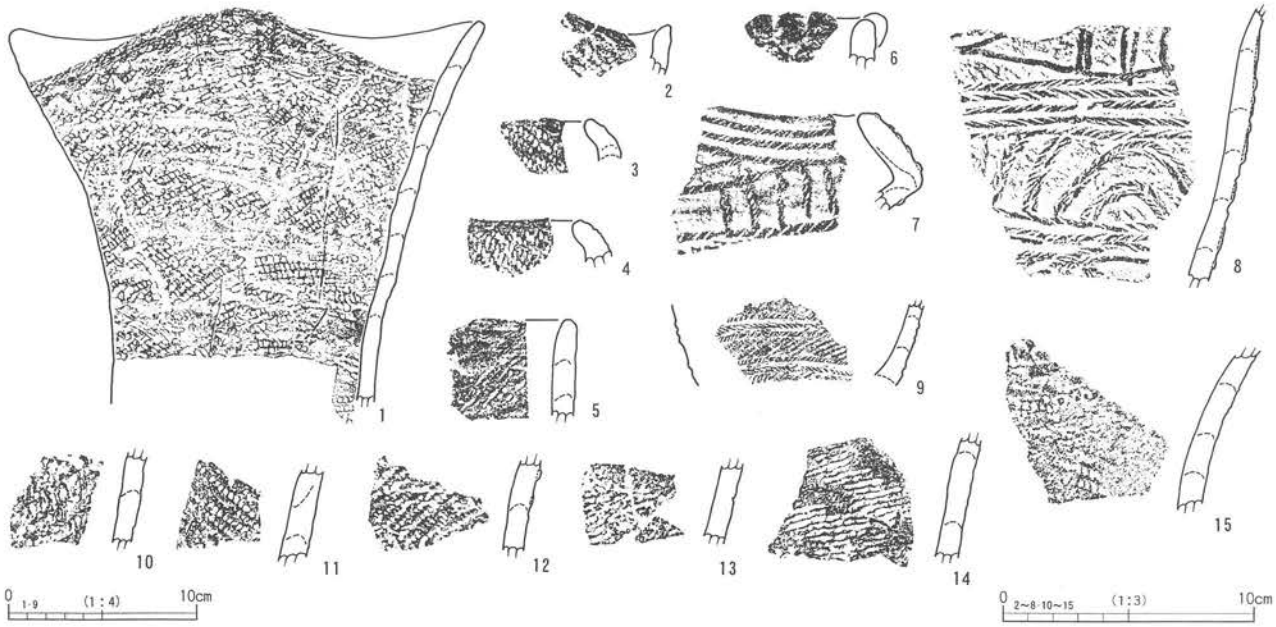
【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大で約0.50mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】9.68㎡。

【長軸方位】N－11°－W。



第37図　6号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図



第38図　6号竪穴建物出土遺物

【埋没状況】

本遺跡において平安期の竪穴の覆土上層にみられる黒褐色土が本竪穴ではみられない。遺構確認面から約30cm下がった覆土中にて、一部であるが硬化面が確認されている。埋没過程にある窪地を何らかの目的で利用していた可能性が考えられる。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

周溝や主柱穴と思われるピットはみられない。竈左脇に径100cm×70cm、深さ20cm前後を測る長楕円形のピットや、直径約65cm、深さ約26cmを測る円形のピットがみられる。間仕切りに伴うと思われる溝が、西壁際から45～85cm離れた位置で南北方向に断続的にのびており、その一部はテラス状施設にもかかっている。

【竈】

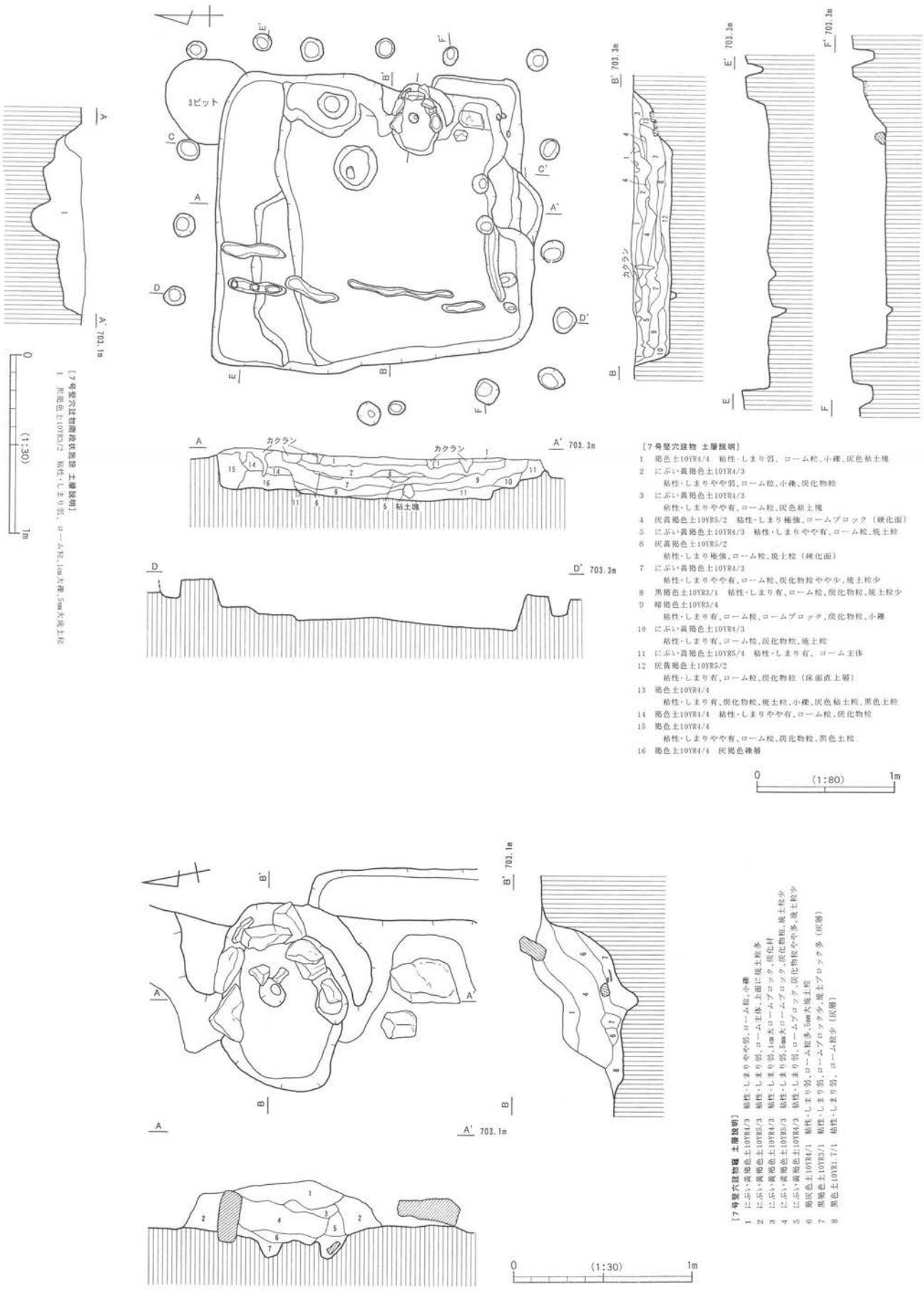
東壁中央、やや南寄りに構築。両袖石の一部が残存燃焼部底面には、焼土混じりの灰層が顕著に残存している。袖石と思われる扁平な礫が竈右脇の棚状施設の下から出土している。

【その他施設】

竪穴壁外柱穴、棚状施設、階段状施設、テラス状施設が検出されている。竪穴壁外柱穴と思われるピットは16基みられ、竪穴壁面の外側の約10～65cmを測る位置で検出されている。径25～40cm、深さは30cm前後を測る。柱間の間隔には規則性は特に見いだせない。

棚状施設は、竈に向かって右側に、素掘りで竪穴壁ラインより若干張り出して、しかも南壁の一部にかかるかたちでL字状に構築されており、奥行き約22cm、幅118cm、遺構確認面からの深さは約15cm、床面からの高さは約35cmを測る。

階段状施設は、南壁のほぼ中央部に地山を掘り残し二段の階段が構築されている。幅約80～100cm、段差の比高差は10～15cmを測る。階段の基部には2基の小ピットがみられる。テラス状施設は北壁側にあり、南北幅80～130cm、床面との段差は10～20cmを測り、同段差の西側部分の135cm×55cmの範囲が、10cmほどの比高差をもって低くなっている。

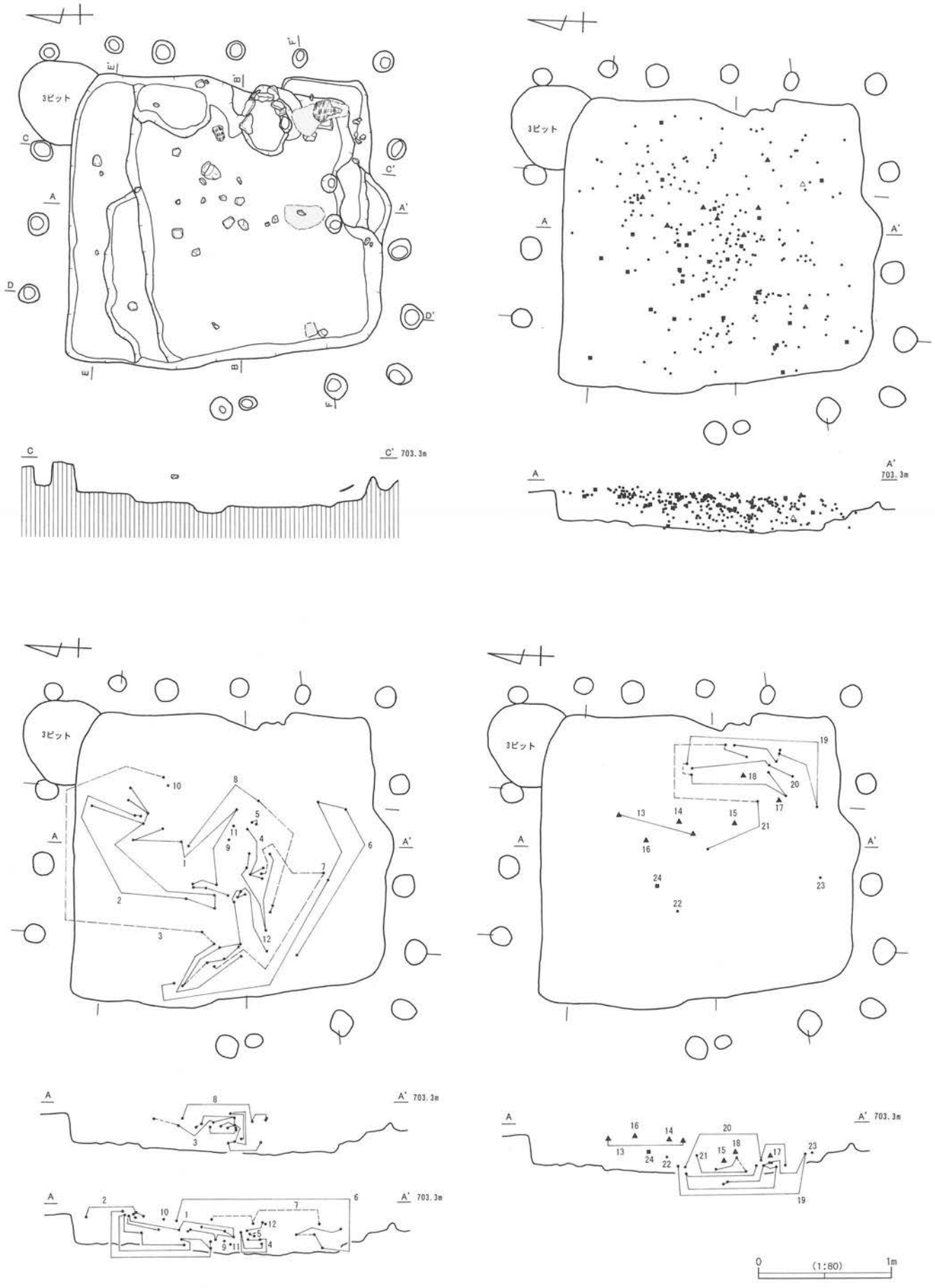


[7号竪穴建物覆土堆積土層説明]
1 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまり弱、ローム粒、1cm大礫、5mm大焼土粒

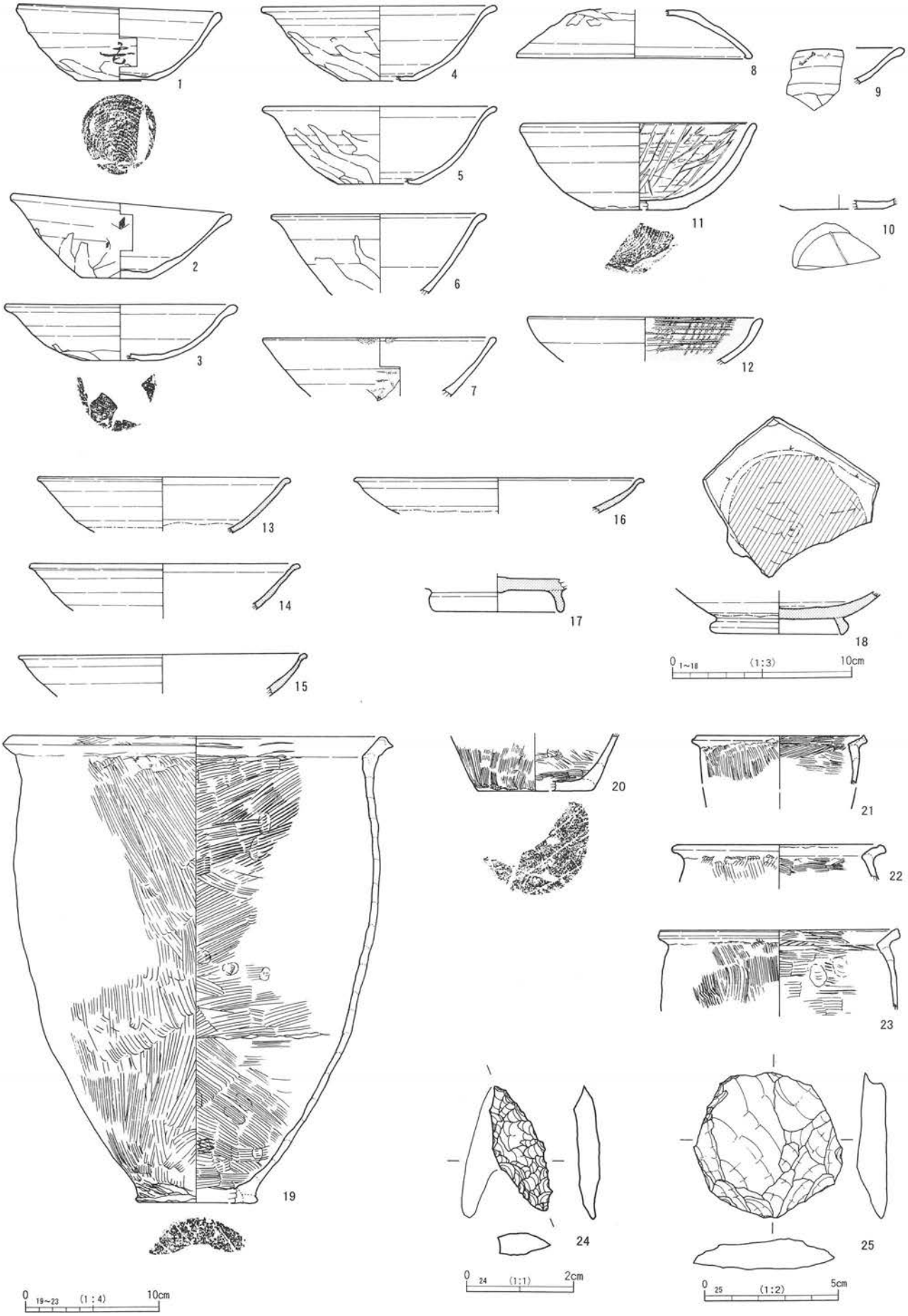
[7号竪穴建物 土層説明]
1 褐色土10YR4/4 粘性・しまり弱、ローム粒,小礫,灰色粘土塊
2 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまりやや弱,ローム粒,小礫,炭化物粒
3 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまりやや有,ローム粒,灰色粘土塊
4 灰黄褐色土10YR5/2 粘性・しまり極強,ロームブロック（硬化面）
5 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや有,ローム粒,焼土粒
6 灰黄褐色土10YR5/2
粘性・しまり極強,ローム粒,焼土粒（硬化面）
7 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまりやや有,ローム粒,炭化物粒やや少,焼土粒少
8 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまり有,ローム粒,炭化物粒,焼土粒少
9 暗褐色土10YR3/4
粘性・しまり有,ローム粒,ロームブロック,炭化物粒,小礫
10 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまり有,ローム粒,炭化物粒,焼土粒
11 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性・しまり有、ローム主体
12 灰黄褐色土10YR5/2
粘性・しまり有,ローム粒,炭化物粒（床面直上層）
13 褐色土10YR4/4
粘性・しまり有,炭化物粒,焼土粒,小礫,灰色粘土粒,黒色土粒
14 褐色土10YR4/4 粘性・しまりやや有,ローム粒,炭化物粒
15 褐色土10YR4/4
粘性・しまりやや有,ローム粒,炭化物粒,黒色土粒
16 褐色土10YR4/4 炭褐色礫層

[7号竪穴建物覆 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや弱,ローム粒,小礫
2 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまり弱,ローム主体,上面に焼土粒多
3 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまり弱,1cm大ロームブロック,炭化材
4 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまり弱,5mm大ロームブロック,炭化物粒,焼土粒少
5 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまり弱,ロームブロック,炭化物粒やや多,焼土粒少
6 暗灰色土10YR4/1 粘性・しまり弱,ローム粒多,5mm大焼土粒
7 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまり弱,ロームブロック少,焼土ブロック多（炭層）
8 黒色土10YR1.7/1 粘性・しまり弱,ローム粒少（炭層）

第39図　7号竪穴建物・竈・階段状施設



第40図　7号竪穴建物遺物出土状況・遺物分布図・遺物接合図



第41図　7号竪穴建物出土遺物

【遺物出土状況】

遺物は、竪穴覆土や竈内等からまんべんなく出土している。土器類以外では、棚状施設の上部を覆うような状態で、カヤ状の炭化材が出土し、竈左前方部から建築部材一部だと思われる薄板状の炭化材も出土している。

【出土遺物】（第41図）

1～7は甲斐型土器の坏で、1・2・7の体部外面には墨書がみられる。墨書の釈文は1のみ「吉（吉）」と判読できる。また7には墨書の他に、わずかながら油煙も付着している。1・2ともに底部は回転糸切り未調整で、器形もやや歪み、作り全体もやや粗雑である。8は口唇部のかえしが強いことから坏蓋と判断した。11・12は黒色土器坏。9は体部外面の口唇部近くに墨痕がみられる。10は底部外面に刻書がみられる。13～18は灰釉陶器類で、破片資料が中心である。18は底部内面がよく磨れており、転用硯の可能性が強い。19～23は甲斐型土器の甕で、19は推定口径29cm、推定底径9.0cm、器高約34.6cmを測る。

【時　期】平安第Ⅰ段階。

8号竪穴建物（第42図）

【位　置】A19・20B14・15グリッドに位置する。

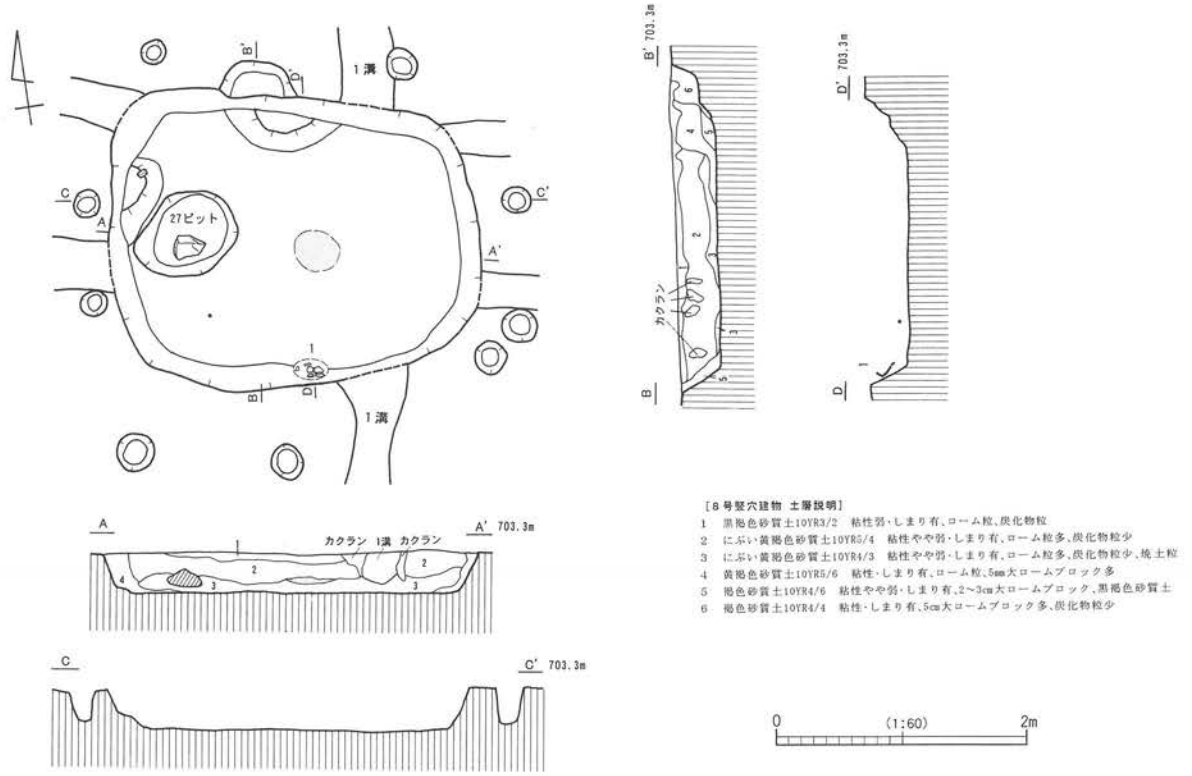
【重　複】27号ピット、1号溝と重複。1号溝は本竪穴覆土上部を切り込んで構築されているが、前者ピットとの新旧関係は不明。

【形　状】隅丸長方形。

【規模（長軸m×短軸m）】2.88m（東西）×2.27m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大で0.32mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】4.26㎡。

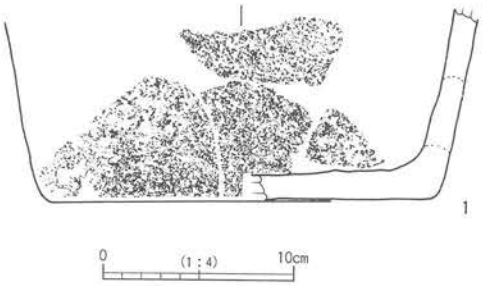


第42図　8号竪穴建物

【長軸方位】N－98°－E。

【埋没状況】

覆土上層には、薄く黒褐色土が堆積しており、その下部は基本的には２層で、にぶい黄褐色砂質土が中心となる。また遺構確認面から約18cm、床面上約10cmのレベルで、竪穴のほぼ中央部において径約35cmの範囲をもつ焼土が確認されている。その性格は不明。



第43図　8号竪穴建物出土遺物

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

柱穴および周溝等はみられない。床面は全体に軟弱である。

【炉・竈】

確認されず不明。

【その他施設】

北壁中央壁下には半月状のステップがみられ、さらにその上部の壁を半月状に掘り、階段状施設を構築している。

【遺物出土状況】

遺構確認レベルから縄文土器片が出土しているのみ。

【出土遺物】（第43図）

１は、縄文時代中期頃の深鉢形土器で、無文の底部破片である。

【時　期】不明。

９号竪穴建物（第44・45図）

【位　置】A19・20B16・17グリッドに位置する。

【重　複】10号竪穴建物、20号竪穴建物と重複する。両竪穴建物より新しい。

【形　状】長方形。

【規模（長軸m×短軸m）】4.25m（推定／南北）×3.85m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大で0.10mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】13.77㎡。

【長軸方位】N－１°－W。

【埋没状況】

竪穴の掘り込みがきわめて浅く、黒褐色土の堆積１層のみである。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

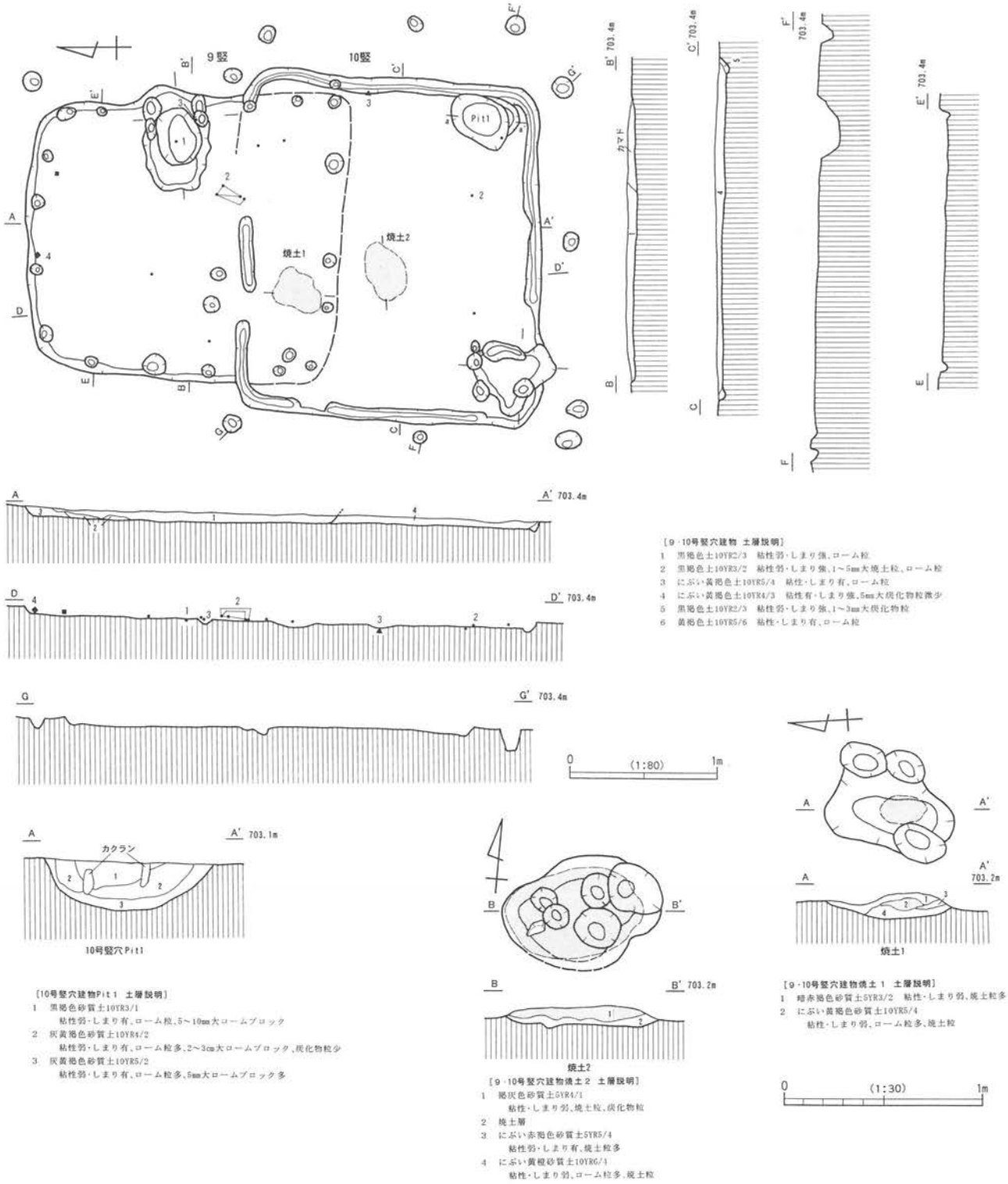
主柱穴と思われるピットはなく、床面も概して軟弱である。周溝も壁下には巡っていないが、規則的に径20cm前後、深さ10cmの小ピットが壁下にみられる。

【竈】

東壁ほぼ中央部に構築されており、掘り形のみを検出している。焼土は良好に残存しており、竈の構築材と思われる礫がこの焼土層の上面に土師器皿とともに置かれたような状態で出土している。

【その他施設】

本竪穴に伴うか、10号竪穴に伴うかどうかは不明であるが、本竪穴南西部において焼土を伴う不



第44図　9･10号竪穴建物・焼土1・2・Pit1土層図

整形な浅い掘り込みが確認されている。

【遺物出土状況】

竈内の遺物を除き、床面直上からの出土はみられず、覆土中からの出土が中心である。

【出土遺物】（第46図）

１・２は、口径8.2～9.2cm、底径4.7～4.8cm、器高1.7～2.7cmを測る小型皿で、１には油煙がわずかであるが付着しており、灯明具として使用されたものだろう。３はおそらく脚高高台をもつ盤状

の坏と思われる。４は刀子の身部である。

【時　期】平安第Ⅱ段階。

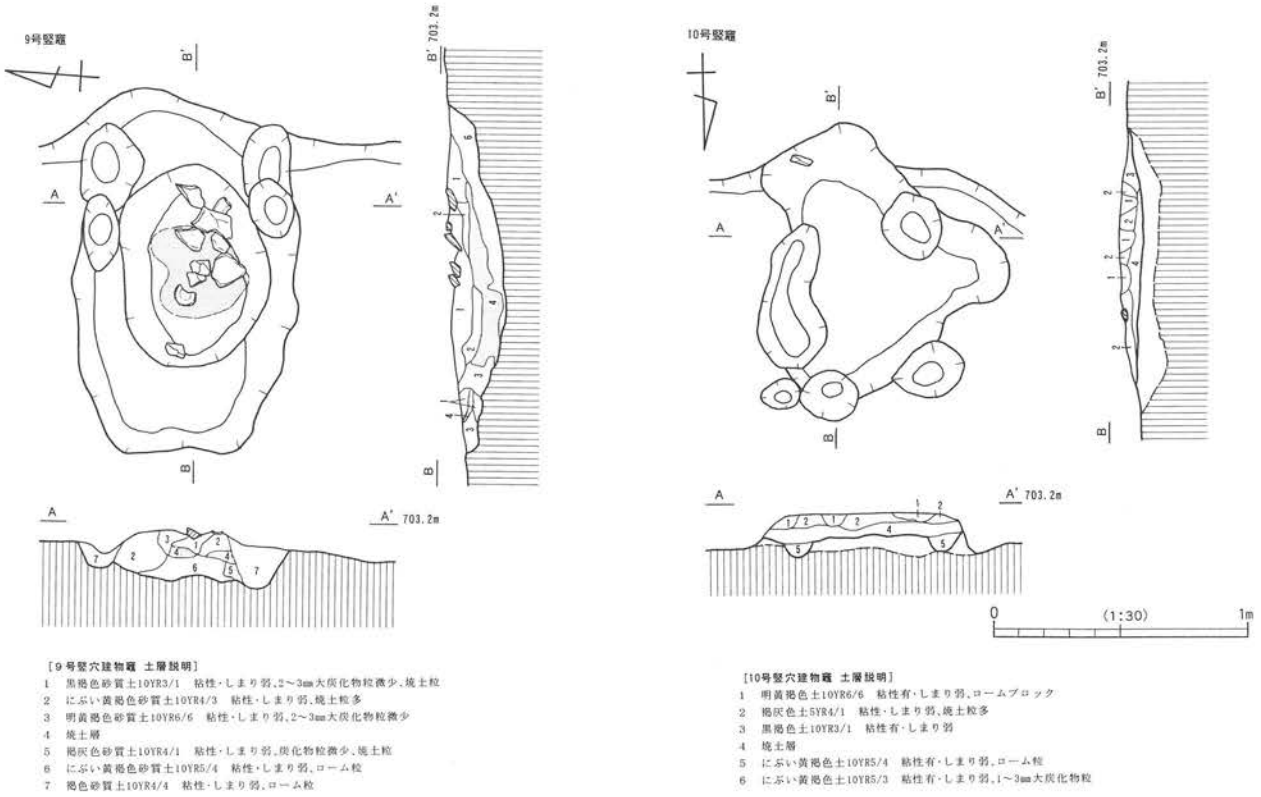
10号竪穴建物（第44・45図）

【位　置】A19B16・17グリッドに位置する。

【重　複】９号竪穴建物と重複。同竪穴建物より古い。

【形　状】長方形。

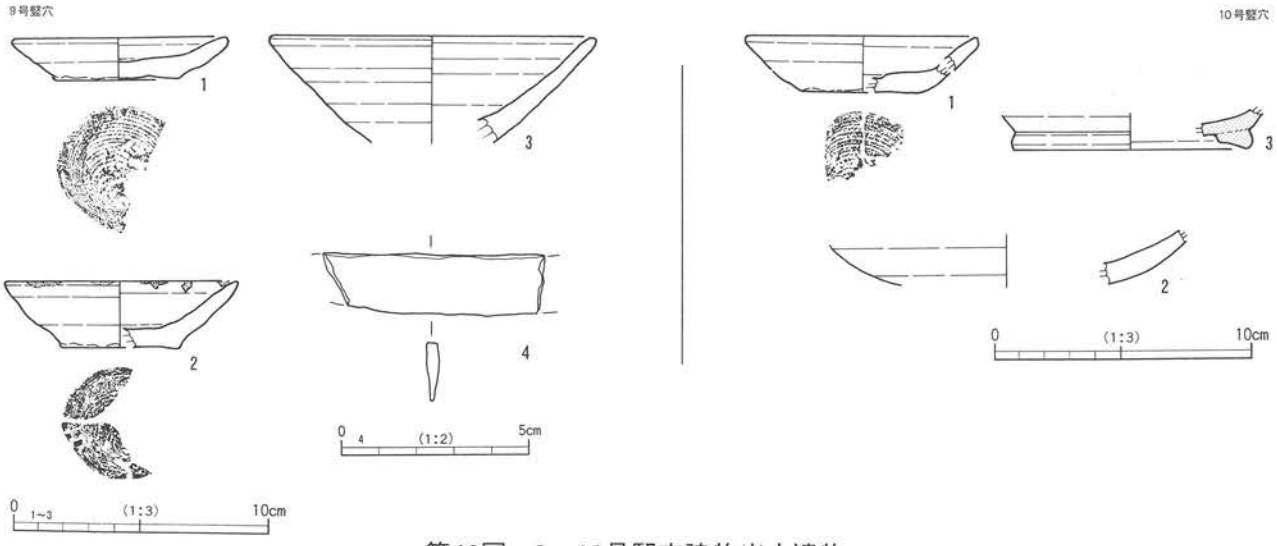
【規模（長軸m×短軸m）】4.62m（東西）×4.10m。



［９号竪穴建物竈 土層説明］
1　黒褐色砂質土10YR3/1　粘性・しまり弱、2～3mm大炭化物粒微少、焼土粒
2　にぶい黄褐色砂質土10YR4/3　粘性・しまり弱、焼土粒多
3　明黄褐色砂質土10YR6/6　粘性・しまり弱、2～3mm大炭化物粒微少
4　焼土層
5　褐灰色砂質土10YR4/1　粘性・しまり弱、炭化物粒微少、焼土粒
6　にぶい黄褐色砂質土10YR5/4　粘性・しまり弱、ローム粒
7　褐色砂質土10YR4/4　粘性・しまり弱、ローム粒

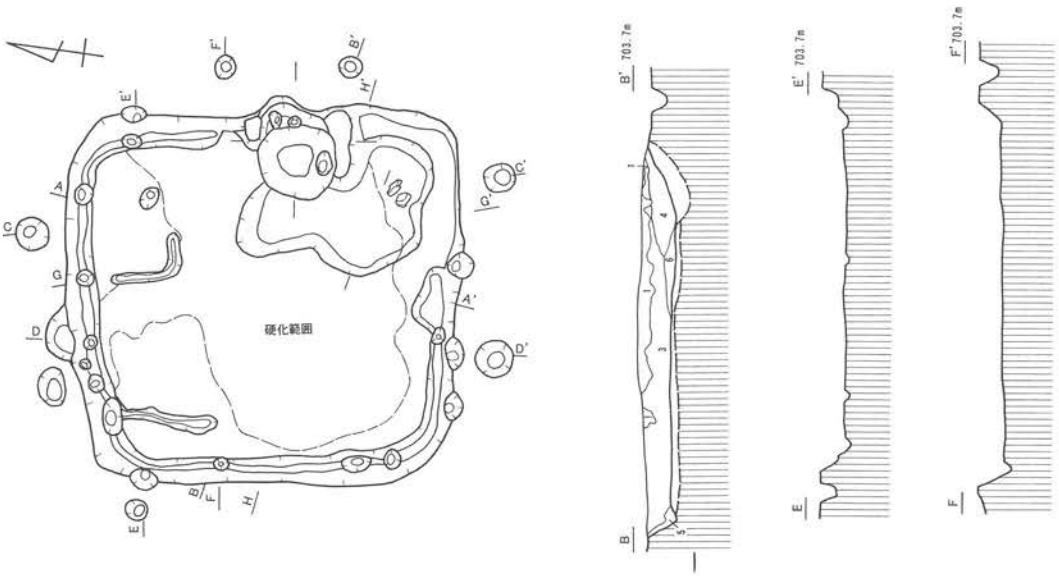
［10号竪穴建物竈 土層説明］
1　明黄褐色土10YR6/6　粘性有・しまり弱、ロームブロック
2　褐灰色土5YR4/1　粘性・しまり弱、焼土粒多
3　黒褐色土10YR3/1　粘性有・しまり弱
4　焼土層
5　にぶい黄褐色土10YR5/4　粘性有・しまり弱、ローム粒
6　にぶい黄褐色土10YR5/3　粘性有・しまり弱、1～3mm大炭化物粒

第45図　9･10号竪建物竈

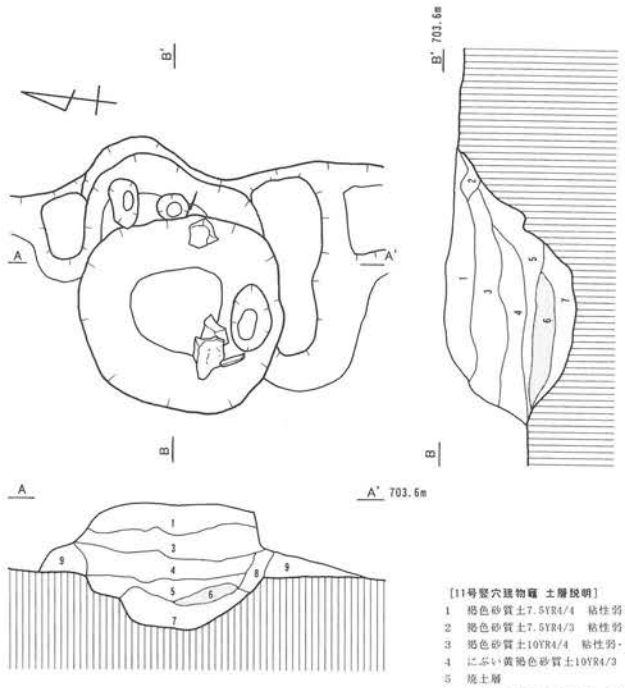


第46図　9・10号竪穴建物出土遺物

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大で0.08mを測る。
【竪穴部床面積（㎡）】15.58㎡。
【長軸方位】N－92°－E。
【埋没状況】
竪穴の掘り込みがきわめて浅く、黒褐色砂質土のみの堆積である。
【内部構造（柱穴・掘り形等）】
主柱穴と思われるピットはなく、床面も概して軟弱である。
【竈】
南壁、南西コーナー部の掘り形が竈だろうか。袖石等はなく、焼土を含むにぶい黄褐色砂質土が覆土となっている。
【その他施設】
南東コーナー部に長軸90㎝、短軸70㎝、深さ25㎝を測るピットが検出されているが、出土遺物もなくその性格は不明。竪穴壁外柱穴と思われるピット９～10基程度検出されている。径は20㎝前後、深さは30㎝前後を測る。また９号竪穴と同じように焼土を伴う不整形な浅い掘り込みが竪穴中央部やや西寄りで確認されている。
【遺物出土状況】
床面直上から出土はみられず、覆土中からの出土が中心である。
【出土遺物】（第46図）
１は、推定口径9.0㎝、底径4.6㎝、推定器高2.3㎝を測る小型皿である。２はおそらく脚高高台をもつ盤状の坏の体部破片である。３は灰釉陶器瓶の底部破片である。
【時　期】平安第Ⅱ段階。
11号竪穴建物（第47・48図）
【位　置】A21・22B15・16グリッドに位置する。
【重　複】なし。
【形　状】方形。
【規　模（長軸m×短軸m）】4.15m（南北）×3.72m。
【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.27mを測る。
【竪穴部床面積（㎡）】10.89㎡。
【長軸方位】N－6°－W。
【埋没状況】
覆土は基本的には２層で、覆土上層には薄く黒褐色土が堆積し、その下部はにぶい黄褐色土が堆積している。
【内部構造（柱穴・掘り形等）】
柱穴とみられるピットはない。壁下には周溝が巡り、その内部には小ピットがみられる。竈前面部の床はまわりの床に比べ一段低くなっている。間仕切りに伴う溝が竪穴北側部分にみられる。竪穴の掘り形は、竈の両脇および前面、西壁下を中心に深く掘り込まれている。
【竈】

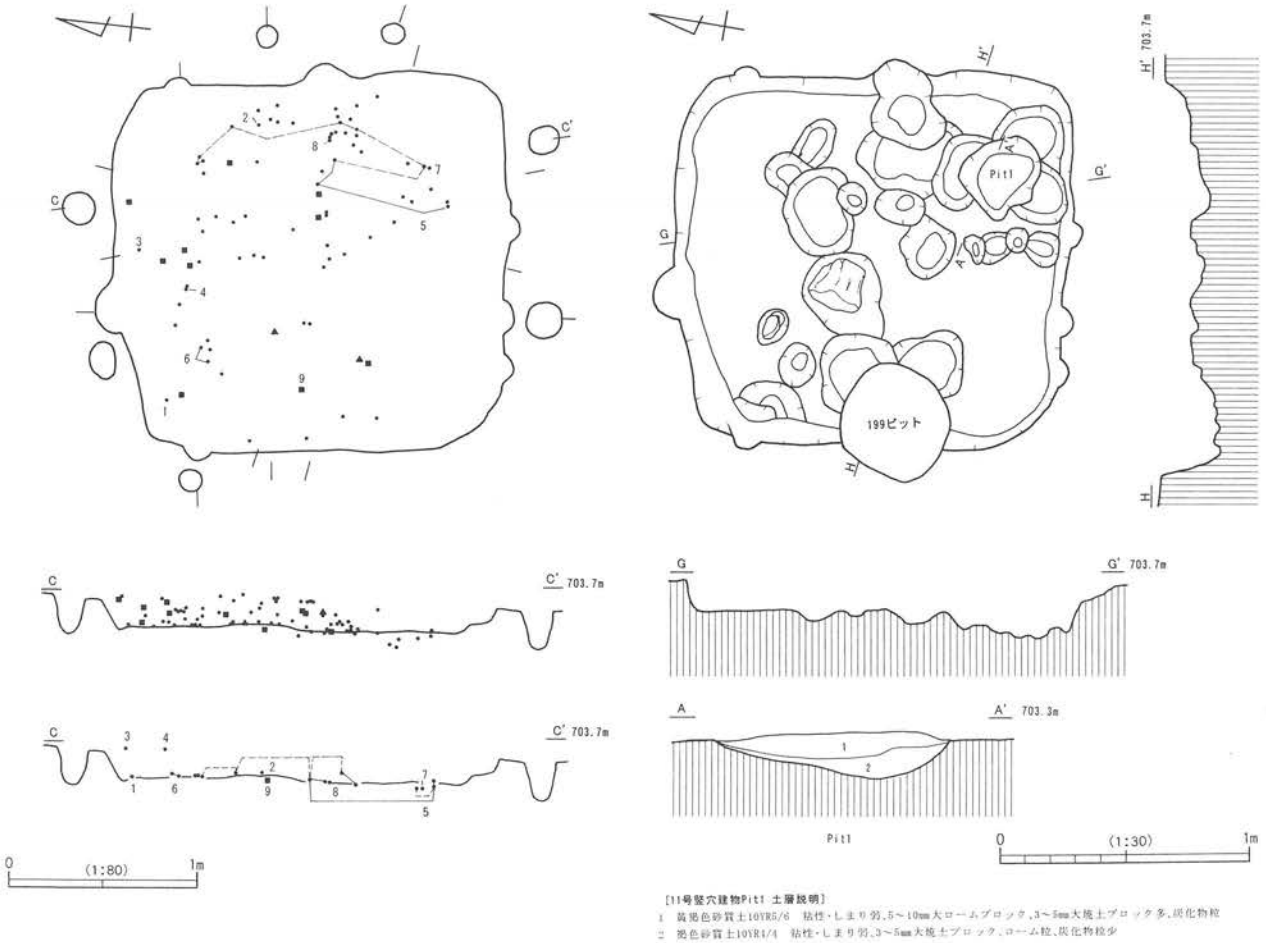


[11号竪穴遺物 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性強・しまり弱、ローム粒
2 黒褐色土10YR3/1 粘性強・しまり弱、ローム粒
3 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性強・しまり弱、ローム粒
4 黄褐色土10YR5/6 粘性強・しまり弱、ローム粒
5 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性強・しまり弱、1mm大炭化物粒微少
6 灰黄褐色土10YR5/2 粘性強・しまりやや強、3～8mm大炭化物粒、焼土粒多
7 灰黄褐色土10YR5/2 粘性強・しまりやや強、ローム粒
8 黄褐色土10YR5/8 粘性強・しまり弱、ローム粒

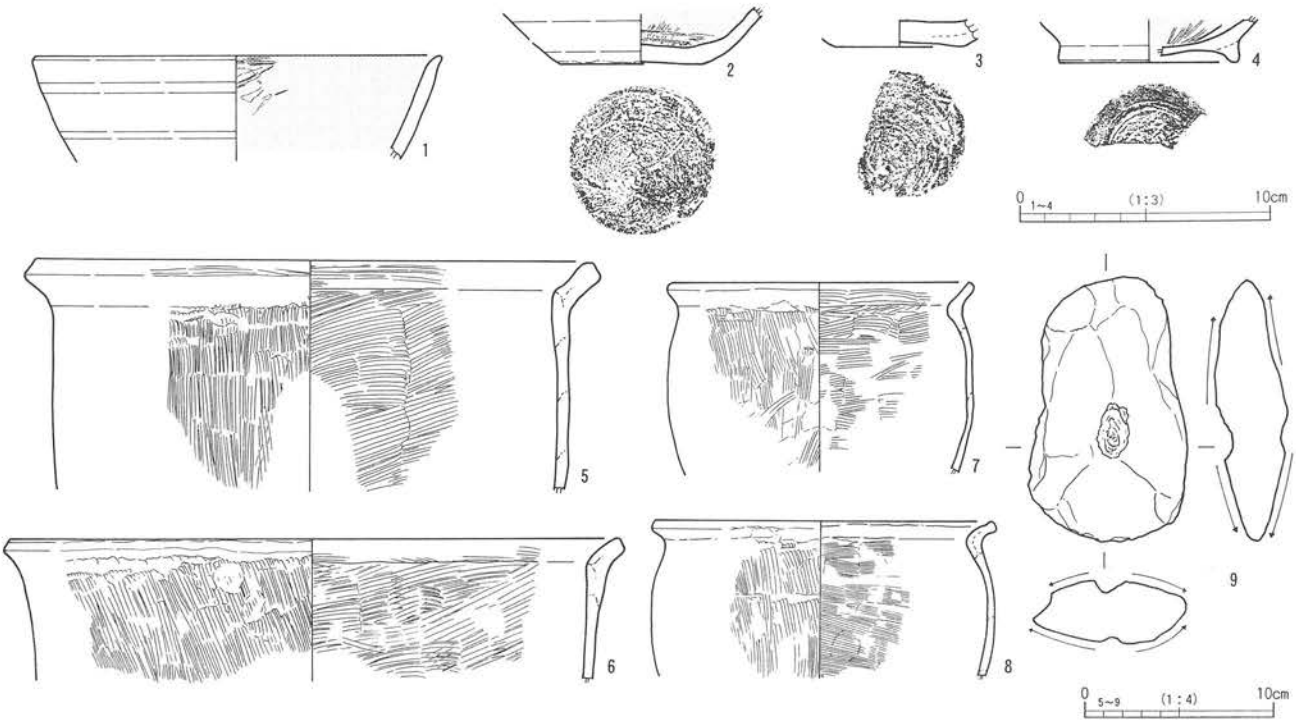


[11号竪穴遺物羅 土層説明]
1 褐色砂質土7.5YR4/4 粘性弱・しまり有、5～20mm大ロームブロック多、炭化物粒、焼土粒
2 褐色砂質土7.5YR4/3 粘性弱・しまり有、5mm大ロームブロック多、炭化物粒、焼土粒
3 褐色砂質土10YR4/4 粘性弱・しまり有、5～11mm大ロームブロック多、ローム粒多、焼土粒少
4 にぶい黄褐色砂質土10YR4/3 粘性弱・しまり有、ローム粒多、5～20mm大焼土ブロック多
5 焼土層
6 明黄褐色粘質土10YR6/6 粘性弱・しまり有、被熱したローム層
7 にぶい黄橙色粘質土10YR6/4 粘性・しまり有、5mm大ロームブロック、炭化物粒、褐色土
8 にぶい黄橙色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、5mm大ロームブロック、褐色土混入（地構築土）
9 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 粘性弱・しまり有、5mm大ロームブロック多、炭化物粒、2mm大焼土ブロック

第47図　11号竪穴遺物・竈



第48図　11号竪穴建物遺物接合図・掘り形・Pit1土層図



第49図　11号竪穴建物出土遺物

東壁中央やや南寄りに構築されており、掘り形のみを検出している。燃焼部内から土師器甕片を中心に出土しており、焼土も顕著に残存している。

【その他施設】

竪穴壁外柱穴、階段状施設が検出されている。竪穴壁外柱穴と思われるピットが７基検出されている。径25㎝～40㎝、深さ20㎝～35㎝を測る。

階段状施設は、北壁中央やや西寄りにみられ、半月状に掘り込まれて構築されている。同施設と床面の硬化の状況を調べたところ、この階段状施設に向かって硬化面が続くことが確認されている。

【遺物出土状況】

遺物量は少なく、覆土内から散在的に出土している。

【出土遺物】（第49図）

１～４は、いずれも内面に黒色処理を施した黒色土器の口縁部および底部、高台部破片である。体部内面のミガキは顕著である。５～８は甲斐型土器の甕の口縁部を中心とした破片資料である。９は縄文時代の凹石と思われる、磨石としても使用されている。

【時　期】平安第Ⅰ段階。

12号竪穴建物（第50～53図）

【位　置】Ａ22・23Ｂ11・12グリッドに位置する。

【重　複】36号竪穴建物、１・２・39～50・180号ピットと重複。36号竪穴建物より新しく、各ピットとの新旧関係は不明なものが多く、本竪穴住居の柱穴となりうるものも若干存在する。ここでは重複する36号竪穴建物も続けて報告する。

【形　状】楕円形。

【規模（長軸m×短軸m）】6.00ｍ（東西）×4.91ｍ。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.32ｍを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】18.14㎡。

【長軸方位】Ｎ－84°－Ｗ。

【埋没状況】

覆土は基本的に２層で、にぶい黄褐色土と暗褐色土等が堆積する。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

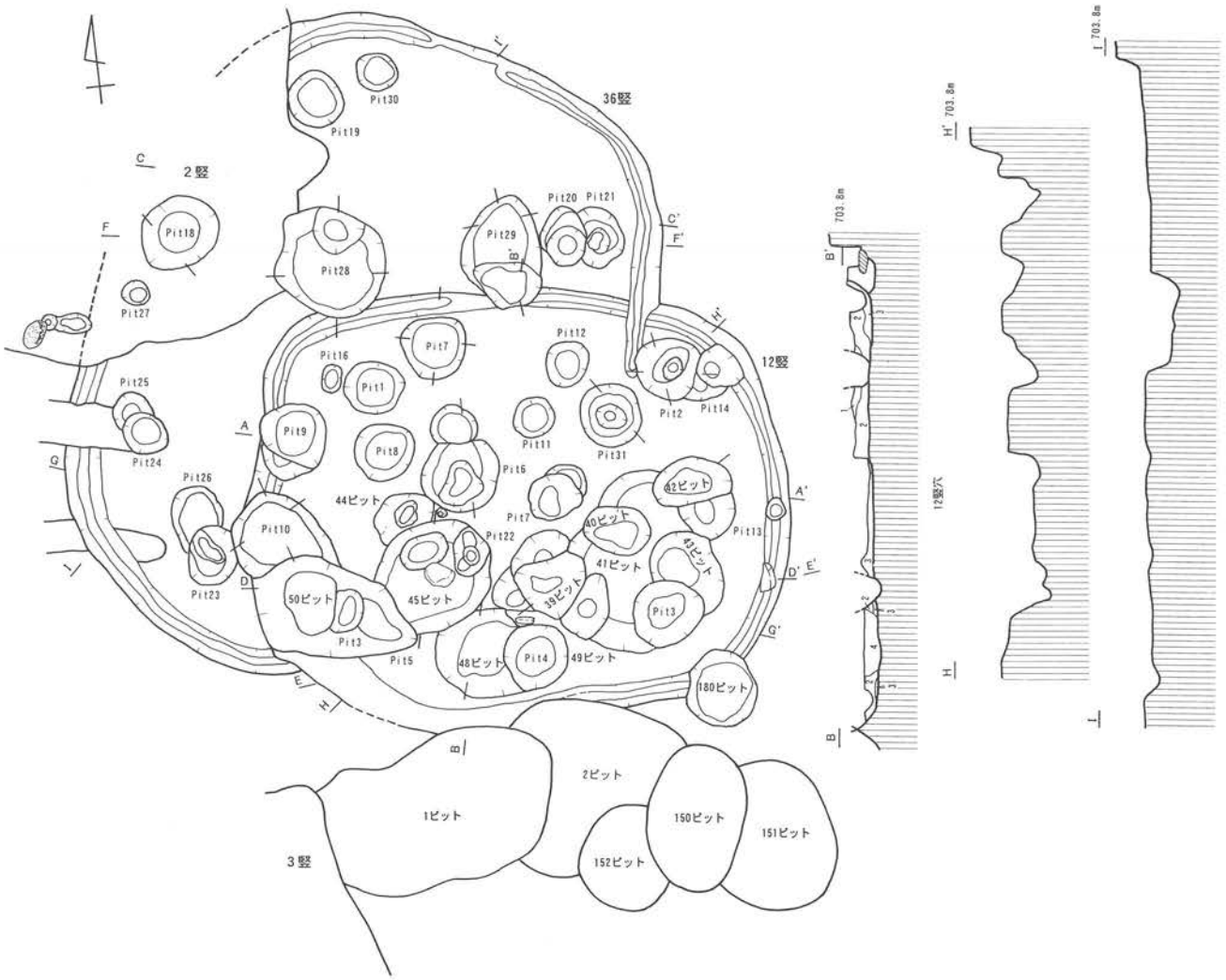
床面は明確ではなく、概して軟弱な状態である。主柱穴と思われるPitは、Pit１～Pit５で５本柱穴になるのではないかと思われ、その中にはピット43号、44号としたものが含まれる。径が65～80㎝、深さ20～40㎝を測る。また壁下には周溝がほぼ巡っている。

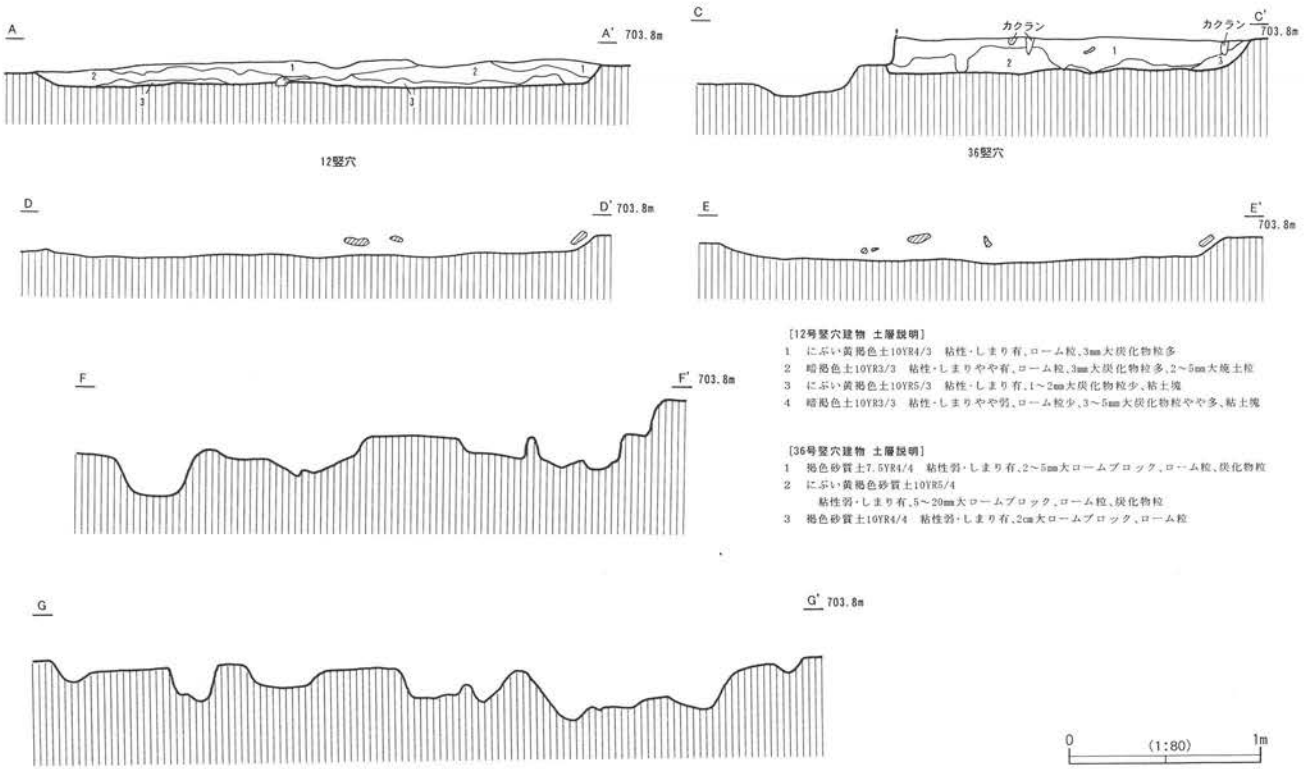
【炉】

炉も明確ではなく、敢えて言うならばPit6が相当するのではないかと想定している。楕円形を呈し、径約90㎝、深さ22～36㎝を測る。覆土には明確な焼土層はなく、焼土粒子が他のPitに比べ多く散っていた。なお、炉確認面上約15㎝のレベルから、炉確認面下約15㎝のレベルにかけて、深鉢形土器が出土している。

【その他施設】

特になし。





[12号竪穴建物 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまり有、ローム粒、3mm大炭化物粒多
2 暗褐色土10YR3/3 粘性・しまりやや有、ローム粒、3mm大炭化物粒多、2～5mm大焼土粒
3 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまり有、1～2mm大炭化物粒少、粘土塊
4 暗褐色土10YR3/3 粘性・しまりやや弱、ローム粒少、3～5mm大炭化物粒やや多、粘土塊

[36号竪穴建物 土層説明]
1 褐色砂質土7.5YR4/4 粘性弱・しまり有、2～5mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
2 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4
粘性弱・しまり有、5～20mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
3 褐色砂質土10YR4/4 粘性弱・しまり有、2cm大ロームブロック、ローム粒

第50図 12・36号竪穴建物

【遺物出土状況】

覆土中および本竪穴に伴うと思われるPit、およびその他のピットからの出土が中心である。Pit２の上面では深鉢形土器の一括土器が潰れた状態で出土している。Pit７からは深鉢形土器がその覆土上面から横たわった状態で出土している。またPit10の上面（竪穴西壁近く）では、自然礫を径約40cmの範囲に円形状に６個配し、そのほぼ真ん中に自然礫を１個配した状態で確認されている。

【出土遺物】（第55～57図）

主な出土土器では、１はPit６内から出土の深鉢形土器。口径約22cm、器高は29.3cmを測る。２は、Pit２上面から出土の三本指状モチーフが特徴的な深鉢形土器で、口径約29cm、器高39.2cmを測る。３は、Pit７から出土の口縁が朝顔状に開く深鉢形土器で、口径約24cm、器高約30cmを測り、胴部の格子目区画文が特徴的である。４と５は、ともにPit６内からの出土である。４は、波状口縁を呈し、縦位区画文を基調とし、口縁部から垂下する蛇体風モチーフを描いている。口径約20cm、器高約24.4cmを測る。５は、口縁部から胴部上半部にかけて重三角区画文や楕円区画文等を配し、胴下半部は無文帯となっている。口径は推定40cm前後、器高は約56.3cmを測る。17・18はサンショウウオ状のモチーフを描いた深鉢形土器の胴部破片である。19は、短隆帯が付くヒダ状の指頭圧痕が顕著な深鉢形土器破片である。８・13は浅鉢形土器の口縁部破片である。

30～39は、縄文時代早期および前期の土器破片資料である。30は口唇部に刻みを施し、内外面に刺突を施す。胎土に繊維等は含んでいない。

40～54は、打製石斧、剥片石器、石匙、凹石の石器資料である。51・52の石匙は、Pit６の西側の床面レベルに比較的近い場所で出土している。

【時　期】縄文時代中期前葉か。

36号竪穴建物（第50～52・54図）

【位　置】A22・23B11・12グリッドに位置する。

【重　複】２・６・12号竪穴建物と重複。２・12号竪穴建物より古く、６号竪穴建物より新しい。

【形　状】楕円形。

【規模（長軸m×短軸m）】7.47m（南北）×6.00m（推定）。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.37mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】14.55㎡（現存）。

【長軸方位】N－36°－E。

【埋没状況】

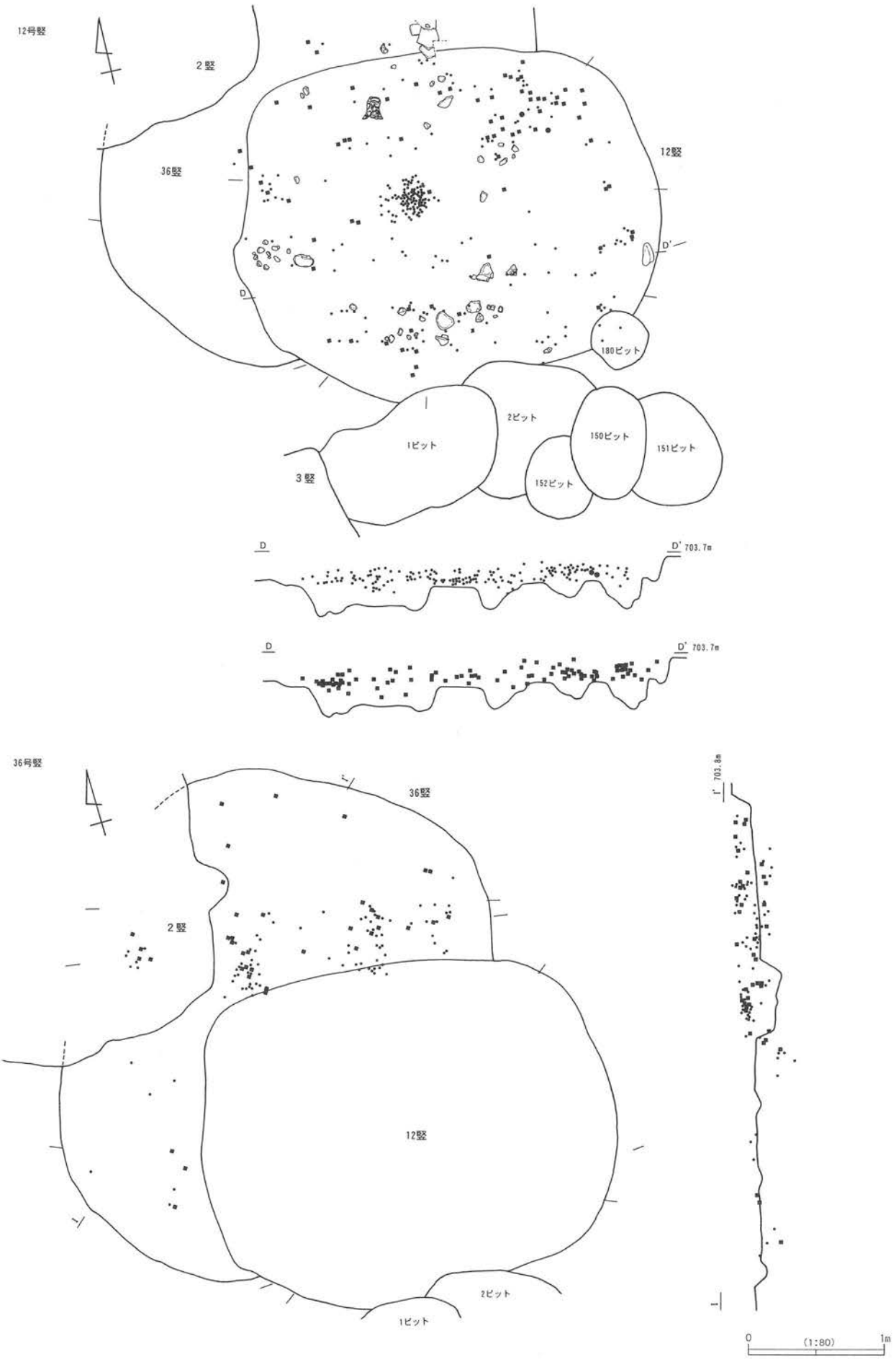
覆土は基本的に２層で、褐色の砂質土とにぶい黄褐色砂質土等が堆積する。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

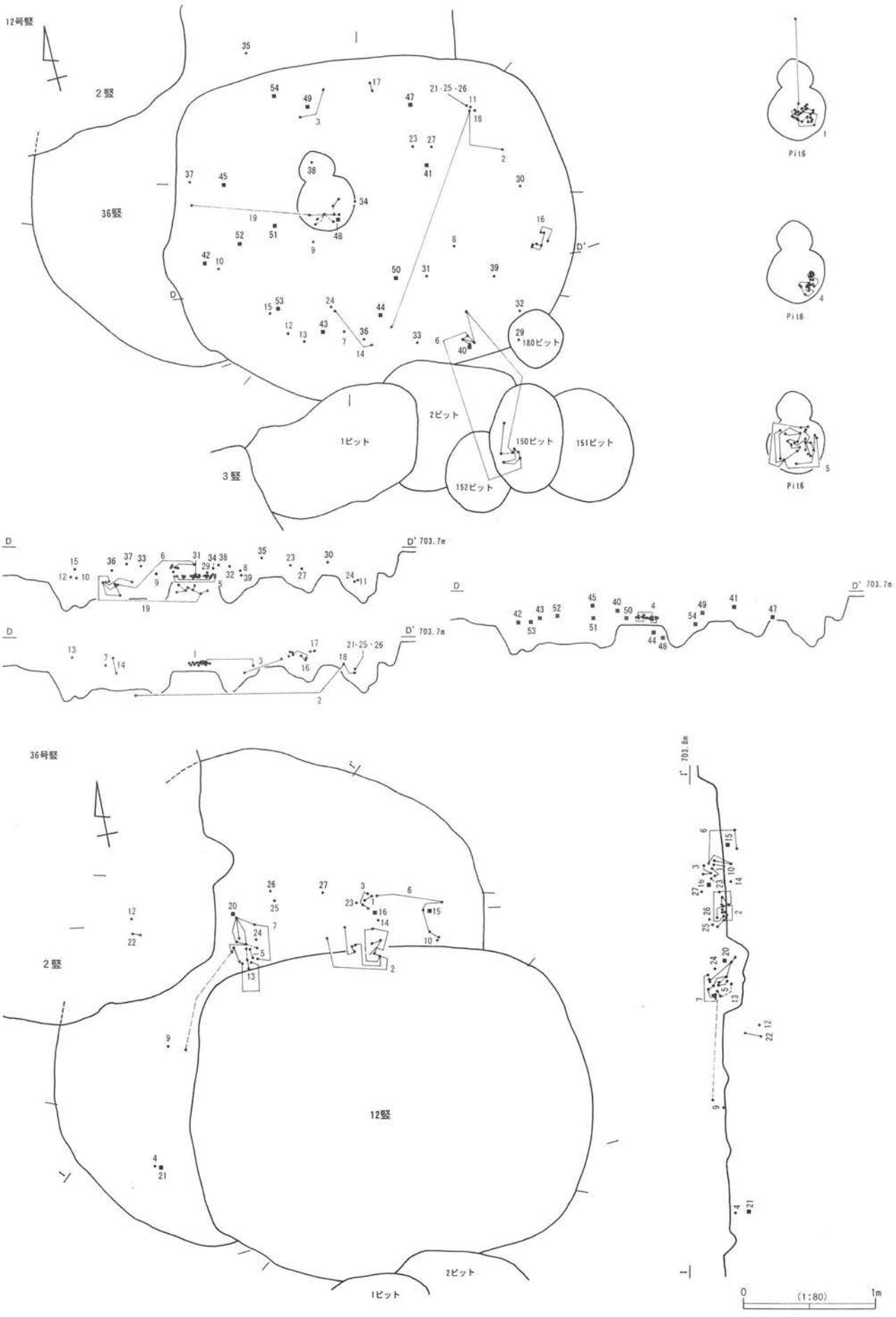
床面は明確ではなく概して軟弱で、壁下には周溝がほぼ巡っている。柱穴については平安時代の竪穴である２号竪穴の調査中に１基（Pit18）確認している。その他ではPit19～26が相当するのではないかと思われる。重複がみられることから建て替えも考えられる。径50～90cm、深さ30～50cmを測る。

【炉】

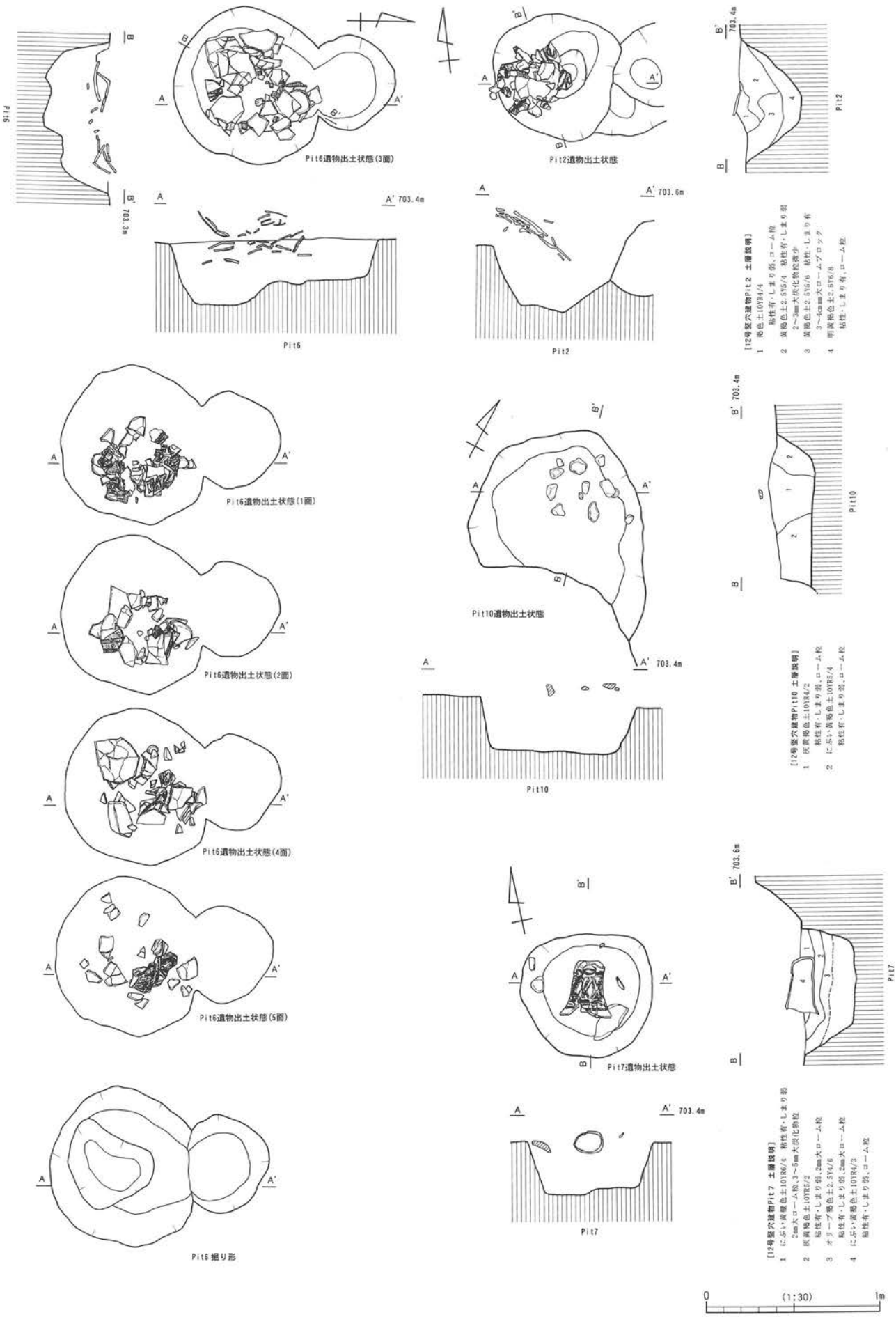
本竪穴においても炉については不明瞭である。Pit28が相当するのではないかと想定している。不



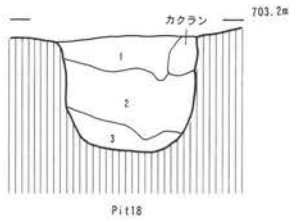
第51図　12･36号竪穴建物遺物分布図



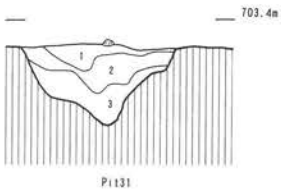
第52図　12･36号竪穴建物遺物接合図



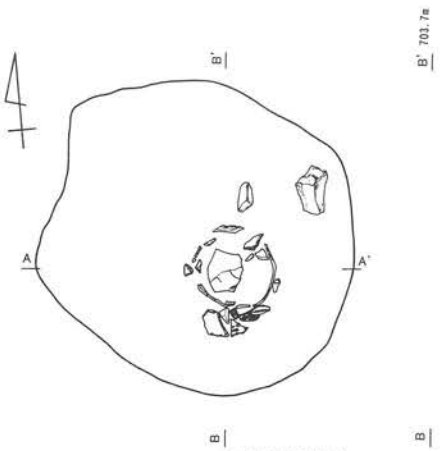
第53図　12号竪穴建物柱穴土層図・柱穴遺物出土状態



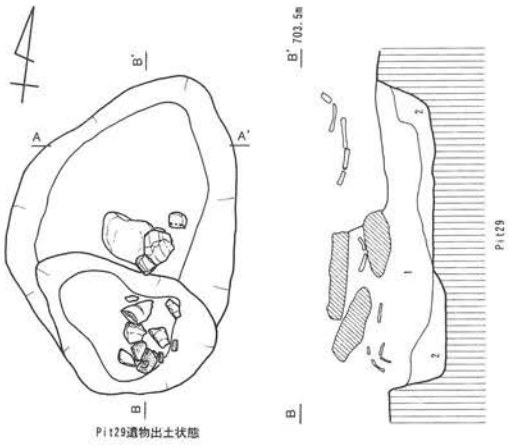
[12号竪穴建物Pit18 土層説明]
1　にぶい黄褐色土10YR4/3　粘性・しまり有、3mm大焼土粒
2　黒褐色土10YR3/2　粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒
3　黒褐色土10YR3/1　粘性・しまり有、ローム粒少、炭化物粒



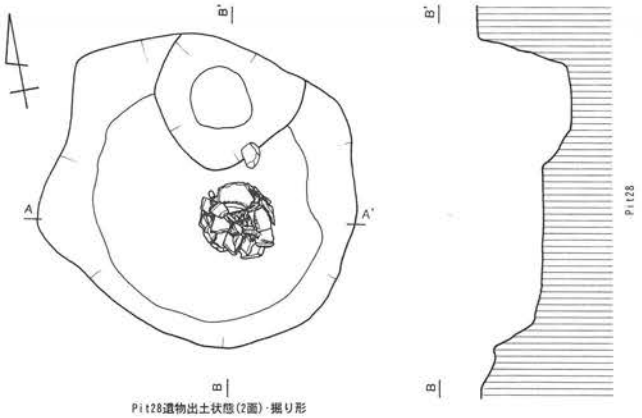
[12号竪穴建物Pit31 土層説明]
1　にぶい黄褐色土10YR4/3　粘性・しまり有、ローム粒
2　にぶい黄褐色土10YR5/4　粘性・しまり有、ローム粒
3　にぶい黄褐色土10YR6/4　粘性有・しまり強、ローム粒



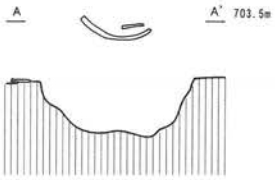
Pit28遺物出土状態(1面)



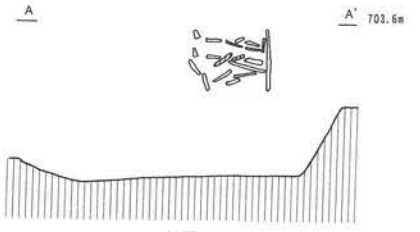
Pit29遺物出土状態

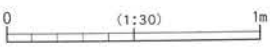


Pit28遺物出土状態(2面)・掘り形



[12号竪穴建物Pit29 土層説明]
1　褐色砂質土10YR4/4　粘性やや弱・しまり有
　2mm大ロームブロック多、炭化物粒、焼土粒少
2　にぶい黄褐色粘質土10YR5/4
　粘性やや弱・しまり有、5～10mm大ロームブロック

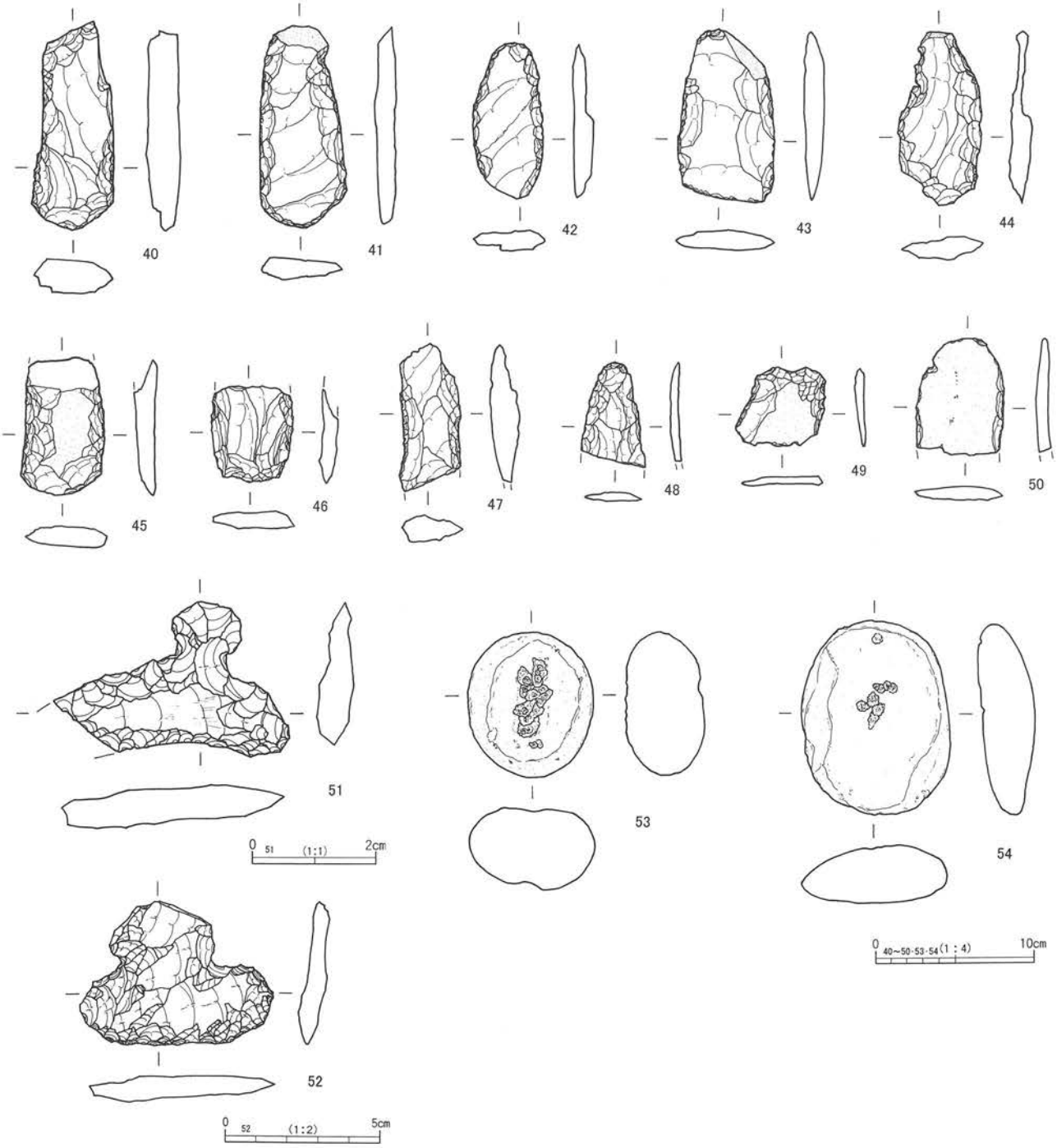




第54図　36号竪穴建物柱穴土層図・柱穴遺物出土状態

第55図　12号竪穴建物出土遺物（1）

第56図　12号竪穴建物出土遺物（2）



第57図　12号竪穴建物出土遺物（3）

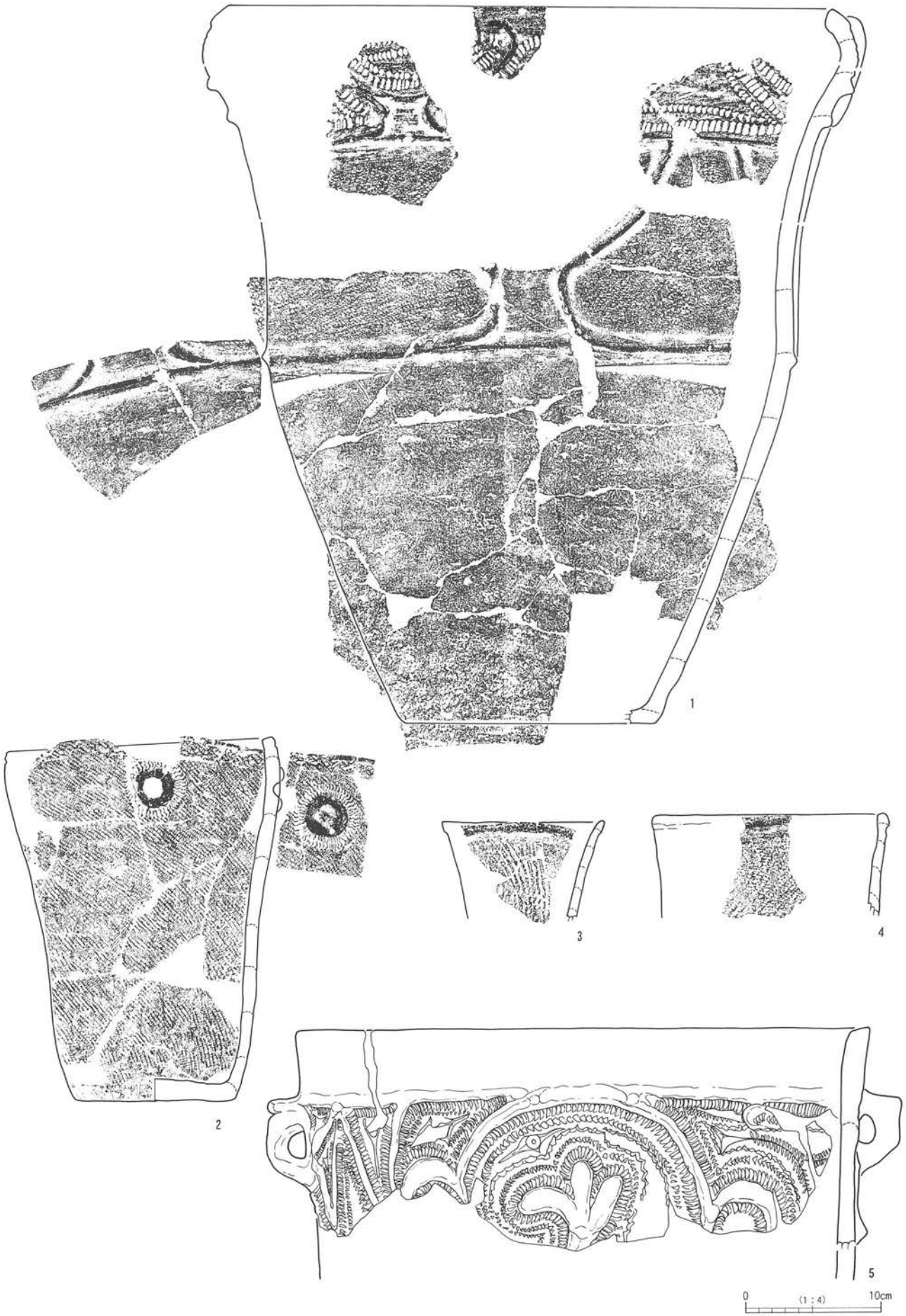
整円形を呈し、長軸1.25m、短軸1.22m、深さ22～34cmを測る。しかし明確な焼土層は確認されていない。

【その他施設】

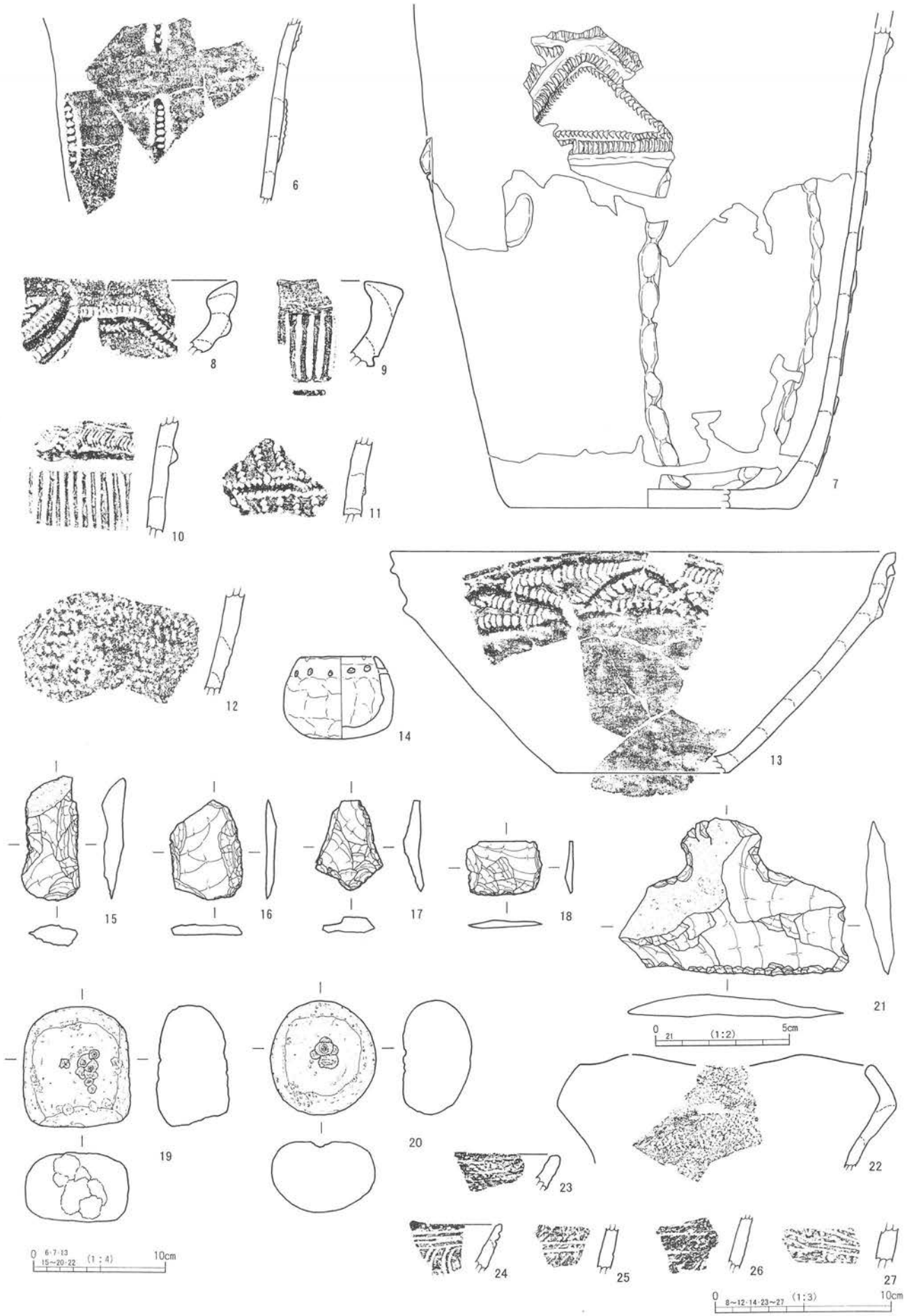
特になし。

【遺物出土状況】

炉と想定されるPit28の上面では深鉢形土器が入れ子状態で検出されている（第58図－5・第59図－7）。またPit29では扁平な礫と土器がまとまって出土しており、土壙状を呈する。そのため本竪穴には直接伴わないものだと思われる。



第58図　36号竪穴建物出土遺物（1）



第59図　36号竪穴建物出土遺物（2）

【出土遺物】（第58・59図）

1は、Pit29上面出土の深鉢形土器で、隆線による重三角区画文を配し、胴部下半が無文帯となっている。口径は不明で、器高は推定53cm前後を測る。2もPit29上面出土の深鉢形土器で、縄文を地文とし、口唇部直下に円形隆線文と円形貼付文をそれぞれ1単位ずつ配している。口径は約20cm、器高は26.8cmを測る。3・4はいずれも縄文を地文とする深鉢形土器。5は橋状把手を2単位配し、三角区画文を基調として三本指状モチーフが特徴的な深鉢形土器である。口径は42.6cmを測る。6は、刻み目を施す短隆帯を配した深鉢形土器。7は、胴部上半部を欠失した深鉢形土器で、胴部に重三角区画文を配し、胴部下半に押圧隆帯が垂下している。13は、口縁部に重三角区画文を配した浅鉢形土器で、推定口径は38cm、器高は16.7cmを測る。8～12は縄文中期中葉の土器破片である。14は手捏状の小型の有孔土器で、口径約4cm、器高約4.6cmを測る。

15～19は、打製石斧、凹石、石匙の石器資料である。22～27は、縄文時代前期の土器破片資料である。

【時　期】縄文時代中期前葉か（藤内式期初頭）。

13号竪穴建物（第60図）

【位　置】A21・22B13・14グリッドに位置する。

【重　複】4・5・6・7・9・13・15号ピットと重複。不明瞭だがいずれのピットより古いと思われる。

【形　状】楕円形。

【規　模（長軸m×短軸m）】2.73m（東西）×2.15m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大で0.25mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】16.14㎡。

【長軸方位】N－72°－E。

【埋没状況】

掘り込みは浅く、覆土はにぶい黄褐色土を中心としている。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

床面は明瞭ではなく、全体に概して軟弱である。柱穴と思われるピットは、Pit1～6を想定している。径30～40cm、深さ30～40cmを測る。

【炉】

竪穴中央西寄りに位置し5号ピットに切られるPit7を想定している。円形を呈すると思われ、径約60cm、深さ14cmを測る。覆土はにぶい赤褐色を呈する砂質土で、炭化物粒と焼土粒が混入している。

【その他施設】

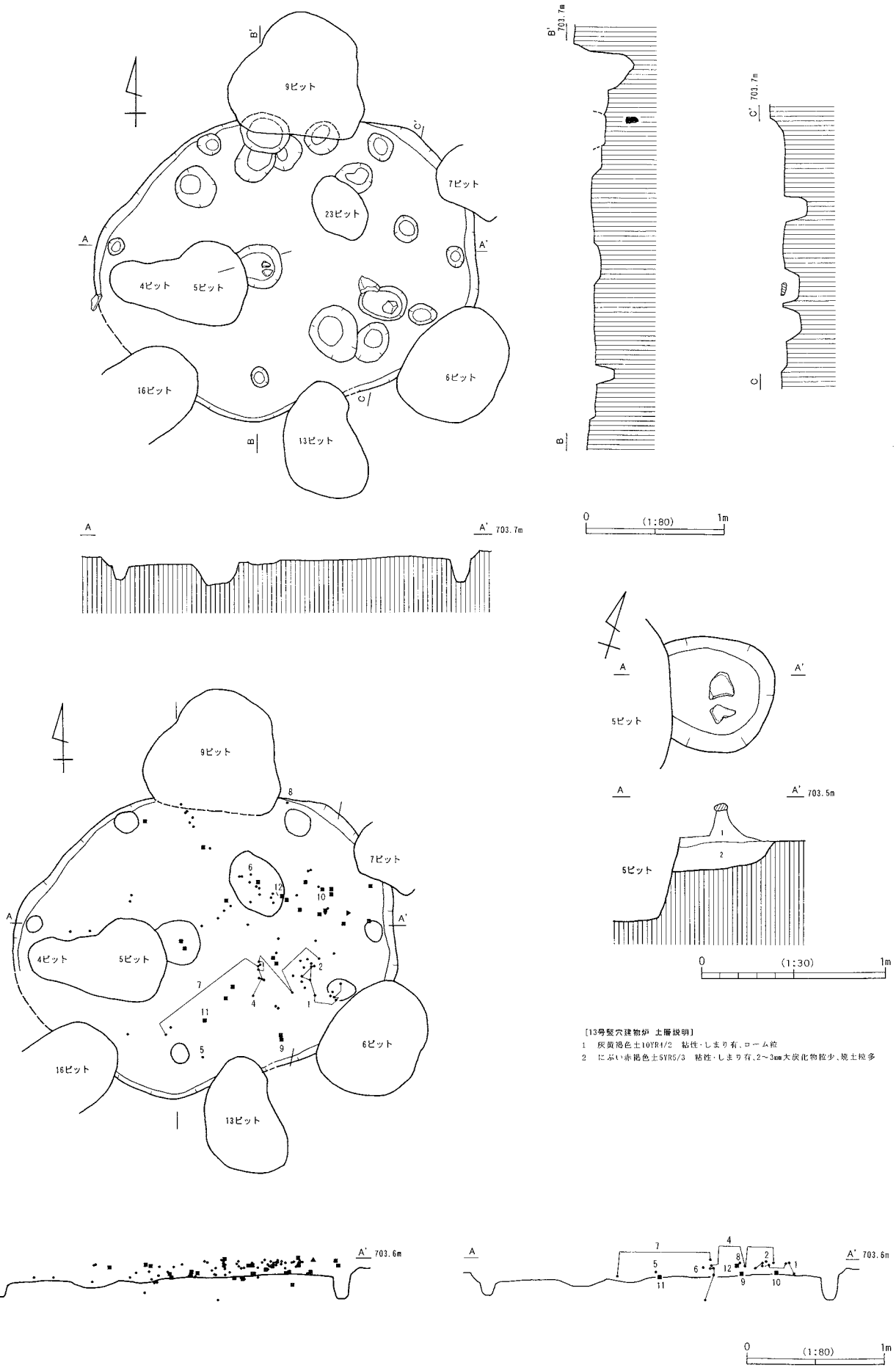
特になし。

【遺物出土状況】

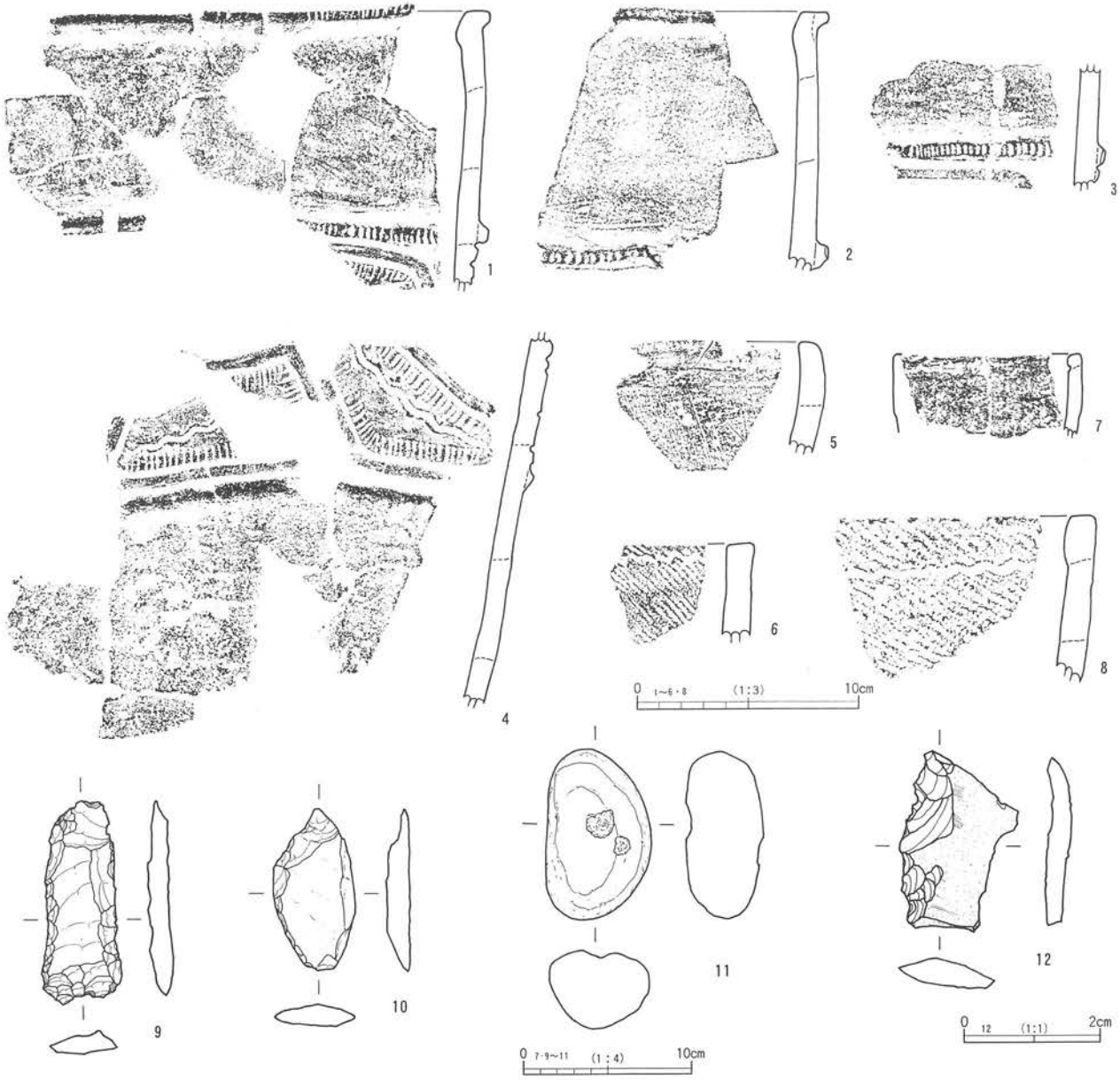
竪穴の東側部分にやや集中して出土しているものの、出土量はさほど多くはない。

【出土遺物】（第61図）

1・2は、口縁部がほぼ直立し、口唇部が外反する深鉢形土器である。口縁部は無文帯となっている。3も1・2と同様な土器破片。4は胴部に楕円文を配する。5は口唇部がわずかに内彎する。



第60図　13号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図・炉



第61図　13号竪穴建物出土遺物

6・8は口唇部直下に波状沈線文を施し、縄文を地文とする。7は、粗製土器の口縁部破片である。

9～10は、打製石斧、凹石、黒曜石の剥片石器である。

【時　期】縄文時代中期前葉か。

14号竪穴建物（第62～64図）

【位　置】A15・16B12・13グリッドに位置する。

【重　複】27・41号竪穴建物と重複。両竪穴建物より新しい。

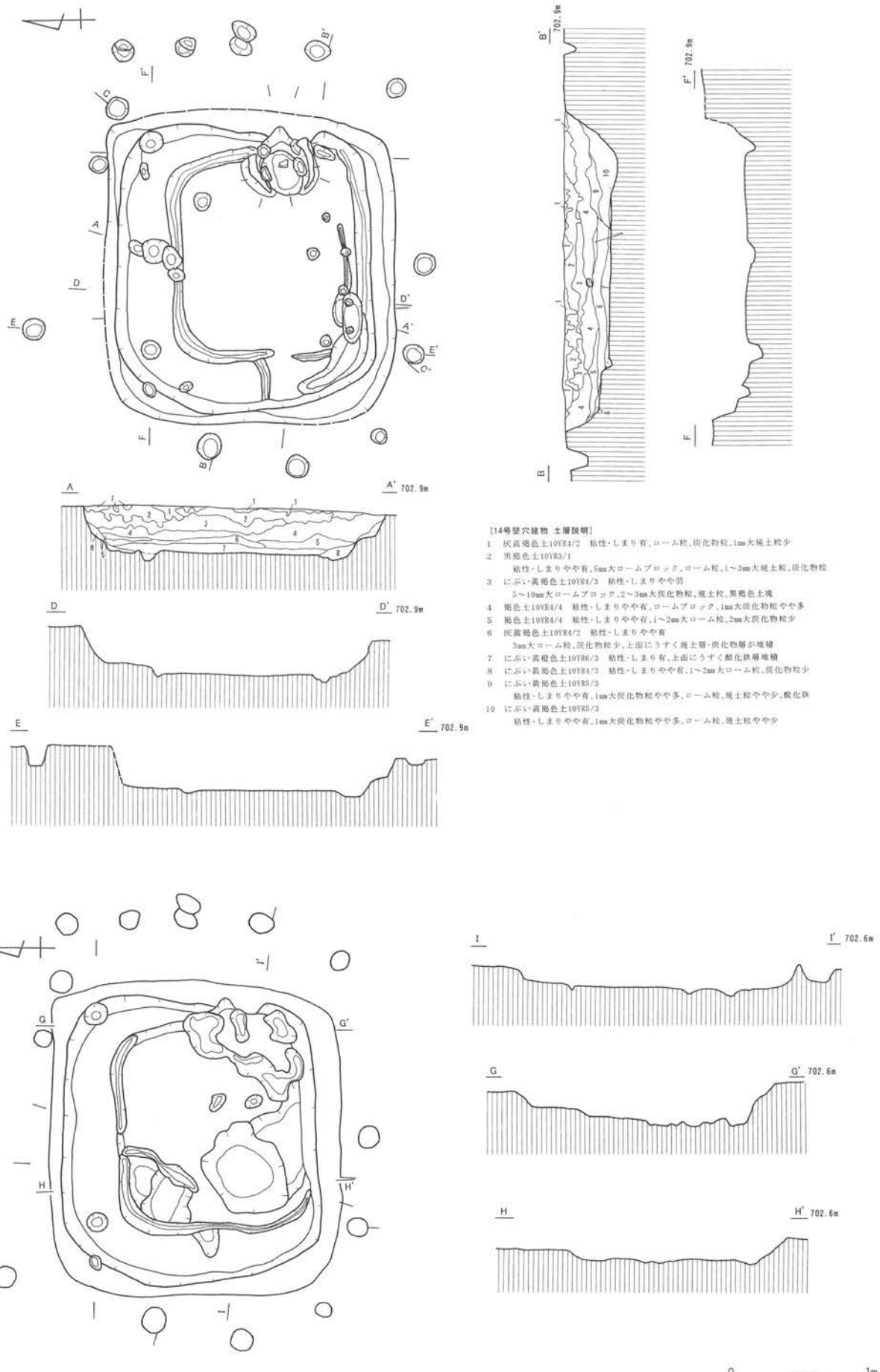
【形　状】長方形（内側竪穴部は方形）。

【規模（長軸m×短軸m）】4.45m（東西）×4.09m（内側竪穴部2.95m＜東西＞×2.82m）。

【竪穴部深さ（m）】内側竪穴部の深さは遺構確認面から最大0.70mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】9.78㎡。

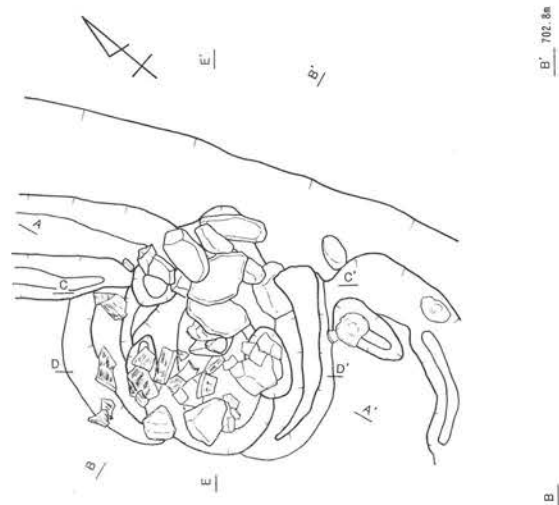
【長軸方位】N－89°－E。

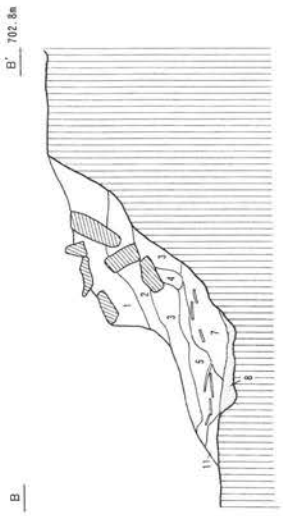


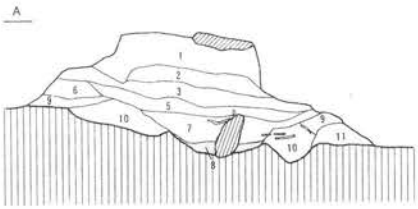
[14号竪穴建物 土層説明]

1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒、1mm大焼土粒少
2 黒褐色土10YR3/1
粘性・しまりやや有、5mm大ロームブロック、ローム粒、1～3mm大焼土粒、炭化物粒
3 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや弱
5～10mm大ロームブロック、2～3mm大炭化物粒、焼土粒、黒褐色土塊
4 褐色土10YR4/4 粘性・しまりやや有、ロームブロック、1mm大炭化物粒やや多
5 褐色土10YR4/4 粘性・しまりやや有、1～2mm大ローム粒、2mm大炭化物粒少
6 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有
3mm大ローム粒、炭化物粒少、上面にうすく焼土層・炭化物層が堆積
7 にぶい黄橙色土10YR6/3 粘性・しまり有、上面にうすく酸化鉄層堆積
8 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや有、1～2mm大ローム粒、炭化物粒少
9 にぶい黄褐色土10YR5/3
粘性・しまりやや有、1mm大炭化物粒やや多、ローム粒、焼土粒やや少、酸化鉄
10 にぶい黄褐色土10YR5/3
粘性・しまりやや有、1mm大炭化物粒やや多、ローム粒、焼土粒やや少

第62図　14号竪穴建物・掘り形

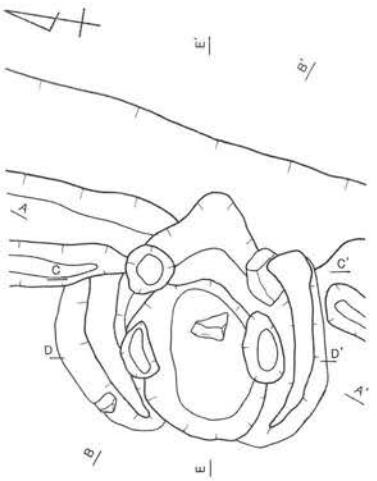


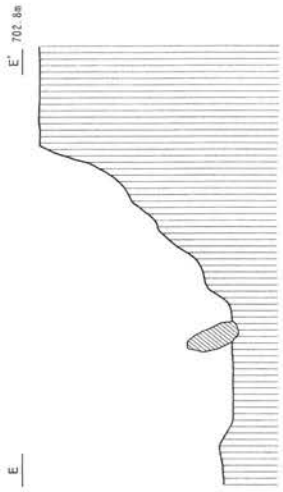


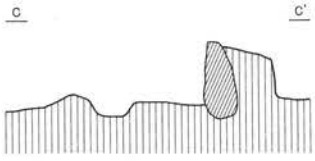


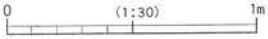
[14号竪穴建物竈 土層説明]

1 灰黄褐色土10YR5/2 粘性・しまりやや弱
　焼化物粒やや多、ロームブロック、焼土粒少、黄灰色粘土塊
2 灰黄褐色土10YR5/2 粘性・しまりやや弱、黄灰色粘土塊、焼化物粒、焼土粒
3 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、焼土粒、5mm大焼化物粒、灰黄色粘土
4 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、焼化物粒、焼土粒多
5 灰黄褐色土10YR5/2 焼土主体、黄灰色粘土塊
6 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、焼化物粒、焼土粒
7 灰層　焼土ブロック、黄灰色粘土塊
8 焼土層
9 灰黄色粘質土2.5Y6/2 環構築粘土
10 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまり有、ロームブロック多、焼土粒
11 灰黄褐色土10YR5/2 焼土主体、焼土ブロック、灰層・灰黄色粘土層うすく堆積

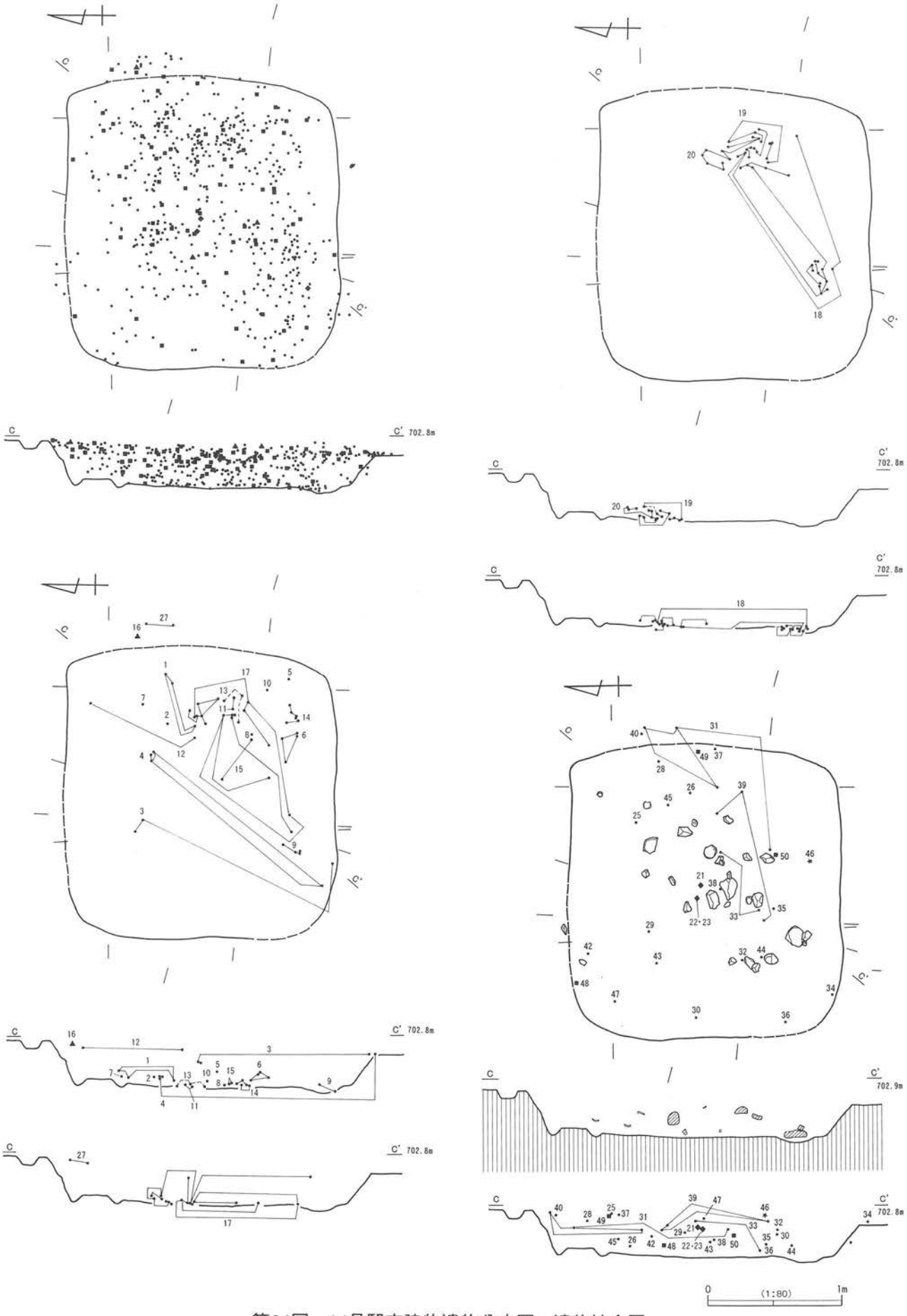




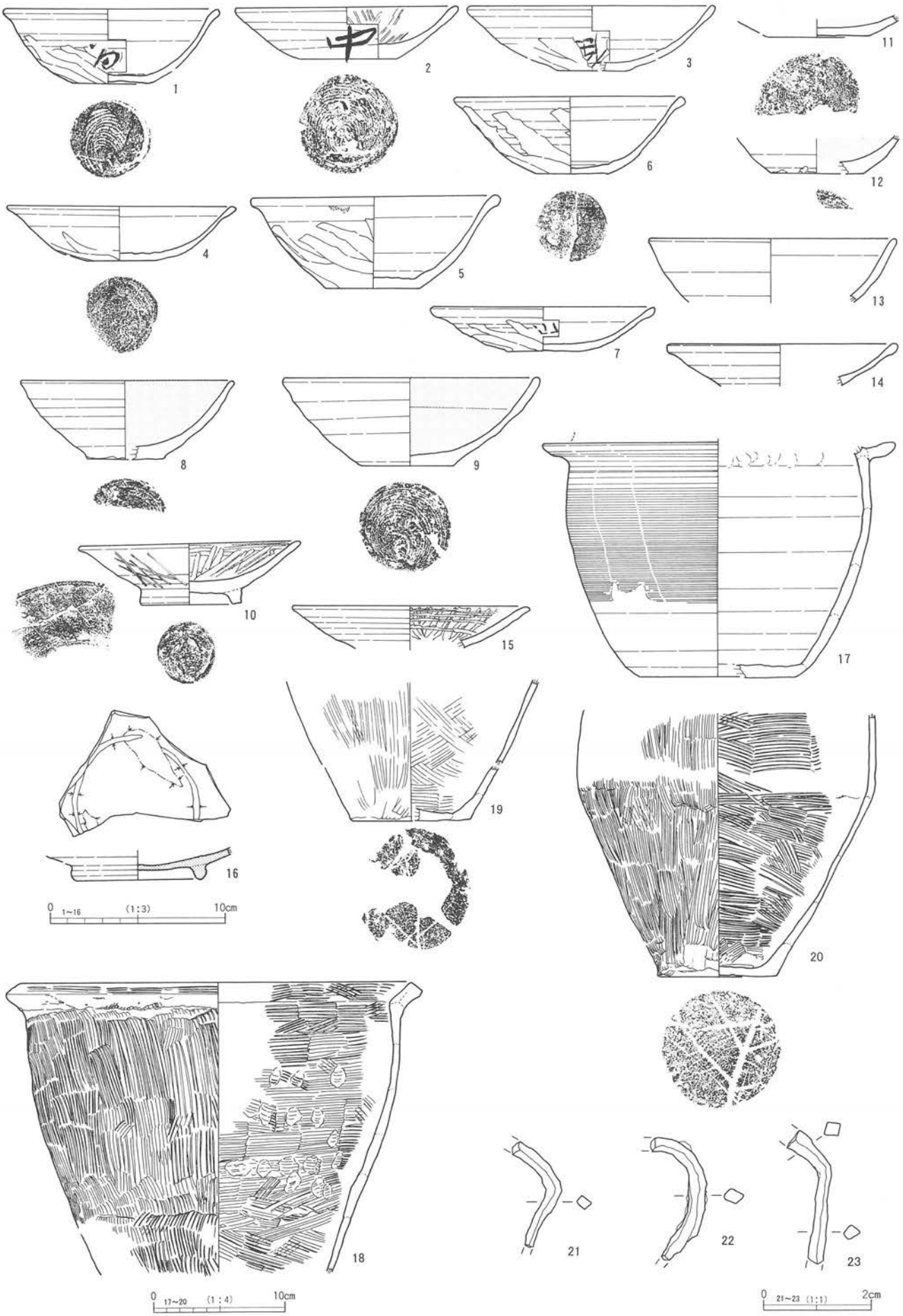




第63図　14号竪穴建物竈



第64図　14号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図



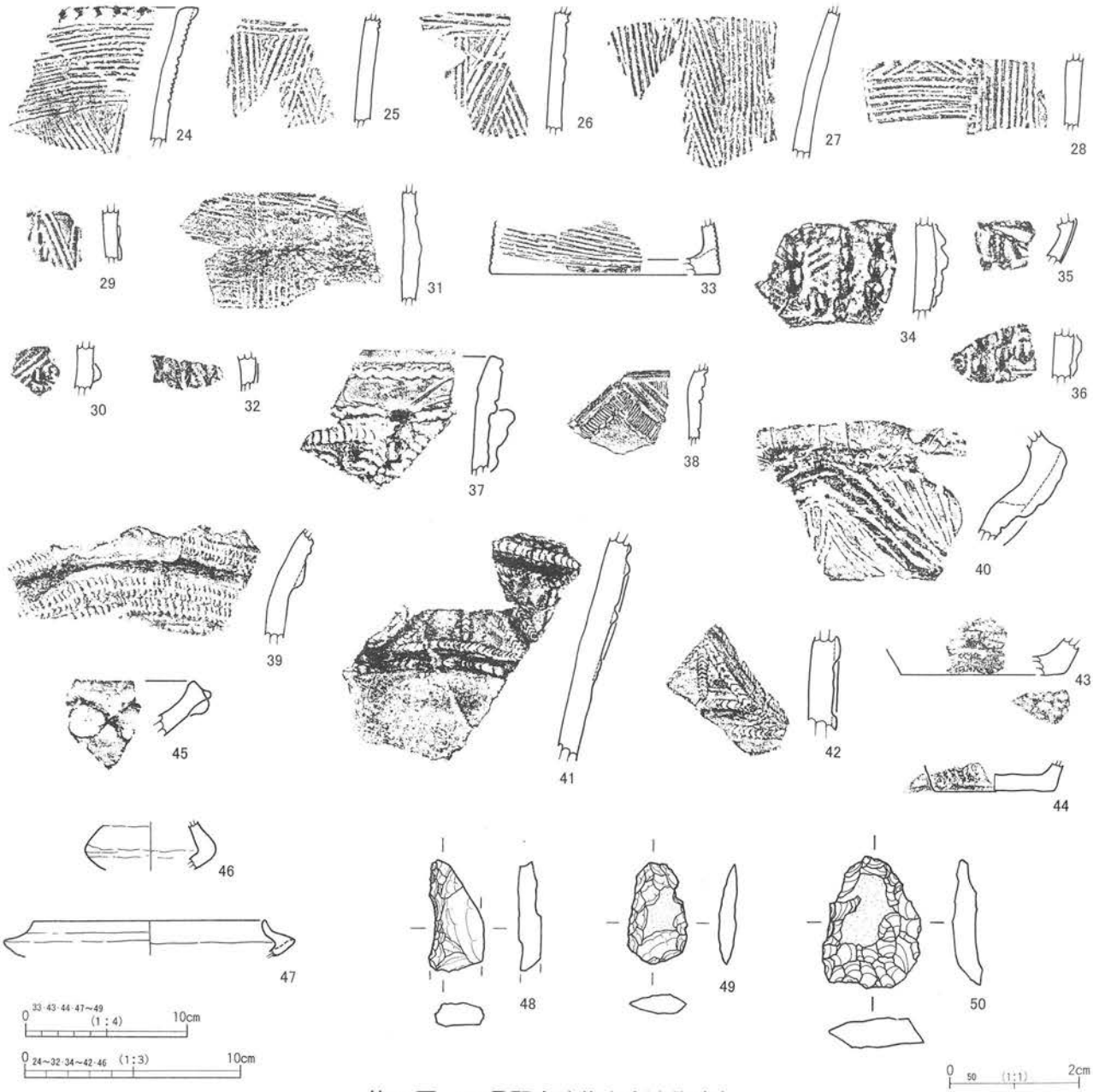
第65図　14号竪穴建物出土遺物（1）

【埋没状況】

本竪穴は、平面図等を見る限り竪穴建物が入れ子状になり、重複あるいは建て替えという状況にとらえられるかもしれない。しかし土層観察からはこうした状況は認められず、竪穴廃絶時には１軒であった可能性は非常に高い。１～４層まではレンズ状堆積を示すものの、６層以下は水平堆積に近く、薄い酸化鉄の集積層も認められる。また床面直上層には炭化物と焼土の混入が目立つ。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

広い狭いはあるものの、本竪穴の四方にテラス状施設を有する。南側はテラスといっても幅は狭く段差状となっており、「棚」といってもよい。主柱穴とみられるピットは特にみられないが、北側テラスには支柱穴と思われるピットが３基ほど検出されている。内側の竪穴部の壁下には周溝が巡っている。北側テラスと内側竪穴部床面との段差は約10cmを測る。床面は竈前面部を中心として堅固である。



第66図　14号竪穴建物出土遺物（2）

【竈】

東壁南東コーナー寄りに構築されている。袖石の一部と支脚石が残存している。覆土は粘土や焼土ブロック、炭化物を含んだ灰黄褐色を呈する粘質土が主体で、覆土上層からは礫が、下層からは土師器坏や甕などの土器類の破片が多量に出土している。焼土層は燃焼部内に顕著にみられる。

【その他施設】

竪穴壁外柱穴とみられるピットが14基程度検出されている。径30cm前後、深さ10～30cmを測る。

【遺物出土状況】

覆土上層（１～４層）の出土量が多いが細片資料が多い。中層から下層にかけては比較的一括土器資料が多く、人頭大の礫の出土も目立つ。竈内は特に遺物の集中がみられるが竈右脇では明らかに竪穴壁上から転落した状態の出土状況を示す坏（第65図－５）や、正位に置かれた状態で黒色土器（第65図－10）等が出土している。

【出土遺物】（第65・66図）

１は甲斐型土器の坏。口径12.0cm、底径4.3cm、器高4.4cmを測り、体部外面に墨書がみられるが、釈文は不明。２は口径12.6cm、底径5.5cm、器高3.0cmを測る黒色処理を施さない黒色土器系の坏である。底部は回転糸切り未調整で、体部外面には正位で「中」と墨書で記されている。３も甲斐型土器の坏で体部外面に倒位で墨書が記されているが、釈文は不明。４～６も甲斐型土器の坏で、５にはわずかであるが油煙が付着している。７は甲斐型土器の皿で、口径12.4cm、底径4.0cm、器高2.5cmを測り、体部外面には正位で「山」と墨書で記されている。墨痕はやや薄い。８～12は黒色土器類である。８は推定口径12.0cm、底径4.4cm、器高4.6cmを測る。９は口径14.3cm、底径5.4cm、器高5.1cmを測る。10は盤状の高台皿でほぼ完形。内面は丁寧に磨かれ、体部外面には線刻を施している。推定口径12.4cm、高台径5.1cm、器高3.5cmを測る。16は灰釉陶器の底部破片で、内面には重ね焼き時の高台痕が残り、底部内面まで灰釉が刷毛塗りされている。美濃窯光ヶ丘１号窯式前半期のものと思われる。

17～20は煮炊具類であるが、17はロクロ整形土器の羽釜で、胴部にはカキメが鮮明に残っている。県内では珍しい資料である。鍔径は26.5cmを測る。18～20は、甲斐型土器の甕で、胴部の接合痕が顕著に残っている。21～23は棒状鉄製品で、いずれも「く」の字状に曲がっている。

24～32は縄文時代前期、33～44は中期前葉の土器破片資料である。46と47はミニチュア土器と鍔付土器の破片。48～50は縄文時代の打製石斧と黒曜石の剥片である。

【時　期】平安第Ⅰ段階。

15号竪穴建物（第67図）

【位　置】Ａ15・16Ｂ13・14グリッドに位置する。

【重　複】41号竪穴建物と重複。同竪穴建物より新しい。

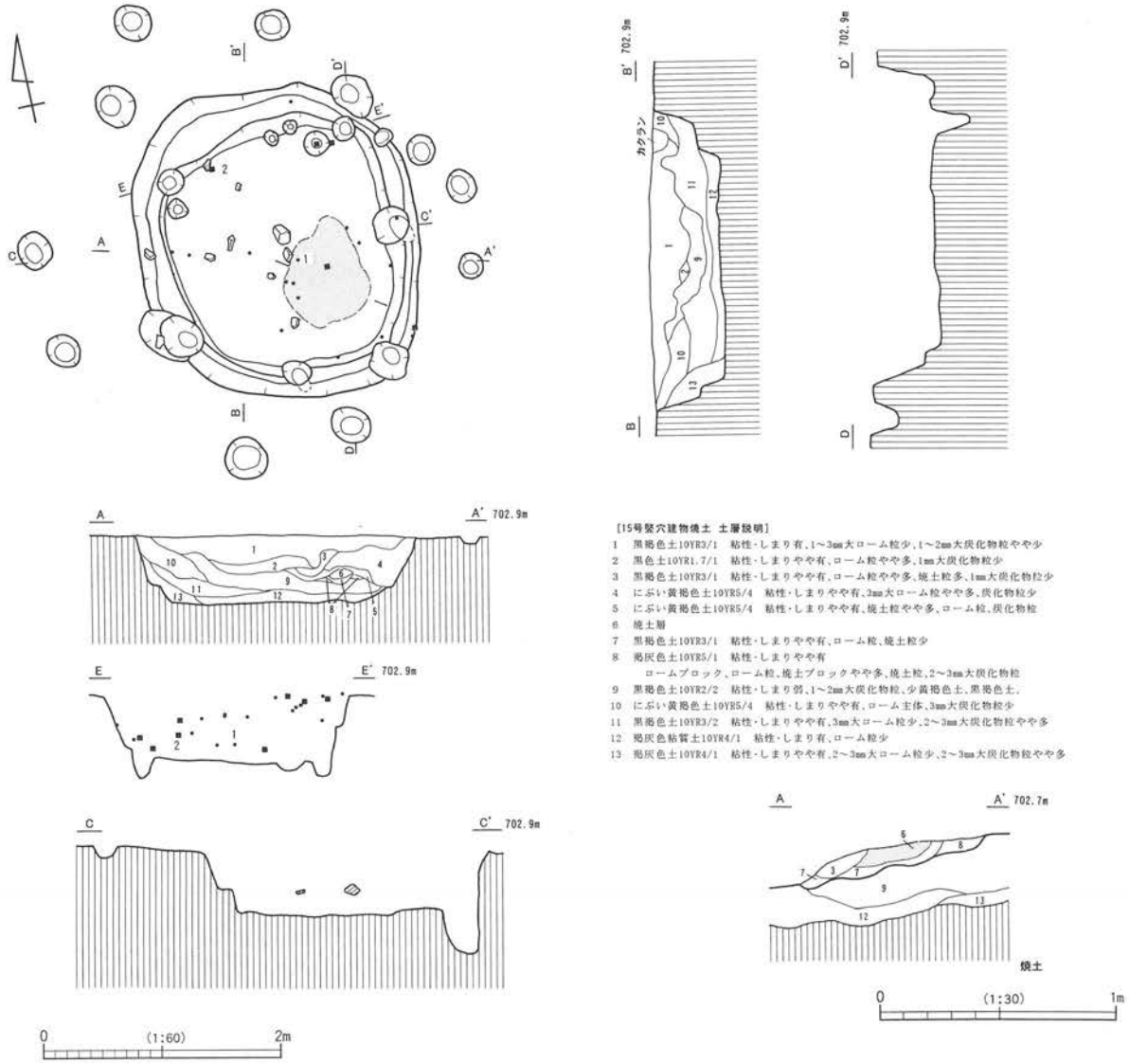
【形　状】方形。

【規　模（長軸m×短軸m）】2.60m（南北）×2.34m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.60mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】2.93㎡。

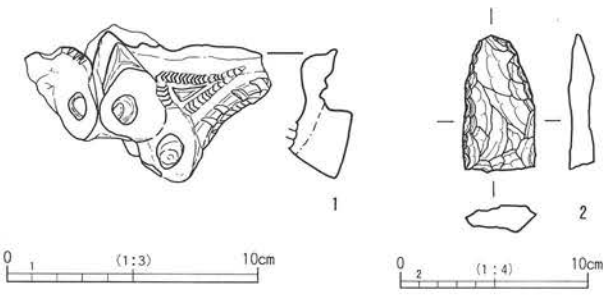
【長軸方位】Ｎ－８°－Ｅ。



第67図　15号竪穴建物・焼土範囲土層図

【埋没状況】

竪穴は、床面から約15～20cmのレベルで段差をもって掘り込まれている。床面上約15cmの厚さで褐灰色砂質土がほぼ水平に堆積し、黒褐色土系の堆積土がレンズ状に堆積している。焼土、灰、炭化物を顕著に含む黒褐色土の範囲が、遺構確認面下約15cmのレベルで確認されている。この範囲は長軸約95cm、短軸約72cmを測り、その厚さは８cm前後で、不整楕円形を呈する。



第68図　15号竪穴建物出土遺物

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

壁際に沿って柱穴とみられるピットが６基検出されている。径20～30cm、深さ15～30cmを測り、若干斜めに掘り込まれているピットもみられる。

【竈・炉】

明確な施設は確認されていない。

【その他施設】

竪穴壁外柱穴とみられるピットが11基程度検出されているが、本竪穴に伴うものかどうか判断しかねるものも含まれる。径20～35cm、深さ10～25cmを測る。

【遺物出土状況】

出土遺物は全体で二十数点のみで、平面分布も垂直分布もきわめて散在的である。

【出土遺物】（第68図）

図示できた遺物はわずかで、1は縄文時代中期前葉土器の把手、2は打製石斧の欠損品である。

【時　期】建物形式からみて中世段階と思われる。

16号竪穴建物（第69・70図）

【位　置】A15・16B17グリッドに位置する。

【重　複】なし。

【形　状】方形。

【規　模（長軸m×短軸m）】4.0m（東西）×3.8m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大約0.5mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】8.13㎡。

【長軸方位】N－88°－E。

【埋没状況】

覆土は基本的に3層で、最上層の黒褐色土以下は、にぶい黄褐色砂質土が主体となっている。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

主柱穴と思われるピットはなく、竪穴壁下には断続的に壁溝と小ピットが巡っている。北西コーナー部分は、東西約2.0m、南北約1.0mの範囲を仕切るように、西壁からのびる溝と小ピットが検出されている。床面は竈前面部から竪穴中央部、そして階段状施設にいたる範囲が非常に堅固となっており、間仕切りされた範囲および北東コーナー部分は、あまり踏み固められていない。竪穴の掘り形は、竪穴の隅を中心に深く掘り窪められている。

【竈】

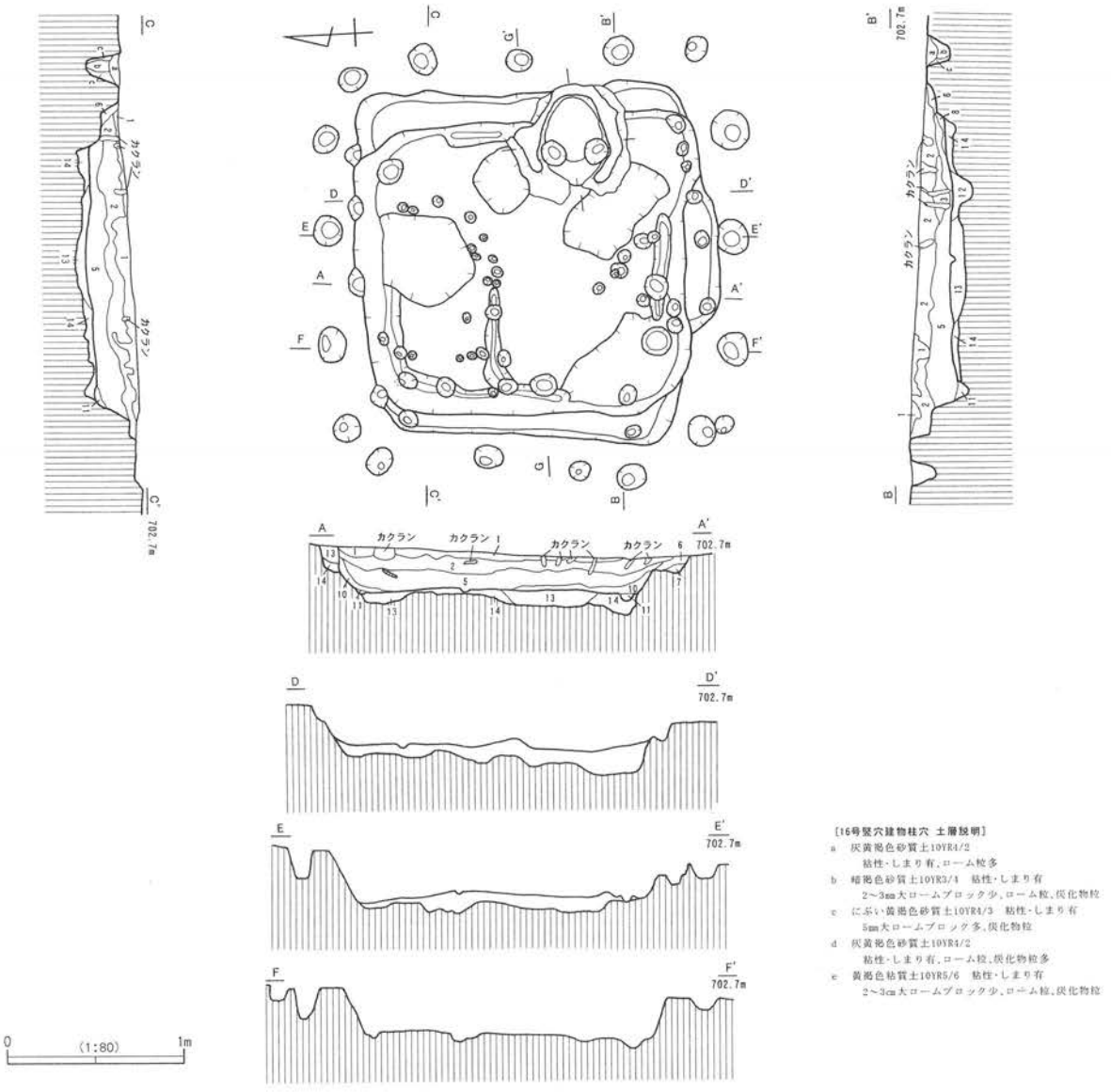
東壁中央やや南寄りに位置する。袖石等はすでに除去されており、袖部の白色粘土混じりの構築土と、掘り形を検出したのみ。覆土には焼土粒、炭化物粒を多く含むが、焼土層はブロック状にみられる程度である。竈掘り形内からは、構築材と思われる礫が3個と土器片数点が出土している。

【その他施設】

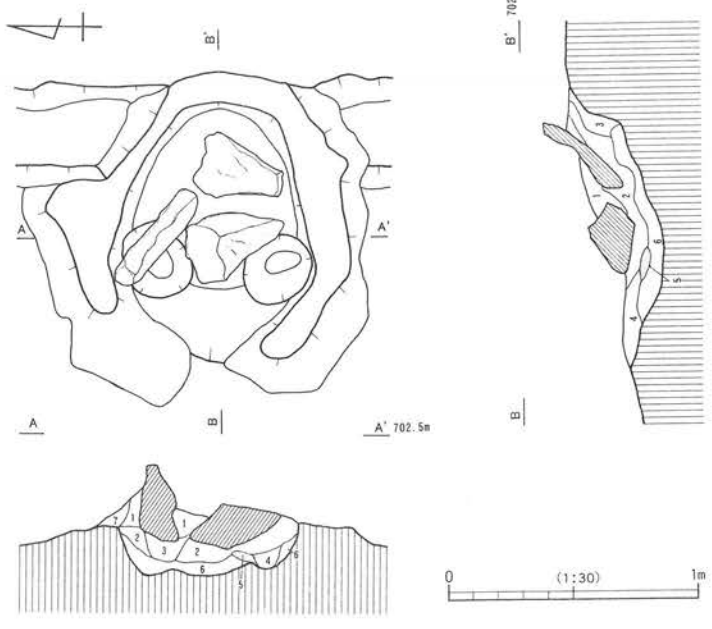
棚状施設および階段状施設、竪穴壁外柱穴が検出されている。棚状施設は竈両脇に地山を掘り残して構築されたもので、奥行き25～35cmを測り、床面からの高さは約15cmを測る。また西壁においても奥行き10～25cm床面からの高さ約35cmを測る段差を確認している。

階段状施設は、南壁のほぼ中央部に竪穴南壁ラインより若干張り出して構築されており、幅約1.5m、奥行き約30cm、床面からの高さ約22cmを測る。その両端には小ピットがみられる。

竪穴壁外柱穴とみられるピットは計18基検出されており、径22～45cm、深さ25～35cmを測り、竪穴壁面の外側約12～28cmを測る位置で検出されている。



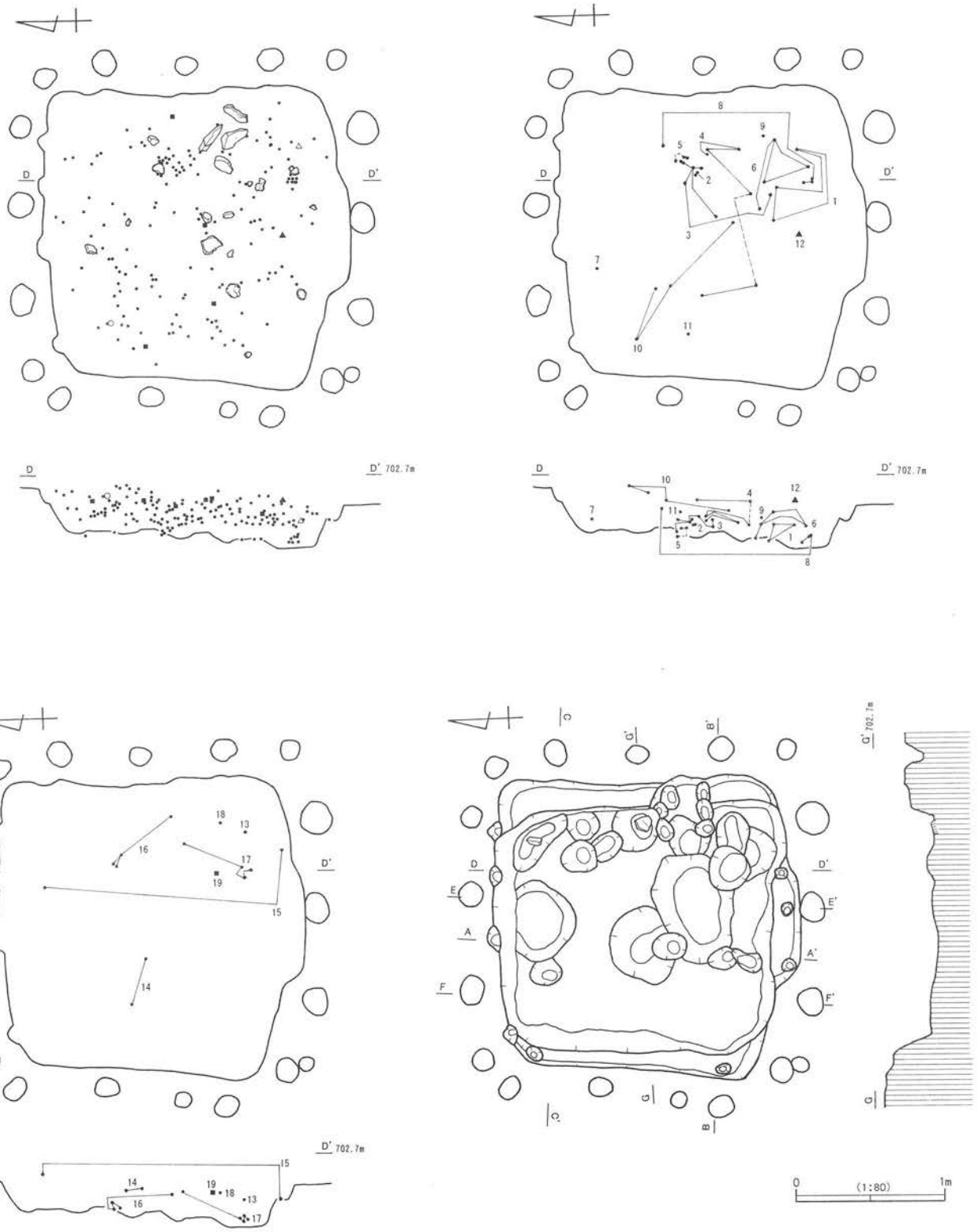
[16号竪穴建物柱穴 土層説明]
a 灰黄褐色砂質土10YR4/2
粘性・しまり有、ローム粒多
b 暗褐色砂質土10YR3/4 粘性・しまり有
2～3mm大ロームブロック少、ローム粒、炭化物粒
c にぶい黄褐色砂質土10YR4/3 粘性・しまり有
5mm大ロームブロック多、炭化物粒
d 灰黄褐色砂質土10YR4/2
粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒多
e 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有
2～3cm大ロームブロック少、ローム粒、炭化物粒



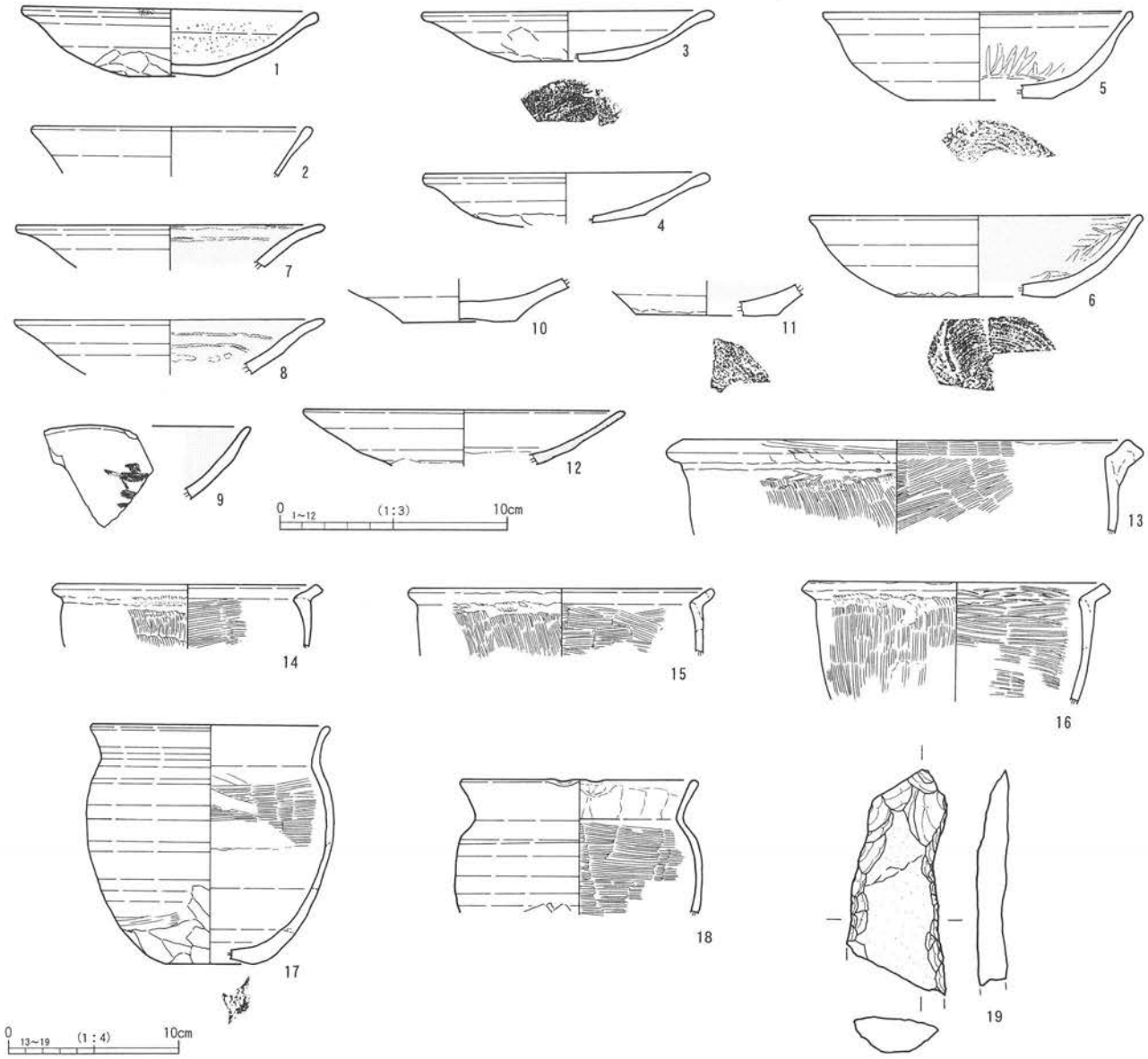
[16号竪穴建物 土層説明]
1 黒褐色砂質土10YR3/1
粘性・しまり有、ローム粒多、5～10mm大ロームブロック、炭化物粒
2 にぶい黄褐色砂質土10YR5/3 粘性・しまり有
2～5mm大ロームブロック多、5～6mm大ロームブロック少、炭化物粒
3 にぶい黄褐色砂質土10YR4/3
粘性・しまり有、5mm大ロームブロック多、炭化材少
4 灰褐色砂質土7.5YR4/2
粘性弱・しまり有、2～3mm大ロームブロック多、炭化物粒、焼土粒
5 にぶい黄褐色砂質土10YR4/3
粘性・しまり有、1～2cm大ロームブロック多、炭化物粒
6 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4
粘性・しまり有、2～5cm大ロームブロック、炭化物粒
7 褐色砂質土10YR4/4
粘性・しまり有、5mm大ロームブロック少、炭化物粒やや多
8 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4
粘性・しまり有、ロームブロック主体、炭化物粒、焼土粒
9 褐灰色砂質土10YR4/1 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒、焼土粒
10 褐色砂質土10YR4/4
粘性・しまり有、5～20mm大ロームブロック多、炭化物粒やや多
11 褐色砂質土10YR4/4 粘性・しまり有、5mm大ロームブロック多、炭化物粒
12 褐色粘質土10YR4/4
粘性・しまり有、5～30mm大ロームブロック、炭化物粒、焼土粒多
13 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック、炭化物粒、灰色粘土粒
14 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有、1～2cm大ロームブロック多

[16号竪穴建物竈 土層説明]
1 にぶい褐色粘質土7.5YR5/4
粘性・しまり有、2～3mm大ロームブロック極多、炭化物粒、焼土粒
2 褐灰色粘質土5YR4/1 粘性弱・しまり有
2～3mm大ロームブロック、5mm大焼土ブロック、炭化物粒少
3 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒多
4 赤黒色粘質土2.5YR2/1 粘性・しまり弱
3～5mm大焼土ブロック、1cm大ロームブロック、炭化物粒多
5 焼土層
6 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
粘性・しまり有、5mm大ロームブロック、炭化物粒、焼土粒
7 褐色粘質土10YR4/4 粘性強・しまり有、1cm大ロームブロック、炭化物粒

第69図 16号竪穴建物・竈



第70図　16号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図・掘り形



第71図　16号竪穴建物出土遺物

【遺物出土状況】

竈の両脇部分と竪穴西側の間仕切りを挟んだ北側、南側部分を中心に分布している。竈の両側部分は主に床下ピット内から土器細片の出土が多い。

【出土遺物】（第71図）

1は推定口径12.9cm、底径3.8cm、器高2.9cmを測る甲斐型土器の皿で、口唇部に油煙がわずかに付着し、体部内面はアバタ状に荒れている。3・4も甲斐型土器の皿。5・6は黒色土器系の坏で、5は黒色処理を施していない。9は墨書土器片で、釈文については不明。12は灰釉陶器皿。13～16は甲斐型土器の甕で小型甕が目立つ。17・18はロクロ整形の広口壺で、胴部下半から底部にかけてヘラケズリが施され、内面には横位のハケメ調整を施している。また18の口唇部の一部は片口状を呈している。19は縄文時代の打製石斧である。

【時　期】平安第Ⅰ段階。

17号竪穴建物（第72～75図）

【位　置】A14・15B16・17グリッドに位置する。

【重　複】18・19号竪穴建物と重複。両竪穴建物を切り込んで構築している。

【形　状】方形。

【規模（長軸m×短軸m）】2.47m（東西）×2.39m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大約0.33mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】3.76㎡。

【長軸方位】N－105°－E。

【埋没状況】

覆土は基本的に3層で、最上層の黒褐色土以下は、暗褐砂質土およびにぶい黄褐色砂質土が主体となっている。床下のピット内はロームブロックと炭化物粒を含む灰黄褐色土が覆土となっている。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

柱穴と思われるピットはみられない。壁下には小ピットを伴う周溝が巡っている。床は比較的堅固で、竈右脇前面部には、径約50cmを測るマウンドがみられる。竪穴の掘り形は、竪穴中央部分を中心にいくつかのピットを掘り込んでいる。

【竈】

東壁部で焼土を含む長軸約80cm、短軸約70cm、深さ約5cmを測る楕円形の掘り込みをもつ掘り形が検出されているが、この掘り形が竈であると思われる。

【その他施設】

特になし。

【遺物出土状況】

遺物の出土量は少なく、散在的な分布状況を示しているが、北西コーナー壁下から一部焼土とともに炭化材が出土している。

【出土遺物】（第76図）

1は、推定口径8.4cm、推定底径4.1cm、器高1.7cmを測る小型皿。2は丸底を呈する羽釜の底部破片。3は推定口径13.4cm、底径5.5cm、器高4.9cmを測る土師質の坏で、底部は回転糸切り未調整である。4は、甲斐型土器の甕と想われる口縁部破片。5～7は羽釜の口縁部から胴部にかけての破片資料である。

【時　期】平安第Ⅱ段階。

18号竪穴建物（第72～75図）

【位　置】A14・15B16・17グリッドに位置する。

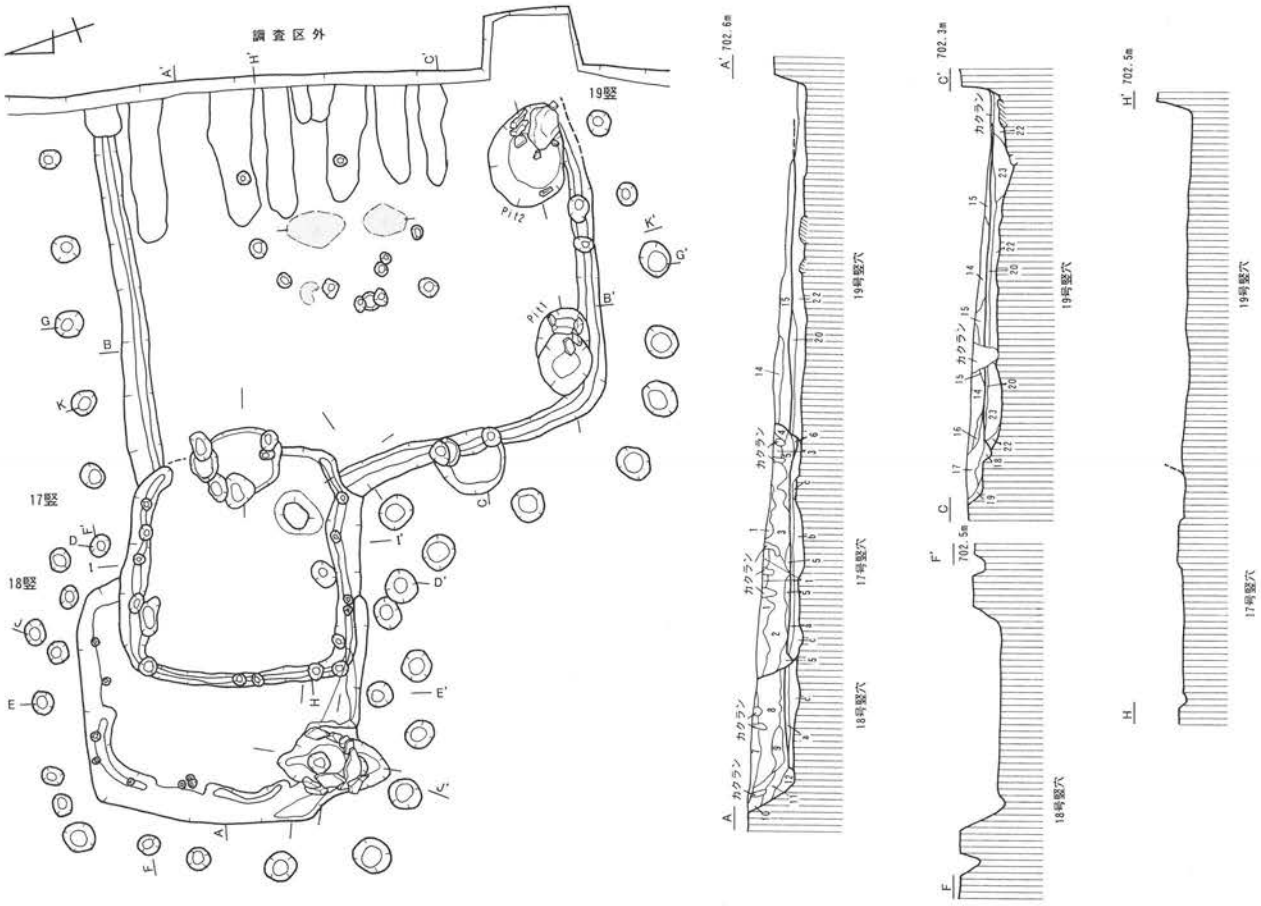
【重　複】17号竪穴建物と重複。同竪穴建物に切られている。

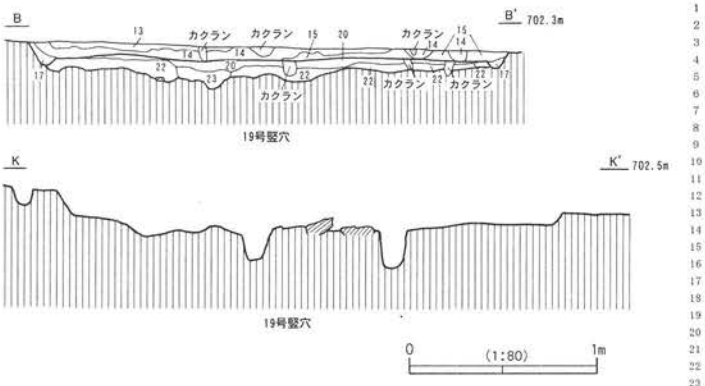
【形　状】長方形。

【規模（長軸m×短軸m）】2.90m（南北）×2.42m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.39mを測る。

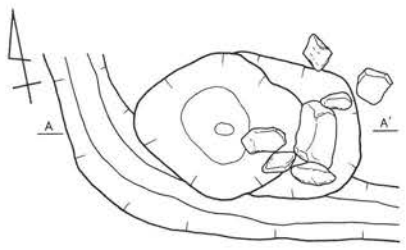
【竪穴部床面積（㎡）】2.42㎡（現存）。





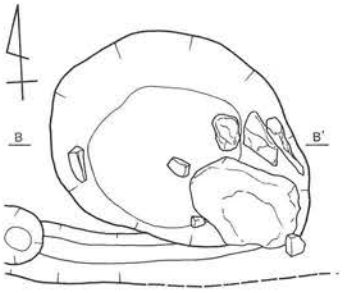
[17～19号竪穴建物 土層説明]

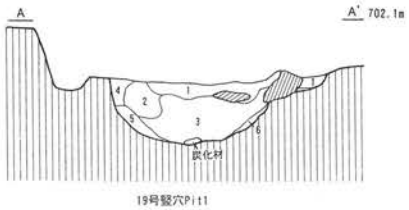
1 黒褐色砂質土10YR3/1 粘性・しまり有,2～5mm大ロームブロック,ローム粒,炭化物粒,焼土粒少
2 暗褐色砂質土10YR3/3 粘性・しまり有,5～15mm大ロームブロック,ローム粒,炭化物粒
3 にぶい黄褐色砂質土10YR4/3 粘性・しまり有,2～3mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒
4 褐灰色砂質土10YR4/1 粘性・しまり有,2～3mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒
5 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有,5mm大ロームブロック,炭化物粒,暗褐色土
6 灰黄褐色砂質土10YR4/2 粘性・しまり有,5mm大ロームブロック多
7 暗褐色砂質土10YR3/3 粘性・しまり有,ローム粒多,炭化物粒
8 黒褐色砂質土10YR3/2 粘性・しまり有,3～5mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒
9 黒褐色砂質土10YR3/1 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック少,ローム粒,炭化物粒
10 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有,3～4cm大ロームブロック多
11 にぶい黄褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有,2～3cm大ロームブロック多,炭化物粒
12 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有,5～10mm大ロームブロック多
13 黒褐色粘質土10YR3/1 粘性・しまり有,ローム粒,炭化物粒
14 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有,5～10mm大ロームブロック,炭化物粒やや多
15 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有,1～3cm大ロームブロック多,炭化物粒
16 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有,5mmロームブロック,炭化物粒,焼土粒
17 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック多
18 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック多
19 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有,ローム粒,炭化物粒
20 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有,5～10mm大ロームブロック,炭化物粒
21 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック多,炭化物粒
22 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有,1～2cm大ロームブロック多
23 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有,2～5mm大ロームブロック多,炭化物粒,黒褐色土



[19号竪穴建物Pit1 土層説明]

1 黒褐色砂質土10YR3/2 粘性・しまり有
5～10mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒
2 黒褐色砂質土10YR3/1 粘性・しまり有,
5～10mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒,焼土ブロック
3 灰黄褐色砂質土10YR4/2 粘性・しまり有
2～5cm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒
4 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有
5～10mm大ロームブロック,ローム粒多
5 灰黄褐色砂質土10YR5/2 粘性・しまり有,ローム粒多,炭化物粒
6 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有,ローム粒多,炭化物粒少



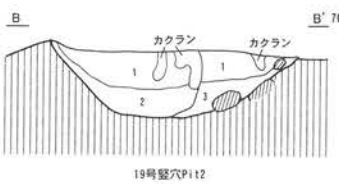


19号竪穴Pit1

[19号竪穴建物Pit2 土層説明]

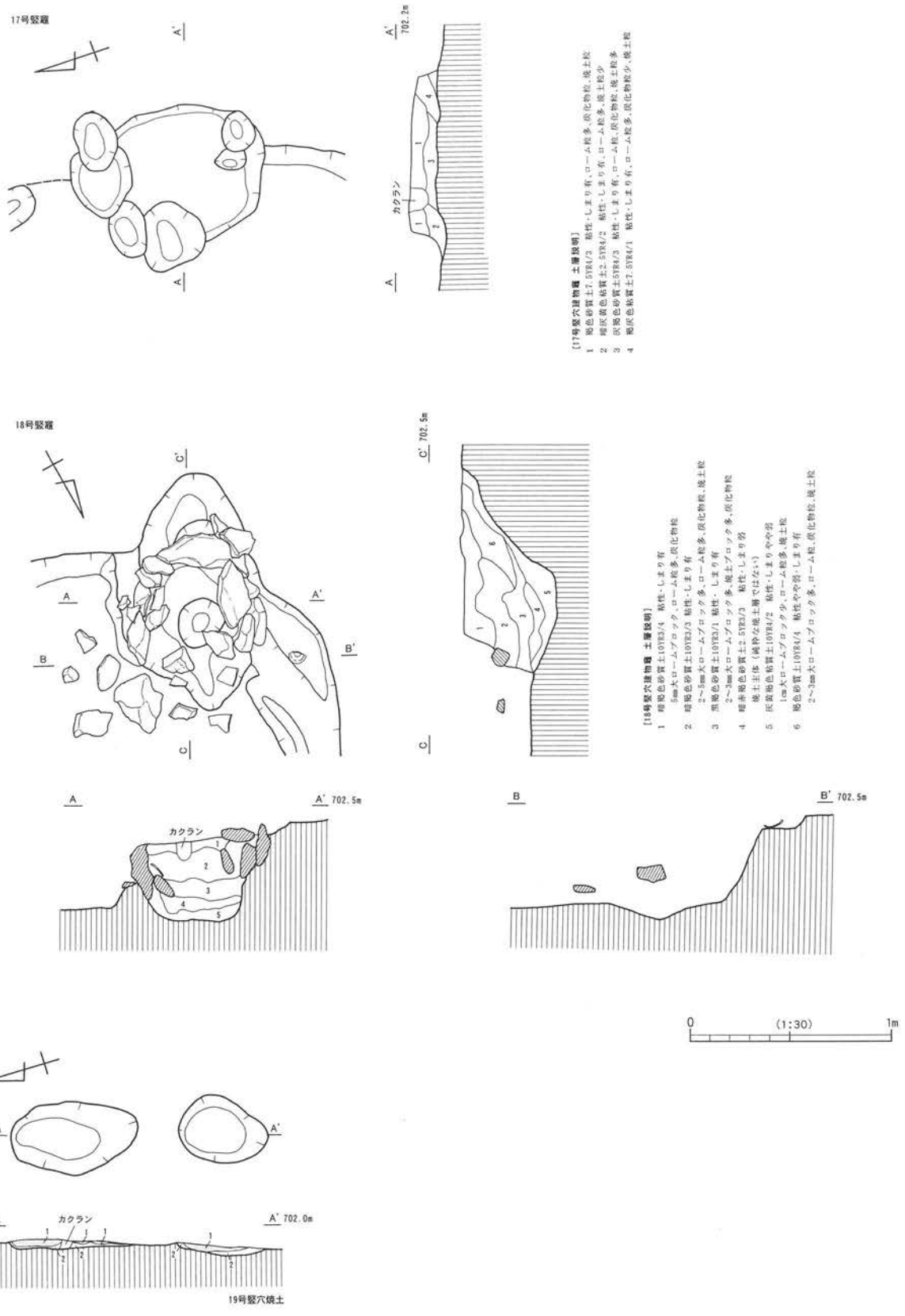
1 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有
1cm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒
2 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有
1cm大ロームブロック多,ローム粒,炭化物粒
3 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有
1cm大ロームブロック,ローム粒,炭化物粒

0 (1:30) 1m

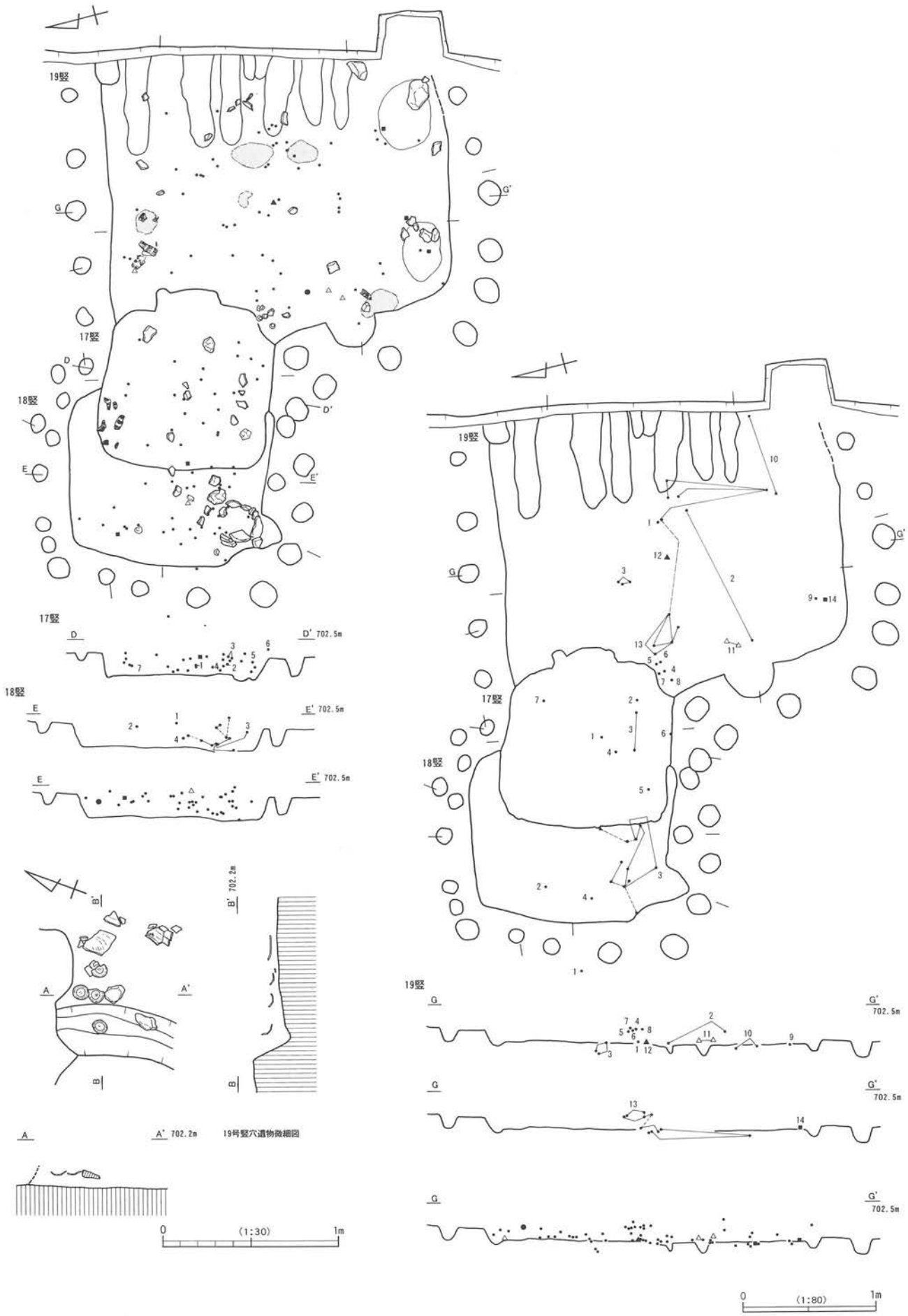


19号竪穴Pit2

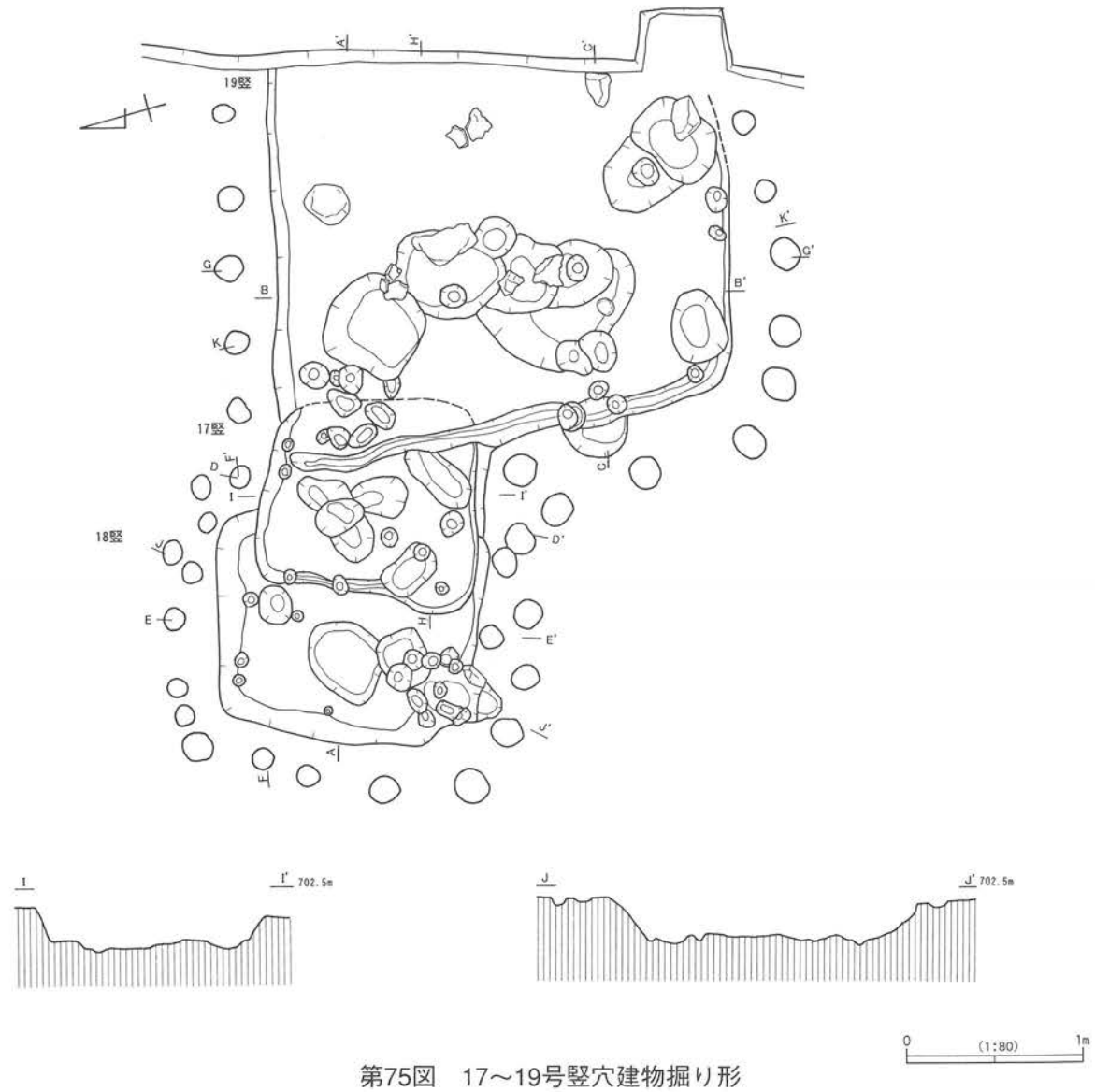
第72図 17～19号竪穴建物・19号竪穴Pit1・2



第73図　17･18号竪穴建物竈・19号竪穴建物焼土



第74図　17～19号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図・19号竪穴建物遺物微細図



第75図　17～19号竪穴建物掘り形

【長軸方位】N－24°－E。

【埋没状況】

覆土は基本的に３層で、最上層の暗褐色砂質土以下は、黒褐色砂質土およびにぶい黄褐色粘質土となっている。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

床面はやや凹凸をもつが、比較的堅固である。西壁下のみに周溝がみられるが、他の壁下には小ピットもみられる。竪穴の掘り形は、竈前面部を比較的深めに掘り込んでいる。

【竈】

南西コーナー部に構築されている。両袖石と天井石の一部が残存している。燃焼部内や竈周辺部には構築材と思われる礫が散乱している。燃焼部内における焼土の残存は顕著ではないが、覆土層中には多量の焼土および焼土粒を含んでいる。また燃焼部内には支脚石の抜き取り痕とみられるピットも認められる。

【その他施設】

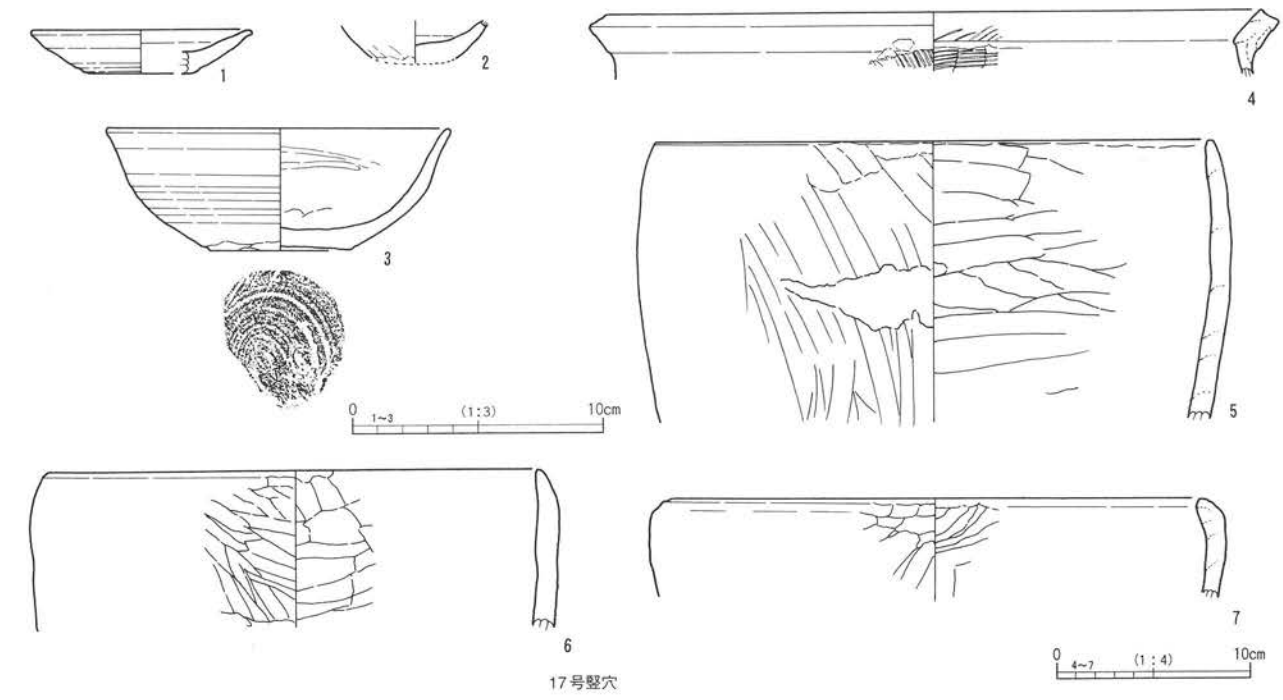
遺物の出土状況から竈両脇において棚状施設が存在した可能性が高い。

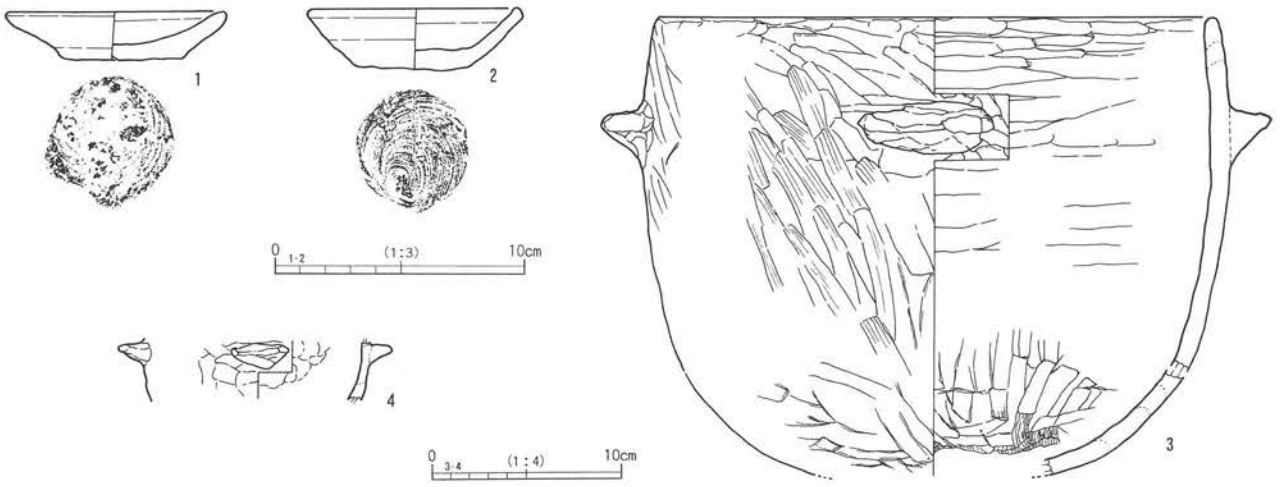
【遺物出土状況】

竈周辺部および西壁下を中心に分布している。西壁下では、土師質土器皿が壁上部から転落したような出土状態を示している。竈右袖脇において遺構確認面下約５cmのレベルから、土師質土器皿が出土している。

【出土遺物】（第76図）

１・２は、口径8.2～8.6cm、底径4.6～4.8cm、器高1.9～2.4cmを測る小型皿である。３は丸底を呈し、抓み状の把手をもつ羽釜で、推定口径29.0cm、推定器高25.0cm前後を測る。ヘラケズリとナデを多用している。４は小型の羽釜で、外面はヘラケズリとナデ、内面には指頭痕が顕著に残る。また、内外面に漆状の付着物がみられる。





第76図　17・18号竪穴建物出土遺物

【時　期】平安第Ⅱ段階。

19号竪穴建物（第72～75図）

【位　置】A13～15B17・18グリッドに位置する。

【重　複】17号竪穴建物と重複。同竪穴建物に切られている。

【形　状】本竪穴建物の東側部分は調査区域外にのびているため全体像は不明であるが、方形を呈すると思われる。

【規模（長軸m×短軸m）】5.14m（南北）×現存長4.15m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.17mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】19.89㎡（現存）。

【長軸方位】N－13°－E。

【埋没状況】

遺構上部の東側は、後世の削平や畑の畝による撹乱を受けており、遺構全体としての遺存状況は良くない。覆土は基本的に3層で、黒褐色粘質土と炭化物粒を含む灰黄褐色粘質土が中心となる。北壁際と西壁際には部分的に焼土の堆積がみられた。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

主柱穴と思われるピットは床面段階では確認できなかったが、掘り形段階で径約30cm、深さ約40cmを測る柱穴状のピットが2基検出されている。壁下には小ピットを伴う周溝が巡っている。竪穴の掘り形は、西側部分が土壙状にやや深く掘り下げられている箇所がみられる。

【竈・炉】

竈は確認されていない。竪穴中央部において床面が焼け、焼土化して硬化した範囲が三箇所確認されている。その内の2箇所は楕円形を呈し、長軸50～60cm、短軸35～40cmを測り、深さ5cmほどの浅い掘り込みをもつ。またこれら焼土範囲を取り囲むように小ピットも検出されている。

【その他施設】

南壁下に2基の土壙状ピットと、東壁中央やや南寄りの位置において階段状施設、竪穴壁外柱穴等が検出されている。Pit1は長軸約89cm、短軸約57cm、深さ約25cmを測る。Pit2は長軸約110cm、短軸約80cm、深さ約25cmを測る。両Pitともに出土遺物はないが、礫を含んでおり、Pit1の壙底から炭化材が出土している。

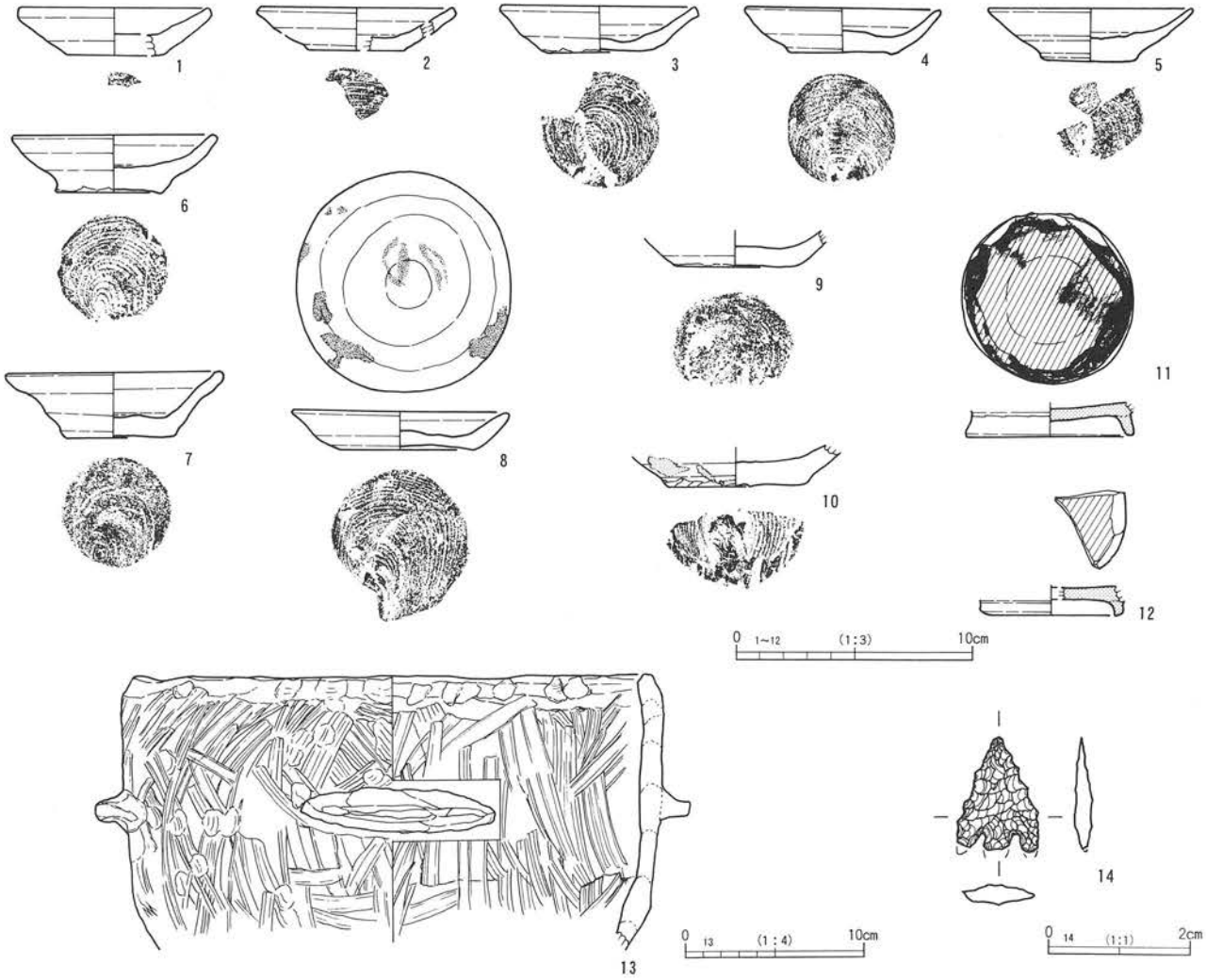
階段状施設は、竪穴壁外に張り出すように半月状に掘り込まれており、幅約72cm、奥行き約40cmを測る。床面との段差はほとんどなく、同施設両脇にはピットを伴う。竪穴壁外柱穴と思われるピットは13基検出されている。径約20～40cm、深さ約20cmを測る。

【遺物出土状況】

遺物全体の出土量は多くはないが、西壁沿いおよび焼土範囲下部の掘り形内を中心に出土している。特に西壁中央壁下では、床面上3～6cmのレベルに土師質の小型皿の完形品や羽釜片がややまとまって出土しており、小型皿は大半が正位の状態での出土ではあるが、一部には竪穴壁上部から転落したかのような斜位の状態で出土しているものもみられる。

【出土遺物】（第77図）

1～10は小型皿で、1～6はその口径が8.0～8.4cm前後であるのに対し、7・8は9.0cmを測る。



第77図　19号竪穴建物出土遺物

また８には体部内面を中心に油煙が付着している。10は底部破片であるが、体部外面から、割れ口にまで漆の付着が認められる。

11・12は灰釉陶器片である。11は高台が三日月形状であるが、外面下方の稜が不明瞭となっている。また12も同じであるが、底部内面がよく磨れており、体部を故意に打ち欠いた痕跡も認められることから、転用硯の可能性が強い。さらに11は、内面全体が黒ずんでおり、墨痕と考えられる。

13は、抓み状の把手が付いた羽釜で、14は縄文時代の石鏃である。

【時　期】平安第Ⅱ段階。

20号竪穴建物（第78～81図）

【位　置】A19～21B15・16グリッドに位置する。

【重　複】９号竪穴建物と重複。９号竪穴建物が本竪穴建物覆土上部を掘り込んで構築している。本竪穴自体も建て替え有り。

【形　状】楕円形。

【規模（長軸m×短軸m）】約6.28m（南北）×約5.57m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大約0.65mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】22.6㎡。

【長軸方位】N－16°－E。

【埋没状況】

覆土は基本的に８層からなり、上層の１～４層、中・下層の５～８層に大きく分けることができる。中・下層の５・６層はロームブロックや炭化物、焼土が混じる暗褐色砂質土で、遺物も多く含んでいる。７・８層は炭化物粒は混じるものの、焼土が混入しない黄褐色および褐色砂質土で、壁際の三角堆積土である。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

柱穴の重複関係から、a・b・c（新・中・古）最低３段階の建て替えが想定される。20a号は７本柱穴の竪穴で、柱穴を結ぶように周溝が巡り、段差となり壁際がベッド状を呈している。20b号は５～６本柱穴の竪穴、20c号も６～７本柱穴の竪穴と思われる。b・c段階のピット間にも周溝が検出されていることから、a段階からベッド状の段差を持っていた可能性は強い。

ピットの深さは確認面から60cmから70cm前後を測り、大半の柱穴は深さが揃っている。Pit３の壙底近くには大型土器片が、またPit６上面には底部を欠いた深鉢形土器が入り込んでいた。

【炉】

炉は、竪穴中央のやや北寄りにあり、楕円形を呈する掘り形のみを検出している。おそらく石囲炉であったと思われる。炉覆土上面（床面直上レベル）には扁平な大型礫と拳大の礫が置かれたような状態で出土している。焼土の堆積は認められなかったが、壙底面が焼土化してさらに硬化している状況が確認されている。炉と思われる施設はこれ以外認められず、a・b・c各段階ともにこの炉が使用されたものと思われる。

【その他施設】

炉南側のPit８とPit９を挟んだ位置には、ロームブロックが多量に混じる黒褐色土で構築されたマウンドがみられる。床面との段差は約20cm前後を測る。出入口状施設に伴うものかもしれない。

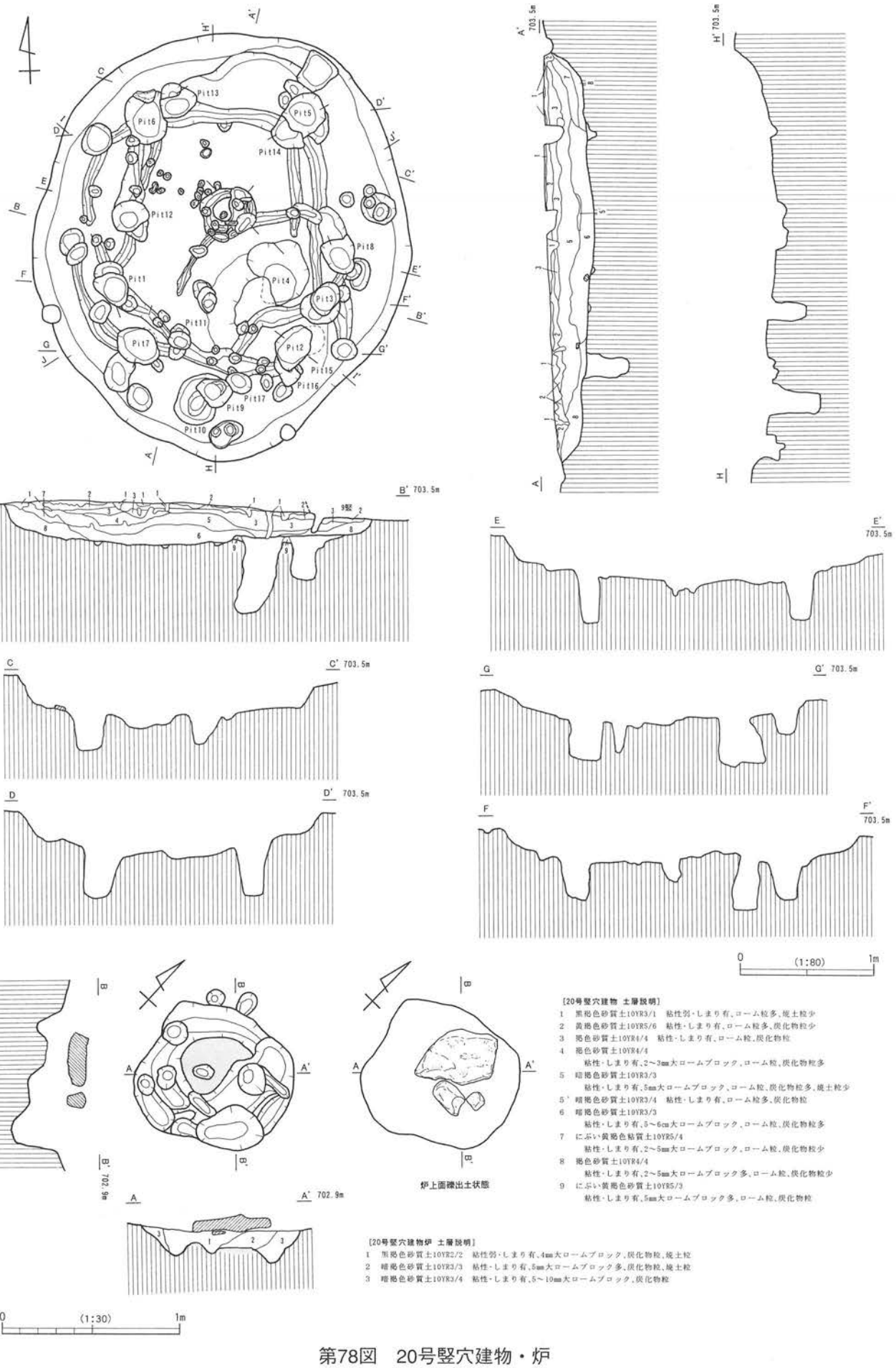
【遺物出土状況】

遺物は覆土各層位からまんべんなく出土しているが、５層・６層中からの出土が特に多く、平面分布もそれに対応している。竪穴北上半の各柱穴（Pit６・８・12・14等）脇のベッド段下の壁際から深鉢形土器の一括土器群の出土が目立ち、炉東脇の覆土中層から下層にかけて、大型深鉢形土器の同一破片が一括廃棄された状態で出土している。

さらに特徴的なのは、床面直上から床面上10cm内外のレベルから拳大より一回り小さい扁平な自然礫（方形を呈するものが多い）が、比較的まとまって出土している。その礫自体の用途等は不明である。また、鳴子が入った円錐形を呈する土偶と思われる小形の土製品が、竪穴南西部の床面上約10cmのレベルから出土している。

【出土遺物】（第82～88図）

出土遺物は土器・石器ともに膨大な量であり、個々の遺物の説明については観察表を参照されたい。出土土器は縄文時代中期前葉の新道式期から藤内式期に及んでいる。土器組成では深鉢形土器、浅鉢形土器、鉢形土器、台付土器、有孔鍔付土器等がみられる。深鉢形土器もキャリパー状のものや、樽形状のもの、胴部が段状に脹らんだり括れたりする器形のもの（34）等もみられる。また平出三類Ａ系土器の異系統土器（24）もわずかながらであるがみられる。縄文時代中期以外では、早



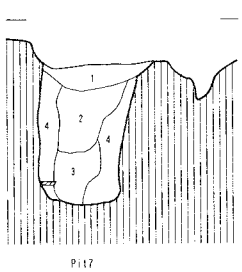
[20号竪穴建物 土層説明]

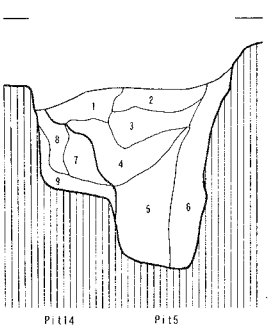
1 黒褐色砂質土10YR3/1 粘性弱・しまり有、ローム粒多、焼土粒少
2 黄褐色砂質土10YR5/6 粘性・しまり有、ローム粒多、炭化物粒少
3 褐色砂質土10YR4/4 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒
4 褐色砂質土10YR4/4
粘性・しまり有、2～3mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒多
5 暗褐色砂質土10YR3/3
粘性・しまり有、5mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒多、焼土粒少
5' 暗褐色砂質土10YR3/4 粘性・しまり有、ローム粒多、炭化物粒
6 暗褐色砂質土10YR3/3
粘性・しまり有、5～6cm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒多
7 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4
粘性・しまり有、2～5mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒少
8 褐色砂質土10YR4/4
粘性・しまり有、2～5mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒少
9 にぶい黄褐色砂質土10YR5/3
粘性・しまり有、5mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒

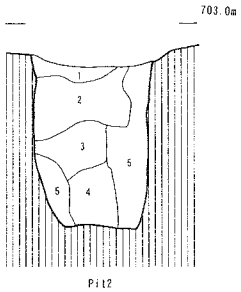
[20号竪穴建物炉 土層説明]

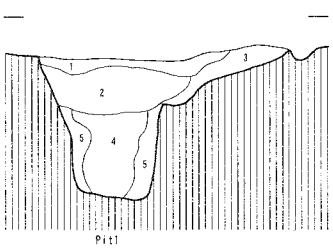
1 黒褐色砂質土10YR2/2 粘性弱・しまり有、4mm大ロームブロック、炭化物粒、焼土粒
2 暗褐色砂質土10YR3/3 粘性・しまり有、5mm大ロームブロック多、炭化物粒、焼土粒
3 暗褐色砂質土10YR3/4 粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック、炭化物粒

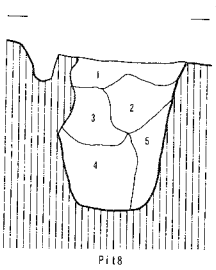
第78図 20号竪穴建物・炉





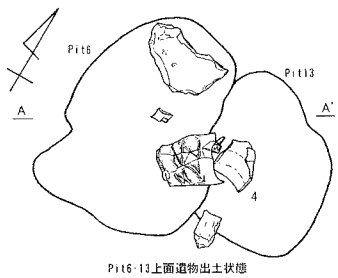






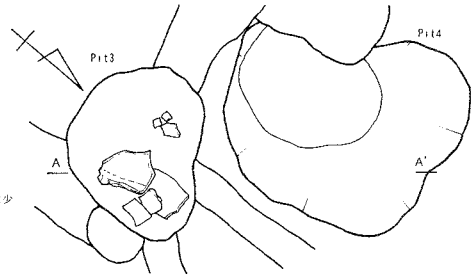
【20号竪穴建物Pit1 土層説明】
1 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、1cm大ローム ブロック少、ローム粒
2 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、1cm大ローム ブロック少、ローム粒、炭化物粒
3 黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、1cm大ローム ブロック多、ローム粒、炭化物粒少
4 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
粘性・しまり有、2～5mm大ローム ブロック多、ローム粒、炭化物粒少
5 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性有・しまり強、3～10cm大ローム ブロック多、炭化物粒少

【20号竪穴建物Pit2 土層説明】
1 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有、5mm大ローム ブロック、ローム粒、炭化物粒少
2 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、5mm大ローム ブロック多、ローム粒、炭化物粒少
3 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有、5～10mm大ローム ブロック多、ローム粒、炭化物粒少
4 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、1cm大ローム ブロック多、ローム粒、炭化物粒少
5 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有、5～10mm大ローム ブロック多、ローム粒

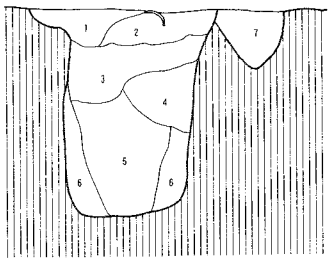


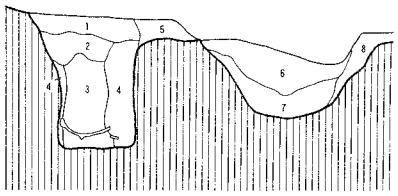
Pit6・13上面遺物出土状態

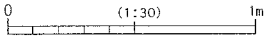
【20号竪穴建物Pit3・4 土層説明】
1 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4
粘性・しまり有、2～5mm大ローム ブロック、ローム粒、炭化物粒少
2 褐色粘質土10YR4/4
粘性・しまり有、2～5mm大ローム ブロック、ローム粒、炭化物粒
3 褐色粘質土10YR4/6
粘性・しまり有、5～10mm大ローム ブロック、ローム粒、炭化物粒
4 黄褐色粘質土10YR5/6
粘性有・しまり強、1～2cm大ローム ブロック多、ローム粒、炭化物粒少
5 にぶい黄褐色粘質土10YR5/3
粘性・しまり有、5mm大ローム ブロック多、ローム粒、炭化物粒少
6 黒褐色砂質土10YR3/1 粘性やや弱・しまり有、
2mm大ローム ブロック多、2mm大焼土 ブロック微少、ローム粒
7 黒褐色砂質土10YR3/1 粘性やや弱・しまり有
2～5mm大ローム ブロック多、ローム粒、炭化物粒少
8 灰黄褐色砂質土10YR4/2
粘性やや弱・しまり有、3～5mm大ローム ブロック多、炭化物粒

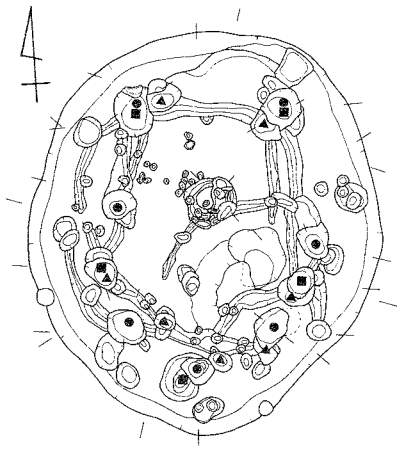


Pit3遺物出土状態








20号竪穴柱穴配列想定図 [1/120]

● ･･･a段階 ■ ･･･b段階 ▲ ･･･c段階

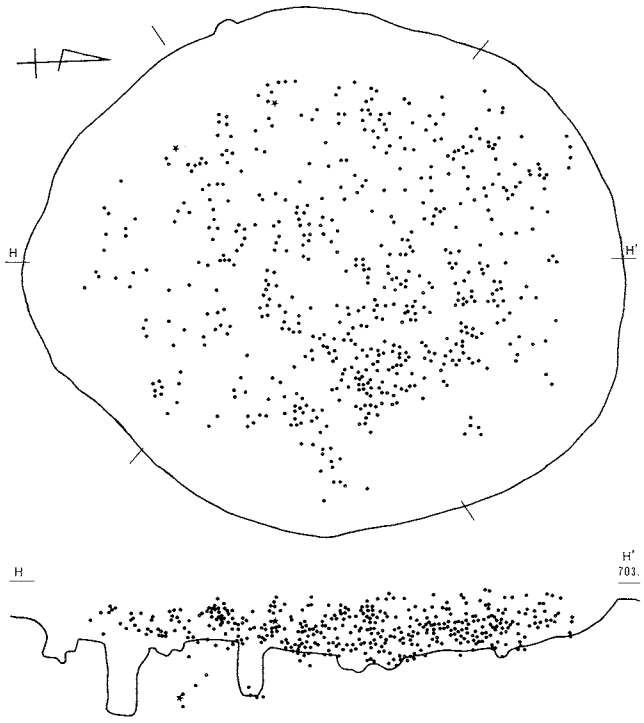
【20号竪穴建物Pit5・14 土層説明】
1 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、5mm大ローム ブロック多、炭化物粒
2 黄褐色粘質土10YR5/8 粘性・しまり有、5mm大炭化物粒少、褐灰色粘質土
3 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有、2～3mm大ローム ブロック、褐灰色粘質土
4 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有、2～5mm大ローム ブロック多、炭化物粒
5 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、5～10mm大ローム ブロック、炭化物粒少
6 黄褐色粘質土10YR5/8 粘性・しまり有、1cm大ローム ブロック多、炭化物粒少
7 暗褐色粘質土10YR3/4 粘性・しまり有、5mm大ローム ブロック多、炭化物粒少
8 暗褐色粘質土10YR3/3 粘性・しまり有、5mm大ローム ブロック多、炭化物粒少
9 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有、5～10mm大ローム ブロック多

【20号竪穴建物Pit6・13 土層説明】
1 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、3mm大ローム ブロック多、炭化物粒
2 にぶい黄褐色粘質土10YR5/3 粘性・しまり有、1～3mm大ローム ブロック多、炭化物粒
3 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有、1～2cm大ローム ブロック多、炭化物粒多
4 暗褐色粘質土10YR3/4 粘性・しまり有、1～2cm大ローム ブロック多、炭化物粒
5 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、1～2cm大ローム ブロック多、炭化物粒多
6 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、1cm大ローム ブロック多
7 黄褐色粘質土10YR5/8 粘性・しまり有、2～3mm大ローム ブロック多、炭化物粒

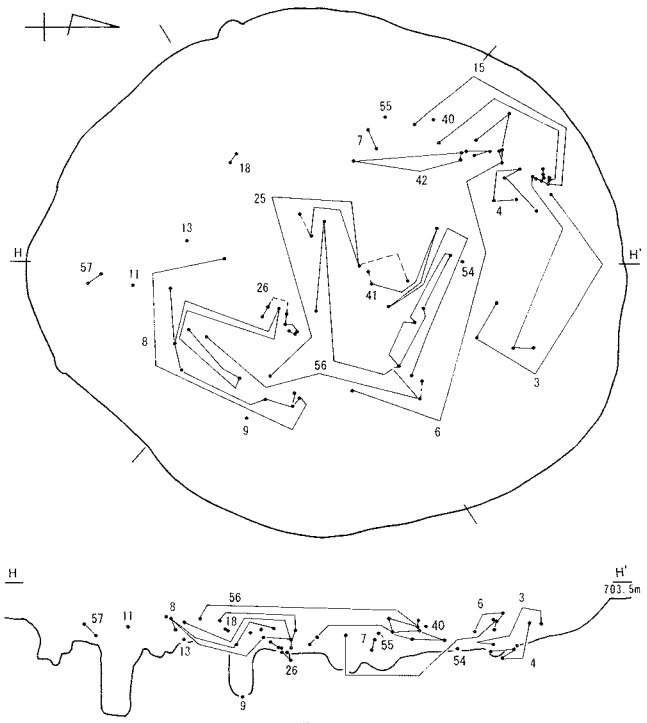
【20号竪穴建物Pit7 土層説明】
1 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有、2～3mm大ローム ブロック多、炭化物粒微少
2 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、3～10mm大ローム ブロック
3 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、3～10mm大ローム ブロック
4 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有、5～10mm大ローム ブロック、炭化物粒微少

【20号竪穴建物Pit8 土層説明】
1 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有、1～2cm大ローム ブロック、炭化物粒
2 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、1～2cm大ローム ブロック多、炭化物粒
3 にぶい黄褐色粘質土10YR5/3 粘性・しまり有、5～10mm大ローム ブロック多、炭化物粒
4 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、5～20mm大ローム ブロック多、炭化物粒
5 黄褐色粘質土10YR5/8 粘性・しまり有、5～20mm大ローム ブロック多、炭化物粒

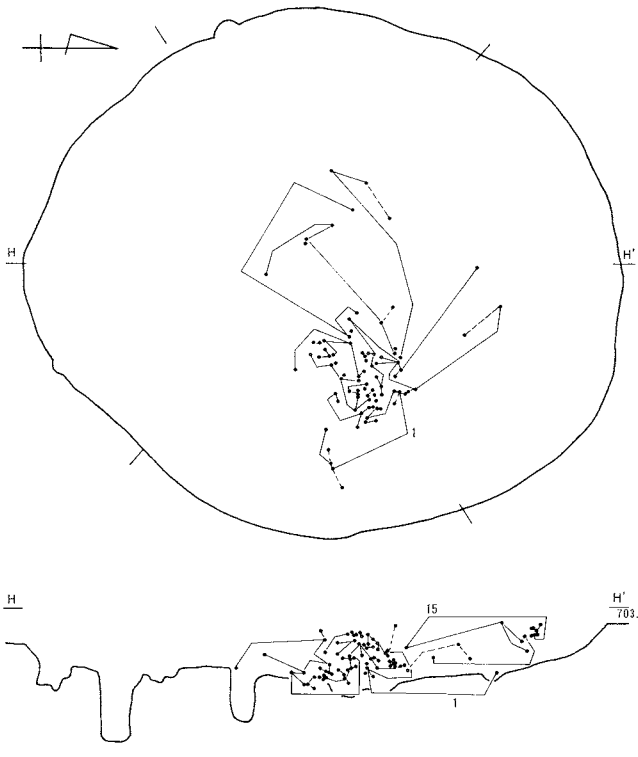
第79図 20号竪穴建物柱穴土層図・柱穴遺物出土状態・柱穴配列想定図



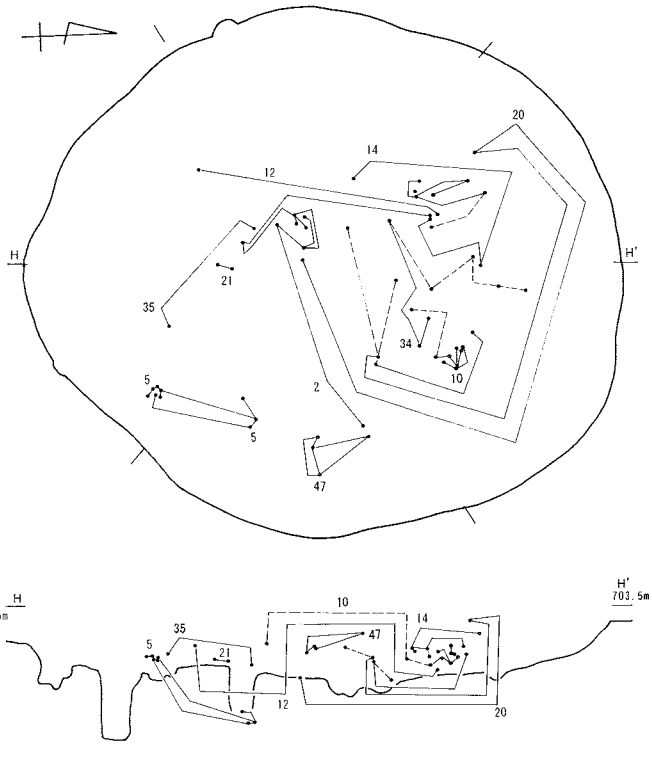
土器・土製品類分布状態



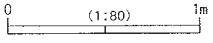
土器接合状況①



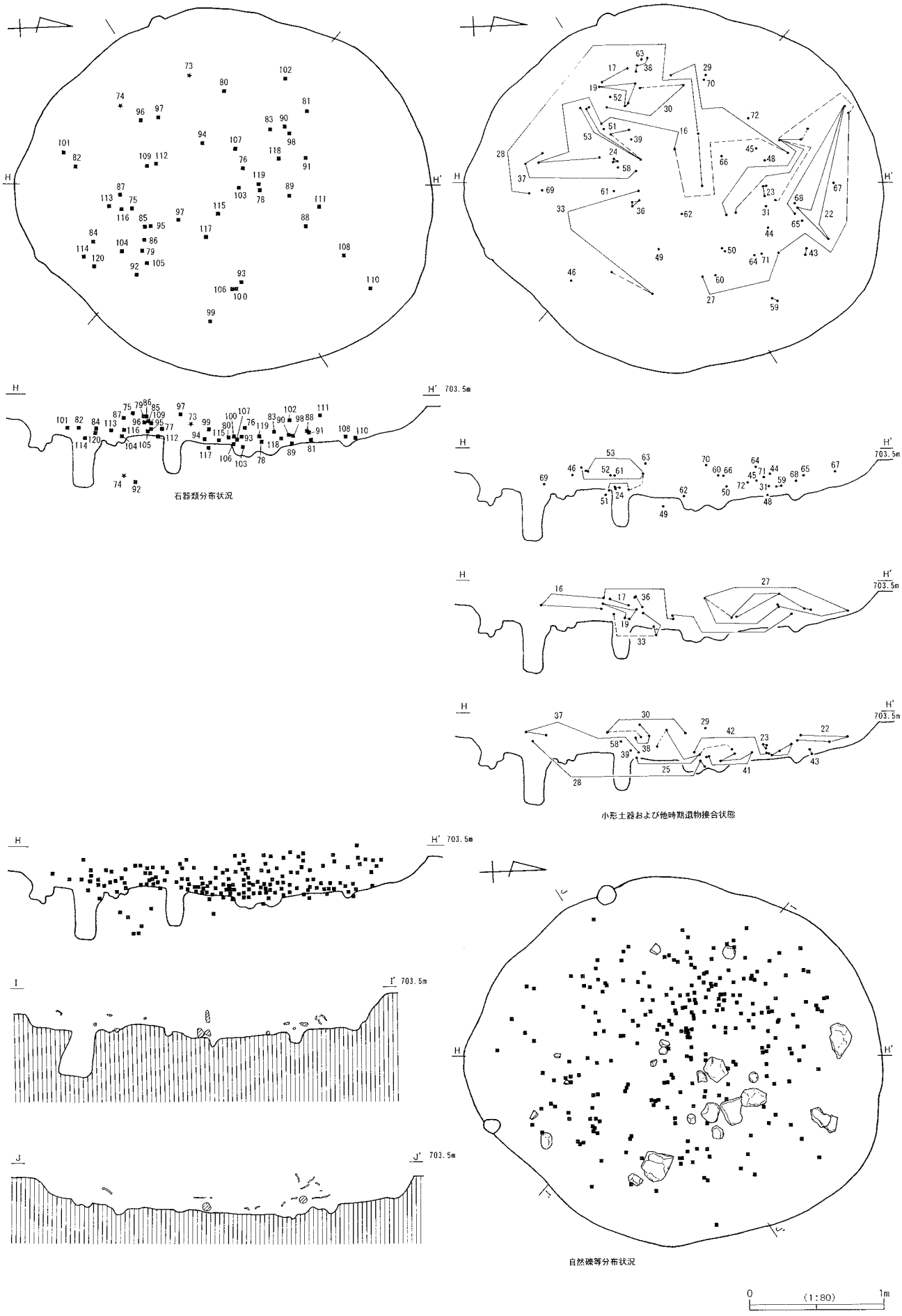
土器接合状況②



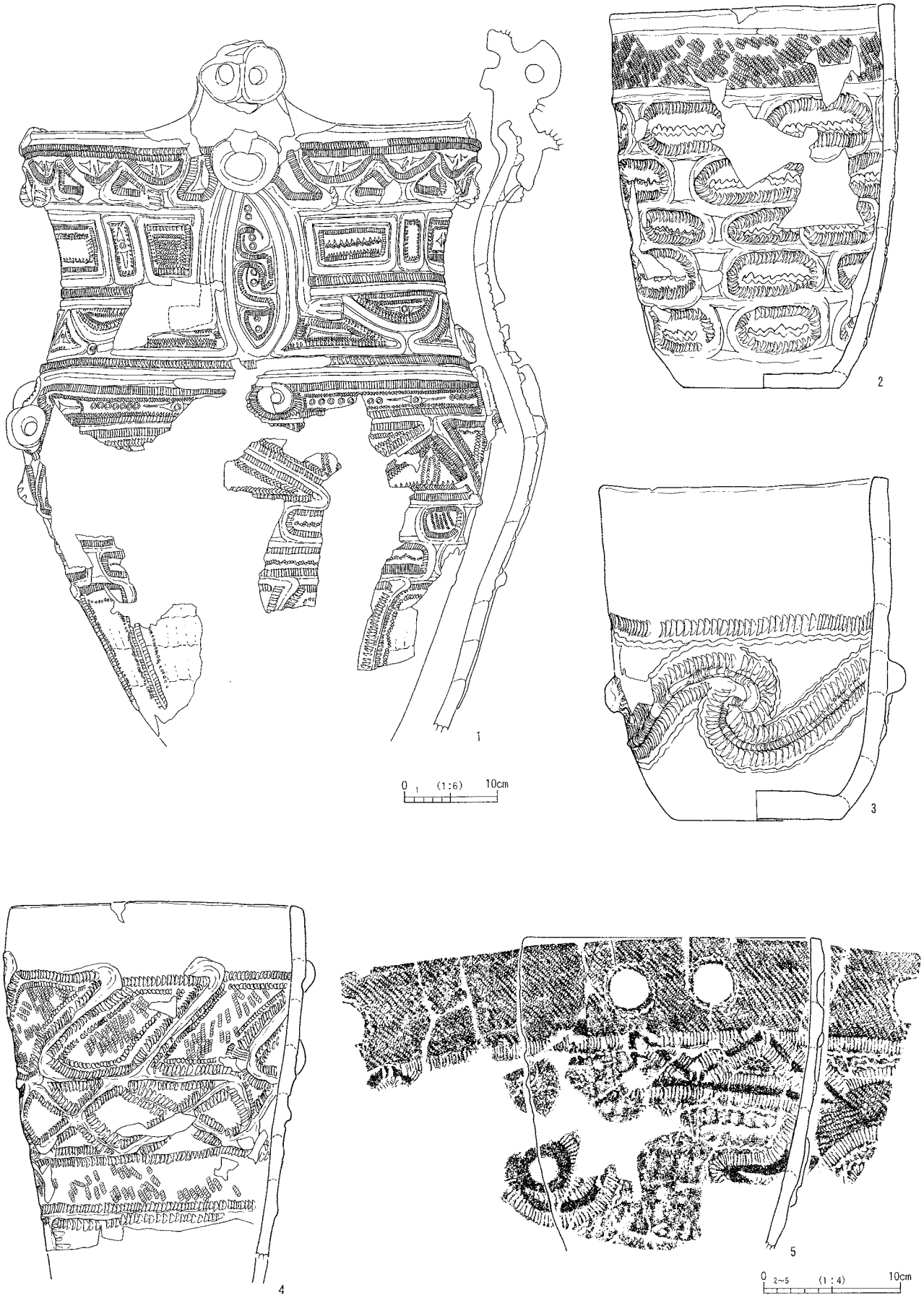
土器接合状況③



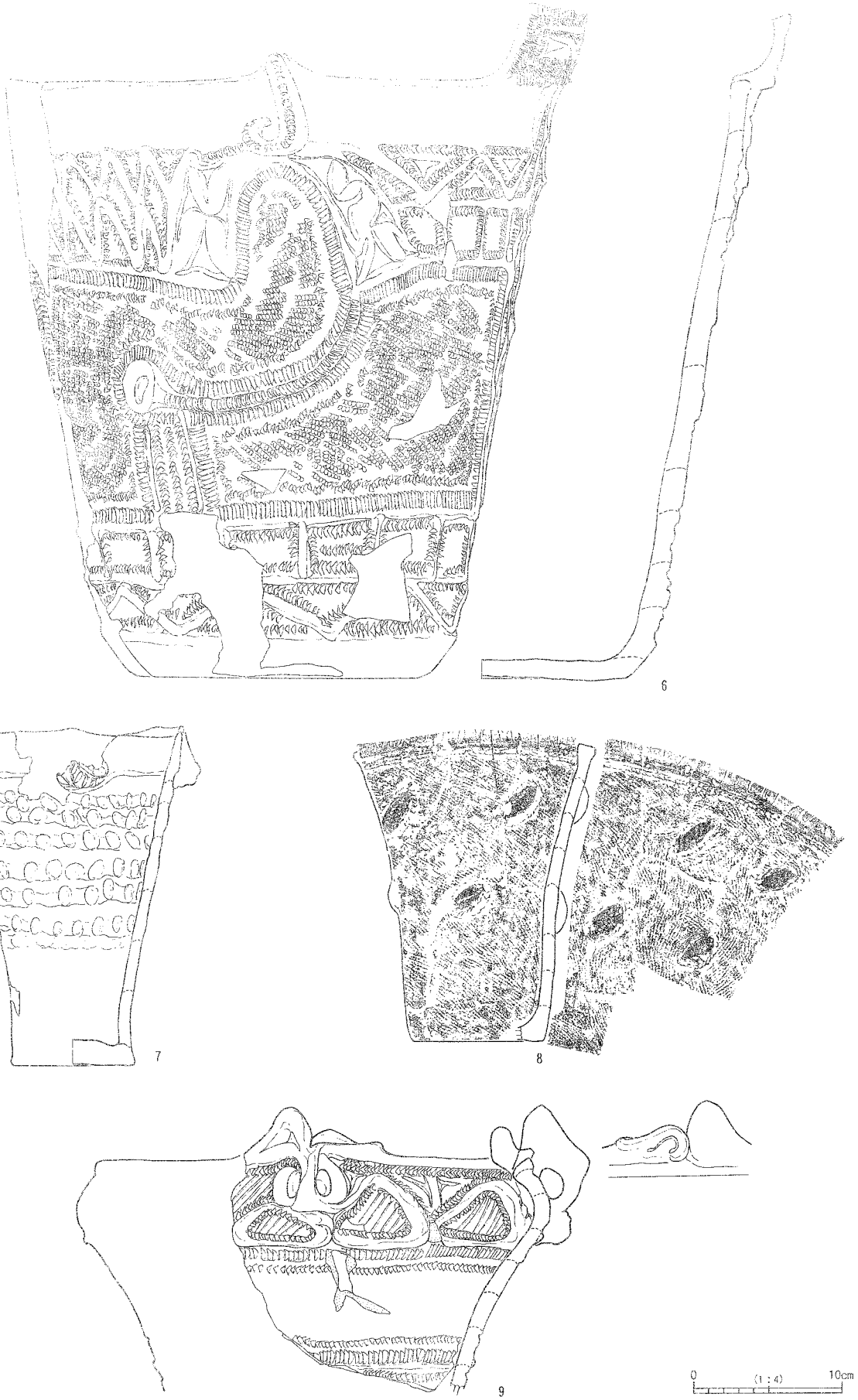
第80図　20号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図（1）



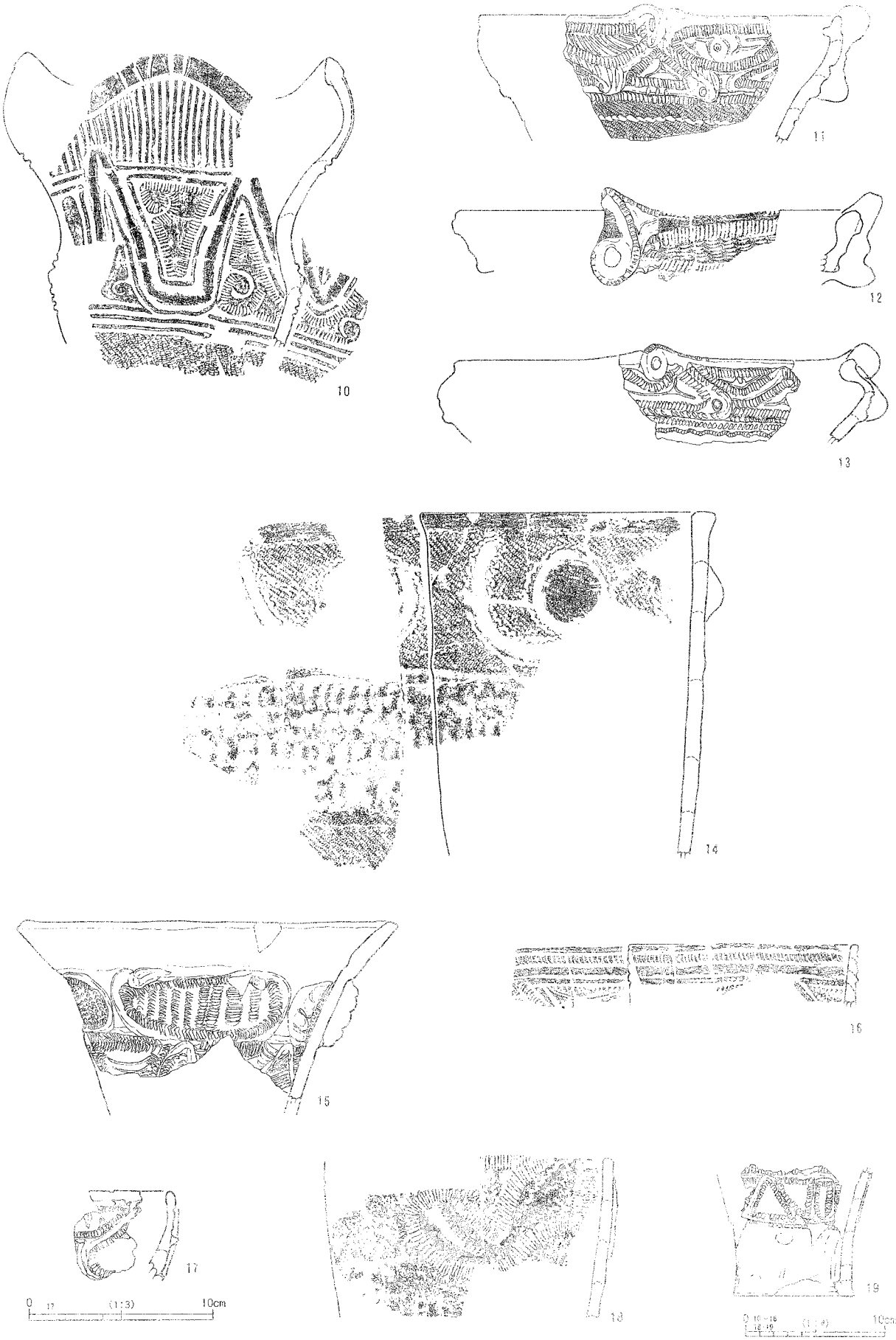
第81図　20号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図（2）



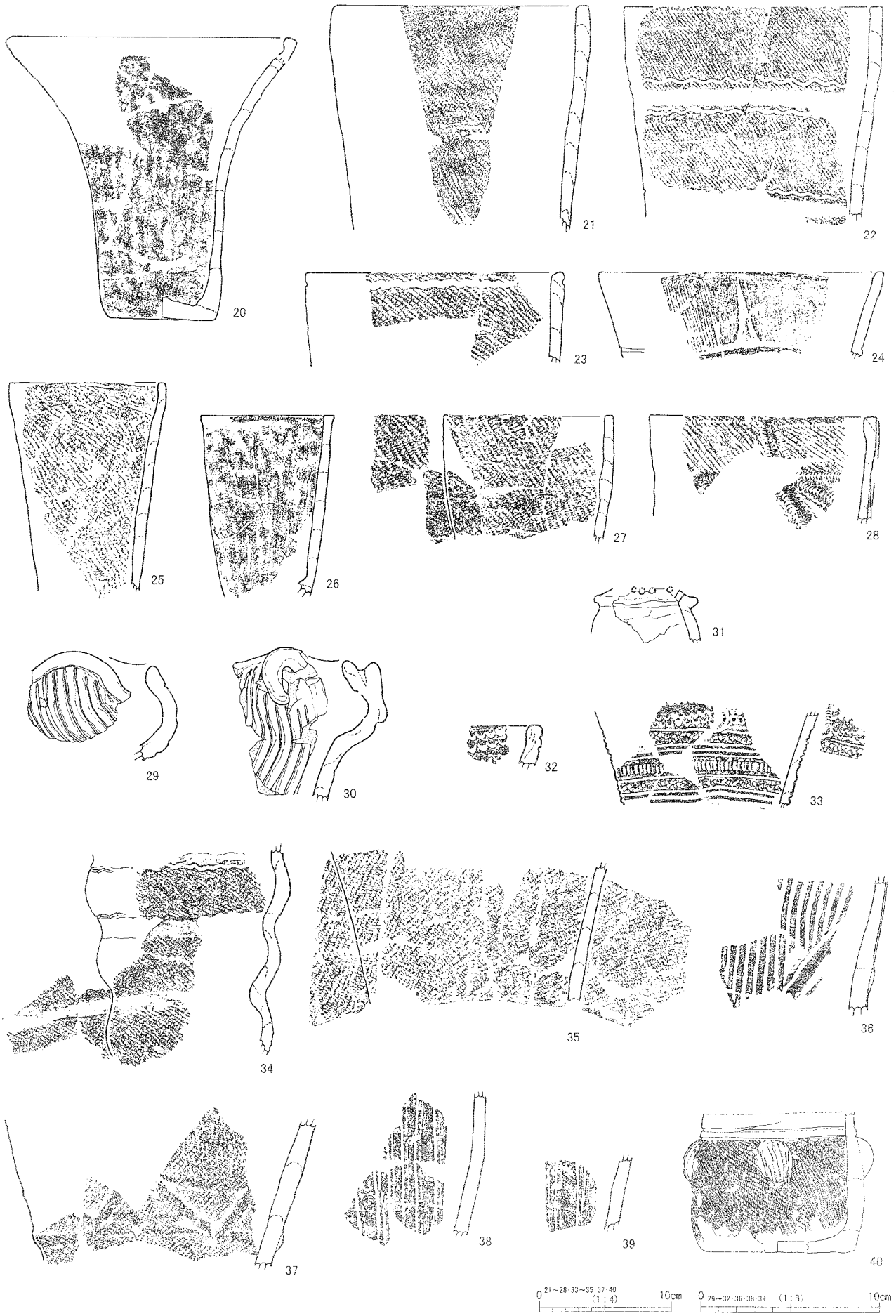
第82図　20号竪穴建物出土遺物（1）



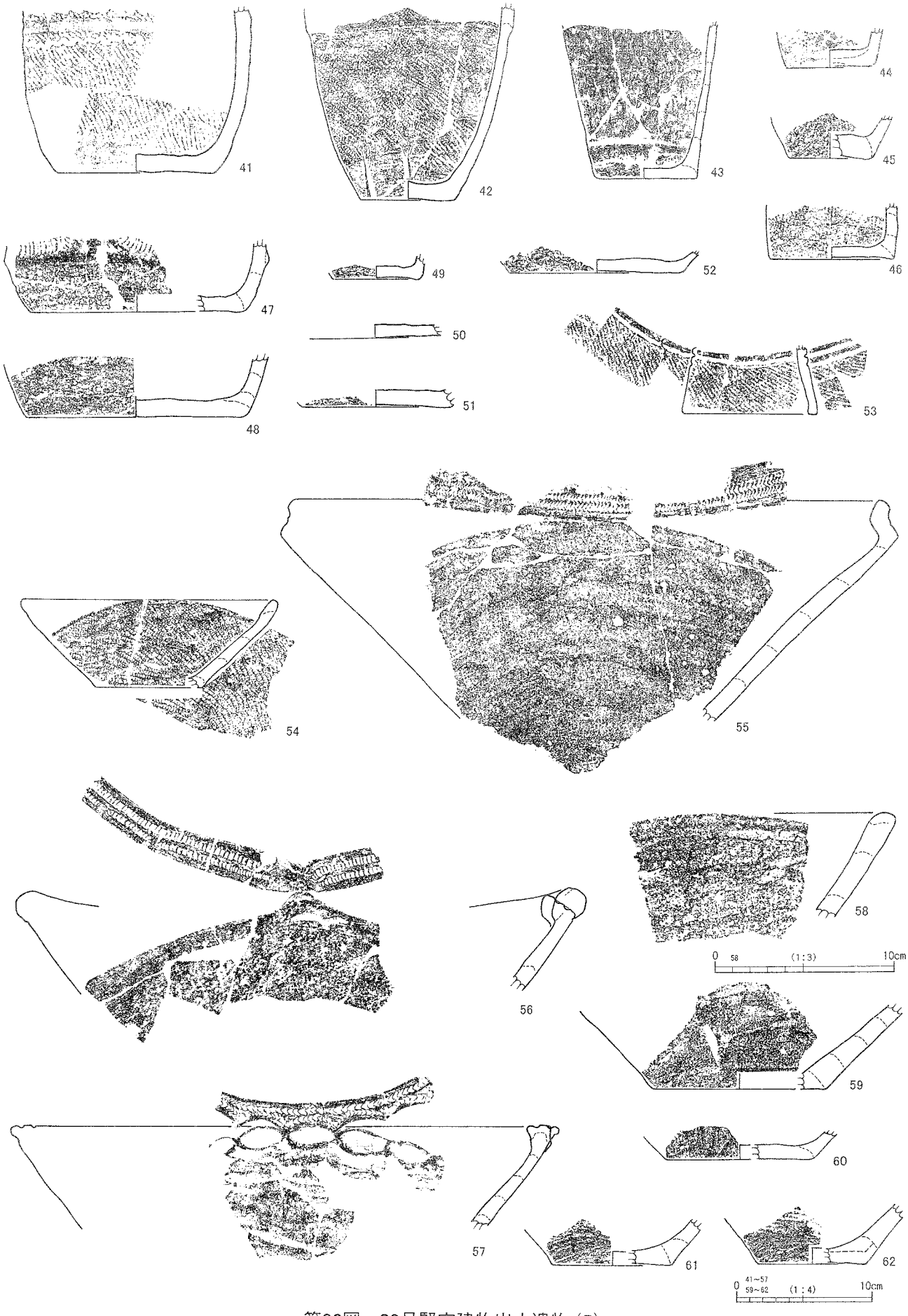
第83図　20号竪穴建物出土遺物（2）



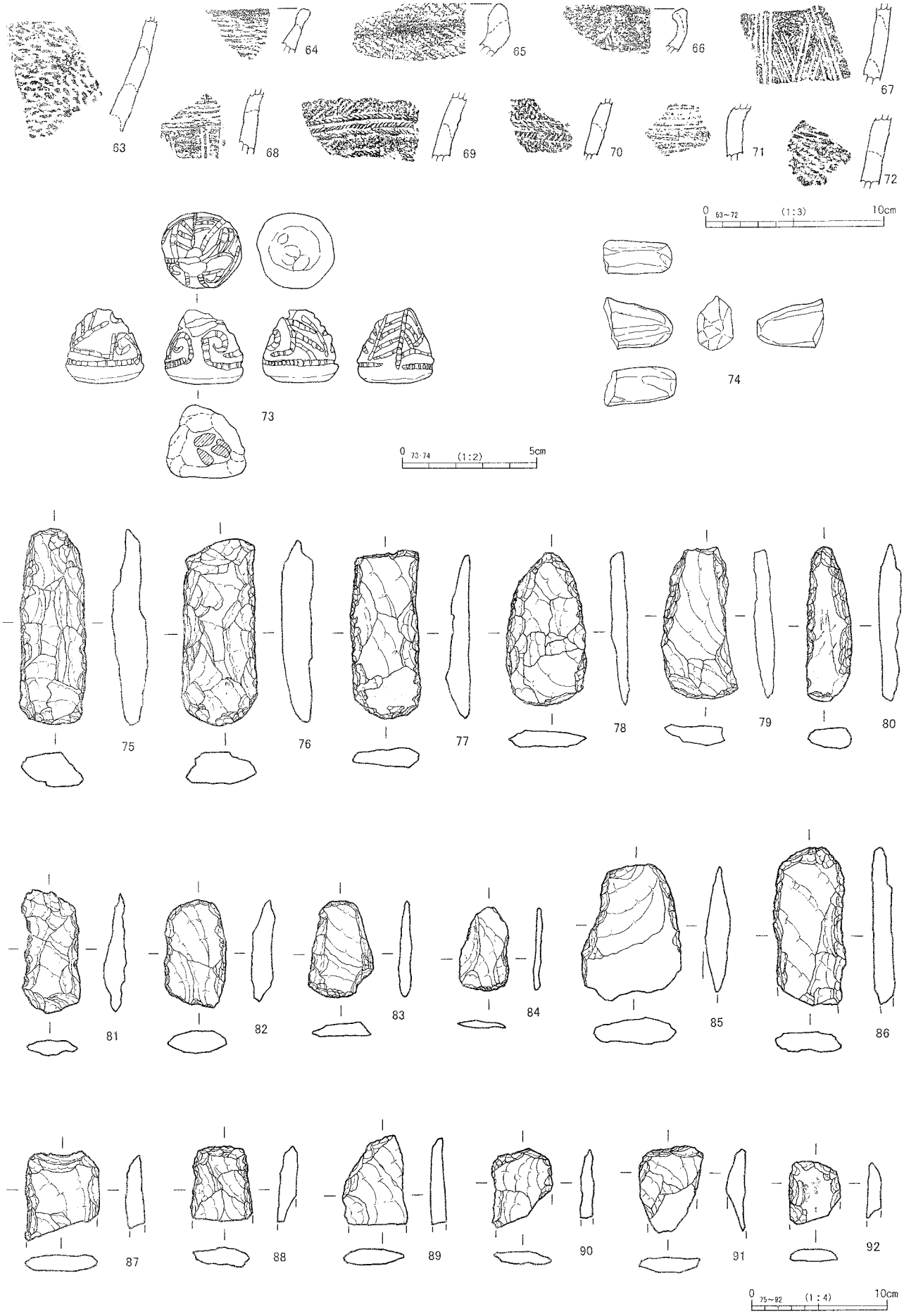
第84図　20号竪穴建物出土遺物（3）



第85図　20号竪穴建物出土遺物（4）



第86図　20号竪穴建物出土遺物（5）



第87図　20号竪穴建物出土遺物（6）

第88図　20号竪穴建物出土遺物（7）

期押型文土器（63）や、前期諸磯b式期の資料もわずかながら出土している。

石器組成では、打製石斧と石鏃の割合が高く、磨石や石皿はほとんどみられない。土製品類では、先述のとおり振ると土鈴のように鳴る、円錐形中空土偶（73）が特筆される。頭部は欠失しており、X線撮影で観察したところ、土玉か植物種子かは不明ではあるが、少なくとも４個以上の鳴子が確認されている。

【時　期】縄文時代中期前葉（新道式期～藤内式期）。

21号竪穴建物（第89図）

【位　置】A14B11グリッドに位置する。

【重　複】26号竪穴建物、70・87号ピットと重複。26号竪穴建物を切り込んで構築し、70・87号ピットに切られる。

【形　状】長方形。

【規模（長軸m×短軸m）】3.67ｍ（東西）×2.80m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.36ｍを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】8.28㎡。

【長軸方位】N－104°－E。

【埋没状況】

覆土は基本的に５層からなる。覆土最上層には黒褐色土が入り、その下層には褐灰色砂質土、褐色砂質土等がレンズ状に堆積している。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

柱穴は各壁下際を中心に径20cm前後を測る小ピットが検出されている。また竪穴中央部にも小ピットが１基検出されている。床面は竪穴中央部に硬化した範囲が確認されている。竪穴掘り形は、竪穴中央部分をやや深めに掘り込んでいる。

【竈・炉】

いずれも明確な施設は検出されていないが、竪穴内東側の中央部（これは硬化面の東端にあたる位置）に、長軸約60cm、短軸約45cmを測る浅い掘り形を伴う焼土および炭化物の範囲が検出されている。これが火処の痕跡となろうか。

【その他施設】

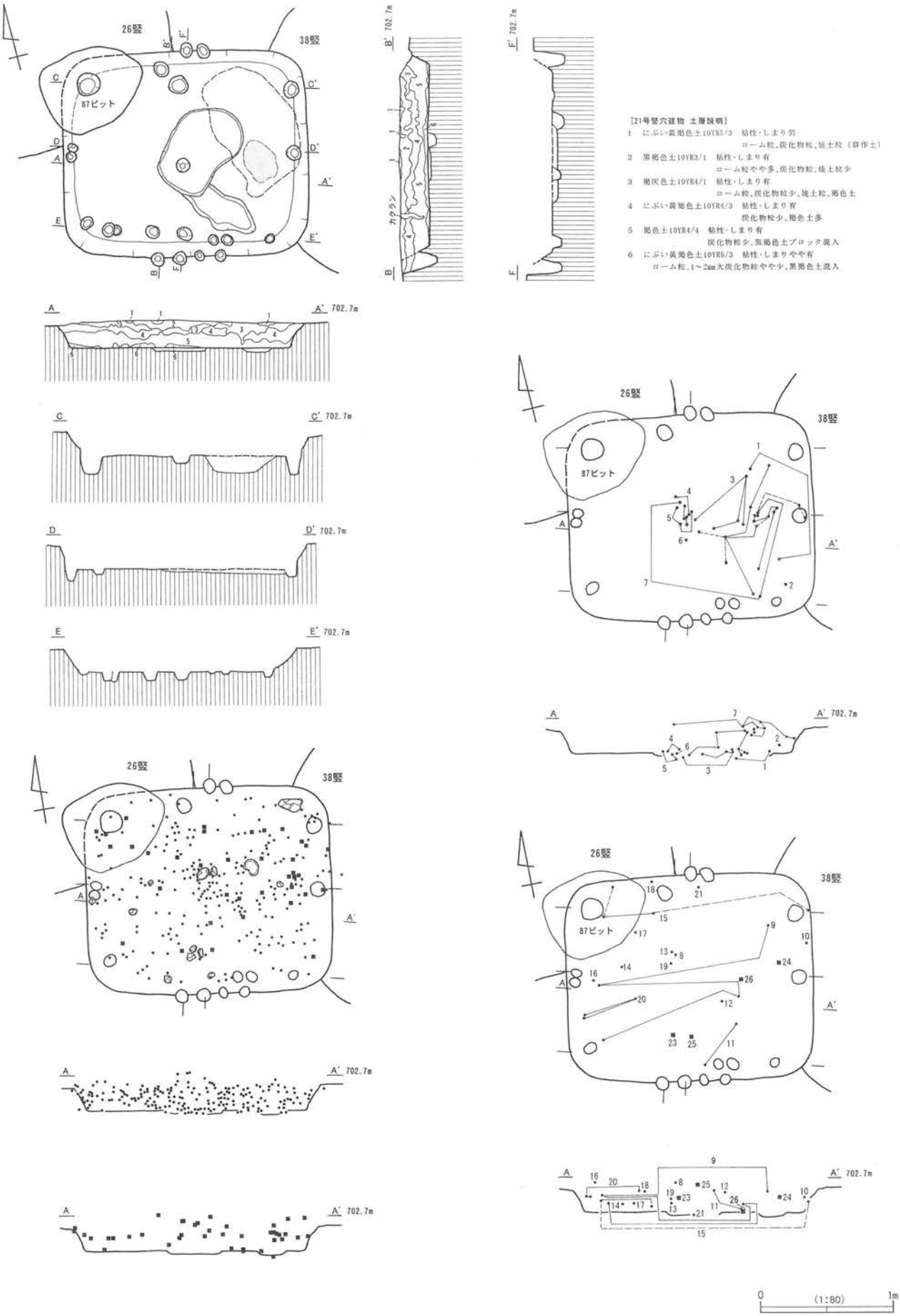
特になし。

【遺物出土状況】

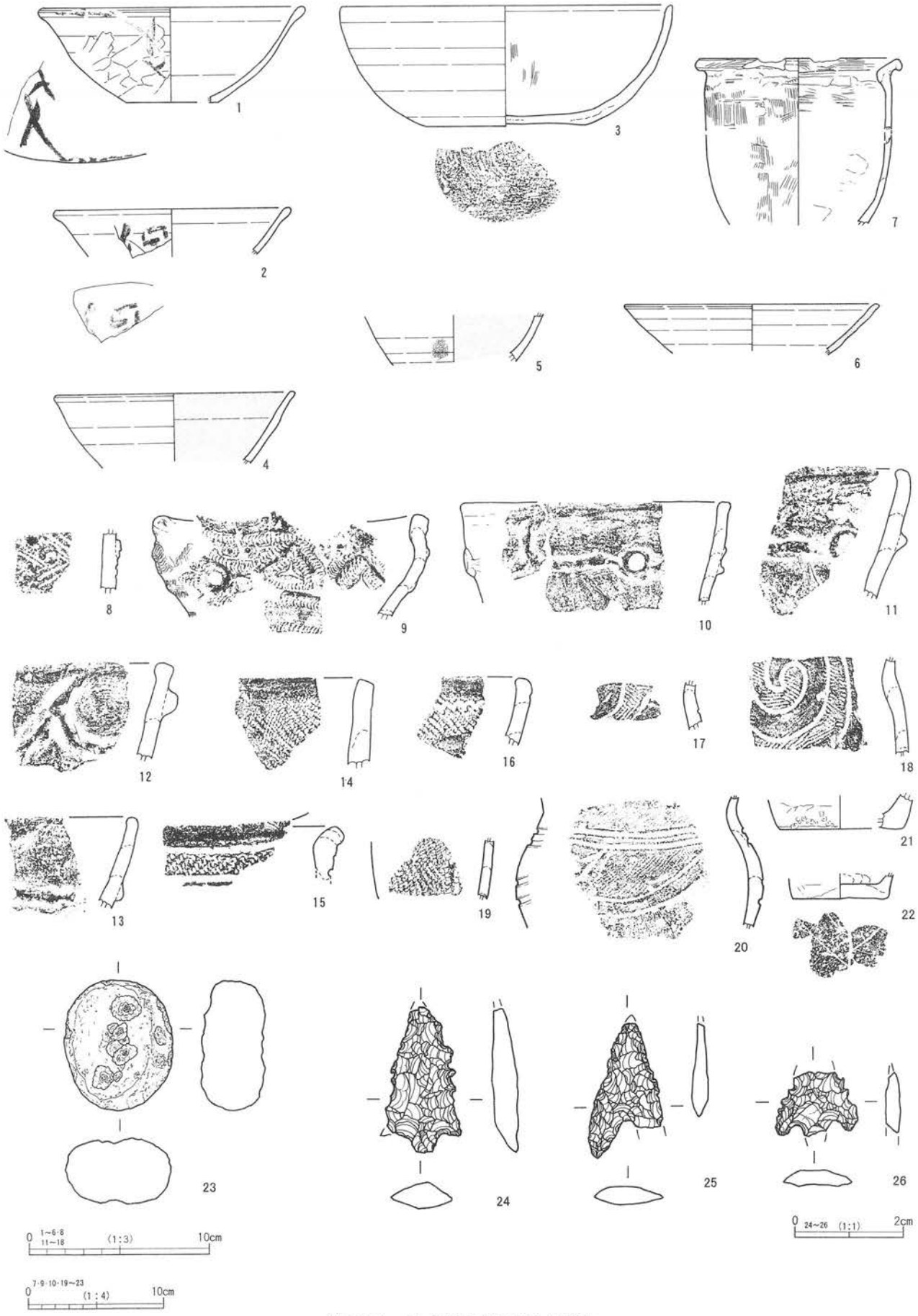
平面的には竪穴中央部を中心として、ほぼ竪穴全域に分布している。レベル的にも中層から下層にかけて比較的まとまって出土している。

【出土遺物】（第90図）

１は推定口径14.2cm、推定底径5.0cm、器高5.2cmを測る甲斐型土器の坏で、体部外面に倒位で「入・入」と墨書で記している。２も墨書土器片で、体部外面に正位で記している。釈文については不明。３は推定口径18.0cm、推定底径8.6cm、器高6.7cmを測るやや大ぶりの椀で、底部は回転糸切りの後、周辺をヘラケズリしている。内面は丁寧な細かいミガキを施している。４・５は黒色土器の破片資料で、６は灰釉陶器片、７は甲斐型土器の小型甕である。



第89図　21号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図



第90図　21号竪穴建物出土遺物

8～26は縄文時代の資料であるが、17～20は後期堀之内式土器と思われる。

【時　期】平安第Ⅰ段階。

22号竪穴建物（第91図）

【位　置】A14B13グリッドに位置する。

【重　複】25・34号竪穴建物、7号溝と重複。7号溝に切られ、25・34号竪穴建物を切り込んでいる。

【形　状】楕円形。

【規模（長軸m×短軸m）】4.46m（東西）×3.74m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.2mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】12.21㎡。

【長軸方位】N－45°－E。

【埋没状況】

覆土は基本的に2層からなる。中心となる覆土は、炭化物粒と焼土粒等を含むにぶい黄褐色土と褐色粘質土で、自然堆積の状況を示す。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

柱穴と思われるピットが壁際から6基検出されている（Pit1～6）。径35～50cm、深さ20～40cmを測る。床面は全体にやや軟弱である。

【炉】

明確な炉はないが、竪穴中央東寄りの位置に楕円形を呈する長軸約85cm、短軸約70cm、深さ約6cmを測る浅い掘り形（Pit7）が検出されている。覆土は炭化物粒が混じる黒褐色土で、その上面に焼土が散っている。

【その他施設】

特になし。

【遺物出土状況】

土器細片を中心に竪穴内全域にわたって分布し、大半が覆土中から出土している。

【出土遺物】（第92図）

縄文時代中期前葉の土器が中心である。1は区画帯は不明であるが、三角押文と角押文を多用する深鉢形土器である。4は有孔土器片。9は三角押文と押圧隆帯を付した浅鉢形土器で、19は無文の浅鉢形土器である。13は平出三類A系の土器片である。14には楕円区画文がみられ、17の底部には網代痕がみられる。20は径約3.1cm、厚さ約8㎜を測る土製円板で、縄文を地文とし、外周はよく擦られている。

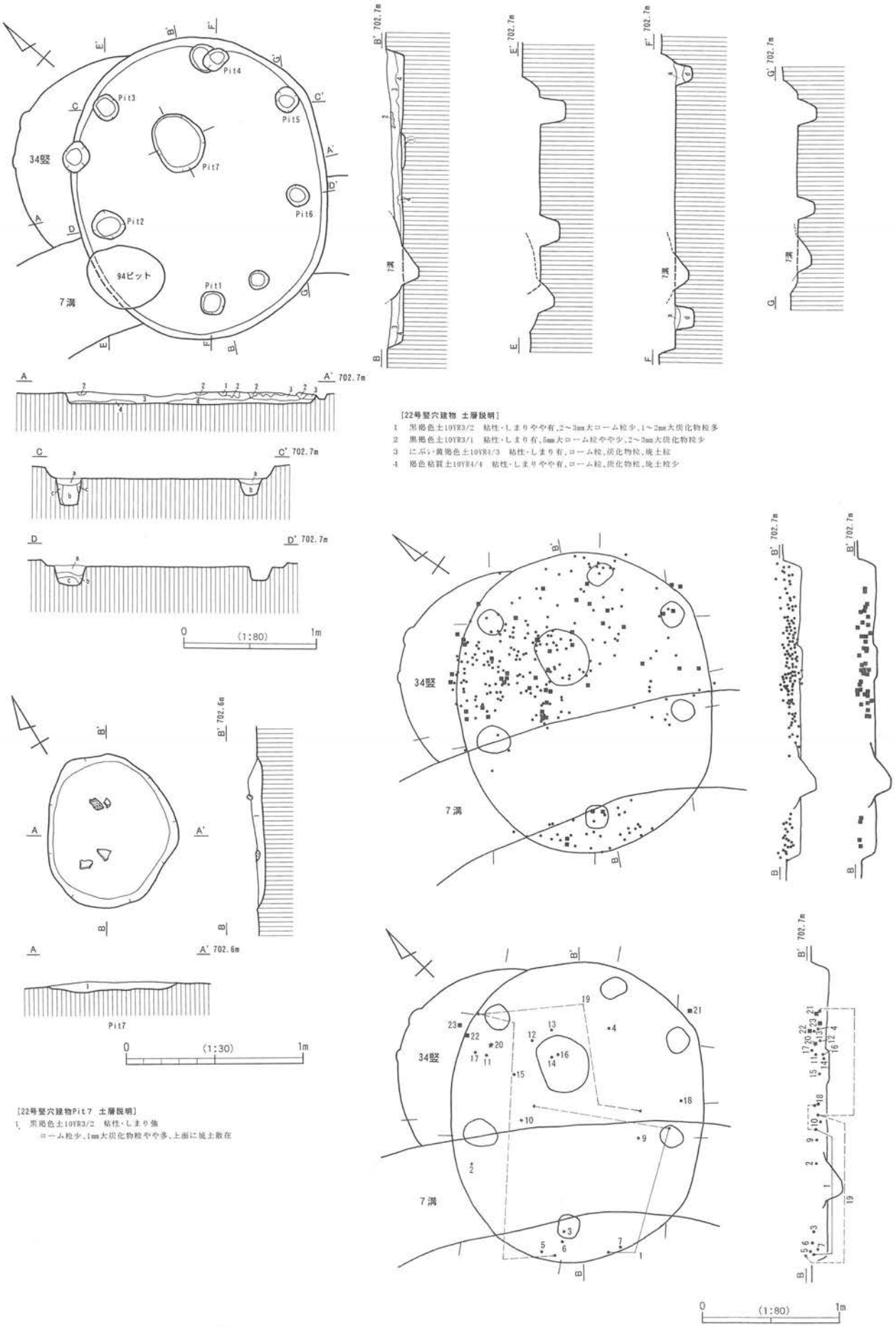
21～23は石鏃、石匙、石錐の石器資料である。

【時　期】縄文時代中期か。

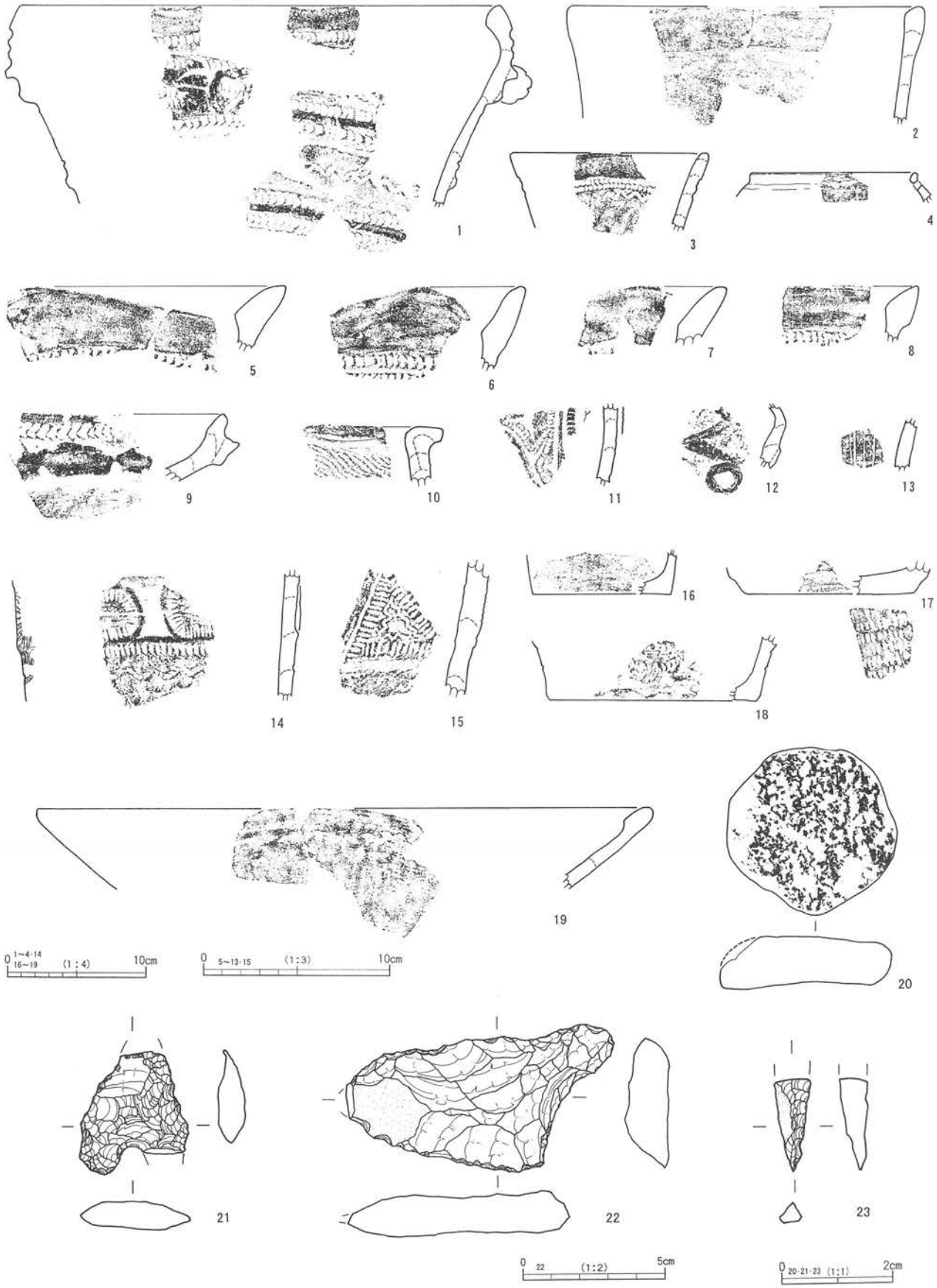
23号竪穴建物（第93・94図）

【位　置】A9・10B14・15グリッドに位置する。

【重　複】畑の畝によって竪穴東側から南側にかけて撹乱を受けており、遺存状況はあまり良くない。また調査当初72号ピットと時間差を有すると思われたが、精査した結果、同ピットは、本竪穴建物に伴うピットであることが判明した。よって重複はない。また同建物自体、建て替えもみられる。



第91図　22号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図・Pit7



第92図　22号竪穴建物出土遺物

【形　状】方形。

【規模（長軸m×短軸m）】4.50m（東西）×4.29m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.42mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】12.91㎡。

【長軸方位】N－82°－E。

【埋没状況】

覆土は5層からなるが、1層は撹乱層に近く、基本的には4層からなるといえる。2層・3層は焼土および炭化物、ローム小ブロックを含む黄褐色砂質土と褐色砂質土で、床面直上層である4層は、2・3層よりも多く炭化物、焼土が混じり、しまりも強い。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

壁下には周溝がほぼ巡り、部分的に小ピットもみられる南西コーナー壁下に長軸120cm、短軸105cm、深さ約20cmを測る土壙状ピットが検出されている。同ピットは、当初72号ピットとしたものであったが、土層観察の結果、特に重複関係が認められないこと、ほぼ竪穴の形状に沿っていることから竪穴に伴うピットだと判断した。

竪穴掘り形は、中央と四隅を土壙状に掘り下げている。掘り形調査中に東壁中央やや北寄りの壁下で、焼土を伴う長軸約65cm、短軸約60cm、深さ約5cmを測るピットが検出された。おそらく竈に伴う焼土だと思われる。また床面段階では確認できなかった間仕切りに伴う溝と柱穴状のピットが竪穴北西部分および北側で検出された。こうしたことから本竪穴建物は建て替えが行われたと思われる。

【竈】

東壁南東コーナー近くに位置する。遺存状況はきわめて悪い。撹乱によって大半が破壊されており、掘り形の一部のみが検出されている。撹乱は竪穴の掘り形まで及んでおり、竈調査時に竪穴掘り形まで掘り下げてしまった。左袖部に竈の構築材と思われる礫がみられる。焼土も辛うじて燃焼部内に長軸40cm、短軸27cmを測る楕円形の範囲に、厚さ8cmほど残存している。

【その他施設】

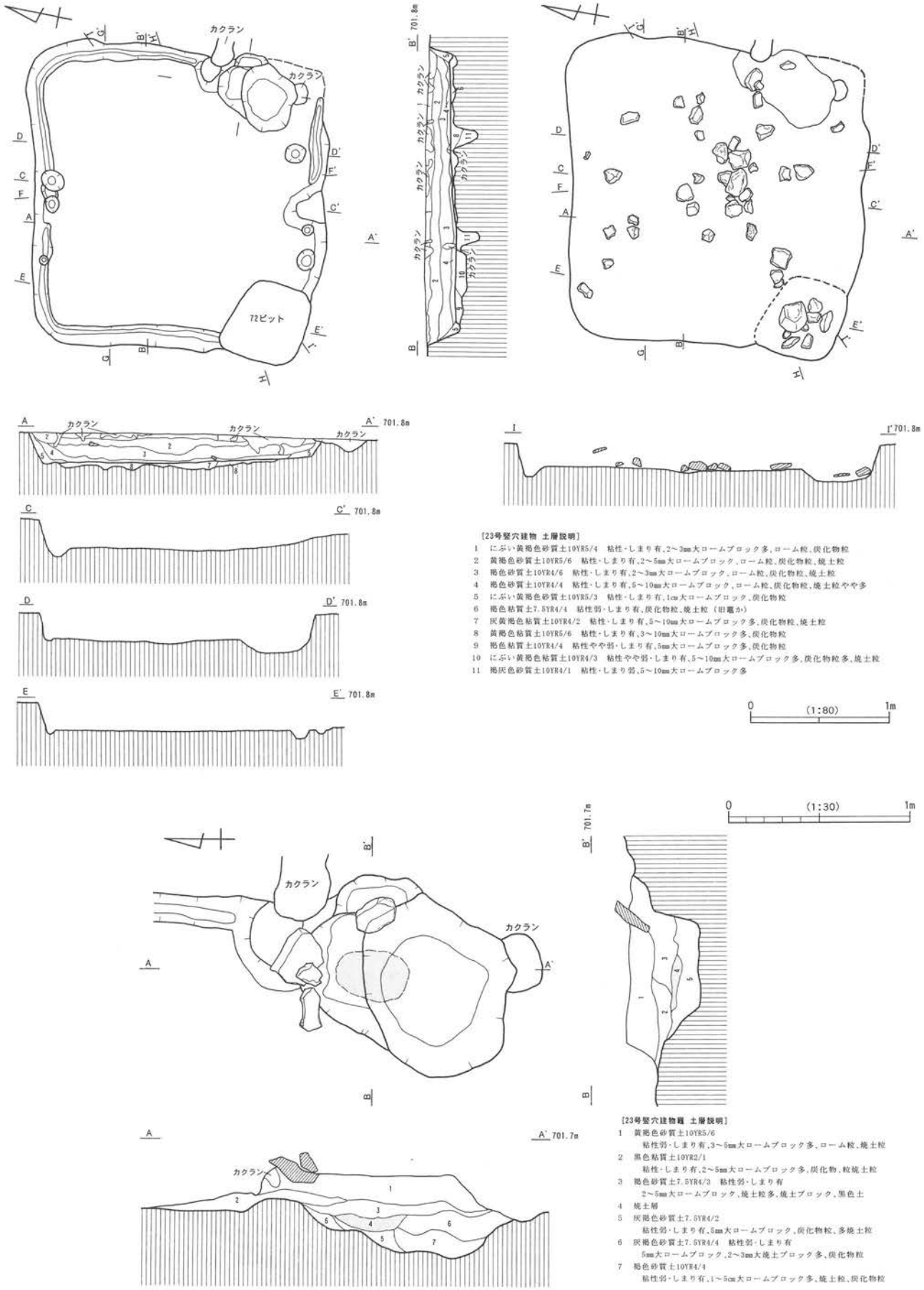
南壁中央部分に地山を掘り残したステップ状施設が、竪穴内に半月状に突き出た形状を呈して検出されている。その規模は幅約55cm、奥行き約60cm、床面との段差は約8cm前後を測る。

【遺物出土状況】

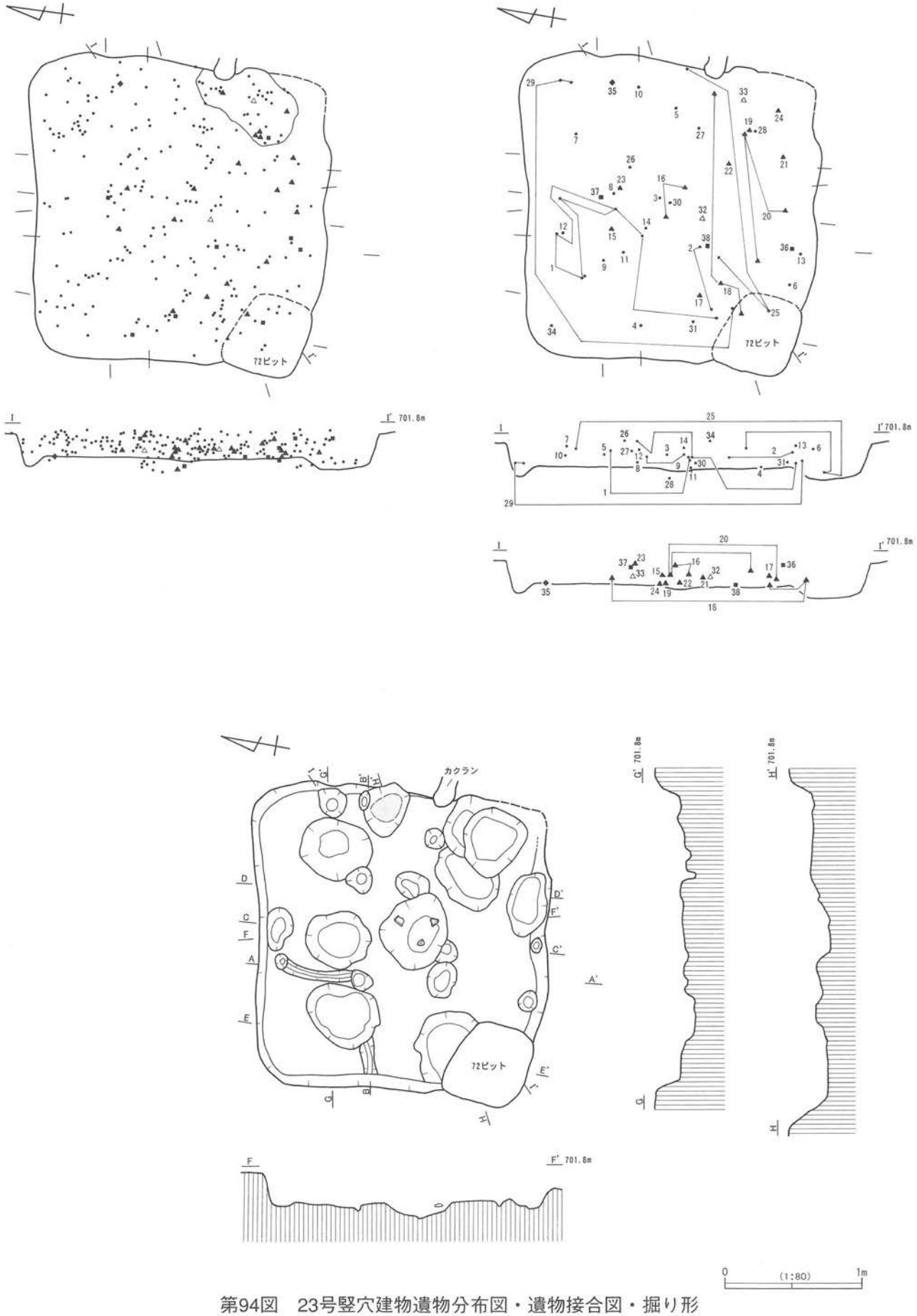
竪穴ほぼ中央部の床面直上を中心に大型礫の集積が認められた。また先述の南西壁下ピット内にも礫の集積が認められ、竪穴廃絶段階に廃棄された可能性が強い。竈の構築材とも考えられるが一部縄文時代の石器も含まれている。土器類は破片資料が多く、竪穴の四隅を中心に分布する傾向がみられる。また、鉄製刀子（第95図－35）が東壁北東コーナー寄りの床面直上から出土している。

【出土遺物】（第95・96図）

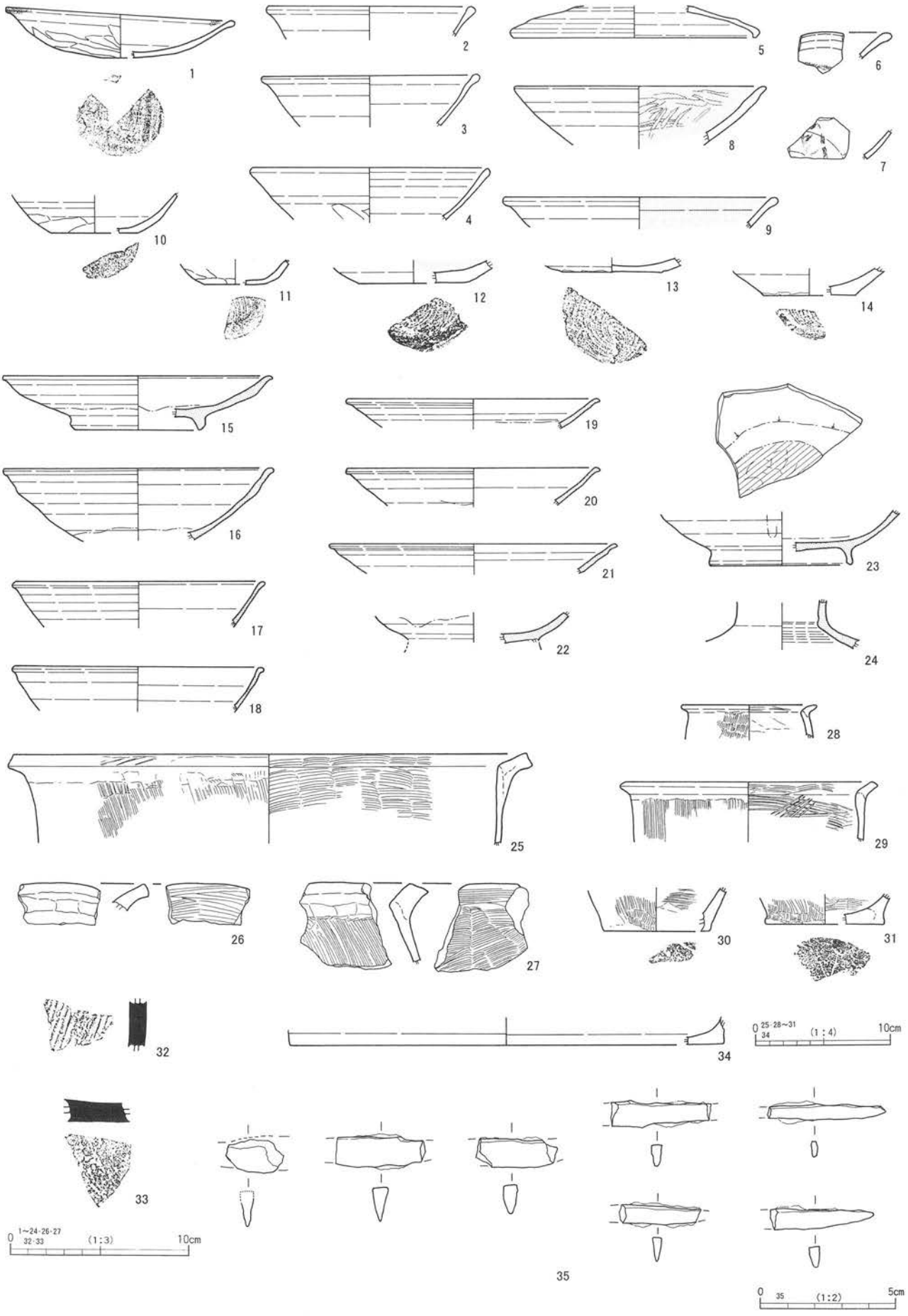
1は口径12.6cm、底径4.5cm、器高2.5cmを測る甲斐型土器の皿で、口唇部に油煙が付着している。2～4および10・11も甲斐型土器の坏の破片である。5は坏蓋、6・7は墨書土器片であるが、釈文については不明である。8・9・12は黒色土器で、9は甲斐型土器系の黒色土器である。13・14も黒色処理を施していないが、黒色土器系の土器である。



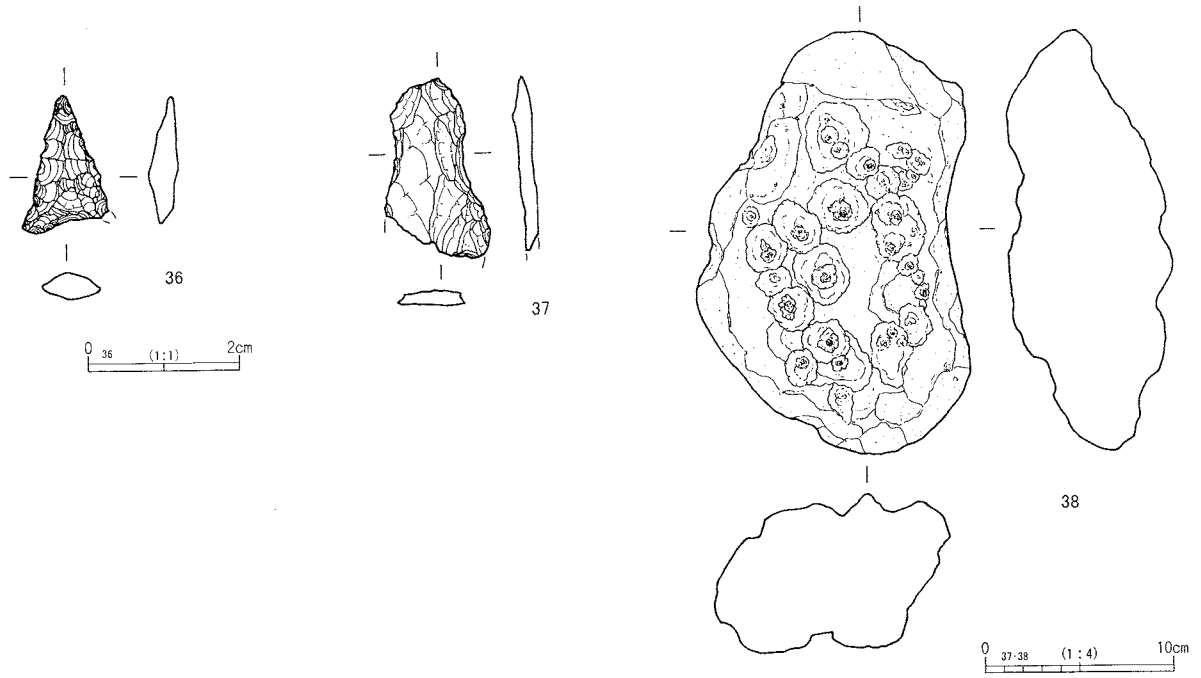
第93図　23号竪穴建物・遺物分布図・竈



第94図　23号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図・掘り形



第95図　23号竪穴建物出土遺物（1）



第96図　23号竪穴建物出土遺物（2）

15～24は灰釉陶器で、15は推定口径14.8cm、推定高台径6.8cm、器高3.1cmを測る皿である。23は椀の高台部破片であるが、底部内面はよく磨れており、墨痕も認められる。24は長頸瓶の頸部破片である。

25～31は甲斐型土器の甕、32・33は須恵器甕片、34は近世段階の瓦質焙烙の底部破片である。平底を呈し、胎土には砂粒を多く含む。35は鉄製刀子であるが、出土時の遺存状態が悪く、取り上げの際に破損してしまったために、破片ごとに図示せざるを得なかった。36～38は、石鏃、打製石斧、多凹石の縄文時代の石器資料である。

【時　期】平安第Ⅰ段階。

24号竪穴建物（第97～100図）

【位　置】Ａ７・８Ｂ14・15グリッドに位置する。

【重　複】なし。

【形　状】方形。

【規模（長軸m×短軸m）】5.71ｍ（東西）×5.66m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.53ｍを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】21.45㎡。

【長軸方位】Ｎ－84°－Ｅ。

【埋没状況】

覆土は基本的に７層からなり、凹レンズ状を呈する自然堆積の状況を示している。遺構上部は畑の畝による撹乱が著しく、プラン確認に支障を来すほどで、調査開始当初、土層観察用ベルトの主軸設定を誤ってしまった。床面直上層である７層は、ほぼ遺構全体に厚さ数cmほどで水平に堆積しており、炭化物粒を多く含み、焼土粒も含んでいる。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

壁下には小ピットを伴う周溝がほぼ巡る。主柱とみられるピットは特に検出されていないが、北壁下から南へ約1.5mの位置に、間仕切りに伴うと思われる東西にのびる溝に付随するようなかたちで、ピットが3基程度検出されている。径35～45cm、深さ30～35cmを測る。さらに東西にのびる間仕切り溝に直交するかたちで、東西壁下からそれぞれ約2.4mの位置にあたる箇所に南北にのびる小ピットを伴う溝も検出されている。ちょうど溝が交差する箇所は、約1.4mの幅で半月状に低くなっており、他の床面との段差は約4cm～10cmを測る。また、間仕切り溝周辺の床面には、小ピットがいくつか検出されており、厳密ではないが規則的な配列もうかがえ、竪穴内における何らかの諸施設に伴うピットである可能性が強い。竪穴の掘り形は、竈の両脇と南西隅を中心に深めに掘り下げられている。さらに竪穴北西部において周溝状の溝が検出されたことから、建て替えられた可能性がある。

【竈】

東壁南東コーナー近くに位置する。竈は本竈以外確認されておらず、竪穴掘り形の調査時でも火処と思われる焼土等は検出されていない。本竈の袖石は除去されており、袖基部と掘り形のみが検出されている。掘り形覆土は基本的に4層からなり、焼土ブロックや炭化物粒、白色粘土ブロックを含むにぶい黄褐色および灰黄褐色を呈する粘質土が中心であり、明確な焼土層はない。竈内からの遺物の出土はほとんどなく、その周辺部から出土している。

竈と南東コーナーの間からは、2基の浅い土壙状のピットが検出されている。Pit 1は長軸約80cm、短軸約62cm、深さ約20cm、Pit 2は長軸約60cm、短軸約45cm、深さ約24cmを測る。

【その他施設】

竪穴壁外柱穴および階段状施設が検出されている。竪穴壁外柱穴とみられるピットは、15基ほど検出されている。径約35～45cm、深さ約25～45cmを測る。東壁外は調査区域外に近く、撹乱も著しい状況であったため、精査できなかった。

階段状施設は、南壁のほぼ中央部にあり、竪穴壁外に一段だけ半月状に張り出すかたちで掘り込まれており、その両脇には小ピットを伴う。幅約1.15m、奥行き0.45m、床面との段差は約8cm前後を測る。

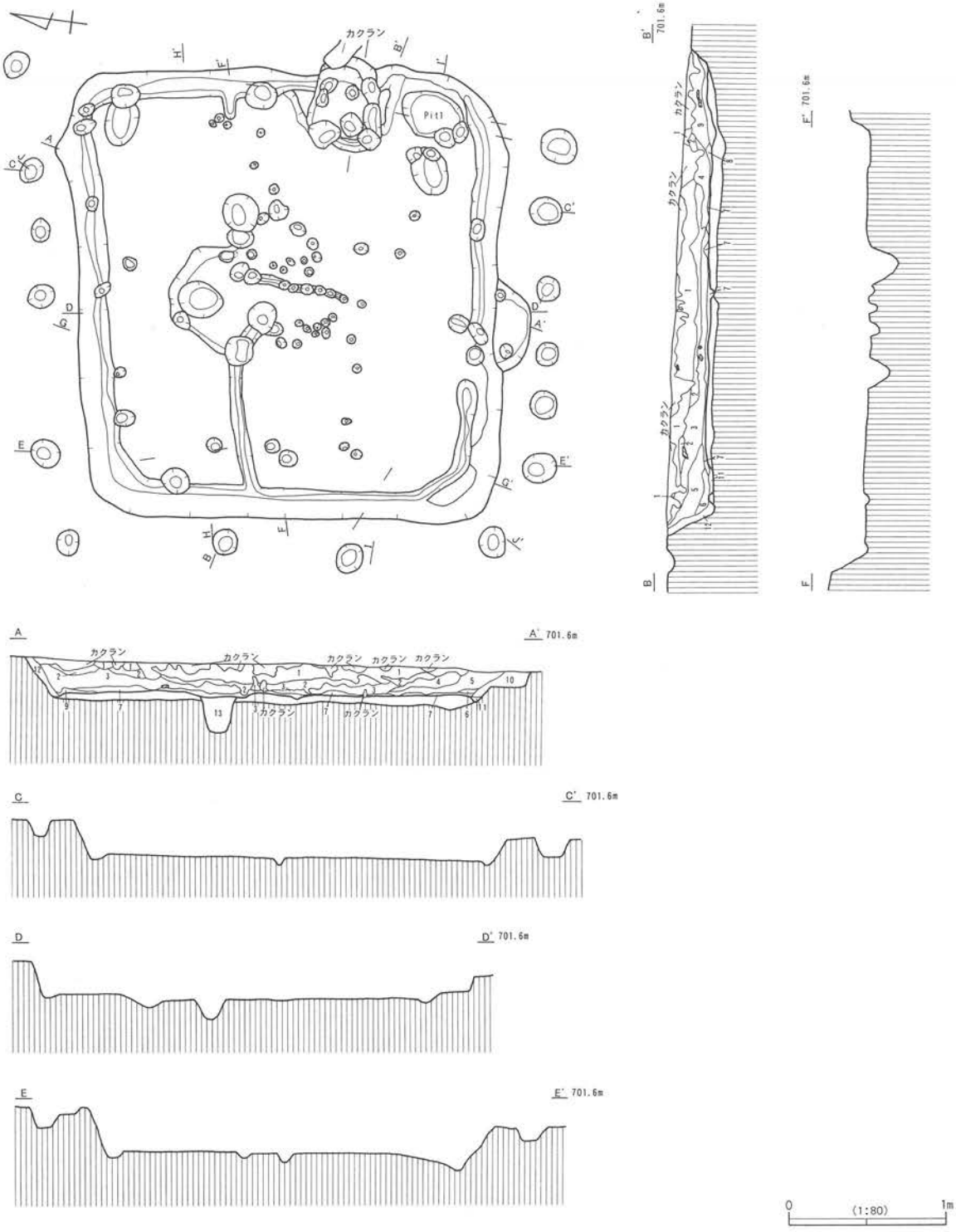
【遺物出土状況】

遺物は竈前面部、竈脇のPit 1周辺、Pit 3内、竪穴北東部および南西部・北西部にややまとまって分布している傾向がみられ、レベル的には覆土中層から下層にかけての出土が顕著である。竈前面部では灯明具が数点出土し、Pit 1周辺では、土師器坏や灰釉陶器等が細かく割れた状態で出土している。

竪穴南西部では土師器坏が、竪穴壁上から転落したような出土状態を示していたり、北西部では、自然礫が8個一列となって、床面上1～8cmのレベルから出土している。筵編み用の礫の可能性が強いと思われるが、整理段階でこれら礫のいくつかが接合している（第102図－44～48）。

【出土遺物】（第101・102図）

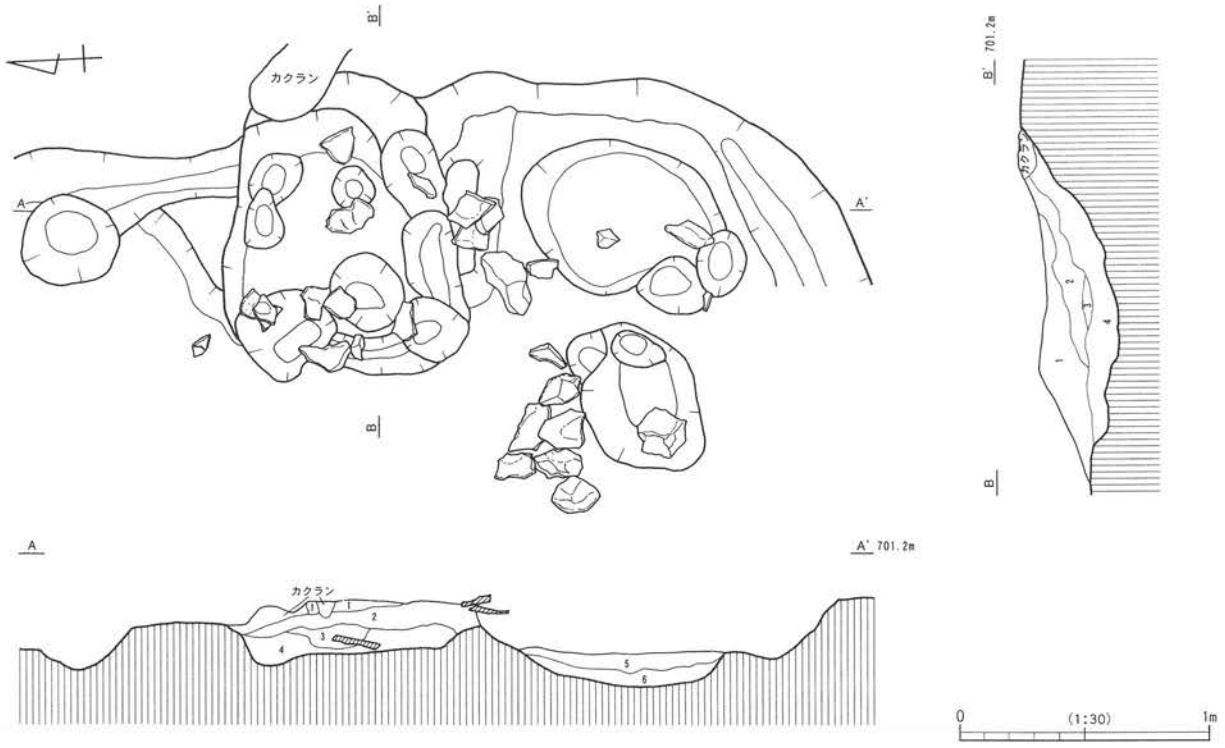
1～8は甲斐型土器で、1は皿で体部面がアバタ状に器面が剥落している。2は坏で、口径11.8cm、底径4.0cm、器高3.6cmを測り、口唇部に油煙が厚く付着している。3は口径12.9cmを測る坏で、体部内面の口唇部直下あたりを中心に、帯状に器面が細かく剥落している。またタール状の付着物もみられる。7は推定口径13.8cmを測る坏で、口唇部に油煙が付着している。9は推定口径13.8cm、



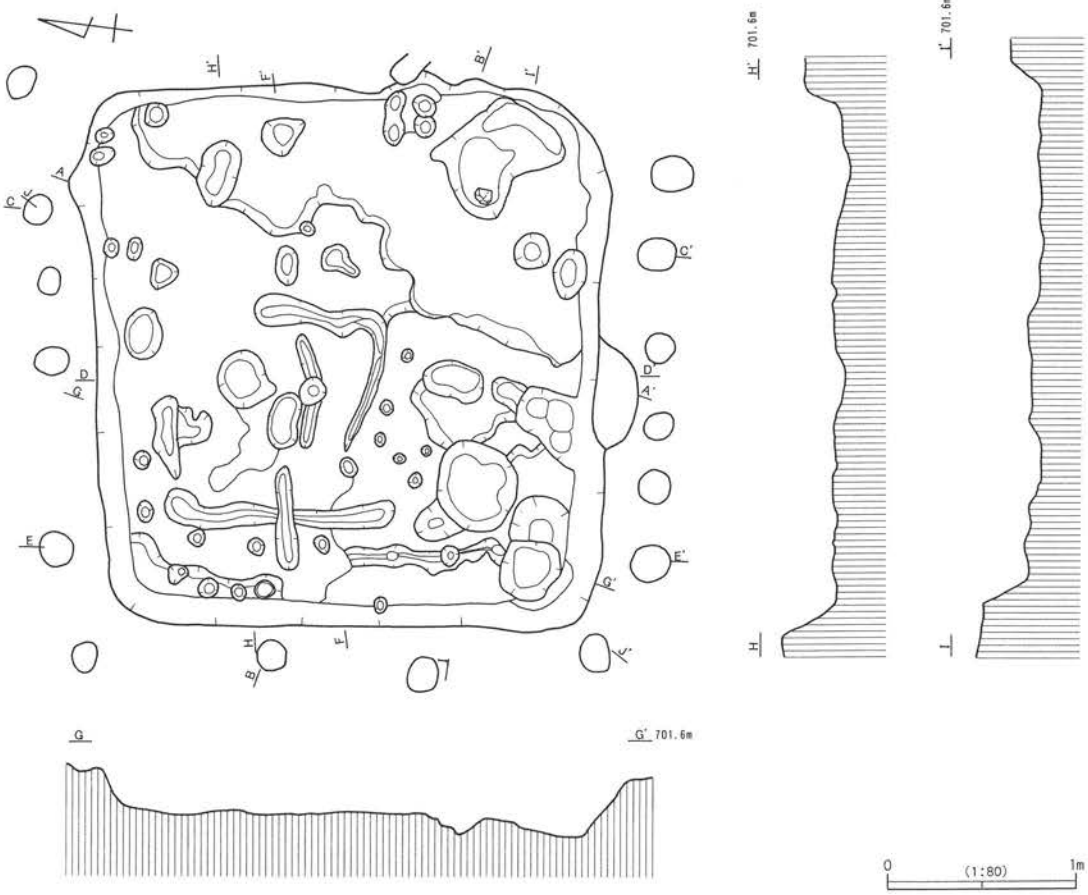
[24号竪穴建物 土層説明]

1 黒褐色砂質土10YR3/1 粘性やや弱・しまり有、ローム粒多、炭化物粒
2 褐色砂質土10YR4/4 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒
3 暗褐色砂質土10YR3/4 粘性・しまり有、2～3mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
4 暗褐色砂質土10YR3/4 粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
5 暗褐色砂質土10YR3/3 粘性・しまり有、5mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒
6 黒褐色砂質土10YR3/2 粘性・しまり有、5mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒
7 灰黄褐色粘質土10YR5/2 粘性・しまり強、1cm大ロームブロック、炭化物粒多、焼土粒、白色粘土
8 褐灰色粘質土10YR4/1 粘性やや弱・しまり有、灰・炭化物主体層
9 にぶい黄褐色粘質土10YR5/3 粘性・しまり有、ローム粒主体、白色粘土粒
10 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
11 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒、白色粘土粒
12 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有、1～2cm大ロームブロック、ローム粒
13 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有、ローム粒多、炭化物粒少

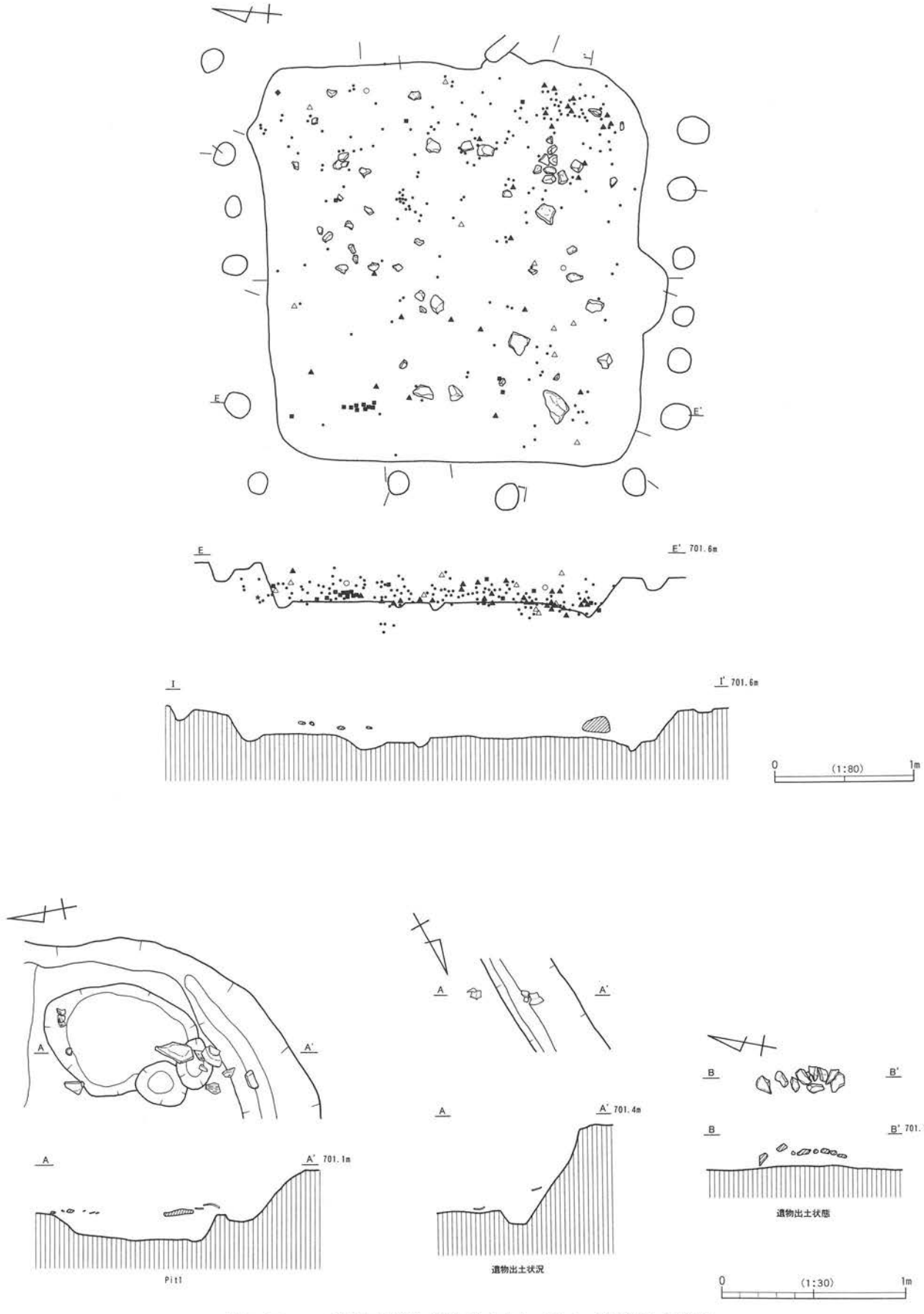
第97図　24号竪穴建物



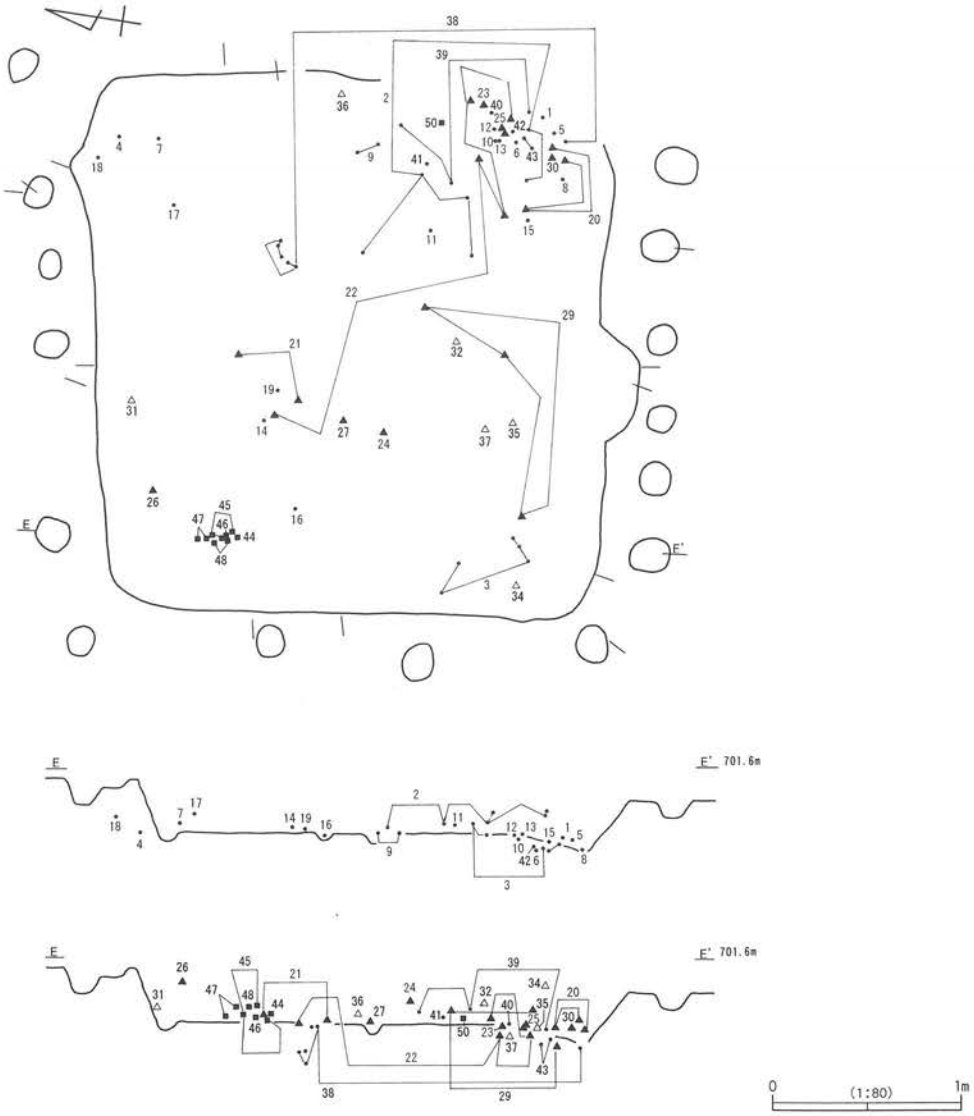
【24号竪穴建物竈 土層説明】
1 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有,2～3mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒,焼土粒
2 にぶい黄褐色粘質土10YR5/3 粘性・しまり有,3～4mm大ロームブロック、ローム粒多,炭化物粒,2～3mm大焼土ブロック
3 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有,ローム粒,炭化物粒,焼土粒,5mm大白色粒
4 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有,ロームブロック,炭化物粒多,5～10mm大焼土ブロック
5 黄褐色粘質土2.5Y5/6 粘性強・しまり有,3～4mm大ロームブロック多,炭化物粒,3～4mm大焼土ブロック
6 黄褐色粘質土2.5Y5/4 粘性強・しまり有,5～10mm大ロームブロック,炭化物粒多,1～2mm大焼土ブロック



第98図　24号竪穴建物竈・掘り形



第99図　24号竪穴建物遺物分布図・Pit1・遺物出土状況



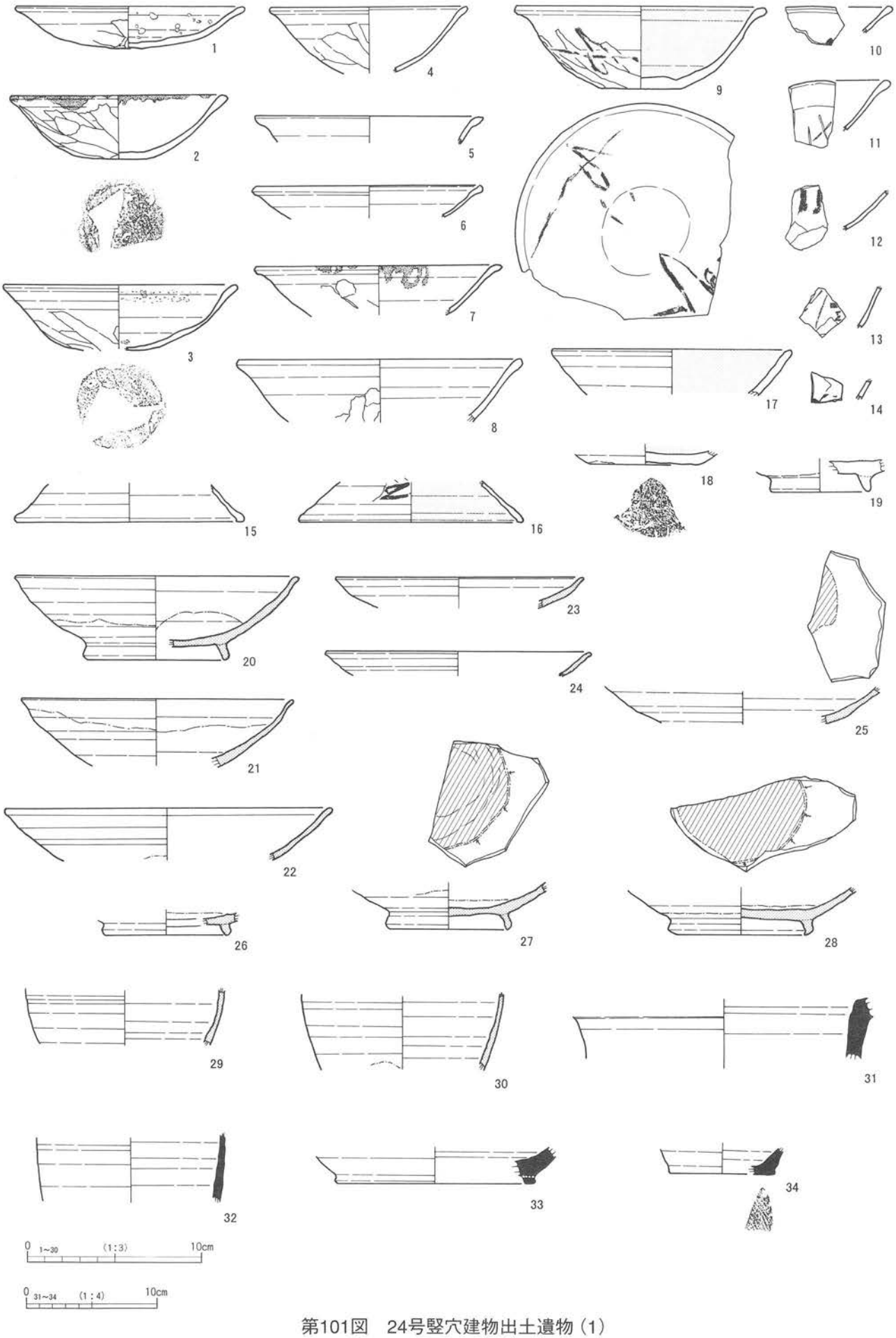
第100図　24号竪穴建物遺物接合図

底径4.6㎝、器高4.8㎝を測る甲斐型土器系の黒色土器坏の墨書土器である。墨書は体部外面に横位で2箇所記しており、内一つは「中」と判読できる。10～14も出土文字資料であるが、11が線刻土器の他、残りは墨書土器である。いずれも判読は不可能である。15・16は坏蓋で、16は黒色土器で墨書もみられる。17～19も黒色土器である。

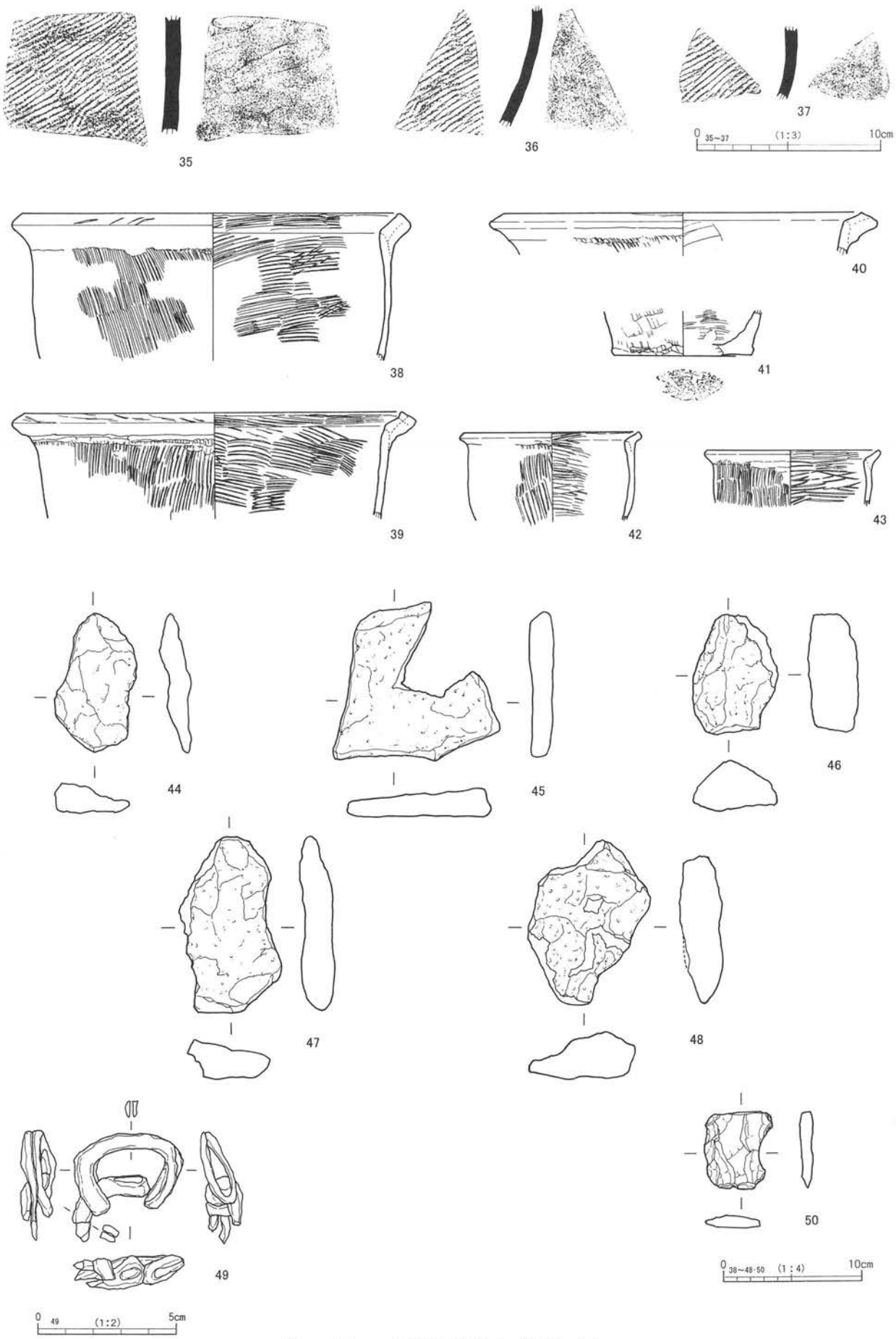
20～30は灰釉陶器である。20は推定口径16.0cm、推定高台径7.7㎝、器高4.8㎝を測る椀で、高台内面の内彎はやや不明瞭となっている。灰釉は刷毛塗りで、美濃窯光ヶ丘1号窯式後半期の所産と思われる。また25・27・28の内面はよく磨れており転用硯の可能性が強い。29・30は瓶類の胴部破片である。31～37は須恵器壺もしくは甕等の破片資料である。38～43は甲斐型土器甕である。

44～48は筵編み石器と思われる自然礫で、49は鉄製品で兵庫鎖の一部と思われる。50は縄文時代の剥片石器ではないかと思われる。

【時　期】平安第Ⅰ段階。



第101図　24号竪穴建物出土遺物（1）



第102図　24号竪穴建物出土遺物（2）

25号竪穴建物（第103図）

【位　置】A13・14B12・13グリッドに位置する。

【重　複】22・34・38号竪穴建物、94号ピット、7号溝と重複。7号溝と22号竪穴建物に切られ、34・38号竪穴建物を切り込んでいる。

【形　状】楕円形。

【規模（長軸m×短軸m）】4.46m（南北）×3.74m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.18mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】13.75㎡。

【長軸方位】N－5°－W。

【埋没状況】

覆土は基本的に2層で、炭化物粒と焼土粒を含むにぶい黄褐色土と褐色土を中心とする。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

竪穴壁下には周溝は巡ってない。柱穴と思われるピットは、Pit1～6で、6本柱穴の竪穴となろうか。径30～50cm、深さ25～35cmを測る。床面は全体にやや軟弱である。

【炉】

竪穴中央部において、焼土は顕著でないものの、炭化物がやや顕著に混じる褐灰色土や黒褐色土等を覆土にもつPit7が検出されている。これが炉であろうか。

【その他施設】

特になし。

【遺物出土状況】

土器破片を中心に覆土全般にわたり出土している。

【出土遺物】（第104図）

縄文時代中期前葉を中心とした土器破片資料が多い。1は三角押文で区画された三角区画文がみられ、2は区画内を縦位と横位の角押文を施している。3も三角押文を多用し、4は隆帯脇に2条の角押文を施している。5・10は縄文を地文とし刻み目をもつ短隆帯を配する。6は2段の楕円区画文がみられ、7は三角押文を横位にめぐらしている。8・9は三角区画文がみられ、三角押文が充填されている。11はヒダ状の指頭圧痕が顕著にみられる。12は有茎の石鏃である。

【時　期】縄文時代中期前葉狢沢式期から新道式期か。

26号竪穴建物（第105図）

【位　置】A14・15B10・11グリッドに位置する。

【重　複】21号竪穴建物、87号ピットと重複。遺構南東部を両遺構に切り込まれている。

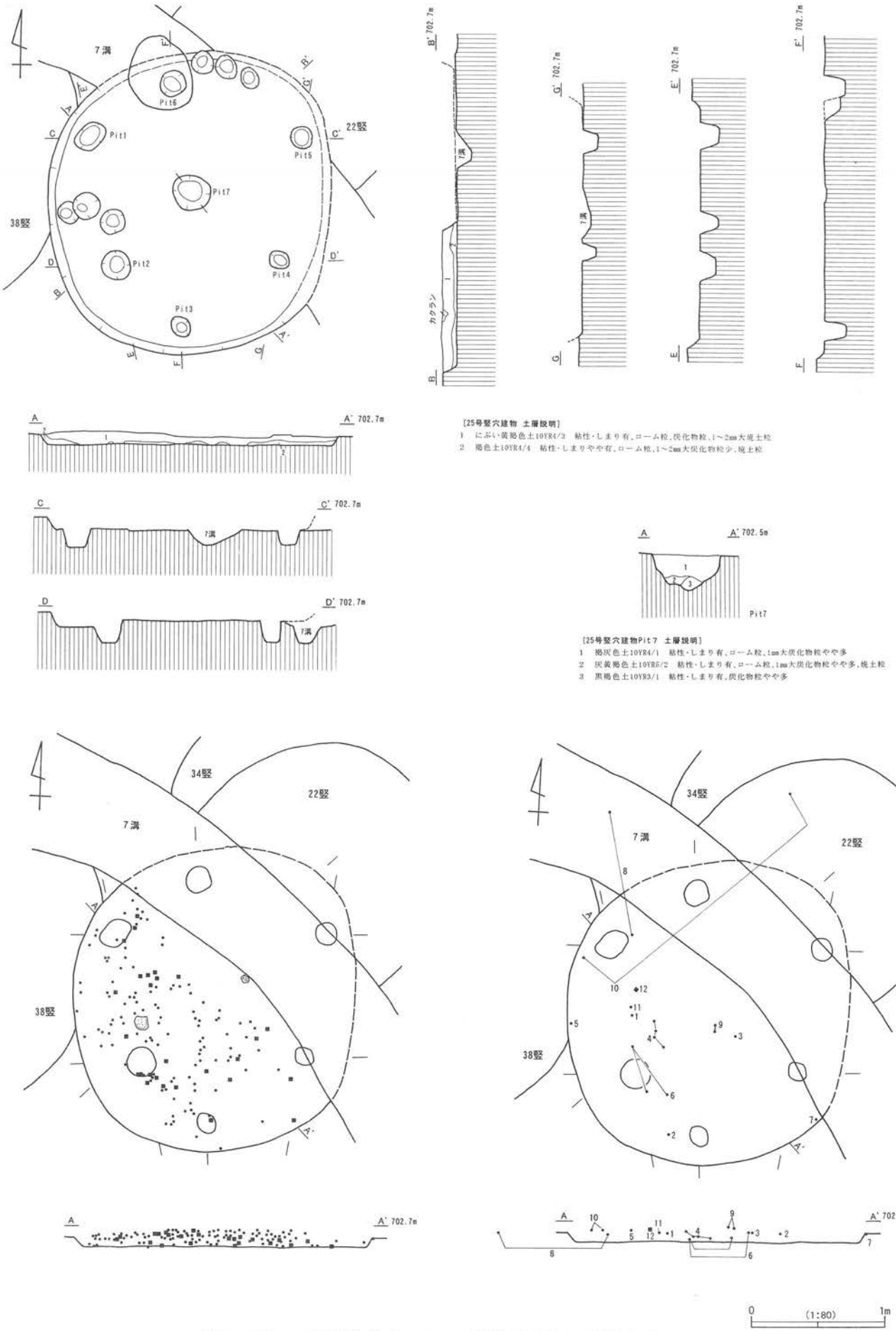
【形　状】隅丸方形。

【規模（長軸m×短軸m）】4.16m（東西）×3.80m。

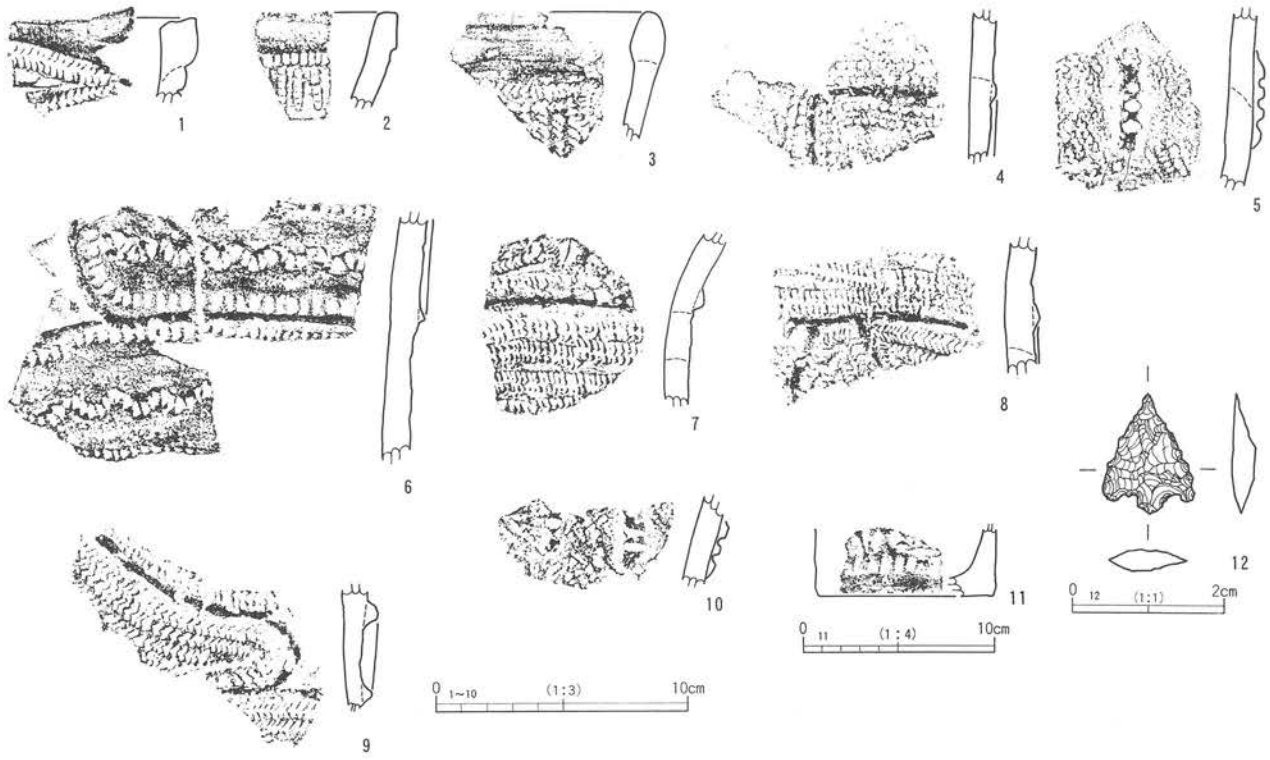
【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.35mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】11.53㎡。

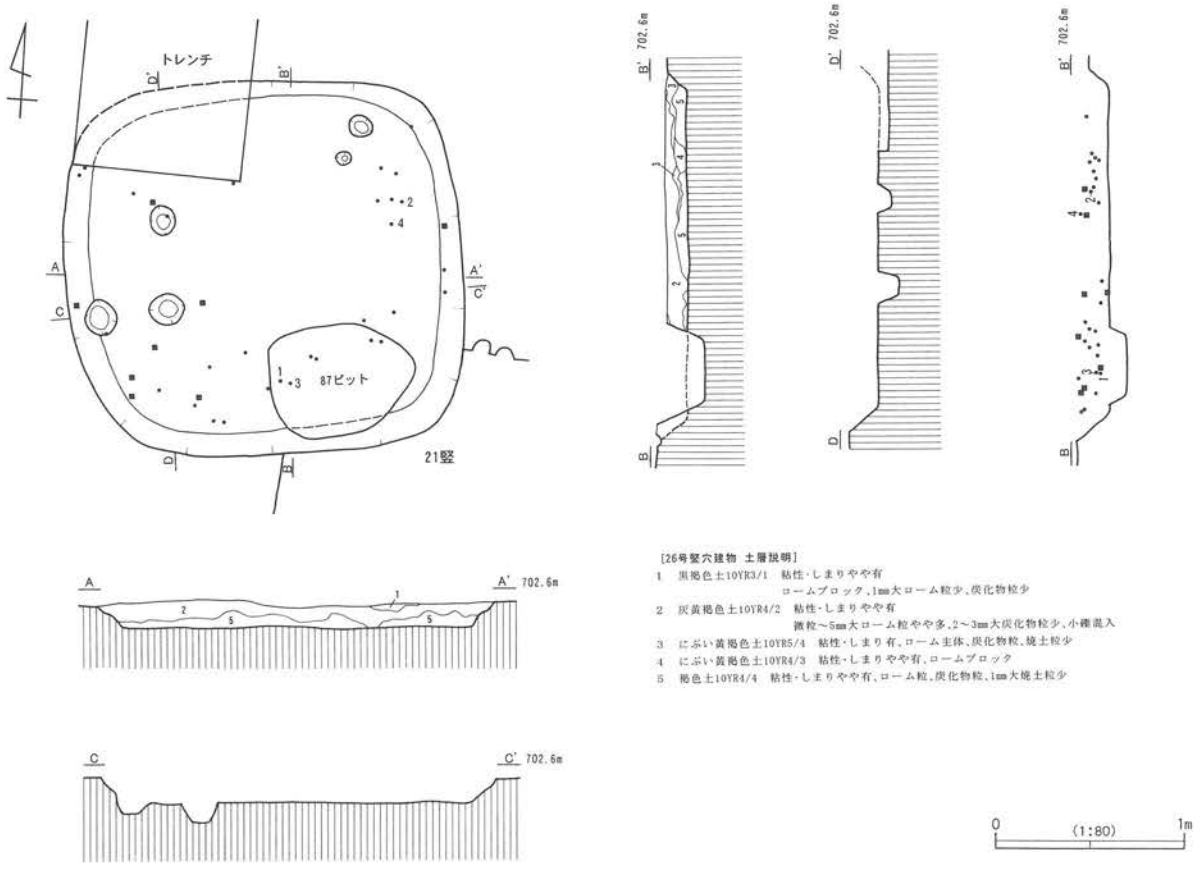
【長軸方位】N－84°－E。



第103図　25号竪穴建物・Pit7・遺物分布図・遺物接合図



第104図　25号竪穴建物出土遺物



第105図　26号竪穴建物・遺物分布図

【埋没状況】

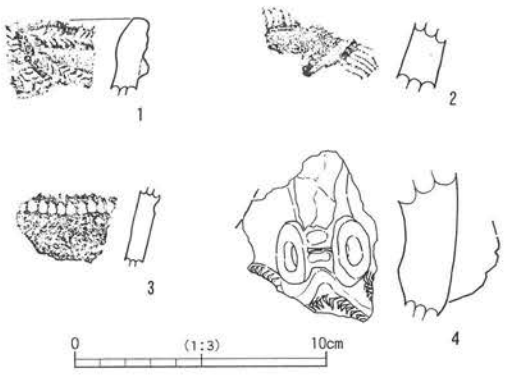
覆土は基本的には２層であり、炭化物粒を含む灰黄褐色土と、炭化物粒と焼土粒を含む褐色土が中心となる。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

壁下には周溝は巡らず、床面も概して軟弱である。ピットも数基検出されているが、柱穴かどうかは不明。

【竈・炉】

両施設ともに確認されておらず、特に焼土が集中する範囲も認められない。



第106図　26号竪穴建物出土遺物

【その他施設】

特になし。

【遺物出土状況】

遺物の出土量は少なく、竪穴西側および東側の覆土中から散在的に出土している。

【出土遺物】（第106図）

縄文時代中期前葉の土器資料をわずかながら図示できた。１～４まで深鉢形土器の破片と思われるが、三角区画文と三角押文を用いた文様構成をとる。４は眼鏡状把手の破片である。

【時　期】縄文時代中期か。

27号竪穴建物（第107図）

【位　置】A14・15B12・13グリッドに位置する。

【重　複】14・34号竪穴建物、７号溝と重複。いずれの遺構にも切られる。

【形　状】楕円形か。

【規模（長軸m×短軸m）】現存長南北3.29m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.20mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】7.03㎡（現存）。

【長軸方位】不明。

【埋没状況】

覆土は基本的に３層で、炭化物粒を含む暗褐色土と炭化物粒および灰色粘土粒を含む褐灰色土、炭化物粒と焼土粒を含む灰黄褐色土が中心となる。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

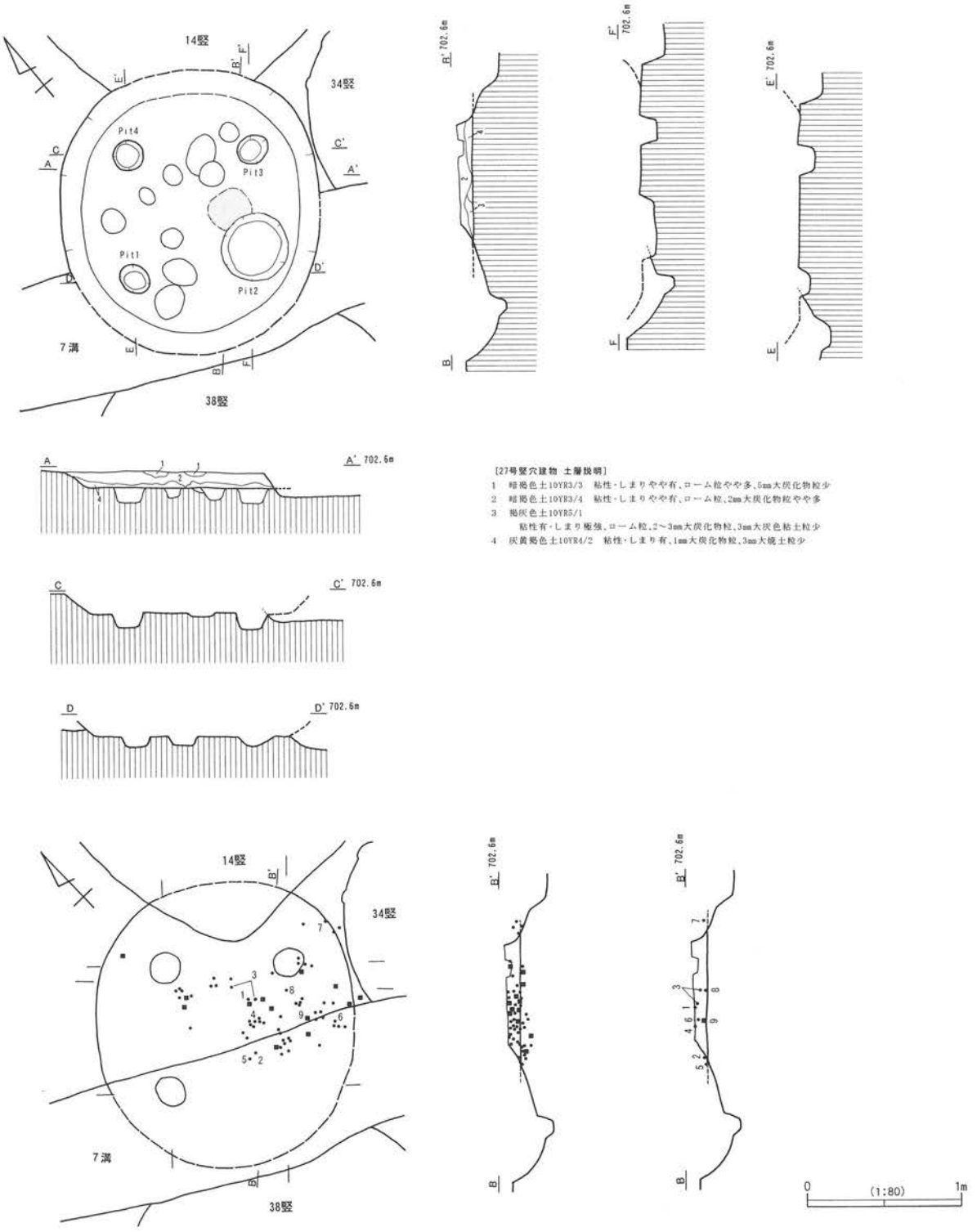
径25～50cm、深さ15～25cmを測るピットが13基程度検出されており、その内のPit１～Pit４が柱穴になるのではないかと思われる。

【炉】

明確な施設は検出されていない。Pit２の北側に接する位置に焼土と炭化物が散り、硬化している範囲が確認されている。これが火処の痕跡だろうか。

【その他施設】

特になし。



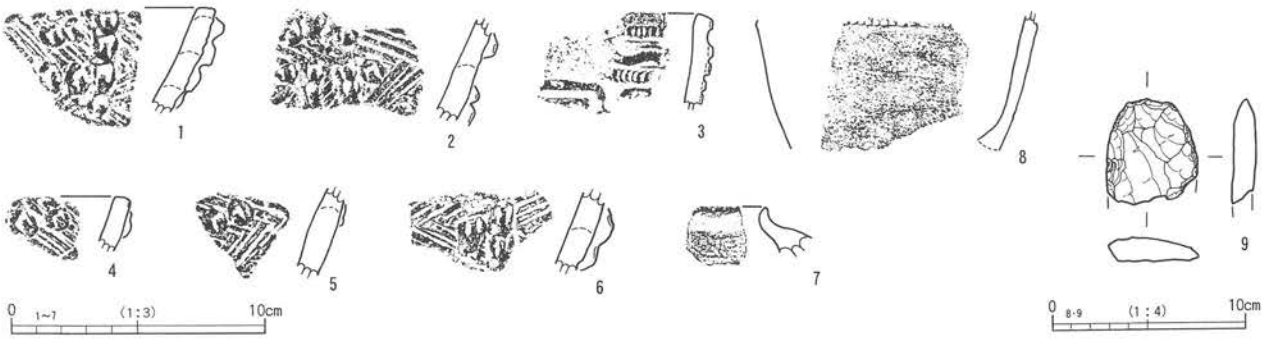
第107図　27号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図

【遺物出土状況】

Pit２に接する焼土・炭化物範囲周辺の覆土上層から下層にかけて出土している。

【出土遺物】（第108図）

縄文時代前期と中期の資料が混在している。１・２および４～６は縄文時代前期の土器資料で、矢羽状条線を地文とし、刺突を施したボタン状貼付文や棒状結節浮線文を貼り付けている。３・８



第108図　27号竪穴建物出土遺物

は中期の土器資料と思われ、刻みをもつ隆帯区画や押引文等がみられる。７は有孔土器の口縁部破片と思われる。９は打製石斧の欠損品である。

【時　期】縄文時代中期か。

28号竪穴建物（第109図）

【位　置】A14B９・10グリッドに位置する。

【重　複】３号風倒木に一部切られる。

【形　状】楕円形。

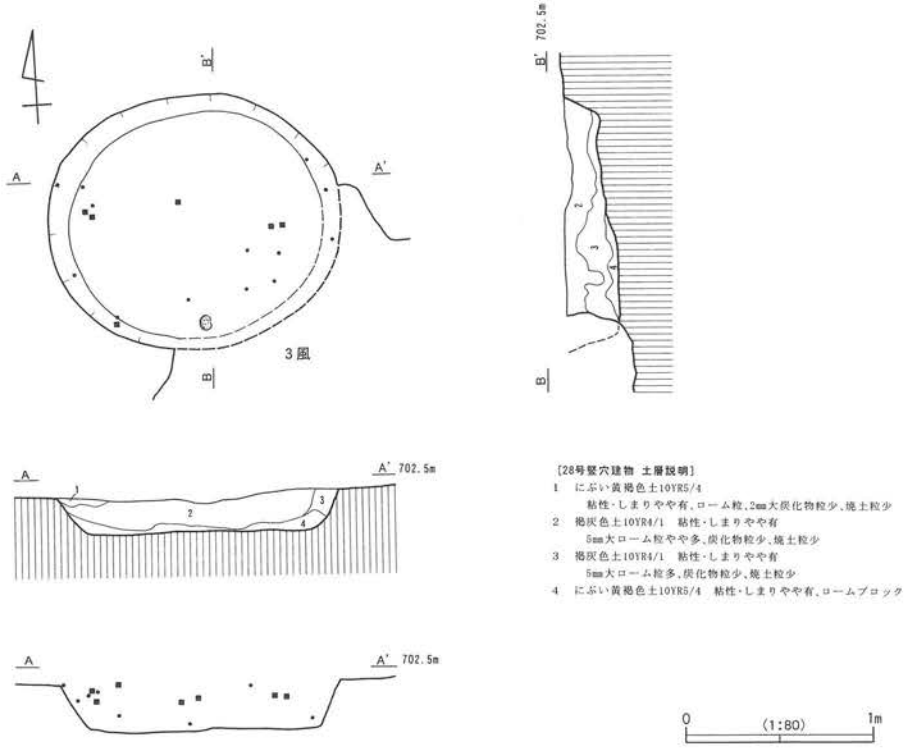
【規模（長軸m×短軸m）】2.28m（東西）×1.97m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.38mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】2.87㎡（現存）。

【長軸方位】N－93°－E。

【埋没状況】



第109図　28号竪穴建物

覆土は基本的に３層で、炭化物粒と焼土粒を含む褐灰色土とロームブロックを含むにぶい黄褐色土が中心となる。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】柱穴・周溝等は検出されず、床面も概して軟弱である。

【竈・炉】ともに確認されていない。

【その他施設】特になし。

【遺物出土状況】遺物の出土量は少なく、覆土上層から中層にかけて疎らな出土状況を示す。

【出土遺物】

図示できる遺物はなかった。

【時　期】不明。

29号竪穴建物

調査当初、21号竪穴プランとほぼ重なる竪穴として竪穴番号を付けて調査していたが、整理段階において遺物の出土状況や接合関係等から、同一の竪穴であると判断した。よって同竪穴番号は欠番とする。

30号竪穴建物（第110図）

【位　置】Ａ25Ｂ14・15グリッドに位置する。

【重　複】35号竪穴建物、11・12号溝と重複。35号竪穴建物より新しく、11・12号溝より古い。

【形　状】方形。

【規模（長軸m×短軸m）】3.42ｍ（東西）×3.04m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.25ｍを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】6.00㎡。

【長軸方位】Ｎ－81°－Ｅ。

【埋没状況】

耕作に伴う撹乱や削平によって遺構の遺存状況は良くないが、覆土は基本的に３層からなる。黄褐色砂質土および褐色砂質土の自然堆積が認められる。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

竪穴壁下に小ピットを伴う周溝が巡る。柱穴はない。竪穴内西側は上層から床面まで撹乱が及んでおり不明瞭。掘り形は全体に深く掘られているが、その中でも北壁側、南壁側で土壙状に掘られている箇所が認められる。

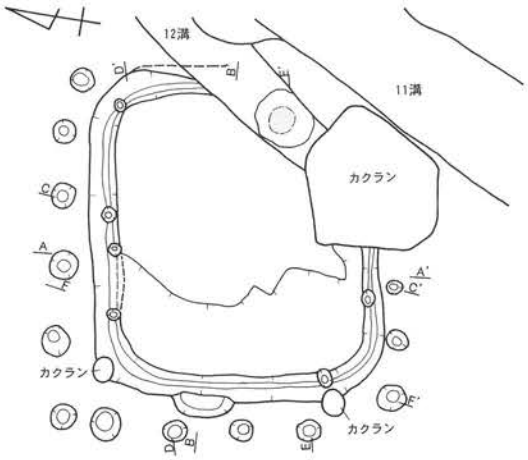
【竈】

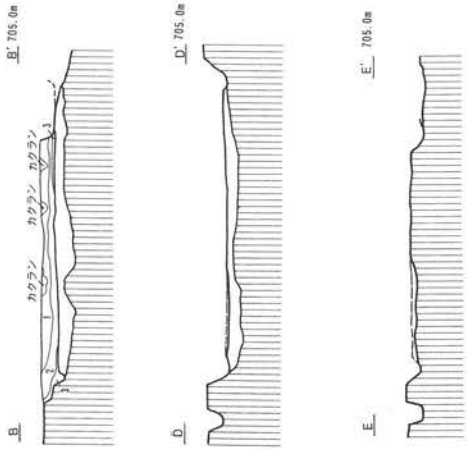
12号溝に切られてほとんど欠失しているが、焼土が残存する燃焼部掘り形の壙底面が検出されている。東壁南東コーナーに位置する。

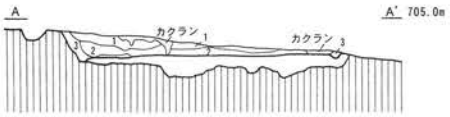
【その他施設】

竪穴壁外柱穴および階段状施設が検出されている。竪穴壁外柱穴とみられるピットが13基検出されている。径15～35cm、深さ約15cmを測り、斜面下にあたる南側のピットは掘り込みが浅い。

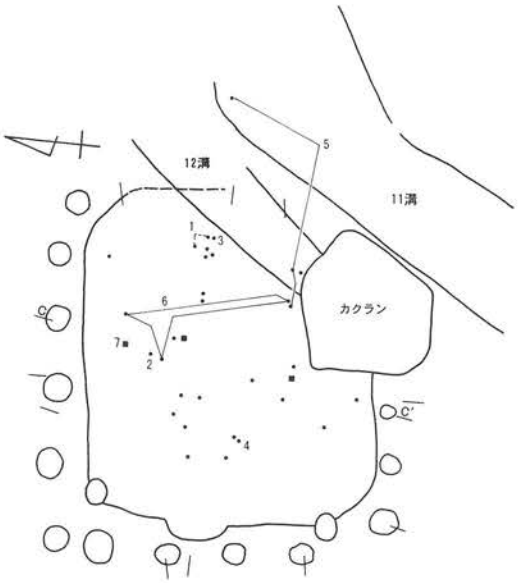
階段状施設は西壁北西コーナー近くに位置し、竪穴壁外に半月状に張り出すかたちで掘り込まれている。幅約65cm、奥行き約22cm、床面との段差は約６cmを測る。

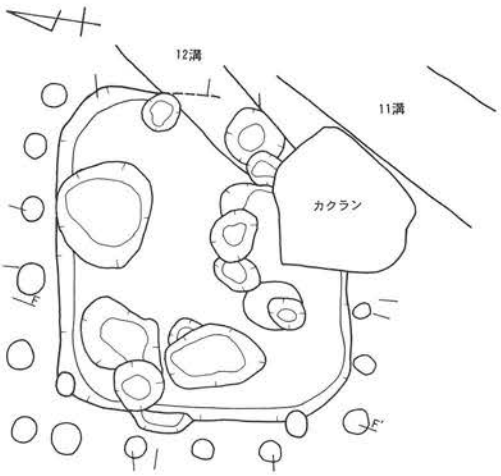


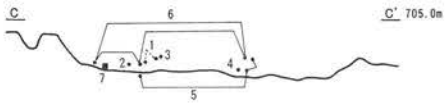


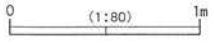


【30号竪穴建物 土層説明】
1　黄褐色砂質土10YR5/6　粘性弱・しまり有，ローム粒多，炭化物粒
2　褐色砂質土10YR4/4
　粘性弱・しまり有，2～5mm大ロームブロック，ローム粒，炭化物粒多
3　褐色砂質土10YR4/6
　粘性弱・しまり有，5～10mm大ロームブロック，ローム粒，炭化物粒

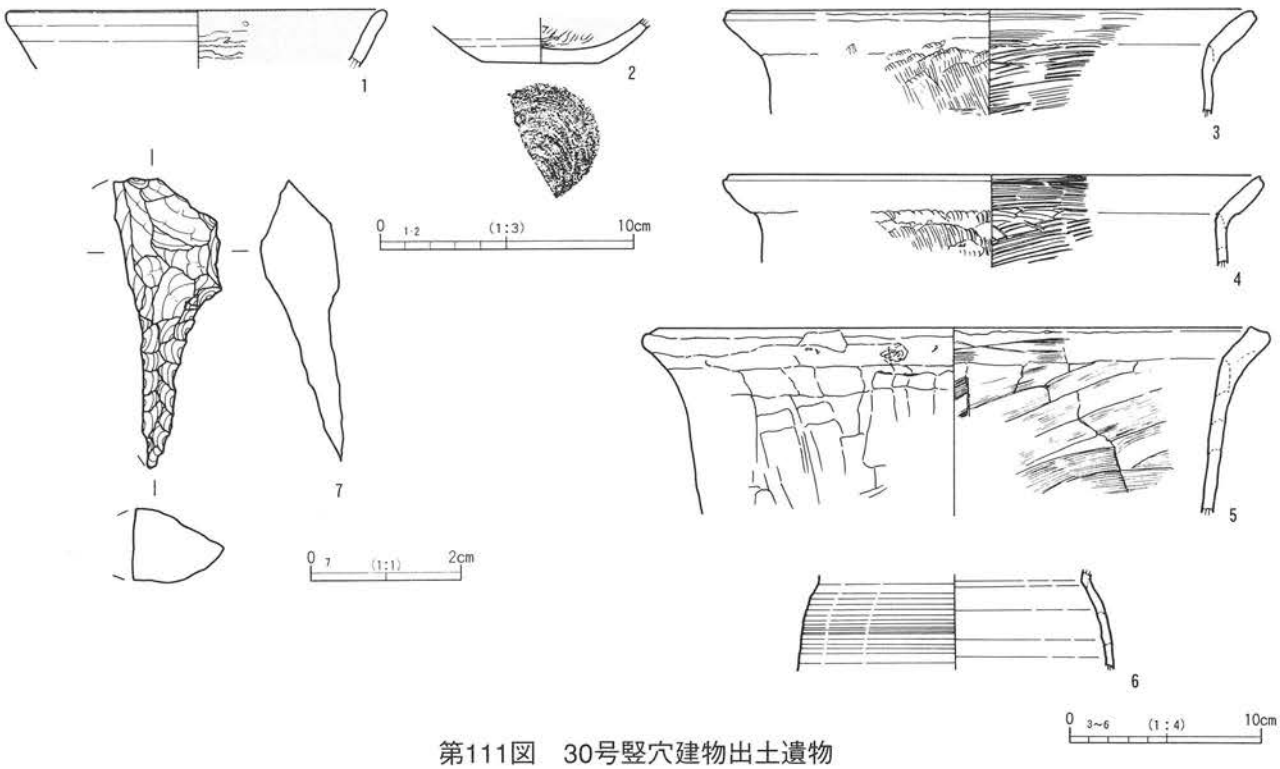








第110図　30号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図・掘り形



第111図　30号竪穴建物出土遺物

【遺物出土状況】

遺物量は少なく、散在的な出土状況を示している。竈周辺および掘り形内ピットからわずかながら出土している。

【出土遺物】（第111図）

1・2は黒色土器坏で、3・4は甲斐型土器の甕である。5も甕であるが、器形は甲斐型甕と類似するものの、胎土および調整技法において甲斐型とは若干異なっている。6はロクロ整形甕である。7は縄文時代の石錐で抓み部一部を欠損している。

【時　期】平安第Ⅰ段階。

31号竪穴建物（第112～114図）

【位　置】A23・24B15・16グリッドに位置する。

【重　複】なし。

【形　状】方形。

【規模（長軸m×短軸m）】4.32m×4.30m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.71mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】11.97㎡。

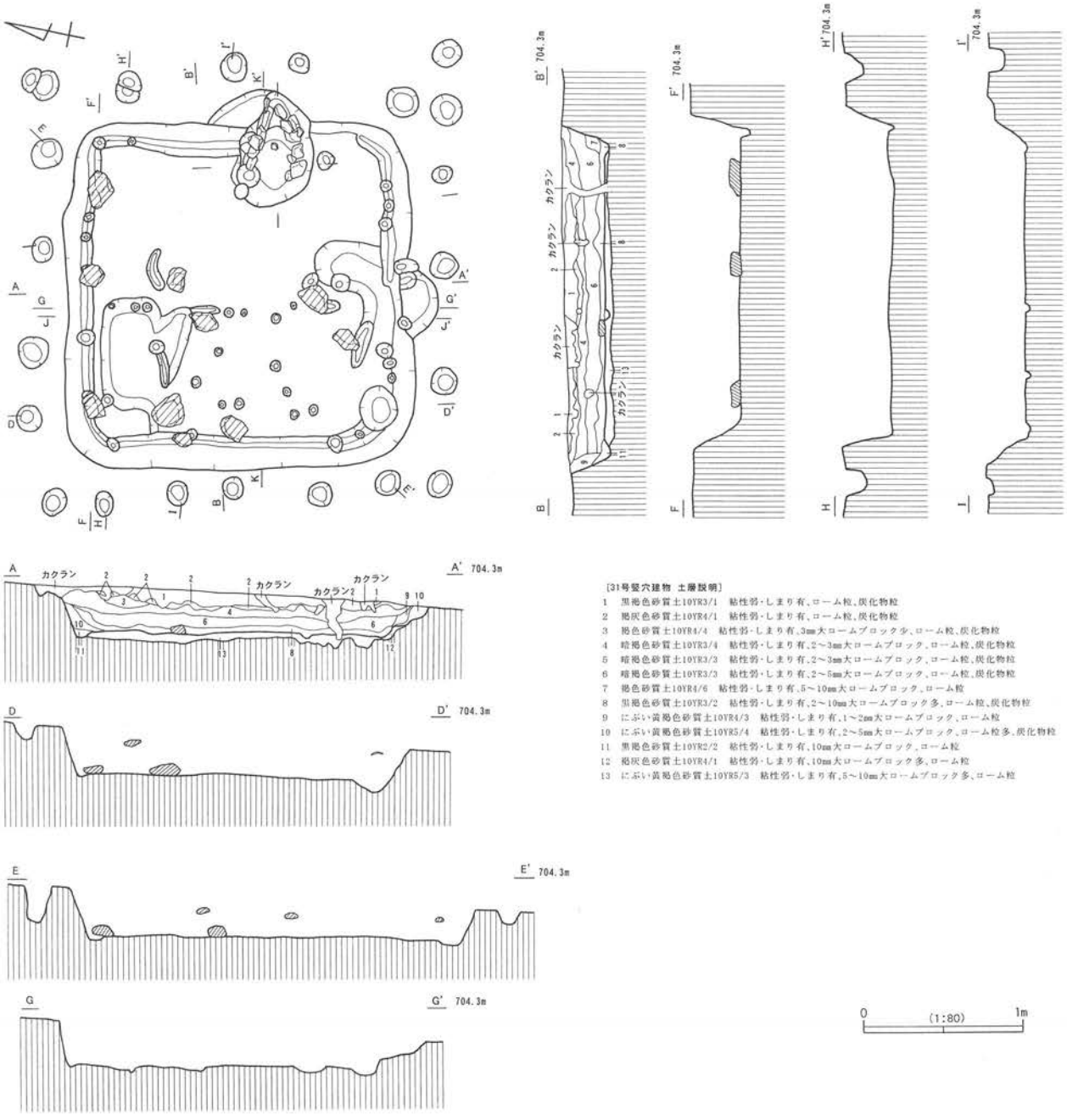
【長軸方位】N－79°－E。

【埋没状況】

覆土は基本的に9層からなり、自然堆積の状況を示している。遺構はその上部を中心に耕作による撹乱を受けており、一部床面下まで及んでいる。遺構中央部には黒褐色砂質土が堆積し、その下部には暗褐色砂質土が竪穴のほぼ全体にレンズ状に堆積している。竪穴壁際には、にぶい黄褐色砂質土の三角堆積がみられる。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

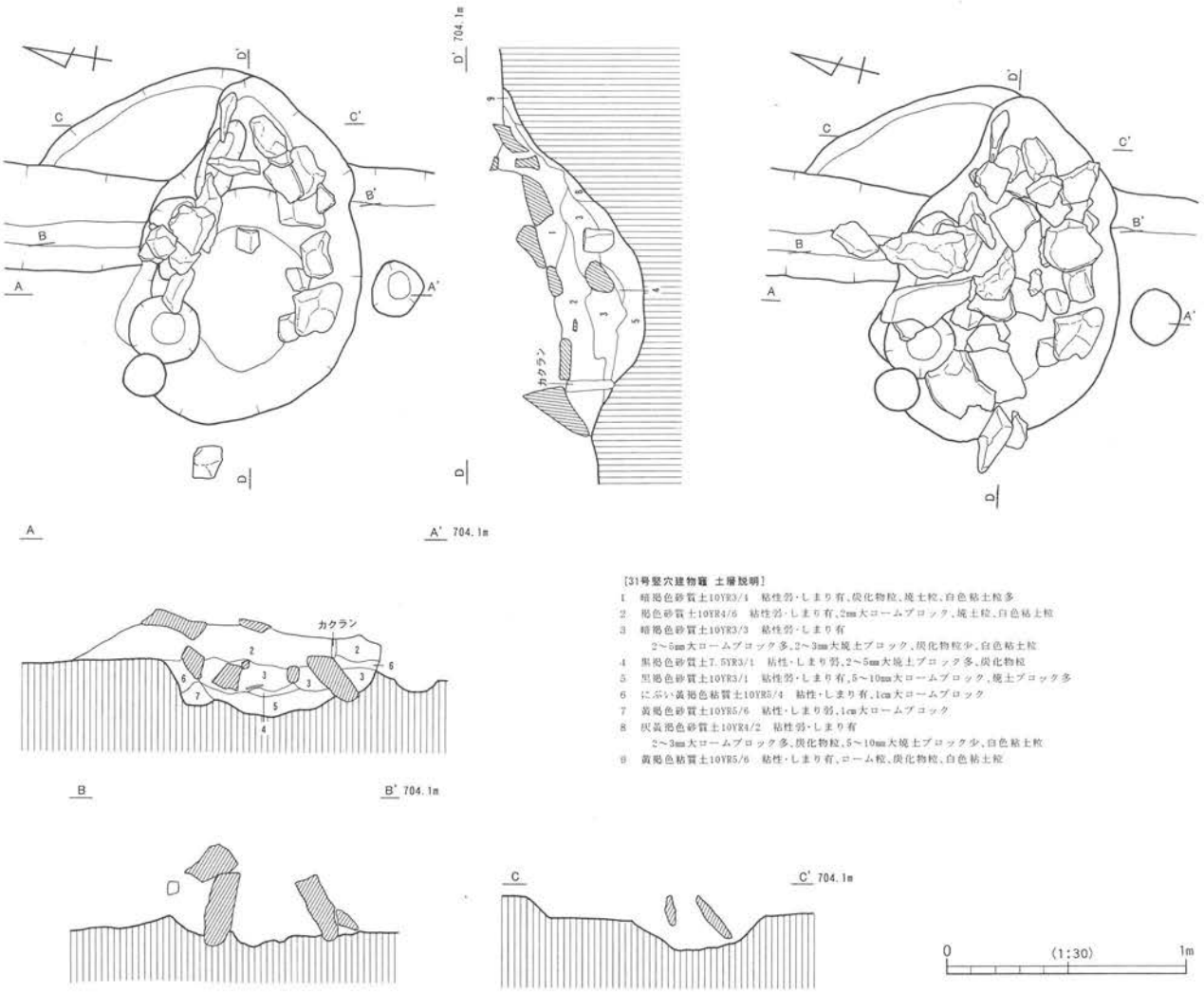
壁下には小ピットを伴う周溝がほぼ巡る。柱穴と思われるピットの規則的な配列はみられないが、礎石状の扁平な礫が検出されている。斜線のスクリーントーンで示したものがそうであるが、当初覆土中に混入している礫と同質のものと促えていたため、完掘写真撮影時には除去してしまった。後の整理段階で、これら礫は床面直上で検出されていること、そして配列にある程度の規則性がみられることから、礎石ではないかと判断した。北壁下にみられる礎石の間隔は芯々で約1.2ｍと約1.5ｍを測り、南壁下の礎石の間隔は芯々で約0.9ｍを測る。間仕切りに伴うものとして西壁から東壁に向かって約1.5ｍの箇所に南北の配列を示す小ピットがみられる。それに対応するように礎石状礫も配置されている。



[31号竪穴建物 土層説明]

1 黒褐色砂質土10YR3/1 粘性弱・しまり有、ローム粒、炭化物粒
2 褐灰色砂質土10YR4/1 粘性弱・しまり有、ローム粒、炭化物粒
3 褐色砂質土10YR4/4 粘性弱・しまり有、3mm大ロームブロック少、ローム粒、炭化物粒
4 暗褐色砂質土10YR3/4 粘性弱・しまり有、2～3mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
5 暗褐色砂質土10YR3/3 粘性弱・しまり有、2～3mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
6 暗褐色砂質土10YR3/3 粘性弱・しまり有、2～5mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
7 褐色砂質土10YR4/6 粘性弱・しまり有、5～10mm大ロームブロック、ローム粒
8 黒褐色砂質土10YR3/2 粘性弱・しまり有、2～10mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒
9 にぶい黄褐色砂質土10YR4/3 粘性弱・しまり有、1～2mm大ロームブロック、ローム粒
10 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 粘性弱・しまり有、2～5mm大ロームブロック、ローム粒多、炭化物粒
11 黒褐色砂質土10YR2/2 粘性弱・しまり有、10mm大ロームブロック、ローム粒
12 褐灰色砂質土10YR4/1 粘性弱・しまり有、10mm大ロームブロック多、ローム粒
13 にぶい黄褐色砂質土10YR5/3 粘性弱・しまり有、5～10mm大ロームブロック多、ローム粒

第112図　31号竪穴建物



第113図　31号竪穴建物竈

北西コーナーの一角は、長軸約1.35m、短軸約0.7～0.95mの長方形に浅い窪みとなっている。竪穴掘り形は、竪穴中央部と南東部を土壙状およびピット状に深く掘り下げている。

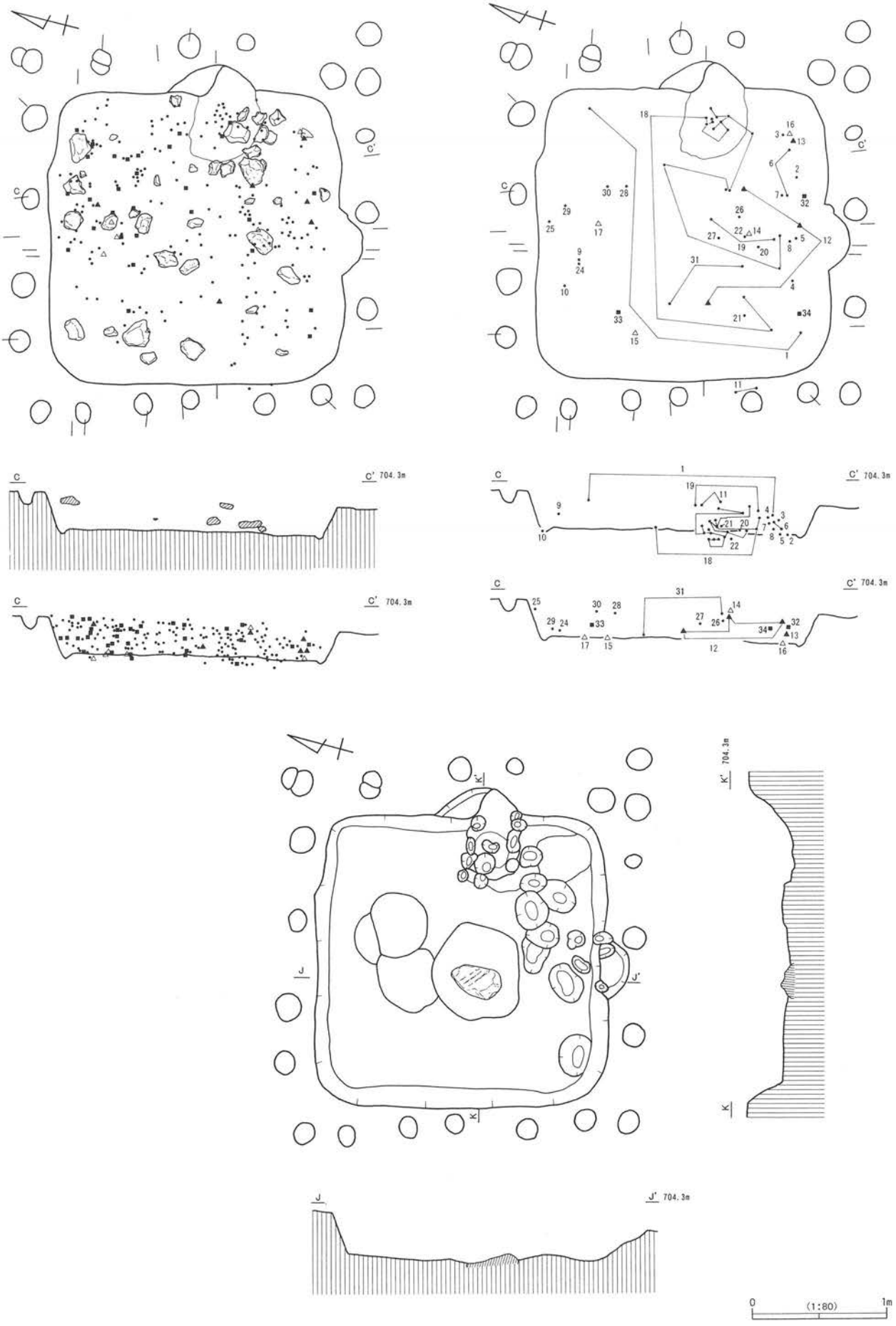
【竈】

東壁中央やや南寄りに位置する。両袖石とその基部、支脚石等が検出されている。竈の構築材は礫のみだけではなく、焼成白色粘土柱も袖石と混じって使用されている。竈は確認当初、埋土とともに礫が全体を覆った状態であった。おそらくこれら礫は除去した構築材の礫だと思われる。焼土はごくわずかに燃焼部内にて確認されている。煙道部北側の竪穴壁外は竈の掘り形と接するように三角形状に掘り窪められており、棚状施設の可能性が考えられる。

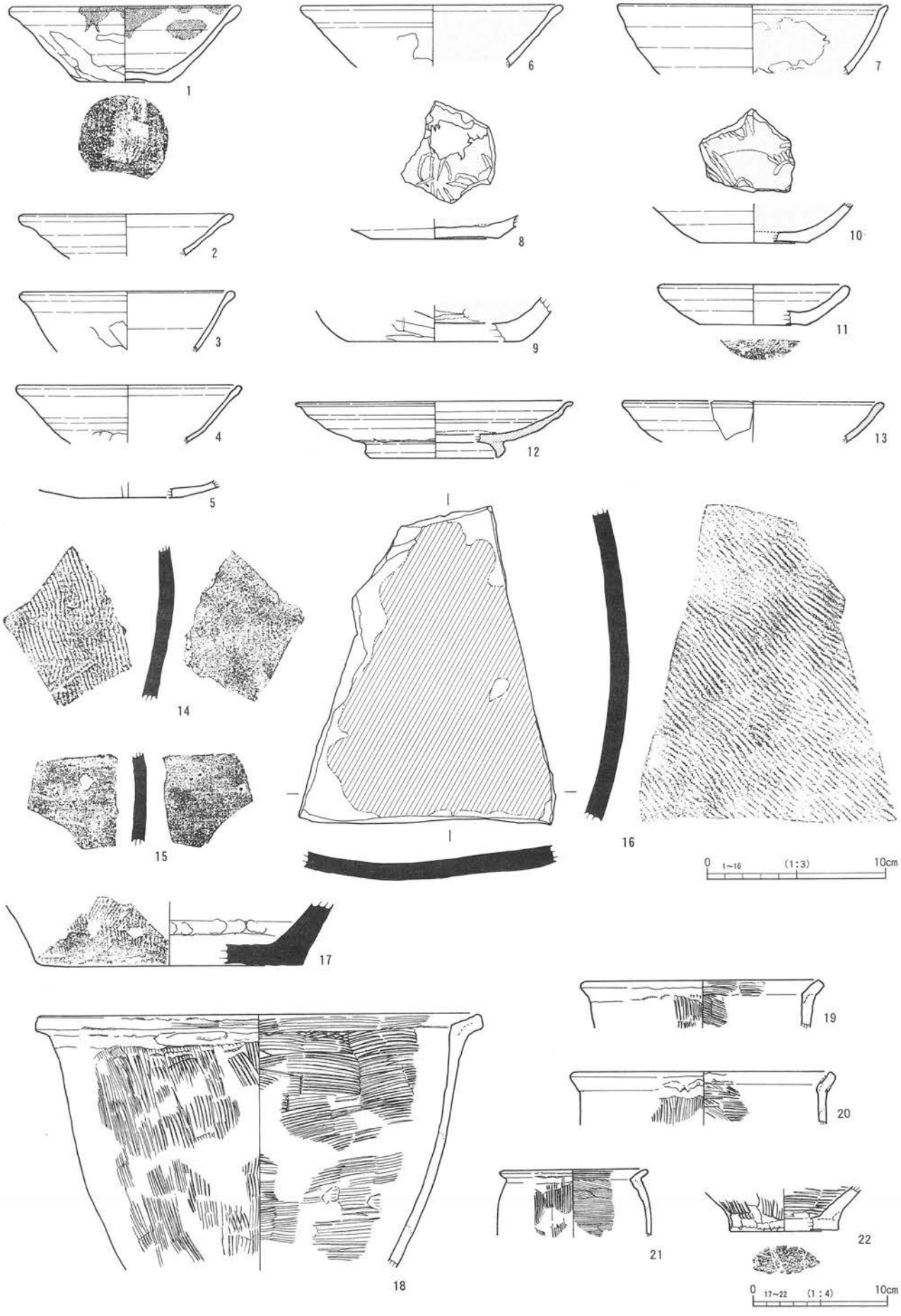
【その他施設】

竪穴壁外柱穴および階段状施設が検出されている。竪穴壁外柱穴とみられるピットは20基検出されている。径25～40cm、深さ約15～45cm、柱間は約0.6m～1.8mを測る。比較的規則性がうかがえる配列状況といえる。

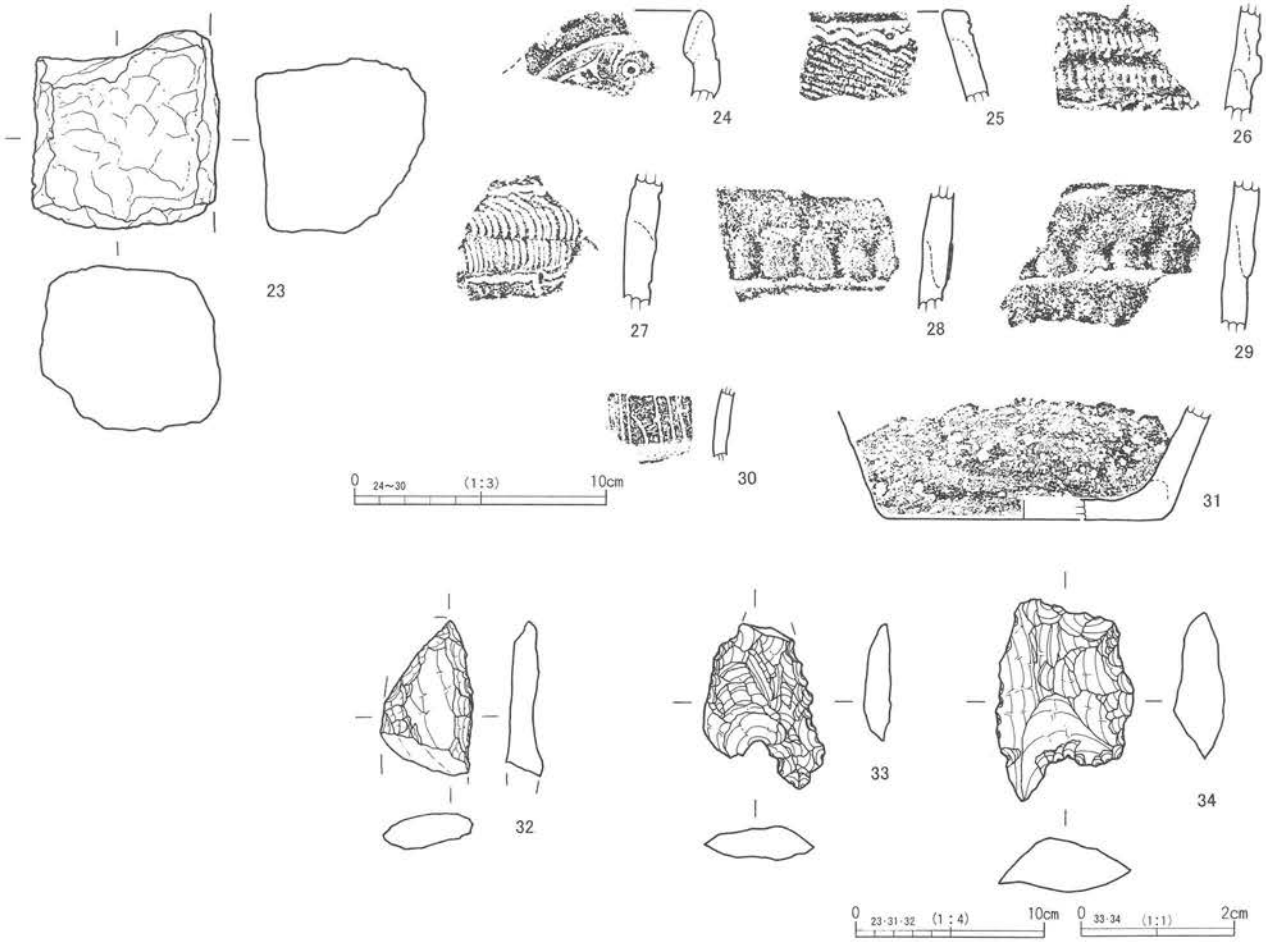
階段状施設は南壁ほぼ中央に位置し、竪穴壁外に半月状に張り出すかたちで掘り込まれている。平面図上では一段の段差となっているが、本来は二段の段差である。これは調査時に掘りすぎてし



第114図　31号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図・掘り形



第115図　31号竪穴建物出土遺物（1）



第116図　31号竪穴建物出土遺物（2）

まったもので、断面観察では素掘りした後、ロームブロックを多く含む褐灰色土の盛土による段差が存在したことが判明している。盛土であったため周囲の埋土と区別できず掘りすぎてしまった。掘り形の現状の規模は、幅約96cm、奥行き約45cm、段差は約20cm（本来は約８～10cmか）を測る。また、同施設の前面部はＬ字状に浅く掘り窪められ、よく踏み固められている。入り口施設に伴うものだろう。

【遺物出土状況】

遺物の全体的な出土傾向としては、竈およびその周辺部、竪穴北東部、竪穴南側中央部にややまとまって分布する傾向がみられる。垂直分布では覆土上層から下層にかけてまんべんなく分布している。

【出土遺物】（第115・116図）

１～４は甲斐型土器の坏である。１は口径12.6cm、底径5.2cm、器高4.3cmを測り、口唇部の内外面を中心に油煙が付着している。５は黒色処理を施していないが、胎土・調整技法からみて黒色土器系の土器であろう。６～10は黒色土器、11は土師質の皿で混入品であろう。12・13は灰釉陶器で、12は口径15.4cm、高台径7.0cm、器高3.2cmを測り、高台は三日月高台で、稜は内面の内彎も顕著である。美濃窯光ヶ丘１号窯式前半期の所産と思われる。14～16は須恵器壺また甕の破片資料である。16は胴部破片で、内面が非常によく磨れていることから転用硯の可能性が強い。

18～22は甲斐型土器の甕である。23は竈の袖の構築材に使用されていた焼成粘土柱である。24～34は、縄文時代の土器と石器である。

【時　期】平安第Ⅰ段階。

32号竪穴建物（第117・118図）

【位　置】A13・14B８・９グリッドに位置する。

【重　複】33号竪穴建物、16号溝と重複。33号竪穴建物より新しく、16号溝より古い。

【形　状】円形。

【規模（長軸m×短軸m）】4.60m（東西）×4.50m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.40mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】13.66㎡。

【長軸方位】N－91°－E。

【埋没状況】

耕作による撹乱が著しい。覆土は基本的に３層で、ロームブロックおよび炭化物粒を含む暗褐色土と、にぶい黄褐色土を中心とする。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

柱穴配置から新・古（a・b）二段階の建て替えが想定される。32a号はPit１～５からなる５本柱穴の竪穴で、32b号は、Pit６～11からなる６本柱穴の竪穴だと思われる。Pitの規模は、径25～49㎝、深さ10～40㎝を測る。周溝は巡っていない。

【炉】

明確な炉は検出されていない。しかし竪穴ほぼ中央部において、焼土粒と炭化物粒を含む灰黄褐色土を覆土とする長軸65㎝、短軸47㎝、深さ約15㎝を測るPit12が検出されている。これが炉となろうか。

【その他施設】

特になし。

【遺物出土状況】

遺物は竪穴北東部周辺の、覆土中層から散在的に出土している。土器破片資料が中心である。

【出土遺物】（第119図上段）

縄文時代中期前葉の土器を中心に出土しているが、破片資料ばかりである。１は三角区画文にキャタピラ文と三角押文を施し、３・７はパネル文系土器の矩形区画がみえる。９は無茎石鏃の完形品である。

【時　期】縄文時代中期か。

33号竪穴建物（第117・118図）

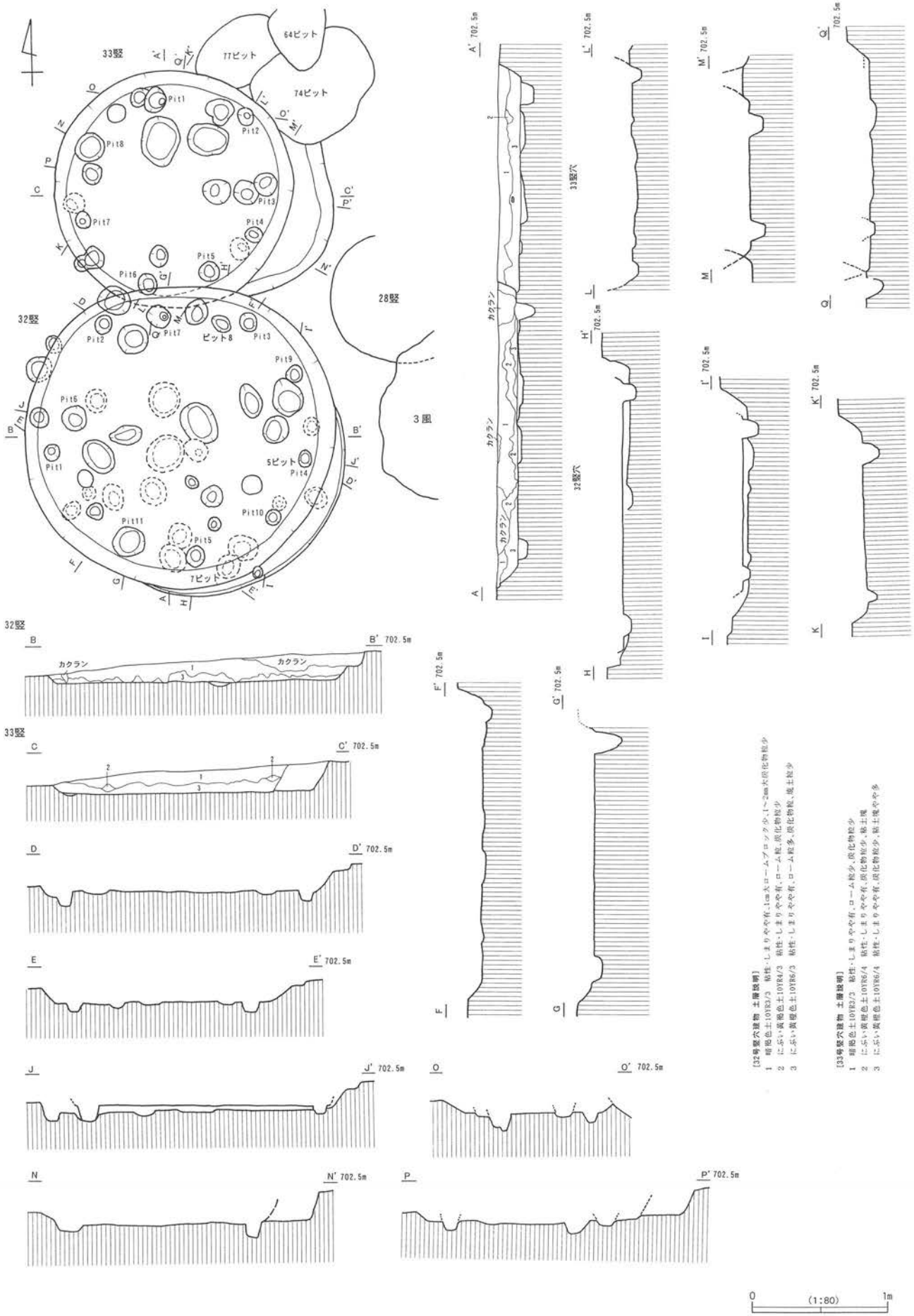
【位　置】A14・15B９グリッドに位置する。

【重　複】32号竪穴建物、74・77号ピットと重複。32号竪穴建物・74号ピットに切られる。77号ピットとの新旧関係は不明。

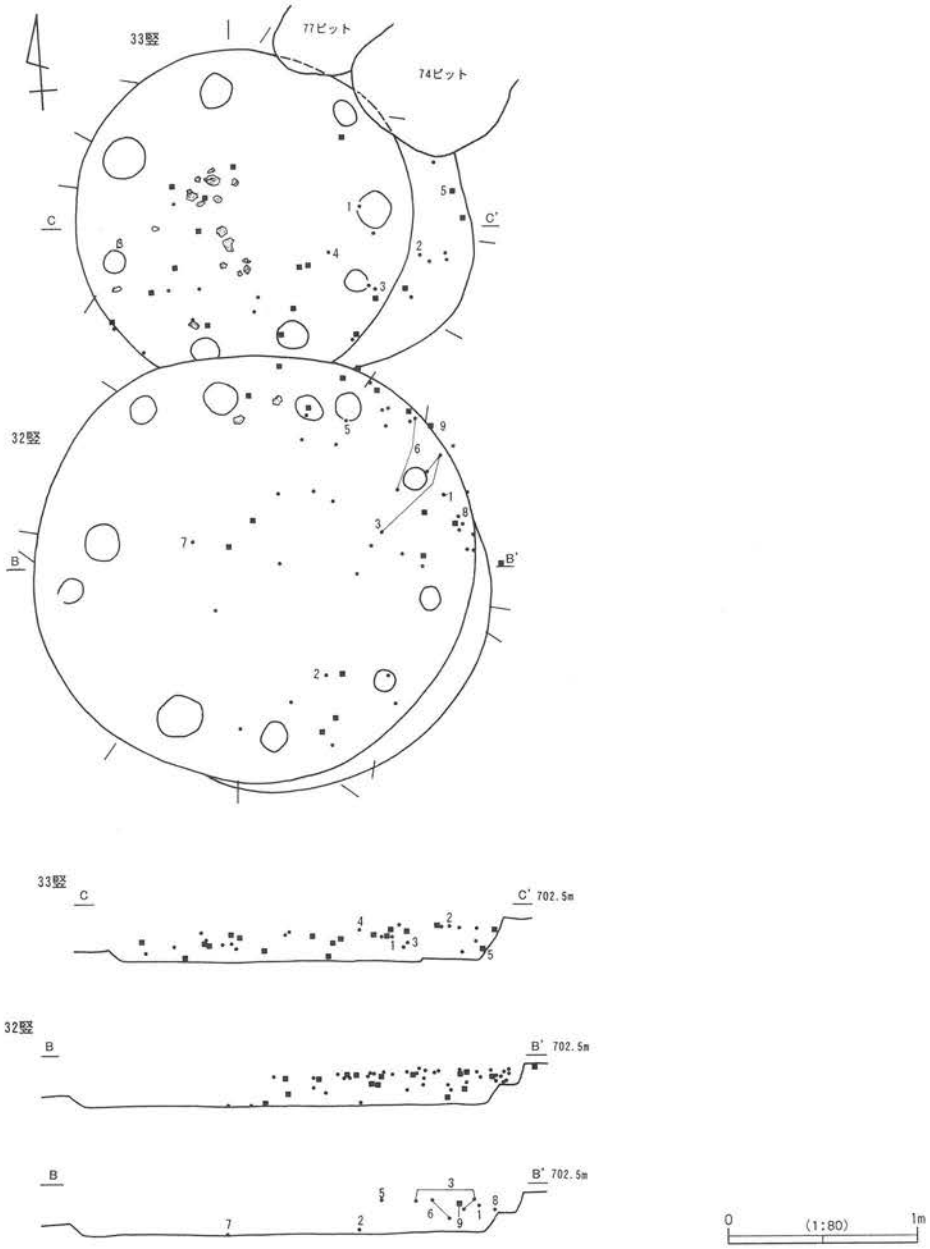
【形　状】円形。

【規模（長軸m×短軸m）】4.12m（東西）×3.50m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.38mを測る。



第117図　32·33号竪穴建物



第118図　32·33号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図

【竪穴部床面積（㎡）】7.82㎡。

【長軸方位】N－105°－E。

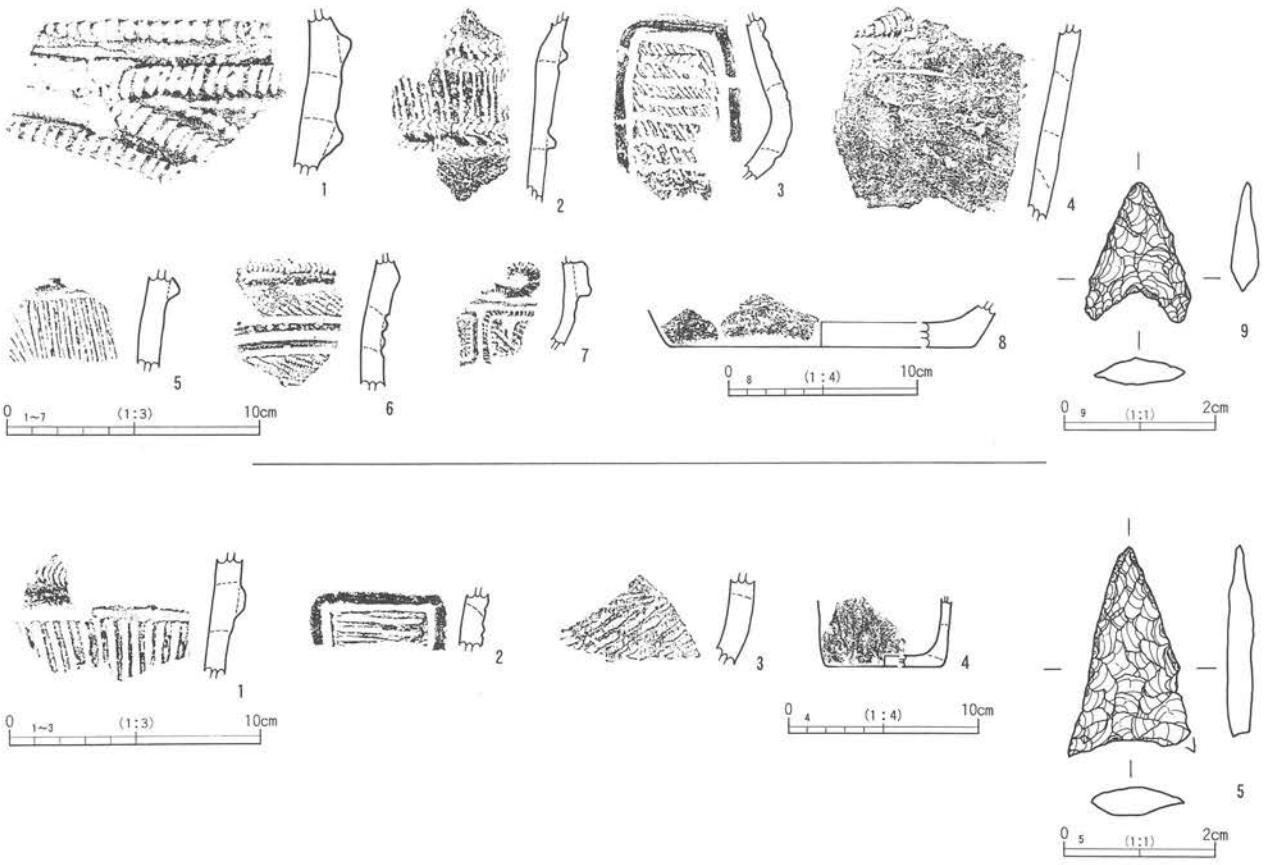
【埋没状況】

覆土は基本的に２層で、炭化物粒を含む暗褐色土と、炭化物粒および粘土ブロックを含むにぶい黄褐色土が中心となる。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

壁下に周溝は巡っていないが、壁際に沿ってピットが巡っている（Pit１～８）。その規模は、径25～45㎝、深さ15～25㎝を測る。床面は全体に概して軟弱で、凹凸が著しい。東壁側では床面に若干の段差をもっている。

【炉】



第119図　32・33号竪穴建物出土遺物

明確な施設は検出されていない。

【その他施設】

特になし。

【遺物出土状況】

覆土上層から下層にかけてを中心に、竪穴南西側、南東側で散在的に出土している。

【出土遺物】（第119図下段）

縄文時代中期前葉の土器を中心に出土しているが、図示できるものは少ない。１は縦位の沈線を施し、２は矩形区画の一部。３は縄文地文のもの。４は粗製深鉢形土器の底部破片である。５は無茎石鏃で、基部にわずかに抉りがみられる。

【時　期】縄文時代中期か。

34号竪穴建物（第120図）

【位　置】A14・15B13グリッドに位置する。

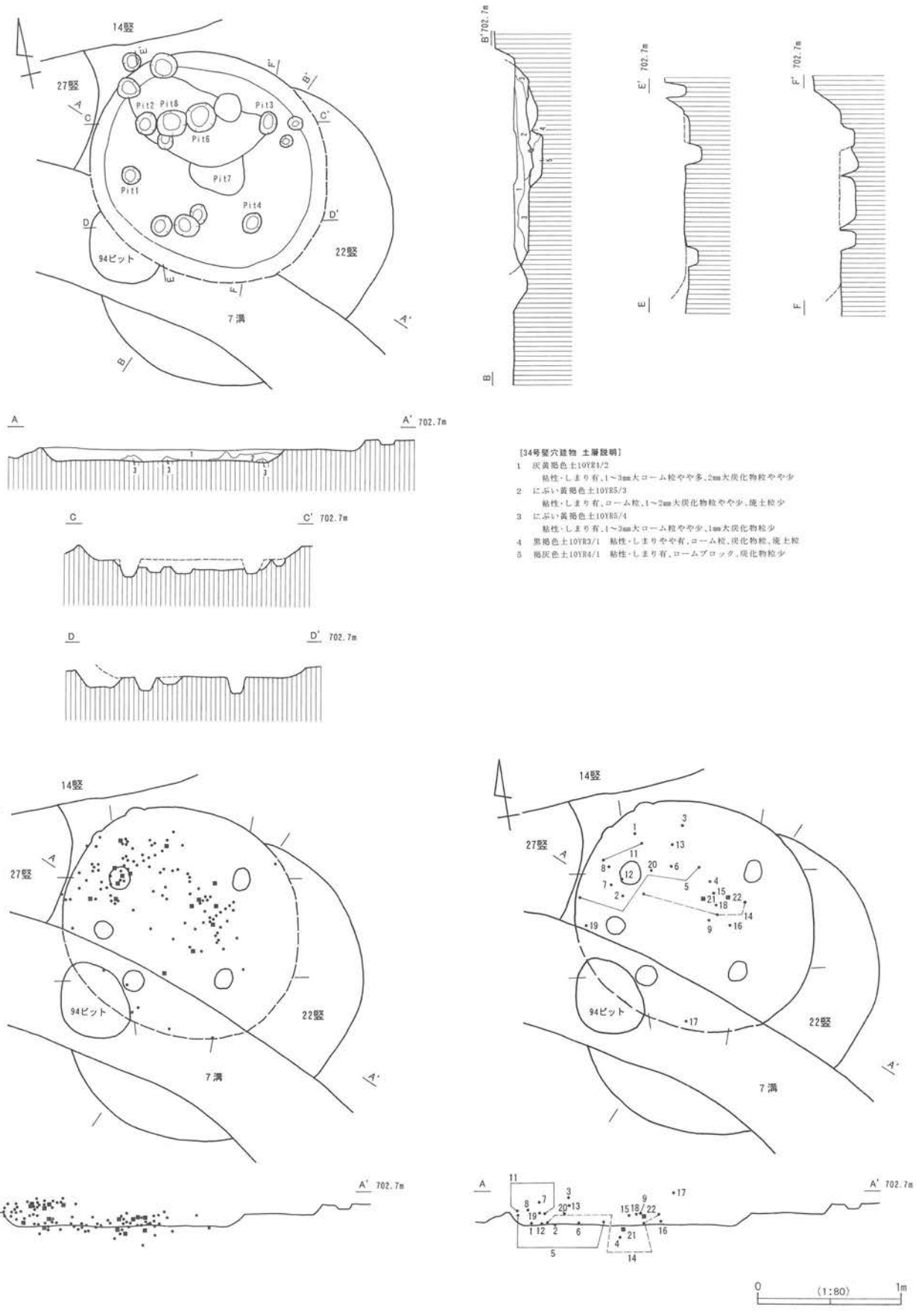
【重　複】22・25・27号竪穴建物、94号ピット、７号溝と重複。22・25号竪穴建物と７号溝に切られ、27号竪穴建物を切っている。94号ピットとの新旧関係は不明。

【形　状】楕円形。

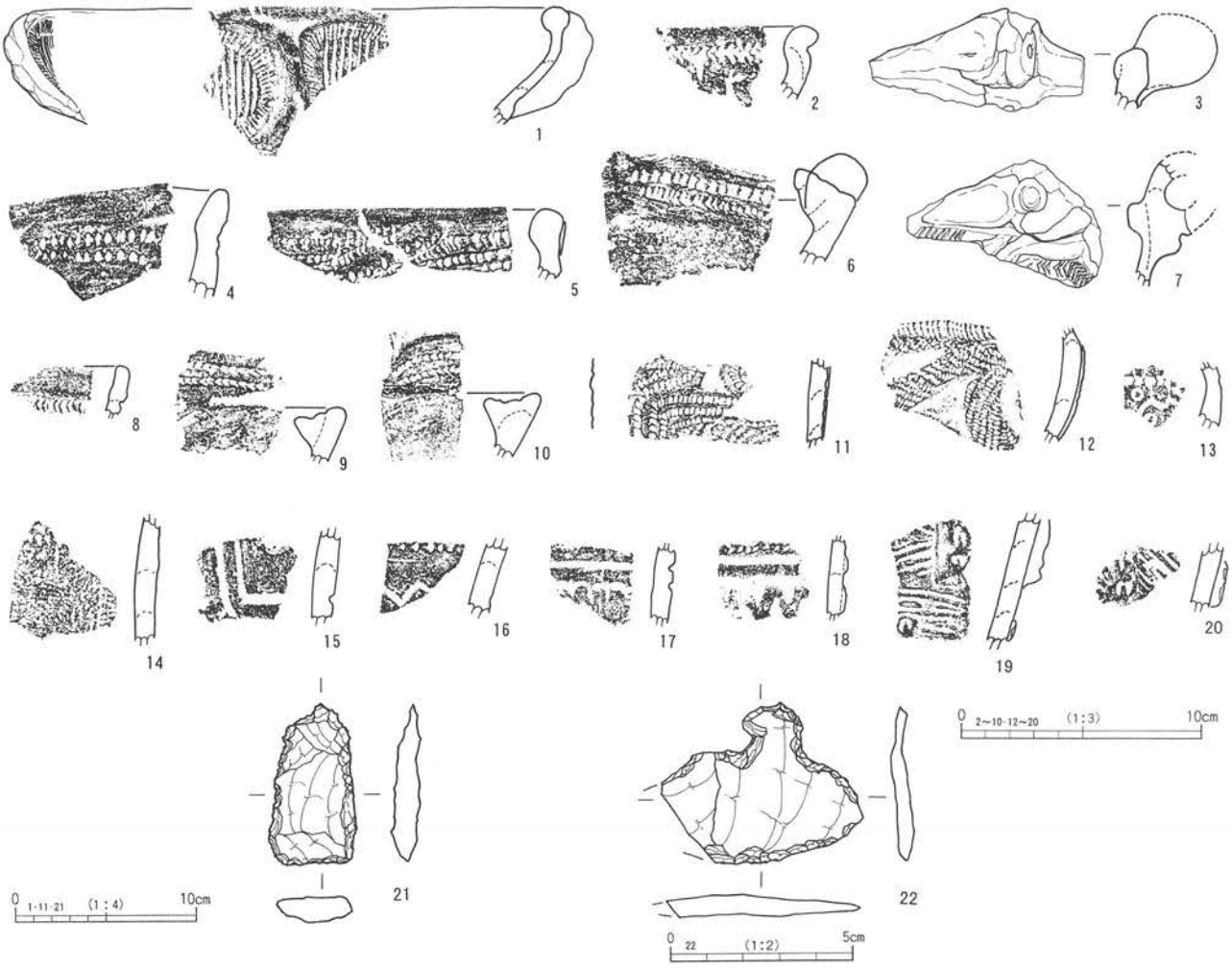
【規模（長軸m×短軸m）】3.44m（南北）×3.15m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.36mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】7.65㎡。



第120図　34号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図



第121図　34号竪穴建物出土遺物

【長軸方位】N－44°－W。

【埋没状況】

覆土は基本的に３層で、炭化物粒を含む灰黄褐色土と、炭化物粒と焼土粒を含むにぶい黄褐色土を中心とする。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

壁下に周溝は巡っていない。床面も概して軟弱である。竪穴内にて柱穴状のピットが15基程度検出され、土壙状のピットも３基程度検出されている。その内柱穴と思われるのは、位置等からPit１～５と思われる。径約30cm前後、深さ約20cm前後を測る。Pit６～８についての性格は不明である。

【炉】

明確な施設は検出されていない。

【その他施設】

特になし。

【遺物出土状況】

竪穴北壁寄りの覆土上層から中層にかけてと、Pit６～８の内外から中心的に出土している。

【出土遺物】（第121図）

縄文時代中期前葉の土器が中心である。１は隆帯による楕円区画文内をキャタピラ文と縦位の沈線を施す。２は口唇部の直下に三角押文を巡らし、３と７は小突起破片である。４は刺突状の押引文が施され、５は重三角区画文の一部がみられる。６・９・10は浅鉢形土器の口縁部破片で、口唇部等に三角押文と角押文を施している。11は楕円区画文内に角押文を充填しており、12は縄文を地文として削り出しによる隆線が施されている。13には円形竹管文と角押文がみられ、18には波状の隆線を施している。19・20は前期諸磯c式の土器片である。21は完形の打製石斧、22は横型の石匙である。

【時　期】縄文時代中期か。

35号竪穴建物（第122～128図）

【位　置】A24・25B14～16グリッドに位置する。

【重　複】30号竪穴建物、11・12号溝と重複。いずれの遺構よりも古い。

【形　状】楕円形。

【規模（長軸m×短軸m）】7.23m（南北）×6.70m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.64mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】32.99㎡。

【長軸方位】N－32°－W。

【埋没状況】

遺構上部は、耕作による撹乱がいたるところに及んでいる。竪穴中央部（１層・２層）には、炭化物と焼土粒を暗褐色砂質土と黒褐色砂質土が大きくレンズ状堆積を示し、特に２層には材にはならないが、比較的大きめの炭化物が多く混じっている。竪穴壁際にはロームブロックを含む黄褐色土系の砂質土が流れ込むように堆積している。床面直上には（７層）、炭化物を含み、しまりのやや強い黄褐色粘質土が10cm内外の厚さで堆積している。

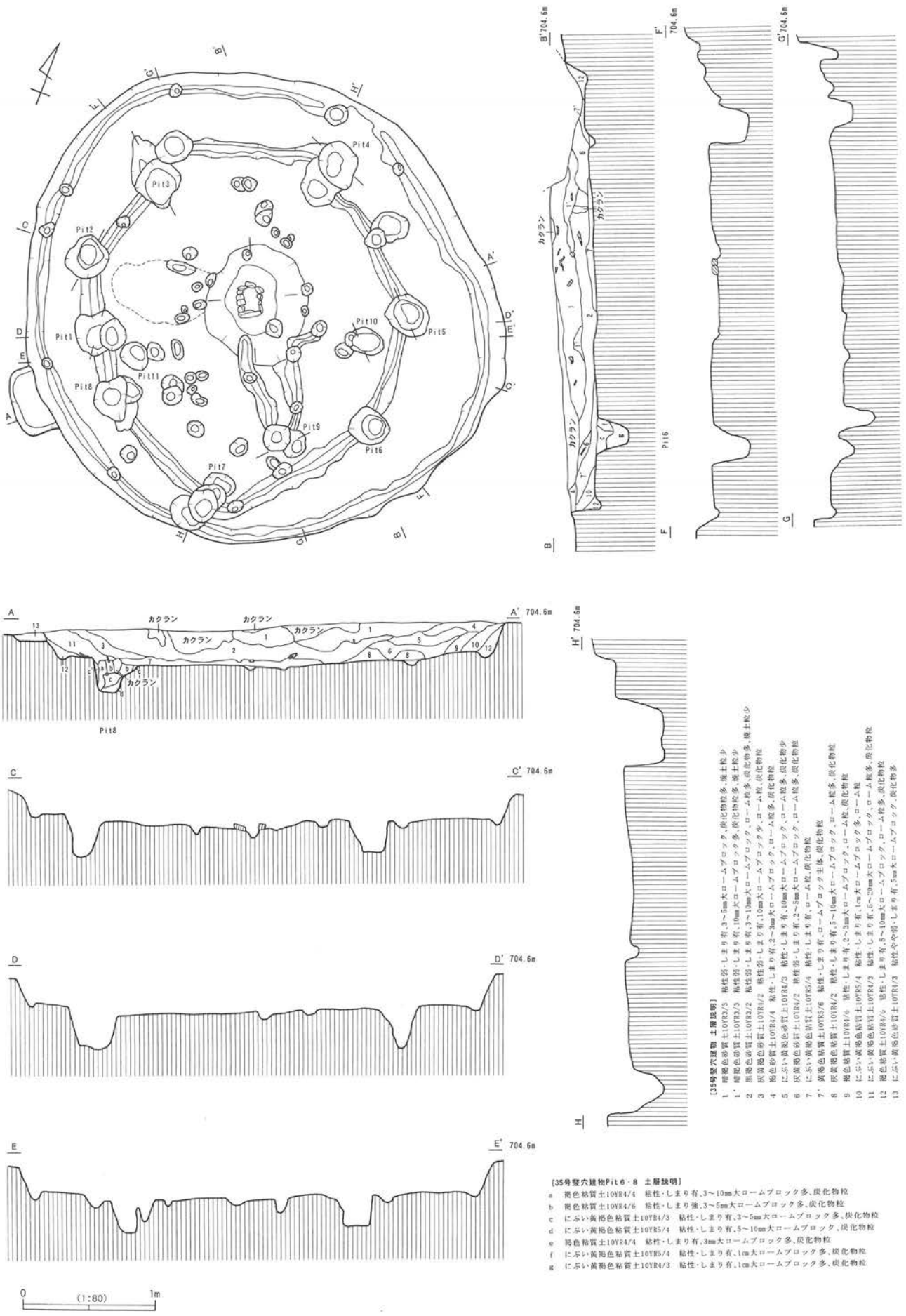
【内部構造（柱穴・掘り形等）】

柱穴の重複関係から、a・b・c・dの最低４段階の建て替えが想定される。新しい順に35a号はPit１～８の８本柱穴の竪穴で、柱穴を結ぶように周溝が巡り、段差となり壁際がベッド状を呈している。段差は最高で10cm程度、大半は４～５cm程度の段差である。柱穴の深さは、50～60cm前後を測り、深さはほぼ揃っている。確認された柱痕の幅は15～20cm前後を測る。35b号は同じくPit１～８の切られたピットからなる８本柱穴の竪穴と思われる、35c号はPit２～４の切られたピットとPit９～11からなる５本柱穴の竪穴と思われる。35d号はPit２～４の切られたピットとPit９～11の切られたピットからなる５本柱穴の竪穴と思われる。c・d段階のPit３・９～11の間には周溝は検出されていないが、壁際を巡っていたと思われる小ピットが検出されている。

【炉】

炉は竪穴のほぼ中央に位置する石囲炉である。炉を中心に長軸約1.8m、短軸約1.6mを測る楕円形の範囲が、床面より４～５cm低くなっている。またその周囲からは径約20cmを測る小ピットが数基検出されている。

炉の規模は、礫の埋設範囲で長軸約53cm、短軸約40cmを測り、炉底面までの深さは約20cmを測る。炉覆土内には明確な焼土層は残存しておらず、炭化物粒と焼土粒を含む暗褐色砂質土と、褐色砂質土が中心となり、覆土上層には縄文土器片と礫を含んでいる。



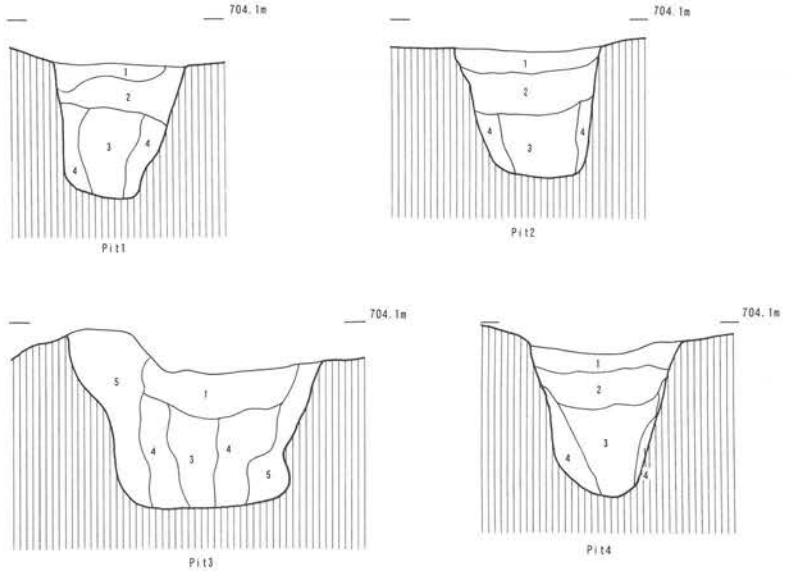
[35号竪穴建物 土層説明]

1 暗褐色砂質土10YR3/3 粘性弱・しまり有,3～5mm大ロームブロック,炭化物粒多,焼土粒少
1' 暗褐色砂質土10YR3/3 粘性弱・しまり有,10mm大ロームブロック多,炭化物粒多,焼土粒少
2 黒褐色砂質土10YR3/2 粘性弱・しまり有,3～10mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物多,焼土粒少
3 灰黄褐色砂質土10YR4/2 粘性弱・しまり有,10mm大ロームブロック少,ローム粒,炭化物粒
4 褐色砂質土10YR4/4 粘性・しまり有,2～3mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒
5 にぶい黄褐色砂質土10YR4/3 粘性・しまり有,10mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物少
6 灰黄褐色砂質土10YR4/2 粘性弱・しまり有,2～5mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒
7 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有,ローム粒,炭化物粒
7' 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有,ロームブロック主体,炭化物粒
8 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有,5～10mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒
9 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有,2～3mm大ロームブロック,ローム粒,炭化物粒
10 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック多,ローム粒
11 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有,5～20mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒
12 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有,5～10mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒
13 にぶい黄褐色砂質土10YR4/3 粘性やや弱・しまり有,5mm大ロームブロック,炭化物多

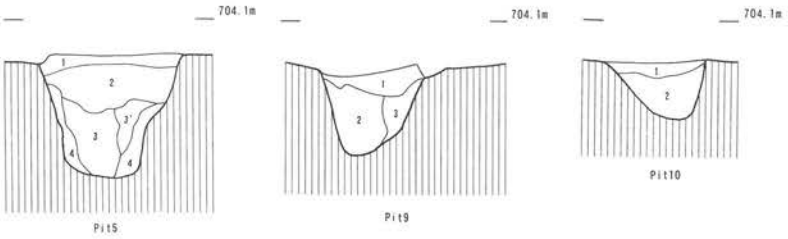
[35号竪穴建物Pit6・8 土層説明]

a 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有,3～10mm大ロームブロック多,炭化物粒
b 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり強,3～5mm大ロームブロック多,炭化物粒
c にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有,3～5mm大ロームブロック多,炭化物粒
d にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有,5～10mm大ロームブロック,炭化物粒
e 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有,3mm大ロームブロック多,炭化物粒
f にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック多,炭化物粒
g にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック多,炭化物粒

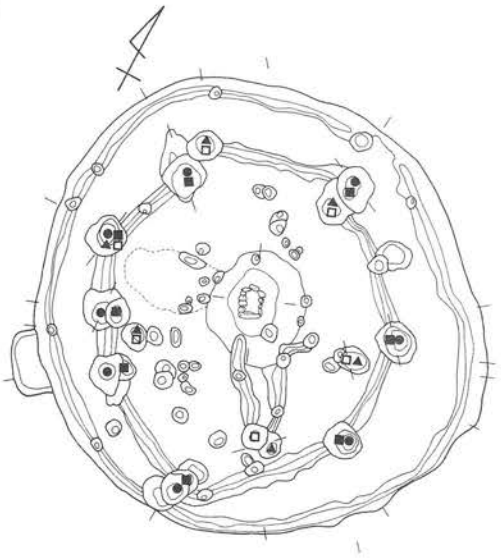
第122図　35号竪穴建物



[35号竪穴建物Pit1～5 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有,2～3mm大ロームブロック,炭化物粒
2 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有,2～10mm大ロームブロック,炭化物粒
3 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック多,炭化物粒
3' 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック,炭化物粒
4 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック多,炭化物粒
5 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック多

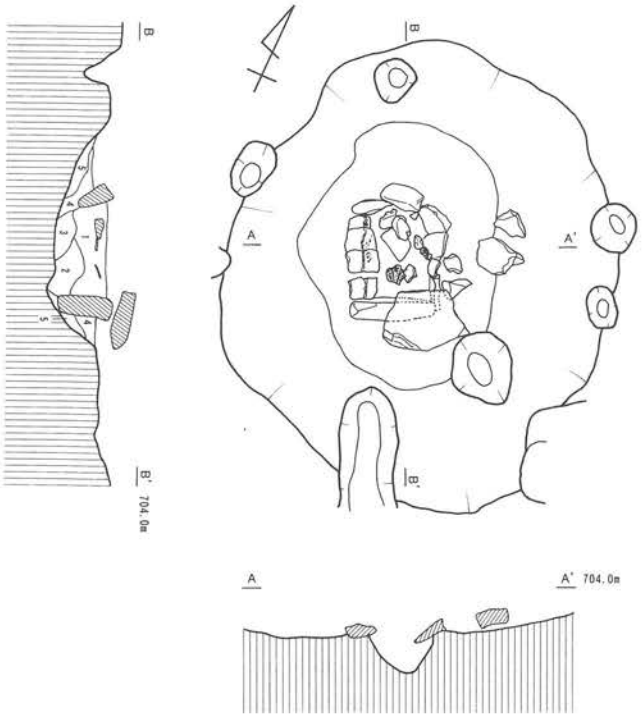


[35号竪穴建物Pit9・10 土層説明]
1 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有,2～10mm大ロームブロック,炭化物粒
2 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有,10mm大ロームブロック多
3 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有,5～10mm大ロームブロック,炭化物粒



35号竪穴柱穴配列図 [1/120]

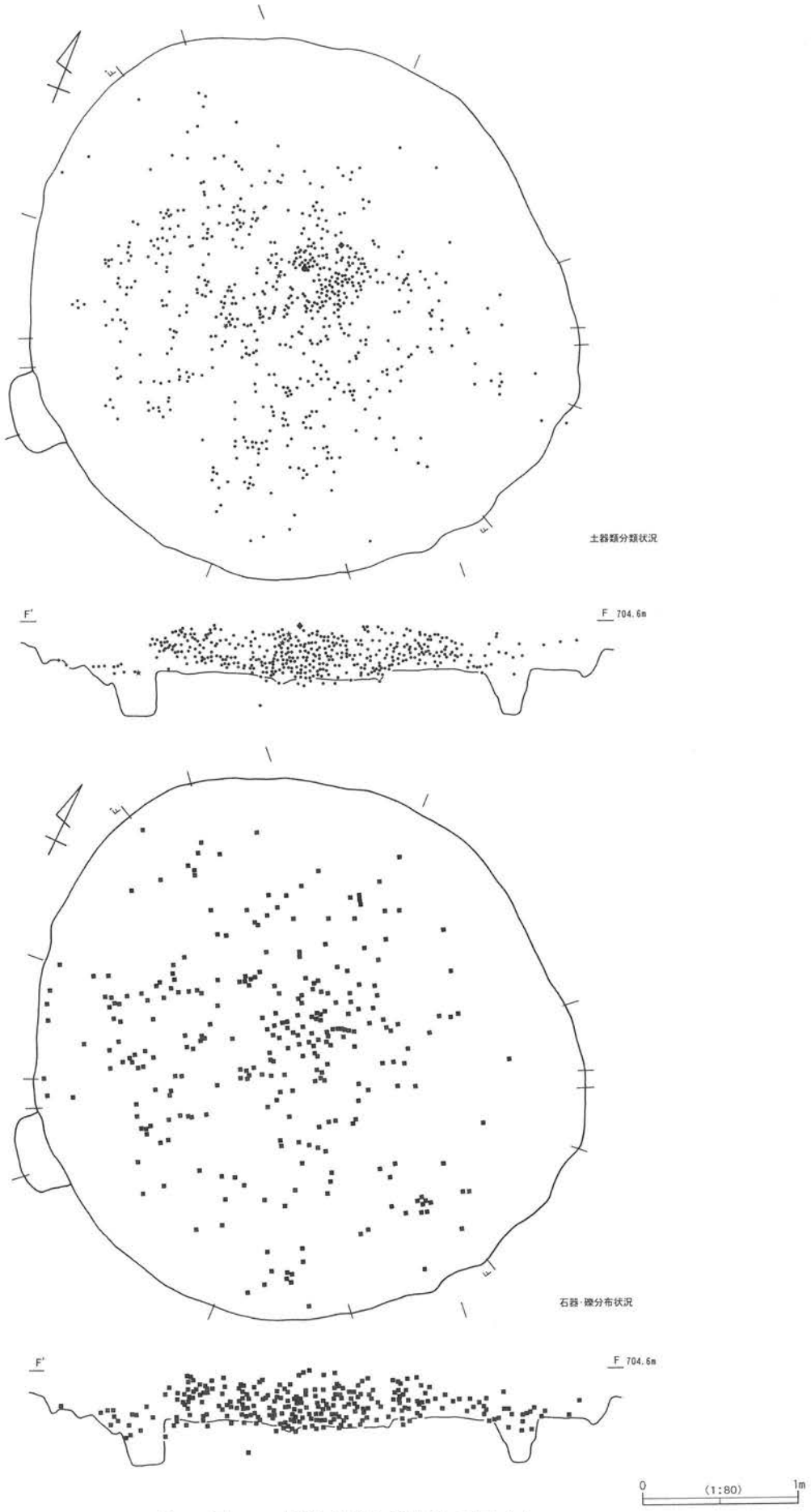
●…a段階 ■…b段階 ▲…c段階 □…d段階



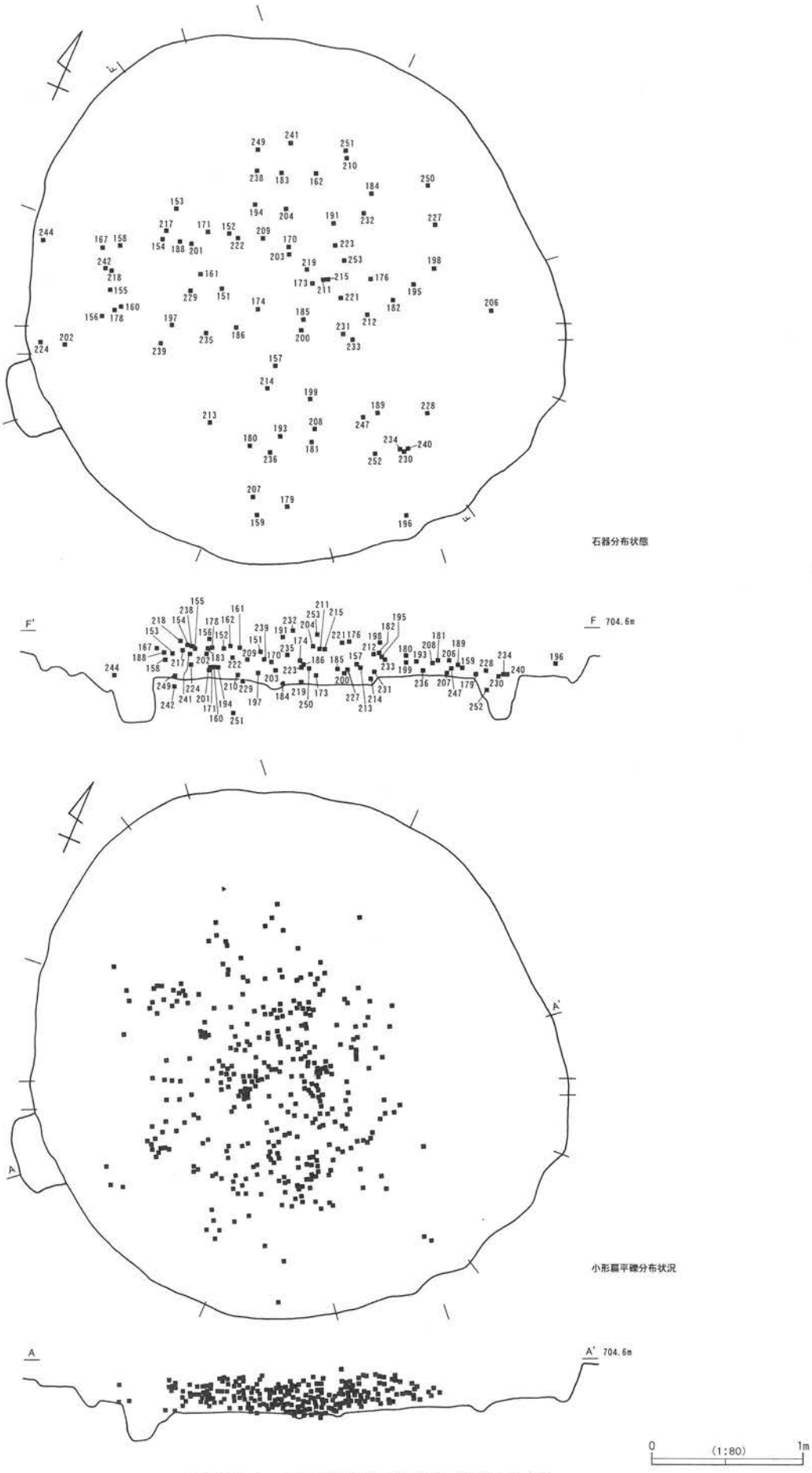
[35号竪穴建物炉 土層説明]
1 暗褐色砂質土7.5YR3/3 粘性弱・しまり有,2～5mm大ロームブロック,炭化物粒,焼土粒
2 褐色砂質土7.5YR4/6
粘性弱・しまり有,5～10mm大ロームブロック,炭化物粒,3～5mm大焼土ブロック多
3 明褐色粘質土7.5YR5/6 粘性・しまり有,ローム粒,焼土粒
4 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有,炭化物粒,焼土粒,暗褐色土
5 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有,3～5mm大ロームブロック,ローム粒

0 (1:30) 1m

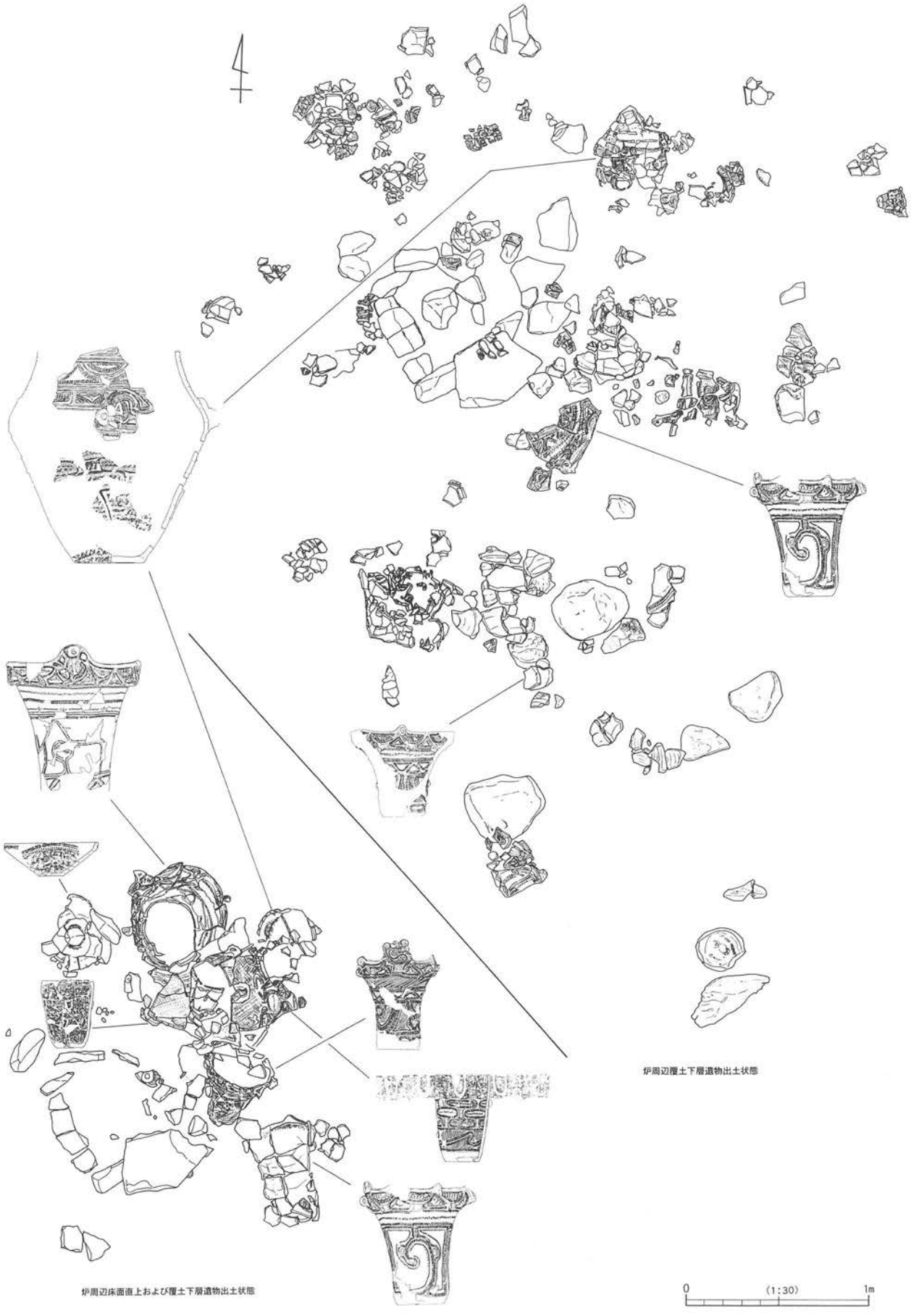
第123図 35号竪穴建物柱穴土層図・柱穴配列図・炉



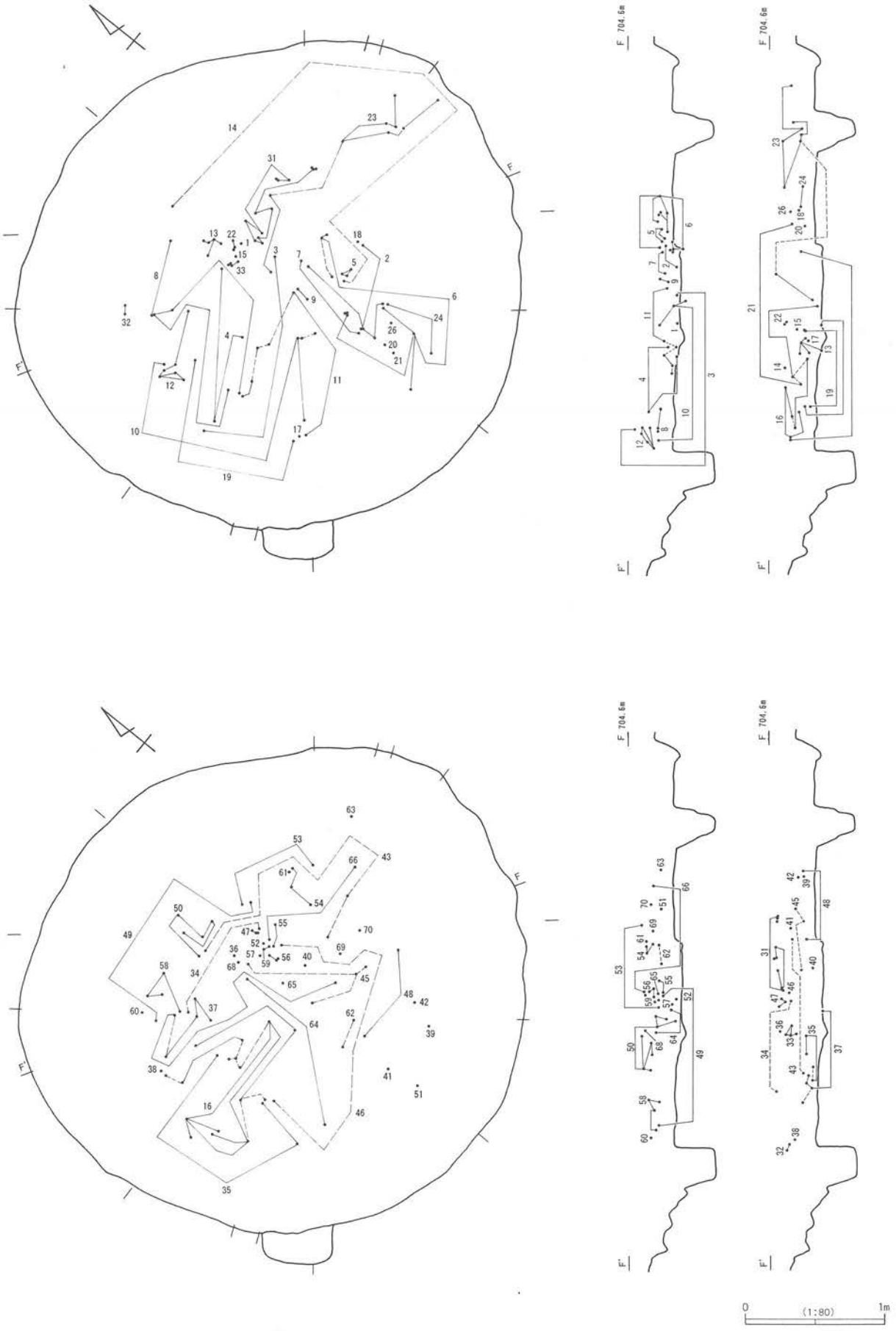
第124図　35号竪穴建物遺物分布図（1）



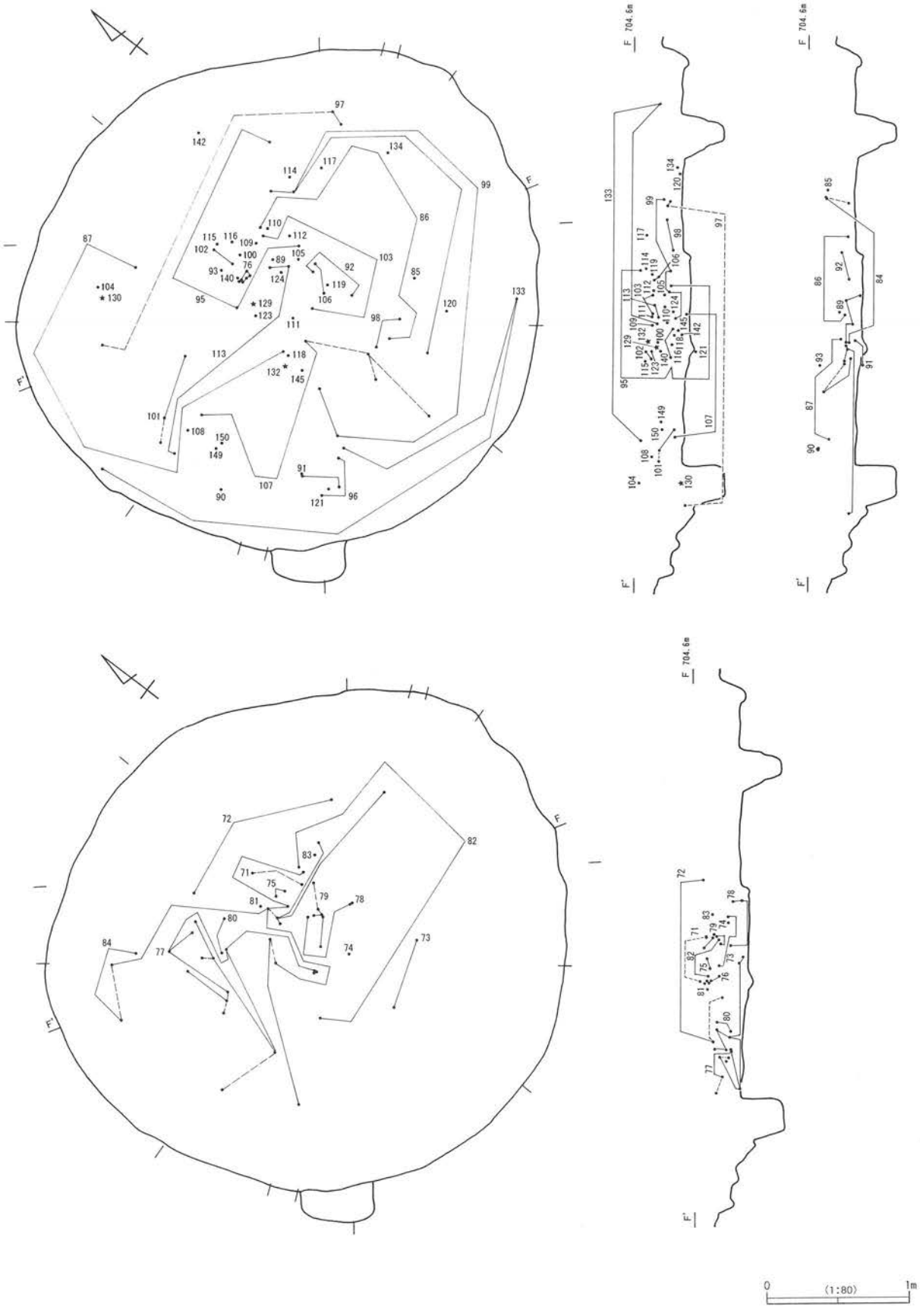
第125図　35号竪穴建物遺物分布図（2）



第126図　35号竪穴遺物出土微細図

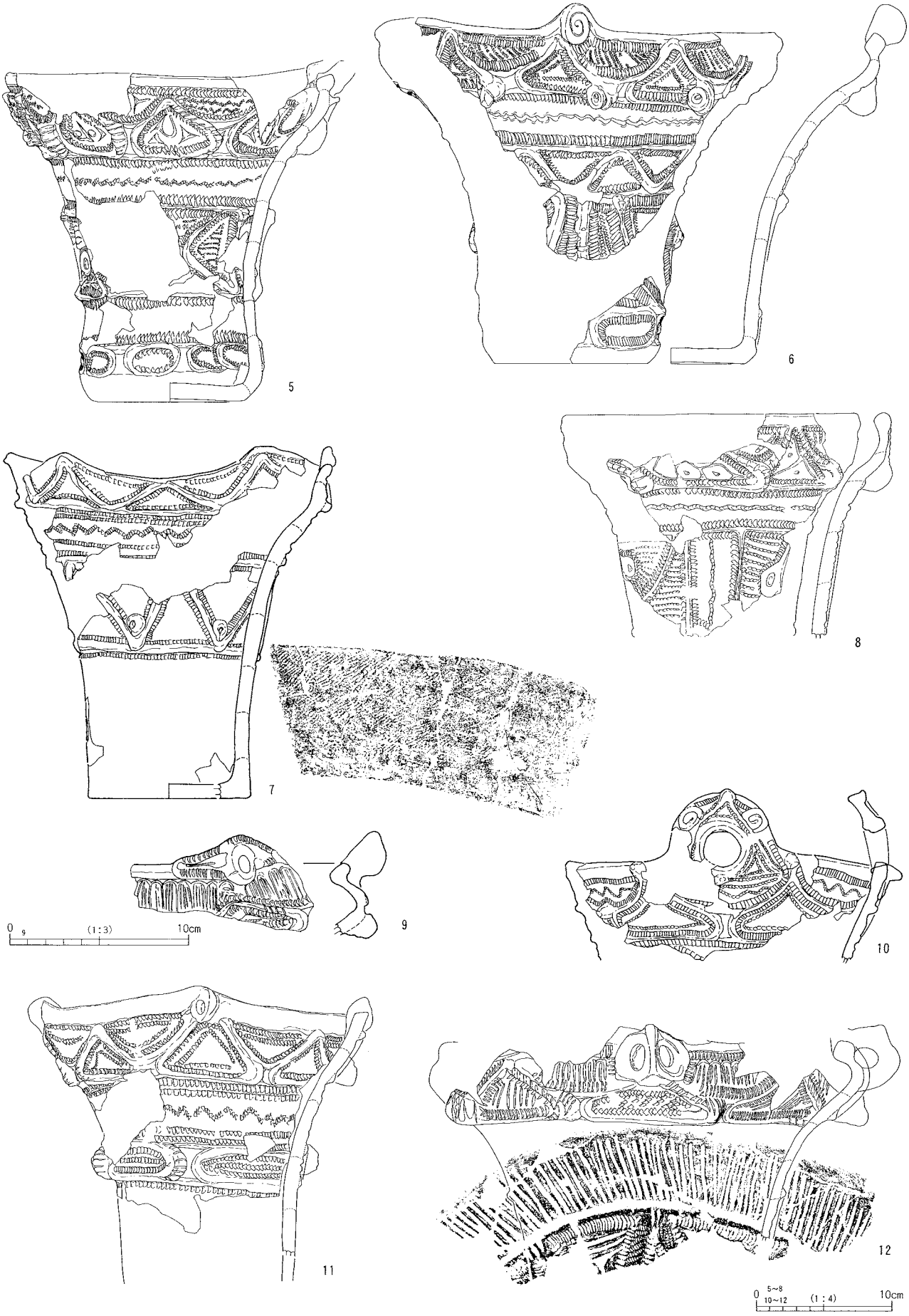


第127図　35号竪穴建物遺物接合図（1）

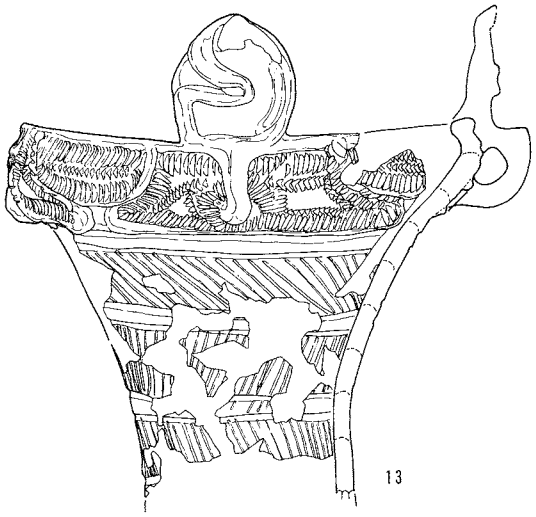


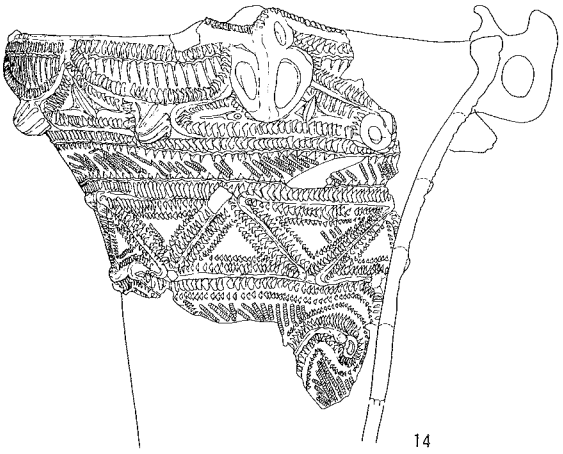
第128図　35号竪穴建物遺物接合図 (2)

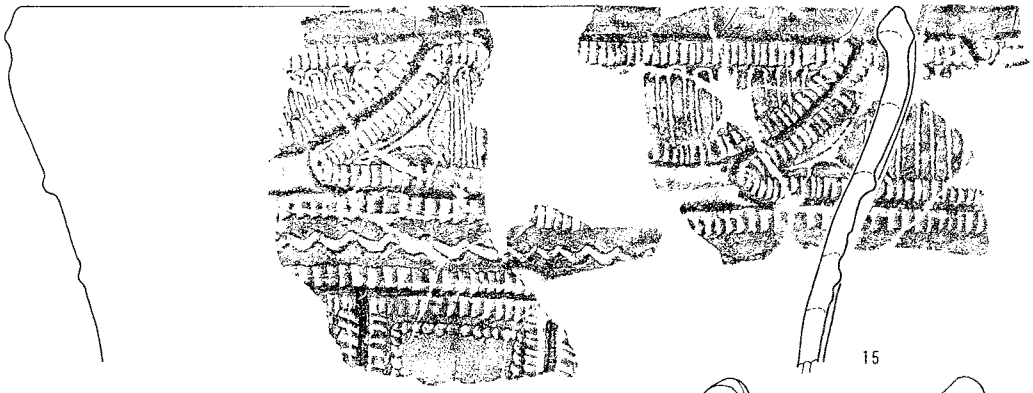
第129図　35号竪穴建物出土遺物（1）

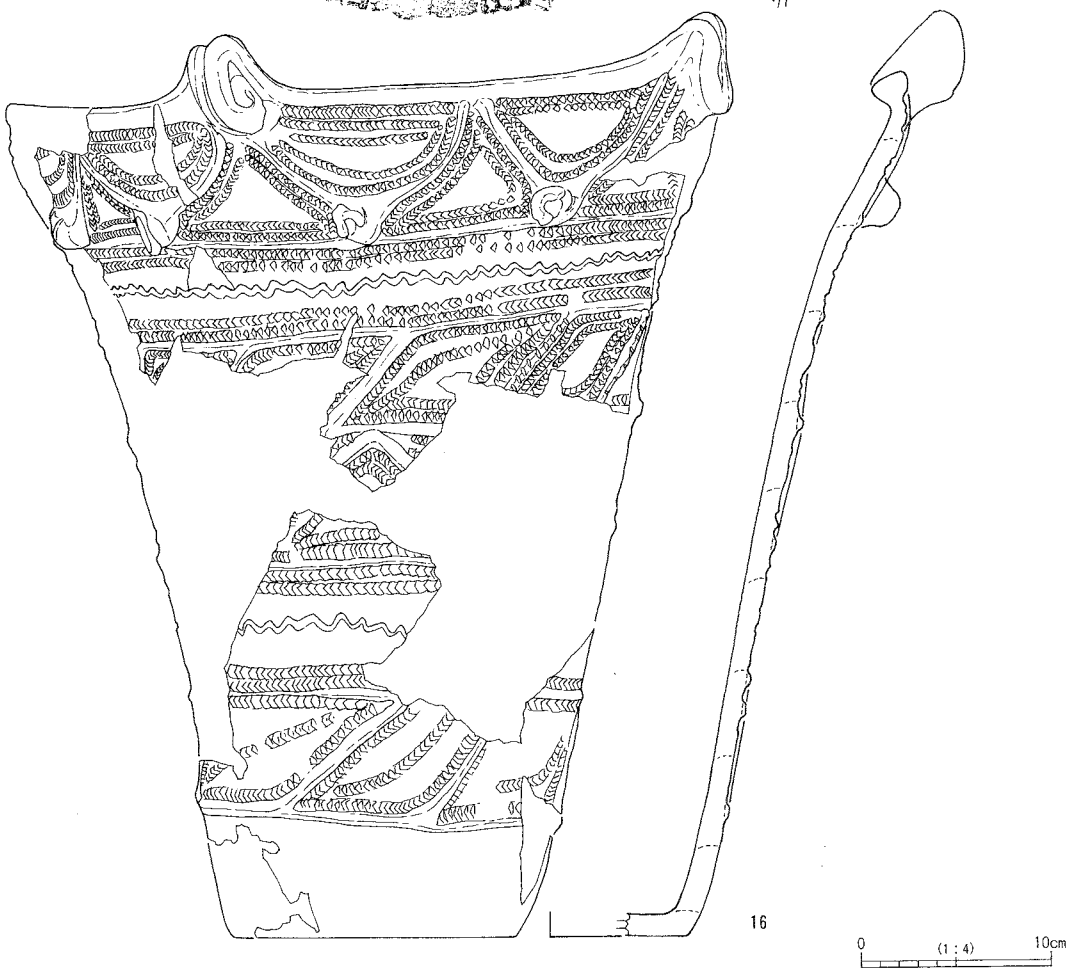


第130図　35号竪穴建物出土遺物（2）

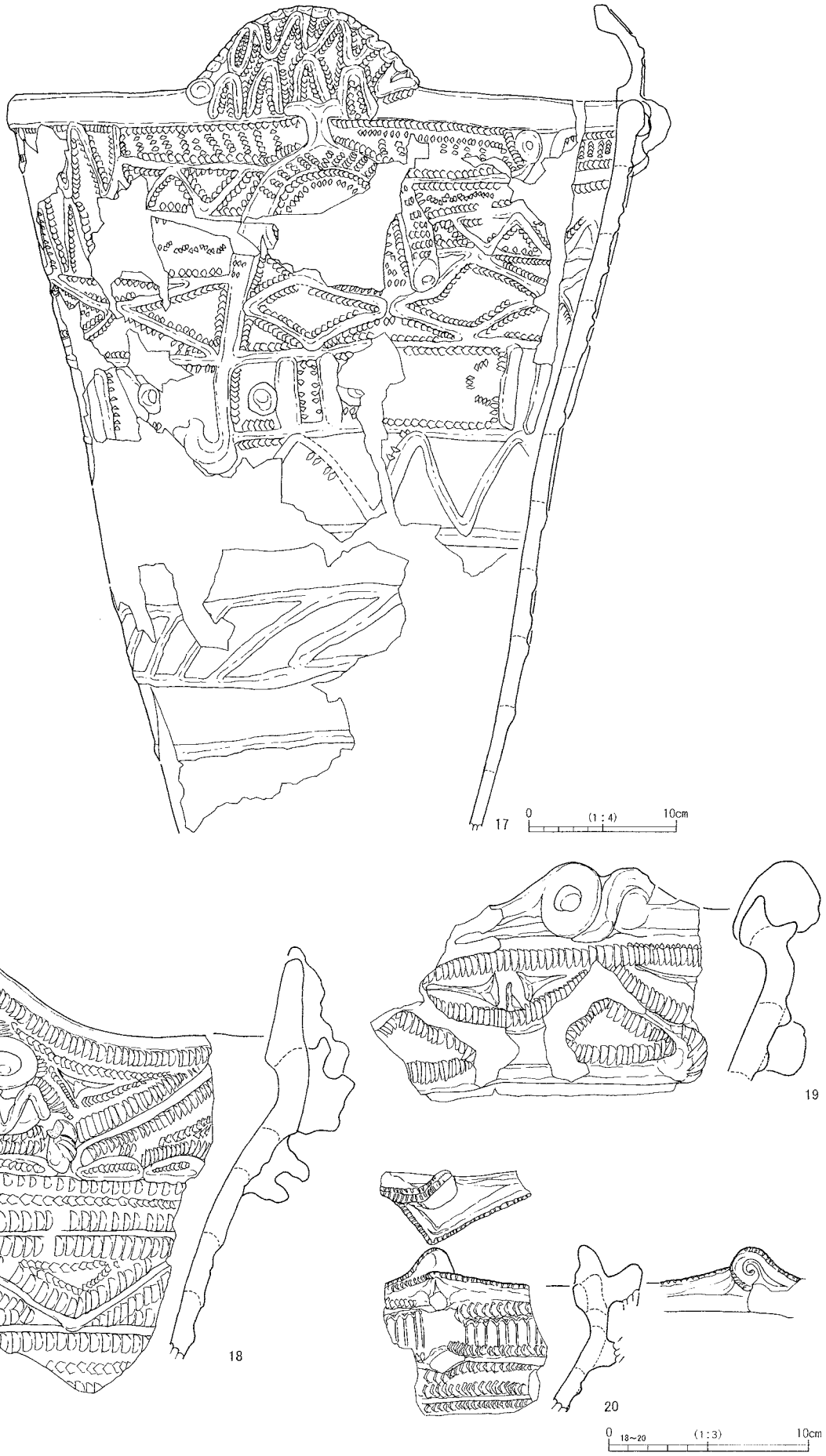




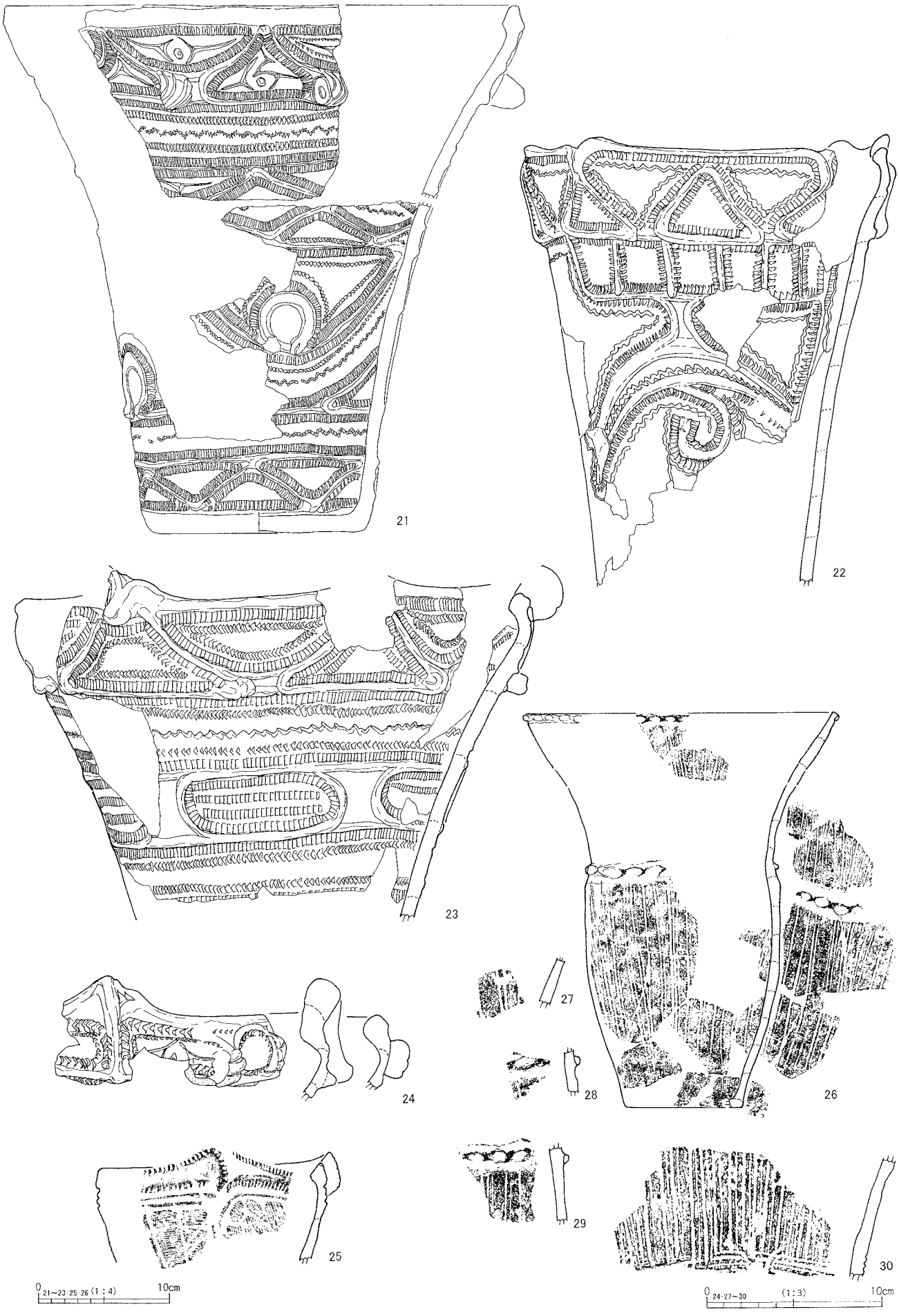




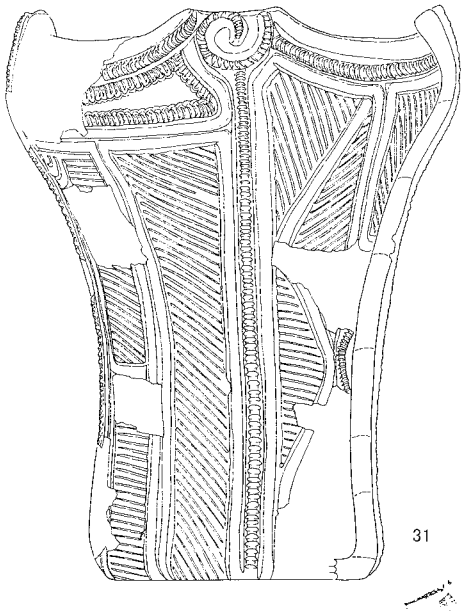
第131図　35号竪穴建物出土遺物（3）

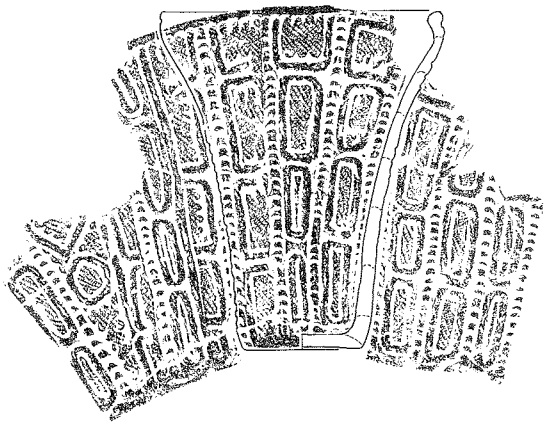


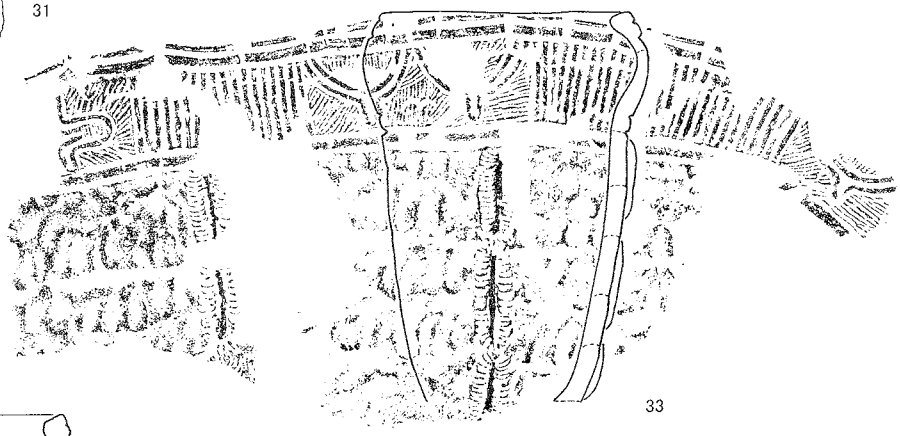
第132図　35号竪穴建物出土遺物（4）

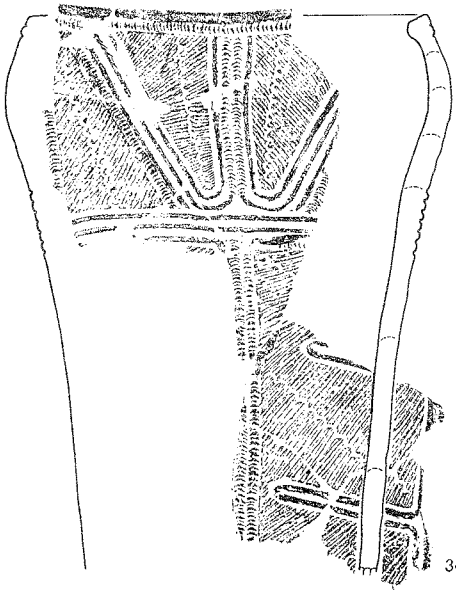


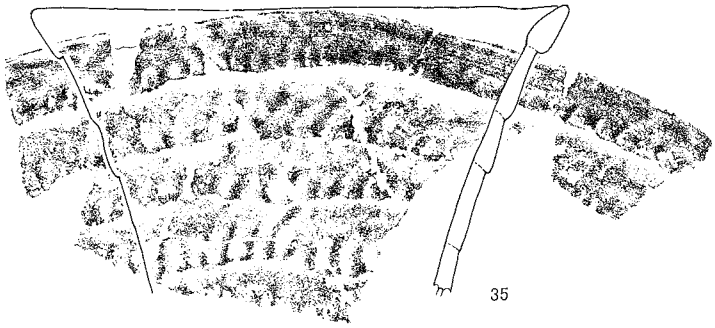
第133図　35号竪穴建物出土遺物（5）


31

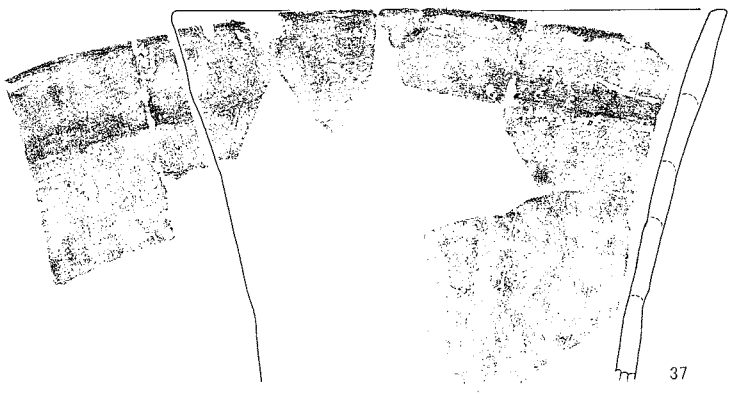

32

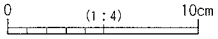

33


34

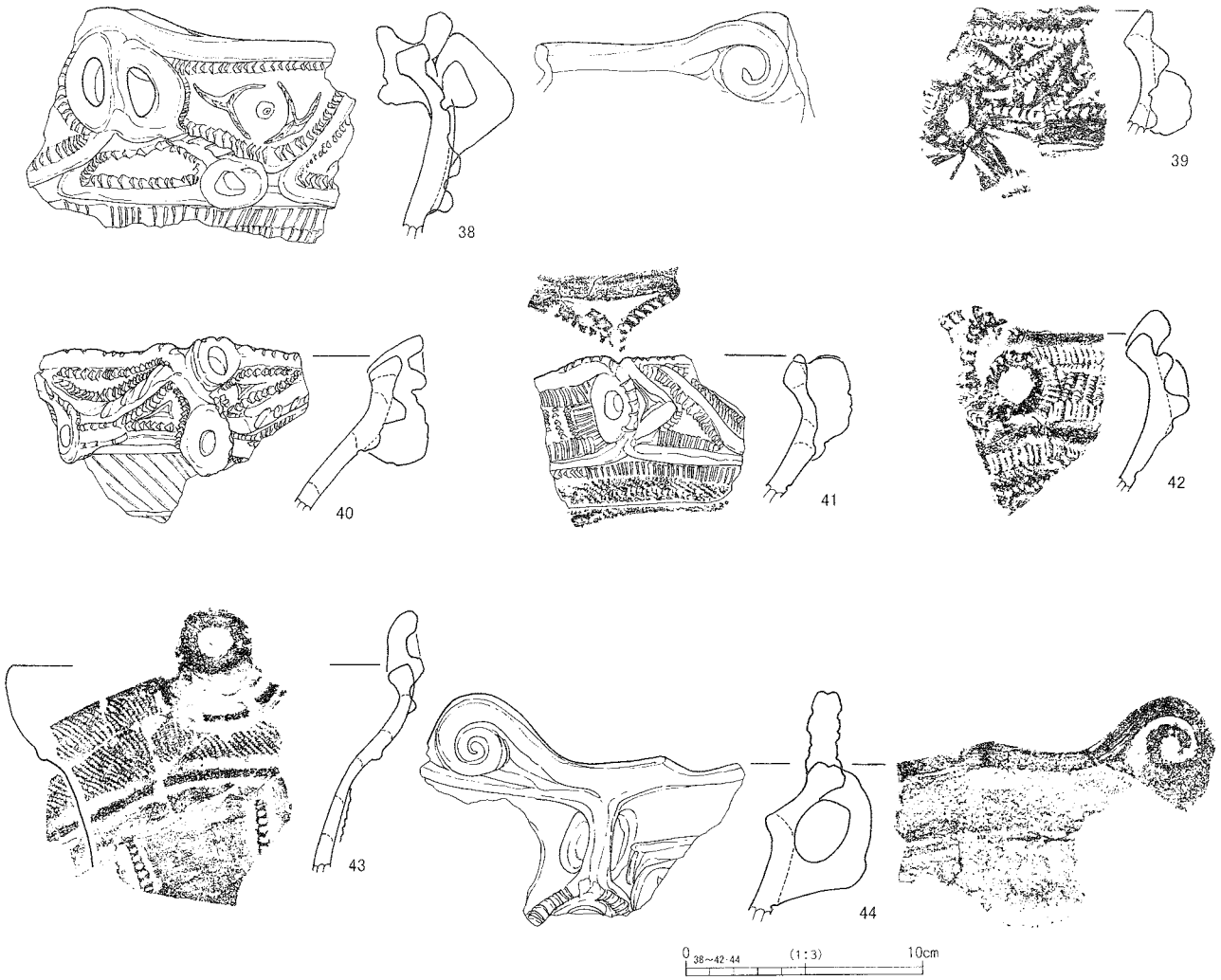

35

36

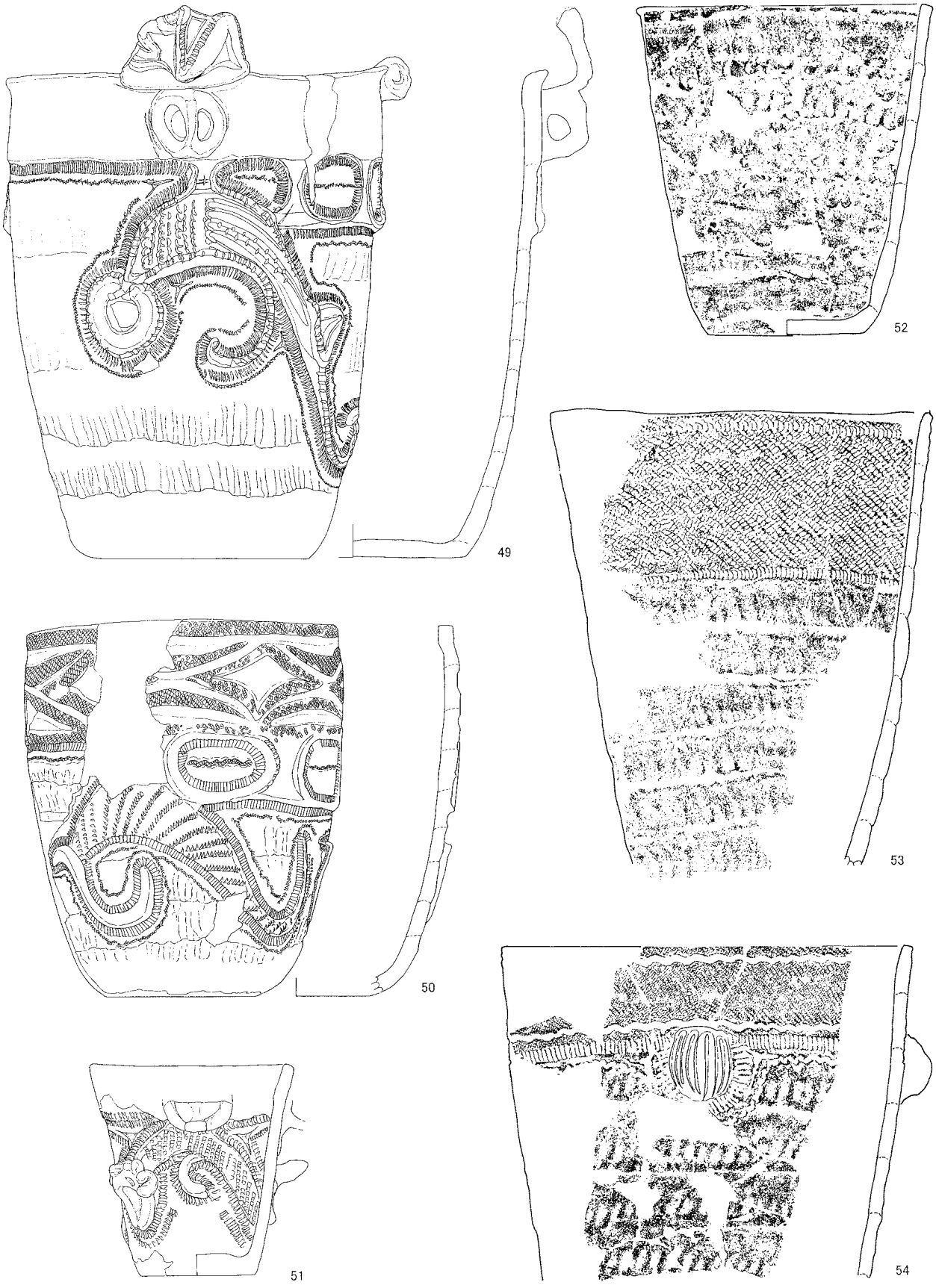

37



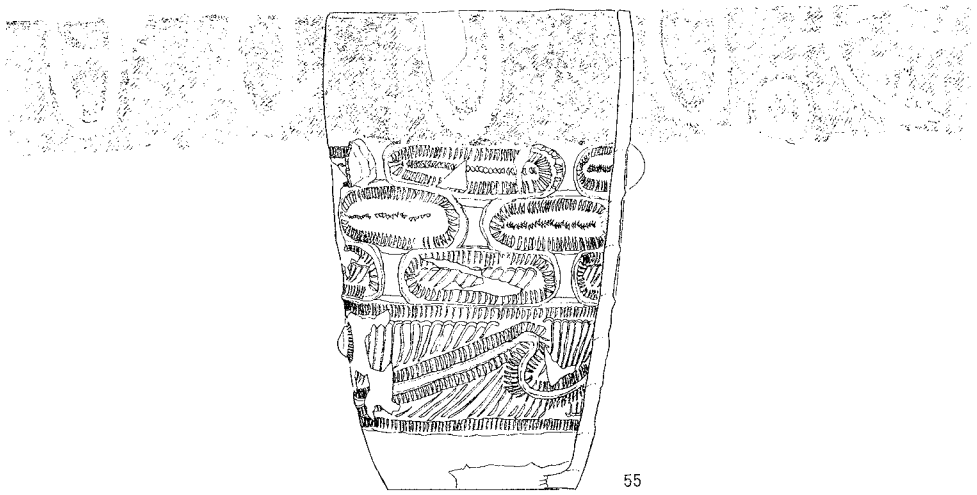
第134図　35号竪穴建物出土遺物（6）



第135図　35号竪穴建物出土遺物（7）

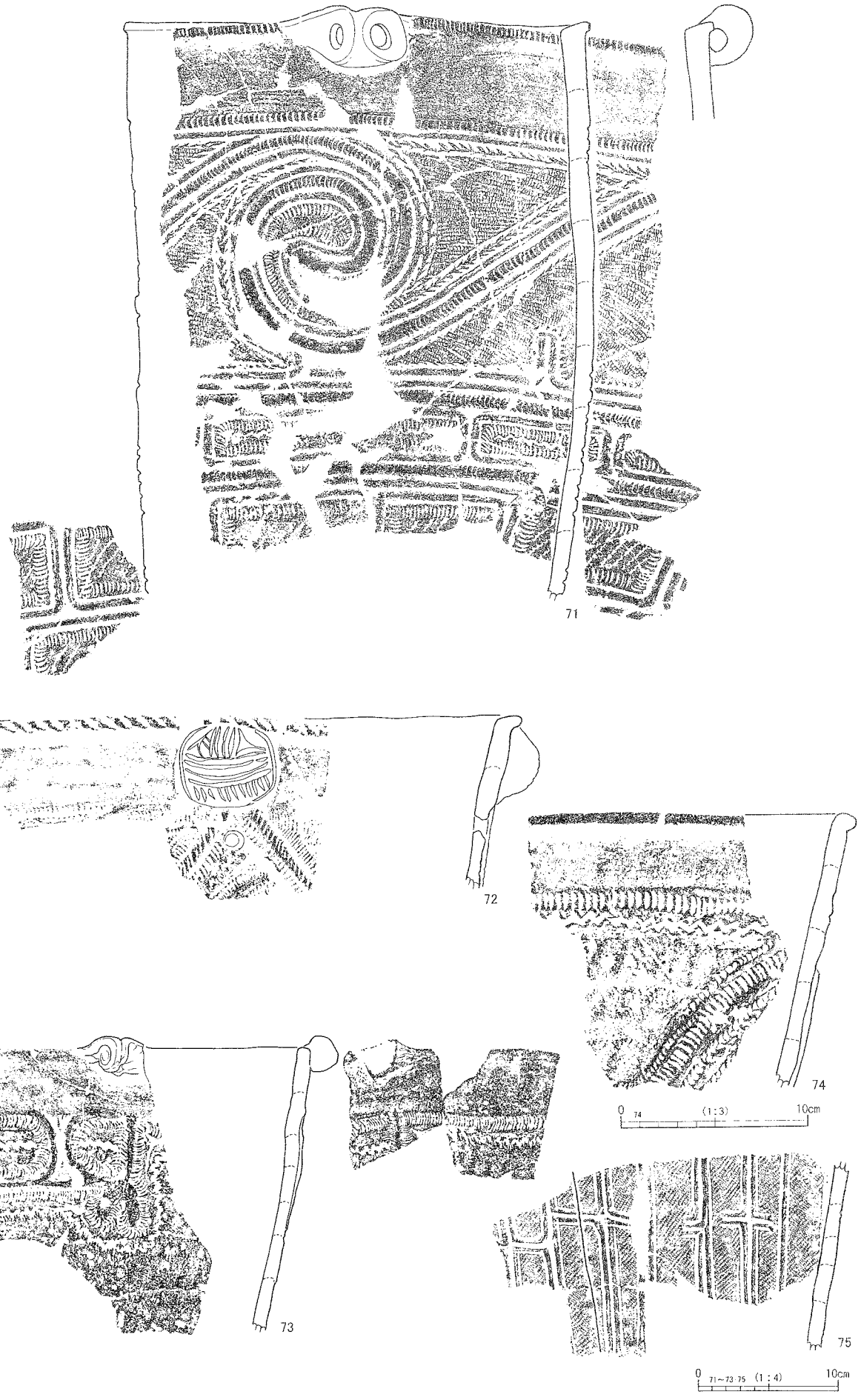


第136図　35号竪穴建物出土遺物（8）

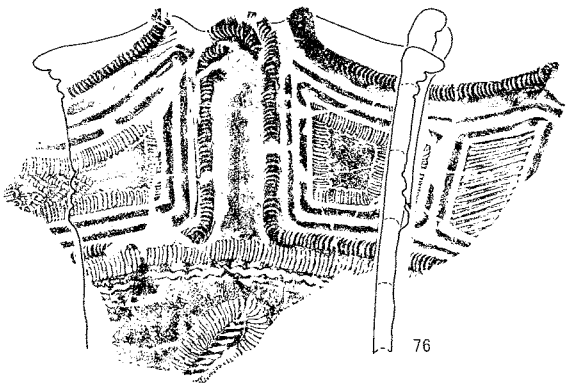


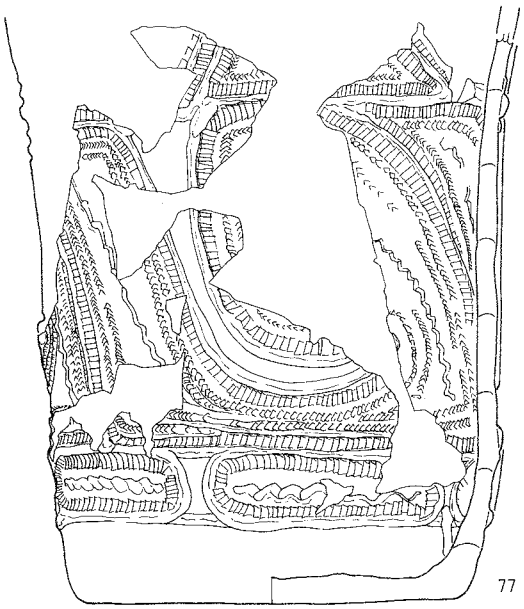
第137図　35号竪穴建物出土遺物（9）

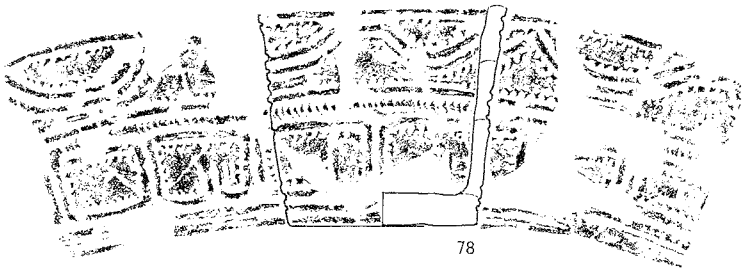
第138図　35号竪穴建物出土遺物（10）

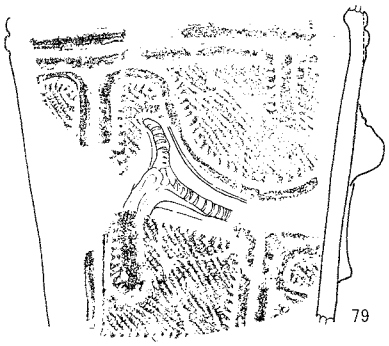


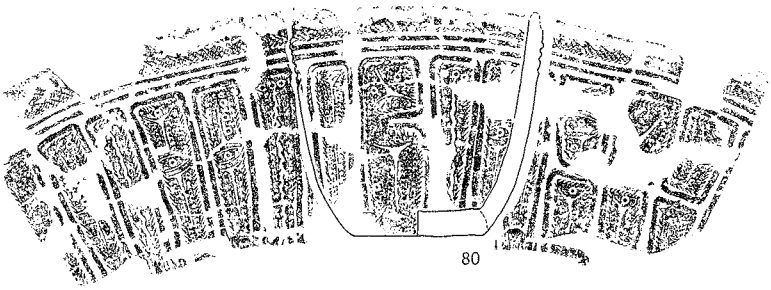
第139図　35号竪穴建物出土遺物（11）

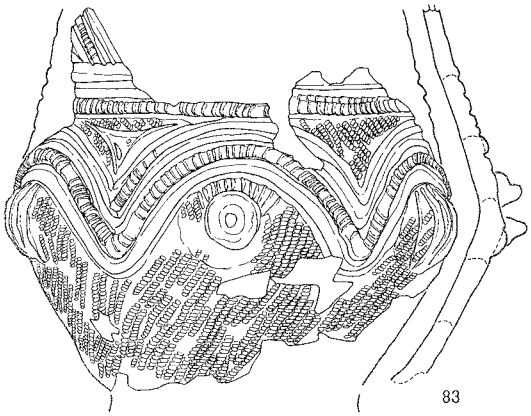


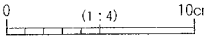




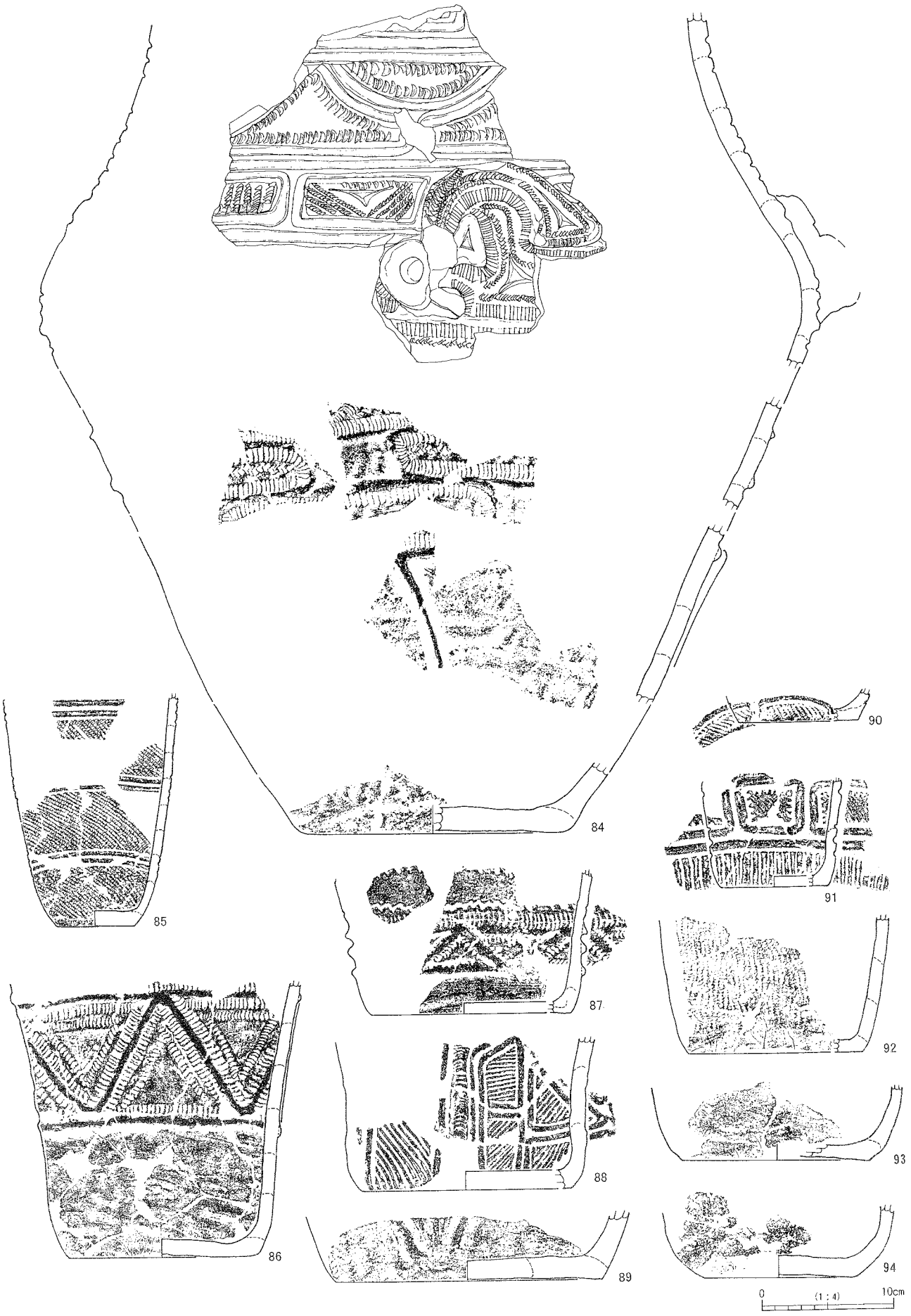




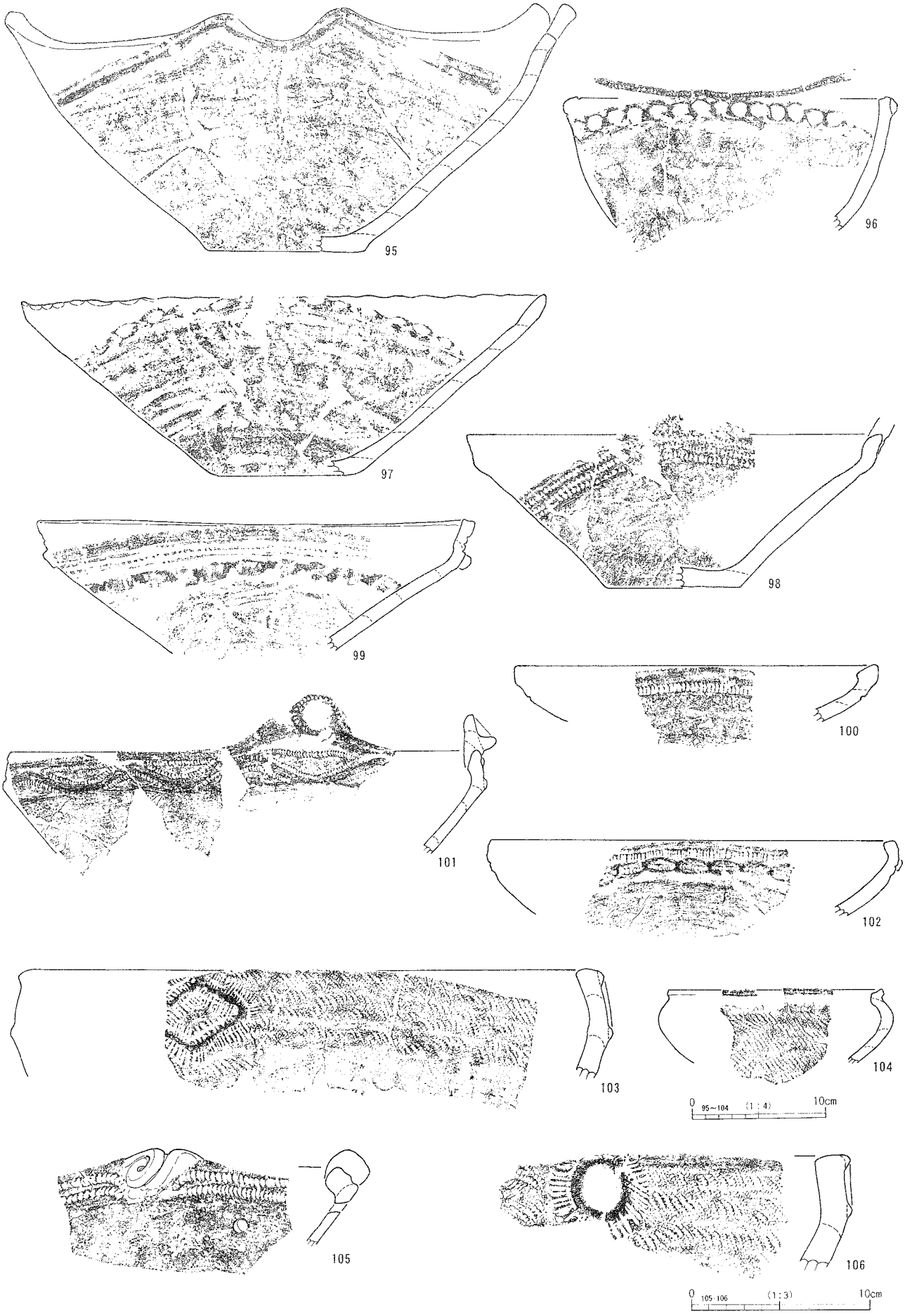




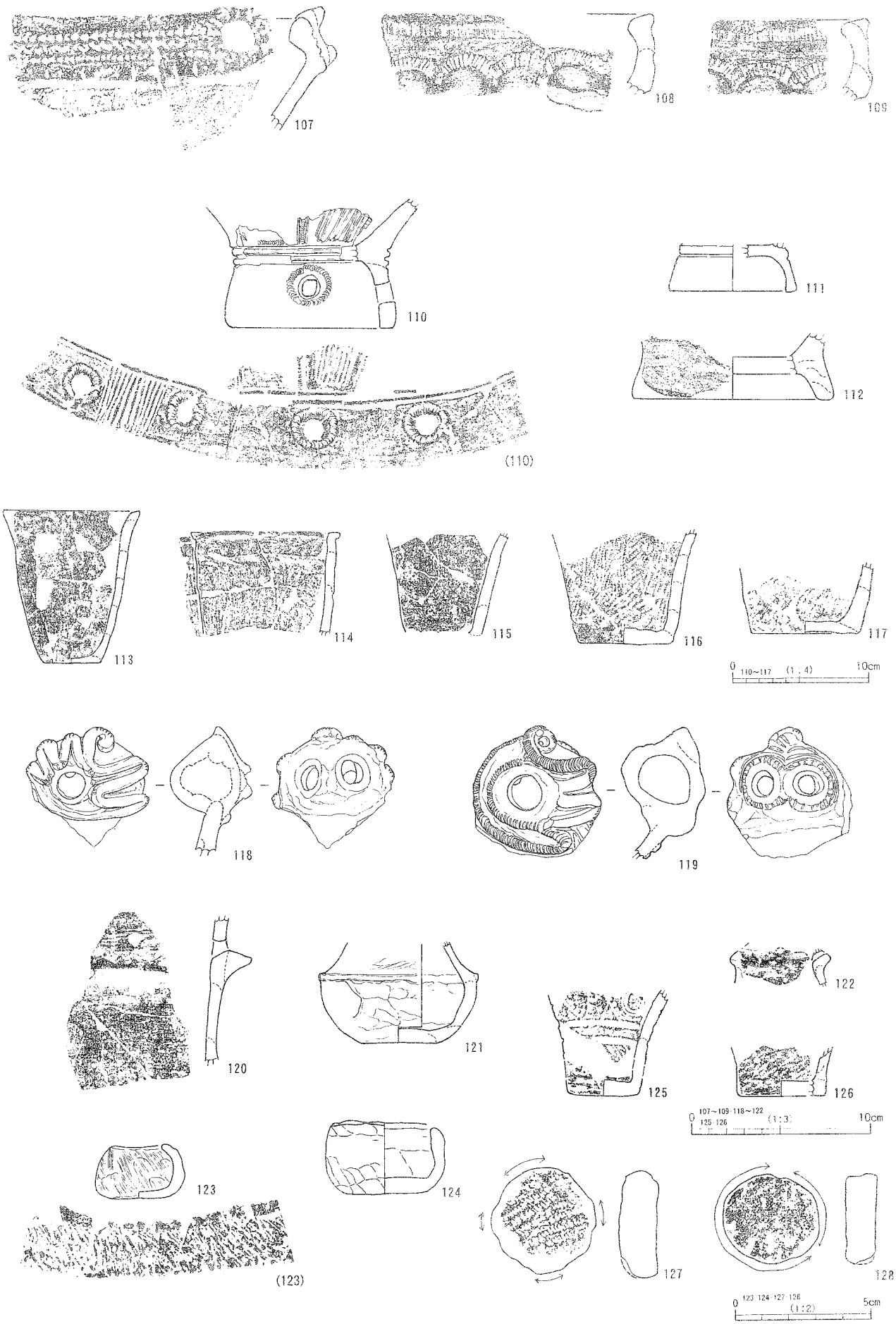
第140図　35号竪穴建物出土遺物（12）



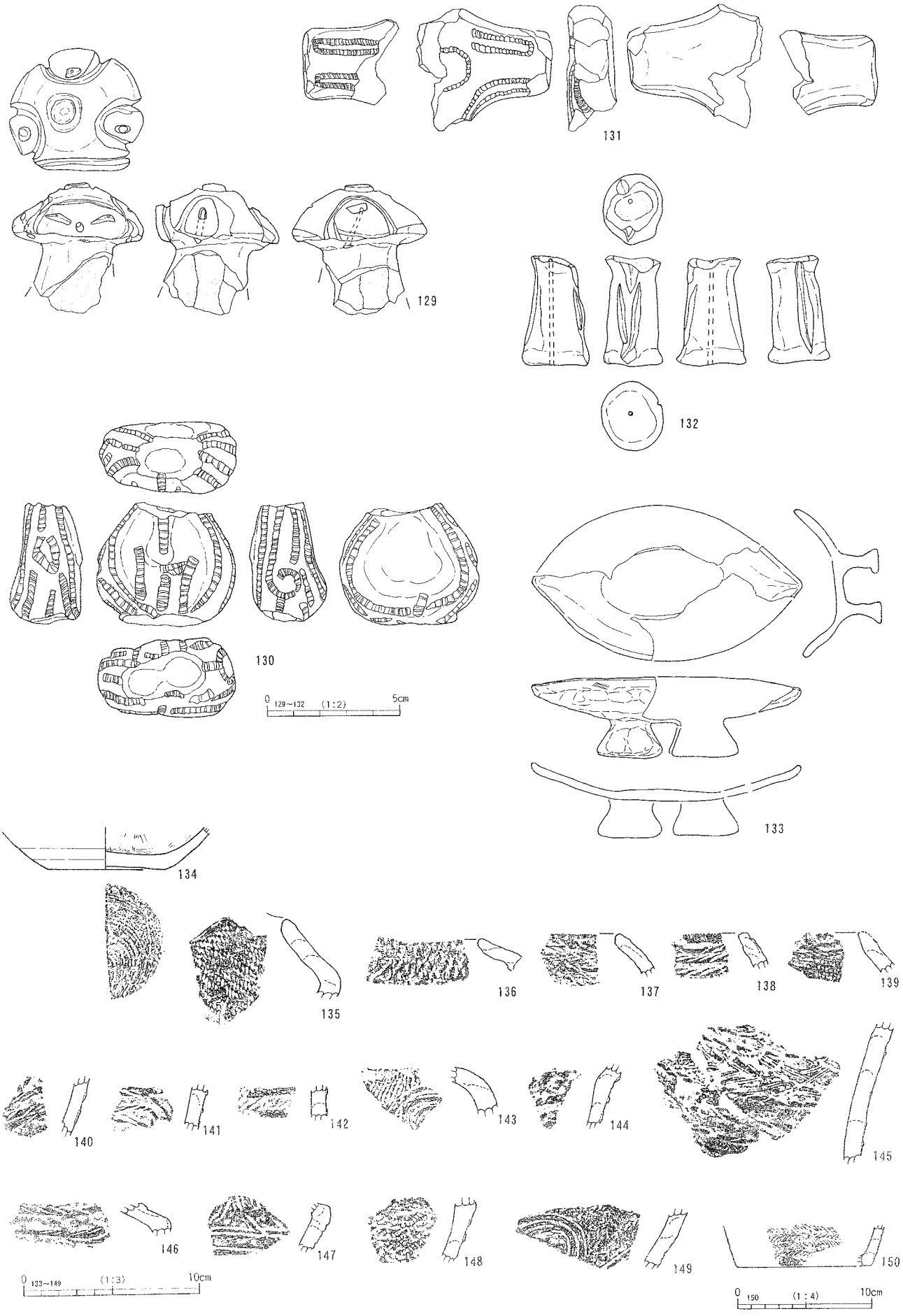
第141図　35号竪穴建物出土遺物（13）



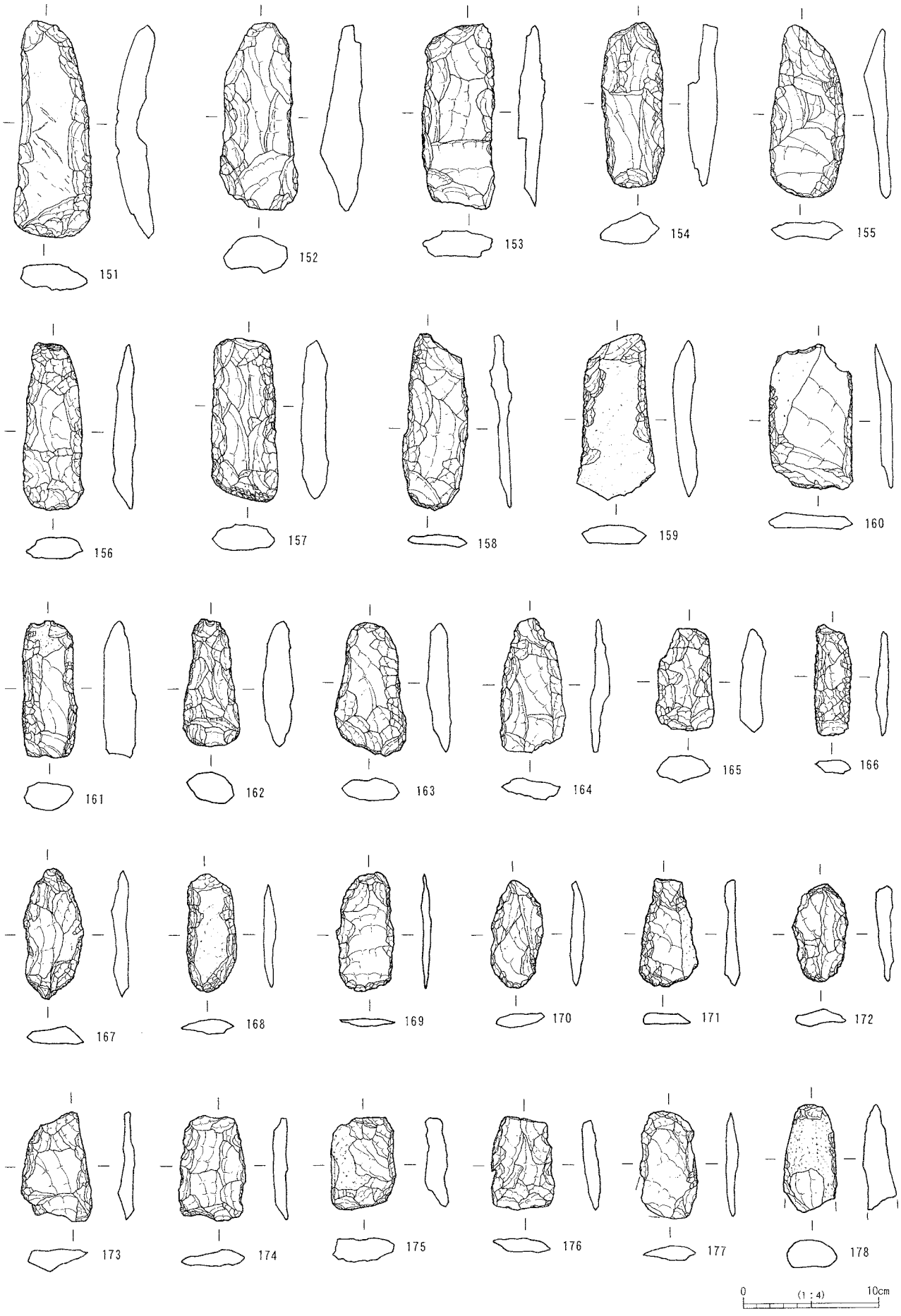
第142図　35号竪穴建物出土遺物（14）



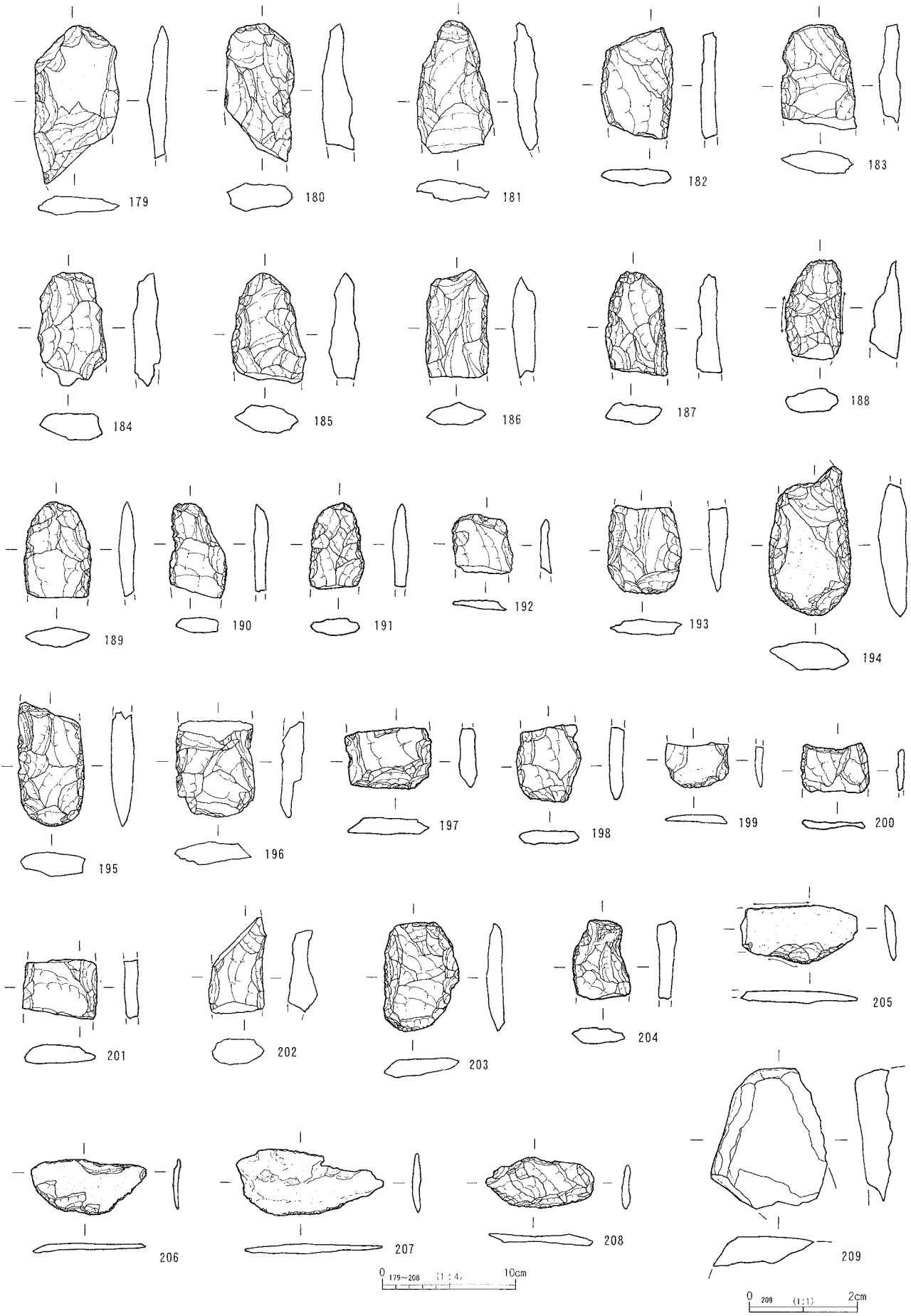
第143図　35号竪穴建物出土遺物（15）



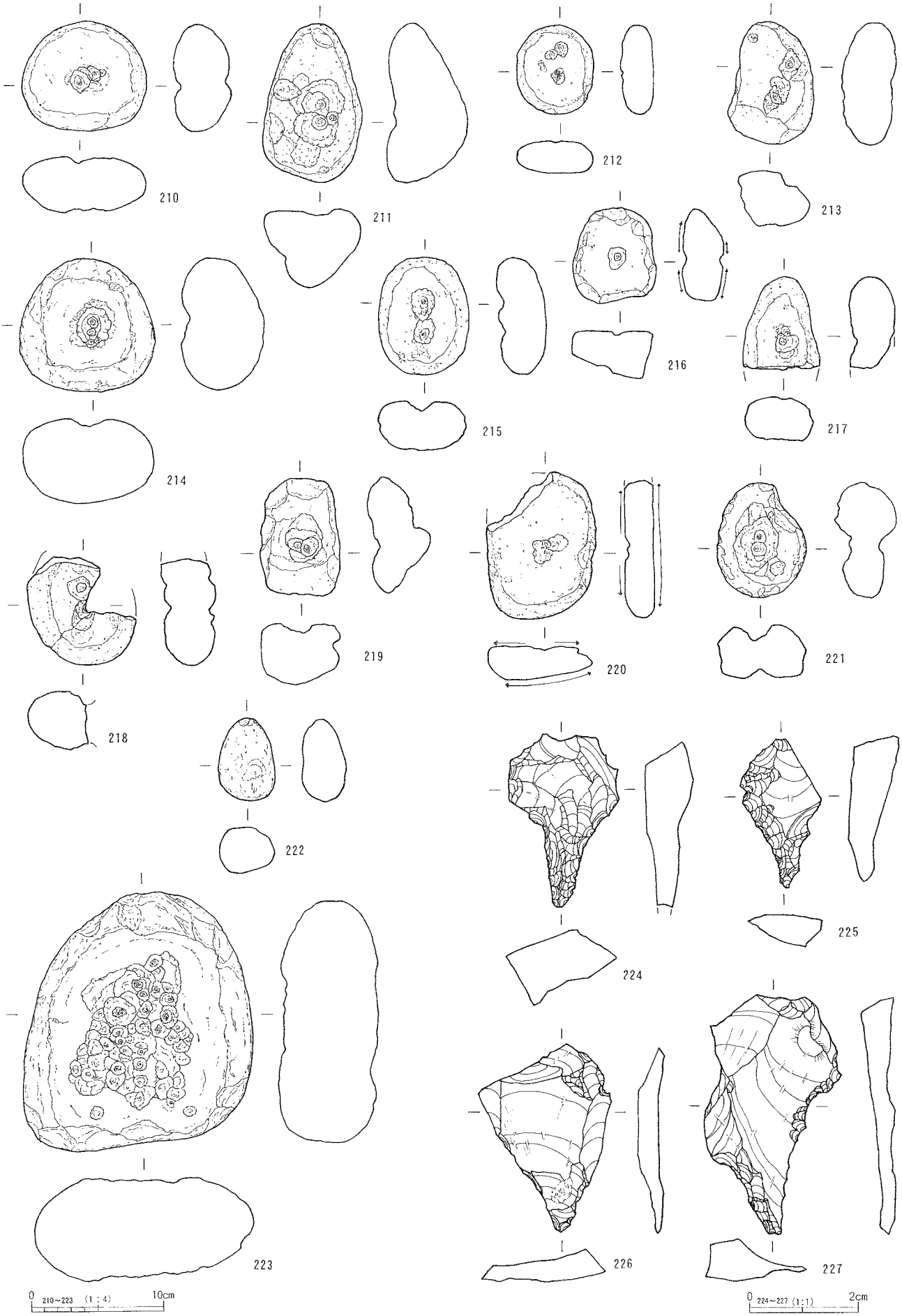
第144図　35号竪穴建物出土遺物（16）



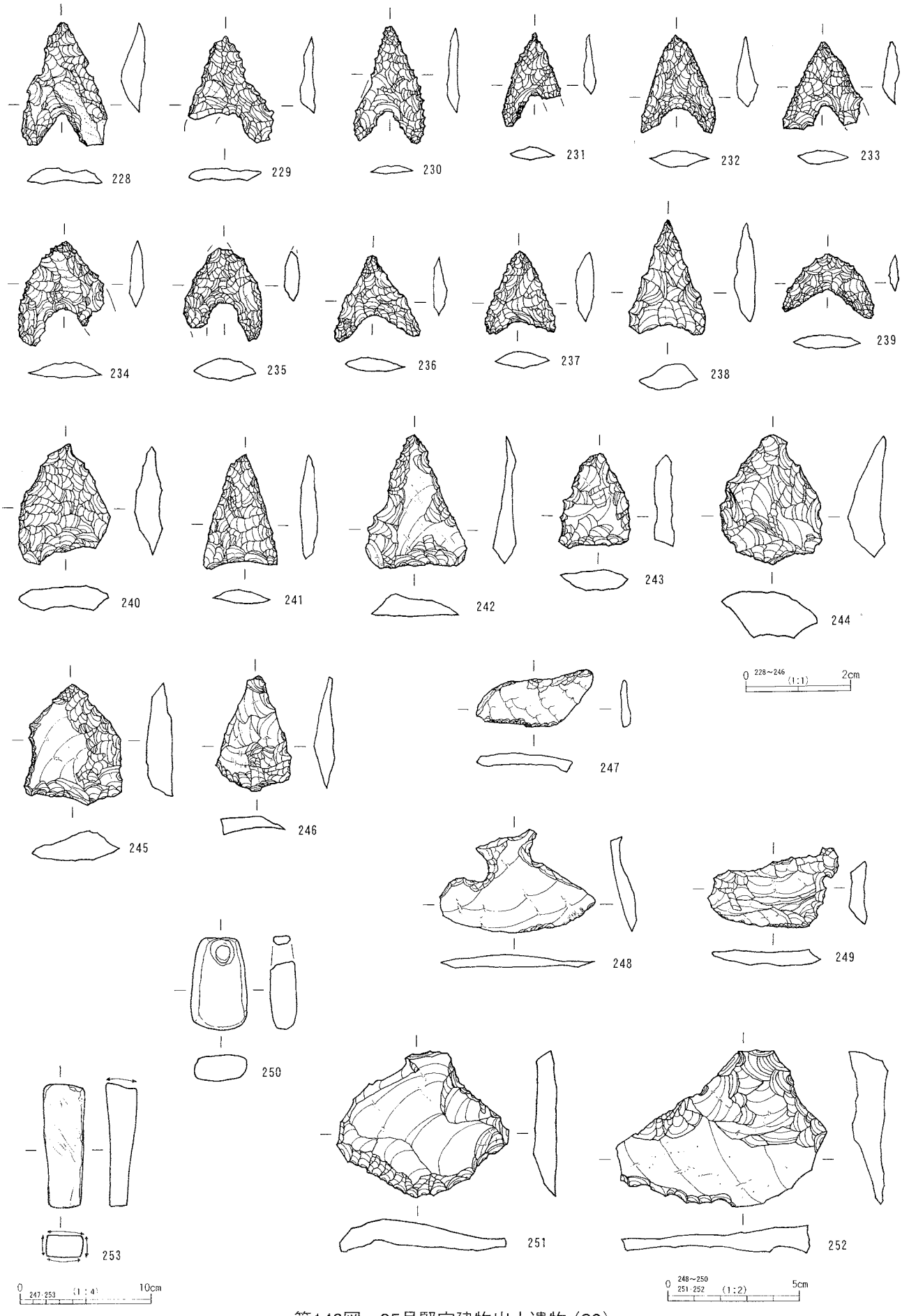
第145図　35号竪穴建物出土遺物（17）



第146図　35号竪穴建物出土遺物（18）



第147図　35号竪穴建物出土遺物（19）



第148図　35号竪穴建物出土遺物（20）

石囲に伴う礫は、南側に大きな平石を１枚据え、北側および東側には掌大の平石を３枚程度、西側は断面が平行四辺形状の礫を床面に接する程度に据えている。同礫の側面はよく磨れており、敲打痕もみられる。さらに炉西側の床面は、他の床面に比べ特に堅く踏み固められている。なお、炉掘り形の規模は、長軸約105cm、短軸約77cmを測り、楕円形を呈する。

【その他施設】

特になし。

【遺物出土状況】

遺物は覆土各層位からまんべんなく出土しているが、特に２層中からの出土が多い。平面分布でも２層の広がりと対応している。特に炉周辺部の上層、下層にかかわらず顕著である。炉東側脇の床面直上レベルでは、数個体分の深鉢形土器と浅鉢形土器がまとまって出土しており（第129図－１～４）、その内、第129図－１の深鉢形土器は、倒置された状態で、しかも同土器は把手を有する関係で不安定のため、口縁部に小石を噛ませ、安定させている状況が確認できた。またそのすぐ西側には、同じく倒置された状態の浅鉢形土器（第129図－４）が出土している。

本竪穴も20号竪穴と同じように、床面直上層の７層上面から床面上10cm内外のレベルから拳大より一回り小さい扁平な自然礫（方形を呈するものが多い）が、比較的まとまって出土している。

【出土遺物】（第129～148図）

本竪穴からの遺物の出土量も膨大であり、個々の遺物の説明は観察表を参照されたい。出土土器は縄文時代中期前葉の新道式期から藤内式期に及んでいる。土器組成では深鉢形土器、浅鉢形土器、鉢形土器、台付土器、有孔鍔付土器等がみられる。深鉢形土器もキャリパー状のものや、樽形状のもの、胴部の脹らみが強いもの等がみられる。また異系統土器では、平出三類Ａ系土器（26）がみられる。

ある程度復元できた個体数は深鉢形土器を中心に34点、石器では打製石斧が53点、磨製石斧１点、凹石12点、多凹石１点、石鏃19点（未製品も含む）、石錐４点（未製品も含む）、石匙５点等となっている。土製品類では、土製円板が２点、土偶４点等となっている。

【時　期】縄文時代中期前葉（新道式期～藤内式期）。

37号竪穴建物（第149・150図）

【位　置】Ａ23～25Ｂ８～10グリッドに位置する。

【重　複】194号ピット、17号溝と重複。両遺構より古い。

【形　状】不整円形。

【規模（長軸m×短軸m）】現存南北約7.30mを測る。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.67mを測る。

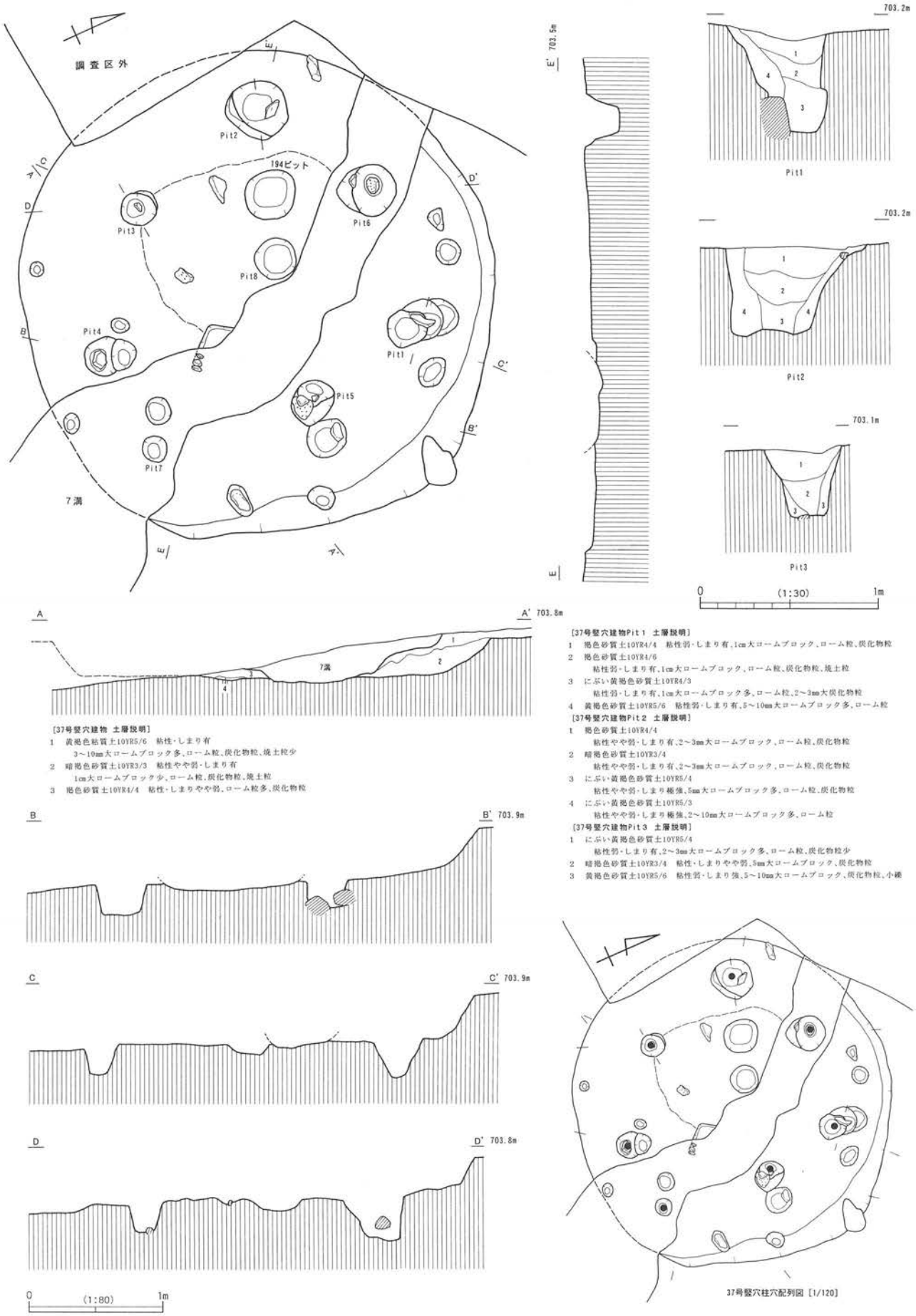
【竪穴部床面積（㎡）】36.17㎡（現存）。

【長軸方位】Ｎ－49°－Ｗ。

【埋没状況】

竪穴中央部を17号溝が南北に縦断し、さらに竪穴部西側の三分の二以上を後世の地形改変のため削平され、遺存状況はきわめて悪い。竪穴の覆土は竪穴東側にごく一部が残る程度である。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】



[37号竪穴建物 土層説明]
1 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有
3～10mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒、焼土粒少
2 暗褐色砂質土10YR3/3 粘性やや弱・しまり有
1cm大ロームブロック少、ローム粒、炭化物粒、焼土粒
3 褐色砂質土10YR4/4 粘性・しまりやや弱、ローム粒多、炭化物粒

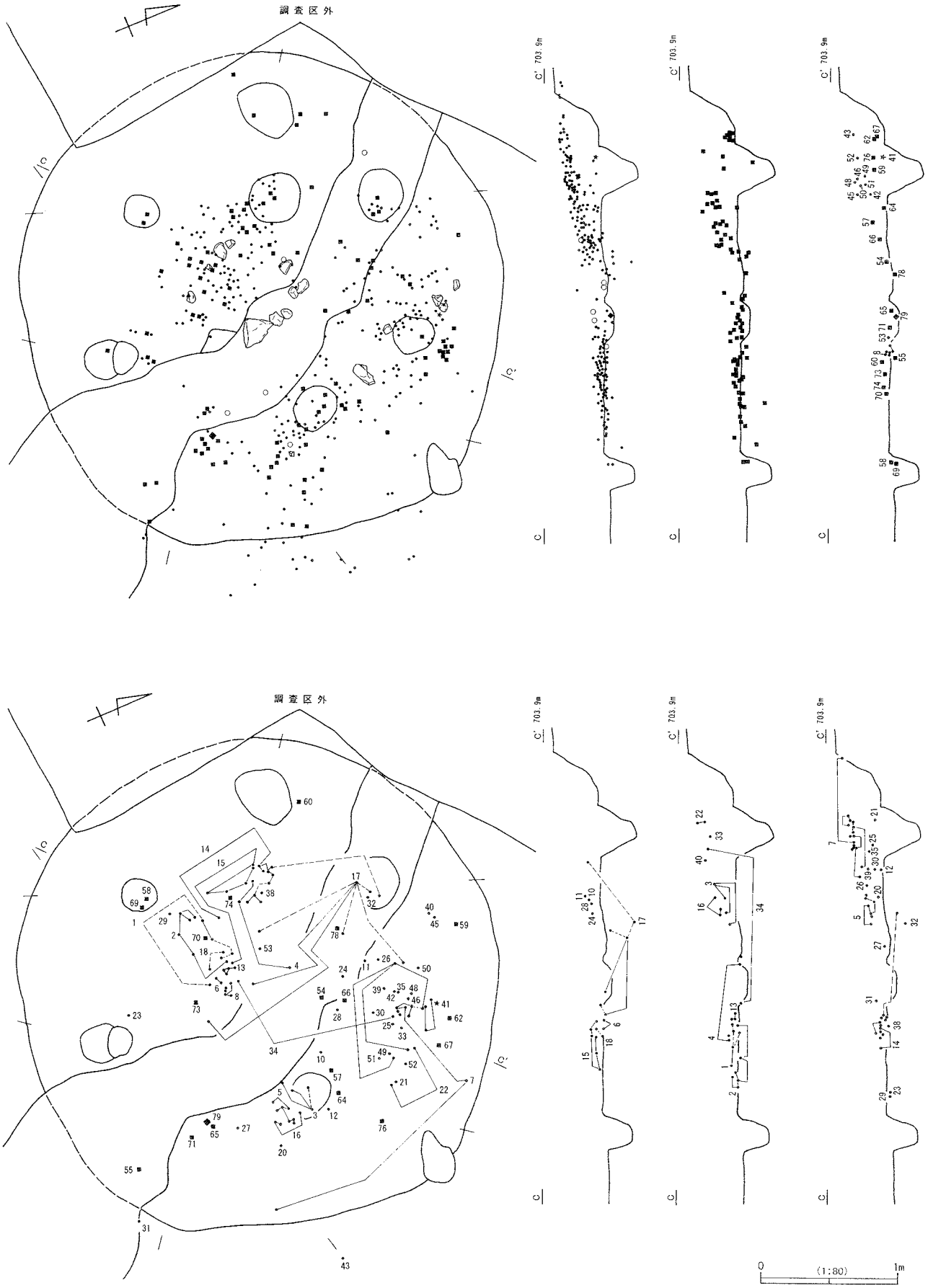
[37号竪穴建物Pit1 土層説明]
1 褐色砂質土10YR4/4 粘性弱・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
2 褐色砂質土10YR4/6
粘性弱・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒、焼土粒
3 にぶい黄褐色砂質土10YR4/3
粘性弱・しまり有、1cm大ロームブロック多、ローム粒、2～3mm大炭化物粒
4 黄褐色砂質土10YR5/6 粘性弱・しまり有、5～10mm大ロームブロック多、ローム粒

[37号竪穴建物Pit2 土層説明]
1 褐色砂質土10YR4/4
粘性やや弱・しまり有、2～3mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
2 暗褐色砂質土10YR3/4
粘性やや弱・しまり有、2～3mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
3 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4
粘性やや弱・しまり極強、5mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒
4 にぶい黄褐色砂質土10YR5/3
粘性やや弱・しまり極強、2～10mm大ロームブロック多、ローム粒

[37号竪穴建物Pit3 土層説明]
1 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4
粘性弱・しまり有、2～3mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒少
2 暗褐色砂質土10YR3/4 粘性・しまりやや弱、5mm大ロームブロック、炭化物粒
3 黄褐色砂質土10YR5/6 粘性弱・しまり強、5～10mm大ロームブロック、炭化物粒、小礫

37号竪穴柱穴配列図 [1/120]

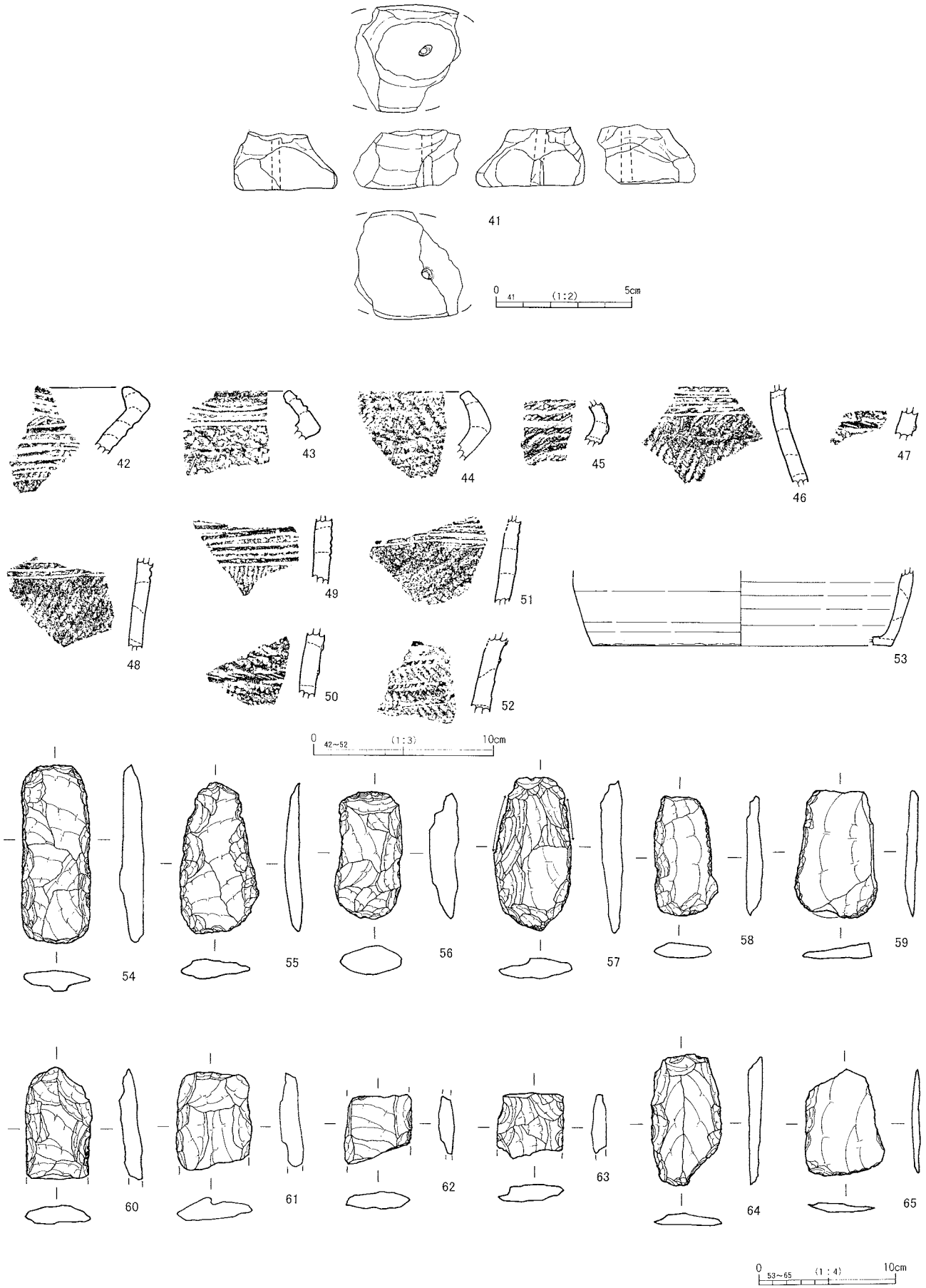
第149図　37号竪穴建物・柱穴土層図・柱穴配列図



第150図　37号竪穴建物遺物分布図・遺物接合図

第151図　37号竪穴建物出土遺物（1）

第152図　37号竪穴建物出土遺物（2）



第153図　37号竪穴建物出土遺物（3）

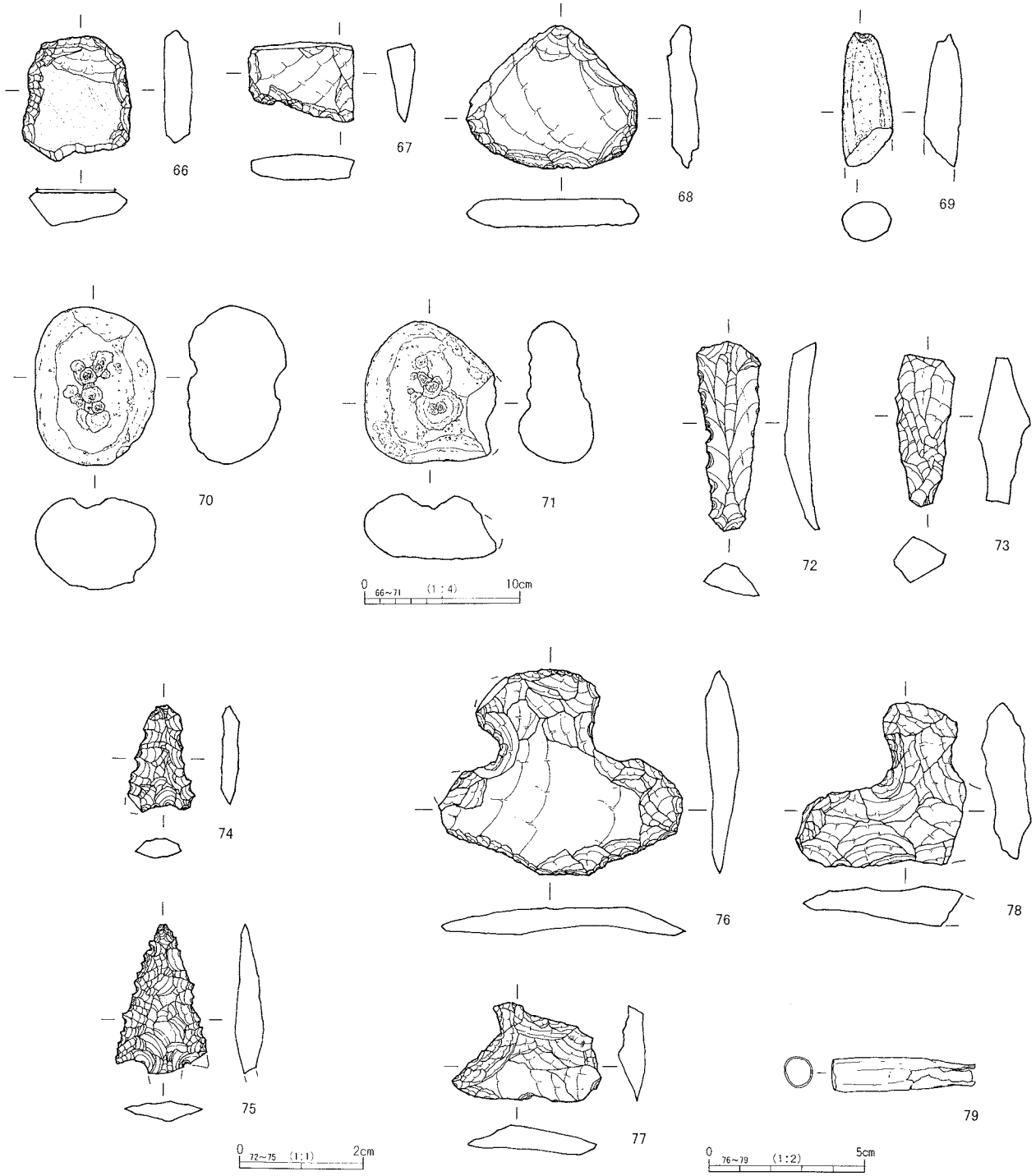
検出された柱穴から、７本柱穴の竪穴であると思われる。各柱穴を結ぶような周溝は検出されていない。柱穴の径は60～90㎝、深さ30～60㎝を測る。床と思われる焼土を伴った硬化面が竪穴中央部、17号溝に接した西側で南北約3.0m、東西約2.0mの範囲で確認されている。

【炉】

明確な炉は検出されていないが、位置的にみればPit８を炉と考えてもいいのではなかろうか。しかし同Pitでは炉らしい痕跡は特に認められていない。

【その他施設】

特になし。



第154図　37号竪穴建物出土遺物（4）

【遺物出土状況】

硬化面残存部の床面上10cm内外を中心としたレベルと、竪穴東側のPit 1 およびPit 5 周辺部分の覆土中を中心として出土している。土器は破片資料が中心であり、石器は打製石斧が中心的に出土している。

【出土遺物】（第151～154図）

1～13は縄文時代中期前葉の深鉢形土器群である。1は縄文を地文とし、4条の横位の沈線と、2条の波状沈線を巡らし、口縁部には◎状沈線文を施す。2は口縁部に半楕円区画文、頸部に縦位の沈線を施す。3・4はやや小型の深鉢形土器で、5は縄文のみを施す。6は口縁部を欠失しているが、胴部には粗雑な縦位の沈線を施している。7はヒダ状の指頭圧痕を顕著に残し、短隆帯を施す。12・13は底部破片であるが、重三角区画文や楕円区画文を配している。14～17・30・31は浅鉢形土器である。無文のもの、波状の隆線を施すもの、押圧隆帯や半円状に三角押文を施すもの等がみられる。41は土偶の脚部破片で、木芯痕がみられる。

42～52は縄文時代前期諸磯b式期の破片資料である。53は瓦質焙烙の底部破片で、平底を呈すると思われる。54～77は石器類で打製石斧、凹石、石棒、石錐、石鏃、石匙等がみられる。79は煙管の吸口部である。

【時　期】縄文時代中期前葉（新道式期～藤内式期）。

38号竪穴建物（遺構第155図）

【位　置】A13・14B11・12グリッドに位置する。

【重　複】25・27・29号竪穴建物、7・13号溝と重複。27号竪穴を切り込み、25・29号竪穴建物、7・13号溝に切られる。

【形　状】楕円形。

【規模（長軸m×短軸m）】推定4.92m（南北）×推定4.45m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.32mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】14.55㎡（現存）。

【長軸方位】N－17°－E。

【埋没状況】

覆土は基本的に3層で、炭化物粒とロームブロックを含む黒褐色土と灰黄褐色土、褐灰色土を中心とする。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

壁下に周溝は巡っていない。床面は全体に概して軟弱である。竪穴よりピットが十数基検出されているが、その内柱穴と思われるのは、その位置等からPit 1～5だと思われる。径約40cm前後、深さ15～25cmを測る。

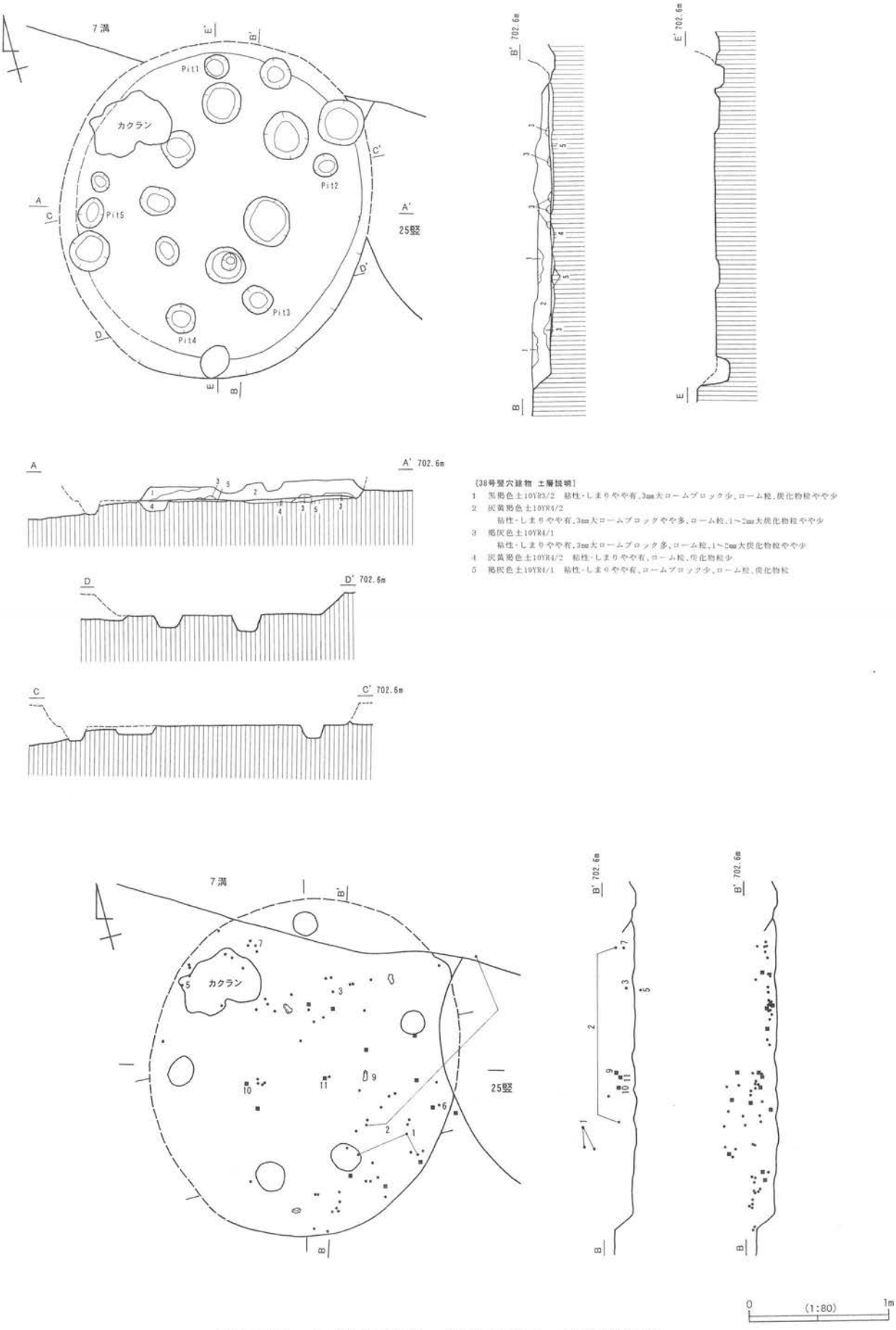
【炉】

明確な施設は確認されていない。

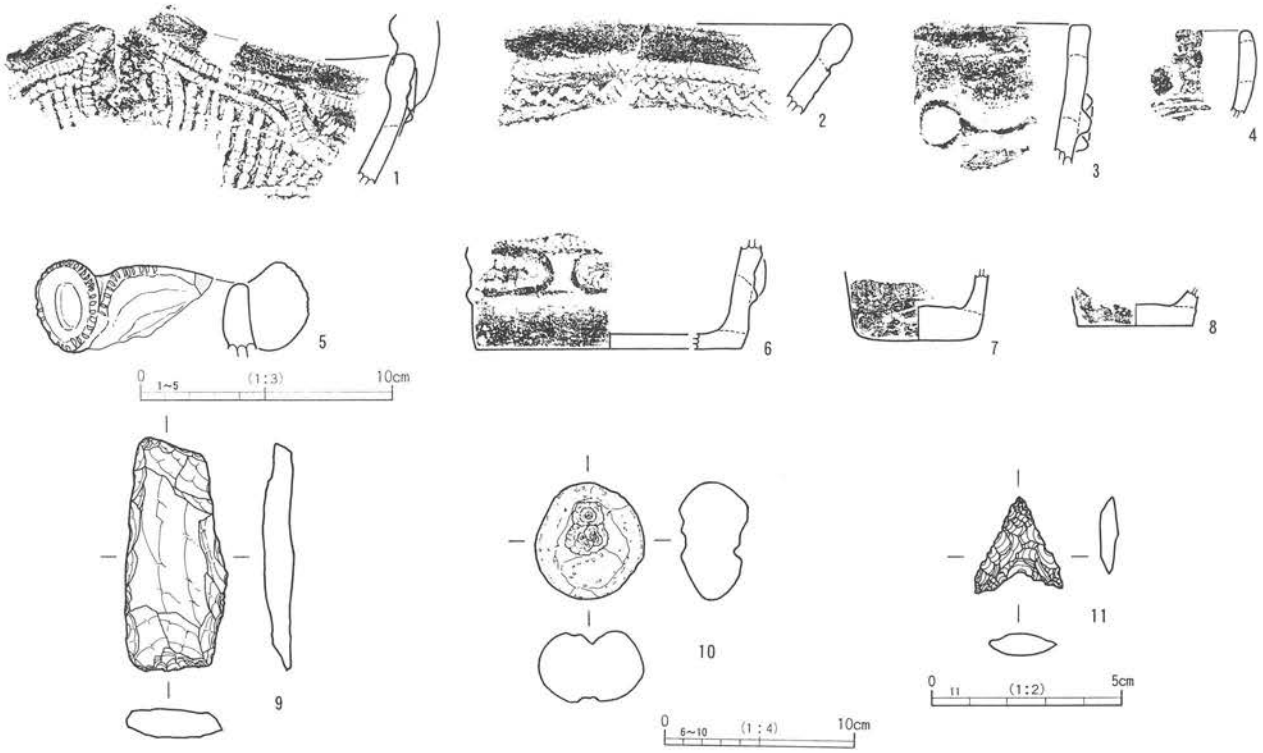
【その他施設】

特になし。

【遺物出土状況】



第155図　38号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図



第156図　38号竪穴建物出土遺物

竪穴北側の覆土下層と南壁寄りの覆土上層を中心に出土している。

【出土遺物】（第156図）

1は口縁部が波状を呈し、隆帯と角押文による楕円および三角区画文がみられ、区画内は角押文が縦位に施されている。2は横位に三角押文を施し、波状の三角押文を施している。3は円形押圧貼付文を施している。4は縄文時代前期諸磯c式期の土器片。5は深鉢形土器口縁部の突起破片である。6は深鉢形土器の底部破片で、楕円区画文を配している。7・8は粗製の小型深鉢形土器の底部破片である。9は完形の打製石斧、10は凹石、11は無茎石鏃の完形品である。

【時　期】縄文時代中期か。

39号竪穴建物（遺構第157図）

【位　置】A24・25B13グリッドに位置する。

【重　複】105・106号ピットと重複。両ピットより古い。

【形　状】方形か。

【規模（長軸m×短軸m）】約3.15m（東西）×約2.90m（ともに現存値）。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.30mを測る。

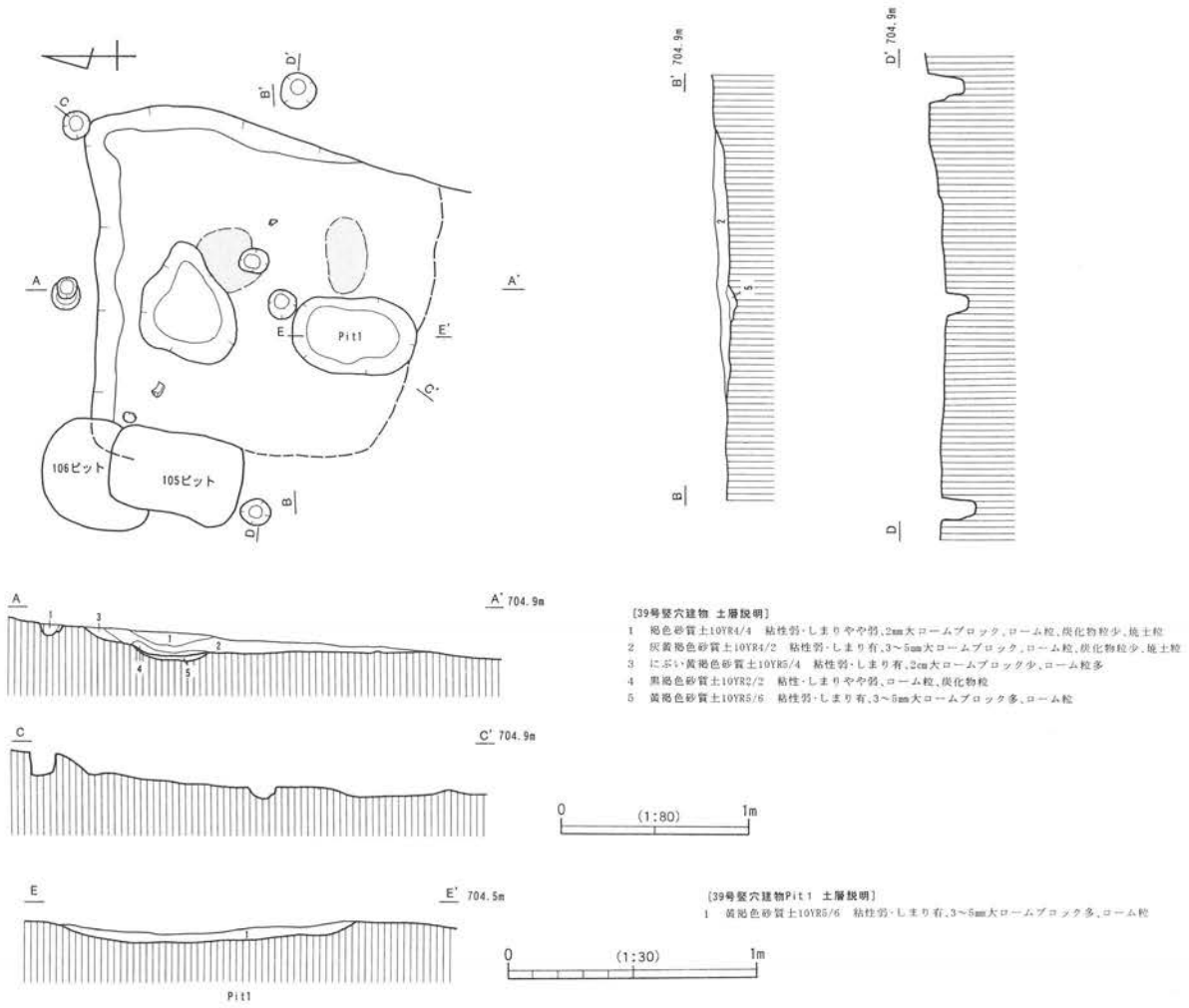
【竪穴部床面積（㎡）】9.79㎡（現存）。

【長軸方位】N－87°－E。

【埋没状況】

遺構の大半が削平を受けており、北壁と東壁の一部、床硬化面の一部が残存するのみ。覆土は基本的に1層のみで、焼土粒と炭化物粒等を含む褐色砂質土である。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】



第157図　39号竪穴建物・Pit1

壁下には周溝は巡っていない。径約30cm前後、深さ13～20cmを測る柱穴状のピットが２基、竪穴中央部で検出されている。また、土壙状ピットも２基検出されている。南側ピットは長軸1.3m、短軸0.8m、深さ約４cm、北側ピットは長軸約1.33m、短軸約0.95m、深さ約５cmを測る。土層観察からこれらピットは床面下部の掘り形に伴うものではなく、床面から掘り込まれているものである。

【竈・炉】

両施設ともに確認されていない。ただ先の土壙状ピットにそれぞれ接するように、楕円形状に床面が焼けた範囲が確認されている。その規模は長軸約65～75cm、短軸約40～55cmを測る。

【その他施設】

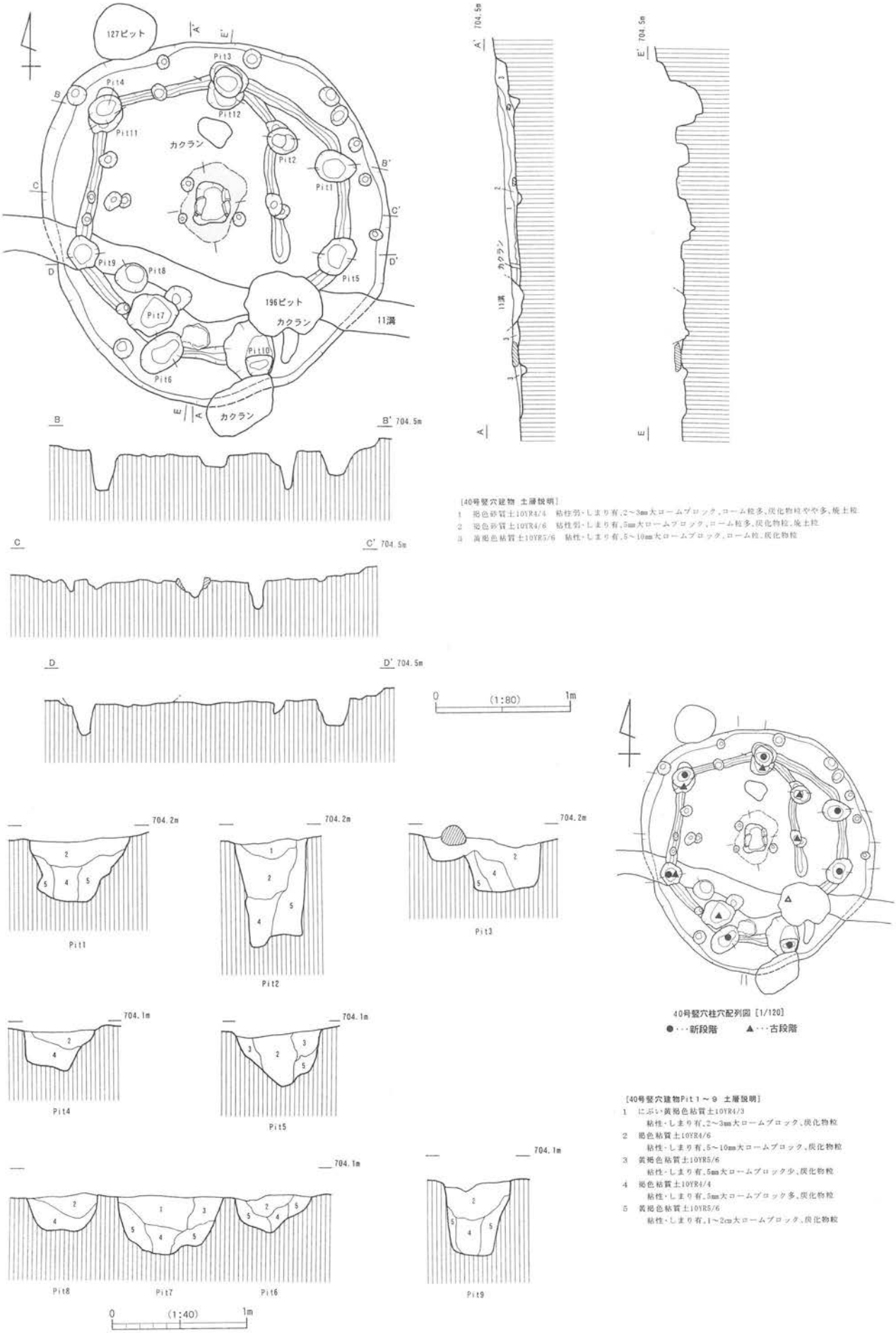
竪穴壁外柱穴とみられるピットが４基検出されている。ピットの規模は径約35～50cm、深さ約25～35cmを測る。北東コーナー際壁外にある１基を除き、他の３基は各壁中央付近の壁外に配置されている。竪穴壁からの間隔は約20～30cmを測る。掘り込みはしっかりとしている。

【遺物出土状況】

自然礫が数点出土しているのみ。

【出土遺物】

なし。

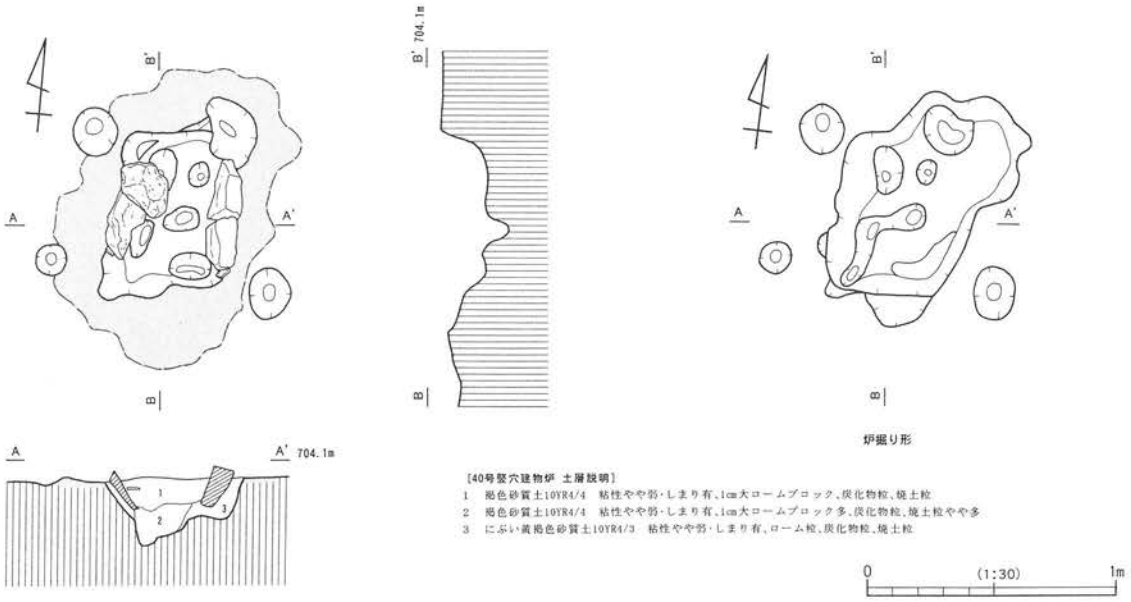


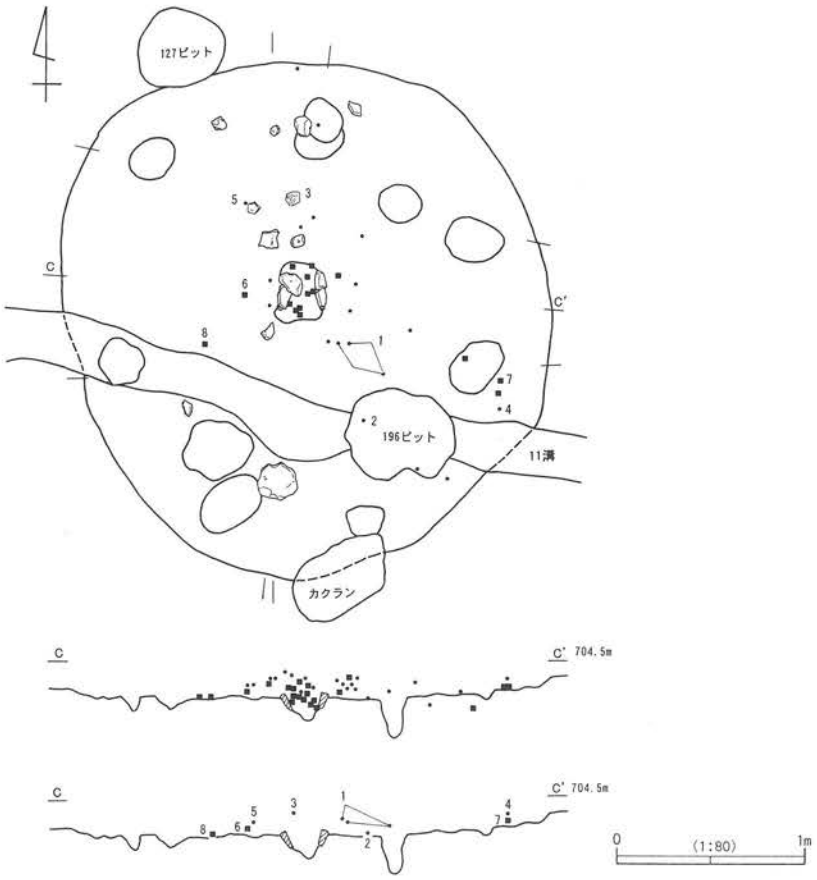
[40号竪穴建物 土層説明]
1 褐色砂質土10YR4/4 粘性弱・しまり有,2～3mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒やや多,焼土粒
2 褐色砂質土10YR4/6 粘性弱・しまり有,5mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒,焼土粒
3 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有,5～10mm大ロームブロック,ローム粒,炭化物粒

40号竪穴柱穴配列図 [1/120]
●…新段階 ▲…古段階

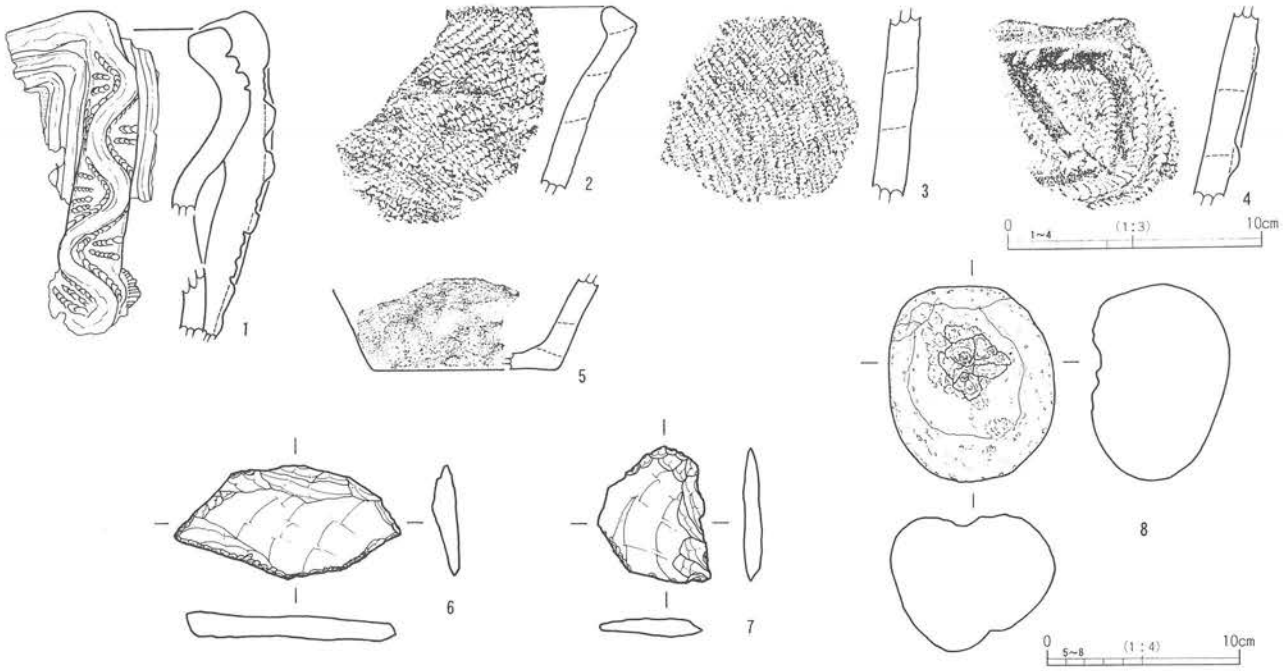
[40号竪穴建物Pit 1～9 土層説明]
1 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
粘性・しまり有,2～3mm大ロームブロック,炭化物粒
2 褐色粘質土10YR4/6
粘性・しまり有,5～10mm大ロームブロック,炭化物粒
3 黄褐色粘質土10YR5/6
粘性・しまり有,5mm大ロームブロック少,炭化物粒
4 褐色粘質土10YR4/4
粘性・しまり有,5mm大ロームブロック多,炭化物粒
5 黄褐色粘質土10YR5/6
粘性・しまり有,1～2cm大ロームブロック,炭化物粒

第158図 40号竪穴建物・柱穴土層図・柱穴配列図





第159図　40号竪穴建物炉・遺物分布図・遺物接合図

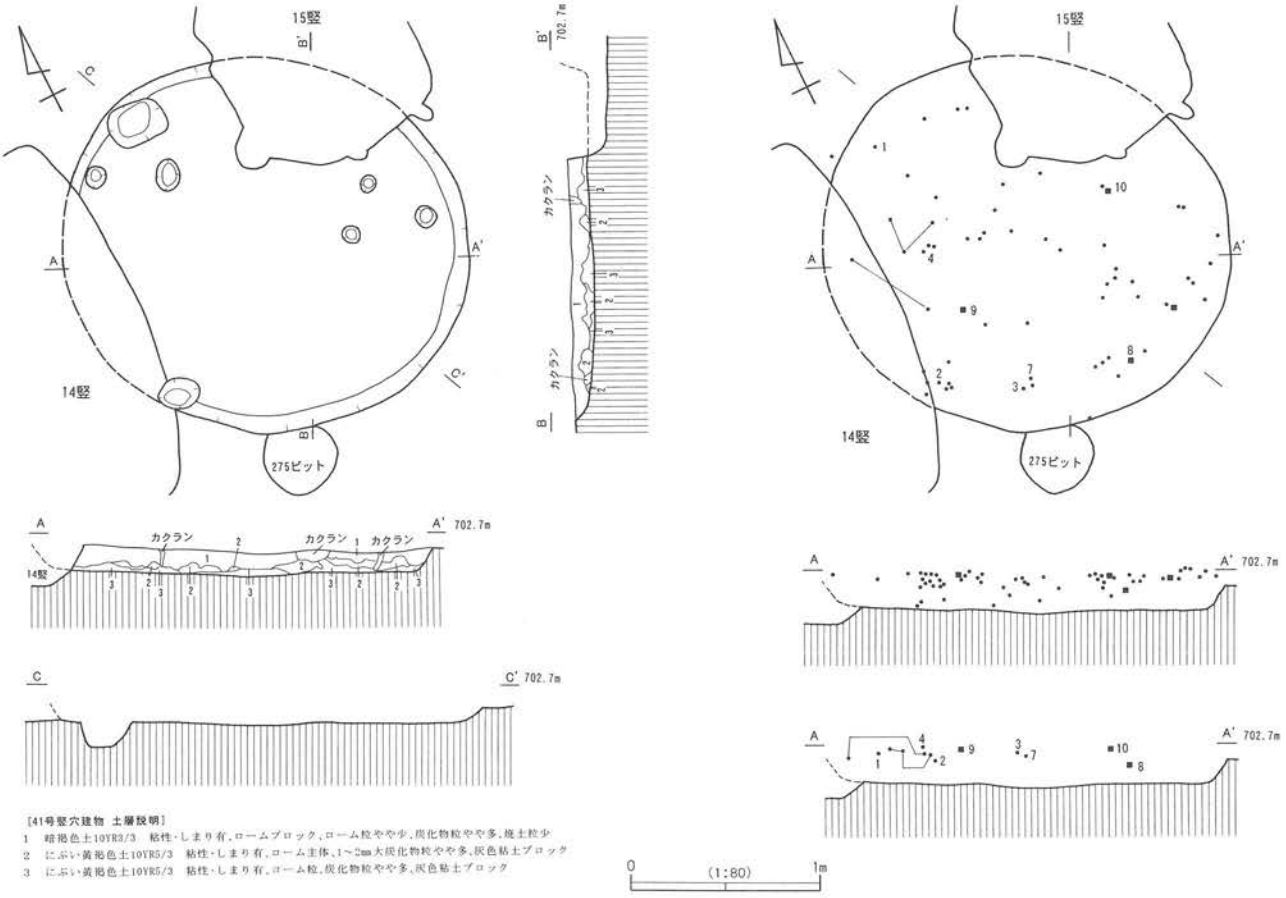


第160図　40号竪穴建物出土遺物

【時　期】竪穴覆土および形状から平安時代から中世以降の所産と思われる。

40号竪穴建物（第158・159図）

【位　置】A24・25B12・13グリッドに位置する。



第161図　41号竪穴建物・遺物分布図・遺物接合図

【重　複】127・128・196号ピット、11号溝と重複。重複するすべての遺構に切られる。

【形　状】楕円形。

【規模（長軸m×短軸m）】5.43m（南北）×5.07m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.34mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】19.92㎡。

【長軸方位】N－5°－W。

【埋没状況】

遺構全体が削平を受け、遺存状態は悪い。覆土は基本的に3層からなり、ロームブロックや焼土粒、炭化物粒を含む褐色砂質土や黄褐色粘質土の堆積がみられる。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

柱穴の重複関係から、a・b（新・古）最低2段階の建て替えが想定される。40a号は7本柱穴の竪穴で、柱穴を結ぶように周溝が巡り、段差となり壁際がベッド状を呈している。41b号は6本柱穴の竪穴と思われる。b段階のピット間にも周溝が検出されていることから、当初からベッド状の段差を持っていた可能性は強い。ピットは径約60cm前後、深さは確認面から約35～60cmを測り、大半の柱穴は深さが揃っている。また竪穴壁下際には小ピットもみられる。

【炉】

竪穴中央やや北寄りに位置している。石囲炉で、南北の炉石がそれぞれ除去されている。掘り形は方形を呈し、南北約60cm、東西50cm、深さ約25cmを測る。炉覆土内には焼土粒と炭化物粒の混入はみられるものの、焼土自体の堆積はみられない。炉覆土内からの遺物の出土はほとんどなく、縄文土器片がわずかに出土しているのみ。なお、炉の周りは、焼土化し非常に堅く硬化しており、径20cm前後の小ピットも3基検出されている。

【その他施設】

特になし。

【遺物出土状況】

遺構の上部をほとんど削平されているためか、遺物量は極めて少ない。炉周辺の覆土中もしくはPit覆土内から散在的に出土している。Pit6とPit10の間に平石が床面直上から出土しているが、当初埋甕の存在も期待されたが確認されなかった。いずれにしても入り口施設に伴うステップに使用された可能性が高い。

【出土遺物】（第160図）

図示できる遺物は少ない。1は深鉢形土器の橋状把手の破片である。2・3は縄文時代前期の縄文を地文とする深鉢形土器の破片である。4は隆線脇に三角押文がみられ、5は無文の底部破片である。6・7は剥片石器、8は凹石である。

【時　期】建物構造から縄文時代中期前葉（新道式期～藤内式期）と思われる。

41号竪穴建物（第161図）

【位　置】A15・16B13・14グリッドに位置する。

【重　複】14・15号竪穴建物、275号ピットと重複。14・15号竪穴建物より古い。75号ピットとの新旧は不明。

【形　状】楕円形。

【規模（長軸m×短軸m）】推定4.60m（東西）×推定4.10m。

【竪穴部深さ（m）】遺構確認面から最大0.25mを測る。

【竪穴部床面積（㎡）】10.62㎡（現存）。

【長軸方位】N－66°－W。

【埋没状況】

覆土は基本的に３層で、炭化物粒と焼土粒を含む暗褐色土と、炭化物粒と灰色粘土ブロックを含む黄褐色土、炭化物粒と灰色粘土ブロックを含むにぶい黄褐色土を中心とする。

【内部構造（柱穴・掘り形等）】

床面は全体に概して軟弱で、周溝は巡っていない。ピットも数基検出されているが、その配置等に特に規則性は認められない。

【炉】

特に確認されていない。

【その他施設】

特になし。

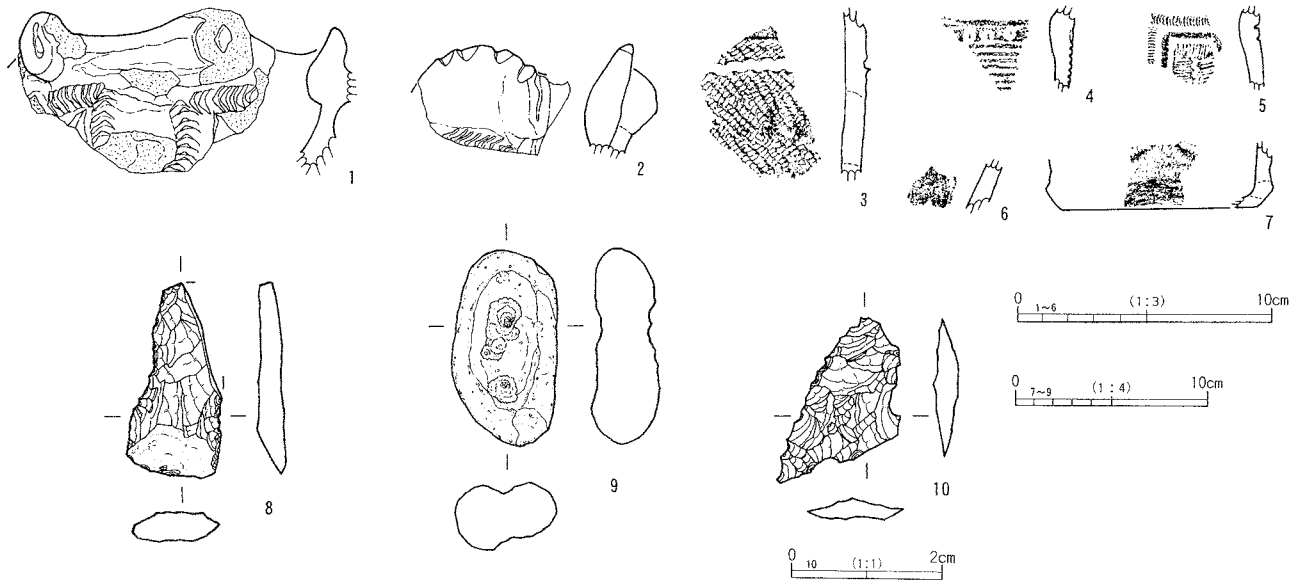
【遺物出土状況】

覆土上層部を中心に、竪穴全体にわたって散在的に出土している。

【出土遺物】（第162図）

１は深鉢形土器の小突起をもつ波状口縁で、２は口唇部に刻みをもつ小突起破片。３は縄文を地文として波状沈線を施している。４は横位の沈線と、円形刺突文を施し、５は半隆起線で区画された矩形区画で、６は胎土等から平出三類Ａ系の土器小片である。７は深鉢形土器底部破片で、重三角区画文の一部がみえる。８は完形の打製石斧、９は凹石、10は有茎石鏃である。

【時　期】縄文時代中期か。



第162図　41号竪穴建物出土遺物

表2　竪穴建物一覧表

※数値における（　）＝現存値／［　］＝推定値を示す

竪穴番号	位置（Grid）	重　複	平面形態	長軸×短軸（m）	竪穴部深さ（m）	竪穴部床面積（㎡）	長軸方位	竈・炉位置	時　期	備　考
1号竪穴建物	A17・18B16・17	なし	方形	4.40×4.10	0.65	10.35	N-88° －E	東壁	平安中	竪穴壁外柱穴、階段状施設
2号竪穴建物	A22・23B10・11	6・36竪	方形	4.65×4.55	0.55	14.29	N-83° －E	東壁	平安中	竪穴壁外柱穴、棚状施設、階段状施設
3号竪穴建物	A20・21B10・11	1ピット	方形	5.50×5.10	0.55	18.66	N- 8° －W	東壁	平安中	竪穴壁外柱穴、棚状施設、階段状施設
4号竪穴建物	A19・20B17・18	なし	方形	5.00×4.75	0.49	15.87	N- 85° －E	南東コーナー	平安末	竪穴壁外柱穴、棚状施設
5号竪穴建物	A18・19B15	なし	方形	3.75×3.25	0.41	7.64	N- 79° －E	南東コーナー	平安末	棚状施設、床面に焼土範囲あり
6号竪穴建物	A23・24B11・12	2・36竪	隅丸長方形？	(3.25) ×3.22	0.15	(7.21)	N- 7° －W	竪穴中央	縄文前	
7号竪穴建物	A20B11・12	3ピット	方形	4.67×4.30	0.50	9.68	N-11° －W	東壁	平安中	竪穴壁外柱穴、棚状施設、階段状施設、テラス状施設
8号竪穴建物	A19・20B13・15	27ピット、1溝	隅丸長方形	2.88×2.27	0.32	4.26	N- 98° －E	不明	不明	覆土中で焼土範囲を確認
9号竪穴建物	A19・20B16・17	10・20竪	長方形	[4.25] ×3.85	0.10	[13.77]	N- 1° －W	東壁	平安末	床面にて焼土範囲確認
10号竪穴建物	A19B16・17	9竪	長方形	4.62×4.10	0.08	15.58	N- 92° －E	南西コーナー	平安末	床面にて焼土範囲確認
11号竪穴建物	A21・22B15・16	なし	方形	4.15×3.72	0.27	10.89	N- 6° －W	東壁	平安中	竪穴壁外柱穴、階段状施設
12号竪穴建物	A22・23B11・12	35竪、1・2・39～50・180ピット	楕円形	6.00×4.91	0.32	18.14	N-84° －W	不明	縄文中	
13号竪穴建物	A21・22B13・14	4・5・6・7・9・13・15ピット	楕円形	2.73×2.15	0.25	16.14	N-72° －E	竪穴中央西寄り	縄文中	
14号竪穴建物	A15・16B12・13	27・41竪	長方形	4.45×4.09	0.70	9.78	N-89° －E	東壁	平安中	竪穴壁外柱穴、テラス状施設
15号竪穴建物	A15・16B13・14	41竪	方形	2.60×2.34	0.60	2.93	N-8° －E	不明	中世	覆土中で焼土範囲を確認
16号竪穴建物	A15・16B17	なし	方形	4.00×3.80	0.50	8.13	N- 88° －E	東壁	平安中	竪穴壁外柱穴、棚状施設、階段状施設
17号竪穴建物	A14・15B16・17	18・19竪	方形	2.47×2.39	0.33	3.76	N-105° －E	東壁	平安末	
18号竪穴建物	A14・15B16・17	17竪	長方形	2.90×2.42	0.39	(2.42)	N- 24° －E	南西コーナー	平安末	竪穴壁外柱穴、棚状施設
19号竪穴建物	A13～15B17・18	17竪	方形？	5.14×（4.15）	0.17	(19.89)	N-13° －E	不明	平安末	竪穴壁外柱穴、階段状施設、床面にて焼土範囲確認
20号竪穴建物	A19～21B15・16	9竪	楕円形	6.28×5.57	0.65	22.6	N- 16° －E	竪穴中央北寄り	縄文中	最低3段階の建て替え有り、ベッド状施設、ロームマウンド
21号竪穴建物	A14B11	26竪、70・87ピット	長方形	3.67×2.80	0.36	8.28	N- 104° －E	不明瞭	平安中	
22号竪穴建物	A11B13	25・34竪、7溝	楕円形	4.46×3.74	0.20	12.21	N- 45° －E	竪穴中央東寄り？	縄文中	
23号竪穴建物	A9・10B14・15	なし	方形	4.50×4.29	0.42	12.91	N- 82° －E	東壁	平安中	建て替え有り、ステップ状施設
24号竪穴建物	A7・8B14・15	なし	方形	5.71×5.66	0.53	21.45	N- 84° －E	東壁	平安中	建て替えの可能性有り、竪穴壁外柱穴、階段状施設
25号竪穴建物	A13・14B12・13	22・34・38竪、94ピット、7溝	楕円形	4.46×3.74	0.18	13.75	N- 5° －W	竪穴中央？	縄文中？	
26号竪穴建物	A14・15B10・11	21竪、87ピット	隅丸方形	4.16×3.80	0.35	11.53	N- 84° －E	不明	縄文中？	
27号竪穴建物	A14・15B12・13	14・34竪、7溝	楕円形？	－×(3.29)	0.20	(7.03)	不明	不明瞭	縄文中？	
28号竪穴建物	A14B9・10	3掘倒木	楕円形	2.28×1.97	0.38	(2.87)	N- 93° －E	不明	縄文中？	
29号竪穴建物	欠番	－	－	－	－	－	－	－	－	
30号竪穴建物	A25B14・15	35竪、11・12溝	方形	3.42×3.04	0.25	6.00	N- 81° －E	東壁	平安中	竪穴壁外柱穴、階段状施設
31号竪穴建物	A23・24B15・16	なし	方形	4.32×4.30	0.71	11.97	N- 79° －E	東壁	平安中	建て有り、竪穴壁外柱穴、棚状施設？、階段状施設
32号竪穴建物	A13・14B8・9	33竪、16溝	円形	4.60×4.50	0.40	13.66	N- 91° －E	不明瞭	縄文中？	
33号竪穴建物	A14・15B9	32竪、74・77ピット	円形	4.12×3.50	0.38	7.82	N-105° －E	不明	縄文中？	
34号竪穴建物	A14・15B13	22・25・27竪、94ピット、7溝	楕円形	3.44×3.15	0.36	7.65	N- 44° －W	不明	縄文中？	
35号竪穴建物	A24・25B14～16	30竪、11・12溝	楕円形	7.23×6.70	0.64	32.99	N- 32° －W	竪穴ほぼ中央	縄文中	最低4段階の建て替え有り、ベッド状施設
36号竪穴建物	A22・23B11・12	2・6・12竪	楕円形	7.47×［6.00］	0.37	(14.55)	N- 36° －E	不明瞭	縄文中	
37号竪穴建物	A23～25B8～10	194ピット、17溝	不整円形	(7.30) ×－	0.67	(36.17)	N- 49° －W	不明瞭	縄文中	
38号竪穴建物	A13・14B11・12	25・27・29竪、7・13溝	楕円形	［4.92］×［4.45］	0.32	(14.55)	N- 17° －E	不明	縄文中？	
39号竪穴建物	A24・25B13	105・106ピット	方形？	(3.15) ×（2.90）	0.30	(9.79)	N- 87° －E	不明	平安又は中世	竪穴壁外柱穴
40号竪穴建物	A24・25B12・13	127・128・196ピット、11溝	楕円形	5.43×5.03	0.34	19.92	N- 5° －W	竪穴中央北寄り	縄文中	最低2段階の建て替え有り、ベッド状施設
41号竪穴建物	A15・16B13・14	14・15竪、275ピット	楕円形	［4.60］×［4.10］	0.25	(10.62)	N- 66° －W	不明	縄文中？	

(2) 掘立柱建物

掘立柱建物は1棟のみ検出されている。本遺跡では縄文時代から平安時代、中世、近世にわたる遺構群が検出されているが、竪穴建物が主体的に検出されている。建物遺構の構成のなかで掘立柱建物の占める割合が極めて低いのも、本遺跡における大きな特徴の一つである。

1号掘立柱建物跡（第163図）

【位　置】A8・9B12・13グリッドに位置する。

【重　複】176号ピット。

【形　状】長方形。

【規模（桁行m×梁間m）】3間（4.05m）×1間（北面0.9m、南面1.15m）。

【床面積（㎡）】約4.1㎡。

【長軸方位】N－23°－E。

【柱穴等】柱穴は9本検出されている。平面形は円形を呈し、規模は径25～30cm、深さ20～30cmを測る。各柱穴間の柱間寸法（芯々）は次のとおりである。

Pit1－Pit2＝1.4m、Pit2－Pit3＝1.3m、Pit3－Pit4＝1.35m、Pit4－Pit5＝1.15m、Pit5－Pit6＝1.4m、Pit6－Pit7＝1.2m、Pit7－Pit8＝1.45m、Pit1－Pit8＝0.9m

【出土遺物】出土していない。

【時　期】柱穴の平面形態や規模、構造等から近世以降の所産と思われる。

(3) 埋設土器

1号埋設土器（第163図/第198図埋－1）

【位　置】A17B14グリッドに位置する。

【重　複】表土剥ぎ直後の遺構確認段階の早い段階で、その存在を確認していたものである。最終的には247号ピットを掘り込んで構築していると判断した。

【掘り形形態】掘り形の平面形態は円形である。

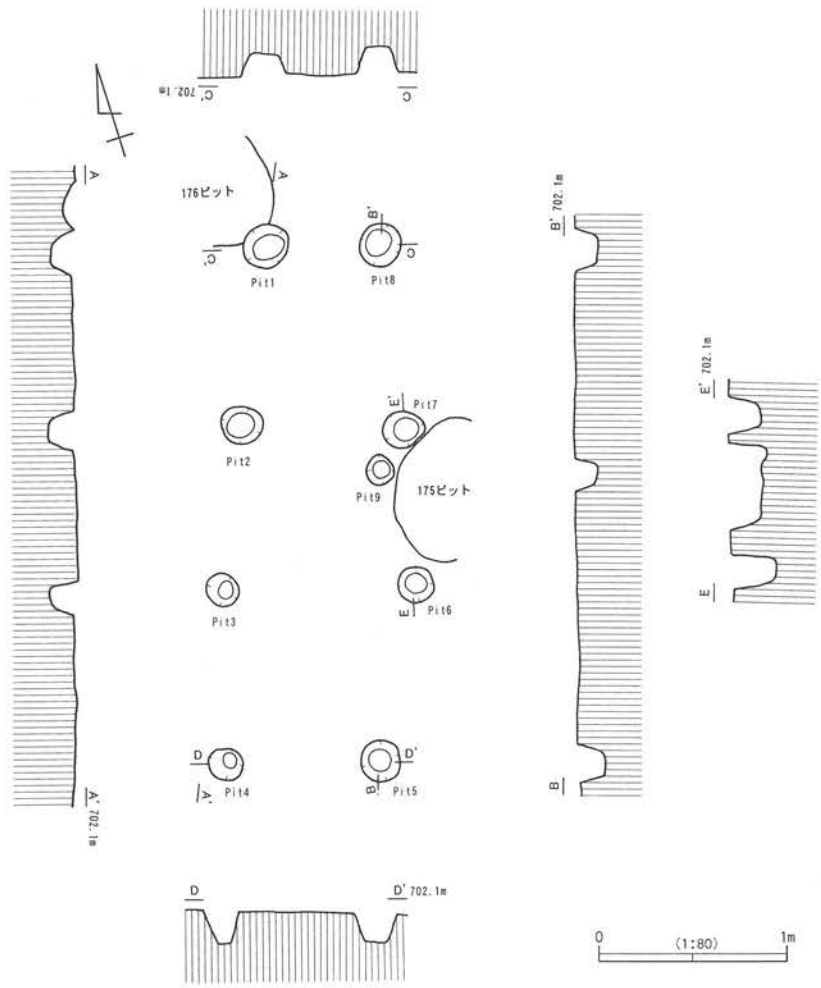
【掘り形規模（長軸m×短軸m）】0.46m（東西）×0.46m（南北推定値）

【覆土】掘り形には、5～10㎜大のロームブロックを含むにぶい黄褐色粘質土が充填されている。

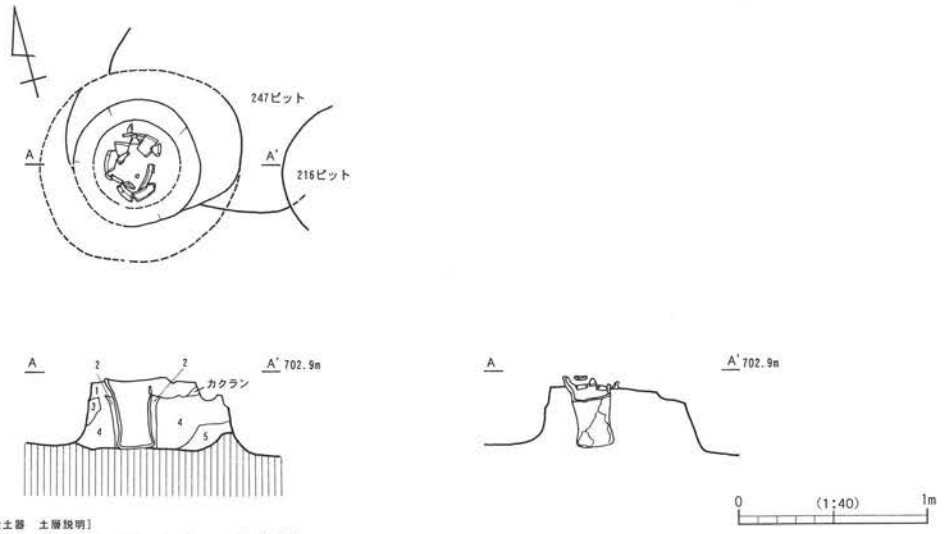
【出土遺物】第198図埋－1が埋設されていた土器本体である。ほぼ完形である。口縁部が緩く内彎し、胴部がややくびれるキャリパー形の深鉢形土器である。器厚は厚く重量感があり、無文であるが、器面は内外面ともにミガキが施され丁寧に仕上げている。

【時　期】土器の器形等からみて縄文時代中期前葉藤内式期と思われる。

1号掘立柱建物



1号埋設土器



［1号埋設土器　土層説明］
1　褐色砂質土10YR4/4　粘性やや弱・しまり有、ローム粒、炭化物粒
2　にぶい黄褐色粘質土10YR5/3　粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック
3　にぶい黄褐色粘質土10YR5/4　粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒
4　にぶい黄褐色粘質土10YR4/3　粘性・しまり有、2～5mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒
5　褐色粘質土10YR4/6　粘性・しまり有、2～3mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒少

第163図　1号掘立柱建物・1号埋設土器

(4) ピット

ここで使用している「ピット」とは、「小竪穴状遺構」「土坑（土壙）」「ピット」を含んだ総称である。発掘調査段階で遺構ナンバーを付けた数は293基分で、その後の検討によって他の遺構に付属するものだったり、欠番となってしまった数を差し引くと、最終的には289基のピットが検出されている。

各ピットの時期は、縄文時代から平安時代、中世・近世にわたるが、それらを詳細に区別することは難しい。分布に関しては、一見調査区全体にまんべんなく分布しているようにみえるが、いくつかの群に分けることができる。各ピットの所属時期を度外視してみた場合、以下のとおりになる。

①A19グリッドラインを境に北側（調査区北側）に分布する群

②A17B12～15グリッドエリア（6号溝と5号竪穴建物の間の区域）を中心に分布する群

③A14～16B 9～14グリッドエリア（32号・41号竪穴建物付近）を中心に分布する群

④A8～11B 8～10グリッドエリア（調査区南側真ん中あたり）を中心に分布する群

⑤A8～10B12～14グリッドエリア（調査区南東側10号溝付近）を中心に分布する群

⑥A20・21B 6・7グリッド（旧河道右岸）を中心に分布する群

特に縄文時代のピットについては、②・③のエリアを中心に分布する傾向にあり、A12グリッドラインより南側へは降らないようである。反対に平安時代以降のピットは、②・③のエリアにはあまり分布していない。

本来すべてのピットについて事実報告をするべきではあるが、ここでは出土遺物の多いピットや特殊な遺物がみられるピット、特徴的な形態をもつピットを取り上げ、形態的特徴や遺物の出土状況、遺物について報告しておきたい。それら以外のピットデータについては、一覧表（表3）を作成しているのでそちらを参照されたい。

1号ピット（遺構第164図／遺物第198図）

上記①エリアに属し、縄文時代中期前葉のピットと思われる。縄文時代中期前葉土器片の他、打製石斧2点、石鏃2点等が出土している。

2号ピット（遺構第164・165図／遺物第198・199図）

上記①エリアに属し、縄文時代中期前葉のピットと思われる。狢沢式期の深鉢形土器と縄文を地文とするいわゆるゲジゲジ文を配した深鉢形土器、打製石斧2点が出土している。

3号ピット（遺構第165図／遺物第199図）

上記①エリアに属し、7号竪穴建物と重複して、近世段階の焙烙底部破片と、縄文時代前期諸磯b式土器片が出土しているピットである。

6号ピット（遺構第166図／遺物第199図）

上記①エリアに属し、13号竪穴建物と重複して、縄文を地文とする鉢と打製石斧2点が出土している。

8号ピット（遺構第166図／遺物第199図）

上記①エリアに属し、わずかに掘り込みが残る浅いピットであるが、灰釉陶器片が出土している。

9号ピット（遺構第166図／遺物第200図）

上記①エリアに属し、13号竪穴建物と重複している。縄文時代前期諸磯b式土器の細片とともに、やや薄手のつくりの縄文時代早期～前期頃と思われる土器片が数点出土している。

10号ピット（遺構第166図／遺物第200図）

上記①エリアに属し、11号ピットと重複する。内耳土器片が出土している。中世以降のピットと思われる。

12号ピット（遺構第166図／遺物第200図）

上記①エリアに属し、7号竪穴建物のすぐ南側に位置する。黒色土器片、甲斐型皿底部破片が出土している。

19号ピット（遺構第167図／遺物第200図）

上記①エリアに属し、刻書土器片と灰釉陶器高台部破片が出土している。平面形態は長方形を呈し、長軸1.47m、短軸0.95m、深さ24cmを測る。ピット壁下際にはいくつかの小ピットが穿たれている。

20号ピット（遺構第168図／遺物第200・201図）

上記①エリアに属し、縄文時代前期諸磯b式土器の破片資料が、比較的まとまって出土している。全体を縄文のみが施されるもの、波状口縁の波頂部にボタン状突起がつく沈線文土器がみられる。その他、石鏃の未製品も出土している。

26号ピット（遺構第168図／遺物第201図）

上記①エリアの東側に位置している。25号ピットに切られているため全容は不明だが、長軸1.65m以上、短軸0.81m、深さ18cmを測り、長楕円形を呈する。壁下際に小ピットが穿たれている。黒色土器系の土師器坏片と、小型石皿が出土している。

34号ピット（遺構第169図／遺物第201図）

上記①エリアに属し、単独で存在している。平面形態は隅丸の長方形を呈し、断面形は箱形を呈する。規模は長軸1.17m、短軸0.86m、深さ79cmを測る。確認面から約15～20cmの下に拳大から人頭大にいたる多量の礫が底面上約25cmのレベルまで充填されている。その上部はロームブロックが多く混じる暗褐色砂質土、その下部はにぶい黄褐色砂質土が堆積している。

底面レベルから中国銭貨が6枚と不明鉄製品が出土している。銭貨は「開元通寶」「祥符通寶」「皇宋通寶」「至和元寶」「洪武通寶」がみられる。こうした状況から本ピットは墓坑と思われ、銭貨の初鋳年代から、少なくとも14世紀後半以降の所産であると思われる。。

50号ピット（遺構第170図／遺物第202図）

上記①エリアに属し、12号および36号竪穴建物内に位置するピットで、平出第三類A系土器片が出土している。

51・52号ピット（遺構第171図）

上記②エリアに属し、その南東端に位置しており、51号、52号と並んで検出されている。51号ピ

ットは長軸1.55m、短軸0.82m、深さ26cmを測り、52号ピットは長軸1.49m、短軸0.85m、深さ30cmを測る。ともに長楕円形に近い長方形を呈する。壁下際には12号ピット、26号ピットと同様に小ピットが穿たれている。特に出土遺物はない。

53号ピット（遺構第171図／遺物第202図）

上記③エリアに属し、その西端の旧河道と尾根との境に位置している。長軸1.24m、短軸0.66m、深さ23cmを測り、平面形態は長楕円形を呈する。寛永通寶と思われる銭貨2枚と瓦質焙烙の口縁部破片、砥石等が出土している。近世以降の所産と思われる。

55号ピット（遺構第171図／遺物第202・203図）

上記③エリアに属し、その東端に位置している。長軸2.22m、短軸1.85m、深さ26cmを測り、平面形態は楕円形を呈する。縄文中期藤内式土器破片を中心に、土偶脚部破片も出土している。

73号ピット（遺構第173図／遺物第203図）

上記③エリアに属し、長軸2.06m、短軸2.01m、深さ71cmを測り、平面形態は不整円形を呈する。底面は平坦で、壁は漏斗状に立ち上がる。遺物は縄文土器の細片がわずかに出土している他、覆土下層から性格不明の炭化材が出土している。

81号ピット（遺構第174図）

上記⑤エリアに属し、10号溝とその軸を揃えている。覆土はにぶい黄褐色粘質土の単一層である。平面形態は長方形を呈し、断面は台形を呈しており、底面は30cmほどの段差がつくられている。長軸2.09m、短軸1.53m、深さは最大91cmを測る。壁は明瞭でしっかりとした掘り込みである。北面と南面の壁には、底面から約50cmの高さの位置にピットが2箇所ずつ掘られている。ピットは相対する位置にある。こうした構造から本ピットは、「室」的な性格をもつものと思われる。

85号ピット（遺構第175図／遺物第203図）

上記③エリアに属し、平面形態は長楕円形を呈し、規模が長軸2.80m、短軸1.96m、深さ80cmを測るピットである。底面は平坦で、壁は漏斗状に立ち上がる。出土遺物は覆土中層から中期五領ヶ台式期の土器片と、新道式期から藤内式期の土器片、そして打製石斧が4点出土している。

86号ピット（遺構第175図／遺物第203図）

上記⑤エリアに属し、81号ピットと同様に10号溝の軸と揃っている。平面形態は長方形を呈し、長軸2.01m、短軸1.64m、深さ31cmを測る。壁下際を中心に小ピットが穿たれている。出土遺物ではわずかに陶器片が1点出土している。

88号ピット（遺構第175図）

上記①エリアに属し、平面形態は円形を呈し、長軸1.23m、短軸1.22m、深さ83cmを測る。断面形は箱形を呈し、壁も明瞭で掘り込みはしっかりしている。出土遺物はない。

95号ピット（遺構第176図）

上記④エリアに属する。平面形態は円形を呈し、長軸1.55m、短軸1.43m、深さ66cmを測る。底面は平坦で、壁は漏斗状に立ち上がる。出土遺物はない。

135号ピット（遺構第180図）

上記④エリアに属する。平面形態は円形を呈し、長軸1.20m、短軸1.09m、深さ25cmを測る。底

面は多少凹凸をもつが、ほぼ平坦である。覆土は２層で、黒褐色砂質土とにぶい黄褐色砂質土である。北西隅において馬の下顎切歯、下顎臼歯、上顎臼歯が合わさった状態で出土している。他に遺物は出土していない。

141号ピット（遺構第181図）

上記④エリアに属する。平面形態は円形を呈し、長軸1.43m、短軸1.41ｍ、深さ67㎝を測る。底面はほぼ平坦で、壁は漏斗状に立ち上がっている。覆土は６層からなり、レンズ状の堆積状態を示している。１層は黒褐色土混じりのにぶい黄褐色土。２層はロームブロック混じりの褐灰色土、３層は灰黄褐色土、４層はロームブロックと小礫混じりの灰黄褐色土、５層はローム粒混じりの灰黄褐色土、最下層の６層は、ロームブロックを主体としたにぶい黄褐色土で、ボロボロとした土質である。

北壁隅の覆土４層中から、135号ピットと同様に切歯、下顎臼歯、上顎臼歯が底面から約17～20㎝のレベルから出土している。切歯をピット内側に向けた状態で、レベル的にも低くなっている。他に出土遺物はないが、覆土上層において人頭大の礫が出土している。

163号ピット（遺構第184図）

上記④エリアに属する。平面形態は長楕円形を呈する。長軸2.23ｍ、短軸1.60m、深さ69㎝を測る。底面はほぼ平坦で、壁は漏斗状に立ち上がる。覆土は７層からなり、１層はロームブロック混じりの褐灰色土、２層はロームブロック混じりの灰黄褐色土、３層はロームブロック混じり（少）のにぶい黄褐色土、４層は炭化物粒と小礫混じりのにぶい黄褐色土、５層はロームブロックと小礫混じりの灰黄褐色土（ややボロボロしている）、６層はロームブロックが主体のにぶい黄褐色土、７層は薄く水平堆積をみせる灰黄褐色土で、南西方向から主体に流れる込むような堆積状況を示している。

ピット中央からやや南側に寄った、底面から約20㎝のレベルから馬の下顎臼歯が出土している。他に出土遺物はない。

177号ピット（遺構第186図）

上記⑤エリアに属する。平面形態は長方形を呈し、長軸1.51m、短軸0.83m、深さ88㎝を測る。覆土は３層からなり、１層はロームブロックが主体の灰黄褐色土、２層は同遺構をほとんど埋没させている、大型ロームブロックを多く含む黒褐色土、３層は２層よりロームブロックの混入が少ない黒褐色土となっている。

北壁と南壁の壁面に径20㎝程度の規模を測るピットが穿たれており、底面から約30㎝のレベルに北壁は同一レベルで４箇所、南壁は１箇所穿たれている。出土は遺物はない。本ピットも81号ピットと同様に「室」的な性格をもつ施設と思われる。

180号ピット（遺構第186図／遺物第205図）

上記①エリアに属し、12号竪穴建物と重複している。平面形態は円形を呈し、長軸0.81ｍ、短軸0.77m、深さ41㎝を測る。覆土は３層からなり、いずれもロームブロック混じりの褐色砂質土と黄褐色砂質土である。１層中から主に縄文中期前葉土器片と無茎石鏃が出土している。

189号ピット（遺構第187図／遺物第205図）

上記①エリアに属する。平面形態は楕円形を呈し、長軸1.11m、短軸0.84m、深さ28cmを測る。覆土は3層からなり、ロームブロックと炭化物粒を含む暗褐色砂質土と褐色砂質土である。1層と2層中から縄文時代中期前葉土器片と無茎石鏃、石棒片？が出土している。

198号ピット（遺構第188図／遺物第205図）

上記①エリアに属する。平面形態は楕円形を呈し、長軸1.35m、短軸1.01m、深さ49cmを測る。覆土は3層からなり、ロームブロックと炭化物粒を含む褐色砂質土とにぶい黄褐色粘質土である。覆土上層を中心に縄文時代中期前葉土器片が、ややまとまって出土している。

213号ピット（遺構第189図／遺物第205図）

上記③エリアに属する。平面形態は楕円形を呈し、長軸0.92m、短軸0.83m、深さ17cmを測る。底面はほぼ平坦である。覆土は基本的に炭化物粒とローム粒が混じる黒褐色土の1層である。ピットほぼ中央の、底面上2～10cmのレベルから、縄文時代中期前葉の浅鉢形土器が正位の状態で出土している。

216号ピット（遺構第190図／遺物第206図）

上記②エリアに属する。平面形態は楕円形を呈し、長軸推定1.55m、短軸1.14m、深さ56cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は西壁はほぼ垂直に立ち上がるが、北壁から東壁にかけては狭いテラスを形成して立ち上がる。

覆土は5層からなり、1層はローム粒と炭化物粒を含む黒褐色土、2層はロームブロックと小礫を含む褐灰色土、3層は褐灰色粘土ブロックとロームブロックを含む黒褐色土、4層はロームブロックの混入がみられない黒褐色土、5層はローム粒を含むにぶい黄褐色土となっている。覆土上層および下層から縄文時代中期前葉土器片が出土している。

218号ピット（遺構第190図／遺物第206図）

上記②エリアに属する。平面形態は楕円形を呈し、長軸推定1.66m、短軸1.33m、深さ52cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は南壁はほぼ垂直に立ち上がるが、その他の壁は狭いテラスを形成して立ち上がる。

覆土は5層からなり、1層はローム粒と炭化物粒を含む灰黄褐色土、2層は褐灰色粘土ブロックと炭化物粒を含む黒褐色土、3層は褐灰色土混じりの黒褐色土、4層はロームブロックと褐灰色粘土ブロックを含む褐色灰色土、5層はロームブロックと小礫を含む褐灰色土となっている。覆土の1層～3層から縄文時代中期前葉を中心とする土器片が出土している。また東壁寄りの覆土上層には人頭大より一回り大きい礫がみられる。

247号ピット（遺構第192図／遺物第206図）

上記②エリアに属する。平面形態は不整楕円形を呈し、長軸1.49m、短軸1.35m、深さ34cmを測る。本ピット北側部分を中心に縄文時代中期前葉を中心とする土器片が、ややまとまって出土している。

255号ピット（遺構第193図／遺物第206・207図）

上記②エリアに属する。平面形態は楕円形を呈し、長軸1.31m、短軸1.08m、深さ20cmを測る。覆土は基本的に3層で、ロームブロックや炭化物粒を含む褐色砂質土と、にぶい黄褐色砂質土、に

ぶい黄褐色粘質土である。

本ピットの中央部分の覆土上層から下層にかけて、縄文時代中期前葉を中心とする土器と、完形の打製石斧が出土している。

257号ピット（遺構第194図／遺物第207図）

上記②エリアに属する。平面形態は楕円形を呈し、長軸推定3.63m、短軸推定3.27m、深さ51cmを測り、断面形態は皿状を呈する。規模からすれば、竪穴建物あるいは竪穴状遺構としてもおかしくはない。覆土は基本的に４層で、ロームブロックと炭化物粒を含む暗褐色砂質土、灰黄褐色粘質土、黄褐色粘質土である。

本ピット中央付近の、底面から約15cmのレベルで、別個体の浅鉢形土器片（縄文時代中期前葉）が出土しており、他には覆土上層を中心として中期前葉土器片や打製石斧片、凹石等が出土している。

262号ピット（遺構第195図／遺物第207・208図）

上記②エリアに属する。平面形態は不整円形を呈し、長軸2.27m、短軸2.23m、深さ45cmを測る。ピット内にはさらに一辺1.05m、深さ約５cmを測る方形の掘り形があり、その東辺に接するように扁平な礫が立石状に検出されている。またピットの四隅には径70cm、深さ10cm程度を測る柱穴状のピットがみられる。

覆土は５層からなり、ロームブロックや炭化物粒を含む、１層は暗褐色粘質土、２層は灰黄褐色粘質土、３層は褐色粘質土、４層は灰黄褐色粘質土、５層はにぶい黄褐色粘質土である。遺物はピット内の方形の掘り形内を中心に出土している。縄文時代中期前葉の土器片の他、打製石斧、凹石、無茎石鏃がみられ、打製石斧を模したと思われる小型の石製品も出土している。

288号ピット（遺構第197図／遺物第209図）

上記⑥エリアに属する。平面形態は楕円形を呈し、長軸1.41m、短軸1.21m、深さ53cmを測る。覆土は５層からなり、１層はロームブロックと炭化物を含む褐色粘質土、２層は暗褐色粘質土、３層は褐灰色粘質土、４層は黒褐色粘質土、５層はにぶい黄褐色粘質土である。遺物は主に１層・２層・４層中から出土しており、縄文時代前期後半土器片や中期前葉土器片、打製石斧、砥石状石器等が出土している。

289号ピット（遺構第197図／遺物第210図）

上記⑥エリアに属する。平面形態は円形を呈し、長軸1.49m、短軸推定1.40m、深さ48cmを測る。覆土は３層からなり、１層はロームブロックと炭化物を含む褐色粘質土、２層は暗褐色粘質土、３層はにぶい黄褐色粘質土である。遺物は覆土２層中から主に出土している。拳大の礫が集積した状態で出土している他、それらに混じり縄文時代中期前葉土器片と凹石等が出土している。

293号ピット（遺構第197図／遺物第210図）

上記①エリアに属する。平面形態は楕円形を呈し、長軸1.09m、短軸0.78m、深さ30cmを測り、断面形は皿状を呈する。底面上約15cmのレベルから縄文時代中期前葉の土器が出土している。

表3-(1) ピット一覧表

※数値における（ ）＝現存値／［ ］＝推定値を示す

ピット名	位置（Grid）	重　複	形　状	長　軸　m	短　軸　m	深　さ　m	出土遺物／備　考
1号ピット	A21B11・12	2ピット・3・12竪	不整楕円形	[2.77]	1.68	0.77	縄文中期土器片、打製石斧、石鏃等
2号ピット	A21・22B12	1・150・152ピット、12竪	楕円形	[2.27]	2.00	0.42	深鉢形土器、打製石斧等
3号ピット	A20・21B12	7竪	楕円形	1.53	0.68	0.40	縄文前期土器片、瓦質焙烙片
4号ピット	A21B13・14（13竪内）	5ピット、13竪	不整楕円形	(1.62)	1.22	0.57	石鏃
5号ピット	A21B14（13竪内）	1ピット、13竪	楕円形	0.63	0.52	0.55	縄文中期土器片、打製石斧
6号ピット	A21B14	13竪	楕円形	1.68	1.35	0.44	縄文中期土器片、小形鉢形土器、打製石斧等
7号ピット	A22B14	13竪	楕円形	1.14	1.04	0.47	縄文中期土器片
8号ピット	A22B15		不整円形	0.88	(0.78)	0.09	灰釉陶器片
9号ピット	A22B14	13竪	不整楕円形	2.02	(1.97)	0.65	縄文早・前・中期土器片
10号ピット	A21B14・15	11ピット	不整楕円形	1.43	1.09	0.43	内耳土器片
11号ピット	A21B14	10ピット	楕円形	[0.97]	(0.59)	0.36	縄文中期土器片
12号ピット	A19B12		楕円形	1.27	0.85	0.33	土師器片
13号ピット	A21B14	13竪	楕円形	1.50	1.25	0.37	
14号ピット	A20B11		円形	1.02	0.96	0.27	縄文中期土器片
15号ピット	A21B13・14	16ピット、13竪	不整楕円形	1.34	1.00	0.62	縄文中期土器片
16号ピット	A21B13	15ピット、13竪	楕円形	(1.17)	1.19	0.50	縄文中期土器片
17号ピット	A22B13		楕円形	0.95	0.85	0.37	縄文中期土器片
18号ピット	A22B10		円形	1.28	1.22	0.43	縄文前・中期土器片
19号ピット	A19B14		長方形	1.47	0.95	0.24	土師器片（刻書土器片有）、灰釉陶器片
20号ピット	A21B12	21ピット	円形	0.80	0.75	0.20	縄文前期土器片、石鏃未製品
21号ピット	A21B11	20ピット	不整楕円形	0.87	[0.74]	0.20	縄文中期土器片
22号ピット	A22B16		楕円形	1.80	1.33	0.34	
23号ピット	11竪内	13竪	楕円形	1.03	0.85	0.51	
24号ピット	A22B17		楕円形	1.84	1.42	0.40	縄文土器片、磨石、須恵器片
25号ピット	A21・22B16	26ピット	楕円形	1.05	0.88	0.46	
26号ピット	A21・22B16	25ピット	長楕円形	(1.65)	0.81	0.18	土師器片、小型石皿
27号ピット	A19B14（8竪内）		楕円形	0.80	0.66	0.20	
28号ピット	A20・21B17	29・30ピット	楕円形	1.33	[0.96]	0.37	縄文中期土器片、石鏃
29号ピット	A21B17	28・30ピット	円形	1.15	(0.82)	0.29	縄文中期土器片
30号ピット	A20B17	28・29ピット	円形	1.05	(0.82)	0.29	
31号ピット	A17B11	6溝	楕円形	0.79	0.65	0.11	
32号ピット	A17B10	5溝	円形	1.23	1.09	0.27	打製石斧
33号ピット	A16B10		円形	0.74	0.70	0.22	
34号ピット	A22B13		長方形	1.17	0.86	0.79	銭貨（中国銭）、不明鉄製品
35号ピット	A18B11		円形	0.73	0.70	0.17	縄文前期土器片
36号ピット	A18B11		円形	0.57	0.56	0.24	
37号ピット	A18・19B11		円形	0.54	0.49	0.30	
38号ピット	A18B10		楕円形	0.79	0.60	0.18	
39号ピット	A22B12（12竪内）	12竪、41・49ピット	不整楕円形	0.79	0.70	0.42	
40号ピット	A22B12（12竪内）	12竪、41ピット	楕円形？	[1.47]	(0.97)	0.38	縄文土器片
41号ピット	A22B12（12竪内）	12竪、39・40・42・43ピット	楕円形？	(1.00)	(0.54)	0.37	縄文土器片
42号ピット	A22B12（12竪内）	12竪、41ピット	不整円形	0.97	0.81	0.38	縄文土器片
43号ピット	A22B12（12竪内）	12竪、41ピット	楕円形	0.82	0.70	0.34	
44号ピット	A22B11（12竪内）	50ピット	楕円形？	0.70	(0.42)	0.23	12竪の柱穴と認定
45号ピット	A22B11・12（12竪内）	12竪、46・48ピット	楕円形	1.40	1.23	0.38	縄文土器片
46号ピット	A22B11（12竪内）	12竪、45ピット	楕円形？	(0.94)	(0.39)	0.35	縄文中期土器片、打製石斧
47号ピット	A22B11（12竪内）	12竪、48ピット	楕円形？	(0.75)	(0.75)	0.37	焼成粘土塊
48号ピット	A22B11・12（12竪内）	12竪、45ピット	円形	0.87	(0.75)	0.37	
49号ピット	A22B12（12竪内）	12竪	円形	0.55	0.50	0.16	
50号ピット	A22B11（12竪内）	12竪、46ピット	不整円形	1.17	1.07	0.45	縄文中期土器片（平出三類A系土器含む）
51号ピット	A16B16		長方形	1.55	0.82	0.26	形態的に19ピット・26ピットと類似
52号ピット	A16B16		長方形	1.49	0.85	0.30	
53号ピット	A15・16B9・10	57・66・78ピット	長楕円形	1.24	0.66	0.23	縄文中期土器片、内耳土器片、砥石片、銭貨
54号ピット	A21B12		円形	1.12	1.03	0.70	
55号ピット	A14B14		楕円形	2.21	1.85	0.26	縄文中期土器片、土偶片、剥片石器
56号ピット	A15B9・10		楕円形	0.82	0.62	0.37	
57号ピット	A15B9		長楕円形	1.30	0.81	0.46	
58号ピット	A15B10		円形	0.55	0.55	0.45	
59号ピット	A15B10		楕円形	0.68	0.65	0.56	
60号ピット	A15B10		楕円形	0.86	0.57	0.52	
61号ピット	A15B10		楕円形	1.32	0.97	0.50	
62号ピット	A15B9・10		不整円形	[0.75]	0.72	0.56	
63号ピット	A15B9・10		楕円形	[1.76]	[1.36]	0.57	縄文中期土器片、石鏃
64号ピット	A15B9・10		不整円形	1.01	0.88	0.33	
65号ピット	A15B10		楕円形	0.70	[0.53]	0.20	
66号ピット	A15B9		楕円形	1.22	0.83	0.33	打製石斧片
67号ピット	A15B9・10		楕円形	1.04	(0.65)	0.24	
68号ピット	A14B10		楕円形	1.00	0.69	0.66	
69号ピット	A14B10		方形	[0.58]	0.52	0.49	
70号ピット	A14B11・12（21竪内）	21・29竪	不整楕円形	1.30	1.00	0.32	
71号ピット	A14B10	80ピット	長楕円形	1.95	1.03	0.73	縄文中期土器片
72号ピット	A9B14（23竪内）	23竪内	方形	1.10	1.03	0.56	23竪に伴うピットと認定
73号ピット	A14B10		不整円形	2.06	2.01	0.71	縄文中期土器片、炭化材
74号ピット	A14・15B9・10	33竪、64・74ピット	長方形	1.84	1.51	0.55	
75号ピット	A15B9	76ピット	楕円形	1.15	0.94	0.23	
76号ピット	A15B9	75ピット	楕円形？	(0.64)	(0.46)	0.21	

表3-(2) ピット一覧表

※数値における（ ）＝現存値／［ ］＝推定値を示す

ピット名	位置（Grid）	重　複	形　状	長軸 m	短軸 m	深さ m	出土遺物／備　考
77号ピット	A15B9	33竪、63・64・74ピット	楕円形	(1.22)	(0.94)	0.37	
78号ピット	A15・16B9・10	53・57・66・67ピット	楕円形	(1.43)	(1.18)	0.28	
79号ピット	A15B10		楕円形	0.86	0.61	0.26	
80号ピット	A14・15B10	71ピット	方形	0.90	[0.85]	0.48	
81号ピット	A8B13・14		方形	2.09	1.53	0.91	「室」的構造
82号ピット	A8・9B13		方形	1.14	1.00	0.44	
83号ピット	A15B11	261ピット	楕円形	1.50	1.07	0.35	縄文中期土器片
84号ピット	A15B11・12	266ピット	楕円形	1.12	0.71	0.39	
85号ピット	A16B11・12		長楕円形	2.80	1.96	0.80	縄文中期土器片、打製石斧
86号ピット	A10B14		長方形	2.01	1.64	0.31	陶器片
87号ピット	A14B11	21・26竪	不整楕円形	1.46	1.15	0.20	
88号ピット	A25B14		円形	1.23	1.22	0.83	
89号ピット	欠番	－	－	－	－	－	
90号ピット	A25B14		円形	0.96	0.88	0.14	
91号ピット	A25B14		方形	0.94	0.89	0.17	
92号ピット	A24B14		楕円形	1.10	(0.70)	0.77	
93号ピット	欠番	－	－	－	－	－	
94号ピット	A14B13	7溝	楕円形	(1.15)	(0.91)	0.27	縄文中期土器片
95号ピット	A10・11B9・10		楕円形	1.55	1.43	0.66	
96号ピット	A8B9		長楕円形	1.96	0.78	0.51	
97号ピット	A10B9		円形	1.35	1.26	0.58	
98号ピット	A10B9		円形	1.34	1.30	0.52	
99号ピット	A25B12		円形	1.17	1.10	0.30	
100号ピット	A25B9		楕円形	(1.04)	(0.86)	0.40	
101号ピット	A25B10		円形	1.03	0.98	0.37	
102号ピット	A25B12		楕円形	1.10	[0.85]	0.11	土師器片（擦痕有り）
103号ピット	A24B12	40竪、104ピット	円形	0.77	0.72	0.18	
104号ピット	A23・24B12	103ピット	円形	1.04	[0.97]	0.19	内耳土器片
105号ピット	A25B13	39竪、106ピット	長方形	1.37	0.90	0.41	
106号ピット	A25B13	39竪、105ピット	円形	1.18	1.08	0.29	
107号ピット	A23B10		長楕円形	1.63	1.00	0.54	
108号ピット	A12B9		楕円形	1.36	1.19	0.28	
109号ピット	A12B9		円形	0.57	0.53	0.24	
110号ピット	A12B9		円形	0.58	0.54	0.16	
111号ピット	A12B9		楕円形	0.67	0.55	0.13	
112号ピット	A12B9		円形	0.86	0.80	0.28	
113号ピット	A12B9		楕円形	0.77	0.60	0.20	
114号ピット	A12B10		円形	0.65	0.61	0.29	
115号ピット	A14B11		円形	0.63	0.60	0.38	
116号ピット	A14B11		楕円形	0.77	0.56	0.40	
117号ピット	A14B11		円形	0.34	0.30	0.38	
118号ピット	A13B11		楕円形	0.84	0.75	0.45	
119号ピット	A13B11		円形	0.36	0.35	0.41	
120号ピット	A13B11		円形	0.28	0.25	0.36	
121号ピット	A13B11		円形	0.25	0.22	0.41	
122号ピット	A13B11		楕円形	0.60	0.53	0.46	
123号ピット	A13B11		円形	0.47	0.43	0.36	
124号ピット	A13B11		円形	0.50	0.45	0.34	
125号ピット	A13B11・12		円形	0.87	0.80	0.42	
126号ピット	A13B12	1風倒木	不整円形	(0.73)	0.78	0.28	
127号ピット	A25B12	40竪	円形	0.87	0.82	0.18	
128号ピット	A25B12（40竪内）	40竪	円形	1.08	0.95	0.19	
129号ピット	A23B12・13		円形	0.82	0.81	0.39	
130号ピット	A23B13	170ピット	円形	1.15	1.02	0.75	縄文土器片
131号ピット	A22・23B13・14		楕円形	1.18	0.89	0.69	
132号ピット	A10B10		楕円形	1.58	1.47	0.58	
133号ピット	A10B10		円形	1.53	1.45	0.50	
134号ピット	A10B10		円形	1.32	1.30	0.53	
135号ピット	A11B9		楕円形	1.20	1.09	0.25	馬歯
136号ピット	A10B9		円形	1.78	1.19	0.44	
137号ピット	A10B9		円形	1.29	1.29	0.36	
138号ピット	A10B9		円形	1.42	1.34	0.54	縄文土器片
139号ピット	A9・10B9	140ピット	円形	1.14	1.10	0.45	縄文中期土器片、打製石斧
140号ピット	A10B9	139ピット	円形	0.70	0.50	0.23	
141号ピット	A10B8		円形	1.43	1.41	0.67	馬歯
142号ピット	A10B9		楕円形	1.12	1.01	0.38	打製石斧片
143号ピット	A12B11・12		円形	0.72	0.69	0.25	
144号ピット	A11B12		楕円形	1.02	0.76	0.29	
145号ピット	A10・11B13		長方形	1.62	1.13	0.36	
146号ピット	A10・11B13・14		不整楕円形	1.82	1.24	0.24	
147号ピット	A21B12	148ピット	円形	1.01	0.98	0.38	
148号ピット	A21B12	147ピット	円形	0.94	0.60	0.36	
149号ピット	A21B12		円形	1.00	0.97	0.45	縄文中期土器片
150号ピット	A21B12	2・151・152ピット	楕円形	1.64	1.09	0.37	縄文中期土器片、土製円板、打製石斧
151号ピット	A21B12	150ピット	楕円形	1.73	1.43	0.43	
152号ピット	A21B12	2・150ピット	楕円形	1.24	1.01	0.39	

表3-(3) ピット一覧表

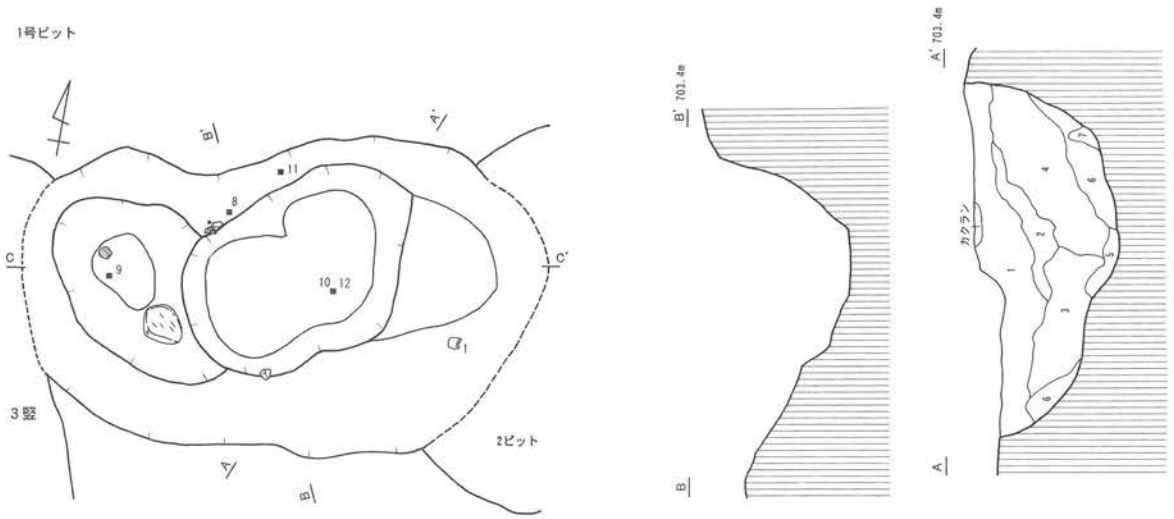
※数値における（ ）＝現存値／［ ］＝推定値を示す

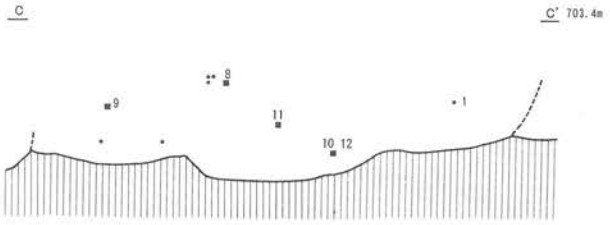
ピット名	位置（Grid）	重　複	形　状	長　軸　m	短　軸　m	深　さ　m	出土遺物／備　考
153号ピット	A9B8・9		円形	1.15	1.10	0.18	
154号ピット	A9B8		楕円形	1.28	0.68	0.04	
155号ピット	A9B8		長方形	1.20	0.74	0.06	
156号ピット	A9B9・10		不整円形	1.58	1.40	0.42	灰釉陶器片
157号ピット	A9B9		円形	1.35	1.32	0.61	
158号ピット	A9B9	172ピット	不整円形	1.62	1.58	0.47	縄文土器片、凹石
159号ピット	A9B10		楕円形	2.10	1.68	0.76	石鏃
160号ピット	A8B9		楕円形	1.39	1.12	0.39	
161号ピット	A8・9B9		楕円形	[1.91]	1.24	0.42	
162号ピット	A8B9		長楕円形	1.79	1.03	0.43	
163号ピット	A7・8B9		長楕円形	2.23	1.60	0.69	馬歯
164号ピット	A8B8	165ピット	楕円形	(1.04)	0.81	0.15	縄文前期土器片
165号ピット	A8B8	164ピット	長方形	1.89	0.77	0.41	
166号ピット	A8B8		長楕円形	1.64	0.90	0.31	
167号ピット	A7B8	168ピット	長楕円形	2.15	1.26	0.59	縄文土器片
168号ピット	A7B8	167ピット	楕円形	(0.75)	(0.55)	0.27	
169号ピット	A11B10		楕円形	0.79	0.59	0.27	
170号ピット	A23B13	130ピット	長楕円形	2.05	1.06	0.96	縄文前期土器片
171号ピット	A9・10B9・10		円形	1.26	1.14	0.43	縄文中期土器片、灰釉陶器片
172号ピット	A9B8・9	158ピット	楕円形	1.35	1.20	0.12	
173号ピット	A9B13		不整円形	2.07	1.83	0.45	
174号ピット	A8・9B12・13		不整円形	1.91	1.68	0.65	
175号ピット	A9B12・13		楕円形	1.15	(0.69)	0.29	
176号ピット	A9B12		不整円形	1.10	1.08	0.20	
177号ピット	A8・9B12		長方形	1.51	0.83	0.88	「室」的構造
178号ピット	A24B11・12		楕円形	0.76	0.69	0.27	
179号ピット	A21B10		楕円形	1.04	0.70	0.60	縄文中期土器片
180号ピット	A21・22B12	12竪	円形	0.81	0.77	0.41	縄文中期土器片、石鏃
181号ピット	A20B13		楕円形	0.97	0.87	0.26	
182号ピット	A20B13・14	183ピット	円形	0.93	[0.93]	0.46	
183号ピット	A20B13	182ピット	楕円形	[1.31]	1.00	0.52	
184号ピット	A20B13・14		不整楕円形	1.22	0.96	0.29	
185号ピット	A20B14		不整円形	1.11	[1.01]	0.32	
186号ピット	A8B12	19溝	楕円形	[0.82]	[0.64]	0.54	
187号ピット	A9B12		楕円形	1.00	0.73	0.28	
188号ピット	A9B12		楕円形	0.77	0.69	0.52	
189号ピット	A22・23B15		楕円形	1.11	0.84	0.28	縄文中期土器片、石鏃、石棒
190号ピット	A23B14・15		円形	0.93	0.85	0.30	
191号ピット	A9B10		円形	0.62	0.60	0.29	
192号ピット	A9B10		円形	0.61	0.56	0.15	
193号ピット	A9B11・12		楕円形	0.83	0.59	0.42	
194号ピット	A24B9（37竪内）	37竪	円形	0.82	0.77	0.23	
195号ピット	A13・14B10	28竪					3号風倒木と認定
196号ピット	A24B13（40竪内）	40竪、11溝	円形	1.09	0.97	0.41	
197号ピット	A20・14B15		円形	1.00	0.96	0.38	
198号ピット	A20B15	1溝	楕円形	1.35	1.01	0.49	縄文中期土器片
199号ピット	A20B15（11竪内）	11竪	楕円形	1.26	1.18	0.52	
200号ピット	A16B12		不整楕円形	0.69	0.58	0.44	
201号ピット	A16B12		楕円形	0.98	0.88	0.40	凹石
202号ピット	A17B13		楕円形	0.72	0.63	0.41	縄文中期土器片
203号ピット	A16B13		楕円形	0.92	0.65	0.39	
204号ピット	A17B12		円形	0.65	0.64	0.32	
205号ピット	A17B12		円形	0.38	0.37	0.31	
206号ピット	A17B13		楕円形	0.51	0.42	0.36	
207号ピット	A16B14		楕円形	0.55	0.40	0.39	
208号ピット	A16B14		楕円形	0.48	0.37	0.27	
209号ピット	A16B15		楕円形	0.62	0.49	0.25	
210号ピット	A17B15		楕円形	0.76	0.60	0.27	
211号ピット	A17B15		円形	0.76	0.66	0.42	縄文中期土器片
212号ピット	A15B12	213・265ピット	長方形	1.36	0.85	0.34	縄文中期土器片
213号ピット	A15B12	212・265ピット	楕円形	0.92	0.83	0.17	縄文中期浅鉢形土器
214号ピット	A16B12		楕円形	0.77	0.65	0.25	
215号ピット	A16B14		楕円形	1.09	0.85	0.26	縄文土器片
216号ピット	A17B14	217・247ピット	楕円形	[1.55]	1.14	0.56	縄文中期土器片
217号ピット	A17B14	218ピット	楕円形	1.14	0.99	0.37	
218号ピット	A17B14・15	217・229ピット	楕円形	1.66	1.33	0.52	縄文中期土器片
219号ピット	A16B14	220ピット	楕円形	1.19	1.15	0.63	
220号ピット	A16・17B14	219・221・246ピット	長方形	[1.27]	[1.07]	0.69	
221号ピット	A17B14	220・246ピット	楕円形	[0.90]	[0.70]	0.51	
222号ピット	A15・16B15		不整楕円形	0.81	0.67	0.25	
223号ピット	A18B13		円形	0.46	0.42	0.44	
224号ピット	A18B13		円形	0.73	0.68	0.35	
225号ピット	A17B13	257ピット	円形	0.44	0.41	0.32	
226号ピット	A20・21B14		楕円形	1.15	0.97	0.51	縄文中期土器片
227号ピット	A18B12	228ピット	楕円形	0.54	0.52	0.32	
228号ピット	A18B12	227ピット	楕円形	[0.93]	0.62	0.36	

表3-（4） ピット一覧表

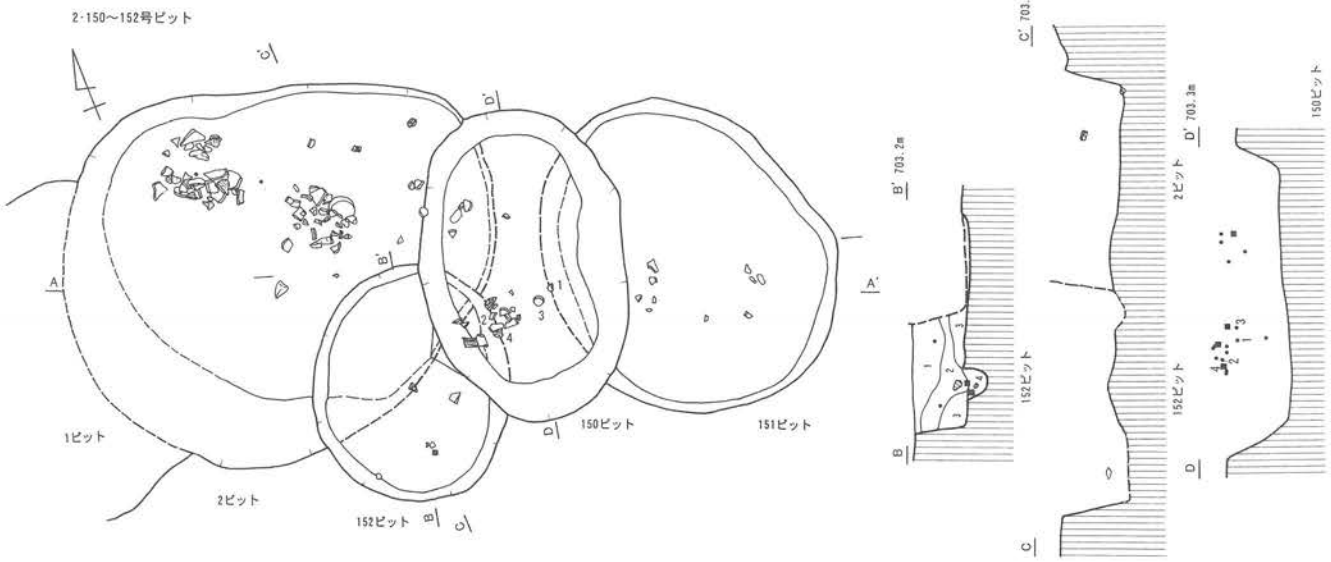
※数値における（ ）＝現存値／［ ］＝推定値を示す

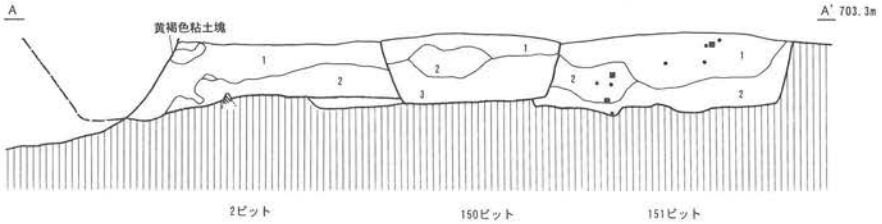
ピット名	位置（Grid）	重　複	形　状	長　軸　m	短　軸　m	深　さ　m	出土遺物／備　考
229号ピット	A17B15	218ピット	楕円形	1.66	1.32	0.39	打製石斧
230号ピット	A15B14		円形	0.30	0.28	0.18	
231号ピット	A15B14		楕円形	0.83	0.55	0.20	
232号ピット	A15B14		楕円形	[0.59]	0.34	0.21	
233号ピット	A15B14		円形	0.41	0.39	0.29	
234号ピット	A18B12		楕円形	0.61	0.75	0.29	
235号ピット	A17B12	2溝	楕円形	0.58	0.48	0.15	
236号ピット	A18B12		楕円形	0.54	0.42	0.30	
237号ピット	A18B12	4溝	円形	0.44	0.46	0.23	
238号ピット	A18B12		円形	0.52	0.48	0.30	
239号ピット	A18B12		楕円形	0.68	0.60	0.41	
240号ピット	A17B12	2溝	楕円形	0.33	0.25	0.17	
241号ピット	A17・18B13		楕円形	0.54	0.48	0.16	
242号ピット	A18B13		楕円形	0.42	0.30	0.27	
243号ピット	A18B13	3溝	楕円形	1.19	0.98	0.32	
244号ピット	A20B14		方形	0.67	0.65	0.33	
245号ピット	A16B11		円形	1.22	1.13	0.33	
246号ピット	A17B14	220・221・257ピット	長方形	[1.34]	[0.89]	0.45	縄文前期土器片
247号ピット	A17B14	216・257ピット	不整楕円形	1.49	1.35	0.34	縄文中期土器片、打製石斧
248号ピット	A16B11	249ピット、9溝	楕円形	1.50	1.22	0.44	
249号ピット	A16B11	248ピット、9溝	楕円形	(0.82)	0.85	0.43	縄文中期土器片
250号ピット	A16B11	5溝	楕円形	[1.82]	1.28	0.51	
251号ピット	A18B13	252・253・254ピット	楕円形	1.15	0.95	0.40	縄文中期土器片
252号ピット	A18B13・14	251ピット	円形	1.05	1.01	0.45	石鏃
253号ピット	A18・19B13	251・254ピット	楕円形	1.37	1.19	0.34	縄文中期土器片
254号ピット	A18・19B13	251・253ピット	楕円形	0.84	0.70	0.42	
255号ピット	A17B14	256・263・284ピット	楕円形	1.31	1.08	0.20	縄文前期・中期土器片、打製石斧
256号ピット	A17B14	255・284ピット	楕円形？	0.84	(0.41)	0.12	縄文中期土器片
257号ピット	A17B13・14	225・246・247・264ピット、2溝	楕円形	[3.63]	[3.27]	0.51	縄文中期浅鉢形土器、打製石斧、凹石
258号ピット	A18B15		楕円形	1.21	0.94	0.16	縄文中期土器片
259号ピット	A18B14	1溝	円形	1.01	0.92	0.17	
260号ピット	A18B15	282ピット	不整円形	1.32	1.08	0.36	縄文中期土器片、灰釉陶器片
261号ピット	A15・16B11	83ピット	楕円形	[1.65]	[1.03]	0.25	縄文土器片、小形鍔付土器片
262号ピット	A17・18B14	263・264ピット、2溝	不整円形	2.27	2.23	0.45	縄文中期土器片、打製石斧、小形打製石斧、石鏃、凹石
263号ピット	A17B14	262・265ピット、2溝	楕円形？	(0.76)	1.00	0.13	縄文前期土器片
264号ピット	A17・18B14	257・262ピット、2溝	長楕円形	1.92	1.28	0.46	縄文中期土器片、打製石斧
265号ピット	A15B12	212・213ピット	楕円形	[1.51]	[1.10]	0.27	縄文中期土器片
266号ピット	A15B12	84ピット	楕円形	0.55	0.50	0.30	
267号ピット	A16B12	268ピット	楕円形	0.59	0.41	0.26	
268号ピット	A16B11・12	267ピット	楕円形	[1.14]	0.65	0.31	
269号ピット	A15B12	7溝	楕円形	0.74	0.62	0.25	
270号ピット	A17・18B14		楕円形	0.75	0.62	0.40	
271号ピット	A14・15B11	7溝	円形	1.28	1.24	0.47	縄文後期土器片
272号ピット	A14B13・14	273ピット	楕円形	1.39	1.22	0.26	縄文中期土器片
273号ピット	A14・15B13・14	272・271ピット	楕円形	[1.57]	1.32	0.27	縄文中期土器片、打製石斧片
274号ピット	A14・15B14		円形	[0.87]	0.79	0.26	
275号ピット	A15B13	41竪	楕円形	0.77	0.64	0.34	
276号ピット	A14・15B13		楕円形	1.05	0.70	0.29	
277号ピット	A14B13		楕円形	0.88	0.72	0.72	縄文中期土器片
278号ピット	A14B14		楕円形	0.67	0.51	0.40	縄文中期土器片
279号ピット	A16B13		楕円形	a　0.58	0.56	0.28	
			楕円形	b　(0.63)	0.70	0.20	
280号ピット	A18B14	281ピット	方形	1.91	1.69	0.24	縄文中期土器片
281号ピット	A18B14	280・282ピット	長方形	[1.73]	[1.54]	0.22	
282号ピット	A18B14・15	260・281ピット	楕円形	2.74	2.38	0.26	縄文中期土器片、打製石斧、剥片石器
283号ピット	A18B15		楕円形	1.27	1.10	0.27	
284号ピット	A17B14・15		楕円形	1.87	[1.50]	0.40	縄文前・中期土器片
285号ピット	A20・21B6		円形	0.84	0.74	0.32	縄文中期土器片
286号ピット	A20B7		楕円形	0.79	0.73	0.26	
287号ピット	A20B7		円形	1.13	1.11	0.38	
288号ピット	A21B7	289ピット	楕円形	1.41	1.21	0.53	縄文前・中期土器片、打製石斧、砥石
289号ピット	A21B7	288・290ピット	円形	1.49	[1.40]	0.48	縄文中期土器片、凹石
290号ピット	A20B7	289・291ピット	楕円形	0.83	[0.71]	0.29	
291号ピット	A20B7	290ピット	楕円形	0.58	0.50	0.29	
292号ピット	A21B6・7		円形	0.69	0.66	0.30	
293号ピット	A22B13		楕円形	1.09	0.78	0.30	縄文中期土器片





［1号ピット 土層説明］
1　褐色土10YR4/4
　粘性・しまり弱、3mm大ローム粒やや少、3mm大炭化物粒やや多、灰色粘土塊
2　にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
　粘性・しまり強、5mm大ロームブロックやや多、5mm大炭化物粒多、灰色粘土塊
3　にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
　粘性・しまりやや弱、5mm大ロームブロックやや多、5mm大炭化物粒多
4　にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
　粘性・しまりやや弱、1～5mm大炭化物粒やや多、5mm大焼土粒少
5　にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
　粘性・しまりやや弱、1～5mm大ロームブロック、5mm大炭化物粒少
6　にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
　粘性・しまりやや弱、1～5mm大炭化物粒やや多、5mm大焼土粒少、灰色粘土塊
7　褐色土10YR4/4　粘性・しまりやや有、ロームブロック、灰色粘土塊、小礫





［2号ピット 土層説明］
1　褐色砂質土10YR4/4　粘性・しまりやや弱
　5～10mm大ロームブロック、炭化物粒やや多
2　黄褐色砂質土10YR5/6
　粘性やや弱・しまり有、ローム粒多、炭化物粒

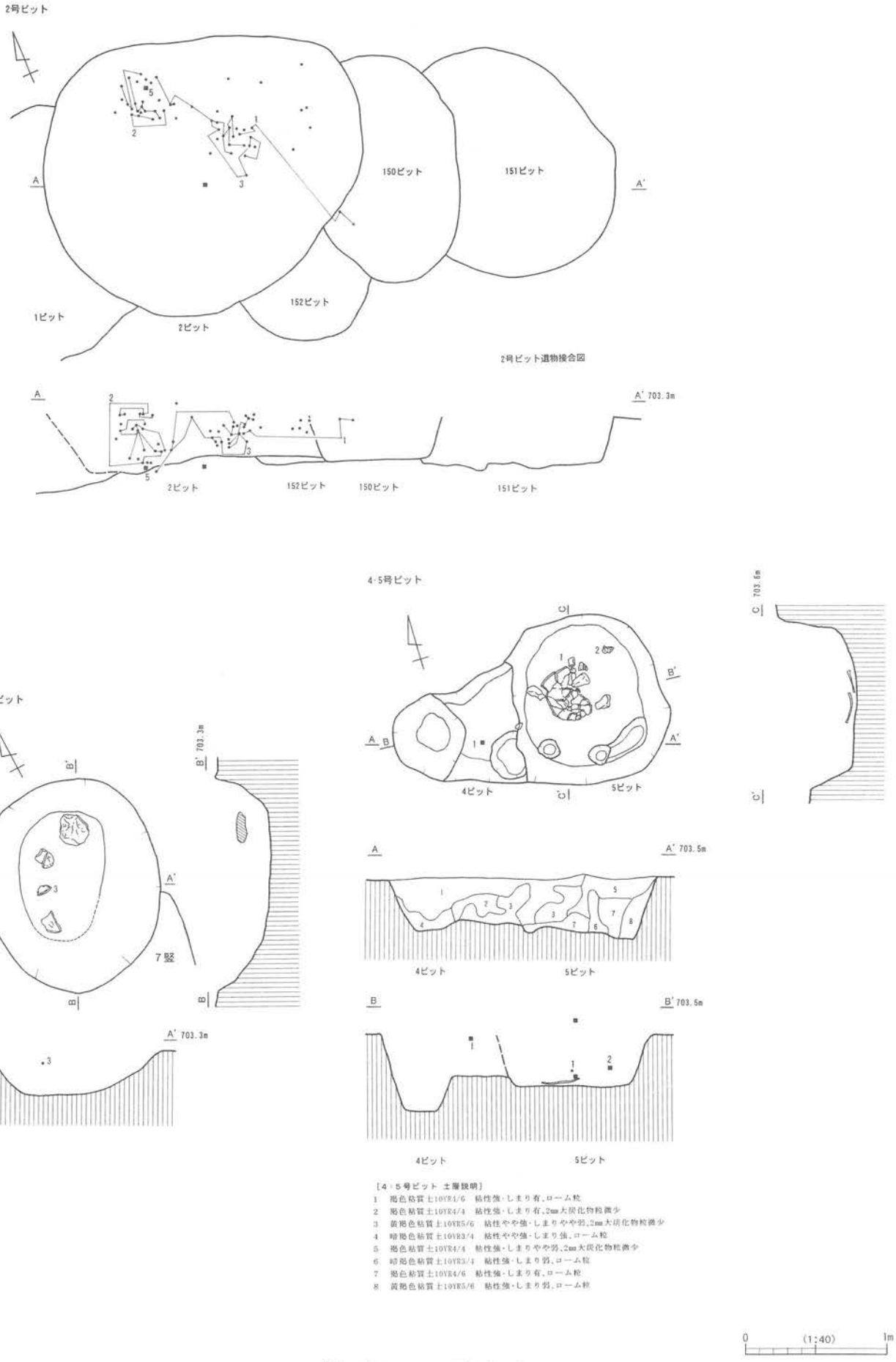
［150号ピット 土層説明］
1　褐色砂質土10YR4/4　粘性やや弱・しまり有、1cm大ロームブロック少、ローム粒、炭化物粒
2　にぶい黄褐色砂質土10YR4/3　粘性やや弱・しまり有、ローム粒多、炭化物粒
3　にぶい黄褐色砂質土10YR5/4　粘性やや弱・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒

［151号ピット 土層説明］
1　褐色砂質土10YR4/4　粘性・しまり有、3～10mm大ロームブロック多、炭化物粒
2　にぶい黄褐色砂質土10YR4/3　粘性・しまり有、10mm大ロームブロック、炭化物粒、焼土粒少
3　にぶい黄褐色砂質土10YR5/3　粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック、ローム粒多、炭化物粒

［152号ピット 土層説明］
1　褐色砂質土10YR4/4　粘性やや弱・しまり有、ローム粒多、炭化物粒
2　にぶい黄褐色砂質土10YR5/4　粘性やや弱・しまり有、2～5mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒、焼土粒
3　黄褐色砂質土10YR5/6　粘性やや弱・しまり有、5mm大ロームブロック多、ローム粒
4　にぶい黄褐色砂質土10YR4/3　粘性やや弱・しまり有、2～5mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒少

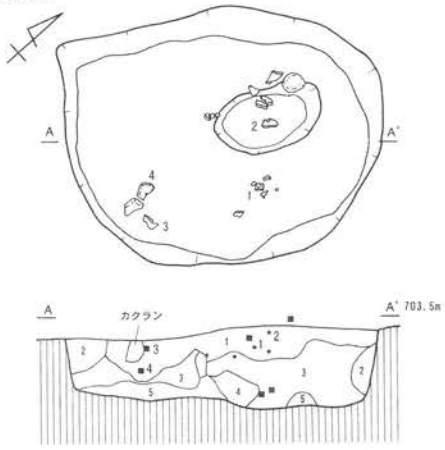
0　(1:40)　1m

第164図　1・2・150～152号ピット



第165図　2～4号ピット

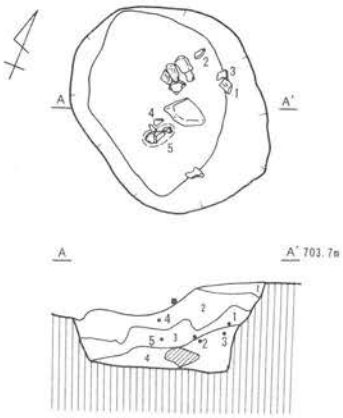
6号ピット



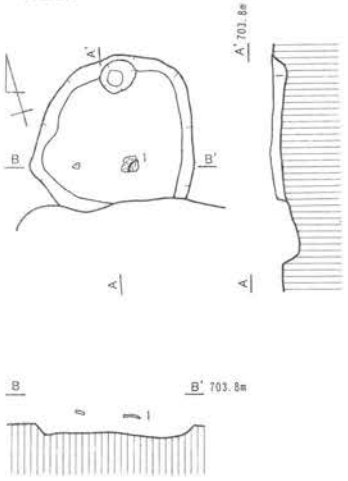
［6号ピット 土層説明］
1　にぶい黄褐色砂質土10YR5/3
　粘性やや弱・しまり有、ローム粒多、炭化物粒
2　にぶい黄褐色砂質土10YR5/3
　粘性・しまり有、ローム粒多、炭化物粒少
3　にぶい黄褐色砂質土10YR5/4
　粘性・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒多、炭化物粒少
4　にぶい黄褐色砂質土10YR5/4
　粘性・しまり有、2cm大ロームブロック、炭化物粒
5　黄褐色粘質土10YR5/6　粘性・しまり有、2～4cm大ロームブロック主体

［7号ピット 土層説明］
1　にぶい黄褐色砂質土10YR4/3　粘性弱・しまりやや弱、ローム粒多
2　にぶい黄褐色砂質土10YR5/4　粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒
3　にぶい黄褐色砂質土10YR5/3　粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒多
4　にぶい黄褐色砂質土10YR5/4
　粘性・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒多、炭化物粒

7号ピット

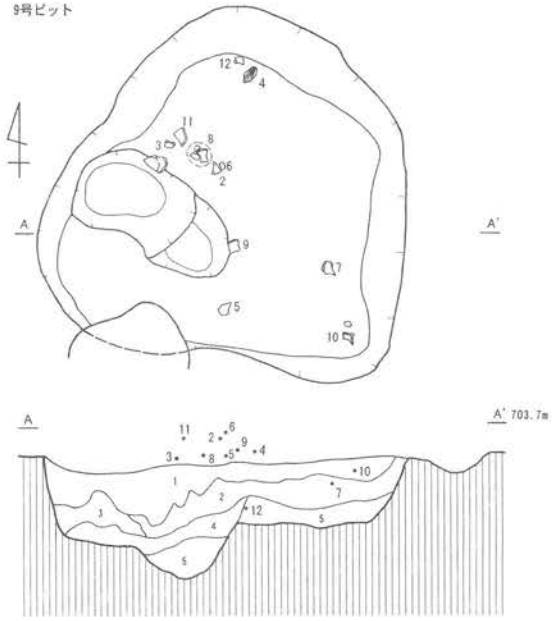


8号ピット



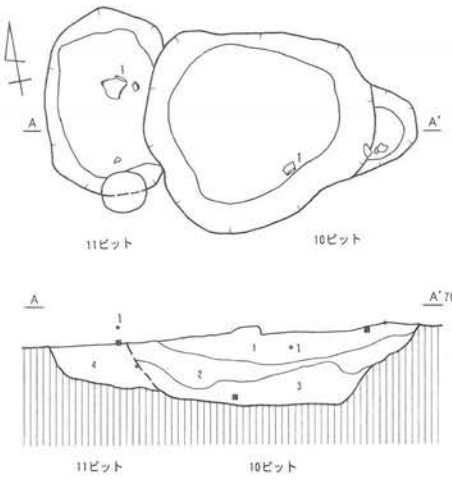
［8号ピット 土層説明］
1　灰黄褐色砂質土10YR4/2　粘性・しまり弱、ローム粒多

9号ピット



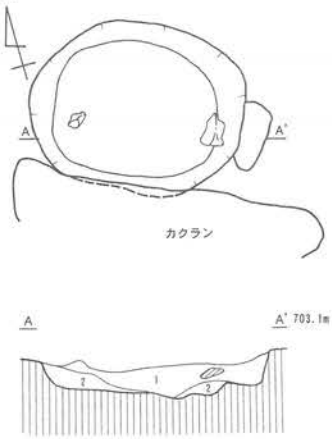
［9号ピット 土層説明］
1　にぶい黄褐色砂質土10YR5/4　粘性・しまり有、ローム粒多、炭化物粒
2　にぶい黄褐色粘質土10YR5/3　粘性・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒多、炭化物粒
3　灰黄褐色粘質土10YR5/2　粘性・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒多、炭化物粒
4　にぶい黄褐色粘質土10YR5/3　粘性・しまり有、1～2cm大ロームブロック多、ローム粒多、炭化物粒少
5　黄褐色粘質土10YR5/6　粘性・しまり有、2～5cm大ロームブロック主体、炭化物粒少

10·11号ピット



［10·11号ピット 土層説明］
1　暗褐色砂質土10YR3/3　粘性・しまりやや弱、3～5mm大ロームブロック多、黄褐色土
2　黄褐色粘質土10YR5/6　粘性・しまり有、5～10cm大ロームブロック少、ローム粒多、炭化物粒
3　にぶい黄褐色粘質土10YR5/4　粘性・しまり有、2～3cm大ロームブロック、ローム粒多、炭化物粒
4　褐色粘質土10YR4/6　粘性・しまり有、2～3cm大ロームブロック、ローム粒多、炭化物粒

12号ピット

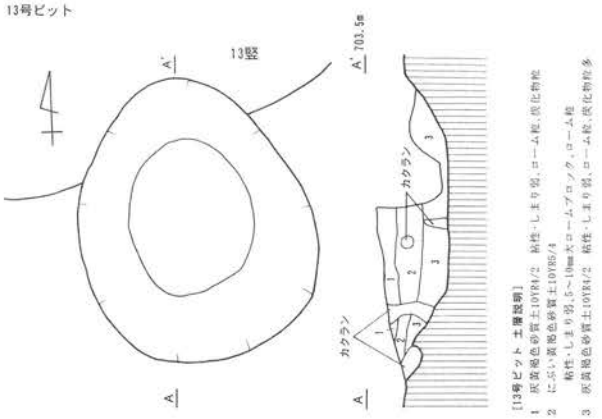


［12号ピット 土層説明］
1　黒褐色土10YR3/1
　粘性・しまりやや有、ローム粒多、2mm大炭化物粒やや多、2mm大焼土粒少
2　褐灰色土10YR4/1　粘性・しまり有、ローム粒多、2mm大焼土粒少

0　(1:40)　1m

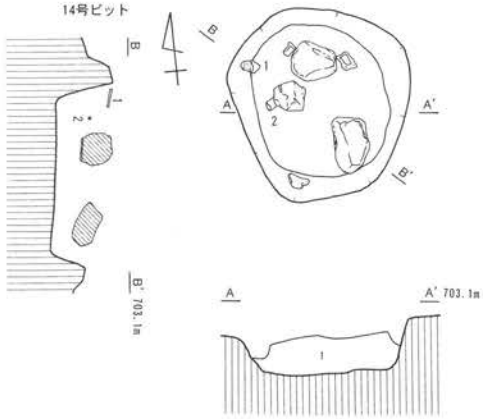
第166図　6～12号ピット

13号ピット



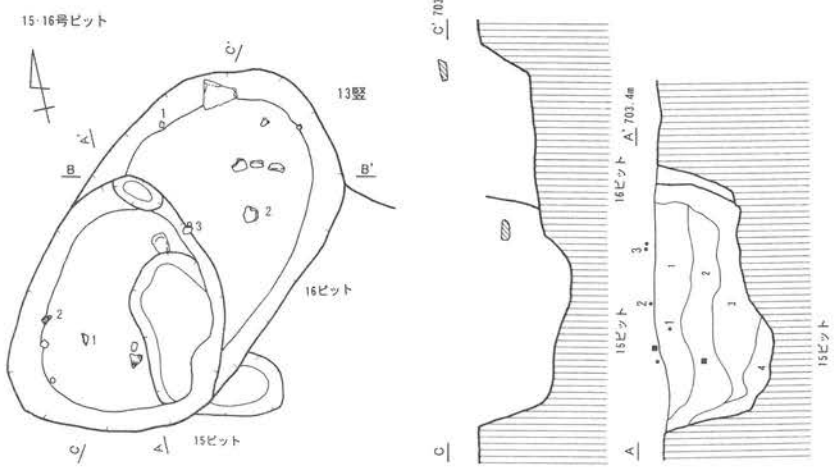
[13号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 粘性・しまり弱、ローム粒、炭化物粒
2 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4
粘性・しまり弱、5～10mm大ローム・ブロック、ローム粒
3 灰黄褐色砂質土10YR4/2 粘性・しまり弱、ローム粒、炭化物粒多

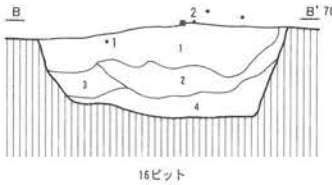
14号ピット



[14号ピット 土層説明]
1 暗褐色土10YR3/3
粘性・しまりやや有、5mm大ローム粒少、1～2mm大炭化物粒微少、小礫

15・16号ピット



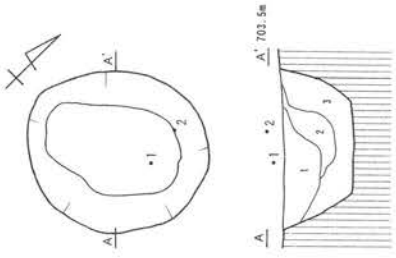


16ピット

[15号ピット 土層説明]
1 灰褐色粘質土10YR4/2 粘性強・しまり弱、ローム粒
2 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
粘性強・しまり弱、3～5cm大ロームブロック
3 暗褐色粘質土10YR3/3 粘性強・しまり弱、ローム粒
4 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性強・しまり有、ローム粒

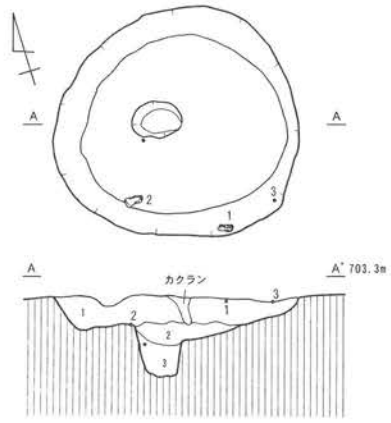
[16号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4
粘性強・しまり弱、2～3mm大炭化物粒微少
2 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性強・しまり弱、ローム粒
3 にぶい黄褐色粘質土10YR5/3
粘性強・しまり弱、2～3cm大ロームブロック
4 黄褐色粘質土10YR5/8 粘性強・しまり有、ローム粒

17号ピット



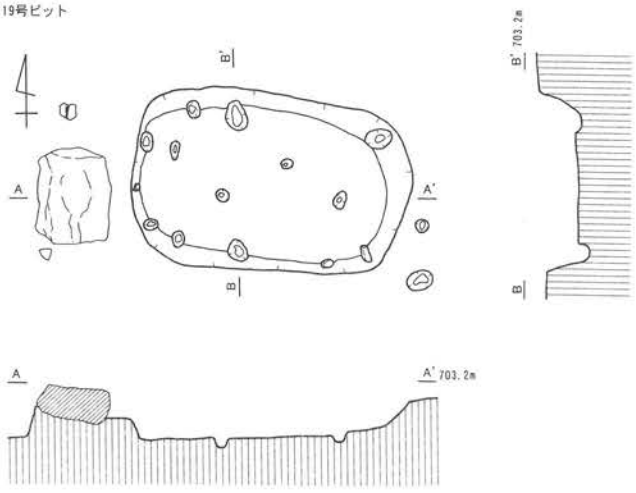
[17号ピット 土層説明]
1 灰褐色粘質土10YR4/2 粘性強・しまり弱、ローム粒
2 灰褐色粘質土10YR4/2
粘性強・しまり弱、1～3cm大ロームブロック
3 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
粘性強・しまり弱、1～3cm大ロームブロック、ローム粒

18号ピット



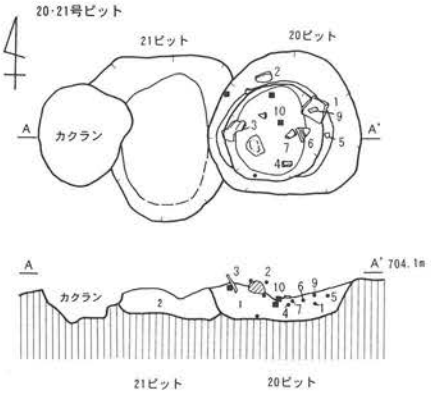
[18号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、ローム粒やや少、炭化物粒、焼土粒少
2 黒褐色土10YR3/3 粘性・しまりやや有、ロームブロック
3 黒褐色土10YR3/3 粘性・しまりやや有、ロームブロックやや多

19号ピット

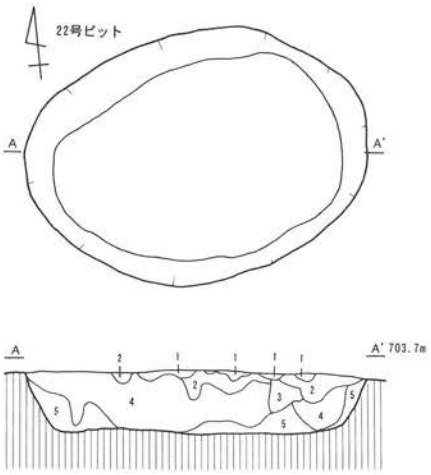


0 (1:40) 1m

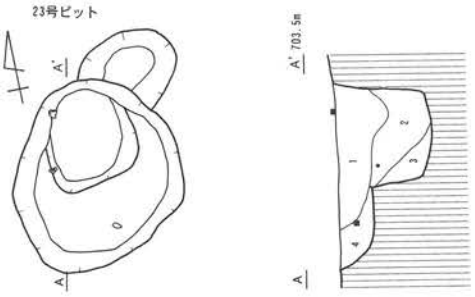
第167図　13～19号ピット



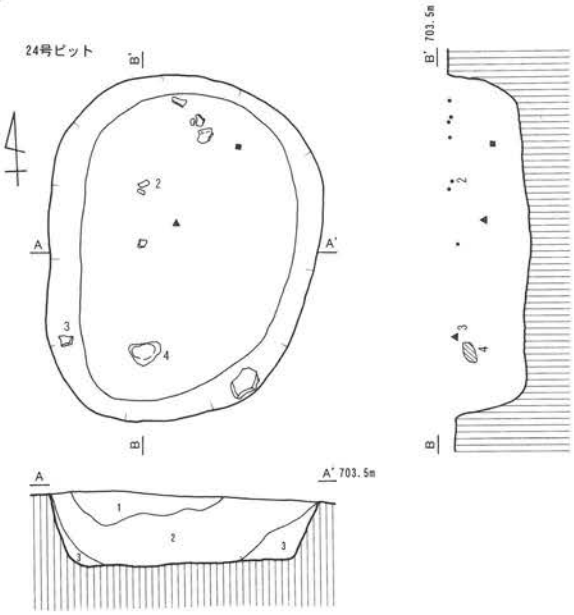
[20・21号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/2
粘性・しまりやや有、ロームブロック、炭化物粒やや多
2 にぶい黄褐色土10YR5/3
粘性・しまり有、ローム主体、炭化物粒少



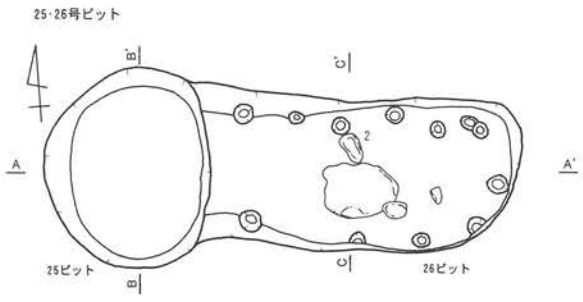
[22号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/1 粘性弱・しまり有、ローム粒
2 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性弱・しまり有、焼土粒やや多
3 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性弱・しまり有、2～3mm大焼土粒
4 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性弱・しまり有、ローム粒
5 明黄褐色土10YR6/6 粘性弱・しまり有、ローム粒

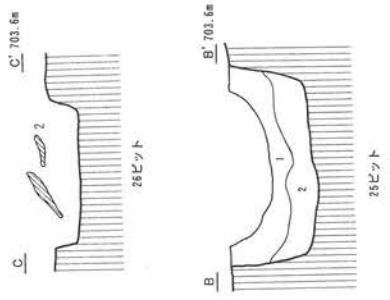


[23号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性有・しまり弱、ローム粒
2 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
粘性有・しまり弱、ローム粒、5mm大炭化物粒少
3 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性有・しまり弱、ローム粒
4 にぶい黄褐色粘質土10YR5/3 粘性・しまり有、ローム粒

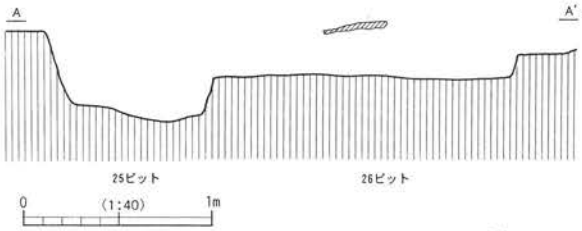


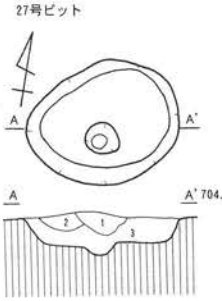
[24号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有、ローム粒
2 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、ローム粒
3 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有、ローム粒





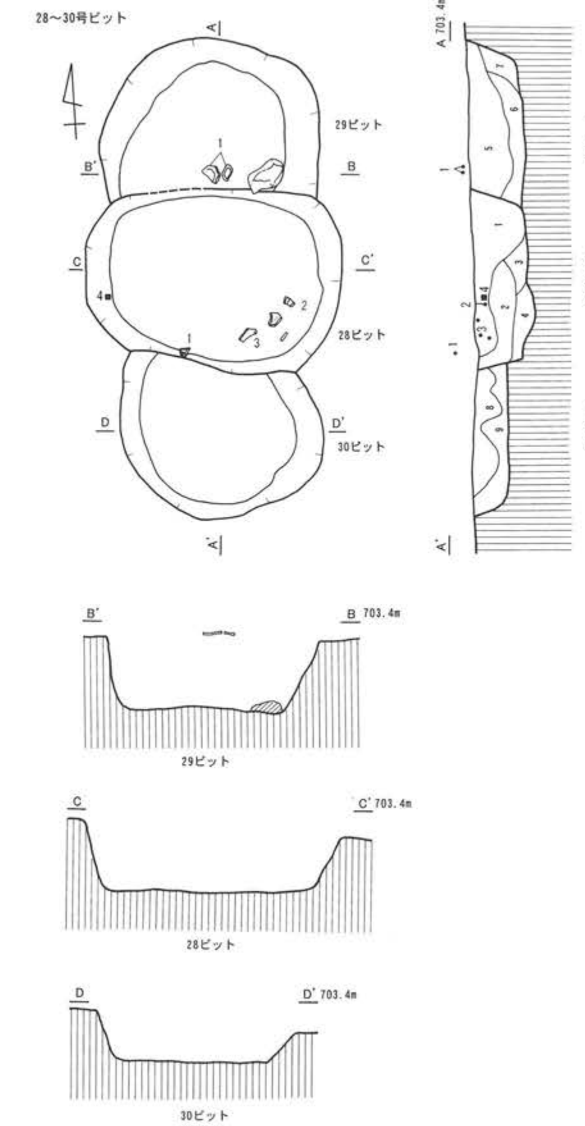
[25号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色粘質土10YR5/3 粘性・しまり有
5～10mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒少
2 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有
1～3cm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒少



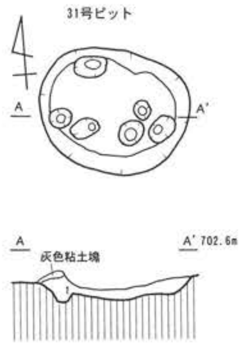


[27号ピット 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/4
粘性・しまり有、2～3mm大ロームブロック多、ローム粒
2 明黄褐色粘質土10YR6/6
粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック、ローム粒
3 明黄褐色粘質土10YR6/8 粘性・しまり有、ローム粒、スコリア粒

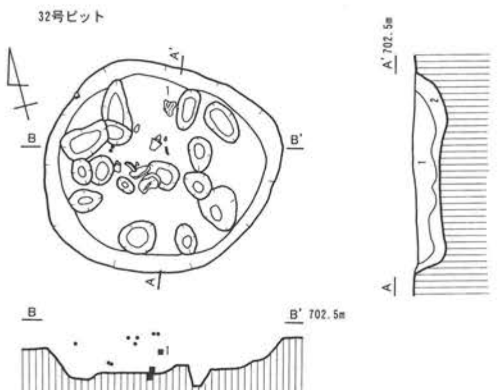
第168図 20～27号ピット



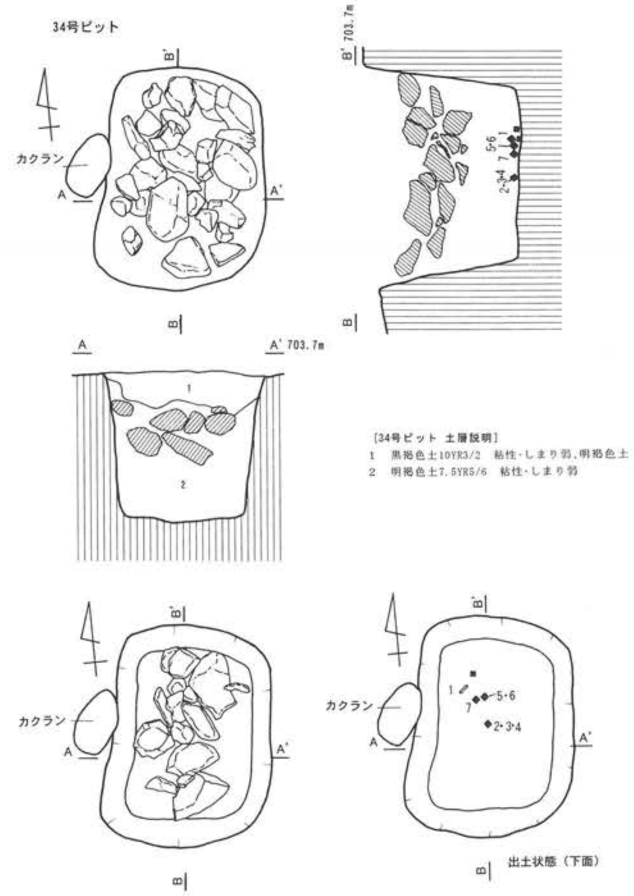
[28～30号ピット 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒
2 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒
3 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有、ローム粒多、炭化物粒少
4 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック、焼土粒少
5 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、ローム粒多、炭化物粒
6 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有、ローム粒多
7 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒
8 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有、2～3mm大ロームブロック、ローム粒多、炭化物粒
9 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック、ローム粒多、炭化物粒



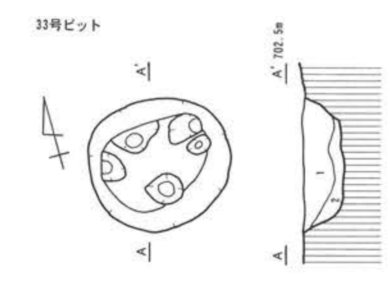
[31号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR5/1 粘性・しまりやや有、5mm大ロームブロック少、2～3mm大炭化物粒やや多



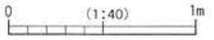
[32号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有、2mm大炭化物粒、5mm大灰色粘土塊、酸化鉄斑
2 褐灰色土10YR5/1 粘性・しまりやや有、灰色粘土塊、黒色土、酸化鉄斑



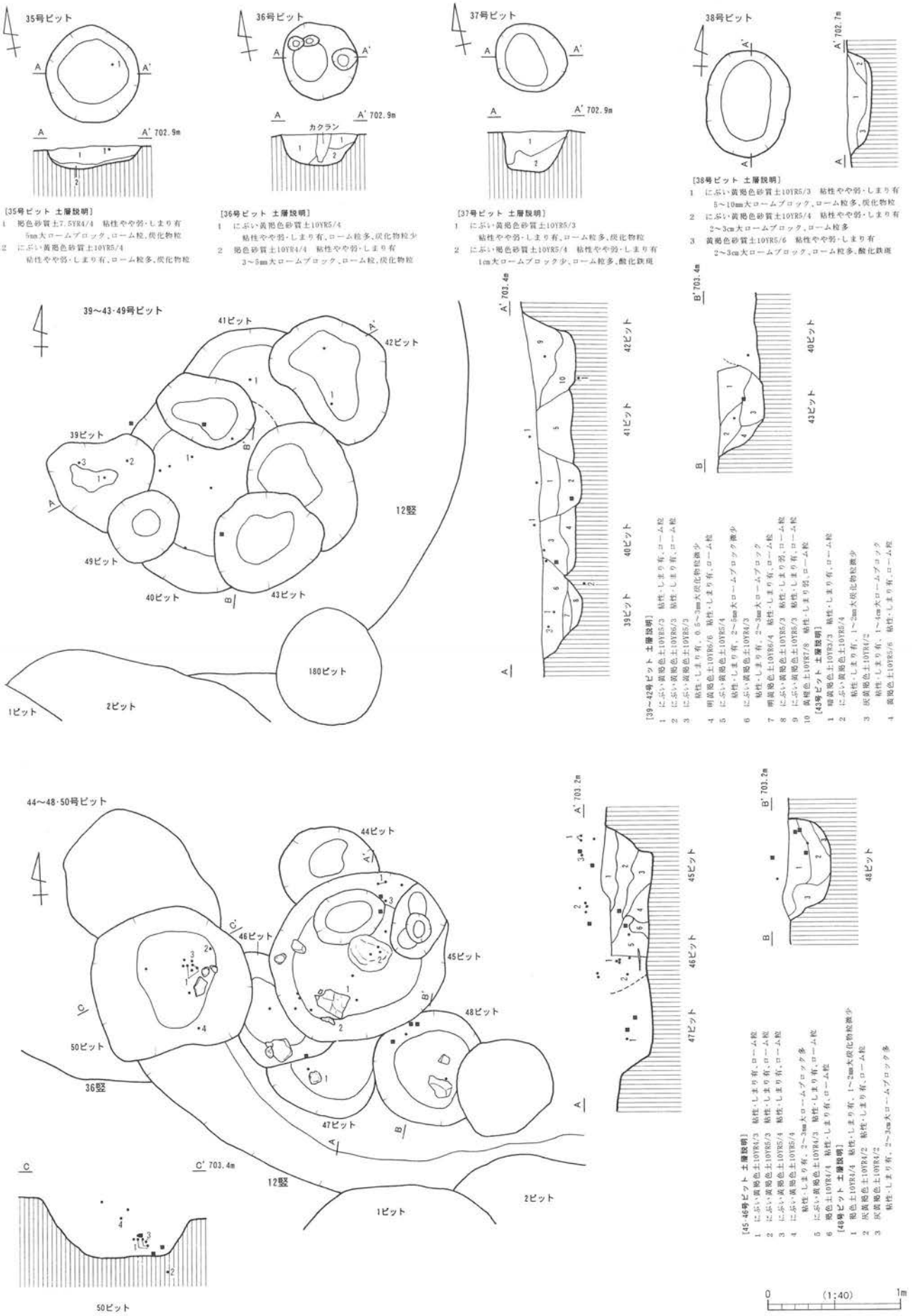
[34号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまり弱、明褐色土
2 明褐色土7.5YR5/6 粘性・しまり弱



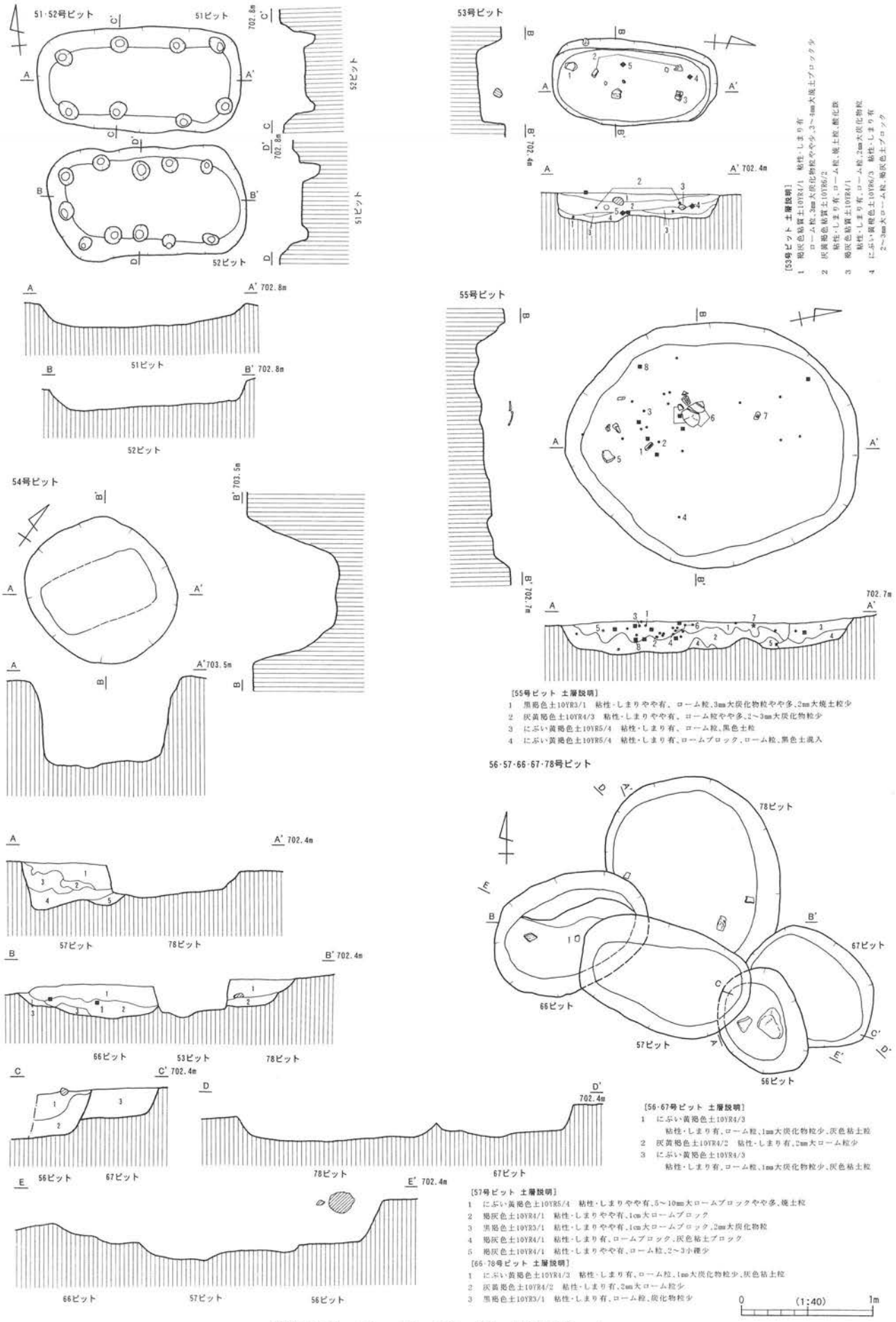
[33号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、5mm大ロームブロック、黒色土、酸化鉄
2 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有、黄褐色土粘土塊



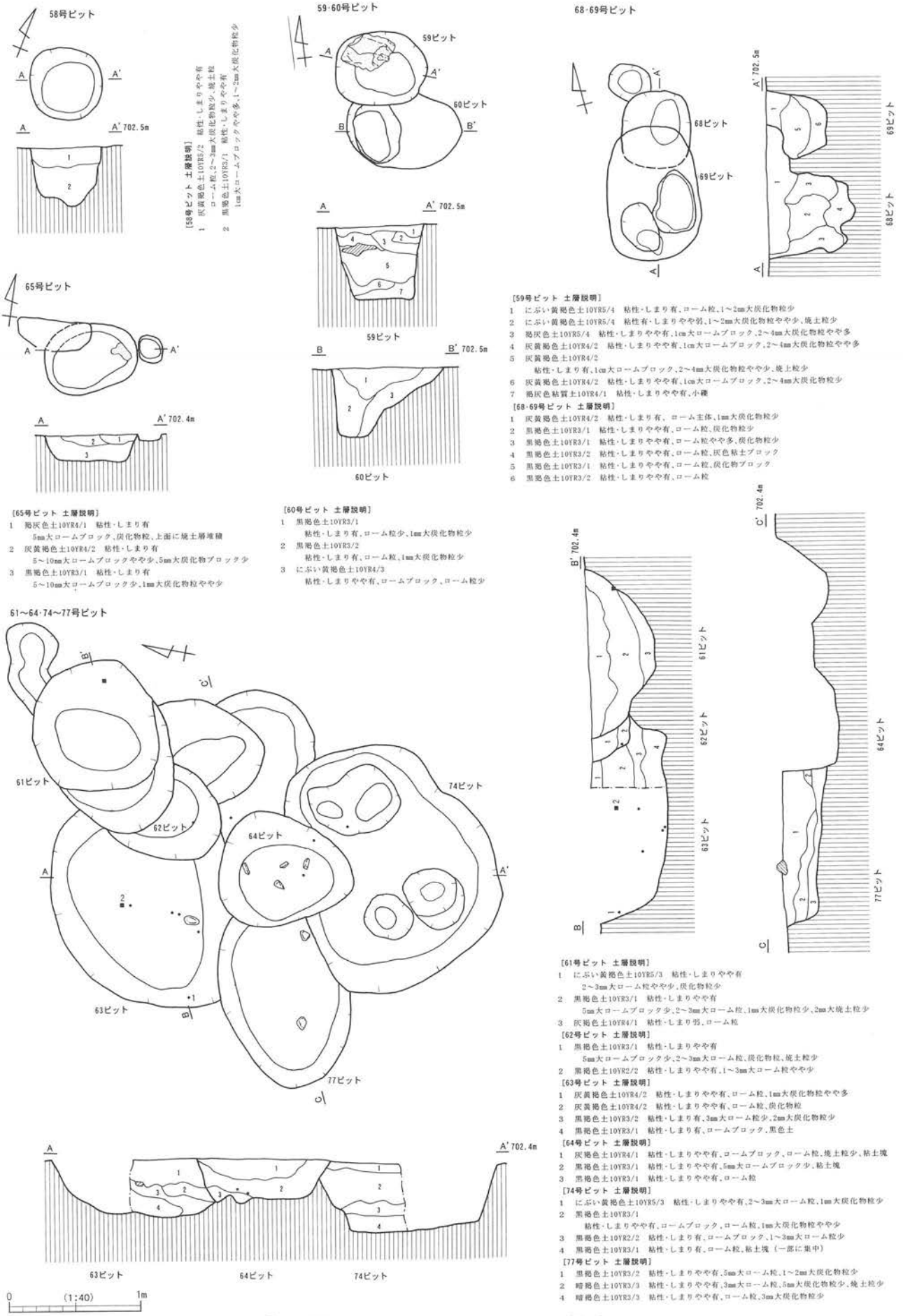
第169図 28～34号ピット



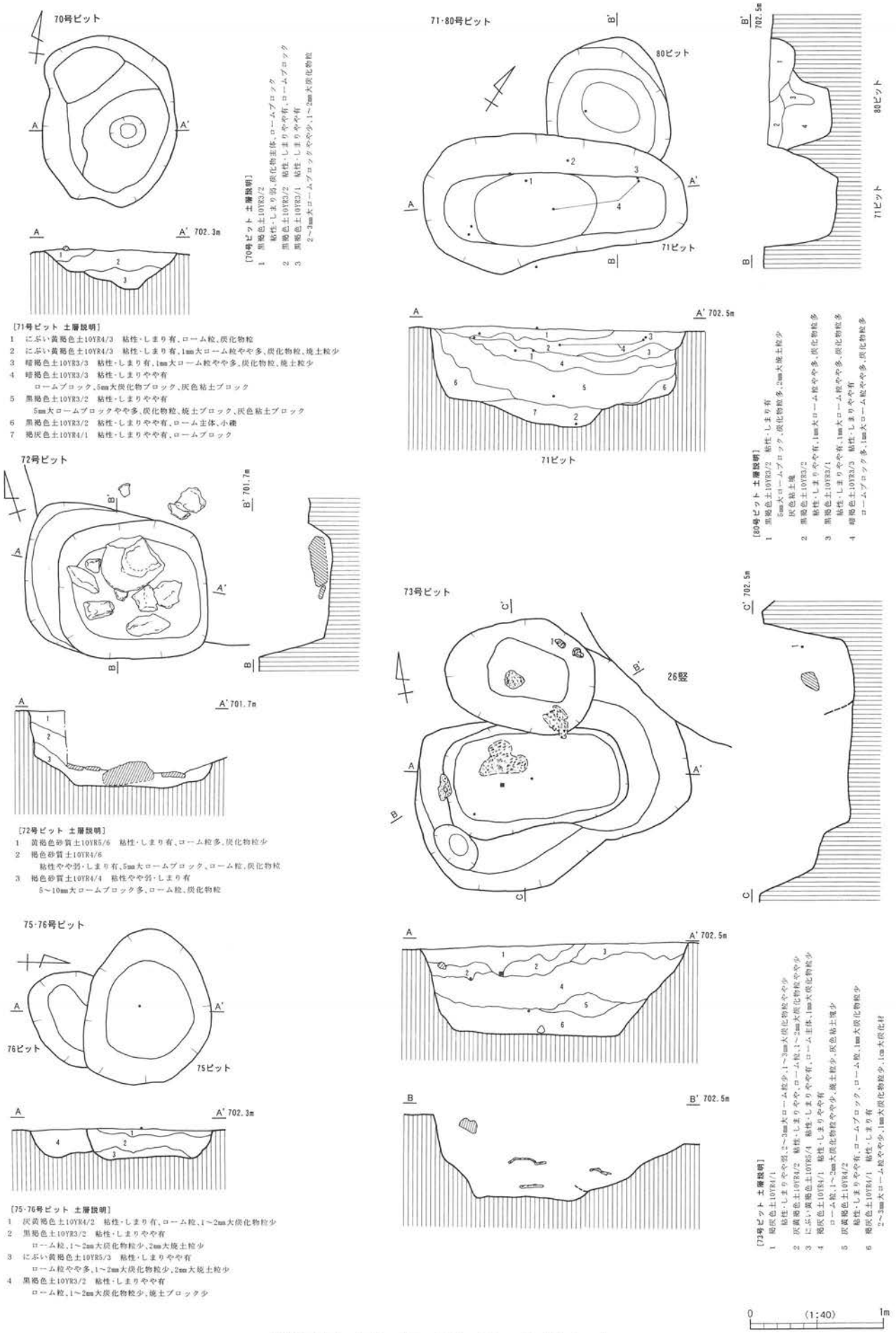
第170図　35~50号ピット



第171図　51～57・66・67・78号ピット

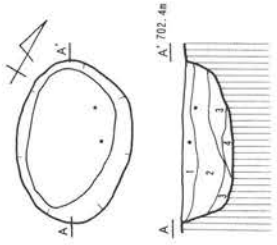


第172図　58～65・68・69・74・77号ピット



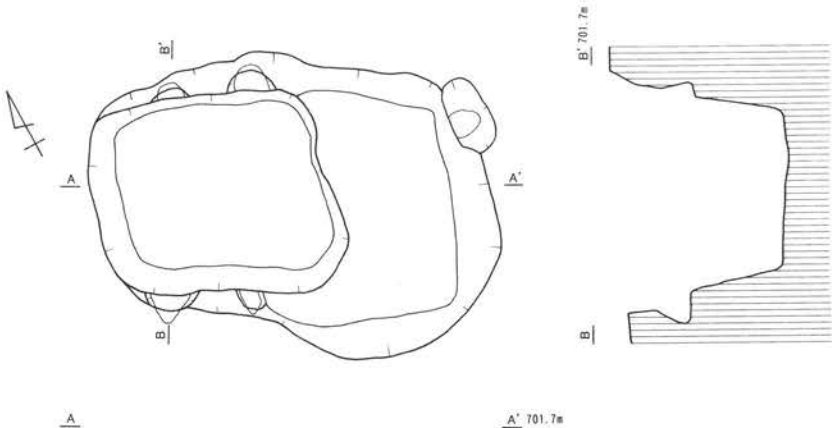
第173図　70～73・75・76・80号ピット

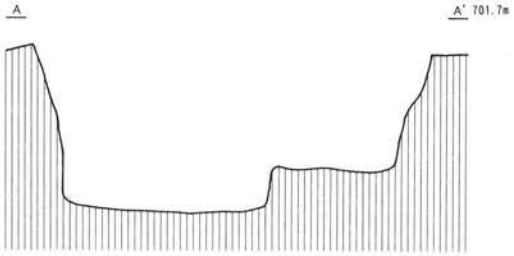
79号ピット



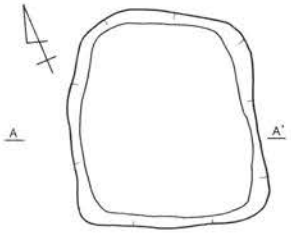
〔79号ピット 土層説明〕
1　にぶい黄褐色土10YR4/3　粘性・しまりやや有、1mm大ローム粒
2　暗褐色土10YR3/3　粘性・しまりやや有
　　1mm大炭化物粒少、1cm大灰色粘土塊やや多
3　黒褐色土10YR3/1　粘性・しまりやや有
　　1mm大炭化物粒少、1cm大灰色粘土塊やや多
4　黒褐色土10YR3/1　粘性・しまりやや有、灰色粘土塊

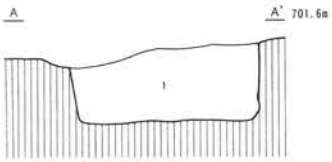
81号ピット





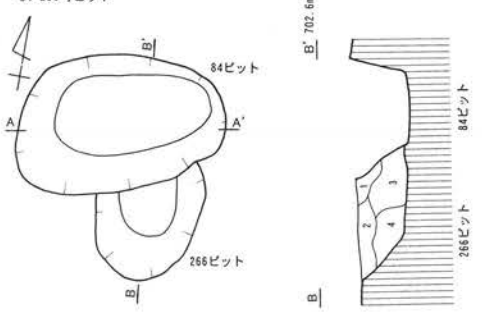
82号ピット



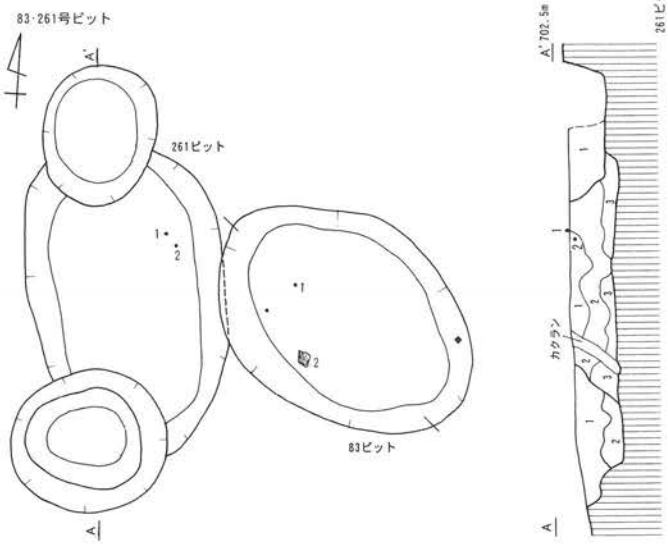


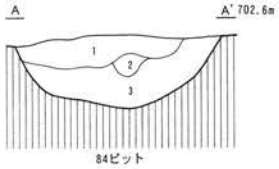
〔82号ピット 土層説明〕
1　黄褐色砂質土10YR5/6　粘性・しまり弱
　　5～10mm大ロームブロック多

84・266号ピット

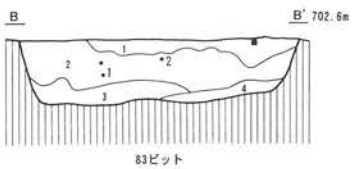


83・261号ピット





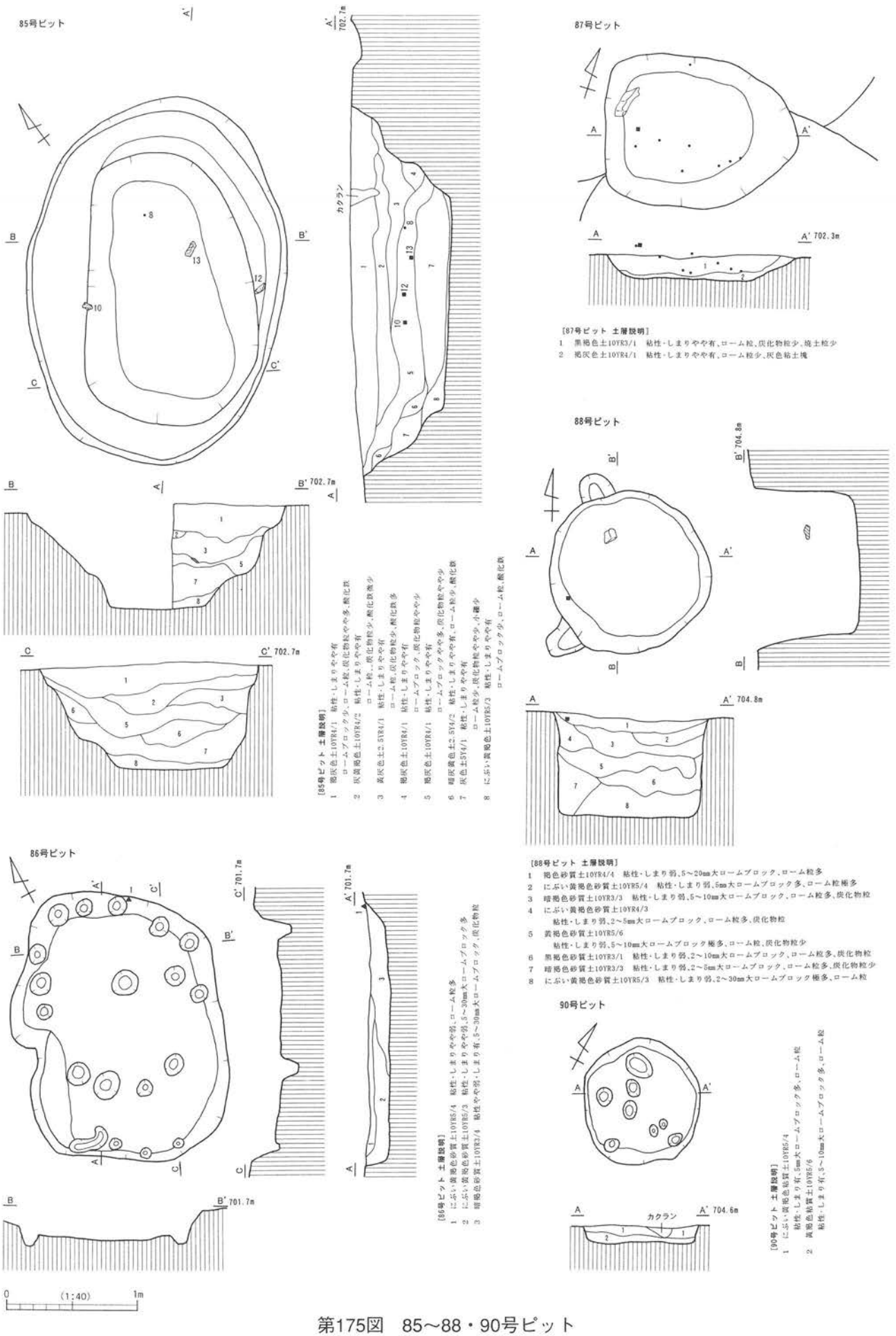
〔84・266号ピット 土層説明〕
1　黒褐色土10YR2/3　粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒
2　黒褐色土ブロック層
3　黒褐色土10YR3/1　粘性・しまりやや有、ローム粒、白色粒やや多、小礫
4　褐灰色土10YR4/1
　　粘性・しまりやや有、ロームブロック、ローム粒、炭化物粒やや少、小礫
5　褐灰色土10YR4/1　粘性・しまりやや有
　　ロームブロック少、ローム粒、炭化物粒少、焼土粒
6　灰黄褐色土10YR5/2　粘性・しまりやや有、ロームブロック、灰色粘土塊、小礫



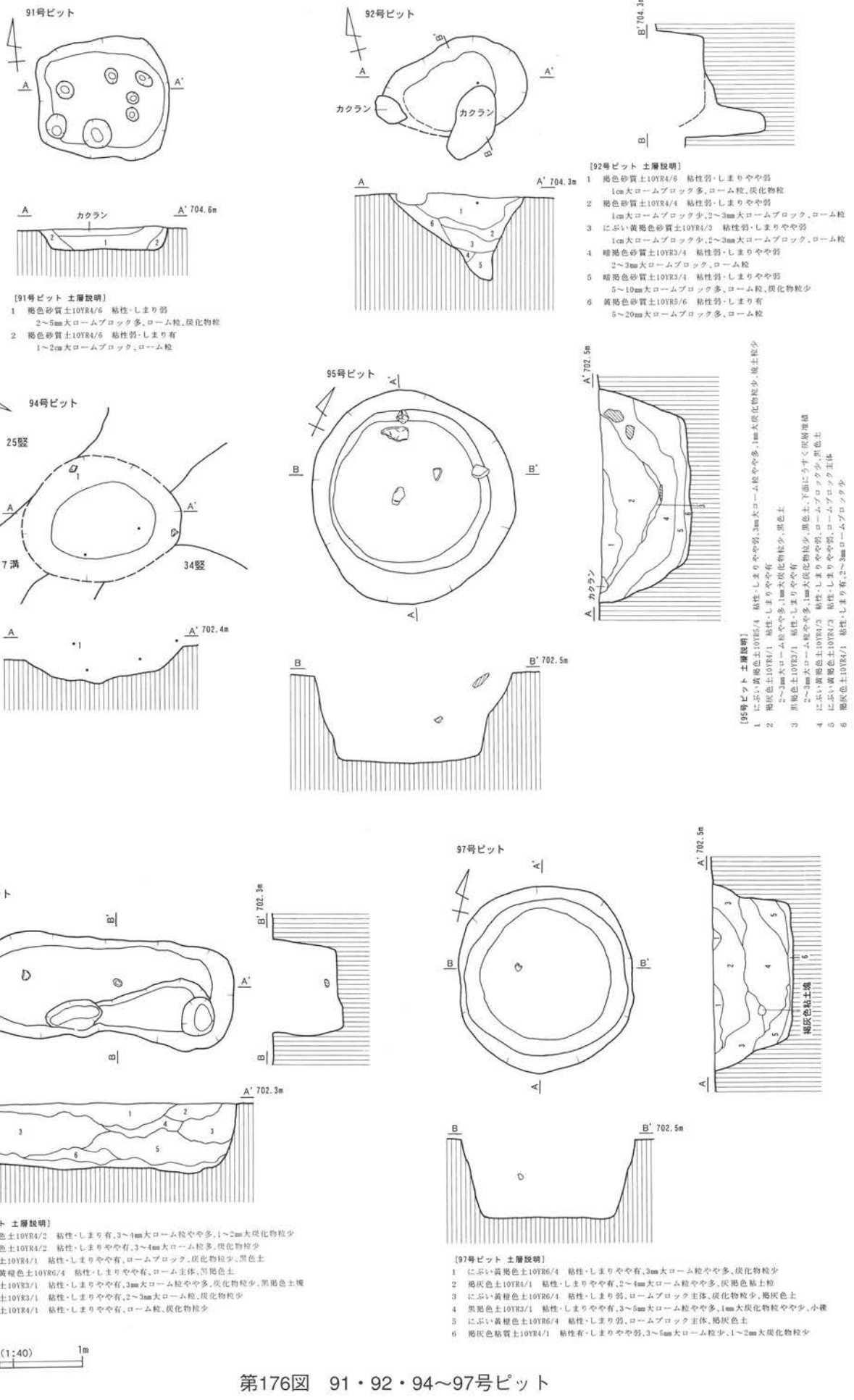
〔83号ピット 土層説明〕
1　黒褐色土10YR2/3　粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒
2　黒褐色土10YR3/1　粘性・しまりやや有、ローム粒、白色粒やや多、小礫
3　黒褐色土10YR3/1　粘性・しまりやや有、ロームブロックやや多、ローム粒
4　暗褐色土10YR3/3　粘性・しまりやや有、1cm大ロームブロック少
〔261号ピット 土層説明〕
1　黒褐色土10YR3/2　粘性・しまりやや有
　　ローム粒、1～2mm大炭化物粒やや少、1～2mm大焼土粒少、小礫
2　にぶい黄褐色土10YR4/3
　　粘性・しまりやや有、ローム粒やや多、炭化物粒少、小礫
3　にぶい黄褐色土10YR5/4　粘性・しまりやや有、ローム主体、小礫

0　(1:40)　1m

第174図　79・81～84・261・266号ピット

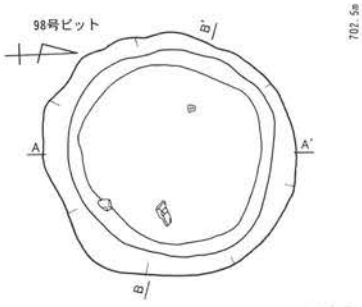


第175図　85～88・90号ピット



第176図　91・92・94～97号ピット

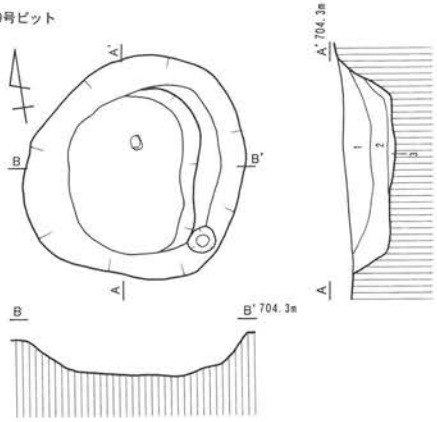
98号ピット



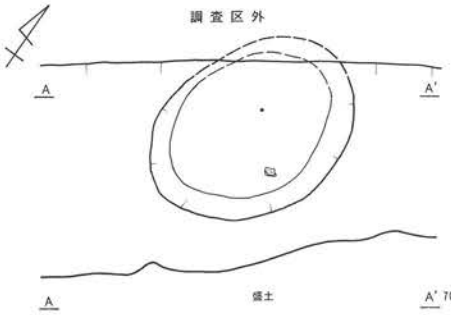
[98号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまりやや有
ロームブロック、炭化物粒少、褐灰色土
2 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有
ロームブロック少、2～3mm大ローム粒、1mm大炭化物粒少
3 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性・しまりやや有
1cm大ロームブロック少、1mm大炭化物粒少
4 褐灰色土10YR5/1 粘性・しまりやや有
2～3mm大ローム粒やや少、炭化物粒少、褐灰色粘土塊
5 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性・しまりやや有、ロームブロック主体

[99号ピット 土層説明]
1 暗褐色砂質土10YR3/4
粘性・しまり弱、1cm大ロームブロック
2 暗褐色砂質土10YR3/3
粘性・しまり弱、2～5cm大ロームブロック
3 黒褐色砂質土10YR3/1
粘性・しまり弱、1cm大ロームブロック

99号ピット



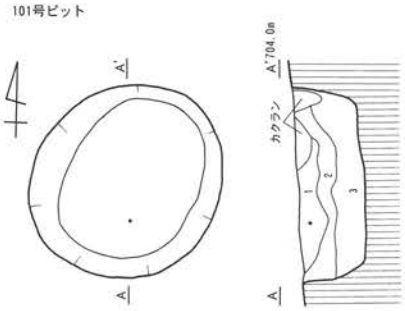
100号ピット

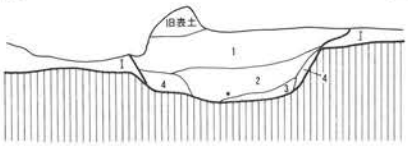


[100号ピット 土層説明]
1 褐色砂質土10YR4/4 粘性弱・しまり有
5～10mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
2 褐色砂質土10YR4/4 粘性弱・しまり有
1～5cm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
3 暗褐色砂質土10YR3/4 粘性・しまり弱、1cm大ロームブロック
4 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有、ローム粒多

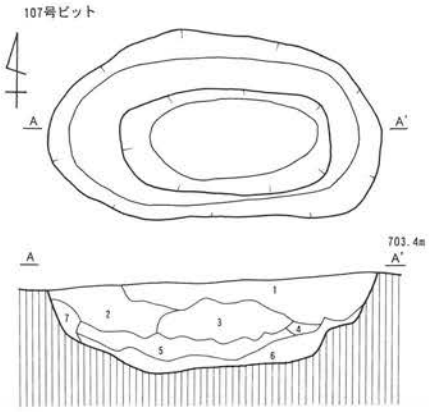
[101号ピット 土層説明]
1 褐色砂質土10YR4/4
粘性・しまりやや弱、5mm大ロームブロック
2 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4
粘性やや弱・しまり有、5～10mm大ロームブロック
3 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4
粘性やや弱・しまり有、1cm大ロームブロック

101号ピット



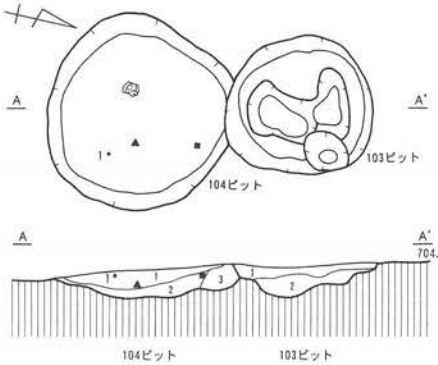


107号ピット



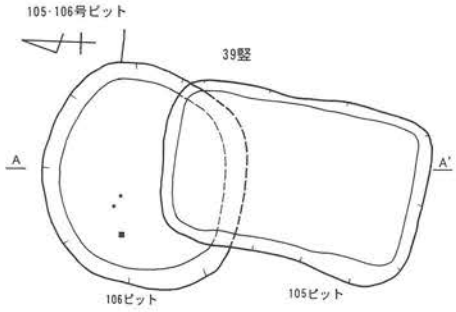
[107号ピット 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、ローム粒
2～3mm大焼土ブロック少
2 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有、ローム粒
炭化物粒少、2～3mm大焼土ブロックやや多、焼土粒
3 暗褐色粘質土10YR3/4 粘性・しまり有
5～10mm大ロームブロック、ローム粒
3～5mm大焼土ブロック
4 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、ローム粒
5 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有
1cm大ロームブロック多、3mm大焼土ブロック少
6 黄褐色粘質土10YR5/8
粘性・しまり有、5mm大ロームブロック多
7 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有
5～10mm大ロームブロック、ローム粒

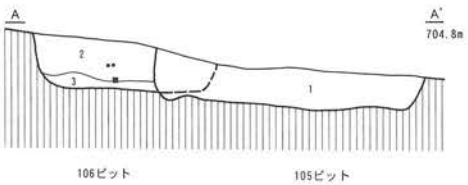
103・104号ピット



[103号ピット 土層説明]
1 黒褐色砂質土10YR3/2 粘性・しまり弱、ローム粒多
2 褐色砂質土10YR4/6 粘性・しまり弱
2～3mm大ロームブロック多、ローム粒
[104号ピット 土層説明]
1 暗褐色砂質土10YR3/4
粘性やや弱・しまり有、3～5mm大ロームブロック
2 暗褐色砂質土10YR3/4
粘性やや弱・しまり有、3～10mm大ロームブロック多
3 褐色砂質土10YR4/4
粘性・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒

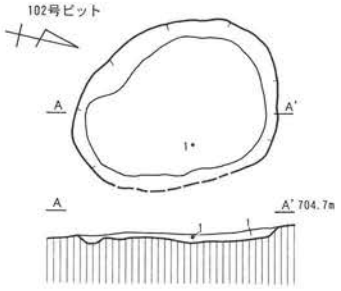
105・106号ピット





[105・106号ピット 土層説明]
1 黒褐色砂質土10YR3/2
粘性・しまり弱、2～50mm大ロームブロック多
2 暗褐色砂質土10YR3/3 粘性弱・しまり有
2～3mm大ロームブロック、炭化物粒、焼土粒少
3 褐色砂質土10YR4/4 粘性弱・しまり有
3～5mm大ロームブロック、炭化物粒少

102号ピット

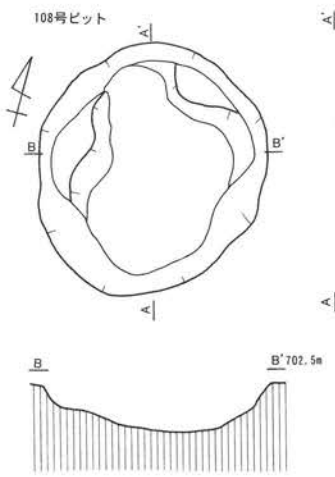


[102号ピット 土層説明]
1 暗褐色砂質土10YR3/4 粘性・しまり弱、2～5mm大ロームブロック多

0 (1:40) 1m

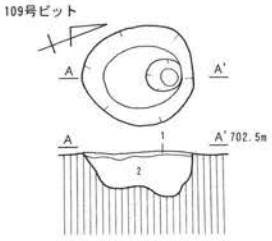
第177図 98～107号ピット

108号ピット



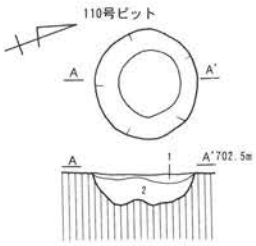
[108号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまり有、ローム粒、黒褐色土粒
2 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや弱、1～2mm大ロームブロック、小礫
3 にぶい褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや弱、1～2mm大ロームブロックやや多、小礫

109号ピット



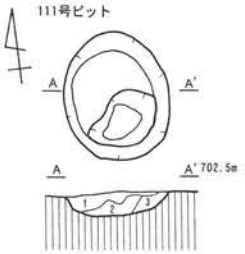
[109号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有、ローム粒、黒褐色土
2 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまりやや弱、1～2mm大ロームブロック

110号ピット



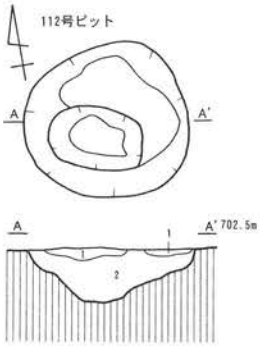
[110号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまり有、ローム粒、黒褐色土粒
2 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまりやや弱、1～2mm大ロームブロック

111号ピット



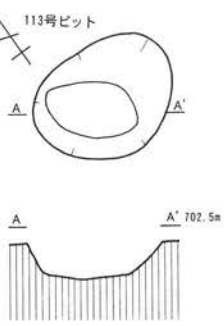
[111号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR5/4
粘性・しまりやや有
ローム粒やや多、炭化物粒微少
2 暗褐色土10YR3/4
粘性・しまりやや有
ロームブロック、炭化物粒少
3 にぶい黄褐色土10YR5/4
粘性・しまりやや有
ロームブロック主体

112号ピット

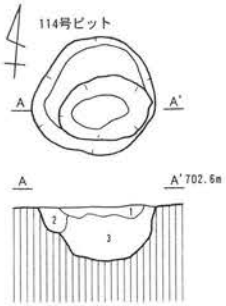


[112号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性・しまり有、ローム主体、1mm大炭化物粒少
2 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、ロームブロック、小礫少

113号ピット

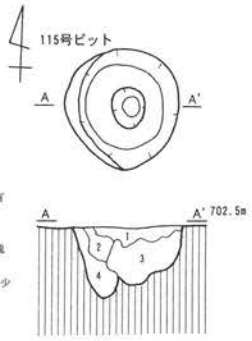


114号ピット



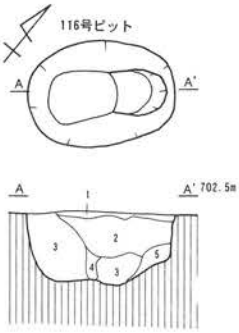
[114号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまりやや有、ロームブロック
2 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや有、ロームブロック、炭化物粒少
3 にぶい黄褐色土10YR5/4
粘性・しまりやや有、ロームブロック、1mm大炭化物粒少

115号ピット



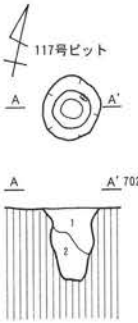
[115号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR5/4
粘性・しまり有、ローム主体
1mm大炭化物粒、白色粒
2 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有
ローム粒、炭化物粒少
3 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまり有
ローム粒、炭化物粒少、炭化色粘土塊
4 黒褐色土10YR3/1
粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒少

116号ピット



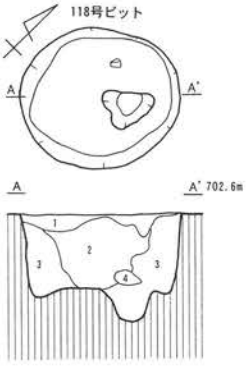
[116号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR5/3
粘性・しまり有
ローム粒、炭化物粒少
2 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまりやや有
ローム粒、炭化物粒微少
3 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまりやや有
ローム粒、炭化物粒少
4 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまりやや有
ロームブロック少、炭化物粒少
5 にぶい黄橙色土10YR6/4
粘性・しまりやや有
1cm大ロームブロックやや少

117号ピット



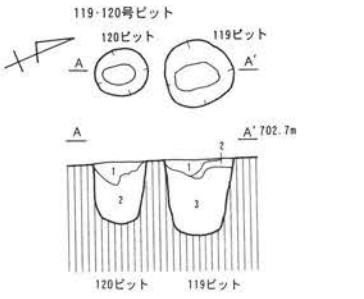
[117号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまり有
ローム粒、炭化物粒、焼土粒少
2 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまり有、ローム粒少

118号ピット



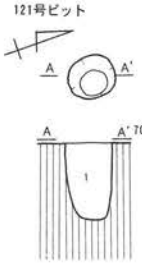
[118号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性・しまり有
ローム粒、炭化物粒少、焼土粒
2 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有
ローム粒少、炭化物粒
3 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有
ローム粒、炭化物粒少
4 にぶい黄橙色土10YR6/4
粘性・しまり有、ローム主体

119・120号ピット



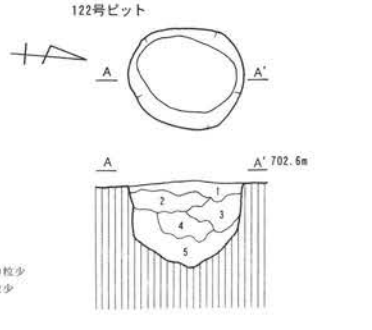
[119・120号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまり有、ローム粒少、炭化物粒やや少
2 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまり有、ローム粒少、5mm大炭化物粒少
3 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒少

121号ピット



[121号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまり有
ローム粒、炭化物粒少、焼土粒微少

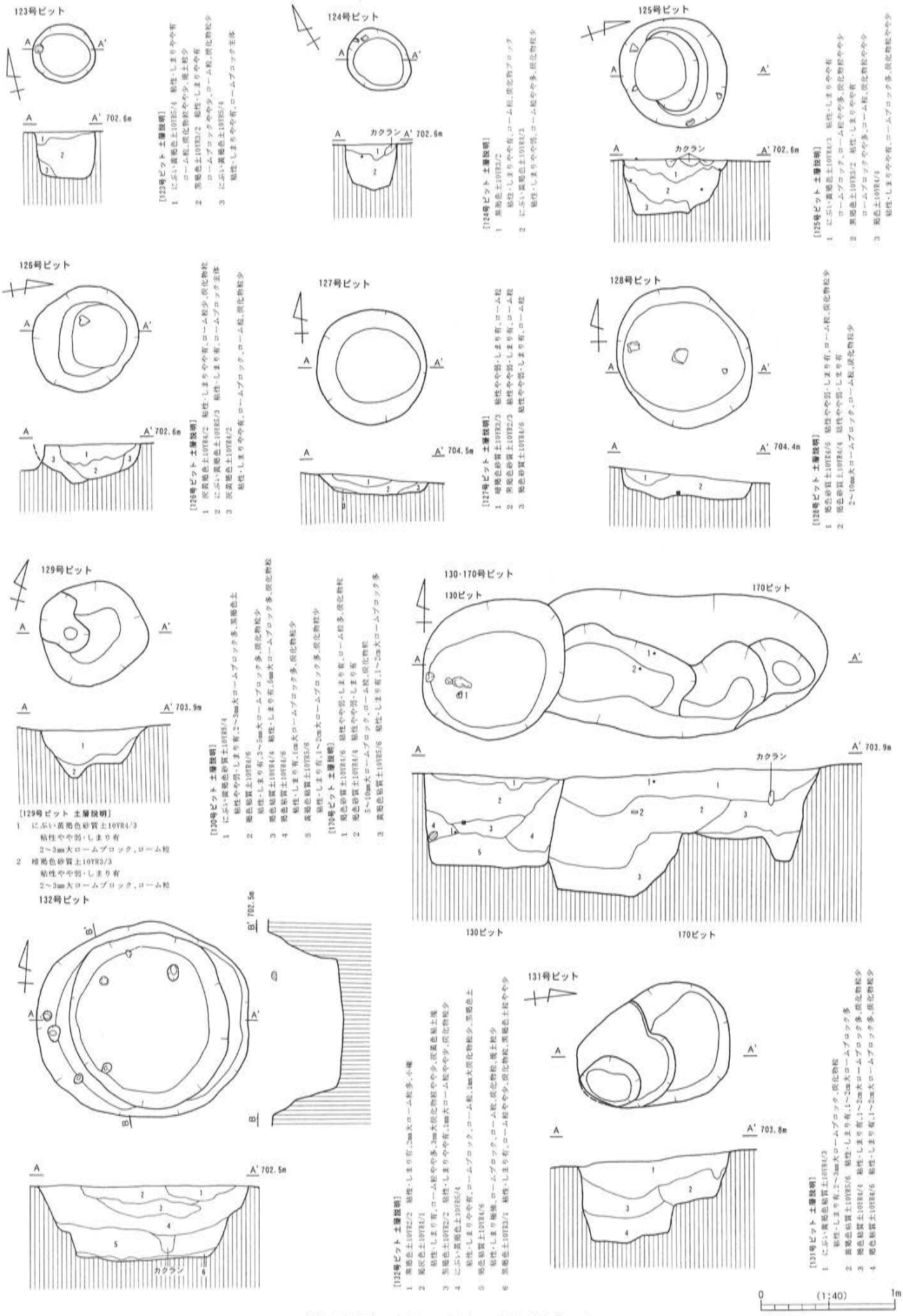
122号ピット



[122号ピット 土層説明]
1 褐色土10YR4/6 粘性・しまりやや有
ローム粒、2cm大炭化物粒やや多、焼土ブロック多、焼土粒
2 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒少、焼土粒
3 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒少
4 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや有、ローム粒、焼土粒少
5 褐色土10YR4/6 粘性・しまりやや有、ローム粒

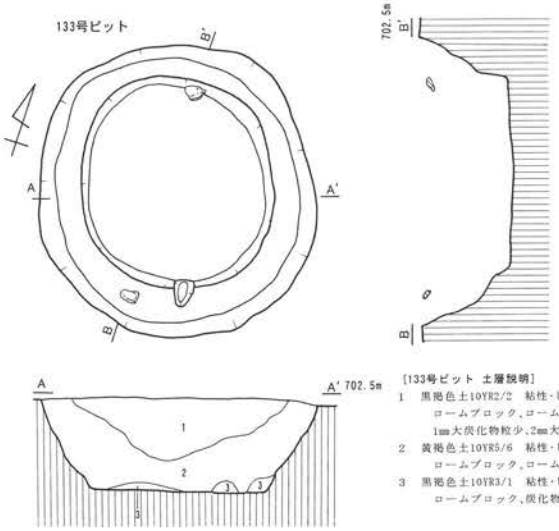
0 (1:40) 1m

第178図　108～122号ピット



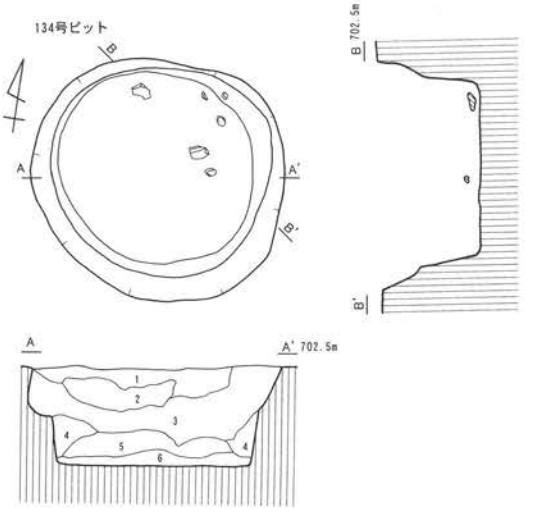
第179図　123～132・170号ピット

133号ピット



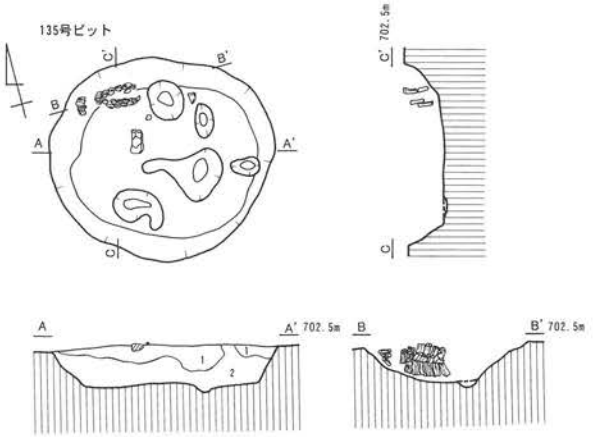
[133号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR2/2 粘性・しまりやや有
ロームブロック、ローム粒やや多
1mm大炭化物粒少、2mm大灰色粘土塊少
2 黄褐色土10YR5/6 粘性・しまりやや弱
ロームブロック、ローム粒多
3 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有
ロームブロック、炭化物粒少

134号ピット



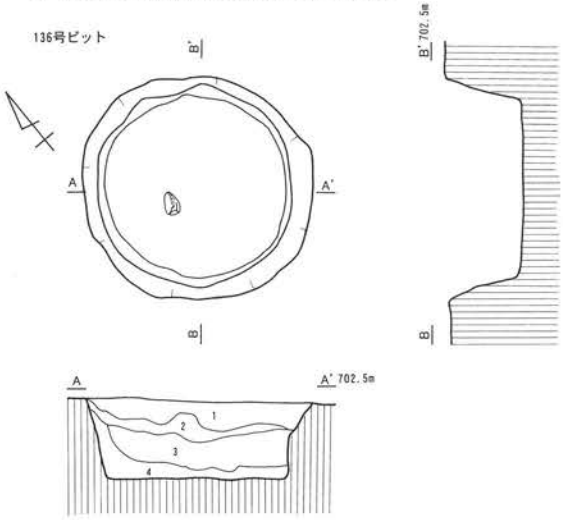
[134号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性・しまりやや有、ローム粒やや多、炭化物粒少
2 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや少、黄褐色土塊
3 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性・しまりやや有、2～3mm大ロームブロックやや多、炭化物粒、小礫
4 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、ロームブロック
5 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、ロームブロック
6 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや弱、ロームブロック

135号ピット



[135号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、3mm大ローム粒やや多、3mm大炭化物粒少
2 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまりやや有、ロームブロック、1mm大ローム粒やや少、1mm大炭化物粒少

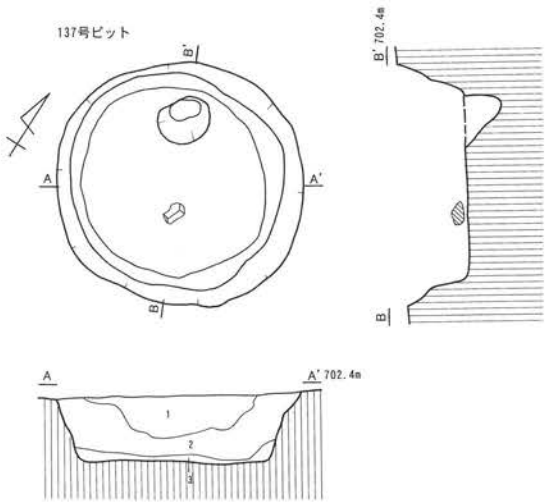
136号ピット



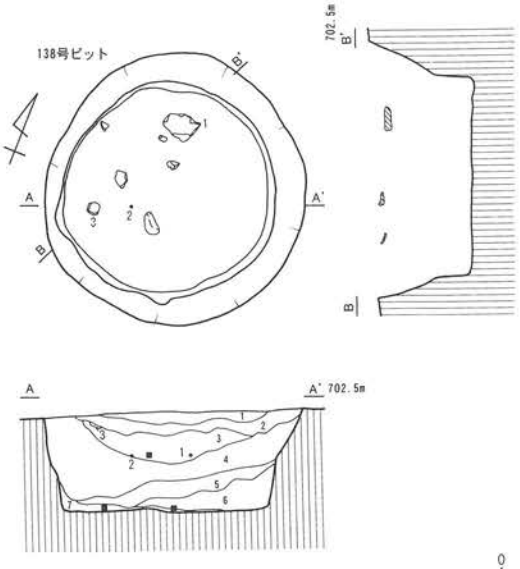
[136号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、2mm大ローム粒やや少、炭化物粒少
2 黒褐色土10YR3/1
粘性・しまりやや弱、5mm大ロームブロックやや少、ローム粒、炭化物粒少
3 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや弱、1～2mm大ローム粒やや少、炭化物粒少
4 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、ロームブロック少、ローム粒、炭化物粒少

[137号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、ロームブロック少、ローム粒やや少、炭化物粒
2 褐色土10YR4/4
粘性・しまりやや弱、5mm大ロームブロック少、ローム粒やや多、炭化物粒少
3 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒少

137号ピット



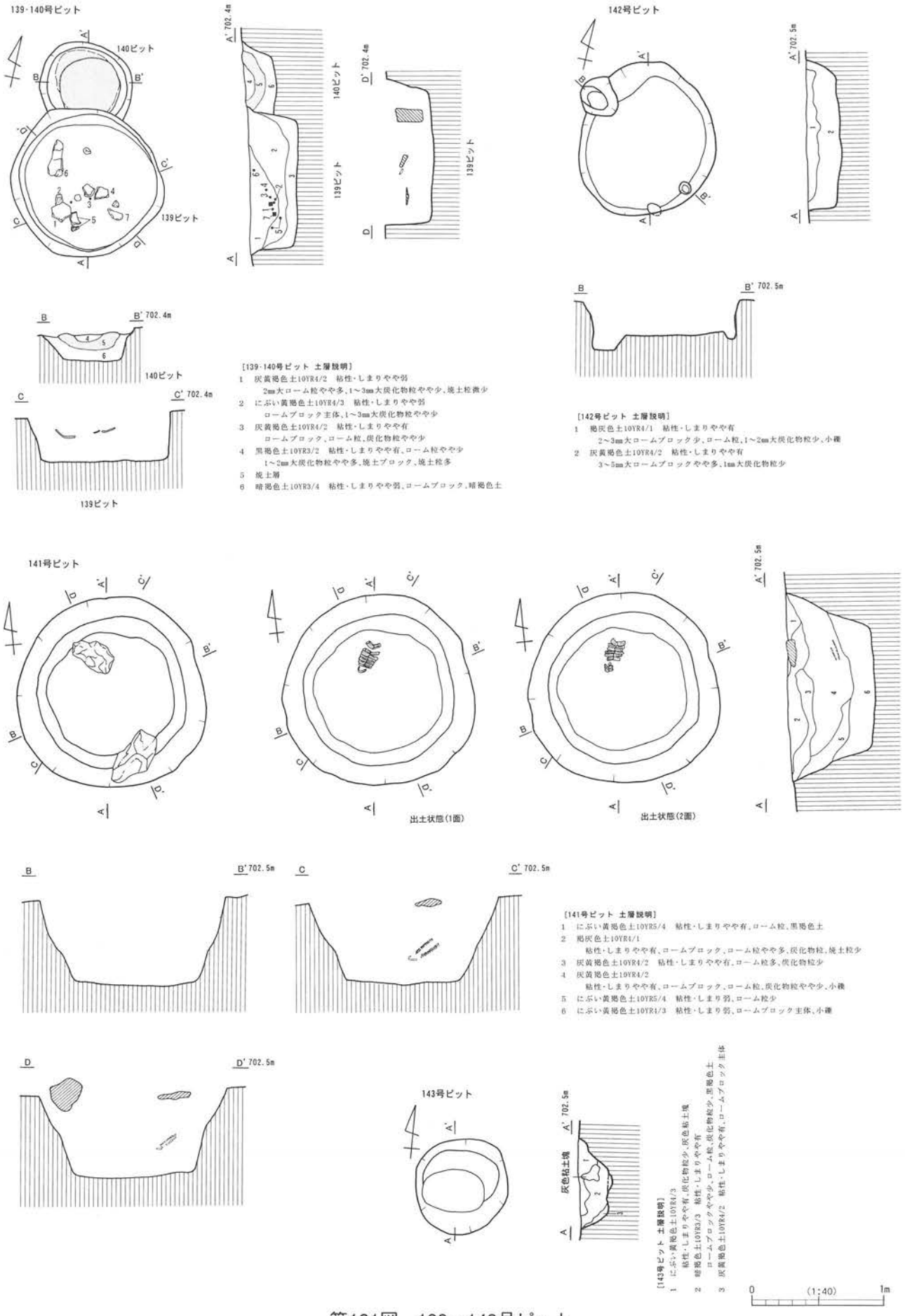
138号ピット



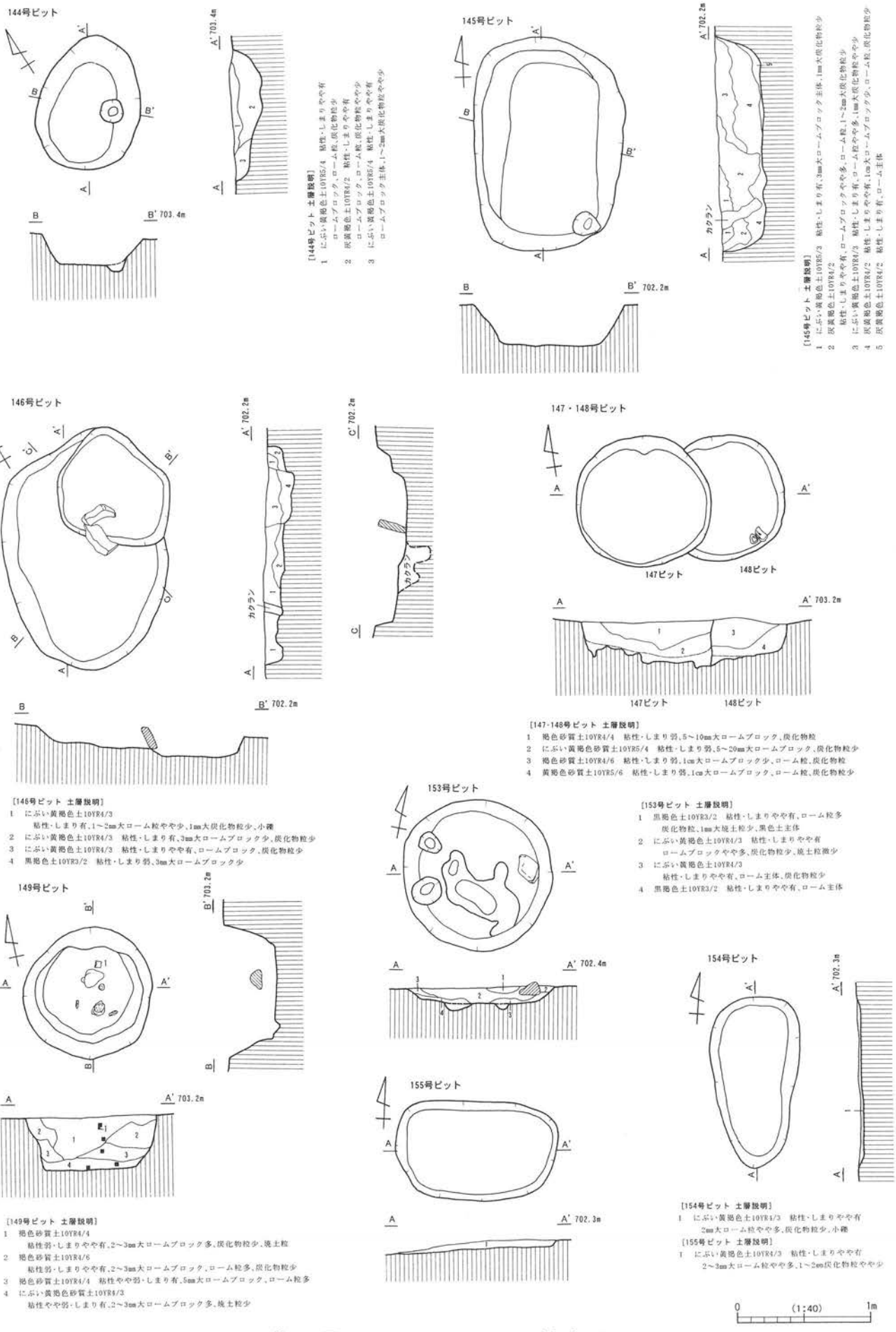
[138号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまり有、ロームブロック、ローム粒多、黒色土
2 にぶい黄色土10YR5/4 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや少
3 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、ローム粒やや多、炭化物粒少、黄褐色土
4 にぶい黄褐色土10YR5/4
粘性・しまりやや弱、ロームブロックやや多、ローム粒
5 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや弱、ロームブロックやや少、ローム粒
6 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性・しまりやや弱、ロームブロック主体
7 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒少

0 (1:40) 1m

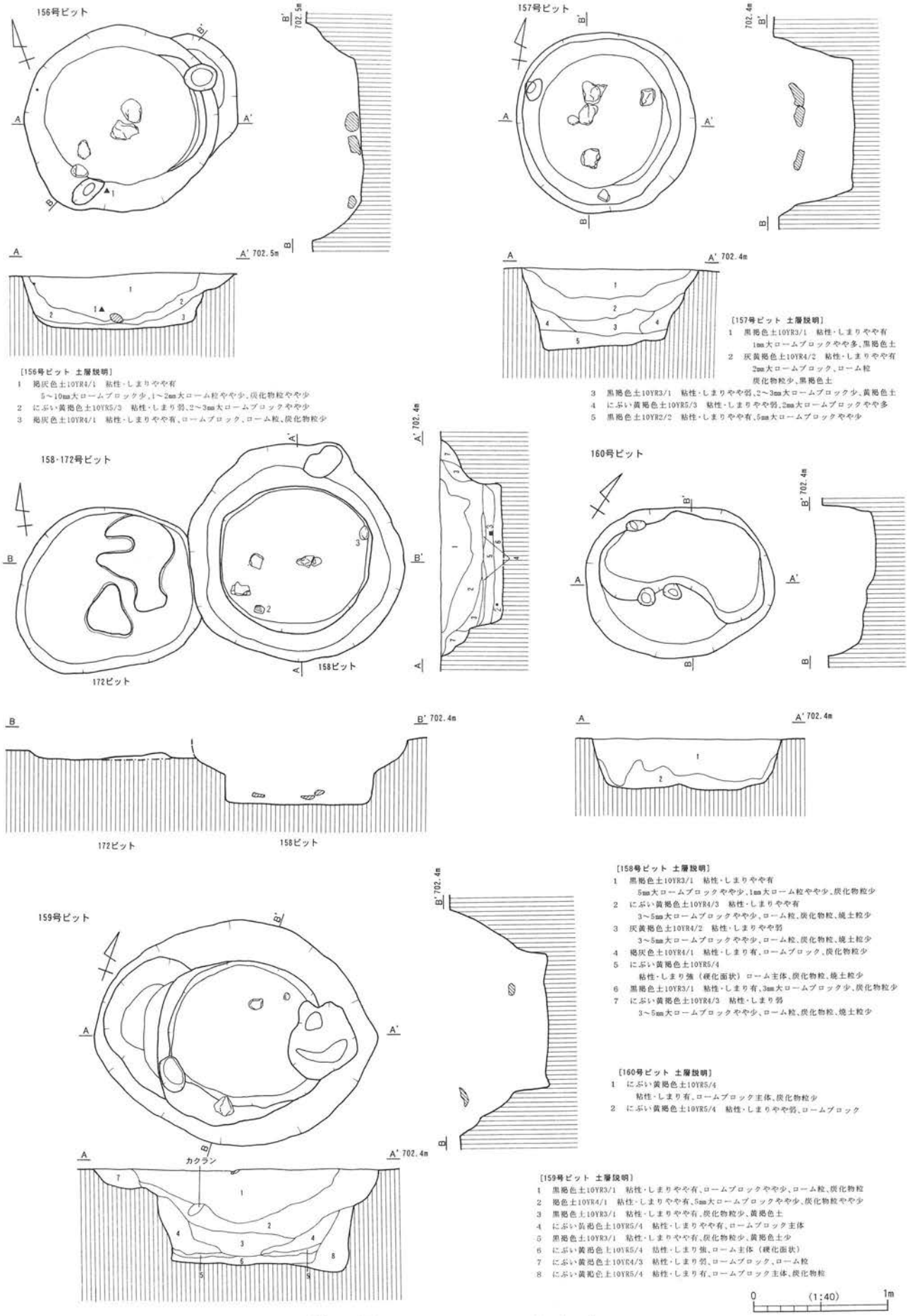
第180図 133～138号ピット



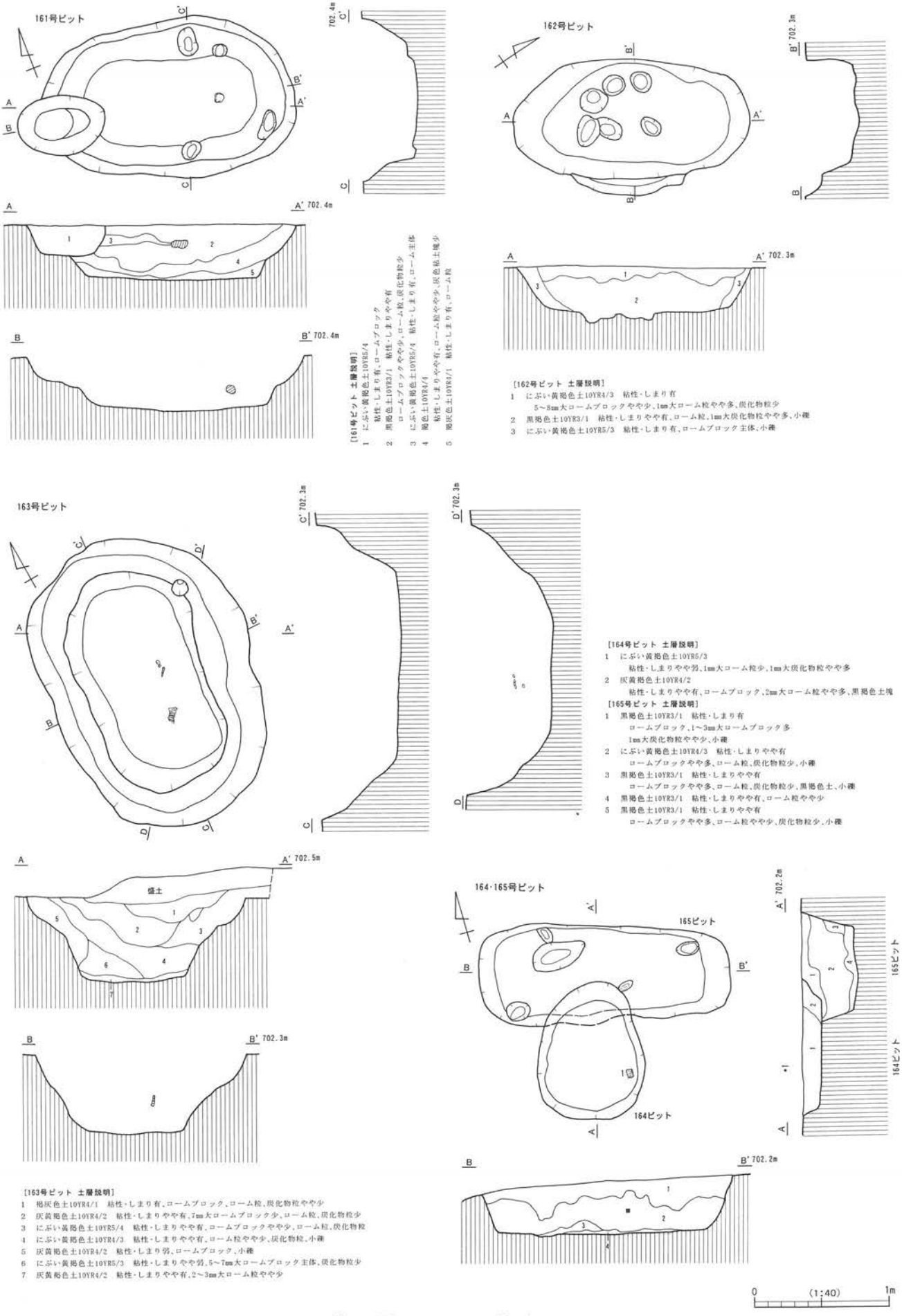
第181図　139～143号ピット



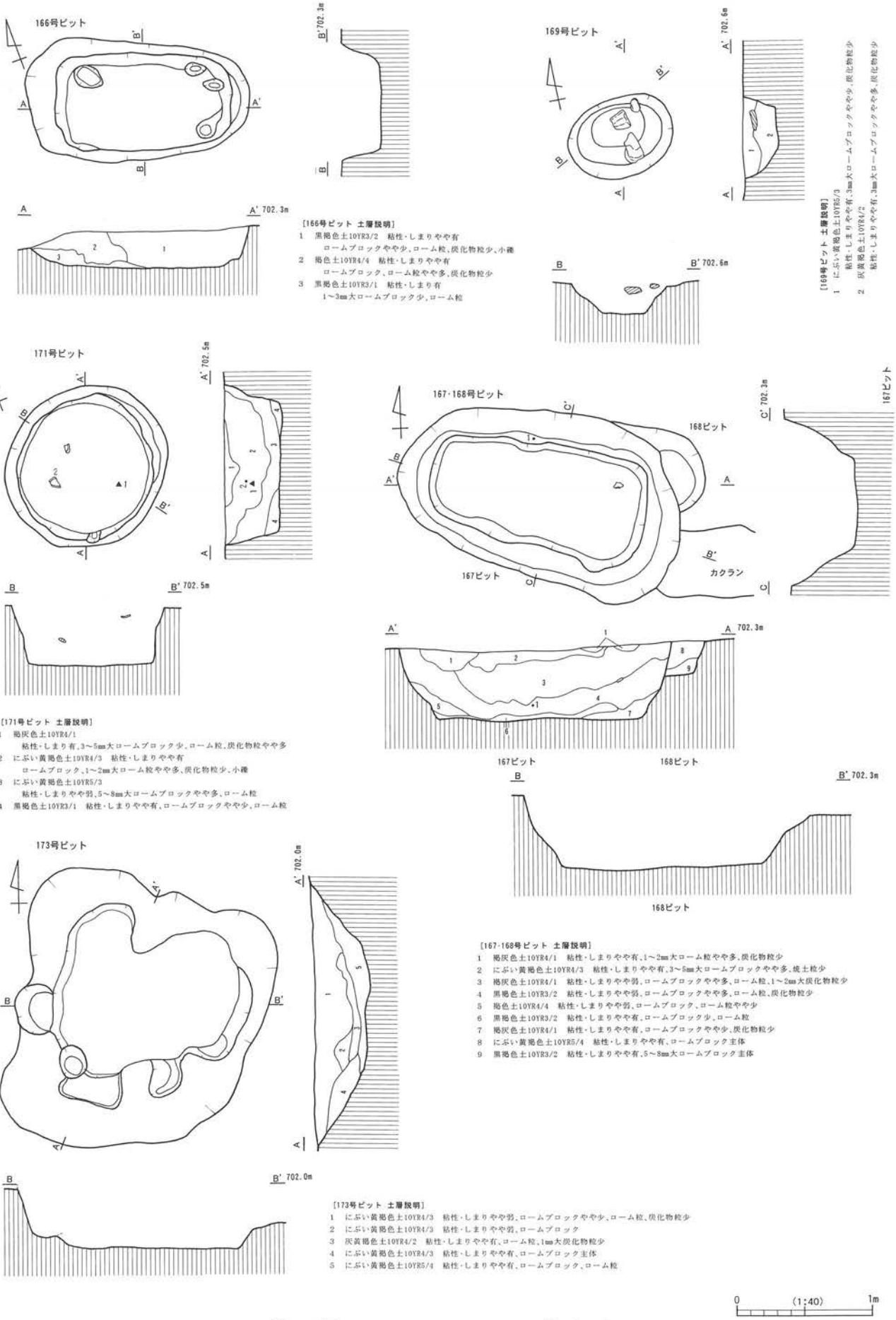
第182図　144～149・153～155号ピット



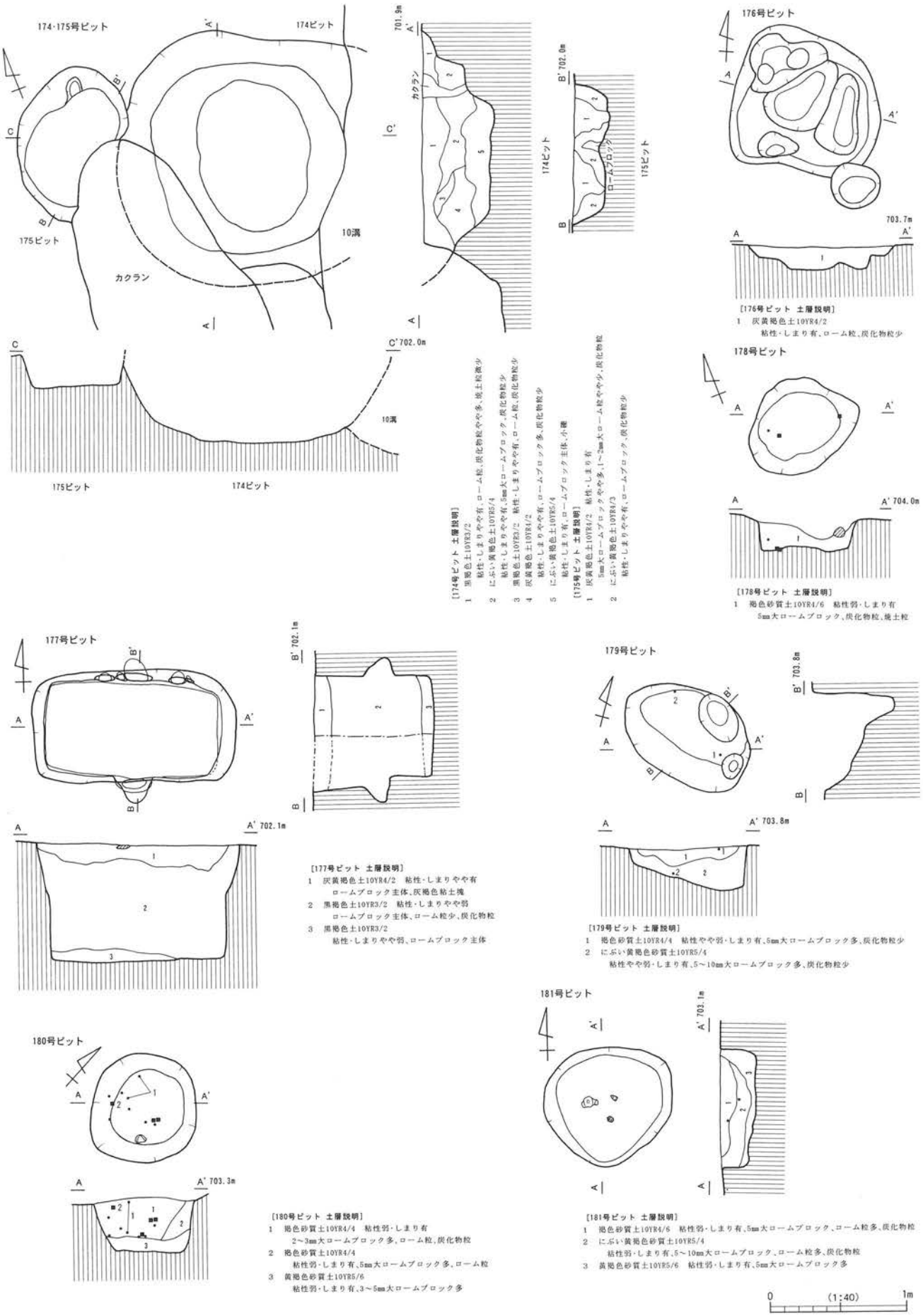
第183図　156～160・172号ピット



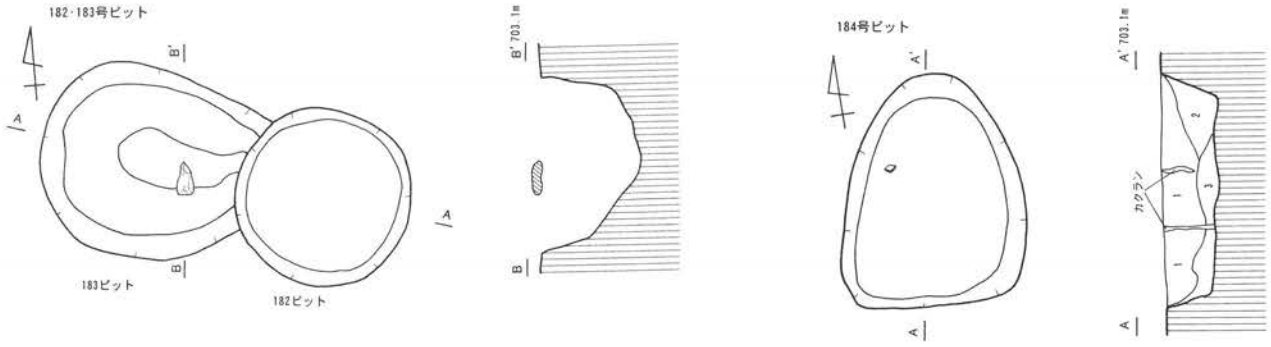
第184図　161～165号ピット



第185図　166～169・171・173号ピット



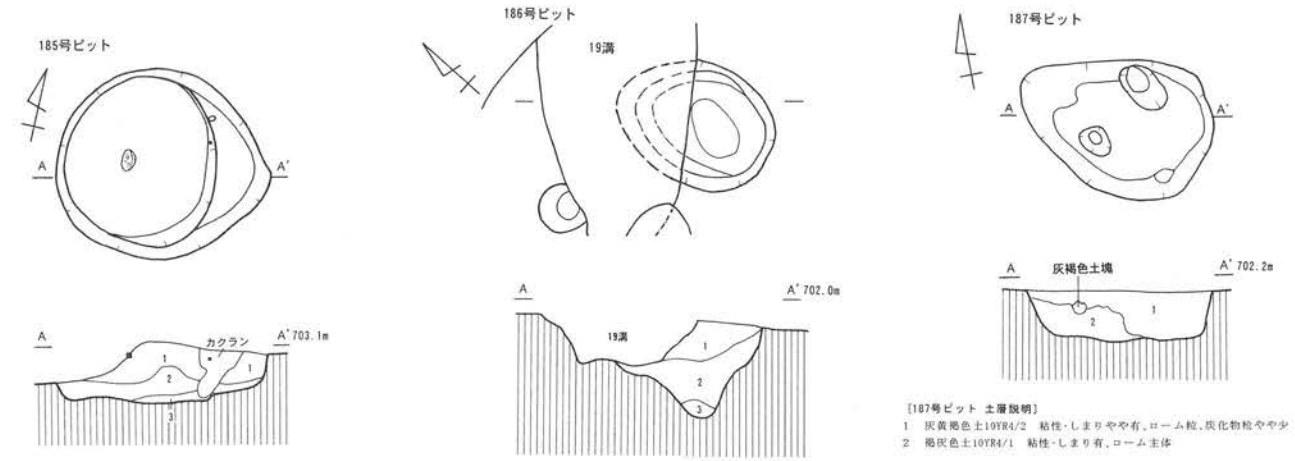
第186図　174～181号ピット



〔182号ピット 土層説明〕
1　にぶい黄褐色砂質土10YR5/4　粘性弱・しまり有、2～3mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒少
2　褐色砂質土10YR4/4　粘性弱・しまり有、5～10mm大ロームブロック、ローム粒
3　黄褐色砂質土10YR5/6　粘性弱・しまり有、10～20mm大ロームブロック、ローム粒

〔183号ピット 土層説明〕
1　にぶい黄褐色砂質土10YR5/3　粘性弱・しまり有、2～5mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
2　にぶい黄褐色砂質土10YR5/4　粘性弱・しまり有、5mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒
3　黄褐色砂質土10YR5/6　粘性弱・しまり有、5mm大ロームブロック多、ローム粒

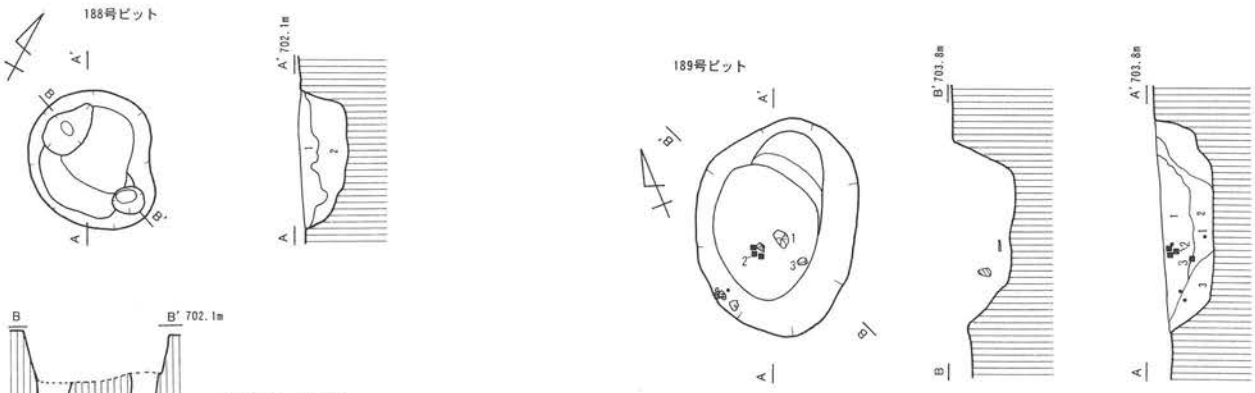
〔184号ピット 土層説明〕
1　にぶい黄褐色砂質土10YR5/4　粘性弱・しまり有、2～3mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒
2　にぶい黄褐色砂質土10YR5/3　粘性弱・しまり有、1cm大ロームブロック多、ローム粒
3　黄褐色砂質土10YR5/6　粘性弱・しまり有、1～2cm大ロームブロック、ローム粒



〔185号ピット 土層説明〕
1　褐色砂質土10YR4/4　粘性弱・しまりやや弱、ローム粒多、炭化物粒
2　にぶい黄褐色砂質土10YR5/4
　粘性弱・しまり有、2～3mm大ロームブロック多、炭化物粒少
3　にぶい黄褐色砂質土10YR5/3
　粘性弱・しまり有、2～3mm大ロームブロック多

〔186号ピット 土層説明〕
1　褐色土7.5YR4/3　粘性・しまりやや弱、ローム粒、炭化物粒やや少
2　暗褐色土7.5YR3/4
　粘性・しまりやや有、ロームブロックやや多、ローム粒、炭化物粒やや少
3　灰黄褐色土10YR4/2　粘性・しまりやや有、ロームブロックやや少

〔187号ピット 土層説明〕
1　灰黄褐色土10YR4/2　粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや少
2　褐灰色土10YR4/1　粘性・しまり有、ローム主体

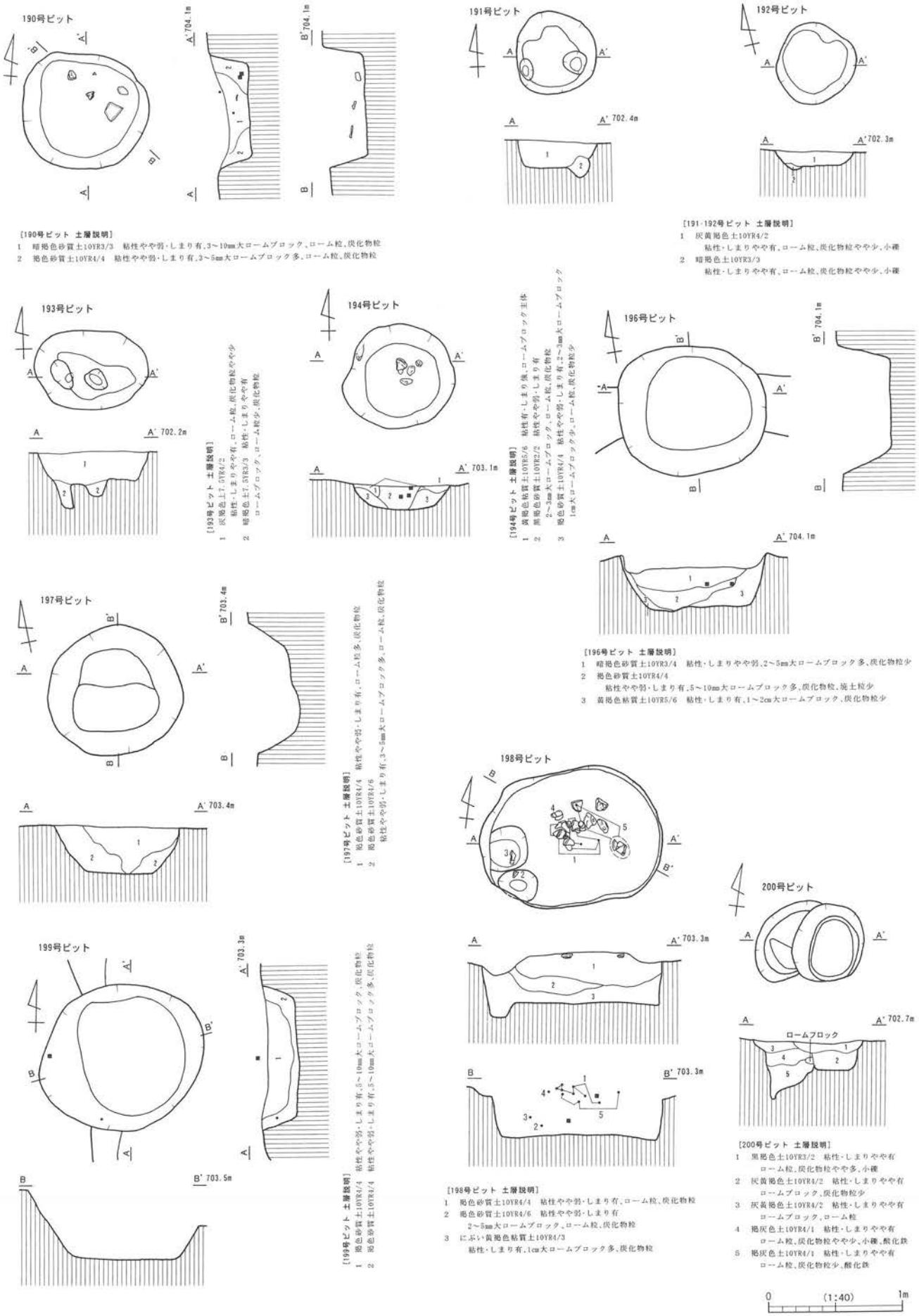


〔188号ピット 土層説明〕
1　灰黄褐色土10YR4/2　粘性・しまりやや有
　2～5mm大ロームブロック少、炭化物粒、ローム粒少
2　褐灰色土10YR4/1
　粘性・しまり有、ロームブロックやや多、炭化物粒少

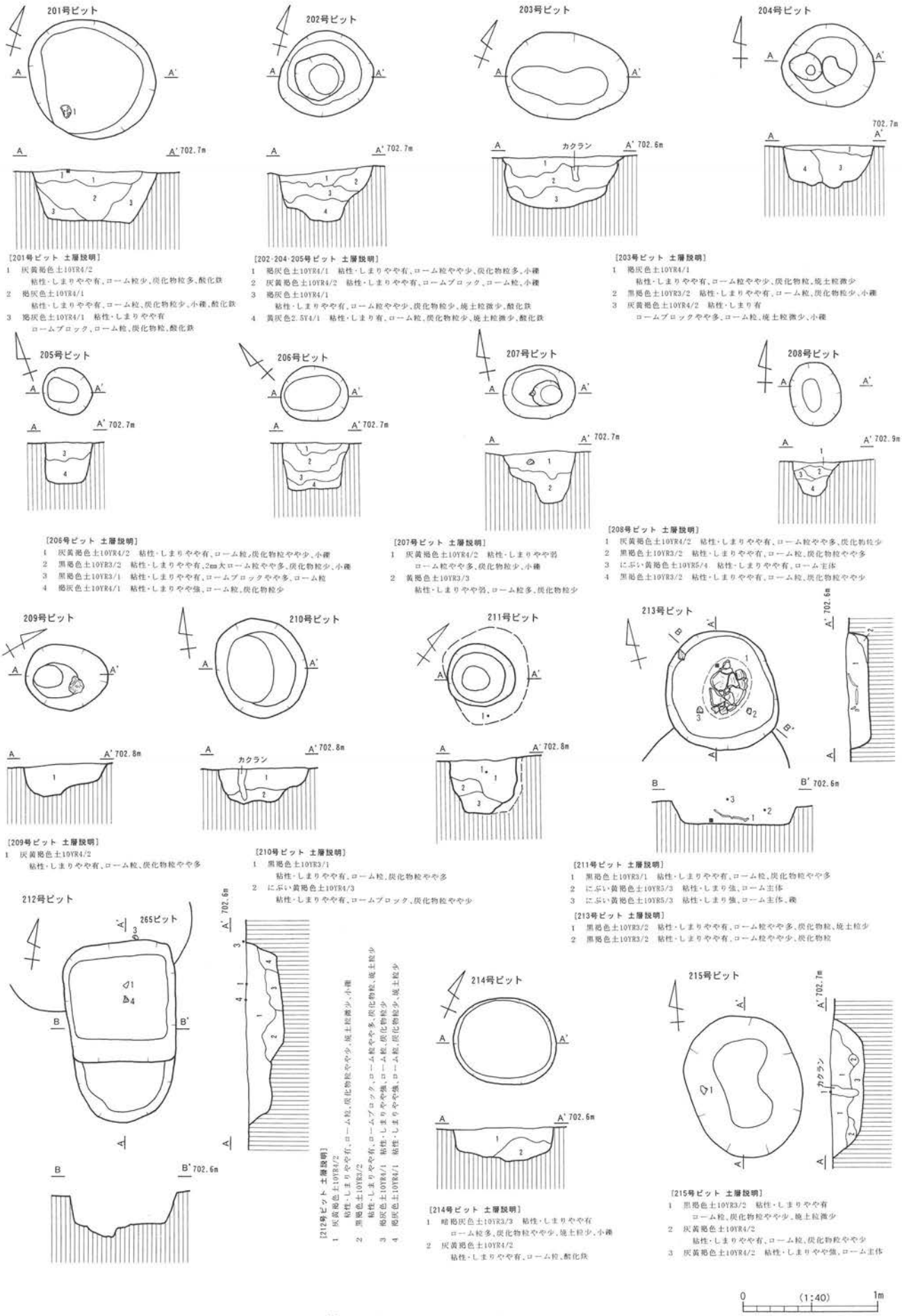
〔189号ピット 土層説明〕
1　暗褐色砂質土10YR3/3
　粘性やや弱・しまり有、3～5mm大ロームブロック、ローム粒多、炭化物粒多
2　暗褐色砂質土10YR3/4
　粘性やや弱・しまり有、3～5mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
3　褐色砂質土10YR4/4　粘性やや弱・しまり有、5mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒

0　(1:40)　1m

第187図　182～189号ピット



第188図　190～194・196～200号ピット



[201号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまりやや有、ローム粒少、炭化物粒多、酸化鉄
2 褐灰色土10YR4/1
粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒少、小礫、酸化鉄
3 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有
ロームブロック、ローム粒、炭化物粒、酸化鉄

[202・204・205号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有、ローム粒やや少、炭化物粒多、小礫
2 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、ロームブロック、ローム粒、小礫
3 褐灰色土10YR4/1
粘性・しまりやや有、ローム粒やや少、炭化物粒少、焼土粒微少、酸化鉄
4 黄灰色2.5Y4/1 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒少、焼土粒微少、酸化鉄

[203号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1
粘性・しまりやや有、ローム粒やや少、炭化物粒、焼土粒微少
2 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒少、小礫
3 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまり有
ロームブロックやや多、ローム粒、焼土粒微少、小礫

[206号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや少、小礫
2 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有、2mm大ローム粒やや多、炭化物粒少、小礫
3 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、ロームブロックやや多、ローム粒
4 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや強、ローム粒、炭化物粒少

[207号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや弱
ローム粒やや多、炭化物粒少、小礫
2 黄褐色土10YR3/3
粘性・しまりやや弱、ローム粒多、炭化物粒少

[208号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、ローム粒やや多、炭化物粒少
2 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや多
3 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性・しまりやや有、ローム主体
4 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや少

[209号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや多

[210号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/1
粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや多
2 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまりやや有、ロームブロック、炭化物粒やや少

[211号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや多
2 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまり強、ローム主体
3 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまり強、ローム主体、礫

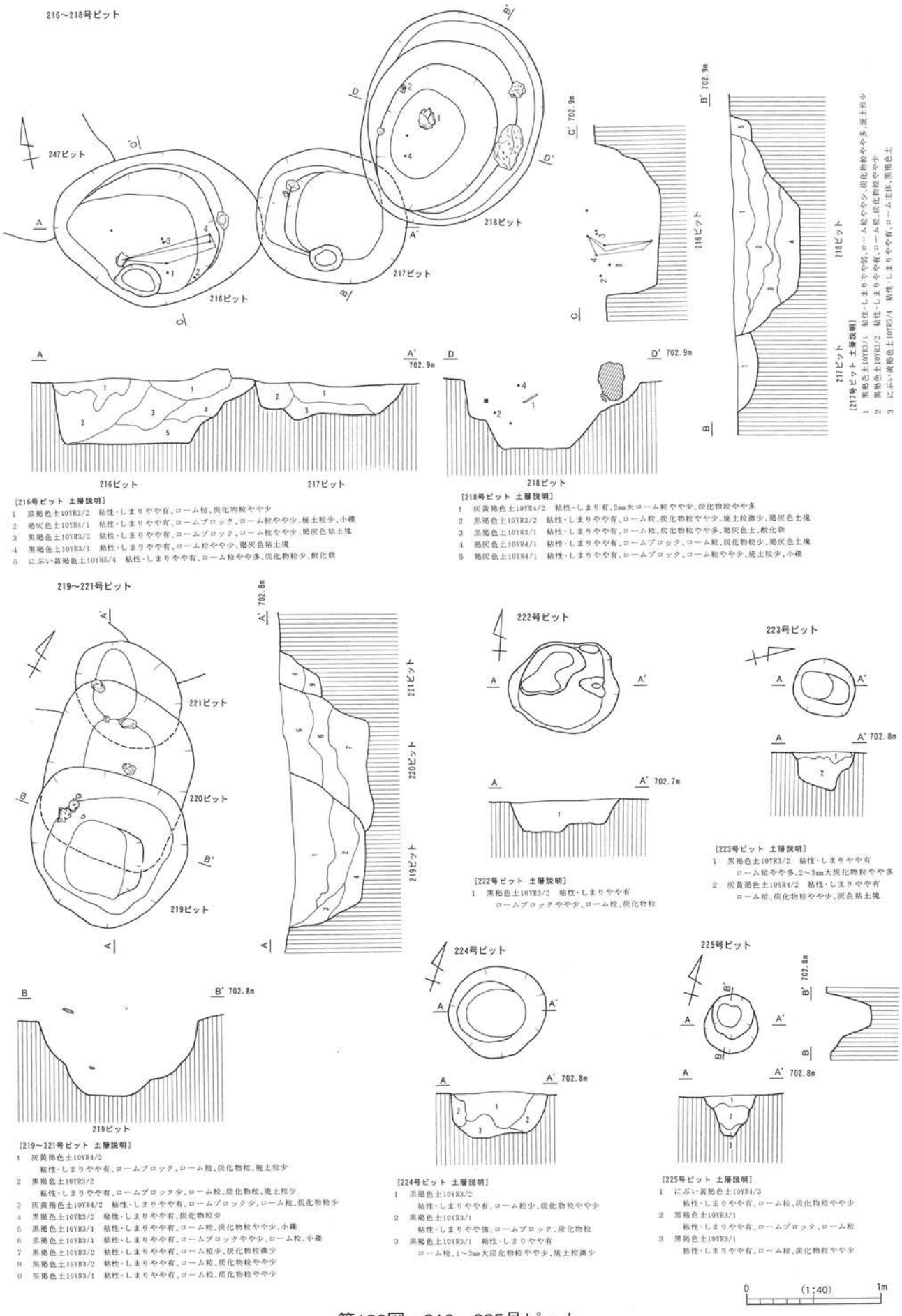
[213号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有、ローム粒やや多、炭化物粒、焼土粒少
2 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有、ローム粒やや少、炭化物粒

[212号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや少、焼土粒微少、小礫
2 黒褐色土10YR3/2
粘性・しまりやや有、ロームブロック、ローム粒やや多、炭化物粒、焼土粒少
3 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや強、ローム粒、炭化物粒少
4 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや強、ローム粒、炭化物粒少、焼土粒少

[214号ピット 土層説明]
1 暗褐灰色土10YR3/3 粘性・しまりやや有
ローム粒多、炭化物粒やや少、焼土粒少、小礫
2 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまりやや有、ローム粒、酸化鉄

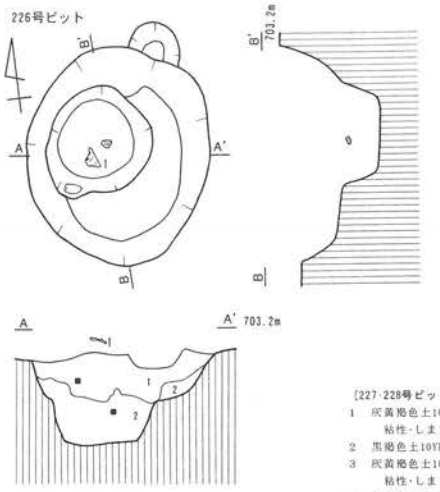
[215号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有
ローム粒、炭化物粒やや少、焼土粒微少
2 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや少
3 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや強、ローム主体

第189図　201～215号ピット



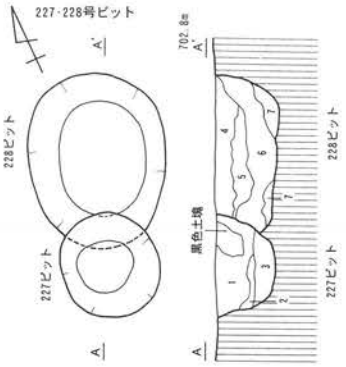
第190図　216～225号ピット

226号ピット



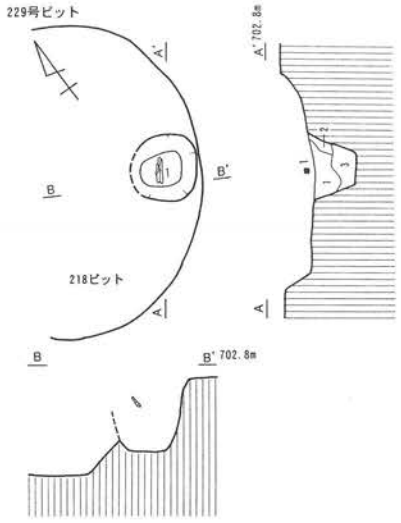
[226号ピット 土層説明]
1 褐色砂質土10YR4/4 粘性弱・しまり有
2～5mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
2 にぶい黄褐色砂質土10YR4/3 粘性弱・しまり有
2～10mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒

227・228号ピット



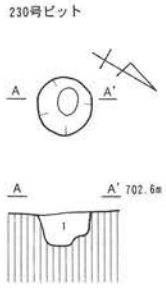
[227・228号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまりやや有、ロームブロック、ローム粒やや少、炭化物粒やや少、小礫
2 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有、ローム粒やや少、炭化物粒やや多
3 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまりやや有、ロームブロックやや多、ローム粒、灰色粘土塊
4 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや多
5 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや多
6 黒褐色土10YR3/1
粘性・しまりやや有、ロームブロック、ローム粒やや多、灰色粘土塊、小礫
7 褐灰色土10YR5/1 粘性・しまりやや強、ローム粒少

229号ピット

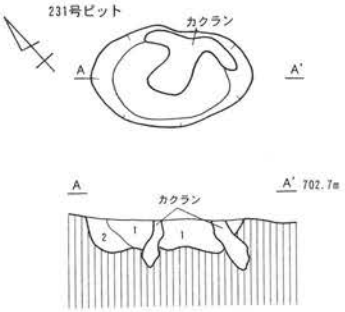


[229号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまり有、2～3mm大ローム粒やや少、炭化物粒少、焼土粒少
2 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまり有、ローム主体、黒褐色土粒
3 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまり有、ローム主体、炭化物粒、小礫微少

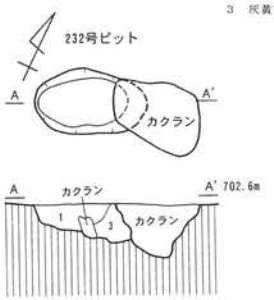
230号ピット



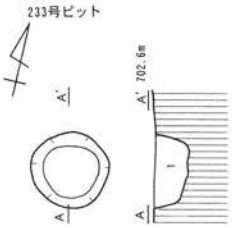
231号ピット



232号ピット

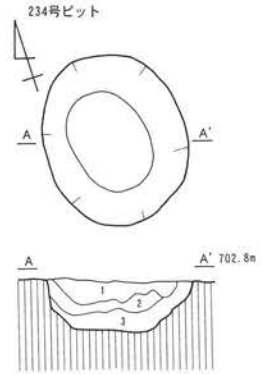


233号ピット



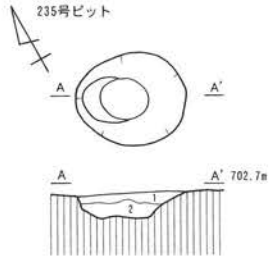
[230～233号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや多、焼土粒微少
2 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや少
3 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有、ローム粒やや少、炭化物粒やや有

234号ピット



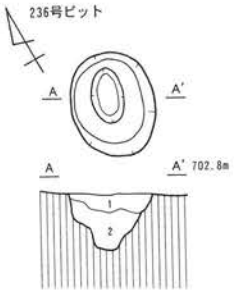
[234号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR5/2 粘性・しまりやや有
ロームブロック、ローム粒、炭化物粒少、焼土粒少
2 灰黄褐色土10YR5/2 粘性・しまりやや有
ローム粒やや多、炭化物粒、焼土粒少、小礫
3 灰黄褐色土10YR5/2 粘性・しまりやや有
ローム粒少、炭化物粒、灰色粘土塊

235号ピット



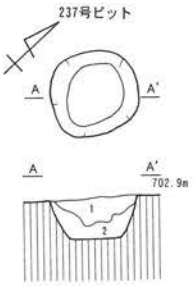
[235号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有
ロームブロック、炭化物粒、焼土粒やや少
2 黒褐色土10YR3/1
粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや少

236号ピット



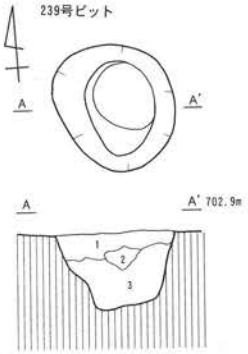
[236号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/2
粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや多
2 灰黄褐色土10YR4/2
粘性・しまりやや有、ローム粒少、炭化物粒、酸化鉄

237号ピット



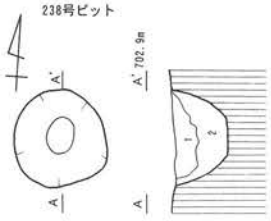
[237号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや少
2 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒少

239号ピット



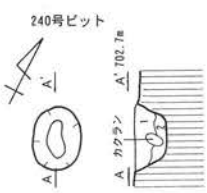
[239号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまりやや有
ローム粒やや多、炭化物粒少、焼土粒微少
2 にぶい黄褐色土10YR6/3
粘性・しまりやや有、ローム粒少、炭化物粒、小礫
3 褐灰色土10YR4/1
粘性・しまりやや有、灰色粘土塊、小礫、酸化鉄

238号ピット



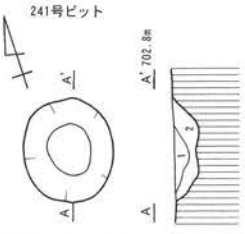
[238号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒
2 褐灰色土10YR4/1
粘性・しまりやや有、灰色粘土塊、酸化鉄

240号ピット

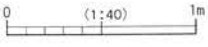


[240号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有
ローム粒少、1～2mm大炭化物粒やや多
2 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまり有、ローム主体、小礫、酸化鉄

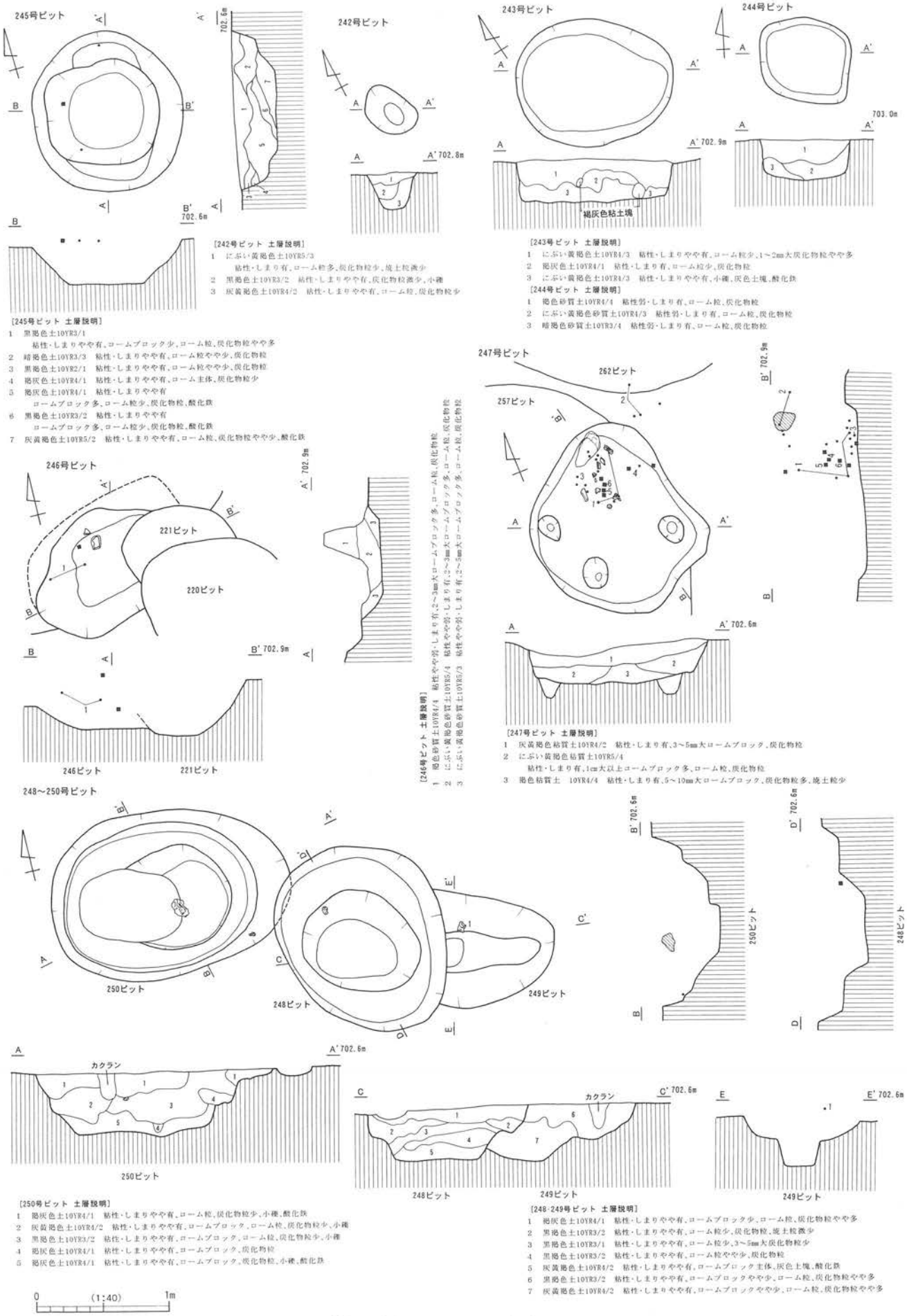
241号ピット



[241号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR5/4
粘性・しまり弱、5～7mm大ロームブロック多、小礫
2 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性・しまり有、小礫



第191図 226～241号ピット



[242号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR5/3
粘性・しまり有、ローム粒多、炭化物粒少、焼土粒微少
2 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有、炭化物粒微少、小礫
3 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒少

[243号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや有、ローム粒少、1～2mm大炭化物粒やや多
2 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまり有、ローム粒少、炭化物粒
3 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや有、小礫、灰色土塊、酸化鉄

[244号ピット 土層説明]
1 褐色砂質土10YR4/4 粘性弱・しまり有、ローム粒、炭化物粒
2 にぶい黄褐色砂質土10YR4/3 粘性弱・しまり有、ローム粒、炭化物粒
3 暗褐色砂質土10YR3/4 粘性弱・しまり有、ローム粒、炭化物粒

[245号ピット 土層説明]
1 黒褐色土10YR3/1
粘性・しまりやや有、ロームブロック少、ローム粒、炭化物粒やや多
2 暗褐色土10YR3/3 粘性・しまりやや有、ローム粒やや少、炭化物粒
3 黒褐色土10YR2/1 粘性・しまりやや有、ローム粒やや少、炭化物粒
4 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有、ローム主体、炭化物粒少
5 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有
ロームブロック多、ローム粒少、炭化物粒、酸化鉄
6 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有
ロームブロック多、ローム粒少、炭化物粒、酸化鉄
7 灰黄褐色土10YR5/2 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒やや少、酸化鉄

[246号ピット 土層説明]
1 褐色砂質土10YR4/4 粘性やや弱・しまり有、2～3mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒
2 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 粘性やや弱・しまり有、2～3mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒
3 にぶい黄褐色砂質土10YR6/3 粘性やや弱・しまり有、2～5mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒

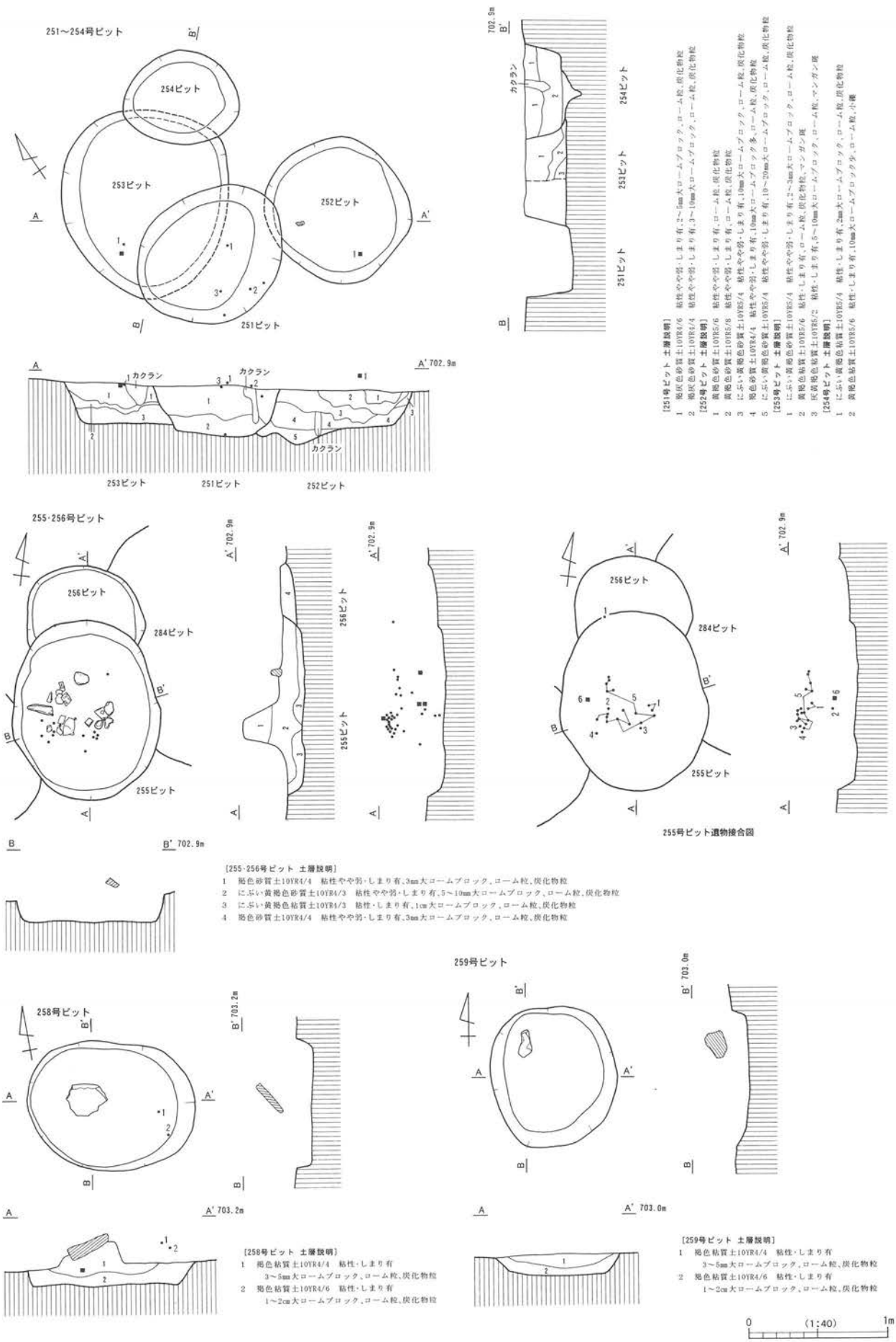
[247号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有、3～5mm大ロームブロック、炭化物粒
2 にぶい黄褐色砧質土10YR5/4
粘性・しまり有、1cm大以上ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒
3 褐色砧質土 10YR4/4 粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック、炭化物粒多、焼土粒少

[248-249号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有、ロームブロック少、ローム粒、炭化物粒やや多
2 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有、ローム粒少、炭化物粒、焼土粒微少
3 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、ローム粒少、3～5mm大炭化物粒少
4 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有、ローム粒やや少、炭化物粒
5 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、ロームブロック主体、灰色土塊、酸化鉄
6 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有、ロームブロックやや少、ローム粒、炭化物粒やや多
7 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、ロームブロックやや少、ローム粒、炭化物粒やや多

[250号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒少、小礫、酸化鉄
2 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、ロームブロック、ローム粒、炭化物粒少、小礫
3 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有、ロームブロック、ローム粒、炭化物粒少、小礫
4 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有、ロームブロック、炭化物粒
5 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有、ロームブロック、炭化物粒、小礫、酸化鉄

0 (1:40) 1m

第192図　242～250号ピット



[251号ピット 土層説明]
1 褐灰色砂質土10YR4/6 粘性やや弱・しまり有,2～5mm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒
2 褐灰色砂質土10YR4/4 粘性やや弱・しまり有,3～10mm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒

[252号ピット 土層説明]
1 黄褐色砂質土10YR5/6 粘性やや弱・しまり有,ローム粒,炭化物粒
2 黄褐色砂質土10YR5/8 粘性やや弱・しまり有,ローム粒,炭化物粒
3 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 粘性やや弱・しまり有,10mm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒
4 褐色砂質土10YR4/4 粘性やや弱・しまり有,10mm大ローム ブロック多,ローム粒,炭化物粒
5 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 粘性やや弱・しまり有,10～20mm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒

[253号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色砂質土10YR5/4 粘性やや弱・しまり有,2～3mm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒
2 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有,ローム粒,炭化物粒,マンガン斑
3 灰黄褐色粘質土10YR5/2 粘性・しまり有,5～10mm大ローム ブロック,ローム粒,マンガン斑

[254号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4 粘性・しまり有,2mm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒
2 黄褐色粘質土10YR5/6 粘性・しまり有,10mm大ローム ブロック少,ローム粒,小礫

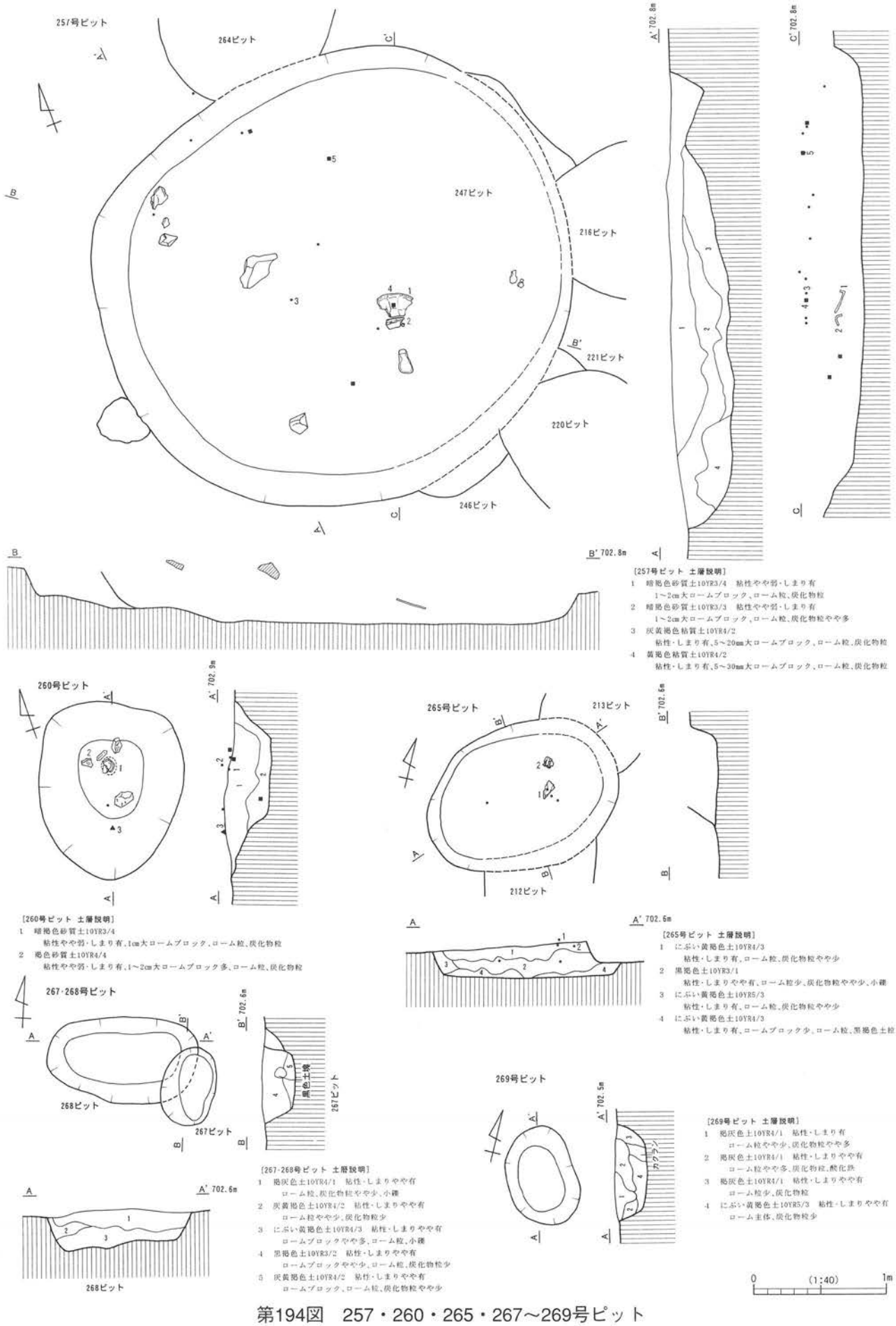
[255・256号ピット 土層説明]
1 褐色砂質土10YR4/4 粘性やや弱・しまり有,3mm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒
2 にぶい黄褐色砂質土10YR4/3 粘性やや弱・しまり有,5～10mm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒
3 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有,1cm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒
4 褐色砂質土10YR4/4 粘性やや弱・しまり有,3mm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒

[258号ピット 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有
3～5mm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒
2 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有
1～2cm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒

[259号ピット 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有
3～5mm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒
2 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有
1～2cm大ローム ブロック,ローム粒,炭化物粒

0 (1:40) 1m

第193図　251～256・258・259号ピット



[257号ピット 土層説明]
1 暗褐色砂質土10YR3/4 粘性やや弱・しまり有
1～2cm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
2 暗褐色砂質土10YR3/3 粘性やや弱・しまり有
1～2cm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒やや多
3 灰黄褐色粘質土10YR4/2
粘性・しまり有、5～20mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
4 黄褐色粘質土10YR4/2
粘性・しまり有、5～30mm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒

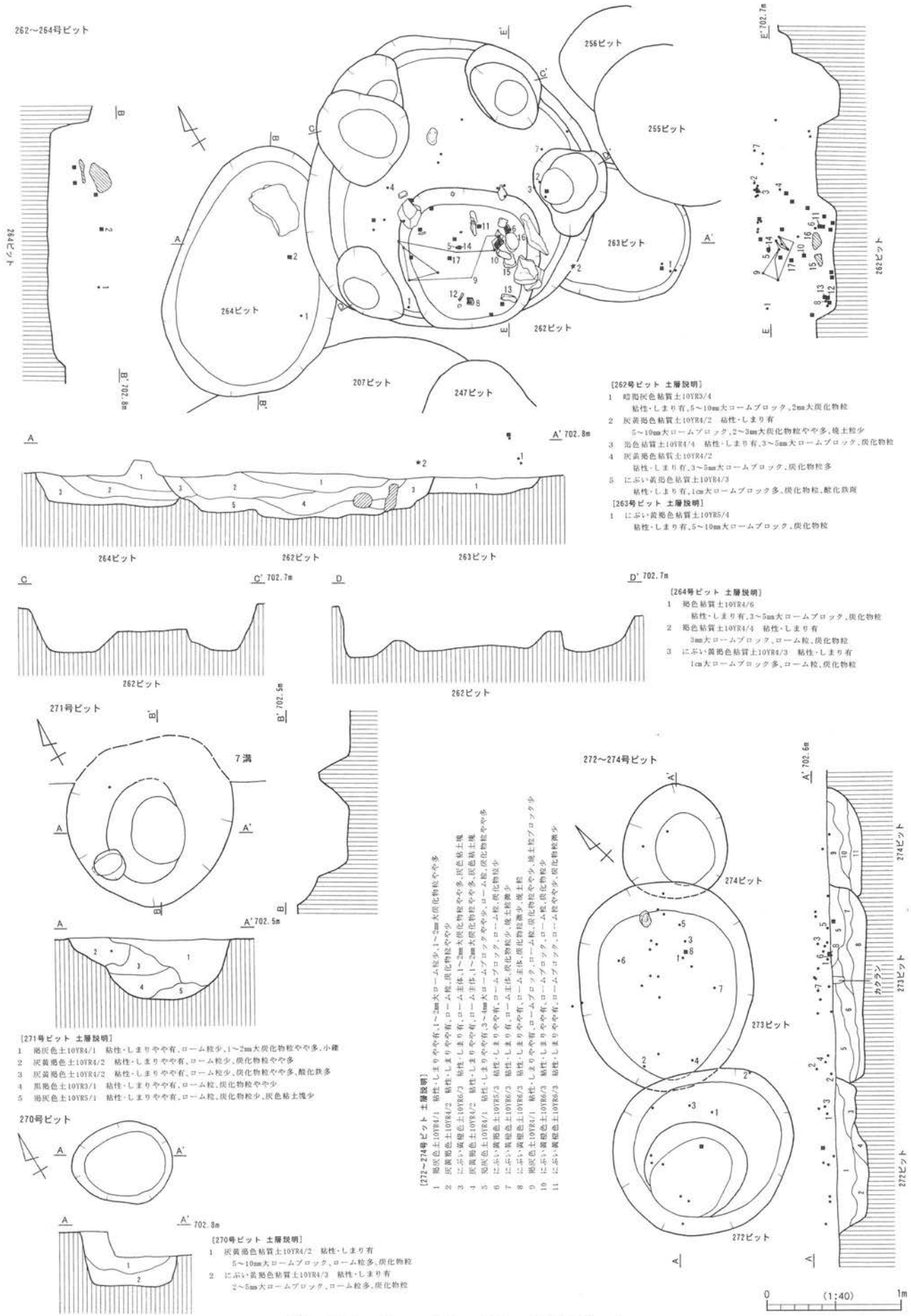
[260号ピット 土層説明]
1 暗褐色砂質土10YR3/4
粘性やや弱・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
2 褐色砂質土10YR4/4
粘性やや弱・しまり有、1～2cm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒

[265号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒やや少
2 黒褐色土10YR3/1
粘性・しまりやや有、ローム粒少、炭化物粒やや少、小礫
3 にぶい黄褐色土10YR5/3
粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒やや少
4 にぶい黄褐色土10YR4/3
粘性・しまり有、ロームブロック少、ローム粒、黒褐色土粒

[267·268号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有
ローム粒、炭化物粒やや少、小礫
2 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有
ローム粒やや少、炭化物粒少
3 にぶい黄褐色土10YR4/3 粘性・しまりやや有
ロームブロックやや多、ローム粒、小礫
4 黒褐色土10YR3/2 粘性・しまりやや有
ロームブロックやや少、ローム粒、炭化物粒少
5 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有
ロームブロック、ローム粒、炭化物粒やや少

[269号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまり有
ローム粒やや少、炭化物粒やや多
2 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有
ローム粒やや多、炭化物粒、酸化鉄
3 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有
ローム粒少、炭化物粒
4 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまりやや有
ローム主体、炭化物粒少

第194図　257・260・265・267～269号ピット



[262号ピット 土層説明]
1 暗褐灰色粘質土10YR3/4
粘性・しまり有,5～10mm大ロームブロック,2mm大炭化物粒
2 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有
5～10mm大ロームブロック,2～3mm大炭化物粒やや多,焼土粒少
3 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有,3～5mm大ロームブロック,炭化物粒
4 灰黄褐色粘質土10YR4/2
粘性・しまり有,3～5mm大ロームブロック,炭化物粒多
5 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
粘性・しまり有,1cm大ロームブロック多,炭化物粒,酸化鉄斑

[263号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4
粘性・しまり有,5～10mm大ロームブロック,炭化物粒

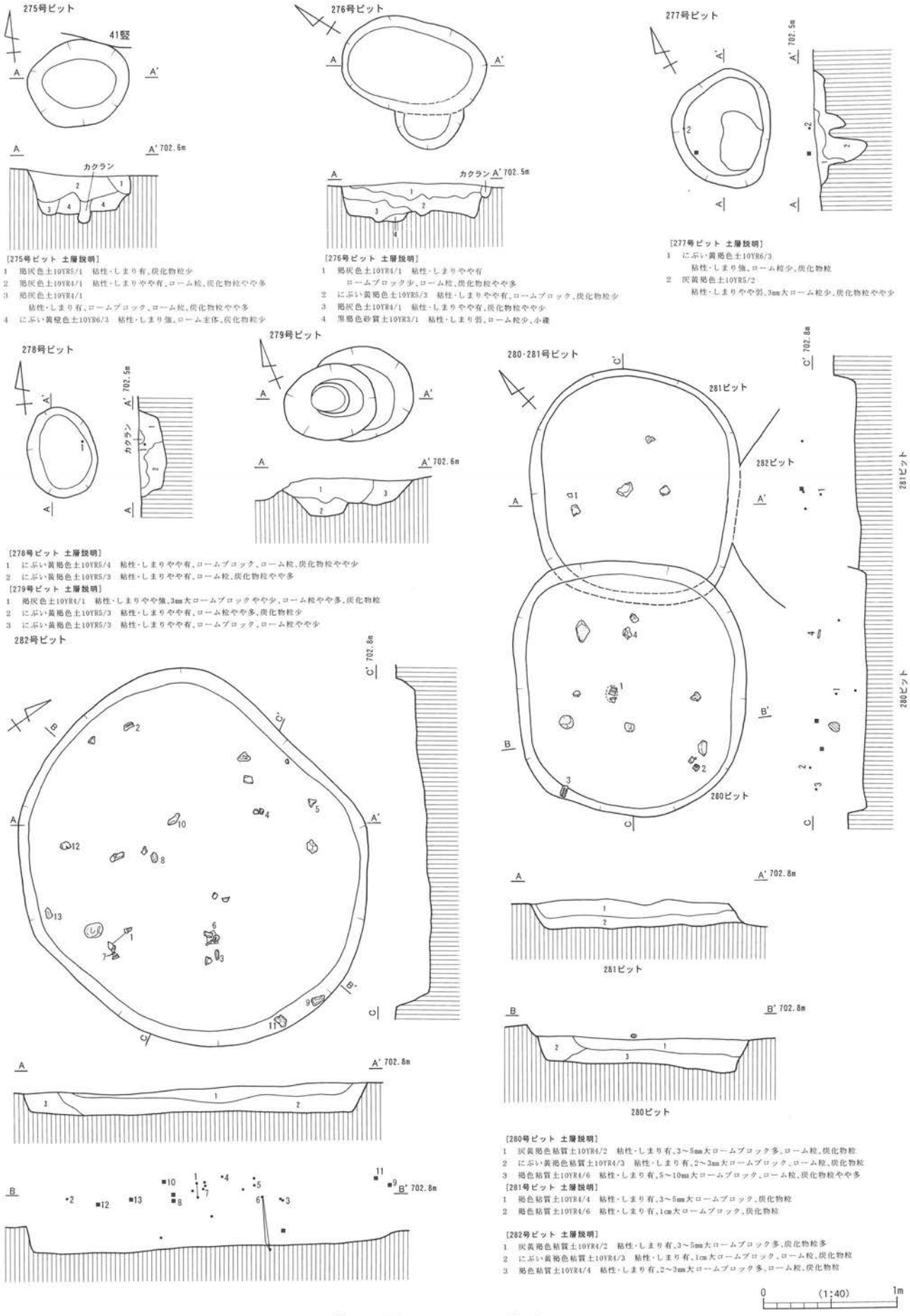
[264号ピット 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/6
粘性・しまり有,3～5mm大ロームブロック,炭化物粒
2 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有
3mm大ロームブロック,ローム粒,炭化物粒
3 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有
1cm大ロームブロック多,ローム粒,炭化物粒

[271号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有,ローム粒少,1～2mm大炭化物粒やや多,小礫
2 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有,ローム粒少,炭化物粒やや多
3 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有,ローム粒少,炭化物粒やや多,酸化鉄多
4 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有,ローム粒,炭化物粒やや少
5 褐灰色土10YR5/1 粘性・しまりやや有,ローム粒,炭化物粒少,灰色粘土塊少

[270号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有
5～10mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒
2 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有
2～5mm大ロームブロック,ローム粒多,炭化物粒

[272～274号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有,1～2mm大ローム粒少,1～2mm大炭化物粒やや多
2 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有,ローム粒,炭化物粒やや少
3 にぶい黄褐色土10YR6/3 粘性・しまりやや有,ローム主体,1～2mm大炭化物粒やや多,灰色粘土塊
4 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有,ローム主体,1～2mm大炭化物粒やや多,灰色粘土塊
5 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有,3～4mm大ロームブロックやや少,ローム粒,炭化物粒やや多
6 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまりやや有,ロームブロック・ローム粒,炭化物粒少
7 にぶい黄褐色土10YR6/3 粘性・しまりやや有,ローム主体,炭化物粒少,焼土粒少
8 にぶい黄褐色土10YR6/3 粘性・しまりやや有,ローム主体,炭化物粒激少,焼土粒
9 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有,ロームブロック,ローム粒,炭化物粒やや少,焼土粒ブロック少
10 にぶい黄褐色土10YR6/3 粘性・しまりやや有,ロームブロック,ローム粒,炭化物粒少
11 にぶい黄褐色土10YR6/3 粘性・しまりやや有,ロームブロック・ローム粒やや少,炭化物粒激少

第195図 262～264・270～274号ピット



[275号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR5/1 粘性・しまり有,炭化物粒少
2 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有,ローム粒,炭化物粒やや多
3 褐灰色土10YR4/1
粘性・しまり有,ロームブロック,ローム粒,炭化物粒やや多
4 にぶい黄褐色土10YR6/3 粘性・しまり強,ローム主体,炭化物粒少

[276号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有
ロームブロック少,ローム粒,炭化物粒やや多
2 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまりやや有,ロームブロック,炭化物粒少
3 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや有,炭化物粒やや少
4 黒褐色砂質土10YR3/1 粘性・しまり弱,ローム粒少,小礫

[277号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR6/3
粘性・しまり強,ローム粒少,炭化物粒
2 灰黄褐色土10YR5/2
粘性・しまりやや弱,3mm大ローム粒少,炭化物粒やや少

[278号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性・しまりやや有,ロームブロック,ローム粒,炭化物粒やや少
2 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまりやや有,ローム粒,炭化物粒やや多

[279号ピット 土層説明]
1 褐灰色土10YR4/1 粘性・しまりやや強,3mm大ロームブロックやや少,ローム粒やや多,炭化物粒
2 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまりやや有,ローム粒やや多,炭化物粒少
3 にぶい黄褐色土10YR5/3 粘性・しまりやや有,ロームブロック,ローム粒やや少

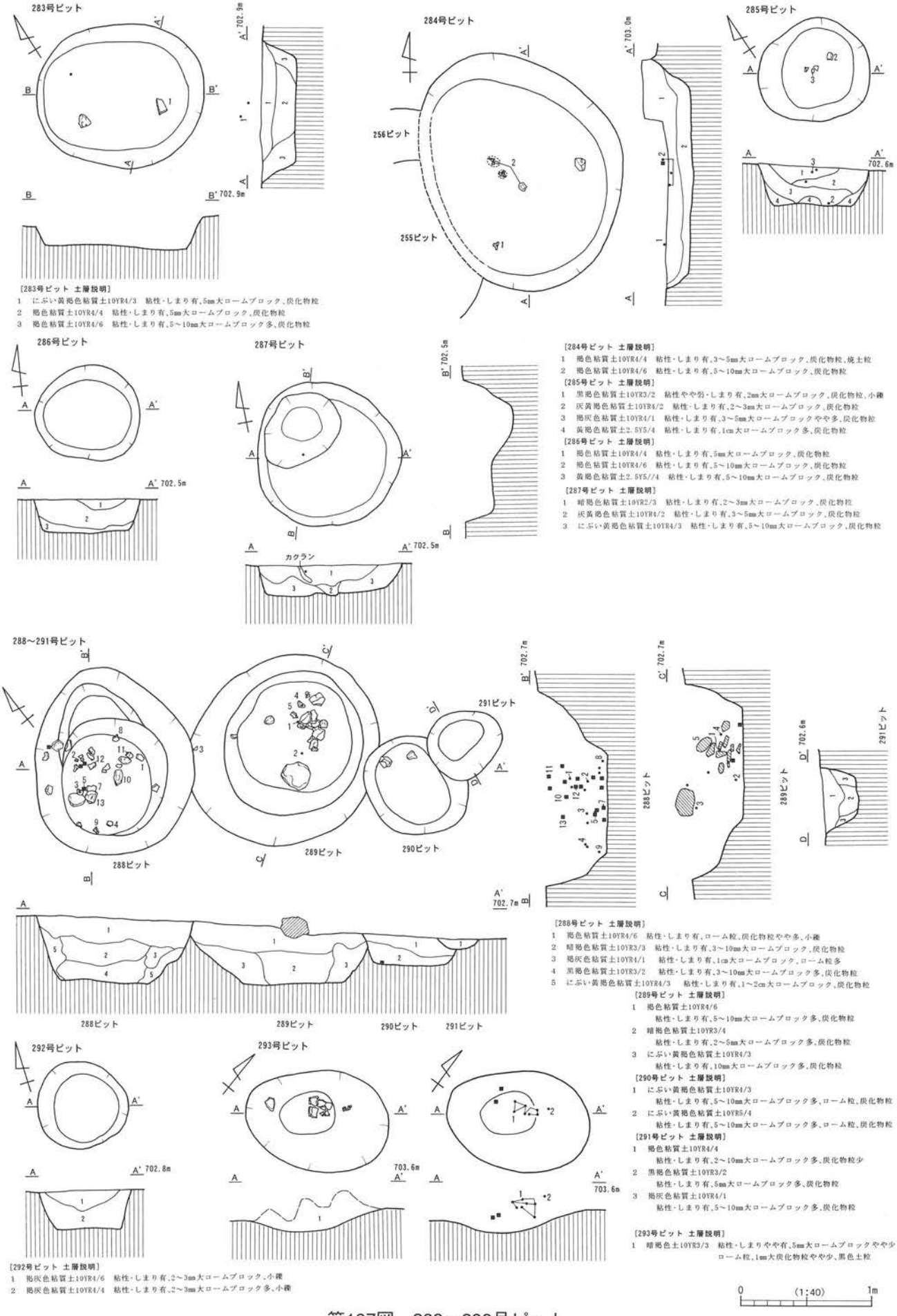
[280号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有,3～5mm大ロームブロック多,ローム粒,炭化物粒
2 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有,2～3mm大ロームブロック,ローム粒,炭化物粒
3 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有,5～10mm大ロームブロック,ローム粒,炭化物粒やや多

[281号ピット 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有,3～5mm大ロームブロック,炭化物粒
2 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック,炭化物粒

[282号ピット 土層説明]
1 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有,3～5mm大ロームブロック多,炭化物粒多
2 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有,1cm大ロームブロック,ローム粒,炭化物粒
3 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有,2～3mm大ロームブロック多,ローム粒,炭化物粒

0 (1:40) 1m

第196図 275～282号ピット



[283号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有、5mm大ロームブロック、炭化物粒
2 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、5mm大ロームブロック、炭化物粒
3 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック多、炭化物粒

[284号ピット 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、3～5mm大ロームブロック、炭化物粒、焼土粒
2 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック、炭化物粒

[285号ピット 土層説明]
1 黒褐色粘質土10YR3/2 粘性やや弱・しまり有、2mm大ロームブロック、炭化物粒、小礫
2 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有、2～3mm大ロームブロック、炭化物粒
3 褐灰色粘質土10YR4/1 粘性・しまり有、3～5mm大ロームブロックやや多、炭化物粒
4 黄褐色粘質土2.5Y5/4 粘性・しまり有、1cm大ロームブロック多、炭化物粒

[286号ピット 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、5mm大ロームブロック、炭化物粒
2 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック、炭化物粒
3 黄褐色粘質土2.5Y5/4 粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック、炭化物粒

[287号ピット 土層説明]
1 暗褐色粘質土10YR2/3 粘性・しまり有、2～3mm大ロームブロック、炭化物粒
2 灰黄褐色粘質土10YR4/2 粘性・しまり有、3～5mm大ロームブロック、炭化物粒
3 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック、炭化物粒

[288号ピット 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有、ローム粒、炭化物粒やや多、小礫
2 暗褐色粘質土10YR3/3 粘性・しまり有、3～10mm大ロームブロック、炭化物粒
3 褐灰色粘質土10YR4/1 粘性・しまり有、1cm大ロームブロック、ローム粒多
4 黒褐色粘質土10YR3/2 粘性・しまり有、3～10mm大ロームブロック多、炭化物粒
5 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3 粘性・しまり有、1～2cm大ロームブロック、炭化物粒

[289号ピット 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/6
粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック多、炭化物粒
2 暗褐色粘質土10YR3/4
粘性・しまり有、2～5mm大ロームブロック多、炭化物粒
3 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
粘性・しまり有、10mm大ロームブロック多、炭化物粒

[290号ピット 土層説明]
1 にぶい黄褐色粘質土10YR4/3
粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒
2 にぶい黄褐色粘質土10YR5/4
粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック多、ローム粒、炭化物粒

[291号ピット 土層説明]
1 褐色粘質土10YR4/4
粘性・しまり有、2～10mm大ロームブロック多、炭化物粒少
2 黒褐色粘質土10YR3/2
粘性・しまり有、5mm大ロームブロック多、炭化物粒
3 褐灰色粘質土10YR4/1
粘性・しまり有、5～10mm大ロームブロック多、炭化物粒

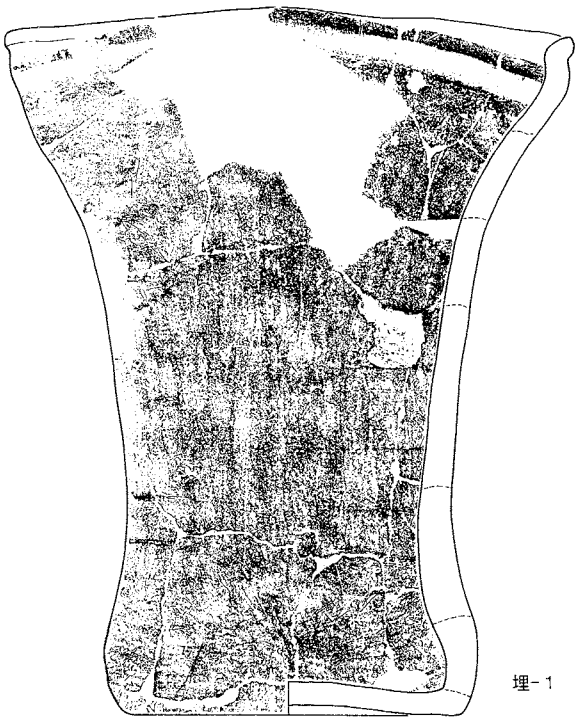
[292号ピット 土層説明]
1 褐灰色粘質土10YR4/6 粘性・しまり有、2～3mm大ロームブロック、小礫
2 褐灰色粘質土10YR4/4 粘性・しまり有、2～3mm大ロームブロック多、小礫

[293号ピット 土層説明]
1 暗褐色土10YR3/3 粘性・しまりやや有、5mm大ロームブロックやや少
ローム粒、1mm大炭化物粒やや少、黒色土粒

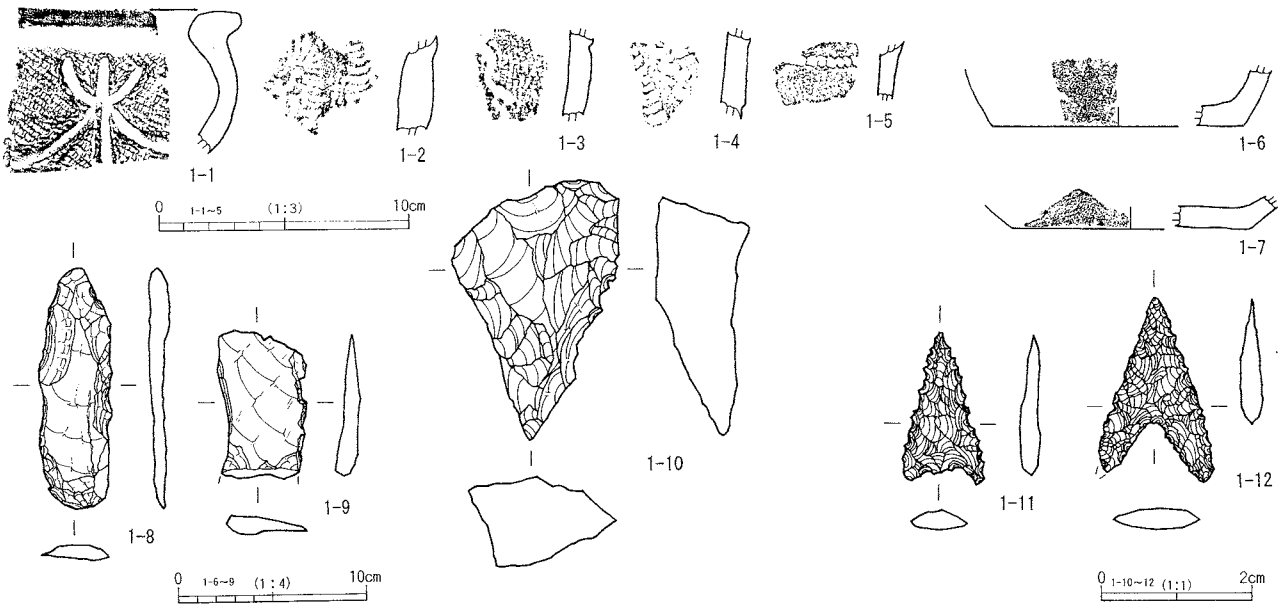
0 (1:40) 1m

第197図 283～293号ピット

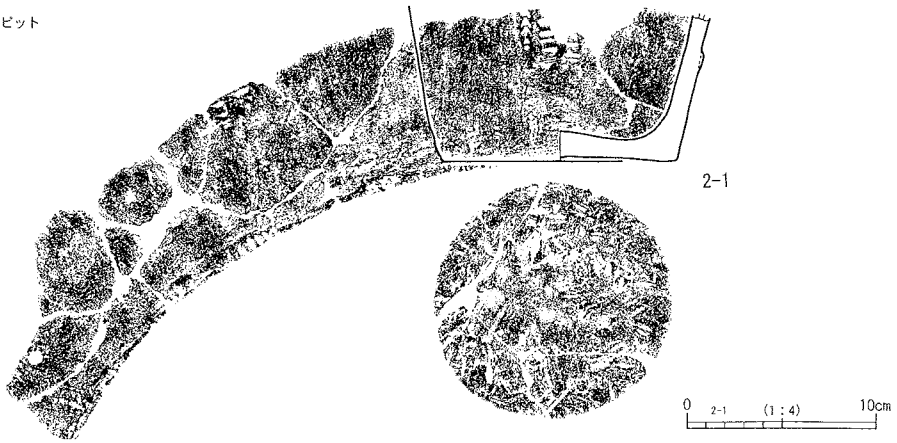
埋設土器



1号ピット

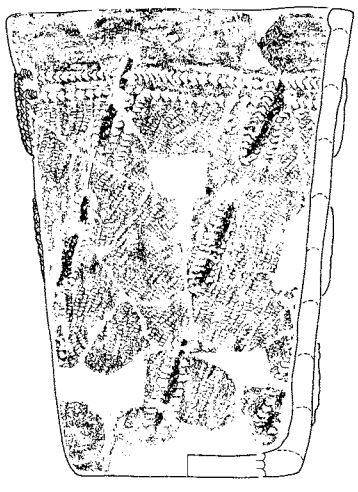


2号ピット

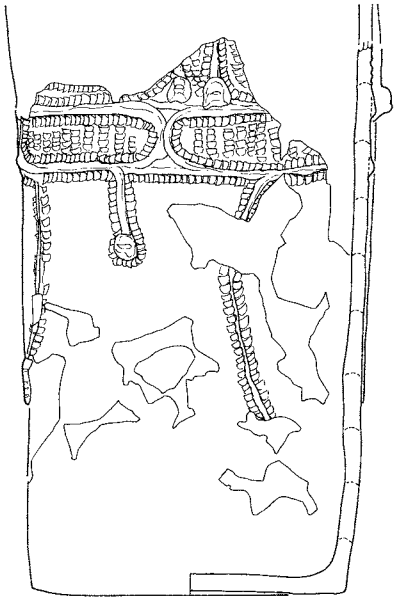


第198図　埋設土器、1号ピット、2号ピット（1）出土遺物

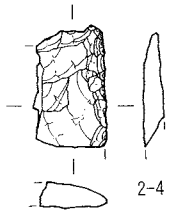
2号ピット



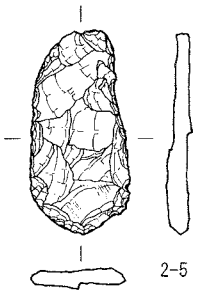
2-2



2-3

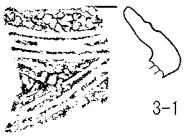


2-4



2-5

3号ピット

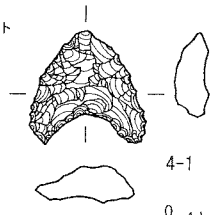


3-1

3-2

3-3

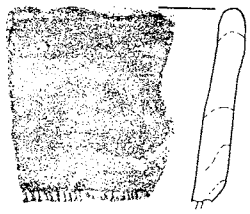
4号ピット



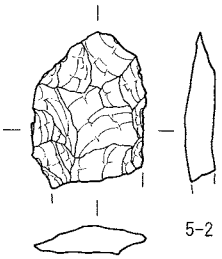
4-1

0 4-1 (1:1) 2cm

5号ピット

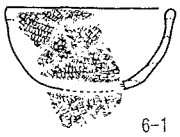


5-1

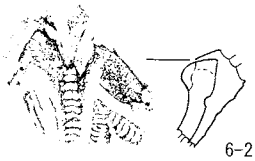


5-2

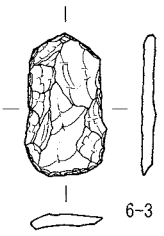
6号ピット



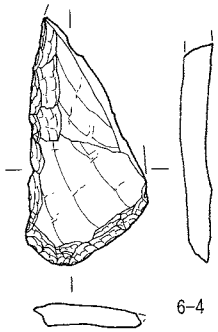
6-1



6-2

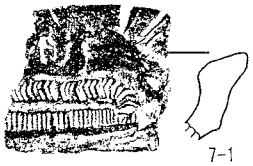


6-3



6-4

7号ピット



7-1

7-2

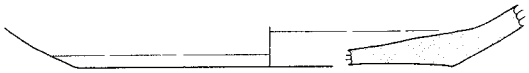
7-3

7-4

7-5

2-2~5, 3-3
5-2,
6-1·3~4 (1:4) 10cm

8号ピット

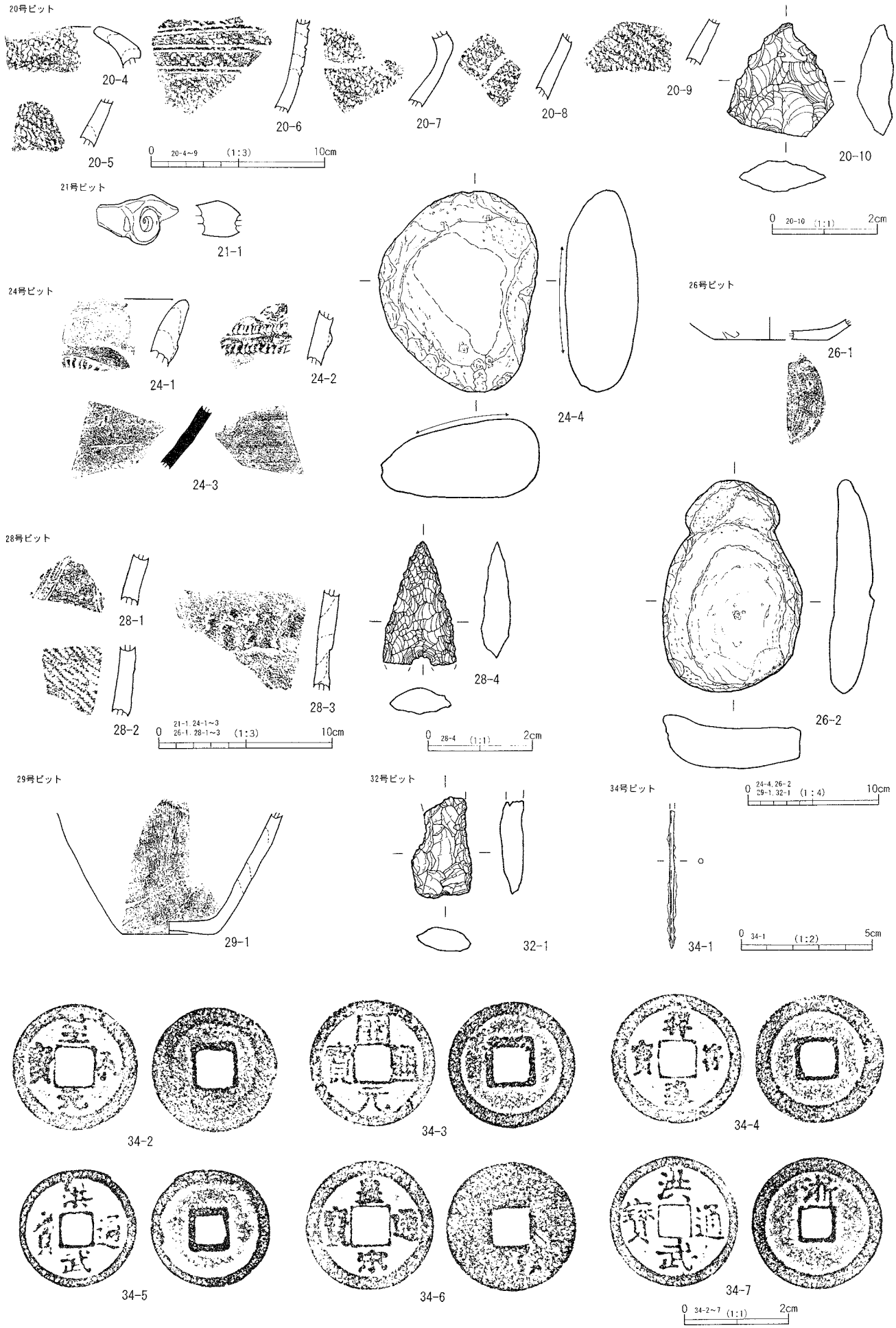


8-1

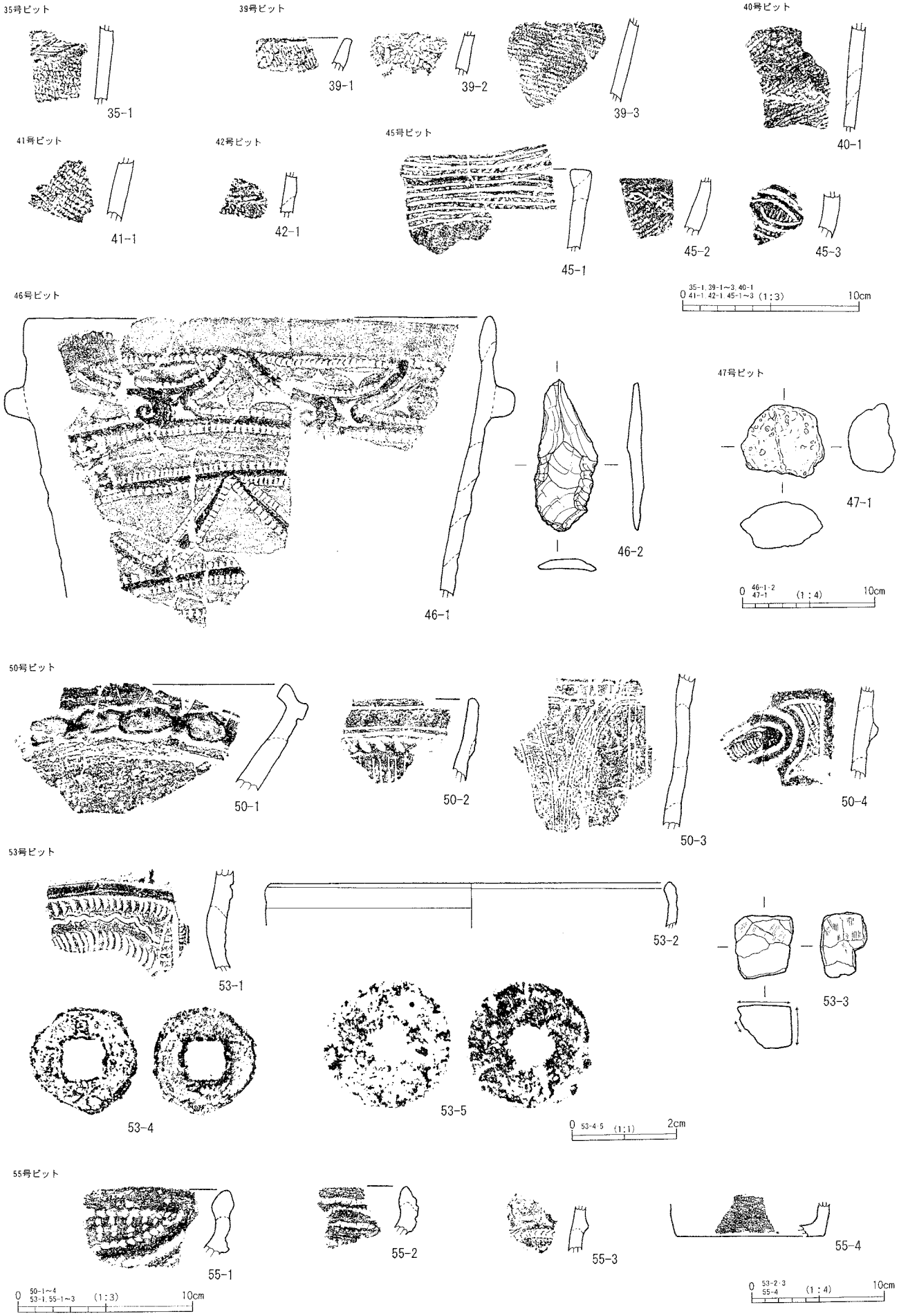
3-1·2, 5-1, 6-2
7-1~5, 8-1 (1:3) 10cm

第199図　2号ピット(2)、3～8号ピット出土遺物

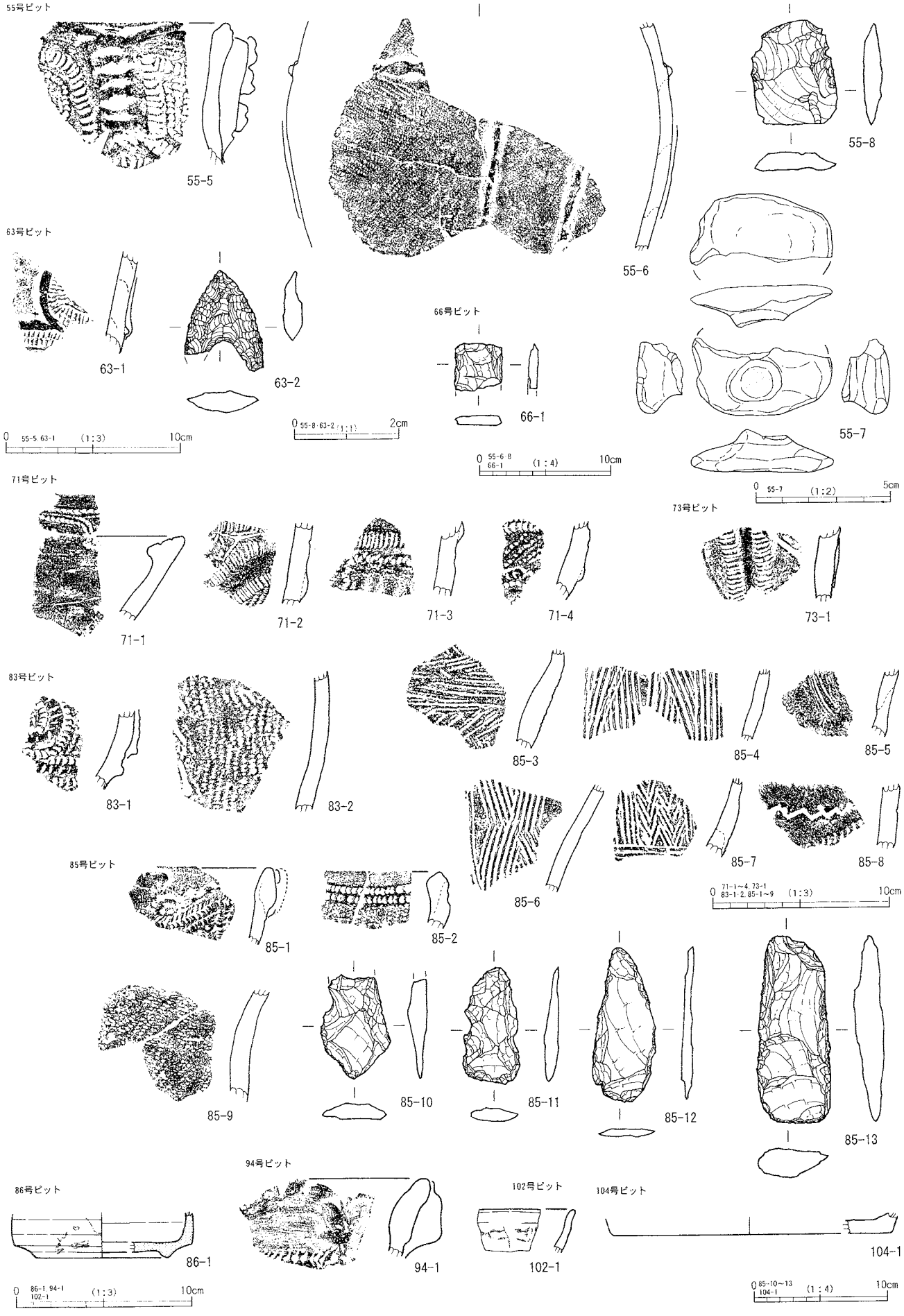
第200図　9～12・14～19号ピット、20号ピット（1）出土遺物



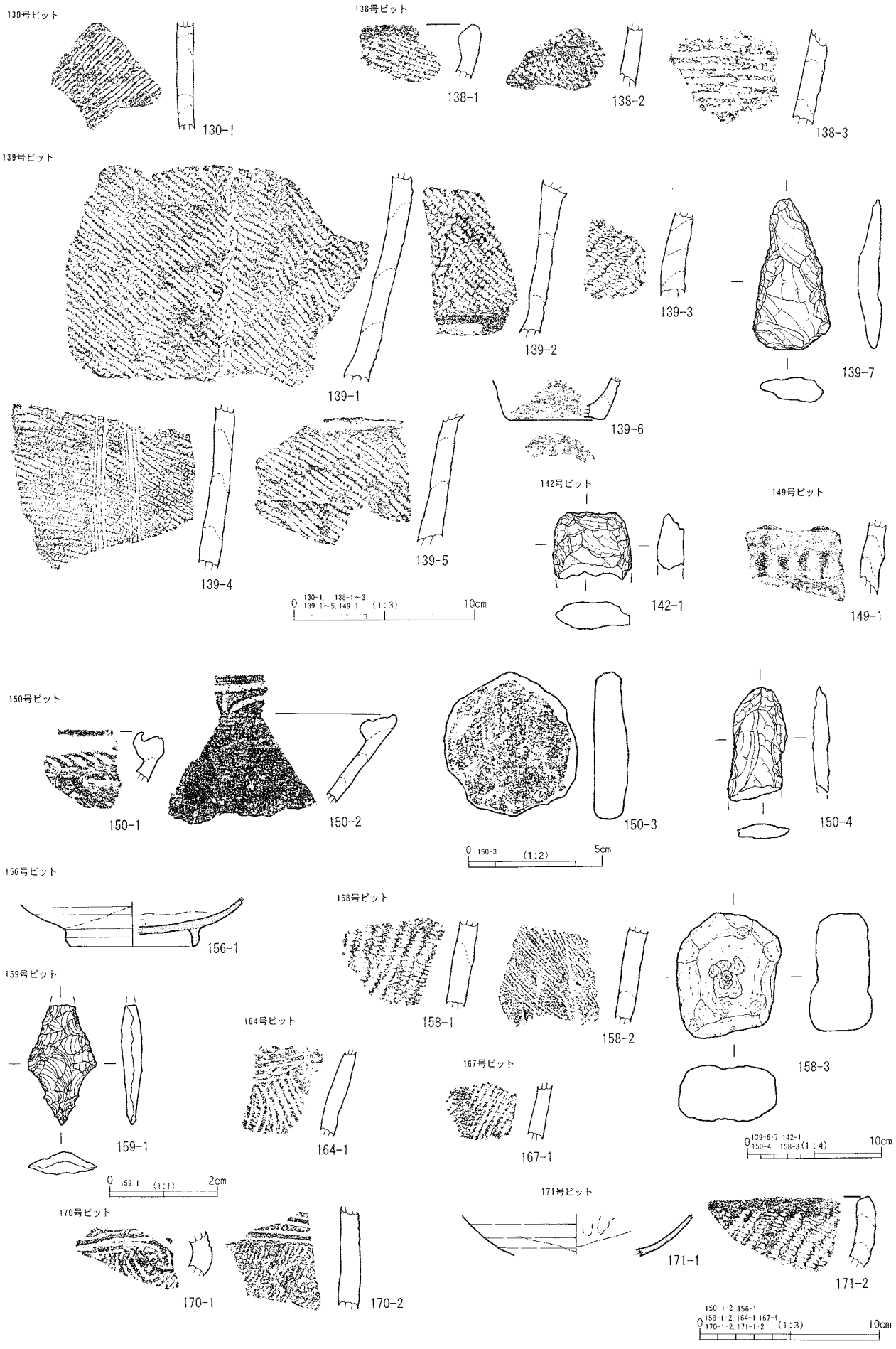
第201図　20号ピット(2)、21・24・26・28・29・32・34号ピット出土遺物



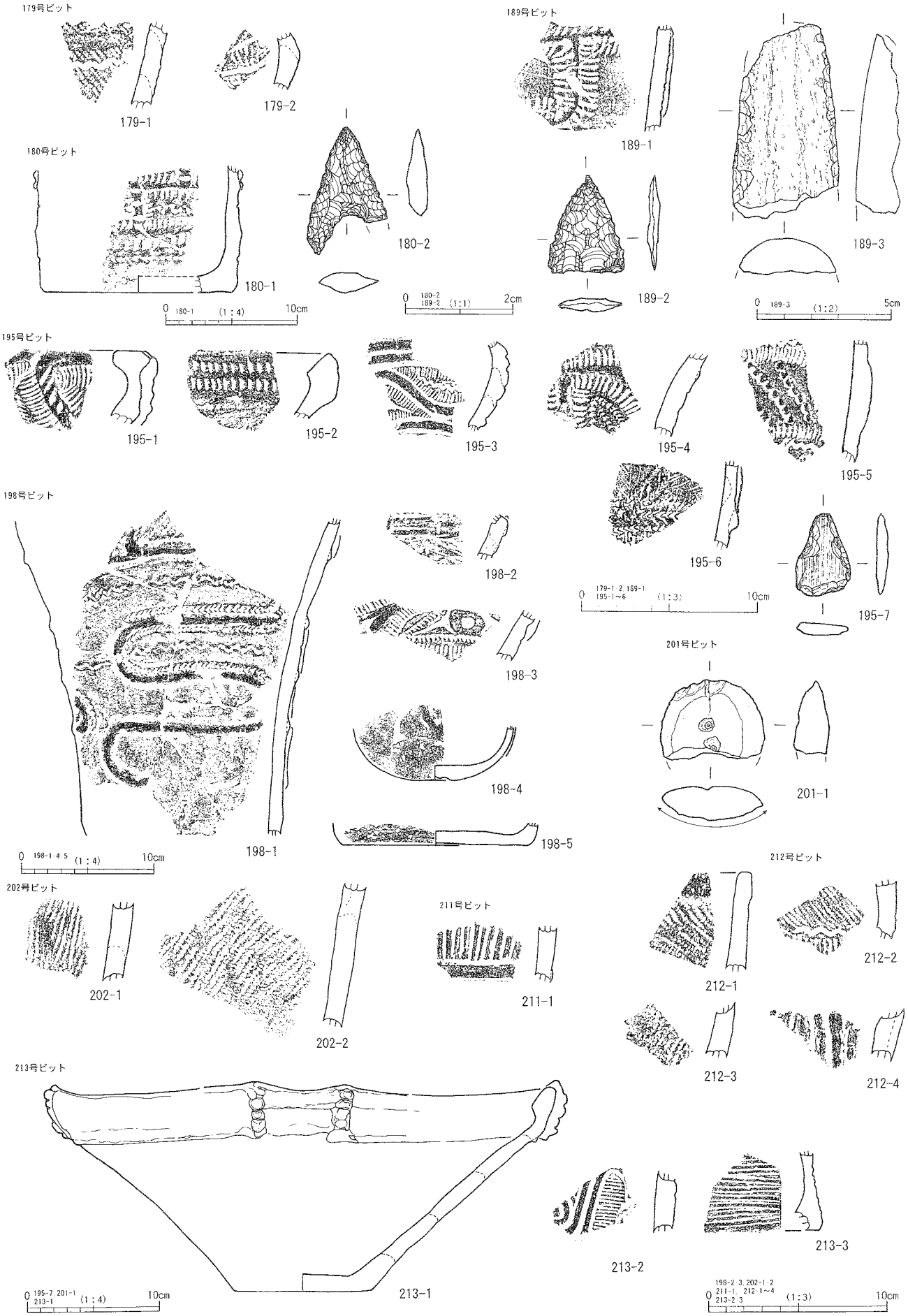
第202図　35・39～42・45～47・50・53・55号ピット（1）出土遺物



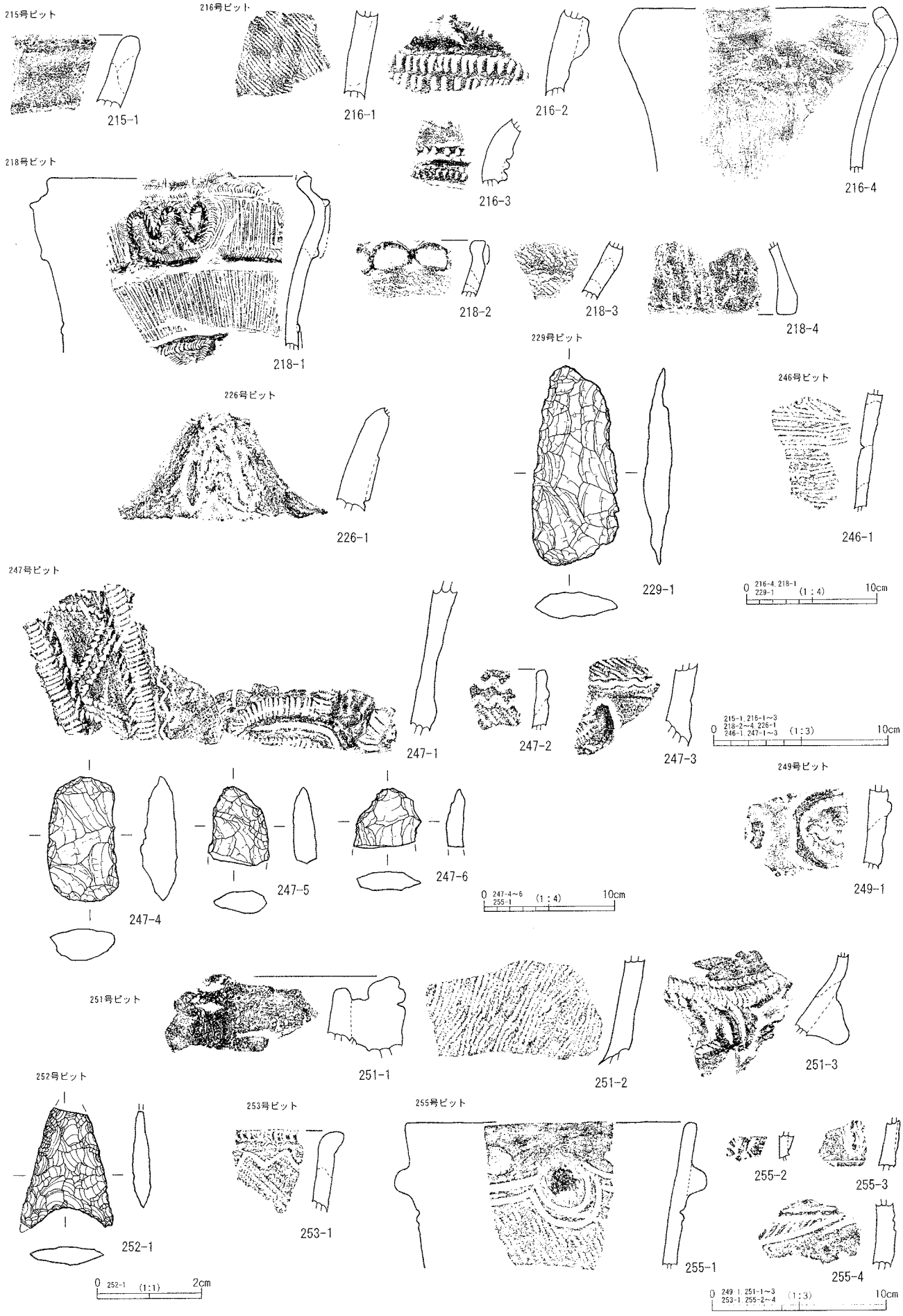
第203図　55（2）・63・66・71・73・83・85・86・94・102・104号ピット出土遺物



第204図　130・138・139・142・149・150・156・158・159・164・167・170・171号ピット出土遺物

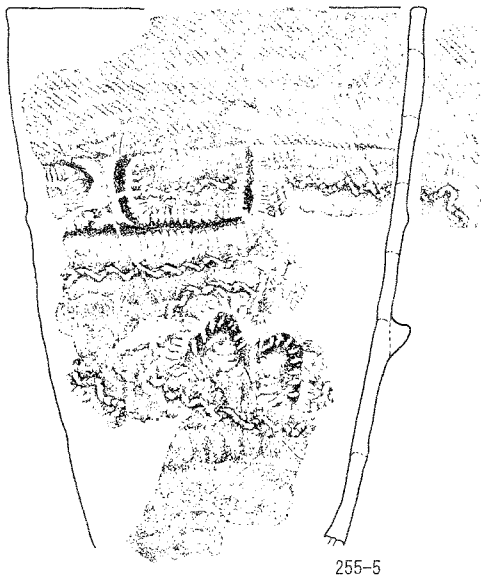


第205図　179・180・189・195・198・201・202・211～213号ピット出土遺物

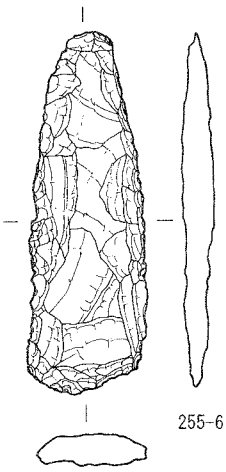


第206図　215・216・218・226・229・246・247・249・251・252・253・255号ピット（1）出土遺物

255号ピット



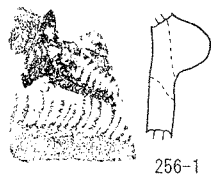
255-5



255-6

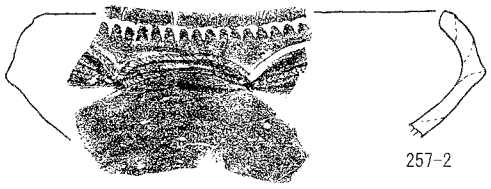
0 255-5・6 (1:4) 10cm

256号ピット



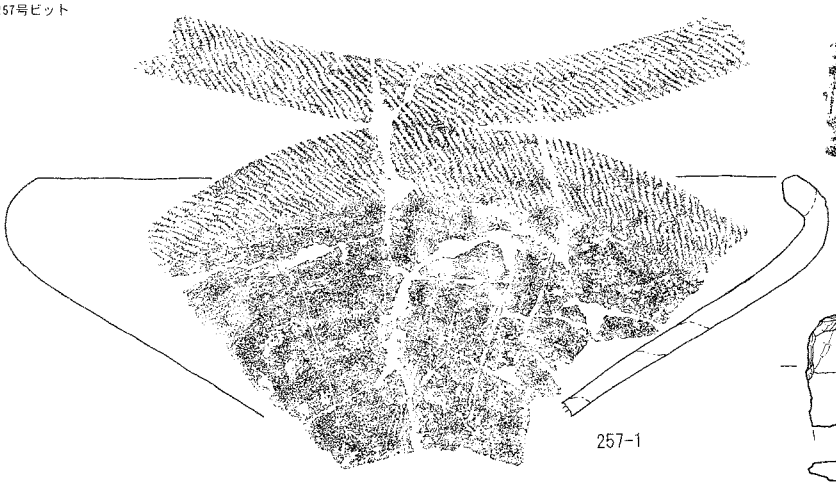
256-1

0 256-1 (1:3) 10cm

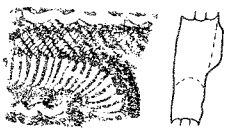


257-2

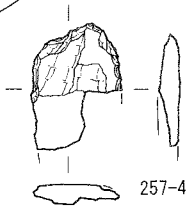
257号ピット



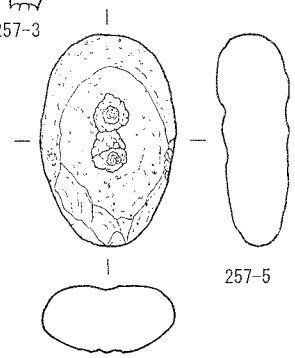
257-1



257-3



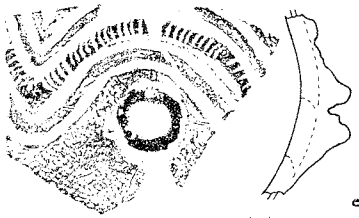
257-4



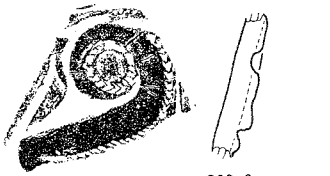
257-5

0 257-1・2・4・5 (1:4) 10cm

260号ピット



260-1

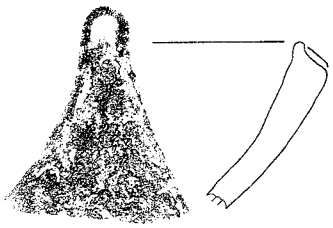


260-2

260-3

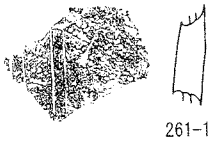
258号ピット

258-1



258-2

261号ピット

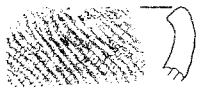


261-1

261-2

0 257-3・258-1・2 260-1~3・261-1・2 (1:3) 10cm

262号ピット



262-1

262-2

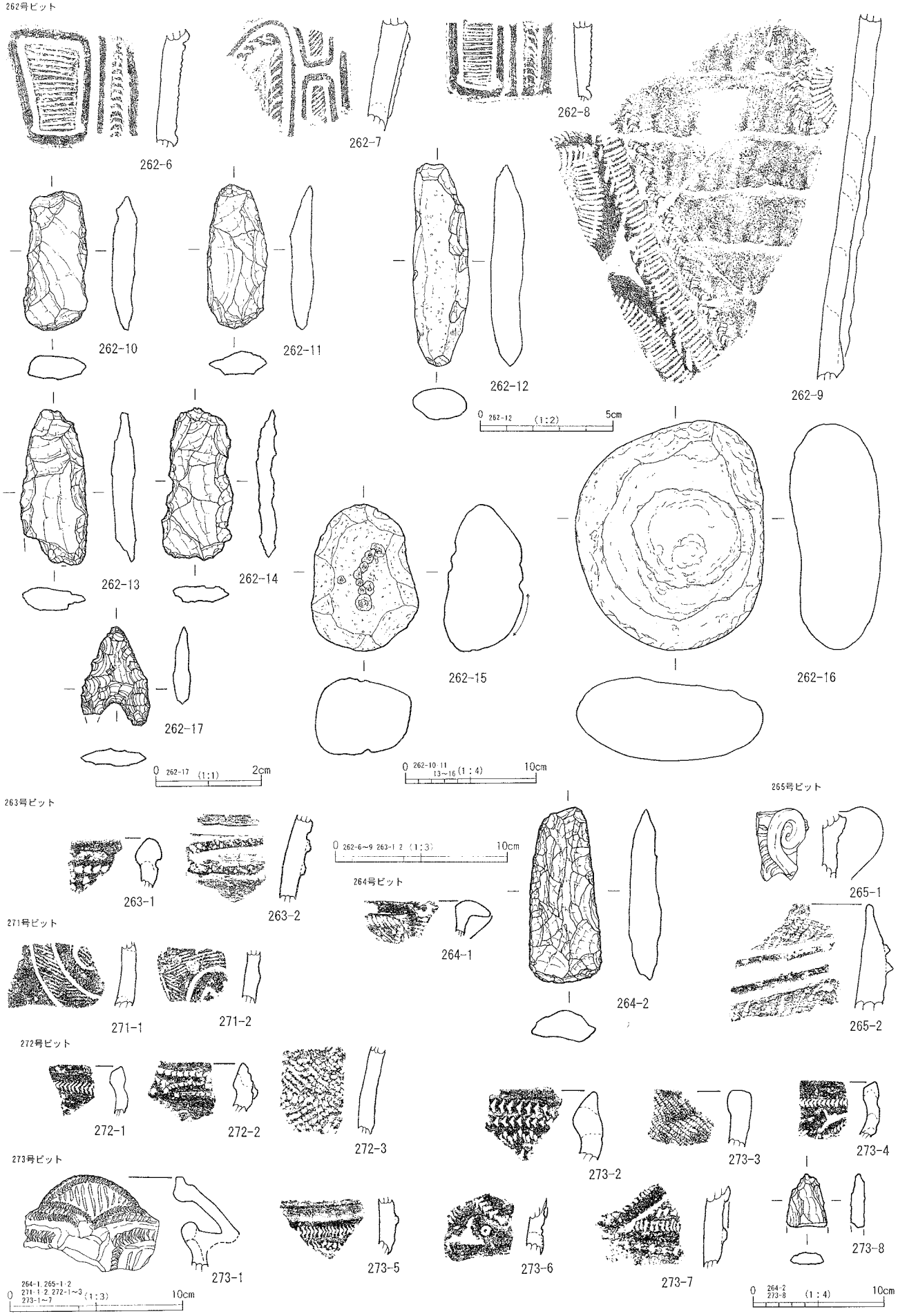
262-3

262-4

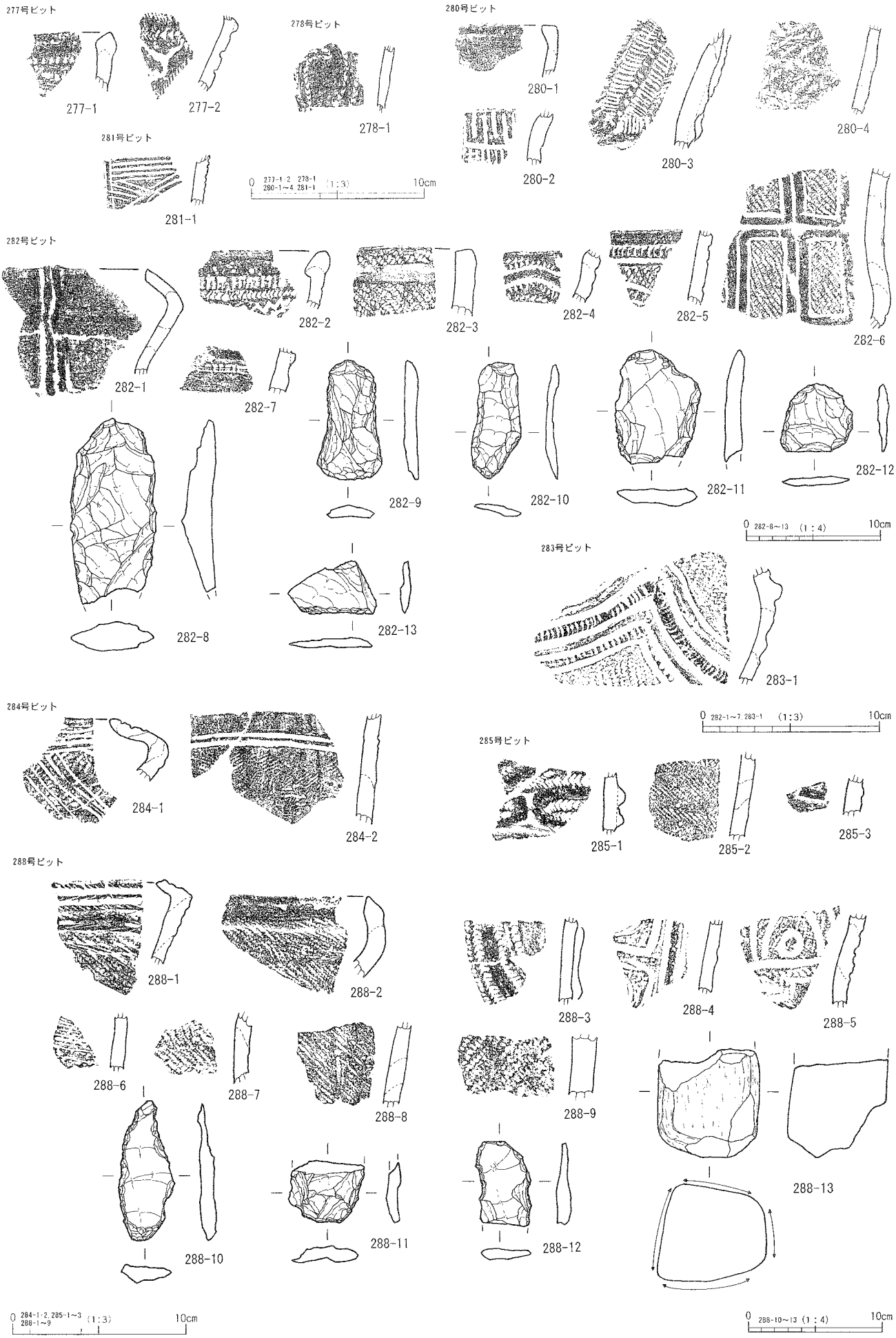
262-5

0 262-1~5 (1:3) 10cm

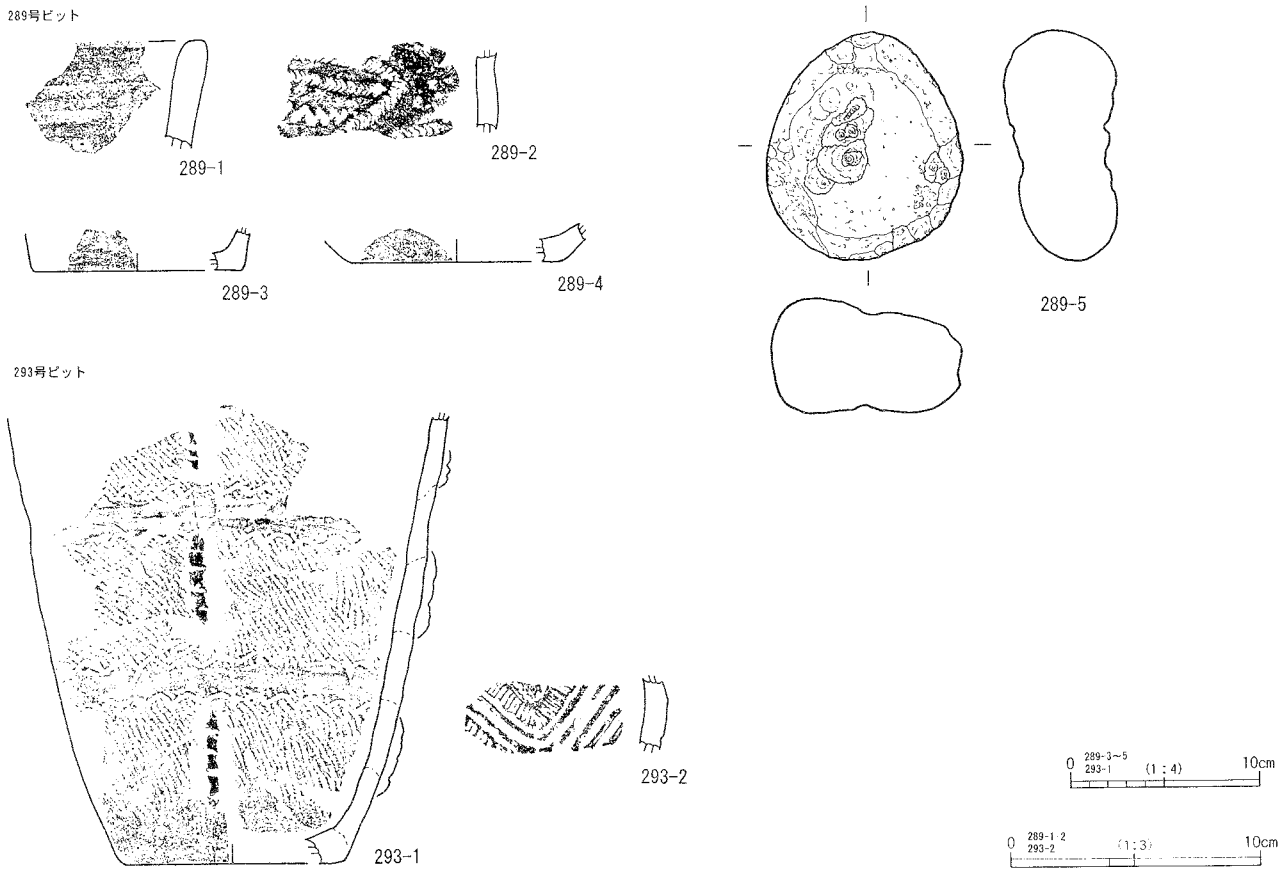
第207図　255号ピット(2)、256～258・260・261号ピット、262号ピット(1)出土遺物



第208図　262号ピット(2)、263～265・271～273号ピット出土遺物



第209図　277・278・280・282～285・288号ピット出土遺物



第210図　289・293号ピット出土遺物

(5) 溝

本遺跡で確認されている溝跡は、中世および近世以降に帰属するものが大半といえる。その性格も、一部道状遺構としても捉えられる溝もあるが、その大半は畑等の地境溝や根切り溝等といえる。出土遺物も縄文時代から近世のものが混在しており、その量も少ない。

1号溝（遺構第211図／遺物第218図）

南北に走る溝で、A18～21B14グリッドの範囲で検出されており、北側でやや湾曲している。8号竪穴建物の上部を切り込んで、総延長約11.5m、最大幅約0.6m、深さ0.2mを測る。図示できた遺物は1点のみで、甲斐型甕の口縁部破片である。

2号溝（遺構第211図／遺物第218図）

東西に走る溝で、A17～18B11～14グリッドの範囲で検出されている。総延長約19m、最大幅0.75m、深さ0.2mを測る。溝中央部付近でやや遺物の集中がみられる。図示した遺物は、黒色土器坏と甲斐型甕、灰釉陶器片である。

3号溝（遺構第211図）

南北に走る溝で、A18～19B13グリッドの範囲で検出されており、4号溝と併走している。総延長約5.0m、最大幅0.35m、深さ0.12mを測る。図示できた遺物はない。

4号溝（遺構第211図）

南北に走る溝で、A18～21B12・13グリッドの範囲で検出されており、3号溝と併走している。総延長約17m、最大幅0.6m、深さ0.1mを測る。図示できた遺物はない。

5号溝（遺構第212図）

東西に走る溝で、A14～16B10～16グリッドの範囲で検出されており、蛇行している。総延長約33m、最大幅約0.45m、深さ0.17mを測る。溝中央付近あたりで、遺物が散在しているが、図示できた遺物は少ない。

6号溝（遺構第212図）

東西に走る溝で、A16・17B10～16グリッドの範囲で検出されており、5号溝と併走するが、直線的である。総延長約33m、最大幅約0.8m、深さ0.2mを測る。遺物の出土は、ほとんどみられない。

7号溝（遺構第213図／遺物第218図）

東西に斜めに走る溝で、A12～16B9～15グリッドの範囲で検出されており、やや蛇行している。総延長約35m、最大幅約2.0m、深さ最大約0.4mを測る。遺物はほぼ全体にわたってみられるが、22号竪穴建物等、遺構が密集する溝中央部付近は、本溝が多くの遺構を切り込んで構築されているため、遺物の巻き上げに伴う集中傾向がみられる。縄文時代前期後半から中期前葉にかけての土器片や石器がみられる。

8号溝（遺構第213図）

東西に走る溝で、A15・16B9～11グリッドの検出されており、途中、7号溝に連結している。総延長約8.0m、幅最大1.1m、深さ約0.05mを測る。図示できた出土遺物はない。

9号溝（遺構第213図）

南北に走る溝で、A16・17B11グリッドの範囲で検出されている。5号溝に切られている。総延長約5.9m、幅0.2m、深さ0.05mを測る。図示できた出土遺物はない。

10号溝（遺構第214図）

東西および南北に走る溝で、A7～12B13～15グリッドの範囲でL字状に検出されている。現地表面の畑の地境とほぼ一致している。南北延長約22m、東西現長10.5m、最大幅約1.8m、深さ最大0.7mを測る。覆土は暗褐色砂質土を主体としている。遺物は散在する程度で、図示できた出土遺物はない。

11・12号溝（遺構第215図／遺物第218・219図）

東西および南北に走る溝で、A24～26B11～16グリッドの範囲で検出されているが、東側の調査区外へはまだ続いている。平安時代に帰属する30号竪穴建物および縄文時代に帰属する35号・40号竪穴建物等を切り込んで構築されている。また11号溝が12号溝を切って構築されている。11号溝は総延長約28m、最大幅1.55m、深さ0.35mを測る。12号溝は現長約9.3m、最大幅約1.2m、深さ0.4mを測る。

11号溝の覆土は砂混じりで、酸化鉄の集積が顕著である。断面観察によって最低2時期にわたる流水の痕跡がみられる。拳大から人頭大の礫の混入も顕著である。12号溝も同様に酸化鉄の集積が顕著で、流水の痕跡がみられる。しかし11号溝の底面では、所々で硬化面がみられ、当初は道としても使用されていた可能性もある。

出土遺物は、縄文時代と平安時代の竪穴建物を切り込んで構築しているため、同時代の遺物が多い。しかし中世以降と思われる手づくね土器片や常滑製陶器片、石製の長方硯も出土している。

13号溝（遺構第213図）

東西に走る溝で、A14B12グリッド内で検出されており、ごくわずかな範囲の検出である。38号竪穴建物を切り込んで構築されている。現長3.4m、最大幅0.3m、深さ0.08mを測り、出土遺物はない。

14号溝（遺構第216図／遺物第220図）

東西に走る溝で、A13B8・9グリッドの範囲で検出されている。総延長8.9m、最大幅0.9m、深さ0.12mを測る。遺物は少なく、鎌状の鉄製品等がわずかに出土している。

15号溝（遺構第216図／遺物第220図）

東西に走る溝で、A12・13B8・12グリッドの範囲で検出されている。現長約18.5m、最大幅0.95m、深さ0.15mを測る。遺物は散在する程度で、図示できた遺物は黒色土器の高台部と打製石斧程度である。

16号溝（遺構第216図／遺物第220図）

東西に走る溝で、A12・13B9・13グリッドの範囲で検出されている。現長約19.5m、最大幅0.55m、深さ0.45mを測る。覆土はロームブロックを比較的多く含む黒褐色砂質土が主体である。出土遺物は非常に少ない。図示したのは縄文時代中期前葉の深鉢形土器の底部破片である。

17号溝（遺構第217図／遺物第220図）

南北に走る溝で、A21～25B8～10グリッドの範囲で検出され、現地表面の地境とほぼ一致して検出されている。南側は旧河道で途切れているが、北側は調査区外に続いている。縄文時代に帰属する37号竪穴建物を切り込んで構築されている。現長約20.5m、最大幅2.7mm、深さ0.3mを測る。

覆土は褐色砂質土が主体で、礫の混入も多く、流水の痕跡も認められる。遺物は検出域全体にわたって分布しており、縄文時代から近世にわたる土器や陶磁器類が多く出土している。37号竪穴建物に伴うと思われる土器類や石器類も多い。

18号溝（遺構第217図／遺物第220図）

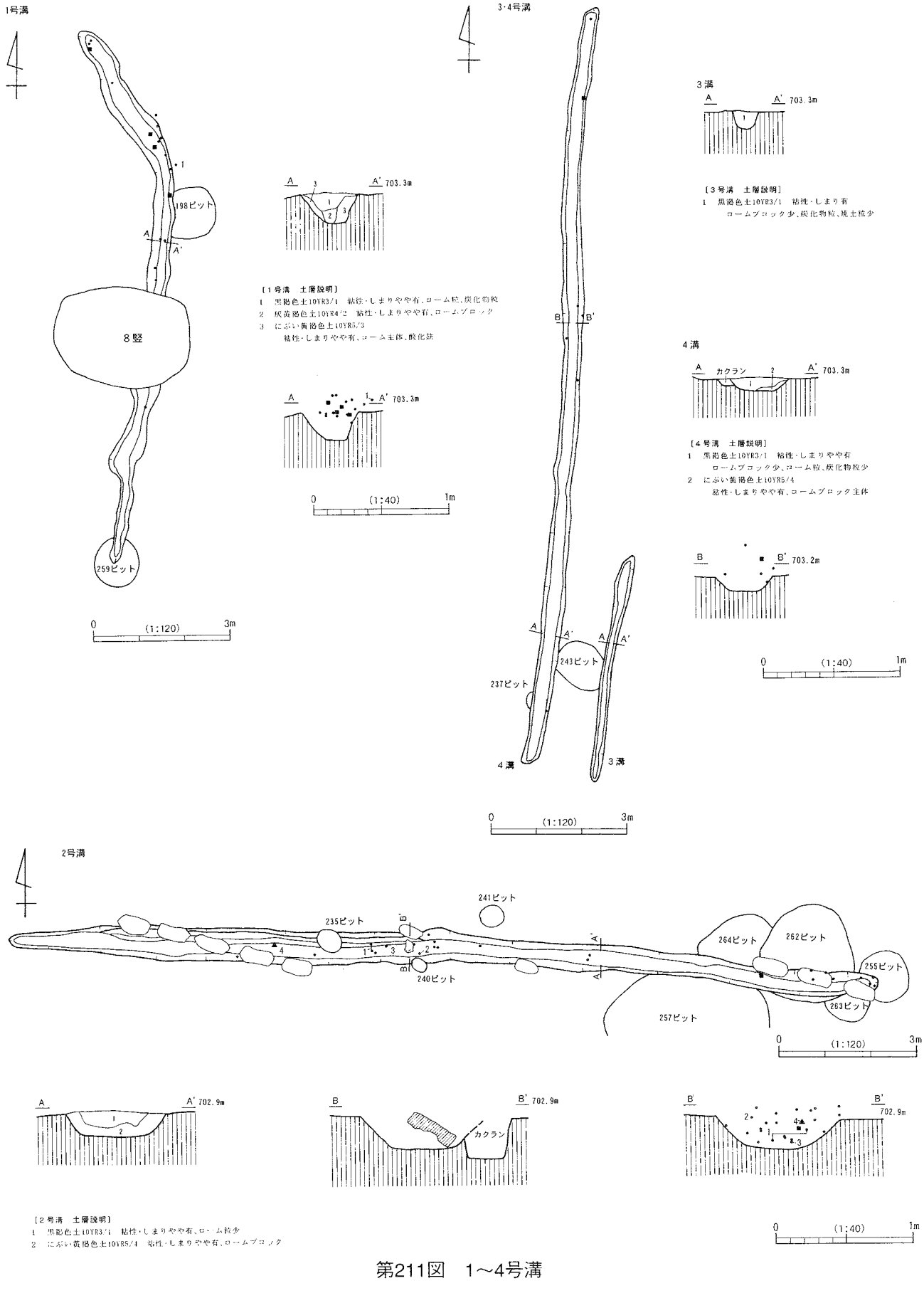
東西に走る溝で、A8 B12・13グリッドの範囲で検出されている。西側は10号溝と連結し、19号溝とも重複している。現長約4.6m、最大幅1.2m、深さ0.25mを測る。覆土は褐灰色砂質土が主体である。出土遺物は少なく、図示できた遺物も少ない。

19号溝（遺構第217図／遺物第220図）

南北に走る溝で、A8B12グリッド内で検出されている。溝というよりは溝状としたほうがいいかもしれない。186号ピットおよび18号溝と重複しており、186号ピットを切り込んで構築されている。現長約1.3m、最大幅0.9m、深さ0.25mを測る。覆土は18号溝と同様に、褐灰色砂質土を主体としている。出土遺物は非常に少なく、性格不明の棒状鉄製品が1点出土しているのみ。

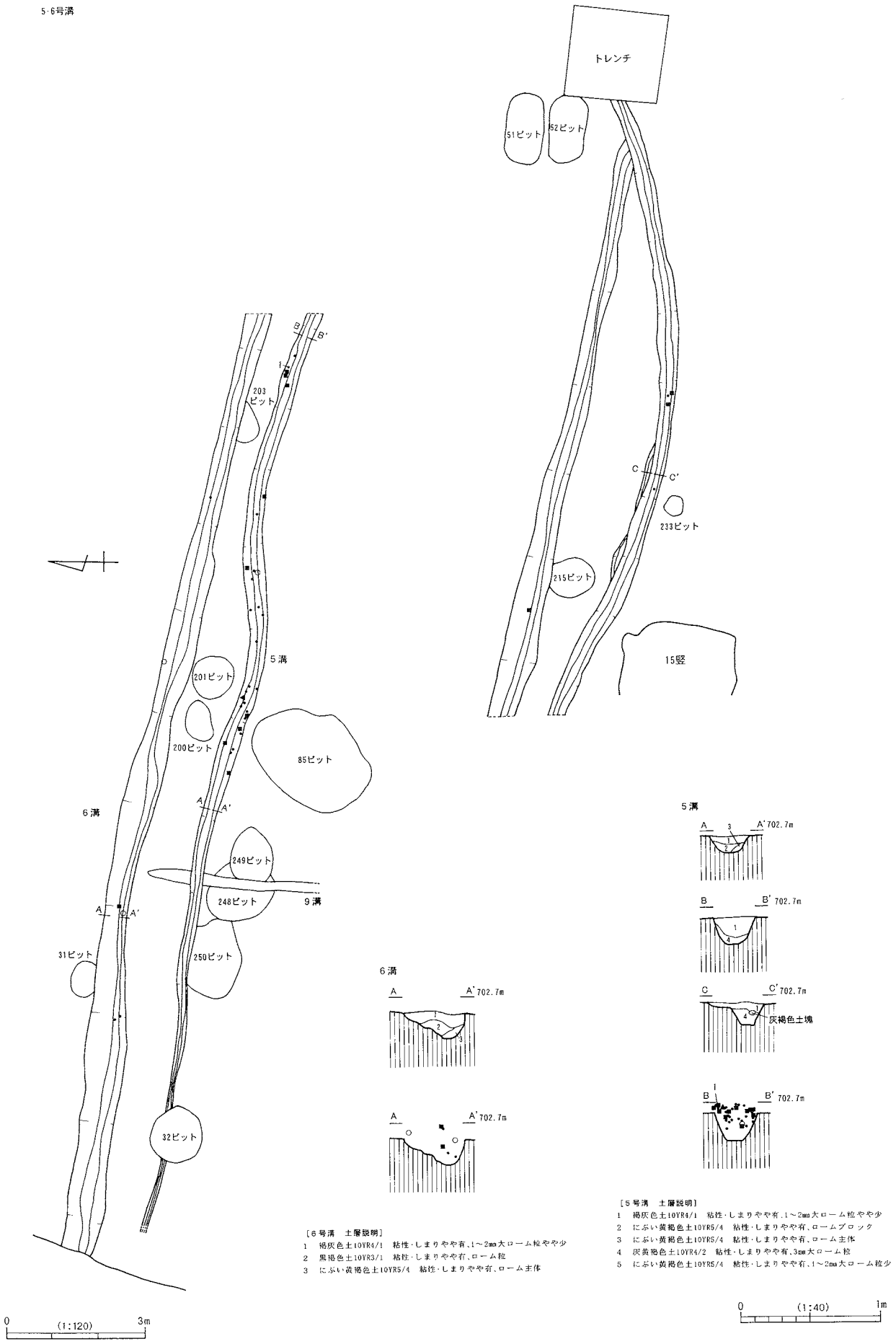
20号溝（遺構第217図）

東西に走る溝で、A8B10・11グリッドの範囲で検出されている。西側は若干調査区外にかかるものの、ほぼ完結するようである。本溝も溝状としたほうがいいかもしれない。現長約3.6m、最大幅0.6m、深さ0.1mを測る。覆土は黒褐色砂質土を主体としている。出土遺物はない。

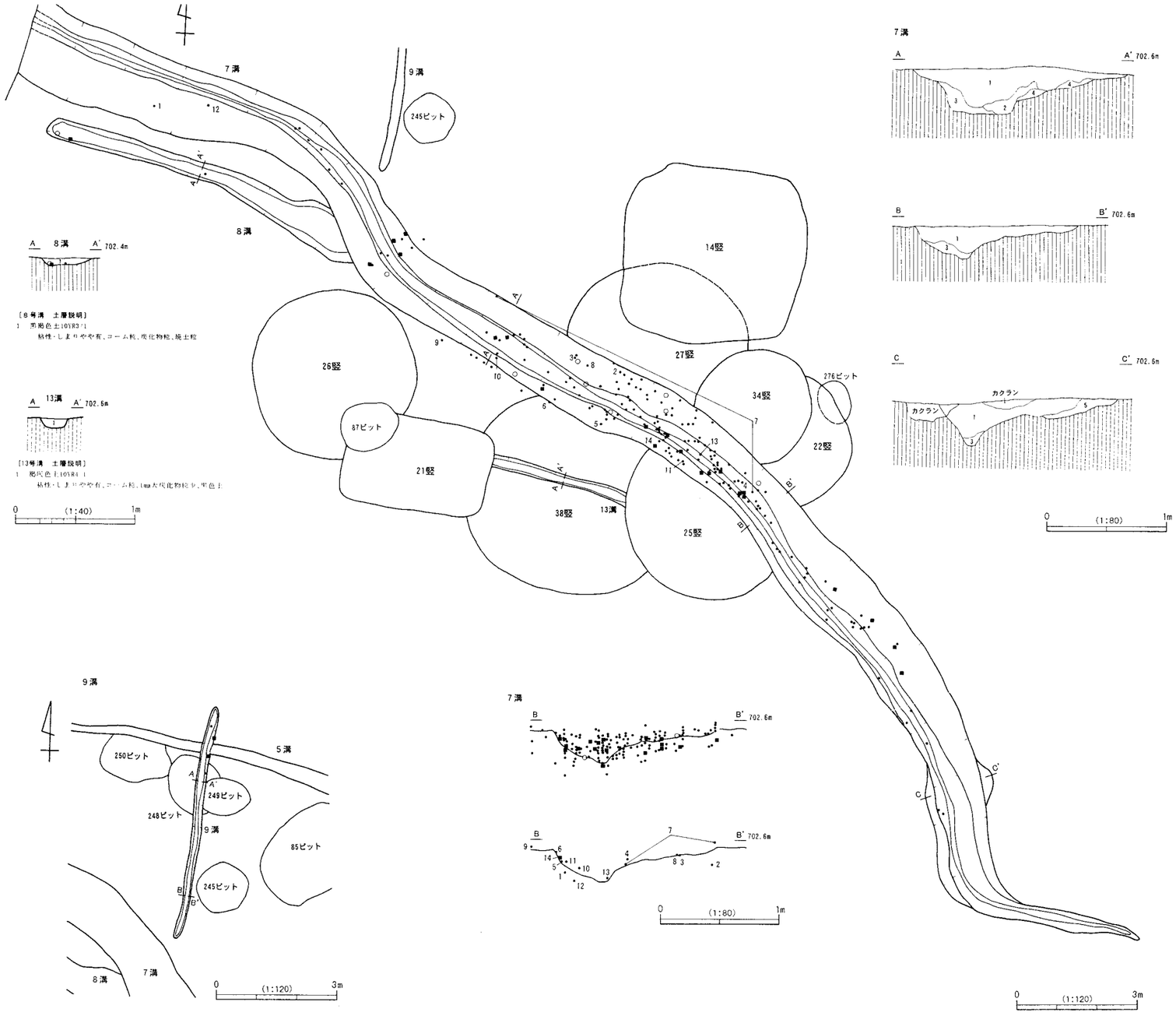

1号溝
198ピット
8竪
259ピット
A
A'
1
0 (1:120) 3m
A 3 A' 703.3m
1
2
3
【1号溝 土層説明】
1 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒
2 灰黄褐色土10YR4/2 粘性・しまりやや有、ローム粒
3 にぶい黄褐色土10YR5/3
粘性・しまりやや有、ローム主体、酸化鉄
A 1 A' 703.3m
0 (1:40) 1m
3・4号溝
B
B'
A
A'
243ピット
237ピット
4溝
3溝
0 (1:120) 3m
3溝
A A' 703.3m
1
【3号溝 土層説明】
1 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまり有
ローム ブロック少、炭化物粒、焼土粒少
4溝
A カクラン ? A' 703.3m
1
【4号溝 土層説明】
1 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有
ローム ブロック少、ローム粒、炭化物粒少
2 にぶい黄褐色土10YR5/4
粘性・しまりやや有、ローム ブロック主体
B B' 703.2m
0 (1:40) 1m
2号溝
241ピット
235ピット
240ピット
264ピット
262ピット
255ピット
263ピット
257ピット
0 (1:120) 3m
A A' 702.9m
1
2
B B' 702.9m
カクラン
B B' 702.9m
1
2
3
4
【2号溝 土層説明】
1 黒褐色土10YR3/1 粘性・しまりやや有、ローム粒少
2 にぶい黄褐色土10YR5/4 粘性・しまりやや有、ローム ブロック
0 (1:40) 1m

第211図 1～4号溝

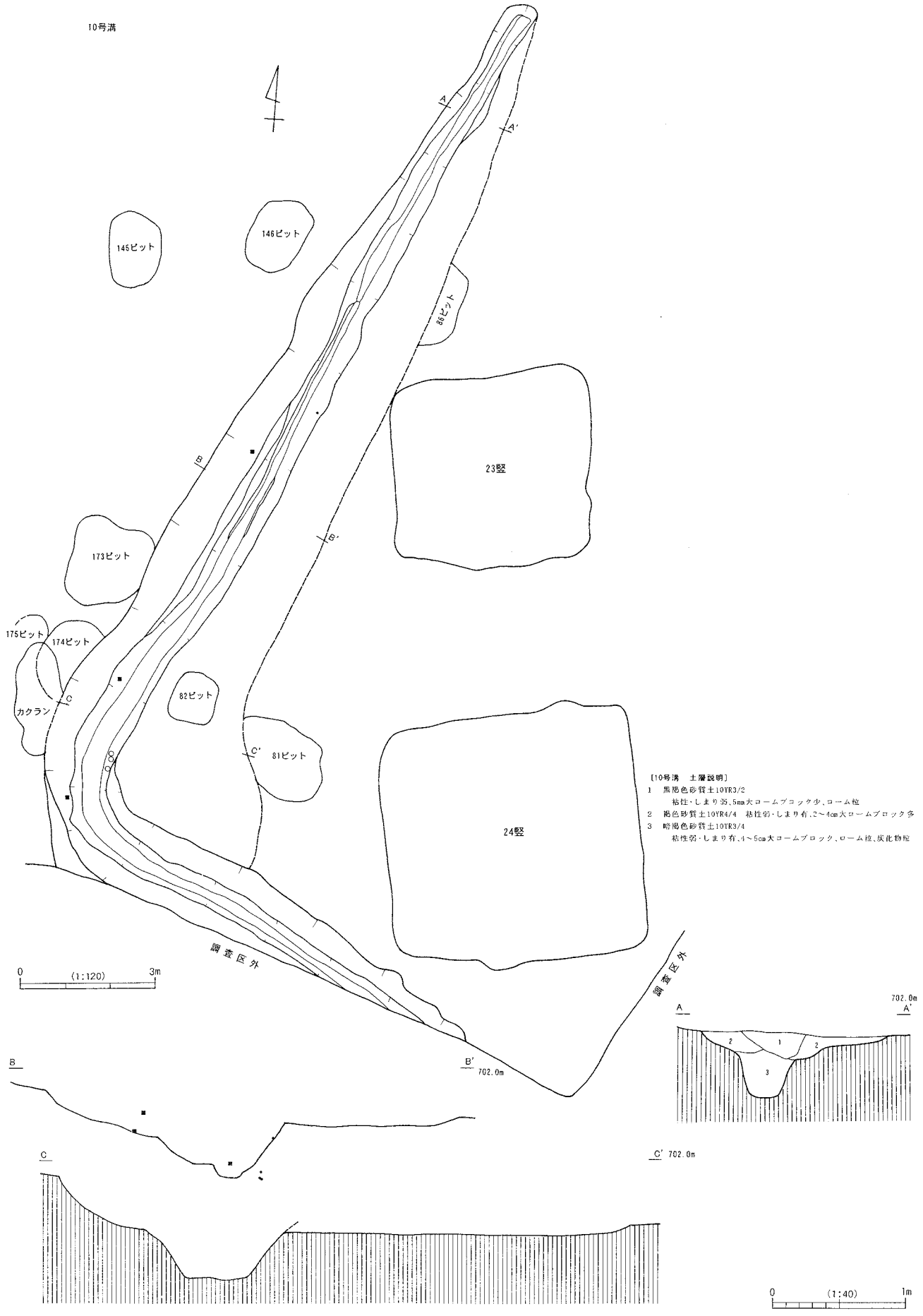
5·6号溝



第212図　5・6号溝



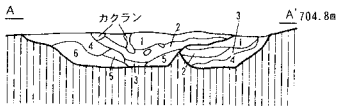
第213図　7・9・13号溝

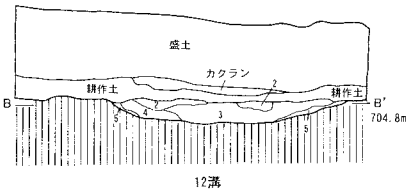

10号溝
145ピット
146ピット
86ピット
23竪
173ピット
175ピット
174ピット
カクラン
82ピット
81ピット
24竪
調査区外
0 (1:120) 3m
【10号溝　土層説明】
1　黒褐色砂質土10YR3/2
粘性・しまり弱、5mm大ロームブロック少、ローム粒
2　褐色砂質土10YR4/4　粘性弱・しまり有、2～4cm大ロームブロック多
3　暗褐色砂質土10YR3/4
粘性弱・しまり有、4～5cm大ロームブロック、ローム粒、炭化物粒
702.0m
0 (1:40) 1m

第214図　10号溝

11·12号溝

〔11号溝　土層説明〕
1　褐色砂質土10YR4/4　粘性・しまり有、2～3mm大ローム ブロック多、炭化物粒
2　褐灰色砂質土10YR4/1　粘性弱・しまり強、ローム粒多、酸化鉄
3　褐灰色砂質土10YR4/1　粘性・しまり弱、ローム粒、小礫多
4　灰黄褐色砂質土10YR4/2　粘性弱・しまり有、2～3mm大ローム粒、炭化物粒多
5　暗褐色砂質土10YR3/4　粘性弱・しまり有、ローム粒、炭化物粒
6　暗褐色砂質土10YR3/3
　粘性弱・しまり有、4～5mm大ローム ブロック少、炭化物粒多

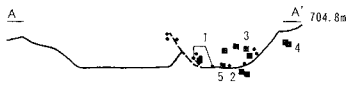


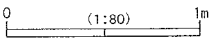


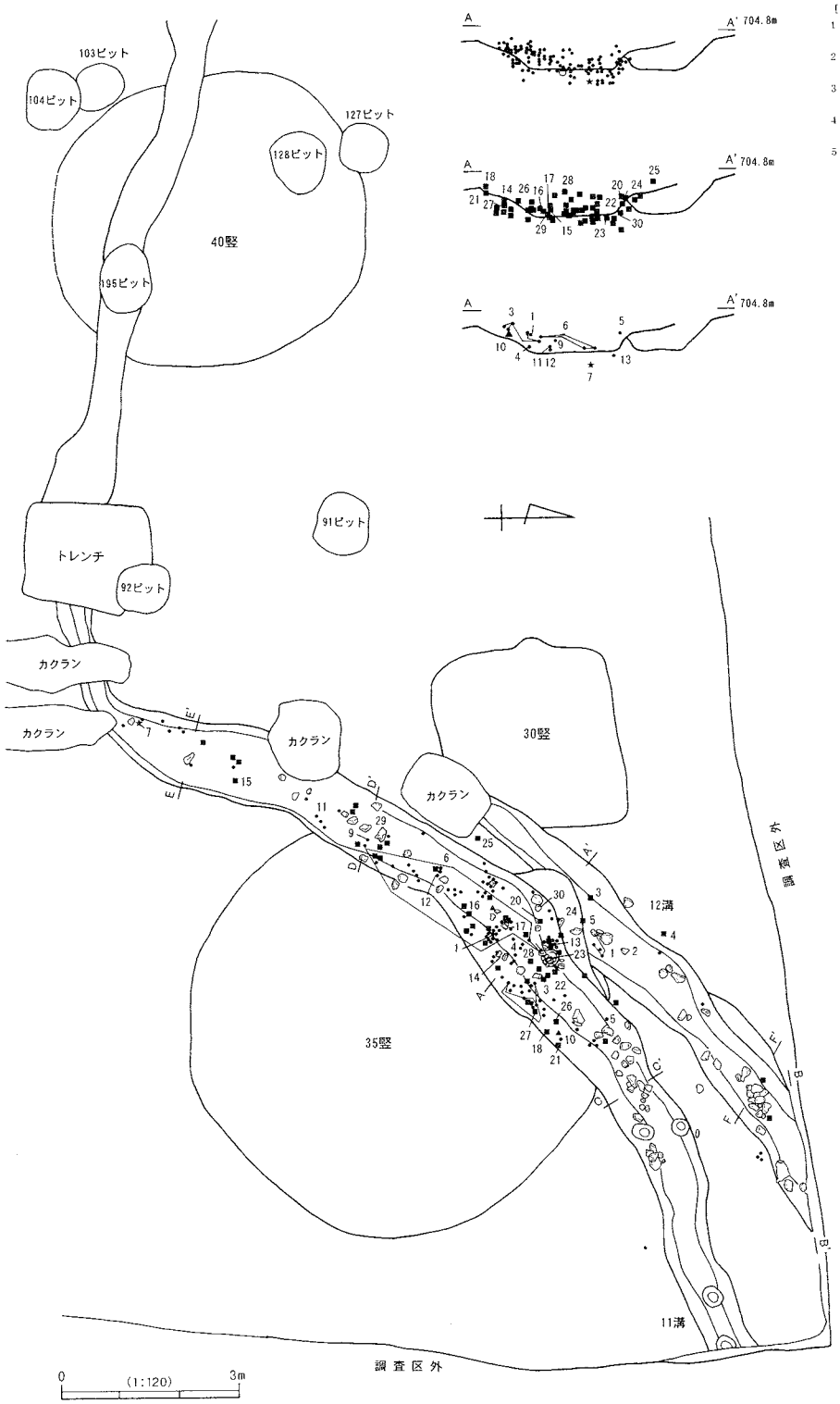
11溝

〔12号溝　土層説明〕
1　灰黄褐色砂質土10YR4/2
　粘性やや弱・しまり有、2～3mm大ローム粒、炭化物粒多
2　褐灰色砂質土10YR5/1　粘性有・しまり強
　3～5cm大ロームブロック主体、3～4mm大ローム粒、炭化物粒少
3　暗褐色砂質土10YR3/3　粘性弱・しまり有
　5～10mm大ロームブロック多、炭化物粒、酸化鉄
4　にぶい黄褐色砂質土10YR4/3
　粘性弱・しまり有、5～20mm大ロームブロック、炭化物粒
5　褐色砂質土10YR4/6
　粘性弱・しまり有、1～2cm大ロームブロック、炭化物粒

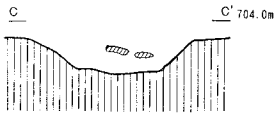
12溝

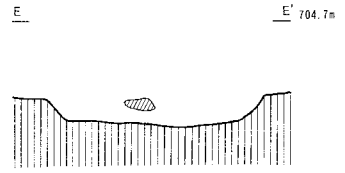




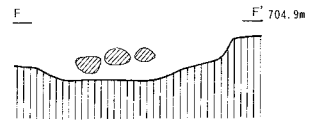


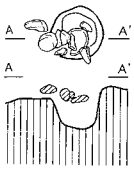
11溝



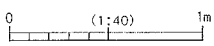


12溝

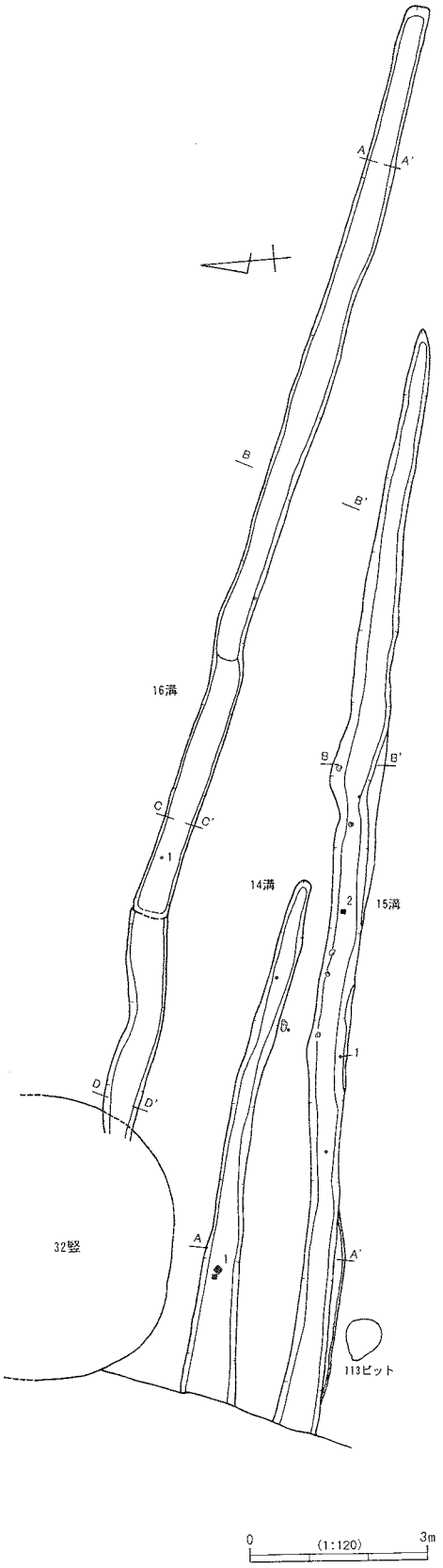


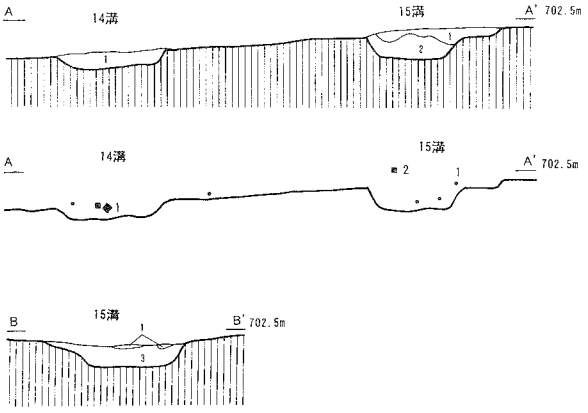


11溝遺物出土微細図



第215図　11・12号溝、11号溝遺物出土微細図

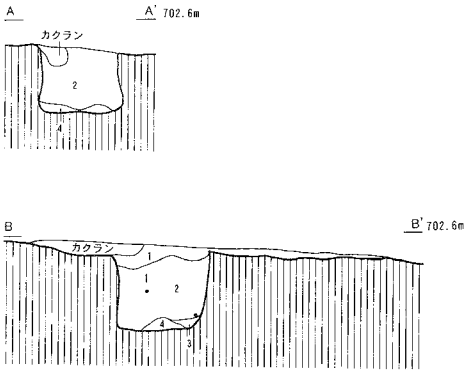




【14号溝　土層説明】
1　黒褐色土10YR3/1　粘性・しまりやや有、ローム粒少、炭化物粒

【15号溝　土層説明】
1　にぶい黄褐色土10YR5/4　粘性弱・しまり有、ローム主体、黒色土
2　黒褐色土10YR3/1　粘性・しまりやや有、ローム粒少、炭化物粒
3　暗褐色土10YR2/3　粘性・しまりやや有、ロームブロック、ローム粒少、炭化物粒

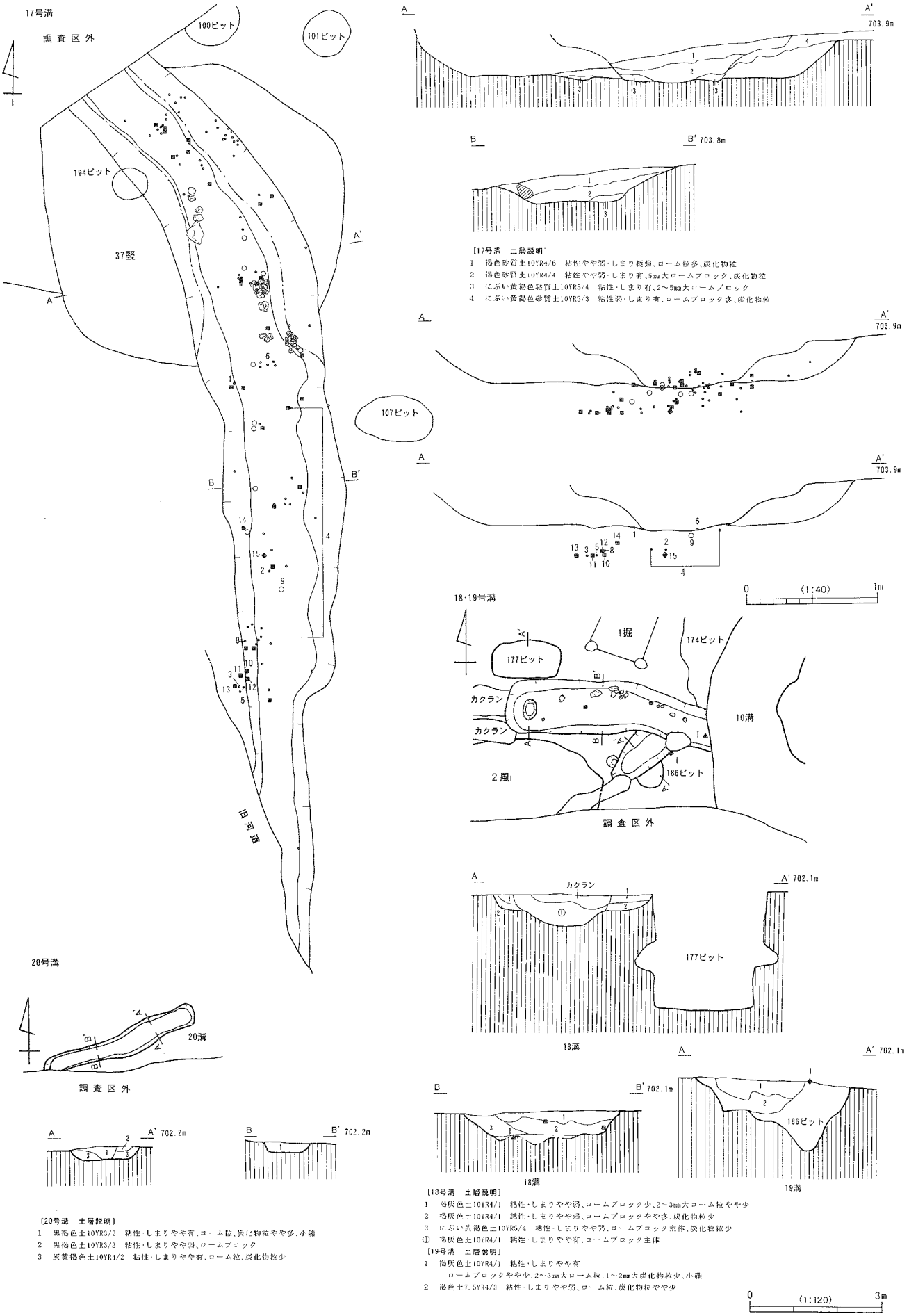
16溝



【16号溝　土層説明】
1　灰黄褐色土10YR4/2　粘性・しまりやや有、ロームブロックやや多、焼土粒少
2　黒褐色土10YR3/2　粘性・しまりやや弱、ロームブロック多、3mm大炭化物粒
3　灰黄褐色土10YR4/2　粘性・しまりやや有、ローム粒少
4　灰黄褐色土10YR4/2　粘性・しまりやや有、ローム粒少
5　黒褐色土10YR3/1　粘性・しまり有、ロームブロックやや少、炭化物粒微少
6　黒褐色土10YR3/2　粘性・しまりやや弱、2cm大ロームブロック、炭化物粒微少
7　黒褐色土10YR3/2　粘性・しまりやや弱、ロームブロック主体

0　(1:40)　1m

第216図　14～16号溝



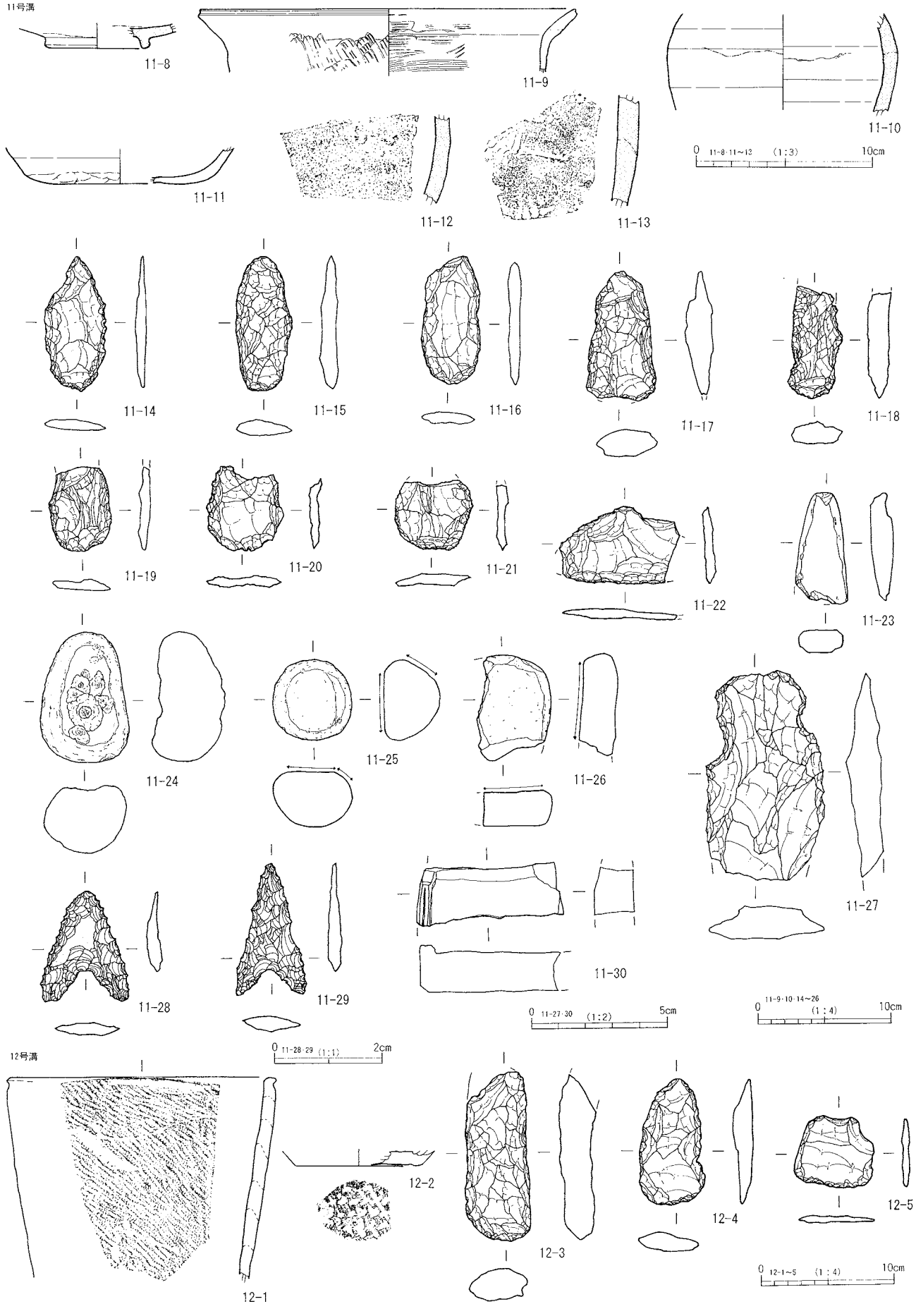
〔17号溝　土層説明〕
1　褐色砂質土10YR4/6　粘性やや弱・しまり極強、ローム粒多、炭化物粒
2　褐色砂質土10YR4/4　粘性やや弱・しまり有、5mm大ロームブロック、炭化物粒
3　にぶい黄褐色粘質土10YR5/4　粘性・しまり有、2～5mm大ロームブロック
4　にぶい黄褐色砂質土10YR5/3　粘性弱・しまり有、ロームブロック多、炭化物粒

〔20号溝　土層説明〕
1　黒褐色土10YR3/2　粘性・しまりやや有、コーム粒、炭化物粒やや多、小礫
2　黒褐色土10YR3/2　粘性・しまりやや弱、ロームブロック
3　灰黄褐色土10YR4/2　粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒少

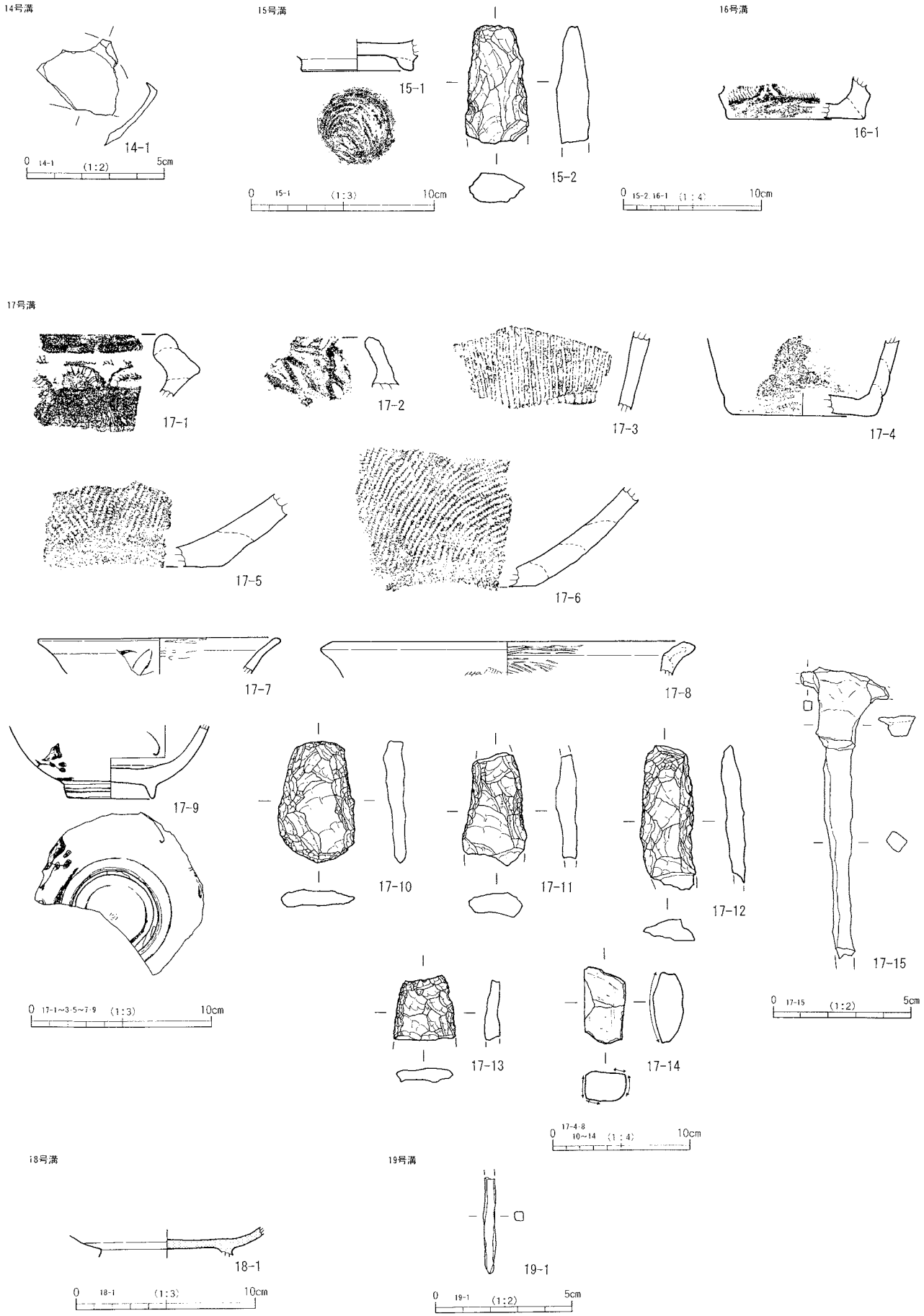
〔18号溝　土層説明〕
1　褐灰色土10YR4/1　粘性・しまりやや弱、ロームブロック少、2～3mm大ローム粒やや少
2　褐灰色土10YR4/1　粘性・しまりやや弱、ロームブロックやや多、炭化物粒少
3　にぶい黄褐色土10YR5/4　粘性・しまりやや弱、ロームブロック主体、炭化物粒少
①　褐灰色土10YR4/1　粘性・しまりやや有、ロームブロック主体
〔19号溝　土層説明〕
1　褐灰色土10YR4/1　粘性・しまりやや有
　ロームブロックやや少、2～3mm大炭化物粒少、小礫
2　褐色土7.5YR4/3　粘性・しまりやや弱、ローム粒、炭化物粒やや少

第217図　17～20号溝

第218図　1・2・7号溝・11号溝（1）出土遺物



第219図　11号溝（2）・12号溝出土遺物



第220図　14～19号溝出土遺物

(6) 旧河道（遺構第221・222図／遺物第223～225図）

旧河道は、縄文時代および平安時代の遺構群が展開する低尾根に展開する、埋没旧河道域内において検出されている。旧河道は幅約５～15ｍを測り、流路を幾筋にも変えながら北から南へ流下している。北側では５本程度の流路、南側では８本程度の流路の存在が確認できる。

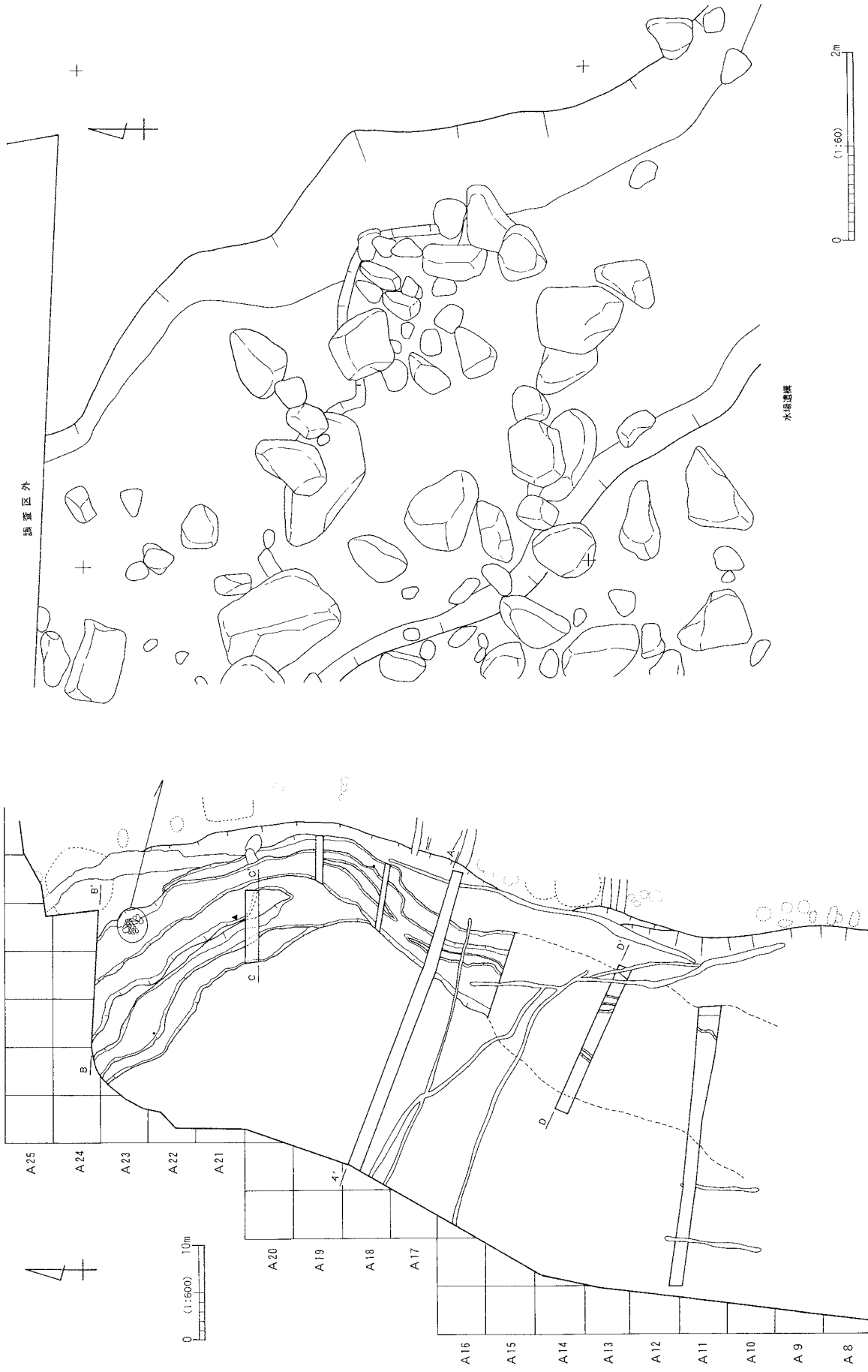
かなりの水量と水流があったと思われ、砂礫の堆積状態から２～３回程度、大規模な洪水に見まわれたと思われる。北側の流路内には夥しい数の巨礫がみられ、河床の浸食も進んでいる。河床や河岸には、ポット・ホール状のピットや掘れ溝が確認でき、水流による浸食の凄まじさをうかがうことができる。

流路北側の左岸に、礫によって足場が組まれた水場遺構と思われる箇所を確認している。周辺の散乱する礫と区別することが難しいが、扁平な礫を中心に足場状に組んでいる。事実調査中でも、夏場の乾燥しやすい時期に遺跡内に散水するために、旧河道内に溜まっていた水を利用したが、その水の汲み上げの際には非常に便利であった。なお水場遺構の構築年代については、同遺構に伴うような出土遺物がなく、不明である。

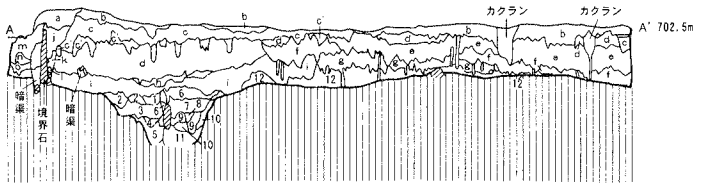
遺物は旧河道域全域でみられる。夥しい量の土器類、陶磁器類、石器類等が出土している。旧河道という性格上、本遺跡に伴う遺物の他、上流域から流下してきた遺物も多く含まれることから、トータルステーションによる遺物の取り上げは行わず、グリッド単位で取り上げていった。ただし河岸や河床に接するような出土状態を示すものについては、トータルステーションによって取り上げた。

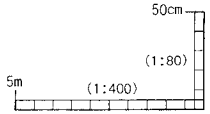
旧河道埋没土中の出土遺物の時期は、縄文時代から平安時代末までとほぼ限定され、平安時代末以降の遺物は認められない。こうしたことから本旧河道は、少なくとも平安時代末まで流下していたと判断できる。土器類や石器類は摩滅が著しい。

１～10は縄文時代前期後半を中心とする土器群で、11～31は縄文時代中期前葉および中葉、後期を中心とする土器群で、31は耳栓である。32は弥生時代後期の櫛描波状文を施す甕口縁部破片である。33～54は平安時代を中心とする土器群である。55～58は埋没旧河道域の上層部出土の中世・近世以降の土器群で、内耳土器および瓦質焙烙である。59・60も上層部出土の性格不明の鉄製品である。60～86は縄文時代の石器群である。



第221図　旧河道平面図・水揚遺構平面図





[旧河道域A-A' Line　土層説明]

a　耕作土
b　耕作土
c　耕作土
d　盛土（黄褐色粘質土[ローム土]）
e～i　耕作土
j～o　盛土
1　シルト質極細砂　黄褐2.5Y3/1
2　シルト質極細砂　黒褐2.5Y3/2
3　シルト質極細砂　黒褐2.5Y3/1　10mm大礫少
4　シルト質細砂　黒褐2.5Y3/2　2～10mm大礫
5　砂　礫
6　シルト質極細砂　暗オリーブ褐2.5Y3/3　2～3mm大礫
7　シルト質極細砂　黒褐2.5Y3/2　2～5mm大礫
8　シルト質極細砂　黒褐2.5Y3/1
9　砂　礫
10　シルト質極細砂　暗オリーブ褐2.5Y3/3　2～3mm大礫少
11　砂　礫
12　黄褐色粘質土　2.5Y5/6　ローム粒、白色粘土2～5mm大礫
13　黄褐色粘質土　10YR5/6　ローム粒、白色粘土2～5mm大礫少

[旧河道域B-B' Line　土層説明]

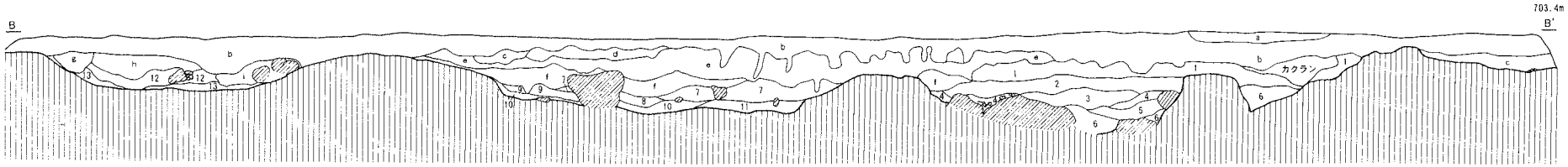
1　シルト質極細砂　黄灰2.5Y4/1
2　シルト質極細砂　暗黄灰2.5Y4/2
3　シルト質極細砂　暗オリーブ褐2.5Y3/3　砂礫混入
4　シルト質極細砂　黒褐2.5Y3/2　礫多
5　シルト質極細砂　黒褐2.5Y3/2
6　砂　礫
7　シルト質極細砂　暗オリーブ褐2.5Y3/3
8　砂　礫
9　シルト質極細砂　黄灰2.5Y4/1
10　砂　礫　小礫多
11　砂　礫　大小の礫
12　細　砂　暗オリーブ褐2.5Y3/3　10～30mm大礫多
13　極細砂　黒褐2.5Y3/2　ローム粒

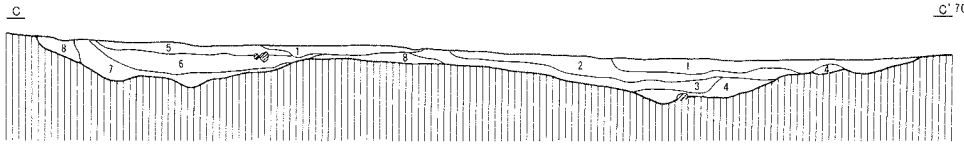
[旧河道域C-C' Line　土層説明]

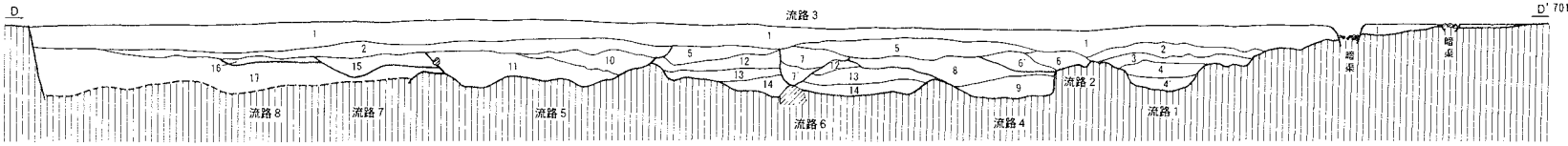
1　シルト質極細砂　暗灰黄2.5Y4/2　酸化鉄斑顕著
2　シルト質極細砂　黄灰2.5Y4/1　酸化鉄斑顕著
3　シルト質極細砂　黒褐2.5Y3/1
　小礫混じり，5mm大ロームブロック含む
4　砂　礫　オリーブ褐2.5Y4/3　10～15mm大礫
5　砂　礫　暗オリーブ褐2.5Y3/3　10～20mm大礫
6　砂　礫　オリーブ褐2.5Y4/3　10～20mm大礫
7　砂　礫　暗オリーブ褐2.5Y3/3　10～20mm大礫
8　シルト質細砂　黒褐2.5Y3/2　10～20mm大礫少

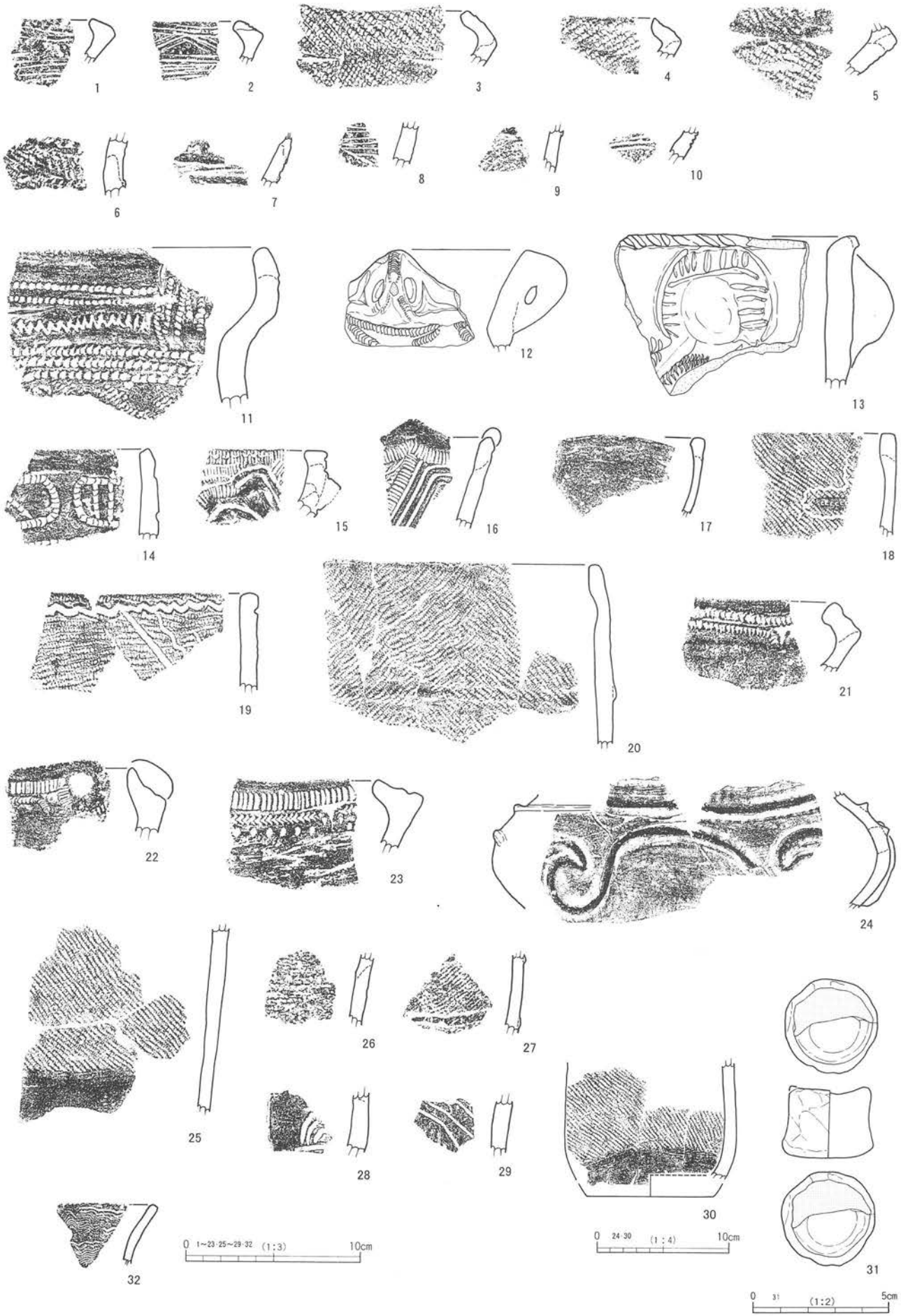
[旧河道域D-D' Line　土層説明]

1　水田床土
2　シルト質細砂　暗灰黄2.5Y4/2
3　シルト質細砂　暗灰黄2.5Y4/3
4　砂　礫　2～10mm大礫主体
4'　砂　礫　15cm大礫主体
5　シルト質細砂　オリーブ黒5Y3/2
6　粗　砂　暗灰黄2.5Y4/2　2～10mm大礫
6'　砂　礫　暗灰黄2.5Y4/2　2～10mm大礫
7　粗　砂　暗灰黄2.5Y4/2　2～10mm大礫
7'　砂　礫　暗灰黄2.5Y4/2　2～10mm大礫
8　シルト質極細砂　暗灰黄2.5Y4/2
9　砂　礫　巻大礫主体
10　粗　砂　暗灰黄2.5Y4/2　2～3mm大礫
11　砂　礫　巻大礫主体
12　シルト質極細砂　暗オリーブ褐2.5Y3/3　20～30mm大礫少
13　シルト質細砂　オリーブ黒5Y3/2　2～3mm大礫
14　砂　礫　巻大～大頑大礫主体
15　粗　砂　オリーブ黒5Y3/1　2～3mm大礫
16　シルト質細砂　オリーブ黒5Y3/2　2～3mm大礫
17　シルト　暗灰黄2.5Y5/2

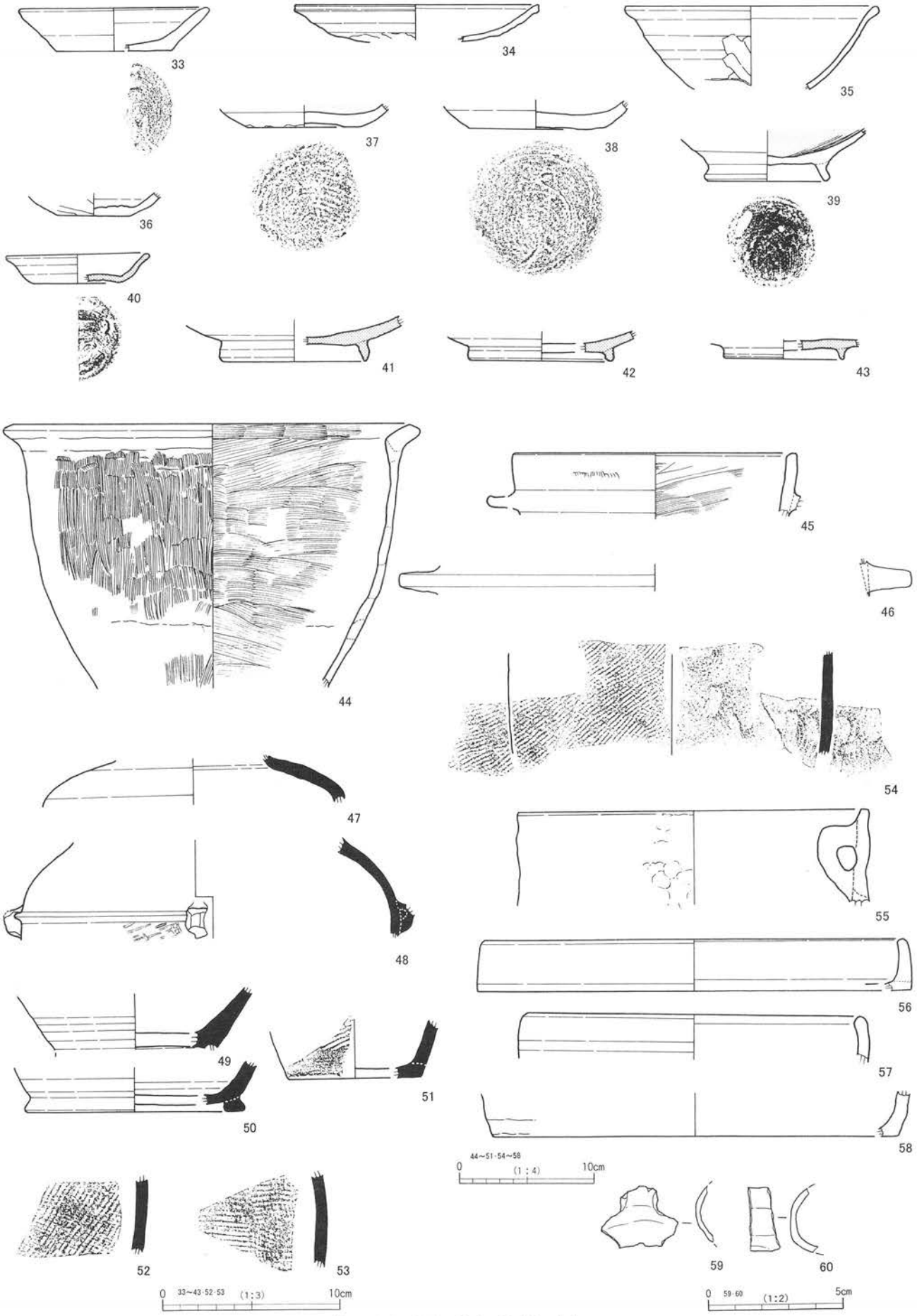








第223図　旧河道出土遺物（1）



第224図　旧河道出土遺物（2）

第225図　旧河道出土遺物（3）

(7) その他の遺構

その他の遺構としては、風倒木痕がある。当初は土壙等のピットと想定し調査を進めていったものの、土層の堆積状態やプランのあり方等から風倒木痕と判断したものである。時期についてはかなり新しい段階のものがほとんどだと思われる。特に遺構としては捉えていないが、ここで報告しておく。

1号風倒木痕（遺構第226図／遺物第228図）

A13B12・13グリッド内で検出されている。126号ピットを切り込んでいる。平面形態は不整楕円形を呈し、断面形は浅いすり鉢状を呈する。長軸3.58m、短軸2.98、深さ0.34mを測る。底面は凹凸がやや激しく、軟弱である。東側部分の壁下は周溝状となっている。覆土は6層からなり、ロームブロックを多く含むにぶい黄褐色粘質土が主体となっている。

出土遺物は、覆土中から縄文時代中期前葉と思われる土器片が、わずかに出土している。

2号風倒木痕（遺構第226図）

A8B11・12グリッド内で検出されており、南側部分は調査区外に及んでいる。平面形態は不整楕円形を呈する。長軸4.14m、短軸は現長で1.95m、深さは最大で0.5mを測る。底面は凹凸が激しく、軟弱である。出土遺物はない。

3号風倒木痕（遺構第227図）

A13・14B10グリッド内で検出されている。当初は195号ピットとして調査を開始したものである。28号竪穴建物の南東部分を破壊している。平面形態は不整の長方形を呈し、長軸3.42m、短軸1.97m、深さは最大で0.62mを測る。底面は凹凸が激しく、軟弱である。出土遺物はない。

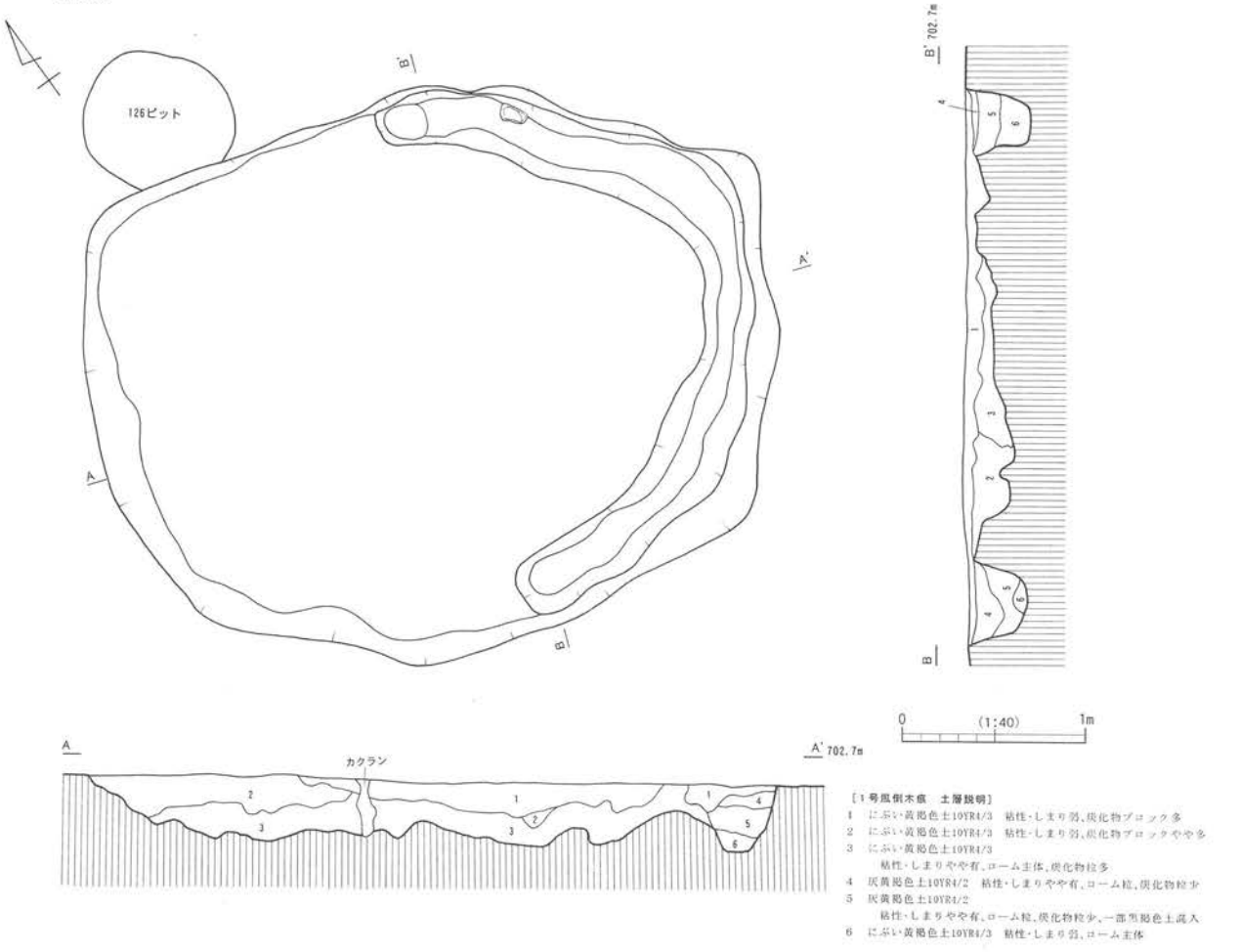
第2節　遺構外出土の遺物

遺構外の出土の遺物は、遺構確認段階で包含層の掘り下げや確認面の精査の際に出土した遺物を、後に各へ帰属できるように取り上げたものである。よってその分布傾向も、遺構の検出状況と重なる部分が多い（第229図）。取り上げ方法は、基本的にはトータルステーションを用いたが、グリッド単位および表採扱いで取り上げものもある。

個々の遺物については、詳しくは観察表を参照されたい。ここでは、第230～235図に図示した遺物の概要を述べておきたい。

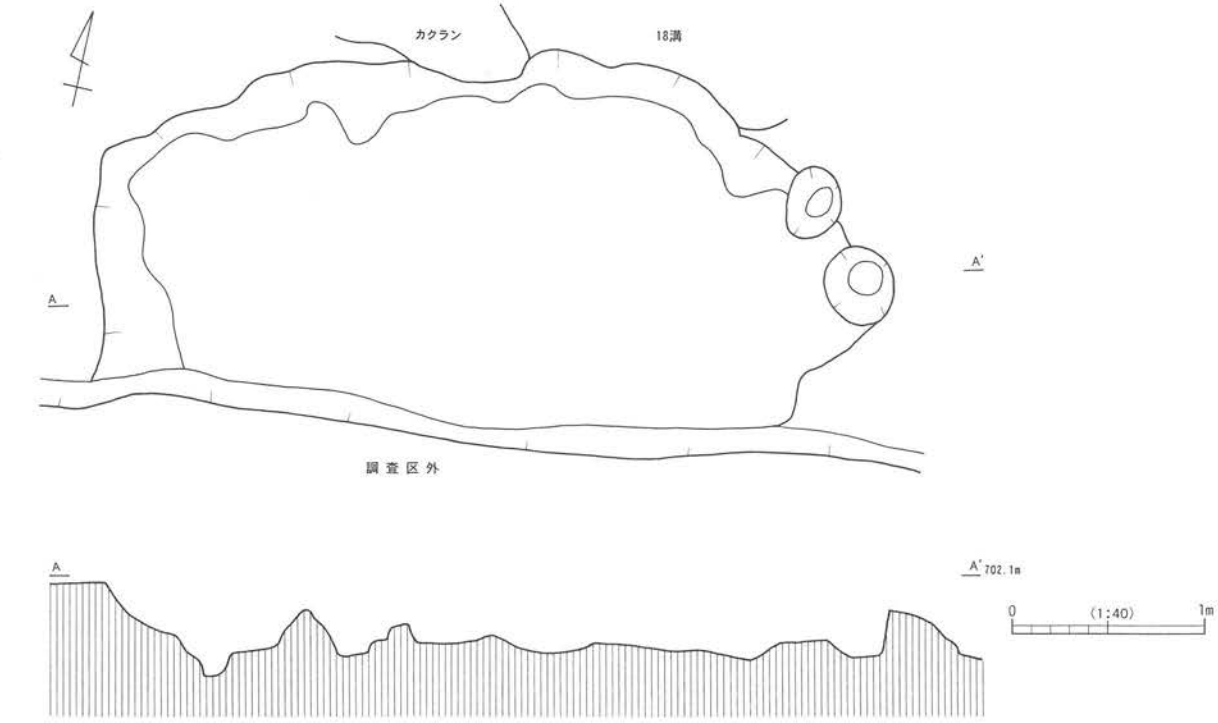
1は縄文時代早期の楕円文を施す押型文土器である。2～35・64は縄文時代前期後半期を中心とする土器群である。36～63は縄文時代中期前葉から中葉を中心とする土器群、65は時期不明の焼成粘土塊、66は縄文時代の管状の土製耳飾り、67は縄文時代中期前葉と思われる土偶頭部片である。68～83は平安時代を中心とする土器群で、84～96は中世・近世以降の土器・陶磁器である。97・98は銭貨、99～101は鉄製品である。102～158は縄文時代の石器群、159～161は砥石である。

1風倒木痕

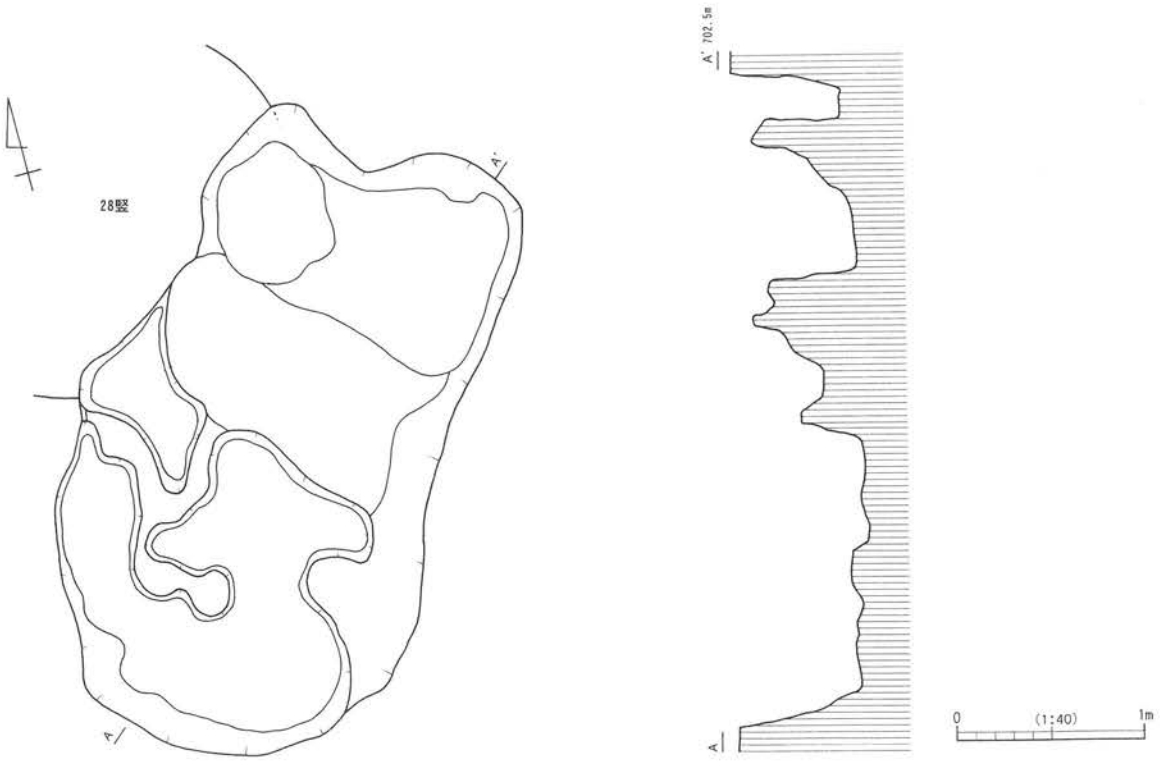


［1号風倒木痕　土層説明］
1　にぶい黄褐色土10YR4/3　粘性・しまり弱、炭化物ブロック多
2　にぶい黄褐色土10YR4/3　粘性・しまり弱、炭化物ブロックやや多
3　にぶい黄褐色土10YR4/3
　粘性・しまりやや有、ローム主体、炭化物粒多
4　灰黄褐色土10YR4/2　粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒少
5　灰黄褐色土10YR4/2
　粘性・しまりやや有、ローム粒、炭化物粒少、一部黒褐色土混入
6　にぶい黄褐色土10YR4/3　粘性・しまり弱、ローム主体

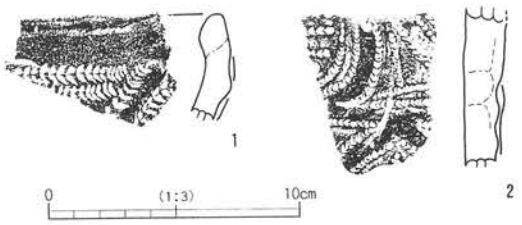
2風倒木痕



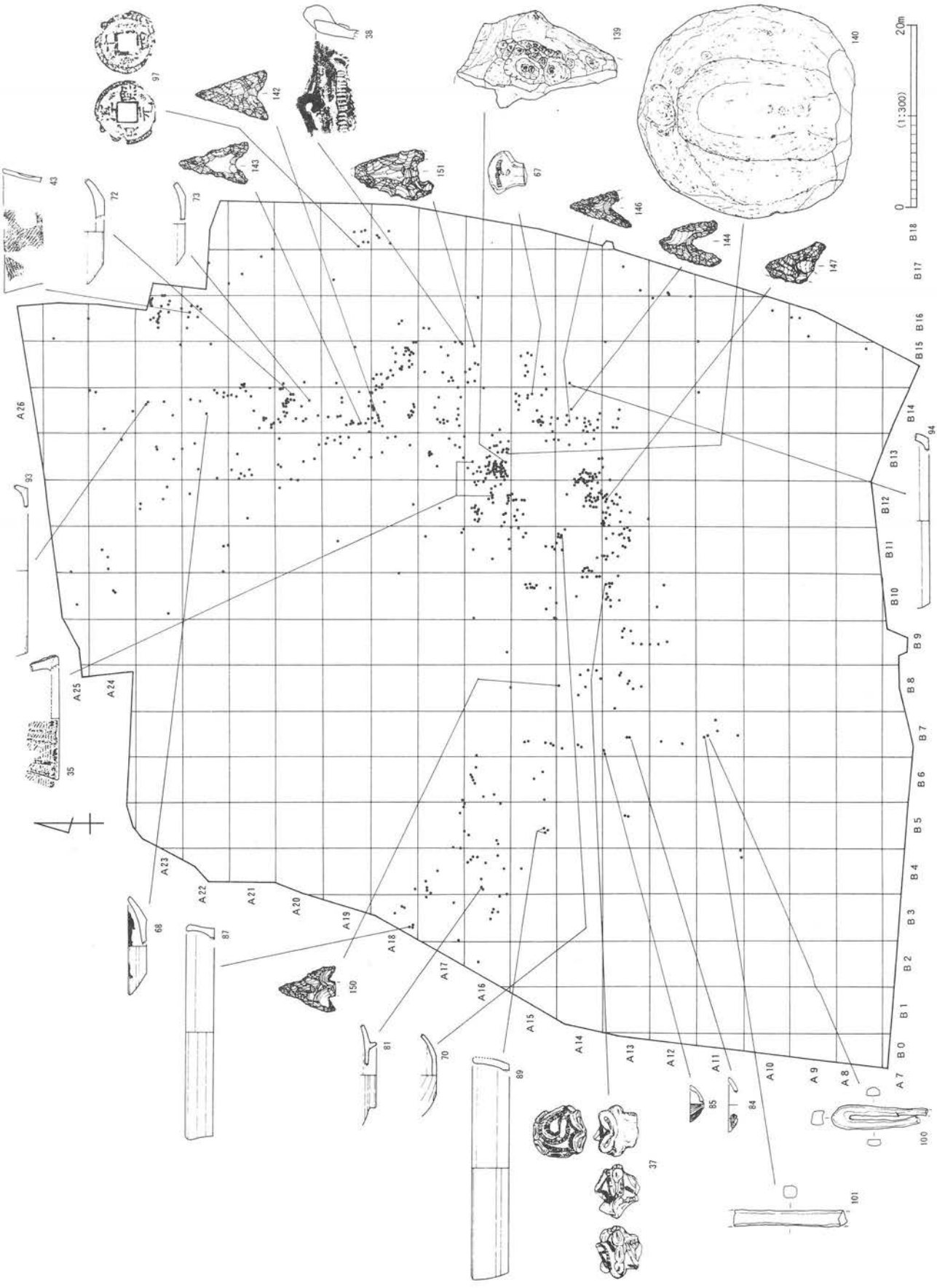
第226図　1・2号風倒木痕



第227図　3号風倒木痕

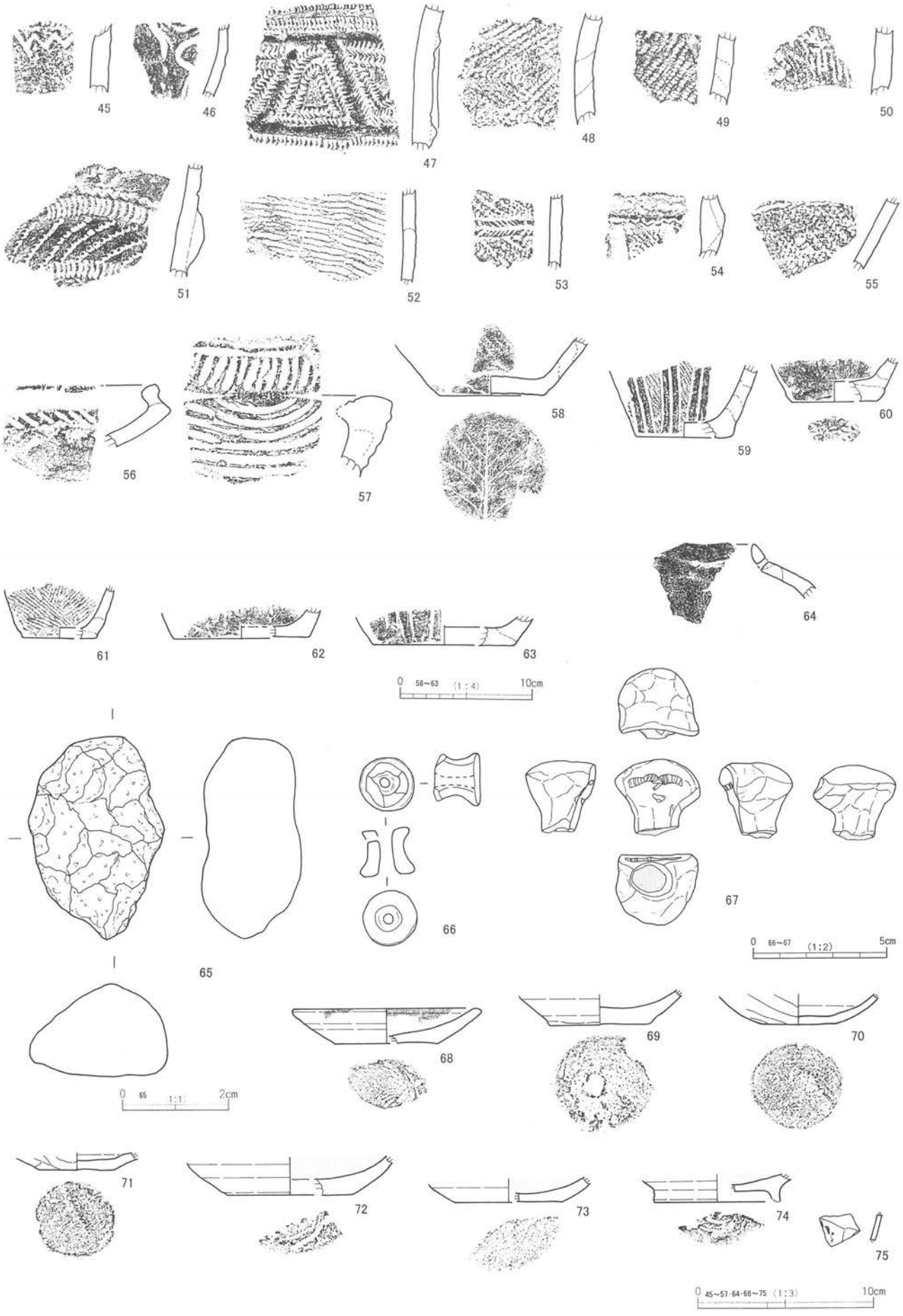


第228図　1号風倒木痕出土遺物

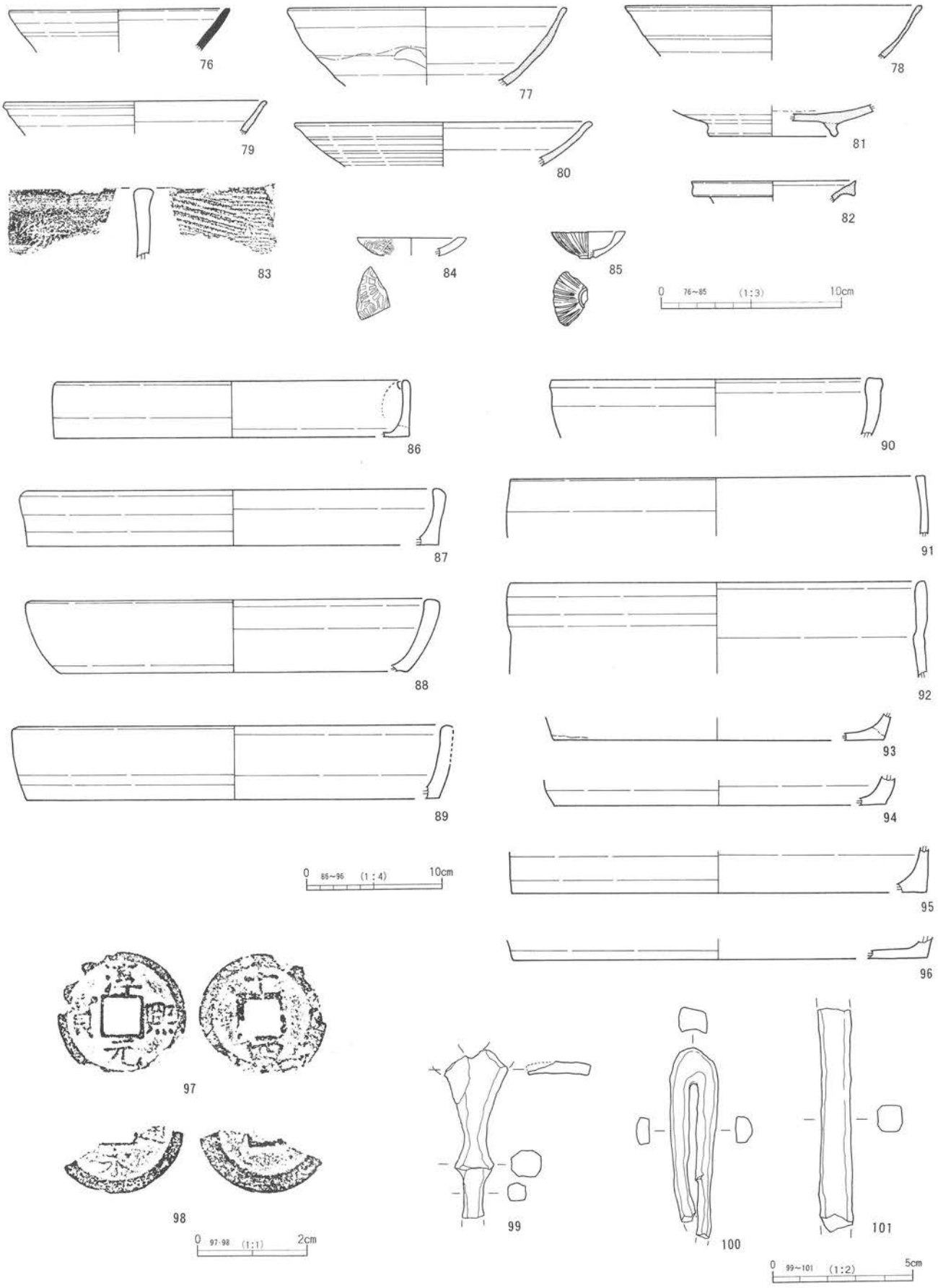


第229図　遺構外出土遺物分布図（遺物は縮尺不同、番号は掲載番号を示す）

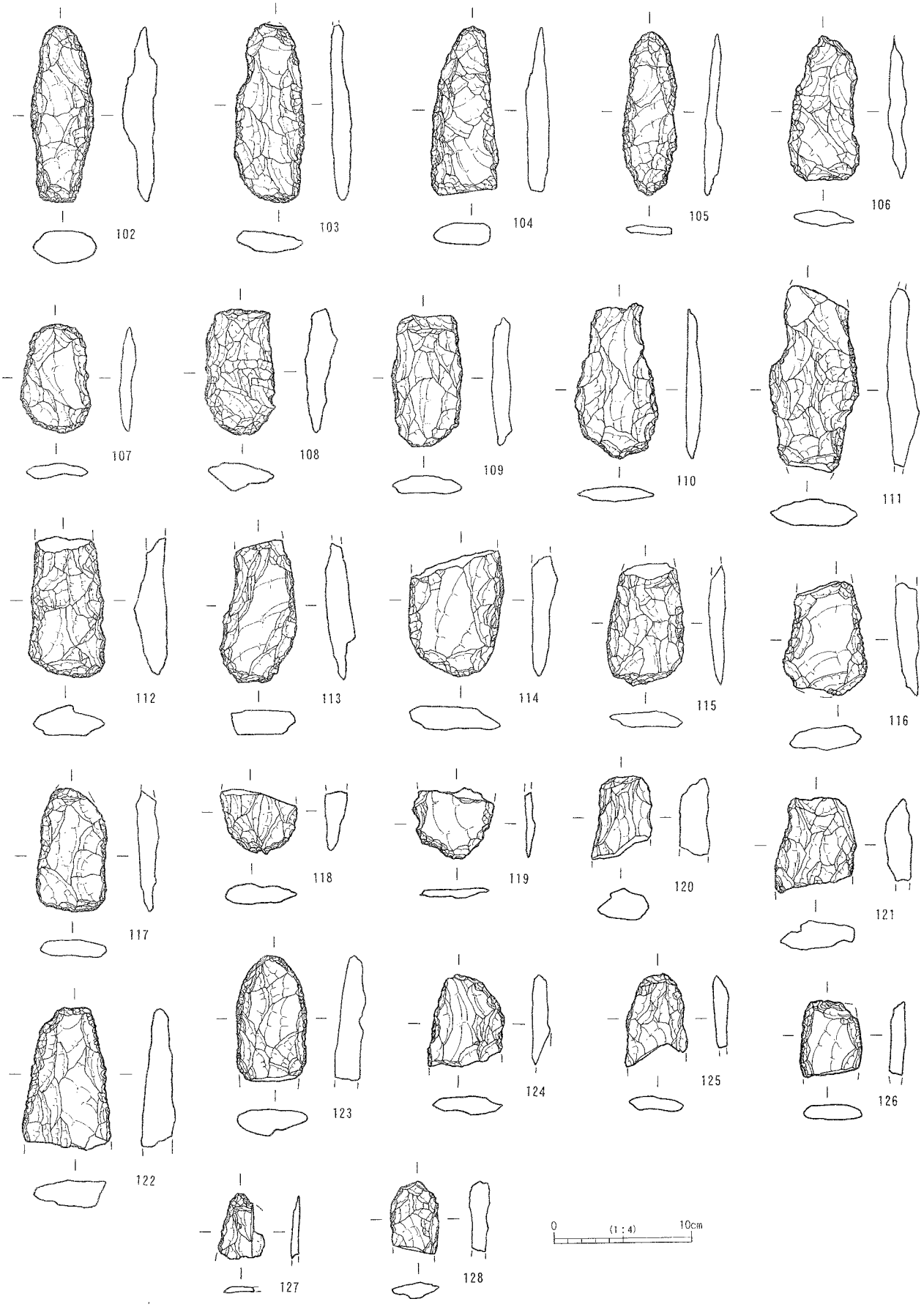
第230図　遺構外出土遺物（1）



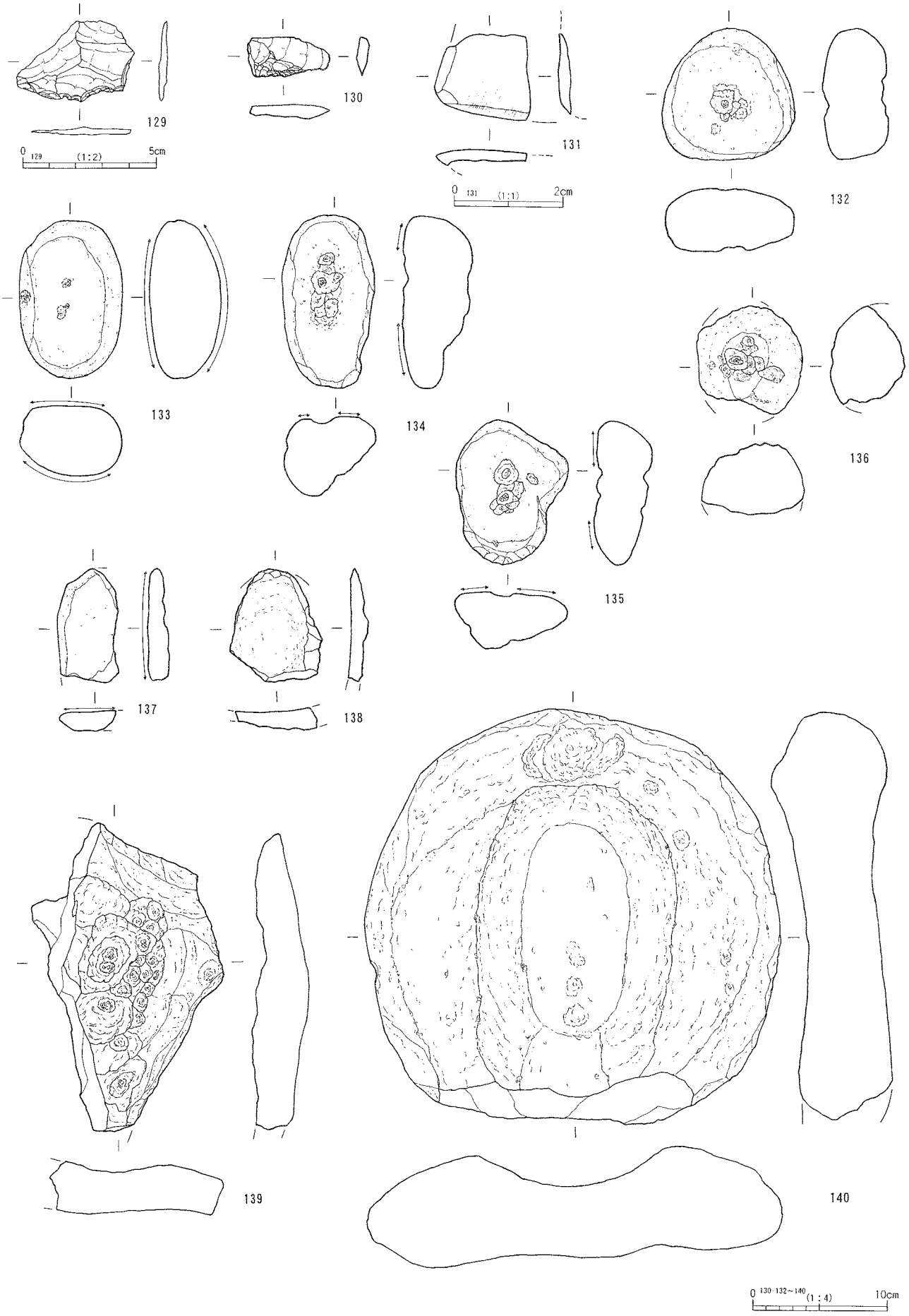
第231図　遺構外出土遺物（2）



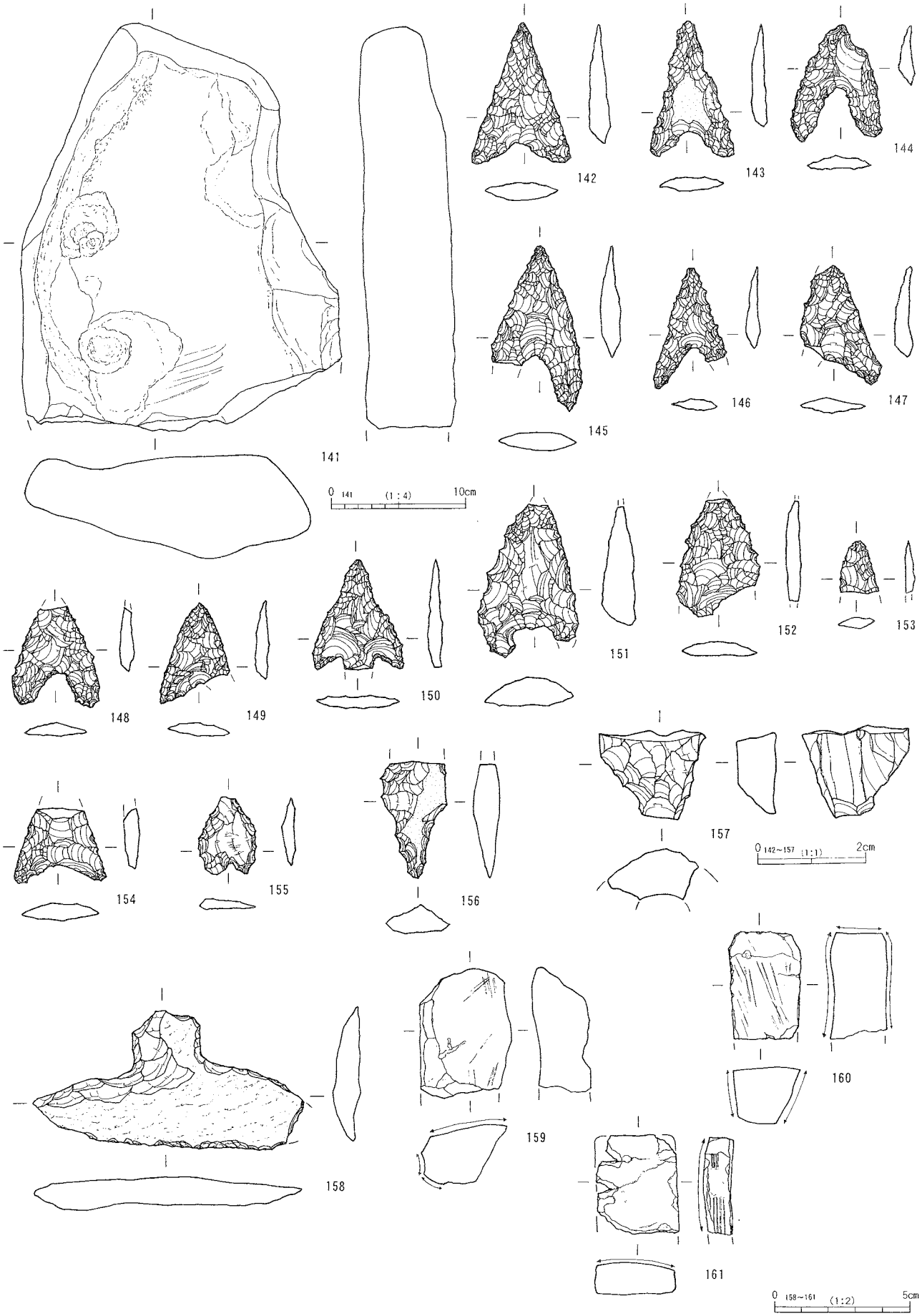
第232図　遺構外出土遺物（3）



第233図　遺構外出土遺物（4）



第234図　遺構外出土遺物（5）



第235図　遺構外出土遺物（6）

表4-（1） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
1竪穴	19図	1	土師器	坏	12.2・5.5・2.7	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	橙	やや粗（白・黒・赤色粒、小礫）	90	体部外面正位墨書「木」
1竪穴	19図	2	土師器	坏	(12.2)・4.2・2.8	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	やや密（白・黒・赤色粒）	50	
1竪穴	19図	3	土師器	坏	－・(3.7)・－	体～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	明褐	密（白・黒・赤色粒）	15	
1竪穴	19図	4	黒色土器	坏	12.6・6.0・3.2	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ、ミガキ	外－鈍い褐、内－黒	やや粗（白・黒・赤色粒、石英）	90	
1竪穴	19図	5	黒色土器	坏	(12.6)・6.0・4.0	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ、ミガキ	外－明黄褐、内－黒	やや粗（白・黒・赤色粒、石英）	40	
1竪穴	19図	6	黒色土器	坏	(13.4)・5.6・4.4	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ、ミガキ	橙	やや粗（白・黒・赤色粒、石英）	70	
1竪穴	19図	7	黒色土器	坏	15.4・6.2・5.2	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ、ミガキ	明褐	密（白・黒・赤色粒）	95	底部外面を中心としてアバタ状に器面荒れている、ススの付着も顕著
1竪穴	19図	8	黒色土器	坏	(15.0)・5.8・5.3	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	褐灰もしくは黄褐	粗（白・黒色粒、角閃石）	30	体部外面底部付近器面荒れている
1竪穴	19図	9	黒色土器	坏	(17.8)・(8.2)・4.7	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	外－明褐、内－黒	やや粗（白・黒・赤色粒、石英）	20	
1竪穴	19図	10	土師器	坏	(16.2)・(8.0)・5.0	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	明赤褐	粗（白・黒・赤色粒、石英）	10	黒色土器系、内面漆付着、体部外面下半器面荒れている
1竪穴	19図	11	黒色土器	高台坏	(13.4)・(7.6)・7.5	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	褐灰	粗（白・黒・赤色粒、金色雲母）	30	内外面黒色
1竪穴	19図	12	黒色土器	高台坏	(16.0)・(7.4)・6.0	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	褐灰	粗（黒色粒、石英、長石）	30	内外面黒色、内面アバタ状になり荒れている
1竪穴	19図	13	黒色土器	坏	(14.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	鈍い黄褐	密（白・黒・赤色粒）	10	
1竪穴	19図	14	黒色土器	坏	(16.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	褐灰	粗（白・黒色粒、石英、金色雲母）	10	内外面黒色、内面やや荒れている
1竪穴	19図	15	黒色土器	坏	－・6.5・－	体～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ、ミガキ	明赤褐	粗（白・黒・赤色粒、石英、小礫）	20	内面所々剥落する
1竪穴	19図	16	土師器	高台坏	－・－・－	体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	明赤褐	やや粗（白・黒色粒）	5	黒色土器系
1竪穴	19図	17	黒色土器	坏	－・(7.4)・－	体～底	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	鈍い褐	やや密（白・黒・赤色粒、石英）	10	甲斐型の胎土とやや似ている
1竪穴	19図	18	灰釉陶器	皿	(14.6)・(6.5)・2.9	口縁～底	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ	灰白	密（白・黒色粒）	40	
1竪穴	19図	19	灰釉陶器	瓶	－・－・－	口縁～胴	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒色粒）	5	
1竪穴	20図	20	土師器	甕	(30.6)・－・－	口縁～胴	横ナデ	横ナデ、ハケメ	明赤褐	粗（白・黒色粒、石英、金色雲母、小礫）	5	外面摩耗著しい、ハケメの痕をわずかに残す程度
1竪穴	20図	21	土師器	甕	(32.6)・－・－	口縁～胴	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	鈍い橙	やや粗（白・黒・赤色粒、石英）	5	
1竪穴	20図	22	土師器	甕	(32.6)・－・－	口縁	横ナデ、ハケメ	横ナデ、ハケメ	褐	密（白・黒色粒）	5	
1竪穴	20図	23	土師器	甕	－・－・－	胴	ハケメ、ナデ	ハケメ	橙	密（白・黒色粒、小礫－多、雲母）	5	
1竪穴	20図	24	土師器	甕	－・(8.0)・－	胴～底	ハケメ、ナデ	ハケメ、指頭圧痕	黒褐	やや粗（白・黒色粒、小礫、石英、雲母）	15	
1竪穴	20図	25	土師器	小型ロクロ甕	(13.6)・－・－	口縁～胴	ロクロナデ、カキメ	ロクロナデ	褐	密（白・黒・赤色粒、小礫）	30	外面にスス散在的に付着
1竪穴	20図	26	土師器	小型ロクロ甕	－・－・－	胴	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐	密（白・黒・赤色粒）	－	体部外面黒痕あり
1竪穴	20図	27	須恵器	壺又は瓶	－・－・－	胴	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	5	
2竪穴	24図	1	土師器	皿	12.5・3.4・2.65	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	褐	緻密（白・赤色粒）	85	内外面に油煙がまんべんなく付着
2竪穴	24図	2	土師器	皿	12.8・3.8・2.6	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	緻密（白・黒色粒－少・赤色粒）	80	内外面わずかに油煙状のスス付着
2竪穴	24図	3	土師器	皿	12.6・3.2・2.7	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	鈍い橙	やや密（白色粒－多・黒・赤色粒－少）	70	体部内外面わずか黒変
2竪穴	24図	4	土師器	坏	(11.8)・(3.8)・3.5	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	褐	密（白・赤色粒、雲母）	25	体部内外面黒変
2竪穴	24図	5	土師器	坏	(12.4)・4.4・3.4	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ、底部回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ	鈍い黄橙	やや密（白・黒・赤色粒、雲母）	70	内外面黒変
2竪穴	24図	6	土師器	坏	12.6・4.5・3.6	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ、底部回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・赤色粒）	60	
2竪穴	24図	7	土師器	坏	(13.4)・(4.6)・4.1	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ、底部回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒、雲母）	15	白色粘土混入
2竪穴	24図	8	土師器	坏	14.4・4.8・4.9	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒、雲母）	70	
2竪穴	24図	9	土師器	坏	(14.2)・5.0・4.7	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ、底部回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・赤色粒）	65	体部内外面黒変
2竪穴	24図	10	土師器	坏	13.8・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	10	
2竪穴	24図	11	土師器	坏	－・(5.0)・－	体～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ、底部回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ	褐	密（白・赤色粒）	20	内外面黒変
2竪穴	24図	12	土師器	坏	－・4.0・－	体～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・赤色粒、雲母）	10	体部内外面油煙状スス付着
2竪穴	24図	13	黒色土器	坏	(14.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	緻密（白・赤色粒）	－	体部外面正位墨書
2竪穴	24図	14	黒色土器	坏	－・－・－	体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	緻密（白色粒－多）	－	甲斐型土器系、体部外面墨書
2竪穴	24図	15	土師器	坏	－・－・－	体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・赤色粒）	－	体部外面墨書
2竪穴	24図	16	土師器	坏	－・－・－	体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	鈍い黄褐	密（白・赤色粒）	－	体部外面墨書
2竪穴	24図	17	土師器	坏？	－・－・－	体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	鈍い黄褐	密（白・赤色粒）	－	体部外面刻書
2竪穴	24図	18	土師器	蓋	(14.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	赤褐	密（白・赤色粒、雲母）	－	体部外面ヘラ書
2竪穴	24図	19	黒色土器	高台坏	－・4.5・－	体～底	ロクロナデ	ロクロナデ、丁寧なミガキ	黒褐	密（白色粒）	20	体部外面ヘラ書
2竪穴	24図	20	灰釉陶器	皿	13.0・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	オリーブ	密（白色粒）	－	
2竪穴	24図	21	灰釉陶器	皿	14.0・－・－	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	緻密（白・黒色粒）	25	
2竪穴	24図	22	灰釉陶器	椀	15.0・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	オリーブ灰	緻密（白色粒）	15	
2竪穴	24図	23	灰釉陶器	皿	(17.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	緻密（白色粒）	15	
2竪穴	24図	24	灰釉陶器	椀	－・(6.8)・－	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰白	緻密（白色粒）	15	
2竪穴	24図	25	灰釉陶器	皿	－・6.6・－	体～底	ロクロナデ	ロクロナデ	オリーブ灰	緻密（白色粒）	15	
2竪穴	24図	26	灰釉陶器	瓶	(12.0)・－・－	口縁～胴	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	緻密（白色粒）	－	
2竪穴	24図	27	灰釉陶器	椀	－・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰	緻密（白色粒）	－	
2竪穴	24図	28	灰釉陶器	椀	－・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	緻密（白色粒）	－	
2竪穴	24図	29	灰釉陶器	椀	－・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	淡黄	密（白・黒色粒）	－	
2竪穴	24図	30	須恵器	甕	－・－・－	胴	平行タタキ目	ナデ	暗青灰	やや密（小礫－多）	15	
2竪穴	25図	31	土師器	甕	(29.5)・－・－	口縁～胴	横ナデ、ハケメ	ハケメ	明褐～褐	やや粗（白・赤色粒、雲母－多）	30	体部内外面黒変
2竪穴	25図	32	土師器	小型甕	(17.0)・－・－	口縁～胴	横ナデ、ハケメ	ハケメ	黒褐	やや粗（長石、雲母）	－	
2竪穴	25図	33	土師器	小型甕	－・5.4・－	胴～底	ハケメ、底部木葉痕	ナデ	鈍い黄褐	やや粗（長石、石英、雲母－多、角閃石）	15	
2竪穴	25図	34	土師器	羽釜	(23.0)・－・－	口縁～胴	横ナデ、ハケメ、ナデ	ハケメ	鈍い赤褐	粗（赤色粒－多、長石、石英、雲母、角閃石）	－	
2竪穴	25図	36	縄文	有孔土器	(12.0)・－・－	口縁～胴	ナデ	ナデ	橙	密（赤色粒、長石、石英、角閃石）	20	
2竪穴	25図	37	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	沈線文	ナデ	赤褐	密（白色粒）	－	
2竪穴	25図	38	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文、沈線文	ナデ	鈍い赤褐	密（白色粒、角閃石）	－	
2竪穴	25図	39	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文、沈線文	ナデ	赤褐	密（白色粒、雲母）	－	
2竪穴	25図	40	縄文	－	－・－・－	口縁	縄文	ナデ	鈍い褐	密（白色粒、雲母）		
2竪穴	25図	41	縄文	－	－・－・－	口縁	浮線文、刺突文	ナデ	外－赤褐、内－黒褐	密（白・赤色粒、雲母）	－	
2竪穴	25図	42	縄文	－	－・－・－	胴	沈線、縄文	ナデ	赤褐～暗赤褐	密（白・黒色粒）	－	
2竪穴	25図	43	縄文	深鉢	－・－・－	胴	浅い刻みのある浮線文、縄文	ナデ	橙	密（白色粒）	－	
2竪穴	25図	44	縄文	－	－・－・－	胴	浮線文、縄文	ナデ	鈍い黄橙	密（白色粒）	－	
2竪穴	25図	45	縄文	深鉢	－・－・－	胴	浅い刻みのある浮線文、縄文	ナデ	鈍い橙	密（白色粒）		

表4-（2） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、{}＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
2竪穴	25図	46	縄文	－	－・－・－	胴	浮線文、縄文	ナデ	鈍い褐～褐灰	密（白色粒、雲母）	－	
2竪穴	25図	47	縄文	－	－・－・－	胴	底文地文、沈線文	ナデ	鈍い褐	密（白色粒、石英、雲母）	－	
2竪穴	25図	48	縄文	深鉢	－・－・－	胴	底文地文、沈線文	ナデ	鈍い赤褐	密（白色粒、雲母）	－	
2竪穴	25図	49	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文	ナデ	橙	密（白色粒、角閃石）	－	
2竪穴	25図	50	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文	ナデ	外－黒褐、内－鈍い褐	密（白色粒、角閃石）	－	
2竪穴	25図	51	縄文	－	－・－・－	胴	沈線文	ナデ	鈍い褐	密（白・赤色粒）	－	
3竪穴	29図	1	土師器	坏	(12.5)・(6.0)・3.6	口縁～底	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	30	体部から底部外面油煙付着
3竪穴	29図	2	土師器	坏	(13.7)・(6.0)・4.0	口縁～底	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	25	
3竪穴	29図	3	土師器	坏	(14.0)・(4.9)・4.6	口縁～底	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	20	体部外面下半ちょう内面アバタ状になり器面がやや荒れている
3竪穴	29図	4	土師器	坏	(15.0)・(5.0)・5.0	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	25	
3竪穴	29図	5	土師器	坏	(12.4)・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	鈍い橙	密（白・赤色粒）	30	内外面油煙状スス付着
3竪穴	29図	6	土師器	坏	(13.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	鈍い橙	密（白・赤色粒）	20	
3竪穴	29図	7	土師器	坏	(13.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	鈍い褐	密（白・赤色粒）	20	体部外面黒斑　黒斑薄い
3竪穴	29図	8	土師器	皿	(13.2)・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	20	内外面油煙状スス付着
3竪穴	29図	9	土師器	坏	(16.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い黄橙	密（白・赤色粒）	50	
3竪穴	29図	10	土師器	皿	(14.4)・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	15	
3竪穴	29図	11	土師器	坏	－・3.6・－	体～底	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	15	内外面剥離、白色粘土混入
3竪穴	29図	12	土師器	坏	－・－・－	口縁	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い赤褐	密（白・赤色粒）	5	体部外面黒斑
3竪穴	29図	13	土師器	坏	－・－・－	口縁	ロクロナデ	ロクロナデ	褐	緻密（白・赤色粒）	－	体部外面に墨書「部」
3竪穴	29図	14	土師器	坏	－・－・－	口縁	ロクロナデ	ロクロナデ	橙	緻密（白・赤色粒）	－	体部外面に墨書
3竪穴	29図	15	黒色土器	坏	－・－・－	口縁	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	緻密（白・赤色粒）	－	体部外面に墨書、黒斑顕明
3竪穴	29図	16	土師器	坏	－・－・－	体	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	外－橙、内－黒	緻密（白・赤色粒）	－	体部外面に墨書
3竪穴	29図	17	黒色土器	坏	－・－・－	体	ロクロナデ	ロクロナデ	浅黄橙	密（白・赤色粒）	－	体部外面に墨書
3竪穴	29図	18	土師器	坏	－・－・－	体	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	緻密（白・赤色粒）	－	体部外面に墨書
3竪穴	29図	19	土師器	坏	－・－・－	体	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	緻密（白・黒・赤色粒）	－	体部外面に墨書　黒斑顕明
3竪穴	29図	20	土師器	坏	－・4.6・－	体～底	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	20	体部外面剥離痕黒斑
3竪穴	29図	21	黒色土器	皿	(13.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	外－鈍い黄橙、内－黒	やや粗（白色粒）	7	
3竪穴	29図	22	黒色土器	坏	－・(4.0)・－	体～底	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	赤黒	密（白・赤色粒）	20	里美型土器系、内外面黒色
3竪穴	29図	23	黒色土器	坏	－・(6.0)・－	体～底	ロクロナデ	ロクロナデ	外－鈍い橙、内－黒	やや粗（白・赤色粒、長石、石英、角閃石）	5	
3竪穴	29図	24	黒色土器	高台皿？	－・(9.8)・－	体～底	ロクロナデ	ロクロナデ	外－鈍い黄橙、内－黒	密（白・黒・赤色粒、長石）	5	内面丁寧なミガキ、外面油煙付着
3竪穴	29図	25	灰釉陶器	椀	(13.8)・(6.9)・4.6	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	緻密（白色粒）	25	美濃窯光ヶ丘1号窯式前半期
3竪穴	29図	26	灰釉陶器	椀	(14.8)・(6.8)・4.6	口縁～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰	緻密（白・黒色粒）	20	転用硯の可能性あり
3竪穴	29図	27	灰釉陶器	椀？	－・(6.4)・－	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰	密（白色粒）	5	
3竪穴	29図	28	灰釉陶器	椀	－・(6.8)・－	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰	緻密（白色粒）	5	25と同一個体の可能性あり
3竪穴	29図	29	灰釉陶器	椀	－・(7.3)・－	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰黄	緻密（白色粒）	10	美濃窯光ヶ丘1号窯前半期、全体に薄く黒ずんでいる、箱ハケ塗り、転用硯の可能性あり
3竪穴	29図	30	灰釉陶器	瓶	－・(8.6)・－	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰	緻密（白・黒色粒）	10	
3竪穴	29図	31	灰釉陶器	椀	(14.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰	緻密（白色粒）	5	
3竪穴	29図	32	灰釉陶器	椀	(14.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	密（白・黒色粒）	5	
3竪穴	29図	33	灰釉陶器	椀	(17.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	浅黄	密（黒色粒）	5	
3竪穴	29図	34	灰釉陶器	皿	(14.4)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰	緻密（白色粒）	20	
3竪穴	29図	35	灰釉陶器	皿	18.0・－・－	口縁～体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰白	緻密（白色粒）	20	
3竪穴	29図	36	須恵器	壺	－・－・－	胴	タタキ目	ナデ、指頭圧痕	灰	やや粗（白・黒色粒）	5	
3竪穴	29図	37	須恵器	甕	－・－・－	胴	タタキ目	ロクロナデ	灰	密（白・黒・赤色粒）	－	転用硯の可能性あり
3竪穴	30図	38	土師器	甕	(32.8)・－・－	口縁～胴	ハケメ後ナデ	ハケメ	鈍い赤褐	やや粗（白・黒色粒、長石、石英、雲母～少）	5	
3竪穴	30図	39	土師器	甕	(27.8)・－・－	口縁～胴	ハケメ、口縁部横ナデ	ハケメ	鈍い黄橙	粗（白・黒色粒、長石、雲母）	－	スス付着
3竪穴	30図	40	土師器	甕	(32.0)・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ	橙褐	やや粗（白・赤色粒、雲母）	10	体部外面黒変
3竪穴	30図	41	土師器	甕	(33.6)・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ	鈍い赤褐	粗（白・黒・赤色粒、長石、石英）	－	
3竪穴	30図	42	土師器	甕	－・(7.0)・－	胴～底	ハケメ、底部木葉痕	ロクロナデ	黄橙	やや粗（白・赤色粒、雲母）	10	
3竪穴	30図	43	土師器	甕	－・(9.0)・－	胴～底	ハケメ、底部木葉痕	ナデ	褐	やや粗（白・赤色粒、雲母、小礫～多）	－	体部内面摩滅している、体部、底部外面黒変
3竪穴	30図	44	土師器	甕	－・(7.5)・－	胴～底	ハケメ、底部木葉痕	ハケメ	鈍い褐	やや粗（白・黒色粒、長石、角閃石～少、雲母）	5	
3竪穴	30図	45	土師器	甕	－・(9.0)・－	胴～底	ハケメ、底部木葉痕	ハケメ	鈍い赤褐	やや粗（白・黒・赤色粒、石英、長石、雲母）	－	
3竪穴	30図	46	土師器	小型甕	(17.5)・－・－	口縁～胴	ハケメ	ハケナデ、ハケメ	赤褐	やや粗（白・赤色粒、雲母）	－	内面黒変
3竪穴	30図	47	土師器	甕	－・(6.4)・－	胴～底	ナデ、ハケメ、底部木葉痕	ナデ、ハケメ	鈍い橙	粗（白色粒、石英、雲母）	－	
3竪穴	30図	48	土師器	甕	－・(6.8)・－	胴～底	ハケメ、底部木葉痕	ハケメ	鈍い赤褐	やや粗（白・黒色粒、石英、長石）	－	
3竪穴	30図	49	土師器	ロクロ広口壺？	－・6.6・－	胴～底	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	やや密（白・赤色粒）	5	
4竪穴	33図	1	土師質	小型皿	8.0・4.3・1.95	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い橙	やや粗（黒色粒、角閃石、雲母）	80	内外面　部ススス又は油煙付着
4竪穴	33図	2	土師質	小型皿	8.1・3.6・2.0	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ後一部ヘラケズリ	鈍い黄橙	密（白・赤色粒、角閃石、長石、砂礫～少）	97	内外面黒変
4竪穴	33図	3	土師質	小型皿	8.5・4.8・2.45	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い黄橙	密（白・赤色粒、角閃石、長石）	95	内外面黒変
4竪穴	33図	4	土師質	小型皿	8.4・4.8・2.05	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い黄橙	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	98	内外面黒変
4竪穴	33図	5	土師質	小型皿	8.4・4.9・2.1	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い橙	密（白色粒、雲母）	98	内外面黒変
4竪穴	33図	6	土師質	小型皿	8.5・4.1・2.2	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	赤灰	密（白・赤色粒、角閃石、雲母～少）	70	外面黒変
4竪穴	33図	7	土師質	小型皿	8.5・4.2・2.15	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、角閃石、雲母）	96	内外面黒変
4竪穴	33図	8	土師質	小型皿	8.3・4.2・2.7	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、角閃石、長石、小礫）	95	内外面黒変
4竪穴	33図	9	土師質	坏	8.5・4.1・2.4	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	褐	密（白・黒色粒、石英、雲母）	97	薄く器面全体に油煙付着
4竪穴	33図	10	土師質	小型皿	8.5・4.0・2.35	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い褐	密（黒色粒、雲母）	85	体部外面ヘラ書、内外面黒変
4竪穴	33図	11	土師質	小型皿	8.2・4.2・2.0	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒色粒、雲母）	95	内外面黒変
4竪穴	33図	12	土師質	坏	14.3・5.80・4.7	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い橙	やや粗（白色粒、金色雲母～多、長石）	60	内外面黒変
4竪穴	33図	13	土師質	坏	13.5・6.0・4.05	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い橙	やや粗（白・赤色粒、長石、雲母、小礫）	80	内外面黒変
4竪穴	33図	14	土師質	坏	(13.7)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、長石、雲母～少）	5	
4竪穴	33図	15	土師質	坏	(13.6)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い橙	やや粗（白色粒、角閃石、雲母　小礫～少）	5	
4竪穴	33図	16	土師質	坏？	(14.7)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い褐	密（金色雲母）	5	

表4-（3） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
4竪穴	33図	17	土師質	脚高高台皿	(14.8)・(9.0)・5.5	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い橙	やや粗（白・黒・赤色粒、雲母）	70	内外面所々黒変
4竪穴	33図	18	土師質	坏	(15.8)・－・－	底～体	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い褐	密（白色粒、角閃石、雲母）	15	外面一部黒変
4竪穴	33図	19	土師質	高台皿	14.8・－・－	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石、雲母－少）	65	内外面所々黒変
4竪穴	33図	20	土師質	坏	15.4・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い赤褐	密（白・黒色粒、角閃石、雲母）	5	口縁部片口状を呈する
4竪穴	33図	21	土師質	高台皿	14.5・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い橙	やや粗（白・黒色粒、角閃石、砂礫）	60	内外面（外面中心）黒変、つくりが粗雑
4竪穴	33図	22	灰釉陶器	椀	(13.6)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	緻密（白色粒）	2	－
4竪穴	33図	23	灰釉陶器	－	－・－・－	口縁	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	緻密（白色粒）	－	－
4竪穴	33図	24	土師質	羽釜	28.5・－・－	口縁～胴	ヘラナデ	横ナデ	鈍い橙	粗（角閃石、長石、石英、砂礫）	80	把手3ヶ所にあると思われる
4竪穴	33図	25	土師質	羽釜	－・－・－	胴	ヘラナデ	－	鈍い赤褐	やや粗（白色粒、長石、石英、角閃石、砂礫）	－	内面剥離して荒れている、底部分は磨り減っている
4竪穴	33図	26	須恵器	甕	－・－・－	胴	タタキ目	ナデ、ヘラケズリ	灰白	密（白・黒色粒）	－	内面にヘラ書き
5竪穴	36図	1	土師質	小型皿	8.2・4.0・2.3	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	浅黄橙	密（白・黒・赤色粒）	70	体部内外面漆状の付着物、油煙も付着
5竪穴	36図	2	土師質	小型皿	8.1・4.7・2.05	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	黒褐	密（白・黒色粒、雲母）	100	体部内外面油煙付着
5竪穴	36図	3	土師質	羽釜	－・(17.0)・－	胴～底	ヘラナデ	ナデ	鈍い赤褐	やや粗（白・黒・赤色粒、小礫－多）	15	－
6竪穴	38図	1	縄文	深鉢	24.1・－・－	口縁～胴	縄文地文	ナデ	灰黄褐、黒褐	粗（白・黒色粒、石英、砂礫）	60	口縁部にも縄文が施される
6竪穴	38図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文	ナデ	黒褐	やや粗（白色粒）	－	－
6竪穴	38図	3	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文	ナデ	赤褐	やや粗（白・赤色粒）	－	－
6竪穴	38図	4	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文	ナデ	鈍い赤褐	やや粗（白色粒）	－	－
6竪穴	38図	5	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文	ナデ	外－鈍い橙、内－黒褐	粗（白色粒）	－	－
6竪穴	38図	6	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文	ナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	－	－
6竪穴	38図	7	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文、刻みをもつ浮線文	ナデ	橙	粗（白色粒、長石）	－	－
6竪穴	38図	8	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、刻みをもつ浮線文	ナデ	外－褐、内－鈍い褐	粗（白・赤色粒、長石、角閃石、雲母）	－	－
6竪穴	38図	9	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	鈍い赤褐	粗（白・赤色粒、長石、角閃石、雲母）	－	－
6竪穴	38図	10	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－暗、内－黒	やや粗（白・赤色粒）	－	－
6竪穴	38図	11	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	暗褐	粗（白・赤色粒、長石、石英）	－	－
6竪穴	38図	12	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－黒、内－褐	粗（白・黒・赤色粒、長石、石英、雲母）	－	－
6竪穴	38図	13	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－橙、内－黒	粗（白・黒色粒、長石、角閃石）	－	－
6竪穴	38図	14	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－鈍い褐、内－灰褐	やや粗（白・黒色粒、長石、石英）	－	－
6竪穴	38図	15	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	鈍い橙	粗（白・黒・赤色粒、石英、角閃石）	－	－
7竪穴	41図	1	土師器	坏	11.4・4.4・4.1	口縁～底	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	橙	やや粗（白・赤色粒、雲母）	90	体部外面正位黒書「吉」、土器のつくりはいびつ
7竪穴	41図	2	土師器	坏	(12.1)・4.8・4.2	口縁～底	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	鈍い赤褐	密（白・黒・赤色粒）	60	体部外面正位黒書
7竪穴	41図	3	土師器	皿	(12.5)・(3.8)・3.1	口縁～底	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	橙～黄橙	やや粗（白・赤色粒）	60	－
7竪穴	41図	4	土師器	坏	(12.7)・3.9・4.3	口縁～底	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	橙	緻密（白・赤色粒）	40	体部内外面黒変
7竪穴	41図	5	土師器	坏	(12.6)・(4.5)・4.4	口縁～底	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	橙	緻密（白・赤色粒）	15	－
7竪穴	41図	6	土師器	坏	(12.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒、雲母）	30	内外面黒変
7竪穴	41図	7	土師器	坏	(12.8)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒、雲母）	15	体部外面に墨書、油煙付着
7竪穴	41図	8	土師器	盃	(13.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	80	－
7竪穴	41図	9	土師器	坏	－・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	黄橙	密（白・赤色粒）	－	体部外面に墨書
7竪穴	41図	10	土師器	坏	－・(5.0)・－	底	手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	鈍い褐	密（白・赤色粒）	5	底部外面にヘラ書
7竪穴	41図	11	土師器	坏	(12.7)・(5.0)・4.8	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	明赤褐	やや密（白・黒・赤色粒、石英）	25	黒色土器系
7竪穴	41図	12	黒色土器	坏	(13.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	灰黄褐	密（白・黒色粒）	15	－
7竪穴	41図	13	灰釉陶器	椀	(13.8)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	緻密（白色粒）	－	－
7竪穴	41図	14	灰釉陶器	椀	(14.6)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰	緻密（白色粒）	－	－
7竪穴	41図	15	灰釉陶器	椀	(15.8)・－・－	口縁～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰白	緻密（白・黒色粒）	35	－
7竪穴	41図	16	灰釉陶器	皿	(15.8)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	緻密（白色粒）	－	－
7竪穴	41図	17	灰釉陶器	椀	－・(7.0)・－	高台	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	緻密（白色粒）	－	－
7竪穴	41図	18	灰釉陶器	椀	－・(7.0)・－	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰白	緻密（白色粒）	20	転用硯の可能性あり
7竪穴	41図	19	土師器	甕	(27.5)・(9.0)・34.6	口縁～底	ハケメ、横ナデ、底部木葉痕	ハケメ、指頭圧痕	橙～黒褐	やや粗（白・黒・赤色粒、雲母）	10	体部内外面黒変
7竪穴	41図	20	土師器	甕	－・(8.4)・－	胴～底	ハケメ、底部木葉痕	ハケナデ	橙	やや粗（白・赤色粒、雲母）	15	－
7竪穴	41図	21	土師器	小型甕	(12.5)・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ	褐	やや密（白・赤色粒、雲母）	10	体部内外面黒変
7竪穴	41図	22	土師器	甕	(15.0)・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ナデ、ハケメ	鈍い褐	やや密（白色粒、雲母）	5	内外面黒変
7竪穴	41図	23	土師器	甕	17.5・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、指頭圧痕	褐	やや粗（白・赤色粒、雲母－多）	5	体部内外面黒変
8竪穴	43図	1	縄文	深鉢	－・(20.0)・－	胴～底	ナデ	ナデ	外－橙、内－黒変	やや粗（赤色粒、長石、石英）	－	外面器面荒れている
9竪穴	46図	1	土師質	小型皿	8.2・4.9・1.65	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・赤色粒、砂礫）	55	－
9竪穴	46図	2	土師質	小型皿	(9.2)・4.7・2.7	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	褐灰	密（白・黒色粒、雲母－少）	40	口縁部内外に油煙付着
9竪穴	46図	3	土師質	坏	(12.8)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	外－鈍い黄橙、内－鈍い黄橙、鈍い橙	やや粗（白・黒色粒、角閃石、砂礫）	20	内外面の所々に油煙状のスス付着
10竪穴	46図	1	土師質	小型皿	(9.0)・(4.6)・(2.3)	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	黒褐	やや粗（白・黒・赤色粒）	5	－
10竪穴	46図	2	土師質	高台皿？	－・－・－	体	ロクロナデ	ロクロナデ	褐	密（白色粒、雲母）	－	－
10竪穴	46図	3	灰釉陶器	瓶	－・(9.0)・－	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	白灰	緻密（白・黒色粒）	－	－
11竪穴	49図	1	黒色土器	坏	(15.8)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	細かいミガキ	外－鈍い橙、内－黒	密（白色粒）	5	－
11竪穴	49図	2	黒色土器	坏	－・5.7・－	体～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	細かいミガキ	外－明褐、内－黒	やや粗（白・赤色粒、石英、角閃石）	30	－
11竪穴	49図	3	黒色土器	－	－・(5.0)・－	底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	細かいミガキ	外－鈍い黄橙、内－黒	やや粗（白・赤色粒、角閃石）	5	－
11竪穴	49図	4	黒色土器	高台付坏	－・(6.8)・－	体～底	ロクロナデ、付高台	ミガキ	外－明赤褐、内－黒	密（白・黒色粒、長石、角閃石）	5	－
11竪穴	49図	5	土師器	甕	(29.0)・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	外－明赤褐、内－鈍い赤褐	やや粗（白・黒・赤色粒、長石、石英、角閃石、雲母）	5	－
11竪穴	49図	6	土師器	甕	(32.0)・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	鈍い橙、黒褐	粗（白・赤色粒、長石、雲母、小礫－多）	5	－
11竪穴	49図	7	土師器	小甕	(15.5)・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	外－鈍い褐、内－灰褐	粗（白・赤色粒、長石、石英、砂礫）	10	－
11竪穴	49図	8	土師器	小甕	(17.7)・－・－	口縁～胴	ハケメ	細かいハケメ	外－鈍い黄橙～黒褐、内－オリーブ黒	密（白・赤色粒、長石、雲母－少）	5	－
12竪穴	55図	1	縄文	深鉢	22.0・(11.4)・29.3		半隆起線により3段の区画帯からなり、1段目は垂三角区画文を配し、縦刻文や刻み、爪形文を充填する、2段目は縄文を地文とし、S字状モチーフと三角区画を配する、3段目は縄文を地文とする	ナデ	赤褐、黒褐	やや粗（石英、長石、金色雲母）	90	－

表4-（4） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
12竪穴	55図	2	縄文	深鉢	(25.0) ・ (14.6) ・39.2		口縁部は縄文を地文とする文様帯となり，その下部に楕円区画文を2段、重三角区画文帯を1段配し，胴部下部は無文となっている．口縁部には平行沈線や波状沈線、上拡一叉文を施し，コブ状突起を4単位付ける．各突起からは沈線により三本指状モチーフが描かれる．各区画内にはキャタピラ文、三角押文，波状沈線が充填される	ナデ	鈍い褐、黒褐	粗（石英、長石、スコリア）	70	
12竪穴	55図	3	縄文	深鉢	(24.0) ・9.4・30.0		口縁部は無文、頸部に楕円区画文，胴部に格子目区画文，楕円区画文を配し，区画内にはキャタピラ文，波状沈線文を施す	ナデ	鈍い黄橙、黒褐	やや粗	90	
12竪穴	55図	4	縄文	深鉢	20.0・11.0・24.4		波状口縁を呈する．半隆起線により縦位区画文を基調とする．区画内は沈線文，刺突文，爪形文等を充填する．口縁部から垂下する蛇体風モチーフを描く	ナデ	明赤褐、灰赤	粗（石英、長石ー多）	90	
12竪穴	55図	5	縄文	深鉢	ー・16.2・ (56.3)		口縁部に重三角区画文，胴部は縄文を地文とし，波状沈線を施し，胴部に重三角区画文と楕円区画文を各々1段ずつ配する．キャタピラ文を各区画文の隆線脇に施し、内部には沈線を充填する	ナデ	鈍い褐色、黒褐	やや粗（石英、長石）	70	
12竪穴	55図	6	縄文	深鉢	(31.0) ・ー・ー	口縁	口縁部渦巻状の隆線をもつ	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、雲母、スコリア）	ー	
12竪穴	55図	7	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	口縁部キャリパー状を呈する．口唇部に刻み施される	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒、雲母、スコリア）	ー	
12竪穴	55図	8	縄文	浅鉢	ー・ー・ー	口縁	口縁部くの字状に折り曲げられている．口縁下に押圧隆帯が横位にめぐり，その中に1条の三角押文を施す	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒、石英、長石、雲母）	ー	
12竪穴	55図	9	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	縦位平行沈線	ナデ	鈍い褐	密（白色粒、スコリア、角閃石、雲母）	ー	
12竪穴	55図	10	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	縄文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・赤色粒、黒雲母、角閃石）	ー	
12竪穴	55図	11	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	沈線文，縄文	ナデ	鈍い橙	密（白・黒・赤色粒、雲母）	ー	
12竪穴	56図	12	縄文	深鉢	(26.0) ・ー・ー	口縁～胴	口縁部に重三角区画文，頸部には横位に三角押文を数条巡らす	ナデ	暗褐	密（白・黒・赤色粒、雲母）	ー	
12竪穴	56図	13	縄文	浅鉢	ー・ー・ー	口縁～胴	口縁部に突起が付く，口唇部にキャタピラ文，波状押引文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、雲母）	ー	
12竪穴	56図	14	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	口唇部は丸みをもって肥厚し，縄文を地文とする	ナデ	鈍い黄橙	密（石英、長石、角閃石、雲母）	ー	
12竪穴	56図	15	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	縄文	ナデ	鈍い橙	密（黒色粒、石英、長石、雲母）	ー	
12竪穴	56図	16	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	楕円区画文，重三角区画文の中に三叉状腹刻文，隆帯には刻み目文，その脇には連続爪形文も施す	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒、雲母、スコリア）	ー	
12竪穴	56図	17	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	キャタピラ文に三角押文を伴う	ナデ	橙	密（黒色粒、石英、長石、スコリア、雲母）	ー	
12竪穴	56図	18	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	胴部には粘土板の貼付による抽象文，その内部には半截竹管状工具による押引文を充填	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	ー	
12竪穴	56図	19	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	無文で胴部に短隆帯が付く，指頭圧痕が顕著	ナデ	橙	密（白・黒色粒、スコリア、角閃石、雲母）	ー	
12竪穴	56図	20	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	縄文	ナデ	鈍い橙	密（黒色粒、石英、長石、雲母、角閃石、スコリア）	ー	
12竪穴	56図	21	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	縄文	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒、石英、長石、雲母）	ー	
12竪穴	56図	22	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	波状押引文	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒、石英、雲母）	ー	
12竪穴	56図	23	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	矩形区画の内部に沈線	ナデ	灰褐	密（黒色粒、石英、長石、雲母）	ー	
12竪穴	56図	24	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	角押文	ナデ	橙	密（白・黒色粒、スコリア、角閃石、雲母）	ー	
12竪穴	56図	25	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	抽象文，隆帯脇にキャタピラ文と三角押文を施す	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒、石英、長石、雲母）	ー	
12竪穴	56図	26	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	抽象文，隆帯脇にキャタピラ文と三角押文を施す	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒、石英、長石、雲母）	ー	
12竪穴	56図	27	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	半隆起線による矩形区画	ナデ	鈍い黄橙	密（黒色粒、石英、長石、雲母）	ー	
12竪穴	56図	28	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	三角押文	ナデ	灰黄褐	密（白色粒、スコリア、雲母）	ー	
12竪穴	56図	29	縄文	深鉢	ー・ (8.0) ・ー	胴～底	縄文	ナデ	鈍い褐	密（赤・黒色粒、石英、長石、雲母）	ー	
12竪穴	56図	30	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	刺突文	ナデ	鈍い橙	密（黒色粒、石英、長石、雲母）繊維は含まない	ー	早期茅山上層式期か？
12竪穴	56図	31	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	縄文	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒、石英、長石、雲母）	ー	
12竪穴	56図	32	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	縄文	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒、雲母）	ー	
12竪穴	56図	33	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	縄文	ナデ	鈍い褐	密（石英、長石、雲母、スコリア）	ー	
12竪穴	56図	34	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	縄文	ナデ	鈍い橙	密（黒色粒、石英、長石、雲母）	ー	
12竪穴	56図	35	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	縄文	ナデ	黄褐	密（白・赤色粒、雲母）	ー	
12竪穴	56図	36	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	縄文を地文とし、刻み目をもつ浮線文	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、雲母）	ー	
12竪穴	56図	37	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	縄文	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、石英、黄雲母）	ー	
12竪穴	56図	38	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	縄文	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	ー	
12竪穴	56図	39	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	縄文，沈線	ナデ	鈍い褐	密（石英、長石、スコリア、雲母）	ー	
13竪穴	61図	1	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～胴	口縁部はほぼ直立し，口唇部が外反する．口唇部の一部に刻み目，口縁部は無文帯でその下部に楕円区画文を配する	ナデ	明褐	密（白・黒・赤色粒、雲母）	ー	
13竪穴	61図	2	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	口縁部はほぼ直立，口唇部は外反する．口縁部は無文帯	ナデ	鈍い黄褐	密（白・黒色粒）	ー	
13竪穴	61図	3	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	口縁部はほぼ直立，無文帯となっている	ナデ	灰黄褐	密（白・黒色粒、雲母）	ー	
13竪穴	61図	4	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	キャタピラ文，波状沈線によって、充填された楕円文がみられる，その下部は無文	ナデ	明褐	密（白・黒色粒、雲母）	ー	
13竪穴	61図	5	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	口縁部は若干内彎し、無文帯	ナデ	明黄褐	密（白・黒色粒）	ー	
13竪穴	61図	6	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	縄文を地文として口唇直下に波状沈線文	ナデ	明褐	密（白・黒色粒）	ー	
13竪穴	61図	7	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～胴	ナデ	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒）	ー	粗製土器
13竪穴	61図	8	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～胴	縄文を地文に波状沈線	ナデ	明褐	密（白・黒色粒）	ー	
14竪穴	65図	1	土師器	坏	(12.0) ・4.3・4.4	口縁～底	ロクロナデ，手持ち斜めヘラケズリ，底部回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	70	体部外面正位墨書
14竪穴	65図	2	土師器	坏	12.6・5.5・3.0	口縁～底	ロクロナデ，底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	橙	やや粗（白・黒・赤色粒）	95	黒色土器系、体部外面正位墨書「中」，内面一部黒色化
14竪穴	65図	3	土師器	坏	(14.0) ・ (4.2) ・ (3.75)	口縁～底	ロクロナデ，手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	緻密（白・赤色粒）	15	体部外面倒位墨書土器
14竪穴	65図	4	土師器	皿	(12.7) ・3.8・3.1	口縁～底	ロクロナデ，手持ち斜めヘラケズリ，底部回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白色粒ー多・赤色粒）	50	
14竪穴	65図	5	土師器	坏	13.8・5.4・5.1	口縁～底	ロクロナデ，手持ち斜めヘラケズリ，底部全面ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	やや粗（白・赤色粒）	90	体部外面、口唇部内外の所々に薄く油煙付着
14竪穴	65図	6	土師器	坏	12.8・4.1・4.4	口縁～底	ロクロナデ，手持ち斜めヘラケズリ，底部回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	緻密（白・赤色粒ー多）	95	
14竪穴	65図	7	土師器	皿	12.4・4.0・2.5	口縁～底	ロクロナデ，手持ち斜めヘラケズリ，底部全面ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	90	体部外面正位墨書「山」，体部内外面スス付着
14竪穴	65図	8	土師器	坏	(12.0) ・ (4.4) ・4.45	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ	褐	やや粗（白色粒ー多，黒色粒ー多，赤色粒）	30	
14竪穴	65図	9	黒色土器	坏	(14.3) ・5.4・5.1	口縁～底	ロクロナデ，底部回転糸切り未調整	ロクロナデ，丁寧なミガキ	鈍い黄橙ー黒	やや粗（白・黒・赤色粒、雲母）	60	黒色化は基本的に内面が中心であるが外面も50%程度及んでいる．明瞭なロクロ痕
14竪穴	65図	10	黒色土器	高台皿	12.4・5.1・3.45	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ，ミガキ	浅黄橙	密（白・黒・赤色粒）	90	体部外面刻書
14竪穴	65図	11	黒色土器	坏	ー・5.5・ー	休～底	ロクロナデ，底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	橙（基本は内面黒色）	やや粗（白・黒・赤色粒）	5	体部内面剥離
14竪穴	65図	12	黒色土器	坏	ー・ (5.0) ・ー	休～底	ロクロナデ	ロクロナデ，丁寧なミガキ	鈍い黄橙	やや粗（白・赤色粒色粒・黒色粒ー多）	5	体部外面黒変

表4-（5） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
14竪穴	65図	13	土師器	坏	(14.0) ・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	橙（基本は内面黒色）	やや粗（白・黒・赤色粒）	5	黒色土器系、体部内面剥離
14竪穴	65図	14	土師器	坏	(13.0) ・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	褐	密（白色粒－多、赤色粒）	20	体部内外面黒変
14竪穴	65図	15	黒色土器	高台皿？	(13.4) ・－－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	浅黄橙	密（白・赤色粒、雲母）	60	
14竪穴	65図	16	灰釉陶器	皿？	－・ (6.8) ・－	底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰	緻密（白・黒色粒）	20	釉ハケ塗り、重焼痕の高台痕あり、美濃窯光ヶ丘1号窯式前半期
14竪穴	65図	17	土師器	ロクロ羽釜	－・ (11.8) ・－	口縁～底	ロクロナデ、カキメ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	やや密（白・黒・赤色粒、1～7mmの小礫）	60	体部内外面剥離、体部内外面黒変
14竪穴	65図	18	土師器	甕	(29.8) ・－・－	口縁～胴	横ナデ、ハケメ	ハケメ	赤褐	やや粗（白・黒・赤色粒、雲母）	50	
14竪穴	65図	19	土師器	甕	－・ (9.0) ・－	胴～底	ハケメ、底部木葉痕	ハケメ	暗褐	やや粗（白・黒・赤色粒、雲母）	15	体部内外面剥れ著しい
14竪穴	65図	20	土師器	甕	－・9.0・－	胴～底	ハケメ、底部木葉痕	ハケメ、指頭圧痕	外－明赤褐、内－暗褐	やや粗（白・黒・赤色粒、雲母）	30	体部内面黒変、外面剥離
14竪穴	66図	24	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	竹管文、沈線	ナデ	褐	密（白・黒色粒、角閃石）	－	
14竪穴	66図	25	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	沈線	ナデ	明褐	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	
14竪穴	66図	26	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線	ナデ	暗褐	密（白・黒・赤色粒、角閃石、雲母）	－	
14竪穴	66図	27	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線	ナデ	褐	密（白・黒色粒、角閃石）	－	
14竪穴	66図	28	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線	ナデ	明褐	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	
14竪穴	66図	29	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線	ナデ	黄褐	密（白・黒色粒）	－	
14竪穴	66図	30	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、角閃石－多）	－	
14竪穴	66図	31	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線	ナデ	明褐	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石、礫）	－	
14竪穴	66図	32	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線	ナデ	赤褐	密（白・黒色粒）	－	
14竪穴	66図	33	縄文	深鉢	－・ (14.0) ・－	胴～底	沈線	ナデ	明褐	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	
14竪穴	66図	34	縄文	深鉢	－・－・－	胴	矢羽根状条線、棒状貼付文	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、雲母）角閃石－多）	－	
14竪穴	66図	35	縄文	深鉢	－・－・－	胴	棒状貼付文	ナデ	黄褐	密（白・黒色粒）	－	
14竪穴	66図	36	縄文	深鉢	－・－・－	胴	棒状貼付文、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、角閃石－多）	－	30,34と同一個体か
14竪穴	66図	37	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	波状沈線文、キャタピラ文	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
14竪穴	66図	38	縄文	深鉢	－・－・－	胴	キャタピラ文	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒、角閃石）	－	
14竪穴	66図	39	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角押文	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	
14竪穴	66図	40	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁～胴	三角区画文、沈線	ナデ	鈍い黄褐	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	
14竪穴	66図	41	縄文	深鉢	－・－・－	胴	重三角区画文、三角押文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、雲母）	－	
14竪穴	66図	42	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角区画文、三角押文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、雲母）	－	41と同一個体か
14竪穴	66図	43	縄文	深鉢	－・ (10.0) ・－	胴～底	三角押文、底部網代痕	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
14竪穴	66図	44	縄文	深鉢	－・ (7.4) ・－	胴～底	縄文	ナデ	明褐	密（白・黒色粒）	－	
14竪穴	66図	45	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁～胴	押圧隆帯文	ナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
14竪穴	66図	46	縄文	ミニチュア土器	－・－・－	胴	ナデ	ナデ	灰黄褐	密（白・黒色粒）	－	
14竪穴	66図	47	縄文	鍔付土器？	(14.4) ・－・－	口縁～胴	ナデ	ナデ	明褐	密（白・黒色粒、雲母）	－	
15竪穴	68図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	三角押文	ナデ	明褐	密（白色粒）	－	
16竪穴	71図	1	土師器	皿	(13.0) ・3.6・2.9	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ、底部全面ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	やや密（白・黒・赤色粒）	60	つくりが粗雑、油煙状のススが器面内外に付着、内面アバタ状に荒れる
16竪穴	71図	2	土師器	坏	(12.4) ・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	外－鈍い赤褐、内－黒褐	やや密（白・黒・赤色粒）	5	
16竪穴	71図	3	土師器	皿	(12.5) ・ (4.6) ・2.2	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ、底部回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	やや密（白・黒・赤色粒、小礫）	20	
16竪穴	71図	4	土師器	皿	(12.2) ・－・2.4	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	やや密（白色粒－多・黒・赤色粒）	40	
16竪穴	71図	5	土師器	坏	(13.4) ・ (6.2) ・3.9	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	橙	やや密（白・黒・赤色粒、雲母、小礫）	20	黒色土器系
16竪穴	71図	6	黒色土器	坏	(14.4) ・ (6.8) ・3.6	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ、ミガキ	黒～鈍い黄褐	密（白・黒色粒、角閃石）	25	黒色処理は内面全体に及んでいない、内面のミガキは丁寧
16竪穴	71図	7	黒色土器	高台皿？	(13.6) ・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	外－鈍い赤褐、内－黒	やや密（白色粒－多・黒・赤褐色、小礫、角閃石）	5	
16竪穴	71図	8	黒色土器	高台皿？	(13.6) ・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	外－鈍い赤褐、内－黒	やや密（白色粒－多・黒・赤褐色、小礫、角閃石）	15	内面ミガキ剥離
16竪穴	71図	9	黒色土器	坏	－・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	外－黒～鈍い黄褐、内－黒	密（白・黒色粒、角閃石、雲母）	－	体部外面正位墨書
16竪穴	71図	10	土師器	坏	－・ (4.8) ・－	体～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ、ミガキ	外－鈍い黄褐、内－明褐	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	20	黒色土器系
16竪穴	71図	11	黒色土器	坏？	－・ (6.2) ・－	体～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ、ミガキ	外－明赤褐、内－黒	やや密（白色粒－多・黒・赤色粒）	－	
16竪穴	71図	12	灰釉陶器	皿	(14.0) ・－・－	口縁～体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰オリーブ	密（白・黒色粒）	5	
16竪穴	71図	13	土師器	甕	(26.0) ・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	明赤褐	やや密（白・黒・赤色粒、雲母）	5	
16竪穴	71図	14	土師器	甕	(15.3) ・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	鈍い赤褐～黒褐	やや密（白・黒・赤色粒、雲母－多）	5	
16竪穴	71図	15	土師器	甕	(17.5) ・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	鈍い赤褐	やや密（白・黒色粒、雲母－多）	5	
16竪穴	71図	16	土師器	甕	(17.3) ・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	赤褐	やや粗（白・黒色粒、石英、雲母）	5	
16竪穴	71図	17	土師器	ロクロ広口壺	(14.0) ・ (5.2) ・14.1	口縁～底	ロクロナデ、ハケナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、ハケメ	外－橙～黒褐、内－鈍い橙	やや密（白・黒・赤色粒、角閃石、小礫）	20	
16竪穴	71図	18	土師器	ロクロ広口壺	(14.0) ・－・－	口縁～胴	ロクロナデ、ハケメ、ヘラケズリ	ロクロナデ、ハケメ	外－明赤褐、内－橙～鈍い橙	やや密（白・黒・赤色粒、角閃石、小礫）	5	口頸部は片口状を呈する
17竪穴	76図	1	土師質	小型皿	(8.4) ・ (4.0) ・1.7	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ	にぶい黄橙	やや粗（白色粒、小礫）	5	
17竪穴	76図	2	土師質	羽釜	－・－・－	体～底	ヘラナデ	ロクロナデ	明褐	粗（白・黒・赤色粒、雲母、小礫）	30	
17竪穴	76図	3	土師質	坏	(13.4) ・ (5.6) ・4.8	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	橙	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石、小礫）	40	
17竪穴	76図	4	土師質	甕	(34.0) ・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	鈍い褐	やや粗（白・黒・赤色粒、雲母）	5	
17竪穴	76図	5	土師質	羽釜	(29.0) ・－・－	口縁～胴	ヘラナデ	ヘラナデ	鈍い赤褐	粗（白・黒・赤褐色、雲母、小礫）	5	内外面スス付着顕著、指頭痕も顕著
17竪穴	76図	6	土師質	羽釜	(26.6) ・－・－	口縁～胴	ヘラナデ	ヘラナデ	鈍い赤褐	粗（白・黒・赤褐色、雲母、小礫）	5	スス付着、指頭痕も顕著
17竪穴	76図	7	土師質	羽釜	(28.6) ・－・－	口縁～胴	ヘラナデ	ヘラナデ	鈍い赤褐	粗（白・黒・赤褐色、小礫）	5	外面スス付着、指頭痕も顕著
18竪穴	76図	1	土師質	小型皿	(8.5) ・4.8・2.0	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	暗褐	粗（白・赤色粒、小礫）	60	底部の切り離しが雑
18竪穴	76図	2	土師質	小型皿	(8.2) ・4.6・2.4	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	黒褐	密（白・黒色粒、小礫）	80	
18竪穴	76図	3	土師質	羽釜	(29.0) ・鍔径35.0	口縁～胴	ナデ	ナデ	赤褐	やや粗（白・黒・赤色粒、小礫）	15	外面スス付着、内面荒れている
18竪穴	76図	4	土師質	小型羽釜	鍔径14.5	胴	ナデ、ヘラケズリ	指頭圧痕	鈍い赤褐	粗（白色粒－多、黒・赤色粒、角閃石、石英、雲母）	－	指頭痕顕著、内外面に赤状付着物あり
19竪穴	77図	1	土師質	小型皿	(8.0) ・ (4.0) ・2.0	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	浅黄橙	密（白・赤色粒）	10	
19竪穴	77図	2	土師質	小型皿	(8.4) ・ (4.0) ・1.8	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い橙	やや粗（白・黒・赤色粒　多）	15	
19竪穴	77図	3	土師質	小型皿	(8.0) ・ (4.1) ・1.9	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	橙	やや密（白・黒・赤色粒）	80	二次焼成を受け体部内外面変色
19竪穴	77図	4	土師質	小型皿	8.2・4.2・1.9	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	赤褐	やや密（赤色粒、雲母－多）	100	

表4-(6)　土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
19竪穴	77図	5	土師質	小型皿	(8.4)・(4.0)・2.2	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	褐	やや粗（白・赤色粒、雲母－多）	40	内面剥離
19竪穴	77図	6	土師質	小型皿	8.6・(4.4)・2.5	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	褐	やや密（白・赤色粒、雲母－多）	75	体部内外面黒変
19竪穴	77図	7	土師質	小型皿	(9.0)・4.6・2.8	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	明褐	やや粗（白・黒・赤色粒）	70	口縁部黒変
19竪穴	77図	8	土師質	小型皿	(9.0)・(5.6)・1.7	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い黄橙	密（白色粒、雲母－多）	100	体部内面油煙薄く付着
19竪穴	77図	9	土師質	小型皿	－・(5.0)・－	体～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い橙	やや粗（白・赤色粒－多、角閃石）	15	
19竪穴	77図	10	土師質	小型皿	－・(5.8)・－	体～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	橙	粗（白・赤色粒、雲母、小礫）	10	体部外面黒変、漆付着断面にも及ぶ、補修した痕跡か
19竪穴	77図	11	灰釉陶器	椀？	－・(6.7)・－	底	ロクロナデ	ロクロナデ	灰	緻密（白色粒）	－	底部内面墨痕あり、転用硯の可能性あり
19竪穴	77図	12	灰釉陶器	椀？	－・5.4・－	底	ロクロナデ	ロクロナデ	淡黄	密（白色粒）	－	転用硯の可能性あり
19竪穴	77図	13	土師質	羽釜	(29.0)・鍔径33.5	口縁～胴	ハケメ、ナデ、指頭調整痕	ハケメ、指頭圧痕	赤褐	やや粗（白・黒・赤色粒、小礫－多）	30	体部内外面黒変、スス付着
20竪穴	82図	1	縄文	深鉢	(48.0)・－・[77.8]		口縁部は重三角区画文、頸部は方形区画文と重三角区画文、胴部下半には重三角区画文と楕円区画文を配し、さらに隆帯が垂下し、指頭圧痕が顕著に残る、キャタピラ文、三角押文を多用し、玉抱三叉文、円形刺突文を区画内に施す、胴部にはサンショウウオ状抽象文の他、もう一単位抽象文を描く、口縁部の眼鏡状把手も頸部の文様態と連動しており、人体文状のモチーフを描いている	ナデ	赤褐、褐灰	粗（石英、長石）	60	
20竪穴	82図	2	縄文	深鉢	(20.6)・(11.2)・27.6		口縁部は縄文を地文として胴部には5段にわたる楕円区画文帯を配する、区画内には全てキャタピラ文と波状沈線文を施す	ナデ	鈍い黄橙	やや密（赤色粒、長石、石英、角閃石）	80	胴部内外面黒変
20竪穴	82図	3	縄文	深鉢	21.0・12.2・24.2		口縁部から胴部上部にかけて無文、その下部にキャタピラ文を横位に巡らす、4単位の抽象文を刻みのある隆帯とキャタピラ文、波状沈線によって表現している	ナデ	橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、角閃石）	90	胴部内外面黒変
20竪穴	82図	4	縄文	深鉢	(21.7)・－・－	口縁～胴	口縁部は無文。、胴部上半に平行四辺形区画文、その下部に格子目区画文等を配し、縄文を地文とする、区画内はキャタピラ文や三角押文を施す	ナデ	鈍い褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、小礫）	35	胴部内外面黒変、補修孔あり
20竪穴	82図	5	縄文	深鉢	(21.6)・－・－	口縁～胴	口縁部は縄文を地文とし、三角押文で装飾された磨消円形文を施す、その直下に三角区画文を配し、粘土板貼付けとキャタピラ文により表出したサンショウウオ状抽象文を施す	ナデ	橙	やや粗（黒・赤色粒、長石、石英）	35	口縁部黒変、スス付着
20竪穴	83図	6	縄文	深鉢	(36.0)・(19.6)・(46.0)		口縁部は無文、パネル状把手と小突起をもち、小突起からは刻みをもつJ字状隆帯が垂下する、パネル状把手からパネル文の文様区画帯が胴部下部まで続く、胴部中央には縄文を地文とする大きな文様帯で抽象文を描く、その上部は三角、四角、菱形を組み合わせたパネル文的な構成、胴部下部は方形区画文、重三角区画文を構成する、三角押文とキャタピラ文を多用している	ナデ	褐から黒褐	やや粗（石英、長石、金色雲母）	50	
20竪穴	83図	7	縄文	深鉢	(16.4)・8.2・(22.7)		緩い波状口縁を呈する、隆帯に刻みを施した突起を最低2単位以上付ける、指頭圧痕を顕著に残す	ナデ	橙	やや密（赤色粒、長石、石英、角閃石、小礫）	80	胴部内外面黒変
20竪穴	83図	8	縄文	深鉢	14.5・9.0・20.2	口縁～胴	口唇部直下に三角押文を横位に巡らす、縄文を地文として三角押文を施した短隆帯を10単位付けその周りを三角押文で縁取る	ナデ	橙～鈍い橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英）	90	器面荒れている、体部内外面黒変
20竪穴	83図	9	縄文	深鉢	(29.0)・－・－	口縁～胴	口縁部は環状突起と耳状突起が組み合わされた複合突起、その下は眼鏡状突起、重三角区画文、区画内に三叉陰刻文と斜行沈線	ナデ	褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英）	－	胴部内外面黒変、スス付着
20竪穴	84図	10	縄文	深鉢	(21.4)・－・－	口縁～胴	口縁は波状口縁で縦位の平行沈線を施す、胴部は三角区画文、その中に渦巻き文と区画に沿ってキャタピラ文を施す、半截竹管による横位の沈線と隆線により区画される、胴部下部は縄文を地文とする	ミガキ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒色粒、長石、角閃石）	30	内外面とも一部黒変
20竪穴	84図	11	縄文	深鉢	(25.4)・－・－	口縁～胴	口縁部に環状突起、頸部は三角区画、半楕円区画文	ナデ	暗褐	粗（石英、長石、スコリア）	－	
20竪穴	84図	12	縄文	深鉢	28.0・－・－	口縁～胴	口縁部に刻み目をもち楕円区画文を配し、その内部にはキャタピラ文を施す	ナデ	鈍い褐	密（赤色粒、雲母、長石、輝石、安山岩）	－	内外面共に突起部分を中心に黒変
20竪穴	84図	13	縄文	深鉢	(28.6)・－・－	口縁	口縁部に刻み目の入る環状突起と重三角区画文を配する	ナデ	鈍い黄橙～褐灰	やや粗（石英、長石）	－	
20竪穴	84図	14	縄文	深鉢	(21.0)・－・－	口縁～胴	口縁部は縄文を地文とし、コブ状の円形貼付文を最低2単位以上、磨消技法による人体文？を配する、胴部は指頭圧痕をそのまま残し、再びその下部は縄文が地文となっている	ナデ	橙	やや密（赤色粒、長石、石英、角閃石）	25	胴部内外面黒変
20竪穴	84図	15	縄文	深鉢	(27.0)・－・－	口縁～胴	口縁部は無文、頸部に楕円区画文4単位、区画ごとにヒネリを加えた突起を2単位、小突起を2単位を付ける、隆線脇に三角押文、区画内には縦位の三角押文、キャタピラ文を充填する、胴部上半には三角区画文を配し、三角押文、キャタピラ文、横位沈線を施す	ナデ	鈍い褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、小礫）	35	胴部内外面黒変、補修孔あり
20竪穴	84図	16	縄文	深鉢	(17.4)・－・－	口縁～胴	口縁部に沈線、連続押引文	ナデ	橙	やや密（白・黒・赤色粒）	－	
20竪穴	84図	17	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	半隆起線に区画	ナデ	鈍い褐	密（白色粒）	－	
20竪穴	84図	18	縄文	深鉢	－・－・－	胴	粘土板の貼付によるサンショウウオ状の抽象文、その周りをキャタピラ文で強調	ナデ	明赤褐	やや密（黒・赤色粒、石英、長石、雲母）	10	胴部内面黒変
20竪穴	84図	19	縄文	深鉢	－・(8.6)・－	胴～底	隆線により三角区画文を形成し、隆線の脇には角押文を施す	ナデ	鈍い褐	密（白、赤色粒）	10	焼成はあまい
20竪穴	85図	20	縄文	深鉢	(21.8)・8.0・(21.2)	胴～底	無文で朝顔状に口縁が開く	ナデ	橙	やや粗（赤色粒、長石、石英、角閃石）	45	粗製
20竪穴	85図	21	縄文	深鉢	19.0・－・－	口縁～胴	縄文地文とする	ナデ	橙～鈍い橙	密（赤色粒、長石、安山岩、輝石）	－	
20竪穴	85図	22	縄文	深鉢	(19.2)・－・－	口縁	縄文を地文とし、磨消状の幅広の沈線と波状沈線文を施す	ナデ	灰黄褐	密（白色粒）	－	内面黒変
20竪穴	85図	23	縄文	深鉢	(19.2)・－・－	口縁	縄文を地文とし、口唇部に波状沈線を施す	ナデ	褐灰	やや密（白・赤色粒）	－	
20竪穴	85図	24	縄文	深鉢	(21.2)・－・－	口縁～胴	ナデ、縦位の平行沈線	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒・赤色粒）	－	平出三類A系
20竪穴	85図	25	縄文	深鉢	11.6・－・－	口縁～胴	縄文を地文とするカップ状土器	ナデ	鈍い褐	密（赤色粒、長石、輝石、安山岩）	－	口縁部を中心に内外面とも黒変
20竪穴	85図	26	縄文	深鉢	(10.0)・－・13.5	口縁～胴	縦方向ナデ	ナデ	褐	やや粗（石英、長石）	50	粗製
20竪穴	85図	27	縄文	深鉢	(12.8)・－・－	口縁～胴	縄文を地文とする	ナデ	明赤褐	やや密（白・赤色粒）	－	
20竪穴	85図	28	縄文	深鉢	(16.8)・－・－	口縁～胴	縄文を地文とし、隆線に沿って三角押文、隆線上に半截竹管状工具による連続半円刺突文を施す	ナデ	灰黄褐	密（白・黒色粒）	－	全体に黒変
20竪穴	85図	29	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縦位の平行沈線を施す	ナデ	褐	やや粗（白・黒・赤色粒、雲母）	－	
20竪穴	85図	30	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	円形貼付文	ナデ	褐	やや粗（白・黒・赤色粒、雲母）	－	
20竪穴	85図	31	縄文	有孔鍔付	－・－・－	胴	ナデ	ナデ	鈍い橙－やや黒変	粗（白・黒・赤色粒、角閃石、小礫）	10	ミニチュア、外側から内側に向かって穿孔、内外面とも黒変箇所あり
20竪穴	85図	32	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	半截竹管状工具による連続刺突文	ナデ	黒褐	やや粗（白・黒色粒、長石、角閃石）	－	内面黒変、33と同一個体か
20竪穴	85図	33	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半截竹管状工具による横位の沈線、刺突文、角押文	ナデ	外－灰褐、内－鈍い褐	密（白・赤色粒、角閃石）	－	内面一部黒変
20竪穴	85図	34	縄文	深鉢	－・－・－	胴	胴部が括れたり膨らんだりする、縄文を地文とし、くびれ部に磨消縄文と波状沈線文を施す	ナデ	鈍い橙	やや粗（白・黒・赤色粒）	15	
20竪穴	85図	35	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文	ナデ	明黄褐	やや粗（黒・赤色粒、長石、石英、小礫）	－	
20竪穴	85図	36	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縦位の平行沈線	ナデ	鈍い赤褐	密（白・赤色粒、角閃石）	－	
20竪穴	85図	37	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆線による重三角区画文を施し、さらに全体に縄文を施す	ナデ	外－橙、内－鈍い橙	粗（白・黒・赤色粒、角閃石、石英）	－	
20竪穴	85図	38	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縦位の沈線	ナデ	鈍い黄褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母、小礫）	30	平出三類A系
20竪穴	85図	39	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縦位の沈線	ナデ	鈍い黄褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母、小礫）	30	平出三類A系

表4-（7） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
20竪穴	85図	40	縄文	深鉢	ー・(11.0)・ー	胴～底	2条の沈線、その下部は縄文を地文とし、沈線を施した4単位のコブ状突起を貼付ける	ナデ	鈍い黄橙	やや密（赤色粒、長石、石英、小礫）	ー	胴部内外面黒変
20竪穴	86図	41	縄文	深鉢	ー・11.6・ー	胴～底	縄文を地文とする、磨消縄文による横帯の上下に波状沈線文を施す	ナデ	橙	密（赤色粒、長石、輝石、安山岩）	ー	内外面ともまだら状に薄く黒変
20竪穴	86図	42	縄文	深鉢	ー・7.0・ー	胴～底	縄文を地文とする	ナデ	赤褐	密（赤色粒、長石、輝石、安山岩）	ー	内面底部を中心に黒変、外面も一部黒変
20竪穴	86図	43	縄文	深鉢	ー・7.8・ー	胴～底	ナデ	ナデ	橙	やや密（赤色粒、長石、石英、角閃石）	35	粗製、胴部内面黒変
20竪穴	86図	44	縄文	深鉢	ー・(3.8)・ー	胴～底	ナデ	ナデ	外ー鈍い黄橙、内ー灰褐	粗（白・黒・赤色粒、小礫）	10	粗製
20竪穴	86図	45	縄文	深鉢	ー・6.0・ー	胴～底	ナデ	ナデ	橙	密（赤色粒、長石、輝石、安山岩）	ー	内面にスス状のものが付着
20竪穴	86図	46	縄文	深鉢	ー・9.0・ー	胴～底	縄文、ナデ	ナデ	橙	密（赤色粒、長石、輝石、安山岩、角閃石）	ー	内面は全体的に黒変
20竪穴	86図	47	縄文	深鉢	ー・16.0・ー	胴～底	楕円区画文、キャタピラ文	ナデ	明赤褐	やや密（赤色粒、長石、輝石、安山岩ー多）	ー	内面は黒変し、内外面とも剥離
20竪穴	86図	48	縄文	深鉢	ー・16.2・ー	胴～底	ナデ	ナデ	橙	やや密（赤色粒、長石、輝石、安山岩）	ー	底外面は中心付近が黒変、外面の一部スス付着、内面も一部黒変
20竪穴	86図	49	縄文	深鉢	ー・6.4・ー	底	ナデ	ナデ	橙	密（赤色粒、長石、輝石、安山岩）	ー	内外面とも一部黒変
20竪穴	86図	50	縄文	ー	ー・(9.9)・ー	底	ナデ	ー	橙	密（長石、輝石、安山岩、赤色粒）	ー	
20竪穴	86図	51	縄文	ー	ー・11.2・ー	底	ナデ	ナデ	橙	密（赤色粒、長石、輝石、安山岩、角閃石）	ー	
20竪穴	86図	52	縄文	ー	ー・13.0・ー	底	ナデ	ナデ	鈍い橙	密（赤色粒、安山岩、長石、輝石）	ー	
20竪穴	86図	53	縄文	台付	ー・(10.0)ー・ー	体～底	縄文を地文とし、横位の沈線	ナデ	褐灰	やや密（白・赤色粒）	ー	
20竪穴	86図	54	縄文	浅鉢	(19.0)・(8.0)・6.6	口縁～胴	縄文を地文とする	ナデ	鈍い橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、角閃石）	20	胴部内外面黒変
20竪穴	86図	55	縄文	浅鉢	(50.0)・ー・ー	口縁～胴	口縁部に2条の三角押文を施す	ナデ	明赤褐	やや粗（石英、長石、金色雲母ー多）	20	
20竪穴	86図	56	縄文	浅鉢	(42.8)・ー・ー	口縁～胴	口縁部小突起あり、口唇部に角押文と三角押文を施す	ヘラナデ	鈍い橙、鈍い褐	やや粗（白・黒色粒、角閃石）	5	内外面とも一部黒変
20竪穴	86図	57	縄文	浅鉢	(41.0)・ー・ー	口縁～胴	押圧隆帯、口唇部に三角押文を2条施す	ナデ	黒褐	やや粗（黒・赤色粒、長石、石英、角閃石）	ー	
20竪穴	86図	58	縄文	浅鉢	ー・ー・ー	口縁～胴	ナデ	ナデ	外ー鈍い黄橙、内ー黒	やや粗（白・赤色粒、角閃石）	ー	内面黒変
20竪穴	86図	59	縄文	浅鉢	ー・13.0・ー	胴～底	ナデ	ナデ	鈍い褐	密（赤色粒、安山岩、輝石、長石、角閃石）	ー	内外面とも一部黒変
20竪穴	86図	60	縄文	深鉢または浅鉢	ー・11.0・ー	胴～底	ナデ	ナデ	鈍い褐	やや密（赤色粒、長石、輝石、角閃石）	ー	
20竪穴	86図	61	縄文	深鉢または浅鉢	ー・9.0・ー	胴～底	ナデ	ナデ	鈍い橙	密（赤色粒、輝石、角閃石、長石、安山岩）	ー	
20竪穴	86図	62	縄文	深鉢または浅鉢	ー・8.0・ー	胴～底	縄文、ナデ	ナデ	鈍い橙	密（赤色粒、長石、角閃石、輝石、安山岩）	ー	
20竪穴	87図	63	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	押型文	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（赤色粒、長石、石英、角閃石、雲母）	ー	内面黒変
20竪穴	87図	64	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	横位沈線	ナデ	黒褐	密（黒色粒、赤色粒ー多、長石）	ー	
20竪穴	87図	65	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	縄文を地文	ナデ	鈍い褐	密（黒・赤色粒、長石、安山岩）	ー	口唇部内面黒変
20竪穴	87図	66	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁	ナデ	ナデ	鈍い褐	密（黒・赤色粒、長石ー大・小、輝石ー多、安山岩）	ー	
20竪穴	87図	67	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	縦位の沈線	ナデ	鈍い赤褐	密（赤色粒、長石、角閃石、輝石）	ー	
20竪穴	87図	68	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	横位と縦位の沈線	ナデ	鈍い赤褐	密（黒・赤色粒、長石、角閃石）	ー	
20竪穴	87図	69	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	縄文を地文とし、刻みをもつ浮線文が3本横走	ナデ	鈍い赤褐	密（赤・紫色粒、長石ー多、雲母、角閃石）	ー	
20竪穴	87図	70	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	縄文を地文とし、刻みをもつ浮線文が3本横走	ナデ	鈍い赤褐	密（黒・赤色粒、長石、石英）	ー	
20竪穴	87図	71	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	横位の沈線	ナデ	褐	密（黒・赤色粒、長石、角閃石）	ー	
20竪穴	87図	72	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	縄文を地文とし、刻みをもつ浮線文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石ー多）	ー	
21竪穴	90図	1	土師器	坏	(14.2)・(5.0)・5.15	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	外ー鈍い赤褐、内ー橙、鈍い赤褐	密（白・赤色粒、雲母ー少）	20	体部外面倒位墨書「入・入」
21竪穴	90図	2	土師器	坏	(12.8)・ー・ー	口縁～体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・黒色粒、角閃石）	5	体部外面正位墨書
21竪穴	90図	3	土師器	坏	(17.8)・(8.6)・6.7	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り後周辺ヘラケズリ		外ー橙、内ー灰褐	やや粗（白色粒ー多、赤色粒）	25	黒色土器系の調整
21竪穴	90図	4	黒色土器	坏	(13.0)・ー・ー	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	外ー鈍い黄橙、内ー黒	密（白色粒ー多、赤色粒、角閃石）	20	
21竪穴	90図	5	黒色土器	坏	ー・ー・ー	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	外ー灰黄褐、内ー黒	密（白・赤色粒）	5	外面スス付着
21竪穴	90図	6	灰釉陶器	椀	(13.8)・ー・ー	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	明オリーブ灰	緻密（白色粒）	5	
21竪穴	90図	7	土師器	小型甕	(14.8)・ー・ー	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ後ナデ	外ー鈍い褐、内ー黒褐	やや粗（白色粒、雲母）	30	
21竪穴	90図	8	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	矢羽条線を地文、ボタン状貼付文	ナデ	明黄褐	粗（白・黒色粒、角閃石）	ー	
21竪穴	90図	9	縄文	深鉢	(18.0)・ー・ー	口縁～胴	重三角区画文、玉抱三叉文、陰刻三叉文	ミガキ	鈍い橙	やや粗（白・黒色粒）	10	
21竪穴	90図	10	縄文	深鉢	(19.6)・ー・ー	口縁～胴	円形貼付文、隆線	ナデ	灰黄褐	粗（白・黒・赤色粒、砂礫）	5	
21竪穴	90図	11	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～胴	円形貼付文、隆線	ナデ	灰黄褐	粗（白・黒・赤色粒、砂礫）	ー	
21竪穴	90図	12	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～胴	隆線文	ナデ	鈍い黄橙	粗（白・黒・赤色粒、砂礫）	ー	
21竪穴	90図	13	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～胴	隆線文	ナデ	黒褐	粗（白・黒・赤色粒）	ー	
21竪穴	90図	14	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～胴	縄文地文	ナデ	外ー橙、内ー鈍い褐	やや粗（黒・赤色粒）	ー	
21竪穴	90図	15	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～胴	沈線文および縄文	ナデ	鈍い橙	粗（白・黒色粒）	ー	
21竪穴	90図	16	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～胴	口唇部に沿って波状沈線文、その下部に縄文	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒色粒）	ー	
21竪穴	90図	17	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	沈線文および縄文	ナデ	外ー橙、内ー鈍い橙	やや粗（白色粒）	ー	
21竪穴	90図	18	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	沈線文および縄文	ナデ	鈍い橙	やや粗（白色粒）	ー	
21竪穴	90図	19	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	縄文	ナデ	外ー鈍い橙、内ー褐灰	やや粗（白色粒）	ー	
21竪穴	90図	20	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	沈線文および縄文	ナデ	外ー淡黄、内ー浅黄橙	やや粗（白・赤色粒、石英、砂礫）	ー	縄文後期堀之内式
21竪穴	90図	21	縄文	深鉢	ー・(9.0)・ー	胴～底	ナデ	ナデ	外ー鈍い黄橙、内ー褐灰	やや粗（白・黒色粒）	ー	器面荒れている
21竪穴	90図	22	縄文	深鉢	ー・7.25・ー	胴～底	ナデ、底部木葉痕	ナデ	鈍い黄橙	粗（白・黒・赤色粒、角閃石、石英、砂礫）	ー	
22竪穴	92図	1	縄文	深鉢	(34.0)・ー・ー	口縁～胴	口縁部の区画体の全容は不明だが区画との接点にヒネリを付けている、三角押文と角押文を多用している	ナデ	明赤褐、暗褐	やや密（赤色粒、雲母、長石、石英、角閃石）	10	
22竪穴	92図	2	縄文	深鉢	25.4・ー・ー	口縁～胴	ナデ	ナデ	鈍い橙	やや粗（黒・赤色粒、長石、石英、小礫）	10	
22竪穴	92図	3	縄文	小型深鉢	(14.0)・ー・ー	口縁～胴	縄文を地文に三角押引文、角押文を横位に施す	ナデ	外ー明赤褐、内ー暗赤褐	密（赤色粒、長石、石英、角閃石）	10	
22竪穴	92図	4	縄文	有孔土器	(12.0)・ー・ー	口縁～	ナデ	ナデ	鈍い褐	密（赤・黒色粒、長石）	ー	
22竪穴	92図	5	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～	キャタピラ文	ナデ	鈍い橙	やや密（赤色粒、長石、石英、角閃石）	ー	
22竪穴	92図	6	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～	キャタピラ文	ナデ	鈍い橙	密（長石、石英、角閃石）	ー	
22竪穴	92図	7	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～	キャタピラ文	ナデ	鈍い橙	やや密（長石、石英、角閃石）	ー	
22竪穴	92図	8	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～	キャタピラ文	ナデ	鈍い橙	やや密（長石、石英、角閃石）	ー	
22竪穴	92図	9	縄文	浅鉢	ー・ー・ー	口縁～	口唇部に三角押文、押圧隆帯	ナデ	外ー橙、内ー暗灰黄	密（赤色粒、長石、石英、角閃石、小礫）	ー	
22竪穴	92図	10	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁～	口唇部がやや大きく外反し、口縁部には縄文を施す	ナデ	淡黄	密（赤色粒、長石、石英、角閃石、小礫）	ー	
22竪穴	92図	11	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	三角押文、三叉状陰刻文を伴う区画文、連続刻み目を伴う隆帯	ナデ	橙	密（長石、黒色粒）	ー	
22竪穴	92図	12	縄文	深鉢	ー・ー・ー	口縁飾り	三角区画文の一部で隆帯脇を三角押文で加飾	ナデ	鈍い橙	密（黒色粒、長石、石英）	ー	
22竪穴	92図	13	縄文	深鉢	ー・ー・ー	胴	縦位沈線	ナデ	鈍い黄褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母、小礫）	ー	中出三類A系

表4-（8） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
22竪穴	92図	14	縄文	深鉢	－・－・－	胴	楕円区画文、三角押引文による波状沈線文、低い隆帯にキャタピラ文を施す	ナデ	外－橙、内－鈍い黄橙	密（黒色粒、長石、石英、角閃石）	5	
22竪穴	92図	15	縄文	深鉢	－・－・－	胴	キャタピラ文、沈線を伴う三角区画文	ナデ	鈍い黄橙	やや密（赤色粒、長石、石英、小礫、角閃石）	－	内面荒れている
22竪穴	92図	16	縄文	深鉢	－・9.6・－	底	ナデ	ナデ	橙	密（長石、黒色粒）	－	内面黒変
22竪穴	92図	17	縄文	深鉢	－・12.0・－	底	ナデ、底部網代痕	ナデ	明黄褐	密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母）	－	
22竪穴	92図	18	縄文	深鉢	－・（15.0）・－	胴～底	キャタピラ文、楕円区画文	ナデ	橙	やや粗（黒・赤色粒、長石、石英）	－	胴部内面黒変
22竪穴	92図	19	縄文	浅鉢	（44.0）・－・－	口縁～胴	ナデ	ナデ	鈍い橙	やや粗（赤色粒、長石、石英、角閃石）	－	胴部内外面黒変
23竪穴	95図	1	土師器	皿	12.7・4.5・2.4	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ、回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ、ミガキ	明赤褐～黒褐	密（白・黒・赤色粒）	80	器面内外にスス付着、口縁部には油煙状スス付着
23竪穴	95図	2	土師器	坏	（11.6）・－・－	口縁～	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	5	
23竪穴	95図	3	土師器	坏	（12.0）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	5	
23竪穴	95図	4	土師器	坏	13.2・－・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	5	
23竪穴	95図	5	土師器	盌	（13.3）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	外－明赤褐から灰褐、内－明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	5	
23竪穴	95図	6	土師器	坏又は皿	－・－・－	口縁	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	－	体部外面墨書
23竪穴	95図	7	土師器	坏？	－・－・－	体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（黒・赤色粒）	－	体部外面正位墨書
23竪穴	95図	8	黒色土器	坏	（14.0）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	外－黒褐、内－黒	やや密（白色粒一多、黒・赤色粒）	5	
23竪穴	95図	9	黒色土器	坏	（14.9）・－・－	口縁～	ロクロナデ	ロクロナデ	外－暗褐、内－黒	密（白・黒・赤色粒）	5	甲斐型土器系
23竪穴	95図	10	土師器	坏	－・（4.6）・－	体～底	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	5	
23竪穴	95図	11	土師器	坏	－・（3.4）・－	体～底	ロクロナデ、ヘラケズリ、回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ	外－橙、内－明褐	密（黒・赤色粒）	5	
23竪穴	95図	12	黒色土器	坏	－・（6.0）・－	体～底	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、ミガキ	外－鈍い褐、内－黒	やや密（白・黒・赤色粒、角閃石）	5	
23竪穴	95図	13	黒色土器	坏	－・（5.4）・－	底	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ	明褐	密（白・黒色粒）	5	
23竪穴	95図	14	黒色土器	坏	－・5.1・－	体～底	ロクロナデ、回転糸切り	ロクロナデ、ミガキ	外－明赤褐、内－赤褐	密（白、黒色粒、雲母）	5	
23竪穴	95図	15	灰釉陶器	皿	（14.8）・（6.8）・3.1	口縁～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	外－灰白、内－鈍い黄橙	密（白色粒）	25	転用硯の可能性あり、みこみ部よく磨れ、墨痕らしきものみられる、美濃窯光ヶ丘1号窯式後半期
23竪穴	95図	16	灰釉陶器	椀	（14.8）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	暗灰黄	密（白色粒）	15	
23竪穴	95図	17	灰釉陶器	椀	（13.8）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒色粒）	5	
23竪穴	95図	18	灰釉陶器	椀	（13.8）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒色粒）	10	稜調は16と同じ
23竪穴	95図	19	灰釉陶器	皿？	（14.0）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒色粒）	5	
23竪穴	95図	20	灰釉陶器	椀	（14.0）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒色粒）	10	
23竪穴	95図	21	灰釉陶器	皿？	（15.8）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	密（白・黒・赤色粒）	5	
23竪穴	95図	22	灰釉陶器	椀	－・（6.0）・－	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰黄	密（白色粒・黒色粒一少）	5	
23竪穴	95図	23	灰釉陶器	椀	－・（7.6）・－	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒色粒）	15	転用硯の可能性あり、みこみ部よく磨れ、墨痕らしきものみられる、美濃窯光ヶ丘1号窯式後半期
23竪穴	95図	24	灰釉陶器	長頸瓶	－・－・－	強	ロクロナデ	ロクロナデ	灰オリーブ	密（白・黒色粒、石英）	5	
23竪穴	95図	25	土師器	甕	（38.0）・－・－	口縁～体	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	外－暗褐、内－明褐	やや粗（白・黒・赤色粒）	5	
23竪穴	95図	26	土師器	甕	－・－・－	口縁	ハケメ、横ナデ	ハケメ	暗赤褐	やや密（白・黒色粒、礫）	－	
23竪穴	95図	27	土師器	甕	－・－・－	口縁	ハケメ、横ナデ	ハケメ	鈍い黄褐	やや密（白・黒・赤色粒、石英、雲母）	－	
23竪穴	95図	28	土師器	小型甕	（10.0）・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ	黒褐	密（白・黒色粒、雲母）	5	
23竪穴	95図	29	土師器	小型甕	（18.5）・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ	外－鈍い赤褐、内－黒褐	密（白色粒、雲母）	5	
23竪穴	95図	30	土師器	甕	－・－（8.0）・－	胴～底	ハケメ、底部木葉痕	ハケメ	外－鈍い赤褐、内－黒褐	やや密（白・黒色粒、雲母）	5	
23竪穴	95図	31	土師器	甕	－・（9.0）・－	胴～底	ハケメ、ナデ、底部木葉痕	ハケメ	鈍い褐	やや密（白色粒一多、黒色粒、石英、雲母）	5	
23竪穴	95図	32	須恵器	甕？	－・－・－	胴	タタキ目	ナデ	褐灰	密（白・黒・赤色粒）	－	
23竪穴	95図	33	須恵器	甕？	－・－・－	底	－	－	黒褐	密（白・黒色粒）	－	
23竪穴	95図	34	瓦質	焙烙	－・（32.0）・－	底	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・赤色粒、黒色粒一多、角閃石一多）	－	
24竪穴	101図	1	土師器	皿	（12.8）・（2.0）・2.4	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	10	アバタ状に内面荒れている
24竪穴	101図	2	土師器	坏	11.8・4.0・3.6	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ、回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒色粒、赤色粒一多、小礫）	60	口縁部油煙付着、体部内面剥落が著しい
24竪穴	101図	3	土師器	坏	12.9・4.8・3.8	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白色粒一多、黒・赤色粒）	85	アバタ状に内面荒れている、タール状付着物あり
24竪穴	101図	4	土師器	坏	（11.2）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	10	
24竪穴	101図	5	土師器	坏	（12.8）・－・－	口縁～	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒、小礫）	5	
24竪穴	101図	6	土師器	皿？	（13.0）・－・－	口縁～	ロクロナデ	ロクロナデ	外－黒変、内－鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	5	
24竪穴	101図	7	土師器	坏	（13.8）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	黒褐	密（白・黒・赤色粒）	5	口縁部内外油煙付着
24竪穴	101図	8	土師器	坏	（15.8）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	5	
24竪穴	101図	9	黒色土器	坏	（13.8）・（4.6）・4.8	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ、底部全面ヘラケズリ	ロクロナデ	外－明赤褐、内－黒	密（白・黒・赤色粒）	80	甲斐型土器系、体部外面横位墨書2箇所「中・中」
24竪穴	101図	10	土師器	坏	－・－・－	口縁	ロクロナデ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・赤色粒）	－	体部外面墨痕あり
24竪穴	101図	11	土師器	坏	－・－・－	口縁	ロクロナデ	ロクロナデ	褐～暗褐	密（白・黒・赤色粒）	－	体部外面ヘラ書
24竪穴	101図	12	土師器	坏	－・－・－	体	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	－	体部外面墨書
24竪穴	101図	13	土師器	坏	－・－・－	体	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	－	体部外面墨書
24竪穴	101図	14	土師器	坏	－・－・－	体	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	－	体部外面墨書、墨痕鮮明
24竪穴	101図	15	土師器	盌	（12.8）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	5	
24竪穴	101図	16	黒色土器	盌	（12.6）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	外－橙、内－黒	密（白・黒・赤色粒）	5	甲斐型土器系、体部外面正位墨書
24竪穴	101図	17	黒色土器	坏	（13.3）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	外－明赤褐、内－黒	密（白・黒色粒）	5	
24竪穴	101図	18	黒色土器	坏	－・（6.0）・－	底	ロクロナデ、回転糸切り未調整	ロクロナデ、ミガキ	外－黒褐、内－黒	密（白・黒・赤色粒）	10	
24竪穴	101図	19	黒色土器	高台坏？	－・（5.4）・－	高台	ロクロナデ、付高台	ロクロナデ、ミガキ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	5	
24竪穴	101図	20	灰釉陶器	椀	（16.0）・（7.7）・4.8	口縁～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	黄灰	密（白・黒色粒、小礫）	50	灰釉刷毛塗り、高台内劈木明瞭、美濃窯光ヶ丘1号窯式後半期か
24竪穴	101図	21	灰釉陶器	椀	（15.2）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	黄灰	密（白・黒色粒）	5	美濃窯光ヶ丘1号窯式
24竪穴	101図	22	灰釉陶器	椀	（18.4）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒・赤色粒）	10	
24竪穴	101図	23	灰釉陶器	皿？	（14.0）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒色粒）	5	
24竪穴	101図	24	灰釉陶器	皿？	（7.5）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒・赤色粒）	5	
24竪穴	101図	25	灰釉陶器	椀？	－・（9.2）・－	体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰白	密（白・黒色粒）	5	転用硯の可能性あり、みこみ部磨れている
24竪穴	101図	26	灰釉陶器	椀	－・（7.0）・－	底	ロクロナデ、灰釉	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒色粒）	5	
24竪穴	101図	27	灰釉陶器	椀	－・（6.6）・－	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰	密（白・黒色粒）	15	転用硯の可能性あり、みこみ部よく磨れている、高台内劈ややや不明瞭
24竪穴	101図	28	灰釉陶器	椀	－・（7.2）・－	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	黄灰	密（白・黒色粒）	5	転用硯の可能性あり、みこみ部よく磨れている、灰釉刷毛塗り、高台内劈不明瞭
24竪穴	101図	29	灰釉陶器	椀	－・－・－	体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒色粒）	－	

表4-（9） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
24竪穴	101図	30	灰釉陶器	瓶	－・－・－	体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰白	密（白・黒色粒）	10	29と同一個体の可能性あり
24竪穴	101図	31	須恵器	甕？	－・－・－	胴（口縁近く）	ロクロナデ	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒色粒、小礫）	－	
24竪穴	101図	32	須恵器	壺	－・－・－	胴	ロクロナデ	ロクロナデ	黄灰	密（白・黒・赤色粒）	－	
24竪穴	101図	33	須恵器	壺又は甕	－・（15.0）・－	胴～底	ロクロナデ	ロクロナデ	灰	密（白色粒－多、黒色粒）	5	
24竪穴	101図	34	須恵器	壺？	－・（8.0）・－	胴～底	ロクロナデ	ロクロナデ	灰	やや粗（白色粒－多、黒色粒）	－	
24竪穴	102図	35	須恵器	壺又は甕	－・－・－	胴	タタキ目	ナデ	灰	密（白・黒色粒）	－	
24竪穴	102図	36	須恵器	壺又は甕	－・－・－	胴	タタキ目	ナデ、青海波文	黄灰	密（白・黒色粒）	－	
24竪穴	102図	37	須恵器	壺又は甕	－・－・－	胴	タタキ目	ナデ	灰	密（白・黒色粒）	－	
24竪穴	102図	38	土師器	甕	（27.5）・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	赤褐	密（白・黒色粒、雲母）	5	
24竪穴	102図	39	土師器	甕	（27.5）・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	鈍い黄褐	密（白・黒色粒、雲母）	5	
24竪穴	102図	40	土師器	甕	（26.0）・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐	やや粗（白色粒－多、黒色粒、雲母）	5	
24竪穴	102図	41	土師器	甕	－・（10.0）・－	胴～底	ナデ、底部木葉痕	ハケメ	橙	やや密（白・黒色粒、角閃石、雲母）	5	
24竪穴	102図	42	土師器	小型甕	（12.5）・－・－	口縁～胴	ハケメ	ハケメ	明赤褐～褐	密（白・黒色粒、雲母）	5	
24竪穴	102図	43	土師器	小型甕	（12.6）・－・－	口縁～胴	ハケメ	ハケメ	黒褐	密（白・黒色粒、雲母）	5	
25竪穴	104図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	突起を欠損するが、三角押文で区画された三角区画文がみられる	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒）	－	
25竪穴	104図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	区画内を縦位と横位の角押文を施す	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、角閃石）	－	
25竪穴	104図	3	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	三角押文で区画し、その内部を三角押文で充填	ナデ	褐	密（白・黒色粒）	－	
25竪穴	104図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆帯による矩形区画文、隆帯脇は2条の角押文	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒）	－	
25竪穴	104図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴	胴部は縄文を地文とし、縦位の刻み目をもつ短隆帯を施す	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒）	－	10と同一個体か
25竪穴	104図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	二段の格円区画文、隆帯脇をキャタピラ文とその中央に角押文が山形に施される	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	
25竪穴	104図	7	縄文	深鉢	－・－・－	胴	連続押引文、隆帯	ナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
25竪穴	104図	8	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角区画文の一部、隆帯脇を2条以上の三角押文によって加飾	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
25竪穴	104図	9	縄文	深鉢	－・－・－	胴	重三角区画文、内部を三角押文によって充填	ナデ	黒褐	密（白・黒色粒、角閃石）	－	
25竪穴	104図	10	縄文	深鉢	－・－・－	胴	胴部は縄文を地文とし、縦位の刻み目をもつ短隆帯を施す	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒）	－	
25竪穴	104図	11	縄文	深鉢	－・（9.0）・－	底	ヒダのような指頭圧痕が顕著	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒）	－	
26竪穴	106図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	三角区画文の一部、隆帯脇に三角押文	ナデ	橙	やや粗（白色粒、石英、角閃石）	－	
26竪穴	106図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆帯脇にキャタピラ文	ナデ	鈍い赤褐	粗（赤色粒、長石、石英、角閃石、砂礫）	－	
26竪穴	106図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	棒状工具による連続押引文	ナデ	鈍い橙	密（白・赤色粒、長石、石英、角閃石）	－	
26竪穴	106図	4	縄文	深鉢	－・－・－	口縁部飾り	眼鏡状把手、隆帯に刻み、三角押文	ナデ	鈍い橙	粗（白・黒色粒、長石、石英、角閃石）	－	
27竪穴	108図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	棒状結節浮線文、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い橙	やや粗（白・黒色粒、長石－多、角閃石）	－	
27竪穴	108図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	棒状結節浮線文、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石－多）	－	
27竪穴	108図	3	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	隆帯、隆帯上を半截竹管による連続押引文	ナデ	鈍い橙	密（白色粒）	－	
27竪穴	108図	4	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	刻突のあるボタン状貼付文	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・赤色粒、長石、角閃石）	－	
27竪穴	108図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴	地文は矢羽状条線、刻突のあるボタン状貼付文	ナデ	外－鈍い橙、内－鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石－多）	－	
27竪穴	108図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	棒状結節浮線文	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒、長石、角閃石－多）	－	
27竪穴	108図	7	縄文	有孔土器？	－・－・－	口縁	ナデ	ナデ	鈍い橙	密（白色粒、長石）	－	
27竪穴	108図	8	縄文	深鉢	－・－・－	胴	ナデ、連続押引文	ナデ	外－鈍い橙、内－黒褐	粗（白・黒・赤色粒、長石、石英、角閃石）	－	
30竪穴	111図	1	黒色土器	坏	（15.0）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ナデ、ミガキ	外－鈍い橙、内－黒	密（白・黒色粒、角閃石）	20	
30竪穴	111図	2	黒色土器	坏	－・（4.6）・－	体～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ナデ、丁寧なミガキ	外－橙、内－黒～鈍い橙	密（白色粒）	20	
30竪穴	111図	3	土師器	甕	（27.5）・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ	鈍い橙	やや粗（白・赤色粒、雲母、砂礫）	－	一部、スス付着
30竪穴	111図	4	土師器	甕	（27.8）・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ	橙	やや粗（白・黒色粒、長石、雲母、砂礫）	－	
30竪穴	111図	5	土師器	甕	（31.5）・－・－	口縁～胴	ハケメ、ナデ、横ナデ	細かいハケメ	鈍い橙	粗（白・黒・赤色粒、角閃石－多、小礫）	10	甲斐型甕の胎土とは異なる
30竪穴	111図	6	土師器	ロクロ小型甕	－・－・－	胴	カキメ	ロクロナデ	灰褐	密（白色粒、長石、角閃石）	5	
31竪穴	115図	1	土師器	坏	（12.6）・5.2・4.3	口縁～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ、底部回転糸切り後周辺ヘラケズリ	ロクロナデ	鈍い赤褐	やや粗（白・赤色粒）	40	油煙付着顕著
31竪穴	115図	2	土師器	坏	（11.6）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	5	
31竪穴	115図	3	土師器	坏	（11.6）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・赤色粒）	5	
31竪穴	115図	4	土師器	坏	（12.4）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	やや粗（白・赤色粒）	20	
31竪穴	115図	5	土師器	皿	－・（5.6）・－	体～底	ヘラケズリ	ロクロナデ	明黄褐	密（白・赤色粒、砂礫）	－	
31竪穴	115図	6	黒色土器	坏	（14.4）・－・－	口縁～体	ロクロナデ手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	外－鈍い黄橙、内－黒	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	15	
31竪穴	115図	7	黒色土器	坏	（15.0）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	外－鈍い褐、内－黒	やや密（白・赤色粒）	15	
31竪穴	115図	8	黒色土器	坏	－・（7.0）・－	体～底	ロクロナデ、底部全面ヘラケズリ（荒れている）	ナデ、ミガキ	外－鈍い橙、内－黒	やや粗（白・赤色粒、石英）	－	
31竪穴	115図	9	黒色土器	鉢？	－・（9.6）・－	体～底	ヘラナデ、横位ヘラケズリ	ナデ	外－鈍い黄橙、内－黒	密（白・赤色粒）	－	
31竪穴	115図	10	黒色土器	坏	－・（6.0）・－	体～底	ロクロナデ、底部全面ヘラケズリ（荒れている）	ナデ、ミガキ	外－鈍い黄橙、内－黒	やや粗（白・赤色粒、石英）	15	
31竪穴	115図	11	土師質	小型皿	（10.2）・（6.0）・2.3	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	鈍い橙	やや粗（白・赤色粒、雲母）	25	
31竪穴	115図	12	灰釉陶器	皿	（15.4）・（7.0）・3.2	口縁～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰白	緻密（白・黒色粒－微量）	20	灰釉刷毛塗り、高台内臂跡著、美濃窯光ヶ丘1号窯式前半期
31竪穴	115図	13	灰釉陶器	皿？	（14.4）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	密（白・黒色粒）	－	
31竪穴	115図	14	須恵器	甕？	－・－・－	胴	タタキ	青海波文、ナデ	灰オリーブ	密（白色粒）	－	
31竪穴	115図	15	須恵器	甕？	－・－・－	胴	ナデ	ナデ	黄灰	密（白色粒）	－	
31竪穴	115図	16	須恵器	甕	－・－・－	－	タタキ目	ナデ	外－暗青灰、内－灰	密（白色粒）	－	内面よく磨れている、転用硯の可能性あり
31竪穴	115図	17	須恵器	甕	－・（19.6）・－	胴～底	タタキ目	ナデ、ヘラケズリ	灰白	密（白色粒、砂礫）	－	
31竪穴	115図	18	土師器	甕	（32.8）・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ	褐	粗（白・黒・赤色粒、石英、雲母－多、小礫）	20	
31竪穴	115図	19	土師器	小型甕	（17.5）・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	灰黄褐	やや粗（白・黒色粒、雲母）	－	
31竪穴	115図	20	土師器	小型甕	（18.8）・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	外－灰褐、内－鈍い赤褐	やや粗（白・赤色粒、雲母、小礫）	－	
31竪穴	115図	21	土師器	小型甕	（10.5）・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	灰黄褐	粗（白色粒）	－	
31竪穴	115図	22	土師器	甕	－・（8.2）・－	胴～底	ハケメ、ナデ、底部木葉痕	ハケメ	褐	粗（白・黒色粒、雲母）	－	
31竪穴	116図	24	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	玉抱三叉文	ナデ	褐	粗（白色粒、長石）角閃石、雲母－少）	－	
31竪穴	116図	25	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	縄文、波状沈線	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・赤色粒）	－	
31竪穴	116図	26	縄文	深鉢	－・－・－	胴	竹管状工具による爪形文、刺突文	ナデ	外－鈍い赤褐、内－鈍い褐	やや粗（白色粒）	－	

表4-（10） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
31竪穴	116図	27	縄文	深鉢	－・－・－	胴	キャタピラ文	ナデ	鈍い赤褐	粗（白・黒色粒、雲母、角閃石一少、砂礫）	－	
31竪穴	116図	28	縄文	深鉢	－・－・－	胴	指頭圧痕文	横ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒色粒）	－	
31竪穴	116図	29	縄文	深鉢	－・－・－	胴	指頭圧痕文	横ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒色粒）	－	
31竪穴	116図	30	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縦位の平行沈線	ナデ	鈍い黄褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母、小礫）	－	半胴、型A系
31竪穴	116図	31	縄文	深鉢	－・（14.6）・－	胴～底	ナデ	ナデ	鈍い橙	粗（白色粒、角閃石、砂礫）	－	内外面とも剥離がすすんでいる。内面には使用痕があり、オコゲのような付着物あり
32竪穴	119図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角区画文の一部と思われ、キャタピラ文と三角押文が施される	ナデ	明褐	密（白・黒色粒、長石、石英、スコリア）	－	
32竪穴	119図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	刻み目をもつ隆帯で区画された内部を縦位の沈線で充填、隆帯の脇には三角押文	ナデ	褐	密（白・黒色粒、石英、雲母）	－	
32竪穴	119図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆帯と沈線によって区画された内部を斜位の沈線と、6条の横位の三角押文を充填	ナデ	鈍い黄橙	密（白色粒、スコリア、角閃石、雲母）	－	
32竪穴	119図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	キャタピラ文、波状押引文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒・赤色粒、雲母）	－	
32竪穴	119図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縦位沈線	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、雲母）	－	
32竪穴	119図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半截竹管状工具による半隆起線が横位に施される、地文は縄文	ナデ	赤褐	密（黒色粒、長石、石英、雲母）	－	
32竪穴	119図	7	縄文	小型鉢？	－・－・－	胴	渦巻き状の少突起に刻みが施される、抜い刻みをもつ半隆起線によって矩形に区画され、その内部は縄文が施される	ナデ	明褐	密（白・黒色粒、雲母）	－	
32竪穴	119図	8	縄文	深鉢	－・（16.0）・－	底	ナデ	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	内面にオコゲ状付着物あり
33竪穴	119図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縦位の平行沈線	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒、長石、石英、雲母）	－	
33竪穴	119図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	ハネル文土器の縦位区画	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	
33竪穴	119図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文	ナデ、ミガキ	鈍い褐	密（白色粒、スコリア、雲母）	－	
33竪穴	119図	4	縄文	深鉢	－・（6.0）・－	胴～底	ナデ	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒、長石、石英、雲母）	－	粗製
34竪穴	121図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	浅い刻み目をもつ隆帯によって区画された楕円区画、その内部はキャタピラ文と縦位の沈線が充填される	ナデ	鈍い黄橙	粗（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	
34竪穴	121図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	口縁直下に三角押文、三叉腔刻文もみられる	ナデ	外－橙、内－鈍い黄橙	やや粗（白色粒、石英）	－	
34竪穴	121図	3	縄文	深鉢	－・－・－	口縁部飾り	粗雑なつくりの口縁部小突起、無文	ナデ	鈍い橙	粗（白・黒・赤色粒、長石）	－	
34竪穴	121図	4	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	口縁は緩い波状を呈する、隆帯の一部が残る、刺突状の押引文を口縁に施す	ナデ	褐灰	やや粗（白・黒色粒、長石）	－	
34竪穴	121図	5	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	口縁部垂三角区画文の一部か、浅い刻み目をも隆帯が斜位にみられ、三角押文が口縁と隆帯に沿って施される	ナデ	鈍い橙	やや粗（白・黒色粒）	－	
34竪穴	121図	6	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁	小突起を持ち、口唇部は肥厚し、角押文と三角押文が施される	ナデ	鈍い黄橙	粗（白・黒・赤色粒、角閃石、砂礫）	－	
34竪穴	121図	7	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	口縁部小突起破片、隆帯脇に三角押文を施す	ナデ	外－橙、内－浅黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒、砂礫）	－	
34竪穴	121図	8	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	口縁直下に刻み目をもつ半隆起線が横位にめぐる	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒）	－	
34竪穴	121図	9	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁	口唇部に三角押文	ナデ	鈍い赤褐	やや粗（白色粒）	－	
34竪穴	121図	10	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁	口唇部に三角押文	ナデ	鈍い赤褐	やや粗（白・赤色粒、雲母）	－	
34竪穴	121図	11	縄文	深鉢	－・－・－	胴	楕円区画文に角押文を充填している	ナデ	外－鈍い橙、内－鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	－	
34竪穴	121図	12	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文とし、削り出しによる隆線が施される、キャタピラ文も施される	ナデ	外－鈍い橙、内－灰褐	密（白・黒色粒、長石、石英、角閃石）	－	
34竪穴	121図	13	縄文	深鉢	－・－・－	胴	円形竹管文と角押文を施す	ナデ	鈍い橙	やや粗（白・黒色粒）	－	
34竪穴	121図	14	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文とし、三角押文を施す	ナデ	外－鈍い橙、内－黒褐	やや粗（白・黒色粒）	－	
34竪穴	121図	15	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線による方形区画	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒）	－	
34竪穴	121図	16	縄文	深鉢	－・－・－	胴	刺突文と半截竹管状工具による押引を山形に施す	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	
34竪穴	121図	17	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位にめぐる半隆起線と半截竹管状工具による半円状の沈線を施す、地文は縄文	ナデ	鈍い黄橙	密（赤色粒）	－	
34竪穴	121図	18	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位にめぐる隆線と波状隆線を施す、隆線上に抜い刻み目をもつ、半截竹管状工具による押引あり	ナデ	外－鈍い黄橙、内－褐灰	密（白・黒色粒）	－	
34竪穴	121図	19	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位の矢羽状条線、林状結節浮線文、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い黄橙	粗（白・黒色粒、角閃石）	－	
34竪穴	121図	20	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位の矢羽状条線、林状結節浮線文	ナデ	鈍い橙	やや粗（白・黒色粒、角閃石）	－	
35竪穴	129図	1	縄文	深鉢	（38.5）・－・［42.3］	口縁～胴	口縁部に把手と突起を各1単位ずつ付け、口縁部には垂三角区画文を配する、区画の継ぎ目ごとにヒネリをもつ小突起を付け、区画内は隆線脇にキャタピラ文と三角押文を施し、陰刻三叉文や玉抱三叉文も施す、胴部は横位に巡る連続刺突文、波状沈線文、爪形文を施す、半隆起線、キャタピラ文を施し、胴部には半隆起線により抽象文状のモチーフを描き、胴下部には垂三角区画文を配する	ナデ	鈍い黄褐、褐灰	やや粗（石英、長石）	－	新道式期～藤内式期、倒置（床直）土器
35竪穴	129図	2	縄文	深鉢	（29.0）・13.4・36.2	胴	口縁部に渦巻状小把手や眼鏡状突起を付け区画の継ぎ目にヒネリを加えた小突起を付けた垂三角区画文を配する、区画隆線脇に三角押文を施し、区画内には縦位の沈線や玉抱三叉文等を施す、胴部には3条の三角押文を横位に巡らせ、胴部には隆線を垂下させ大きく4単位の縦区画を行っている、対称位置に逆J字状モチーフを配し、その隆線には一部キザミを施す、モチーフと区画に沿って三角押文や波状沈線文を施しているが、さらに爪形刺突を加えるところもみられる	ナデ	橙～黒褐	やや粗（石英、長石）	60	
35竪穴	129図	3	縄文	深鉢	22.5・（12.0）・31.5	口縁～底	口縁部に把手を1単位、環状小把手を4単位と小突起1単位を付ける、区画の継ぎ目に小突起をもつ垂三角区画文を配し、区画隆線脇や区画内に三角押文、縦位沈線、玉抱三叉文等を施す、胴部には斜位の沈線を充填し、その下部に12単位の三角文を持つ垂三角文を配する、胴部中央には隆帯円環文等を施す、区画体をやや大きく取り、底部近くに楕円区画文を配している、いずれの区画帯にも三角押文、沈線、キャタピラ文等を多用している	ナデ	鈍い黄橙、黒	やや粗（石英、長石、スコリア、角閃石）	80	
35竪穴	129図	4	縄文	浅鉢	（26.5）・6.8・9.6	口縁～底	口唇部半截竹管による刺突文　胴部は無文	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（石英、長石、スコリア）	70	
35竪穴	130図	5	縄文	深鉢	（24.0）・11.2・（25.0）	口縁～底	口縁部に垂三角区画文を配し、区画の継ぎ目の小突起が顕著、隆線には一部刻み目施し、その脇に三角押文を施す、区画内には三角押文による波状押引文、玉抱三叉文を施す、胴部には三角押文を横位に巡らし波状押引文を施す、胴部上半には方形や三角形に区画された文様帯を配し、三角押文を充填し、玉抱三叉文や抽象文状モチーフも施している、無文帯を挟んで胴部下半には9単位の楕円区画文を配する	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石、石英）	75	

表4-（11） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()=復元値、[]=現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
35竪穴	130図	6	縄文	深鉢	(29.0)・(11.2)・26.6	口縁～底	口縁部2単位以上の渦巻状の小把手を付け、区画の継ぎ目に耳状の小突起を付けた重三角区画文を配する、区画隆線脇にキャタピラ文、三角押文を施し、区画内には三角押文を充填する、頸部にはキャタピラ文を上下1条ずつ横位に巡らせ、その間に波状沈線文を施す、胴部は重三角区画文、次に抽象文状のモチーフ、さらに楕円区画文という構成となる、いずれも隆線による区画であり、キャタピラ文、三角押文が多用されている	ナデ	橙～褐	やや粗（赤色粒、長石、石英、角閃石、小礫）	60	胴部内外面黒変
35竪穴	130図	7	縄文	深鉢	(24.0)・11.8・25.8	口縁～底	波状口縁を呈する、口縁部に重三角区画文を配し、隆線脇に角押文を施す、頸部に横位に巡る2条の角押文を上下に施し、その間に角押文による波状押引文を施す、胴部には隆線により区画された重三角区画文を施し、隆線脇に角押文を施す、胴部下半には一部縄文を施す	ナデ	橙～鈍い黄橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、小礫）	60	胴部内外面黒変
35竪穴	130図	8	縄文	深鉢	(22.0)・－・－	口縁～胴	口縁部にヒネリのついた三角区画帯を配し、隆線脇に三角押文、区画内には玉抱三叉文を施す、頸部には2条の三角押文と波状押引文を横位に巡らす、胴部は縦区画帯を構成し隆線脇に三角押文、角押文を施し、区画内はヘラ状工具による有節線文を充填する	ナデ	赤褐	粗（石英、長石－多）	－	
35竪穴	130図	9	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	小突起、縦位沈線、三角区画文、三角押文	ナデ	鈍い橙	やや密（白・黒色粒）	－	赤色化し脆い
35竪穴	130図	10	縄文	深鉢	(23.6)－・－・－	口縁～胴	環状把手を付け、重三角区画文を配し区画ごとの接点に小突起位を付ける、隆線脇を中心に三角押文、キャタピラ文を施し、三角押文による波状押引文を施す	ナデ	鈍い黄橙～黒褐	やや密（長石、石英、スコリア）	－	
35竪穴	130図	11	縄文	深鉢	(24.0)－・－・－	口縁～胴	口縁部に小把手を4単位付け、区画の継ぎ目に小突起をもつ重三角区画文を配する、区画内隆線脇に角押文、三角押文を施す、頸部は上下2条ずつの角押文、三角押文を横位に巡らせ、その間に三角押文よる波状押引文を施す、胴部には区画の継ぎ目にヒネリのついた小突起を付けた楕円区画文を配し、区画内には三角押文、角押文を施す	ナデ	浅黄橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英）	35	胴部内外面黒変
35竪穴	130図	12	縄文	深鉢	(30.5)・－・－	口縁～胴	眼鏡状把手を付ける、口縁部はヒネリのついた重三角区画文　区画内は隆線脇にキャタピラ文と三角押文を施し、斜位の沈線を充填する、頸部は斜位の沈線を施し、胴部上半には三角区画と思われる区画文帯を配する	ナデ	橙、灰褐	やや粗（石英、長石）	－	器面全体赤色化
35竪穴	131図	13	縄文	深鉢	(23.5)・－・－	口縁～胴	口縁部にの対称となる位置に橋状把手が2単位付け、内1単位の上部にはパネル状の把手が付く、口縁部は区画の境目にヒネリをつけた重三角区画文で、キャタピラ文と三角押文が施される、頸部から胴部にかけては沈線によって最低4つの区画帯に分けられ、それぞれ斜位、縦位の沈線が充填さる	ナデ	赤褐	やや粗（黒色粒、長石、石英、雲母）	60	器面荒れている
35竪穴	131図	14	縄文	深鉢	(26.0)・－・－	口縁～胴	口縁部に眼鏡状把手を付け、区画の継ぎ目にヒネリの付いた小突起を付けた重三角区画文を配する、区画内の隆線脇に三角押文を施し、区画内には縦位沈線、玉抱三叉文等を施す、頸部には縄文を地文として残し、三角押文と三角連続刺突文を横位に巡らし、再び胴部上半に重三角区画文を配する、胴部下半には縄文を地文として残しているが、隆線と三角押文による抽象文的なモチーフを配している	ナデ	鈍い黄橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英）	20	胴部内外面黒変
35竪穴	131図	15	縄文	深鉢	(40.58)・－・－	口縁～胴	口縁部は重三角区画文、キャタピラ文、縦位沈線、陰刻三叉文、頸部はキャタピラ文、波状押引文、胴部は方形区画文、隆線脇にはキャタピラ文と三角押文	ナデ	鈍い橙	粗（白・黒色粒）	10	
35竪穴	131図	16	縄文	深鉢	(38.0)・(14.6)・47.9	口縁～胴	口縁部に渦巻き状把手を付け、区画の継ぎ目に環状小突起を付けた重三角区画文を配し、区画隆線脇に三角押文を施す、頸部は上下に2条の三角押文を横位に巡らし、波状沈線を施す、胴部上半には平行四辺形区画文と重三角区画文を配し、隆線脇に2条の三角押文を施す、胴下半上部には頸部と同じ区画帯を配し、その下部に再び平行四辺形区画文を配する	ナデ	鈍い橙、黒褐、明赤褐	粗（石英、長石－多）	40	
35竪穴	132図	17	縄文	深鉢	42.5・－・(55.0)	口縁～胴	口縁部には菱形区画文を施したパネル状の把手が1単位付く、そこから橋状突起を経て、蛇体風抽象文が取り付く、対称位置にもう一単位抽象文が付く、この抽象文の背部に取り付く形で楕円、菱形、重三角、方形区画文を配し、円形貼付文を方形区画文内を中心に施す、抽象文下の区画体は重三角区画文帯、無文帯を挟み平行四辺形区画帯、さらに無文帯がつづいている、各々の区画では隆線脇を中心に三角押文が施される	ナデ	鈍い褐、黒	粗（石英、長石－多）	70	
35竪穴	132図	18	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	口縁部と胴部上位に三角区画文、キャタピラ文、三角押文、陰刻三叉文を施す	ナデ	鈍い褐	やや密（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	
35竪穴	132図	19	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	口縁部三角区画文、眼状突起を付ける、隆線脇にキャタヒラ文、区画内に玉抱三叉文を施す	ナデ	赤褐	密（赤色粒、長石、石英、雲母、小礫）	－	
35竪穴	132図	20	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	口縁部ヘラ刻み目を施す、渦巻状小突起、欠失しているが橋状把手、三角押文、縦位沈線等を施す	ナデ	鈍い黄橙	密（白・赤色粒、角閃石）	－	
35竪穴	133図	21	縄文	深鉢	(39.0)・16.2・(40.2)	口縁～底	口縁部に、区画の継ぎ目に耳状小突起を付けた重三角区画文を配し、隆線脇にキャタピラ文、区画内に玉抱三叉文や陰刻三叉文を施す、頸部には三角押文による波状押引文やキャタピラ文を横位にめぐらす、胴部は3つの区画帯に分かれ、上から三角文と菱形文を組み合わせた区画帯、重三角文を大きくとり、抽象文的な円形隆線を貼り付けた区画帯、そして重三角区画文帯となっている、いずれの区画帯でもキャタヒラ文、三角押文を多用している	ナデ	鈍い黄橙、黒褐	やや粗（石英、長石－少）	40	
35竪穴	133図	22	縄文	深鉢	(27.4)・－・[33.0]	口縁～胴	口縁部に重三角区画文を16単位、頸部に三角区画文7単位、方形区画文6単位配し、頸部の三角、方形区画から垂下する形で隆線表現によるサンショウウオ状抽象文を2単位配している、隆線脇にはキャタピラ文、波状沈線文を施す	ナデ	鈍い黄橙、黒褐	やや粗（石英、長石－少）	80	
35竪穴	133図	23	縄文	深鉢	(43.0)・－・	口縁～胴	口縁部に環状の小突起をもち、区画の境目にヒネリが付く重三角区画文を配する、区画内には隆線脇にキャタピラ文と三角押文を施す、頸部にはキャタヒラ文と三角押文2条1対を上下に横位に巡らせ、その間に波状沈線を施す、胴部には楕円区画文を配し区画内には隆線脇などにキャタピラ文を施す	ナデ	鈍い黄褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英）	40	胴部内外面黒変、器面荒れている
35竪穴	133図	24	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	楕円区画文の変形、三角押文、玉抱三叉文を施し、耳状小突起を付す	ナデ	橙	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	器面赤色化している
35竪穴	133図	25	縄文	深鉢	(16.8)・－・－	口縁～胴	口唇部に刻み目をもつ、胴部は半截竹管で縦位区画、区画内には横位、縦位の沈線、三叉文を施す	ナデ	鈍い赤褐	やや粗（石英、長石）	－	
35竪穴	133図	26	縄文	深鉢	(24.0)・(9.0)・－	頸～胴	口縁部と頸部に押圧隆帯を貼付け、口縁部から頸部そして胴部には縦位の沈線を施す、沈線間は粗	ナデ	鈍い黄褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母、小礫）	－	平出三類A系
35竪穴	133図	27	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縦位の沈線	ナデ	鈍い黄褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母、小礫）	－	平出三類A系
35竪穴	133図	28	縄文	深鉢	－・－・－	頸～胴	縦位の沈線、押圧隆帯文	ナデ	鈍い黄褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母、小礫）	－	平出三類A系
35竪穴	133図	29	縄文	深鉢	－・－・－	頸～胴	縦位の沈線、押圧隆帯文	ナデ	鈍い黄褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母、小礫）	－	平出三類A系
35竪穴	133図	30	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縦位および横位の沈線	ナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	20	

表4-（12） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
35竪穴	134図	31	縄文	深鉢	(22.0) ・ (13.4) ・30.2	口縁～胴	口縁は4単位の波頂部をもつ波状口縁を呈し、各波頂部から垂下する爪形文を施した隆帯によって文様区画は縦位に大きく4単位に分かれる。半隆起線によって区画されるハネル文であり、半截竹管状工具により半円の連続刺突文を施す他、区画内は横位、斜位の沈線を充填している	ナデ	明赤褐、灰褐	やや粗（長石、石英）	70	
35竪穴	134図	32	縄文	深鉢	(14.5) ・6.2・17.8	口縁～底	全体を半隆起線で区画されたハネル文土器、隆線上には爪形文、区画内には縄文や刻み目等を施す	ナデ	鈍い黄橙	密（黒・赤色粒、長石、石英）	60	胴部内外面黒変
35竪穴	134図	33	縄文	深鉢	(13.0) ・－・ [20.5]	口縁～胴	口縁部には縦位の平行沈線とハネル文区画を施す、口呼部直下に半截竹管による半隆起線を横位に巡らす、胴部は輪積痕、指頭圧痕地にゲジゲジ文を施す	ナデ	外－灰黄、黒褐、内－黒褐	粗（石英、長石ー多、スコリア）	80	
35竪穴	134図	34	縄文	深鉢	20.9・－・－	口縁～胴	縦位区画を基本とし、沈線区画により三角・方形区画を構成、区画内は横位・斜位の沈線、半截竹管状工具による連続刺突を縦位・斜位に施す、隆線には爪形文を施す	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒色粒、角閃石）	20	
35竪穴	134図	35	縄文	深鉢	(28.0) ・－・－	口縁～胴	ヒダ状の輪積痕、指頭圧痕顕著	ナデ	黒褐	やや粗（石英、長石、角閃石）	－	
35竪穴	134図	36	縄文	深鉢	(20.8) ・－・－	口縁～胴	指頭による押圧痕を施す	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石、小礫）	－	
35竪穴	134図	37	縄文	深鉢	(29.0) ・－・－	口縁～胴	輪積痕、指頭圧痕が顕著	ナデ	橙	やや密（白・赤色粒）	－	
35竪穴	135図	38	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	口縁部に腹鏡状把手、耳状小突起の付く重三角区画文、隆線脇に三角押文、玉抱三叉文、キャタピラ文	ナデ	橙	やや粗（白・黒・赤色粒）	－	
35竪穴	135図	39	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	重三角区画文、隆線脇に三角押文、玉抱三叉文、耳状小突起	ナデ	鈍い赤褐	やや密（白・黒・赤色粒）	－	
35竪穴	135図	40	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	重三角区画文、三角押文、隆刻三叉文、角押文を施した耳状小突起、頸部には斜行沈線	ナデ	鈍い黄褐	やや粗（白・黒・赤色粒）	－	
35竪穴	135図	41	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	口縁部重三角区画文、耳状小突起、隆線脇にキャタピラ文、三角押文、頸部には縄文を地文とし波状押引文を施す	ナデ	橙	やや粗（白・黒色隆、石英、角閃石）	－	
35竪穴	135図	42	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	耳状突起、隆線脇にキャタピラ文、区画内は三角押文を縦位と横位に充填、頸部は縄文を地文とし波状押引文を施す	ナデ	橙	粗（白・黒・赤色粒、石英）	－	
35竪穴	135図	43	縄文	深鉢	(22.0) ・－・－	口縁～胴	口縁部は縄文を地文、環状把手を付ける、頸部に刻み目をもつ短隆帯	ナデ	橙	やや粗（白・黒色粒）	－	
35竪穴	135図	44	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	渦巻き状突起、橋状把手	ナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
35竪穴	135図	45	縄文	深鉢	－・－・－	胴	口縁部にヒネリの付いた重三角区画文を配し、隆帯脇に三角押文、区画内には三叉文を施す、頸部には浅い斜行沈線を施し、胴部にも重三角区画文を配する	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石、石英）	20	胴部内面黒変
35竪穴	135図	46	縄文	深鉢	－・－・－	胴	楕円区画文、キャタピラ文、波状押引文、サンショウウオ状抽象文、その輪郭を隆帯により表現、半截竹管による刺突文	ナデ	鈍い黄橙	やや密（白・赤・黒色粒）	－	
35竪穴	135図	47	縄文	深鉢	(24.0) ・－・－	口縁～胴	半截竹管、ハネル文、縦位・横位の沈線を充填	ナデ	灰黄褐	緻密（白・赤色粒）	－	
35竪穴	135図	48	縄文	深鉢	(36.6) ・－・－	口縁～胴	刻み目をもつ隆帯の脇に三角押文を施し、区画内には縄文を施す	ナデ	橙	やや密（白・黒・赤色粒、小礫）	－	
35竪穴	136図	49	縄文	深鉢	26.5・15.6・39.0	口縁～胴	対称となる位置に2単位のサンショウウオ状の抽象文を配する、腹鏡状把手を抽象文の上部に2単位付け、さらに1単位の渦巻き状突起を付ける、口縁部はやや幅広の無文帯、無文帯直下に楕円区画文と抽象文を配している、抽象文は粘土板貼付によるものでキャタピラ文や三角押文で縁取りし、三叉文や刻み、連続刺突、沈線を施す、胴部全体には輪積整形の痕跡を壁状に残し地文化している	ナデ	赤茶	粗（石英、長石、雲母）	95	内面剥離多い
35竪穴	136図	50	縄文	深鉢	(22.0) ・ (10.6) ・26.5	口縁～底	口縁部に幅広の磨消縄文を伴う縄文帯をめぐらす、胴部中央にサンショウウオ状の抽象文を2単位配する、抽象文の背部には楕円区画文を配する、輪積整形の痕跡を壁状に残し地文化している、区画内外には キャタピラ文、三角押文を多用し、波状沈線等を施す	ナデ	褐	やや粗（石英、長石）	60	
35竪穴	136図	51	縄文	小型深鉢	(14.4) ・8.0・14.8	口縁～底	サンショウウオ状の抽象文を2単位付ける、粘刻三叉文、キャタピラ文、角押文を多用している	ナデ	明赤褐～鈍い黄橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英）	75	胴部内面黒変
35竪穴	136図	52	縄文	深鉢	(20.6) ・11.0・23.3	口縁～底	口縁部周辺は無文、その下部には輪積み痕と指頭圧痕を顕著に残す	ナデ	赤褐	やや粗（黒・赤色粒、長石、石英、雲母、小礫）	90	内外面黒変
35竪穴	136図	53	縄文	深鉢	(26.8) ・－・ [32.0]	口縁～胴	口呼部直下と胴部上部に三角押文を巡らし区画体を大きく2段に分ける、上段は縄文を地文とし、下段は輪積み痕と指頭圧痕を地文化している	ナデ	鈍い褐、黒褐	やや粗（石英、長石）	60	
35竪穴	136図	54	縄文	深鉢	(29.0) ・－・－	口縁～胴	縦位の沈線を施したコブ状突起の周りに三叉文、連続キャタピラ文、波状沈線で加飾している、口縁部は縄文を地文とし、波状沈線を巡らす。胴部は輪積整形痕を壁状に残し地文化している	ナデ	橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、小礫）	30	胴部内外面黒変、スス付着
35竪穴	137図	55	縄文	深鉢	23.4・ (14.5) ・37.8	口縁～底	口縁部に磨消縄文を伴う縄文帯をやや幅広に設け、三角押文により縁取りしたU字状と円形の磨消縄文を施す、胴部に3段の楕円区画文帯を配し、最上段の区画帯には5単位の耳状突起が付く、胴部下半にやや幅広に抽象的な波状のモチーフを隆線により表現している、隆線脇にキャタピラ文、区画内には三角押文や沈線を施す	ナデ	黒褐～褐	やや粗（石英、長石、角閃石、スコリア）	80	
35竪穴	137図	56	縄文	深鉢	(23.6) ・12.8・32.5	口縁～底	口縁部は8単位の方形区画文、胴部は8単位の楕円区画文と重三角区画文を配し、隆線脇にキャタピラ文を施し、区画内には縄文を施す	ナデ	明褐～鈍い黄橙	やや粗	90	胴部内外面黒変
35竪穴	137図	57	縄文	深鉢	(24.6) ・12.7・40.4	口縁～底	縄文地文	ナデ	鈍い黄橙、灰黄褐	やや粗（石英、長石、スコリア）	90	
35竪穴	137図	58	縄文	深鉢	(30.0) ・ (15.0) ・32.8	口縁～底	胴部上半に5条の平行沈線を施し、文様帯を大きく二分している、縄文を全面に施し、口縁部に沈線で縁取りした円形貼付文を施す	ナデ	明褐	やや密（赤色粒、長石、石英、角閃石、小礫）	20	胴部内外面黒変
35竪穴	138図	59	縄文	小型深鉢	(14.4) ・7.7・19.4	口縁～底	口呼部直下にキャタピラ文を横位に巡らせ、その下部から胴部下半まで縄文を施す、短隆帯を12単位配する	ナデ	鈍い黄橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、角閃石、小礫）	80	胴部内外面黒変
35竪穴	138図	60	縄文	深鉢	21.2・12.0・28.4	口縁～底	口縁部を横位の隆帯によって区画し、その内部に大きく波状の隆帯を施す、口縁部以下は縄文を地文とする	ナデ	明赤褐	粗（黒・赤色粒、長石、石英、小礫）	65	
35竪穴	138図	61	縄文	小型深鉢	(14.0) ・ (8.8) ・18.7	口縁～底	口縁部は無文、爪形文を施す半隆起線で目状の区画を施し、一部 三角押文も施す。区画内には縄文が施される	ナデ	橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、小礫）	45	胴部内面黒変
35竪穴	138図	62	縄文	深鉢	20.0・－・－	口縁～胴	口縁部は無文で円形貼付文を施す、2段の大きな重三角区画文帯を配する、縄文を地文として区画隆線脇を中心に 三角押文を施す	ナデ	外－橙、黒褐、内－鈍い褐	粗（白、黒色粒）	20	内面剥離して荒れている
35竪穴	138図	63	縄文	深鉢	15.8・8.0・21.0	口縁～底	縄文を地文とするが口呼部直下は無文、その下部に隆線により表出した8単位の重三角区画文と、さらにその下部に半隆起線により表出した16単位の重三角区画文を配する、上部の重三角区画文は区画の縦ぎ目にヒネリの付いた小突起をもち、区画内隆線脇には三角押文を施す	ナデ	橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、小礫）	90	内面黒変、外面スス付着
35竪穴	138図	64	縄文	深鉢	(15.2) ・－・－	口縁～胴	縄文を地文、波状の沈線を施す	ナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
35竪穴	138図	65	縄文	深鉢	(14.2) ・－・－	口縁～胴	縄文を地文とし、口呼部直下に波状沈線をめぐらす、胴部にキャタピラ文	ナデ	鈍い橙	粗（石英、長石、スコリア）	－	
35竪穴	138図	66	縄文	深鉢	(19.2) ・－・－	口縁～胴	キャタピラ文、波状文、指頭圧痕顕著	ナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	－	

表4-（13） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
35竪穴	138図	67	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	胴部に抽象文、隆帯脇にキャタピラ文、三角押文、波状沈線文を施す	ナデ	鈍い橙～褐灰	粗（石英、長石－多）	－	
35竪穴	138図	68	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	縄文を地文に半截竹管による沈線文、磨消縄文で何らかのモチーフを描くが不明、その脇を波状沈線で縁取る	ナデ	鈍い黄橙	粗（石英、長石、スコリア）	－	
35竪穴	138図	69	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	縄文を地文とし、口縁部直下に波状押引文、横位の幅広沈線、コブ状小突起	ナデ	明赤褐	やや密（白・黒色粒）	－	
35竪穴	138図	70	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	縄文を地文とし、口縁部直下に波状押引文、横位の幅広沈線、コブ状小突起	ナデ	黄褐	やや密（白・黒色粒）	－	
35竪穴	139図	71	縄文	深鉢	(33.0) ・－・ [40.5]	口縁～胴	口縁部ヘラ刻み、服鏡状把手が付く、矢羽状の刻みや爪形文の施された隆線や、半截竹管による沈線で抽象文やパネル文が施される、パネル文内にはキャタピラ文や波状沈線文、連続刺突文が施される	ナデ	黒褐、鈍い褐	粗（石英、長石、スコリア）	－	
35竪穴	139図	72	縄文	深鉢	(43.0) ・－・－	口縁～胴	口縁部ヘラ刻み、口縁部は無文だがコブ状突起を貼付、縦位・横位の沈線を施す、隆線脇にキャタピラ文、三角押文を施す、突起直下に穿孔あり	ナデ	鈍い黄橙～黒褐	粗（石英、長石－多、スコリア）	－	
35竪穴	139図	73	縄文？	深鉢	28.2・－・－	口縁～胴	口縁部に環状小突起、三本指状モチーフ、格円区画文、キャタピラ文、波状押引文、指頭圧痕	ナデ	鈍い橙、灰褐	やや粗（白・黒・赤色粒、長石、角閃石）	15	
35竪穴	139図	74	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	キャタピラ文と波状沈線文を横位に巡らせ指頭圧痕を地文化、隆線脇にキャタピラ文と三角押文を施す	ナデ	灰褐	粗（石英、長石）	－	
35竪穴	139図	75	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文とし、半截竹管状工具による縦位区画	ナデ	外－橙～灰褐、内－黒褐	やや粗（石英、長石、スコリア）	－	
35竪穴	140図	76	縄文	深鉢	(21.4) ・－・－	口縁～底	波状口縁を呈し、口縁部は隆線脇にパネル文を施す、隆線上には爪形文を施す、胴部はキャタピラ文、波状沈線文を横位に巡らし、胴部下半は指頭圧痕を地文化し、刻み目短隆帯とキャタピラ文を施したゲジゲジ文を配する	ナデ	橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英）	20	内外面黒変
35竪穴	140図	77	縄文	深鉢	－・20.0・－	胴～底	胴部中央に渦巻き状のモチーフを配し、その上下に重三角区画文と格円区画文を配する、隆線脇にはキャタピラ文と三角押文を施し、波状沈線文を施す	ナデ	橙	粗（黒・赤色粒、長石、石英、角閃石、小礫）	50	器面赤色化している
35竪穴	140図	78	縄文	深鉢	－・10.0・－	口縁～底	半隆起線で区画され、重三角区画帯と方形区画文帯が配される、区画内には隆線脇に刻み、隆線にも一部爪形文を施す	ナデ	鈍い橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英）	30	胴部外面黒変
35竪穴	140図	79	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文とし、隆帯上および隆帯脇に刻みを施す	ナデ	明褐	やや密（白・黒・赤色粒）	－	
35竪穴	140図	80	縄文	深鉢？	－・（7.0）・－	口縁～底	方形を基調とした縦位区画文を配する、区画内には円形や半円を中心とした刺突文や、玉抱三叉文を施す、横位に巡る半隆起線上部には縄文と波状沈線文を施す	ナデ	明赤褐	密（黒・赤色粒、長石、石英）	40	
35竪穴	140図	81	縄文	深鉢	－・－・－	胴	指頭圧痕を地文化し、ゲジゲジ文が施される	ナデ	外－橙、内－黒	粗（白・黒・赤色粒、長石、角閃石）	－	外面赤色化著しい
35竪穴	140図	82	縄文	深鉢	－・－・－	胴	小突起あり、縦位区画を基本とし、キャタピラ文、隆線上に爪形文	ナデ	明赤褐	やや密（白・赤色粒、金色雲母）	－	
35竪穴	140図	83	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文とし、沈線文、連続爪形文を伴う半隆起線、蛇行三叉文、胴部に縦位の沈線を伴うコブ状の突起	ナデ	明黄褐	やや密（赤色粒、長石、石英、角閃石）	25	胴部内外面黒変
35竪穴	141図	84	縄文	深鉢	－・（20.0）・－	胴～底	半隆起線により三角区画文と半円区画文、方形区画文を配し、抽象文を施す、区画内にはヘラによる刻み、有節縄文、三角押文、蛇行三叉文等を施す、抽象文は粘土板貼付によるものでキャタピラ文、三角押文、蛇行三叉文等で表出している、胴部下半には格円区画文を配し、その下部にはクランク状隆線がみえる	ナデ	赤褐	やや密（赤色粒、長石、石英、雲母、1～7mmの小礫）	－	
35竪穴	141図	85	縄文	深鉢	－・5.8・－	胴～底	縄文を地文とし、半截竹管状工具による平行沈線、波状二角押引文を施す	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒、長石、石英）	35	
35竪穴	141図	86	縄文	深鉢	－・14.1・－	胴～底	胴部半ばに重三角区画文を配し、区画内の隆帯脇にキャタピラ文と三角押文を施す、胴下部は無文	ナデ	橙～鈍い黄橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英）	40	胴部内外面黒変
35竪穴	141図	87	縄文	深鉢	－・（16.0）・－	胴～底	胴部下半に重三角区画文を配し、隆線脇に三角押文を施す、その上部には横位キャタピラ文、波状沈線文	ナデ	橙	やや粗（白・赤色粒、石英、小礫）	5	
35竪穴	141図	88	縄文	深鉢	－・（15.6）・－	胴～底	沈線による縦位区画、区画内は横位、斜位の沈線を充填、隆線上に爪形文	ナデ	外－橙、内－鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒、長石、小礫）	－	器面赤色化が著しい
35竪穴	141図	89	縄文	深鉢	－・20.0・－	胴～底	隆線、ナデ	ナデ	明褐	やや密（白・黒色粒、角閃石、小礫）	－	
35竪穴	141図	90	縄文	深鉢	－・（9.0）・－	胴～底	半隆起線による矩形区画文内部に縄文を充填	ナデ	明褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
35竪穴	141図	91	縄文	深鉢	－・（8.0）・－	胴～底	沈線による方形区画、区画内には縄文を施し刻みを施す、縦位沈線あり	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒）	－	
35竪穴	141図	92	縄文	深鉢	－・（13.0）・－	胴～底	縄文を地文	ナデ	明褐	密（白・黒色粒、角閃石）	5	
35竪穴	141図	93	縄文	深鉢	－・（14.2）・－	胴～底	ヘラケズリ、ナデ	ナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
35竪穴	141図	94	縄文	深鉢	－・（12.0）・－	胴～底	ヘラケズリ、ナデ	ナデ	明黄褐	やや粗（白・黒色粒）	－	
35竪穴	142図	95	縄文	浅鉢	(42.4) ・(11.6) ・18.8	口縁～底	4単位の波頂部をもつ波状口縁を呈する、全体無文	ナデ	鈍い赤褐	やや粗（石英、長石、スコリア、金色雲母）	70	
35竪穴	142図	96	縄文	浅鉢	(23.0) ・－・－	口縁～底	口辺に沿って押圧隆帯を施し、口縁部に角押文を施す	ナデ	明赤褐	やや粗（白・黒・赤色粒）	30	器面の赤色化顕著
35竪穴	142図	97	縄文	浅鉢	(38.8) ・(11.0) ・13.5	口縁～底	口縁部に押圧を加える、指頭圧痕顕著	ナデ	明赤褐、褐灰	粗（石英、長石－多）	25	
35竪穴	142図	98	縄文	浅鉢	(30.8) ・(10.0) ・11.5	口縁～底	口縁部3条の三角押文を巡らす、突起あり	ナデ	明赤褐、黒褐	やや粗（石英、長石）	20	
35竪穴	142図	99	縄文	浅鉢	(32.6) ・－・ [10.4]	口縁～底	口縁部に半隆起線を横位に巡らせ、爪形文を施し、押圧隆帯を施す	ナデ	明褐	粗（黒色粒、石英、長石）	60	
35竪穴	142図	100	縄文	浅鉢	(27.0) ・－・－	口縁～胴	口頸部にキャタピラ文と三角押文による波状沈線を巡らす	ナデ	鈍い橙	やや粗（長石、石英,3～5mmの礫）	－	
35竪穴	142図	101	縄文	浅鉢	(34.8) ・－・－	口縁～胴	口縁部に耳状小突起を付け、半円形に近い重三角区画文を配し、隆線脇に三角押文を施す	ナデ	鈍い橙	密（白・赤色粒、角閃石）	－	
35竪穴	142図	102	縄文	浅鉢	(29.8) ・－・－	口縁～胴	口頸部直下にキャタピラ文と三角押文を施す押圧隆帯	ナデ	鈍い橙～褐灰	やや粗（石英、長石）	－	
35竪穴	142図	103	縄文	浅鉢	(42.6) ・－・－	口縁～胴	縄文を地文とし、隆帯により菱形文を施す、その縁をキャタピラ文で加飾	ナデ	浅黄橙	密（白・赤色粒、金色雲母）	－	
35竪穴	142図	104	縄文	鉢	(15.8) ・－・－	口縁～胴	縄文を地文とする	ナデ	鈍い橙	密（白・赤色粒）	－	
35竪穴	142図	105	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁～胴	渦巻状小突起、口頸部に2条の三角押文	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
35竪穴	142図	106	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁～胴	縄文を地文とし、円形貼付文を施し、その脇にはキャタピラ文を施す	ナデ	浅黄橙	密（白・黒・赤・金色雲母）	－	
35竪穴	143図	107	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁～胴	環状貼付文、三角押文と波状押引文を施す	ナデ	鈍い褐	やや密（白・黒色粒、金色雲母）	－	
35竪穴	143図	108	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	口頸部直下にキャタピラ文　キャタピラ文で縁取られた押圧隆帯	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	－	
35竪穴	143図	109	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	口頸部直下にキャタピラ文　キャタピラ文で縁取られた押圧隆帯	ナデ	褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
35竪穴	143図	110	縄文	台付土器	－・12.0・－	胴～底（高台）	孔を対置となる位置に4箇所穿つ、その周りを三角押文で飾る、縦位の集合沈線は一単位のみ	ナデ	鈍い橙、橙	密（赤色粒、長石、輝石）	－	
35竪穴	143図	111	縄文	台付土器	－・9.6・－	高台	台接合部に半隆起線	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・赤色粒）	－	
35竪穴	143図	112	縄文	台付土器	－・（14.6）・－	高台	ナデ	ナデ	灰黄褐	やや粗（白・黒・赤色粒、長石、角閃石）	－	
35竪穴	143図	113	磨文	小型深鉢	(10.2) ・4.2・11.1	口縁～底	指頭調整、ナデ	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒、長石、石英）	35	黒製、胴部外面黒変

表4-（14） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
35竪穴	143図	114	縄文	深鉢	11.2・－・－	口縁～胴	指頭調整、ナデ	ナデ	明赤褐	密（赤色粒、長石、輝石、角閃石）	－	粗製
35竪穴	143図	115	縄文	深鉢	－・－・－	胴～底	指頭調整、ナデ	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	粗製
35竪穴	143図	116	縄文	小型深鉢	－・7.0・－	胴～底	縄文を地文	ナデ	明黄褐	やや粗（黒・赤色粒、長石、石英）	30	
35竪穴	143図	117	縄文	深鉢	－・（7.8）・－	胴～底	ナデ	ナデ	明褐	やや密（白・黒・赤色粒）	－	内面スス付着
35竪穴	143図	118	縄文	深鉢	－・－・－	把面把手	隆帯上に爪形文	－	鈍い橙	密（白・黒色粒、長石）	－	
35竪穴	143図	119	縄文	深鉢	－・－・－	把面把手	隆帯上に爪形文	キザミ	鈍い橙	やや粗（白・黒色粒、角閃石、長石）	－	
35竪穴	143図	120	縄文	有孔鍔付土器	－・－・－	胴	ナデ	ナデ	橙	やや密（白色粒－多、黒・赤色粒）	－	外面に赤色顔料の痕跡あり
35竪穴	143図	121	縄文	ミニチュア深鉢	－・（4.2）・－	胴～底	ナデ	指頭圧痕、ナデ	鈍い黄橙	粗（白・黒色粒、長石、石英）	30	
35竪穴	143図	122	縄文	有孔鍔付土器	－・－・－	胴	指頭調整　ナデ	指頭圧痕、ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、長石）	－	内外面赤色塗彩の痕跡あり
35竪穴	143図	125	縄文	ミニチュア深鉢	－・3.9・－	胴～底	横位・斜位の沈線、角押文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	30	
35竪穴	143図	126	縄文	ミニチュア深鉢	－・（4.8）・－	胴～底	縄文を施す	ナデ	鈍い褐	密（白・赤色粒）	10	外面に赤色塗彩の痕跡あり
35竪穴	144図	134	黒色土器	坏	－・6.6・－	体～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	磨かいミガキ	外－鈍い橙、内－黒	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石、小礫）	20	
35竪穴	144図	135	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文	ナデ	鈍い赤褐	やや粗（白・赤色粒、長石）	－	
35竪穴	144図	136	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒、雲母）	－	
35竪穴	144図	137	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	欠羽状条線、浮線文	ナデ	外－褐灰、内－鈍い橙	粗（白・黒・赤色粒、小礫）	－	
35竪穴	144図	138	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	刻みをもつ浮線文	ナデ	鈍い赤褐	粗（白・黒色粒、角閃石、石英）	－	
35竪穴	144図	139	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	単節縄文、刻みもつ浮線文	ナデ	外－褐灰、内－鈍い橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
35竪穴	144図	140	縄文	深鉢	－・－・－	胴	刻みをもつ浮線文	ナデ	鈍い赤褐	やや粗（白・赤色粒、長石）	－	
35竪穴	144図	141	縄文	深鉢	－・－・－	胴	刻みをもつ浮線文	ナデ	外－鈍い黄橙、内－鈍い褐	粗（白・黒色粒、角閃石、小礫）	－	
35竪穴	144図	142	縄文	深鉢	－・－・－	胴	刻みをもつ浮線文、刺突文	ナデ	外－明赤褐、内－鈍い赤褐	やや粗（白色粒）	－	
35竪穴	144図	143	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、半截竹管による渦巻文	ナデ	橙	やや粗（白・黒・赤色粒）	－	
35竪穴	144図	144	縄文	深鉢	－・－・－	胴	刻みをもつ浮線文	ナデ	浅黄橙	密（白・赤色粒、長石、角閃石）	－	
35竪穴	144図	145	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半截竹管による沈線、刻みをもつ浮線文	－	外－鈍い橙、内－浅黄橙	粗（白・赤色粒、長石、小礫）	－	
35竪穴	144図	146	縄文	深鉢	－・－・－	胴	刻みをもつ浮線文	ナデ	外－鈍い黄橙、内－鈍い橙	密（白・黒色粒、石英、長石、角閃石）	－	
35竪穴	144図	147	縄文	深鉢	－・－・－	口縁？	半截竹管状工具による沈線	ナデ	外－鈍い褐、内－鈍い橙	密（白・黒・赤色粒、石英、長石、雲母）	－	
35竪穴	144図	148	縄文	深鉢	－・－・－	胴	浮線文、縄文地文	ナデ	外－鈍い橙、内－明赤褐	やや粗（白・赤色粒、長石、雲母）	－	
35竪穴	144図	149	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、半截竹管による渦巻文	ナデ	外－鈍い黄橙、内－明赤褐	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	
35竪穴	144図	150	縄文	深鉢	－・（10.0）・－	胴～底	刻みもつ浮線文	ナデ	外－鈍い黄橙、内－灰黄褐	やや粗（白色粒）	－	
36竪穴	58図	1	縄文	深鉢	（50.0）・（19.0）・53.5	口縁～底	口縁部に重三角区画文、区画内にはキャタピラ文と三角押文、胴部区画内には縄文が施される	ナデ	橙～黒褐	やや粗（石英、長石、スコリア）	30	
36竪穴	58図	2	縄文	深鉢	（19.7）・（11.8）26.8	口縁～底	縄文を地文とし、口頸部直下に三角押文による波状文を巡らし、円形隆線文と円形貼り付け文を1単位ずつ配し、各々三角押文でで縁取られている	ナデ	明褐	やや密（黒色粒、長石、石英、角閃石）	60	胴部内外面黒変
36竪穴	58図	3	縄文	深鉢	12.0・－・－	口縁～胴	縄文を地文とする	ナデ	灰褐	密（赤色粒、長石、輝石、安山岩）	－	
36竪穴	58図	4	縄文	深鉢	17.2・－・－	口縁～胴	縄文を地文とする	ナデ	橙～鈍い橙	密（赤色粒、長石、安山岩、輝石）	－	
36竪穴	58図	5	縄文	深鉢	42.6・－・－	口縁～胴	口縁部は無文、橋状把手が1単位付く、三角区画文を基調として三本指状モチーフを用いた施象文を配する、区画内はキャタピラ文、三角押文、波状沈線文、玉抱三叉文を施す	ナデ	橙	やや粗（黒・赤色粒、長石、石英）	15	胴部内外面黒変
36竪穴	59図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	刻み目を施す短隆帯を配する	ナデ	橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、角閃石）	10	
36竪穴	59図	7	縄文	深鉢	－・（21.4）・－	胴～底	胴部に重三角区画文を配し、胴下半には押圧隆帯が垂下する、区画内には隆線脇にキャタピラ文と三角押文を施す	ナデ	鈍い黄褐	やや粗（黒・赤色粒、長石、石英、小礫）	25	
36竪穴	59図	8	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	キャタピラ文と三角押文	ナデ	橙～明褐	密（黒・赤色粒、長石、安山岩、雲母）	－	
36竪穴	59図	9	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	半截竹管による半隆起状平行沈線	ナデ	明赤褐	密（黒・赤色粒、長石、安山岩）	－	
36竪穴	59図	10	縄文	深鉢	－・－・－	胴	平行沈線文、三角押文、刺突文、隆線	ナデ	鈍い赤褐	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	
36竪穴	59図	11	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆線脇に三角押文、縦位に三角押文	ナデ	褐	密（赤色粒、長石、輝石、安山岩）	－	
36竪穴	59図	12	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文としている	ナデ	鈍い赤褐	密（赤色粒、長石、輝石、小礫）	－	
36竪穴	59図	13	縄文	浅鉢	（38.0）・（13.0）・16.7	口縁～底	隆線による重三角区画文、区画内には三角押文が施される	ナデ	鈍い橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英）	20	胴部内外面黒変
36竪穴	59図	14	縄文	有孔土器	4.0・－・－	口縁～底	指頭調整、ナデ	指頭調整、ナデ	鈍い橙	密（赤色粒、長石、輝石、角閃石）	100	赤色塗彩の痕跡あり
36竪穴	59図	22	縄文	浅鉢	22.0・－・－	口縁～胴	波状口縁、縄文を地文とする	ナデ	鈍い赤褐	密（黒・赤色粒、長石、安山岩）	－	
36竪穴	59図	23	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文を地文とし、横位の沈線	ナデ	黒褐	密（赤色粒、長石）	－	
36竪穴	59図	24	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文を地文とし、横位、弧状の沈線	ナデ	明赤褐	密（黒・赤色粒、長石、雲母）	－	
36竪穴	59図	25	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文とし、横位の沈線	ナデ	鈍い赤褐	密（長石、石英）	－	
36竪穴	59図	26	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文とし、横位の沈線	ナデ	鈍い赤褐	密（赤色粒、長石、石英）	－	
36竪穴	59図	27	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位沈線	ナデ	鈍い褐	密（長石、輝石）	－	
37竪穴	151図	1	縄文	深鉢	（14.0）・－・－	口縁～底	地文を縄文として、横位の沈線4条と、波状沈線を2条施し、口縁部には浅い沈線で◎を施す	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	151図	2	縄文	深鉢	（30.0）・－・－	口縁～胴	口頸部に半楕円区画文を配し、その内部はキャタピラ文と縦位の沈線を充填、陰刻三叉文を施す、一部隆線上に刻みを施す、頸部にも縦位の沈線を施し、胴部には矩形もしくは楕円区画文を施す	ナデ	灰褐	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	151図	3	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	耳状の突起を持ち楕円に近い三角区画文を配する、区画内は縦位の沈線と三角押文を充填	ナデ	灰黄褐	密（白・黒色粒、スコリア、角閃石）	－	
37竪穴	151図	4	縄文	深鉢	（12.0）・－・－	口縁～胴	三角区画文の接点にはヒネリを加えた小突起状、区画内には縦位の沈線と三角押文、陰刻三叉文を施す、頸部は縦位の沈線を施す	ナデ	褐	密（黒色粒、石英、長石、雲母）	－	
37竪穴	151図	5	縄文	深鉢	（18.0）・－・－	口縁～胴	縄文を地文とする	ナデ	橙	密（白・黒色粒、石英、スコリア、雲母）	30	
37竪穴	151図	6	縄文	深鉢	－・（9.0）・－	胴～底	口縁部に重三角区画文を配し、縦位の沈線と三角押文を施す、隆線上には刻みを施す、頸部以下には縦位の沈線と、1条の横位の沈線を施す、沈線間は粗	ナデ	鈍い橙	密（黒色粒、長石、石英、スコリア、角閃石、雲母）	－	
37竪穴	151図	7	縄文	深鉢	（23.0）・－・－	口縁～胴	ヒダ状の指頭圧痕を地文化し、短隆帯を貼付	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒、石英、長石、スコリア、雲母）	－	

表4-（15） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
37竪穴	151図	8	縄文	深鉢	(18.0) ・－・－	口縁～胴	口縁部とその下部に楕円区画文を配し、隆線に沿って角押文を施し、さらに区画内には縦位の角押文を充填	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	151図	9	縄文	小型深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文とする	ナデ	橙	やや密（赤色粒、長石、石英、角閃石、小礫）	30	
37竪穴	151図	10	縄文	深鉢	－・ (6.0) ・－	胴～底	ナデ	ナデ	鈍い黄褐	密（黒色粒、石英、長石、雲母、角閃石）	－	粗製
37竪穴	151図	11	縄文	深鉢	－・ (10.0) ・－	胴～底	縄文を地文とする	ナデ	明黄褐	密（長石、石英、角閃石、小礫）	－	
37竪穴	151図	12	縄文	深鉢	－・ (8.0) ・－	胴～底	単三角区画文を配した底部破片、隆線に沿って三角押文を施す	ナデ	明赤褐	密（石英、長石、雲母）	－	内外面に赤色塗彩の痕跡あり
37竪穴	151図	13	縄文	深鉢	－・ (12.0) ・－	胴～底	楕円区画文を配した底部破片、区画内部には三角押文を施す	ナデ	鈍い橙	密（黒色粒、長石、石英、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	152図	14	縄文	浅鉢	(42.0) ・－・－	口縁～胴	ナデ	ナデ	褐	やや粗（赤色粒、長石、石英、小礫、角閃石）	15	
37竪穴	152図	15	縄文	浅鉢	(43.0) ・－・－	口縁～胴	波状隆線と横位の隆線	ナデ	橙	やや密（赤色粒、長石、石英、角閃石）	10	内面は赤色化し、剥落が著しい
37竪穴	152図	16	縄文	浅鉢	－・10.8・－	胴～底	ナデ	ナデ	明赤褐	やや密（赤色粒、長石、輝石、安山岩－多）	－	
37竪穴	152図	17	縄文	浅鉢	－・ (15.8) ・－	胴～底	ナデ	ナデ	鈍い黄橙	やや密（長石、石英、角閃石、小礫）	10	
37竪穴	152図	18	縄文	深鉢	－・－・－	頸～胴	縄文を地文とし、帯状に磨消縄文を施す	ナデ	鈍い橙	密（黒色粒、長石、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	152図	19	縄文	浅鉢	(11.0) ・－・－	口縁～胴	縄文を地文とする	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、スコリア、角閃石、雲母）	－	
37竪穴	152図	20	縄文	小型深鉢	－・－・－	胴	縦位の半隆起帯の脇に刻みを施す	ナデ	明赤褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英）	10	
37竪穴	152図	22	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	眼鏡状把手、三角押引文、縦位沈線文	ナデ	鈍い黄褐	密（白・黒色粒、角閃石、雲母）	－	
37竪穴	152図	23	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文を地文とし、円形磨消押圧文を施す	ナデ	灰黄褐	密（白・赤色粒）	－	
37竪穴	152図	24	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	口縁直下に波状に三角押文を施し、その下部は縄文を施す、三角押文で飾られた円形磨消押圧文を施す	ナデ	鈍い黄褐	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	152図	25	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	キャタピラ文、陰刻三叉文	ナデ	暗灰黄	密（白・黒色粒、雲母）	－	
37竪穴	152図	26	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	単三角区画文を配した口縁部破片、区画内にはキャタピラ文、三角押文、陰刻二叉文等を施す	ナデ	黄灰	密（白・黒色粒、角閃石、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	152図	27	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	単三角区画文、三角押文を充填	ナデ	鈍い黄褐	密（白色粒、スコリア、角閃石）	－	
37竪穴	152図	28	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	円形貼付文、陰刻三叉文を施す	ナデ	灰黄褐	密（白・黒色粒、雲母、スコリア）	－	
37竪穴	152図	29	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	単三角区画文で、区画内は隆帯に沿ってキャタピラ文と三角押文を施す	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	152図	30	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁～胴	口縁直下に横位の三角押文と押圧隆帯を施す	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、スコリア、角閃石）	－	
37竪穴	152図	31	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁	口縁部に横位に1条と、半円状に三角押文を施し、その間を陰刻三叉文を施す	ナデ	褐	密（黒色粒、石英、長石、雲母）	－	
37竪穴	152図	32	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位にキャタピラ文と三角押文を配し、内部にキャタピラ文を施した楕円区画文	ナデ	黄灰	密（白色粒、角閃石、スコリア）	－	
37竪穴	152図	33	縄文	深鉢	－・－・－	胴	押圧隆帯を横位に施す	ナデ	橙	密（黒色粒、石英、長石、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	152図	34	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文とし、横位に三角押文、刻み目を持つ短隆帯を施す	ナデ	鈍い褐	やや密（白・黒色粒、黒雲母）	－	
37竪穴	152図	35	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文とする	ナデ	鈍い黄褐	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	152図	36	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文とする	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	152図	37	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角区画文内部と隆線脇に三角押文を施し、横位に波状沈線を施す	ナデ	鈍い黄橙	やや密（赤色粒、長石、石英、角閃石）	－	
37竪穴	152図	38	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角区画文の隆線脇に2条の三角押文、その頂部には縄文を施す	ナデ	鈍い橙	やや密（赤・黒色粒、長石、石英）	－	
37竪穴	152図	39	縄文	深鉢	－・－・－	胴	単三角区画文の隆線脇には三角押文、隆線上には爪形文を施す、頸部には縄文を施す	ナデ	黒	密（長石、石英、角閃石）	－	
37竪穴	152図	40	縄文	深鉢	－・－・－	胴	波状の隆線と横位の隆線、隆線には爪形文を施す	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	153図	42	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文、横位の沈線文	ナデ	橙	密（黒色粒、石英、長石、雲母、スコリア）	－	
37竪穴	153図	43	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文、横位の沈線文	ナデ	鈍い黄褐	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	153図	44	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文	ナデ	鈍い褐	密（石英、長石、雲母、スコリア）	－	
37竪穴	153図	45	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、浮線文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	153図	46	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、横位の沈線文	ナデ	鈍い橙	密（黒色粒、石英、長石、雲母、角閃石）	－	
37竪穴	153図	47	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、刻みをもつ浮線文	ナデ	鈍い褐	密（白・黒、雲母、スコリア）	－	
37竪穴	153図	48	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、横位沈線文	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒、石英、長石、雲母、スコリア）	－	
37竪穴	153図	49	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、横位の沈線文	ナデ	褐	密（黒色粒、長石、石英、スコリア、角閃石）	－	
37竪穴	153図	50	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、刻みをもつ浮線文	ナデ	鈍い黄褐	密（黒色粒、長石、石英、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	153図	51	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、横位の沈線文	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒、石英、長石、スコリア、雲母）	－	
37竪穴	153図	52	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、刻みをもつ浮線文	ナデ	鈍い黄褐	密（長石、石英、スコリア、角閃石、雲母）	－	
37竪穴	153図	53	縄文	底塔	－・－・－	胴	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い橙	密（黒色粒、長石、石英、スコリア、雲母）	－	
38竪穴	156図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	口縁部は波状を呈し、隆帯と角押文による楕円区画文、三角区画文がみられる、区画内には縦位の角押文が充填される	ナデ	灰褐	密（長石、石英、スコリア、雲母）	－	
38竪穴	156図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	口縁に沿って連続する三角押文と波状の三角押文が施される	ナデ	褐	密（長石、石英、角閃石、スコリア、雲母）	－	
38竪穴	156図	3	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	円形押圧貼付文と横帯の粘土紐の貼付	ナデ	鈍い黄橙	密（石英、長石、スコリア、雲母）	－	
38竪穴	156図	4	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	横位沈線、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い赤褐	密（白色粒、石英、長石、雲母）	－	
38竪穴	156図	5	縄文	深鉢	－・－・－	口縁部の突起	口縁部小突起、刻みが施される	ナデ	鈍い橙	密（黒色粒、長石、石英）	－	
38竪穴	156図	6	縄文	深鉢	－・ (14.0) ・－	胴～底	隆帯による楕円区画文、その内部に三角押文	ナデ	鈍い橙	密（長石、石英、スコリア、雲母）	－	
38竪穴	156図	7	縄文	深鉢	－・ (6.0) ・－	胴～底	ナデ	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、雲母、角閃石）	－	粗製
38竪穴	156図	8	縄文	深鉢	－・ (6.0) ・－	底	ナデ	ナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒、雲母）	－	粗製
40竪穴	160図	1	縄文	深鉢	－・－・－	橋状把手	蛇行して垂下する隆帯、その両脇に三角押文、また蛇行で空いた空間にも三角押文	ナデ	鈍い黄橙、褐灰	粗（白・黒色粒）	－	
40竪穴	160図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	縄文地文	ナデ	鈍い黄橙～黒褐	やや粗（石英、長石、スコリア、金色雲母）	－	
40竪穴	160図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	橙	粗（石英）	－	
40竪穴	160図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	区画した隆帯の脇に三角押文	ナデ	橙	粗（石英）	－	
40竪穴	160図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴～底	ナデ	ナデ	橙～褐灰	やや粗	－	
41竪穴	162図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	口縁は波状を呈し、小突起をもつ、三角押文	ナデ	明赤褐	やや粗（長石、金色雲母）	－	
41竪穴	162図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	口縁部に刻み目を施し小突起を持つ、三角押文もわずかにみえる	ナデ	鈍い黄橙	やや粗	－	
41竪穴	162図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文とし、波状沈線を施す	ナデ	鈍い橙	粗（石英、長石、雲母）	－	
41竪穴	162図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位の沈線と円形刺突文を施す	ナデ	鈍い黄橙、黒褐	やや粗（石英、長石）	－	
41竪穴	162図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線でパネル状に区画され、爪形文が施される	ナデ	外－橙、内－褐灰	やや粗（石英、長石）	－	
41竪穴	162図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縦位の沈線	ナデ	鈍い黄褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母、小礫）	30	羊出・類八系
41竪穴	162図	7	縄文	深鉢	－・ (10.0) ・－	胴～底	単一角区画文、三角押文、折曲底	ナデ	橙	やや粗（石英、長石）	－	

表4-（16） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
1号埋設	198図	1	縄文	深鉢	(30.0)・17.9・37.3	口縁～底	口縁部が緩く内彎し、胴部がややくびれるキャリパー形の深鉢形土器く、無文で器面は内外共に丁寧に仕上げている	ナデ	灰黄、黒褐	やや粗（石英、長石、雲母－少）	90	
1ピット	198図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	縄文を地文とし、連続する刺突文に縁取りされた磨消縄文	ナデ	鈍い黄橙	密（黒・赤色粒、角閃石、雲母）	－	
1ピット	198図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	降線脇にキャタヒラ文	ナデ	橙	やや粗（黒・赤色粒、長石－多）	－	
1ピット	198図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文に波状沈線文	ナデ	鈍い黄橙	やや密（黒・赤色粒、長石－多）	－	
1ピット	198図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角押文による波状押引文とキャタヒラ文	ナデ	鈍い黄褐	密（黒・赤色粒、長石、角閃石）	－	
1ピット	198図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴	角押文	ナデ	褐	やや密（赤色粒、長石、角閃石、石英、雲母）	－	
1ピット	198図	6	縄文	深鉢	－・13.0・－	胴～底	ナデ	ナデ	明褐	やや密（黒・赤色粒、長石－多、石英、角閃石）	－	内面にオコゲ状の付着物あり
1ピット	198図	7	縄文	深鉢	－・12.6・－	胴～底	ナデ	ナデ	鈍い橙	やや密（黒・赤色粒、長石－多）	－	
2ピット	198図	1	縄文	深鉢	－・12.4・－	胴～底	降線の垂下がみられ、その脇にキャタヒラ文と三角押文を施す	ナデ	外－明赤褐、内－橙～黒褐	密（白・黒色粒）	－	
2ピット	199図	2	縄文	深鉢	(18.2)・(11.6)・24.5	口縁～底	口縁部無文、口縁直下に三角押文を横位に2条巡らし、その下部は縄文を地文としてゲジゲジ文を14単位以上施す	ナデ	橙	やや密（赤色粒、長石、石英、角閃石）	65	
2ピット	199図	3	縄文	深鉢	－・16.4・－	胴～底	胴部に楕円区画文を配し、その下部から降線が垂下する、区画内には角押文を充填し、垂下する降帯の脇にも角押文を施す	ナデ	橙	やや粗（黒・赤色粒、長石、石英、小礫）	50	
3ピット	199図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	縄文を地文として、沈線文	ナデ	明褐	密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母）	－	
3ピット	199図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文として、沈線文	ナデ	黄褐	密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母）	－	
3ピット	199図	3	瓦質	焙烙	－・29.0・－	底	ロクロナデ	ナデ	褐	密（赤色粒、長石、石英、角閃石）	－	
5ピット	199図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	口縁部無文、キャタヒラ文	ナデ	橙	やや密（黒・赤色粒、石英、角閃石、砂岩）	－	内外面一部黒変
6ピット	199図	1	縄文	小型鉢	8.8・－・－	口縁～胴	縄文地文	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒、石英、砂礫）	－	内外面に赤色塗彩の痕跡あり
6ピット	199図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	波頂部から垂下する降線に爪形文を施す、沈線区画された内部にキャタピラ文と三叉文	ナデ	赤褐	密（黒・赤色粒、石英、長石、雲母）	－	
7ピット	199図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	楕円区画文降線脇に三角押文、内部にキャタピラ文	ナデ	暗赤褐	密（白・黒・赤色粒、雲母）	－	
7ピット	199図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	三角区画文降線脇にキャタヒラ文、陰刻三叉文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒・赤色粒、雲母）	－	
7ピット	199図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	区画内に三角押文	ナデ	鈍い黄橙	密（黒・赤色粒、長石、石英、砂岩）	－	
7ピット	199図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	鈍い褐	密（黒・赤色粒、石英、長石、雲母）	－	
7ピット	199図	5	縄文	浅鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	橙	やや粗（黒・赤色粒、長石、石英、砂礫、雲母）	－	
8ピット	199図	1	灰釉陶器	鉢？		底部	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	淡黄	密（白色・黒色粒）	－	
9ピット	200図	1	縄文	深鉢	－・14.5・－	口縁	横位沈線	ナデ	鈍い橙	密（黒色粒、長石、石英）	－	やや薄手のつくり
9ピット	200図	2	縄文	小型深鉢	－・－・－	口縁	ナデ	ナデ	橙～鈍い橙	密（黒・赤色粒、砂岩、石英）	－	早期～前期？、東海系か？、やや薄手のつくり
9ピット	200図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	ナデ	ナデ	橙	やや粗（繊維、長石、石英）	－	胎土に繊維を含む、早期～前期？
9ピット	200図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線	ナデ	橙	密（赤色粒、石英、長石、角閃石）	－	
9ピット	200図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線	ヘラナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、石英、砂岩）	－	早期～前期？、東海系か？、やや薄手のつくり
9ピット	200図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	ヘラナデ	ヘラナデ	鈍い黄橙	密（黒色粒、長石、砂岩）	－	早期～前期？、東海系か？、やや薄手のつくり
9ピット	200図	7	縄文	深鉢	－・－・－	胴	ヘラナデ	ヘラナデ	明黄褐	密（黒・赤色粒、長石、砂岩、角閃石）	－	早期～前期？、東海系か？、やや薄手のつくり
9ピット	200図	8	縄文	深鉢	－・－・－	胴	ヘラナデ	ヘラナデ	明黄褐	密（黒・赤色粒、長石、砂岩）	－	早期～前期？、東海系か？、やや薄手のつくり
9ピット	200図	9	縄文	深鉢	－・－・－	胴	ヘラナデ	ヘラナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石、砂岩）	－	早期～前期？、東海系か？、やや薄手のつくり
9ピット	200図	10	縄文	深鉢	－・－・－	胴	ヘラナデ	ヘラナデ	明黄褐	密（黒色粒、長石、石英、砂岩）	－	早期～前期？、東海系か？、やや薄手のつくり
9ピット	200図	11	縄文	深鉢	－・－・－	胴	ヘラナデ	ヘラナデ	鈍い黄橙	密（黒・赤色粒、長石、砂岩、角閃石）	－	早期～前期？、東海系か？、やや薄手のつくり
9ピット	200図	12	縄文	台付土器	－・12.8・－	胴～底	ナデ	ナデ	鈍い黄橙	密（黒・赤色粒、長石、角閃石、砂岩）	－	
10ピット	200図	1	土師質	内耳？土器	－・－・－	胴	ロクロナデ	ロクロナデ	外－黒褐、内－鈍い橙	密（黒・赤色粒、長石）砂質	－	
11ピット	200図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	口縁部無文、以下縄文を地文、三角押文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
12ピット	200図	1	黒色土器	坏	(12.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒）	3	
12ピット	200図	2	土師器	皿	－・(6.0)・－	体～底	手持ち斜めヘラケズリ	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒・赤色粒、雲母）	5	
14ピット	200図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位に巡る三角押文と垂下する降線	ナデ	鈍い橙	密（黒・白色粒、石英、雲母）	－	
14ピット	200図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	2条の垂下する降線	ナデ	明黄褐	密（黒・白色粒、雲母、角閃石）	－	
15ピット	200図	1	縄文	－	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	橙	密（黒・赤・白色粒、角閃石）	－	
15ピット	200図	2	縄文	－	－・－・－	胴	三角押文区画文、三角押文	ナデ	にぶい橙	密（黒・赤・白色粒、角閃石）	－	
15ピット	200図	3	縄文	－	－・－・－	胴	横位のキャタピラ文	ナデ	灰黄褐	密（黒・赤・白色粒、角閃石）	－	
16ピット	200図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	－	
16ピット	200図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	無文、ナデ	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、雲母）	－	
17ピット	200図	1	縄文	深鉢	－・－・－	小突起片	刻み	ナデ	鈍い黄橙	密（黒・赤色粒、角閃石）	－	
17ピット	200図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	ナデ	ナデ	鈍い黄橙	密（黒・白色粒、角閃石）	－	
18ピット	200図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	波状口縁、縄文地文、刻みをもつ浮線文	ナデ	にぶい橙	密（白・黒・赤色粒、雲母）	－	
18ピット	200図	2	縄文	深鉢？	－・－・－	胴	ナデ	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、雲母）	－	
18ピット	200図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位の降線と縦位の沈線	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、雲母）	－	
19ピット	200図	1	土師器	坏	－・－・－	口縁～	ロクロナデ	ナデ	鈍い橙	密（白・黒・赤色粒）	－	体部外面刻書
19ピット	200図	2	土師器	坏	－・－・－	体	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	－	
19ピット	200図	3	灰釉陶器	－	－・5.8・－	高台	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	密（白・黒色粒）	5	
20ピット	200図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－鈍い赤褐、内－褐灰～黒	やや密（白色粒）	－	
20ピット	200図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－鈍い赤褐、内－褐～黒褐	やや密（白・赤色粒、雲母）	－	
20ピット	200図	3	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	「く」の字状に屈折する口縁、波頂部にボタン状貼付文、縦方向の弧状沈線と横位の沈線、縄文を地文とする	ナデ	外－明褐～黒褐、内－明褐	密（白色粒、雲母、小礫）	－	
20ピット	201図	4	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文	ナデ	褐～黒褐	やや密（白色粒、雲母）	－	
20ピット	201図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－暗赤褐、内－黒褐	やや密（白・赤色粒）	－	
20ピット	201図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文を地文、横位の沈線	ナデ	外－黒褐、内－褐	密（白色粒、雲母）	－	
20ピット	201図	7	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	暗赤褐～黒褐	やや密（白・赤色粒）	－	
20ピット	201図	8	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－暗赤褐、内－黒褐	やや密（白・赤色粒）	－	
20ピット	201図	9	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－鈍い赤褐、内－暗赤褐	やや密（白・赤色粒、雲母）	－	

表4-（17） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
21ピット	201図	1	縄文	−	−・−・−	突起	渦巻き状突起	−	外−鈍い赤褐から暗赤褐、内−黒褐	密（白・赤色粒）	−	
24ピット	201図	1	縄文	深鉢	−・−・−	口縁	楕円区画文、キャタピラ文	ナデ	外−鈍い褐〜黒褐、内−橙〜黒褐	密（白色粒）	−	
24ピット	201図	2	縄文	深鉢	−・−・−	胴	隆線脇に三角押文、玉抱三叉文	ナデ	外−鈍い赤褐、内−灰褐	密（白色粒）	−	
24ピット	201図	3	須恵器	甕	−・−・−	胴	ロクロナデ	ロクロナデ	黄灰	繊密（白色粒）	5	
26ピット	201図	1	土師器	坏	−・（6.5）・−	体〜底	手持ち斜めヘラケズリ	ナデ	外−橙、内−灰褐〜鈍い褐	繊密（白色粒、角閃石、小礫）	5	
28ピット	201図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	沿位の沈線	ナデ	明褐	密（白色粒）	−	
28ピット	201図	2	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	−	
28ピット	201図	3	縄文	深鉢	−・−・−	胴	輪積み成形痕と指頭圧痕	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	−	
29ピット	201図	1	縄文	深鉢	−・（7.0）・−	胴〜底	ヘラナデ	ヘラケズリ	外−鈍い橙〜黒褐、内−鈍い橙	密（白色粒）	−	
35ピット	202図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文、刻みをもつ浮線文	ナデ	鈍い黄橙	密（黒色粒、長石、石英、角閃石）	−	
39ピット	202図	1	縄文	深鉢	−・−・−	口縁	縄文地文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石）	−	
39ピット	202図	2	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石）	−	
39ピット	202図	3	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文	ナデ	明赤褐	密（黒・赤色粒、長石）	−	
40ピット	202図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文、波状沈線文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石、石英）	−	
41ピット	202図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石）	−	
42ピット	202図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文、刻みをもつ浮線文	ナデ	鈍い赤褐	密（黒・赤色粒、長石、石英）	−	
45ピット	202図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	口縁部まで及ぶ横位の沈線	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石、石英）	−	
45ピット	202図	2	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文、波状沈線文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石、石英）	−	
45ピット	202図	3	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文、弧状沈線	ナデ	黒褐	密（黒・赤色粒、長石）	−	
46ピット	202図	1	縄文	深鉢	35.0・−・−	口縁〜胴	幅の狭い口縁部無文帯を挟んで重三角区画文、方形区画文、垂三角区画文を配する。上段の重三角区画文の区画の継ぎ目には瘤状の小突起を付け、隆線脇に三角押文、区画内には玉抱三叉文を施す、他の区画の隆線脇には角押文を施す	ナデ	橙〜鈍い褐	密（黒・赤色粒、長石、雲母）	−	
47ピット	202図	1	−	焼成粘土塊	−・−・−	−	−	−	炭黄	粗（白・黒・赤粒）	−	
50ピット	202図	1	縄文	浅鉢	−・−・−	口縁〜胴	押圧隆帯を横位に巡らす	ナデ	鈍い褐	密（黒・赤色粒、長石、石英）	−	
50ピット	202図	2	縄文	深鉢	−・−・−	口縁〜胴	口縁部に横位の沈線と刻みをもつ隆帯、頸部には縦位の沈線	ナデ	鈍い黄橙	密（黒・赤色粒、石英−多、雲母−多）	−	半出三類A系
50ピット	202図	3	縄文	深鉢	−・−・−	胴	横位の沈線と口状沈線文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、石英−多、長石、雲母）	−	半出三類A系
50ピット	202図	4	縄文	深鉢	−・−・−	胴	半隆起線による区画　爪形文を施した隆帯	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母）	−	
53ピット	202図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	半隆起線による区画、キャタピラ文、波状沈線文	ナデ	鈍い黄橙	密（黒・赤色粒、長石、角閃石）	−	
53ピット	202図	2	瓦質	焙烙	30.0・−・−	口縁	ロクロナデ	ロクロナデ	黒褐	密（黒・赤色粒、長石、雲母−多）	−	
55ピット	202図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	三角区画文内および隆線脇に三角押文	ナデ	橙	やや密（黒色粒、長石−多、石英、角閃石）	−	
55ピット	202図	2	縄文	深鉢	−・−・−	胴	角押文、三角押文	ナデ	鈍い黄褐	密（黒・赤色粒、長石）	−	
55ピット	202図	3	縄文	深鉢	−・−・−	胴	隆線脇に三角押文	ナデ	鈍い黄橙	密（黒・赤色粒、長石、安山岩、角閃石）	−	
55ピット	202図	4	縄文	深鉢	−・（11.0）・−	底	ナデ	ナデ	赤褐	密（白・黒・赤色粒、雲母−多）	−	
55ピット	203図	5	縄文	深鉢	−・−・−	胴	キャタピラ文、三角押文を隆線脇に施す	ナデ	鈍い黄橙	密（赤色粒、長石、石英、輝石−多、角閃石）	−	
55ピット	203図	6	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文を地文とし垂下する隆帯胴部に押圧隆帯	ナデ	明褐〜明赤褐	やや密（黒・赤色粒、長石、角閃石、雲母）	−	
63ピット	203図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	楕円区画文、キャタピラ文	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、黒雲母）	−	
71ピット	203図	1	縄文	深鉢	−・−・−	口縁〜胴	口縁部に三角押文	ナデ	赤褐	密（長石、雲母）	−	
71ピット	203図	2	縄文	深鉢	−・−・−	胴	キャタピラ文、三角押文、蛇行三叉文	ナデ	橙	密（黒色粒、長石、雲母）	−	
71ピット	203図	3	縄文	深鉢	−・−・−	胴	隆線脇にキャタピラ文、三角押文	ナデ	鈍い橙	密（黒色粒、長石）	−	
71ピット	203図	4	縄文	深鉢	−・−・−	胴	キャタピラ文、三角押文	ナデ	外−鈍い褐〜褐灰、内−褐〜褐灰	密（黒・赤色粒、長石、石英）	−	
73ピット	203図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	キャタピラ文	ナデ	外−橙、内−鈍い橙〜褐灰	密（黒色粒、石英、長石）	−	
83ピット	203図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	隆線に刻み、キャタピラ文、三角押文	ナデ	橙	やや密（黒・赤色粒、長石、角閃石−多）	−	
83ピット	203図	2	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文、縦位の波状沈線文	ナデ	鈍い黄橙〜褐灰	密（長石、黒色粒）	−	
85ピット	203図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	三角押文	ナデ	外−橙〜褐灰、内−褐灰	密（黒・赤色粒、長石）	−	
85ピット	203図	2	縄文	深鉢	(25.0)・−・−	胴	三角押文、縄文	ナデ	鈍い赤褐〜灰褐	密（黒・赤色粒、長石、黒雲母）	−	
85ピット	203図	3	縄文	深鉢	−・−・−	胴	矢羽状沈線（やや疎い）	ナデ	橙	やや密（白色粒−多、黒・赤色粒、角閃石）	−	
85ピット	203図	4	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縦位、斜位の沈線（深くしっかりしている）	ナデ	鈍い赤褐〜褐褐	密（黒・赤色粒、石英、雲母、小礫）	−	
85ピット	203図	5	縄文	深鉢	−・−・−	胴	沈線文	ナデ	外−鈍い橙、内−橙〜明赤褐	密（黒色粒）	−	
85ピット	203図	6	縄文	深鉢	−・−・−	胴	X字状沈線（深くしっかりしている）	ナデ	外−赤褐〜黒褐、内−暗赤褐〜黒褐	密（黒・赤色粒、石英、雲母）	−	
85ピット	203図	7	縄文	深鉢	−・−・−	胴	矢羽状沈線（深くしっかりしている）	ナデ	鈍い橙	密（長石、石英）	−	
85ピット	203図	8	縄文	深鉢	−・−・−	胴	波状沈線文、三角押文	ナデ	橙	密（白・黒、赤色粒、石英）	−	
85ピット	203図	9	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文	ナデ	鈍い赤褐	密（黒・赤色粒、長石）	−	
86ピット	203図	1	灰釉陶器	−	−・（7.4）・−	胴〜底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰	密（白色粒）	−	
94ピット	203図	1	縄文	深鉢	−・−・−	口縁	ヒネリを付けた小突起、三角押文	ナデ	鈍い橙〜褐灰	密（黒色粒、角閃石）	−	
102ピット	203図	1	黒色土器	坏	−・−・−	口縁	ロクロナデ	ロクロナデ　ミガキ	明赤褐	密（白・黒色粒、雲母）	−	体部外面煤痕あり
104ピット	203図	1	瓦質	焙烙	−・21.0・−	底	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い橙	密（白・黒・赤色粒）砂質	−	内面黒色化
130ピット	204図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文	ナデ	赤褐	やや粗（白色粒）		
138ピット	204図	1	縄文	深鉢	−・−・−	口縁〜	縄文地文	ナデ	炭黄	密（赤色粒、輝石−多、石英、長石、安山岩）	−	
138ピット	204図	2	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文	ナデ	鈍い黄橙	密（赤色粒、長石、輝石、角閃石）	−	
138ピット	204図	3	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文？	ナデ	鈍い橙	やや密（赤色粒、長石、輝石、角閃石）	−	
139ピット	204図	1	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文、波状懸垂文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石、輝石）	−	
139ピット	204図	2	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文、波状懸垂文	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒、長石、輝石）	−	
139ピット	204図	3	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒、長石）	−	
139ピット	204図	4	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文、半截竹管状工具による縦位の沈線	ナデ	鈍い黄橙	密（黒・赤色粒、長石、輝石、角閃石、雲母）	−	
139ピット	204図	5	縄文	深鉢	−・−・−	胴	縄文地文	ナデ	鈍い橙	密（赤色粒、長石、角閃石、輝石）	−	

表4-（18） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
139ピット	204図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	ナデ	ナデ	橙	密（赤色粒、長石、石英、輝石、雲母）	－	
149ピット	204図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	輪積痕と指頭圧痕	ナデ	黒褐	密（黒・赤色粒、長石）	－	
150ピット	204図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	口縁部にヘラ刻み	ナデ	明赤褐	密（赤色粒、長石、安山岩、輝石）	－	口縁部に赤色塗彩の痕跡あり
150ピット	204図	2	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁～	口唇部に三角押文	ナデ	明赤褐	密（黒・赤色粒、雲母、石英、長石）	－	
156ピット	204図	1	灰釉陶器	椀	－・6.8・－	体～底	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰白	密（白・黒色粒）	－	
158ピット	204図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石）	－	
158ピット	204図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	集合沈線文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、安山岩、長石）	－	
164ピット	204図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線文	ナデ	明褐	密（黒・赤色粒、長石－多、石英、雲母）	－	
167ピット	204図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、輝石、安山岩、長石）	－	
170ピット	204図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、弧状沈線	ナデ	鈍い褐	密（白色粒）	－	
170ピット	204図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、横位沈線	ナデ	外－鈍い橙、内－赤褐	密（白・黒色粒）	－	
171ピット	204図	1	灰釉陶器	椀	－・3.5・－	体	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰白	密（黒色粒）	－	
171ピット	204図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	縄文地文	ナデ	黒褐	密（黒・赤色粒、長石、石英）	－	
179ピット	205図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、波状沈線文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石）	－	
179ピット	205図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、沈線文	ナデ	褐	密（長石、輝石、石英、雲母）	－	
180ピット	205図	1	縄文	深鉢	－・（14.0）・－	胴～底	方形区画文、隆線に刻み、キャタピラ文、三角押文、指頭圧痕文	ナデ	外－赤褐、内－明赤褐～黒	密（赤色粒、雲母）	－	内面にオコゲ状付着物あり
189ピット	205図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	キャタピラ文	ナデ	黒褐	密（白色粒）	－	
195ピット	205図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	隆線に刻み、キャタピラ文	ナデ	外－鈍い褐、内－褐灰	密（白・黒色粒）	－	
195ピット	205図	2	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁～胴	キャタピラ文	ナデ	鈍い橙	密（白色粒、雲母）	－	
195ピット	205図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線、波状沈線、キャタピラ文、陰刻三叉文	ナデ	外－橙、内－褐灰	密（白色粒）	－	
195ピット	205図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	キャタピラ文、三角押文	ナデ	鈍い褐	密（黒・赤色粒、黒雲母、長石）	－	
195ピット	205図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴	抽象文破片、キャタピラ文　半円連続刺突文	ナデ	外－橙～褐灰、内－鈍い橙	密（白・黒色粒、砂礫）	－	
195ピット	205図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆線刻み、三角押文	ナデ	外－橙、内－橙～褐灰	密（黒色粒、長石、黒雲母）	－	
198ピット	205図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	胴部上半に二角区画文、胴部中央にはクランク状隆線が垂下する、隆線脇に三角押文を施し、波状押引文も施す	ナデ	鈍い橙～褐灰、黒褐	密（白色粒、石英）	15	
198ピット	205図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	刻みをもつ浮線文	ナデ	鈍い褐	密（黒・赤色粒、長石）	－	
198ピット	205図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角押文、キャタピラ文、玉抱三叉文	ナデ	外－黒褐、内－褐灰～黒褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
198ピット	205図	4	縄文	小型鉢	－・（2.8）・－	胴～底	隆線文	ナデ	外－暗赤褐～黒、内－赤褐～極暗赤褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
198ピット	205図	5	縄文	－	－・（14.0）・－	底	ナデ	ナデ	外－明赤褐～黒、内－黄褐から黒	密（黒・赤色粒、長石、石英）	－	内面にオコゲ状付着物あり
202ピット	205図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－鈍い褐～黒、内－褐灰	密（白・黒色粒、石英）	－	
202ピット	205図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－橙、内－褐灰	密（白・黒・赤色粒）	－	
211ピット	205図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線による区画、沈線	ナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
212ピット	205図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－橙～褐、内－橙	密（白・黒色粒）	－	
212ピット	205図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、波状沈線文、キャタピラ文	ナデ	外－鈍い褐、内－鈍い赤褐	やや密（白色粒－多、石英、角閃石）	－	
212ピット	205図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－橙、内－鈍い橙～褐灰	密（白・黒色粒、石英）	－	
212ピット	205図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆線、沈線	ナデ	外－明赤褐、内－鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
213ピット	205図	1	縄文	浅鉢	（36.3）・10.2・15.8	口縁～底	口縁部は直立気味に立ち上がる、2列の刻みをもつ隆帯を2単位以上配し、小波状口縁となる	ナデ	鈍い黄橙	やや密（黒・赤色粒、長石、石英）	55	
213ピット	205図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線による区画、区画内沈線充填	ナデ	鈍い赤褐	密（白・黒・赤色粒、雲母、石英、雲母）	－	
213ピット	205図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位沈線	ナデ	外－橙、内－鈍い橙～褐灰	密（白・黒色粒、長石？）	－	
215ピット	206図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	無文、ナデ	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒）	－	
216ピット	206図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	橙～褐灰	密（白・黒色粒）	－	
216ピット	206図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆線脇キャタピラ文	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒）	－	
216ピット	206図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線、隆線上爪形文	ナデ	明黄褐～褐灰	密（白・黒色粒）	－	
216ピット	206図	4	縄文	深鉢	（18.4）・－・－	口縁～胴	ナデ、無文	ナデ	鈍い赤褐～黒	密（白・黒色粒、長石）	5	
218ピット	206図	1	縄文	深鉢	（19.5）・－・－	口縁～胴	口縁部にW字状隆線文、隆線脇に三角押文を施し、縦位の沈線を充填、頸部にも横位の沈線、その下に重三角区画文か、隆線脇に三角押文	ナデ	橙～赤褐	密（白・黒色粒）	5	
218ピット	206図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	押圧隆帯を貼付	ナデ	外－黒褐、内－明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
218ピット	206図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－黒褐、内－鈍い赤褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
218ピット	206図	4	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	ナデ、無文	ナデ	鈍い赤褐～黒褐	密（白・黒色粒）	－	
226ピット	206図	1	縄文	深鉢	－・－・－	把手	ナデ	ナデ	鈍い橙	密（赤色粒、長石、石英、角閃石、雲母）	－	
246ピット	206図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位の沈線	ナデ	鈍い橙	やや密（赤色粒、長石－多、輝石、角閃石、雲母）	－	
247ピット	206図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆線上に沈線、隆線脇にキャタピラ文、隆線上に刻み、三角押文、波状沈線文	ナデ	鈍い褐～鈍い黄褐	密（黒・赤色粒、長石、安山岩、雲母）	－	
247ピット	206図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	縄文地文、角押文による波状押引文	ナデ	鈍い褐	密（赤色粒、長石、輝石、雲母）	－	
247ピット	206図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、波状沈線文、楕円区画文、キャタピラ文	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒、長石、安山岩、雲母）	－	
251ピット	206図	1	縄文	深鉢	－・－・－	把手	ナデ、無文	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒、長石、輝石、安山岩）	－	
251ピット	206図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	橙	密（赤色粒、長石、輝石、角閃石、安山岩）	－	
251ピット	206図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	突起に刻み、キャタピラ文、三角押文	ナデ	鈍い橙、鈍い褐	密（赤色粒、長石、安山岩、輝石）	－	
253ピット	206図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	口唇部に爪形文、波状沈線下は縄文地文	ナデ	黒褐	密（黒・赤色粒、長石、輝石、角閃石）	－	
255ピット	206図	1	縄文	深鉢	22.0・－・－	口縁～胴	口縁部無文、円形押圧文と円形突起を付ける、2条の沈線を横位に施す、以下縄文を施す	ナデ	鈍い褐	密（赤色粒、長石、石英、角閃石、輝石）	－	
255ピット	206図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	外反貼付文、その他に沈線	ナデ	鈍い橙	密（赤色粒、長石）	－	

表4-（19） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
255ヒット	206図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	棒状貼付文、その脇に沈線	ナデ	鈍い黄褐	密（黒・赤色粒、長石、安山岩）	－	
255ヒット	206図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線による三角区画文　区画内には斜位の沈線	ナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒、安山岩－多）	－	
255ヒット	207図	5	縄文	深鉢	22.0・－・－	口縁～胴	やや幅広の縄文地文帯を口縁部に配し、粘円区画文を配する、胴部中央に抽象文が付くと思われるが欠失、輪積成形痕と指頭痕を顕著に残す、キャタピラ文と三角押文による波状押引文を多用している	ナデ	鈍い赤褐	密（黒・赤色粒、長石、安山岩）	－	
256ヒット	207図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	キャタピラ文、三角押文	ナデ	鈍い橙褐	やや密（黒・赤色粒、石英、雲母－多）	－	
257ヒット	207図	1	縄文	浅鉢	(40.0)・－・－	口縁～胴	口縁部を縄文帯とする	ナデ	外－明褐～黒褐、内－鈍い赤褐～鈍い褐	密（白・黒色粒、雲母、小礫）	－	
257ヒット	207図	2	縄文	浅鉢	(21.0)・－・－	口縁～胴	口縁部直下に半截竹管による連続刺突を施し、三角押文と沈線を連弧状に施す	ナデ	外－鈍い褐～黒、内－褐灰～黒	密（黒・赤色粒、長石、雲母）	5	土器のつくりは丁寧
257ヒット	207図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、粘円区画文、キャタピラ文、波状沈線文	ナデ	明赤褐～鈍い赤褐	密（白・黒色粒、長石、雲母）	－	
258ヒット	207図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	横位に2条の三角押文	ナデ	鈍い赤褐	密（白・黒色粒）	－	
258ヒット	207図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	ナデ	ナデ	外－橙、内－褐灰	密（白・黒・赤色粒、石英、雲母）	－	
260ヒット	207図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、半隆起線による区画、注口状突起が付く、一部隆線に爪形文	ナデ	黒褐～鈍い橙～橙	密（赤色粒、長石、輝石、角閃石、安山岩－多）	－	注口状突起の胎土に黒曜石片を含む
260ヒット	207図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	抽象文状モチーフ脇に三角押文	ナデ	鈍い橙～褐灰	密（白・黒・灰色粒、石英）	－	
260ヒット	207図	3	灰釉陶器	Ⅲ	(14.0)・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ナデ	灰～灰白～オリーブ灰	緻密（白色粒）	5	
261ヒット	207図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、半截竹管状工具による沈線	ナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	
261ヒット	207図	2	縄文	小型鉢付土器	－・－・－	胴	縄文？	ナデ	外－鈍い褐～黒褐、内－黒	密（白・黒色粒、雲母）	－	
262ヒット	207図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	縄文地文	ナデ	鈍い橙～灰褐	密（白・黒色粒）	－	
262ヒット	207図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	押圧隆帯の上部に三角押文を施し縄取りをする	ナデ	鈍い褐～褐灰	密（白・黒色粒）	－	
262ヒット	207図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角押文、波状沈線文、横位沈線	ナデ	明褐	密（白・黒色粒）	－	
262ヒット	207図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角押文	ナデ	外－鈍い橙、内－鈍い黄橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
262ヒット	207図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
262ヒット	208図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線による縦位区画文、隆線上に爪形文、区画内には横位の沈線	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
262ヒット	208図	7	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線による縦位区画文、隆線上に刻み、区画内に斜位の沈線	ナデ	外－橙～褐灰、内－鈍い黄橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
262ヒット	208図	8	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線による縦位区画文、隆線上に爪形文、区画内には横位の沈線	ナデ	外－橙、内－褐灰	密（白・黒・赤色粒）	－	
262ヒット	208図	9	縄文	深鉢	－・－・－	胴	輪積成形痕と指頭圧痕を地文としている、区画隆線脇にキャタピラ文、三角押文による波状押引文を施す	ナデ	灰褐～褐灰	密（白・黒・赤色粒、石英、雲母）	－	
263ヒット	208図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	三角押文	ナデ	黒褐	やや密（白・黒色粒、石英）	－	
263ヒット	208図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位沈線、隆帯に浅い刻み	ナデ	暗赤褐	密（白・黒色粒、雲母）	－	
264ヒット	208図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	キャタピラ文、斜位沈線	ナデ	外－鈍い褐～褐灰、内－橙	密（白・黒色粒）	－	
265ヒット	208図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	渦巻状突起、キャタピラ文	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
265ヒット	208図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	縄文地文、隆線	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒、石英）	－	
271ヒット	208図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線文および縄文	ナデ	明赤褐	密（白色粒、石英）	－	
271ヒット	208図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線文および縄文	ナデ	鈍い橙	密（白色粒、石英）	－	
272ヒット	208図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	三角押引文	ナデ	橙	密（白・黒色粒）	－	
272ヒット	208図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	角押文、三角押文	ナデ	明赤褐～黒褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
272ヒット	208図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	羽状縄文	ナデ	橙～褐灰	密（白・黒色粒、雲母）	－	
273ヒット	208図	1	縄文	深鉢	－・－・－	把手	縦位沈線、三角押文	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒）	－	
273ヒット	208図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	三角押文	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
273ヒット	208図	3	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	縄文地文	ナデ	外－明赤褐、内－鈍い褐	密（白・黒色粒、石英）	－	
273ヒット	208図	4	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	三角区画文、玉抱三叉文	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒）	－	
273ヒット	208図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角押文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、石英）	－	
273ヒット	208図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角押文、玉抱三叉文	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒、雲母）	－	
273ヒット	208図	7	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角区画文、三角押文	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
277ヒット	209図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	横位角押文	ナデ	外－橙～明赤褐、内－橙～黒	密（白・黒色粒、角閃石）	－	
277ヒット	209図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆線、三角押文、胜胡三叉文	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒）	－	
278ヒット	209図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角押文	ナデ	褐灰	密（白・黒色粒、雲母）	－	
280ヒット	209図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	ナデ、無文	ナデ	橙	密（白・黒色粒）	－	
280ヒット	209図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線	ナデ	外－鈍い橙、内－褐灰	密（白・黒色粒）	－	
280ヒット	209図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆線刻み、キャタピラ文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	－	
280ヒット	209図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－橙、内－黒～鈍い黄橙	密（白・黒色粒、石英）	－	
281ヒット	209図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線文	ナデ	外－橙、内－褐灰	密（白・黒色粒）	－	
282ヒット	209図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	口縁部に並行する沈線を施した隆線	ナデ	鈍い橙～褐灰	密（白・黒色粒）	－	
282ヒット	209図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	キャタピラ文、三角押文、波状沈線文	ナデ	外－鈍い橙、内－鈍い橙～褐灰	密（白・黒色粒）	－	
282ヒット	209図	3	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	縄文地文、胜消縄文による横帯	ナデ	外－橙、内－鈍い黄橙～褐灰	密（白・赤色粒）	－	
282ヒット	209図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線による区画、隆線脇に刻み	ナデ	明黄褐	密（白色粒、石英）	－	
282ヒット	209図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線による区画、隆線上に爪形文	ナデ	外－褐灰、内－灰黄褐～褐灰	密（白・黒色粒、角閃石）	－	
282ヒット	209図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線による縦位区画文、区画内に縄文	ナデ	橙～鈍い橙	密（白・黒色粒、石英、雲母）	－	
282ヒット	209図	7	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆線脇に角押文	ナデ	鈍い黄褐	密（白・黒色粒）	－	
283ヒット	209図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、半隆起線による区画、一部隆線上に爪形文、隆線脇に刻みを施す	ナデ	鈍い橙	密（赤色粒、長石、輝石、角閃石、安山岩－多）	－	
284ヒット	209図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	「く」の字状に屈折する口縁、縄文地文、横位・斜位の沈線	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒、石英、雲母）	－	

表4-（20） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
284ピット	209図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、横位の沈線	ナデ	鈍い黄橙～灰黄褐	密（黒色粒）	－	
285ピット	209図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角押文	ナデ	明赤褐	密（赤色粒、輝石、角閃石、長石、石英）	－	
285ピット	209図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	赤褐	密（黒・赤色粒、長石、石英、輝石、雲母－多）	－	
285ピット	209図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆線	ナデ	鈍い赤褐	密（赤色粒、長石、石英）	－	
288ピット	209図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	縄文地文、刻みをもつ浮線文	ナデ	鈍い赤褐	密（黒・赤色粒）	－	
288ピット	209図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	縄文地文	ナデ	暗褐	密（黒・赤色粒、角閃石、長石－多）	－	
288ピット	209図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	隆線脇に三角押文	ナデ	明赤褐～鈍い赤褐	密（赤色粒、長石、輝石、角閃石）	－	
288ピット	209図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線による縦位区画、区画内に縄文	ナデ	鈍い赤褐	密（黒・赤色粒、長石、輝石、石英－多、雲母）	－	
288ピット	209図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線文および縄文	ナデ	鈍い赤褐	密（黒・赤色粒、石英－多、長石、輝石、雲母）	－	
288ピット	209図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位の沈線	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石）	－	
288ピット	209図	7	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	鈍い黄橙	密（赤色粒、長石）	－	
288ピット	209図	8	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	鈍い赤褐	密（黒・赤色粒）	－	
288ピット	209図	9	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石、輝石、安山岩－多）	－	
289ピット	210図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	ナデ、無文	ナデ	黒褐	密（黒・赤色粒－多）	－	
289ピット	210図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴	三角区画文、三角押文、波状沈線文	ナデ	鈍い褐	密（赤色粒、長石、輝石、石英、角閃石－多）	－	
289ピット	210図	3	縄文	深鉢	－・10.8・－	底	ナデ	ナデ	橙～鈍い橙	密（黒・赤色粒、長石）	－	
289ピット	210図	4	縄文	深鉢	－・11.0・－	底	ナデ	ナデ	明赤褐	密（黒・赤色粒、長石）	－	
293ピット	210図	1	縄文	深鉢	－・（9.6）・－	胴～底	縄文を地文とし、波状沈線で縁取った磨消縄文の横帯を2単位、刻みを施す短隆帯を配する	ナデ	灰黄褐～鈍い黄橙～橙	密（赤色粒、長石、石英、輝石、安山岩）	－	
293ピット	210図	2	縄文	深鉢	－・－・－	胴～底	半隆起線、キャタピラ文、波状沈線文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒－多、長石、雲母）	－	
1溝	218図	1	土師器	甕	（25.0）・－・－	口縁～	横ナデ、ハケメ	ハケメ	鈍い赤褐	やや密（黒・赤色粒、長石、石英、雲母）	－	
2溝	218図	1	黒色土器	坏	11.8・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	外－鈍い橙、内－黒	密（白・黒・赤色粒）	－	
2溝	218図	2	黒色土器	坏	13.0・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	外－鈍い黒褐、内－黒	密（白・黒・赤色粒）	－	
2溝	218図	3	土師器	甕	24.0・－・－	口縁～	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	明赤褐～鈍い赤褐、黒褐～鈍い赤褐	密（白・黒・赤色粒、雲母）	－	
2溝	218図	4	灰釉陶器	長頸瓶	－・－・－	頸	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	密（白・黒色粒）	－	
5溝	218図	1	縄文	深鉢	－・－・－	胴	刻みをもつ棒状貼付文	ナデ	灰褐	密（黒・赤色粒、石英、安山岩、長石－多）	－	
7溝	218図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	横位、斜位の沈線、孔	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒、長石）	－	
7溝	218図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	矢羽状沈線、刻みをもつ棒状貼付文	ナデ	鈍い橙	密（赤色粒、輝石－多、角閃石－多）	－	
7溝	218図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	矢羽状沈線、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い黄褐	やや密（黒・赤色粒、角閃石、長石）	－	
7溝	218図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、横位沈線	ナデ	鈍い赤褐	密（赤色粒、長石、石英、輝石）	－	
7溝	218図	5	縄文	深鉢	－・－・－	胴～底	横位・斜位の沈線、棒状貼付文	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石、石英、安山岩）	－	
7溝	218図	6	縄文	深鉢	－・－・－	口縁把手	渦巻状把手、口唇部に刻み	ナデ	橙	密（赤色粒、長石、安山岩、輝石）	－	
7溝	218図	7	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	棒状小突起を付け、口縁部に半截竹管による連続刺突文を施す、突起の背面には施刻三叉文を施す	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒、長石）	－	
7溝	218図	8	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	隆線およびその脇に沈線	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒、長石）	－	
7溝	218図	9	縄文	深鉢？	－・－・－	口縁	小突起あり	ナデ	明赤褐	密（長石、輝石、雲母）	－	
7溝	218図	10	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縦位沈線	ナデ	鈍い黄橙	密（黒・赤色粒、長石、雲母）	－	
7溝	218図	11	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	三角区画文、隆線脇に三角押文	ナデ	鈍い橙	やや密（白・黒・赤色粒、輝石）	－	
7溝	218図	12	縄文	深鉢	－・－・－	口縁	縄文地文	ナデ	浅黄橙	密（赤色粒、長石、角閃石、安山岩、輝石、雲母）	－	
7溝	218図	13	縄文	深鉢	－・－・－	胴	半隆起線による三角区画、その脇に刻み、内部に施刻三叉文を施す	ナデ	橙	密（黒・赤色粒、長石、石英、輝石）	－	
11溝	218図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	矢羽状沈線、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い褐	密（赤色粒、長石、角閃石、輝石）	－	
11溝	218図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	縄文、隆線	ナデ	鈍い褐	密（赤色粒、長石、輝石、安山岩）	－	
11溝	218図	3	縄文	深鉢	14.0・－・－	口縁～	輪積成形痕と指頭圧痕を地文化し、口縁部1段目の輪積下部に刻みを施す	ナデ	鈍い黄橙	密（赤色粒、長石、輝石、角閃石）	－	
11溝	218図	4	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	横位の沈線、2条の波状沈線文	ナデ	鈍い褐	密（赤色粒、長石、輝石－多、角閃石－多、小礫）	－	
11溝	218図	5	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	ナデ、無文	ナデ	鈍い赤褐	やや密（黒・赤色粒、長石）	－	整形は粗雑
11溝	218図	6	縄文	深鉢	－・－・－	胴	楕円区画文、隆線脇にキャタピラ文、波状沈線文を施す、胴部に波状沈線が垂下する	ナデ	鈍い黄褐	密（長石、輝石、角閃石、安山岩）	－	
11溝	219図	8	灰釉陶器	皿？	－・（5.4）・－	底	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	－	
11溝	219図	9	土師器	甕	27.8・－・－	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケナデ、横ナデ	橙～鈍い橙	密（赤色粒、石英、長石、輝石、雲母）	－	
11溝	219図	10	灰釉陶器	瓶	－・－・－	胴	ナデ	ナデ	灰オリーブ～灰	密（白・黒色粒）	－	
11溝	219図	11	手づくね	坏	－・－・－	体～底	ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（赤色粒、赤色の小礫、長石、石英）	－	13世紀中葉以降か
11溝	219図	12	陶器	甕	－・－・－	体	ナデ	ナデ	鈍い褐	密（黒・赤色粒、石英、長石－多）	－	
11溝	219図	13	陶器	甕	－・－・－	体	タタキ	ナデ	黒	密（白・黒・赤色粒）	－	押し印あり
12溝	219図	1	縄文	深鉢	19.4・－・－	口縁～胴	縄文地文	ナデ	鈍い黄褐	密（赤色粒、長石、安山岩、輝石）	－	
12溝	219図	2	縄文	深鉢	－・（9.4）・－	底	ナデ、底部網代痕	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒、長石）	－	
13溝	220図	1	黒色土器	－	－・6.0・－	高台	ロクロナデ、付高台	ナデ	外－橙、内－黒	密（白・黒・赤色粒）	－	
16溝	220図	1	縄文	－	－・9.8・－	体～底	格円区画文、隆線脇に三角押文	ナデ	橙	密（赤色粒、長石、安山岩）	－	
17溝	220図	1	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁～	沈線、半円状に三角押文	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒、長石、石英、雲母）	－	
17溝	220図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁把手	重三角区画文、三角押文	ナデ	橙～灰黄褐	密（黒・赤色粒、長石－多、安山岩）	－	
17溝	220図	3	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縦位沈線、キャタピラ文	ナデ	鈍い赤褐	密（黒・赤色粒、長石、輝石、雲母）	－	
17溝	220図	4	縄文	深鉢	－・－・－	胴～底	ナデ	ナデ	鈍い赤褐	密（赤色粒、長石、輝石、安山岩）	－	
17溝	220図	5	縄文	浅鉢	－・－・－	胴～底	縄文地文	ナデ	明赤褐	密（赤色粒、安山岩－多、輝石、長石）	－	
17溝	220図	6	縄文	浅鉢	－・－・－	胴～底	縄文地文	ナデ	鈍い橙	密（赤色粒、長石、安山岩、輝石）	－	
17溝	220図	7	黒色土器	坏	13.0・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ、ミガキ	外－鈍い黄橙、内－黒	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	体部外面墨書
17溝	220図	8	土師器	甕	（25.6）・－・－	口縁～	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	明赤褐	密（赤色粒、長石、輝石、安山岩、雲母）	－	
17溝	220図	9	磁器	椀	－・4.6・－	体～底	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	密（黒色粒）	－	
18溝	220図	1	灰釉陶器	－	－・－・－	底	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	密（白・黒色粒）	－	
旧河道	223図	1	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	沈線文	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒）	－	
旧河道	223図	2	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	沈線文	ナデ	鈍い褐～褐灰	密（白・黒色粒）	－	

表4-（21） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
旧河道	223図	3	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	縄文地文	ナデ	鈍い褐～鈍い橙	密（白色粒、雲母）	—	
旧河道	223図	4	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	縄文地文	ナデ	鈍い橙	密（白色粒、雲母）	—	
旧河道	223図	5	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	縄文地文	ナデ	鈍い赤褐	やや密（白・赤色粒）	—	
旧河道	223図	6	縄文	深鉢	—・—・—	胴	縄文地文、刻みをもつ浮線文	ナデ	外－鈍い橙、内－褐灰	密（白色粒）	—	
旧河道	223図	7	縄文	深鉢	—・—・—	胴	刺突を施す浮線文	ナデ	明赤褐	密（白色粒）	—	
旧河道	223図	8	縄文	深鉢	—・—・—	胴	沈線文	ナデ	鈍い赤褐	密（白色粒）	—	
旧河道	223図	9	縄文	深鉢	—・—・—	胴	縄文地文、浮線文	ナデ	橙	密（白・赤色粒）	—	
旧河道	223図	10	縄文	深鉢	—・—・—	胴	縄文地文、沈線文	ナデ	褐	密（白色粒）	—	
旧河道	223図	11	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～胴	三角押文、頸部以外に縄文	ナデ	赤褐	密（白・黒色粒、角閃石）	—	
旧河道	223図	12	縄文	深鉢	—・—・—	口縁	眼鏡状把手、爪形文、角押文、三角押文、陰刻三叉文を施す	ナデ	褐灰	密（白・黒色粒）	—	
旧河道	223図	13	縄文	深鉢	—・—・—	口縁	口唇部刻み、沈線を施したコブ状貼付文、三角押文	ナデ	橙	密（白色粒－多、黒・赤色粒、石英）	—	
旧河道	223図	14	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	三角押文による楕円区画文、角押文	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒）	—	
旧河道	223図	15	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	半隆起線、キャタピラ文、刺突文	ナデ	鈍い黄橙～黒	密（黒・赤色粒）	—	
旧河道	223図	16	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	半隆起線による区画、キャタピラ文	ナデ	褐	密（白・黒色粒）	—	
旧河道	223図	17	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	ナデ、無文	ナデ	赤褐	密（白・黒色粒）	—	
旧河道	223図	18	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	縄文地文、波状沈線文、磨消縄文、刺突文でモチーフを描く	ナデ	外－鈍い赤褐、内－黒褐	密（白・黒色粒）	—	
旧河道	223図	19	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	縄文地文、沈線、波状沈線文	ナデ	鈍い褐～褐灰	密（白色粒）	—	
旧河道	223図	20	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	縄文地文、低い隆線貼付	ナデ	褐灰～黒	密（黒色粒）	—	
旧河道	223図	21	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	三角押文、陰刻三叉文	ナデ	赤褐	密（白・黒色粒）	—	
旧河道	223図	22	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	環状把手、キャタピラ文、三角押文	ナデ	外－鈍い褐、内－黒褐	やや粗（白・黒色粒）	—	
旧河道	223図	23	縄文	浅鉢	—・—・—	口縁～	口縁部にキャタピラ文、三角押文、刺突文	ナデ	明赤褐	密（白色粒、長石、雲母）	—	
旧河道	223図	24	縄文	鍔付土器？	—・—・—	胴	隆線による横Ｓ字状モチーフ	ナデ	赤褐	密（白色粒、雲母）	—	全体によく磨かれ、丁寧なつくり
旧河道	223図	25	縄文	深鉢	—・—・—	胴	縄文地文	ナデ	外－明赤褐、内－鈍い褐から黒褐	密（白色粒）	—	
旧河道	223図	26	縄文	深鉢	—・—・—	胴	縄文地文	ナデ	鈍い褐	やや粗（白・黒色粒）	—	
旧河道	223図	27	縄文	深鉢	—・—・—	胴	縄文地文、浮線文	ナデ	浅黄橙	密（白色粒）	—	
旧河道	223図	28	縄文	深鉢	—・—・—	胴	沈線文	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒）	—	
旧河道	223図	29	縄文	深鉢	—・—・—	胴	沈線文	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒）	—	
旧河道	223図	30	縄文	深鉢	—・—・—	胴～底	縄文地文	ナデ	外－明赤褐、内－黒	密（白色粒）	—	
旧河道	223図	32	弥生	深鉢	—・—・—	口縁～	櫛描波状文	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒）	—	
旧河道	224図	33	土師質	皿	(10.4)・(6.4)・2.4	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	30	
旧河道	224図	34	土師器	皿	(13.6)・—・—	口縁～体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	15	
旧河道	224図	35	土師器	坏	(14.0)・—・—	口縁～体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	鈍い黄橙	密（黒・赤色粒）	10	
旧河道	224図	36	土師器	坏	—・(7.2)・—	体～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	20	
旧河道	224図	37	黒色土器	坏	—・(6.4)・—	体～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	明褐	密（白・黒色粒、角閃石）	25	
旧河道	224図	38	土師器	坏	—・(7.4)・—	体～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	30	黒色土器系
旧河道	224図	39	黒色土器	高台坏	—・7.2・—	体～底	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒、雲母）	50	
旧河道	224図	40	灰釉陶器	皿	(8.0)・(5.0)・1.55	口縁～底	ロクロナデ、底部回転糸切り未調整	ロクロナデ	黄灰	密（白・黒色粒）	40	
旧河道	224図	41	灰釉陶器	椀	—・(7.8)・—	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	黄灰	密（白・黒色粒）	10	
旧河道	224図	42	灰釉陶器	皿？	—・(8.0)・—	体～底	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	10	
旧河道	224図	43	灰釉陶器	—	—・(6.8)・—	底	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	密（白・黒・赤色粒）	10	
旧河道	224図	44	土師器	甕	(31.0)・—・—	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	灰褐	密（白・黒色粒）	40	
旧河道	224図	45	土師器	羽釜	(21.0)・—・—	口縁～胴	ハケメ、横ナデ	ハケメ、横ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒）	—	
旧河道	224図	46	土師器	羽釜	—・—・—	把手	ナデ	—	赤褐	密（白・黒・赤色粒、雲母）	—	
旧河道	224図	47	須恵器	壺	—・—・—	胴	ロクロナデ	ロクロナデ	褐灰	密（白・黒色粒）	5	
旧河道	224図	48	須恵器	突帯付四耳壺	—・—・—	胴	ロクロナデ、タタキ	ロクロナデ	褐灰	密（白・黒色粒）	5	
旧河道	224図	49	須恵器	甕又は壺	—・—・—	胴	ロクロナデ　回転ヘラケズリ	ナデ	黄灰	密（白・黒色粒）	5	
旧河道	224図	50	須恵器	壺	—・(16.2)・—	胴～底	ロクロナデ	ロクロナデ	褐灰	密（白・黒色粒）	5	
旧河道	224図	51	須恵器	壺	—・(10.0)・—	胴～底	ナデ、タタキ目	ナデ	黄灰	密（白・黒色粒）	5	
旧河道	224図	52	須恵器	壺	—・—・—	胴	タタキ目	ナデ	黄灰	密（白・黒色粒）	—	
旧河道	224図	53	須恵器	甕又は壺	—・—・—	胴	タタキ目	ナデ	黄灰	密（白・黒色粒）	—	
旧河道	224図	54	須恵器	甕又は壺	—・—・—	胴	タタキ目	青海波文	褐灰	密（白・黒色粒）	5	
旧河道	224図	55	土師質	内耳土器	(26.0)・—・—	口縁～	ナデ、指頭圧痕	ナデ	明赤褐～鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	—	
旧河道	224図	56	瓦質	焙烙	(31.0)・(32.0)・3.8	口縁～	ロクロナデ	ロクロナデ	明褐	密（白・黒・赤色粒）	—	
旧河道	224図	57	瓦質	焙烙	(24.6)・—・—	口縁～	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い橙	密（白・黒・赤色粒）	—	
旧河道	224図	58	瓦質	焙烙	—・(30.0)・—	胴～底	ロクロナデ	ロクロナデ	橙	密（白・黒色粒）	—	
風倒木痕	228図	1	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	三角区画文、隆線脇に三角押文	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒）	—	
風倒木痕	228図	2	縄文	深鉢	—・—・—	胴	楕円区画文と重三角区画文か？隆線脇に三角押文を施す	ナデ	褐灰	密（白・黒色粒、雲母）	—	
遺構外	230図	1	縄文	深鉢	—・—・—	胴	楕円押型文	ナデ	鈍い黄橙	密（白色粒、雲母）	—	
遺構外	230図	2	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	縄文地文、横位・斜位の沈線	ナデ	明褐	密（白・黒色粒）	—	
遺構外	230図	3	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	縄文地文、横位・弧状沈線	ナデ	鈍い赤褐	密（白色粒、雲母）	—	
遺構外	230図	4	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	刻みをもつ浮線文	ナデ	鈍い赤褐	密（赤色粒、長石、石英、輝石）	—	
遺構外	230図	5	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	縄文地文	ナデ	鈍い褐	密（白・黒色粒、雲母）	—	
遺構外	230図	6	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	縄文地文	ナデ	鈍い褐	やや密（白色粒－多・黒色粒、石英、雲母）	—	
遺構外	230図	7	縄文	深鉢	—・—・—	胴	縄文地文、横位沈線	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	—	
遺構外	230図	8	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	縄文地文	ナデ	橙	やや密（白・黒・赤色粒）	—	
遺構外	230図	9	縄文	深鉢	—・—・—	口縁～	浮線文、刺突文	ナデ	外－赤褐、内－赤褐～黒褐	やや密（白色粒、雲母）	—	
遺構外	230図	10	縄文	深鉢	—・—・—	胴	刻みをもつ浮線文	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒、雲母）	—	
遺構外	230図	11	縄文	深鉢	—・—・—	胴	浮線文、縄文	ナデ	外－鈍い黄橙、内－黒褐	やや密（白・黒・赤色粒、石英）	—	
遺構外	230図	12	縄文	深鉢	—・—・—	胴	沈線文	ナデ	鈍い黄褐	やや密（白・黒色粒、石英、角閃石）	—	
遺構外	230図	13	縄文	深鉢	—・—・—	胴	刻みをもつ浮線文	ナデ	褐	やや粗（白・黒色粒）	—	

表4-（22） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
遺構外	230図	14	縄文	深鉢	－・－・－	胴	刻みをもつ浮線文	ナデ	褐	やや粗（白・黒色粒、雲母）	－	
遺構外	230図	15	縄文	深鉢	－・－・－	胴	浮線文、刺突文	ナデ	外－明赤褐、内－赤褐	やや密（白色粒）	－	
遺構外	230図	16	縄文	深鉢	－・－・－	胴	刻みをもつ浮線文	ナデ	褐	密（黒・赤色粒、石英、雲母）	－	
遺構外	230図	17	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、沈線	ナデ	灰褐	やや密（白色粒、黒色粒、雲母）	－	
遺構外	230図	18	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	明黄褐	やや粗（白・黒・赤色粒）	－	
遺構外	230図	19	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、刻みをもつ浮線文	ナデ	鈍い黄褐	やや密（白色粒）	－	
遺構外	230図	20	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位・斜位の沈線	ナデ	外－鈍い黄褐、内－明赤褐	やや粗（白、黒色粒）	－	
遺構外	230図	21	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位沈線	ナデ	鈍い褐	密（白色粒、石英、黒雲母）	－	
遺構外	230図	22	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	半截竹管文、沈線、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い橙	密（白色粒、石英、黒雲母）	－	
遺構外	230図	23	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	沈線、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い黄橙	密（白色粒、角閃石、黒雲母）	－	
遺構外	230図	24	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	沈線、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い黄橙	密（白色粒、黒雲母）	－	
遺構外	230図	25	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	半截竹管文、沈線、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い褐	密（白色粒、黒雲母）	－	
遺構外	230図	26	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	半截竹管文、沈線、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い橙	密（白・赤色粒、黒雲母）	－	
遺構外	230図	27	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	沈線、棒状貼付文	ナデ	明黄褐	やや密（白色粒）	－	
遺構外	230図	28	縄文	深鉢	－・－・－	胴	平行沈線	ナデ	明黄褐	密（白色粒、長石）	－	
遺構外	230図	29	縄文	深鉢	－・－・－	胴	弧状沈線	ナデ	褐	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石）	－	
遺構外	230図	30	縄文	深鉢	－・－・－	胴	結節浮線文、沈線、ボタン状貼付文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	－	
遺構外	230図	31	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線	ナデ	橙	密（白・黒色粒）	－	
遺構外	230図	32	縄文	深鉢	－・－・－	胴	横位・斜位のヘラ切沈線文、半隆起線状を呈する	ナデ	赤褐	密（白・黒色粒、石英）	－	
遺構外	230図	33	縄文	深鉢	－・－・－	胴	渦巻状の結節浮線文	ナデ	灰黄褐	密（白・黒色粒）	－	
遺構外	230図	34	縄文	深鉢	－・（9.0）・－	胴～底	平行沈線	ナデ	橙	密（白・黒色粒、石英）	－	
遺構外	230図	35	縄文	深鉢	－・（18.0）・－	胴～底	棒状・ボタン状貼付文、矢羽状沈線	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒）	－	
遺構外	230図	36	縄文	深鉢	－・－・－	眼鏡状把手	キャタピラ文、円形沈線文	ナデ	鈍い赤褐	密（白・黒色粒、雲母－多）	－	
遺構外	230図	37	縄文	深鉢	－・－・－	鉤状把手	三角押文	ナデ	鈍い赤褐	密（白・黒色粒、黒雲母、雲母）	－	
遺構外	230図	38	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	環状小把手、キャタピラ文、波状沈線文	ナデ	鈍い橙	密（白色粒、石英、角閃石、黒雲母）	－	
遺構外	230図	39	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	隆線の脇を三角押文	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒、角閃石、石英、スコリア、雲母、黒雲母－多）	－	
遺構外	230図	40	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	渦巻状把手、三角区画文、三角押文	ナデ	鈍い黄褐～黄褐	粗（白・黒色粒、角閃石）	－	
遺構外	230図	41	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	半隆起線による区画　玉抱三叉文、区画内に刻みと縄文	ナデ	明赤褐	密（白・黒色粒、黒雲母）	－	
遺構外	230図	42	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	ナデ、無文	ナデ	鈍い黄橙	密（白・黒色粒）	－	
遺構外	230図	43	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～胴	縄文地文、円形磨消縄文	ナデ	鈍い褐	密（黒色粒、石英、長石、角閃石、雲母）	－	
遺構外	230図	44	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縦位と横位の沈線	ナデ	灰褐	密（白色粒－多、雲母）	－	半出三類A系
遺構外	231図	45	縄文	深鉢	－・－・－	胴	波状沈線文	ナデ	明黄褐	やや粗（白・黒色粒、角閃石）	－	
遺構外	231図	46	縄文	深鉢	－・－・－	胴	沈線文	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒、角閃石）	－	
遺構外	231図	47	縄文	深鉢	－・－・－	胴	逆三角区画文、隆線脇2条の三角押文	ナデ	鈍い褐～褐灰	密（白・赤色粒、黒雲母）	－	
遺構外	231図	48	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒、長石、石英、雲母）	－	
遺構外	231図	49	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	鈍い橙	密（黒・赤色粒、スコリア）	－	
遺構外	231図	50	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	橙	粗（白・黒色粒）	－	
遺構外	231図	51	縄文	深鉢	－・－・－	胴	粘土板貼付による抽象文、波状沈線、キャタピラ文、円形連続刺突文	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒、石英、角閃石）	－	
遺構外	231図	52	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文	ナデ	外－鈍い褐、内－黒褐	やや密（白色粒、角閃石）	－	
遺構外	231図	53	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、刻みをもつ浮線文	ナデ	明赤褐	粗（白・黒色粒）	－	
遺構外	231図	54	縄文	深鉢	－・－・－	胴	磨消縄文と波状沈線文	ナデ	橙	やや密（白・黒色粒）	－	
遺構外	231図	55	縄文	深鉢	－・－・－	胴	縄文地文、沈線	ナデ	黒褐	やや粗（白・黒色粒、雲母）	－	
遺構外	231図	56	縄文	浅鉢	－・－・－	口縁～	口唇部に刻み	ナデ	明赤褐	やや密（白・黒・赤色粒）	－	内外面に赤色塗彩の痕跡あり
遺構外	231図	57	縄文	深鉢	－・－・－	口縁～	弧状沈線	ナデ	鈍い橙	密（白・黒・赤色粒）	－	
遺構外	231図	58	縄文	深鉢？	－・8.0・－	胴～底	縄文地文、底部木葉痕	ナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒、石英）	－	
遺構外	231図	59	縄文	深鉢	－・（7.2）・－	胴～底	半隆起線による縦位区画、一部縄文を施す	ナデ	橙	密（白・黒・赤色粒、黒雲母）	－	
遺構外	231図	60	縄文	深鉢	－・（6.4）・－	胴～底	ナデ、無文	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒）	－	
遺構外	231図	61	縄文	深鉢	－・（5.6）・－	胴～底	縄文地文	ナデ	鈍い橙	密（白・黒色粒）	－	
遺構外	231図	62	縄文	深鉢	－・（10.0）・－	胴～底	沈線	ナデ	明赤褐	密（白色粒、石英、角閃石、黒雲母）	－	
遺構外	231図	63	縄文	深鉢	－・（10.6）・－	胴～底	縦位沈線垂下	ナデ	鈍い赤褐	密（白・黒色粒、雲母）	－	
遺構外	231図	64	縄文	有孔土器	－・－・－・－	口縁～	ナデ、無文	ナデ	灰黄褐	やや密（白・赤色粒、雲母、小礫）	－	3箇所孔の痕跡がみられる
遺構外	231図	68	土師質	皿	（10.6）・（5.8）・2.95	口縁～底	ロクロナデ、底部糸切り未調整	ロクロナデ	橙	密（白・黒・赤色粒）	35	油煙付着
遺構外	231図	69	土師質	皿	－・（5.4）・－	体～底	ロクロナデ、底部糸切り未調整	ロクロナデ	橙	密（白・黒色粒）	－	
遺構外	231図	70	土師器	坏	－・4.8・－	体～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	橙	密（白・黒色粒）	－	
遺構外	231図	71	土師器	坏	－・4.3・－	体～底	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	30	
遺構外	231図	72	黒色土器	坏	－・（7.0）・－	体～底	ロクロナデ、底部糸切り未調整	ロクロナデ	外－鈍い黄褐、内－褐灰	密（白・黒色粒）	5	
遺構外	231図	73	黒色土器	坏	－・（6.0）・－	体～底	ロクロナデ、底部糸切り未調整	ロクロナデ	明褐	密（白・黒・赤色粒）	20	
遺構外	231図	74	黒色土器	高台坏又は皿	－・（7.0）・－	体～底	ロクロナデ、付高台	ロクロナデ、ミガキ	明赤褐	密（白・黒色粒）	5	
遺構外	231図	75	土師器	坏	－・－・－	体	ロクロナデ、手持ち斜めヘラケズリ	ロクロナデ	赤褐	密（白・黒・赤色粒）	5	体部外面墨書
遺構外	232図	76	須恵器	坏	（12.0）・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	灰	密（白・黒色粒）	－	
遺構外	232図	77	灰釉陶器	椀	（7.6）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰白	密（白・黒色粒）	20	墨形木良の備前を削った痕跡あり
遺構外	232図	78	灰釉陶器	坏	（16.0）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰白	密（白・黒色粒）	5	
遺構外	232図	79	灰釉陶器	坏	（14.1）・－・－	口縁～	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白	緻密	3	
遺構外	232図	80	灰釉陶器	椀	（16.0）・－・－	口縁～体	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ	外－灰白、内－浅黄	密（白・黒色粒）	5	
遺構外	232図	81	灰釉陶器	椀	－・（7.1）・－	体～底	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	灰黄	密（白・黒色粒）	15	重焼きによる高台痕あり
遺構外	232図	82	灰釉陶器	長頸瓶	（12.0）・－・－	口縁～頸	ロクロナデ	ロクロナデ	黄灰	密（白・黒色粒）	5	
遺構外	232図	83	土師器	竈形土器	－・－・－	口縁～胴	横ナデ、ハケメ	ハケメ	褐	粗（白・黒色粒、雲母）	－	
遺構外	232図	84	磁器口縁	皿	（6.0）・－・－	口縁～体	紅、型押	－	灰白	密	20	
遺構外	232図	85	磁器口縁	皿	（4.0）・（9.0）・1.45	口縁～底	紅、型押	－	灰白	密	20	

表4-（23） 土器観察表

出土地点	図版番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ()＝復元値、[]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	残存状況(%)	備考
遺構外	232図	86	瓦質	焙烙	(25.4) ・ (26.0) ・4.1	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ	黒褐	密（白・黒・赤色粒）	－	内耳痕あり
遺構外	232図	87	瓦質	焙烙	(30.0) ・(30.0) ・4.1	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ	黒褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
遺構外	232図	88	瓦質	焙烙	(32.0) ・ (28.0) ・5.3	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ	黒褐	密（白・黒粒、角閃石）	－	
遺構外	232図	89	瓦質	焙烙	(32.0) ・ (30.0) ・5.35	口縁～底	ロクロナデ	ロクロナデ	黒褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
遺構外	232図	90	瓦質	焙烙	(24.0) ・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	橙	密（白・黒色粒、角閃石）	－	
遺構外	232図	91	瓦質	焙烙	(30.0) ・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	橙	密（白・黒・赤色粒、雲母）	－	
遺構外	232図	92	瓦質	焙烙	(30.0) ・－・－	口縁～体	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い黄褐	密（白・黒色粒）	－	
遺構外	232図	93	瓦質	焙烙	－・ (24.0) ・－	体～底	ロクロナデ	ロクロナデ	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	－	
遺構外	232図	94	瓦質	焙烙	－・ (24.0) ・－	体～底	ロクロナデ	ロクロナデ	黒褐	密（白・黒・赤色粒、雲母）	－	
遺構外	232図	95	瓦質	焙烙	－・ (30.0) ・－	体～底	ロクロナデ	ロクロナデ	灰褐	密（白・黒色粒、雲母）	－	
遺構外	232図	96	瓦質	焙烙	－・ (30.0) ・－	体～底	ロクロナデ	ロクロナデ	黒褐	密（白・黒・赤色粒）	－	

表5 土製品観察表

出土地点	図版番号	番号	分類	法量(cm) 長さ・幅・厚さ（高さ）	整形技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
1竪穴	20図	28	焼成粘土塊	3.2・2.4・2.7	-	明赤褐	密（白・黒・赤色粒）	
20竪穴	87図	73	土偶 胴部	－・2.9・2.8	頭部欠失、角押文にて施文	橙	やや密（白・黒・赤色粒）	円錐形土偶、最低4個以上の乳子をもつ
20竪穴	87図	74	土偶 腕	2.5・1.8・－	－	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	
22竪穴	92図	20	土製円板	3.1・3.0・1.8	表-縄文、裏-ナデ、縄文を地文とする破片で外周は磨られている	明赤褐	やや密（黒色粒、長石、石英、雲母）	
31竪穴	116図	23	焼成粘土柱	10.5・10.0・8.4	－	灰白	やや粗（黒・赤色粒）	
35竪穴	143図	123	ミニチュア土器	1.6・2.4・2.0	ヘラ状工具による斜位の沈線	鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石）	完形
35竪穴	143図	124	ミニチュア土器	3.8・3.3・2.6	外－指頭痕、内－ナデ	鈍い黄橙	やや密（白・黒・赤色粒）	赤色塗彩の痕跡あり
35竪穴	143図	127	土製円板	－・－・－	外-縄文、円形磨消縄文、内-ナデ	外-褐灰、内-鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒、角閃石）	
35竪穴	143図	128	土製円板	－・－・－	外－無文 内-ナデ	鈍い黄橙	やや粗（白・黒・赤色粒）	
35竪穴	144図	129	土偶 頭部	5.0・4.9・4.6	傘型を呈する、沈線により頭頂部、側頭部、後頭部に円文を施し両側頭部および後頭部に貫通孔を施す、顔面は横長の半円形を呈し刻み、刺突によって目、口を表現	鈍い黄橙	密（白・黒・赤色粒）	
35竪穴	144図	130	土偶 胴部	4.5・5.1・2.5	正面に角押文による正中線、丸みを縁取るような対称弧刻文 側面に渦巻文	鈍い褐	密（白・黒・赤色粒）	
35竪穴	144図	131	土偶 腕部～臀部	5.0・4.5・1.6	角押文にて施文	黒褐	密（白・黒・赤色粒）	
35竪穴	144図	132	土偶 脚部	4.0・2.6・－	正面、背面にヘラ状工具による縦位の沈線、木芯痕あり	鈍い橙	やや密（白・黒・赤色粒、角閃石、金雲母）	
35竪穴	144図	133	皿形土製品	15.1・ (8.8) ・4.5	指頭調整、横ナデ、ヘラミガキ	鈍い赤褐	密（白・赤色粒、角閃石）	板状の4つの脚部をもつ
37竪穴	152図	21	土製円板	－・ (6.0) ・－	木葉痕	浅黄橙	やや密（赤色粒、長石、石英、角閃石）	内面黒変
37竪穴	153図	41	土偶 脚部	3.9・－・2.2	木芯痕あり	鈍い黄橙、黒褐	密（白色粒、角閃石）	
47ピット	202図	1	焼成粘土塊	－・－・－	－	淡黄	白・黒・灰・紫・茶・赤色粒）	もろく崩れやすい
55ピット	203図	7	土偶 脚部	5.3・2.9・1.7	－	黒褐	密（白・赤色粒、金雲母）	
150ピット	204図	3	土製円板	5.4・5.0・1.3	－	鈍い赤褐	密（黒・赤色粒、長石、角閃石－多）	底部破片利用
11溝	218図	7	土偶 臀部		－	黒褐	密（白・黒色粒）	
旧河道	223図	31	耳飾	3.0・3.4・2.6	指頭によるナデ	鈍い橙	やや密（白・黒・赤色粒）	A23B8グリッド
遺構外	231図	65	焼成粘土塊	3.8・2.5・1.7	－	鈍い黄橙	やや粗（黒・赤色粒）	
遺構外	231図	66	耳飾	－・2.0・1.8	ナデ、管状	鈍い黄橙	やや密（白・黒色粒）	A21B14グリッド
遺構外	231図	67	土偶 頭部	2.7・3.1・2.6	逆三角形に近い顔面、角押文で目、刺突で鼻・口を表現	鈍い橙	密（白・黒・赤色粒、角閃石）	

表6　金属製品観察表

出土地点	図版番号	番号	分　類	材質	長さ・幅・厚さ（cm）	重量（g）	備　考
3竪穴	30図	50	鉄鏃	鉄	10.75・2.59・1.00	25.8	
3竪穴	30図	51-1	刀子	鉄	5.76・0.6・0.45	4.77	同一個体
		51-2	刀子		4.0・0.6・0.4	1.83	
3竪穴	30図	52	刀子？	鉄	1.7・1.5・0.4	2.31	
9竪穴	46図	4	刀子	鉄	5.9・1.55・0.35	8.75	
14竪穴	65図	21	不明	鉄	5.05・0.6・0.4	2.38	
14竪穴	65図	22	不明	鉄	4.7・0.7・0.67	4.45	
14竪穴	65図	23	不明	鉄	5.1・0.75・0.65	3.56	
23竪穴	95図	35-1	刀子　柄	鉄	3.3・1.3・0.6	4.25	取り上げ時に破損、同一製品
		35-2	刀子　柄		3.05・0.9・0.4	2.07	
		35-3	刀子　柄		4.4・0.6・0.25	2	
		35-4	刀子　柄		3.8・0.8・0.4	2.14	
		35-5	刀子　柄		3.7・0.8・0.4	3.01	
		35-6	刀子　刃		2.2・1.2・0.2	1.27	
		35-7	刀子　柄		2.96・1.05・0.5	3.18	
24竪穴	102図	49	兵庫鎖	鉄	4.1・3.9・0.5	15.01	
37竪穴	154図	79	煙管（吸口部）	鉄	4.5・1.1・0.05	3.92	
34ピット	201図	1	棒状鉄製品	鉄	5.4・0.2・0.2	0.6	
34ピット	201図	2	銭貨（至和元寶）	銅	径2.4・厚0.1	2.9	北宋／初鋳1054年
34ピット	201図	3	銭貨（開元通寶）	銅	径2.5・厚0.1	2.61	南唐／初鋳960年
34ピット	201図	4	銭貨（祥符通寶）	銅	径2.5・厚0.1	2.77	北宋／初鋳1008年
34ピット	201図	5	銭貨（洪武通寶）	銅	径2.3・厚0.15	3.91	明／初鋳1368年
34ピット	201図	6	銭貨（皇宋通寶）	銅	径2.5・厚0.1	2.3	北宋／初鋳1038年
34ピット	201図	7	銭貨（洪武通寶）	銅	径2.5・厚0.1	2.81	明／初鋳1368年、裏文字－（淅）
53ピット	202図	4	銭貨（寛永通寶）	銅	径2.0・厚0.9	1.22	摩滅著しい
53ピット	202図	5	銭貨（不明）	銅	径2.4・厚0.1	2.38	錆著しい
14溝	220図	1	鉄鎌	鉄	3.0・2.75・0.3	4.77	折り返し部
17溝	220図	15	不明	鉄	10.7・3.2・0.75	29.35	T字形を呈する
19溝	220図	1	棒状鉄製品	鉄	3.6・0.45・0.4	1.28	
旧河道	224図	59	不明	鉄	2.35・1.0・0.35	2.44	
旧河道	224図	60	不明	鉄	2.80・2.2・0.3	2.72	
遺構外	232図	97	銭貨（淳熙元寶）	銅	径2.4・厚0.15	2.05	南宋／初鋳1174年、一部欠ける、裏文字－（十四）
遺構外	232図	98	銭貨（寛永通寶）	銅	（径2.5）・（厚1.02）	1.07	1/3残存、A21B14グリッド表採
遺構外	232図	99	鉄鏃（雁又式）	鉄	6.1・0.75・0.6	14.19	表採
遺構外	232図	100	鑓子か？	鉄	6.95・0.7・1.0	26.15	蒲鉾状の断面
遺構外	232図	101	不明	鉄	8.1・1.0・1.0	12.17	

表7-（1） 石器観察表

出土地点	図版	番号	分　類	長さ・幅・厚さ（cm）	重さ（g）	石　材	欠損状況	備　考
1竪穴	20図	29	砥石	11.3・9.2・6.1	442	砂岩	完形	
1竪穴	20図	30	石鏃	1.3・1.5・0.4	0.77	黒曜石	一部欠	
2竪穴	25図	35	砥石	15.4・13.6・11.0	1800	安山岩	半損	
2竪穴	25図	53	石錐	3.0・2.2・0.7	4.64	頁岩	半損	
2竪穴	25図	52	石鏃	2.75・1.6・0.4	1.34	黒曜石	略完形	
2竪穴	25図	54	剥片石器	3.6・2.5・0.65	5.69	黒曜石	略完形	
3竪穴	30図	53	打製石斧	11.1・7.2・3.2	330	ホルンフェルス	半損	
3竪穴	30図	54	石鏃	1.2・0.95・0.35	0.35	黒曜石	半損以上	
3竪穴	30図	55	石鏃	2.4・1.1・0.25	0.53	黒曜石	完形	
4竪穴	33図	27	打製石斧	9.2・5.5・2.1	121	ホルンフェルス	完形	
4竪穴	33図	28	打製石斧	10.2・4.1・1.7	70	頁岩	完形	
5竪穴	36図	4	石匙	2.9・4.1・0.8	13	チャート	半損	
7竪穴	41図	24	石鏃	2.5・0.9・0.4	0.77	黒曜石	半損	
7竪穴	41図	25	剥片石器か	5.4・5.4・1.1	42	砂岩	完形	
11竪穴	49図	9	凹石	13.9・8.3・3.7	328	安山岩	略完形	
12竪穴	57図	40	打製石斧	12.9・5.2・2.2	220	ホルンフェルス	完形	
12竪穴	57図	41	打製石斧	12.9・5.6・1.6	141	砂岩	完形	
12竪穴	57図	42	打製石斧	10.05・4.4・1.2	71	砂岩	完形	
12竪穴	57図	43	打製石斧	10.8・6.3・1.2	120	砂岩	完形	
12竪穴	57図	44	打製石斧	11.25・5.2・1.6	79	砂岩	完形	
12竪穴	57図	45	打製石斧	8.7・5.2・1.4	92	砂岩	半損	
12竪穴	57図	46	打製石斧	6.1・5.3・1.0	49	頁岩	半損以上	
12竪穴	57図	47	打製石斧	8.7・3.7・2.1	70	頁岩	一部欠	
12竪穴	57図	48	剥片石器か	6.4・3.9・0.6	20	ホルンフェルス	半損	
12竪穴	57図	49	剥片石器	5.0・5.3・0.8	25	砂岩	半損以上	石匙か
12竪穴	57図	50	打製石斧	7.5・5.4・0.9	49	砂岩	半損	
12竪穴	57図	51	石匙	2.3・3.5・0.6	3.94	黒曜石	一部欠	
12竪穴	57図	52	石匙	4.6・6.1・0.7	26	頁岩	完形	
12竪穴	57図	53	凹石	9.2・8.0・5.2	441	安山岩	完形	
12竪穴	57図	54	凹石	12.4・9.4・3.7	562	安山岩	完形	
13竪穴	61図	9	打製石斧	11.6・4.7・1.4	94	頁岩	略完形	
13竪穴	61図	10	剥片石器か	9.6・4.9・1.25	75	ホルンフェルス	完形	
13竪穴	61図	11	凹石	10.2・6.2・4.5	319	安山岩	完形	
13竪穴	61図	12	剥片石器	2.6・1.5・0.4	1.74	黒曜石	一部欠	
14竪穴	66図	48	打製石斧	6.8・3.3・1.45	45	頁岩	半損	
14竪穴	66図	49	打製石斧	6.2・3.6・1.0	27	ホルンフェルス	完形	剥片石器か
14竪穴	66図	50	石鏃	2.0・1.5・0.4	1.45	黒曜石	完形	未製品
15竪穴	68図	2	打製石斧	7.1・3.3・1.5	54	砂岩	一部欠	
16竪穴	71図	19	打製石斧	12.9・5.4・2.2	185	砂岩	一部欠	
19竪穴	77図	14	石鏃	1.6・1.1・0.25	0.32	黒曜石	一部欠	
20竪穴	87図	75	打製石斧	14.6・4.9・2.5	208	ホルンフェルス	完形	
20竪穴	87図	76	打製石斧	13.7・5.6・2.3	253	砂岩	完形	
20竪穴	87図	77	打製石斧	12.35・5.0・1.8	146	砂岩	完形	
20竪穴	87図	78	打製石斧	11.4・5.8・1.25	105	頁岩	完形	
20竪穴	87図	79	打製石斧	11.4・5.1・1.5	120	ホルンフェルス	完形	
20竪穴	87図	80	打製石斧	11.6・3.2・1.6	85	砂岩	完形	
20竪穴	87図	81	打製石斧	9.0・4.4・1.75	65	ホルンフェルス	完形	
20竪穴	87図	82	打製石斧	7.8・4.4・1.75	82	ホルンフェルス	完形	
20竪穴	87図	83	打製石斧	7.2・4.8・1.25	47	ホルンフェルス	完形	
20竪穴	87図	84	打製石斧	3.7・6.3・0.6	16	頁岩	完形	
20竪穴	87図	85	打製石斧	9.8・7.4・1.9	157	安山岩	半損	
20竪穴	87図	86	打製石斧	11.8・5.1・1.6	150	ホルンフェルス	一部欠	
20竪穴	87図	87	打製石斧	6.3・5.5・1.4	70	ホルンフェルス	半損以上	
20竪穴	87図	88	打製石斧	5.1・4.5・1.25	44	頁岩	半損以上	
20竪穴	87図	89	打製石斧	6.7・4.7・1.4	51	ホルンフェルス	半損以上	
20竪穴	87図	90	打製石斧	5.4・4.4・1.05	32	ホルンフェルス	半損以上	
20竪穴	87図	91	打製石斧	6.3・4.4・1.4	42	砂岩	半損以上	
20竪穴	87図	92	局部磨製石斧	4.7・3.85・1.0	28	緑色凝灰岩	半損以上	
20竪穴	88図	93	打製石斧	2.6・4.4・1.05	19.5	凝灰岩	半損以上	
20竪穴	88図	94	打製石斧	7.1・4.0・1.1	38	ホルンフェルス	半損以上	
20竪穴	88図	95	剥片石器	4.7・11.45・1.3	78	頁岩	完形	
20竪穴	88図	96	剥片石器	5.7・10.2・1.3	82	ホルンフェルス	完形	
20竪穴	88図	97	剥片石器	5.5・9.0・1.8	98	砂岩	完形	
20竪穴	88図	98	剥片石器	9.2・4.45・0.95	51	ホルンフェルス	完形	
20竪穴	88図	99	剥片石器	4.7・5.4・0.9	34	ホルンフェルス	完形	
20竪穴	88図	100	石錐	1.75・1.1・0.8	1.41	黒曜石	半損以上	未製品
20竪穴	88図	101	凹石	10.0・7.9・3.25	364	安山岩	完形	
20竪穴	88図	102	凹石	10.5・6.8・6.0	630	安山岩	完形	
20竪穴	88図	103	凹石	11.6・7.7・5.4	430	安山岩	完形	
20竪穴	88図	104	凹石	8.3・7.2・5.3	372	安山岩	一部欠	
20竪穴	88図	105	凹石	10.7・9.7・4.4	650	安山岩	半損	
20竪穴	88図	106	凹石	11.4・9.0・4.6	460	安山岩	完形	
20竪穴	88図	107	軽石	6.6・4.7・2.85	33	デイサイト質軽石	完形	用途不明

表7-(2) 石器観察表

出土地点	図版	番号	分類	長さ・幅・厚さ(cm)	重さ(g)	石材	欠損状況	備考
20竪穴	88図	108	石鏃	1.4・1.4・0.45	0.54	黒曜石	完形	
20竪穴	88図	109	石鏃	2.1・1.5・3.5	0.78	黒曜石	完形	
20竪穴	88図	110	石鏃	2.2・1.5・0.35	0.96	黒曜石	完形	
20竪穴	88図	111	石鏃	1.9・1.3・0.4	0.68	黒曜石	完形	
20竪穴	88図	112	石鏃	1.85・1.30・0.35	0.58	黒曜石	完形	
20竪穴	88図	113	石鏃	1.9・1.0・0.25	0.41	黒曜石	完形	
20竪穴	88図	114	石鏃	1.8・1.4・0.3	0.69	黒曜石	一部欠	
20竪穴	88図	115	石鏃	1.95・1.6・0.25	0.81	黒曜石	一部欠	
20竪穴	88図	116	石鏃	2.05・1.2・0.5	0.73	黒曜石	一部欠	
20竪穴	88図	117	石鏃	1.95・1.3・0.25	0.56	黒曜石	一部欠	
20竪穴	88図	118	石鏃	1.7・0.95・0.35	0.67	黒曜石	一部欠	
20竪穴	88図	119	石鏃	1.4・1.5・0.3	0.6	黒曜石	一部欠	
20竪穴	88図	120	石鏃	1.6・1.4・0.4	0.85	黒曜石	完形	未製品
21竪穴	90図	23	凹石	9.6・7.9・4.7	460	安山岩	完形	凹面は4面
21竪穴	90図	24	石鏃	2.7・1.35・0.45	1.36	黒曜石	一部欠	
21竪穴	90図	25	石鏃	2.55・1.3・3.5	0.74	黒曜石	一部欠	
21竪穴	90図	26	石鏃	1.25・1.5・0.25	0.53	黒曜石	半損	
22竪穴	92図	21	石鏃	2.3・2.0・0.5	1.96	黒曜石	一部欠	
22竪穴	92図	22	石匙	4.7・9.7・1.5	81	砂岩	一部欠	打斧を再利用か？
22竪穴	92図	23	石錐	1.65・0.55・0.5	0.36	黒曜石	半損以上	先端部
23竪穴	96図	36	石鏃	1.85・1.2・0.35	0.48	黒曜石	一部欠	
23竪穴	96図	37	打製石斧か	9.2・5.2・1.0	50	砂岩	半損	
23竪穴	96図	38	多孔石	22.3・13.9・8.5	1.63	安山岩	完形	
24竪穴	102図	44	篦編石	10.1・5.9・2.25	122	安山岩	完形	
24竪穴	102図	45	篦編石	11.6・12.2・2.1	290	安山岩	半損	他の石と接合
24竪穴	102図	46	篦編石	8.8・6.3・3.7	240	安山岩	完形	
24竪穴	102図	47	篦編石	12.8・7.5・2.8	290	安山岩	完形	
24竪穴	102図	48	篦編石	11.9・8.95・3.4	315	安山岩	完形	
24竪穴	102図	50	剥片石器か	5.6・4.9・0.9	38	砂岩	半損	石匙の抓み部か
25竪穴	104図	12	石鏃	1.1・1.15・0.25	0.38	黒曜石	完形	
27竪穴	108図	9	打製石斧	5.4・4.6・1.1	41	砂岩	半損以上	
30竪穴	111図	7	石錐	3.8・1.2・0.95	3.6	頁岩	一部欠	
31竪穴	116図	32	打製石斧	8.1・4.8・1.9	80	砂岩	半損	
31竪穴	116図	33	石鏃	2.2・1.4・0.35	1.05	黒曜石	一部欠	未製品
31竪穴	116図	34	石鏃未製品	2.75・1.8・0.65	2.63	黒曜石	完形	未製品
32竪穴	119図	9	石鏃	1.9・1.25・0.3	0.55	黒曜石	完形	
33竪穴	119図	5	石鏃	2.8・1.6・0.3	1.28	黒曜石	一部欠	
34竪穴	121図	21	打製石斧	8.7・4.7・1.4	72	ホルンフェルス	完形	
34竪穴	121図	22	石匙	4.3・5.2・0.5	13	頁岩	一部欠	
35竪穴	145図	151	打製石斧	16.01・5.7・2.55	280	砂岩	完形	
35竪穴	145図	152	打製石斧	14.0・5.9・3.2	281	ホルンフェルス	完形	
35竪穴	145図	153	打製石斧	13.9・5.2・1.9	180	ホルンフェルス	完形	
35竪穴	145図	154	打製石斧	12.35・4.6・2.3	172	頁岩	完形	
35竪穴	145図	155	打製石斧	12.8・5.3・1.5	129	砂岩	完形	
35竪穴	145図	156	打製石斧	12.3・4.4・1.6	107	砂岩	完形	
35竪穴	145図	157	打製石斧	11.8・4.9・2.1	181	砂岩	完形	
35竪穴	145図	158	打製石斧	13.0・4.7・1.25	84	頁岩	完形	
35竪穴	145図	159	打製石斧	11.9・5.7・1.75	147	頁岩	完形	
35竪穴	145図	160	打製石斧	10.8・6.0・1.2	104	頁岩	完形	
35竪穴	145図	161	打製石斧	10.2・4.1・2.8	134	砂岩	完形	
35竪穴	145図	162	打製石斧	9.5・4.2・2.2	160	頁岩	完形	
35竪穴	145図	163	打製石斧	9.7・5.3・1.7	104	砂岩	完形	
35竪穴	145図	164	打製石斧	10.0・4.8・1.25	65	頁岩	完形	
35竪穴	145図	165	打製石斧	7.6・4.3・1.9	83	ホルンフェルス	完形	
35竪穴	145図	166	打製石斧	8.3・2.6・1.0	27	緑色凝灰岩	完形	
35竪穴	145図	167	打製石斧	9.8・4.3・1.25	64	ホルンフェルス	完形	
35竪穴	145図	168	打製石斧	8.8・3.7・1.4	67	緑色凝灰岩	完形	
35竪穴	145図	169	打製石斧	8.9・4.2・0.6	28	頁岩	完形	
35竪穴	145図	170	打製石斧	8.0・3.8・1.0	37	頁岩	完形	
35竪穴	145図	171	打製石斧	8.0・4.3・1.1	43	砂岩	完形	
35竪穴	145図	172	打製石斧	7.2・4.0・1.4	44	砂岩	完形	
35竪穴	145図	173	打製石斧	8.2・5.2・1.6	66	砂岩	完形	
35竪穴	145図	174	打製石斧	7.7・4.9・1.3	64	頁岩	完形	
35竪穴	145図	175	打製石斧	6.9・4.8・1.8	81	砂岩	完形	
35竪穴	145図	176	打製石斧	7.0・4.6・0.9	45	ホルンフェルス	完形	
35竪穴	145図	177	打製石斧	7.9・4.2・1.1	44	頁岩	一部欠	
35竪穴	145図	178	打製石斧	8.0・3.7・2.4	97	緑色凝灰岩	半損	
35竪穴	145図	179	打製石斧	11.8・6.1・1.5	113	ホルンフェルス	半損	
35竪穴	146図	180	打製石斧	9.5・4.9・2.1	133	頁岩	半損	
35竪穴	146図	181	剥片石器か	9.7・5.6・1.8	96	結板岩	半損	
35竪穴	146図	182	打製石斧	8.3・5.3・1.3	77	ホルンフェルス	半損	
35竪穴	146図	183	打製石斧	7.5・5.5・1.7	82	頁岩	半損	
35竪穴	146図	184	打製石斧	8.4・4.9・1.85	109	ホルンフェルス	半損	

表7-（3） 石器観察表

出土地点	図版	番号	分　類	長さ・幅・厚さ（cm）	重さ（g）	石　材	欠損状況	備　考
35竪穴	146図	185	打製石斧	7.85・5.25・2.15	100	砂岩	半損	
35竪穴	146図	186	打製石斧	8.0・4.6・1.7	85	頁岩	半損	
35竪穴	146図	187	打製石斧	7.4・4.4・1.8	78	ホルンフェルス	半損	
35竪穴	146図	188	打製石斧	7.5・4.1・2.4	80	砂岩	半損	
35竪穴	146図	189	打製石斧	7.0・4.95・1.3	53	ホルンフェルス	一部欠	
35竪穴	146図	190	打製石斧	7.0・4.2・1.2	43	砂岩	半損	
35竪穴	146図	191	打製石斧	6.2・3.9・1.25	37	ホルンフェルス	半損	
35竪穴	146図	192	打製石斧	4.3・4.2・0.75	22	ホルンフェルス	半損	
35竪穴	146図	193	打製石斧	6.3・5.4・1.3	57	ホルンフェルス	半損以上	
35竪穴	146図	194	打製石斧	9.75・6.1・2.3	174	砂岩	半損	
35竪穴	146図	195	打製石斧	8.6・4.8・1.8	104	頁岩	一部欠	
35竪穴	146図	196	打製石斧	7.1・5.8・1.7	83	頁岩	半損以上	
35竪穴	146図	197	打製石斧	4.5・6.4・1.35	58	砂岩	半損以上	
35竪穴	146図	198	打製石斧	5.8・4.7・1.1	42	砂岩	半損以上	
35竪穴	146図	199	打製石斧	3.3・4.5・0.7	16	砂岩	半損以上	
35竪穴	146図	200	打製石斧	3.6・5.0・0.6	16	頁岩	半損以上	
35竪穴	146図	201	打製石斧	4.3・5.5・1.4	54	頁岩	半損以上	
35竪穴	146図	202	打製石斧	6.8・4.0・2.25	67	ホルンフェルス	半損以上	
35竪穴	146図	203	打製石斧	8.1・5.5・1.25	74	ホルンフェルス	完形	
35竪穴	146図	204	打製石斧	5.8・3.9・1.4	42	ホルンフェルス	半損以上	
35竪穴	146図	205	剥片石器	8.6・4.3・0.9	44	砂岩	一部欠	
35竪穴	146図	206	剥片石器	8.4・4.0・0.5	29	頁岩	完形	
35竪穴	146図	207	剥片石器	10.8・4.8・0.7	42	頁岩	完形	
35竪穴	146図	208	剥片石器	8.1・3.6・0.7	32	頁岩	完形	
35竪穴	146図	209	磨製石斧	2.45・1.9・0.5	4.28	蛇紋岩類	半損以上	
35竪穴	147図	210	凹石	8.3・9.4・4.2	385	安山岩	完形	
35竪穴	147図	211	凹石	12.0・7.2・6.0	510	安山岩	完形	
35竪穴	147図	212	凹石	6.7・5.8・2.6	130	安山岩	完形	
35竪穴	147図	213	凹石	9.25・6.3・4.1	275	安山岩	完形	
35竪穴	147図	214	凹石	10.1・10.2・6.3	780	安山岩	完形	
35竪穴	147図	215	凹石	8.9・6.8・3.6	270	安山岩	完形	
35竪穴	147図	216	凹石	7.2・6.4・3.6	145	安山岩	完形	
35竪穴	147図	217	凹石	7.0・5.8・3.4	160	安山岩	半損	
35竪穴	147図	218	凹石	8.1・7.9・4.3	305	安山岩	一部欠	
35竪穴	147図	219	凹石	8.9・6.0・4.3	210	安山岩	完形	
35竪穴	147図	220	凹石	11.0・8.2・2.5	295	安山岩	一部欠	
35竪穴	147図	221	凹石	8.7・6.7・4.7	220	安山岩	略完形	赤化している
35竪穴	147図	222	丸石	6.2・4.2・3.4	100	安山岩	略完形	全体に赤化している
35竪穴	147図	223	多孔石	18.8・17.1・7.7	3120	安山岩	略完形	
35竪穴	147図	224	石錐	3.3・2.0・1.0	4.84	黒曜石	一部欠	
35竪穴	147図	225	石錐	2.75・1.4・0.7	2.33	黒曜石	一部欠	未製品
35竪穴	147図	226	石錐	3.6・2.5・0.7	3.57	黒曜石	完形	未製品
35竪穴	147図	227	石錐	4.5・2.5・0.9	7.28	黒曜石	完形	未製品
35竪穴	148図	228	石鏃	2.4・1.6・0.4	1.11	黒曜石	完形	
35竪穴	148図	229	石鏃	2.05・1.6・0.25	0.6	黒曜石	一部欠	
35竪穴	148図	230	石鏃	2.3・1.3・0.15	0.45	黒曜石	一部欠	
35竪穴	148図	231	石鏃	1.9・1.0・0.25	0.32	黒曜石	一部欠	
35竪穴	148図	232	石鏃	1.9・1.4・0.3	0.58	黒曜石	完形	
35竪穴	148図	233	石鏃	1.8・1.3・0.25	0.53	黒曜石	一部欠	
35竪穴	148図	234	石鏃	2.0・1.7・0.25	0.72	黒曜石	一部欠	
35竪穴	148図	235	石鏃	1.7・1.4・0.3	0.74	黒曜石	一部欠	
35竪穴	148図	236	石鏃	1.1・1.65・0.25	0.45	黒曜石	完形	
35竪穴	148図	237	石鏃	1.6・1.3・0.3	0.5	黒曜石	完形	
35竪穴	148図	238	石鏃	2.2・1.45・0.4	0.99	黒曜石	完形	
35竪穴	148図	239	石鏃	1.2・1.8・0.2	0.32	黒曜石	完形	
35竪穴	148図	240	石鏃	2.4・1.7・0.5	1.74	黒曜石	一部欠	
35竪穴	148図	241	石鏃	2.2・1.4・0.3	0.88	黒曜石	完形	
35竪穴	148図	242	石鏃	2.6・1.9・0.6	1.97	黒曜石	完形	未製品
35竪穴	148図	243	石鏃	1.7・1.3・0.4	1.03	黒曜石	完形	未製品
35竪穴	148図	244	石鏃	2.5・1.8・1.0	3.68	黒曜石	完形	未製品
35竪穴	148図	245	石鏃	2.25・1.8・0.5	1.96	黒曜石	完形	未製品
35竪穴	148図	246	石鏃	2.2・1.4・0.3	0.99	黒曜石	完形	未製品
35竪穴	148図	247	剥片石器	5.6・8.6・1.2	39	頁岩	完形	
35竪穴	148図	248	石匙	3.9・5.8・0.4	12	頁岩	完形	
35竪穴	148図	249	石匙	2.6・4.5・0.7	11	頁岩	完形	
35竪穴	148図	250	玉	3.5・2.1・1.0	15	軟玉	略完形	
35竪穴	148図	251	石匙	2.7・3.3・0.5	4.21	黒曜石	略完形	未製品
35竪穴	148図	252	石匙	2.9・4.0・0.8	7.55	黒曜石	略完形	未製品
35竪穴	148図	253	砥石	9.3・3.0・2.4	92	緑色凝灰岩	略完形	
36竪穴	59図	15	剥片石器	9.3・4.3・1.75	74	砂岩	完形	
36竪穴	59図	16	剥片石器	7.6・5.3・9.5	44	砂岩	完形	
36竪穴	59図	17	剥片石器	6.75・5.0・1.25	38	砂岩	完形	
36竪穴	59図	18	剥片石器	4.0・5.7・0.55	18	粘板岩	完形	

表7-（4） 石器観察表

出土地点	図版	番号	分　類	長さ・幅・厚さ（cm）	重さ（g）	石　材	欠損状況	備　考
36竪穴	59図	19	凹石	9.1・8.0・5.5	620	安山岩	完形	磨石としても利用
36竪穴	59図	20	凹石	8.6・8.0・5.2	486	安山岩	完形	
36竪穴	59図	21	石匙	5.8・8.3・1.0	44	頁岩	完形	
37竪穴	153図	54	打製石斧	13.2・5.0・1.75	170	頁岩	完形	
37竪穴	153図	55	打製石斧	11.1・5.75・1.45	98	ホルンフェルス	完形	
37竪穴	153図	56	打製石斧	9.4・4.7・2.05	118	ホルンフェルス	完形	
37竪穴	153図	57	打製石斧	11.2・5.6・1.7	117	頁岩	完形	
37竪穴	153図	58	打製石斧	8.8・4.6・1.25	64	砂岩	完形	
37竪穴	153図	59	打製石斧	9.3・6.1・1.1	70	砂岩	完形	
37竪穴	153図	60	打製石斧	8.2・4.9・1.25	76	砂岩	半損	
37竪穴	153図	61	打製石斧	6.8・5.5・1.55	77	ホルンフェルス	半損	
37竪穴	153図	62	打製石斧	4.9・4.8・1.2	42	ホルンフェルス	半損以上	
37竪穴	153図	63	打製石斧	4.65・4.8・1.1	35	ホルンフェルス	半損以上	
37竪穴	153図	64	剥片石器	9.6・5.2・1.0	58	粘板岩	完形	
37竪穴	153図	65	剥片石器	7.8・5.9・0.7	35	ホルンフェルス	完形	
37竪穴	154図	66	打製石斧	7.7・6.8・2.4	152	砂岩	完形	打斧の欠損品、磨石として再利用か？
37竪穴	154図	67	剥片石器	5.0・6.7・1.95	88	砂岩	略完形	
37竪穴	154図	68	剥片石器か	9.1・10.8・1.75	242	砂岩	完形	
37竪穴	154図	69	石棒	8.5・3.2・2.7	94	緑色片岩	半損	
37竪穴	154図	70	凹石	10.1・7.7・6.2	500	安山岩	完形	
37竪穴	154図	71	凹石	9.1・8.4・4.7	370	安山岩	一部欠	
37竪穴	154図	72	石錐	3.0・1.0・0.35	1.08	黒曜石	半損以上	先端部
37竪穴	154図	73	石錐	2.4・0.85・0.9	1.69	黒曜石	半損以上	先端部
37竪穴	154図	74	石鏃	1.25・1.05・0.3	0.54	黒曜石	一部欠	
37竪穴	154図	75	石鏃	2.5・1.2・0.5	1.17	黒曜石	一部欠	
37竪穴	154図	76	石匙	6.1・7.8・1.1	49	頁岩	一部欠	
37竪穴	154図	77	石匙	3.1・4.7・0.8	11	安山岩	半損	
37竪穴	154図	78	石匙	5.05・5.05・1.5	33	頁岩	略完形	
38竪穴	156図	9	打製石斧	12.1・5.3・1.5	127	ホルンフェルス	完形	
38竪穴	156図	10	凹石	6.1・5.7・3.8	109	安山岩	完形	
38竪穴	156図	11	石鏃	1.3・1.25・0.2	0.22	黒曜石	完形	
40竪穴	160図	6	剥片石器	6.1・11.7・1.7	114	ホルンフェルス	完形	
40竪穴	160図	7	剥片石器	7.1・5.2・0.8	43	砂岩	完形	
40竪穴	160図	8	凹石	10.3・8.7・7.25	762	安山岩	完形	
41竪穴	162図	8	打製石斧	10.1・4.8・1.55	81	砂岩	一部欠	
41竪穴	162図	9	凹石	10.1・5.55・3.85	255	安山岩	完形	
41竪穴	162図	10	石鏃	2.3・1.5・0.3	0.7	黒曜石	一部欠	未製品
1ピット	198図	8	打製石斧	12.7・3.8・1.0	55.17	頁岩	完形	
1ピット	198図	9	打製石斧	7.8・4.75・1.3	46.13	頁岩	半損	
1ピット	198図	10	石錐	3.2・2.1・1.2	0.63	チャート	完形	未製品
1ピット	198図	11	石鏃	2.0・1.0・0.25	0.37	黒曜石	完形	
1ピット	198図	12	石鏃	2.3・1.5・0.3	0.63	黒曜石	略完形	
2ピット	199図	4	打製石斧	6.15・3.3・11.0	38.03	砂岩	半損以上	
2ピット	199図	5	打製石斧	10.65・5.05・0.95	79.52	頁岩	完形	
4ピット	199図	1	石鏃	1.5・1.5・0.45	0.79	黒曜石	完形	
5ピット	199図	2	打製石斧	8.3・5.7・1.4	81.47	ホルンフェルス	半損	
6ピット	199図	3	打製石斧	7.3・3.8・0.5	30.61	粘板岩	完形	
6ピット	199図	4	打製石斧	13.05・6.2・1.45	145.6	砂岩	半損	
20ピット	201図	10	石鏃	2.15・1.9・5.05	2	黒曜石	完形	未製品
24ピット	201図	4	磨石	15.3・12.0・5.7	1160	安山岩	完形	磨面は一面
26ピット	201図	2	石皿	16.05・10.5・3.1	610	安山岩	完形	
28ピット	201図	4	石鏃	2.4・1.4・0.45	1.2	黒曜石	一部欠	
32ピット	201図	1	打製石斧	7.7・4.65・1.75	71.47	砂岩	半損	
46ピット	202図	2	打製石斧	11.4・4.5・1.15	56.05	ホルンフェルス	一部欠	
53ピット	202図	3	礫石	4.9・4.3・3.2	75.33	凝灰岩	半損以上	
55ピット	203図	8	剥片石器	2.0・1.6・0.3	1.11	黒曜石	完形	
63ピット	203図	2	石鏃	1.9・1.5・0.4	0.75	黒曜石	一部欠	
66ピット	203図	1	打製石斧	3.6・3.46・0.75	15.59	粘板岩	半損以上	
85ピット	203図	10	打製石斧	7.9・5.2・1.3	57.61	砂岩	一部欠	
85ピット	203図	11	打製石斧	8.7・4.2・1.1	36.82	頁岩	略完形	
85ピット	203図	12	打製石斧	11.6・4.7・0.9	52.82	砂岩	完形	
85ピット	203図	13	打製石斧	14.1・5.45・2.3	208.5	砂岩	完形	
139ピット	204図	7	打製石斧	11.1・5.6・10.85	102.71	砂岩	完形	
142ピット	204図	1	打製石斧	5.0・5.8・1.95	77.12	砂岩	半損以上	
150ピット	204図	4	打製石斧	8.35・4.0・1.05	43.01	頁岩	一部欠	風化が著しい
158ピット	204図	3	凹石	9.3・7.4・4.45	390	安山岩	完形	
159ピット	204図	1	石鏃	2.3・1.25・0.45	0.84	黒曜石	一部欠	
180ピット	205図	2	石鏃	2.4・1.4・0.35	0.74	黒曜石	一部欠	
189ピット	205図	2	石鏃	1.9・1.4・0.2	0.45	黒曜石	完形	
189ピット	205図	3	石棒か	7.4・3.95・1.9	66.03	緑色片岩	半損	
195ピット	205図	7	打製石斧	6.15・4.05・0.95	31.32	緑色凝灰岩	完形	よく摩滅してすべすべ
201ピット	205図	1	凹石	6.1・7.8・2.55	143.16	凝灰質砂岩	半損	全面剥離
229ピット	206図	1	打製石斧	15.05・6.4・2.05	185.4	砂岩	略完形	

表7-(5) 石器観察表

出土地点	図版	番号	分類	長さ・幅・厚さ(cm)	重さ(g)	石材	欠損状況	備考
247ピット	206図	4	打製石斧	9.45・5.2・20.75	164.96	ホルンフェルス	完形	
247ピット	206図	5	打製石斧	6.0・4.7・1.7	58.58	ホルンフェルス	完形	
247ピット	206図	6	打製石斧	4.5・5.1・1.45	40.35	ホルンフェルス	半損以上	
252ピット	206図	1	石鏃	2.3・1.7・0.3	1.01	黒曜石	一部欠	
255ピット	207図	6	打製石斧	1.9・6.1・1.75	266.65	ホルンフェルス	完形	
257ピット	207図	4	打製石斧	6.6・4.65・1.05	28.57	頁岩	半損以上	表面大半剥落
257ピット	207図	5	凹石	11.15・7.1・3.7	375	安山岩	完形	
262ピット	208図	10	打製石斧	10.6・4.8・1.8	133.09	砂岩	完形	
262ピット	208図	11	打製石斧	10.95・4.6・1.65	108.9	ホルンフェルス	完形	
262ピット	208図	12	打製石斧	7.8・2.1・1.25	29.76	緑色片岩	完形	先端摩耗している。
262ピット	208図	13	打製石斧	11.8・5.1・1.8	135.3	ホルンフェルス	一部欠	
262ピット	208図	14	打製石斧	11.6・5.3・10.5	99.64	頁岩	略完形	
262ピット	208図	15	凹石	11.15・8.1・5.55	630	安山岩	完形	凹面は3面
262ピット	208図	16	石皿	17.1・14.05・6.75	2115	安山岩	完形	
262ピット	208図	17	石鏃	1.8・1.3・0.2	0.55	黒曜石	一部欠	
264ピット	208図	2	打製石斧	13.3・5.4・2.25	189.57	砂岩	完形	
273ピット	208図	8	打製石斧	4.0・3.1・0.9	15.87	ホルンフェルス	半損以上	
282ピット	209図	8	打製石斧	14.2・6.4・2.3	226.5	砂岩	一部欠	
282ピット	209図	9	打製石斧	9.1・4.95・1.05	64.83	砂岩	完形	
282ピット	209図	10	打製石斧	8.8・3.6・0.75	35.47	頁岩	完形	
282ピット	209図	11	剥片石器	8.8・6.5・1.35	112.94	砂岩	一部欠	
282ピット	209図	12	剥片石器	5.25・5.0・0.75	26.19	砂岩	完形	
282ピット	209図	13	剥片石器	4.0・6.45・0.8	21.65	砂岩	完形	
288ピット	209図	10	打製石斧	10.8・4.2・1.6	59.87	頁岩	略完形	
288ピット	209図	11	打製石斧	4.8・5.6・1.2	39.24	頁岩	半損以上	
288ピット	209図	12	剥片土器	6.8・3.8・1.0	27.57	砂岩	半損	
288ピット	209図	13	砥石か	8.3・7.8・7.5	745	安山岩	半損	
289ピット	210図	5	凹石	11.9・10.0・6.2	735	安山岩	完形	
7溝	218図	14	石匙	6.8・4.65・1.45	52.97	砂岩	半損以上	
11溝	219図	14	打製石斧	9.95・4.55・0.80	37	ホルンフェルス	略完形	
11溝	219図	15	打製石斧	10.0・4.15・1.25	60	砂岩	完形	
11溝	219図	16	打製石斧	9.65・4.3・1.2	61	ホルンフェルス	完形	風化著しい。
11溝	219図	17	打製石斧	9.7・5.0・2.0	103	砂岩	一部欠	
11溝	219図	18	打製石斧	8.3・3.75・10.65	70	砂岩	一部欠	
11溝	219図	19	打製石斧	6.3・4.5・0.8	32	ホルンフェルス	半損	
11溝	219図	20	剥片石器	6.4・5.5・6.5	25	頁岩	完形	
11溝	219図	21	剥片石器	5.75・5.1・0.95	35	砂岩	一部欠	
11溝	219図	22	剥片石器	8.85・5.7・0.8	60	砂岩	一部欠	
11溝	219図	23	磨斧	8.3・3.75・1.7	80	片岩	一部欠	
11溝	219図	24	凹石	9.7・6.6・5.2	358	安山岩	完形	
11溝	219図	25	磨石	5.9・5.8・4.2	196	安山岩	完形	
11溝	219図	26	磨石	7.8・5.5・2.75	200	安山岩	半損	1面のみ
11溝	219図	27	石匙	7.8・4.3・1.35	50	砂岩	半損	
11溝	219図	28	石鏃	2.1・1.6・0.25	0.64	黒曜石	完形	
11溝	219図	29	石鏃	2.5・1.3・0.25	0.64	黒曜石	完形	
11溝	219図	30	長方礫	5.45・2.2・1.75	28	頁岩	半損以上	丘から海浜、線刻あり
12溝	219図	3	打製石斧	12.65・4.8・2.7	191.68	砂岩	一部欠	
12溝	219図	4	打製石斧	9.4・4.7・1.6	72.61	頁岩	完形	
12溝	219図	5	剥片石器	5.7・5.0・0.65	29.37	ホルンフェルス	完形	
15溝	220図	2	打製石斧	8.6・4.7・2.3	117.9	ホルンフェルス	半損	
17溝	220図	10	打製石斧	8.9・5.5・1.5	90.58	砂岩	完形	
17溝	220図	11	打製石斧	8.2・4.65・1.7	74.06	砂岩	一部欠	
17溝	220図	12	打製石斧	10.1・3.7・1.55	70.25	頁岩	一部欠	
17溝	220図	13	打製石斧	4.5・4.5・1.2	31.5	砂岩	半損以上	
17溝	220図	14	砥石	5.7・2.9・2.15	42.76	凝灰岩	半損以上	四面使用
旧河道	225図	61	打製石斧	7.3・4.0・1.15	44.52	頁岩	完形	A14B15グリッド
旧河道	225図	62	打製石斧	10.85・5.0・1.4	106.65	砂岩	完形	A19B9グリッド
旧河道	225図	63	打製石斧	11.4・5.4・2.55	155.67	ホルンフェルス	完形	A23B7グリッド
旧河道	225図	64	打製石斧	12.9・4.7・1.6	132.08	ホルンフェルス	完形	A23B7グリッド
旧河道	225図	65	打製石斧	7.25・4.5・0.9	34.11	頁岩	一部欠	A23B8グリッド
旧河道	225図	66	打製石斧	13.3・6.4・1.8	195.51	ホルンフェルス	一部欠	A20B8グリッド
旧河道	225図	67	打製石斧	10.65・5.3・1.7	131.86	ホルンフェルス	一部欠	A23B7グリッド
旧河道	225図	68	打製石斧	9.9・5.2・1.75	101.35	頁岩	一部欠	A14B5グリッド、トレンチ内
旧河道	225図	69	打製石斧	9.4・4.9・0.95	71.93	頁岩	一部欠	A21B9グリッド
旧河道	225図	70	打製石斧	7.3・3.9・1.0	36.59	頁岩	半損	A20B8グリッド
旧河道	225図	71	打製石斧	7.1・4.8・2.1	75.47	ホルンフェルス	半損	A23B8グリッド
旧河道	225図	72	打製石斧	5.4・5.3・1.35	41.08	砂岩	半損以上	A20B9グリッド
旧河道	225図	73	打製石斧	5.8・5.5・2.55	106.07	砂岩	半損以上	
旧河道	225図	74	打製石斧	9.65・5.9・1.5	99.73	ホルンフェルス	半損以上	A14B5グリッド
旧河道	225図	75	打製石斧	9.8・6.3・2.1	163.58	ホルンフェルス	半損	A23B7グリッド
旧河道	225図	76	剥片石器	2.2・1.6・0.6	2.14	黒曜石	完形	A23B7グリッド
旧河道	225図	77	剥片石器	8.5・5.25・1.4	51.01	砂岩	完形	A23B7グリッド
旧河道	225図	78	剥片石器	10.4・4.9・10.0	65.67	頁岩	一部欠	A23B7グリッド

表7-(6) 石器観察表

出土地点	図版	番号	分類	長さ・幅・厚さ(cm)	重さ(g)	石材	欠損状況	備考
旧河道	225図	79	剥片石器	11.1・6.0・1.4	112.53	ホルンフェルス	一部欠	A23B7グリッド
旧河道	225図	80	凹石	10.4・5.8・4.2	345	安山岩	完形	A14B4グリッド、凹面は2面
旧河道	225図	81	石鏃	1.5・1.3・0.25	0.32	黒曜石	完形	
旧河道	225図	82	石鏃	3.0・1.7・0.35	1.78	黒曜石	一部欠	
旧河道	225図	83	石鏃	2.2・1.6・0.55	1.33	黒曜石	一部欠	A16B7グリッド
旧河道	225図	84	石鏃	2.05・1.7・0.35	1.24	黒曜石	完形	A23B8グリッド、未製品
旧河道	225図	85	石錐	3.1・1.45・0.9	2.66	黒曜石	完形	A20B8グリッド、未製品
旧河道	225図	86	石匙	4.3・3.15・1.2	21.16	頁岩	半損以上	A20B8グリッド
遺構外	233図	102	打製石斧	12.7・4.5・2.55	143	砂岩	完形	A18B12グリッド
遺構外	233図	103	打製石斧	12.8・5.0・1.5	122	ホルンフェルス	完形	A16B14グリッド
遺構外	233図	104	打製石斧	12.1・4.7・1.7	142	ホルンフェルス	完形	A19B12グリッド
遺構外	233図	105	打製石斧	11.8・3.9・1.4	62		完形	A20B14グリッド
遺構外	233図	106	打製石斧	10.55・4.9・12.0	58	ホルンフェルス	完形	表採
遺構外	233図	107	打製石斧	7.8・4.9・1.2	49.5	砂岩	完形	A18B13グリッド、Grid取上No314
遺構外	233図	108	打製石斧	9.0・4.65・2.2	97	砂岩	完形	A17B15グリッド
遺構外	233図	109	打製石斧	9.5・4.9・1.4	92	ホルンフェルス	完形	A22B12グリッド
遺構外	233図	110	打製石斧	11.5・5.8・1.1	80	ホルンフェルス	完形	表採
遺構外	233図	111	打製石斧	13.4・6.2・2.1	191	砂岩	一部欠	A17B13グリッド
遺構外	233図	112	打製石斧	10.2・5.4・2.4	150	砂岩	一部欠	A16B11グリッド、Grid取上No341
遺構外	233図	113	打製石斧	10.2・5.2・1.9	126	砂岩	一部欠	A20B14グリッド、Grid取上No352
遺構外	233図	114	打製石斧	9.0・6.6・1.85	135	砂岩	半損	A20B14グリッド、Grid取上No43
遺構外	233図	115	打製石斧	8.8・5.5・1.3	76	頁岩	一部欠	A13B8グリッド
遺構外	233図	116	打製石斧	8.1・5.8・1.65	96	砂岩	半損	表採
遺構外	233図	117	打製石斧	8.85・4.9・1.5	80	砂岩	一部欠	A11B1グリッド
遺構外	233図	118	打製石斧	5.5・4.3・1.6	40	ホルンフェルス	一部欠	A13B11グリッド、Grid取上No444
遺構外	233図	119	打製石斧	5.65・5.05・0.65	21	頁岩	半損以上	A16B11グリッド
遺構外	233図	120	石匙	5.95・4.0・2.3	73	ホルンフェルス	半損以上	表採
遺構外	233図	121	打製石斧	6.9・5.35・2.1	92	砂岩	半損以上	A18B13グリッド、Grid取上No313
遺構外	233図	122	打製石斧	10.2・6.2・2.4	176	ホルンフェルス	半損	A19B12グリッド
遺構外	233図	123	打製石斧	9.0・5.0・2.5	131	砂岩	半損	A20B14グリッド
遺構外	233図	124	打製石斧	6.55・5.15・1.25	45	砂岩	半損以上	A15B6グリッド、Grid取上No579
遺構外	233図	125	打製石斧	6.6・4.3・1.15	38	ホルンフェルス	半損以上	A20B14グリッド、Grid取上No3
遺構外	233図	126	打製石斧	5.5・4.15・1.1	40	ホルンフェルス	半損以上	A21B13グリッド
遺構外	233図	127	打製石斧	4.7・3.2・0.6	9	粘板岩	半損以上	A21B15グリッド
遺構外	233図	128	打製石斧	5.3・3.3・13.0	28	砂岩	半損以上	A22B15グリッド
遺構外	234図	129	剥片石器	4.4・3.0・0.4	6	粘板岩	略完形	A13B5グリッド、Grid取上No639
遺構外	234図	130	剥片石器	6.1・2.9・1.05	20	頁岩	完形	A21B13グリッド
遺構外	234図	131	磨製石斧	1.75・1.55・3.0	2	緑色凝灰岩	半損以上	A16B15グリッド、表面の一部のみ
遺構外	234図	132	凹石	9.9・9.8・4.65	610	安山岩	完形	A16B13グリッド、Grid取上No351、凹面は2面
遺構外	234図	133	凹石	11.7・7.7・5.35	736	安山岩	完形	A15B13グリッド、Grid取上No361、凹面は2面、磨面2面あり、部分的によく磨かれた箇所あり
遺構外	234図	134	凹石	12.8・6.9・5.95	438	安山岩	完形	A17B15グリッド、Grid取上No511、凹面は3面、磨面1面あり
遺構外	234図	135	凹石	10.8・8.2・4.4	362	安山岩	完形	A20B13グリッド、凹面は3面、磨面1面あり
遺構外	234図	136	凹石	8.0・7.6・5.2	256	安山岩	一部欠	A20B14グリッド
遺構外	234図	137	磨石か	8.5・4.4・1.8	107	安山岩	半損	A19B12グリッド
遺構外	234図	138	石皿	8.45・6.6・1.6	102	安山岩	半損以上	A20B15グリッド、Grid取上No42
遺構外	234図	139	多孔石	22.9・13.0・4.1	1470	安山岩	半損	Grid取上No372、凹面は1面
遺構外	234図	140	石皿	30.5・31.0・9.5	11200	安山岩	一部欠	Grid取上No371
遺構外	235図	141	石皿	30.0・23.3・7.5	6700	安山岩	半損以上	Grid取上No373
遺構外	235図	142	石鏃	2.7・1.8・0.4	1.16	黒曜石	完形	Grid取上No303
遺構外	235図	143	石鏃	2.5・1.5・0.3	0.86	黒曜石	完形	Grid取上No308
遺構外	235図	144	石鏃	2.3・1.65・0.3	0.75	黒曜石	完形	Grid取上No404
遺構外	235図	145	石鏃	3.0・1.6・0.3	110	黒曜石	一部欠	表採
遺構外	235図	146	石鏃	2.3・1.2・0.3	0.46	黒曜石	一部欠	Grid取上No406
遺構外	235図	147	石鏃	2.1・1.25・0.4	0.83	黒曜石	一部欠	Grid取上No453
遺構外	235図	148	石鏃	1.8・1.55・0.35	0.83	黒曜石	一部欠	A23B14グリッド
遺構外	235図	149	石鏃	1.96・1.2・0.3	0.48	黒曜石	一部欠	Grid取上No342
遺構外	235図	150	石鏃	2.05・1.6・0.3	0.8	黒曜石	一部欠	Grid取上No601
遺構外	235図	151	石鏃	2.9・1.8・5.5	2.44	黒曜石	一部欠	Grid取上No175
遺構外	235図	152	石鏃	2.2・1.5・0.25	0.83	黒曜石	一部欠	表採
遺構外	235図	153	石鏃	0.95・0.7・0.15	0.1	黒曜石	半損以上	A19B14グリッド
遺構外	235図	154	石鏃	1.4・1.7・0.35	0.72	黒曜石	半損	
遺構外	235図	155	石鏃	1.4・1.05・0.3	0.42	黒曜石	一部欠	未製品
遺構外	235図	156	石錐	2.1・1.2・0.5	0.98	黒曜石	半損	A20B14グリッド
遺構外	235図	157	玉	1.6・1.9・0.9	4	チャート	半損以上	表採、穿孔の痕跡あり
遺構外	235図	158	石匙	9.95・4.95・10.0	55	緑色片岩	一部欠	A22B12グリッド
遺構外	235図	159	砥石	4.8・3.4・2.0	38	緑色凝灰岩	半損	A23B14グリッド、使用面は3面
遺構外	235図	160	砥石	3.9・2.6・2.05	34	緑色凝灰岩	半損	A21B14グリッド、使用面は5面
遺構外	235図	161	砥石	3.0・3.7・1.2	20	緑色凝灰岩	半損以上	A18B11グリッド、使用面は1面のみ

第Ⅴ章　自然科学分析

第１節　石原田北遺跡出土縄文土器の胎土分析

１．はじめに

石原北遺跡は、八ケ岳南麓火山麓扇状地上に位置し、縄文前期～中期の竪穴建物跡や土器が出土している。従来の八ケ岳南麓地域の縄文土器胎土分析の結果、縄文草創期～早期において八ケ岳南麓で土器が作られたことを示す事例は乏しく、高根町社口遺跡では他地域で製作された土器の搬入が確認されている（河西,1997）。中期後半曽利式期では、安山岩が分布する八ケ岳南麓地域での土器製作が明らかになり、花崗岩類が分布する釜無川地域やデイサイトが分布する塩川地域など隣接地域間での土器移動が推定されている（河西ほか,1989，河西,1992,1999）。しかし八ケ岳山麓での早期中葉～中期中葉の土器産地に関するまとまったデータは、従来ほとんどなかった。ここでは、本遺跡出土の縄文前期諸磯式土器と中期新道～藤内式土器について胎土分析を行い、土器の産地推定とともに八ケ岳南麓における土器製作の開始時期などについて考えたい。

２．試　料

土器の接合復元段階で、分析試料の選択と住居内の胎土組成概要の把握を目的として、予察的に諸磯ｂ式期の６号竪穴建物と新道式～藤内式期の35号竪穴建物出土土器についてルーペを用い胎土の肉眼観察を行った（第８表）。その結果に基づき分析試料を選択した（第９表・第236図）。基本的に肉眼観察は、復元可能と思われる土器個体を構成する接合片を対象として実施した。分析試料土器片の選択は、原則として肉眼観察した個体に属すると考えられる土器小片を分析試料とした。一部の分析試料は、復元個体と接合関係をもつ。しかし多くの分析試料片は、復元作業に支障が生じないように復元個体と接合関係を持たない土器小片を用いたため、その後の再確認で復元個体とは別個体に属すると判断されたものもあり、今後の試料選択に課題を残した。第８・９表には確認された関係のみを記載した。

３．分析方法

土器試料は、以下の方法で薄片を作製した。土器試料は、切断機で3×2.5cm程度の大きさに切断し、残りの試料は保存した。土器片試料はエポキシ樹脂を含浸させて補強し、土器の器壁に直交する断面切片を切断し、Ｘ線透過写真を撮影後、岩石薄片と同じ要領で薄片を作製した。さらにフッ化水素酸蒸気でエッチングし、コバルチ亜硝酸ナトリウム飽和溶液に浸してカリ長石を黄色に染色しプレパラートとした。次に以下の方法で岩石鉱物成分のモード分析を行なった。偏光顕微鏡下において、ポイントカウンタを用い、ステージの移動ピッチを薄片長辺方向に0.33㎜、短辺方向に0.40㎜とし、各薄片で2,000ポイントを計測する。計数対象は、粒径0.05㎜以上の岩石鉱物粒子、およびこれより細粒のマトリクス（「粘土」）部分とし、植物珪酸体はすべてマトリクスに含める。

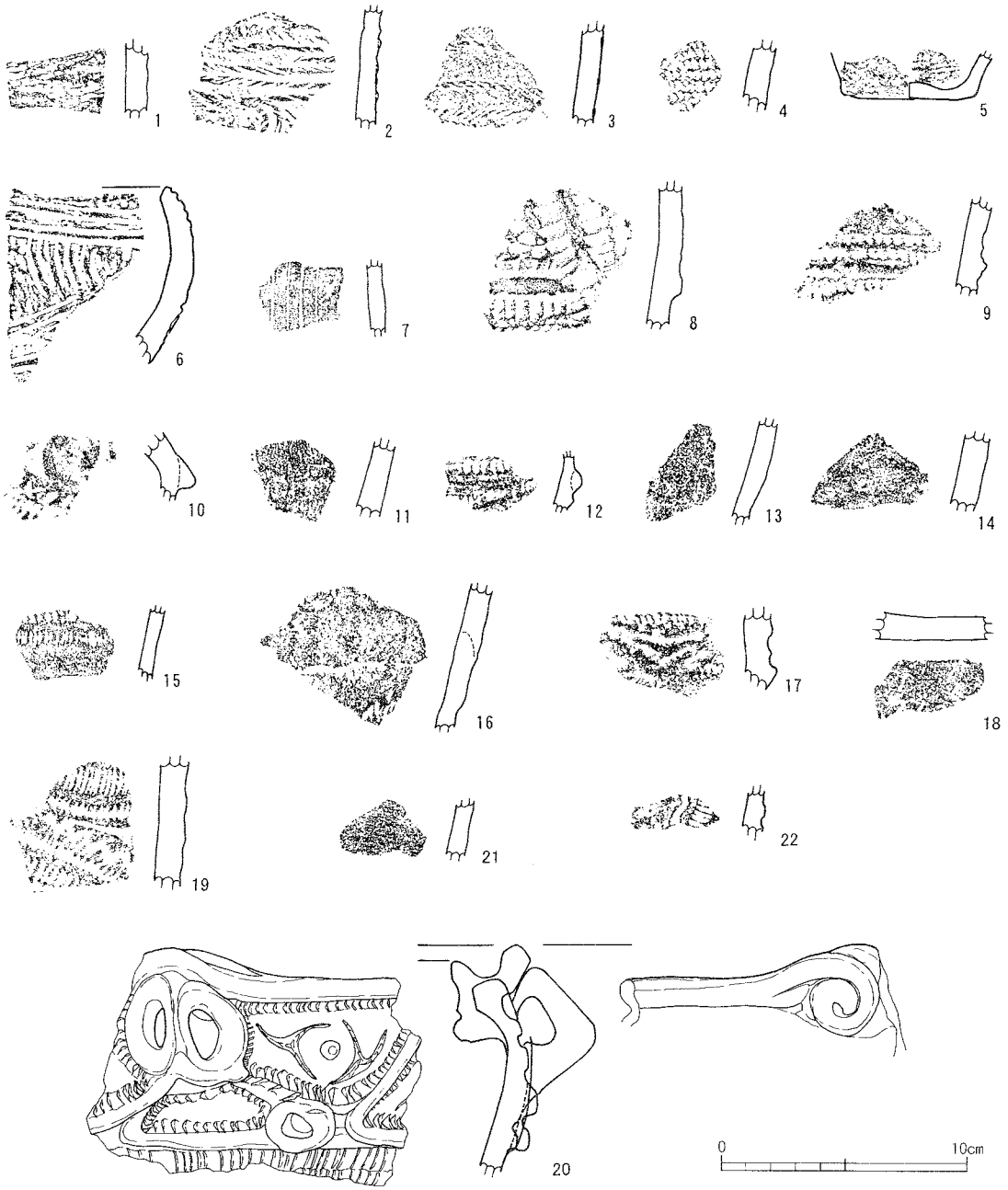
第8表　肉眼観察表

No.	竪穴	番号	注記・接合関係	V	A	D	G	Mt	Md	Si	他	q	f	bi	ho	px	その他	肉眼観察での推定産地	分析	図番号
1	6	1	6H-67				○					○	○	○	○			花崗岩類地域		
2	6	2	6H-39				○					○	○	○	○			花崗岩類地域		
3	6	3	6H-66				○					○	○	○	○			花崗岩類地域		
4	6	4	6H				◎					○	○	○	○			花崗岩類地域	No.6	
5	6	5	6H-71	○			○		○	○								堆積岩地域／花崗岩類地域	No.3	
6	6	6	6H-64/62/65 2H-418				○	○				○	○	○			泥質ブロック多い	堆積岩地域／花崗岩類地域	No.1	第38図1
7	6	7	6H-73/6/70		◎							○	○			○		安山岩地域	No.5	
8	6	8	6H-68				○					○		○				花崗岩類地域		
9	6	9	6H-8				○					○		○	○			花崗岩類地域	No.2	
10	6	10	6H-37				○		○			○		○				花崗岩類地域		
11	6	11	6H-60				○					○	○	○				花崗岩類地域		
12	6	12	6H-28				○					○						花崗岩類地域		
13	6	13	6H-51				○							◎				花崗岩類地域		
14	6	14	6H-58				○								○			花崗岩類地域		
15	35	1	35H-40		◎								○			○		安山岩地域		
16	35	2	35H-220/31	○		○?							○		○	○		火山岩地域		第133図23
17	35	3	35H-607/954/134		○								○			○		安山岩地域		
18	35	4	35H-602		○								○			○	細粒	安山岩地域	No.9	第130図11
19	35	5	35H-112			○?	○					○	○	○	○			主として花崗岩類地域	No.20	第135図38
20	35	6	35H-638		○								○			○		安山岩地域	No.10	第130図12
21	35	7	35H-676		○									○	○	○		安山岩地域	No.11	第133図22
22	35	8	35H-601/609/区4	○	◎								○			○	土器もろい	安山岩地域		第130図7
23	35	9	35H-702		○								○		○	○		安山岩地域		第137図56
24	35	10	35H-637/593/598		○	○?							○		○	○	表面が斑状剥離	安山岩地域／火山岩地域		第140図77
25	35	11	35H-684/35H-226	○	○								○			○		安山岩地域／火山岩地域	No.13	第136図53
26	35	12	35H-609/832/611		○								○			○		安山岩地域	No.12	第129図2
27	35	13	35H-605/35H-606			○?	○			○			○	○	○			花崗岩類地域ほか		第130図6
28	35	14	35H-595/574/622 20H-754/763/764				○					○	○	○				花崗岩類地域	No.18	第142図95
29	35	15	35H-878		○								○		○	○		安山岩地域		第137図57
30	35	16	35H-592	○		○?							○		○		表面が斑状剥離	火山岩(デイサイト?)地域		第131図16
31	35	17	35H-630/620	○		○?							○		○			火山岩(デイサイト?)地域		第136図49
32	35	18	35H-685/580/881/480 /759/885/875/814/ 区2上	○	○		◎			○		○	○				35-19と同一	主として花崗岩類地域	No.21	第136図50
33	35	19	35H-885	○	○		◎			○		○	○				35-18と同一	主として花崗岩類地域		第136図50
34	35	20	35H-573/885				○					○	○		○			花崗岩類地域		第142図97
35	35	21	35H-881		○								○			○		安山岩地域		第129図1
36	35	22	35H-587/588	○	○							○	○		○	○		安山岩地域／火山岩地域		第134図32
37	35	23	35H-614	○	○?	○?						○	○		○	○		火山岩地域	No.15	第136図51
38	35	24	35H-643/616/613/672 /772				○				○	○	○	○	○		35-25と同一	花崗岩類その他岩石の混在		第142図99
39	35	25	35H-643/616/613/672 /772				○				○	○	○	○	○		35-24と同一	花崗岩類その他岩石の混在	No.22	第142図99
40	35	26	35H-703		○	○							○		○	○		火山岩地域		第141図86
41	35	27	35H-617		○	○	○?		○			○	○		○	○		火山岩地域	No.16	第139図73
42	35	28	35H-576		○	○							○		○	○		火山岩地域	No.14	第136図54
43	35	29	35H-845		○	○							○		○	○		火山岩地域		
44	35	30	35H-577		○	○							○			○		火山岩地域		

V:変質火山岩類　A:安山岩　D:デイサイト　G:花崗岩類　Mt:ホルンフェルス　Md:泥岩　Si:珪質岩　他:その他の岩石
q:石英　f:長石　bi:黒雲母　ho:角閃石　px:輝石

第9表　分析試料表

試料番号	時期	型式	器種	部位	注記	同一個体
No.1	縄文前期	諸磯b式	深鉢	胴部	2H-418	第38図1
No.2	縄文前期	諸磯b式	深鉢	胴部	6H-8	
No.3	縄文前期	諸磯b式	深鉢	胴部	6H-71	
No.4	縄文前期	諸磯式	深鉢	胴部	6H-70	
No.5	縄文前期	諸磯式	深鉢	底部	6H-73	
No.6	縄文前期	諸磯b式	深鉢	口縁部	6H	
No.7	縄文中期	平出3A式	深鉢	胴部	35H-区4	
No.8	縄文中期	新道式	深鉢	胴部	35H-124	
No.9	縄文中期	新道式	深鉢	胴部	35H-区1	第130図11
No.10	縄文中期	新道式	深鉢	胴部	35H-638	第130図12
No.11	縄文中期	藤内(2)式	深鉢	胴部	35H-676	第133図22
No.12	縄文中期	新道式	深鉢	胴部	35H-609	第129図 2
No.13	縄文中期	藤内式	深鉢	胴部	35H-684	第136図53
No.14	縄文中期	藤内式	深鉢	胴部	35H-576	第136図54
No.15	縄文中期	藤内(1)式	深鉢	胴部	35H-614	第136図51
No.16	縄文中期	藤内(1)式	深鉢	胴部	35H-89	第139図73
No.17	縄文中期	新道式	深鉢	胴部	11M	
No.18	縄文中期	新道～藤内式	浅鉢	底部	35H-595	第142図95
No.19	縄文中期	藤内(1)式	深鉢	胴部	35H-区3覆土下	
No.20	縄文中期	新道式	深鉢	口縁部	35H-112	第135図38
No.21	縄文中期	藤内(1)式	深鉢	胴部	35H-SC上	第136図50
No.22	縄文中期	藤内式	浅鉢	胴部	35H-613	第142図99



第236図　分析試料実測図

4．分析結果

肉眼観察によると、諸磯b式期6号竪穴建物では、安山岩の卓越する1個体を除いてほとんどの土器が花崗岩類を主体とする搬入土器の可能性が推定された。新道～藤内式期の35号竪穴建物では、安山岩を主体とする土器が優勢で、花崗岩類を多く含む土器の比率は低下する。

薄片による胎土分析結果を第10表に示す。試料全体の砂粒子・赤褐色粒子・マトリクスの割合(粒子構成)、および砂粒子の岩石鉱物組成および重鉱物組成を第237図に示す。重鉱物組成では右側に基数を表示した。岩石組成折れ線グラフを第238図に示す。この折れ線グラフは、変質火山岩類（含「緑色変質火山岩」）・玄武岩・安山岩・デイサイト（含流紋岩）・花崗岩類・変成岩類（含ホルンフェルス）・砂岩・泥岩・珪質岩・炭酸塩岩のポイント数の総数を基数とし、各岩石の構成比を示したものである。折れ線グラフの第1・2ピークの組み合わせによって土器を分類した結果

を第11表に示す。クラスター分析の樹形図を第239図に示す。クラスター分析は、折れ線グラフと同様の10種の岩石データを用いて行なった。クラスター分析での非類似度は、ユークリッド平方距離を用い、最短距離法によって算出した。第239図は、本遺跡試料の組成、曽根遺跡・尾咲原遺跡の胎土分析結果、および甲府盆地周辺地域の河川砂の岩石組成とを比較し、便宜的に１～10の番号をクラスターに付した。型式ごとに胎土の特徴を以下に述べる。

諸磯式　(Nos.1～6)

粒子構成に占める砂の含有率（以下含砂率）は、試料ごとに多様であり、No.2が16.8％と低く、Nos.1,3～6では24.4～36.3％の値を示す。赤褐色粒子は、No.4で3.6％とやや多く、他はわずか。

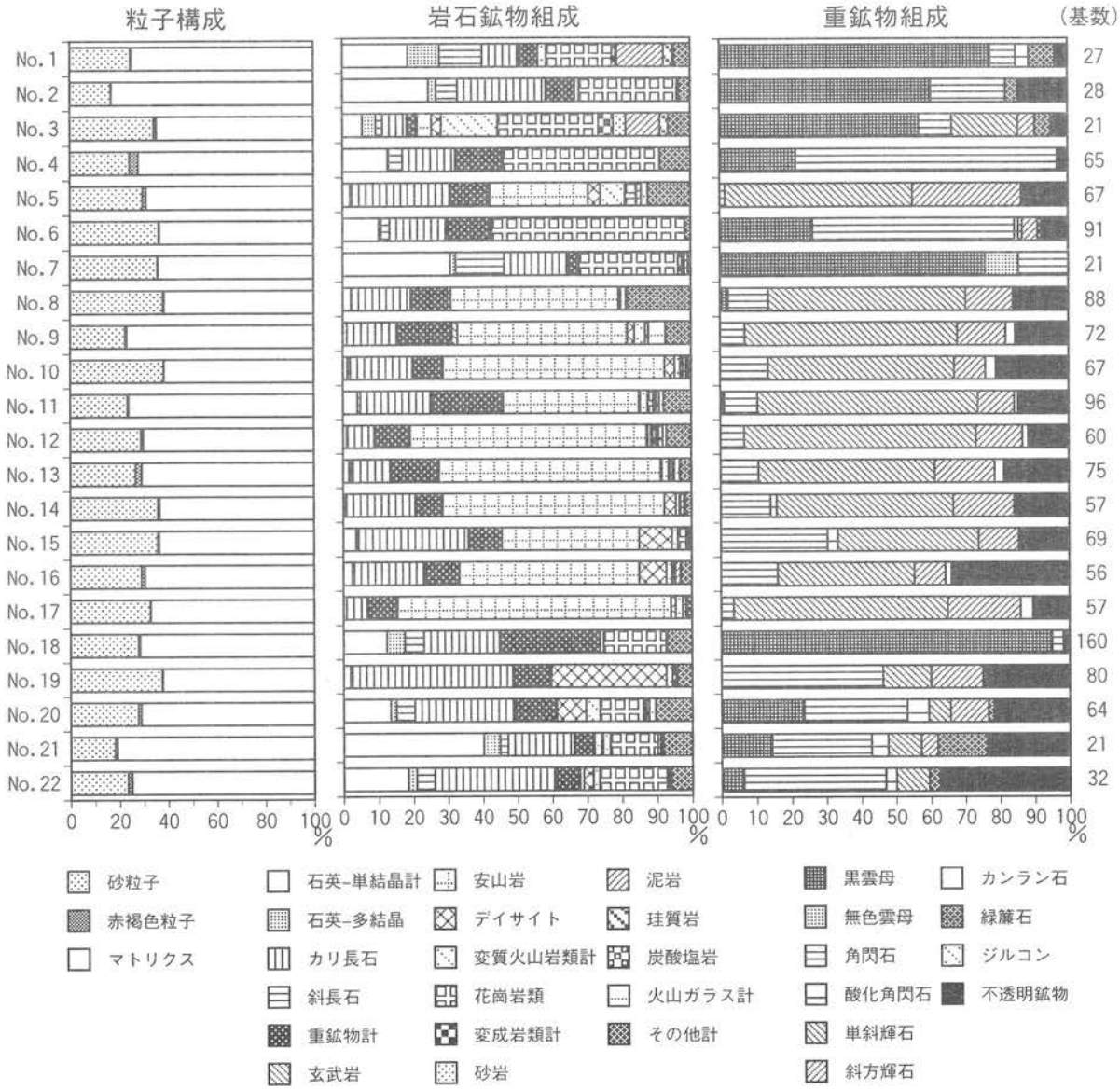
No.1は、石英・カリ長石・斜長石・花崗岩類・泥岩が多く、重鉱物では黒雲母が卓越する。第11表ではＧ－ｍｄ群、第239図ではクラスター４に属する。クラスター４は、甲府盆地の笛吹川・釜無川流域の花崗岩類地域の河川砂が多く含まれるが、本試料は、これら河川砂との類似性があまり高くない位置関係にある。花崗岩類と堆積岩とが分布する地域に産地が推定される。

Nos.2,4,6は、石英・斜長石・カリ長石・花崗岩類が主体の岩石鉱物組成を示し、重鉱物組成では黒雲母・角閃石・不透明鉱物から主として構成される。第11表ではＧ群に、第239図では笛吹川・

第10表　土器胎土中の岩石鉱物（数字はポイント数を、＋は計数以外の検出を示す）

試料番号	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17	No.18	No.19	No.20	No.21	No.22
石英-単結晶	93	83	35	63	13	75	221	18	5	8	19	6	9	3	23	15	6	68	13	74	145	85
石英-β型			4							1					3				2			1
石英-多結晶	45	7	26	1	1	5	11			5		1	3	1	2	1		29	3	9	17	11
カリ長石	61	21	14	20	2	18	100	1		2	4	1	3	3	3	2		30	1	29	8	24
斜長石	52	85	48	74	167	120	132	129	64	136	96	43	56	140	225	118	38	120	344	159	69	163
黒雲母	21	17	12	14		24	16	2			1							152		15	3	2
無色雲母							2															
角閃石	2	6	2	49	1	53	3	10	5	9	9	4	8	8	21	9	2	5	37	19	6	13
酸化角閃石	1					1		+,	+	+				1	2				+	4	1	1
単斜輝石	+		4		36	1		50	44	36	61	40	38	29	28	22	35		11	4	2	3
斜方輝石			1		21	4		12	10	6	10	8	13	10	8	5	12		12	7	1	
カンラン石			+						2	2	1	1	2			1	2					
緑簾石	2	1	1			1			+											1	3	1
ジルコン																		1				
不透明鉱物	1	4	1	2	9	7		14	11	14	14	7	14	9	10	19	6	2	20	14	5	12
玄武岩					2				7							1						
安山岩			28		168	1		367	220	488	182	392	339	456	282	300	512		4	3	7	5
デイサイト			19		21			5	9	22	2	2	2	24	67	45	9		247	46	2	13
変質火山岩類	12	4	110	2	42	2	1	11	14	12	10	5	10	7	12	9	13	6	13	22	7	8
緑色変質火山岩類			2																			
花崗岩類	93	94	199	219	19	402	203	2		6	7	3	2	2	17	4		99	8	69	49	90
ホルンフェルス	2		22				7	1			1	5								2		
片岩	3		7													2						
変成岩類							1															
砂岩	2		25		1		5				1	1			1			1				1
泥岩	66	2	67		8		7			7	2	4	4	8	2	8	6		1	3	3	2
珪質岩	13		16						4	1	4	7	3				2			4	2	
炭酸塩岩																						
火山ガラス-無色	2		1	+	11			1	22	3	6	6	8	3	3	1	1		2	9	1	3
火山ガラス-褐色																		1		1		
変質岩石	7	2	25	1	11	3	3	2	1	11	5	1	5				2	4	2	1	5	
変質鉱物	13	2	15	30	14	8	3	6	12	6	13	18	4	3	1	10	4	12	9	9	13	14
泥質ブロック	3	7	3	12	48	1		130	20		19	22	9	9	3	7	2	23	20	48	12	14
クリストバライト？															1	1						
その他																						
赤褐色粒子	13	3	22	72	28	6	3	8	11	3	8	18	50	13	11	27	3	14	5	24	18	32
マトリクス	1493	1662	1291	1441	1377	1268	1282	1231	1539	1232	1525	1405	1418	1271	1275	1393	1345	1433	1246	1424	1621	1502
合計	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000
石英波動消光	++	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		+		+	++		+	+	+
石英溝澄			+		+			+		+		+			+	+			+	+		
石英融食			+												+	+		+	+	+		
パーサイト	+									+				+	+	+		+		+	+	+
マイクロクリン							+			+										+		+
ﾏｲｸﾛｸﾘﾝﾊﾟｰｻｲﾄ																				+		
玄武岩の斑晶鉱物					o!											o!						
安山岩の斑晶鉱物			opx		opx,cpx			opx,cpx	opx,cpx	opx,cpx	opx,cpx	opx,cpx	opx,cpx	opx,cpx	opx,cpx	opx,cpx	opx,cpx					cpx
									o!		o!	o!		H		o!						
デイサイトの斑晶鉱物			O		cpx,opx			opc		H,opc				H,opx, cpx,opc	H,oxyH, opx,opc	H,oxyH, cpx	opx,opc		H,oxyH opx,cpx bQ	H,oxyH opx,cpx bQ	O	H,oxyH, opx,O
変質火山岩類岩質	AD	AD	AD,D	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD,D	AD	AD	AD	AD	AD,D	AD	AD,D	AD,D	AD,D	AD,D	AD	AD
花崗岩類含有鉱物	B	H,B	M,B			H	M,B				M,H	H						B		H	B	B,H
ﾏｲｸﾛｸﾞﾗﾌｨｯｸ組織																					+	
火山ガラス形態	B		C	A'	B,C			B	B>>C	B	B	B,C,F	A,B,C	C,F	B	F	B	B	B	B,C	B	A',B
植物珪酸体	+	+	+	+	+	+		+	++	+	+	++	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
植物遺存体							+	+										+			+	+

鉱物：Ｂ黒雲母、Ｍ無色雲母、Ｈ角閃石、ｏｘｙＨ酸化角閃石、ｃｐｘ単斜輝石、ｏｐｘ斜方輝石、ｏ！カンラン石、ｏｐｃオパサイト、ｂＱβ型外形石英、Ｏ石英
変質火山岩類：ＡＤ安山岩質～デイサイト質、Ｄデイサイト質
火山ガラス形態：Ａ気泡型平板状、Ａ'気泡型Ｙ字状、Ｂ塊状、Ｃ中間型、Ｄ中間型管状、Ｅ軽石型繊維状、Ｆ軽石型スポンジ状



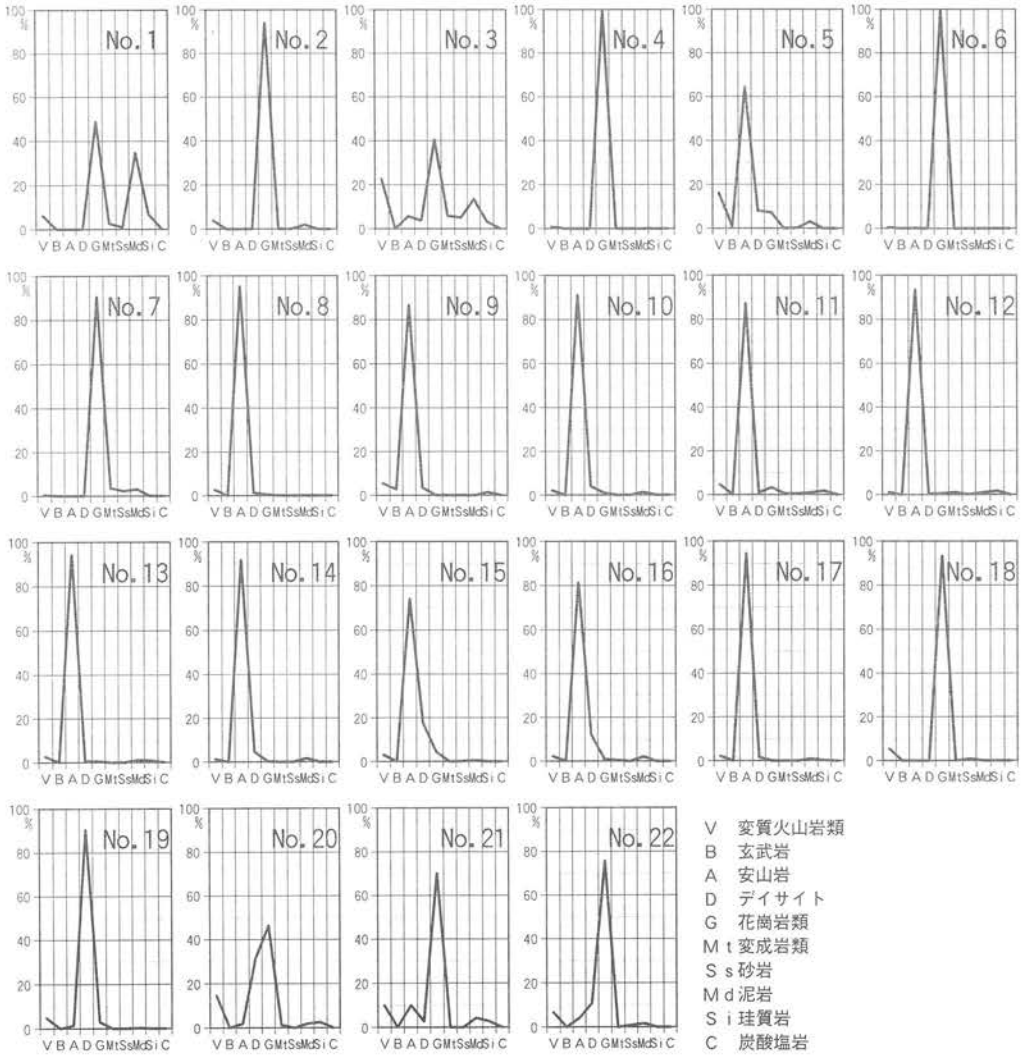
第237図　土器胎土の岩石鉱物組成

釜無川河川砂とともにクラスター４に属する。花崗岩類地域に産地が推定される。

No.3は、花崗岩類が卓越し、変質火山岩類・泥岩などがこれに続き、ホルンフェルス・砂岩・安山岩・デイサイトなど多様な岩石種が含まれ、重鉱物組成では黒雲母が多く、単斜輝石・角閃石・緑簾石を伴う。第11表ではＧ－ｖ群、第239図では釜無川河川砂とともにクラスター３に属する。緑色変質火山岩類が検出されたことなど釜無川流域地質の特徴と類似性が極めて高いことから、これらの地域がNo.3の産地の最有力候補として推定される。

No.5は、安山岩・斜長石の多産、および単斜輝石・斜方輝石から構成される重鉱物組成とで特徴づけられる。岩石としては、変質火山岩類・デイサイト・花崗岩類などがわずかに含まれる。第11表ではＡ－ｖ群、第239図では八ケ岳南麓河川砂や柳坪遺跡曽利式土器などとともにクラスター９に属する。八ケ岳南麓において在地的土器とすることもできるが、花崗岩類など八ケ岳南麓において異質の岩石が少量含まれていることから中間組成の土器と考えておきたい。

平出３Ａ式　(No.7)



第238図　岩石組成折れ線グラフ

第11表　岩石組成折れ線グラフによる土器の分類

分類	折れ線グラフの特徴		試料番号
A群	安山岩の第1ピーク	顕著な第1ピーク	8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 17
A-v群		変質火山岩類の第1ピーク	5
A-d群		デイサイトの第2ピーク	15, 16
D群	デイサイトの第1ピーク	顕著な第1ピーク	19
G群	花崗岩類の第1ピーク	顕著な第1ピーク	2, 4, 6, 7, 8
G-v群		変質火山岩類の第1ピーク	3
G-d群		デイサイトの第2ピーク	20, 21, 22
G-md群		泥岩の第2ピーク	1

含砂率は、35.8%であり、赤褐色粒子は少ない。岩石鉱物組成では、石英・カリ長石・斜長石・花崗岩類から主として構成され、重鉱物組成では黒雲母が卓越して無色雲母・角閃石を伴う。第11表ではG群、第239図ではクラスター4に属する。黒雲母・無色雲母が花崗岩類に含まれること、圧砕された細粒の石英からなるマイロナイト様の変成岩がわずかながら検出されることなどの特徴が認められる。これらの特徴は、山梨県内ではほとんどみられず、中央構造線地域などでの特徴である可能性が予想される。平出3A式の分布の中心は、長野県内にあることから今回の分析結果は

これと調和的である。長野県内などからの搬入土器の可能性が高い。

新道式　(Nos.8,9,10,12,17,20)

含砂率は試料ごとに22.5～38.3％とかなり多様である。赤褐色粒子はわずかである。

Nos.8,9,10,12,17は、安山岩の卓越で特徴づけられ、これに斜長石が続き、重鉱物では単斜輝石が優勢で斜方輝石・角閃石・カンラン石・不透明鉱物が伴う。安山岩は、斑晶鉱物として単斜輝石・斜方輝石のほかカンラン石を伴う。これらの試料は、第11表ではA群、第239図では遺跡周辺の泉川・甲川河川砂とともにクラスター9に属する。八ケ岳南麓河川砂との類似性が極めて高いことからNos.8,9,10,12,17は、在地的土器であると考えられる。

No.20は、斜長石・石英・花崗岩類・デイサイトで特徴づけられ、重鉱物組成では角閃石・黒雲母・不透明鉱物が多く、酸化角閃石・斜方輝石・単斜輝石を伴う。第11表ではG－d群、第239図では荒川・塩川河川砂などとともにクラスター7に属する。甲府盆地内では花崗岩類・デイサイトが分布している黒富士火山周辺の荒川・塩川流域が産地候補として考えられるが、県外の同様の地質地域から搬入された可能性も否定できない。

藤内～新道式　(No.18)

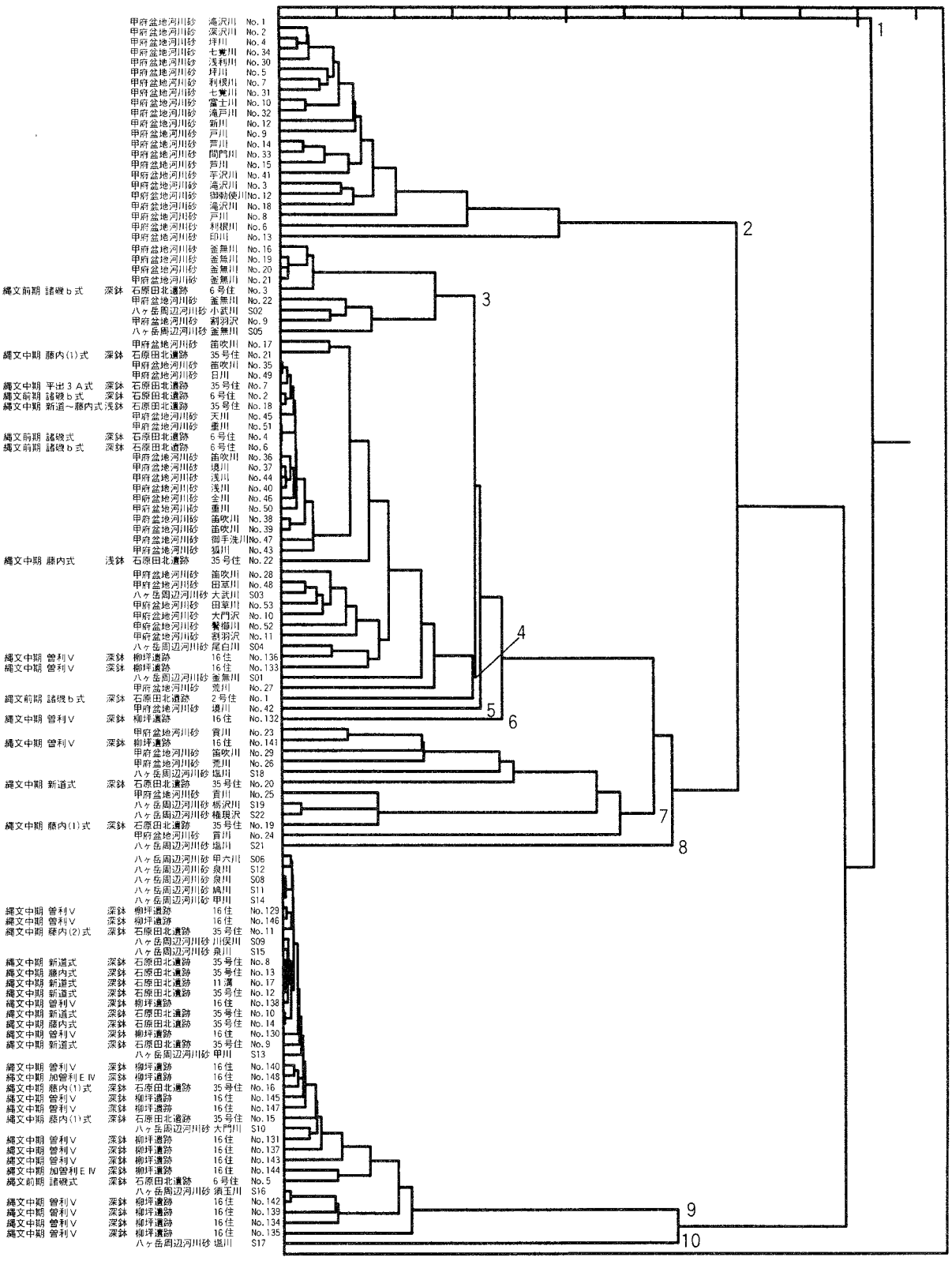
含砂率は、27.7％である。岩石鉱物組成では、花崗岩類とその構成鉱物である斜長石・石英・カリ長石および重鉱物が多い特徴が顕著である。重鉱物組成では、ほとんどが黒雲母から構成される。第11表ではG群、第239図ではクラスター4に属する。花崗岩地域に産地が推定される。

藤内式　(Nos.11,13,14,15,16,19,21,22)

Nos.11,13,14,15,16は、安山岩の卓越で特徴づけられる。重鉱物組成では単斜輝石が優勢で、斜方輝石・角閃石・不透明鉱物・カンラン石などを伴う。なおNos.15.16では岩石鉱物組成中にデイサイトを7.8～9.4％程度含む。Nos.11,13,14は、第11表でA群、第239図ではクラスター9に属し、八ケ岳山麓河川砂との類似性が高いことから在地的土器と考えられる。Nos.15.16は、第11表でA－d群、第239図ではクラスター9に属する。Nos.15.16は、デイサイトが少量含まれ、柳坪遺跡の中間組成土器や在地的土器と類似性が高いことから、隣接する塩川流域の地質的要素を含む中間的組成の土器で、八ケ岳南麓の東側の地域に産地が推定される。

No19は、デイサイトで特徴づけられる。デイサイトは、多孔質で一部繊維状のガラス質石基をもち、角閃石・酸化角閃石・斜方輝石・単斜輝石・斜長石・β型（高温型）石英などの斑晶を伴う。第11表でD群、第239図ではクラスター7に属する。デイサイトの岩石学的特徴が黒富士火山のものと類似性が高いことから、No.19の産地は塩川・荒川流域の黒富士火山を中心としたデイサイト地域に推定される可能性が高い。

Nos.21,22は、花崗岩類と石英・斜長石わずかなデイサイト・安山岩などで特徴づけられ、重鉱物組成では角閃石が多く、単斜輝石・黒雲母・酸化角閃石・不透明鉱物などが含まれる。第11表ではNo.21がG－v群にNo.22がG－d群に、第239図では笛吹川河川砂No.17とともに両者がクラスター4に属する。若干含有率の相違があるが両者は類似性が高い。酸化角閃石やデイサイトが伴うことから塩川や荒川などデイサイト地域の影響が若干認められる花崗岩地域に産地が推定される。



第239図　土器のクラスター分析樹形図

5．八ケ岳南麓における土器製作の開始について

今回の分析で、新道～藤内式期では、肉眼観察結果と同様に安山岩を多く含む在地的土器および中間組成土器が多く確認された。周辺地域内部における土器の移動は当然想定されるものの、曽利式期と同様に、八ケ岳南麓地域において地元の材料を用いた土器が縄文中期中葉において継続的に製作されていた状況が推定される。また新道～藤内式期の搬入土器の産地が、八ケ岳南麓地域に隣

接した花崗岩類地域やデイサイト地域に推定されることは、八ヶ岳周辺において土器の移動距離が比較的小さい曽利式期の特徴ときわめて類似性が高い。曽利式土器ほどのデータ蓄積はないものの、本遺跡の結果によって、曽利式期の土器の生産や移動に関する類似した状況が新道～藤内式期にまでさかのぼる可能性が考えられる。

本遺跡における諸磯式期唯一の6号竪穴では、肉眼観察結果と同様に花崗岩類地域に産地が推定される搬入土器が大部分を占め、八ケ岳山麓において製作されたと推定される在地的土器はNo.5のみであった。この縄文前期後半の状況は縄文中期とは明らかに異なっている。

伊豆諸島において、三宅島西原遺跡・神津島上の山遺跡・式根島ヘリポート遺跡などから出土した諸磯b・c式土器の胎土分析により、花崗岩類を多量に含む土器が大部分を占め、分析試料のほとんどが搬入土器であることが明らかにされている（清水,1977、古城,1978、今村,1980）。また西原遺跡の土器は、諸磯b式新段階・c式古段階とも中部高地のものと型式的にほとんど区別できないとされ（今村,2000）、きわめて広域にわたるこの時期の土器の移動が明らかになっている。

古城（1981）は、関東地方の諸磯b式および浮島式土器の胎土分析を広域に行っていて、関東地方の諸磯b式土器では片岩・チャート・堆積岩・流紋岩・安山岩などが多い特徴がある。また関東地方で出土する花崗岩類が卓越する土器は、出土がまれであり、ほとんどが搬入土器と推定されている。さらに古城は、片岩に注目した場合土器の長距離移動がふつうにあったと推定している。

松田（1997）は、桐生市三島台遺跡の諸磯式土器を胎土分析し、堆積岩・凝灰岩・花崗岩類・安山岩などが含まれる土器を在地的とし、片岩を含む土器を搬入土器とした。また松田（2000）は、神奈川県伊勢原市坪ノ内・宮ノ前遺跡出土の諸磯b式土器の胎土分析を行い、花崗岩類が卓越する1点と片岩を含む2点を搬入土器、泥岩・砂岩などの堆積岩と変質火山岩類で特徴づけられる6点を在地的土器と推定した。これら神奈川県中部～東部地域の在地的土器胎土の特徴は、相模野台地上の早期野島式や後期堀之内式の在地的土器組成など各時期を通じて共通性が高い傾向が認められる（阿部・河西,1994；河西,1995,1999）。

パリノ・サーヴェイ（2000）は、甲府盆地内境川村諏訪尻遺跡の諸磯b式土器などを分析し、角閃石・黒雲母・花崗岩類で特徴づけられる在地的土器、比較的新鮮な角閃石からなりデイサイト地域に産地が推定される土器、および花崗岩類・片麻岩地域からの搬入土器などを明らかにしている。

以上のことから、諸磯式土器の胎土組成は、関東地方を中心として巨視的にみると地域的な特徴を示しているといえる。胎土中に花崗岩類が卓越する諸磯式土器は、関東地域において一般的なものではないことから、中部高地において特徴的なものと考えられる。諸磯式期の土器は、長距離移動したものが認められることから、本遺跡出土の諸磯式土器は中部高地内の花崗岩類分布地域で製作されたものが八ケ岳山麓に搬入されたものと解釈される。静岡県東部地域の曽利式土器においても甲府盆地・八ケ岳山麓地域出土土器胎土と類似性の高い土器が多く検出されることから土器の遠距離移動が推定されている（増島,1994）。しかし、八ケ岳山麓における土器の製作と移動に関しては、曽利式期と諸磯式期とでは状況が異なる。

諸磯b式期の主要遺跡の分布は、八ケ岳南西麓の安山岩を主体とする火山岩地域では、大泉村天神遺跡・御所遺跡・長坂町酒呑場遺跡・富士見町机原遺跡・原村阿久遺跡などがある。甲府盆地東

部の花崗岩類分布地域では、勝沼町一宮町釈迦堂遺跡・塩山市獅子之前遺跡・御坂町八代町花鳥山遺跡・境川村一の沢遺跡・寺平遺跡など分布密度が高い。釜無川流域の白州町西之久保遺跡は、甲斐駒ケ岳岩体の花崗岩類分布地域に属する。諏訪市十二ノ后遺跡は主として安山岩から構成された塩嶺累層の分布する守屋山系の北東麓に位置しているが諏訪盆地の対岸には花崗岩類（茅野岩体）が分布している。塩尻市鳥屋敷遺跡は、松本盆地南部の花崗岩類（松本岩体）分布地域に位置する。大町市上原遺跡・松川村有明山社遺跡は、松本盆地北部飛騨山地（北アルプス）に分布する花崗岩類地域に位置する。これらのことから石原田北遺跡出土の花崗岩類で特徴づけられる諸磯ｂ式土器の産地の候補地として、甲府盆地東部地域、甲斐駒ケ岳周辺の釜無川流域、諏訪盆地周辺、松本盆地南部地域、および松本盆地北部地域の５地域が現在のところ考えられる。

なお、石原田北遺跡の諸磯ｂ式土器に少数ながらも在地的土器が確認されたことから、八ケ岳山麓における在地的土器の生産の開始が諸磯式期にまでさかのぼる可能性もでてきた。今後八ケ岳山麓の同時期遺跡に関するデータの蓄積を待って検討する必要がある。

６．おわりに

縄文前期諸磯式土器においては、ほとんどが花崗岩類で特徴づけられる搬入土器からなり、八ケ岳南麓における在地的土器はきわめて少数であることがわかった。縄文中期の新道～藤内式土器では、在地的土器がきわめて多く、曽利期の在地的土器の保有率に匹敵することから、八ケ岳南麓における土器製作がすでに本格化していたと推定される。

（河西学）

文献

阿部芳郎・河西　学（1994）綾瀬市上土棚遺跡出土の縄文後期土器の胎土分析。綾瀬市史研究、創刊号、21-52。

今村啓爾（1980）胎土中の岩石、鉱物からみた土器の製作地。『伊豆七島の縄文文化』,武蔵野美術大学考古学研究会、34-39。

今村啓爾（2000）諸磯ｃ式の正しい編年。上曜考古、24、93-128。

河西　学（1990）大和田第3遺跡出土縄文土器の胎土分析。『大和田第3遺跡』,大泉村埋蔵文化財調査報告書、8、19-29。

河西　学（1992）岩石鉱物組成からみた縄文土器の産地推定―山梨県釈迦堂遺跡・郷蔵地遺跡・柳坪遺跡の場合―。帝京大学山梨文化財研究所研究報告、4、61-90。

河西　学（1995）市兵衛谷遺跡第Ⅱ群土器の胎土分析。『市兵衛谷遺跡・新道遺跡』,綾瀬市埋蔵文化財調査報告、4、89-108。

河西　学（1997）社口遺跡出土土器の胎土分析。社口遺跡第３次調査報告書、、201-207。

河西　学（1999）綾瀬市上土棚南遺跡出土縄文後期土器の胎土分析。綾瀬市史研究、6、13-43。

河西　学（1999）土器産地推定における在地―岩石学的胎土分析から推定する土器の移動―。帝京大学山梨文化財研究所研究報告、9、285-302。

河西学・櫛原功一・大村昭三（1989）八ヶ岳南麓地域とその周辺地域の縄文時代中期末土器群の胎土分析。帝京大学山梨文化財研究所研究報告、第1集、1-64。

古城　泰（1978）伊豆諸島出土土器の製作地について。くろしお、3、1-5。

古城　泰（1981）縄文土器の遺跡間移動（英文）。人類学雑誌、89（1）、27-54。

松田光太郎（1997）群馬県渡良瀬川中流域における縄文土器の胎土分析―桐生市三島台遺跡出土の縄文前期土器の偏光顕微鏡観察―。神奈川考古、33、33-47。

松田光太郎（2000）坪ノ内・宮ノ前遺跡（No.17）出土縄文土器の胎土分析。『坪ノ内・宮ノ前遺跡（No.16・17）』、かながわ考古学財団調査報告、77、491-501。

増島　淳（1994）曽利Ⅴ式（連八紋）土器の胎土分析－静岡県東部地域及び山梨県出土土器を中心とした－。沼津市博物館紀要、18、21-46。

パリノ・サーヴェイ（2000）縄文土器（前期後半）の胎土分析。『諏訪尻遺跡』、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書、第180集、111-115。

清水芳裕（1977）岩石学的方法による土器の産地同定 －伊豆諸島の縄文・弥生土器－。考古学と自然科学、10、45-51。

第２節　石原田北遺跡から出土した炭化種実

１．はじめに

石原田北遺跡は、山梨県北巨摩郡長坂町大八田字石原田166他に所在し、縄文時代中期前葉・平安（10世紀前半・11世紀末～12世紀初）・中世を主体とした遺跡である。ここでは、竪穴、ピットなどから出土した炭化種実を検討し、遺跡周辺の栽培・利用状況および古植生の推定を試みた。

２．出土した炭化種実

炭化種実の検討は、１～43の合計43試料について行った。これら各試料から出土した炭化種実の一覧を表12および表13に示した。なお、炭化材、不明炭化物など炭化種実として同定し得るものを全く含んでいなかった試料は空欄となっている。出土した分類群を以下に示す。

木　本：オニグルミ、キイチゴ属

草　本：イネ、オオムギ、コムギ、ヒエ、アワ、ヒエ-アワ、オヒシバ、カヤツリグサ属、サナエタデ近似種、タデ属、シロザ近似種、ヒユ属、スベリヒユ、ササゲ属、マメ科、カタバミ属、エノキグサ、ニシキソウ近似種

その他：菌核

３．考　察

出土したもののうち、イネ、オオムギ、コムギ、ヒエ、アワ、ヒエ－アワは栽培植物である。イネ、アワは平安時代試料、中世？試料のいずれからも出土している。オオムギ、コムギは中世？試料のみで、またヒエ、ヒエ－アワは平安時代試料のみで出土している。タデ属(試料３)、ササゲ属、マメ科は、栽培植物の可能性があり、平安時代試料のみから出土している。タデ属炭化果実は、イネ、ムギ、キビ族などの穀類と共に遺跡からしばしば出土することから、これら穀類と共に栽培されていた可能性が考えられる分類群であり、本遺跡では、イネと共に出土した。ササゲ属はアズキ、リョクトウなどの栽培植物を含む分類群であるが、出土種子はそこまでの同定には至らなかった。マメ科は、発泡が著しく、これ以上の同定には至らなかったが、ササゲ属が出土していることから、その可能性が考えられる。オニグルミ、キイチゴ属は、食用となる利用植物であり、オニグルミは縄文時代中期試料のみ、キイチゴ属は中世？試料のみで出土している。キイチゴ属は、果実が生食可能な漿果類であるが、炭化して出土することは珍しいと思われ、何か利用法と関連があるのかもしれない。その他は、ほぼ雑草と考えられ、オヒシバ、シロザ近似種、ヒユ属、スベリヒユ、カタバミ属、エノキグサ、ニシキソウ近似種など、概ね路傍ないし畑地のようなやや乾き気味の所に生育する分類群である。

表12　大型植物化石一覧表

番号	遺構名	層位	時代	分類群名
1	2竪穴	竈覆土2層	平安	アワ, マメ科
2	2竪穴	竈覆土3層(灰層)	平安	ヒエ, アワ, ヒエ-アワ, マメ科, 菌核
3	3竪穴	竈覆土3層	平安	イネ, タデ属, スベリヒユ
4	4竪穴	竈覆土(4･5層)	平安	
5	5竪穴	竈覆土	平安	
6	20竪穴	炉覆土②	縄文中	オニグルミ
7	20竪穴	炉覆土③	縄文中	オニグルミ
8	23竪穴	竈周辺覆土(灰層)	平安	アワ, カヤツリグサ属, タデ属, シロザ近似種, 菌核
9	24竪穴	竈覆土4層	平安	イネ, コムギ, シロザ近似種, ササゲ属, カタバミ属, 菌核
10	24竪穴	竈周辺床面直上層	平安	シロザ近似種, 菌核
11	35竪穴	炉覆土	縄文中	
12	35竪穴	竈周辺床面直上層	縄文中	コムギ, シロザ近似種, エノキグサ
13	35竪穴	No.625遺物内	縄文中	
14	35竪穴	No.626遺物内	縄文中	オニグルミ
15	35竪穴	No.879遺物内	縄文中	オヒシバ, 菌核
16	16溝	覆土4層	中近世	イネ, コムギ, シロザ近似種, スベリヒユ, エノキグサ, 菌核
17	ピット95	覆土1層	中世か	シロザ近似種, スベリヒユ, 菌核
18	ピット95	覆土3層	中世か	キイチゴ属, イネ, 菌核
19	ピット96	覆土1層	中世か	コムギ, カヤツリグサ属, シロザ近似種, スベリヒユ エノキグサ, 菌核
20	ピット96	覆土2層	中世か	コムギ, カヤツリグサ属, サナエタデ近似種, シロザ近似種 スベリヒユ, カタバミ属, 菌核
21	ピット96	覆土6層	中世か	菌核
22	ピット96	覆土7層	中世か	コムギ, 菌核
23	ピット98	覆土2層	中世か	カヤツリグサ属, シロザ近似種, 菌核
24	ピット135	覆土1層(西)	中世か	シロザ近似種, 菌核
25	ピット136	覆土3層	中世か	シロザ近似種, エノキグサ, 菌核
26	ピット136	覆土4層	中世か	カヤツリグサ属, スベリヒユ, 菌核
27	ピット141	覆土4層	中世か	オオムギ, 菌核
28	ピット142	覆土2層	中世か	オオムギ, シロザ近似種, スベリヒユ, 菌核
29	ピット156	覆土1層	中世か	シロザ近似種, スベリヒユ, エノキグサ, 菌核
30	ピット157	覆土1層	中世か	コムギ, シロザ近似種, 菌核
31	ピット157	覆土3層	中世か	コムギ, シロザ近似種, 菌核
32	ピット158	覆土1層	中世か	イネ, オオムギ, コムギ, シロザ近似種, 菌核
33	ピット158	覆土6層	中世か	コムギ, シロザ近似種
34	ピット161	覆土3層	中世か	シロザ近似種, スベリヒユ, エノキグサ, 菌核
35	ピット162	覆土2層	中世か	オオムギ, アワ, シロザ近似種, スベリヒユ, 菌核
36	ピット165	覆土3層	中世か	ニシキソウ近似種
37	ピット166	覆土1層	中世か	カヤツリグサ属
38	ピット167	覆土4層	中世か	コムギ, シロザ近似種, ヒユ属, スベリヒユ, 菌核
39	ピット167	覆土7層	中世か	コムギ, シロザ近似種
40	ピット177	覆土2層	中世か	イネ, カヤツリグサ属, シロザ近似種, スベリヒユ カタバミ属, エノキグサ, ニシキソウ近似種, 菌核
41	ピット	覆土1層	不明	オオムギ, スベリヒユ, 菌核
42	ピット	覆土3層	不明	菌核
43	7竪穴		平安	

表13（その１）　大型植物化石一覧表　数字は個数、（　）内は半分ないし破片の数

分類群名	部位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
オニグルミ	炭化核						(7)	(1)							(3)								
キイチゴ属	炭化核																		2				
イネ	炭化胚乳			(1)						2(3)							1		1(1)				
オオムギ	炭化胚乳																						
コムギ	炭化胚乳									1			1				1			2	1		1
ヒエ	炭化胚乳		1																				
アワ	炭化胚乳	6	3						3														
ヒエ-アワ	炭化胚乳		2																				
オヒシバ	炭化種子															1							
カヤツリグサ属	炭化果実								1											5			
サナエタデ近似種	炭化果実																				2(1)		
タデ属	炭化果実			1					3														
シロザ近似種	炭化種子								2(1)	1	1		1				5(1)	211(51)		10(1)	385(9)		
ヒユ属	炭化種子																						
スベリヒユ	炭化種子			1													1(1)	2		82(1)	296		
ササゲ属	炭化種子									(3)													
マメ科	炭化種子	2(6)	1																		1		
カタバミ属	炭化種子									1													
エノキグサ	炭化種子												1(1)				(1)			1			
ニシキソウ近似種	炭化種子																						
菌核			3						75	1	1					1	277	103	2	60	83	47	9

表13（その２）　大型植物化石一覧表　数字は個数、（　）内は半分ないし破片の数

分類群名	部位	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	
オニグルミ	炭化核																						
キイチゴ属	炭化核																						
イネ	炭化胚乳										1								1				
オオムギ	炭化胚乳					1	1				1			1						1			
コムギ	炭化胚乳								1	1	1	1					1	2					
ヒエ	炭化胚乳																						
アワ	炭化胚乳													1									
ヒエ-アワ	炭化胚乳																						
オヒシバ	炭化種子																						
カヤツリグサ属	炭化果実	2			1											23			4				
サナエタデ近似種	炭化果実																						
タデ属	炭化果実																						
シロザ近似種	炭化種子	3(3)	7(4)	1(1)			33(4)	8	9	2(5)	38(2)	1	3(1)	9(4)			6(1)	3	50(4)				
ヒユ属	炭化種子																1						
スベリヒユ	炭化種子				1		3	5					1	8(8)			40		3	2			
ササゲ属	炭化種子																						
マメ科	炭化種子																						
カタバミ属	炭化種子																		1				
エノキグサ	炭化種子			1				14					1						5(2)				
ニシキソウ近似種	炭化種子														2				1				
菌核		9	1	4	1	1	22	20	36	60	1		10	156			55		274	3	4		

4．主な炭化種実の形態などの記載

オニグルミ　Juglans ailanthifolia Carr. 炭化核

いずれの試料から出土した核も1個分に満たないような細かな破片である。

ヒエ　Echinochloa crus-galli P.Beauv. var. fumentacea Trin. 炭化胚乳

胚乳は扁平で胚の長さは果長の2/3程度。臍はうちわ型。

アワ　Setaria italica Beauv. 炭化胚乳

胚部分の長さは果長の2/3程度。状態が悪く、臍は不明瞭である。胚乳の概形は、全体的に丸こくて厚みがあり、先端部はやや平らな円形か中央部がへこみ、まずアワとしてよいと思われる。状態があまりにも悪く、ヒエかアワか区別し得なかったものはヒエ－アワとした。

カヤツリグサ属　Cyperus 炭化果実

三稜形で長さ約1.2～1.3㎜、幅約0.4～0.5㎜。

タデ属　Polygonum 炭化果実

試料3から出土した果実は、断面が丸みを帯びた二面形で長さ約1.6㎜、幅は発泡しており不明。試料8から出土した果実は、扁平な二面の倒卵形。

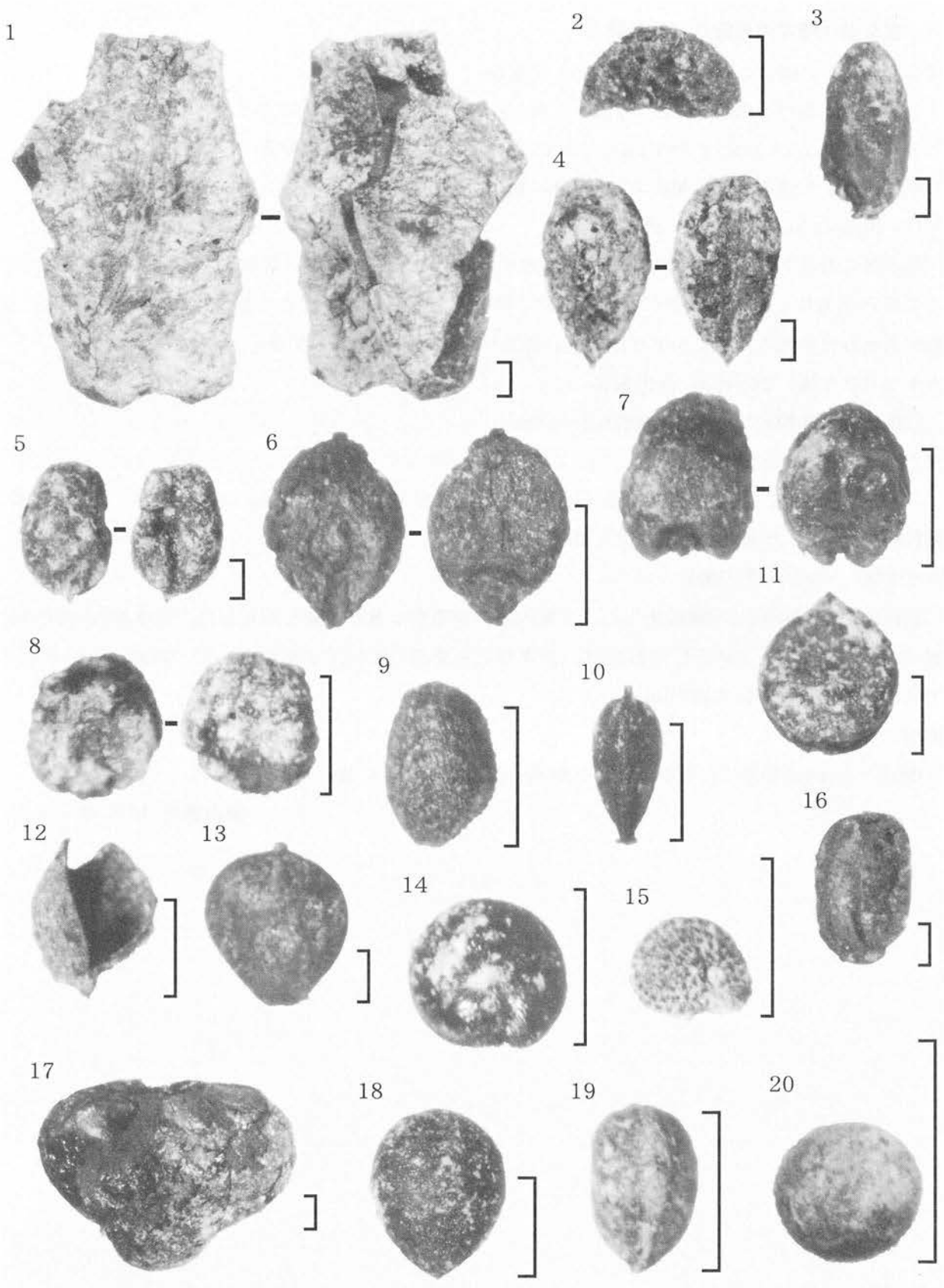
ササゲ属　Vigna 炭化種子

試料9から半割種子が3個出土した。子葉内面の形態からササゲ属と同定した。長さ約3.8～4.4㎜、幅約2.3～2.8㎜。マメ科としたものは、あまりにも発泡していて状態が悪いが、概形からおそらくマメ科と思われる。長さ約7.0㎜。

菌核

径0.3～1.0㎜の球形で仁丹状。腐った樹木の表面などに付く菌の集合。

新山雅広（パレオ・ラボ）



図版1　出土した炭化種実（スケールは1㎜）

1．オニグルミ、炭化核、試料14　2．キイチゴ属、炭化核、試料18　3．イネ、炭化胚乳、試料9　4．オオムギ、炭化胚乳、試料32　5．コムギ、炭化胚乳、試料19　6．ヒエ、炭化胚乳、試料2　7．アワ、炭化胚乳、試料1　8．アワ、炭化胚乳、試料2　9．オヒシバ、炭化種子、試料15　10．カヤツリグサ属、炭化果実、試料37　11．サナエタデ近似種、炭化果実、試料20　12．タデ属、炭化果実、試料3　13．タデ属、炭化果実、試料8　14．シロザ近似種、炭化種子、試料17　15．スベリヒユ、炭化種子、試料29　16．ササゲ属、炭化種子、試料9　17．マメ科、炭化種子、試料1　18．エノキグサ、炭化種子、試料29　19．ニシキソウ近似種、炭化種子、試料36　20．菌核、試料40

第３節　石原田北遺跡7号竪穴から出土した炭化材の樹種同定

１．はじめに

山梨県北巨摩郡長坂町大八田166他に所在する当遺跡の平安時代の遺構である７号竪穴住居跡から出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。

同定依頼を受けた試料は一括して取り上げられた複数の破片ではあるが、建築材として使用されていた一部と考えられる。これらの炭化材の樹種を明らかにすることは、平安時代に当地域ではどのような樹種が住居建築材として利用されていたのかを知るためのひとつの資料となる。

２．炭化材樹種同定の方法

当遺跡の炭化材の破片にはいくつかの形状の違いがあり、複数の種類が含まれている可能性があった。そこで、実体顕微鏡で炭化材の横断面を観察しておおまかに分け、次にそれぞれから代表的な破片や確認を必要とする炭化材を抽出し、材組織を走査電子顕微鏡で拡大し組織学的に同定を決定した。走査電子顕微鏡用の試料は、３断面を５㎜角以下の大きさに整え、直径１cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

３．結　果

樹種同定の結果を以下の表に示す。

表14　石原田北遺跡７号竪穴(平安時代住居跡)出土炭化材の樹種同定結果

遺　構	樹　種	備　　考
７号竪穴	ヒノキ	薄板状の破片多数 横断面は年輪線が斜めに断たれており、加工片の可能性があるのではないか？
７号竪穴	クスノキ科	直径1cmの丸木 小型管孔からなり、クスノキ･タブノキ以外の樹種
７号竪穴	ウコギ属	小破片
７号竪穴	草本性イネ科	直径約8mmの稈が同一方向に集積して出土 ススキ属やチガヤ属の可能性が高い。

植田弥生（パレオ・ラボ）

第4節　石原田遺跡出土獣骨の鑑定

はじめに

石原田北遺跡の発掘調査では、縄文時代中期前半頃の集落跡、平安時代の集落跡、中世の建物跡や墓などが確認されている。平安時代の遺構面では、古代以降と考えられる、動物骨を覆土中に伴う土壙が検出されている。今回の調査では、出土した動物骨の鑑定を行い、種類・部位を特定すると同時に遺構の性格に関する検討を行う。なお、動物骨の鑑定は、早稲田大学金子浩昌先生にお願いした。

1．試　料

試料は、ピット135、ピット141、ピット163の3基の土坑内覆土から出土した動物骨である。

2．分析方法

試料を肉眼観察し、その形態的特徴から種類および部位を同定する。

3．結　果

結果を表1に示す。ピット135・141・163から出土した動物骨はすべてウマに同定された。

脊椎動物門　Phylum　Verterrata
哺乳綱　Class　Mammalia
奇蹄目　Order　Perissodactyla
ウマ科　Family　Equidae
ウマ属　Genus　Equus
ウマ　Equus caballus

4．考　察

ピット135の獣骨は、ウマの下顎切歯、下顎臼歯・上顎臼歯に同定された。同一部位の歯が存在しないこと、上・下顎歯が合わさった状態で出土していることからみて、本土壙出土の歯は同一個体に由来するものと判断される。このほか、部位が特定できないが骨片が認められることから、頭部だけが存在したのではなく、全体が存在したが経年変化の過程で分解消失した可能性がある。すなわち、本土壙には馬一体分が埋葬されていた可能性がある。土壙の大きさからみて、通常の状態での埋葬は考えにくいが首の部分で折り曲げて埋葬したとすれば充分に土壙内に収まるものと思われる。

ピット141の獣骨は、ウマの切歯、下顎歯・上顎歯に同定された。このうち、切歯は遺存状態が悪く、上顎・下顎の判断ができなかった。本土壙の歯についてもピット135と同様に埋葬されたウマの骨のうち、経年変化の過程で歯だけが残存した可能性が考えられる。

ピット163の獣骨は、上記同様ウマの左下顎歯列が認められた。ピット135・141のようにすべて

の歯が揃っているわけではないが、遺構上部が後世の撹乱の影響を受けており、切られている可能性があることから、本土壙についても同様に埋葬施設としての利用が考えられる。

以上、現時点で明らかとなってきている情報に基づいて土坑の性格などについて検討したが、ウマの性別・年齢に関しては検討の余地がある。これらの点については、今後の調査の中で考古学的調査成果を含めて総合的に評価するようにしたい。

パリノ・サーヴェイ株式会社

表15　骨同定結果表

遺構名	取り上げ番号	種別	部位	計測値(mm) l(長さ)	b(厚さ)	h(高さ)	備考
ピット135	－	ウマ	下切歯 I_1	－	－	－	
	－		下切歯 I_2	－	－	－	
	①		下顎歯 左 P_2	31.77	14.94	48.51	同一個体。
			下顎歯 左 P_3	28.67	16.37	－	
			下顎歯 左 P_4	26.77	14.68	78.34±	
			下顎歯 左 M_1	25.64	14.10	71.94±	
			下顎歯 左 M_2	25.92	13.42	－	
			下顎歯 左 M_3	28.35	11.77	－	
	②		下顎歯 右 P_2	－	－	－	
			下顎歯 右 P_3	－	－	－	
			下顎歯 右 P_4	－	－	－	
			下顎歯 右 M_1	－	－	－	
			下顎歯 右 M_2	－	－	－	
			下顎歯 右 M_3	－	－	－	
	③		上顎歯 左 P^2	36.46	24.76	52.51	
			上顎歯 左 P^3	28.18	17.17	65.94	
			上顎歯 左 P^4	26.62	24.29	73.91	
			上顎歯 左 M^1	25.31	24.65	69.02	
			上顎歯 左 M^2	25.20	24.78	73.61	
			上顎歯 左 M^3	23.52	20.72	－	
	④		上顎歯 右 P^2	－	－	－	
			上顎歯 右 P^3	－	－	－	
			上顎歯 右 P^4	－	－	－	
			上顎歯 右 M^1	－	－	－	
			上顎歯 右 M^2	－	－	－	
			上顎歯 右 M^3	－	－	－	
ピット141	①	ウマ	上顎歯 左 P^2	31.99	22.19	51.75	同一個体。
			上顎歯 左 P^3	27.25	27.07	60.33	
			上顎歯 左 P^4	26.57	24.76	64.27	
			上顎歯 左 M^1	23.57	24.76	55.72	
			上顎歯 左 M^2	24.91	23.28	63.09	
			上顎歯 左 M^3	22.89	19.72	60.63	
	②		下顎歯 右 P_2	－	－	－	
			下顎歯 右 P_3	－	－	－	
			下顎歯 右 P_4	－	－	－	
			下顎歯 右 M_1	－	－	－	
			下顎歯 右 M_2	－	－	－	
			下顎歯 右 M_3	－	－	－	
	③		下顎歯 左 P_2	29.99	14.58	41.70	
			下顎歯 左 P_3	27.64	19.18	63.11	
			下顎歯 左 P_4	26.15	25.97	69.90	
			下顎歯 左 M_1	25.33	16.44	67.28	
			下顎歯 左 M_2	23.08	13.17	67.16	
			下顎歯 左 M_3	27.73	11.64	－	
	④		上顎歯 右 P^2	－	－	－	
			上顎歯 右 P^3	－	－	－	
			上顎歯 右 P^4	－	－	－	
			上顎歯 右 M^1	－	－	－	
			上顎歯 右 M^2	－	－	－	
			上顎歯 右 M^3	－	－	－	
	－		切歯(6点)	－	－	－	遺存状態悪く、上・下顎不明。
ピット163		ウマ	左下顎歯列(5点)	－	－	－	

第Ⅵ章　若干の考察とまとめ

第１節　縄文中期の集落変遷と土器様相

１　縄文中期前半の竪穴と出土土器

ここでは中期前半の竪穴建物のうち土器を多く伴う5軒に関し、竪穴の特徴および土器群の分析をまとめておく。なお、時期細分については、記述順が逆になるが第２項に示す時期設定に基づくものとする。

(1) 12号竪穴

狢沢３期（６）、新道１期（12）などの破片が混じるが、復元個体である１～５・18は全て藤内１期で、重三角文類（口縁部文様帯に重三角区画文をもつ、５）、円筒形類（１・２・18）、ラッパ形類（3）、縦区画文類（４）がある。出土状況では、炉の可能性あるPit６中から１・４・５が、その他のピット中から２・３が出土し、住居廃絶直後と思われる土器群が藤内１期でまとまりをみせ、良好なセット関係を示している。

１・５の交互三角文（鋸歯状の三角文）中には三叉文があり、２の口縁部文様帯中にも認められる。新道２期の玉抱き三叉文からの変化であろう。４は４単位の小波状口縁をもつ縦区画文土器で、１箇所の波頂部から「し」状に垂下する抽象的な懸垂文をもつ土器である。隆線上に竹管押引文、パネルの一部にはキャタピラ文や円形刺突文をもち、口縁部文様帯中には印刻技法もみられ、縦パネル文類の土器の中でも藤内１期の特徴を示している。全体に三角押文施文は低調で、蛇行沈線化しているが、２には一部認められる。

なお本遺構は36号竪穴を切っているが、36号は新道2期を主とし、遺物面からの矛盾はない。

(2) 20号竪穴

竪穴は５～７本柱穴で、３回の建替えが想定されている。通常奥壁側に位置する１本の柱がなく、柱穴間をつなぐ周溝の形は逆五角形を呈している。炉は石が存在しないが、本来は石囲炉と推測されている。深鉢形では時期のわかる資料中、１・４～６・８・９・11・12・15・18は新道２期、２・３・10・14・22・34は藤内1期。出土状況では、Pit6 覆土上層から４が出土していることから、廃絶期を新道2期と推測しておく。

器形的には重三角文類（１・９・11～13)、円筒形類（２～６・８・14・18・22)、ラッパ形類(15)、素文（無文）類（７・20・21・25～27）がある。１は重三角文類で胴部は横区画のパネル文となり、大突起を頭部とする人体文１個と、その左右に山椒魚文をもつ。口縁部文様帯には三角押文はないが玉抱き三叉文をもち、口縁部文様帯以下のパネル中にも三角押文を多用し、玉抱き三叉文をもつものがあるなど、細部の技法には新道2期的な要素が強いため、一応新道2期としておく。山椒魚文は２単位で、図では影になっているのでわかりにくいが、展開写真および巻頭写真にあるように、腹部全体を大きく膨らませて半截竹管刺突文をうろこ状に施文するとともに、背筋を薄く表現して立体感をもたせ、頭部は双環で眼を表す、というようにリアルである。同様に眼を表現した例には釈迦堂遺跡ＳⅣ区53住（新道１期）がある。人体文は外側向きのミミズク把手を頭部とし、

体部は頸部文様帯に位置し、足を３本指で表現している。手は明確に表現していないものの重三角文の隆線を見立てているのであろう。体部は紡錘形で、昆虫、あるいは動物的であり、人間離れした体躯である。高さ77cm以上と中期前半においては特大の大きさであり、容量も非常に大きい。類例として本遺跡では35号竪穴84があるほか、韮崎市石之坪遺跡東７号住にも新道２期の資料がある。重三角文の口縁部文様帯をもつ抽象文土器形式のひとつとして注目する必要があろう。６は器形、文様構成が抽象文（山椒魚文）土器に似るが、山椒魚文とはならずにJ字状懸垂文で表現されている。口縁部には印刻文を施文した盾状の大突起が１個あるのが特徴で、横帯文に長方形区画を用いるなど古相を示す。３の胴部波状隆線文は12号竪穴１のほか35号竪穴55にもあり、藤内１期の横帯文中にみられる一文様要素として注目したい。９・11の重三角文中には斜行沈線文が認められ、新道２期でも藤内１期により近い要素をもっている。そのほか７は胴部全面に円形押圧文を持つ土器で、通常の接合帯に見られる縦長の指頭押圧を模倣した感があり、異色である。

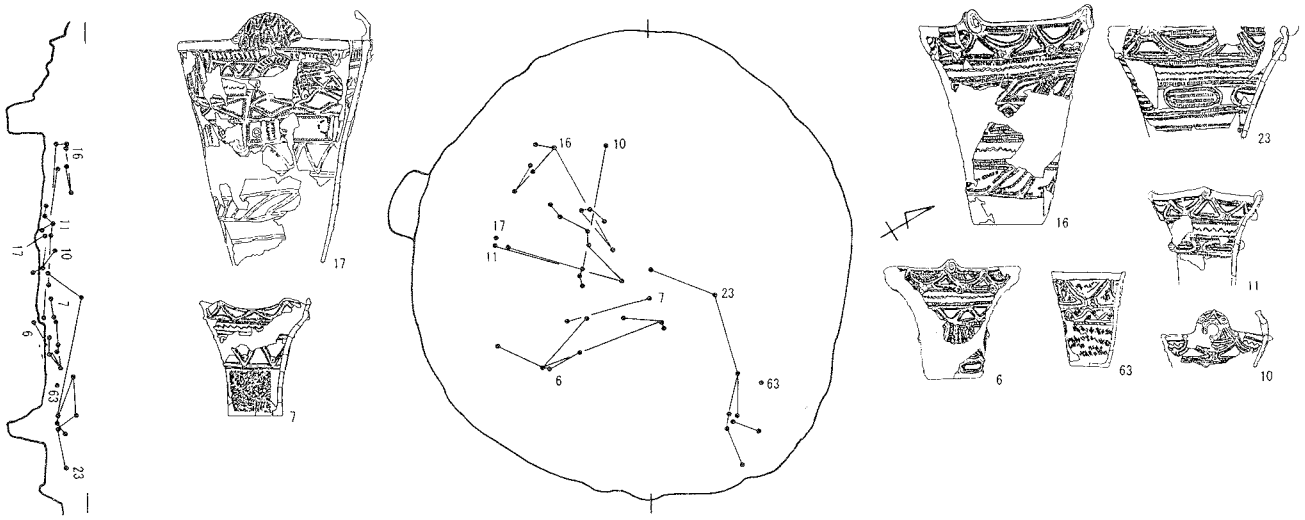
(3) 35号竪穴

新道２期を中心に、新道期としては例がないほどの多量の土器を出土した竪穴で、本遺跡の調査の中で最大の成果のひとつといえる。７本柱を溝でつなぐ楕円形住居で、小型の石囲炉をほぼ中央にもつ。柱穴は同一地点で２回の重複を示す部分があり、全体では４回の建替えが想定されている。

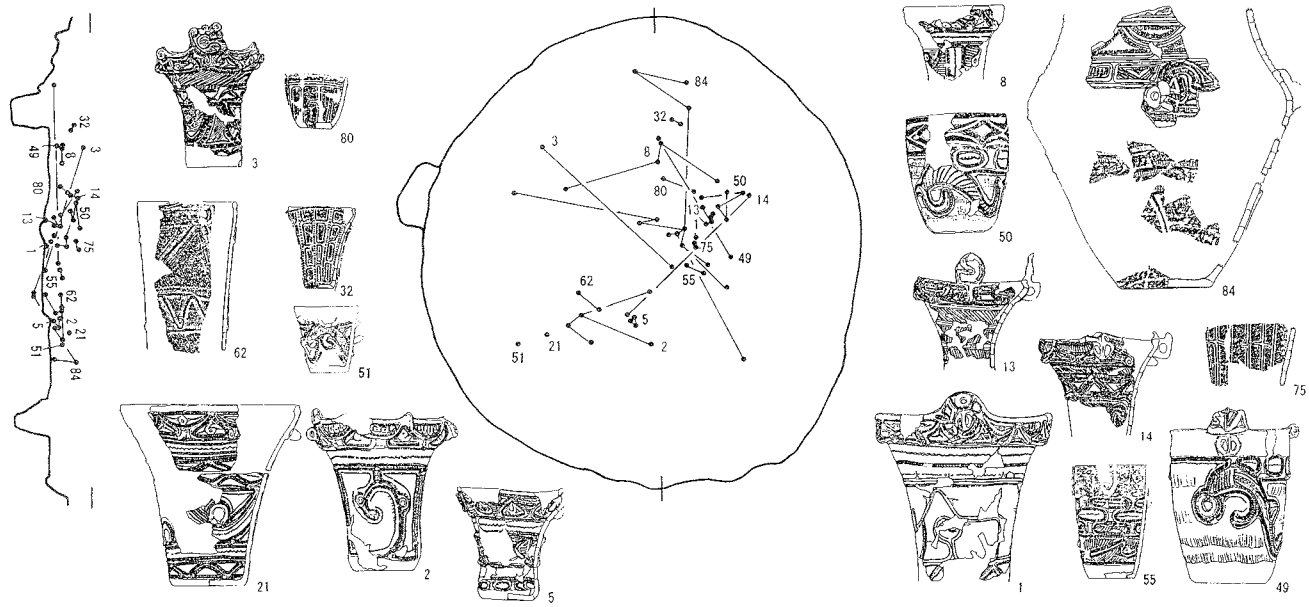
土器は大きく新道1期～藤内1期の３期に分けられる。新道1期には６・７・10・11・16・23・63、新道２期には１～３・８・13・14・21・32・49～51・55・75・80・84、藤内1期には12・22・31・33・34・47・54・56・71・83などがある。土器の出土位置に関しては第127・128図に図示されているが、改めて時期別に整理したのが第240図である。それによると新道１期と判断した土器群は主に床面～覆土下層に分布し、住居址南半に広がる。新道２期では床面直上～覆土中位にかけて分布し、平面的には住居中央部を中心に出土している。とくに微細図（第126図）に図示された、伏甕（１）を中心とする炉周辺の床直付近で出土した土器群が、新道２期のまとまりとなっている点は非常に興味深い。藤内1期では新道２期の上層、竪穴覆土上層に主に分布し、出土地点も中央やや北寄りで、新道２期の出土位置との違いは明瞭である。これらの出土層位を第122図断面図で再確認すると、新道１期－２・７層、新道２期－１・２層、藤内１期－１層にほぼ対応し、新道１期、新道２期、藤内１期の時間差は本竪穴内において層位的に検証することが可能である。以上により、本住居の廃絶は新道１期と思われ、第１次堆積層を中心に新道１期の土器が含まれる。新道２期では完全に埋まりきらない床面中央付近を中心に伏甕などの土器が一括廃棄されたと思われる。続く藤内１期には第２次堆積層中に土器が廃棄されたと考えられる。ただ新道１期の土器に覆土中流れ込み的な様相を示すものがあることと、床面直上での新道２期の土器の出土状況を加味すると、新道２期段階での住居廃棄も十分予想されるところである（第245図遺構変遷図では新道２期廃絶を想定した）。

深鉢形土器は形式的に細別するならば、重三角文類（１～３・５～16・18～23）、円筒形類（17・49～51・53～56・58～66・71・73）、素文（無文）類（35～37・52・57・113～117）、縦区画文類（31・32・34・47・75）、その他（33・43・76）に大きく分けられる。ほかに台付き土器（83・110）、浅鉢形土器（４・95～109）等がある。

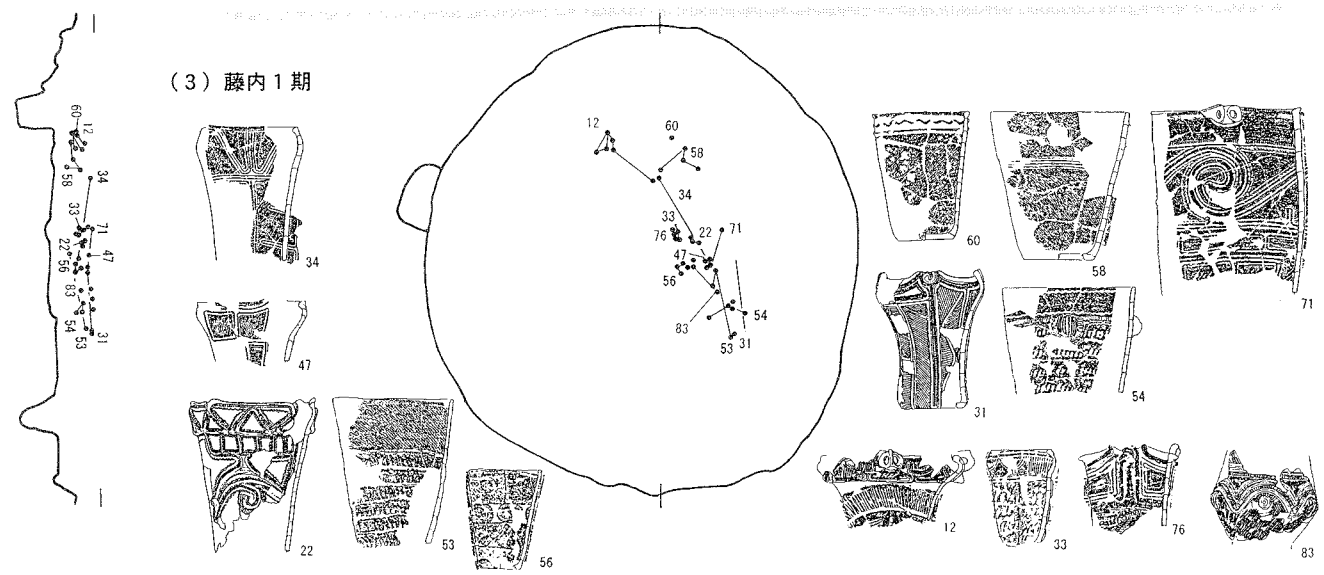
（1）新道1期



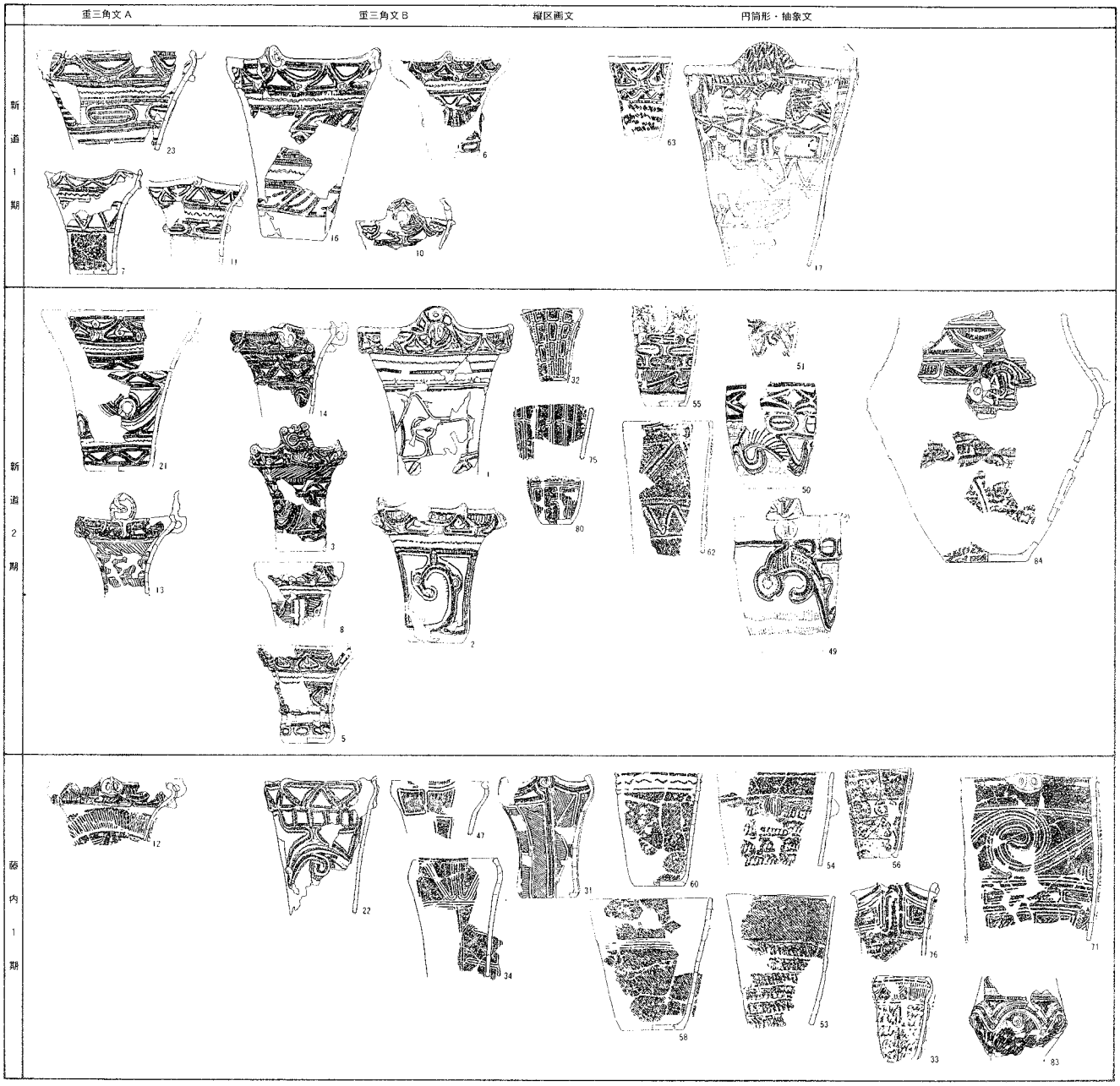
（2）新道2期



（3）藤内1期



第240図　35号竪穴時期別土器出土地点



第241図　35号竪穴出土土器変遷図

重三角文類の土器群には、胴部を横帯文の積み上げとする土器（重三角文Ａ類）のほか、渦巻状等の隆線あるいは竹管文による２単位のモチーフをもつもの（重三角文Ｂ類）がある。１は胴部に竹管で気ままに描いたようなモチーフで、頚部にも竹管押引き文をもつなどやや異質である。口縁部の突起は大小向き合っている。22は重三角文の文様帯以下を円筒形類にみられるような抽象文（山椒魚文）とする。２・３・５・６・８・14は上あるいは下から巻き込む蔓状の隆線モチーフが描かれるものである。隆線の突端が２本指または蛇の頭部のように膨らむのも特徴である（２・３・14等）。

口縁部には小波状のほか大突起を１個もつものがある（１・３・10・13）。時期は10を新道１期と推定するほかは新道２期である。突起の文様は外面のみで、内面は匙面状の無文としている点が共

第242図　12·20·36·37号竪穴出土土器変遷図

通する。それらと同様の突起は円筒形類の17・49にもあり、内面はいずれも匙面状に窪んでいる。また突起に付随して環状の小把手を伴うのも特徴で、10を除き全てに認めることができる。突起の文様はミミズク突起や土偶の頭部文様との共通性も予想されるが、10・13・17などの文様は土偶にはみることはできない。10については突起中央に大きな貫通孔があき、特異といえる。

円筒形類では抽象文をもつものに17・49～51があり、いずれも山椒魚文の体部は、粘土板の貼付文上に横に平行した縞状の三角押文が施文される。17は体部が細長く、頭部は未発達であり、山椒魚文としては初現的である。一方、49・50は完成された山椒魚文といえ、50のような「>」状の頭部形態は広く認められる。49では背びれ状の文様が付き、魚のイメージが強いが、50では腹部の腕状の隆線がなく、蛇のようにみえる。51では頭部に粘土紐による装飾が加えられている。なお50の

口縁部文様帯の連続した菱形文は、ほとんど同じものが石之坪東の７号住、上の平16号住（中道町）にも認められる。

縦区画文類は割合としては少数である。31は４単位の波状口縁をもち、波状部からは縦に隆線が垂下するのみで、隆線上には竹管押引文を施文する。34・47もシンプルな縦区画文で、藤内１期の特徴を示している。32・75・80は縦区画文としては古相で、とくに80の区画内には玉抱き三叉文があり、新道２期と考えておきたい。

その他とした71・84はともに横区画のパネル文が発達した土器で、２段以上にわたり長方形区画を並べている。とくに84は前記したように20号竪穴１と共通性が強い。パネル内には三角押文とともに印刻三叉文をもち、新道２期の特徴を示している。

浅鉢類は細別すると口縁押圧文類（96・97）、押圧隆帯文類（11・102）、交互三角文類（101）、角押文類（４・98・100）、波状無文類（95）に大別できる。時期については他遺跡での出土状況を参考にすると、傾向として新道１期－口縁押圧文類、新道２期－押圧隆帯文類、藤内１期－押圧隆帯文類・交互三角文と思われるが、従来ほとんど検討されていない。そのほか26～30は平出３Ａ系土器で、26は本来の文様構成とは特に口縁部文様が異なっているものの、胎土・色調は異質で、信州方面からの搬入品として理解しておきたい。

なお、甲府盆地域では新道式期後半に炉体土器から石囲炉への移行が認められ、狢沢式期にすでに石囲炉をもつ長野県側（とくに八ヶ岳西南麓以西）からの影響で石囲炉が普及したものと考えられている（1989櫛原）。本竪穴例のような正面観を意識した小型の五角形石囲炉は、藤内式期へと系譜をもつものである。また柱間周溝および壁ぎわの段構造（ベッド状遺構）をもつ住居も八ヶ岳南麓以西には多く認められるもので、石之坪遺跡（東地区）などで藤内式期にかけて存在する。

(4) 36号竪穴

12号竪穴（藤内１期）と重複する。７本柱穴と思われる楕円形住居で、柱穴からは２回の建替えが予想される。炉は不明であるがPit28の位置に想定でき、調査所見では否定的ではあるもののPit内出土の７は炉体土器であった可能性がある。また土器内を中心に５・13が出土している。

土器は新道１期（１・７）、新道２期（５・13）があり、竪穴の使用時期は炉体土器と推測される７から新道１期、廃絶時期は新道２期と考えられる。

(5) 37号竪穴

７本柱穴と考えられる竪穴で、炉は不明であるがPit８付近の可能性がある。土器は新道２期（３・12）が少数存在するが、主体は藤内1期（１・２・４・６・15など）である。深鉢形土器には重三角文類（１～４・６）、円筒形類（７）、ラッパ形類（８）、素文類（５）がある。２・４・６はともに縦位沈線が発達し、隆線上にはヘラ沈線が施文されているが、三角押文を残し、藤内１期でもより古相を示す。

2　山梨県内を中心とした中期前半土器群の変遷

ここでは山梨県内を中心とした狢沢～井戸尻式期の土器群の様相について、竪穴内出土資料を概観し、時期設定を示しておく。

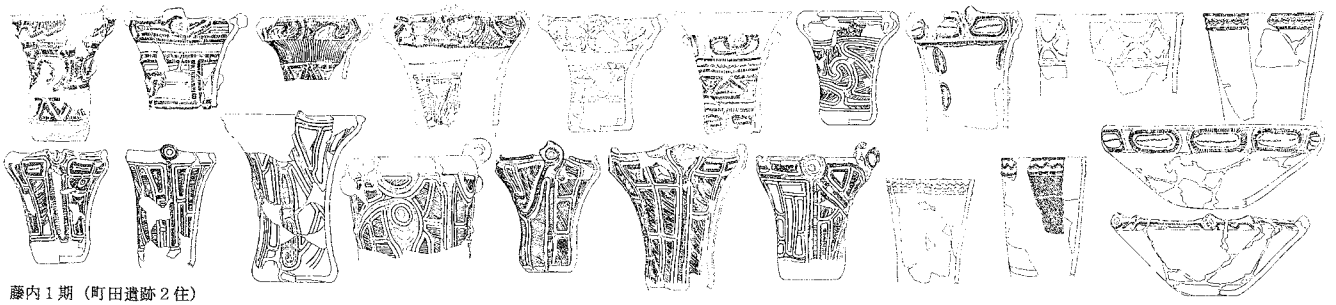
県内では、数野雅彦氏によって狢沢式期の３細分が行われ（1984数野）、また一の沢西遺跡の報告中で井戸尻式期３細分が行われた（1986長沢）。それらの成果を受けて釈迦堂遺跡の報告で狢沢式期３細分、新道式期３細分、藤内式期２細分、井戸尻式期３細分が行われた（1987小野）。その後、多摩丘陵・武蔵野台地編年（1995小林・黒尾・中山）が示されるとともに、今福理恵氏による県史編年が提示された（1999今福）。今福編年では狢沢式期３細分（狢沢１～３段階）、新道式期２細分（新道１・２段階）、藤内式期４細分（藤内１～４段階）、井戸尻式期３細分（井戸尻１～３段階）が行われ、一応、多摩武蔵野編年に対応した区分となっている。藤内式期の４細分については、竪穴資料全体での比較では区分可能と考えられるが、個体別にみていくと難しく、細分根拠のより明確な提示が求められる。ただ藤内４期細分は時代の趨勢と考えられ、本稿でも時期区分の区割りとしては今福編年を支持、踏襲する。ただし個々の時期内容については小野・今福氏の見解を尊重しつつ住居出土資料に基づいて、ある程度の基準を与えてみたい。

狢沢式期　３細分が一般的で、狢沢１期については宮の上６号住（勝沼町）が地域性をよく表した土器群として最近「宮の上タイプ」と仮称されている（2001小林）。３期では釈迦堂ＳⅣ73住が良好な一群としてよく知られている。

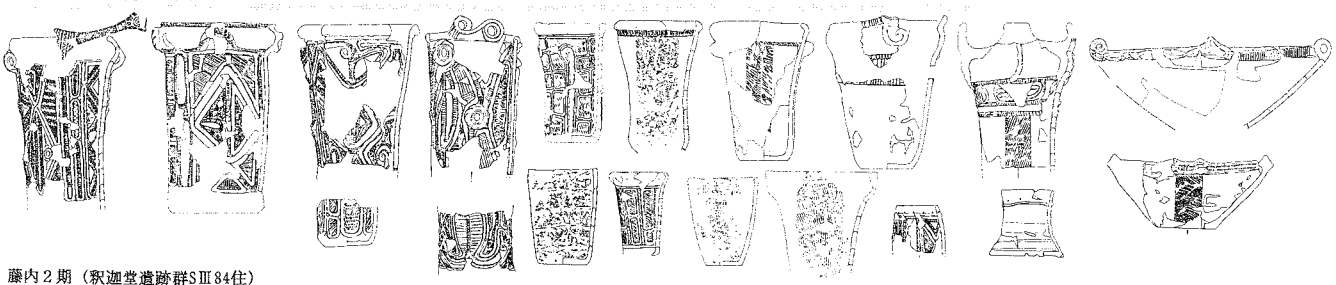
新道期　１期に釈迦堂ＳⅣ53住、甲ツ原Ｃ50住（大泉村）がある。ＳⅣ53住では複線化した重三角文内を無文とするもの、平行した三角押文とするものがあり、阿玉台１ｂ（新）が伴う。頸部にくびれをもつ土器群には口縁部に重三角文、頸部以下を縄文等にする新道としては古相を示す一群がある。新道２期は石原田北35号竪穴例を典型例とし、重三角文類では重三角文内への玉抱き三叉文、頸部等への斜行線、胴部文様帯への渦巻き文が増加するほか、抽象文土器の多出が特徴的である。

藤内期（第243図）　１期－町田２住（塩山市）、２期－釈迦堂ＳⅢ84住、３期－釈迦堂ＳⅠ10住、４期－重郎原住居（塩山市）をそれぞれ典型例とみなしたい。まず１期の重三角文類では重三角文の崩れ、区画内の沈線文化が見られる。縦区画文土器では口縁部までを基本的に縦区画で埋め、隆線は直線的な垂下文を主とし、隆線上には竹管押引文が多い。また区画（パネル）内は斜行線を基本とし、文様のバリエーションは少ない。２期では、土器群全般にやや幅の狭い、丸みをもつ無文帯口縁部をもつ。縦区画文土器では口縁部に１単位の突起をもつことが多く、隆線上に綾杉（矢羽）状沈線やヘラ沈線、交互刺突文等が加わり、区画内の文様はバリエーションに富む。抽象文土器（山椒魚文）は本期以降減少する。３期では口縁部無文帯がさらに幅広となり、湾曲度が増す傾向があり、「く」の字状に折れた口縁もある。頸部に横長楕円文が進出し、垂下隆線は人体文風の動きをみせ、隆線上には綾杉文、交互刺突文が顕著となる。４期では口縁部無文帯直下に大柄の横長楕円文をもつ土器群（横帯文土器）が特徴で、体部を縦区画文とする土器や、胴下半を数段の楕円文で構成する土器群、縄文とする土器群がある。また４単位の波状口縁をもつ土器群がみられ、胴部上半や下半部に鋸歯状隆線文が多い。底部はそろばん玉状の発達を示す。釈迦堂ＳⅣ32住、上野原３住（中道町）、県外では荒神山93住（諏訪市）をあげておきたい。以上４細分としたが、２期と３期、３期と４期が必ずしも明確に区分できるとはいいがたい。

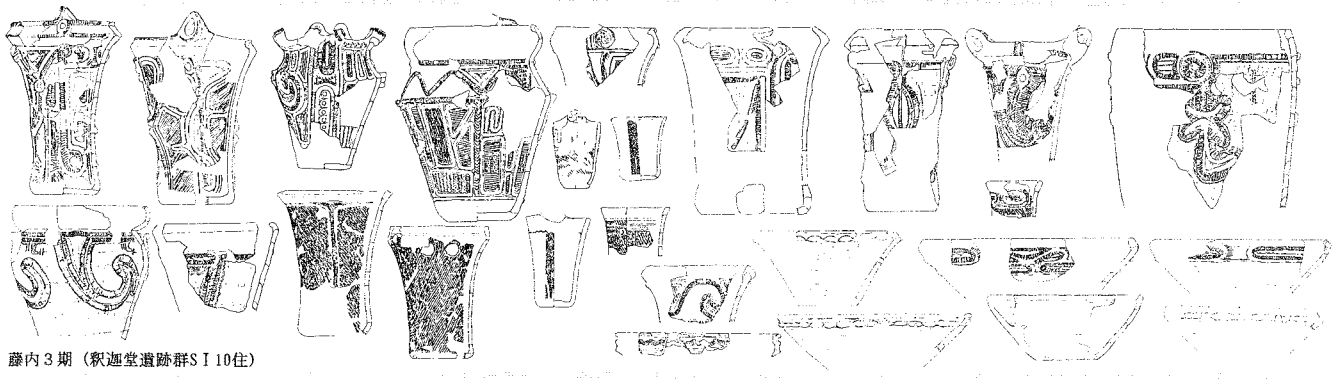
井戸尻期（第243・244図）　1期に海道前Ｃ１・２・８住（高根町）がある。特徴的なのは丸く



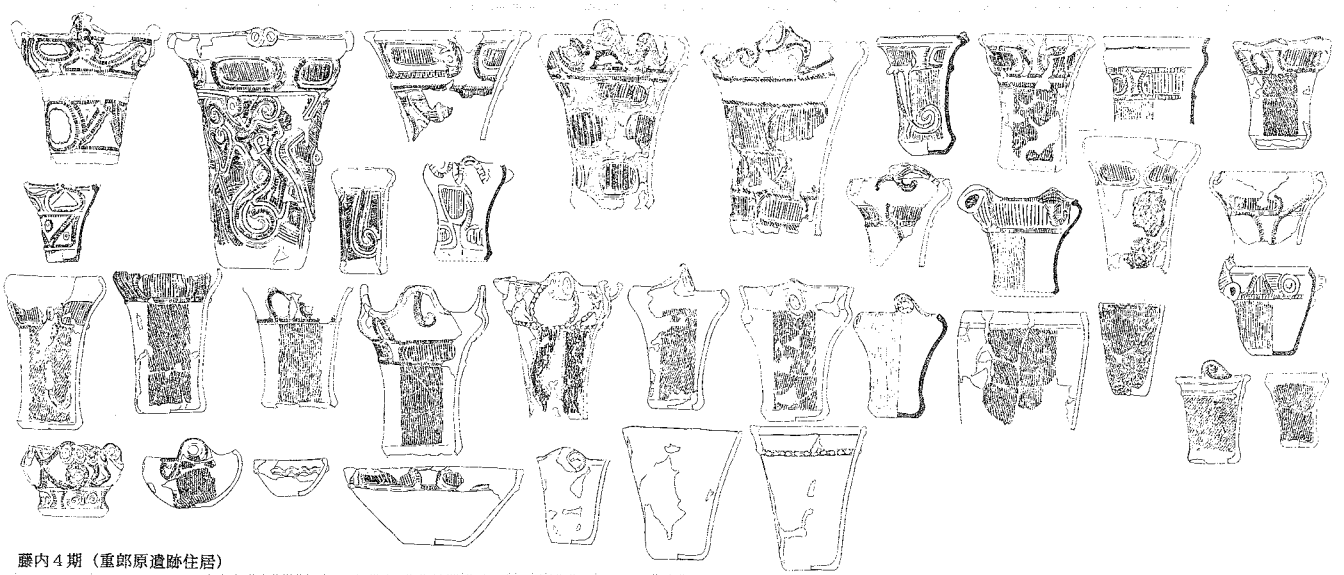
藤内１期（町田遺跡２住）



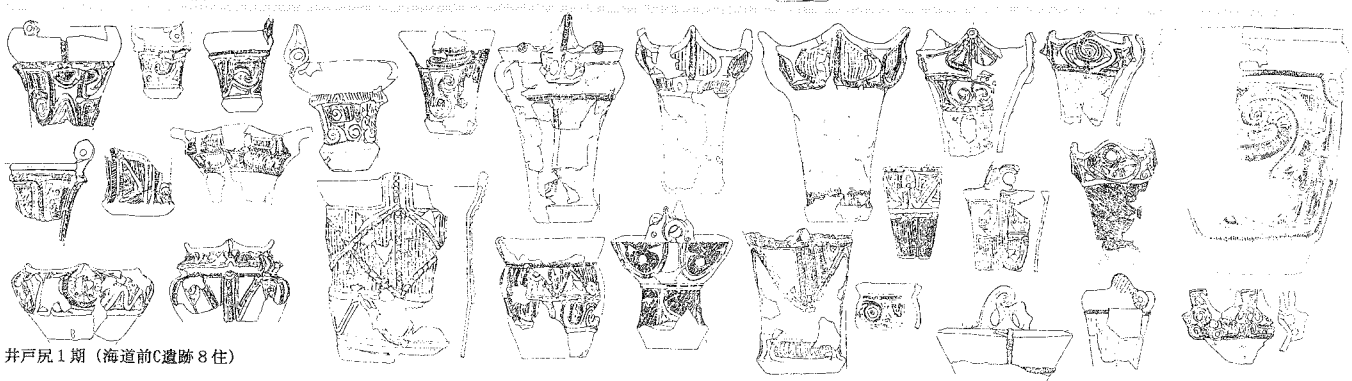
藤内２期（釈迦堂遺跡群SⅢ84住）



藤内３期（釈迦堂遺跡群SⅠ10住）

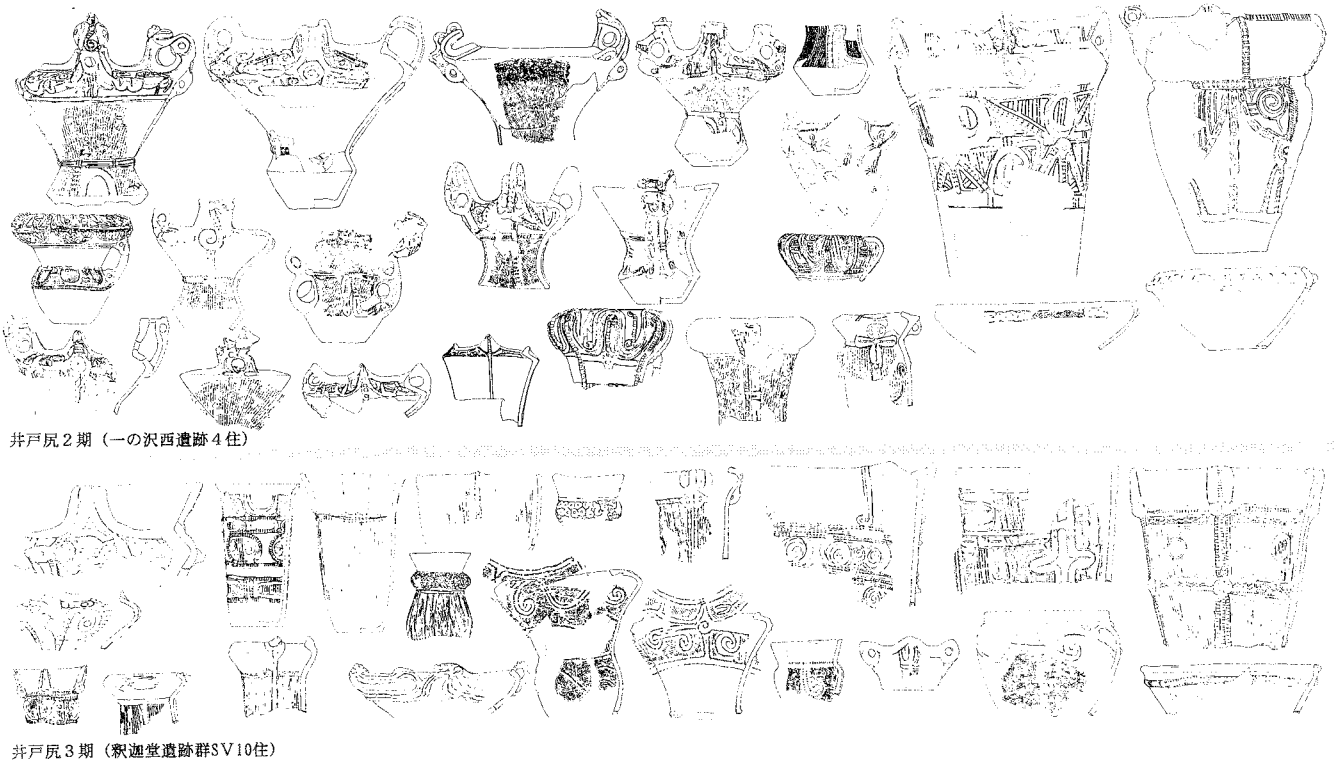


藤内４期（重郎原遺跡住居）



井戸尻１期（海道前C遺跡８住）

第243図　中期前半の土器群（1）

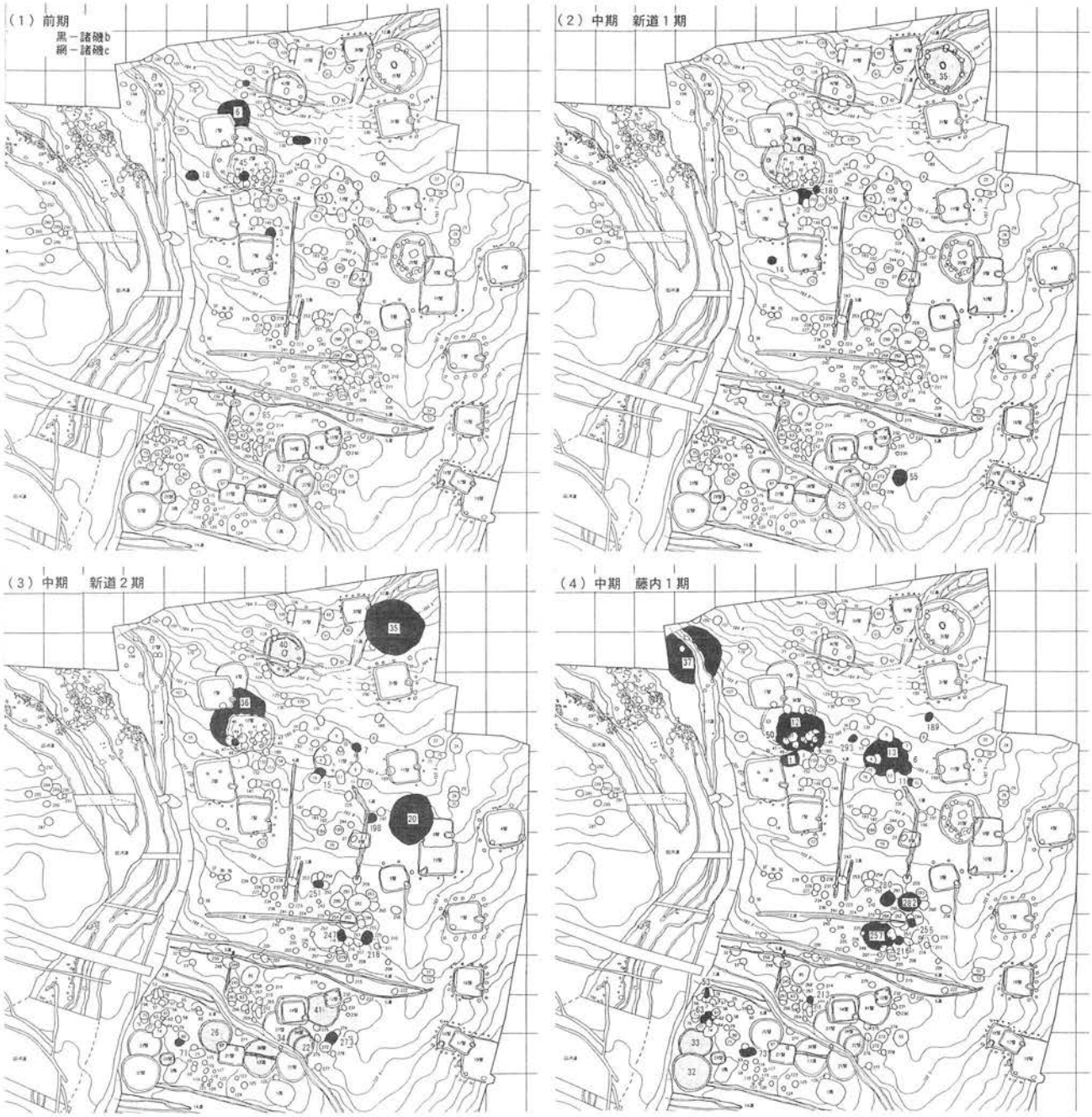


第244図　中期前半の土器群（2）

幅広の口縁部でそろばん玉状の屈折底をもち、胴部には縦区画崩れの沈線文を施文し、渦巻き文を多用する土器群で、頸部には鍔状の張り出しが発達する。それらは曽利51号住（富士見町）にもみられるが、そうした土器群は甲府盆地～西関東ではみることはない。したがって八ヶ岳山麓に特徴的ともいえる。ほかに重三角文崩れの４単位の波状口縁で波頂部から垂下隆線を下ろす土器、多段楕円区画文の大型円筒土器、「く」の字口縁で突起をもつ土器などがある。全体的に文様のヘラ沈線化と屈折底が顕著である。２期では一の沢西４住（境川村）が代表的で、高く発達した縄文地文のそろばん玉状の屈折底上に大きく広がる「く」の字状（あるいは湾曲）口縁と、その上に立つ４単位の大型把手をもつ土器群が特徴的である。一の沢例では大型把手土器ばかりが目立つが、後呂15住（中道町）ではそれらをふくむセット関係をうかがうことができる。この大型把手土器の一群は、西関東では滝久保タイプと呼称されるように、甲府盆地から西関東にかけて多い土器群で、八ヶ岳山麓以西では例が少ない。３期は曽利１ａ期の土器群に近い様相をもつもので、釈迦堂ＳＶ10住を典型とし、一の沢西４住にも一定量が伴っている。長胴化した体部に縦位沈線文を施文した土器を主とし、ほかに大型円筒土器群を伴う。２期まで顕著であった縄文使用は著しく減少する。

3　石原田北遺跡の縄文中期集落

竪穴については前述したように、新道２期廃絶－20・35・36号竪穴、藤内１期廃絶－12・37号竪穴で、35・36号竪穴に関しては新道１期構築（居住）の可能性もある。それ以外の竪穴として、まず40号竪穴は覆土中に新道期の土器がわずかにあるのみであるが、７本柱穴と柱穴間周溝の存在、小型石囲炉の存在から35号竪穴との共通点が多く、新道２期以前廃絶の竪穴としておきたい。13号



第245図　遺構変遷図（薄いスクリーントーンは可能性を示す）

竪穴は柱穴配置など不明確ではあるが、藤内１期と思われる土器を少量伴い、同期の12・37号竪穴と同様に柱間周溝をもたないこと等から藤内１期廃絶としたい。32・33号竪穴は円形で炉がなく、柱穴としてはやや浅いピットが存在するのみである。ともに藤内期の土器がわずかに出てはいるが、藤内期の竪穴住居址では炉が明確に存在するのが普通なので、竪穴構造への積極的な評価は与えがたい。22・25・26・34・38・41号竪穴についても同様なことがいえ、いずれも新道～藤内期の土器をごくわずか出土しているものの、北側に展開する12・13・20・35～37・40号竪穴に比べると小型で竪穴の掘り込みは浅いものとなっている。ただ土坑分布状況は後述するように弧状に分布し、それらに沿って32・33号竪穴等の小型竪穴が巡り、全体として北側の竪穴群に向き合うように南側

にまとまりをみせる。北側居住域は傾斜の高い側となり、緩やかな傾斜面である。中央に竪穴のない空間（広場的空間）をはさんで南側に小竪穴群が分布する、という集落構成である。炉を持たない竪穴は阿玉台文化圏には普遍的に存在するので、今後こうした不明確な存在形態についても十分注意して調査を行い、類例を蓄積していくことが肝要であろう。なお南側小竪穴群については仮に、25号竪穴－新道１期廃絶、22・26・34・38・41号竪穴－新道２期廃絶、32・33号竪穴－藤内１期廃絶としておく。

4　抽象文（山椒魚文）土器の分布と消長

本遺跡では計11個体と多数の山椒魚文をもつ抽象文土器が出土した。この土器に関しては、1965年の藤森栄一氏による藤内式設定当初では藤内Ⅰ式期の特徴とされ（1965藤森）、山椒魚文のモチーフをもつ土器＝抽象文土器とされた。しかし今日、抽象文というと広義には人体文・ゲジゲジ文など様々な抽象的モチーフを含むことになるので、本稿では「抽象文（山椒魚文）」、又は「山椒魚文土器」として限定的に用いることとする。抽象文土器はその後、三上徹也氏により消長が検討され（1986三上）、新道式から藤内式に至る変遷観が提示されたのをはじめ、中期前半土器群を扱う中でたびたび俎上に取上げられてきている。近年報告された韮崎市石之坪遺跡東地区（2000櫛原）でも、11個体の土器が出土したことから、八ヶ岳南麓地域での山椒魚文土器の多さが予想された。また山椒魚文は円筒形土器に伴うのが通常であるが、石之坪ではキャリパー形深鉢などの器形にも伴う点が注意された。

ここでは山梨県内出土の抽象文土器を集成しておく（第246図・表16）。表中での時期は本節の基準に従う。また器種には大きく４種あり、平口縁の円筒形をⅠ類とするが、口縁部に双環状の小把手をもつものをⅠｂ類、持たないものをⅠａ類とする。口縁部がキャリパー状に丸く湾曲して無文帯を形成するものをⅡ類、キャリパー状口縁に重三角文区画文帯をもつものをⅢ類とする。それ以外のものをⅣ類とする。器種に関わらず胴部文様帯には山椒魚文を必ず相対して計２つもっている。また山椒魚文は基本的には頭部、体部、尾部、腕部で構成される。

県内では19遺跡、59例があり、本遺跡のほか石之坪遺跡をはじめ、八ヶ岳南麓地域での出土が目立つ。曽根丘陵から盆地東部でも出土しているものの、点数はさほど多くなく、釈迦堂遺跡群などの大集落がありながら八ヶ岳南麓との違いは際立っている。器種ではⅠａ類が約半数を占める（1～22）。Ⅰａ類の文様構成は口縁部文様帯と胴部文様帯に大きく分けられるが、胴部文様帯直上に頸部文様帯をもつものもある。口縁部文様帯には菱形文（Ⅰａ－1類、1・2）、縄文帯（Ⅰａ－2類、3～11・18・19）、無文帯（Ⅰａ－3類、12～17・20）などがある。頸部文様帯はⅠａ－1・2類では全周しないことが多いが（1・3～5）、Ⅰａ－3類には全周する楕円区画文帯をもつ例が多くなっている（15・17～20）。胴部の山椒魚文の表現は、Ⅰａ－1類と2類の多くが粘土板貼付、3類では全て粘土紐表現となる。また3類では山椒魚の体部が1本の粘土紐で表現される例が見られるなど、抽象化が顕著である。土器胴部の地文は指頭圧痕を残した無文とする例が多いが、Ⅰａ－2類には縄文地文がある（6・9・11）。また8・18には胴部文様帯の下端を区切るラインが入るほか、7には下端に楕円区画文帯が巡っている。時期的には新道２～藤内１期を主としてい

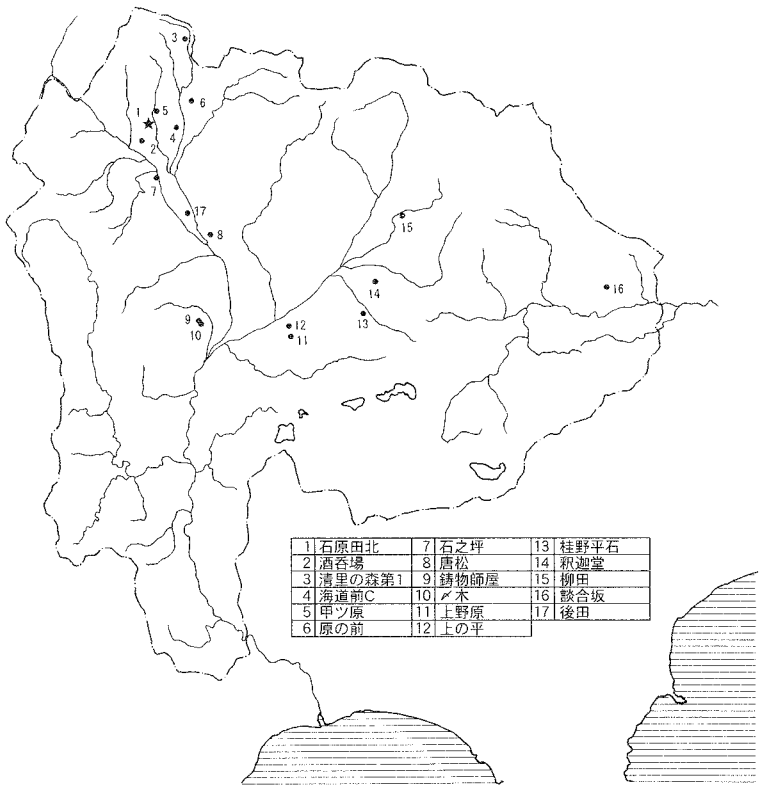
第246図　山梨県内の山椒魚文土器（1/12）

表16　山梨県内の山椒魚文土器（図中番号は第246図と対応する）

図	遺跡名	所在地	地点	器高	口径	器形	時期	出典
45	石原田北	山梨県長坂町	12竪	−	−	−	藤内1	本報告
39	石原田北	山梨県長坂町	20竪	77+	48	Ⅲa	新道2	本報告
5	石原田北	山梨県長坂町	20竪	−	21	Ⅰa	新道2	本報告
−	石原田北	山梨県長坂町	20竪	−	−	−	新道2	本報告
24	石原田北	山梨県長坂町	35竪	55+	42	Ⅰb	新道1	本報告
42	石原田北	山梨県長坂町	35竪	−	27	Ⅲb	藤内1	本報告
−	石原田北	山梨県長坂町	35竪	−	−	−	藤内1	本報告
26	石原田北	山梨県長坂町	35竪	39	21	Ⅰb	新道2	本報告
1	石原田北	山梨県長坂町	35竪	27	22	Ⅰa	新道2	本報告
27	石原田北	山梨県長坂町	35竪	15	14	Ⅰb	新道2	本報告
−	石原田北	山梨県長坂町	遺構外	−	−	−	新道2	本報告
−	酒呑場	山梨県長坂町	C12住	−	−	Ⅰb	新道2?	1997　酒呑場遺跡(第1・2次)
−	酒呑場	山梨県長坂町	C79住	−	−	Ⅳ	新道2	1997　酒呑場遺跡(第1・3次)
−	酒呑場	山梨県長坂町	C75土	−	−	Ⅰa	藤内1?	1997　酒呑場遺跡(第1・4次)
6	清里の森第1	山梨県高根町	1住	26	20	Ⅰa	藤内1	1987　清里の森第1遺跡範囲確認調査報告書
44	海道前C	山梨県高根町	4住	40	20	Ⅳ	藤内3	2000　海道前C遺跡ほか
22	甲ツ原	山梨県大泉村	C24住	24	19	Ⅰa	藤内1	1996　甲ツ原遺跡Ⅱ
12	原の前遺跡	山梨県須玉町	6住	−	28	Ⅰa	藤内1	1998　須玉町史　史料編1
7	原の前遺跡	山梨県須玉町	−	28	19	Ⅰa	藤内1	1998　須玉町史　史料編1
9	原の前遺跡	山梨県須玉町	−	24	32	Ⅰa	藤内1	1998　須玉町史　史料編1
25	石之坪東	山梨県韮崎市	4住	44	36	Ⅰb	藤内1	2000　石之坪遺跡(東地区)
35	石之坪東	山梨県韮崎市	4住	39	21	Ⅱ	藤内1	2000　石之坪遺跡(東地区)
40	石之坪東	山梨県韮崎市	7住	52	37	Ⅲa	新道2	2000　石之坪遺跡(東地区)
30	石之坪東	山梨県韮崎市	7住	−	26	Ⅰa	新道2	2000　石之坪遺跡(東地区)
43	石之坪東	山梨県韮崎市	7住	−	28	Ⅲb	新道2	2000　石之坪遺跡(東地区)
−	石之坪東	山梨県韮崎市	7住	−	35	Ⅰa	藤内1	2000　石之坪遺跡(東地区)
50	石之坪東	山梨県韮崎市	11住	21	17	−	新道1?	2000　石之坪遺跡(東地区)
4	石之坪東	山梨県韮崎市	21住	31	20	Ⅰa	新道2	2000　石之坪遺跡(東地区)
3	石之坪東	山梨県韮崎市	21住	40	30	Ⅰa	藤内1	2000　石之坪遺跡(東地区)
34	石之坪東	山梨県韮崎市	41住	36	21	Ⅱ	藤内1	2000　石之坪遺跡(東地区)
21	石之坪東	山梨県韮崎市	42住	18	8	Ⅰa	新道1	2000　石之坪遺跡(東地区)
−	後田	山梨県韮崎市	遺構外	−	32	Ⅰb	新道2?	1989　後田遺跡
28	唐松	山梨県双葉町	49土	−	45	Ⅰb	新道2	1996　唐松遺跡
31	鋳物師屋	山梨県櫛形町	57住	−	−	Ⅰb	新道2	1994　鋳物師屋遺跡
13	鋳物師屋	山梨県櫛形町	83住	29	24	Ⅰa	藤内1	1994　鋳物師屋遺跡
23	鋳物師屋	山梨県櫛形町	93住	−	−	−	新道1	1994　鋳物師屋遺跡
10	鋳物師屋	山梨県櫛形町	133住	−	28	Ⅰa	藤内1	1994　鋳物師屋遺跡
16	鋳物師屋	山梨県櫛形町	25土	39	45+	Ⅰa	藤内1	1994　鋳物師屋遺跡
33	〆木	山梨県櫛形町	7住	−	29	Ⅳ	藤内1?	1987　〆木遺跡
19	上野原	山梨県中道町	1住	35	24	Ⅰa	新道2?	1998　上野原遺跡発掘調査報告書
32	上野原	山梨県中道町	1土	51+	36	Ⅳ	藤内2?	1998　上野原遺跡発掘調査報告書
15	上野原	山梨県中道町	4土	−	32	Ⅰa	藤内1	1996　上野原遺跡
2	上の平	山梨県中道町	16住	36	24	Ⅰa	藤内1	1987　上の平遺跡
11	桂野平石	山梨県御坂町	1住	26	24	Ⅰa	藤内1	1979　御坂町の埋蔵文化財
46	釈迦道SⅠ	山梨県一宮・勝沼町	1土	−	−	−	藤内3?	1986　釈迦堂Ⅰ
17	釈迦道SⅠ	山梨県一宮・勝沼町	30土	50	37	Ⅰa	藤内1?	1986　釈迦堂Ⅰ
47	釈迦道SⅠ	山梨県一宮・勝沼町	233土	−	−	−	藤内1	1986　釈迦堂Ⅰ
14	釈迦道SⅢ	山梨県一宮・勝沼町	95住	35	29	Ⅰa	新道2?	1987　釈迦堂Ⅱ
49	釈迦道SⅣ	山梨県一宮・勝沼町	53住	−	−	−	新道1	1987　釈迦堂Ⅱ
37	釈迦道SⅣ	山梨県一宮・勝沼町	32住	38	22	Ⅱ	藤内3?	1987　釈迦堂Ⅱ
41	釈迦道NⅣ	山梨県一宮・勝沼町	捨て場B	45	27	Ⅲb	藤内1	1987　釈迦堂Ⅱ
29	釈迦道NⅣ	山梨県一宮・勝沼町	捨て場B	−	24	Ⅰb	藤内1	1987　釈迦堂Ⅱ
−	釈迦道NⅣ	山梨県一宮・勝沼町	捨て場B	−	−	−	藤内1	1987　釈迦堂Ⅱ
36	釈迦道SⅤ	山梨県一宮・勝沼町	17住	−	31	Ⅱ	藤内2?	1987　釈迦堂Ⅲ
48	釈迦道SⅤ	山梨県一宮・勝沼町	17住	−	−	−	藤内1?	1987　釈迦堂Ⅲ
18	柳田	山梨県塩山市	2号土器	46	30	Ⅰa	藤内1	1995　塩山市史　史料編1
38	柳田	山梨県塩山市	10号土器	42	36	Ⅱ	藤内3?	1995　塩山市史　史料編1
8	柳田	山梨県塩山市	−	−	31	Ⅰa	藤内1	1995　塩山市史　史料編1
20	談合坂	山梨県上野原町	1号埋甕	−	28	Ⅰa	藤内1	1998　矢坪遺跡　談合坂遺跡

る。土器の大きさはⅠａ－１・２類に中型が、またⅠａ－３類に高さ50cmを越すような大型が目立つ。

Ⅰｂ類（24～29）の文様構成は、口縁部を無文帯とし、口縁部にはみみずく状などの大突起をもつものがある。胴部文様帯は把手を中心に山椒魚文が配され、地文は指頭圧痕文を残す無文が多い



第247図　抽象文（山椒魚文）土器の分布

ほか、多段化した横帯区画文とする例がある（24）。山椒魚文の表現はほとんどが粘土板貼付で、頭部には双環状として眼を表現したような古相を呈する例（31）、体部が細く、定型化以前と考えられる例（24）がある。なお30は大突起をもつことからＩｂ類に近いが、口縁部無文帯、把手がない。時期は新道１～藤内１期で、中でも新道１・２期の事例が多い。土器の大きさは中～大型が多いとともに27のような小型品もある。

Ⅱ類（34～38）の文様構成もＩａ類とほぼ同じで、とくにＩａ－３類との共通性がある。山椒魚文は34では粘土板貼付で古相を示しているが、それ以外では粘土紐１本で体部を表現し、頭部と尾部の区別がないもの（38）があるなど、抽象化が著しい段階である。頚部には楕円区画文帯をもつものが目立っている（35・37・38）。時期は藤内１～３期で、口縁部無文帯の湾曲が発達した段階の事例である。土器の大きさは中～大型である。

Ⅲ類（39～43）では39・40のように大型で胴部が大きく張る器形（Ⅲａ類）、胴が張らずに円筒状となる器形（41～43、Ⅲｂ類）がある。Ⅲａ類では多段化した横帯区画を基本とし、口縁部、頚部、胴部の文様帯に分かれ、そのうち山椒魚文は胴部文様帯中に組み込まれている（40）。Ⅲｂ類は横帯化した胴部文様帯中に山椒魚文が取り込まれるもの（Ⅲｂ－１類、43）、Ｉａ類の口縁部文様帯が重三角区画文に置き変わった例（Ⅲｂ－2類、41・42）がある。重三角区画文土器は、通常胴部にワラビ手状の腕の表現のみをもつ例が多いが、43ではそこに山椒魚文が転写されたものと考えられる。時期はⅢａ類が新道２期、Ⅲｂ類は新道２～藤内１期である。土器の大きさはⅢａ類では大型、Ⅲｂ類は中～大型で、特に39は特大である。

Ⅳ類には区画文をもつ土器（32・33）、頚部に三角波状区画文帯をもつ土器（44）がある。33はＩａ－２類が変化したと想像できる土器で、口縁部文様帯中には３・５のような２個１対の円文がある。また32はＩｂ類からの影響が強い区画文土器と思われる。44は山椒魚文を粘土板で表現しているものの、藤内３期である。

時期的な変遷を整理しておくと、新道１期のＩｂ類に山椒魚文の初現例があり、新道２期にはＩａ・ｂ類のほかⅢａ・ｂ類も存在するなど、いくつかの器形に山椒魚文が施文され、盛行期を迎える。つづく藤内１期にはＩａ・ｂ類を中心に展開し、中でもＩａ類が主体的である。やがて藤内１期以降、２・３期にかけてはＩａ類の中でもＩａ－３類が増加し、またⅡ類も目立つようになる。

またⅣ類に含めた区画文中に取り込まれる例もみられるようになる。

山椒魚文の変遷に関しては、新道１期では体部が細く、立体的であり、新道２期には頭部に眼の表現、口を開けたような表現があり、また腕部の先に２本指をもつ例がある。新道期では体部が粘土板貼付で表され、体部には文様が施文される。概して体部の上半と下半が意識され、上半身はやや太く、下半身は尾部にかけて細くなり、体部には半截竹管文で刺突することでウロコ状の施文を行い、マムシのような印象を与える。また24・26のように上半身を持ち上げたような、あるいは威嚇し、飛び掛っていくような体勢である。それが藤内１期になると体部は粘土紐で縁取られ、キャタピラ文が沿い、体部は三日月状、左右対称的で、ウロコ状の文様は次第になくなっていく。その後藤内２・３期には体部が１本隆線で、頭部・尾部が区別できないような事例が増え、形骸化する。藤内４期以降では、山椒魚文から変化したと思われるモチーフをもつ土器はあるものの、山椒魚文としての原則的な文様要素を見出すことができなくなってしまう。

土器の大きさは小型例も数例存在するものの、主体的なのは大型例で、煮沸用とは考えられない特大サイズも存在することから、貯蔵的な機能も予想される。なおこの点に関しては、今後使用痕観察を十分に行っていく必要があろう。

＜参考文献＞

藤森栄一　1965『井戸尻』　中央公論美術出版
数野雅彦　1984「角押文土器の研究」『丘陵』10　甲斐丘陵考古学研究会
長沢宏昌　1986『一の沢西遺跡・村上遺跡・後呂遺跡・浜井場遺跡』　山梨県教育委員会ほか
三上徹也　1986「中部・西関東地方における縄文時代中期中葉土器の変遷と後葉土器への移行」『長野県考古学会誌』51
小野正文　1987『釈迦堂Ⅱ』　山梨県教育委員会ほか
櫛原功一　1989「縄文時代の住居形態と集落―甲府盆地を中心にして―」『山梨考古学論集Ⅱ』山梨県考古学協会
黒尾和久・小林謙一・中山真治　1995　「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定」『縄文中期集落研究の新地平』
今福理恵　1999「中期中葉（勝坂式土器）」『山梨県史　資料編２』
櫛原功一　2000『石之坪遺跡（東地区）』　石之坪遺跡発掘調査会ほか
小林謙一　2001「勝沼町宮之上遺跡６号住居跡出土の中期前葉土器について―狢沢式土器成立期における地域的タイプとしての宮之上タイプの仮設―」『山梨県考古学協会誌』12

第2節　平安時代の土器について

石原田北遺跡において、平安時代に帰属すると考えられる竪穴建物は計19棟である。そこから出土している土器は、胎土や整形技術が特徴的ないわゆる「甲斐型土器」と、信州系黒色土器等とよばれる、甲斐型土器とは胎土も整形技術も異なる黒色土器が主体を占めている。その他、灰釉陶器や須恵器も客体的ながら出土している。なお、甲斐型土器については10世紀後半段階でその終焉を迎え、それ以後、土師器の系統を引いた土師質土器へと移行していくという、先学の研究成果がある。

山梨県における奈良・平安時代の土器編年研究は、1983年に坂本美夫氏らによって、いわゆる「甲斐編年」が提示されたが（坂本　1983)、その後、奈良市内の平城京二条四坊十一坪の井戸址の発掘調査で、甲斐型坏が発見されて、年代観の見直しの機運が高まった。1992年には甲斐型土器研究グループを中心として年代観の変更案が提示され（瀬田 1992)、さらに同年には、韮崎市に所在する奈良時代から平安時代にわたる大集落跡である宮ノ前遺跡の報告書が刊行され、同報告書においても段階区分の見直し案と年代観が提示されている（櫛原 1992)。

また、甲斐型土器終焉以後の古代末期の土器編年研究も、1986年に坂本美夫氏が、1983年編年の古代末期部分を再検討し編年案を提示しており（坂本　1986)、その後の資料増加と甲斐型土器の再検討の流れをうけて、1994年に森原明廣氏が新たに編年案を提示している（森原　1994)。

以上の先学諸氏による土器研究成果に拠りながら、ここでは甲斐型土器資料およびそれ以後の土器群を中心に据えて、編年的位置付けを行ってみたい。

(1) 土器の種類

先述のとおり、土器の種類は大きく分けると、甲斐型土器や黒色土器などの土師器と、それら以外の土師器および土師質土器、そして灰釉陶器と須恵器に分けることができる。そして土師器を細かくみていくと、その煮炊具の中で、甲斐型甕とは胎土・整形技術が異なり、ロクロ整形を主体としたロクロ整形の甕などもみられる。また、プロポーションでは一見甲斐型甕でありながら、胎土や調整方法が若干異なっているものもわずかであるがみられる。

黒色土器については、甲斐型土器も黒色処理を施すものがあり、ここでは甲斐型土器のそれを「甲斐型土器系」黒色土器とよぶこととする。黒色土器の多くは内面のみ黒色処理を施したものが主体で、外面まで黒色処理を施したものは少ない。一方で、明らかに黒色土器の胎土や整形技術でありながら、内外面ともに黒色処理を施さないものもある。こうした黒色処理を施さない「黒色土器」については、土器観察表の土器の種類では「土師器」としているが、本来は黒色土器であるという意味で「黒色土器系」の土器とよんでおきたい。

以上のように、土師器はいくつかのバリエーションをもっており、当時の土器生産や流通を考える上で非常に示唆的な状況を示していると言える。

(2) 器形の種類について

土師器および土師質土器全体の器形の種類は、坏・皿・小皿・蓋・高台坏・高台皿・脚高高台坏・長胴甕・羽釜・小型甕・広口壷・甕・壷（瓶も含む）などがある。なお、坏や高台坏について

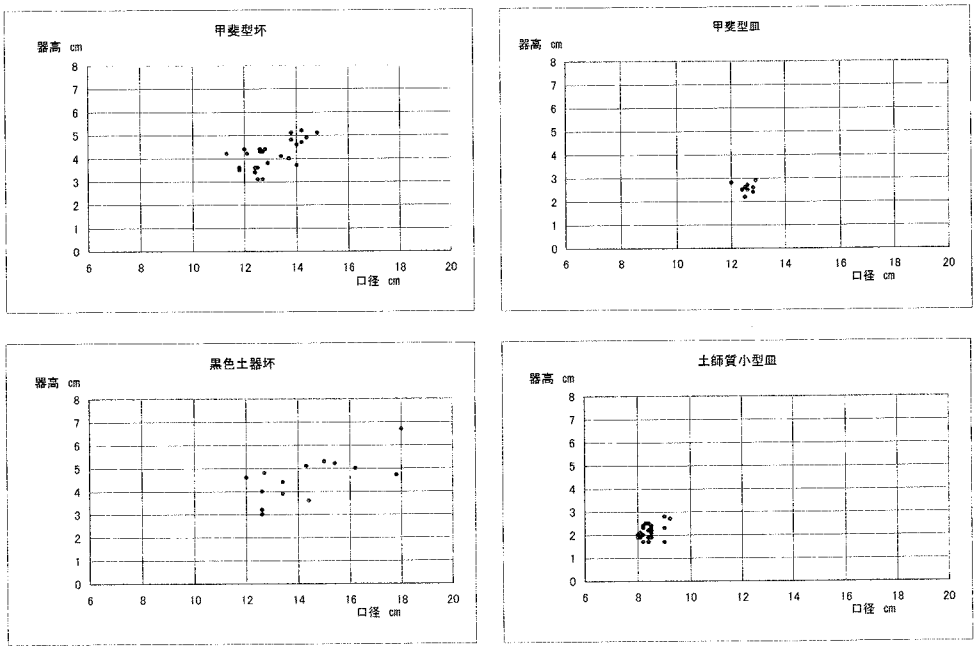
は、形態からみて「椀」とした方が良いと思われるものもある。土器の種類別にみられる器種構成は、以下のとおりである。

【甲斐型土器】

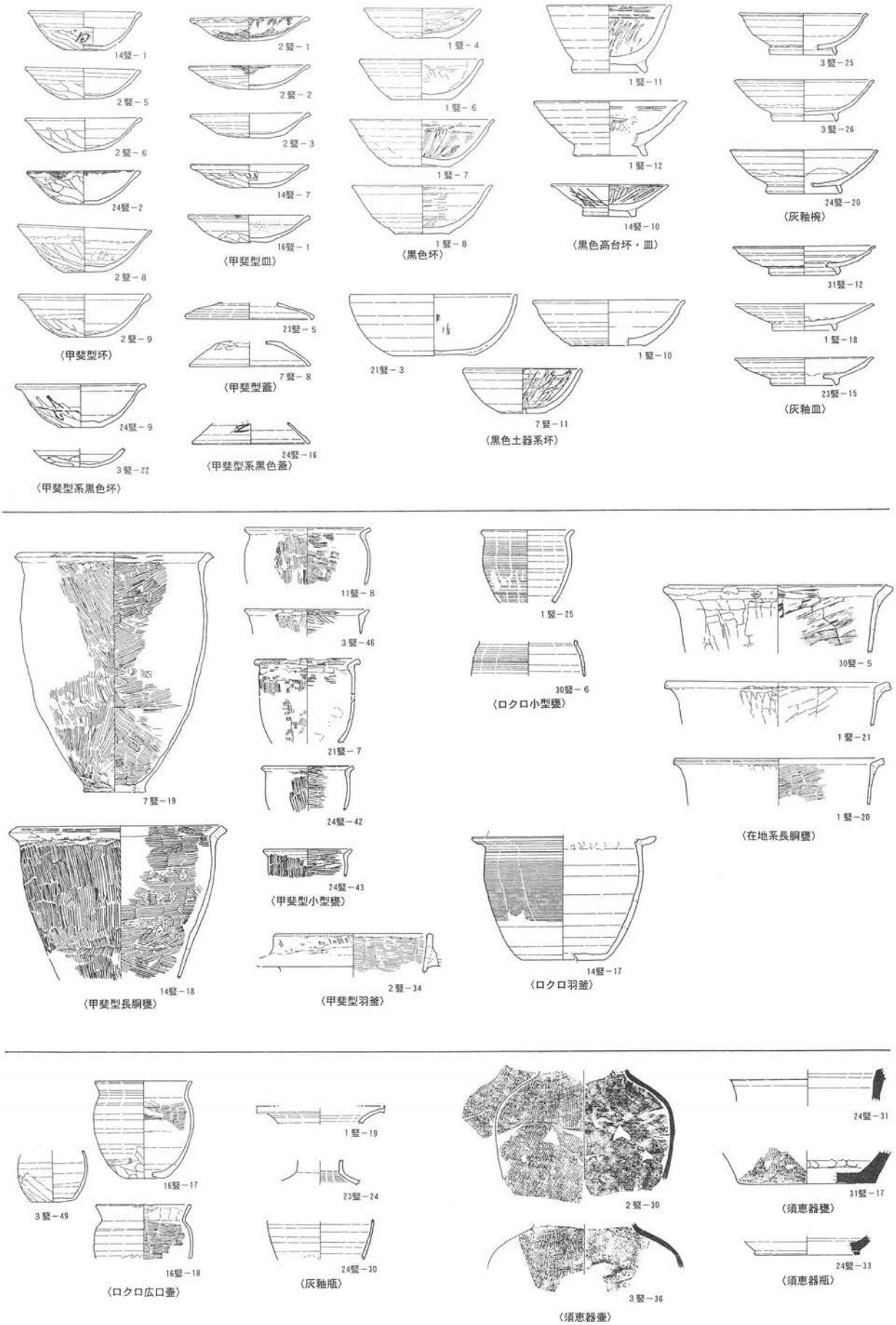
坏・皿・蓋・長胴甕・小型甕・羽釜がある。坏は通常の甲斐型坏と、黒色処理を施したものがある。坏は、口径11～13cmの範囲のもの、13～15cmの範囲のものと二つの法量分布をもつ。皿は、口径12～13cmの範囲内におさまっており、器高の差もほとんどない。坏・皿・蓋は、体部内面に暗文はなく、口縁部が隆玉縁化している。体部下半は手持ち斜めヘラケズリを施し、底部は手持ち全面ヘラケズリの他に、わずかに回転糸切痕を残すものがある。長胴甕は、口径が30cm前後を測り、口縁部が肥厚化しており、厚口又は末広口形態を呈する。口縁部の内外面は、ハケメ調整や横ナデ調整が施され、胴部は外面が縦位のハケメ調整、内面を横位のハケメ調整が施される他、ハケメ調整の後にナデ調整が施されるものがある。また、指頭痕が顕著なものなどもある。底部外面には木葉痕が残る。形態的には砲弾形というより、胴部上半部がやや脹らみ、胴部中央部付近で、内側にやや強く折れ込み、接合痕を顕著に残すものが多い。小型甕は口径20cm以下を測るものである。整形および調整ともに長胴甕とほぼ同じである。口縁部形態も基本的には同じであるが、断面形が三角形を呈するものがみられる。羽釜は、口縁部がやや外傾しながらほぼ直立気味に立ち上がり、その下部に鍔を巡らす。完形品はない。整形・調整とも基本的に長胴甕と同じである。

【黒色土器】

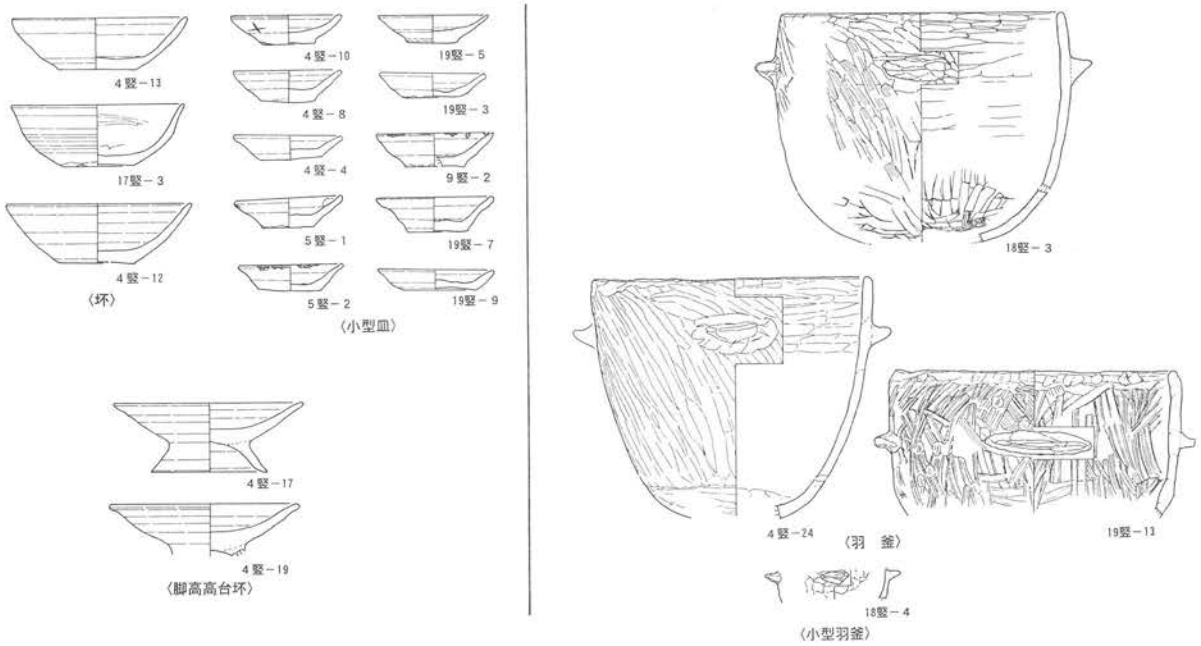
坏・高台坏（椀）・高台皿がある。坏は体部が若干丸味を帯びながら立ち上がり、口唇部は尖形を呈する。ロクロ調整痕を残し、底部は回転糸切り未調整のものが大半を占める。口径12～13cmの範囲のものと、14～16cmの範囲のもの、16～18cmの範囲のものと三つの法量分布がみられる。高台坏とわかるものは1号竪穴における2点のみで、口径13.4cmのものと、16cmを測るやや大型品がある。高台皿も確実にわかるものは14号竪穴における1点のみで、口径12.4cm、高台径5.1cm、器高3.5cmを測る。胎土および色調からみると、褐灰色を呈し、黒色粒子を多く含むものと、浅黄橙色を呈し白色粒子を多く含むものの



第248図　甲斐型坏・皿、黒色土器坏、土師質小型皿における法量分布



第249図　平安第Ⅰ段階の土器



第250図　平安第Ⅱ段階の土器

二つのタイプがみられる。

【土師質土器】

坏・小型皿・脚高高台坏・羽釜がある。坏の形態は黒色土器坏に似ている。口径は14cm前後、底径は6 cm前後、器高は4.5cm前後を測る。小型皿は口径８～8.5cmの範囲のものが大半で、口径９cm前後を測る一群も若干みられる。胎土には雲母を多量に含んでいる。脚高高台坏は口径14.8cm、高台径９cm、器高5.5cmを測る。脚部の高さは2.4cmを測る。羽釜は、尖形の口縁部から曲線的に底部にいたり、丸底を呈するもので、幅５cm程度の抓み状の鍔を２～３箇所付けたものである。整形および調整はヘラケズリおよびヘラナデを多用し、胎土には白色粒子や小礫を多く含んでいる。

【ロクロ整形土器】

小型甕・羽釜・広口壷がある。いずれの器種も１～２点程度しかない。小型甕は１号竪穴でみられ、口径は13.5cmを測る。羽釜は14号竪穴でみられ、口縁部を欠失しているが、平底の羽釜である。鍔径26.5cm、底径11.8cm、現高18cmを測る。鍔部下の胴部外面にはカキメがみられ、その下部は回転ヘラケズリ調整がみられる。胎土は白色粒子と黒色粒子を多く含んでいる。広口壷は16号竪穴でみられ口径14cm、底径5.2cm、器高14.1cmを測る。ロクロ調整痕を明瞭に残し、胴部外面下半部は手持ちのヘラケズリ整形がみられる。胴部内面はロクロ調整痕の他、横位のハケメ調整がみられる。

【灰釉陶器】

椀・皿・瓶がある。すべて破片資料だが、その量は比較的多い。椀・皿で全体が復元できるものは、３号・23号・24号竪穴にみられる３点程度である。椀は口径13.8～16.0cm、高台径6.8～7.7cm、器高4.6～4.8cmを測る。体部は緩やかな張りをもって立ち上がり、口唇部は外側へ水平に外反させている。高台は外面の稜が明瞭な三日月高台である。体部外面はロクロ調整とともに、回転ヘラケズリで整形している。釉は刷毛塗りで、重ね焼きに伴う高台痕が残っているものもみられる。皿は

1号竪穴建物

	食膳具	煮炊具	貯蔵具
甲斐型土器系	210	807	0
黒色土器系	1162	0	0
ロクロ整形土器系	0	200	0
灰釉陶器	66	0	25
須恵器	0	0	100
小計(g)	1438	1007	125
合計(g)			2570

2号竪穴建物

	食膳具	煮炊具	貯蔵具
甲斐型土器系	1278	1569	0
黒色土器系	88	0	0
ロクロ整形土器系	0	0	0
灰釉陶器	43	0	137
須恵器	0	0	311
小計(g)	1409	1569	448
合計(g)			3426

3号竪穴建物

	食膳具	煮炊具	貯蔵具
甲斐型土器系	1030	2506	0
黒色土器系	416	0	0
ロクロ整形土器系	0	73	0
灰釉陶器	243	0	125
須恵器	0	0	145
小計(g)	1689	2579	270
合計(g)			4538

7号竪穴建物

	食膳具	煮炊具	貯蔵具
甲斐型土器系	535	1020	0
黒色土器系	45	0	0
ロクロ整形土器系	0	0	0
灰釉陶器	111	0	102
須恵器	0	0	0
小計(g)	691	1020	102
合計(g)			1813

11号竪穴建物

	食膳具	煮炊具	貯蔵具
甲斐型土器系	79	1050	0
黒色土器系	140	0	0
ロクロ整形土器系	0	0	0
灰釉陶器	10	0	0
須恵器	0	0	0
小計(g)	229	1050	0
合計(g)			1279

14号竪穴建物

	食膳具	煮炊具	貯蔵具
甲斐型土器系	393	4001	0
黒色土器系	314	0	0
ロクロ整形土器系	0	1390	0
灰釉陶器	707	0	0
須恵器	0	0	0
小計(g)	1414	5391	0
合計(g)			6805

16号竪穴建物

	食膳具	煮炊具	貯蔵具
甲斐型土器系	328	529	0
黒色土器系	171	0	0
ロクロ整形土器系	0	17	122
灰釉陶器	11	0	0
須恵器	0	0	7
小計(g)	510	546	129
合計(g)			1185

21号竪穴建物

	食膳具	煮炊具	貯蔵具
甲斐型土器系	114	285	0
黒色土器系	59	0	0
ロクロ整形土器系	0	5	0
灰釉陶器	0	0	0
須恵器	0	0	0
小計(g)	173	290	0
合計(g)			463

23号竪穴建物

	食膳具	煮炊具	貯蔵具
甲斐型土器系	264	1089	0
黒色土器系	81	0	0
ロクロ整形土器系	0	0	0
灰釉陶器	145	0	4
須恵器	0	0	31
小計(g)	490	1089	35
合計(g)			1614

24号竪穴建物

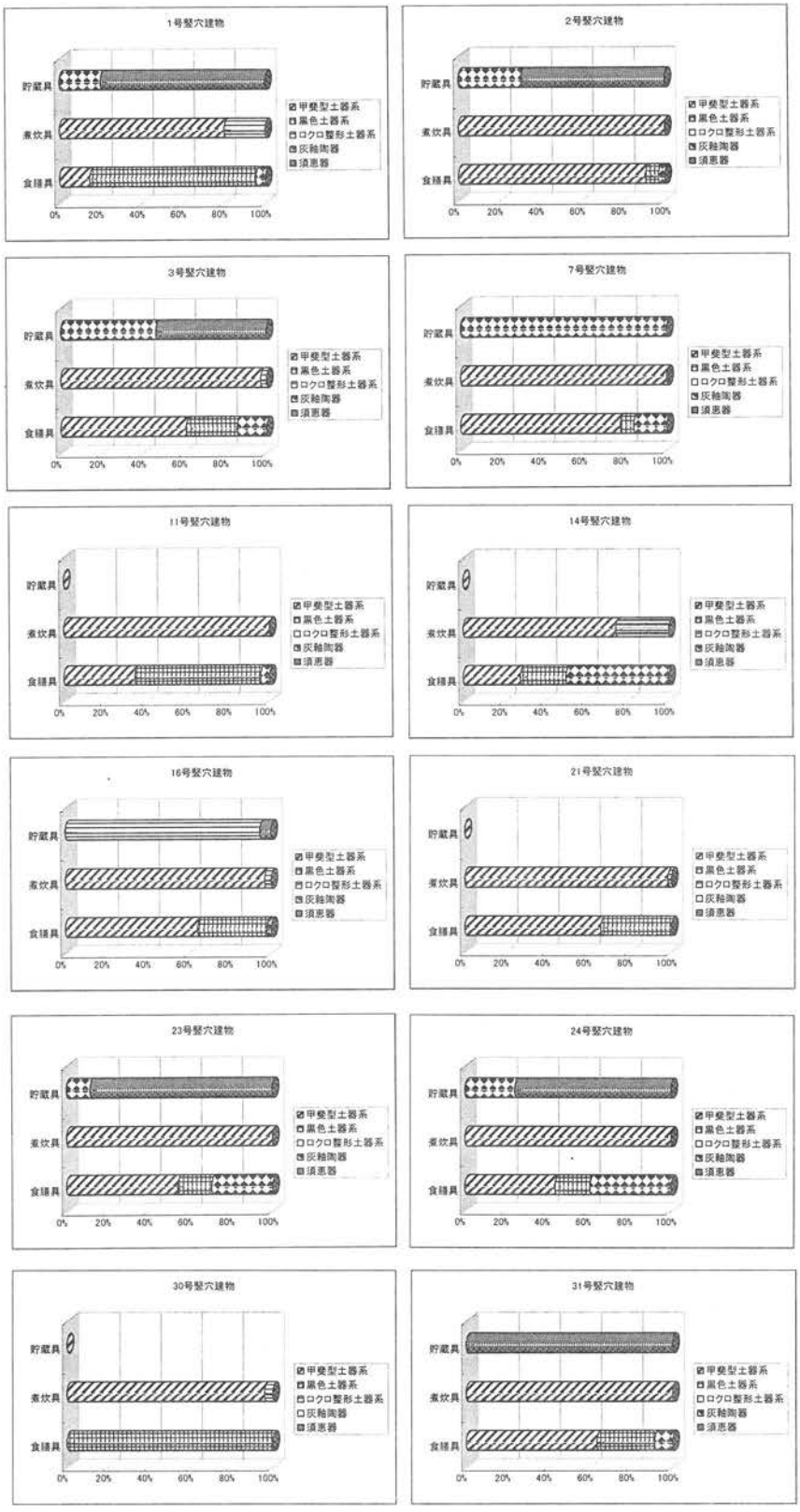
	食膳具	煮炊具	貯蔵具
甲斐型土器系	325	1332	0
黒色土器系	126	0	0
ロクロ整形土器系	0	0	0
灰釉陶器	292	0	74
須恵器	0	0	232
小計(g)	743	1332	306
合計(g)			2381

30号竪穴建物

	食膳具	煮炊具	貯蔵具
甲斐型土器系	0	456	0
黒色土器系	37	0	0
ロクロ整形土器系	0	19	0
灰釉陶器	0	0	0
須恵器	0	0	0
小計(g)	37	475	0
合計(g)			512

31号竪穴建物

	食膳具	煮炊具	貯蔵具
甲斐型土器系	219	1202	0
黒色土器系	96	0	0
ロクロ整形土器系	0	0	0
灰釉陶器	30	0	0
須恵器	0	0	710
小計(g)	344	1202	710
合計(g)			2256



第251図　平安第Ⅰ段階の竪穴建物における土器種別割合

口径14.8cm、高台径6.8cm、器高3.1cmを測る。

【須恵器】

甕・壷・瓶などがある。すべて破片資料で、全容が判明するものはない。

(3) 段階の設定

前項目では土器の種類別にみられる器種構成とその特徴について述べた。そこで明らかになったことは、甲斐型土器の坏や皿については、各竪穴建物出土の同土器群資料には大きな差はみられず、ほぼ同一時期の所産のものと考えられる。土師質土器群についても各竪穴建物間に相違は認められないことから、石原田北遺跡出土の平安期の土器群は、大きく2段階に時期設定することができる。前者を平安第Ⅰ段階、後者を平安第Ⅱ段階としておきたい。

〈平安第Ⅰ段階〉

1・2・3・7・11・14・16・21・23・24・30・31号竪穴建物が相当する。宮ノ前遺跡の土器編年のⅨ期、坂本氏および甲斐型土器研究グループ編年のⅫ期に相当し、年代は、宮ノ前遺跡編年の10世紀前半から半ばとしたい。ただ灰釉陶器が美濃窯光ヶ丘1号窯式前半期と後半期が認められており、齊藤孝正氏によると、光ヶ丘1号窯式は、猿投窯の第Ⅴ期第2小期（黒笹90号窯式）の灰釉椀・皿2型式および3型式に対比され、年代は860～900年頃とされており（齊藤 2000)、甲斐型土器編年（宮ノ前編年）とは年代的に約50年前後の齟齬が生じることになる。生産地と消費地におけるタイムラグや、伝世品との捉え方も可能ではあるが、やや時間幅がありすぎるような感じもうける。近年の灰釉陶器における年代観の流れを受けて、甲斐型土器における年代観も、もう一度精査する必要があろう。

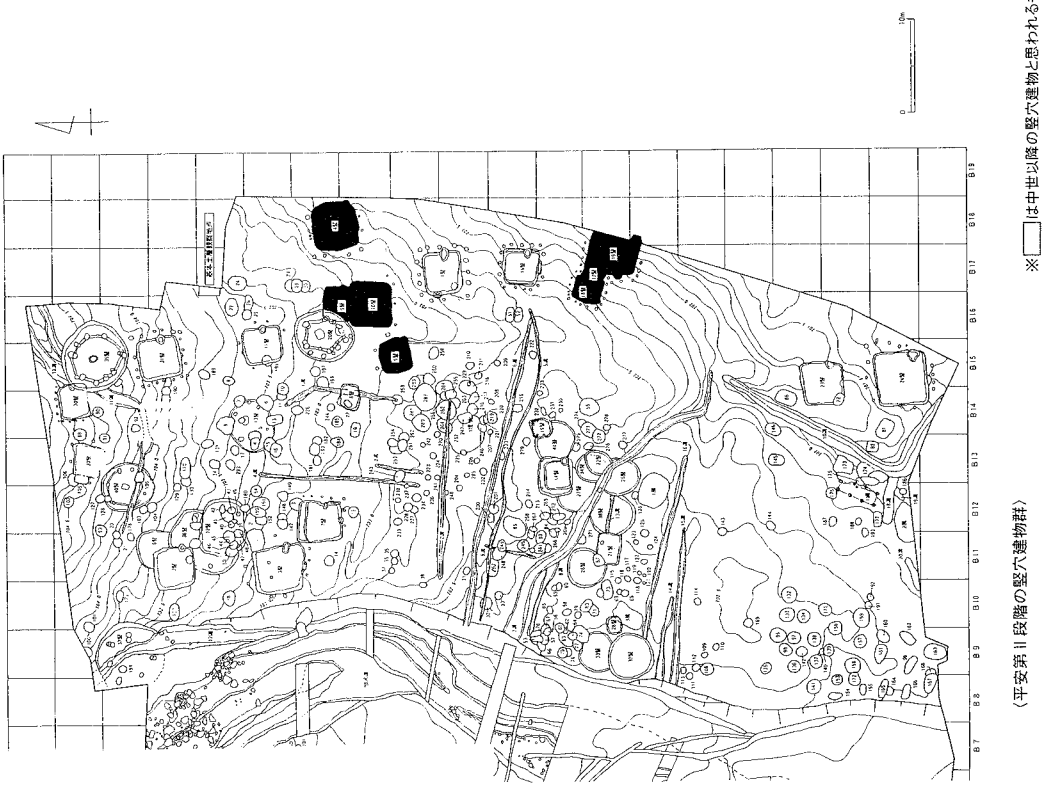
〈平安第Ⅱ段階〉

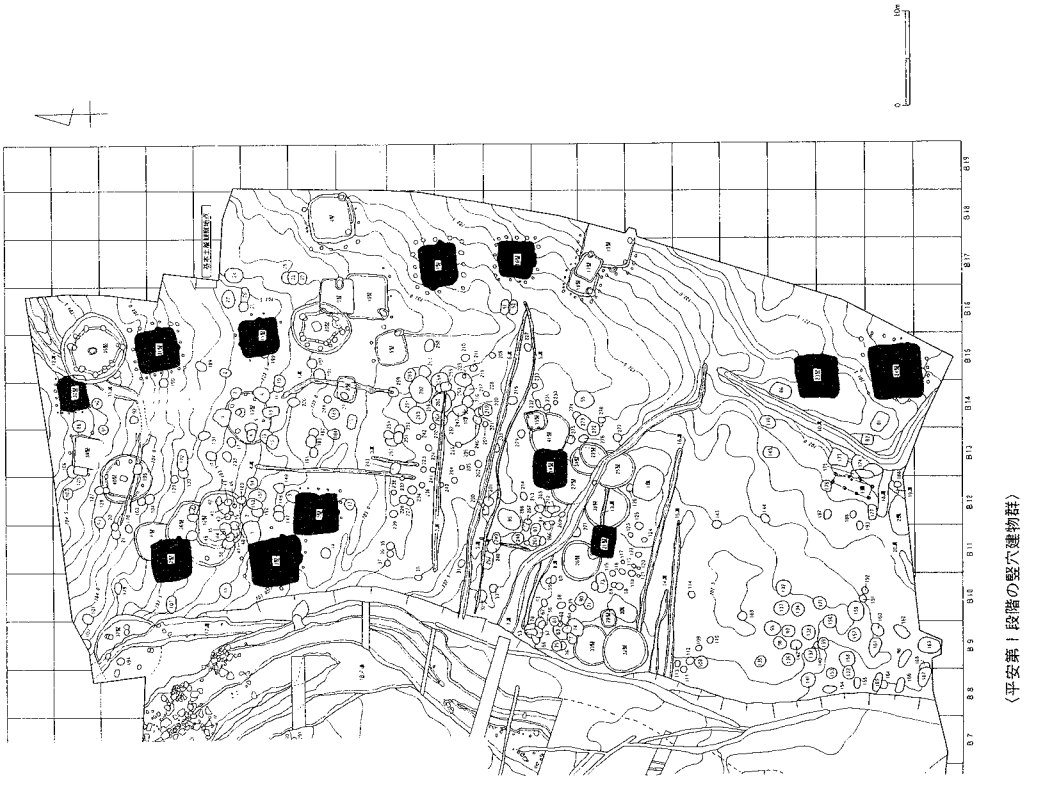
4・5・9・10・17・18・19号竪穴建物が相当する。小型皿と脚高高台の付く土器群が共伴するものの、柱状高台の土器群は伴っていない。しかし特徴的な羽釜の存在から、坂本氏の編年の古代末期Ⅴ期～Ⅵ期に相当し、また森原氏の編年の3期～4期に相当する。年代は、両氏の編年の間には微妙な違いがみられるが、11世紀後半から12世紀初頭頃とやや幅をとっておきたい。

(4) 平安第Ⅰ段階における土器群のあり方

最後に、平安第Ⅰ段階における各竪穴建物における土器群のあり方を、各竪穴建物から出土した各土器群の総重量を計測し、各竪穴建物ごとに土器群の割合を出してみた。食膳具において、黒色土器割合が甲斐型土器の割合を上回っているのは、遺物の出土量が極めて少ない30号竪穴建物を除くと、1号竪穴建物だけである。灰釉陶器の割合が、甲斐型土器に迫っている本遺跡で最大規模をもつ24号竪穴建物のあり方も興味深い。

その割合の違いが人やモノとの交流を示しているのか、政治的動向も含んだ土器生産の実態を示しているのか、その背景には注意していなければならないだろう。





第252図　平安時代の竪穴建物変遷図

第３節　平安時代の竪穴建物構造

まず最初に本遺跡では、考古学において慣用語として広く使用されている「竪穴住居」ではなく、「竪穴建物」という名称を使用している。これは「竪穴住居」の機能を考えた場合、「住まい」という単一的な機能だけではなく、作業小屋や納屋等といった多面的な機能をもった竪穴も存在するのではないかということから、「住居」という機能を限定しない「竪穴建物」という名称を使用している（関1994、渡辺1992）。

(1) 建物遺構について

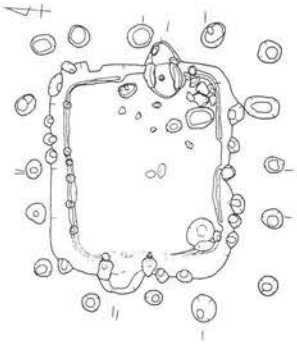
石原田北遺跡の平安時代の建物遺構は、竪穴建物と礎石建物がある。竪穴建物の規模は、平安第Ⅰ段階では長軸平均長は約4.5ｍ、竪穴床面積平均は13.2㎡、平安第Ⅱ段階では長軸平均長は約4.0ｍ、竪穴床面積平均は11.2㎡となっており、両段階ともに山梨県内における平均値と大差はない。また平安第Ⅰ段階における最小床面積は、長軸3.42ｍを測る30号竪穴建物の6.0㎡、最大床面積は、長軸5.71ｍを測る24号竪穴建物の19.89㎡である。平安第Ⅱ段階における最小床面積は、長軸2.47ｍを測る17号竪穴建物の3.76㎡、最大床面積は全体は未検出であるが長軸5.14ｍを測る19号竪穴建物の約19.89㎡である。平安第Ⅰ段階に比べると、平安第Ⅱ段階の方が最大規模と最小規模において較差が大きいようである。

礎石建物については、渡来人に関わる特徴的な建築技法と考えられており、東日本では竪穴建物型式と融合したかたちでみられることが多い。石原田北遺跡でも竪穴建物と融合したかたちでみられ、本遺跡の他にも八ヶ岳南麓地域では、高根町の青木北遺跡や小淵沢町の前田遺跡等で検出されている。31号竪穴建物が該当するが、西壁下および北壁下等を中心に、計９個の礎石状の扁平な礫が検出されている。竪穴の規模は長軸4.32ｍ、短軸4.30ｍを測るが、集落内で竪穴規模や内部構造で他の竪穴建物と大差はなく、遺物の質的な格差も特にみられない。しかしながら、渡来的要素をもつ礎石建物の検出事例が、八ヶ岳南麓地域を中心にわずかながらではあるが、増加していることを踏まえれば、この礎石建物が存在する理由やそのあり方について、時間的・空間的な様々な視点から、今後慎重に検討していかなければならないだろう。

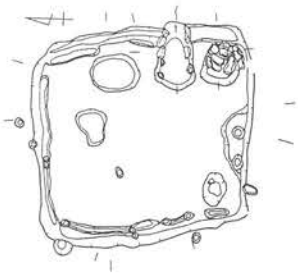
それでは、次に平安時代の竪穴建物構造について、竪穴内部の竈を除いたその他の諸施設を中心に整理をしてみたい。

(2) 竪穴壁外柱穴をもつ竪穴建物

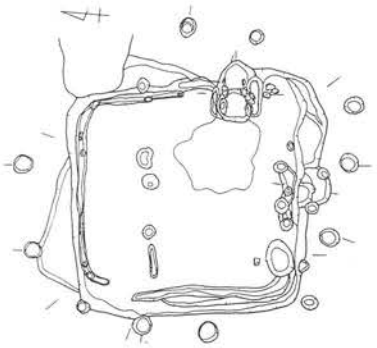
竪穴壁外柱穴とは、「竪穴部の外側にある竪穴住居に伴う柱穴」のことを言う（高橋・多ヶ谷1998）。本遺跡では、１・２・３・４・７・10・11・14・15・16・18・19・24・30・31・39号竪穴建物で検出されている。１号竪穴建物では、竪穴壁外柱穴と思われるピットは16基検出されており、径約35～75㎝、深さ約30～40㎝程度を測る。ピット間は約80～150㎝の間隔をもち、竪穴壁面外側から約30～90㎝を測る位置で検出されている。２号竪穴建物では、竪穴壁外柱穴と思われるピットが４基ほど検出されている。いずれも径20㎝前後、深さ10㎝前後のものである。３号竪穴建物では、ピットは11基検出されており、径40㎝前後、深さ30㎝前後を測る。ピットの間隔には、特に規則性は見いだせない。７号竪穴建物では、ピットは16基検出され、竪穴壁面の外側の約10～65



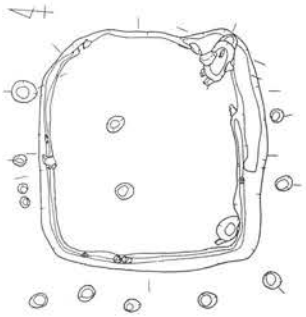
1号竪穴（壁外柱＋階段）



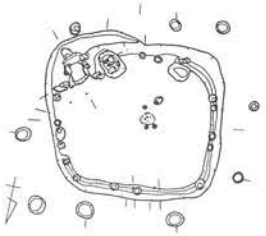
2号竪穴（壁外柱？＋階段＋棚）



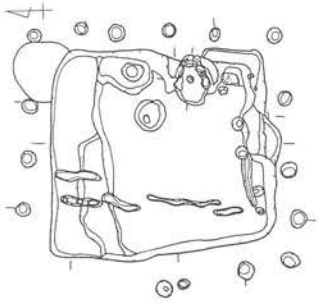
3号竪穴（壁外柱＋階段＋棚＋間仕）



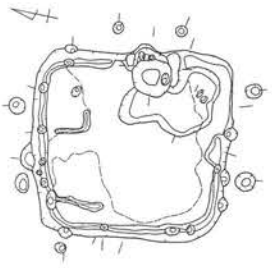
4号竪穴（壁外柱＋棚）



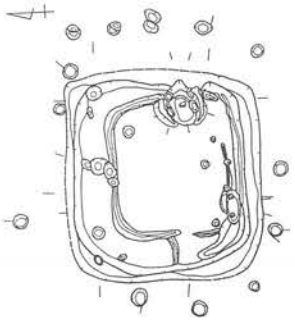
5号竪穴（壁外柱＋棚）



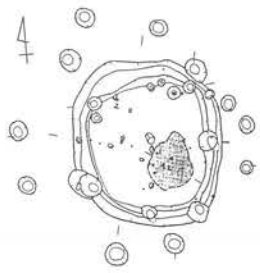
7号竪穴（壁外柱＋階段＋棚＋テラス＋間仕）



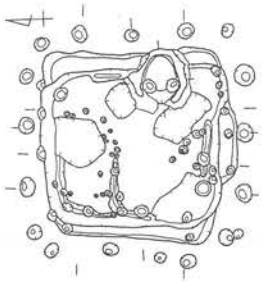
11号竪穴（壁外柱＋階段＋間仕）



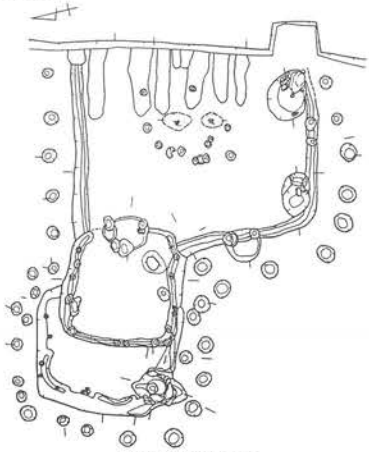
14号竪穴（壁外柱＋テラス）



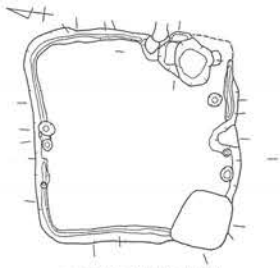
15号竪穴（壁外柱？）



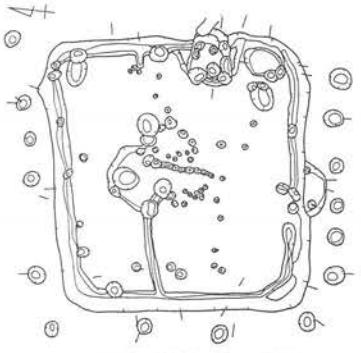
16号竪穴（壁外柱＋階段＋棚＋間仕）



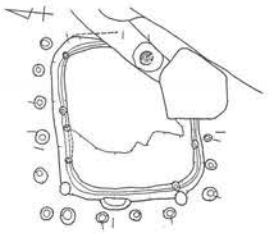
17号竪穴（壁外柱？）
18号竪穴（壁外柱＋棚）
19号竪穴（壁外柱＋階段）



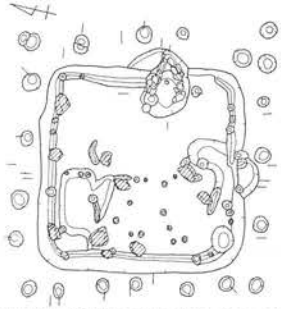
23号竪穴（階段＋間仕）



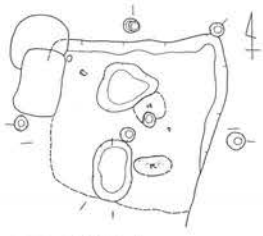
24号竪穴（壁外柱＋階段＋間仕）



30号竪穴（壁外柱＋階段）



31号竪穴（壁外柱＋礎石＋階段＋棚？＋間仕）

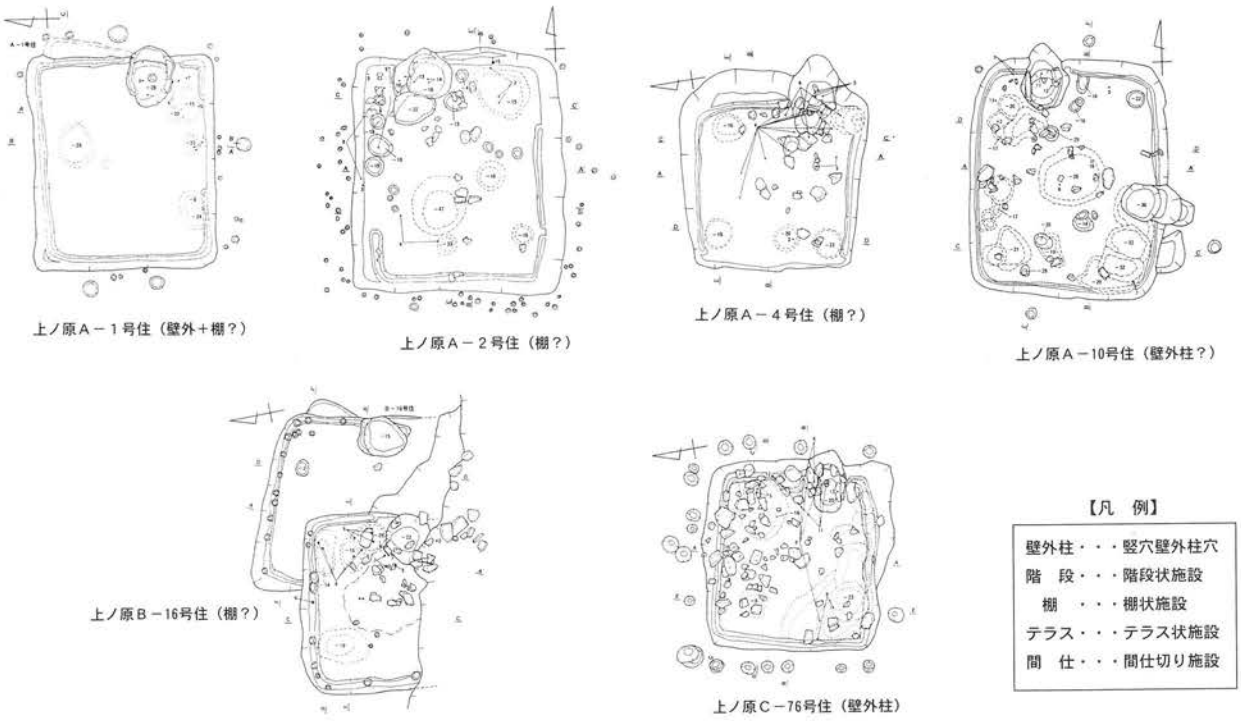


39号竪穴（壁外柱）

【凡　例】

壁外柱	・・・竪穴壁外柱穴
階　段	・・・階段状施設
棚	・・・棚状施設
テラス	・・・テラス状施設
間　仕	・・・間仕切り施設

第253図　石原田北遺跡の平安時代竪穴建物（1/160）



第254図　須玉町上ノ原（かみのはら）遺跡の平安時代竪穴建物（報告書より転載、1/160）

cmを測る位置で検出されている。径は25～40cm、深さは30cm前後を測る。本竪穴でもピット間の間隔には規則性は見いだせない。

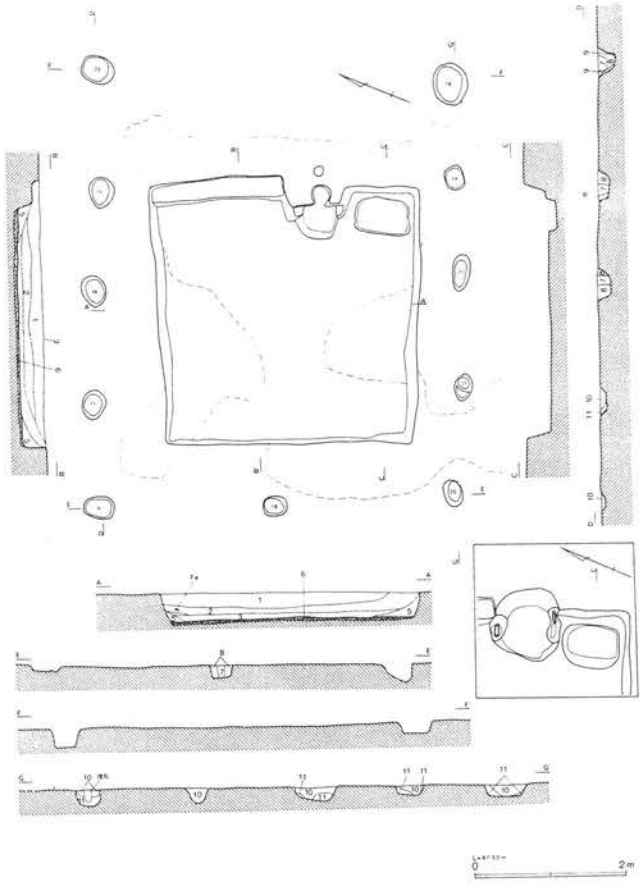
本遺跡の他に、山梨県内で竪穴壁外柱穴と思われるピットを伴う竪穴建物を検出している遺跡は、管見にふれる限りでは、北巨摩郡須玉町の西川遺跡（註１）、同郡同町の上ノ原遺跡（註２）、北巨摩郡長坂町の原町農業高校前遺跡（註３）などで、まだ類例は乏しい。

ところで、古墳時代以降、奈良・平安時代にかけて竪穴建物の小型化が進み、それに伴って竪穴内から主柱穴が検出されないという無主柱小型竪穴建物の増加傾向は、山梨県をはじめ東日本各地で認められている。この問題について、武蔵国府域集落の調査、分析を行っている荒井健治氏の指摘がある。武蔵国府域集落の竪穴建物も、山梨県の分析結果と同じような傾向を辿り、それを荒井氏は「竪穴内空間の利用価値を高めるための改善行動であり、この主柱穴をもたない竪穴建物址は、壁構造で上屋を支えていたものと考えられる」とし、その構造については、群馬県黒井峰遺跡にみられた壁立の平地式建物と類似した構造を想定されている（荒井1991）。

他方、研究者の中には無主柱穴小型竪穴建物は、置き柱で屋根を支えていたという考え方もある。しかしながらその痕跡を認めた事例は少なく、置き柱を使用した無主柱竪穴建物も、構造上のバリエーションとして存在したとは思われるが、やはり荒井氏が指摘するように、ある限られた竪穴空間を有効に利用しようとする考え方から、竪穴内部における柱を取り除いたとみるべきではなかろうか。その結果、無主柱穴竪穴建物の増加につながったと現段階では考えておきたい。

ではなぜ竪穴建物は小型化したのか。前述のように、竪穴建物の竪穴部の床面積の縮小傾向が奈良時代以降、時代を追って促進されたことは、各地の分析データの結果から明らかとなっている。こうした竪穴建物の縮小傾向は、在地の有力者層が自らの私富の蓄積を高めるため、私出挙を中心

に一般庶民から収奪を繰り返し、階層分化が進んだ結果だとする見解が多く出されており、社会構成史的側面から言及されていることが多い。また、掘立柱建物とのかかわりから竪穴建物の縮小化を捉える見解もある。つまり、掘立柱建物を主屋や納屋的存在、竪穴建物を厨房や居住的存在と位置付け、機能的分化が進んだとするものであるが（伊丹1985）、やはりその背景には階層分化の進行が挙げられている。これらの見解はどれも斬新な視点から論ぜられており、大変興味深いものと言えるが、竪穴建物の縮小化の問題に対する決定的な答えとはなっていないのではないか。



第255図　埼玉県樋ノ下遺跡第18号住居跡（報告書より転載）

古墳時代から平安時代にいたるまで、竪穴建物の竪穴部だけを人間の行動していた範囲だと限定すれば、確かにその縮小傾向は大幅に進んでいると言える。しかし居住空間論的視点からみれば、笹森健一氏も指摘するように、竪穴部の外周も屋内居住空間として取り込まれていたとすれば、竪穴建物全体の面積の縮小幅はさほど大きくはなかったのではなかろうか（笹森1978）。空間利用の場の一つとしての竪穴部は縮小しても、竪穴建物全体の空間利用面積には、あまり大きな変化はみられなかったとも言えるのである。事実、埼玉県寄居町樋ノ下遺跡第15号・第18号建物跡の事例のように（註４）、竪穴部上端から竪穴外柱穴との間の空間で、硬化した面が確認されたことから、竪穴壁外の空間も人間が行動できるぐらいのスペースをもっていたことが窺え、竪穴建物内の空間利用の多様性が浮き彫りになったと言えよう。

さて、桐生氏の分析によれば、壁外柱穴を伴う竪穴建物の最古例は７世紀第Ⅲ四半期とされ（桐生1996a）、これは畿内地域を中心にみられる竪穴建物から掘立柱建物への移行というような、建築様式自体の大変革ほどではないが、東日本でも７世紀代に竪穴建物構造上に何らかの変革があり、それに伴い竪穴部が縮小化していったとも考えられる。その背景には掘立柱建物の存在も影響していたかもしれない。こうした視点からみれば、本当に竪穴建物は縮小化したのかという問題も再浮上してくるのではなかろうか。今後の課題である。

次に上屋構造研究の面でも、従来竪穴建物の上屋構造の復元と言えば、縄文時代や弥生時代を中心に、主柱が捉えられる竪穴建物を中心に進められてきた。しかし無主柱竪穴建物についてはほとんど復元は試みられず、等閑視されてきたと言って良い。今後、竪穴外柱穴を伴う無主柱竪穴建物の事例の増加に伴って、その復元に関しても建築学等の専門的見地から積極的に試みていかなけれ

ばならない課題である。

(3) 棚状施設をもつ竪穴建物

棚状施設とは、桐生直彦氏の定義を引用すると、次のようである。竈を有する竪穴建物の竪穴壁に接して平行に設けられた段差をもつ屋内施設であり、竪穴壁より外側に張り出して設けられているもの、竪穴壁の内側に設けられているものに大別でき、さらに構造面で素掘のもの、構築土を充填するもの、盛土するものの三つに分けることができるとしている（桐生1997）。

石原田北遺跡では、現在まで2・3・4・5・7・16・18・31号竪穴建物跡で棚状施設が確認されている。竈を有する壁面に素掘で設けられたものが大半を占めるが、18号竪穴の事例は盛土によって構築された可能性が強い。7号竪穴建物跡の棚状施設は、東壁にある竈に向かって右側に、素掘りで竪穴壁ラインより若干張り出して、しかも南壁の一部にかかるかたちでL字状に構築されており、奥行き約22cm、幅118cm、遺構確認面からの深さは約15cm、床面からの高さは約35cmを測る。

16号竪穴建物の棚状施設は、東壁にある竈に向かって左右両側に素掘で、竪穴壁より外側に張り出して構築されているもので、遺構確認面からの深さ約20cm、幅（奥行き）は約25～35cmを測り、床面からの高さは約15cmを測る。

一方、平安時代末頃の所産である4号・5号・18号竪穴建物跡等でも、棚状施設の存在が確認されている。山梨県をはじめ東日本各地で、11世紀前後になると、竈の位置が竪穴内のコーナー部分に移る傾向が認められているが、こうしたコーナー竈を有する竪穴建物でも棚状施設が設けられていたことを物語る事例である。特に18号竪穴建物跡は、南西コーナー部に竈を有する竪穴であるが、竈に向かって右側の袖の脇において、遺構確認面から5cmほど下のレベルから土師質土器の皿が出土しており、竈の両袖脇に続くように構築された棚状施設が設けてられていたことが想定できる。この棚状施設は素掘ではなく、竈の袖と一体となった盛土によって構築されていたため、竪穴埋土との判別ができず、左右両側の棚状施設の一部を破壊してしまった。しかし不自然な土師質小皿の出土によってその存在が確認できたわけである。なお、その規模は幅（奥行き）15～20cm、床面からの高さは約40cmを測る。

棚状施設は、単に竪穴壁の上端部分を外側に掘り込んで造られる棚状施設だけではなく、竪穴壁の内側に竪穴覆土と類似した構築土によって造られる低い棚状施設も存在することから、調査段階において見逃してしまうことも多いのではなかろうか。山梨県内では他に、北巨摩郡須玉町の上ノ原遺跡のA－1・2・4号住、B－16号住等や中巨摩郡八田村の榎原・天神遺跡1号住居等で検出されている。榎原・天神遺跡は2000年度の調査段階で実見したものだが、東竈をもつ10世紀前半代の竪穴であり、竈に向かって左側に地山を竪穴内に掘り残して構築されている。地山整形面には粘土を貼り付けた痕跡もみられるという（註5）。床面との段差は10cm内外を測る低いタイプのもので、一歩間違えば簡単に掘りとばしてしまう程度の段差である。他に同じく中巨摩郡八田村の石橋北屋敷遺跡の3区6・7号住等で、棚状施設の存在を想起させるような遺物の出土状況や痕跡が認められるが、発掘調査報告書ではその点についてふれられていない。

棚状施設は桐生直彦氏が、竪穴建物の壁際覆土内から出土する遺物の事例分析からその存在を見い出し、その後、第一次資料として報告書内に眠っていた事例を集成分析し、構造的定義だけでは

なく、その機能的側面についても「食生活に関係した道具類を中心とした収納スペースとしての役割をもっていた」と定義している（桐生1995・1996b）。こうしたことからも棚状施設は、竪穴建物内構造や空間利用や家財道具の保有形態等の問題を解明していくうえでの重要な施設の一つとして、その検出に努め、調査・研究を続けていかなければならない。

(4) 出入口施設をもつ竪穴建物

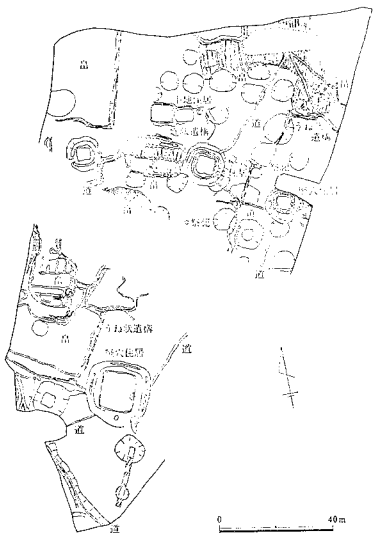
本遺跡における出入口施設とは、竪穴壁の外側を方形ないし半円形状に掘り込むか、もしくは竪穴壁面内側の地山面を掘り残し、一段あるいは二段の階段状ステップを造り出しているものを言う。出入口施設の分析を精力的に行っている高橋泰子氏によると、竪穴建物の竪穴部の出入りには梯子を使用した痕跡の他にも、張り出しタイプ、ステップタイプ、階段タイプの三つのタイプの出入口施設があり、構造的には竪穴壁の外側を掘り込んで構築するものと、竪穴壁の内側に盛土して構築するものとに大別できるとして、両者の要素をもつ折衷的なものも存在するとしている（高橋1997・1998）。

本遺跡では、1・2・3・7・11・16・19・23・24・30・31号竪穴建物跡で検出されている。1号竪穴建物跡では、竈の正面に位置する西壁のほぼ中央に、竪穴壁を外側に掘り込んで二段の階段を構築しており、30号竪穴建物跡では、遺構上面が後世の耕作により削平されて、他の竪穴建物と比べて遺存状況は悪いものの、竪穴壁を外側に掘り込んだ一段の段差を検出することができた。

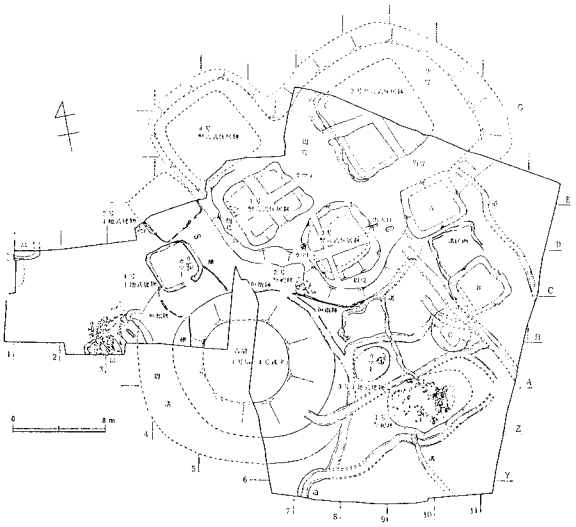
3・7・16・23・24・31号竪穴は、竈に向かって右側の壁、当遺跡では南壁の中央部分にあたる位置に設けている。このうち6号・24号・31号竪穴建物では、竪穴壁を外側に掘り込み、一段のみの階段を造り出している。3号・7号竪穴建物は、竪穴壁を外側に掘り込むとともに、竪穴内には地山面を階段状に掘り残し、計2段の階段を構築している。竪穴内の階段については、地山を掘り残して構築している。23号竪穴建物は、竪穴壁に沿って地山と同質の土を盛って構築しているいわゆるステップタイプものである。ステップの上面は床面の硬化面と同様に硬化し、壁に平行する長さ、および壁に直交する長さともに約60cmを測り、床面とのレベル差は約7cmを測る。11号竪穴建物は、竈に向かって左側の壁に入口部を設定する唯一の例であるが、構築状況は先の16号竪穴建物等と同じ様なつくりである。本竪穴建物では、床面に残る硬化面がこの階段状施設に向かって帯状に延びていることが確認できたことから、入口施設とほぼ考えて良かろう。

本遺跡では平安時代の竪穴建物から、比較的高い割合で出入口施設に伴う階段状施設等が検出されたが、検出されない竪穴建物も本遺跡に限らず他の遺跡でも多数存在する。このことは、移動式の梯子や踏み台といったものが存在した可能性や、竪穴自体の掘り込みが浅く、もともと竪穴壁がさほど高くなかった等の理由で（高橋1997）、初めから無かった場合や、後世の自然ないし人為的な営力によって無くなった場合もあるだろう。しかし近年では、床に残る硬化面と出入口施設との相関関係が硬度計を使用した綿密な観察によって実証されつつある（米沢　1997a・1997b）。出入口に伴う施設が遺構として検出されない場合でも、床における硬化面の観察によって、その場所が判明できる場合があるので、調査段階における硬化面の観察が重要となってくる。

竈を有する竪穴建物の出入口の位置については、各遺跡の地形条件や集落内におけるその建物の位置、目には見えない当時のさまざまな社会的な規制等で、各遺跡ごとによってその傾向は異なっ



第256図　群馬県黒井峯遺跡全体図（石井1986より）



第257図　群馬県中筋遺跡古墳時代遺構全体（大塚1990より）

てくるものと考えられる。数十軒検出された竪穴建物のうちの、たとえ数軒でも出入口の位置が判明できれば、その後の集落分析においても、高橋泰子氏も指摘するように、集落内の道の把握や、土地区画等の土地利用の状況を把握する上で非常に有効になってくると思われる（高橋　1997）。こうした竪穴建物の出入口の視点から高橋一夫氏は、集落内の「道」の復元分析を行っている（高橋　1983）。群馬県子持村の黒井峯遺跡（石井　1986）や渋川市の中筋遺跡（大塚　1987）では、集落内の竪穴建物から隣のイエや畠へ行くための硬く踏み固められた「道」が検出されていることから、当然、時代や地域に限らず全ての集落遺跡で、「道」は存在したはずである。出入口施設は竪穴建物を構成する一施設に過ぎないが、そこから導き出される情報は極めて重要と言える。

(5) テラス状施設について

本遺跡では7・14号竪穴建物で検出されている。7号竪穴建物のテラス状施設は、竪穴北壁側にあり、南北幅80～130cm、床面との段差は10～20cmを測り、同段差の西側部分の135cm×55cmの範囲が、10cmほどの比高差をもって低くなっている。14号竪穴建物においては、竪穴の四方にテラス状施設を有する。南側はテラスといっても幅も狭く段差状となっており、「棚」といってもよい。主柱とみられるピットはみられないが、北側テラスには柱穴と思われるピットが3基ほど検出されている。内側の竪穴部の壁下には周溝が巡っている。北側テラスと内側竪穴部床面との段差は約10cmを測る。

テラス状施設は、縄文時代の竪穴建物に伴う「ベッド状遺構」と酷似しているが、同じ竪穴構造をとる建物にしろ、縄文時代のものと平安時代のものを、同一視していいのかという疑問もあり、本遺跡の報告では縄文時代のものを「ベッド状」と従来の用語を使用し、平安時代のものは「テラス状」と呼んでいる。今後その機能の解明に向けた考古学的な新たな発見が期待される。

(6) その他の施設について

その他の内部構造では、間仕切りに伴う施設がある。本遺跡では3・7・11・16・23・24・31号竪穴建物で検出されている。この間仕切りの施設は床面に溝やピットとして確認されているが、

竪穴の北東隅および北西隅の一画を仕切っているものがほとんどである。24号竪穴建物のように、この仕切を境に床面が若干高くなっていたり、31号竪穴建物のように浅く掘り窪められているものがある。また7号竪穴建物のように、テラス状施設内も仕切るものもある。仕切られた範囲内の床面は、概して軟弱であり、こうした状況は間仕切り施設が検出されたほとんどの竪穴建物で確認されている。この軟弱な床面の範囲に敷板や転根太が存在したのか、それらを実証するような遺物は確認されていないが、こうした事例の積み重ねも大切である。

竪穴建物の屋内区分利用の問題は、古くから研究の俎上にのぼってきた。だがそれらは主に縄文時代から弥生時代・古墳時代にわたる主柱穴をもつ竪穴建物に関しての研究であり、奈良時代以降の無主柱穴竪穴建物における資料分析は今後の課題である。この問題は上屋復元を含めた竪穴構造論と密接な関わりがあり、両研究成果の相互批判の中から、よりよい成果を導き出されることを期待している。

以上、平安時代の竪穴建物における内部施設について整理を行い、それらをめぐる問題点と展望を述べてきた。山梨県内ではこうした施設の検出事例はまだ多くはないが、今後、事例の増加が進んで当該期の竪穴建物像がより豊かになることを期待している。

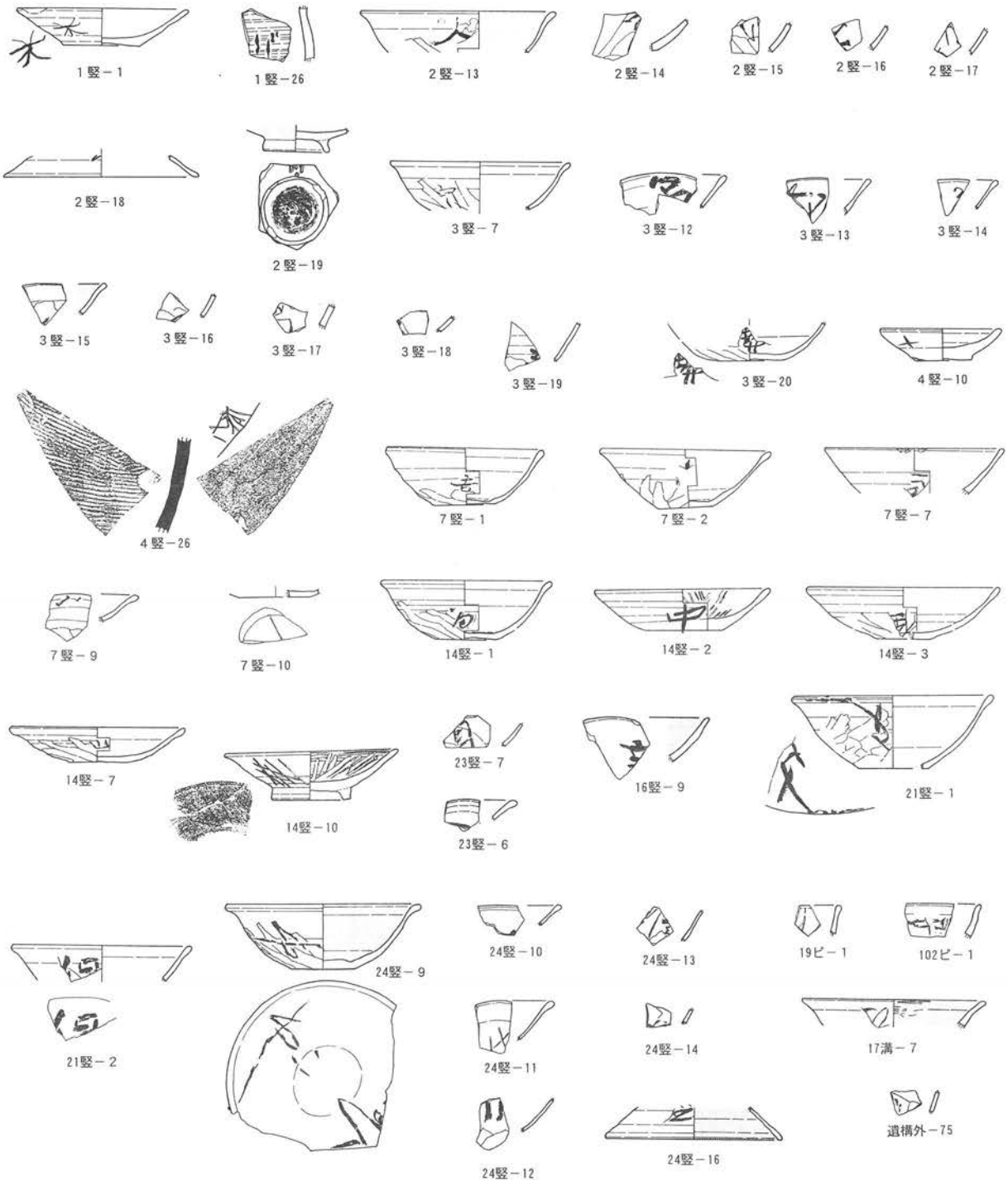
第4節　総　　括

店舗建設に伴って行われた石原田北遺跡の調査では、約6800㎡の発掘調査区から、縄文時代、平安時代、中世にわたる竪穴建物群が計40棟検出され、平安時代の竪穴建物群は、尾根頂部ラインを境として東西に分かれ、それぞれの緩斜面上に南北に長く分布している。一方、縄文時代の竪穴建物群は、埋没谷を挟んで北と南に分かれて分布し、その間にピット（土壙）群が展開している。以下に、今回の発掘調査で得られた成果と課題を述べて総括としたい。

まず縄文時代では、縄文時代中期に属すると思われる竪穴建物18棟のうち5棟の竪穴建物から、中期前葉新道1式期から藤内1式期かけての良好な土器資料群を得ることができた。特に35号竪穴建物では、新道式1期から新道式2期および藤内式1期の土器群が層位的に検証することができた。また竪穴構造の点でも、甲府盆地では藤内新段階で埋甕炉から石囲炉へ移行が認められていたものが、八ヶ岳南麓では、新道式段階で石囲炉がみられるという事例を提示することができ、これは他地域（長野県）からの影響が考えられており、当該期の他地域との交流と、山梨県内においても地域差を考える上で興味深い。

また今回は、縄文時代前期後葉の諸磯b式土器と中期前葉新道式から藤内式の土器群の胎土分析を行った。その結果、前期諸磯b式段階では、八ヶ岳南麓における在地的土器は少なかったものが、中期段階に入ると在地的土器が多くなるという分析結果を得た。八ヶ岳南麓地域における当該土器群の土器胎土分析は、今まで実施されておらず、今回の分析データは今後の土器産地推定に向けての貴重なデータと言える。

次に平安時代では、10世紀前半から半ばの遺構群と11世紀後半から12世紀初頭の遺構群が存在することが明らかとなった。19棟の平安期の竪穴建物の内、12棟が前者、残り7棟が後者となるが、



第258図　石原田北遺跡出土文字資料集成図（縮尺不同）

同じ時期での竪穴建物どうしの切り合い関係がみられることから、同じ時期でもすべての竪穴建物が同時存在していたとは考えられない。おそらく短い期間の間に集散を繰り返したものと思われ、存続した期間においても断続的に営まれた集落だったと推測できる。このことは平安時代の人びとの定住度が、実際にどの程度であったのかを問い直す問題にもつながってこよう。また、集住期間における季節的な住み分けも考えておかなければならないだろう。そしてなぜ集落が短期間の存続

表17　石原田北遺跡出土文字資料一覧表

出土地点	図版番号	番号	器質	器種	記載種別	釈文	記載部位	記載方向	備考
1竪穴	19図	1	土師器	坏	墨書	木	体外	正位	
1竪穴	20図	26	土師器	小型甕	墨書	□	胴外	－	墨痕あり、文字ではない
2竪穴	24図	13	黒色土器	坏	墨書	□	体外	正位	
2竪穴	24図	14	黒色土器	坏	墨書	□	体外	－	
2竪穴	24図	15	土師器	坏	墨書	□	体外	－	
2竪穴	24図	16	土師器	坏	墨書	□	体外	－	
2竪穴	24図	17	土師器	坏？	刻書	□	体外	－	
2竪穴	24図	18	土師器	蓋	ヘラ書	□	体外	－	
2竪穴	24図	19	黒色土器	高台坏	ヘラ書	□	体外	正位	
3竪穴	29図	7	土師器	坏	墨書	守	体外	正位	墨痕かすれる
3竪穴	29図	12	土師器	坏	墨書	□	体外	正位	
3竪穴	29図	13	土師器	坏	墨書	部カ	体外	正位	
3竪穴	29図	14	土師器	坏	墨書	□	体外	－	墨痕あり
3竪穴	29図	15	黒色土器	坏	墨書	□	体外	－	墨痕鮮明
3竪穴	29図	16	土師器	坏	墨書	□	体外	－	墨痕あり
3竪穴	29図	17	黒色土器	坏	墨書	□	体外	－	
3竪穴	29図	18	土師器	坏	墨書	□	体外	－	墨痕あり
3竪穴	29図	19	土師器	坏	墨書	□	体外	－	墨痕鮮明
3竪穴	29図	20	土師器	坏	墨書	□	体外	倒位	墨痕鮮明
4竪穴	33図	10	土師質	小型皿	ヘラ書	十カ	体外	正位	
4竪穴	33図	26	須恵器	甕	ヘラ書	□	胴内	－	文字ではない
7竪穴	41図	1	土師器	坏	墨書	吉	体外	正位	土器のつくりはいびつ
7竪穴	41図	2	土師器	坏	墨書	□	体外	正位	墨痕鮮明
7竪穴	41図	7	土師器	坏	墨書	□	体外	－	墨痕かすれる
7竪穴	41図	9	土師器	坏	墨書	□	体外	－	油煙付着
7竪穴	41図	10	土師器	坏	ヘラ書	□	底外	－	
14竪穴	65図	1	土師器	坏	墨書	□	体外	正位	
14竪穴	65図	2	土師器	坏	墨書	中	体外	正位	黒色土器系、墨痕鮮明
14竪穴	65図	3	土師器	坏	墨書	□	体外	倒位	
14竪穴	65図	7	土師器	皿	墨書	山	体外	正位	墨痕ややかすれる
14竪穴	65図	10	黒色土器	高台皿	刻書	□	体外	正位	刻み浅い
16竪穴	71図	9	黒色土器	坏	墨書	□	体外	正位	墨痕鮮明
21竪穴	90図	1	土師器	坏	墨書	入・入	体外	倒位	縦位に併記している
21竪穴	90図	2	土師器	坏	墨書	□	体外	正位	墨痕かすれる
23竪穴	95図	6	土師器	坏カ皿	墨書	□	体外	－	墨痕あり
23竪穴	95図	7	土師器	坏？	墨書	□	体外	正位	
24竪穴	101図	9	黒色土器	坏	墨書	中・中カ	体外	横位	甲斐型土器系、墨痕かすれる
24竪穴	101図	10	土師器	坏	墨書	□	体外	－	墨痕あり
24竪穴	101図	11	土師器	坏	ヘラ書	□	体外	正位	
24竪穴	101図	12	土師器	坏	墨書	□	体外	正位	
24竪穴	101図	13	土師器	坏	墨書	□	体外	正位	
24竪穴	101図	14	土師器	坏	墨書	□	体外	－	墨痕鮮明
24竪穴	101図	16	黒色土器	蓋	墨書	□	体外	正位	
19ピット	200図	1	土師器	坏	刻書	□	体外	－	
102ピット	203図	1	黒色土器	坏	墨書	□	体外	－	墨痕あり、文字か？
17溝	220図	7	黒色土器	坏	墨書	□	体外	－	墨痕あり
遺構外	231図	75	土師器	坏	墨書	□	体外	－	墨痕あり、A21B18 Grid

を余儀なくされたのか、当時の社会的背景についても留意しなくてはならない。

平安時代の出土遺物で特筆すべき遺物は少ないが、その中でも墨書土器や刻書土器、ヘラ書土器等の出土文字資料の存在があげられる（第258図、表17参照）。10世紀前半から半ばの土器群に主に記されるが、判読できる文字は少ない。墨書土器で判読できる文字としては、１号竪穴出土の「木」、３号竪穴出土の「守」、７号竪穴出土の「吉」、14号竪穴出土の「中」「山」、21号竪穴出土の「入・入」、24号竪穴建物出土の「中・□（中カ）」等で、ヘラ書土器では、４号竪穴出土の「十」等の文字あるいは記号がみられる。刻書土器では判読できる文字・記号はなかった。墨書土器等にみられる文字群は、他の集落遺跡でも一般的にみられる内容と言える。ただ、14号竪穴と24号竪穴の「中」のように、竪穴間での共通文字がみられることから、両竪穴建物の住人の間には、何らかの有機的な関連が想起でき、竪穴建物の同時存在を探る一つの手がかりとなろう。

墨書記銘は、土器の体部外面に、正位に記されるものが多く、食器としての常態の使用時を意識していたと思われる。これら墨書が記された土器をみると、油煙が付着しているものもあり、灯明具として使用された土器も混在している。これは墨書土器の使用方法のあり方を示唆していると言え、灯明具を使用する何らかの祭祀的行為が推測できる。

さて中世段階では、石原田北遺跡第１次調査で３棟検出されていた方形竪穴状遺構が、今回の調査でも検出された。15号竪穴建物が該当するが、39号竪穴建物も遺構上部が大きく削平されているが、その可能性が考えられる。いずれも出土遺物がなく時期決定ができていないが、14世紀後半以降の所産と思われる墓壙（34号ピット）が検出されていることや、11号溝から13世紀中葉以降の手づくね土器が出土していることから、こうした遺構や遺物の存在が、本遺跡における方形竪穴状遺構の所属年代の参考にもなろう。

また、調査区南側に展開するピット（土壙）群のあり方は、注目する必要があろう。当該ピット（土壙）群には、馬歯が出土したピット（土壙）が３基存在し、３基のピットにおける馬歯の出土位置から、各ピットともに馬一体丸ごと埋葬されていたと考えられ、馬歯の鑑定からもかなり若い馬であることが指摘されている。一方、馬歯が出土していないピットの中には、馬歯を出土したピット（土壙）と、形態や土層の堆積状況が類似するピット（土壙）が多数存在していることから、当該エリアに展開するピット（土壙）群では、馬の埋葬にかかわるピット（土壙）が主体を占めていたと推測できる。

しかしながら、いずれのピットにおいても、時期決定できるような出土遺物がなく、時代が特定できていないという課題も残っている。同ピットを埋める覆土が、近世以降に埋まったと考えられる10号溝の覆土の土質とは明らかに異なることから、近世以前の可能性が高いということしか言えない。

いずれにしても、平安時代もしくは中世段階の他の遺構群と当該ピット（土壙）群の間には、何らかの有機的関連があったと思われる。当該エリアは、調査区内において高燥な土地条件にもかかわらず、縄文時代、平安時代、中世を通して竪穴建物は１棟も構築されていないエリアであり、縄文時代の集落形成期当初から続いている。このエリアが物理的な要因から居住に適さなかった場所だったのか、あるいは生産域や墓域であった可能性等も考えられる。

以上、まとまりのない総括となってしまったが、最後に、夏場の炎天下や大雨で水没してしまった遺構からの水の汲み出し、さらに冬場の雪が混じる厳しい八ヶ岳颪の中、黙々と発掘作業に従事していただいた発掘スタッフの方々、そして報告書刊行に向けて整理作業に従事していただいた整理スタッフの方々をはじめ、発掘調査から報告書刊行にかかる整理作業において、ご協力、ご指導を賜った関係諸氏、関係諸機関には厚く御礼申しあげます。そして本報告書が、八ヶ岳南麓地域の歴史を編む一資料として、有意義に活用されることを念願し、結語としたい。

〈註〉

註1　須玉町教育委員会　1988『西川遺跡』須玉町教育委員会文化財報告第5集

註2　櫛原功一・平野修他　1999『上ノ原遺跡』上ノ原遺跡発掘調査団

註3　山下大輔「原町農業高校前遺跡」『山梨考古』第78号　山梨県考古学協会

註4　埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1944　『樋ノ下遺跡』埼玉県住宅供給公社リバーサイド玉淀建設事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第135集

註5　八田村教育委員会の斎藤秀樹氏には、発掘調査現場においてお忙しい中、数々のご教示をいただいた。厚く御礼申し上げたい。

〈引用・参考文献（第Ⅵ章第2節～4節）〉

荒井健治　1991「武蔵国府にみる古代の住環境」『東京考古』9　東京考古談話会

石井克己　1986「古墳時代後期の集落－群馬県黒井峯遺跡・西組遺跡」『季刊考古学』　雄山閣出版

伊丹　徹　1985「奈良、平安時代相模国の掘立柱建物―鳶尾・向原・上浜田遺跡の住居と倉―」『神奈川考古』第20号　神奈川考古同人会

大塚昌彦　1990「群馬県中筋遺跡」『日本考古学年報』40　日本考古学協会

桐生直彦　1995「棚からボタモチ―竪穴住居址の壁際覆土から出土する遺物の認識について―」『東国史論』第10号　群馬考古学研究会

桐生直彦　1996a「竈を有する竪穴住居跡の外周にみられるピットについて―竪穴壁外屋内空間の存在をめぐって―」『土曜考古』第20号　土曜考古学研究会

桐生直彦　1996b「棚上の遺物―武蔵国における古代竪穴住居跡の事例から―」『東国史論』　第11号　群馬考古学研究会

桐生直彦　1997「君は“棚”を見たか―武蔵国における棚状施設の事例分析―」『土壁』創刊号　考古学を楽しむ会

櫛原功一　1992「宮ノ前遺跡における奈良・平安時代の土器・陶器」『宮ノ前遺跡　本文編』韮崎市遺跡調査会他

齊藤孝正　2000「猿投窯出土の灰釉・緑釉陶器碗・皿類の変遷」『日本の美術』409号　至文堂

坂本美夫・末木健・堀内真　1983「甲斐地域」『神奈川考古』第14号（シンポジウム　奈良・平安時代の諸問題）神奈川考古同人会

坂本美夫　1986「甲斐における古代末期の土器様相」『神奈川考古』第21号（シンポジウム古代末期～中世における在地系土器の諸問題）神奈川考古同人会

笹森健一　1978「平安時代の諸問題」『川崎遺跡第3次・長宮遺跡』郷土史料第21集　埼玉県上福岡市教育委員会

関　和彦　2000「古代びとの建物仕様―竪穴「住居」論批判―」『住まいと住まい方―遺跡・遺物から何を読みとるか』　岩田書院

瀬田正明　1992「甲斐型土器の年代」『甲斐型土器－その編年と年代－』　山梨県考古学協会甲斐型土器研究グループ

高橋一夫　1983「集落分析の一視点―入口と集落の道」『埼玉考古』第21号　埼玉考古学会

高橋泰子　1997「梯子以外の出入口施設―出入口施設は梯子穴だけではない―」『土壁』創刊号　考古学を楽しむ会

高橋泰子　1998「盛土施設の硬化状況観察―盛土を施す出入口施設の検討に向けて―」『土壁』第2号　考古学を楽しむ会

高橋泰子・多ヶ谷香里　1998「竪穴住居に関する基本的用語の定義」『土壁』第2号　考古学を楽しむ会

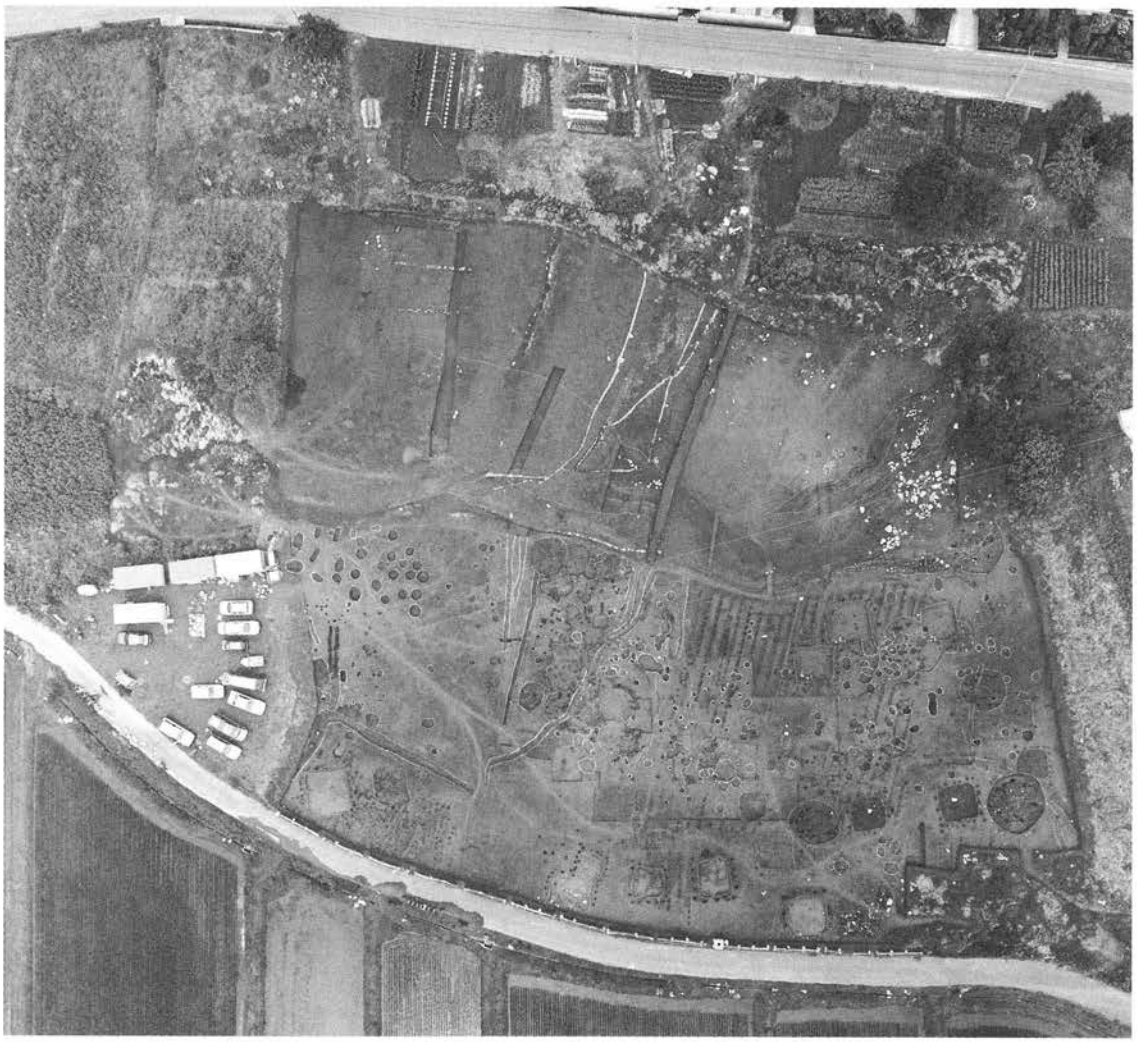
森原明廣　1994「山梨県地域における古代末期の土器様相」『丘陵』第14号　甲斐丘陵考古学研究会

米沢容一　1997a「硬い床と軟らかい床―硬化面から得られる諸情報―」『土壁』創刊号　考古学を楽しむ会

米沢容一　1997b「硬化面を考える―古代竪穴住居跡の使用痕―」『遺跡・遺物から何を読みとるか（Ⅰ）』帝京大学山梨文化財研究所1997年度研究集会資料集　帝京大学山梨文化財研究所

渡辺修一　1992「『竪穴住居』か『竪穴建物』か」『研究連絡誌』第34号　（財）千葉県文化財センター

1　調査区全景①〈北東側より〉



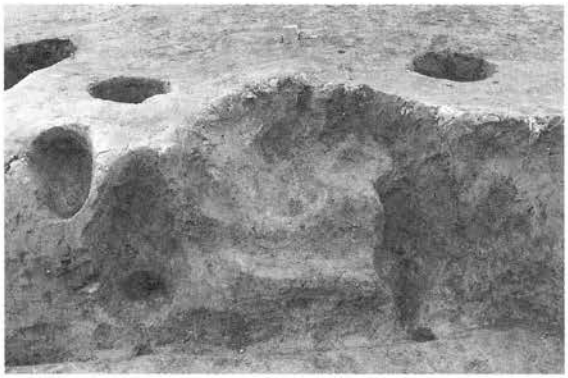
2　調査区全景②〈右側が北〉

図版2

1　1号竪穴建物 全景（西側より）

2　1号竪穴建物 竈

3　1号竪穴建物 遺物出土状況



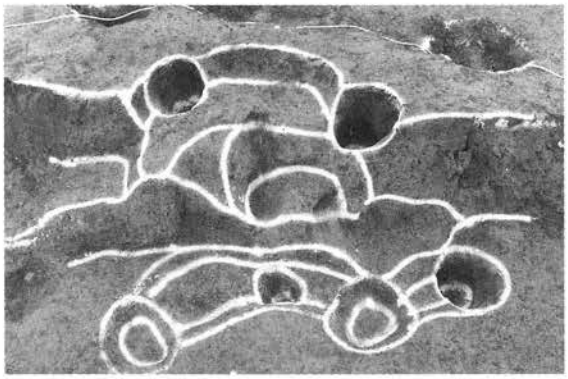
4　1号竪穴建物 階段状施設

5　2号竪穴建物 全景（西側より）

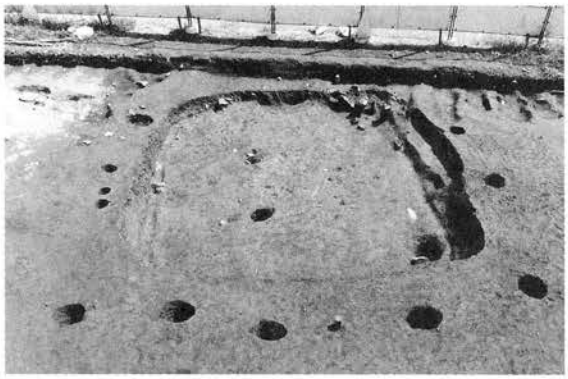
6　2号竪穴建物 竈および棚状施設

7　3号竪穴建物 全景（西側より）

8　3号竪穴建物 竈



1　3号竪穴建物 階段状施設

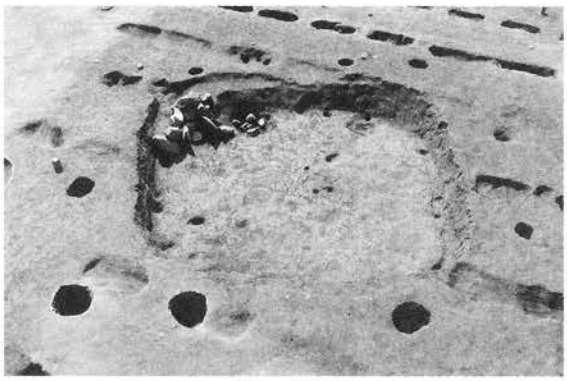


2　4号竪穴建物 全景（西側より）

3　4号竪穴建物北東コーナー 遺物出土状況

4　4号竪穴建物 竈内遺物出土状況

5　4号竪穴建物 竈完掘状況



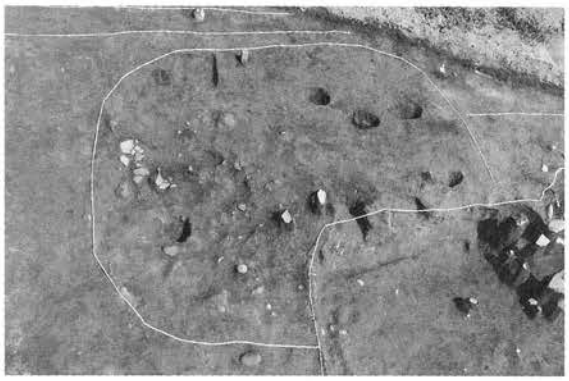
6　5号竪穴建物全景（北側より）

7　3号竪穴建物 北壁下遺物出土状況

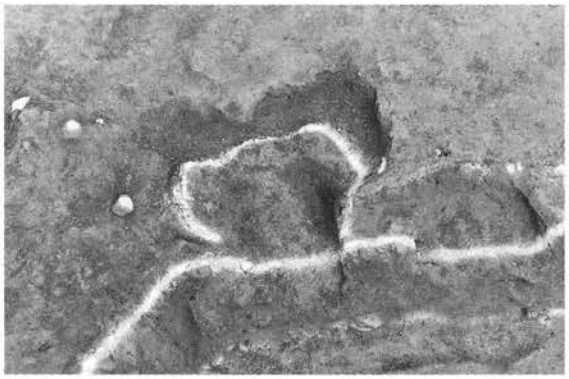
8　5号竪穴建物 竈

図版4

1　6号竪穴建物 全景（西側より）

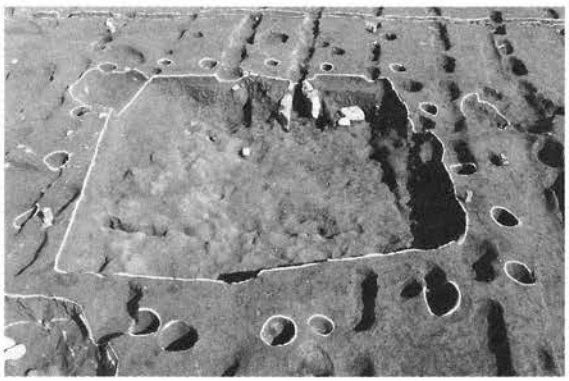


2　6号竪穴建物 遺物出土状況①

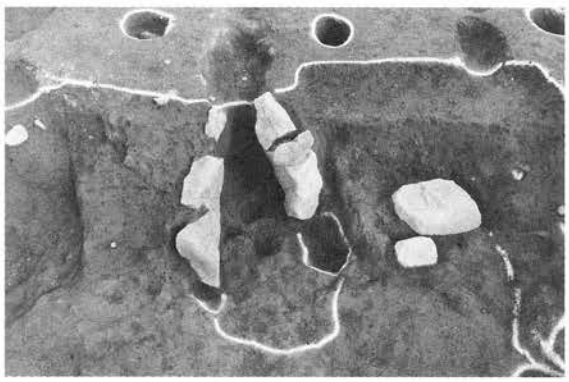


3　6号竪穴建物 炉

4　6号竪穴建物 遺物出土状況②



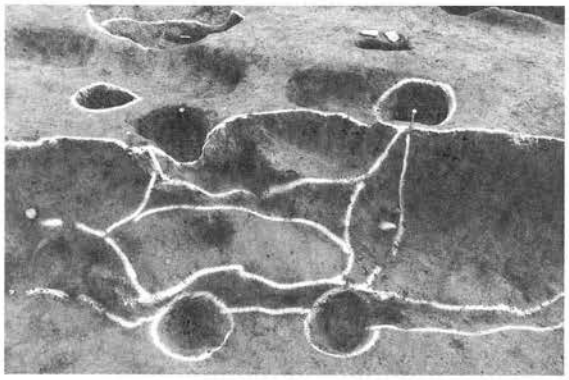
5　7号竪穴建物 全景（西側より）



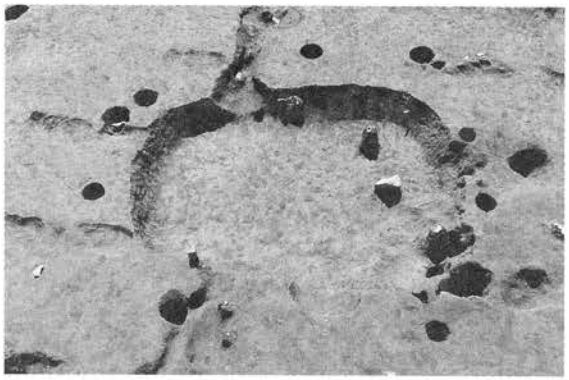
6　7号竪穴建物 竈および棚状施設

7　7号竪穴建物 遺物出土状況

8　7号竪穴建物 炭化材出土状況



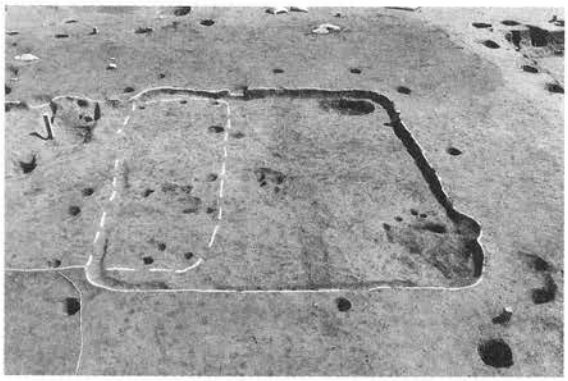
1　7号竪穴建物 階段状施設



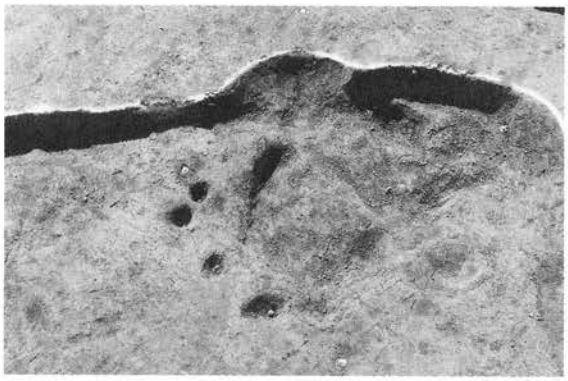
2　8号竪穴建物 全景（北側より）

3　9号竪穴建物 全景（西側より）

4　9号竪穴建物 竈

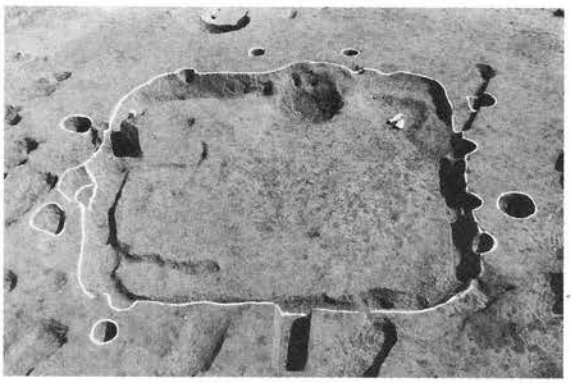


5　10号竪穴建物 全景（西側より）



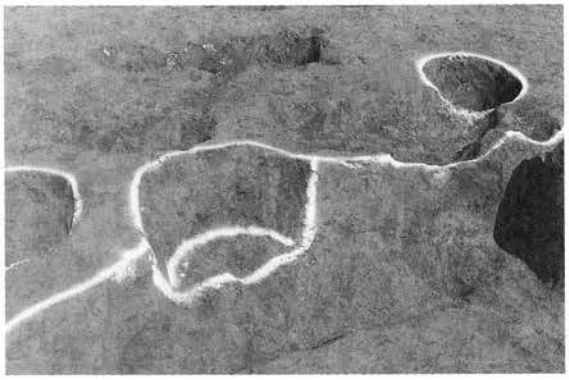
6　10号竪穴建物 竈

7　9号・10号竪穴建物 遺物出土状況

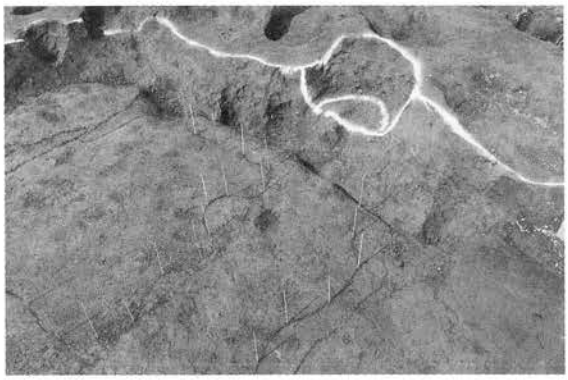


8　11号竪穴建物 全景（西側より）

図版6



1　11号竪穴建物 階段状施設



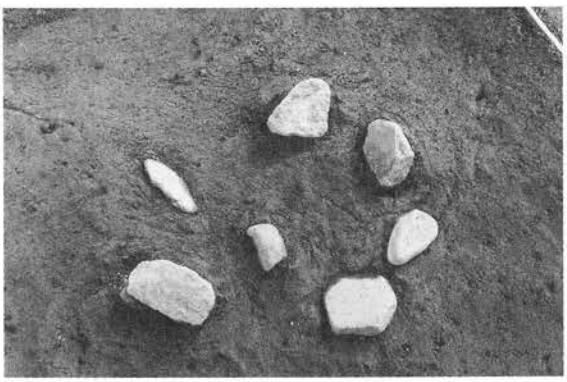
2　11号竪穴建物 階段状施設前の硬化面検出状況

3　12号・36号竪穴建物 全景（南西側より）

4　12号竪穴建物 遺物出土状況（西側より）

5　12号竪穴建物 Pit7内遺物出土状況

6　12号竪穴建物 Pit6内遺物出土状況

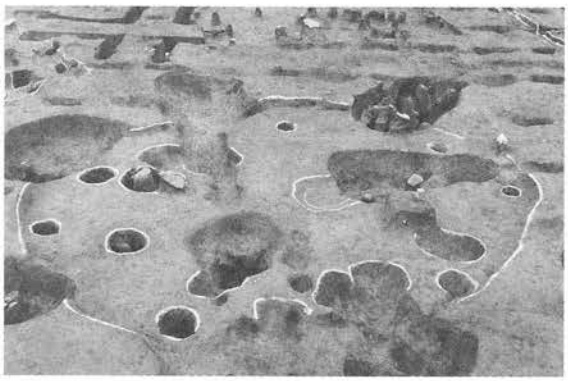


7　12号竪穴建物 礫出土状況

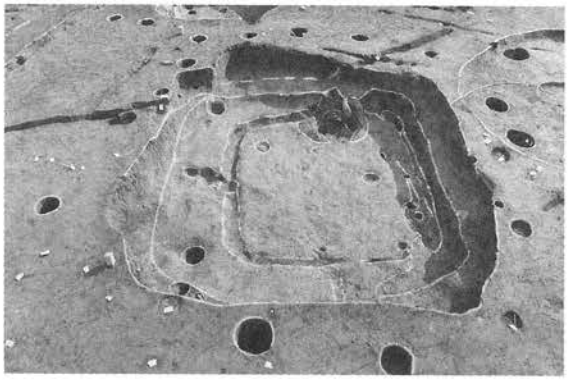
8　36号竪穴建物 遺物出土状況（北側より）

1　36号竪穴建物 Pit28内遺物出土状況

2　36号竪穴建物 Pit29内遺物出土状況

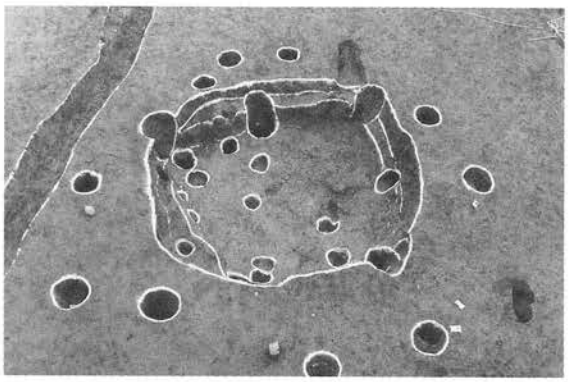


3　13号竪穴建物 全景（北側より）



4　14号竪穴建物 全景（西側より）

5　14号竪穴建物 竈内遺物出土状況



6　15号竪穴建物 全景（西側より）

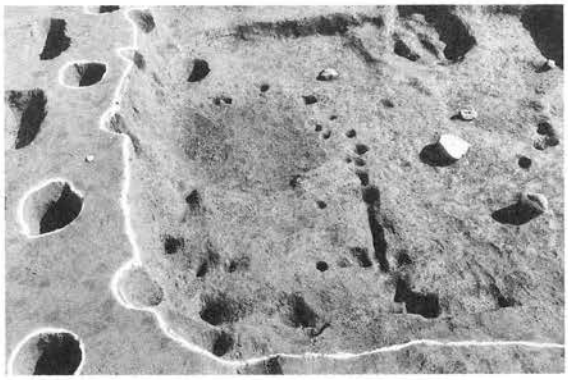
7　15号竪穴建物 焼土範囲検出状況

8　16号竪穴建物 全景（西側より）

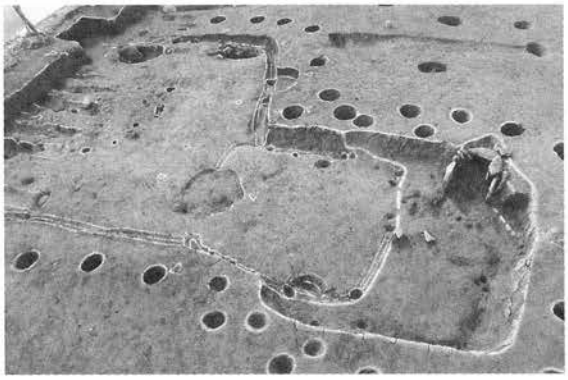
図版8

1　16号竪穴建物 竈および棚状施設

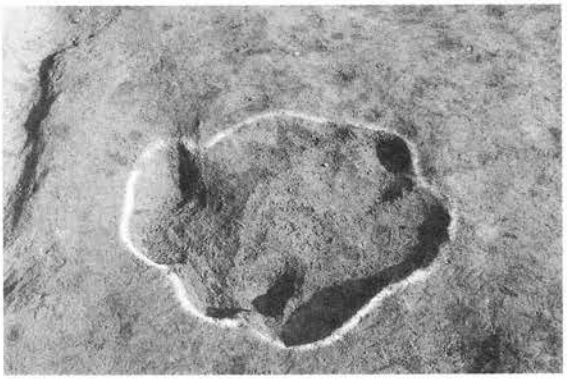
2　16号竪穴建物 階段状施設



3　16号竪穴建物 間仕切施設検出状況

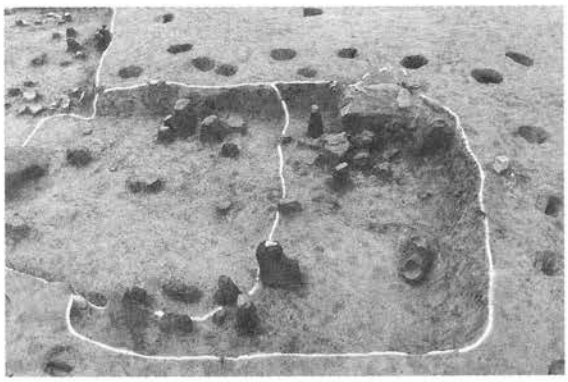


4　17号・18号・19号竪穴建物 全景（北側より）



5　17号竪穴建物 竈（西側より）

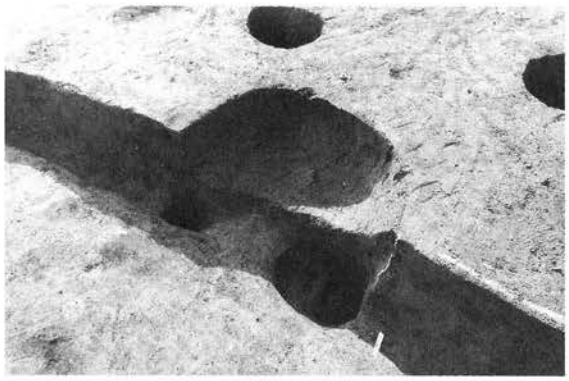
6　18号竪穴建物 竈および棚状施設



7　17号・18号竪穴建物 遺物出土状況（北側より）

8　19号竪穴建物 遺物出土状況

1　19号竪穴建物 焼土範囲検出状況（北西側より）



2　19号竪穴建物 階段状施設

3　20号竪穴建物 全景（南西側より）

4　20号竪穴建物 下層面遺物出土状況①

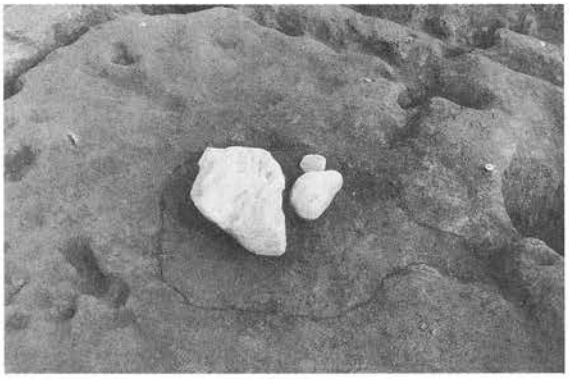
5　20号竪穴建物 下層面遺物出土状況②

6　20号竪穴建物 下層面遺物出土状況③

7　20号竪穴建物 土偶出土状況

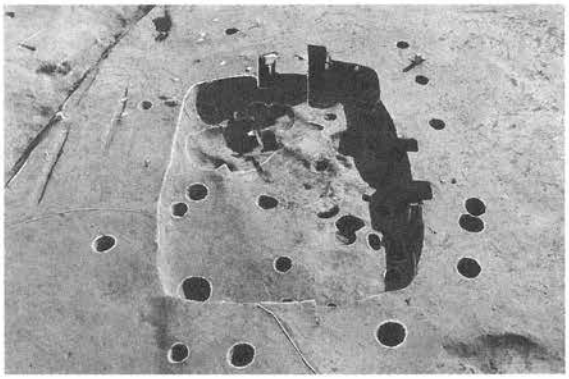
8　20号竪穴建物 下層面遺物出土状況④

図版10

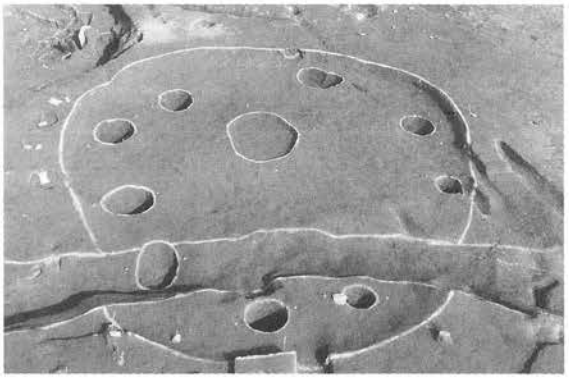


1　20号竪穴建物 炉確認状況

2　20号竪穴建物 炉完掘状況



3　21号竪穴建物 全景（西側より）



4　22号竪穴建物 全景（南側より）

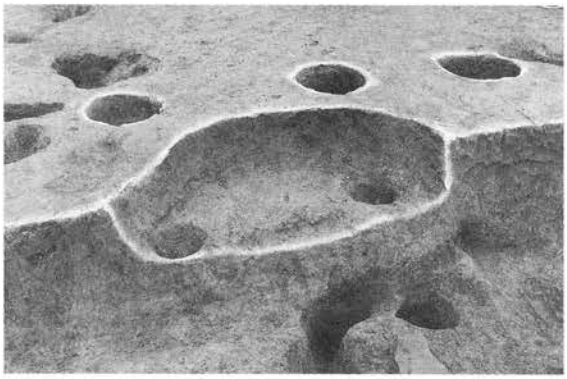
5　23号竪穴建物 全景（西側より）

6　23号竪穴建物 竈

7　23号竪穴建物 遺物出土状況

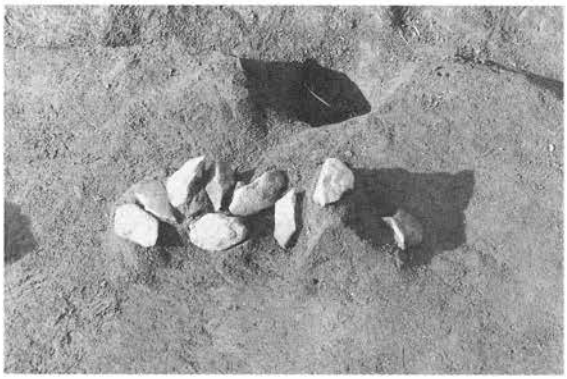
8　23号竪穴建物 刀子出土状況

1　24号竪穴建物 全景（西側より）



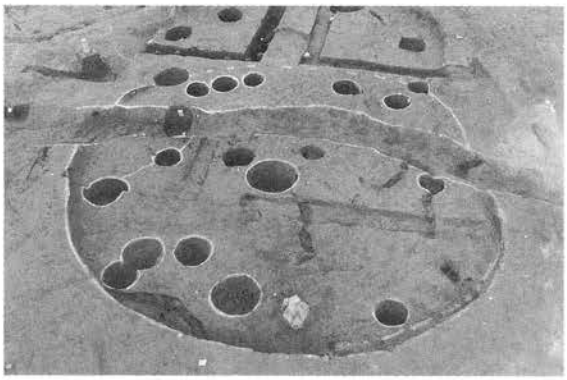
2　24号竪穴建物 階段状施設

3　24号竪穴建物 遺物出土状況

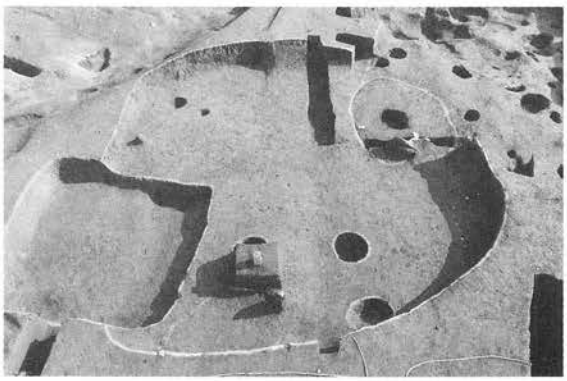


4　24号竪穴建物 筵編石器出土状況

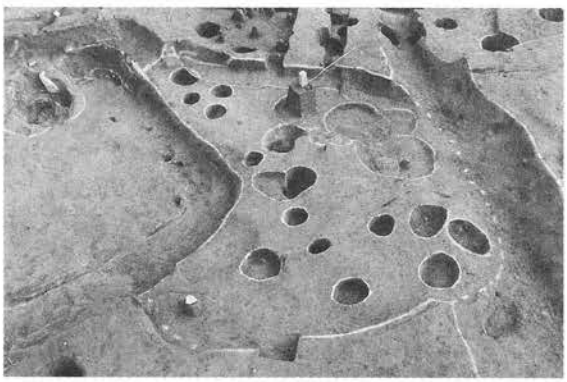
5　24号竪穴建物 西壁際遺物出土状況



6　25号竪穴建物 全景（南側より）

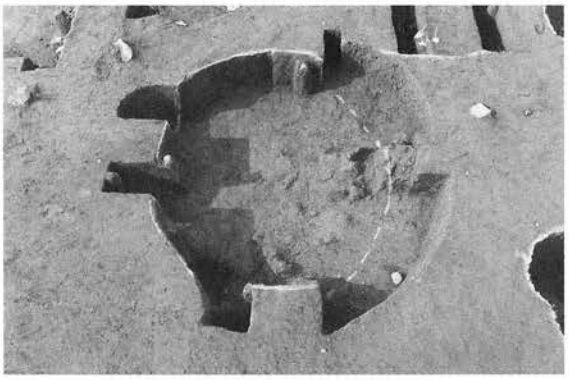


7　26号竪穴建物 全景（西側より）



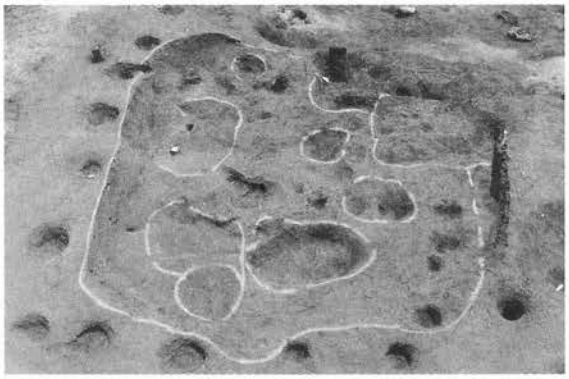
8　27号竪穴建物 全景（北西側より）

図版12

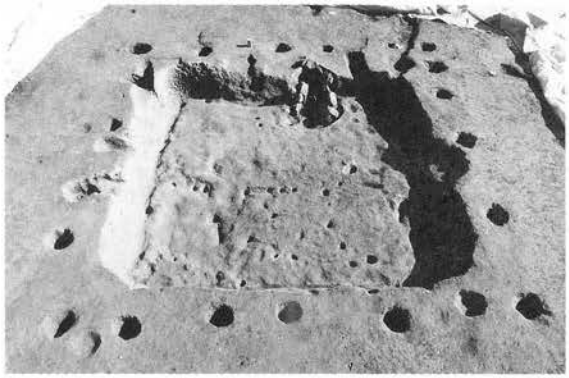


1　28号竪穴建物 全景（南側より）

2　30号竪穴建物 全景



3　30号竪穴建物 掘り形検出状況



4　31号竪穴建物 全景（西側より）

5　31号竪穴建物 竈

6　31号竪穴建物 遺物出土状況

7　31号竪穴建物 礎石出土状況①（南壁側）

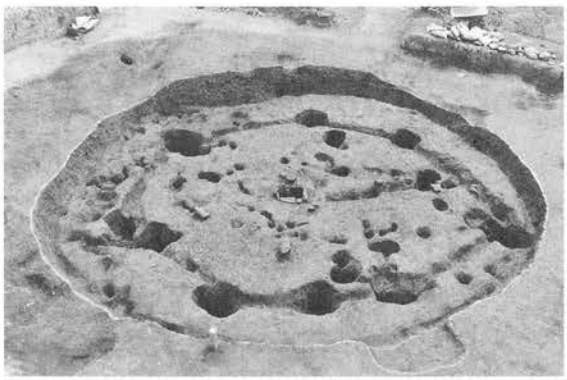
8　31号竪穴建物 礎石出土状況②（北壁側）

1　31号竪穴建物 間仕切区画

2　31号竪穴建物 階段状施設

3　32号・33号竪穴建物 全景（西側より）

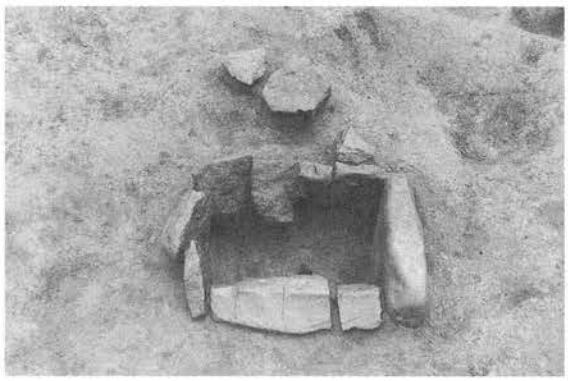
4　34号竪穴建物 全景（南西側より）



5　35号竪穴建物 全景①（南西側より）

6　35号竪穴建物 全景②（北東側より）

7　35号竪穴建物 遺物出土状況（北東側より）



8　35号竪穴建物 炉（西側より）

図版14

1　35号竪穴建物 土偶出土状況

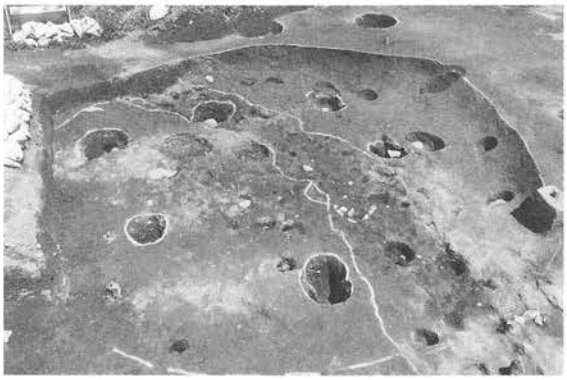
2　35号竪穴建物 ミニチュア土器出土状況

3　35号竪穴建物 玉 出土状況

4　35号竪穴建物 炉周辺遺物出土状況①（南西側より）

5　35号竪穴建物 炉周辺遺物出土状況②（倒置土器）

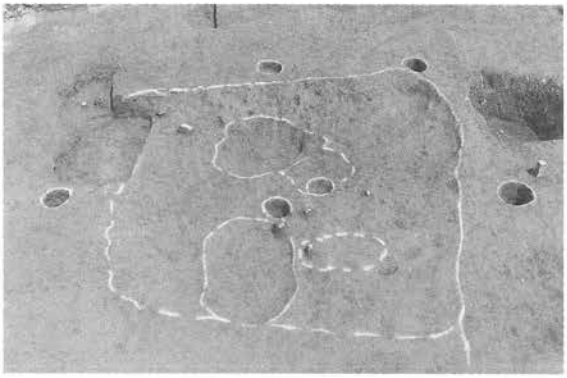
6　35号竪穴建物 炉周辺遺物出土状況③



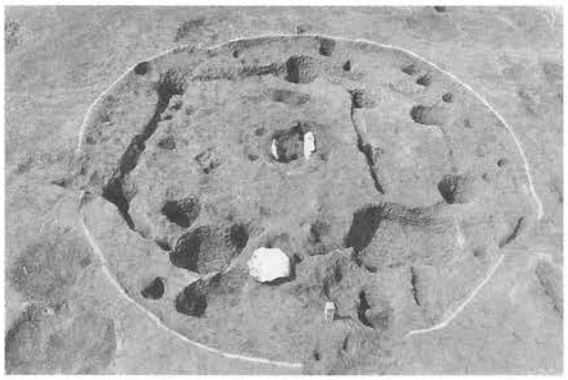
7　37号竪穴建物 全景（南西側より）

8　37号竪穴建物 遺物出土状況

1　38号竪穴建物 全景（南側より）



2　39号竪穴建物 全景（南側より）



3　40号竪穴建物 全景（南側より）

4　40号竪穴建物 炉（南側より）

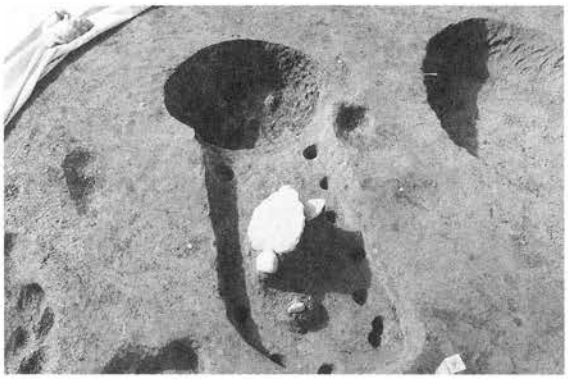
5　1号掘立柱建物 全景（北側より）

6　1号埋設土器 埋設状況①

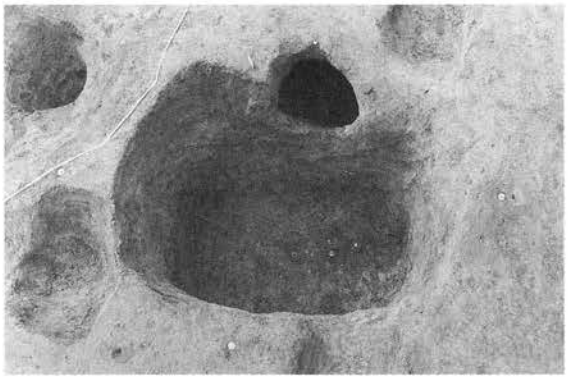
7　1号埋設土器 埋設状況②

図版16

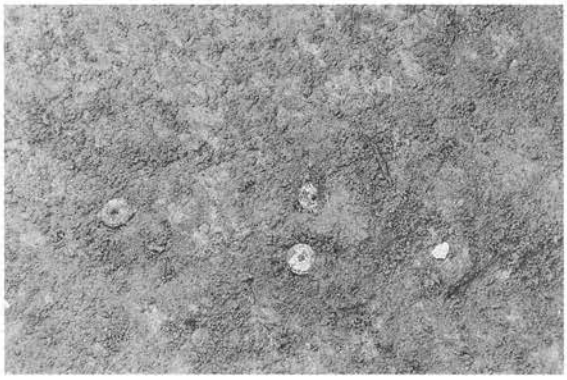
1　19号ピット 全景（北側より）



2　25号・26号ピット 全景（東側より）

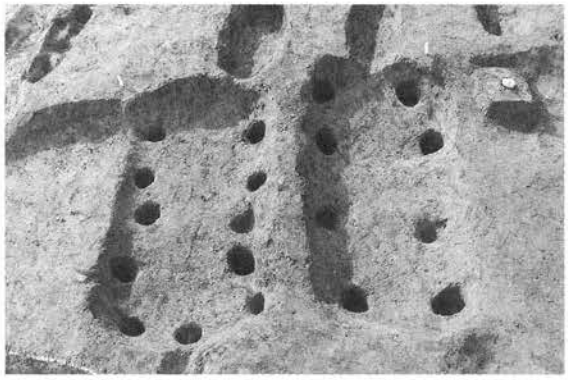


3　34号ピット 全景（東側より）

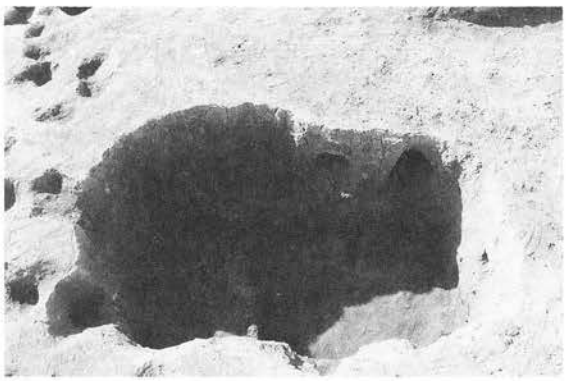


4　34号ピット 銭貨出土状況

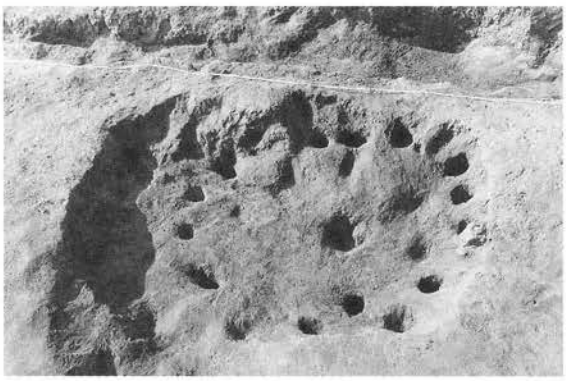
5　34号ピット 礫出土状況（北側より）



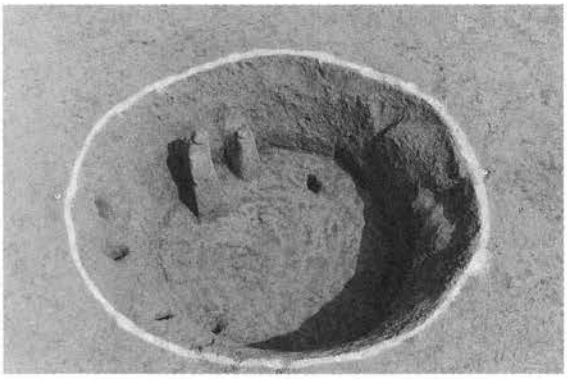
6　51号・52号ピット 全景（東側より）



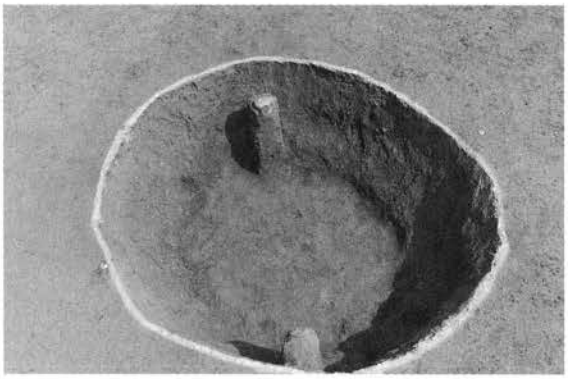
7　81号ピット 全景（南側より）



8　82号ピット 全景（東側より）

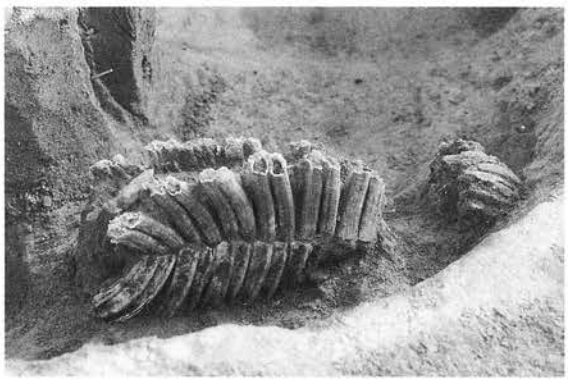


1　132号ピット 全景

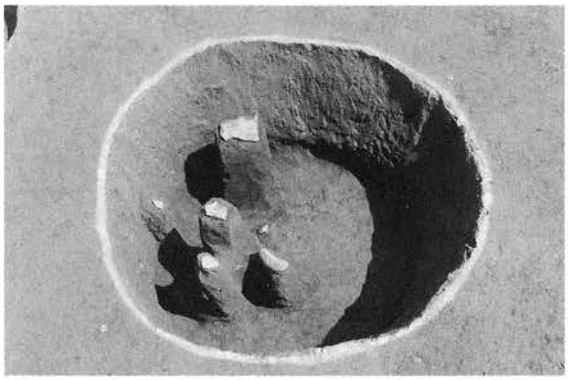


2　133号ピット 全景

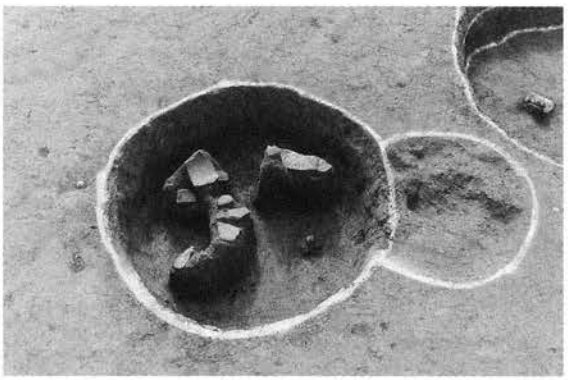
3　135号ピット 全景（北側より）



4　135号ピット 馬歯出土状況

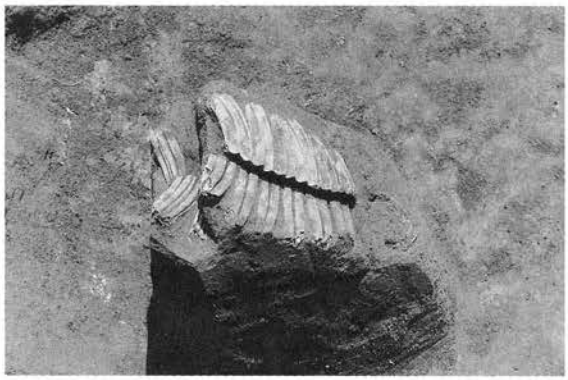


5　138号ピット 全景



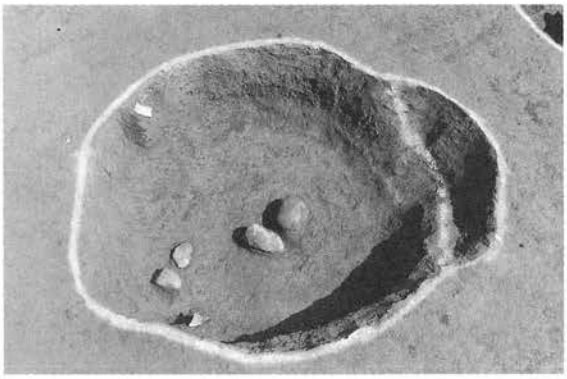
6　139号・140号ピット 全景

7　141号ピット 全景（南側より）

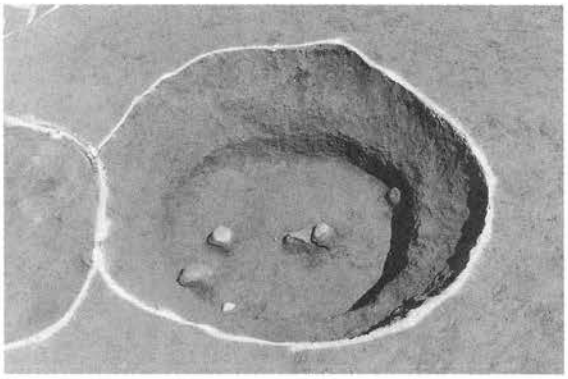


8　141号ピット 馬歯状況

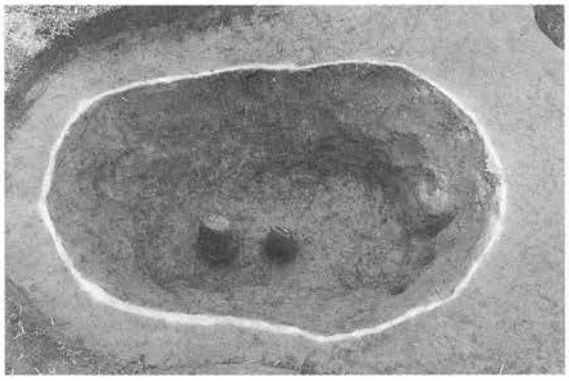
図版18



1　156号ピット 全景

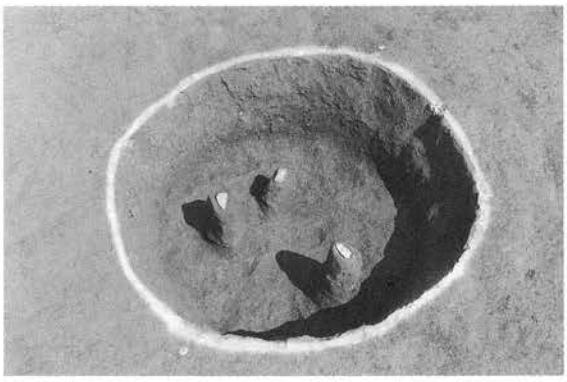


2　158号ピット 全景

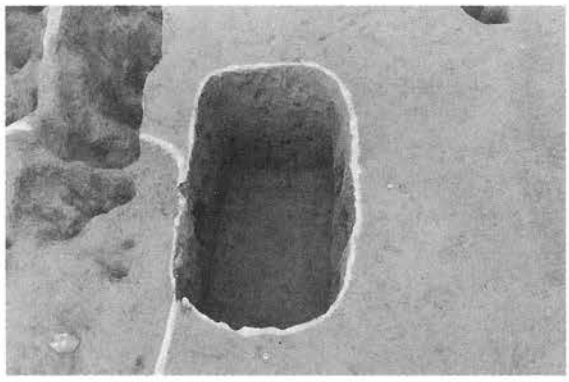


3　163号ピット 全景（東側より）

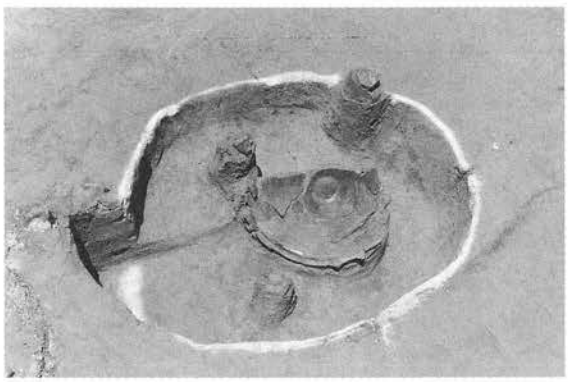
4　163号ピット 馬歯出土状況



5　171号ピット 全景

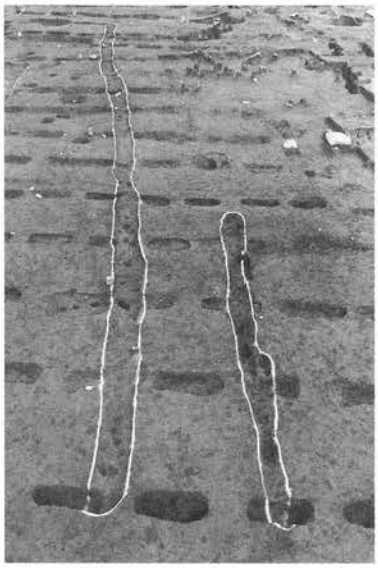


6　197号ピット 全景

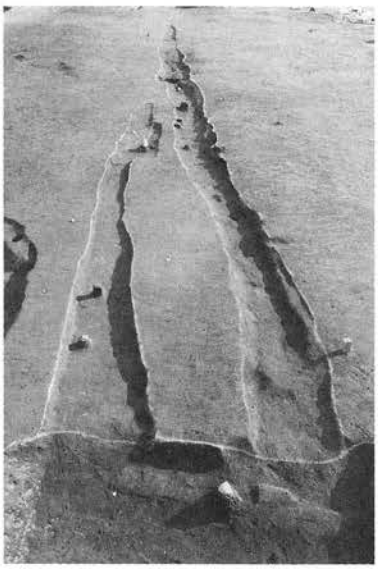


7　213号ピット 全景

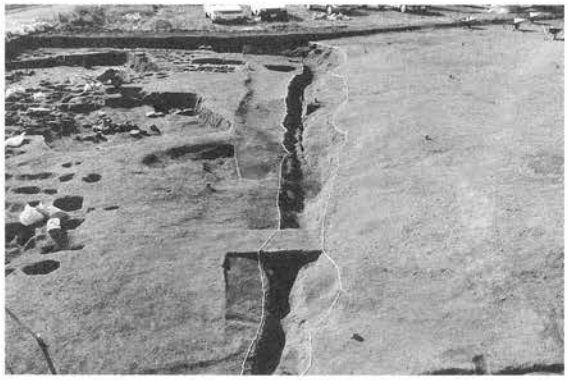
8　257号ピット 全景



1　3号・4号溝全景（南側より）

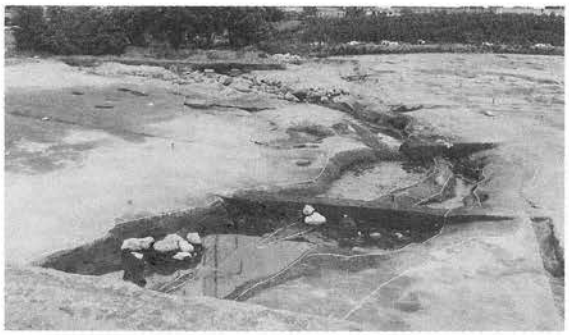


2　14号・15号溝全景（西側より）



3　10号溝全景（北側より）

4　11号（東側部分）・12号溝全景（西側より）



5　旧河道 北側部分全景

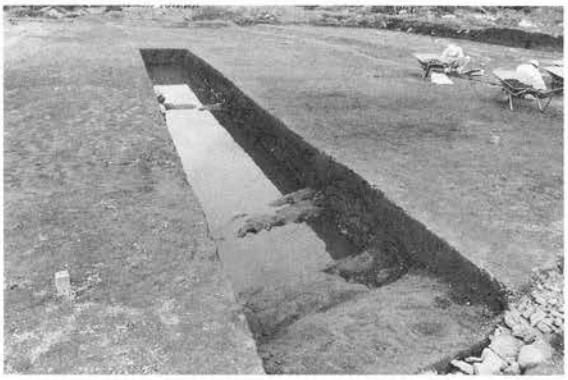
6　旧河道 北側部分近景

7　旧河道内 遺物出土状況①

8　旧河道内 遺物出土状況②

図版20

1　旧河道埋没状況（セクションA－A′ライン南面）



2　旧河道確認状況（セクションD－D′ライン）

3　遺跡内近景（北側より）

4　調査区南側（A8～11B8～10グリッド）ピット群全景

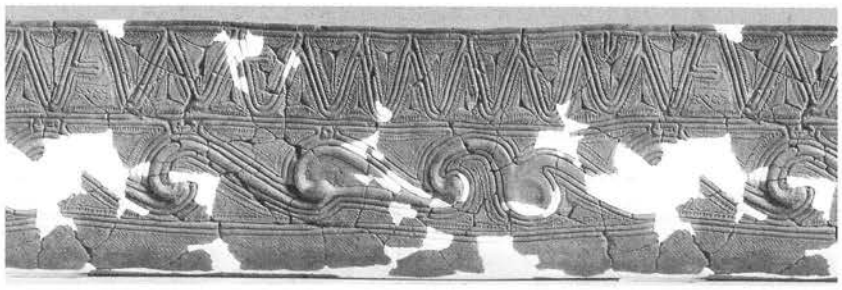
5　遺跡内積雪風景

6　調査風景①

7　調査風景②

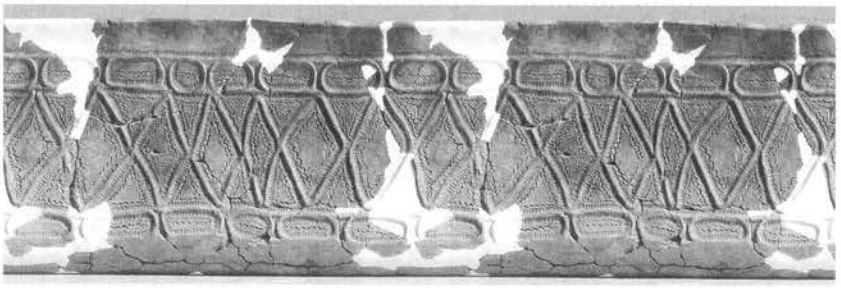
8　遺跡現地説明会風景

12竪－1



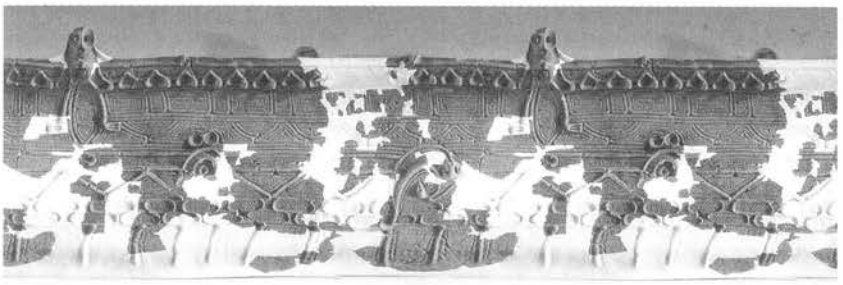
12竪－2

12竪－3



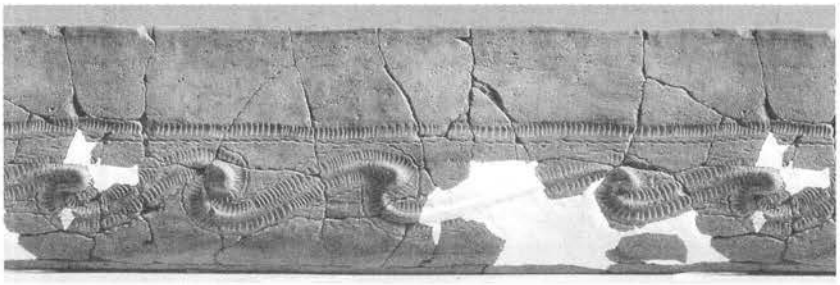
12竪－4

20竪－1

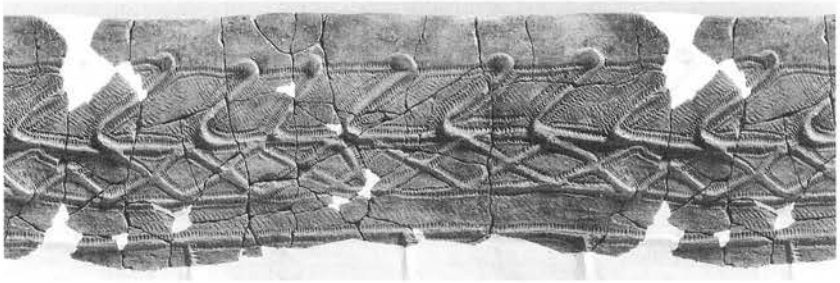


図版22

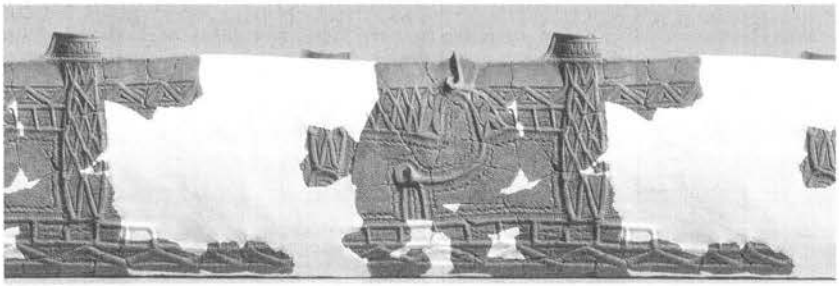
20竪－3



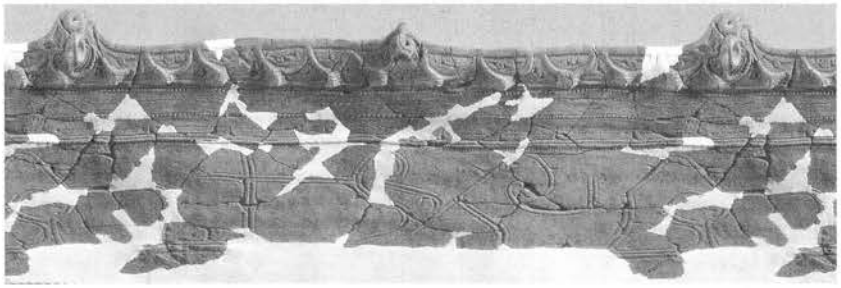
20竪－4



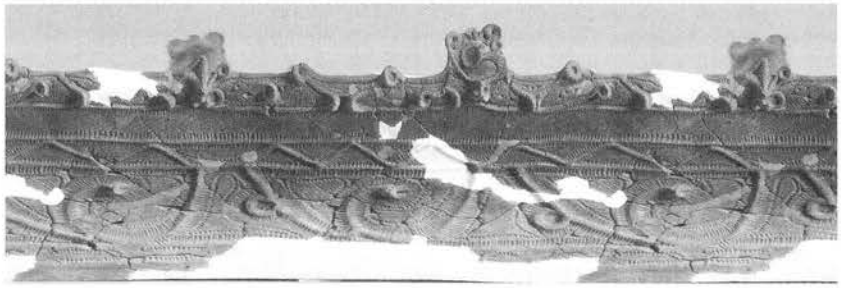
20竪－6



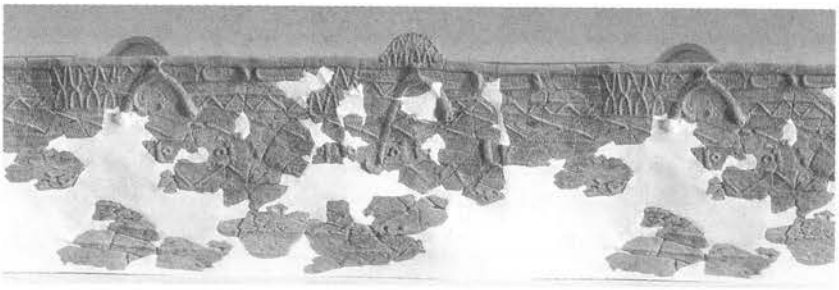
35竪－1



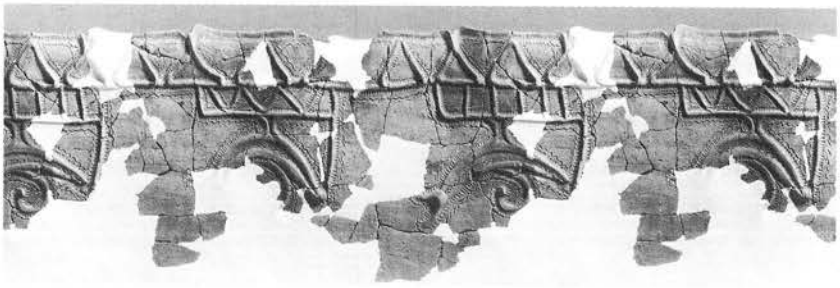
35竪－3



35竪－17



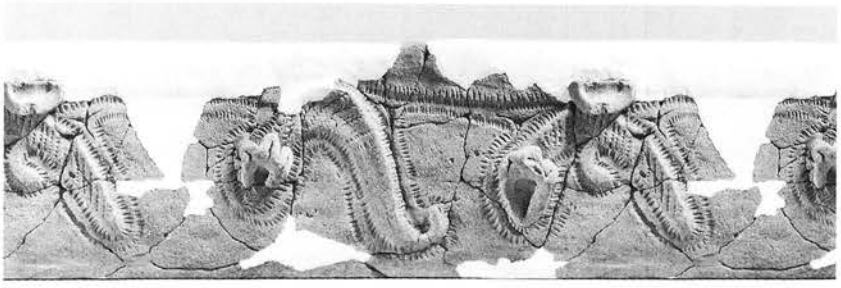
35竪－22



35竪－49

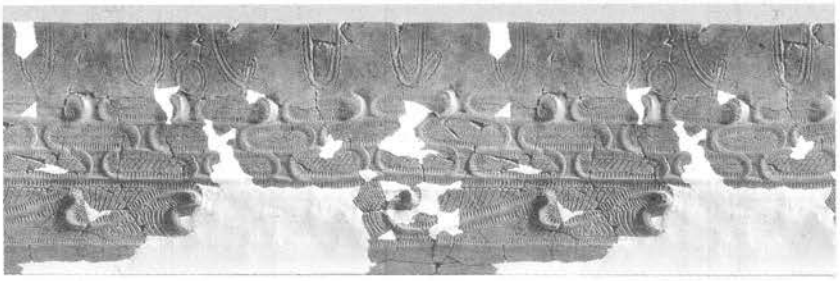
35竪－50

35竪－51

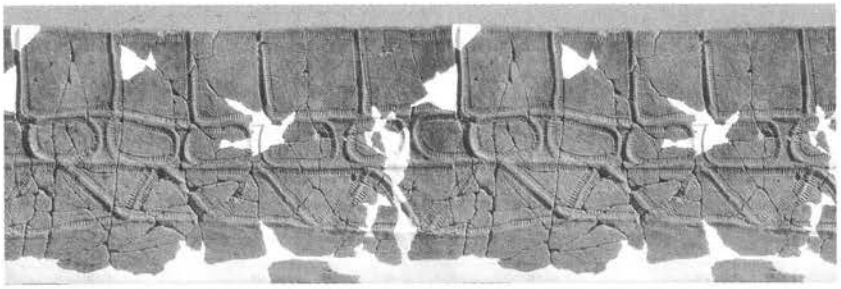


図版24

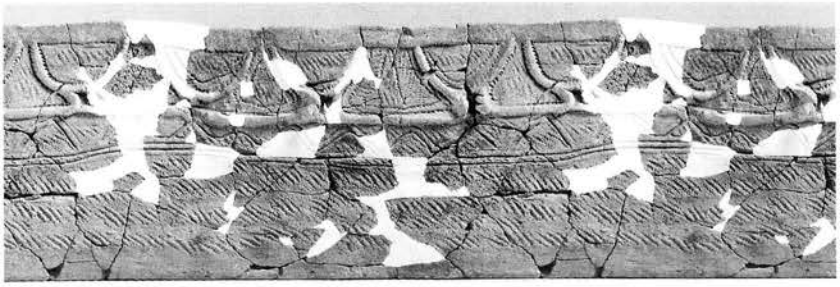
35竪－55



35竪－56



35竪－63



12竪－5

36竪－5

36竪－7

図版26

20竪－2

20竪－3

20竪－7

20竪－8

20竪－40

20竪－15

35竪－2

35竪－5

35竪－6

35竪－7

35竪－13

35竪－11

図版30

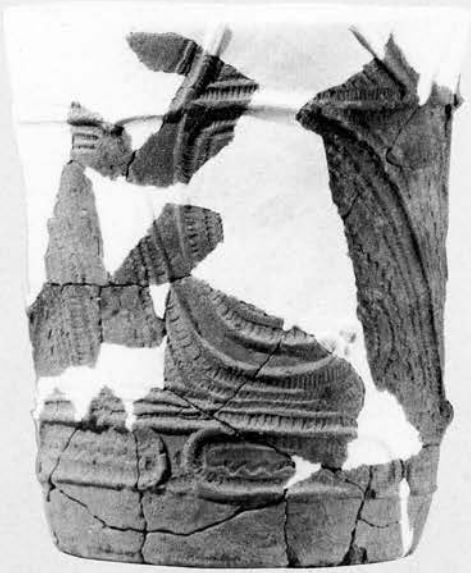
35竪－14

35竪－16

35竪－21

35竪－23

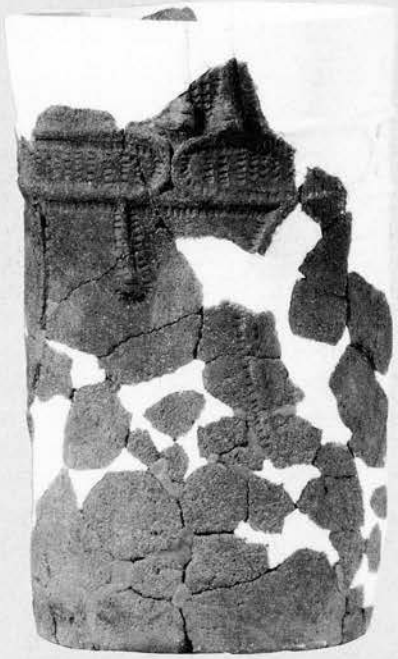
35竪－31



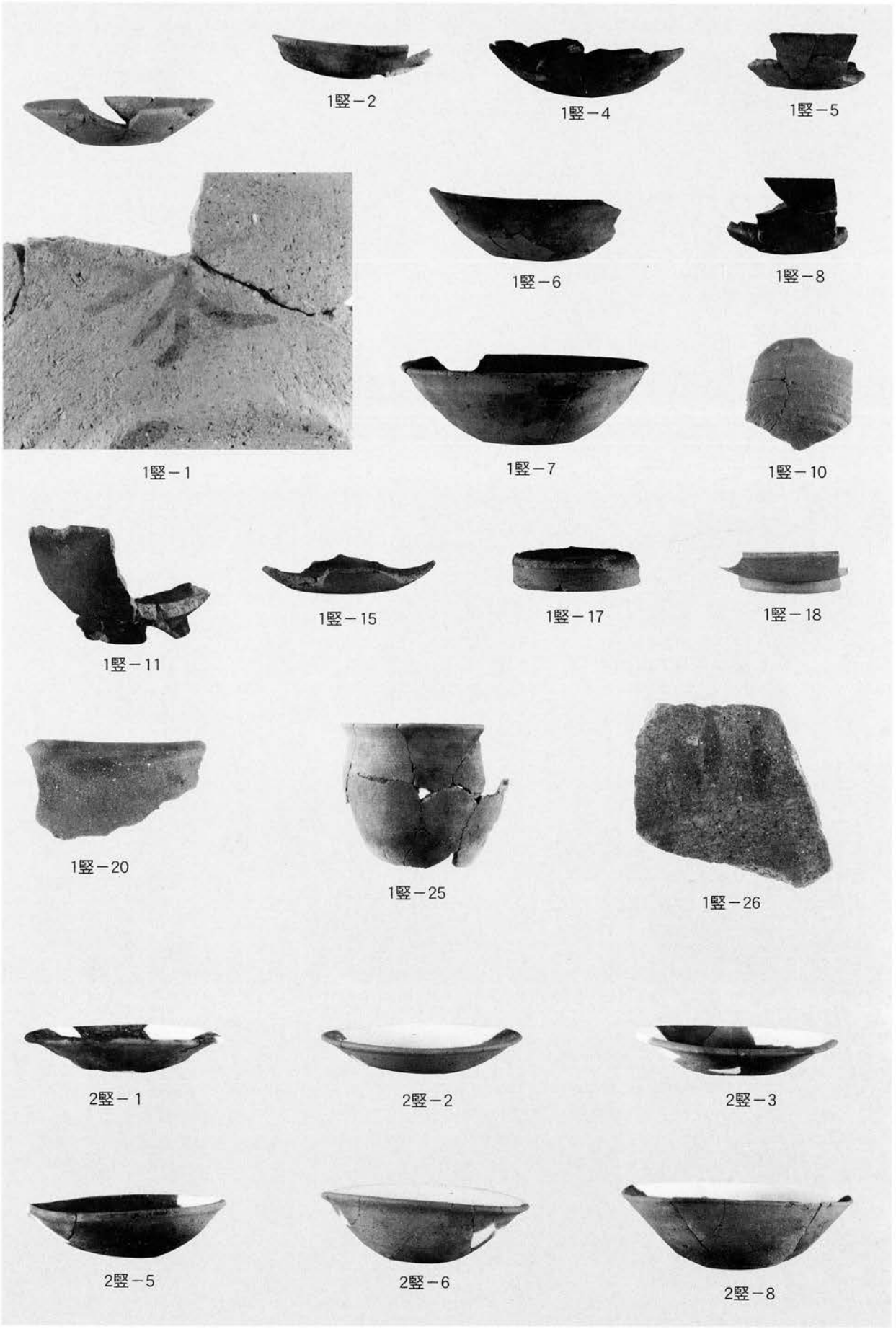
35竪－7

図版32

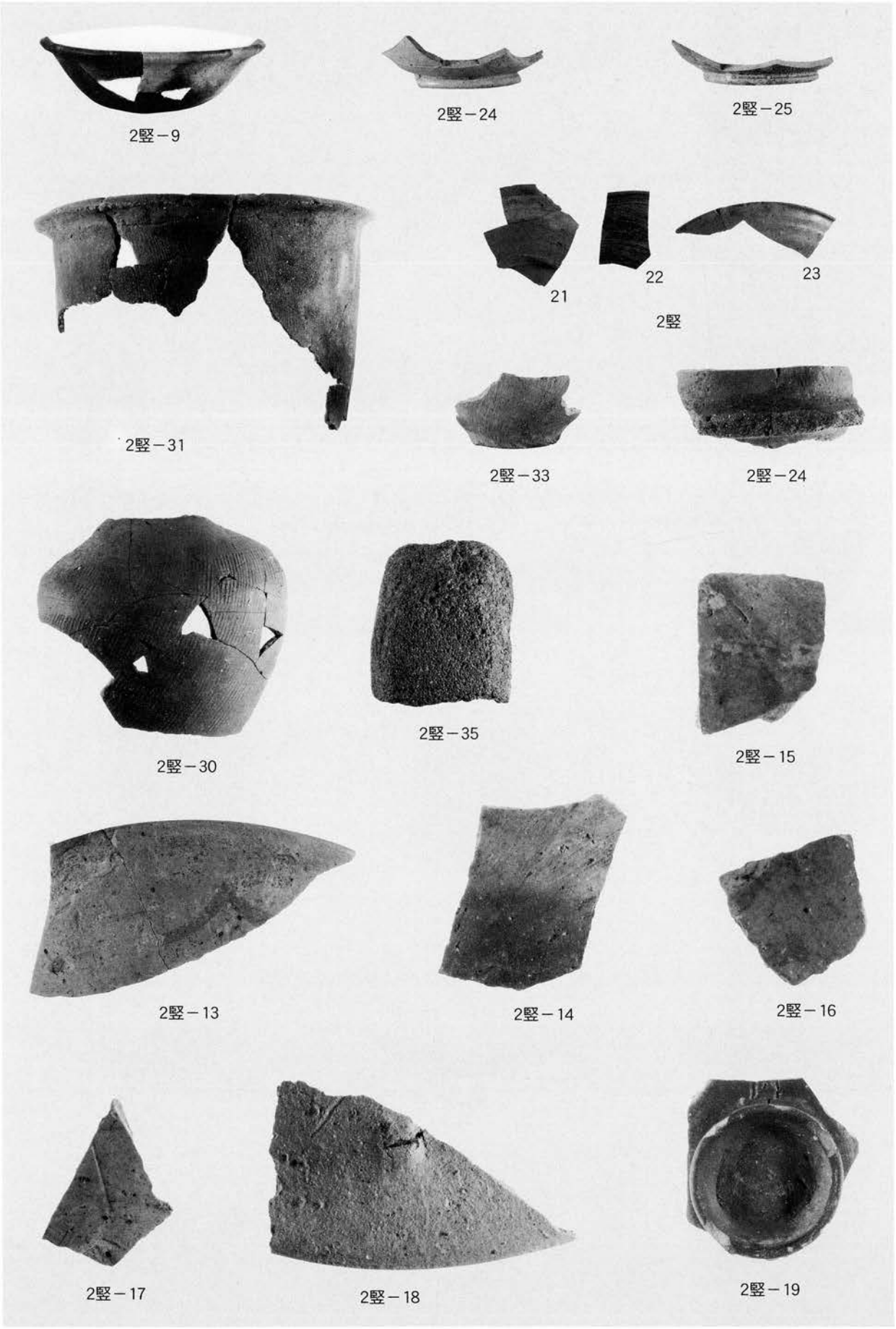
2ピット−2

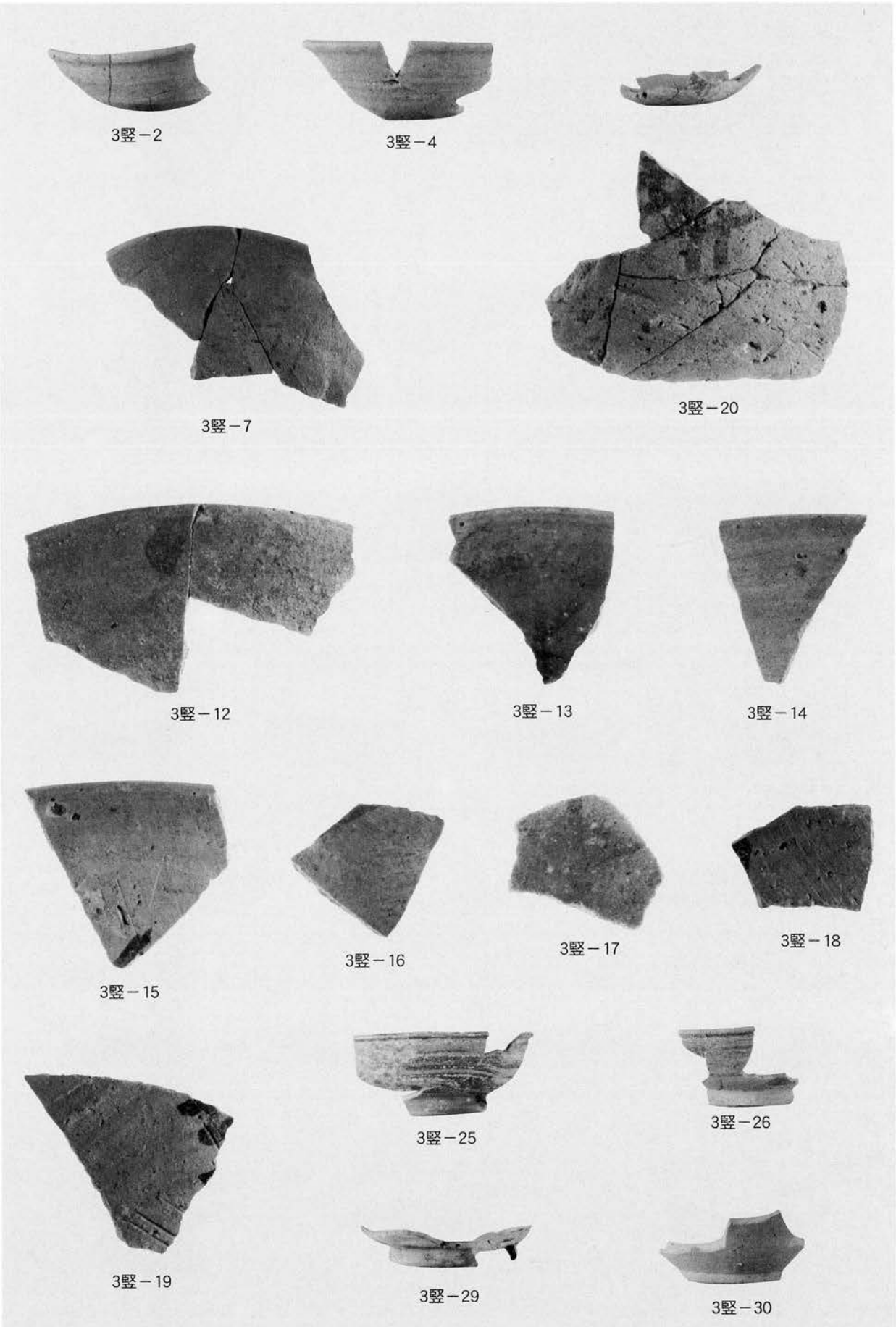


2ピット−3

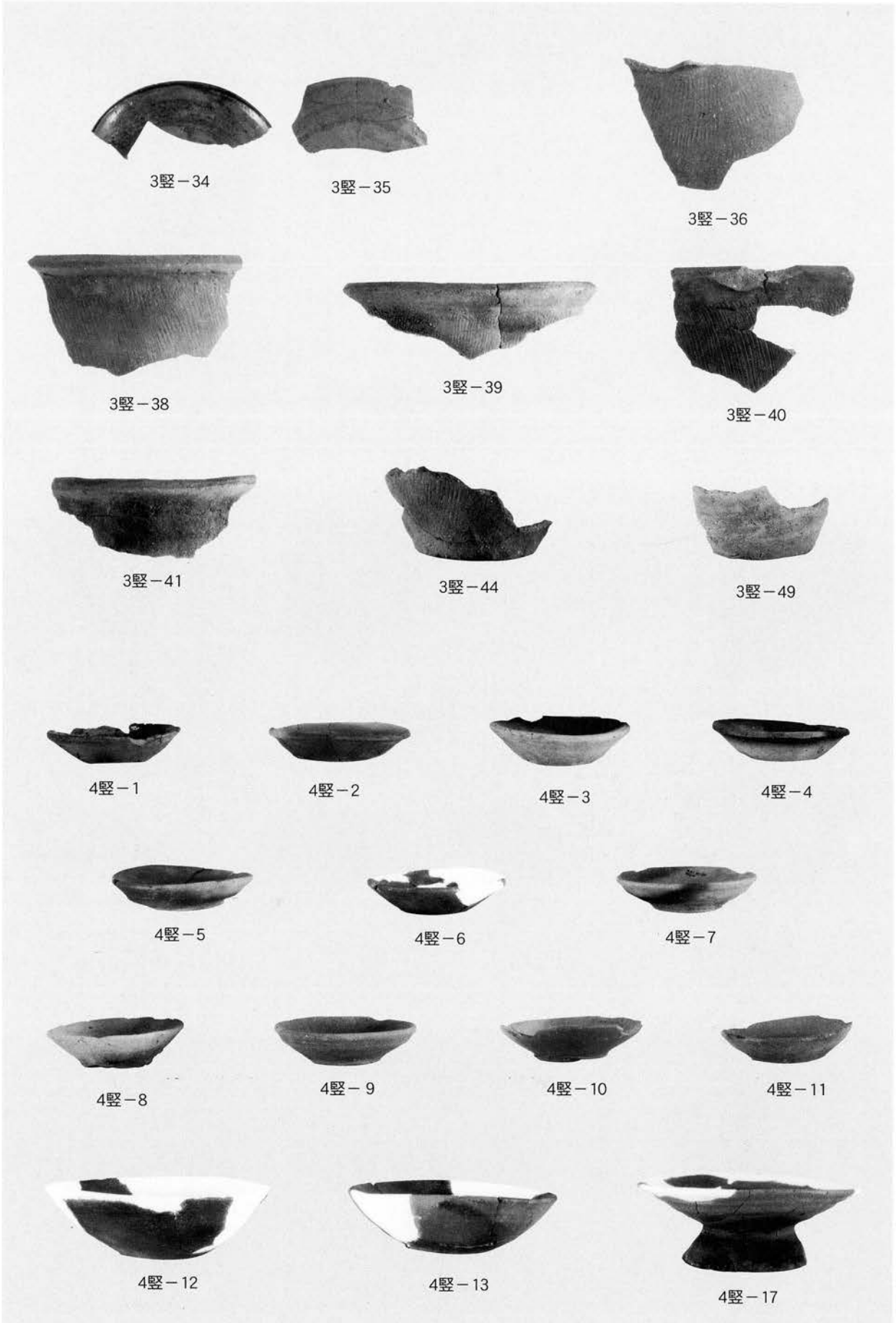

1竪－2
1竪－4
1竪－5
1竪－6
1竪－8
1竪－1
1竪－7
1竪－10
1竪－11
1竪－15
1竪－17
1竪－18
1竪－20
1竪－25
1竪－26
2竪－1
2竪－2
2竪－3
2竪－5
2竪－6
2竪－8

図版34


2竪－9
2竪－24
2竪－25
2竪－31
21
22
23
2竪
2竪－33
2竪－24
2竪－30
2竪－35
2竪－15
2竪－13
2竪－14
2竪－16
2竪－17
2竪－18
2竪－19

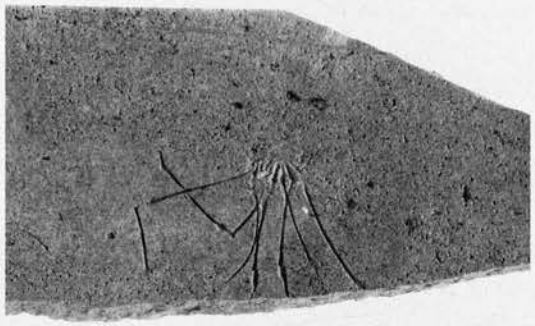

3竪－2
3竪－4
3竪－7
3竪－20
3竪－12
3竪－13
3竪－14
3竪－15
3竪－16
3竪－17
3竪－18
3竪－19
3竪－25
3竪－26
3竪－29
3竪－30

図版36


3竪－34
3竪－35
3竪－36
3竪－38
3竪－39
3竪－40
3竪－41
3竪－44
3竪－49
4竪－1
4竪－2
4竪－3
4竪－4
4竪－5
4竪－6
4竪－7
4竪－8
4竪－9
4竪－10
4竪－11
4竪－12
4竪－13
4竪－17

4竪－24

4竪－10



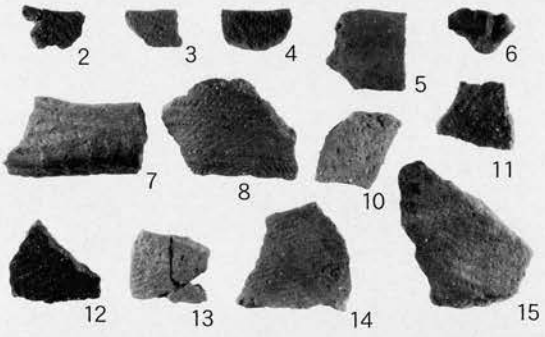
4竪－26

5竪－1

5竪－2

5竪－3

6竪－1



6竪

6竪－8

図版38

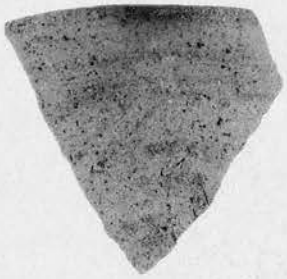
7竪－1

7竪－2

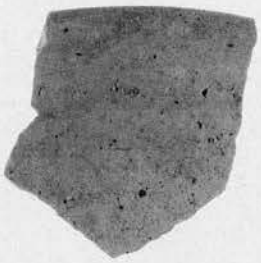
7竪－3

7竪－4

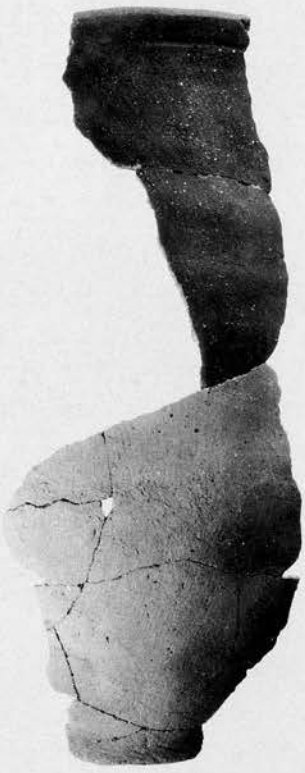
7竪－5



7竪－7



7竪－9



7竪－19

7竪－12

7竪－10

7竪－17

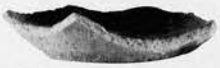
7竪－11

7竪－18

9竪－1

9竪－2

9竪－3



11竪－2

11竪－6

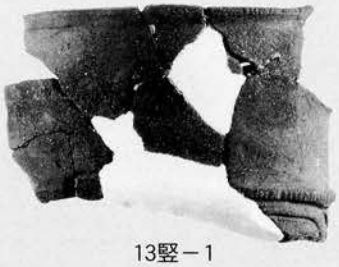
11竪－5

11竪－7

11竪－8

12竪－18

12竪－17



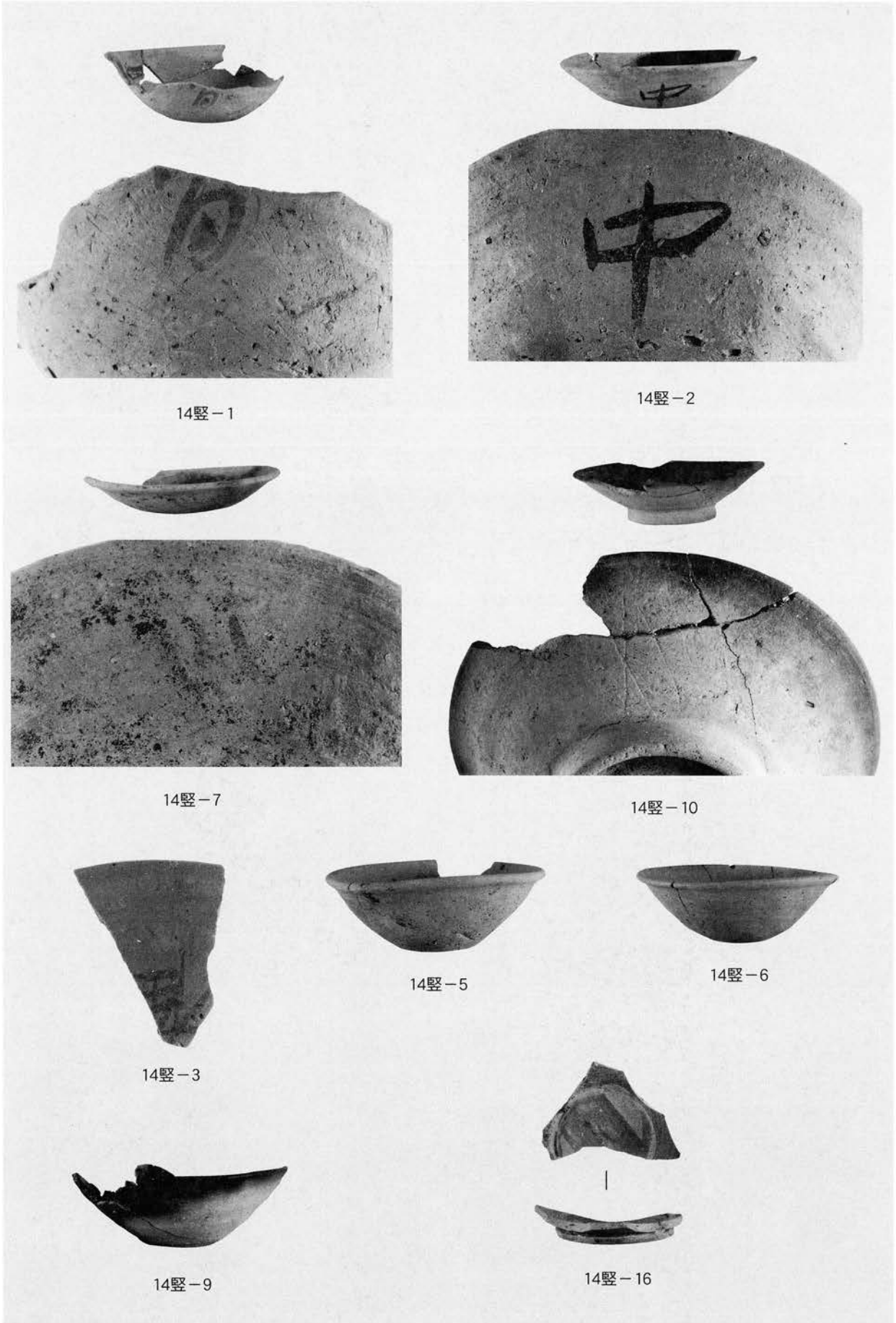
13竪－1

13竪－2

13竪－3

13竪－4

図版40



14竪－1

14竪－2

14竪－7

14竪－10

14竪－3

14竪－5

14竪－6

14竪－9

14竪－16

14竪－17

14竪－20

14竪－18

16竪－1

16竪－4

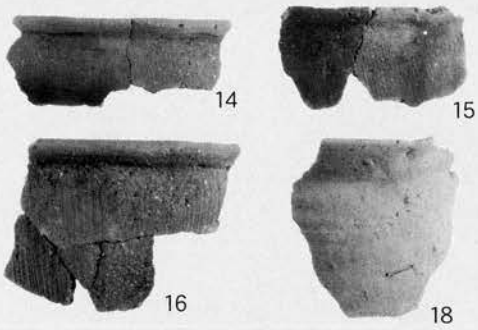
16竪－8

16竪－9

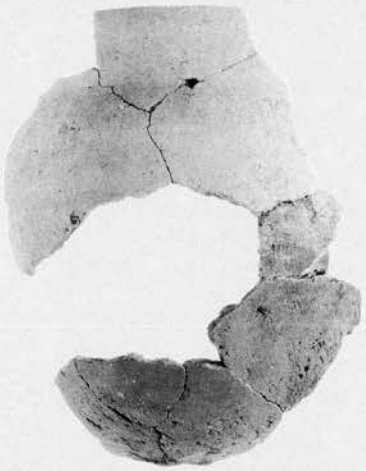
16竪－10

16竪－12

図版42



16竪



16竪－17

16竪－13

17竪－2

17竪－3

17竪－5

19竪－3

19竪－4

19竪－5

19竪－6

19竪－7

19竪－8

18竪－1

18竪－3

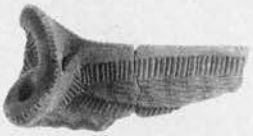
19竪－11

18竪－2

19竪－13

20竪－5

20竪－9



20竪－12

20竪－11

20竪－10

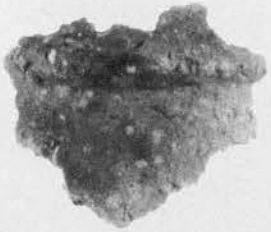
20竪－13

20竪－14

20竪－18

20竪－19

20竪－26



20竪－31

20竪－25

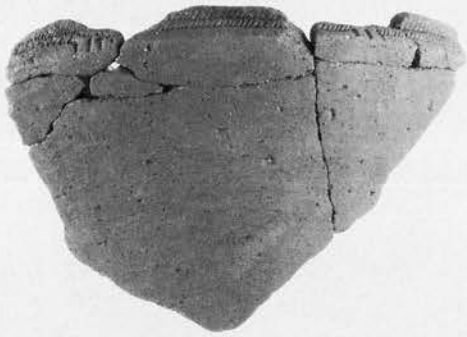
図版44

20竪－34

20竪－41

20竪－42

20竪－53

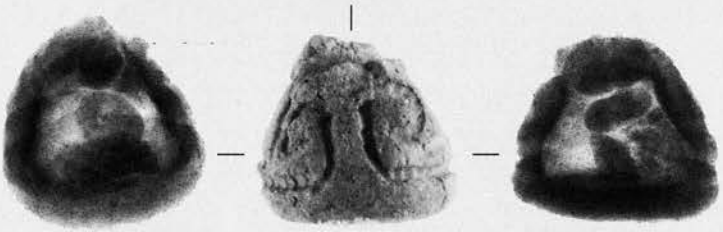


20竪－55

20竪－63

20竪－56

20竪－57



20竪－73

20竪－74

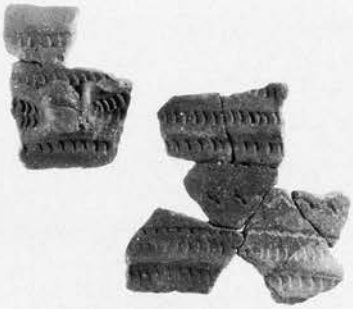
21竪－1

21竪－2

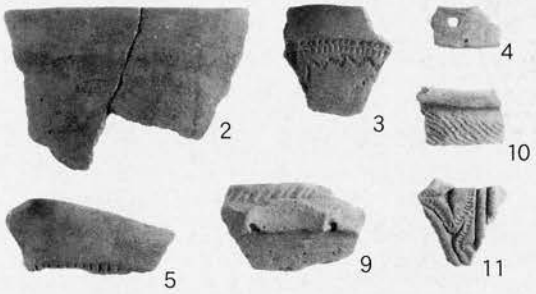
21竪－3

21竪－4

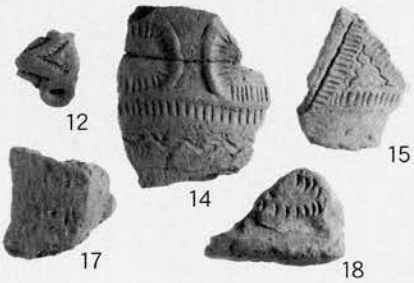
21竪－7



22竪－1



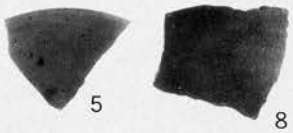
22竪



22竪

22竪

23竪－1

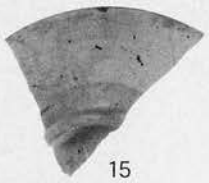


23竪

23竪－6

図版46

23竪－7



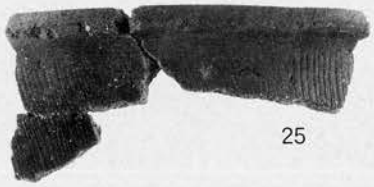
15

16

18

20

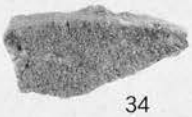
23竪



25

23竪－23

29



34

23竪

24竪－2

24竪－3

1

24竪－10

24竪－12

24竪－9

24竪－11

24竪－13

24竪－14

24竪－16

24竪－20

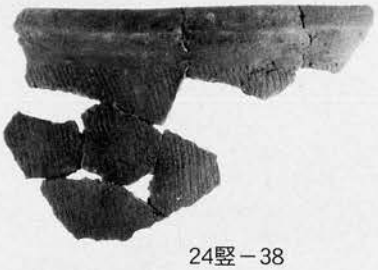
24竪－22

24竪－27

24竪－28

33　34

24竪



24竪－38

24竪－39

24竪－43

3　4

30竪

30竪－5

31竪－1

4

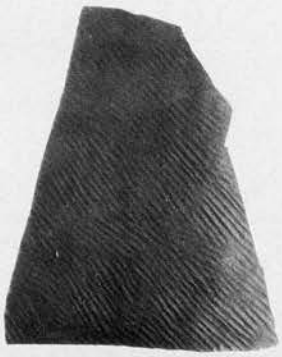
6

7

11

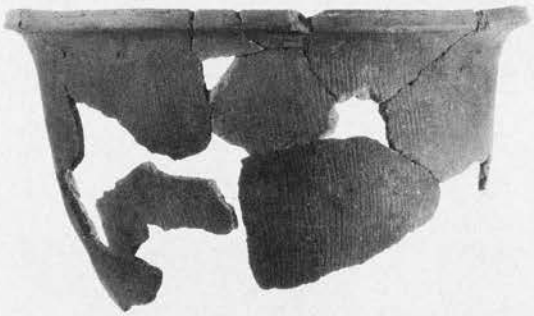
31竪

31竪－12



31竪－16

図版48



31竪－18

31竪－21

31竪－23

35竪－12

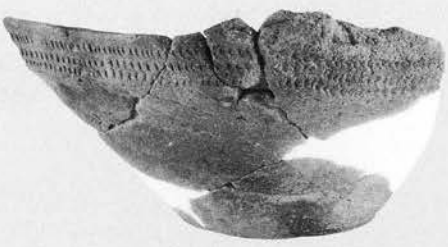
35竪－26

35竪－33

35竪－83

35竪－110

35竪－111



35竪－98

35竪－120

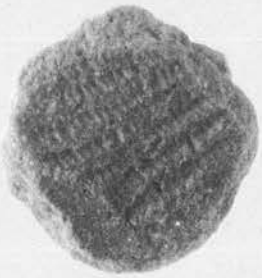
35竪－121

35竪－122

35竪－123

35竪－124

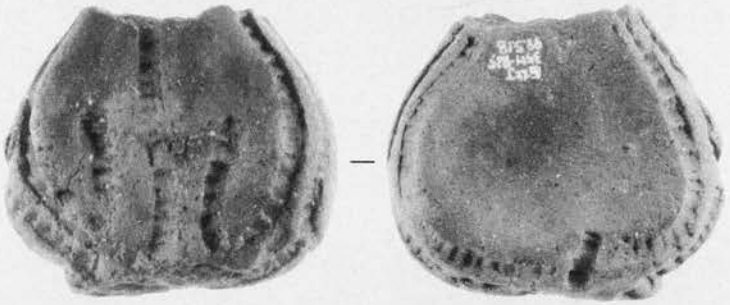
35竪－125



35竪－127

35竪－128

I



35竪－130

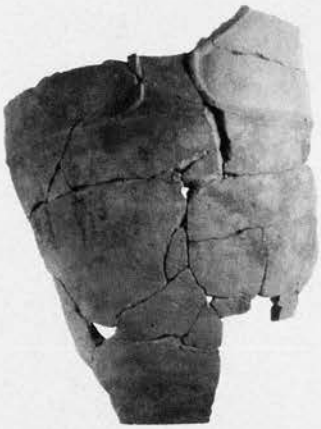
35竪－129

35竪－131

35竪－132

35竪－133

図版50



36竪－1

36竪－14

37竪－2

37竪－6

37竪－7

37竪－5

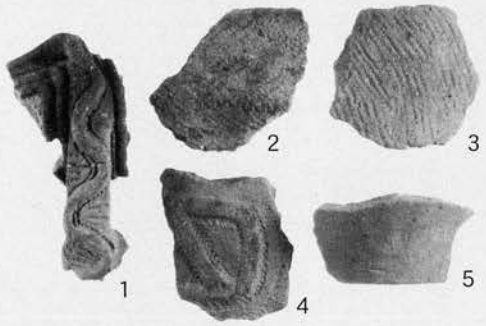
37竪－4

37竪－8

37竪－12

37竪－15

37竪－41



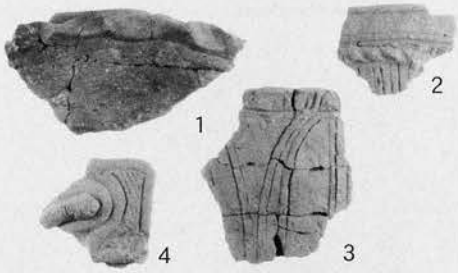
40竪

埋設－1

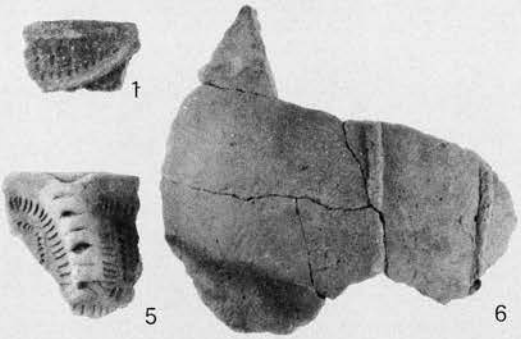
3ピット－3

8ピット－1

46ピット－1



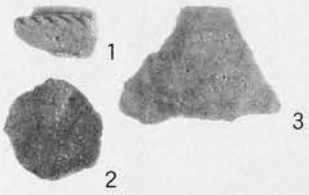
50ピット



55ピット

55ピット－7

図版52



36ピット－1

198ピット－4

198ピット－5

198ピット－1

180ピット－1

216ピット－4

218ピット－1

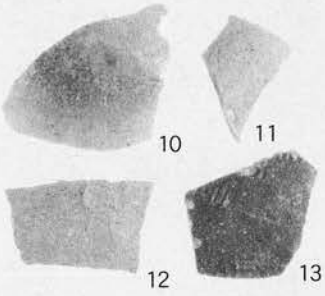
255ピット－5

257ピット－1

257ピット－2

293ピット－1

11溝－7



11溝

旧河道－31

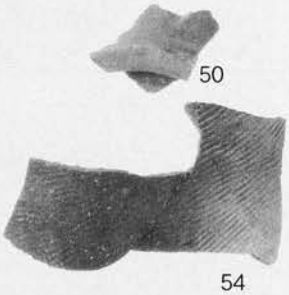
旧河道－33

旧河道－38

旧河道－39

旧河道

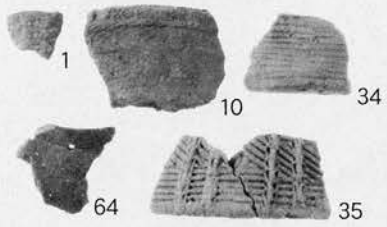
旧河道－44



旧河道

旧河道

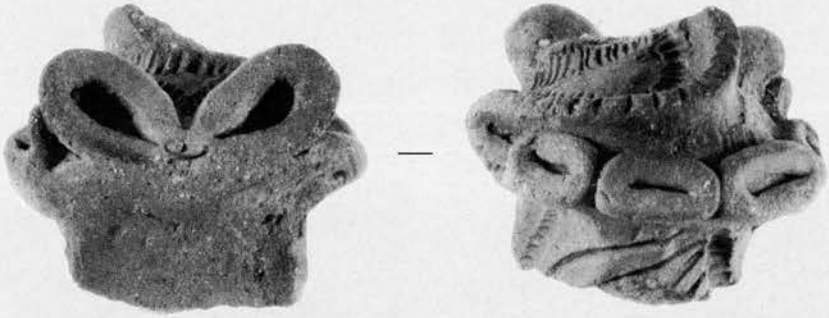
図版54



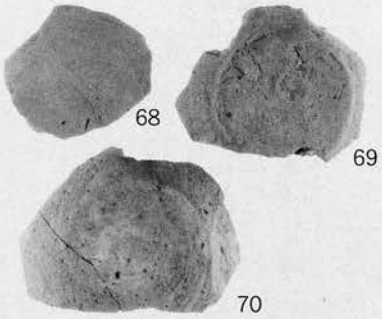
遺構外

遺構外－66

遺構外－67

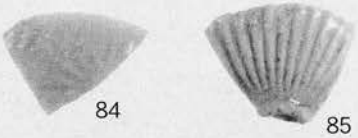


遺構外－37



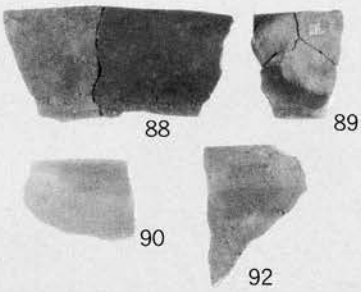
遺構外

遺構外－81

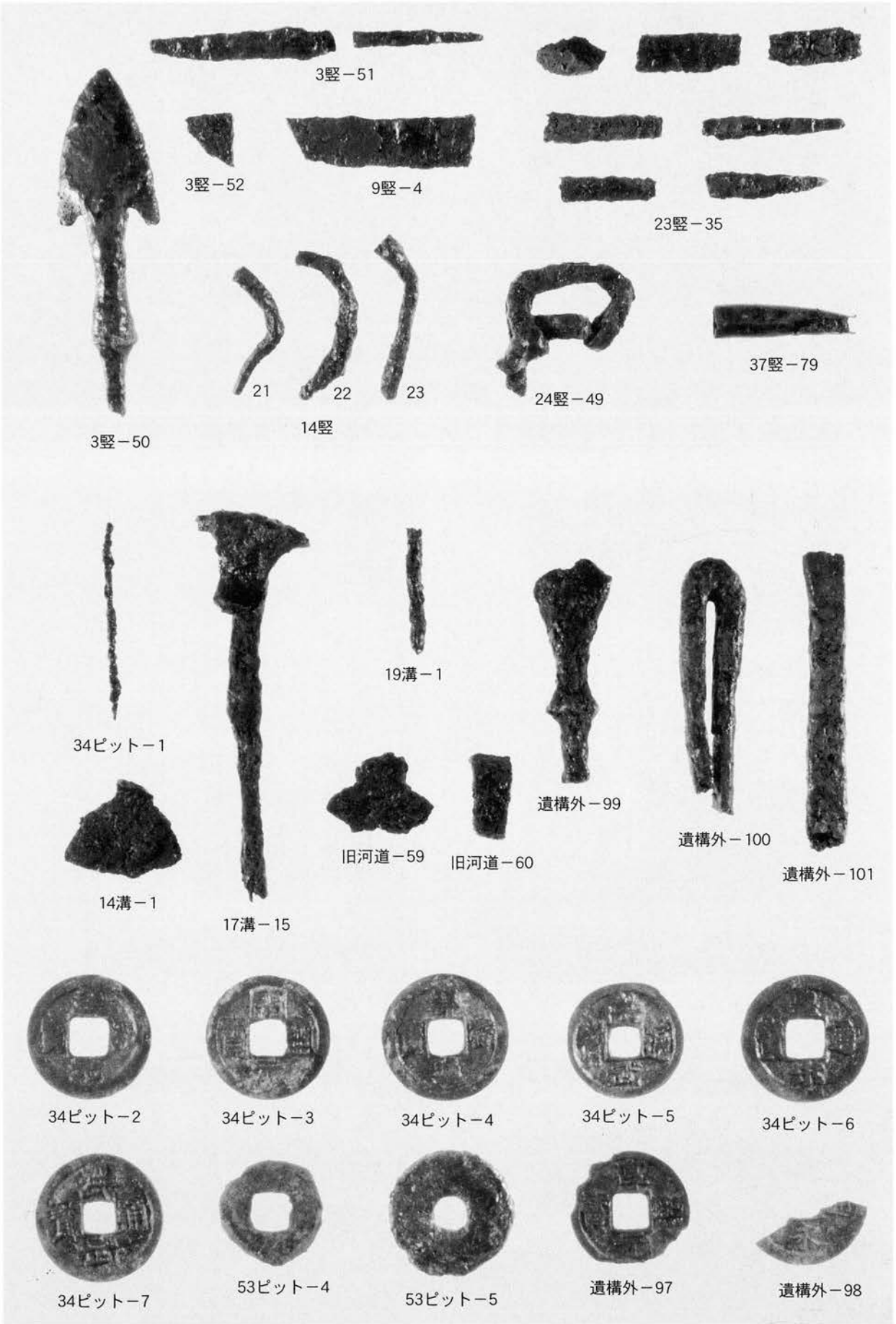


遺構外

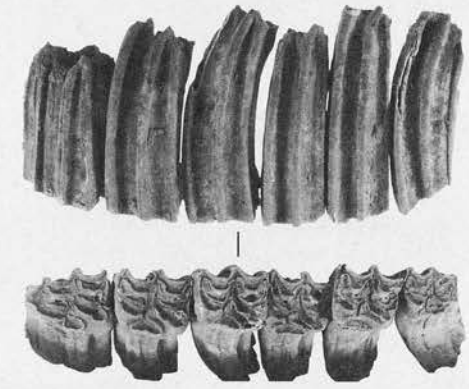
遺構外



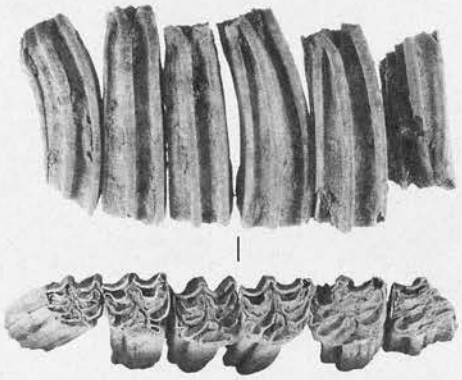
遺構外


3竪－51
3竪－52
9竪－4
23竪－35
3竪－50
21
22
23
14竪
24竪－49
37竪－79
34ピット－1
19溝－1
14溝－1
17溝－15
旧河道－59
旧河道－60
遺構外－99
遺構外－100
遺構外－101
34ピット－2
34ピット－3
34ピット－4
34ピット－5
34ピット－6
34ピット－7
53ピット－4
53ピット－5
遺構外－97
遺構外－98

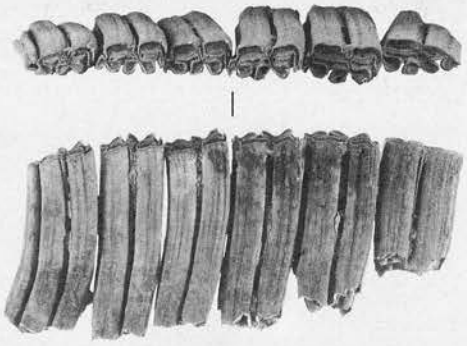
図版56



135ピットウマ左上顎歯

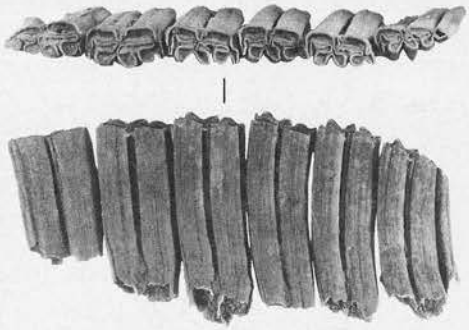


135ピットウマ右上顎歯



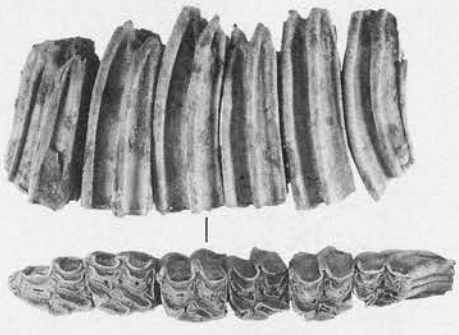
135ピットウマ右下顎歯

前

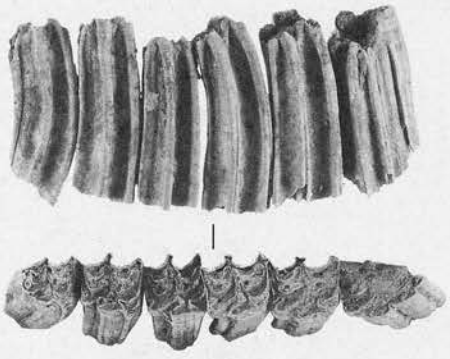


前

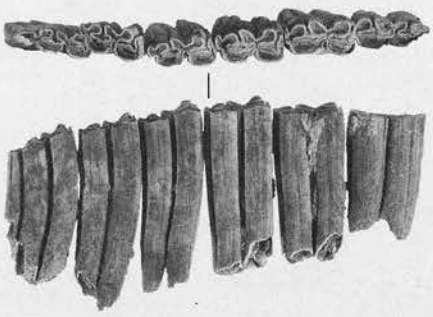
135ピットウマ左下顎歯



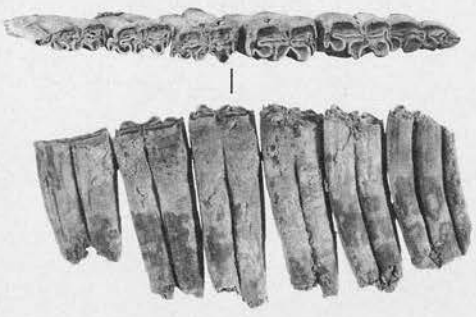
141ピットウマ左上顎歯



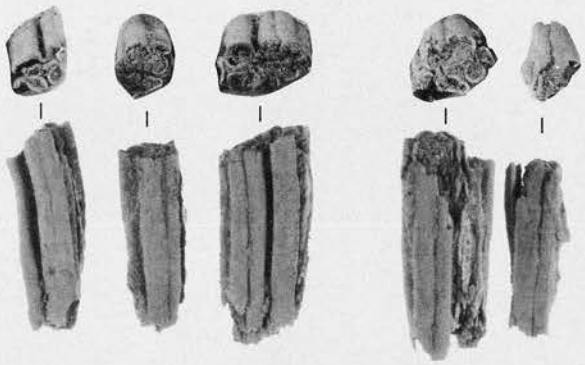
ピット141ウマ右上顎歯



141ピットウマ右下顎歯

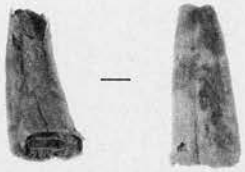


141ピットウマ左下顎歯



ピット163ウマ左下顎歯

ピット135ウマ切歯①



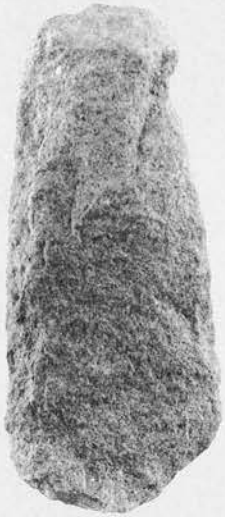
ピット135ウマ切歯②

ピット141ウマ切歯

図版58

1竪－29

12竪－40



12竪－41

12竪－42

12竪－43

12竪－44

12竪－45

12竪－47

12竪－51

12竪－52

12竪－54

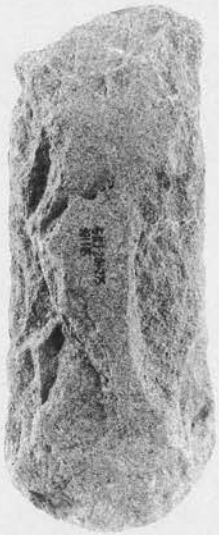
12竪－53

13竪－9

13竪－10

13竪－11

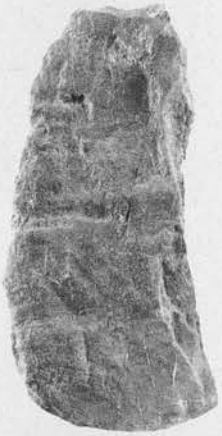
20竪－75



20竪－76

20竪－77

20竪－78

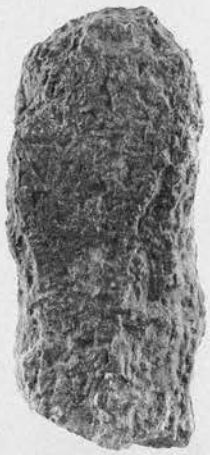


20竪－79

20竪－80

20竪－82

20竪－83



20竪－86

図版60

20竪－88

20竪－97

20竪－100

20竪－101

20竪－102

20竪－103

20竪－104

20竪－105

20竪－106

20竪－108

20竪－109

20竪－110

20竪－111

20竪－112

20竪－113

20竪－114

20竪－115

20竪－116

20竪－117

20竪－118

20竪－119

22竪－21

22竪－22

23竪－38

21竪－24

21竪－25

21竪－26

25竪－12

32竪－9

33竪－5

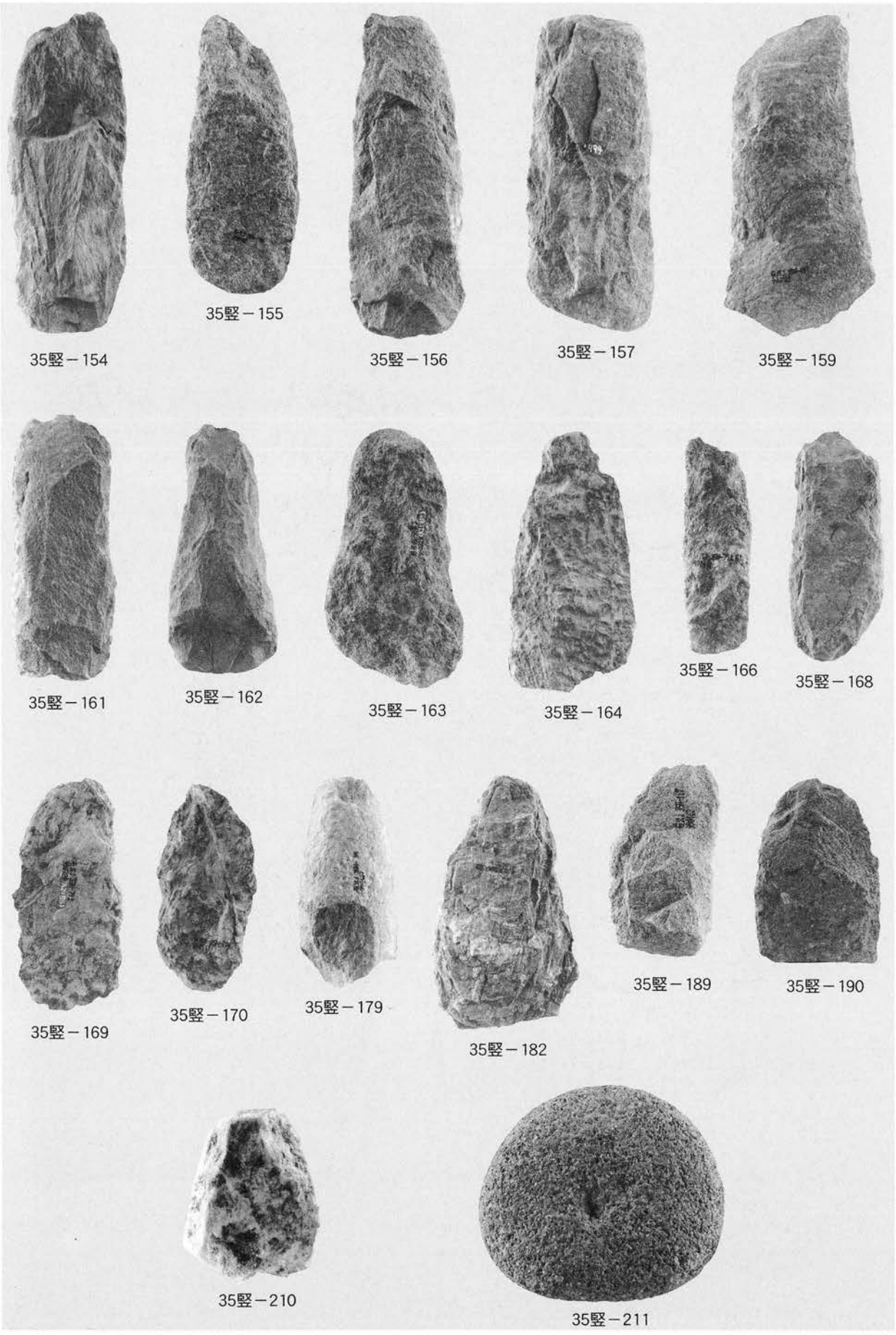
34竪－22

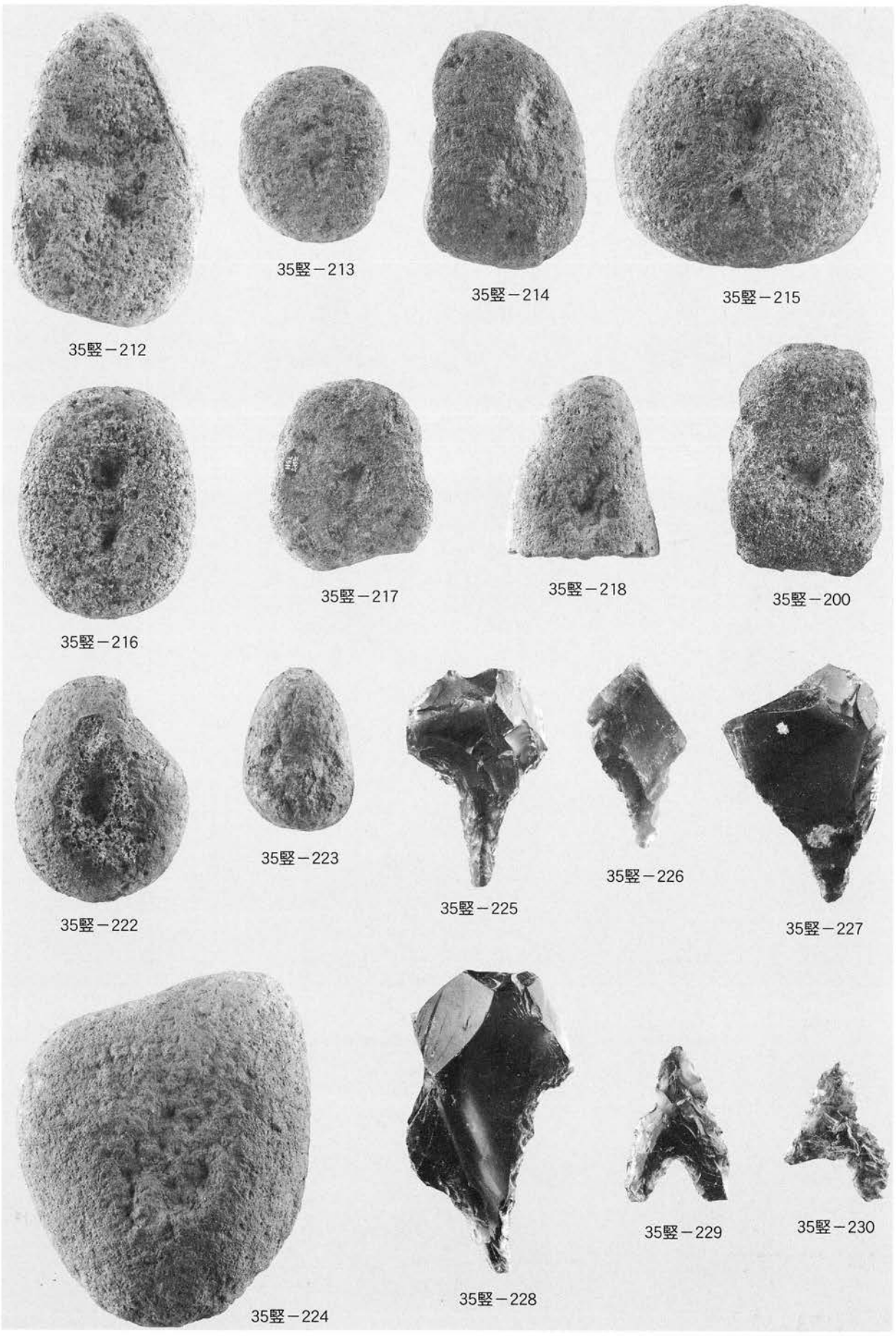
35竪－151

35竪－152

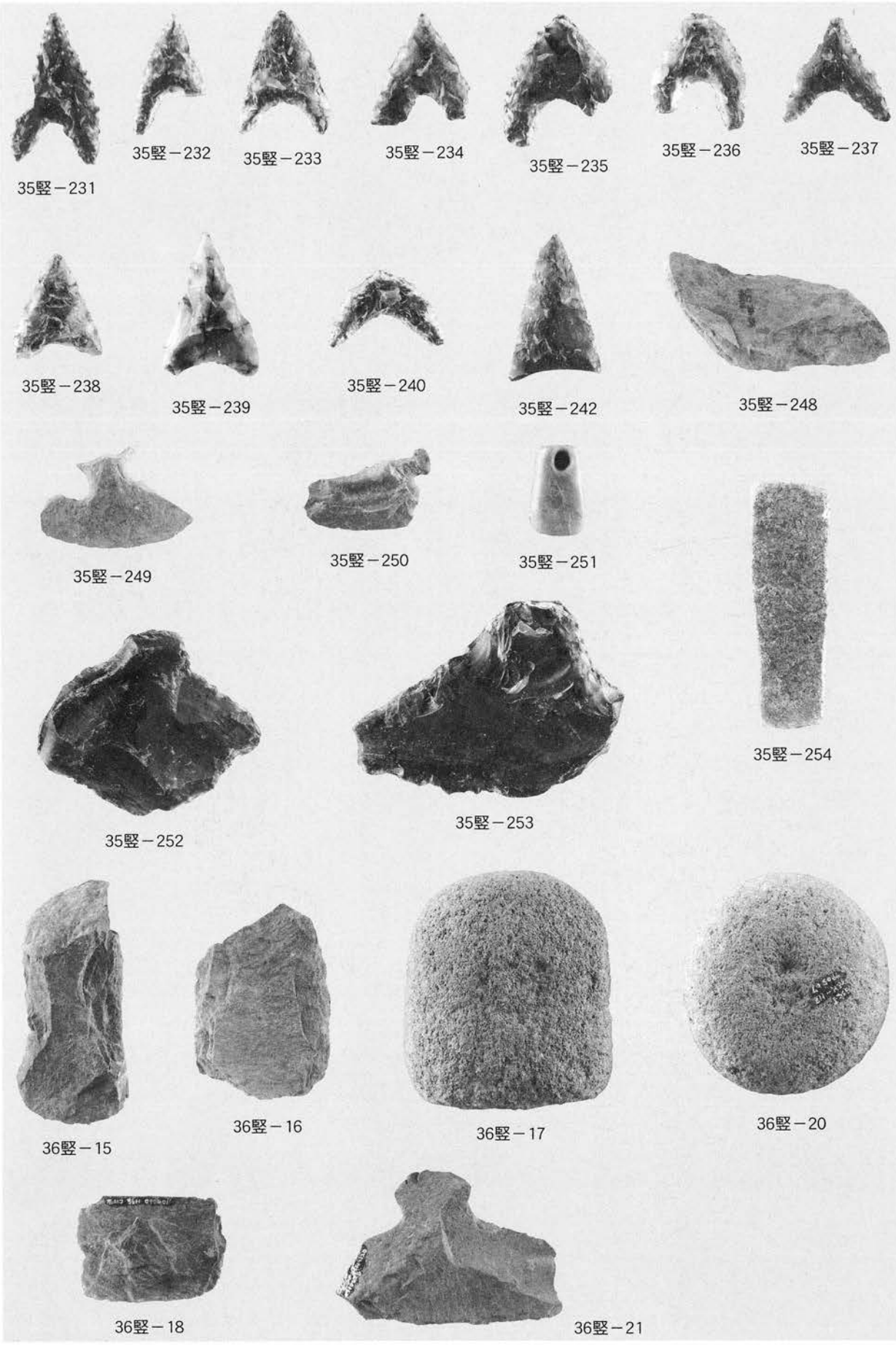
35竪－153

図版62


35竪－154
35竪－155
35竪－156
35竪－157
35竪－159
35竪－161
35竪－162
35竪－163
35竪－164
35竪－166
35竪－168
35竪－169
35竪－170
35竪－179
35竪－182
35竪－189
35竪－190
35竪－210
35竪－211


35竪－212
35竪－213
35竪－214
35竪－215
35竪－216
35竪－217
35竪－218
35竪－200
35竪－222
35竪－223
35竪－225
35竪－226
35竪－227
35竪－224
35竪－228
35竪－229
35竪－230

図版64


35竪－231
35竪－232
35竪－233
35竪－234
35竪－235
35竪－236
35竪－237
35竪－238
35竪－239
35竪－240
35竪－242
35竪－248
35竪－249
35竪－250
35竪－251
35竪－254
35竪－252
35竪－253
36竪－15
36竪－16
36竪－17
36竪－20
36竪－18
36竪－21

37竪－55

37竪－56

37竪－57

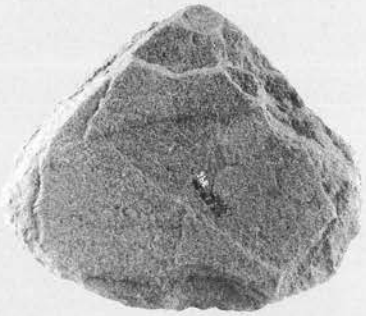
37竪－58

37竪－59

37竪－60

37竪－63

37竪－64


37竪－69

37竪－68

37竪－70

37竪－71

37竪－72

37竪－74

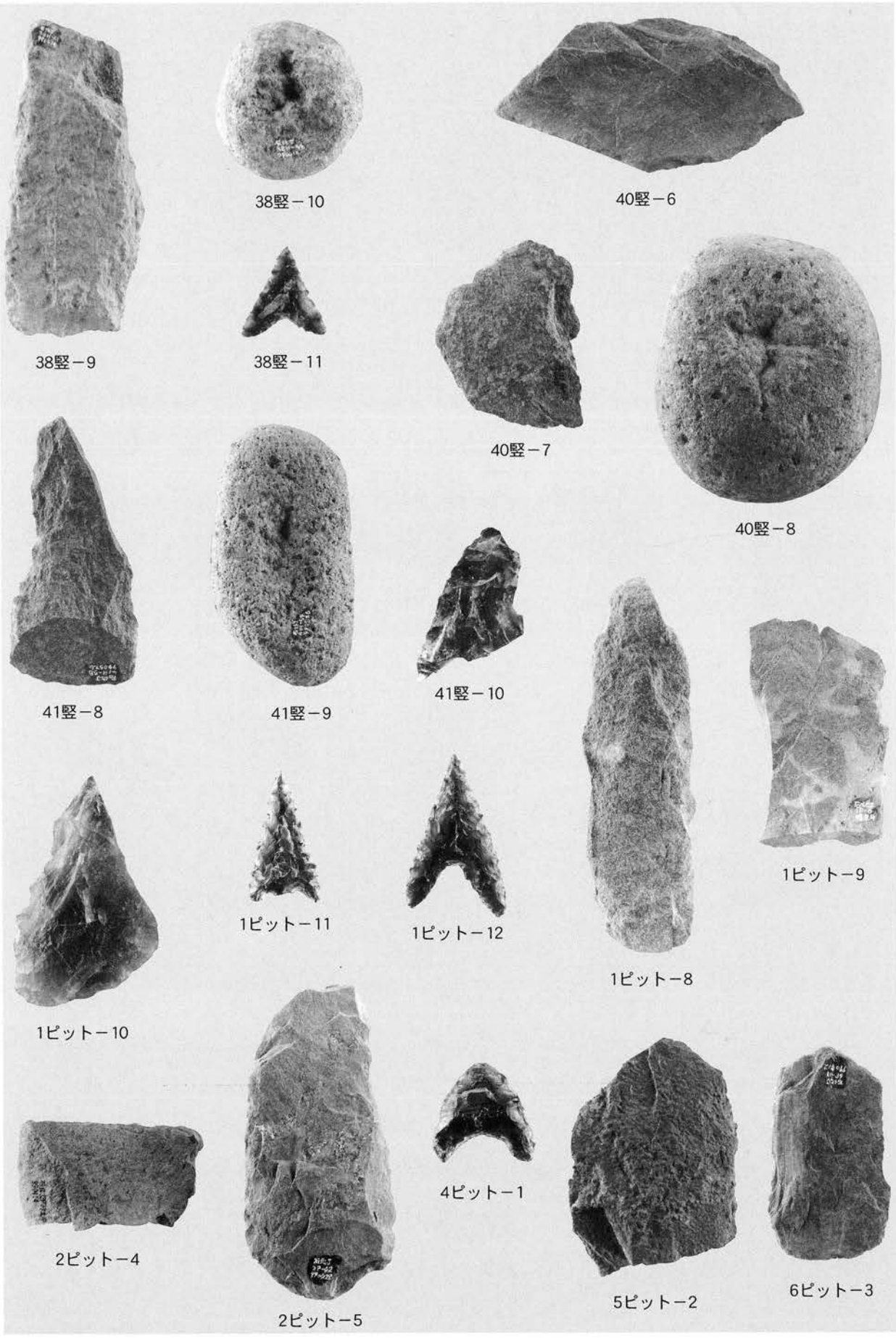
37竪－76

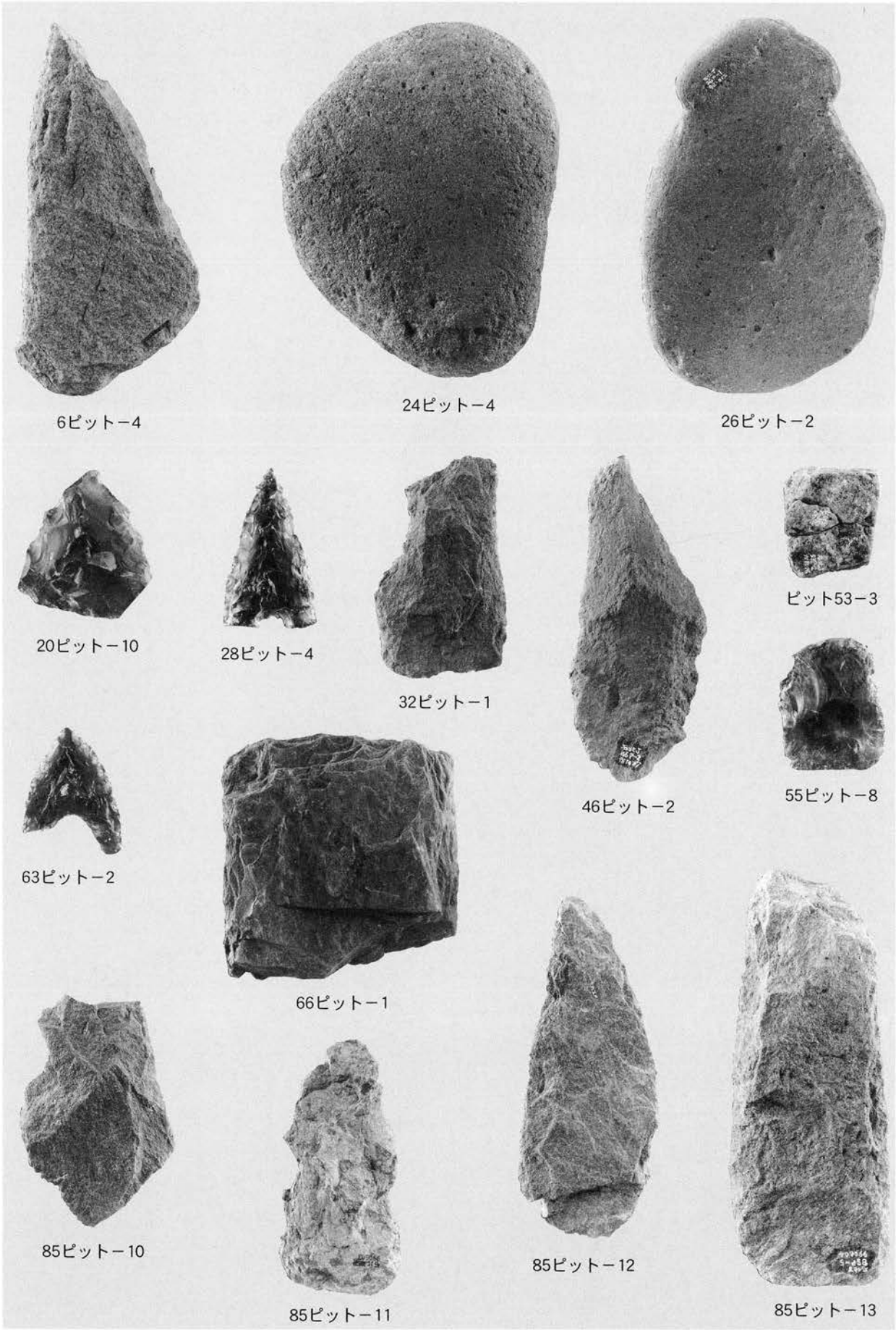
37竪－77

37竪－78

37竪－79

図版66


38竪－9
38竪－10
38竪－11
40竪－6
40竪－7
40竪－8
41竪－8
41竪－9
41竪－10
1ピット－8
1ピット－9
1ピット－10
1ピット－11
1ピット－12
2ピット－4
2ピット－5
4ピット－1
5ピット－2
6ピット－3



6ピット－4

24ピット－4

26ピット－2

20ピット－10

28ピット－4

32ピット－1

46ピット－2

ピット53－3

55ピット－8

63ピット－2

66ピット－1

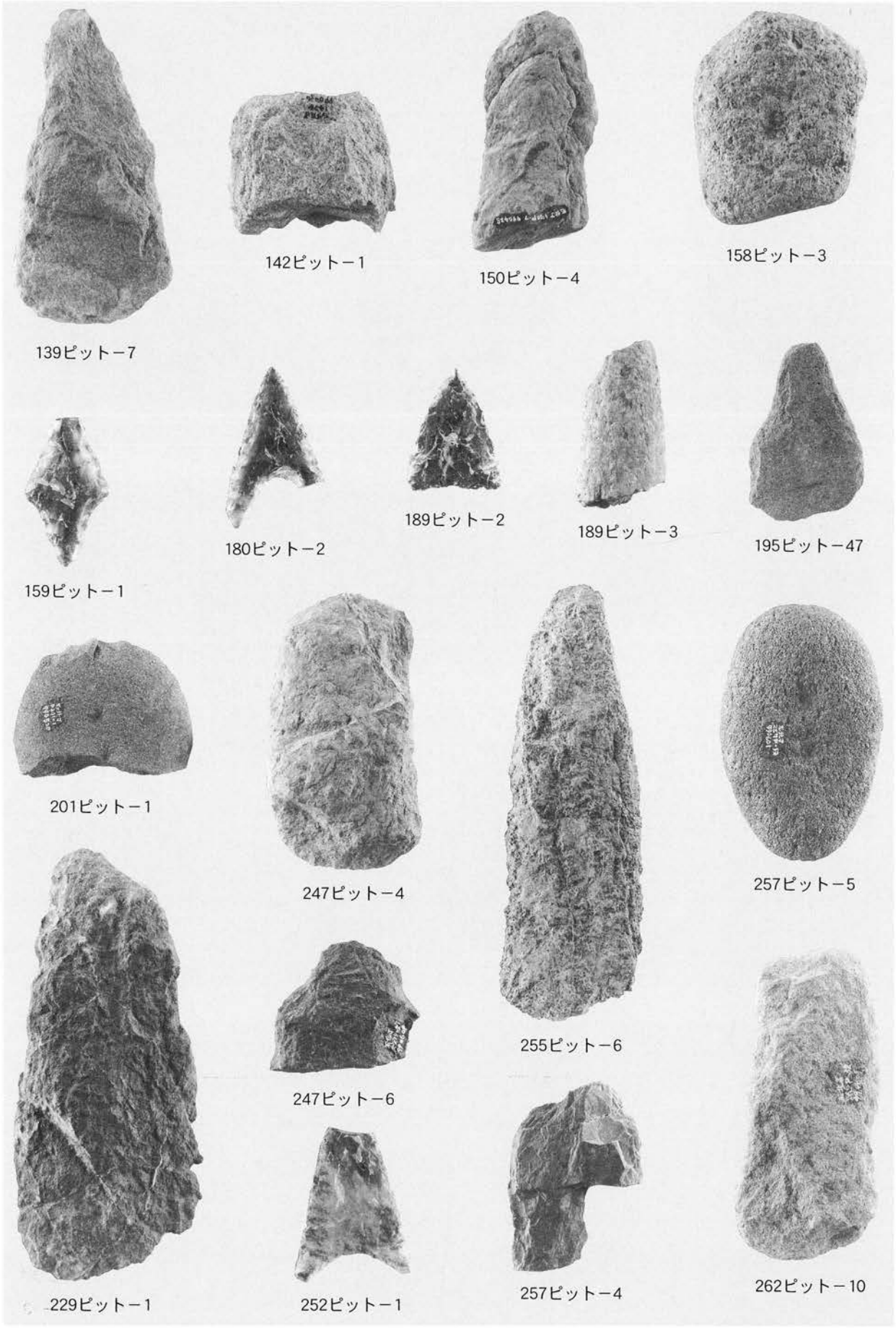
85ピット－10

85ピット－11

85ピット－12

85ピット－13

図版68


139ピット－7
142ピット－1
150ピット－4
158ピット－3
159ピット－1
180ピット－2
189ピット－2
189ピット－3
195ピット－47
201ピット－1
247ピット－4
255ピット－6
257ピット－5
229ピット－1
247ピット－6
252ピット－1
257ピット－4
262ピット－10

262ピット－11

262ピット－12

262ピット－13

262ピット－14

262ピット－15

273ピット－8

262ピット－16

262ピット－17

264ピット－2

282ピット－9

282ピット－8

282ピット－10

282ピット－11

図版70

282ピット－12

282ピット－13

288ピット－10

288ピット－11

288ピット－12

288ピット－13

289ピット－5

7溝－14

11溝－14

11溝－15

11溝－23

11溝－27

11溝－30

11溝－28

11溝－29

12溝－3

12溝－4

15溝－2

17溝－10

17溝－11

17溝－12

17溝－14

旧河道－62

旧河道－64

旧河道－67

旧河道－80

旧河道－81

旧河道－82

旧河道－83

旧河道－84

旧河道－85

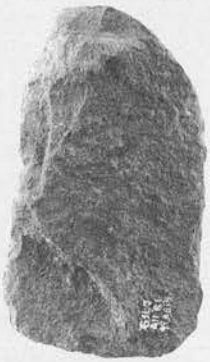
旧河道－86

図版72

遺構外－103

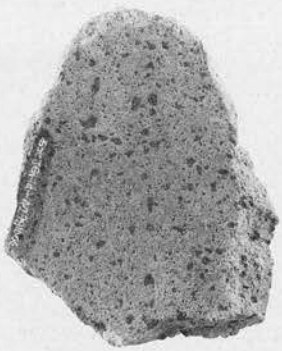
遺構外－104

遺構外－105



遺構外－117

遺構外－123

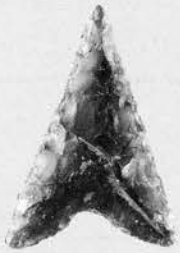


遺構外－138

遺構外－139

遺構外－140

遺構外－141



遺構外－142

遺構外－143

遺構外－144

遺構外－146

遺構外－150

遺構外－159

遺構外－158

遺構外－160

報 告 書 抄 録

報告書概要	
ふりがな	いしはらだきたいせきじぇいまーとちてんはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	石原田北遺跡　Ｊマート地点発掘調査報告書
著 者 名	平野修・櫛原功一・河西学・新山雅広・植田弥生 他
発 行 者	石原田北遺跡発掘調査団・株式会社Ｊマート
編集機関	石原田北遺跡発掘調査団
住　　所	〒406－0032　山梨県東八代郡石和町四日市場1566（財）山梨文化財研究所内
電　　話	055-263-6441
印 刷 所	㈱エンドレス
印 刷 日	平成13（2001）年６月22日
発 行 日	平成13（2001）年６月30日
遺跡概要	
ふりがな	いしはらだきたいせき
遺 跡 名	石原田北遺跡
所 在 地	山梨県北巨摩郡長坂町大八田字石原田166番地外
地 図 名	国土地理院25,000分の１地形図　若神子
位　　置	北緯　35°49′43.2501″／東経　138°23′36.4425″
標　　高	702.5m
市町村コード	19405
調査原因	店舗建設工事
調査期間	平成10（1998）年７月13日～平成11（1999）年６月30日
調査面積	6,870㎡
主な時代	縄文時代／平安時代／中世
主な遺構	縄文時代竪穴建物18棟／平安時代竪穴建物19棟／中世および不明竪穴建物３棟／時期不明掘立柱建物１棟／縄文時代～近現代ピット293基／埋設土器１基／近現代溝20条／旧河道／風倒木痕３箇所
主な遺物	縄文時代土器、石器（打斧、磨斧、石鏃、石錐、石棒、凹石、石皿、玉など）、土製品（ミニチュア土器、土偶、土製円板など）／平安時代土師器（墨書土器、刻書土器、ヘラ書土器あり）、須恵器（転用硯あり）、灰釉陶器（転用硯あり）、鉄製品（刀子、兵庫鎖など）、石製品（砥石、筵編石など）／中世銭貨（洪武通寶など）等
特記事項	縄文時代早期押型文土器片／縄文時代前期諸磯b式期の竪穴建物／縄文時代中期前葉新道式期～藤内式期にかけての竪穴建物群と土壙群／竪穴壁外柱穴や棚状施設・階段状施設・テラス状施設を伴う平安時代中期（10世紀代、礎石建物もあり）の竪穴建物群と平安時代末（11世紀後半～12世紀初頭）の竪穴建物群、平安時代以降のウマの墓壙／中世の竪穴建物（方形竪穴状遺構）とヒトの墓壙、中世以前の旧河道跡/縄文時代中期前葉土器群土器胎土分析／炭化種実同定および炭化材樹種同定分析／獣骨同定分析

石原田北遺跡　Ｊマート地点
発掘調査報告書

印刷日　2001年６月22日

発行日　2001年６月30日

編　集　石原田北遺跡発掘調査団（財団法人山梨文化財研究所内）

〒406－0032　山梨県東八代郡石和町四日市場1566

電話 055-263-6441／FAX 055-261-0462

発　行　石原田北遺跡発掘調査団・株式会社Ｊマート

印　刷　株式会社　エンドレス

〒405-0014　山梨県山梨市上石森123　電話 0553-22-4574